平成23年度
（2011）

授　業　概　要

（授業シラバス）

徳島大学 総合科学部

目次

総合科学部 **1**
学部 共通科目 1
人間文化学科 共通科目 21
人間文化学科 国際文化コース 24
人間文化学科 心理・健康コース 67
社会創生学科 共通科目 92
社会創生学科 公共政策コース 96
社会創生学科 地域創生コース 117
社会創生学科 環境共生コース 161
総合理数学科 共通科目ース 187
総合理数学科 数理科学コース 191
総合理数学科 物質総合コース 207
教職に関する科目 226
学芸員に関する科目 237

学部 共通科目 授業概要

● 学部共通科目

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 総論 …伊藤/1 年 (前期) 1
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …荒武/1 年 (前期) 2
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …佐久間/1 年 (前期) 2
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …田中/1 年 (前期) 2
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …堤/1 年 (前期) 2
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …宮澤/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …山内/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …濱田/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …的場/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …趙/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …石井/1 年 (前期) 4
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …田中/1 年 (前期) 4
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …仙波/1 年 (前期) 4
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …吉田/1 年 (前期) 4
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …小山/1 年 (前期) 5
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …蓮沼/1 年 (前期) 5
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …今井・山本/1 年 (前期) 5
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …石田/1 年 (前期) 6
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …村田/1 年 (前期) 6
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …折戸/1 年 (前期) 6
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …三好/1 年 (前期) 6
キャリアプラン入門 I …葭森・中嶋・石川・大渕・中川・田中・平井/1 年 (前期) 7
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 総論 …伊藤・平井/1 年 (後期) 7
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …有馬・平井/1 年 (後期) 7
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …片岡・平井/1 年 (後期) 8
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …桂・平井/1 年 (後期) . . 8
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …吉田・平井/1 年 (後期) 8
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …佐竹・平井/1 年 (後期) 9
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …佐藤・平井/1 年 (後期) 9
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …眞弓・平井/1 年 (後期) 9
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …上原・平井/1 年 (後期)10
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …河原崎・平井/1 年 (後期) 10
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …樋口・平井/1 年 (後期)10
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …佐藤・平井/1 年 (後期)10
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …松尾・平井/1 年 (後期)11
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …守安・平井/1 年 (後期)11
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …伊藤・平井/1 年 (後期)11
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …中山・平井/1 年 (後期)12
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …増田・中村・平井/1 年 (後期) 12
大学と社会 …葭森・中嶋・石川・大渕・中川・田中・平井/1 年 (前期) . 12
科学と人間 …小山・三好・桑原・山口・今井・内海・渡部/1 年 (前期) . 13
健康と福祉 …中村・小原・荒木・境・福森・原/1 年 (後期) 13
情報処理の基礎 I …豊田・矢部・真岸・小野・佐藤・村上・西山・佐藤・行實・掛井・石田/1 年 (後期) 14
情報処理の基礎 II …石田・掛井・齊藤・中島/1 年 (後期) 14
国際交流・協力体験 …饗場/2 年 (前期) 14
インターンシップ I …石田/3 年 (前期) 15
インターンシップ II …石田/3 年 (前期, 集中) 15
基礎英語講読 I …三浦/2 年 (前期) 15
基礎英語講読 I …水島/2 年 (前期) 15
基礎英語講読 I …栗栖/2 年 (前期) 15
基礎英語講読 I …石田/2 年 (前期) 16
基礎英語講読 I …衣川/2 年 (前期) 16
基礎英語講読 I …樋口/2 年 (前期) 16
基礎英語講読 II …大沼・日置・真壁/2 年 (後期) 16
実用外国語基礎演習 (英語) 総論 …森岡・吉田・山田/2 年 (前期) . . . 17
実用外国語基礎演習 I(英語) …森岡/2 年 (前期) 17
実用外国語基礎演習 I(英語) …吉田/2 年 (前期) 17
実用外国語基礎演習 I(英語) …山田/2 年 (前期) 18
実用外国語基礎演習 I(ドイツ語) …井戸/2 年 (前期) 18
実用外国語基礎演習 I(フランス語) …長井/2 年 (前期) 18
実用外国語基礎演習 I(中国語) …葭森/2 年 (前期) 18
実用外国語基礎演習 II(英語) …スティーヴンズ・ポンド・早内-プリングル/2 年 (後期) 19
実用外国語基礎演習 II(ドイツ語) …依岡/2 年 (後期) 19
実用外国語基礎演習 II(フランス語) …田島/2 年 (後期) 19
実用外国語基礎演習 II(中国語) …邵/2 年 (後期) 19

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 総論　2 単位 (必修)

1 年 (前期)

伊藤 正幸·教授/総合理数学科

【授業目的】 人間力の育成とコミュニケーション能力の向上を図る． (1) 教員と学生が議論して課題を設定し，問題解決のための手法を学ぶ．(2) 少人数で，相互に討論し，協力して設定した課題を解決してゆく過程を通じ，学生と教員，学生相互の人間関係を構築し，相互のコミュニケーション能力を高めつつ，人間力を涵養する． (3) 学習の成果を発表会で報告することにより，プレゼンテーション能力を身につける．

【履修上の注意】 授業担当者の所属しているコースは，学生の 2 年次以降のコース配属には直接の関わりはない．

【到達目標】

1. 以下の技能・能力の育成を目標とする．
2. 1) 文献調査・情報収集能力
3. 2) 理解力・読解力
4. 3) コミュニケーション能力
5. 4) プレゼンテーション能力
6. 5) レポート作成能力
7. この講義では，汎用的技能修得と体験参加型，課題解決・探究型学習を進めることとしています．各講義クラスの目標については，担当者ごとに示されたシラバスを参照して下さい．

【授業計画】 **1.** 1) 講読 **2.** 2) 体験学習 **3.** 3) ディベート (ディスカッション) **4.** 4) その他 **5.** 大学入学直後の学生が，大学で学習していくために必要なことを身につけるためのゼミナール．大学での学習は，高校までの学習とは異なり，単に既存の知識を「覚え」「正解を導き出す」ことだけではない．自ら考え，疑問や問題点を提示し，それを解決していく方法を模索することが出来るようになる必要がある．そのために課題を設定して，問題解決学習的な要素を取り入れた内容とする．具体的には，出来うる限り受講生自身が見つけた課題や問題をテーマとして，それを多面的な視野で検討し，結論を導き出すようにする．テーマは教員の専門に近い内容のクラスもあれば，専門から離れている内容のクラスもある．多面的に考察するための体験学習も含まれる． **6.** プレゼンテーション (口頭発表) **7.** レポート作成

【成績評価】 評価は，出席の状況，授業への積極性，課題や発表の内容などから総合的に評価する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218536

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220，088-656-7219，mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45 ，2. 月曜日 16:30-17:30)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

荒武 達朗 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 大学で学ぶべき専門の研究と教養をこれから学んでいくにあたって，基本的に身につけておかなければならない姿勢を身につけることを目的とする．時事問題や歴史問題に関する文章の講読を通じて思索を深めるとともに，大学外機関への訪問することで社会への関心を高める．

【授業概要】 まず勉強をする上での基本的姿勢から始まり，最終的には強制される勉強から自発的に行う勉強へ移行していく．

【関連科目】 『キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II)』(0.5, ⇒7 頁)

【到達目標】
1. 修行中の人間 (君たちのことだ) が身につけるべき基本的姿勢を学ぶ
2. 大学で学ぶ手法を身につける
3. 自ら調査・考察する練習をする
4. 日本語の論理的文章を理解できる能力を養成する

【授業計画】 **1.** おおむね以下の内容の事を勉強するが順番は前後する．**2.** 現在の日本をめぐる国際関係に関する論文・記事をもとに内容の要約・論争点の整理・自己の見解の開陳を行う． **3.** 担当教員は中国近現代史を専門とするので歴史という視点を重視する． **4.** この領域は議論が錯綜，かつ多様な意見が提出されている．これらを整理することで現代日本の姿が明らかになるだろう． **5.** 故に比較的硬質な文体の論文を何本か読むので，此の点は予め諒解のこと． **6.** 以上のような論文講読とは別に学外の幾つかの機関を訪問し，社会に対する関心を高め知見を拡げることにする． **7.** 具体的にどこを訪問するのかは現時点 (2011 年 1 月) では未定である．予算の確定と先方との交渉により決まる． **8.** 候補として想定しているのが，県立文書館，県庁，徳島河川国道事務所，裁判所，県立文学書道館などである． **9.** これはあくまでも予定であるので，全てを訪問するわけではない． **10.** また訪問先によれば一学期に 1 回か 2 回土曜，日曜祝日に出かけることもあろう．此の点も予め了承されたい．

【成績評価】 授業態度は評価の前提．態度が良ければ自ずから積極性が生まれ，熱心に課題に取り組み，当然ながら高評価が得られるに相違ない．

【再試験】 無し

【教科書】
◇ 授業計画項目 2 から 5 で述べたところでは，『世界』『中央公論』『文藝春秋』などの総合雑誌を教材とする．総合雑誌とは何か?
◇ 手軽なところでウィキペディアの記事によると，「総合雑誌 (そうごうざっし) とは，政治・経済・社会・文化全般についての評論などを掲載する雑誌．いわゆる『論壇』を構成する雑誌として扱われてきた事情もあり，オピニオン誌もふくめてこの範囲にいれることが多い．」とのことだ．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218496

【連絡先】
⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝．一コマ目の前がよい．メールでアポをとってもよい．午後は不在がち．)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

佐久間 亮 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 「基礎ゼミナール総論」を参照すること．

【授業概要】 大学で学ぶ上で必須の技法である，情報の収集，ディスカッションの練習をおこなう．ここで，情報として提供するのは，BBC 制作の『人種主義の歴史』という，各方面で論議を呼んだドキュメンタリーである．これを英語で聴きながら (聞き取りのトレーニングもおこなう)，ディスカッションをおこなう．あえて，原語 (英語) のドキュメンタリーを用いるのは，英語も情報収集の一手段に過ぎないことを肝に銘じてもらうためである．「英語を学ぶ」のではなく，「英語で学ぶ」という姿勢を身につけることもこのゼミの目的の一つである．

【キーワード】 情報収集，英語，人種，歴史

【履修上の注意】 英語のドキュメンタリーを聴き取るプロセスがこのゼミの半分を占める．聴き取りの指導をじっくりおこなうが，自宅での予習が必要である．

【到達目標】
1. 日本語の論理的文章を理解できる能力を身につけること
2. 英語で正確に情報を収集する能力の獲得

【授業計画】 **1.** ガイダンス-情報収集の方法，意義- **2.** 「人種主義の歴史」視聴 1) **3.** 「人種主義の歴史」視聴 2) **4.** 「人種主義の歴史」視聴 3) **5.** 意見交換 1) **6.** 関連する情報の収集 1) **7.** 「人種主義の歴史」視聴 4) **8.** 「人種主義の歴史」視聴 5) **9.** 「人種主義の歴史」視聴 6) **10.** 意見交換 2) **11.** 関連する情報の収集 2) **12.** 「人種主義の歴史」視聴 7) **13.** 「人種主義の歴史」視聴 8) **14.** 意見交換 3) **15.** 意見交換 4) **16.** まとめ

【成績評価】 期末に行うレポートや発言・出席を含めた授業への取り組みを総合的に評価する．

【再試験】 再試験，再評価はおこなわない

【教科書】 なし

【参考書】 授業の中で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218497

【連絡先】
⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

田中 智行 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 論理的文章を書く力を身につける

【授業概要】 みなさんは大学生活において，レポート執筆や授業内での口頭発表を多く求められていくことになります．それらは単に考えたことを書けば (話せば) いいのではなく，一定の手順と様式にのっとった学術的な文書 (発表) となっていなくてはなりません．この授業は，論理的で説得力ある文章とはどのようなものかを考え，あわせてレポート作成に際しての実際的な知識を身につけることを目標としています．また，自分が文章を書く力を身につけるためには，他人の文章を論理的・批判的に読む訓練をすることも大切です．この授業では野矢茂樹『新版 論理トレーニング』を題材として，論説文を精読する練習をする予定です．

【キーワード】 アカデミック・ライティング

【到達目標】 レポート・論文作成の基礎能力を身につける

【授業計画】 **1.** ガイダンス **2.** レポート・論文とは何か **3.** 文献調査の基礎 **4.** 研究手法の諸相-中国文学研究を例に- **5.** レポート・論文の構成と書式 **6.** 接続表現 1 **7.** 接続表現 2 **8.** 論証の手法 1 **9.** 論証の手法 2 **10.** 問いと批判 1 **11.** 問いと批判 2 **12.** 立論の手順 1 **13.** 立論の手順 2 **14.** プレゼンテーション実践 1 **15.** プレゼンテーション実践 2 **16.** 総括授業

【成績評価】 授業中の課題と期末レポートにより総合的に採点する．

【再試験】 しない

【教科書】 野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書

【参考書】 酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218498

【連絡先】
⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 原則として水曜日の13~ 14 時とするが，随時質問を受け付ける．)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

堤 和博 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 大学で学ぶべき専門の研究と教養を，まさにこれから学んでいくにあたって，基本的・基礎的に身につけておかなければならない事柄を習得することを目的とする．後半では，研究の一端の実践 (授業計画中の実践例は一例) を練習的に経験し，後期基礎ゼミナール II につなげる．

【授業概要】 ノートの取り方から始めて，大学で学ぶ手法の基礎の基礎から，最後は自分で調査・考察して議論する練習までに至る．

【キーワード】 研究・教養，調査・考察，日本語力，論理

【履修上の注意】 「基礎ゼミナール I 総論」を参照すること．

【到達目標】
1. 研究・教養とは何か考えるとともに，大学で学ぶ手法を身につける．
2. 日本語の論理的文章を理解できる能力を養成しながら，自ら調査・考察する練習をする．

【授業計画】 **1.** 練習 (1)—ノートの取り方— **2.** 大学での学び—研究 (1) 問題設定— **3.** 大学での学び—研究 (2) 方法論の獲得— **4.** 大学での学び—研究 (3) 結論の独自性— **5.** 大学での学び—教養— **6.** 練習 (2)—図書館の利用法と文献の収集方法— **7.** 練習 (3)—文献の読解方法— **8.** 練習 (4)—論文 (レポート) 作成上の注意点— **9.** 練習 (5)—意思疎通と議論 (ディベートではない)— **10.** 実践へ向けて—4 月 1 日生まれが早生まれであることに付随する問題について解説— **11.** 実践 (1)—グループ 1 の考察・「年齢計算ニ関スル法律」に関する考察— **12.** 実践 (2)—グループ 2 の考察・社会問題の考察— **13.** 実践 (3)—グループ 3 の考察・教育的見地からの考察— **14.** 実践 (4)—グループ 4 の考察・その他「年齢計算ニ関スル法律」に付随する問題— **15.** 討論会 **16.** 総括授業

【成績評価】 グループで行う予定の，調査・考察の発表と議論への参加状況を評価する．なお，授業には出席するのが当然なので，出席点はない．しかし，欠席すると減点する．

【再試験】 無し

【教科書】 無し

【参考書】 必要に応じて授業時に配付・提示・指示

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218499

【連絡先】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
Basic Seminar I 宮澤 一人・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 オペラという「うさんくさい芸術 (?)」のあり方から，芸術と娯楽とはなにか，そして音楽というものが時代や世相の変化によって，どのように受け取られてきたかを学ぶ．

【授業概要】 17 世紀になって突然誕生したオペラと呼ばれる音楽のジャンル．この浪費を前提に誕生した音楽ジャンルが，場所や時代によってどのように変化したかを，様々な作品を通してたどる．そして，芸術と娯楽の瀬戸際で常に存在し続けたオペラの姿を見つめようと考えている．

【キーワード】 バロックオペラ，モーツァルトの前衛，*19* 世紀パリの文化，ワーグナー以後，音楽の芸術と娯楽の分離

【先行科目】 『大学と社会』(1.0, ⇒12 頁)

【関連科目】 『科学と人間』(0.5, ⇒13 頁)

【履修上の注意】 ジャンルに関係なく音楽というものに多大な関心と好奇心をもっていること．「自分はクラシックは聴いたことが無い」という人も大丈夫．なお，教科書は全員必ず購入すること．

【到達目標】
1. 1．音楽，芸術，娯楽，エンターテイメントといった言葉の意味を，的確に定義づけられるようになること．
2. 2，本講義では国際感覚の醸成を養成することを目的としています．

【授業計画】 **1.** 講義の趣旨と概要の説明 (オペラの定義をしてみよう，一応) **2.** バロックオペラ (ギリシャ悲劇の復活?) **3.** バロックオペラ (華やかな浪費の産物) **4.** バロックオペラの最後 (だって面白くないから) **5.** オペラセリアとオペラブッファ (まじめとおふざけ) **6.** モーツァルトの登場 (人間の心理は複雑) **7.** モーツァルトの成し遂げたこと (本当はこわい・・・) **8.** フランス革命直後 (全てをこわしてしまった革命) **9.** 19 世紀のパリ (音楽の中心はここ) **10.** グランドオペラ (現代の娯楽の原点) **11.** ワーグナー (もはやオペラではない，楽劇なのだ) **12.** ワーグナー以後 (あんなものの後で何を作ればよいのだ?) **13.** 20 世紀のオペラ (もはや娯楽ではない) **14.** そして演出の時代へ (話題になればそれで良し!) **15.** 総括授業 (全体のまとめ) **16.** 各自の発表と期末レポート

【成績評価】 最終回の発表 (40%) 期末レポート (40%) 毎回の授業の時に出す課題 (20%)

【再試験】 行わない

【教科書】 『オペラの運命 (十九世紀を魅了した「一夜の夢」)』岡田暁生，中公新書 1585 ISBN4-12-101585-1

【参考書】 授業の中で指示する．また，資料を配付することもある．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218535

【連絡先】
⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は，特別な場合を除いて対応可能))

【備考】 ◇ 平成 22 年度は金曜日 前期の 3・4 講時開講 ◇ 講義はマルチメディア A 棟 1 階音響スタジオで行う．

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
山内 暁彦・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 基礎ゼミナール総論を参照．

【授業概要】 徳島にゆかりのある文人モラエスの作品を講読するとともに，彼の人生と作品，彼の死生観や当時の時代背景などについて，個人またはグループでそれぞれテーマを設定し，調査研究をしたり，その成果を発表したりすることなどを通じ，前期の基礎ゼミナール I で培った様々な能力をさらに延ばしていくこととする．学期末には研究成果を形として残すべく小冊子を制作する．

【キーワード】 モラエス

【履修上の注意】 基礎ゼミナール総論を参照．

【到達目標】 基礎ゼミナール総論を参照．

【授業計画】 **1.** イントロダクションと「他己」紹介 **2.** 講読 :「オヨネだろうか，コハルだろうか」 **3.** ディスカッション :「オヨネだろうか，コハルだろうか」について **4.** モラエス資料の検索と収集 **5.** テーマの設定，グループごとに調査 (1) **6.** グループごとに調査 (2), 中間発表の準備 **7.** 中間発表 (これまでの経過と今後の展望) **8.** 講読 :「ヒサマツは留守です」 **9.** ディスカッション :「ヒサマツは留守です」について **10.** グループごとに調査 (3) **11.** グループごとに調査 (4), 発表の準備 **12.** 調査結果の発表とディスカッション **13.** 小冊子の制作 (準備) **14.** 小冊子の制作 (作業) **15.** 小冊子の制作 (完成) **16.** まとめ

【成績評価】 基礎ゼミナール総論を参照．

【再試験】 基礎ゼミナール総論を参照．

【教科書】 教科書は使用せずプリントを配付する．参考書は授業中に指示する．

【参考書】 授業の時に指示する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218500

【連絡先】
⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~ 13時)

【備考】 前期，金曜日 3~ 4 講時

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
濱田 治良・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 「心理学史への招待-現代心理学の背景-」を輪読して心理学史の概略を理解する．また，心理学史におけるトピックスを発表しプレゼンテーション能力を身に付ける．

【授業概要】 毎週，「心理学史への招待-現代心理学の背景-」の本文を約 60 分輪読する．その後，2-3 人の発表者に，box に書かれているトピックスを中心にして，本文および他の図書も参考にしながら，発表してもらう．一人の持ち時間は 10-15 分とする．発表に際しては予めレジュメを作成してもらう．発表予定者はレジュメのコピーを前日 (木曜日) の昼休みに濱田研究室に提出すること．レジュメは A4 用紙を使って作成し，枚数は自由とする．レジュメは原則としてワープロやパワーポイントを使って作成する．この書は詳細な歴史的事実を述べたのではなく，心理学を学ぼうという人たちのために，心理学の各分野について必要最小限の歴史をそれぞれの分野の専門家が図版を豊富にして解説したものである．

【到達目標】 「心理学史への招待-現代心理学の背景-」の本文を輪読する．そして本文とは切り離して書かれている box を中心にして心理学史のトピックスを発表しプレゼンテーション能力を身に付けることを目標とします．

【授業計画】 **1.** 1 章 心理学の起源 **2.** 2 章 近世哲学と心理学 **3.** 3 章 感覚・知覚研究 **4.** 4 章 精神物理学 **5.** 5 章 脳研究 **6.** 6 章 反応時間研究 **7.** 7 章 実験心理学の独立-ヴント **8.** 8 章 記憶研究の源流-エビングハウス **9.** 9 章 進化論と動物心理学 **10.** 10 章 発達心理学 **11.** 11 章 個人差と個性の研究 **12.** 12 章 精神分析と臨床心理学 **13.** 13 章 ゲシュタルト心理学 **14.** 14 章 行動主義・新行動主義 **15.** 15 章 認知心理学 **16.** 16 章 社会心理学

【成績評価】 発表，出席等を総合的に勘案して評価する．

【再試験】 なし．

【教科書】 梅本堯夫・大山 正編著，心理学史への招待-現代心理学の背景-，サイエンス社，2800 円

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218501

【連絡先】
⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日，12時-13時)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 身体トレーニングを通して時分の器としての身体を体感する

【授業概要】 レジスタンストレーニングと持久性トレーニングの理論を学び，実践する

【キーワード】 レジスタンストレーニング，持久性トレーニング

【到達目標】 トレーニング理論の理解と実践

【授業計画】 **1.** 授業概要の説明 **2.** トレーニング前の身体計測および体力測定 I **3.** トレーニング前の身体計測および体力測定 II **4.** レジスタンストレーニング，持久性トレーニング **5.** 〃 **6.** 〃 **7.** 〃 **8.** 〃 **9.** 〃 **10.** 〃 **11.** 〃 **12.** 〃 **13.** トレーニング後の身体計測および体力測定 I **14.** トレーニング後の身体計測および体力測定 II **15.** 定期試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 身体計測・体力測定の結果およびレポートにより評価する

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【参考書】 授業時に紹介する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218502

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
趙 彤・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 社会科学を学習するのに必要な物事の考え方を習得することを目指します．

【授業概要】 この基礎ゼミでは，社会科学に必要な基礎的な思考法や方法論を学びます．グループごとに報告のテーマを決め，毎週該当グループがレジュメを作成し報告します．「なぜこのテーマを決めたか」，「なぜこのテーマをおもしろいと感じたか」をプレゼンテーションしても

らいます．残った時間は報告した内容についてディスカッションします．

【キーワード】社会科学的な思考方法

【到達目標】 物事を感情論ではなく，社会科学的な思考方法で思考すること

【授業計画】 **1.** 1．イントロダクション，報告者の順番とテーマを決定する　**2.** 2．決めたテーマについてグループで発表し，全員でディスカッションを行う　**3.** 3．決めたテーマについてグループで発表し，全員でディスカッションを行う　**4.** 4．決めたテーマについてグループで発表し，全員でディスカッションを行う　**5.** 5．総括授業を行う

【成績評価】 出席，報告内容及び積極性という 3 点を総合評価する

【再試験】 実施せず

【教科書】 特になし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218503

【連絡先】
⇒ 趙 (088-656-7176，zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー：水曜日 13:00-14:30 088-656-7176，zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp(@を半角して下さい))

【備考】 総合科学部 1 号館 3 階中棟，オフィスアワー以外の時間でも事前にメールで連絡をしてもらえれば対応できる

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
Foundations Course　石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】 現代は視覚表現時代であると言われている，言語を主とした情報伝達から，画像や図表を含めた「ビジュアル・コミュニケーション」が新しい情報伝達法としてクローズアップされてきている．それは「読むこと，考えること」から「見ること，感じること」の人間の視覚に直接訴える情報伝達といえる．ここでは画面構成の基礎について学ぶ．また色彩についての体験学習を行う．(基本的なところでは，同授業は課題解決・探求型学習の性格を有している．)

【授業概要】 構成の基礎について考察する．

【キーワード】画面構成

【先行科目】 『キャリアプラン入門 I』(1.0，⇒7 頁)

【関連科目】 『科学と人間』(0.5，⇒13 頁)

【履修上の注意】 「基礎ゼミ (講読) 総論」参照　講義は総合科学部マルチメディア B 棟 1 階講義・実習室にて行う．」

【到達目標】
1. 1．「基礎ゼミ (講読) 総論」参照
2. 本講義ではコミュニケーション能力を養成することを目的としています．

【授業計画】 **1.** テキストを題材として，以下の論題について議論する．**2.** 受講生による発表を中心授業を進める．　**3.** 1 点による構成について　**4.** 3 点による構成について　**5.** 1 本の線による構成について　**6.** 3 本の線による構成について　**7.** 2 面分割について　**8.** 3 面分割について　**9.** 寒色と暖色による構成　**10.** 記号について　**11.** 木炭デッサン (幾何形体を描く)　**12.** 鉛筆デッサン (幾何形体を描く)　**13.** デッサンはどう描かれたか　**14.** デッサンと科学的要素　**15.** レポート提出　**16.** 総括授業

【成績評価】 課題と期末レポート及び，授業への取組み状況などをもとに総合的に評価する．

【再試験】 行わない

【教科書】 講義の中で紹介する

【参考書】 講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218504

【連絡先】
⇒ 石井 (マルチ B-203，088-656-7165，ishii@ias.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー：木曜日 昼休み)

【備考】 ◇ 平成 23 年度は金曜日 前期の 3・4 講時開講 ◇ 講義はマルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室で行う．

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】 地域の情報を収集して，それを効果的に発信する方法を学ぶ．　具体的には，1) プレゼンテーション，2)Web マップの作成，を行う．

【授業概要】 1)Powepoint を用いて地域の特徴や名所をアピールするようなプレゼンテーションを作成して，効果的なプレゼンテーション法を学ぶ．　2) テーマを設定して徳島の街にあるもの (カフェ，交番，避難所，神社など) の情報を掲載する Web マップを作成する．

【キーワード】地理学，地域問題，空間構造

【関連科目】 『空間情報科学 I』(0.5)，『空間情報科学 II』(0.5)

【履修上の注意】 実際にキャンパス外で調査 (フィールドワーク) を実施する．

【到達目標】
1. 自ら地域の情報を収集・整理して，発信することができる．
2. 本講義では CCL のうち「プレゼンテーション能力」と「情報リテラシー」を養成する．

【授業計画】 **1.** イントロダクション　**2.** 地域情報の発信とは　**3.** 情報の収集 1 web の活用　**4.** 情報の収集 2 統計資料　**5.** プレゼンテーションの計画立案　**6.** プレゼンテーション内容の作成　**7.** プレゼンテーション　**8.** Web マップとは?　**9.** Web マップの計画立案　**10.** マッピング対象の情報収集　**11.** 現地における情報収集 1 位置情報の取得　**12.** 現地における情報収集 2 写真データの取得　**13.** Web マップの作成 1 データ入力　**14.** Web マップの作成 2 マップ編集　**15.** Web マップの公開　**16.** 総括

【成績評価】 授業への取り組み，プレゼンテーション等課題の内容によって評価する．

【再試験】 なし．

【WEB 頁】 http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218505

【連絡先】
⇒ 田中 .

【備考】 木曜日 12-13 時.

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】 総論を参照すること

【授業概要】 鈴木牧之の『北越雪譜』を読み進める．七十三年の生涯を越後塩沢で送った鈴木牧之が雪国の自然・生活・民俗等について述べたところを読み，その過程で次のような活動を行う．1) 現代語訳を試み，その内容を分かりやすく伝えることを通して，文章の理解力と表現力を養う．2)『北越雪譜』に書かれていることを，現代の立場から見直すことを心がけ，そのために調査すべきことを調査し，分かりやすく報告する．

【キーワード】雪国の自然・民俗

【到達目標】 文章表現の力，口頭で伝える力，問題を発見する力を養う．

【授業計画】 **1.** ガイダンスおよび分担の決定　**2.** 『北越雪譜』を読み進めながら，分担に従って発表し，記事の背景，さらに検討することなどを議論する．　**3.** 議論を受けて，調査し，その結果を発表する．**4.** 『北越雪譜』を読み進め，課題をさがす．

【成績評価】 レポートによる．なお，出席および態度 (授業中の討議にどれだけ貢献できているか) を重視する．

【再試験】 必要に応じレポートを課す．

【教科書】 鈴木牧之『北越雪譜』岩波文庫

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218506

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319，088-656-7117，senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)
吉田 敦也・教授/社会創生学科

【授業目的】 地頭 (ヂアタマ) の良い人間になる．

【授業概要】 最近の企業の採用現場では「採用するなら”地頭が良い”学生がいい」とよく言われる．大学での学習や研究への取り組みにおいても同じである．そもそも「頭が良い」とは，単に，試験で高得点とれる，といういうようなことではなく，物知り，機転が利く，地頭が良い，などのレイヤーから成る一種のプロフィールである．そして，その地頭力とは，知的好奇心，論理的思考力，直感力からなり，①結論から考える”仮設思考力”，②全体から考える”フレームワーク思考力”，③単純に考える”抽象化思考力”，を正しく身につけることによって鍛えることができる．本基礎ゼミでは，『ICT 活用による社会創生，地域貢献の課題解決』をテーマに，その実習作業を通じて「地頭力」の高い人間になることをめざす．

【キーワード】地頭力，仮設思考力，フレームワーク思考力，抽象化思考力，フェルミ推定，社会創生，地域貢献，課題解決，キー・コンピテンシー，テクノロジー活用力，交流/協働する，汗を流す，笑う

【履修上の注意】 iPhone/iPad などスマートメディアによるサイバーネットワーク型の授業や演習を行う．そのため，メール，ブログ，ツイッター，facebook などを利用/演習する．地域課題解決事業の協働作業にも参加する．そのため，まち，村，中山間地域などへ出かけていき，地域の住民や高齢者などと交流する．汗を流し，ガハハと笑って，学習する．

【到達目標】
1. 地頭力の理解と基礎形成
2. スマートメディアのクラウド型利用による地頭力の拡大
3. 地域課題解決実習による地頭力の発揮

【授業計画】 **1.** 導入 (授業の計画，自己紹介，グルーピングなど)(第 1 週)　**2.** ネット環境の構築 (iPad/iPodTouch の設定/活用法など)(第 2 週)　**3.** 基礎学習 (地頭力についての講義とディスカッション)(第 3 週)　**4.** グ

ループワーク (課題設定，研究/調査，経過報告)(第 4 週 ～ 第 6 週) **5.** 成果発表 (プレゼン，ディスカッション，評価)(第 7 週)

【成績評価】授業への取り組み状況，レポート，発表などを総合的に評価する．

【再試験】無し

【教科書】細谷功著「地頭力を鍛えるー問題解決に活かす「フェルミ推定」」，東洋経済新報社 (1680 円)

【参考書】小山龍介「クラウド HACKS!」，東洋経済新報社 (1500 円)

【WEB 頁】http://ct.ias.tokushima-u.ac.jp/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218507

【連絡先】

⇒ 吉田 (088-656-7897，yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 24時間(yos@ias.tokushima-u.ac.jp))

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

小山 保夫 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】(1) 総合科学部で自分の力をどのように伸ばし，自分の将来の希望 (夢) をどのように実現するか，ステップアップできるか，その為には今から何をしなければならないのか，それらを考えさせる．時間が許せば，(2) 社会創生学科 (特に，環境共生コース) で何を学ぶか，考えさせる．

【授業概要】(1) 何人かの学生は自分の将来の希望 (夢) とは関係なく，センター試験の結果により仕方なく「総合科学部」にいるのかもしれない．しかし，総合科学部のカリキュラムはいろいろな夢を実現するためには優れていると思う．そのカリキュラムの中で，どのように力を付けて行くか，具体的に考えさせる．(A) 他の大学学部への編入学 (医歯学部への 3 年次編入学なども含む)，(B) 京都大学，大阪大学，九州大学などの大学院への進学，(C) 一般企業への就職，公務員や教員採用，(D) 各種の資格取得など，日常の勉強の中でそれらをどのように実現するのか，考えてみよう．(2) 社会創生学科 (特に，環境共生コース) で何をどのように学び，どのように先に進むか．

【キーワード】キャリアプラン，スキルアップ

【履修上の注意】(1) 私は社会創生学科環境共生コース (生命科学) の教員だから，将来の進路については不得意分野もある．不得意分野は他の専門教員に助けを求める．(2) 自分の意見や意志がはっきりと言えることが必要．将来，何をしたいのか，判らない学生には難しいゼミナールになる．他の学生よりも一歩先を準備したい気持ちを持っていることが必要と考える．(3) これまでに私の基礎ゼミナールを受講した学生には「言葉だけで，結局，大した努力もせずに日常に埋もれていった学生」も少なくない．三年生，四年生になった時，努力を続けていない学生は私と会うと苦言を聞くことになる．

【到達目標】

1. 自分の希望をどのように実現するのか，具体的にスケジュールを組みます．

2. そのスケジュールを実行するためにどのように意識 (あるいは意志) を持続させるか，自覚させます．

3. 社会創生学科 (特に，環境共生コース) を理解します．

【授業計画】1. 君は自分の将来をどのように考えていたか，考えているか．(1 回目) **2.** 君は自分の将来をどのように考えていたか，考えているか．(2 回目) **3.** 君らにはどのような進路があるのか．自らの可能性を閉ざしていないか．私の「基礎ゼミナール」を受講した学生で「夢 (希望)」を実現した人と諦めた (?) 人の違いは何か． **4.** 徳島大学総合科学部から，大阪大学，京都大学，九州大学，東北大学の大学院に進んだ学生は，また医学部，歯学部へ編入学した学生はどのような学生生活を送ったか．． **5.** 就職，進学，いずれも志望動機 (エントリーシート，入学願書) は必要なわけで，どのような志望動機が相手に受けるのか．特に，就職の場合にエントリーシートで落とされ，面接まで進めなければ，意味はない．学生生活のどの段階で何を頑張らなければならないのか． **6.** 就職，進学，いずれも面接はあるわけで，自分を売り込むということはどのような事なのか．売り込む為の具体的な事例 (相手に評価される) を持っているか．どうするのか． **7.** どのように勉強するのか．大学の最初の二年間で得る力，失う力．何を得て，何を失うか．人生を決める時期に人生を意識しないことの怖さ．これからの試験は自分の人生を決める試験になる．就職試験も大学院試験も，中学・高校・大学の定期考査とは違う． **8.** 大学は，教員は，家族は君に何をしてくれるのだろう．指導を受ける教員により，学生は異なる人生を歩む可能性がある．何を基準に教員を選ぶのか． 君はどの道を進みたいのか．総合科学部の教員の多くは本当に面倒見が良い，特に，教務委員，学生委員はそれなりの教員が担当している．しっかりと利用しなさい．教員の利用の仕方を教える． **9.** 君らの先輩の成功例，失敗例 (?) を考えながら，学生生活をどのように送れば良いのか．自分の性格，能力を踏まえながら考える． **10.** 社会創生学科 (特に，環境共生コース) で何を学び，何を研究するか．学問の面白さを感じよう．(1 回目・生命科学) **11.** 社会創生学科 (特に，環境共生コース) で何を学び，何を研究するか．学問の面白さを感じよう．(2 回目・環境科学) **12.** 社会創生学科 (特に，環境共生コース) で何を学び，何を研究するか．学問の面白さを感じよう．(3 回目・資源科学) **13.** これから 3 年前期が終わるまでの期間，何を為すか．(1 回目・実行プラン作成) **14.** これから 3 年前期が終わるまでの期間，何を為すか．(2 回目・実行プラン論議) **15.** 自分の人生，本当にこれで良いのか，確かめる． **16.** 総括

【成績評価】自分の「希望」を実現する為のプランを他人に説明できること．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】最大限に資料を提供する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218508

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06，oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します．時間は有効に使います．)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

蓮沼 徹 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】点と点同士をつなぐ線によって描くことのできる図形をグラフといい，ネットワーク構造をもつものはグラフとしてモデル化することができる．この授業では，グラフによるモデル化，グラフの性質及びその応用を学びながら，論理的な思考と問題解決能力を養うことを目的とする．

【授業概要】テキストあるいは資料を輪講形式で読み進める．また，グループあるいは個人単位で興味ある問題に取り組み考察を行い，その考察結果を板書や PowerPoint を用いた発表形式で報告してもらう．

【キーワード】論理的思考，問題解決能力，プレゼンテーション能力

【履修上の注意】毎回の出席を原則とする．

【到達目標】論理的思考能力，問題解決能力，プレゼンテーション能力を高める．

【授業計画】1. 導入 (授業の計画・概要，自己紹介)(第 1 週) **2.** テキストあるいは資料の講読・討論 (第 2 週 ～ 第 8 週) **3.** グループあるいは個人単位で課題に取り組み，考察を行う (第 9 週 ～ 第 13 週) **4.** 考察結果の発表・報告・ディスカッション (第 14 週，第 15 週) **5.** 総括授業

【成績評価】出席，授業への取り組み状況，発表などにより総合的に評価する．

【再試験】無し

【教科書】授業の時に指定する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218509

【連絡先】

⇒ 蓮沼 (088-656-7216，hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科，山本 孝 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】化学関連コースに進むにあたって必要な心構えを身につけ，自学・自習，研究発表プレゼンテーションなどの大学での基本的な教育・研究の流れを理解する．

【授業概要】化学の初学者にとって必須の化学分析を用いた実地ゼミを実施する．必要なデータを各自が収集して，まとめ，レポートしてもらい，ゼミ形式で発表する．

【キーワード】河川水質，環境化学，問題解決，化学

【到達目標】

1. 大学における自学・自習とレポートの作成，発表プレゼンテーションという流れを実感し，4 年間の大学生活の流れを理解する

2. (課題解決・探究型学習の導入)

【授業計画】1. シラバス・授業内容の説明，自己紹介，総合科学部の化学・環境共生関連教員とその研究内容の紹介 (1 回) **2.** 「おいしい水」をテーマに大学における調査研究の方法ー如何に科学的に調べるかー (1 回) **3.** 徳島県の湧水と河川水と自然 (1 回) **4.** 地域の水資源や環境に関わる調査課題の設定 (1 回) **5.** さあ，つるぎ山に出かけよう (祖谷渓谷，つるぎ山，貞光川ルート) 休日実施 (選択) **6.** さあ，吉野川に出かけよう (龍河洞，梶が森，大歩危・小歩危，脇町潜水橋，柿原堰) 休日実施 (選択) **7.** 調査・分析・解析とプリゼンテーション準備 (6 回) **8.** プリゼンテーション: 環境と水資源 **9.** 総括

【成績評価】出席 40%，発表 40%，レポート 20%

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218510

【連絡先】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前 · 後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)

⇒ 山本 (088-656-7263，t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】◇ 調査や採水は，休日または土日に行う予定でいます．調査・見学に必要な経費の一部は各自で支弁いただくことになりますので，受講を決める際には，あらかじめ了承願います． ◇ 授業計画の内容についても，受講者との相談の上，そのつど変更することもあります．

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

石田 啓祐 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 大学で自然科学系の勉強を進めてゆくのに必要な以下の能力の養成を目的とします． 論理的思考力，論理的なレポートを書くことのできる能力，日本語で討論することのできる理解力とコミュニケーション能力，プレゼンテーション能力

【授業概要】，

【キーワード】 レポート作成法，データの整理と考察，文献・資料の検索，討論の大切さ，パワーポイントを使った発表

【履修上の注意】 自然科学を探究し得た成果を普遍的に共有するためには，いくつか作法のようなものがあります．独りよがりな意見の発信にならないようにするために，早くから身につけておくと役に立つ知識です．それを身につけるための努力を評価の対象とします．授業に出席することはもちろん，能動的に積極的にセミナールに参加し，多くのノウハウを身につけていただくことを希望します． また，発表の際にはパワーポイントを使用します．受講者は各自パワーポイントとそれが使えるコンピュータを用意して下さい．

【到達目標】
1. 論理的思考力の養成
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成
3. コミニュケーション能力，プレゼンテーション能力の養成

【授業計画】 **1.** 自然科学系に必要な文章表現の要素と構成 **2.** 一般的な実験レポートの書き方 **3.** レポートを書いてみよう 1 (内容構成の体得) **4.** テーマ (主題) の設定 (着眼点は豊富な感性から) **5.** データを収集しよう (情報の収集や観察の仕方) **6.** データを確かめよう (検証の大切さ) **7.** 資料の収集と整理 (文献の検索) **8.** 事実と意見 (主観と客観，事実の記載と考察の区別) **9.** レポートを書いてみよう 2 (内容の見直しと整理) **10.** レポート内容を発表しよう (話す立場，聞く立場，意見交換) **11.** パワーポイントの使い方 **12.** パワーポイントによる発表で重要なこと **13.** パワーポイントで発表しよう (1) **14.** パワーポイントで発表しよう (2) **15.** パワーポイントで発表しよう (3) **16.** 総合討論 (総括授業)

【成績評価】 出席回数，課題レポート，パワーポイントによる発表と毎回の授業での積極的な取り組み態度 (集中力，持続力，観察力，考察力，質疑 · 応答 · 発表によるゼミへの貢献等) により，総合的に評価します．

【再試験】 なし．

【教科書】 授業の中で指示します

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218511

【連絡先】
⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04，088-656-7243，ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

【備考】 積極的に授業に参加してはじめて授業で取り上げたことがらがあなたのスキルになります．積極的に参加してください．

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

村田 明広 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 ユネスコが支援するジオパークについて学び，地質現象，植物，動物などの自然と，そこでの人間の営みに関して理解を深めることを目標とする．また，ジオパークについての情報を収集し，一般に分かりやすく説明するプレゼンテーション法を習得することを目的とします．

【授業概要】 ジオパークは，重要な地質現象が観察される地域で，植物，動物，人間の営み，文化などとの関連も含めて野外博物館に作り，ジオツアーを企画し，自然の保全活動，環境教育，観光開発などを行うものである．このゼミでは，世界中のジオパークを調査し，プレゼンテーションを行うことで，ジオパークに理解を深め，プレゼンテーション能力の向上を目指します．

【キーワード】 ジオパーク，ジオツアー，地質，自然，野外博物館

【履修上の注意】 公用車あるいは公共交通機関を利用して，野外へ出かける予定です．大歩危・祖谷ジオツアーか，海陽・室戸ジオツアーのどちらかに参加していただきます．ただし，事情によっては，ジオツアーを実施できないことがあります．

【到達目標】 ジオパークについて説明することができ，ジオツアーを企画できるようになる．本ゼミではプレゼンテーション能力を養成するとともに，体験・参加型学習を導入しています．

【授業計画】 **1.** ジオパークとはどういうものか． **2.** 日本のジオパークについて調査する (1)． **3.** 日本のジオパークについて調査する (2)． **4.** 日本のジオパークについて発表する (1)． **5.** 日本のジオパークについて発表する (2)． **6.** 大歩危・祖谷ジオツアー (野外，4 回分)． **7.** 海陽・室戸ジオツアー (野外，4 回分)． **8.** スコットランドの北西高地ジオパーク． **9.** 海外のジオパークについて調査する (1)． **10.** 海外のジオパークについて調査する (2)． **11.** 海外のジオパークについて発表する (1)． **12.** 海外のジオパークについて発表する (2)． **13.** レポートの作成．

【成績評価】 ゼミでの積極性と発表，レポート．

【再試験】 なし．

【参考書】
◇ 世界のジオパーク編集委員会・日本ジオパークネットワーク JGN 共編，「世界のジオパーク」オーム社．
◇ 平野勇著，「ジオパーク」，オーム社．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218512

【連絡先】
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03，088-656-7242，murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室にいる時はいつでもかまいませんが，場合によっては出直してもらうことがあります．)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

折戸 玲子 · 助教 / 総合理数学科

【授業目的】 高校までの「先生の話を聞いて覚えて書き出して終わり」という授業から一歩踏み出し，自分自身やグループでテーマに積極的に取り組んで行くのが大学です．リサーチ，討論，まとめ，発表といった過程を経験してみることが大切です．物質や環境に関わる科学を学問として深めていく上で大切な思考の過程と姿勢とを修得することを目的とします．

【授業概要】 興味のあるテーマを探し，自分自身で調べ，考え，発表及び議論を行う機会を設ける．プレゼンテーションの手法について学ぶ．

【キーワード】 テーマの設定，探究心，情報収集・解析力，発想力・論理的思考，問題解決能力，プレゼンテーション・コミュニケーション力

【履修上の注意】 毎回の出席を原則とする

【到達目標】 適切な報告，資料の作成，プレゼンテーション，議論を行えるようになる．

【授業計画】 **1.** 自己紹介．授業の趣旨及びテーマ設定の方法 **2.** 設定したテーマとその動機について，報告および議論 **3.** テーマの調査の行い方，文献の調べ方，インターネットの活用法 **4.** テーマに基づいて調査，文献講読，体験学習などを実施 **5.** 経過報告と議論 **6.** 調査，文献講読，体験学習 **7.** 調査，文献講読，体験学習 **8.** 中間報告会のための事前指導 **9.** 中間報告会 **10.** 調査，文献講読，体験学習 **11.** 調査，文献講読，体験学習 **12.** 調査，文献講読，体験学習 **13.** プレゼンテーションの作り方，発表，質疑応答の心構え，議論の行い方 **14.** プレゼンテーション準備 **15.** 最終発表会 **16.** 統括

【成績評価】 授業態度を重視する．取り組み状況，報告，発表などから総合的に評価する．

【再試験】 無し

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218513

【連絡先】
⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 2 単位 (必修) 1 年 (前期)

三好 徳和 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 高校までの「先生の話を聞いて覚えて書き出して終わり」という授業から一歩踏み出し，自分自身やグループでテーマに積極的に取り組んで行くのが大学です．リサーチ，討論，まとめ，発表といった過程を経験してみることが大切です．物質や環境に関わる科学を学問として深めていく上で大切な思考の過程と姿勢とを修得することを目的とします．

【授業概要】 徳島大学総合科学部に入学して，少なくとも 4 年間をどのように過ごすのか?化学や環境科学について学びたい場合は，どのようなことが必要とされるのか．まずは，その概要について講義を聴くだけでなく自分自身で調べ，考え，そして自分の意見を述べたり，発表したりする機会を設ける．また，卒業後の予定 · 目標はどうなのか?それに向かって何をどうできるのかについても考える．

【キーワード】 化学，有機化学，環境化学

【履修上の注意】 授業開始の最初の授業にて話すので，必ず遅刻せず出席するように．

【到達目標】
1. 自学自習の態度を身につける．
2. 調べる，まとめる，討論，表現する能力を身につける．

【授業計画】 **1.** 自己紹介，総論 **2.** 総合科学部において学ぶに当たって **3.** 考えると言うこと **4.** レポートの書き方 (有機化学分野において) **5.** 有機化学と環境について (3 回) **6.** レポートの纏め方と発表の仕方について part.1 **7.** レポート課題の決定 **8.** レポートの纏め方と発表の仕方について part.2 **9.** レポート発表 (4 回) **10.** まとめ

【成績評価】 毎回の出席と授業に対する意欲により評価する

【再試験】 なし．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218514

【連絡先】
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03，088-656-7250，miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

キャリアプラン入門 I

2 単位 (必修) 1 年 (前期)

葭森 健介・教授/人間文化学科，中嶋 信・教授/社会創生学科
石川 榮作・教授/人間文化学科，大渕 朗・教授/総合理数学科
中川 秀幸・教授/社会創生学科，田中 徳一・特任講師
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】大学ならびに総合科学部を取巻く今日の社会環境，および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し，初年次学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに，将来の就職について考える上で必要な素養と能力を養う．また web 版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する．

【授業概要】今年度は以下の 3 点を主題とする． ①総合科学部とはどんな学部か? 総合科学部教員により授業ガイダンスおよび大学・学部・学習方法について講義する．それによって，総合科学部の置かれている位置を理解し，総合科学部でどの様に学んだらよいのかをも考えてもらう．②キャリアデザイン GP 特任教授により社会人基礎力，キャリアデザインや Web 版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法に関する説明がある．③大学生から社会人になるということ 学部教員および非常勤講師等がそれぞれの立場から，適宜，企業・社会等において求められる人間像について講義を行いエンプロイアビリティを高めるということについて学習してもらう．また受講者はそれを踏まえて自らのキャリアデザイン・ライフプランを作成する．最終回までに授業で習った基本的な事に関するレポートが二回ないし三回ほど課せられる予定である．なお各自の学習内容の要点および課題レポート等を Web 版キャリア学習ポートフォリオに記入する練習も適宜課せられることになる．

【キーワード】大学，総合科学，地域社会，キャリアデザイン，ポートフォリオ，職業

【履修上の注意】各講師の授業には全て参加し，レポートを提出すること．討論・発表への自発的参加が重要である．詳細な授業計画等はホームページに掲載する予定．

【到達目標】大学の現実と課題を各自が理解し，大学における真摯な学び (広い教養と専門的力の養成) の重要性を自覚し，今後 4 年間の学習計画を立てる．

【授業計画】1. 授業の進め方について < 大渕 >(4 月 13 日) **2.** 総合科学部で何を学ぶ総合科学部の長所・短所 < 葭森 >(4 月 20 日) **3.** 大学と地域社会のコラボレーション < 中嶋 >(4 月 27 日) **4.** 高校と大学での学びの違い-高校の勉強と総合科学部での学び < 卒業生:中川 >(5 月 11 日) **5.** 読書と人生 < 石川 >(5 月 18 日) **6.** レポートの書き方，評価のされ方およびネットの使い方について < 葭森・大渕 >(5 月 25 日) **7.** 総合科学部から社会へ大学生から社会人になるということ < 中川秀幸 >(6 月 1 日) **8.** 大学におけるキャリア教育と「巣立ちプログラム」< 平井 >(6 月 8 日) **9.** Web ポートフォリオの利用方法 < 田中 >(6 月 15 日) **10.** 求められる社会人基礎力 < 田中 >(6 月 22 日) **11.** ビジネスコミュニケーション < 山野明美 >(6 月 29 日) **12.** ネットワークと大学 < 卒業生:森本哲史 >(7 月 6 日) **13.** 地域産業と職業 < 田村耕一 >(7 月 13 日) **14.** 大学と企業 次代の若者へ (植田貴世子)(7 月 20 日) **15.** 全体のまとめ (総括授業に当たる)

【成績評価】評価は討論の参加度合い，レポートにより行う．出席状況については，授業時の点呼や Web 版ポートフォリオのショートレポート (200 字程度) で確認する．

【教科書】各講師よりその都度提示された書籍等は自発的に読んでレポートにまとめることが望ましい．

【参考書】授業中に配布

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220002

【連絡先】

⇒ 葭森 (アジア史研究室，088-656-7156，yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:30-13:30)
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:00-16:00)
⇒ 石川 (088-656-7142，ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15:00-16:00)
⇒ 大渕 (088-656-7297，ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 11:50-12:50)
⇒ 中川 (3222，088-656-7259，sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日15:00-16:00(随時受け付ける))
⇒ 田中 (t_tanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:00~ 13:00)

【備考】◇ 講義では適宜討論をはさみます．また，講師の講演順が替わることがあります． ◇ 汎用的技能修得科目の項目について ◇1. 日本語の論理的文章を理解できる能力 ◇2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力 ◇3. コミュニケーション能力 ◇4. プレゼンテーション能力 ◇5. 情報リテラシー

キャリアプラン入門 II (基礎ゼミナール II) 総論

2 単位 (必修) 1 年 (後期)

伊藤 正幸・教授/総合理数学科，平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．

【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ．

【キーワード】キャリアプランニング，自己開発，学科学習理念

【先行科目】『キャリアプラン入門 I』(0.5, ⇒7 頁)

【到達目標】誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．

【授業計画】1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される． **9.** 将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解する． **10.** 自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ．

【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する．

【再試験】各担当教員の判断による．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220003

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220，088-656-7219，mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45 ，2. 月曜日 16:30-17:30)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II)

2 単位 (必修) 1 年 (後期)

有馬 卓也・教授/人間文化学科，平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．

【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ． 本ゼミは中国や日本の文化に接することのできる諸問題 (主に不思議系のもの) にアプローチしていくものである．

【キーワード】キャリアプランニング，課題解決，探求型学習

【履修上の注意】 毎回最後に次回テーマ，或いはテーマ解析の手がかりになるもの (画像・説話・キーワードなど) を提示する．それを事典や辞書，インターネットなどで自分なりに調査してくること．ゼミの時に互いの調査内容を紹介・検討しながら，さらに考えを深めていく．

【到達目標】 誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．中国や日本の文化理解を通して，課題解決・探求型学習を行う．

【授業計画】1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適正把握演習 (性格・言語) **4.** 適正把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオを考える **8.** ガイダンス:ゼミの進め方 **9.** 神々 **10.** 妖怪 **11.** 太陽と月 **12.** 異常出生 **13.** 人形 (ひとがた) **14.** 神隠し **15.** 総括

【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．レポートによる

【再試験】行わない

【参考書】適宜紹介していく
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218516
【連絡先】
⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

片岡 啓一・教授/人間文化学科, 平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う． 以上が同授業の前半部分の授業目的であるが，後半部分 (片岡担当) の目的は次の通りである．J.S. バッハの音楽作品について，文献を購読することを通して極めて具体的なかたちで勉強する．そのことを通じてバッハの音楽に関する造詣を深め，又，音楽の本質に関する考察も行ってみたい．併せて，同授業において学生に発表させたり意見交換を行わせたりして，学生の発表能力・コミュニケーション能力等を育成することにも努めたい．(基本的なところでは，同授業は課題解決・探求型学習の性格を有している．)

【授業概要】 前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，計数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ． なお，授業の後半部分 (片岡担当部分) の具体的な概要は，次の通りである． 池辺晋一郎著:「バッハの音符たち」(音楽之友社) という書物を購読することによって，バッハの音楽に関する造詣を深め，音楽の本質についての考察も行う．併せて，受講学生の発表能力・コミュニケーション能力等を育成することにも努力する．同書は，作曲家の立場から極めて具体的なかたちでバッハの作品群について言及されていて，楽譜も豊富に掲載されており，実際の授業においては，CD 等を利用してできるだけ音楽鑑賞の時間を作るようにこころがけたい．

【キーワード】***J.S.* バッハの音楽 *(片岡担当分)*, 音楽の本質 *(片岡担当分)*, 発表能力・コミュニケーション能力等の育成 *(片岡担当分)***

【履修上の注意】ここでは，後半の片岡担当部分についてのメッセージのみを書いておきます．この授業は，平成 23 年度入学の学生のための学部共通科目の一つです．音楽に関して興味と関心のある学生さんであれば，どなたでも気楽に受講してください．先行科目・関連科目については具体的な科目名は書いていませんが，芸術分野・人文科目分野等の科目は，すべて該当すると考えていただいてかまいません．

【到達目標】 誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．以上は前半部分の到達目標ですが，後半の片岡担当部分の目標は次の通りです．バッハの音楽についての造詣を深め，音楽の本質について考察する．併せて，プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力等を養う．(なお，「目的」の欄でも触れましたが，片岡担当分では，基本的なところでは，課題解決・探求型学習を導入しています．)

【授業計画】 **1.** 1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** 2. キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 3. 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 4. 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 6. 各業種・職種のコンピテンシー **7.** 7. Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 8.「G 線上のアリア」・「ブランデンブルク協奏曲」について考察する． **9.** 9.「ゴルトベルク変奏曲」・「シャコンヌ」について考察する． **10.** 10.「ヴァイオリン協奏曲」・「トッカータとフーガ二短調」について考察する． **11.** 11.「インヴェンション」・「音楽の捧げ物」について考察する． **12.** 12.「平均律クラヴィーア曲集第 1 巻ロ短調」・「コーヒーカンタータ」について考察する． **13.** 13.「トリオソナタ」・「シェメッリ讃美歌集」について考察する． **14.** 14.「イタリア協奏曲」・「無伴奏チェロ組曲」について考察する． **15.** 15. 総括授業．これまで行ってきた授業内容についての全体的な取りまとめ・反省・意見交換等を行う．

【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．後半の片岡担当部分については，試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．その際，出席状況や授業に取り組む姿勢等も，併せて総合的に評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】ここでは，後半の片岡担当分についてのみ書いておきます．池辺晋一郎著:「バッハの音符たち」(音楽之友社)．(同書は教員サイドが必要部数を準備して，片岡担当分の授業の初回に貸与し，最終回の授業終了後に返却してもらう方法をとります．)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218517
【連絡先】
⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】ここでは，片岡関係のみについて書いておきます．オフィスアワーは後期・木曜日の昼休み．片岡研究室のメールアドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．同授業は，後期・金曜日・1-2 講時にマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」にて開講する．(同授業の前半部分は別の部屋で実施します．) 具体的な授業計画の内容についてはできるだけ予定通りに実施したいと思っているが，少し予定とはずれることもあるので，その点はあらかじめご了承をお願いしたい．

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

桂 修治・教授/人間文化学科, 平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】キャリアプラン入門 II 総論を参照

【授業概要】授業の最初の 7 回は特任教員によるキャリアプラン講座，8 回以降は，基礎学力養成講座を行う．一般性の高いテーマのもとで，テクスト分析，ディスカッション，レポート作成，プレゼンテーションなどの演習を行う．

【キーワード】 **クリティカルリーディング・ライティング，ディスカッションとレポート作成，公的な場での言語運用能力，社会的なテーマ**

【履修上の注意】キャリアプラン入門 II 総論を参照

【到達目標】キャリアプラン入門 II 総論を参照

【授業計画】 **1.** キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) 特任教員 **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) 特任教員 **3.** 適正把握演習 SPI(性格・言語) 特任教員 **4.** 適正把握演習 SPI(計数・総合) 特任教員 **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 特任教員 **6.** 各業種・職種のコンピテンシー 特任教員 **7.** Web 版ポートフォリオ・コンピテンシーの設定 特任教員 **8.** クリティカルリーディング・ライティング養成講座 **9.** クリティカルリーディング・ライティング養成講座 **10.** クリティカルリーディング・ライティング養成講座 **11.** クリティカルリーディング・ライティング養成講座 **12.** クリティカルリーディング・ライティング養成講座 **13.** クリティカルリーディング・ライティング養成講座 **14.** クリティカルリーディング・ライティング養成講座 **15.** クリティカルリーディング・ライティング養成講座 **16.** まとめ

【成績評価】キャリアプラン入門 II 総論を参照

【再試験】キャリアプラン入門 II 総論を参照

【教科書】使用しない

【参考書】授業時に適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218518
【連絡先】
⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間, 金曜 5·6)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

吉田 文美・准教授/人間文化学科, 平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な 視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握 演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念 を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．

【授業概要】 前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じ て学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次い で適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で 要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目 を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大 学での学業面での充実を目指し，自らの社会力・基礎学力を養成 するために何をすべきかを学ぶ．

【履修上の注意】後半の授業では，加瀬次男『コミュニケーションのための日本語・音声表現』学文社 を使用予定である．授業計画の後半部は，このテキストを使用する場合の予定であり，計画に示された授業進度は一応の目安である．テキストを変更した場合は，授業中に改めて後半部の計画を伝える．テキストの種類に関わらず，授業前にあらかじめ指定した箇所を読んでくることが求められる．

【到達目標】誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．

【授業計画】 **1.** キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリア プラン・ライフプランを考える. **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポー トフォリオの設定 **8.** テキスト講読/第 1 章 おしゃべりなことば **9.** テキスト講読・演習/第 2 章 話して伝える 1-4 **10.** テキスト講読・演習/第 2 章 話して伝える 5-7 **11.** テキスト講読・演習/第 3 章 ビジネス・コミュニケーション 1-3 **12.** テキスト講読・演習/第 3 章 ビジネス・コミュニケーション 4-5 **13.** テキスト講読・演習/第 4 章 読んで伝える 1-5 **14.** テキスト講読・演習/第 4 章 読んで伝える 6-9 **15.** テキスト講読・演習/第 5 章 朗読を楽しむ **16.** レポート提出

【再試験】 行わない.

【教科書】 加瀬次男『コミュニケーションのための日本語・音声表現』学文社 (2001 年)2940 円を使用予定.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218537

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

佐竹 昌之・准教授/人間文化学科, 平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．また，自ら選んだテーマに沿って情報を検索・収集し，他人に伝えられる客観的な知識を構築して，分かりやすく発表するという体験をしてもらう．これによって，大学で学ぶ上でのいわゆる知の技法の基礎を身につけてもらう．

【授業概要】 前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，ゼミナール形式で行う．扱う課題を設定してから課題検討グループを 4 組作る．課題は健康スポーツ科学に関するもの，健康・スポーツ関連職業に関するものを設定する．まとめたものについてはプレゼンテーション及び討論を行う．

【キーワード】キャリアプラン，健康，スポーツ，プレゼンテーション

【先行科目】 『基礎ゼミナール I』(1.0)

【関連科目】 『健康と福祉』(0.5, ⇒13 頁)

【到達目標】

1. 誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．
2. 調査手法を理解する．
3. プレゼンテーション能力を養成する
4. 考えの相違を尊重する態度を身につける．
5. 本講義では課題解決・探求型学習を導入します．

【授業計画】 **1.** キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 検討グループの組織，課題設定についての検討 **9.** 各グループでの検討 (1) **10.** 各グループでの検討 (2) **11.** 検討結果の整理 **12.** プレゼンテーション及び討論 (1) **13.** プレゼンテーション及び討論 (2) **14.** 討論結果を踏まえ，再検討 **15.** 最終プレゼンテーション **16.** 全体のまとめ

【成績評価】 前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．後半部分は授業の中での取り組み状況と最終報告レポートで総合評価を行う．

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218519

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

佐藤 健二・教授/人間文化学科, 平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．また，臨床心理学とその関連領域 (精神医学，社会心理学，生理心理学等) に関するテーマについて，課題を設定・解決し，その成果をプレゼンテーションし，議論する能力を身につける．

【授業概要】 前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する．後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ． 後半部分では，臨床心理学とその関連領域 (精神医学，社会心理学，生理心理学等) について，まず，参加者の興味の有るテーマをリストアップする．この際，心理学を活かした職業 (例えば，臨床心理士など)，心理学が貢献しうるコンピテンシー (例えば，コミュニケーション能力など) も，その候補とする予定である．その後，それらをまとめて，3~ 4 つのテーマに絞り込む．それに基づいて 3~ 4 つのグループ (班) を作る．その後は，各グループ毎に，一週ずつ，調べ，まとめたものについて，プレゼンテーション・議論していく．

【キーワード】キャリアプラン，臨床心理学，プレゼンテーション，議論

【到達目標】

1. 誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．
2. 臨床心理学に関連する特定の課題について，グループで調べ，解決し，まとめ，プレゼンテーションし，議論出来る能力を身につける (課題解決・探求型学習)

【授業計画】 **1.** キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** ガイダンス 1:趣旨説明，自己紹介，課題設定，検討グループ組織，発表の順番決め **9.** ガイダンス 2:教員によるプレゼンテーション例 **10.** 発表 1(第 1 班 1 回目) **11.** 発表 2(第 2 班 1 回目) **12.** 発表 3(第 3 班 1 回目) **13.** 発表 4(第 1 班 2 回目) **14.** 発表 5(第 2 班 2 回目) **15.** 発表 6(第 3 班 2 回目)・総括

【成績評価】 前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．後半は，毎回の授業での発表および期末レポートで総合評価する．

【再試験】 無し

【教科書】 無し

【参考書】 無し

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218520

【連絡先】

⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:10-12:40)
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

眞弓 浩三・教授/社会創生学科, 平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．基礎ゼミ I で培った課題解決に向けての初歩的なスキルをさらに発展させ，他者に対して自らの考えを論理的に説明したり，議論できる能力を培う．

【授業概要】 前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ． 課題解決能力の習得

【キーワード】資料の収集および分析能力，問題解決能力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力

【履修上の注意】毎回の出席を原則とする．
【到達目標】課題解決能力の習得
【授業計画】**1.** 1．キャリアプラン体験講座 (1．考え方) **2.** 2．キャリアプラン体験講座 (2．事例紹介) **3.** 3．適性把握演習 (性格・言語) **4.** 4．適性把握演習 (計数・総合) **5.** 5．自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 6．各業種・職種のコンピテンシー **7.** 7．Web 版ポートフォリオの設定
【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．報告内容および議論への参加状況
【再試験】行わない．
【教科書】未定
【参考書】未定
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218521
【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II)　2 単位 (必修)

1 年 (後期)

上原 克之・准教授/社会創生学科，平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】基礎ゼミ I で培った課題解決に向けての初歩的なスキルをさらに発展させ，他者に対して自らの考えを論理的に説明したり，議論できる能力を培う．将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．
【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じ て学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次い で適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で 要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目 を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大 学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成 するために何をすべきかを学ぶ．担当者が設定した平等・公平などの社会正義に関する問題について，自分の考えをまとめ，他の参加者と討論する．
【キーワード】**資料の収集および分析能力，問題解決能力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力**
【先行科目】『基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I)』(1.0, ⇒2 頁)
【履修上の注意】毎回の出席を原則とする．
【到達目標】課題解決能力の習得
【授業計画】1．キャリアプラン体験講座 (1. 考え方)2．キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) 3．適性把握演習 (性格・言語)4．適性把握演習 (計数・総合)5．自らのキャリア プラン・ライフプランを考える． 6．各業種・職種のコンピテンシー 7．Web 版ポー トフォリオの設定 8．~ 15．担当者の設定した課題についての報告および参加者による討論
【成績評価】報告内容および議論への参加状況 報告に対する討論の内容を踏まえてレポートを作成する
【再試験】行わない．
【教科書】未定
【参考書】未定
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218522
【連絡先】
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日12:00~12:50)
【備考】参加者は，討論に積極的に参加する意欲をもって臨んでもらいたい．

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II)　2 単位 (必修)

1 年 (後期)

河原崎 貴光・准教授/社会創生学科，平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な 視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握 演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念 を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．
【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じ て学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次い で適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で 要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目 を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大 学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成 するために何をすべきかを学ぶ．
【履修上の注意】積極的に取り組み，主体的に行動するのが基礎ゼミです．
【到達目標】誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動 を始める．
【授業計画】**1.** キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリア プラン・ライフプランを考える． **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポー トフォリオの設定 **8.** 芸術表現と関連させた各自の研究プレゼンテーション 1 **9.** 芸術表現と関連させた各自の研究プレゼンテーション 2 **10.** 芸術表現と関連させた各自の研究プレゼンテーション 3 **11.** 芸術表現と関連させた各自の研究プレゼンテーション 4 **12.** 芸術表現と関連させた各自の研究プレゼンテーション 5 **13.** 芸術表現と関連させた各自の研究プレゼンテーション 6 **14.** 芸術表現と関連させた各自の研究プレゼンテーション 7 **15.** 芸術表現と関連させた各自の研究プレゼンテーション 8 **16.** 総括
【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア 学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．
【再試験】なし．
【教科書】特に指定しない．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218523
【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II)　2 単位 (必修)

1 年 (後期)

樋口 直人・准教授/社会創生学科，平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．
【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ．
【キーワード】**課題設定，身体情報，プレゼンテーション**
【履修上の注意】全体で行なう時間と樋口が個別に行なう時間に分けられる．そのうち，個別に行なう時間では，上勝町にある棚田の保全活動を行なう．棚田は貴重な景観として文化遺産でもあるが，全国各地で荒廃が進み，危機的な状況にある．この保全を行なうことで，社会的な活動をする意味を考え，なおかつ高校までで失われた自発性，積極的に体を動かすことを取り戻したい．そのため，全 15 回のうち 4 回分は，上勝町に行く活動に費やされる．11 月か 12 月の週末の一日をとるので，その日に参加可能な人だけ受講されたい．
【授業計画】**1.** キャリアプラン体験講座 (1．考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2．事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 社会と関わるとは **9.** 地域社会に目を向ける **10.** 景観保存とその舞台裏 **11.** 棚田を考える **12.** 棚田保存の実地研修 **13.** 棚田保存の実地研修 **14.** 棚田保存の実地研修 **15.** 棚田保存の実地研修 **16.** 筆記試験として，各個人毎にレポート作成
【成績評価】毎回の授業の中での取り組みと最後に作成するレポートで総合評価を行う．
【再試験】再試験はしない．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218524
【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II)　2 単位 (必修)

1 年 (後期)

佐藤 征弥・准教授/社会創生学科，平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．授業の前半では，キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う． 授業の後半は，受講生によるプレゼンテーションやスピーチや討論を行い，それを通じて，分かりやすくしゃべる，堂々としゃべるといった基本能力を身につける．その上で，他人に好印象を与えつつ「自分らしい意見や話し方」とはどういうものかを見いだしていく．

【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー(企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将社会問題や科学技術のトピックをテーマとして扱ったプレゼンテーションや討論，フリートーキングを通じて，他人に自分を印象づけるためにどのようにすれば良いのか (態度，話術，資料づくり) のノウハウを学ぶ．受講者同士は，お世辞でも良いので，とにかくお互いを誉めあうことをルールとし，気持ちよく発表能力，討論の力，コミュニケーション能力を向上させる．

【到達目標】誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．また，コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させ，自信を持つ．

【授業計画】1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 以降，小クラスのゼミナール形式となります．毎回，各自 2-3 分のスピーチの時間を設けます．また，それとは別に毎回 2-3 人ずつ，あるテーマに関するプレゼンテーションを約 20 分ずつ行ない，それを元に全体で討論や評価を行ないます． **9.** 〃 **10.** 〃 **11.** 〃 **12.** 〃 **13.** 〃 **14.** 〃 **15.** 〃 **16.** 総括授業

【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．後半は，プレゼンやスピーチの能力，そしてどれだけ他人を上手に褒めることができたかで評価する．

【再試験】行なわない

【教科書】使用しない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218525

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

松尾 義則 · 教授 / 社会創生学科，平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】1. 将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う． 2. レポート作成能力．コミュニケーションとプレゼンテーション能力を身につける．

【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー(企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ． 学生が興味ある事項やこちらから用意した話題について，自分で調べ，理解し，レポートにまとめる．その結果を他の学生にプレゼンテーションし，ディスカッションをおこなう．

【キーワード】レポート作成，プレゼンテーション，コミュニケーション

【到達目標】

1. 誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．
2. 話題について自分で調べ，まとめることと，その結果をプレゼンテーションしたり，討論したりできるようになる．
3. 本講義では，日本語の論理的文章を書くことができる能力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を養成することを目的としています．
4. 本講義では，課題解決・探求型学習を導入しています．

【授業計画】1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 自己紹介と興味あることについて議論 **9.** 学生の興味ある事項を話題にし，みんながどのように考えているか意見を聞く．1 **10.** 学生の興味ある事項を話題にし，みんながどのように考えているか意見を聞く．2 **11.** 学生の興味ある事項を話題にし，みんながどのように考えているか意見を聞く．3 **12.** 話題になった項目について詳しく調べてレポートを作成する．1 **13.** 話題になった項目について詳しく調べてレポートを作成する．2 **14.** 作成したレポートを紹介する．1 **15.** 作成したレポートを紹介する．2 **16.** 総括

【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる． 後半は出席状況と授業への積極性，レポートの内容，プレゼンテーション内容を総合して判断する．

【再試験】再評価はしない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218526

【連絡先】

⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもOK)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

守安 一峰 · 教授 / 総合理数学科，平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な 視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握 演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念 を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．

【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じ て学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次い で適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー (企業等で 要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目 を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 小クラスに分かれた後半部分では，能力開発を目的としたゲームや簡単な数学の問題などを通じて，自発的に考え，議論していくことを身につけます．

【キーワード】課題解決・探求型学習

【履修上の注意】積極的に取り組み，主体的に行動するのが基礎ゼミです．課題設定はロールプレイ・ゲームソフトの設計のようなものと見なせます．楽しんでください．

【到達目標】

1. 誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動 を始める．
2. 論理的な考え方や説明ができるようになる
3. 自主的・主体的な学習活動を行えるようになる

【授業計画】1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** ゲーム&討論 1 **9.** ゲーム&討論 2 **10.** 数理的な問題の考察 1 **11.** 数理的な問題の考察 2 **12.** 数理的な問題の考察 3 **13.** 大学で学ぶ数学 1 **14.** 大学で学ぶ数学 2 **15.** 総括授業

【成績評価】 出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．

【再試験】なし．

【教科書】特に指定しない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218527

【連絡先】

⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 2 単位 (必修)

1 年 (後期)

伊藤 正幸 · 教授 / 総合理数学科，平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．

【授業概要】前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考え

る．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー(企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ． 課題の設定，情報の収集，知識の構築，発表

【キーワード】課題解決・探求型学習，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力，キャリアプランニング，自己開発

【履修上の注意】前半部分と後半部分は授業形態や内容に差がありますが，前半部分でとらえた将来の自分の視点に立って，学部学科で主体的に学ぶための方々に関し後半部分で課題設定とその取り組み方について学ぶ．

【到達目標】 誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．課題解決・探求型学習の授業で，コミュニケーション能力，知識の整理，プレゼンテーション能力の向上を目指す．

【授業計画】1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 後半のガイダンスとテーマに関するグループミーティング **9.** 個々人の状況設定と課題設定 (問題意識と動機の設定) **10.** 情報収集 **11.** 問題点の整理と，情報収集 **12.** 課題解決の構築 **13.** 発表準備 **14.** PowerPoint を使用した発表 I **15.** 発表会 II と課題解決に対する評価 **16.** 総括授業

【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．後半部分のゼミに対する取り組み状況，発表態度と合わせ 総合的に評価する

【再試験】なし．

【教科書】特に指定しない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218528

【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220，088-656-7219，mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. (前期)火曜日12:00-12:45 ，(後期)火曜日16:30-17:30 2. 月曜日 16:30-17:30)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II)

2 単位 (必修)
1 年 (後期)

中山 信太郎 · 教授 / 総合理数学科，平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．

【授業概要】 前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー(企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ．

【キーワード】テーマの設定，質問力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力

【履修上の注意】出席は必須である．さらに，出席しているだけでは意味がない．積極的に発言し，議論をすることが重要である． また，議論と口ゲンカとは大いに異なることをよく認識すること．

【到達目標】誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．

【授業計画】1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 就職と仕事:どちらも動機付けが大事 **9.** 自分さがしとキャリアプラン **10.** 先輩の仕事観を読んで **11.** 先輩の仕事観から学ぶ **12.** 総合科学部で学べること **13.** キャリアプラン作成 **14.** プレゼンテーションの事前指導 **15.** 最終報告会 (プレゼンテーションによる) **16.** 総括

【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容やキャリアプランのプレゼンテーション についても成績評価の対象となる．

【再試験】出席点不足の場合は再評価なし． 報告および中間報告，最終報告が不足の場合は再度提出または発表していただく．

【教科書】随時指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218529

【連絡先】

⇒ 中山 (1N02，0886567236，nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月 ~ 金 17:30~ 18:00)

キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II)

2 単位 (必修)
1 年 (後期)

増田 俊哉 · 教授 / 社会創生学科，中村 光裕 · 講師 / 総合理数学科
平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】将来の社会的・職業的自立を目指し，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点・展望持つために必要な素養と社会的能力を養う．キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに，学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う．

【授業概要】 前半のキャリアプランニング部分は，学部合同で講義される．キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える．必要に応じてレポートが課せられる．次いで適性検査にもとづき，自らの適性を性格，言語，係数，総合の観点から診断・把握する．それらをもとに自らキャリアプランを作成する．さらにコンピテンシー(企業等で要求される能力・行動特性) について学ぶとともに，各自が必要なコンピテンシー項目を選定し，Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する． 後半部分は，小クラスに分かれ，ゼミナール形式で遂行される．将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し，学科の理念を理解し，自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ．

【キーワード】化学，化学工学，生物化学

【先行科目】『基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I)』(1.0，⇒5 頁)

【到達目標】

1. 誰もが将来，社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し，そのための行動を始める．
2. 大学における自学・自習とレポートの作成，発表プレゼンテーションという流れを実感し，4 年間の大学生活の流れを理解する

【授業計画】1. キャリアプラン体験講座 (1. 考え方) **2.** キャリアプラン体験講座 (2. 事例紹介) **3.** 適性把握演習 (性格・言語) **4.** 適性把握演習 (計数・総合) **5.** 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える． **6.** 各業種・職種のコンピテンシー **7.** Web 版ポートフォリオの設定 **8.** 授業の趣旨説明． **9.** 産業と化学 (1)． **10.** 産業と化学 (2)． **11.** 徳島の産業を調べる． **12.** 徳島の産業に関する発表 (1) **13.** 徳島の産業に関する発表 (2) **14.** 徳島の産業に関する発表 (3) **15.** まとめ **16.** 総括授業

【成績評価】前半 7 回は，出席や (レポートの提出状況など) 受講態度による．また，Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる．後半は，出席 40%，発表 40%，レポート 20%．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218530

【連絡先】

⇒ 増田 (2N01，088-656-7244，masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中村 (2N02，088-656-7246，mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】授業計画の内容についても，受講者との相談の上，そのつど変更することもあります．

大学と社会

2 単位 (選択必修 (A)) 1 年 (前期)

葭森 健介 · 教授 / 人間文化学科，中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科
石川 榮作 · 教授 / 人間文化学科，大渕 朗 · 教授 / 総合理数学科
中川 秀幸 · 教授 / 社会創生学科，田中 徳一 · 特任講師
平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】大学ならびに総合科学部を取巻く今日の社会環境，および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し，初年次学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに，将来の就職について考える上で必要な素養と能力を養う．また web 版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する．

【授業概要】今年度は以下の 3 点を主題とする． ①総合科学部とはどんな学部か? 総合科学部教員により授業ガイダンスおよび大学・学部・学習方法について講義する．それによって，総合科学部の置かれている位置を理解し，総合科学部でどの様に学んだらよいのかをも考えてもらう．②キャリアデザイン GP 特任教授により社会人基礎力，キャリアデザインや Web 版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法に関する説明がある．③大学生から社会人になるということ 学部教員および非常勤講師等がそれぞれの立場から，適宜，企業・社会等において求められる人間像について講義を行いエンプロイアビリティを高めるということについて学習してもらう．また受講者はそれを踏まえて自らのキャリアデザイン・ライフプランを作成する．最終回ま

でに授業で習った基本的な事に関するレポートが二回ないし三回ほど課せられる予定である．なお各自の学習内容の要点および課題レポート等を Web 版キャリア学習ポートフォリオに記入する練習も適宜課せられることになる．

【キーワード】大学，総合科学，地域社会，キャリアデザイン，社会人，ポートフォリオ，職業

【履修上の注意】各講師の授業には全て参加し，レポートを提出すること．討論・発表への自発的参加が重要である．詳細な授業計画等はホームページに掲載する予定．

【到達目標】大学の現実と課題を各自が理解し，大学における真摯な学び (広い教養と専門的力の養成) の重要性を自覚し，今後 4 年間の学習計画を立てる．

【授業計画】1. 授業の進め方について < 大渕 >(4 月 13 日) **2.** 総合科学部で何を学ぶ総合科学部の長所・短所 < 葭森 >(4 月 20 日) **3.** 大学と地域社会のコラボレーション < 中嶋 >(4 月 27 日) **4.** 高校と大学での学びの違い-高校の勉強と総合科学部での学び < 卒業生:中川 >(5 月 11 日) **5.** 読書と人生 < 石川 >(5 月 18 日) **6.** レポートの書き方，評価のされ方およびネットの使い方について < 葭森・大渕 >(5 月 25 日) **7.** 総合科学部から社会へ大学生から社会人になるということ < 中川秀幸 >(6 月 1 日) **8.** 大学におけるキャリア教育と「巣立ちプログラム」< 平井 >(6 月 8 日) **9.** Web ポートフォリオの利用方法 < 田中 >(6 月 15 日) **10.** 求められる社会人基礎力 < 田中 >(6 月 22 日) **11.** ビジネスコミュニケーション < 山野明美 >(6 月 29 日) **12.** ネットワークと大学 < 卒業生:森本哲史 >(7 月 6 日) **13.** 地域産業と職業 < 田村耕一 >(7 月 13 日) **14.** 大学と企業 次代の若者へ (植田貴世子)(7 月 20 日) **15.** 全体のまとめ (総括授業に当たる)

【成績評価】評価は討論の参加度合い，レポートにより行う．出席状況については，授業時の点呼や Web 版ポートフォリオのショートレポート (200 字程度) で確認する．

【教科書】各講師よりその都度提示された書籍等は自発的に読んでレポートにまとめることが望ましい．

【参考書】授業中に配布

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218769

【連絡先】

⇒ 葭森 (アジア史研究室，088-656-7156，yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:30-13:30)
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:00-16:00)
⇒ 石川 (088-656-7142，ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15:00-16:00)
⇒ 大渕 (088-656-7297，ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 11:50-12:50)
⇒ 中川 (3222，088-656-7259，sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日15:00-16:00(随時受け付ける))
⇒ 田中 (t.tanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:00~ 13:00)

【備考】◇ 講義では適宜討論をはさみます．また，講師の講演順が替わることがあります． ◇ 汎用的技能修得科目の項目について ◇1. 日本語の論理的文章を理解できる能力 ◇2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力 ◇3. コミュニケーション能力 ◇4. プレゼンテーション能力 ◇5. 情報リテラシー

科学と人間

2 単位 (選択必修 (A)) 1 年 (前期)

小山 晋之・教授/総合理数学科，三好 徳和・教授/総合理数学科
桑原 恵・教授/人間文化学科，山口 裕之・准教授/人間文化学科
今井 晋哉・准教授/人間文化学科，内海 千種・講師/人間文化学科
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】現代社会において科学技術と付き合っていくために必要な，多面的な思考方法を学ぶ．

【授業概要】「科学は客観的で価値中立的である」という通俗的な見方がある．たしかに，ある観点から自然を理解しようとするとき，科学的方法は客観的な指針を示してくれる．しかし，科学の前提となる観点自身の是非については，通常の場合，科学はそれを評価することができない．この授業では，科学を導くそうした「前提」の部分を問い直していきたい．そうすることで，科学に過剰に期待することなく，また逆に科学を軽視するのでもなく，妥当な評価を下すことができるであろう．その上ではじめて，科学的な思考法そのものを身に付けることもできる． 講義では，優生思想，エセ科学，自然保護などのトピックを取り上げる．たとえば優生思想は，「優れたもの」を増やし「劣ったもの」を絶やすことで社会を改良しようとする観点から作り出された．これは一概に「悪の思想」と言い切れるだろうか．また，昨今「自然保護」が叫ばれるが，保護すべき「自然」とは，具体的には一体何なのか．「自然」概念の中に，抜きがたく人間的な観点が入り込んでいるのではないか．科学について批判的・反省的な視点から学びなおすことで，「エセ科学」にだまされない思考力，さらには科学とエセ科学の境界についても考えてもらいたい． 講義は「優生思想: 自分の中の差別意識」，「エセ科学:あなたもだまされています」，「環境問題:「自然」とは何か?」の三セクションに分かれ，それぞれのセクション終了時に総括を行う． 毎回，講義を受けての学生のコメントを収集し，主だったものについて翌週に回答することで，受講する学生の全員が授業に参加できるようにする．また，毎回，マークシートを利用した小テストを行い，成績評価に利用する． 授業で使用したファイルや資料はウェブページに掲示するので復習などに利用すること．ウェブページには自宅学習を支援するための「クイズコーナー」なども設置する予定． また，ウェブに掲示板を設け，連絡事項などを掲示するので，毎週確認すること．また，質問などがあれば利用すること． 授業ウェブサイト URL http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html

【キーワード】優生学，生命倫理，エセ科学，環境

【履修上の注意】レポートや授業への質問などは原則的にメールを使って提出してもらいます．メールやパソコンの使い方などが分からない学生はオフィスアワーなどを活用して早めに習得すること．

【到達目標】

1. この授業では，「情報リテラシー」を身につけることを目標とします．
2. また，「日本語で論理的文章を書く能力」の基礎を身につけることを目標とします．

【授業計画】1. 担当教員紹介・授業の進め方の説明・導入講義 (山口) **2.** 優生学とナチスの犯罪 (今井) **3.** 「優生学＝ナチス」か?(今井) **4.** 遺伝子操作と生殖補助技術 (渡部) **5.** 「新優生学」の流行 (山口) **6.** 第一セッションのパネルディスカッション **7.** 誤解と誤信の心理学 (内海) **8.** 科学とエセ科学のあいだ (小山) **9.** 江戸のエセ科学 (桑原) **10.** 第二セッション総括・レポートの課題発表・レポートの書き方講座 (山口) **11.** ゴミとリサイクルの虚実 (三好) **12.** 江戸時代の「自然」概念 (桑原) **13.** 「自然」とは何か (山口) **14.** 第三セッションのパネルディスカッション **15.** レポートの解説，総括アンケート，授業評価アンケート，学部共通科目アンケート

【成績評価】授業へのコメント，レポート，小テスト，授業への取り組みやディスカッションでの発言などによって総合的に評価する．配分は，メールでのコメント 10%，レポート 20%，小テスト 70%．ボーナス加点として，ディスカッションでの発言は一回 2 点，よいメールコメント 1 回 1 点 (最高 7 点まで)．「授業への取り組み」の評価として，無断欠席や遅刻，授業中の内職・居眠りなどは減点対象．基準として，授業中の悪質な態度 (内職・ゲーム・携帯メールなど) は減点 5，遅刻は-2，居眠りは-1．3 分の 1 以上の欠席は不可 (再履修)

【再試験】行わない

【教科書】特になし．

【参考書】ウェブページを通じて紹介・配布します．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218478

【連絡先】

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07，088-656-7233，koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日・木曜日の昼休み)
⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 桑原 (088-656-7157，megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 今井 (1319，088-656-7139，shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜16:30~ 18:00)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03，088-656-7250，miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで)，088-656-7615，yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)
⇒ 渡部 (088-656-7253，minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康と福祉

2 単位 (選択必修 (A)) 1 年 (後期)

中村 久子・教授/人間文化学科，小原 繁・教授/人間文化学科
荒木 秀夫・教授/人間文化学科，境 泉洋・准教授/人間文化学科
福森 崇貴・准教授/人間文化学科，原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】心と身体の健康と福祉について，基本的な知識・情報を得ると共に，現代社会と関連するそれらの諸問題を知り，考え，それらのメカニズムと解決策を見い出すことを目的とする．

【授業概要】現代社会における「健康と福祉」に関連する諸問題を知り，その解決策を考える．

【キーワード】健康，福祉，環境，心身健康

【履修上の注意】さまざまな問題に関心を持ち，積極的な姿勢で授業に臨むことを期待する．

【到達目標】

1. 人間科学に関わる幅広い知識の理解; 現代社会における「健康と福祉」に関連する諸問題を知る．
2. 地域社会で活躍する能力の育成; それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る．
3. 地域社会の生活環境の創造への貢献; 自らの問題と捉え，対応法を模索する．

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 脳と行動 (荒木) **3.** 身心相関 (荒木) **4.** 個人における健康づくり (小原) **5.** 健康づくりと行政の役割 (小原) **6.** 心-身-社会のつながり (福森) **7.** ストレスへの対処 (福森)

8. 不登校 (境) **9.** ひきこもり (境) **10.** コミュニケーションについて I(原) **11.** コミュニケーションについて II(原) **12.** ジェンダーについて (中村) **13.** 体力とジェンダー (中村) **14.** DV について-デート DV(瀬部) **15.** DV について-女性支援について (瀬部)

【成績評価】出席点，レポートおよび講義への参加姿勢によって総合的に評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】参考文献，資料等，各教員から適宜提示，配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218563

【連絡先】
- ⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)
- ⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】講義の順序は都合により変更されることがあります．それは第 1 回目の講義の時にお知らせします．

情報処理の基礎 I

2 単位 (選択必修 (B)) 1 年 (後期)

豊田 哲也・准教授/社会創生学科，矢部 拓也・准教授/社会創生学科
真岸 孝一・准教授/総合理数学科，小野 公輔・准教授/総合理数学科
佐藤 充宏・教授/人間文化学科，村上 公一・准教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科，佐藤 高則・准教授/社会創生学科
行實 鉄平・講師/人間文化学科，掛井 秀一・准教授/社会創生学科
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】客観的なデータに基づく検証は科学における認識の基礎である．本授業では，統計データを扱うための基本的な知識と技術を身につける．①表計算ソフト Excel の基本操作を習得する．②データの尺度や性質とそれにふさわしい基本統計量を理解する．③標準化や相関関係などデータ分析の基本を学ぶ．

【授業概要】Excel を使った統計分析入門

【キーワード】情報処理，統計学，*Microsoft Excel*

【関連科目】『情報処理の基礎 II』(0.5, ⇒14 頁)

【履修上の注意】受講者は前提として Windows 操作の基礎知識をすでに獲得していることが求められる．授業は講義と実習を組み合わせておこない，各回の内容に応じた課題を課す．なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある．

【到達目標】データの整理・分析に必要な知識，技術を学ぶ．またデータ分析のためのソフトウェアを使いこなせるようになる．

【授業計画】1. ガイダンス:データの見方，考え方 **2.** データの尺度と比率 (1):質的データと量的データ，静的比率と動的比率 **3.** データの尺度と比率 (2):比率の計算，表の作成 **4.** グラフの種類と表現 (1):グラフの特性と読み方 **5.** グラフの種類と表現 (2): データ加工とグラフの作成 **6.** 集計表の作成 (1):データベースの形式，単純集計とクロス集計 **7.** 集計表の作成 (2):質的データと因果関係，媒介関係とコントロール変数 **8.** ヒストグラムと代表値 (1):度数分布表の作成 ，累積相対度数 **9.** ヒストグラムと代表値 (2):平均値，中央値，最頻値 **10.** データの散らばり (1):分散，標準偏差，四分位値，尖度，歪度 **11.** データの散らばり (2):正規分布，データの標準化 **12.** 2 変数間の関係 (1):散布図と相関係数，因果関係と疑似相関 **13.** 2 変数間の関係 (2):回帰分析と最小二乗法，決定係数，残差 **14.** 推測統計学への道 (1):母集団と標本 **15.** 推測統計学への道 (2):統計的推定と検定 **16.** 授業のまとめ

【成績評価】課題の評価に授業に対する取組を加味して評価する．

【再試験】おこなわない

【教科書】なし．各回の授業時にプリントを配布する．参考資料は授業時に指示する．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/excel/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218711

【連絡先】
- ⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)
- ⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))
- ⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
- ⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)
- ⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 5·6 時限)
- ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】社会創生学科地域創生コースで取得可能な社会調査士資格のためのカリキュラム「基本的な資料とデータの分析に関する科目」(必修) に該当する．

情報処理の基礎 II

2 単位 (選択必修 (B)) 1 年 (後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科，掛井 秀一・准教授/社会創生学科
齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科，中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】問題解決やアルゴリズムの基礎を学び，初歩的なプログラミング能力を習得し，コンピュータを自分の意図した処理を実行する道具として使えるようになる．

【授業概要】初習者向けプログラミング超入門

【キーワード】プログラミング，コンテンツ，情報リテラシー

【関連科目】『情報処理の基礎 I』(0.5, ⇒14 頁)，『情報創生プロジェクト』(0.5, ⇒118 頁)

【履修上の注意】授業は講義と実習を組み合わせて行う．

【到達目標】簡易なプログラミング言語である VisualBasic などを用いて受講者自身がコンピュータ上でマルチメディアコンテンツなどを自力で作成できるようになり，基礎的な情報リテラシーを身につけ，プログラミングは楽しいと感じられるようになることを目標とする．

【授業計画】1. ガイダンス，Visual Basic によるプログラム作成の流れ **2.** 最初のプログラム **3.** 文字の入力，数値の入力と計算 **4.** パブリック変数，数値の表示 **5.** 条件の判断処理 (2 方向分岐) **6.** 条件の判断処理 (多方向分岐) **7.** 変数の配列，繰り返し処理 (For 文) **8.** 繰り返し処理 (Do 文) **9.** ファイルの操作 **10.** アルゴリズム **11.** タイマー，アイコン **12.** 選択処理 **13.** プログラミングの応用 (1) **14.** プログラミングの応用 (2) **15.** プログラミングの応用 (3)

【成績評価】授業中に課される課題による評価．

【再試験】実施せず．

【教科書】なし

【参考書】「新訂版 Visual Basic 標準テキスト-図解・例解」安藤明之，工学図書

【WEB 頁】https://lms.medsci.tokushima-u.ac.jp/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218716

【連絡先】
- ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜5・6)
- ⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08, 088-656-7232, saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)
- ⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

国際交流・協力体験

2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)

饗場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】国際交流，国際協力をめぐる意義や問題を座学と現場体験を通して学び，自らも関わる意欲を醸成する．

【授業概要】授業では国際交流・国際協力を現場で実践している専門家から具体的な話を聞ききつ，ワークショップや討論も通して基本的な知識を習得する．また学外で実際に自ら国際交流，国際協力の活動に直接関わってみて，体験学習を行う．

【キーワード】国際，交流，協力，実践

【履修上の注意】初回の授業のみ，日時，教室が変更になるので，学務係の掲示を確認すること．

【到達目標】1. 国際交流，国際協力について基本的な知識を得る．2. 社会性をつける．3. 積極的な行動力をつける．4. コミュニケーション力をつける．5. プレゼンテーション力・発信力をつける．

【授業計画】1. イントロダクション・基礎講座 **2.** 徳島における国際交流 **3.** 世界の貧困をめぐる実際と支援 (アフリカ) **4.** 世界の貧困をめぐる実際と支援 (アジア) **5.** 世界の貧困をめぐる実際と支援 (中国) **6.** 世界の紛争をめぐる実際と支援 (アフガニスタン) **7.** 世界の紛争をめぐる実際と支援 (カンボジア) **8.** 世界の紛争をめぐる実際と支援 (難民) **9.** 国際連合による支援と課題 **10.** 民間企業による支援と課題 **11.** 国際協力機構 (JICA) による支援と課題 **12.** ワークショップ・討論 その 1 **13.** ワークショップ・討論 その 2 **14.** ワークショップ・討論 その 3 **15.** 体験報告会 **16.** 総括と補足

【成績評価】期末レポート (50%) と平常点 (50%)．平常点の要素は授業の出席と，ワークショップ・討論での取り組み方，体験報告のプレゼンテーション．

【再試験】なし
【教科書】なし
【参考書】授業中，適宜配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218611
【連絡先】
⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30，金曜日14:30~ 16:00．この時間以外でも研究室に在室の際はいつでも可．)
【備考】少人数形式の授業であるため，受講者の上限がおよそ 30 人となる．超過する場合は成績などで選抜することがある．

インターンシップ I / Internship1

1 単位 (選択必修 (B)) 3 年 (前期)
石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】キャリア形成に対する意識を高め，卒業後の進路や人生設計のビジョンを明確化し，在学中に自らが獲得すべき知識や技術を理解する．
【授業概要】この講義は，すべて外部講師による講演によって行われる．さまざまな分野で活躍する社会人，あるいはビジネス・マナーの専門家による講義を行うことにより，学生諸君の就職活動に直接役立つ知識や技術を提供する．
【関連科目】『インターンシップ II』(0.5, ⇒15 頁)
【履修上の注意】下記の講義計画は参考のための例示である．テーマに大きな変更はないが，日程等は担当講師の都合により，変更がありうる．この講義は，全 8 回 (+レポートの提出) で 1 単位である．インターンシップ II を受講するためには，この講義の履修が必要である．
【到達目標】キャリア形成に対する意識を高める．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** ビジネス・マナー① **3.** ビジネス・マナー② **4.** ビジネス・マナー③ **5.** 公務員の仕事 **6.** 銀行の仕事 **7.** 教員の仕事 **8.** 出版の仕事
【成績評価】授業への取組み (30%)，レポート (70%)
【再試験】無
【教科書】無
【参考書】講義中に配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218361

インターンシップ II / Internship2

1 単位 (選択必修 (B)) 3 年 (前期，集中)
石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】企業における職業体験を通じて，働くことに対する具体的なイメージをつかむ．
【授業概要】あらかじめ決められたリストの中から希望する企業を選択して，夏季休暇中に，2 週間程度の職業体験を実施する．体験する内容や日程等の具体的内容は，企業によって異なる．
【先行科目】『インターンシップ I』(1.0, ⇒15 頁)
【履修上の注意】①この実習に登録するためには，インターンシップ (講義) の単位をすでに取得しているか，あるいは現在履修中であることが必要である．②受入れ先企業のリストが判明するのは，6 月頃の予定である．昨年度までのリストは，学務係にて閲覧可能．
【到達目標】キャリア形成に対する意識を高める．
【成績評価】実習終了後に提出する報告書 (50%) および受入れ先企業からの評価 (50%) による．報告書の提出がない場合には，たとえ実習を完了していたとしても，単位を与えない．
【再試験】無
【教科書】無
【参考書】無
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218362

基礎英語講読 I

2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)
三浦 哉 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】現代社会において，英語は国際的な共通語という役割をもっており，英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている．いまや異文化を理解するだけでなく，自国の文化を外国に発信する場合も，英語の能力は重要となっている．人文科学や社会科学分野の英語文献を読み，英語の文章を読む力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す．基礎外国語基礎演習 (英語)I・II で習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて，英語の文章を読む力を養う．
【授業概要】人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み，英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につける．具体的には，健康，医療，スポーツ科学に関連する英語文献，英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う．英語文献を通じて健康科学，スポーツ科学などを広く学び，現代社会のさまざまな知識，考え方を学ぶと共に，専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける．
【キーワード】**英語，講読，読解力**
【関連科目】『実用外国語基礎演習 I(英語)』(0.5, ⇒17 頁)，『実用外国語基礎演習 II(英語)』(0.5, ⇒19 頁)，『基礎英語講読 II』(0.5, ⇒16 頁)
【履修上の注意】分野ごとにクラスを分けるので，自分の興味のある分野を選ぶこと．
【到達目標】広く英語の文章に親しみ，辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す．また多読，精読なども行い，語彙力をつけることも目指す．
【授業計画】**1.** 体力に関連する最新トピック I **2.** 体力に関連する最新トピック II **3.** 体力に関連する最新トピック III **4.** 生活習慣病に関連する最新トピック I **5.** 生活習慣病に関連する最新トピック II **6.** 生活習慣病に関連する最新トピック III **7.** 生活習慣病に関連する最新トピック IV **8.** 認知機能に関連する最新トピック I **9.** 認知機能に関連する最新トピック II **10.** 認知機能に関連する最新トピック III **11.** 健康づくりに関連する最新トピック I **12.** 健康づくりに関連する最新トピック II **13.** 健康づくりに関連する最新トピック III **14.** 介護予防に関連する最新トピック I **15.** 介護予防に関連する最新トピック II **16.** 試験
【成績評価】授業への取り組み，訳読，討論，レポートなどを総合的に評価する．
【再試験】無
【教科書】その都度資料を配付する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218493
【連絡先】
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎英語講読 I

2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)
水島 多喜男 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】中東関係の代表的経済誌 (MEED) の記事の読解
【授業概要】Translation from English to Japanese, about the allocated part in advance of specified articles
【キーワード】**中東，経済**
【履修上の注意】Emphasis on attendance, and official language is English.
【到達目標】Understanding foreign economy and civil life through foreign magazine
【授業計画】About 10 students take charge during 1 lesson.
【成績評価】Extent of efforts in class
【再試験】no permitted
【教科書】MEED (Middle East Economic Digest)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219997
【連絡先】
⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業後)

基礎英語講読 I

2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)
栗栖 聡 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】現代社会において，英語は国際的な共通語という役割をもっており，英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている．いまや異文化を理解するだけでなく，自国の文化を外国に発信する場合も，英語の能力は重要となっている．人文科学や社会科学分野の英語文献を読み，英語の文章を読む力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す．基礎外国語基礎演習 (英語)I・II で習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて，英語の文章を読む力を養う．
【授業概要】人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み，英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につける．具体的には，スポーツ科学，国際経済学，環境政治学，哲学思想，現代日本文学，社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う．英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び，現代社会のさまざまな知識，考え方を学ぶと共に，専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける．
【到達目標】広く英語の文章に親しみ，辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す．また多読，精読なども行い，語彙力をつけることも目指す．
【授業計画】**1.** 英文テキスト講読 **2.** 英文テキスト講読 **3.** 英文テキスト講読 **4.** 英文テキスト講読 **5.** 英文テキスト講読 **6.** 英文テキスト講読 **7.** 英文テキスト講読 **8.** 英文テキスト講読 **9.** 英文テキスト講読 **10.** 英文テキスト講読 **11.** 英文テキスト講読 **12.** 英文テキスト講読 **13.** 英文テキスト講読 **14.** 英文テキスト講読 **15.** 試験 **16.** 総括授業

【成績評価】受講状況及び試験
【教科書】英文テキスト (題名未定)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219998
【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎英語講読 I

2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科

【授業目的】現代社会において，英語は国際的な共通語という役割をもっており，英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている．いまや異文化を理解するだけでなく，自国の文化を外国に発信する場合も，英語の能力は重要となっている．人文科学や社会科学分野の英語文献を読み，英語の文章を読む力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す．実用外国語基礎演習 (英語)I・II で習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて，英語の文章を読む力を養う．
【授業概要】人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み，英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につける．具体的には，スポーツ科学，国際経済学，環境政治学，哲学思想，日本史，社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う．英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び，現代社会のさまざまな知識，考え方を学ぶと共に，専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける．
【キーワード】英語読解力
【到達目標】この授業では，外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけることを目的とする．広く英語の文章に親しみ，辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す．また多読，精読なども行い，語彙力をつけることも目指す．
【授業計画】哲学思想分野の英語文献・資料を読む．広い意味での環境思想や環境倫理に関する英語文献を読み，環境思想や環境倫理についての知識を身につける．今年度使用するテキストは，Richard Evanoff, Thinking about the Environment, Macmillan Languagehouse, 1996 である．
【成績評価】授業への取り組み，訳読，討論，レポートなどを総合的に評価する．
【再試験】なし
【教科書】なし
【参考書】その都度資料を配付する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219999
【連絡先】
⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 14時~ 15時)

基礎英語講読 I

2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)
衣川 仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】現代社会において，英語は国際的な共通語という役割をもっており，英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている．いまや異文化を理解するだけでなく，自国の文化を外国に発信する場合も，英語の能力は重要となっている．人文科学や社会科学分野の英語文献を読み，英語の文章を読む力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す．基礎外国語基礎演習 (英語)I・II で習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて，英語の文章を読む力を養う．
【授業概要】人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み，英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につける．具体的には，スポーツ科学，国際経済学，環境政治学，哲学思想，現代日本文学，社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う．英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び，現代社会のさまざまな知識，考え方を学ぶと共に，専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける．
【キーワード】英語，講読，読解力
【関連科目】『実用外国語基礎演習 I(英語)』(0.5, ⇒17 頁)
【到達目標】広く英語の文章に親しみ，辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す．また多読，精読なども行い，語彙力をつけることも目指す．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 日本史・日本文化に関する基礎知識を学ぶ **3.** 英語文献を講読する．取り上げる文献・資料としては，以下のようなものを予定している． **4.** 日本文化に関する英語文献—史料に基づく考察— **5.** 日本史に関する英語論文—日本語文献との比較— **6.** 日本中世の寺社勢力に関する英語文献—多様な資料を使って— **7.** その他，日本文化・日本史に関する英語文献を素材として進めたい．
【成績評価】授業への取り組み，課題などを総合的に評価する．
【再試験】無
【教科書】適宜配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220000
【連絡先】
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分~ 12時)

基礎英語講読 I

2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】現代社会において，英語は国際的な共通語という役割をもっており，英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている．いまや異文化を理解するだけでなく，自国の文化を外国に発信する場合も，英語の能力は重要となっている．人文科学や社会科学分野の英語文献を読み，英語の文章を読む力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す．基礎外国語基礎演習 (英語)I・II で習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて，英語の文章を読む力を養う．
【授業概要】人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み，英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に，それらの分野の基礎的な知識を身につける．具体的には，スポーツ科学，国際経済学，環境政治学，哲学思想，現代日本文学，社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う．英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び，現代社会のさまざまな知識，考え方を学ぶと共に，専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける．
【履修上の注意】単に英語を読むだけでなく，理解した内容に対して自分なりの意見を持てるように授業を組んである．文献を読むだけでは読みこなしたうちに入らず，それを理解したうえで自らの血肉にするべく評価するプロセスを重視する．
【到達目標】広く英語の文章に親しみ，辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す．また多読，精読なども行い，語彙力をつけることも目指す．
【授業計画】**1.** 次の分野の英語文献・資料を読む．使用するテキストは，比較的やさしい文献とするが，専門的な内容の文献も使用することがある． **2.** 性と生殖に関わる英語文献 (主に新聞記事) を読み，中絶や代理母，遺伝子操作などに対する各国の捉え方の相違を理解する． **3.** その際，アメリカの新聞や雑誌から教材を選択する．
【成績評価】平常点．無断欠席は 25 点減点，欠席は課題を出さない限り 9 点減点．
【再試験】無
【教科書】コピーして配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220001
【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

基礎英語講読 II

2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (後期)
大沼 正樹・准教授/総合理数学科，日置 善郎・教授/総合理数学科
真壁 和裕・教授/社会創生学科

【授業目的】英文で書かれた科学文献を読み，その内容を的確に読み取る力を養う．
【授業概要】科学文献を読む際には「何がどこまで分かっているのか」，「現在，何が未解明の問題なのか」，「どのような方法で得られたどのような結果から，何がどの程度の確度で分かったのか」，「その研究に潜む問題点は何か」，「今後はどのような研究を続行すべきなのか」などを的確に理解することが大切である．この授業では，自らの研究を通じて科学の英語に接している教員 (大沼・日置・真壁) が，それぞれの研究分野 (数学・物理学・生命科学) から題材を集め，英語で書かれた文献に対して上記のような力を養うべくトレーニングを行う．
【先行科目】『数理科学の基礎 I』(1.0, ⇒187 頁)，『物理科学の基礎』(1.0, ⇒187 頁)，『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)，『生命科学の基礎』(1.0, ⇒188 頁)，『地球科学の基礎』(1.0, ⇒188 頁)
【履修上の注意】この講義においては，他の講義科目以上に出席・受講態度も重要な評価ポイントになります．
【到達目標】外国語の基本的運用能力の養成，およびそれを通じての国際感覚の醸成と論理的文章を理解し書く能力の養成
【授業計画】**1.** 概要説明と受講上の注意 (大沼・日置・真壁) **2.** 大沼 1: 数字の読み方 **3.** 大沼 2:数式の読み方 **4.** 大沼 3:図形の表現 **5.** 大沼 4:数 (自然数，実数等) について **6.** 大沼 5:近似および少数表示について **7.** 大沼 6:平面上の曲線について **8.** 大沼 7:平面上の領域，区域について **9.** 大沼 8:三角関数について **10.** 大沼 9:関数の極限について (その 1) **11.** 大沼 10:関数の極限について (その 2) **12.** 大沼 11:連続について (その 1) **13.** 大沼 12:連続について (その 2) **14.** 大沼 13:数列の極限について (その 1) **15.** 大沼 14:数列の極限について (その 2) **16.** 日置 1: 基礎 1 基本構文 (動詞の特性) **17.** 日置 2: 基礎 2 基本構文 (冠詞の使い分け) **18.** 日置 3: 基礎 3 基本構

文 (名詞の単数・複数) **19.** 日置 4: 基礎 4 基本構文 (形容詞・副詞) **20.** 日置 5: 基礎 5 基本構文 (接続詞) **21.** 日置 6: 基礎 6 基本構文 (仮定法) **22.** 日置 7: 基礎 7 基本構文 (関係詞・前置詞) **23.** 日置 8: 応用 1 長文読解 (科学ニュース記事より-1) **24.** 日置 9: 応用 2 長文読解 (科学ニュース記事より-2) **25.** 日置 10: 応用 3 長文読解 (世界の研究所 HP より-1) **26.** 日置 11: 応用 4 長文読解 (世界の研究所 HP より-2) **27.** 日置 12: 応用 5 長文読解 (基本的なテキストより-1) **28.** 日置 13: 応用 6 長文読解 (基本的なテキストより-2) **29.** 日置 14: 応用 7 長文読解 (基本的なテキストより-3) **30.** 真壁 1: 演習 1(前置詞 1)・解説 1(時制) **31.** 真壁 2: 演習 2(前置詞 2)・解説 2(仮定法) **32.** 真壁 3: 演習 3(接続詞)・解説 3(否定) **33.** 真壁 4: 演習 4(動名詞・関係詞)・解説 4(強調と倒置) **34.** 真壁 5: 演習 5(句と節)・解説 5(分詞構文) **35.** 真壁 6: 演習 6(動詞 1)・解説 6(比較) **36.** 真壁 7: 演習 7(動詞 2)・解説 7(it と物主構文) **37.** 真壁 8: 演習 8(動詞 3)・応用 1(ノーベル賞論文 1:初期胚の遺伝的制御) **38.** 真壁 9: 演習 9(形容詞)・応用 2(ノーベル賞論文 2:細胞内輸送シグナル)) **39.** 真壁 10: 演習 10(副詞 1)・応用 3(ノーベル賞論文 3:細胞周期制御因子) **40.** 真壁 11: 演習 11(副詞 2)・応用 4(ノーベル賞論文 4:プログラム細胞死) **41.** 真壁 12: 演習 12(名詞 1)・応用 5(ノーベル賞論文 5:嗅覚受容体) **42.** 真壁 13: 演習 13(名詞 2)・応用 6(ノーベル賞論文 6:RNA 干渉) **43.** 真壁 14: 演習 14(名詞 3)・応用 7(ノーベル賞論文 7:iPS 細胞?) **44.** 最終回:総括 (大沼・日置・真壁)

【成績評価】 予習してきた英文の和訳の発表による.

【教科書】 講義中に指示する.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218494

実用外国語基礎演習 (英語) 総論 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)

森岡 芳洋 · 教授 / 人間文化学科, 吉田 昌市 · 教授 / 人間文化学科
山田 仁子 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 現在のグローバル化した世界において，共通語の地位を占めている英語を用いてコミュニケーションをおこなう能力，さらには多様な英語媒体から情報を収集し，整理し，提示する能力は必須であろう.「実用外国語基礎演習 (英語)」は，国際文化コースのコース専門コア科目である「実用外国語演習 (英語)」とあわせて，中学，高校，更には全学共通教育で培ってきた英語の能力を，より実際的なコミュニケーションの道具として使えるレベルにまで高めることを目標とする. 前期の基礎演習 I では，日本語を介さずに英語を英語のままで聴いて理解するための基礎トレーニングをおこなう. 後期の基礎演習 II では，I でのトレーニングを踏まえて，多様な英語媒体から情報を収集，加工し，それらをプレゼンテーションをする訓練をおこなう. なお，基礎演習でおこなわれるトレーニングは，TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験の準備にも有益である. 受講者は与えられた課題をこなすだけではなく，演習で提示されるトレーニングを自ら実践することが求められる. 言うまでもなく，実用的な英語のレベル向上は，日々の自発的トレーニング抜きには期待できない. この演習を刺激として，英語によるコミュニケーション能力という一生の財産となりうる確かな技能を身につけて欲しい.

【授業概要】 基礎演習 I, II ともに 3 クラス用意される. I は一つが basic class ，二つが advanced class である. 受講可能なのは 3 クラスあわせて 75 名までとし，受講登録者がそれを超えた場合は，抽選により人数調整を行う. 受講クラスの決定は，I (前期) の場合は，初回に実施するプレイスメント・テストの結果に基づき，受講者の希望を踏まえて行う. いずれのクラスでも，ニュース，ドキュメンタリー，映画，ドラマなどの音声視覚教材を駆使して，発音ドリル，ディクテーション，シャドウイング (声を出して英語を追いかける練習) など，現代の生きた英語を聴き，さらに英語を話すための基本的な訓練がおこなわれる. II の 3 クラスは学生番号順でクラス分けされる. それぞれのクラスで，ニューストピックについて多様な英語媒体から情報を収集し，内容を要約し，プレゼンテーションをする訓練などがおこなわれる.

【キーワード】 ディクテーション，リスニング，*shadowing*，スピーキング，プレゼンテーション

【関連科目】 『基礎英語講読 I』(0.7, ⇒15 頁)

【履修上の注意】 個々の担当者のシラバスを参照すること.

【到達目標】 実用的なコミュニケーション能力の基礎として，1) 英語を英語のまま理解する能力を養成する. 2) 多様な英語を聴き取る能力を養成する. 3) シャドウイングを通じて英語を滑らかに口から出せるように訓練する. 4) これらを通じて外国語の基本的運用能力を養成する. 5) 英語媒体のニュースなどの情報収集，加工を通じて，国際感覚の養成を目ざす.

【授業計画】 個々の担当者のシラバスを参照すること.

【成績評価】 平常点や期末試験の成績が評価に占める割合も含めて，各担当教員のシラバスを参照すること.

【再試験】 行なわない.

【教科書】 個々の担当者のシラバスを参照すること.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218679

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

実用外国語基礎演習 I(英語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)

森岡 芳洋 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 全学共通教育段階までに蓄積してきている (はず) の英語運用能力を増進し，補うための練習を行い，総合科学部でさらに提供される運用能力の高度化のための訓練 (を受ける場合) に役立ちうるようにする.

【授業概要】 CNN のニュースを用いて作成された CD 付き教材を利用し，映像の DVD も援用しながら，聴き取りによる内容理解力を，穴埋め，内容に合う記述の判定，語彙の習得等の練習により，高めていく.

【キーワード】 英語ディクテーション，*listening and pronunciation training*，*vocabulary building*

【関連科目】 『実用外国語基礎演習 II(英語)』(1.0, ⇒19 頁)

【到達目標】 英語ニュースを聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること

【授業計画】 **1.** Class Division & Pre-Test **2.** Unit 1: iPad Opinions: Pros and Cons **3.** Unit 2: Texting in School **4.** Unit 3: Getting the Story Out **5.** Unit 4: Cartoon Current Events **6.** Unit 5: Toyota Troubles **7.** Unit 6: Wave Energy **8.** Unit 7: Beijing E-Bikes **9.** Unit 8: Thai Wine **10.** Unit 9: No Ban on Bluefin **11.** Unit 10: Worldwide Academy in a Closet **12.** Unit 11: World Commercial Properties **13.** Unit 12: France's Burka Battle **14.** Class Test (Unit 1-12) **15.** Final Test **16.** Review

【成績評価】 Weekly assignments 30%, Class Test 40%, Final Test 30%

【再試験】 行わない.

【教科書】 関西大学英語教育研究会 (編) CNN: ビデオで見る世界のニュース (12) (2011) 朝日出版社 2,000 円+税

【参考書】 授業中に指示する.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218675

【連絡先】

⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用外国語基礎演習 I(英語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)

吉田 昌市 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 現在のグローバル化社会において，世界の動きや学術的な情報をいち早く知るためには，英語を用いてコミュニケーションを行う能力は必要不可欠であろう. この授業では，英語ニュースのディクテーションおよびスピーキングの基礎トレーニングを行う. ニュース英語におけるアナウンサーやレポーターの発音は，おおむねスラングやアクセントを含まないので，導入教材としては最適であると考える. 受講者が英語を聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること，英語を積極的に口にすることによりスピーキングの基礎を養成することを目的とする.

【授業概要】 VOA (Voice of America) の Special English Program から 12 のニュースを取り上げたテキストを用いて，ディクテーションを行う. さらに，大学レベルでの英語読解や聴解に最低限必要な基本語彙の習得のため，また発音やスピーキングの練習として，recitation(暗唱) の課題を与える.

【キーワード】 ディクテーション，*listening and pronunciation training*，*vocabulary building*

【関連科目】 『実用外国語基礎演習 II(英語)』(0.5, ⇒19 頁)

【到達目標】 英語ニュースを聴いて即座に内容をイメージできる聴解力を身につけること

【授業計画】 **1.** Class Division & Pre-Test **2.** Unit 1: Under P-r-e-s-s-u-r-e: National Spelling Bee Goes Big Time on TV **3.** Unit 2: Gentle Barn **4.** Unit 3: Women on Wheels: Driving Change in Motorcycling **5.** Unit 4: Mobile Phones as a Public Health Tool in Developing Nations **6.** Unit 5: Rsearchers Say Vitamin D Might Protect Against Multiple Sclerosis **7.** Unit 6: "Peanuts" **8.** Unit 7: Titanic Was a Movie Record Beaker. But How True to History Is It? **9.** Unit 8: Mark Twain: One of America's Best Known and Best Loved Writers **10.** Unit 9: Report Says Arctic Sea Ice Is Melting More Quickly Than Thought **11.** Unit 10: Sports Programs Where a Disability Is No Barrier to Having Fun **12.** Unit 11: Looking Behind the "Fairtrade" Label **13.** Unit 12: Water on Saturn Moon? **14.** Class Test (Unit 1-12) **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 毎週のクラスにおけるトレーニングへの取り組みと全クラス共通の最終試験により，総合的に評価する. Weekly assignments 40%, Class Test 40%, Final Test 20%

【再試験】 なし

【教科書】Haruo Kizuka. Listening Dictation with VOA, Vol.1. Macmillan Languagehouse. 1,890 yen
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218676
【連絡先】
⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

実用外国語基礎演習 I(英語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)

山田 仁子・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】『実用外国語基礎演習 (英語) 総論』を参照のこと.
【授業概要】英語を聴き，話し，そして英文を英語の論理で読むための基礎トレーニングをおこないます．素材としてアメリカ ABC 放送のニュースを用います． トレーニング・メニューは以下の通りです． 1. DVD のみでニュースを視聴しておおまかな内容を捉え，2~ 3 行程度の文章にまとめる．この際の使用言語は英語でも日本語でも両方でも構わない．(予習) 2. DVD の音声のみによりその英語をできる限り書き取る．テキストは見ない．(予習) 3. テキストの Warm-up exercises A,B を確実にする．(予習) 4. 予習した成果を授業で確認する.(授業) 5. スクリプトに意味のまとまりごとにスラッシュを書き入れる.(授業) 6. 重要な表現や分かりにくいところがあれば確認する.(授業) 7. スクリプトを見ながら音声に合わせ自分も声に出して読む.(シャドウイング)(授業) 8. スクリプトを見ないで音声に合わせ, 自分も声に出して語るつもりで読む.(シャドウイング)(授業)
【関連科目】『実用外国語基礎演習 II(英語)』(1.0, ⇒19 頁)
【履修上の注意】予習を前提とした授業なので，必ず予習をすること.
【到達目標】『実用外国語基礎演習 (英語) 総論』を参照
【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** Unit 1 A Crusader's Life **3.** Unit 2 American Heart **4.** Unit 3 American Roads: Safer than Ever **5.** Unit 4 Culture Clash: Veil Bans **6.** Unit 6 Missing Link: Major Discovery **7.** 前半テスト:英語の音声を聞いて英語の質問に英語で答える.(筆記) **8.** Unit 10 Portrait of America: Identity Issues and the Census **9.** Unit 12 Saving America's Middle Class **10.** Unit 13 Law of the Land: Obama Signs Healthcare Bill **11.** Unit 14 Persons of the Week: Bird Songs **12.** 在宅自習:各自興味があるニュースについて dictation して提出する． **13.** Unit 15 Nuclear Deal **14.** 後半テスト:英語の音声を聞いて英語の質問に英語で答える.(筆記) **15.** 3 クラス共通のテスト **16.** 総括授業
【成績評価】本クラス個別の試験とレポート (50%) と期末試験の結果 (50%) を併用する． なお，授業への取り組みが不足する場合はこれより減点する.
【再試験】『実用外国語基礎演習 (英語) 総論』を参照
【教科書】DVD で学ぶ ABC ニュースの英語 13(金星堂)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218677
【連絡先】
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

実用外国語基礎演習 I(ドイツ語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)

井戸 慶治・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】全学共通教育のドイツ語で習得した知識を基礎として，初級文法の不足している部分を補いながら，より実用的なレベルをめざす．今後の授業やゼミでドイツ語と関わるかもしれない人や，ドイツ語またはドイツ一般に関心を持つ人の，さらなる自主的学習のための基礎固め・橋渡しとなれば幸いである．また，折に触れてドイツ語圏の文化や事情を，視聴覚教材なども用いて紹介するが，このことは英語圏の知識に偏らない健全な国際感覚を持つために有益であろう.
【授業概要】この授業は，1) 専門の授業においてドイツ語を必要とするので，ドイツ語をメインにして「実用外国語演習」を履修したい人，または 2) ドイツ語，またはドイツに関心があり，せっかく 1 年間履修したドイツ語の知識をもう少し確実なものにしておきたい人，のための授業である．全学共通教育のドイツ語初級を履修ずみで，ドイツ語圏の言語や文化，社会に関心を持つ人であれば，所属コースにかかわらず受講を歓迎する．ただし，他の外国語との関連で単位に関する制約があるので，下の「注意」を必ず参照のこと.
【関連科目】『実用外国語基礎演習 II(ドイツ語)』(0.5, ⇒19 頁)
【履修上の注意】2009 年度以降入学 (新カリ) の学生については，以下の諸点に注意が必要である．学部共通の選択必修 B は，卒業に必要な単位としては上限 4 単位という制限がある．また，英語，フランス語の同種の授業と同じ時間帯に開講されているので，これらと同じ年度に履修することはできない．また，年度をずらして複数の外国語を受講したとしても，「卒業に有効な」単位として算定されるのは，いずれかひとつだけである．もちろん，「卒業に有効な」単位にならなくても，受講することはできるし，「せっかく 1 年間学んだのだからもっとしっかり学びたい」という気持ちはもっともであり，そのような受講生向けにも開設された授業である.
【到達目標】
1. ドイツ語初級文法の簡単な復習と補完を並行しておこない，基礎的知識を確実にする.
2. ドイツ語の読み書き話し聴く能力の基礎を習得する.
3. ドイツ語圏の事情や文化に触れる.
【授業計画】**1.** 初級文法の復習と補完，初歩的な口語表現，初歩的なテキストの読解，簡単な独作文などが中心となるだろう． 受講生が少人数であることが予想されるため，具体的な内容については，受講生のレベルや希望，関心に応じて決定する．その参考とするために，最初の授業では，これまでに習った内容などについての簡単なアンケートをおこなう． **2.** ドイツ語圏の文化・社会に関する種々の情報の提供も試みるが，そのさい受講生の希望や関心にも応じたい.
【成績評価】平常点 (授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価) が中心になるが，他に，筆記の課題を課すこともある．また，前回の授業で習った (あるいは復習した) 基本的な暗記事項などについて，小テストをおこなう.
【再試験】なし.
【教科書】何か一冊に決めて購入するか，必要に応じてプリントを配布する．4 月初めごろの授業で決定する.
【参考書】必要に応じて視聴覚教材や参考文献，あるいはそれからのコピーを提示する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218681
【連絡先】
⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時 3号館1階学習支援室)
⇒ ido@ias.tokushima-u.ac.jp

実用外国語基礎演習 I(フランス語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)

長井 伸仁・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】全学共通教育での授業は，文法的にはかなり高度な内容に達している．それをもとに，フランス語を実際に使えるように訓練する.
【授業概要】総合的・実用的なフランス語.
【キーワード】フランス語
【履修上の注意】全学共通教育のフランス語入門および初級の単位を修得していること.
【到達目標】
1. 外国の事情をフランス語で情報収集できる能力と，日本の事情をフランス語で発信する能力の獲得
2. 本講義では，外国語の基本的運用能力およびコミュニケーション能力を養成すること，ならびに国際感覚を醸成することを目的としている.
【授業計画】**1.** 子ども向け新聞を読む． **2.** かんたんなニュースを聴く． **3.** 特定のテーマについて，フランス語で書く． **4.** 簡単な議論をする.
【成績評価】授業への取り組みにもとづき，判断する.
【再試験】なし.
【教科書】コピーの形で配布する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218683
【連絡先】
⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

実用外国語基礎演習 I(中国語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (前期)

葭森 健介・教授 / 人間文化学科

【授業目的】全学共通教育中国語初級で身につけた中国語の能力を高め，実用として使いこなす事のできるよう，読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う.
【授業概要】この授業では教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ，時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する．前期は市販の教科書を使って，最新の中国についての記事を扱う．また，記事に関係して，中国の放送番組によるビデオ教材も用い，聞き取りの力も養成する.
【キーワード】中国語，時事問題，現代中国
【先行科目】『中国語/中国語入門』(1.0)，『中国語/中国語初級』(1.0)
【履修上の注意】共通教育で中国語入門・初級または中国語 4 単位を履修済み，あるいはそれに相当する中国語能力を有していることが絶対条件である.
【到達目標】中国語の新聞やインターネットの記事が辞書を引いて読めること．指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする.
【授業計画】**1.** 中国語入門・初級の復習-表現・単語- **2.** 中国語入門・初級の復習-文法- **3.** 時事中国語を読むための基礎 **4.** 上海万博 **5.** 中国でのショッピング **6.** 中国における端午の節句 **7.** 中国の出稼ぎ労働者 **8.** 中国語表現の復習 **9.** 辛亥革命から 1 世紀 **10.** 中国の

ウエディングドレス **11.** 中国のサッカー事情 **12.** 中国では今 **13.** 中国語のネットをのぞく **14.** 文法のまとめ **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】 授業での発表，小テストと学期末テストの点数を総合して行う．

【再試験】 原則無し．ただし受講状況に応じて再試験を行うこともある．

【教科書】 『セレクト 8 時事中国語 2011 』(朝日出版社 1600 円+税)

【参考書】 1 年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218680

【連絡先】

⇒ 葭森 (アジア史研究室，088-656-7156，yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 16:30~ 17:30)

実用外国語基礎演習 II(英語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (後期)

スティーヴンズ，メリディス・アン・講師 / 人間文化学科
ポンド クリストファー・非常勤講師 / 全学共通教育センター
早内-プリングル ジュディス・非常勤講師

【授業目的】 「実用外国語基礎演習 (英語) 総論」を参照．

【授業概要】 Students will research a news event each week and provide a diary entry summarizing the news event and providing a personal response to it. Each week three students will give a 5 minute oral presentation on the news event. The current event may be obtained from any news website in English. Students will be encouraged to include websites from diverse sources such as New Zealand, Canada, South Africa, Singapore and Hong Kong.

【先行科目】 『実用外国語基礎演習 I(英語)』(1.0, ⇒17 頁)，『実用外国語基礎演習 I(英語)』(1.0, ⇒17 頁)，『実用外国語基礎演習 I(英語)』(1.0, ⇒18 頁)

【到達目標】 「実用外国語基礎演習 (英語) 総論」を参照．

【授業計画】 **1.** Course Guidance. Introduction to the structure of a newspaper. **2.** Questions and Advice **3.** Matching Comment and Newspaper **4.** Separating news and comment **5.** Fleshing Stories Out **6.** Captions **7.** Awards: Comprehensive Coverage **8.** Awards: Readability **9.** Awards: Best Political Story **10.** Awards: Awareness of Minority Readerships **11.** Awards: Best Human Interest Story **12.** Awards: Best Photograph **13.** Awards: Best Sports Reporting **14.** Someone I'd change places with- well, nearly **15.** Categories of Story **16.** Final Exam

【成績評価】 1. Diary entries of current events 2. Oral Presentations 3. Final exam in which students will outline the progress of an event they have been following over the semester

【教科書】 No textbook is necessary. Students will be required to source stories on the internet. Some newspaper or internet stories will be provided.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218678

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319，098-656-7133，meredith@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: Mail: meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ ポンド .

⇒ 早内-プリングル (juditheph@yahoo.com) (オフィスアワー: By appointment)

実用外国語基礎演習 II(ドイツ語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (後期)

依岡 隆児・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 初級から中級程度のドイツ語を読め，簡単なドイツ語が運用できるようにする

【授業概要】 実用ドイツ語をブラッシュアップし，読む・書くの技能を中心に，中級程度のレベルを目指す．書くためにも，読むトレーニングは不可欠である．中級程度の教科書を適宜使用しながら，多様なドイツ語に触れられるようにする．

【キーワード】 **ドイツ語，実用外国語，比較文化**

【到達目標】

1. 初級から中級程度のドイツ語が読め，簡単なドイツ語を実際に運用できる技能を身につけること．

2. 外国語の基本的運用能力と国際感覚の醸成．

【授業計画】 **1.** ガイダンス **2.** 初級から中級程度のテキストの読解 **3.** ビデオ鑑賞などにより背景の文化・社会についての理解を深める

【成績評価】 授業への取り組みにもとづいて総合的に評価します．

【再試験】 無

【教科書】 小林和貴子ほか『Reise nach Fantasia ようこそファンタジーの世界へ』(同学社) か，Prismen(東大教養部ドイツ語部会編) のテキストを適宜使用．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218682

【連絡先】

⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

実用外国語基礎演習 II(フランス語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (後期)

田島 俊郎・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 大人になって始めた外国語について，仕方がないことなのだけれど悔しいのは，実際の知的レベルよりずっと低いこともわからなかったり言えなかったりすることです．母国語だったら小学生にも言えるようなことも，語彙が足りないためにわからない，うまく言えない．そんなフラストレーションを感じてしまいます． そろそろフランス語の雰囲気はつかめたという君．語彙を増やすためには，そろそろ自分の知的レベルにあったものを読み始めよう．聞き話せるようになるためにも，読んでことばの奥にあるもののとらえ方考え方に慣れるようにしよう．

【授業概要】 フランス語で読み，フランス語で発信する世界．

【キーワード】 **フランス語**

【先行科目】 『フランス語/フランス語入門』(1.0)，『フランス語/フランス語初級』(1.0)

【関連科目】 『フランス語圏文化論 (その 1)』(0.5)

【履修上の注意】 全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか，それと同等以上のフランス語能力が必要．

【到達目標】 外国の事情をフランス語で情報収集できる能力と，日本の事情をフランス語で発信する能力の獲得．

【授業計画】 **1.** 音声や動画を使って聞き取り，発音する能力を訓練します．音声教材としてはフランスのニュースや映画などの現在進行中の題材も使うようにします． **2.** 音声や動画を使って聞き取り，発音する能力を訓練します． **3.** 音声や動画を使って聞き取り，発音する能力を訓練します． **4.** 音声や動画を使って聞き取り，発音する能力を訓練します． **5.** 音声や動画を使って聞き取り，発音する能力を訓練します． **6.** 音声や動画を使って聞き取り，発音する能力を訓練します． **7.** フランスの中学や高校の，公民や哲学，歴史の教科書などから抜粋したさまざまのトピックを読んで語彙を身につけます． **8.** 例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などの語彙を身につけます． **9.** 例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などの語彙を身につけます． **10.** 例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などの語彙を身につけます． **11.** 例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などの語彙を身につけます． **12.** 思考方法は言語に規定されてしまう部分もある．いかにわれわれが日本の文化に寄りかかって議論を組み立てているか，外国語で読み，外国語で話す際，議論する時に気づかされる．こともあります．外国語の議論を理解するためにこちらの想像力を動員する必要もあります．そういったことも含めて考えましょう． **13.** 思考方法は言語に規定されてしまう部分もあることも含めて考えましょう． **14.** 思考方法は言語に規定されてしまう部分もあることも含めて考えましょう． **15.** 思考方法は言語に規定されてしまう部分もあることも含めて考えましょう． **16.** 思考方法は言語に規定されてしまう部分もあることも含めて考えましょう．

【成績評価】 出席および授業中の発言を重視します．

【再試験】 行いません

【教科書】 コピーや音声素材を配布します．

【参考書】 フランス語入門や初級で使用した教科書など

【WEB 頁】 http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218684

【連絡先】

⇒ 田島 (088-656-7144，tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

実用外国語基礎演習 II(中国語) 2 単位 (選択必修 (B)) 2 年 (後期)

邵 迎建・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 中国語 (1) で学んだ文法の基礎の上に立って，名文に触れ，ことばの感性を育てながら，語彙を増やし，表現を豊かにします．中国語力を高めることを目指します．

【授業概要】 名作を読解します．朗読，翻訳をした後，言い回しや文型を用いて作文の練習をします．

【履修上の注意】 授業時間の二倍を使って，予習，復習をしましょう．欠席・遅刻はしないこと (特に第一回目はガイダンスなので必ず出席すること)．

【到達目標】 確実に中国語の実力を身につけ，実用レベルに到達します．

【授業計画】 **1.** ガイダンス **2.** 1 第一課 「桃太郎」を朗読，翻訳 **3.** 作文練習 **4.** 第二課「包公審石頭」を朗読，翻訳 **5.** 作文練習 **6.** 第三課「神筆马良」を朗読，翻訳 **7.** 作文練習 **8.** 第四課「如此恋愛」を朗読，翻訳 **9.** 作文練習 **10.** 第五課「両個中国的命運」を朗読，翻訳 **11.** 作文練習 **12.** 第六課「魯迅三題」1 を朗読，翻訳

13. 魯迅三題 2 を朗読，翻訳　**14.** 作文練習　**15.** 期末試験 (『人民日報』のコラムを翻訳する，辞書持込可).　**16.** なお，より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので，必ず出席すること.

【成績評価】平常点及び期末試験により綜合的に評価する.

【再試験】再試験なし

【教科書】近藤直子・湯山トミ子編著『名作選』(朝日出版社，1999)1,800 円，辞書については授業で指示する (必ず購入すること).

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219504

【連絡先】

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

人間文化学科 共通科目 授業概要

● 学科共通科目

日本語表現の基礎 …仙波/1 年 (前期) 21
文化研究の基礎 …田島・石川/1 年 (後期) 21
哲学・思想の基礎 …石田・吉田・山口/1 年 (前期) 21
近現代世界の成立と展開 …長井・今井・桑原・荒武/1 年 (後期) 22
心理学の基礎 I …山本/1 年 (前期) 22
心理学の基礎 II …内海/1 年 (後期) 22
ヘルスプロモーションの基礎 …小原・佐藤・野村/1 年 (前期) 22
健康体力科学の基礎 …三浦・荒木・的場・佐竹/1 年 (後期) 23

日本語表現の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (前期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】 現代日本語について，規範的な表現，つまり「正しい日本語」とはどのようなものかを知り，適切に運用できるようになれることを目標とする．同時に，規範的でない表現がなぜ生まれるかについても理解できるようにする．

【授業概要】 「日本語検定」で出題される問題等を利用して，規範に則った表現を確認すると同時に，現代日本語における，非規範的な表現の実態について，データを示して考えさせる．

【履修上の注意】 教科書の構成との関係で授業内容の配列や構成に少し変更を加えるかもしれない．また，毎回宿題を課す予定．

【到達目標】 現代日本語について，規範的な表現，つまり「正しい日本語」とはどのようなものかを知り，適切に運用できるようになれることを目標とする．同時に，規範的でない表現がなぜ生まれるかについても理解できるようにする．

【授業計画】 **1.** 規範的な日本語表現について知っておくことが，なぜ必要か．言語行動成立の条件． **2.** 尊敬語と謙譲語 (教科書:第 6 日 ~ 第 12 日) **3.** 第三者が関わる場合の敬語など (教科書第 13 日 ~ 第 18 日) **4.** 敬語についての整理 (教科書第 6 日 ~ 第 21 日) **5.** 文法その 1(正しくないと言われる表現は，なぜ生まれたのか．教科書第 22 日 ~ 第 26 日から) **6.** 文法その 2(悪文はなぜできてしまうのか．教科書第 27 日 ~ 第 31 日から) **7.** 語彙力 (使える言葉の数を増やすには．教科書第 32 日 ~ 第 41 日) **8.** 語彙力 (同義語・対義語・類義語を探すには．教科書第 42 日 ~ 第 48 日) **9.** 日本語の表記 (仮名遣い・送り仮名．教科書第 49 日 ~ 第 54 日) **10.** 日本語の運用 (意味を調べる．慣用句を覚えよう．教科書第 55 日 ~ 第 62 日) **11.** 日本語の運用 (ことわざ・故事成語など．教科書第 63 日 ~ 第 68 日) **12.** 漢字の大切さ (教育漢字は完璧ですか? 教科書第 69 日 ~ 第 75 日) **13.** 漢字 (より高いレベルに達するには．教科書第 76 日 ~ 第 83 日) **14.** まとめと補足 (教科書第 84 日 ~ 第 90 日) **15.** 試験 **16.** 補足・補充的なことがら (内容未定)

【成績評価】 日常的な小テストと宿題 (60%) と，最終試験 (40%) による．

【再試験】 再試験

【教科書】 川本信幹『みがこう，あなたの日本語力』東京書籍

【参考書】 随時紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218928

【連絡先】
⇒ 1号館南棟1階東奥 senba@ias.tokushima-u.ac.jp

文化研究の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (後期)
Introductory lecture of cultural research
田島 俊郎・教授/人間文化学科，石川 榮作・教授/人間文化学科

【授業目的】 文化とはある人間の集団，民族や国民や，部族のような人々の集まりの構成員に共有される約束ごとをいう．大はいわゆる民族や部族のような地域的，政治的グループであっても，学生，会社員，医者，などの職業や年齢などによる比較的小さなグループ，さらに遊び仲間のようなごく小さなグループであっても，そのグループに独特の約束ごとはもっている．そういった約束ごとの総体を文化と呼ぼう．文化を共有するかどうかで，共同体に受け入れられ，あるいは排除されることがある． 文化は時に部外者には不合理で不可解なものに見える．さらに集団のなかで共有された規約であるはずなのに集団の構成員自身にも不可視であることがある．不可視な文化的約束ごとは，内部の人間にとっても不合理で不可解であることもある．そういった文化を約束ごととして認識していくことが，文学や言語学，哲学，美学，文化人類学などが文化研究の方法である．

【授業概要】 前半に田島が文化を観察し分析する方法論について述べ，後半には石川が，ドイツ文学やオペラ，映画を題材に具体的に分析する．田島は言語学，文化人類学，レトリック論，文学など，文化を読み解く手法について概観する． 石川は，5,6 世紀のゲルマン民族移動時代にその伝説が生まれたとされる英雄ジークフリートを取り上げ，この人物を主人公とした英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』やワーグナーのオペラ，ウーリー・エデル監督の映画の特質を探っていく．

【キーワード】 **文化，文学，オペラ，言語学**

【履修上の注意】 コメントや質問などは大いに歓迎します．授業への積極的な参加を期待します．

【到達目標】 分析の方法について学び，実際の表現方法の諸相にも触れることによって，文化を研究するための基礎を築き上げる．

【授業計画】 **1.** 文化とは何か，文化を研究するとは **2.** ことばと文化 **3.** ことばで世界を切りわける **4.** 文化人類学，野生の思考 **5.** レトリック，隠喩と換喩 **6.** 文学の方法 **7.** 文学は世界の見方を提示する **8.** ドイツ英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』(1) **9.** ドイツ英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』(2) **10.** ドイツ英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』(3) **11.** ドイツ英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』(4) **12.** ワーグナーのオペラ『ジークフリート』 **13.** ワーグナーのオペラ『神々の黄昏』 **14.** ウーリー・エデルの映画『ニーベルングの指環』(1) **15.** ウーリー・エデルの映画『ニーベルングの指環』(2) **16.** レポート

【成績評価】 レポートおよび授業への参加貢献の程度による

【再試験】 なし

【教科書】 資料を提示，配布する．石川の授業ではプリントを配布するほか，石川栄作訳 (新訳『ニーベルンゲンの歌』前編，ジークフリートの暗殺，ちくま文庫) を使用する．

【参考書】 授業中に紹介する．

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/introcul/index.html

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218988

【連絡先】
⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日15時から16時)
⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 田島俊郎:木曜日12時から13時まで)

哲学・思想の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (前期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科，吉田 昌市・教授/人間文化学科
山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】 いくつかの「哲学的」トピックを取り上げ，それらについて考えることで，現代社会の諸問題を考察する視座を得る．

【授業概要】 哲学史上論じられてきた多様なトピックについて，一般的・包括的な内容を各 3~ 4 回の講義で紹介する．それを受けた「まとめ」の回では受講者の中から若干名にレポートを発表してもらい，ディスカッションを行う．毎回の授業後に疑問や意見を「一言カード」記入してもらい，次回授業の冒頭で復習を行う．また，授業で用いたファイルや資料はウェブページに公開するので復習に役立てること．

【キーワード】 **哲学，科学と哲学，倫理学**

【到達目標】
1. 人文科学 (哲学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．

【授業計画】 **1.** イントロダクション:現代における哲学の意義 (吉田，石田，山口) **2.** 哲学の立場 その 1:批判精神としての哲学 - ソクラテスの人と思想 - (吉田) **3.** 哲学の立場 その 2:何のための批判?- イデアの哲学へ - (吉田) **4.** 哲学の立場 その 3:イデアの哲学 - 哲学と宗教 - (吉田) **5.** まとめとディスカッション (吉田，石田，山口) **6.** 現代科学論の系譜 (1) 自然法則とイデア論 (山口) **7.** 現代科学論の系譜 (2) 経験は真理を保証できるか (山口) **8.** 現代科学論の系譜 (3) プラナリアの記憶物質 (山口) **9.** 現代科学論の系譜 (4) 因果関係は実在するか (山口) **10.** まとめとディスカッション:「科学の正しさ」をめぐって (吉田，石田，山口) **11.** 倫理的な正しさとは何か その 1:リベラリズムの立場 (石田) **12.** 倫理的な正しさとは何か その 2:リバタリアニズムの立場 (石田) **13.** 倫理的な正しさとは何か その 3:コミュニタリアニズムの立場 (石田) **14.** まとめとディスカッション (石田) **15.** 授業全体のまとめ (吉田，石田，山口)

【成績評価】 毎回の授業の最後に記入する「一言カード」，授業中に行う「小テスト」，「まとめ」授業における発表，学期末レポートを総合して評価する．得点の配分や発表と期末レポートの採点基準については授業中に説明する．

【再試験】 なし．

【教科書】 なし

【参考書】 授業中に適宜指示する．

【**WEB 頁**】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/philosophy/top.html
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218876
【**連絡先**】
⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜13時から14時)
⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

近現代世界の成立と展開

2 単位 (選択) 1 年 (後期)
長井 伸仁・准教授/人間文化学科, 今井 晋哉・准教授/人間文化学科
桑原 恵・教授/人間文化学科, 荒武 達朗・准教授/人間文化学科

【**授業目的**】19 世紀 ~ 20 世紀初頭の日本・中国・ヨーロッパの歴史を学ぶことによって現代の世界がどのようにして成立してきたのかを考察する.
【**授業概要**】19 世紀 ~ 20 世紀初頭のフランス・ドイツ・日本・中国・の政治・経済・社会などについて概観する. 各国の近代化過程における, 文明化, 国民形成とナショナリズムに焦点を絞り, 対外関係を重視しつつ講義する.
【**キーワード**】**国民国家, ナショナリズム, 文明化, 近代化, 国際関係**
【**関連科目**】『地域交流史』(0.5, ⇒26 頁)
【**到達目標**】特に, 講義でとりあげる各国の近代化過程を比較しつつ理解することを目標及びテーマとする.
【**授業計画**】**1.** ガイダンス **2.** フランス革命:描かれた近代世界 **3.** 近代社会を生きるということ:フランスの事例 **4.** フランス国民の内と外 **5.** 小テスト **6.** 「国民国家」の基本的特徴 **7.** 統一国家ドイツの成立過程と国民統合—内政上のいくつかの論点に即して **8.** ドイツ帝国における国民統合とナショナリズムの機能—外交政策との関わりで **9.** 江戸時代から明治国家へ ~ 国家の変容と「国家観」~ **10.** 近代日本の「国民」像 ~ 理想と現実 ~ **11.** 文明化と近代化・平和主義と民族主義 ~ 単一民族神話の誕生 ~ **12.** 伝統的中華世界の国際関係 **13.** 西力東漸:ウエスタンインパクト 西方からの衝撃 **14.** 十九世紀末中華帝国の崩壊:東アジアにおける近代的国家関係の形成 **15.** テスト **16.** 総括授業
【**成績評価**】出席状況・レポート・テストなどの結果をもとに総合的に評価する.
【**再試験**】再試験は実施しない.
【**教科書**】プリントを配布する.
【**参考書**】講義中に適宜指示する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218542
【**連絡先**】
⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)
⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:30-18:00)
⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日11:50~ 13:00, メールで連絡を下されば, 返信します. megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝一コマ目の前がよい. 事前メールでアポイントをとるともっとよい.)

心理学の基礎 I

2 単位 (選択) 1 年 (前期)
山本 真由美・教授/人間文化学科

【**授業目的**】本授業では, 心理学のさまざまな分野のうち, 発達を心理学的観点から検討する. 従来の発達心理学では, 人間が成長, 発達していく時期は乳幼児期から青年期までと考えられていた. しかし, 長寿化, 価値観や生き方の多様化という社会の中で成人期以降でも自分らしい生き方の模索などは共通課題であると考えられるようになってきた. そこで, 生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ, 生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする.
【**授業概要**】生涯にわたって発達し続ける存在である人間の発達の基本的知識を獲得し, 人間について考える.
【**キーワード**】**生涯発達, 個人と環境, 相互性**
【**関連科目**】『心理学の基礎 II』(0.5, ⇒22 頁), 『健康体力科学の基礎』(0.5, ⇒23 頁), 『哲学・思想の基礎』(0.5, ⇒21 頁)
【**履修上の注意**】主体性を持って学ぶことを期待する.
【**到達目標**】
1. 人間科学に関わる幅広い知識の理解; 生涯発達の意味を理解し, 説明できる. それぞれの発達期にある課題を理解する.
2. 豊かな人間性の涵養:個性ある人間の姿に気づく.
3. 現代社会の諸問題を分析する能力と技能の養成:発達に関する現代社会の課題に気づく.
【**授業計画**】**1.** ガイダンス **2.** ライフサイクルとは **3.** 乳児期 **4.** 幼児期 **5.** 児童期 **6.** 思春期 **7.** 青年期 **8.** 成人初期 **9.** 成人中期 **10.** 成人後期 **11.** 中間振り返り **12.** 子どもの発達課題 **13.** 大人の発達課題 **14.** ライフサイクルの見直し **15.** テスト **16.** 総括
【**成績評価**】小レポート, 受講態度, 発表態度, 期末レポートの結果を勘案し, 総合評価する.
【**再試験**】再試験もしくは再レポートを行う.
【**教科書**】今年度は特に使用しない.
【**参考書**】必要に応じて配布する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218724
【**連絡先**】
⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日:12:00~ 12:50)

心理学の基礎 II

2 単位 (選択) 1 年 (後期)
内海 千種・講師/人間文化学科

【**授業目的**】近年, 心理学に関連した資格を持つ専門家の役割が認識され, 社会的にも関心を寄せられるようになっています. しかし, 一般にいわれている「こころ」についての考えは, 必ずしも心理学でいわれている知見と一致するわけではありません. 本授業では, 学問としての臨床心理学の視点から,「こころ」に対するアプローチの紹介を目的とします.
【**授業概要**】臨床心理学の歴史を概観した後, 心理学的な支援を行う際に必要となるアセスメント, 理論, 技法などについて講義します. また, 心理臨床家が支援をおこなっている領域について概観します.
【**キーワード**】**臨床心理学, アセスメント, 心理療法**
【**到達目標**】臨床心理学における基本的な理論や技法を理解し, 心理臨床家が支援する様々な領域について認識することを目標とします.
【**授業計画**】**1.** はじめに **2.** 臨床心理学とは **3.** 臨床心理学の資格と仕事 **4.** 臨床心理学の対象①発達に関して **5.** 臨床心理学の対象②適応に関して **6.** アセスメントの方法①面接と検査 **7.** アセスメントの方法②行動・発達 **8.** アセスメントの方法③その他 **9.** おもな理論と技法①精神分析・分析心理学 **10.** おもな理論と技法②クライエント中心療法 **11.** おもな理論と技法③芸術・表現療法 **12.** おもな理論と技法④その他 **13.** 危機介入とコンサルテーション **14.** 臨床アプローチ **15.** 学期末試験 **16.** 総括
【**成績評価**】2/3 以上の出席者にのみ学期末試験を実施します. 評価は,授業への取り組み状況, 学期末試験の成績から総合的に行います.
【**再試験**】無
【**教科書**】教科書は使用しません. 参考図書を紹介しながら,適宜資料を配布します.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218725
【**連絡先**】
⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
【**備考**】何らかの心の問題を抱えている人を支援するには,心理学はもちろんのこと,幅広い知見と柔軟な思考が必要です. 他の関連科目もしっかりと学習してください.

ヘルスプロモーションの基礎

2 単位 (選択) 1 年 (前期)
小原 繁・教授/人間文化学科, 佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 野村 昌弘・

【**授業目的**】身体の仕組みを学ぶとともに, 健康の保持増進のために必要な基本的な医学的な知識と運動の在り方, さらには健康増進を図る上での政策や組織的取り組みに対する理解と基礎知識を身につける.
【**授業概要**】生きる力の基礎としての健康と体力の意義を考え, 加齢と運動, 生活習慣病と予防, 健康づくり政策について学び, ヘルスプロモーションにおける基本的な知識と方法を理解する.
【**キーワード**】**健康, 生活習慣病, 行動変容, 身体活動**
【**到達目標**】
1. 生活習慣病とは何かを理解する.
2. 生活習慣病予防のための運動の在り方を理解する.
3. 健康維持のための日常生活の在り方を理解する.
【**授業計画**】**1.** 健康と体力・生きる力 **2.** 疾病予防と健康管理 **3.** 加齢と運動処方:運動強度・持続時間・頻度に対する理解 **4.** 加齢と運動処方:運動強度と身体の反応:一過性の反応 **5.** 加齢と運動処方:運動継続にともなう身体の変化:トレーニング効果 **6.** 生活習慣病の発生機序 **7.** 糖尿病とその予防 **8.** 高血圧・高脂血症と関連疾患, その予防 **9.** 高齢者介護とその予防 **10.** 疫学の意義 **11.** 運動行動変容の理論 **12.** 健康づくりのソーシャルマーケティング **13.** トランスセオレティカル・モデルと行動変容プログラムの開発 **14.** 地方分権時代におけるヘルスプロモーション **15.** まとめ **16.** 試験
【**教科書**】無し
【**参考書**】プリント配布
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218996
【**連絡先**】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後5時から6時)
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康体力科学の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

三浦 哉・准教授/人間文化学科, 荒木 秀夫・教授/人間文化学科
的場 秀樹・教授/人間文化学科, 佐竹 昌之・准教授/人間文化学科

【授業目的】健康と体力の問題を，エネルギー代謝系と情報処理系をテーマとする生理科学・運動科学の諸知見を学んだ上で，人間生活における健康体力の意義を理解する．

【授業概要】現代社会における健康問題は，次第に複雑な様相を示しつつある．その最大の特徴は，身心が相互に関係し合い，様々な身体・運動能力の変化が相乗的に影響し合うといったバランスの欠如にある．この問題を正しく捉えるために，神経系，筋系，呼吸循環器系，代謝系，運動機能に関わる基礎的な理解を踏まえ，日常生活における具体的な健康体力の諸問題の解決策を学習する．

【キーワード】健康，体力，身体，運動

【先行科目】『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0, ⇒22 頁)

【到達目標】健康と体力に関する科学的基礎知識を得る

【授業計画】 **1.** 現代社会における健康体力問題 **2.** 健康と体力の評価 **3.** 呼吸循環器機能から見た健康問題 **4.** 体力を支える筋機能とエネルギー代謝 **5.** 運動の仕組み—バイオメカニックスと運動生理学— **6.** 運動とホルモン **7.** 健康と脳・神経 **8.** 健康のための基礎運動-トレーニング論- **9.** 健康のための基礎運動-スポーツ論- **10.** 脳に及ぼす運動効果 **11.** 栄養と食事 **12.** 中高齢者のための健康運動 **13.** トレーニング計画 **14.** 健康のための運動実践 **15.** 総括授業—日常生活と健康志向- **16.** 試験

【成績評価】中間試験・レポートと期末試験による総合評価

【再試験】原則として再試験は行わない．

【教科書】必要に応じて授業用のテキストを配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218562

【連絡先】
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

人間文化学科 国際文化コース 授業概要

● コア科目

比較文化研究 …依岡・ヘルベルト/2 年 (後期)……25
比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期)……26
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期)……26
比較社会論 …上野/2 年 (後期)……26
世界経済論 I …水島/3 年 (前期)……26
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期)……27
実用外国語演習 (英語) 総論 …山内/3 年 (前期, 後期)……27
実用外国語演習 (英語) …福田/3 年 (前期)……27
実用外国語演習 (英語) …座喜/3 年 (前期)……28
実用外国語演習 (英語) …福田/3 年 (後期)……28
実用外国語演習 (英語) …座喜/3 年 (後期)……28
実用外国語演習 (英語) …宮崎/3 年 (前期)……28
実用外国語演習 (英語) …吉田/3 年 (前期)……28
実用外国語演習 (英語) …桂/3 年 (後期)……29
実用外国語演習 (英語) …山内/3 年 (後期)……29
実用外国語演習 (英語) …ポンド・佐久間/3 年 (前期)……29
実用外国語演習 (英語) …ポンド・佐久間/3 年 (後期)……29
実用外国語演習 (英語) …スティーヴンズ/3 年 (前期)……30
実用外国語演習 (英語) …スティーヴンズ/3 年 (後期)……30
実用外国語演習 (英語) …スタージ/3 年 (前期)……30
実用外国語演習 (英語) …スタージ/3 年 (後期)……30
実用外国語演習 (中国語) …李/3 年 (前期)……30
実用外国語演習 (中国語) …李/3 年 (後期)……30
実用外国語演習 (中国語) …李/3 年 (前期)……30
実用外国語演習 (中国語) …李/3 年 (後期)……30
異文化間コミュニケーション …坂田/2 年 (前期, 集中)……30

● コース選択科目

日本言語概説 I …岸江/2 年 (前期)……31
日本言語概説 II …仙波/2 年 (後期)……31
日本言語研究 I …岸江/3 年 (前期)……31
日本言語研究 II …仙波/3 年 (後期)……31
日本文学研究 I …鳥羽/2 年 (前期)……32
日本文学研究 II …堤/2 年 (後期)……32
日本文学研究 II …原水/2 年 (後期)……32
日本文学講読 I …堤/2 年 (前期)……32
日本文学講読 II …原水/2 年 (前期)……33
日本文学講読 III …鳥羽/2 年 (後期)……33
日本言語演習 …仙波/3 年 (前期), 4 年 (前期)……33
日本言語演習 …仙波/3 年 (後期), 4 年 (後期)……33
日本言語演習 …岸江/3 年 (前期), 4 年 (前期)……34
日本言語演習 …岸江/3 年 (後期), 4 年 (後期)……34
日本文学演習 …堤/3 年 (前期), 4 年 (前期)……34
日本文学演習 …堤/3 年 (後期), 4 年 (後期)……35
日本文学演習 …野口/3 年 (前期), 4 年 (前期)……35
日本文学演習 …野口/3 年 (後期), 4 年 (後期)……35
日本史基礎研究 I …衣川/2 年 (前期)……35
日本史基礎研究 II …桑原/2 年 (後期)……36
日本史研究 I …衣川/2 年 (前期)……36
日本史研究 II …桑原/2 年 (後期)……36
日本史演習 …桑原/3 年 (前期), 4 年 (前期)……36
日本史演習 …桑原/3 年 (後期), 4 年 (後期)……37
日本史演習 …衣川/3 年 (前期), 4 年 (前期)……37
日本史演習 …衣川/3 年 (後期), 4 年 (後期)……37
東アジア文化論 …有馬・田中・邵/2 年 (前期)……37
東アジア文化論講読 I …有馬/2 年 (前期)……37
東アジア文化論講読 II …田中/2 年 (後期)……38
考古学基礎研究 I …東/2 年 (前期)……38
考古学基礎研究 II …中村/2 年 (後期)……38
考古学研究 …東/2 年 (前期)……38
考古学演習 …東/3 年 (前期), 4 年 (前期)……39
考古学演習 …東/3 年 (後期), 4 年 (後期)……39
アジア史基礎研究 I …葭森/2 年 (後期)……39
アジア史基礎研究 II …荒武/2 年 (後期)……39
アジア史研究 I …葭森/2 年 (後期)……39
アジア史研究 II …荒武/2 年 (後期)……40
東アジア文化演習 …有馬/3 年 (前期), 4 年 (前期)……40
東アジア文化演習 …有馬/3 年 (後期), 4 年 (後期)……40
東アジア文化演習 …邵/3 年 (前期), 4 年 (前期)……40
東アジア文化演習 …邵/3 年 (後期), 4 年 (後期)……40
東アジア文化演習 …葭森/3 年 (前期), 4 年 (前期)……41
東アジア文化演習 …葭森/3 年 (後期), 4 年 (後期)……41
東アジア文化演習 …荒武/3 年 (前期), 4 年 (前期)……41
東アジア文化演習 …荒武/3 年 (後期), 4 年 (後期)……41
東アジア文化演習 …田中/3 年 (前期), 4 年 (前期)……42
東アジア文化演習 …田中/3 年 (後期), 4 年 (後期)……42
英米言語研究 I …井上・山田/2 年 (前期, 集中)……42
英米言語研究 II …元木・山田/3 年 (前期)……42
英米言語研究 III …山田/2 年 (前期)……42
英米言語研究 IV …森岡/2 年 (後期)……43
現代英語研究 I …森岡/2 年 (前期)……43
現代英語研究 II …スタージ/3 年 (後期)……43
現代英語研究 III …スティーヴンズ/2 年 (前期)……43
現代英語研究 IV …スタージ/2 年 (後期)……43
現代英語研究 IV …スタージ/3 年 (後期)……44
英米言語演習 …山田/3 年 (前期), 4 年 (前期)……44
英米言語演習 …山田/3 年 (後期), 4 年 (後期)……44
英米言語演習 …森岡/3 年 (前期), 4 年 (前期)……44
英米言語演習 …森岡/3 年 (後期), 4 年 (後期)……44
英米言語演習 …スティーヴンズ/3 年 (前期), 4 年 (前期)……44
英米言語演習 …スティーヴンズ/3 年 (後期), 4 年 (後期)……45
英米言語演習 …福田/3 年 (前期), 4 年 (前期)……45
英米言語演習 …福田/3 年 (後期), 4 年 (後期)……45
英米文化研究 I …吉田/2 年 (前期)……46
英米文化研究 II …山内/2 年 (後期)……46
英米文学研究 …山内/2 年 (前期)……46
英米文学講読 I …宮崎/2 年 (後期)……47
英米文学講読 II …樋口/3 年 (後期)……47
英米文学演習 …山内/3 年 (前期), 4 年 (前期)……47
英米文学演習 …山内/3 年 (後期), 4 年 (後期)……47
英米文学演習 …樋口/3 年 (前期), 4 年 (前期)……47
英米文学演習 …樋口/3 年 (後期), 4 年 (後期)……48
英米文学演習 …スタージ/3 年 (前期), 4 年 (前期)……48

英米文学演習 …スタージ/3 年 (後期), 4 年 (後期) 48
英米文学演習 …宮崎/3 年 (前期), 4 年 (前期) 48
英米文学演習 …宮崎/3 年 (後期), 4 年 (後期) 48
英米文学演習 …吉田/3 年 (前期), 4 年 (前期) 48
英米文学演習 …吉田/3 年 (後期), 4 年 (後期) 49
ヨーロッパ文学研究 …石川・井戸/2 年 (前期) 49
ヨーロッパ文学演習 …石川/3 年 (前期), 4 年 (前期) 49
ヨーロッパ文学演習 …石川/3 年 (後期), 4 年 (後期) 49
ヨーロッパ文学演習 …井戸/3 年 (前期), 4 年 (前期) 50
ヨーロッパ文学演習 …井戸/3 年 (後期), 4 年 (後期) 50
ヨーロッパ文化研究 …桂/2 年 (前期) 50
ヨーロッパ文化研究 …田島/2 年 (前期) 51
ヨーロッパ文化演習 …田島/3 年 (前期), 4 年 (前期) 51
ヨーロッパ文化演習 …田島/3 年 (後期), 4 年 (後期) 51
ヨーロッパ文化演習 …桂/3 年 (前期), 4 年 (前期) 51
ヨーロッパ文化演習 …桂/3 年 (後期), 4 年 (後期) 51
比較文化演習 …依岡/3 年 (前期), 4 年 (前期) 51
比較文化演習 …依岡/3 年 (後期), 4 年 (後期) 52
比較文化演習 …ヘルベルト/3 年 (前期), 4 年 (前期) 52
比較文化演習 …ヘルベルト/3 年 (後期), 4 年 (後期) 52
比較文化演習 …座喜/3 年 (前期), 4 年 (前期) 52
比較文化演習 …座喜/3 年 (後期), 4 年 (後期) 52
ヨーロッパ思想研究 …吉田・山口・石田/2 年 (後期) 52
ヨーロッパ思想演習 …吉田/3 年 (前期), 4 年 (前期) 53
ヨーロッパ思想演習 …石田/3 年 (前期), 4 年 (前期) 53
ヨーロッパ思想演習 …山口/3 年 (前期), 4 年 (前期) 53
ヨーロッパ思想演習 …吉田/3 年 (後期), 4 年 (後期) 53
ヨーロッパ思想演習 …石田/3 年 (後期), 4 年 (後期) 53
ヨーロッパ思想演習 …山口/3 年 (後期), 4 年 (後期) 54
ヨーロッパ史研究 I …佐久間/2 年 (前期) 54
ヨーロッパ史研究 II …長井/2 年 (前期) 54
ヨーロッパ史研究 III …今井/2 年 (後期) 54
アメリカ史研究 …吉岡・今井/2 年 (前期) 55
欧米歴史・社会演習 …佐久間/3 年 (前期), 4 年 (前期) 55
欧米歴史・社会演習 …佐久間/3 年 (後期), 4 年 (後期) 55
欧米歴史・社会演習 …長井/3 年 (前期), 4 年 (前期) 55
欧米歴史・社会演習 …長井/3 年 (後期), 4 年 (後期) 56
欧米歴史・社会演習 …今井/3 年 (前期), 4 年 (前期) 56
欧米歴史・社会演習 …今井/3 年 (後期), 4 年 (後期) 56
欧米歴史・社会演習 …吉岡/3 年 (前期), 4 年 (前期) 57
欧米歴史・社会演習 …吉岡/3 年 (後期), 4 年 (後期) 57
日本語教育方法論 I …三隅/2 年 (前期) 57
日本語教育方法論 II …橋本/2 年 (後期) 57
日本語教授法 I …大石/2 年 (前期) 57
日本語教授法 II …橋本/2 年 (後期) 57
日本語教材研究 …大石/2 年 (後期) 58
書道 …蓑毛・堤/2 年 (後期, 集中) 58
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期) 58
音楽学 …片岡/2 年 (後期) 58
デスクトップミュージック …宮澤/2 年 (後期) 59
現代音楽芸術論 …宮澤/2 年 (前期) 59
日本経済論 …中嶋/3 年 (前期) 59
地域経済論 …中嶋/3 年 (前期) 59
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期) 60
地域文化論 II …髙橋/3 年 (後期) 60
社会変動論 …樋口/2 年 (前期) 60
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期) 61

● 総合科学テーマ科目

日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期) 61
運動文化論 …中村/2 年 (前期) 61
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 61
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期) 62
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期) 62
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期) 62
地域政策論 I …北村/2 年 (後期) 62
共生社会論 …樫田/3 年 (後期) 63
メディア情報論 …河原崎/3 年 (後期) 63
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期) 63
情報と職業 …吉田/2 年 (後期) 64
情報の数理 …中山/3 年 (前期) 64
現象の数理 …小野/3 年 (後期) 64
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期) 64
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期) 64
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 65
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 65
環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 65
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 65
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 66
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 66
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) 66

比較文化研究

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
依岡 隆児 · 教授 / 人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である．現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め，異文化研究の方法と実情を概観していく．特に，グローバル化とその問題点を紹介する．社会的マイノリティの存在や移民の問題，モダニズムの問題，そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく．個々の文化現象の間に思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい．

【授業概要】比較文化研究，異文化理解，マイノリティの立場の理解，近代化の問題

【キーワード】比較文化，異文化理解，マルチカルチャー，近代化，日本文化

【履修上の注意】受講者は日々，新聞や雑誌，映画などで異文化の問題について関心を養っていってもらいたい． [

【到達目標】 比較文化研究についての理解とその方法の習得．多文化社会と文化変容への理解を深めること

【授業計画】1. 導入:課題発想的な比較文化研究の概念を検討する． **2.** 「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題を概観する． **3.** 映画やドキュメンタリー · ビデオ，新聞記事なども適宜利用して，従来の学問区分に必ずしもとらわれない学際的 · 総合的な研究方法を示していく． **4.** 具体的には，日本国内外の代表的な日本文化論を概観し，それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する．文化間の影響関係として，具体的には，日本の西洋モダニズム受容や，海外におけるジャポニズムから最近のマンガ · アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる．また，日本文化論に内在するナショナリズムやイデオロギー性を批判的に考察する．日本文化の雑種性への感受性を大切にし，既存の日本文化のイメージにとらわれない，新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく．地域文化 (徳島) と国際性といったテーマも取り上げる予定．

【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として，レポートの提出による．

【再試験】有

【教科書】教科書は使わない．教材は適宜，授業中にプリント等を配布するなどして準備する．

【参考書】

◇ 参考書として，西川長夫偏『増補 国境の越え方』平凡社．稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会．新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社．カミュ『異邦人』新潮文庫．谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫．モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫．ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫．戴エイカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店．E．W．サイード『オリエンタリズム』平凡社．
◇ 依岡隆児『読書のススメ ～ 四国から，グローカルに ～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218952
【連絡先】
⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：火曜日12jから13時まで)
⇒ ヘルベルト (088-656-7145，wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】今年度は依岡が担当する．

比較文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
有馬 卓也・教授/人間文化学科，田島 俊郎・教授/人間文化学科
桂 修治・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること．
【授業概要】従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする．日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について，担当の教員がそ今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の 3 セクションに分けて，それぞれのセクションに各人 1 回程度講義を提供する．その際，それぞれにテーマを提示したうえで，担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して，具体的な事例をもとに論じていく．概要の趣旨に沿って，「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる．.「自文化と異文化」「文学 (レトリック，物語・民間伝承など)」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばられることになろうが，その際にも，具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる．
【キーワード】**比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容**
【到達目標】国際的感覚を涵養し，総合的な文化研究を身につけること．
【授業計画】**1.** 導入「比較文化」とはなにか? **2.** セクション 1「未知の世界に触れる」(1 回目から 5 回目まで):「文化」とは何かを考えながら，様々な世界の見方を提示する．好奇心の大切さ，比較という方法について述べる．個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「犯罪」「自文化/他文化」「日本の中の異文化」など **3.** セクション 2「違いを楽しむ」(6 回目から 10 回目まで) 多面的にものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する．個別のテーマとしては，「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「レトリック」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禅」など **4.** セクション 3「つながりを見つける」(11 回目から 15 回目まで) 文化の中の違いを認めながらも，そこに思いがけないつながりを見つけ，総合的に世界を見ること提示する．個別のテーマとしては，「交流」「異文化教育」「文化の影響」「シナジー」「情調における文化の交感」など
【成績評価】期末レポートと平常点．期末レポートは 5 人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの．平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う．
【再試験】有
【教科書】必要に応じてプリントなどを配布する．
【参考書】各教員から授業の中で課題図書が示される．
【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2010.html
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218954
【連絡先】
⇒ 有馬 (088-656-7119，arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：随時可)
⇒ 田島 (088-656-7144，tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：木曜日 12 時から 13 時)
⇒ 桂 (2308，0886-656-7136，katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：水曜 3·4 時間，金曜 5·6)
⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：火曜日 12 時から 13 時)
⇒ ヘルベルト (088-656-7145，wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域交流史

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
東 潮・教授/人間文化学科，葭森 健介・教授/人間文化学科
衣川 仁・准教授/人間文化学科，佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通じ，各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を講義する．併せて学生がテーマを理解し，日本及び世界の未来について考え，国際人としての基礎知識と自覚を涵養する．
【授業概要】日本が東アジアの交流から国家を形成し，東アジア史の一翼を担うところから出発し，大航海時代を経て，東洋と西洋が出会い，世界史が形成される過程を講義する．
【キーワード】**地域交流，世界史，国際関係**
【履修上の注意】高校で習った世界史，日本史の授業内容を復習しておくこと．
【到達目標】学生が将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し，日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする．
【授業計画】**1.** 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る **2.** 册封体制と日本—日本国家の成立と東アジア史 (葭森) **3.** 邪馬台国と倭国 (東) **4.** 四-六世紀における東アジアの国際環境 (東) **5.** 飛鳥時代の国際環境 (東) **6.** 六朝隋唐国家と古代日本国家-律令制とは (葭森) **7.** 大陸・半島から日本へ (衣川) **8.** 東夷の小帝国-「日本」の自覚 (衣川) **9.** 中世日本と東アジアの交流 (衣川) **10.** モンゴル・ウルスの衝撃-世界史の序曲 (葭森) **11.** 大航海時代・黒死病・奴隷 (佐久間) **12.** プラントハンター・植物園・帝国の手先 (佐久間) **13.** イギリスのインド支配-熱帯をいかに飼い馴らすか-(佐久間) **14.** お茶・陶磁器・絹・銀そしてアヘン-貿易から戦争の時代へ (葭森) **15.** 期末試験 **16.** 地域交流と歴史-授業の総括 (葭森・東・衣川・佐久間)
【成績評価】授業への参加姿勢と期末試験で総合的に評価
【再試験】再試験はしない
【教科書】なし．授業でプリントを配布
【参考書】授業中に適宜紹介
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218780
【連絡先】
⇒ 東 (088-656-7155，azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 葭森 (アジア史研究室，088-656-7156，yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：月曜日 13:30~ 15:00)
⇒ 衣川 (088-656-7153，kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐久間 (088-656-7152，sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較社会論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】「愛とケアの南北問題」について理解を深める．
【授業概要】少子高齢化，女性の就労，共働き世帯の増加などで生じた経済先進諸国での「ケア・クライシス」を解決するにはいくつかの方法が考えられる．本講義では，それらの方法を比較検討し，そのなかでも主に各々の家族が経済発展の遅れた国から安い賃金の女性労働者や「花嫁」を調達するアジア家族福祉レジームをシンガポールなどを例にみていく．そして，そのシステムの中で国境を越えて働く女性たちの生活の一部を紹介したい．
【キーワード】**家族の神話，貧困・格差**
【到達目標】
1. 女性の移動を，「コモンの侵食」「ケア流出」といった南北問題をして捉えることができる．
2. 本講義で議論する「ケア・クライシス」をグローバル化社会に生きる自分たちの問題として捉えることができるようになる．
【授業計画】**1.** オリエンテーション — 再生産労働のグローバル化 **2.** 国際労働移動の諸要因 **3.** アジア家族福祉レジーム **4.** 外国人家事・ケア労働者としての生活 **5.** 底辺労働者の抵抗のストラティジー **6.** 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント **7.** 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント **8.** NGO で作られるヒロインたち **9.** トランスナショナルなライフコース **10.** 日本での外国人研修生・実習生制度 **11.** 日本での外国人研修生・実習生制度 **12.** 結婚での国際移動 **13.** 結婚での国際移動 **14.** インドネシア・フィリピンの外国人介護士・看護士 **15.** 愛とケアの南北問題 **16.** まとめ
【成績評価】毎回のリアクションペーパーと学期末のレポートで評価
【再試験】無
【教科書】上野加代子『なぜ女は国境を越えるのか — アジアの出稼ぎ家事労働者』(仮題) 世界思想社，2011 年
【参考書】毎回の授業レジメで紹介
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218949
【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682，ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

世界経済論 I
World Economy1

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は，その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し，その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた．講義では，この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う．

【授業概要】世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【キーワード】**貿易理論，学説史，開発政策，政治経済学**

【到達目標】学説史，学説，現状に係わる論点の理解．

【授業計画】 **1.** 産業資本主義以前の世界経済 (遠隔地貿易と重商主義) **2.** 自由貿易論の系譜 (1)(Adam Smith の時代と貿易論) **3.** 自由貿易論の系譜 (2)(D.Ricardo の時代と貿易論) **4.** 自由貿易論の系譜 (3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論) **5.** 世界経済構造の批判的理解 (1)(K.Marx の「プラン」後半体系) **6.** 保護貿易論の系譜 (1)(途上国の TCC 批判：ドイツ歴史学派) **7.** Л е н и н『帝国主義論』: 世界大戦の原因 **8.** 「相対的安定期」·1929 年世界恐慌と「ブロック経済」 **9.** 自由貿易帝国主義論：Л е н и н『帝国主義論』批判 **10.** (通常上記の項目は 1 回で終わらない．以下の時間は延長の場合に使用する．)

【成績評価】筆記試験

【再試験】なし

【教科書】講義中に配付する資料を用いる．

【参考書】参照すべき図書は，適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220351

【連絡先】

⇒ 水島 (2203，088-656-7188，mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

国際関係論 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
饗場 和彦 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】米ソがにらみ合った冷戦中は，明日にも第三次世界大戦が起き，核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった．89 年，米ソ首脳が握手をかわし，幸運にも人類は冷戦を脱した．ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが，まもなく幻滅が広がった．噴出する内戦 · 民族紛争と，拡大する貧富の格差．新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると，9/11 テロの衝撃が世界を揺るがした．そして今，アフガン戦争，イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され，国際社会はいったい，どこに行こうとしているのか．この授業では，こうした変動する現代国際社会の現実を知り，そこで生起する諸問題について，特に平和と戦争に関係する観点を中心に，考察する．

【授業概要】国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ．授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも，筆者のフィールドワーク (紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など) や，新聞記者の経験などに基づく"教科書に載っていない"解説も試みたい．また，適宜，時事的な国際ニュースも取り上げ，ビデオやスライドも使う．国際関係論 I では，主に総論的，理論的，概念的な問題を扱う．

【キーワード】**戦争，戦争**

【履修上の注意】国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており，一方だけ受講することもできるが，I で総論的，基礎的な解説を行い，II ではそれを元に各論的，発展的な内容になる面もあるので，連続して受講する方が望ましい．

【到達目標】国際社会の性質，特徴を理解すること． 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について，基本的な事実関係，実態を知ること．国際政治と国際法の基本について，とらえ方，原理，原則を把握すること．「冷静な現実主義」と，「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと．

【授業計画】**1.** 国際社会の成り立ちと特徴 (1) **2.** 国際社会の成り立ちと特徴 (2) **3.** 国際法の基本 (1) **4.** 国際法の基本 (2) **5.** 国際社会を見る理論的枠組 (1) **6.** 国際社会を見る理論的枠組 (2) **7.** 国際安全保障の諸理論 (1) **8.** 国際安全保障の諸理論 (2) **9.** 民族とアイデンティティ (1) **10.** 民族とアイデンティティ (2) **11.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(1) **12.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(2) **13.** 戦争の違法化 (1) **14.** 戦争の違法化 (2) **15.** 補足と総括 **16.** 試験

【成績評価】授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらうが，それらで出欠の確認も行う．試験は論述式 (短答式と長文論述併用) の期末試験を行う．持ち込み不可．成績は試験の結果に，出席状況，授業中の質疑応答などを加味して判断する．

【再試験】行わない．ただし，僅差で合格点に達しない受講者には，一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える．

【教科書】教科書は特に指定せず，授業中に配布するレジュメ，資料に沿って解説する．参考書などは適宜，紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220346

【連絡先】

⇒ 饗場 (088-656-7186，aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30，金曜日14:30~ 16:00．この時間以外でも在室時は随時可．)

実用外国語演習 (英語) 総論

2 単位 (選択) 3 年 (前期，後期)
山内 暁彦 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】この演習は，国際文化コースのコースコア科目である．全学共通教育や実用外国語基礎演習で培ってきた英語の能力を，より実用的なコミュニケーションの道具として使えるレベルに高めることを目標とする．したがって，演習での力点は文法事項などを教えることよりも，多くの語彙を習得し，日本語を介さずに英語を英語のままで理解するためのトレーニングを与えることに置かれる．そのため，テキスト教材のみならず，小説の朗読，ニュース，ドキュメンタリー，映画やドラマなどの音声視覚教材を駆使し，現代の生きた英語によるコミュニケーション能力の向上をはかる．また，ネイティヴ教員のクラスにあっては，英語で文章を書いたりスピーチをしたりする能力をさらに高め，高度なレベルのプレゼンテーション能力を身につけることを目的とする．受講者は与えられた課題をこなすだけではなく，演習で提示されるさまざまなトレーニングを自ら実践することが要請される．言うまでもなく，実用英語のレベル向上は，日々の自発的トレーニング抜きには期待できない．この演習を刺激として，英語によるコミュニケーション能力という一生の財産となりうる確かな技能を身につけて欲しい．

【授業概要】この演習は，学習効果を高めるために演習 A と演習 B とに分けて実施される． 演習 A: 日本人教員が担当し，週 1 回，木 3-4 に 2 クラスを開講する．1 クラスは 30 人程度とする．コンピュータや LL 機器などを利用して，TOEIC，TOEFL，英検などの資格試験も念頭において，様々な演習を行なう． どちらのクラスを受講するかは，希望調査をもとに決定するが，クラスの人数に偏りが出た場合は調整をすることがある． 演習 B: ネイティヴ教員またはそれに準ずる教員が担当し，別々の時間帯に週 5 回，各 1 クラスを開講する．(2011 年度は，月 5-6，火 3-4，水 3-4，水 7-8，金 7-8 に開講される) 1 クラス 10 人程度の少人数クラスとする．実用外国語基礎演習などでの基礎訓練で培った聞く力，話す力を，実践によって磨く場である．ネイティヴ教員の指導の下，テーマディスカッションなどを中心に演習を行なう．どのクラスを受講するかは，希望調査をもとに調整のうえ決定する．

【キーワード】**プレゼンテーション，リスニング，スピーキング，ライティング，ディクテーション，シャドーイング**

【履修上の注意】この演習と実用外国語基礎演習 (英語) は，ひとまとまりの学習プログラムとして実施されるので，以下のような順序で履修することが望ましい． (2 年前期) 実用外国語基礎演習 (英語)I(2 単位) → (2 年後期) 実用外国語基礎演習 (英語)II(2 単位) → (3 年前期) 実用外国語演習 (英語) コア A，B の両方 (各 2 単位，計 4 単位) → (3 年後期) 実用外国語演習 (英語) コア A，B の両方 (各 2 単位，計 4 単位)

【到達目標】実用外国語基礎演習 (英語)I および II を踏まえ，より実用的な英語の運用能力を獲得し，より総合的な英語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする．

【授業計画】個々の担当者のシラバスを参照すること．

【成績評価】平常点や期末試験の成績が評価に占める割合も含めて，個々の担当者のシラバスを参照すること．

【再試験】行なう．

【教科書】個々の担当者のシラバスを参照すること．

【参考書】個々の担当者のシラバスを参照すること．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221805

【連絡先】

⇒ 山内 (3308，088-656-7132，yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~ 13時)

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
福田，スティーブ · 利久 · 講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】Become accustomed to using English through English

【授業概要】Students will decide on a social problem or current event to work with during the semester. With his or her social problem the student will keep up with the news through newspapers, magazine and Internet articles, Internet blogs, or TV and movie documentary and films outside of class. In the class, the students will be required to participate in discussions concerning their topic.

【キーワード】***academic reading, academic writing, academic discussions***

【到達目標】①【知識・理解】 Students will learn how to use different forms of media for pursuing their studies. ②【汎用的技能】 Students will have a better command of academic reading and discussion skills. ③【態度・志向性】 Students will gain confidence in using academic readings and discussions and not shy away from opportunities to gather information in English. ④【統合的な学習経験と創造的思考力】 Students will become an expert in a social issue and gain the motivation to follow up on the issue from a disciplinary boundary as well.

【授業計画】 第 1 回:needs analysis deciding a topic 第 2 回:finding information on your topic 第 3 回:learning how to read articles 第 4 回:learning to write and take notes 第 5 回:learning to present and discuss 第 6~ 9 回:discussing readings and writings 第 10 回:reflection of topic 第 11~ 14 回:discussing readings and writings 第 15 回:final presentations and report submission 第 16 回:final presentations and reflection

【成績評価】Assessment will be based on reading and writing homework, class discussions, final presentations and reports.Teacher-student and student-student communication in class will be conducted in English. Students are recommended to think about or even choose a social problem before attending the first class.

【再試験】none

【教科書】none

【参考書】マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳)2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220080

【連絡先】
⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう.)

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
座喜 純 · 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 This class formed to give students exposure to and practice with the English writing or speech-making process from collecting ideas to the final version. Students will learn how to build paragraphs and outlines, and proof-reading for English essays or speech presentations.

【授業概要】English composition and speech presentation

【キーワード】***LIstening, speaking, writintg***

【到達目標】By the end of this course, students should be able to write and present competently on almost any topic.

【授業計画】**1.** General Class Guidance **2.** Topic 1 **3.** Presentation **4.** Topic 2 **5.** Presentation **6.** Topic 3 **7.** Presentation **8.** Topic 4 **9.** Presentation **10.** Topic 5 **11.** Presentation **12.** Topic 6 **13.** Presentation **14.** Topic 7 **15.** Presentation

【成績評価】 weekly attendance, participation to class work, and homework are very important

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220081

【連絡先】
⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
福田, スティーブ · 利久 · 講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】Become accustomed to using English through English

【授業概要】Students will decide on a social problem or current event to work with during the semester. With his or her social problem the student will keep up with the news through newspapers, magazine and Internet articles, Internet blogs, or TV and movie documentary and films outside of class. In the class, the students will be required to participate in discussions concerning their topic.

【キーワード】***academic reading, academic writing, academic discussions***

【到達目標】①【知識・理解】 Students will learn how to use different forms of media for pursuing their studies. ②【汎用的技能】 Students will have a better command of academic reading and discussion skills. ③【態度・志向性】 Students will gain confidence in using academic readings and discussions and not shy away from opportunities to gather information in English. ④【統合的な学習経験と創造的思考力】 Students will become an expert in a social issue and gain the motivation to follow up on the issue from a disciplinary boundary as well.

【授業計画】 第 1 回:needs analysis deciding a topic 第 2 回:finding information on your topic 第 3 回:learning how to read articles 第 4 回:learning to write and take notes 第 5 回:learning to present and discuss 第 6~ 9 回:discussing readings and writings 第 10 回:reflection of topic 第 11~ 14 回:discussing readings and writings 第 15 回:final presentations and report submission 第 16 回:final presentations and reflection

【成績評価】Assessment will be based on reading and writing homework, class discussions, final presentations and reports.Teacher-student and student-student communication in class will be conducted in English. Students are recommended to think about or even choose a social problem before attending the first class.

【再試験】none

【教科書】none

【参考書】マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳)2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220082

【連絡先】
⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう.)

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
座喜 純 · 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 This class formed to give students exposure to and practice with the English writing or speech-making process from collecting ideas to the final version. Students will learn how to build paragraphs and outlines, and proof-reading for English essays or speech presentations.

【授業概要】English composition and speech presentation

【キーワード】***Listening, Speaking, Writing***

【到達目標】By the end of this course, students should be able to write and present competently on almost any topic.

【授業計画】**1.** General Class Guidance **2.** Topic 1 **3.** Presentation **4.** Topic 2 **5.** Presentation **6.** Topic 3 **7.** Presentation **8.** Topic 4 **9.** Presentation **10.** Topic 5 **11.** Presentation **12.** Topic 6 **13.** Presentation **14.** Topic 7 **15.** Presentation

【成績評価】) weekly attendance, participation to class work, and homework are very important

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220083

【連絡先】
⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
宮崎 隆義 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】『実用外国語演習 (英語) 総論』を参照.

【授業概要】 毎時の授業は, 大きく 2 つのパートから構成される. (1) テキストの使用により, ダイアローグの暗唱とドリル. (2) 語彙ゲームや, 映画の視聴によりネイティヴ英語に慣れつつ, スクリプトにより口語的なフレーズや表現を習得する. さらに, 自宅での学習として, 毎回短いディクテーションを宿題とする.

【キーワード】***Drill, Listening Comprehension, Essay Writing***

【履修上の注意】毎日短時間でも繰り返しを多くすることが大切です.

【到達目標】『実用外国語演習 (英語) 総論』を参照.

【授業計画】**1.** 授業は第 1 回イントロダクション, 第 2 回から第 15 回まで, 期末試験を含め以下の流れで行います. **2.** 宿題を提出し, シャドウイングと答え合わせを行う. **3.** テキストの使用により, ペアでのダイアローグの暗唱とドリル. **4.** スクリプトを見ながら映画を視聴する. **5.** 口語的な表現やフレーズの確認. **6.** 宿題用の音声ファイル (mp3 ファイル) を自分用の媒体にコピーする.

【成績評価】授業への取り組み状況と課題の提出などを総合して評価する.

【再試験】有り

【教科書】『アメリカ口語教本 (中級用)』, 研究社 2600 円.

【参考書】授業時に適宜紹介する.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220084

【連絡先】
⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火 · 木曜日 12 時 ~ 13 時)

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
吉田 文美 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】実用外国語演習総論を参照のこと.

【授業概要】この授業では, 主にリスニング・ディクテーションを行う. アメリカ合衆国などの英語圏で放映された TV ドラマを素材として取り上げ, 自然なスピードで発話されている口語英語を正確に聞き取り, 大まかな内容を理解する力を養成する. 授業の最初では, 前回の内容に関する語彙の小テストも行われる. 授業は学生用コンピューター端末を備えた教室で行い, 授業中のワーク, テストのほとんどで, コンピューター・プログラムを利用する.

【キーワード】***English TV drama, listening comprehension, 英語ディクテーション***

【履修上の注意】授業計画に示したものは, 進度のおおよその目安である. テストの回数等は変更されることもあるので, 授業中の連絡に注意すること.

【到達目標】

1. 自然なスピードで発話されている口語英語の正確な聞き取りと，おおまかな内容理解ができること
2. Listening comprehension of so-called ”natural speed spoken English”

【授業計画】 **1.** Class Guidance/ Proficiency Test 1 **2.** Drama Episode 1 (1) **3.** Drama Episode 1 (2) **4.** Drama Episode 1 (3) **5.** Drama Episode 1 (4) **6.** Test for Drama Episode 1 **7.** Drama Episode 2 (1) **8.** Drama Episode 2 (2) **9.** Drama Episode 2 (3) **10.** Drama Episode 2 (4) **11.** Test for Drama Episode 2 **12.** Drama Episode 3 (1) **13.** Drama Episode 3 (2) **14.** Drama Episode 3 (3) **15.** Drama Episode 3 (4) **16.** Test for Drama Episode 3/ Proficiency Test 2

【成績評価】 Tests for Drama Episodes (70%) ; Weekly tests for vocabulary (30%)

【再試験】 規定の出席日数を満たしており，毎週の小テストの成績が 60%を超える受講者のみを対象とする．

【教科書】 使用しない．

【参考書】 授業中に指示する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220085

【連絡先】
⇒ 吉田 (1N10，088-656-7124，ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】 前期 木曜 3-4

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
桂 修治 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 英語力を底上げし，TOEIC 試験にも対応する英語力の育成 実用外国語演習 (英語)・ 総論参照

【授業概要】 TOEIC の受験対策のための授業ではなく，それぞれの参加者が各自の英語力の底上げをすることをサポートする授業である. 一般性の高いテーマについて，種々のテクストやクリップを紹介し，それらをできる限り多量に取り組む．また CALL 教室を活用し，さらに聞く，話すという活動につなげてゆくことを目指す． 実用外国語演習 (英語)・ 演習 A の項目を参照

【キーワード】 ***presentation, listening, speaking, writing, dictation, shadowing***

【到達目標】
1. アクチュアルな素材を用い，書面・音声の両面で英語になれる (量的トレーニング)
2. それぞれのテーマに基づいて，英語で考えをまとめることができるようになる．

【授業計画】 CALL 教室を使用し，聞く・話す・読む・書く，のすべての領域で英語を使う環境を提供する．

【成績評価】 授業への参加度，授業中に複数回行うミニテストおよび定期試験による．

【教科書】 決まった教科書は用いない．種々の音声教材，演習プリントなどを配布する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220086

【連絡先】
⇒ 桂 (2308，0886-656-7136，katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間，金曜 5·6)

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
山内 暁彦 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 『実用外国語演習 (英語) 総論』を参照.

【授業概要】 ビデオ教材を使って英語の基本的運用力の向上を図る．アメリカの連続ドラマの視聴によりネイティブ英語に慣れ，口語的な語彙やフレーズを習得する．授業ではスクリプトを利用する．自宅での学習として短いディクテーションを随時宿題として課す．コメディー仕立てのドラマであるので，台詞の可笑しさを理解し，アメリカの日常生活や文化にも触れる．

【キーワード】 **リスニング，ディクテーション**

【履修上の注意】 2010 年度に実用外国語基礎演習 (英語) を受講済みであることが望ましい．2011 年度に実用外国語演習 (英語) のネイティヴクラスを受講していることが望ましい．

【到達目標】 日常的な英語表現を習得すること．

【授業計画】 **1.** イントロダクション **2.** エピソード 1(その 1) **3.** エピソード 1(その 2) **4.** エピソード 1(その 3) **5.** エピソード 1(その 4) **6.** 中間テスト 1 **7.** エピソード 2(その 1) **8.** エピソード 2(その 2) **9.** エピソード 2(その 3) **10.** エピソード 2(その 4) **11.** 中間テスト 2 **12.** エピソード 3(その 1) **13.** エピソード 3(その 2) **14.** エピソード 3(その 3) **15.** エピソード 3(その 4) **16.** 後期試験

【成績評価】 後期試験 30%，2 度の中間テスト各 25%，授業に取り組む姿勢や課題の提出状況などの平常点 20%により総合的に評価する．

【再試験】 行なう．

【教科書】 教科書は使用せず，プリントを配付する．各自プリントの管理を確実にすること．

【参考書】 参考資料については授業中に指示する．各種ハンドアウトを随時配布する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220087

【連絡先】
⇒ 山内 (3308，088-656-7132，yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~ 13時)

【備考】 後期，木曜日 3~ 4 講時．旧カリ「実用英語演習 II」と同内容．

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
ポンド クリストファー · 非常勤講師 / 全学共通教育センター
佐久間 亮 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 In todays global society the ability to communicate effectively in English is becomming ever more important. The goal of this course is to help students develop speaking and writing skills through the use of authentic activities.

【授業概要】 The classes are organised around themes and functions relevant to communicating in a global world. Students will participate in activities such as role-plays, discussions and presentations during class time. There will be a weekly written homework activity that is required preparation for the following weeks class. This will include authentic writing activities such as producing letters, emails, narratives and descriptions.

【到達目標】 The goal of this course is to help develop the students speaking and writing skills through the use of authentic activities

【授業計画】 **1.** Introduction to the course and expectations. **2.** Getting to know you, introductory presentations **3.** Applying for a job, exchanging information **4.** Applying for a job, exchanging information **5.** Informal letters, natural conversation **6.** Informal letters, natural conversation **7.** Narrative writing, retelling a story **8.** Narrative writing, retelling a story **9.** Linking ideas, being polite **10.** Linking ideas, being polite **11.** Writing emails, telephone conversations **12.** Writing emails, telephone conversations **13.** Report writing, conducting a survey **14.** Report writing, conducting a survey **15.** Final presentations **16.** Review and feedback

【成績評価】 The students will be evaluated on weekly attendance, participation in discussions, oral presentations, written homework and a final presentation

【再試験】 Allowable if the students has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher.

【教科書】 A textbook is required for this class. New Headway, 3rd Edition, Upper Intermediate Student Book. Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780194392990,

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220088

【連絡先】
⇒ ポンド .

実用外国語演習 (英語)

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
ポンド クリストファー · 非常勤講師 / 全学共通教育センター
佐久間 亮 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 In todays global society the ability to communicate effectively in English is becomming ever more important. The goal of this course is to help students develop speaking and writing skills through the use of authentic activities.

【授業概要】 The classes are organised around themes and functions relevant to communicating in a global world. Students will participate in activities such as role-plays, discussions and presentations during class time. There will be a weekly written homework activity that is required preparation for the following weeks class. This will include authentic writing activities such as producing letters, emails, narratives and descriptions

【到達目標】 The goal of this course is to help develop the students speaking and writing skills through the use of authentic activities

【授業計画】 **1.** Introduction to the course **2.** Arguing your case. For and against **3.** Arguing your case. For and against **4.** Describing places. Making descriptions longer **5.** Describing places. Making descriptions longer **6.** Writing for talking. Discussion **7.** Writing for talking. Discussion **8.** Writing for talking. Discussion **9.** Formal and informal letters. Talking about books **10.** Formal and informal letters. Talking about books **11.** Narrative writing. Practicing conversation. Making your point **12.** Narrative writing. Practicing conversation. Making your point **13.** Adding emphasis. Linking and commenting **14.** Adding emphasis. Linking and commenting **15.** Final presentation **16.** Review and feedback

【成績評価】Students will be evaluated on weekly attendance, participation in discussions, oral presentations, written homework and a final presentation

【再試験】Allowable of the student has attended more than 2/3 of the classes and has a score of 50% or higher

【教科書】A textbook is required for this class. New Headway, 3rd Edition, Upper Intermediate Student Book. Liz and John Soars, Oxford University Press, ISBN-13: 9780194392990

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220089

【連絡先】
⇒ ポンド .

実用外国語演習 (英語) 2 単位 (選択) 3 年 (前期)
スティーヴンズ，メリディス・アン・講師 / 人間文化学科

【授業目的】To learn about English pronunciation and collocation through the lyrics of English songs, and English-language culture.

【授業概要】We will study the lyrics of English language music from the 1960s to the 1980s, with reference to prosody, collocation and content.

【キーワード】***prosody, lyrics***

【履修上の注意】No more than three absences will be permitted.

【到達目標】To improve listening and speaking skills through listening to lyrics.

【授業計画】**1.** as above **2.** as above **3.** as above **4.** as above **5.** Lyrcs of popular music from the 1970s **6.** as above **7.** as above **8.** as above **9.** as above **10.** Lyrics of popular music from the 1980s **11.** as above **12.** as above **13.** as above **14.** as above **15.** Final Test **16.** Feedback

【成績評価】Presentations, lyrics dictations

【再試験】Possible

【教科書】nil

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220090

【連絡先】
⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用外国語演習 (英語) 2 単位 (選択) 3 年 (後期)
スティーヴンズ，メリディス・アン・講師 / 人間文化学科

【授業目的】To improve listening skills and collocation through listening to the lyrics of popular music.

【授業概要】We will study the pronunciation and collocation of lyrics, and learn about the culture of English language popular music.

【キーワード】***prosody, collocation***

【履修上の注意】Mo more than three absences will be permitted.

【到達目標】To improve listening comprehension and speaking skills.

【授業計画】**1.** Lyrics of popular music from the 1990s **2.** as above **3.** as above **4.** as above **5.** as above **6.** as above **7.** as above **8.** Lyrics of popular music from 2000 to the present **9.** as above **10.** as above **11.** as above **12.** as above **13.** as above **14.** as above **15.** Final Test **16.** Feedback

【成績評価】Presentations, Lyrics Dictation

【再試験】Possible

【教科書】nil

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220091

【連絡先】
⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用外国語演習 (英語) 2 単位 (選択) 3 年 (前期)
スタージ ドナルド・講師 / 人間文化学科

【授業概要】この授業の目的については，『実用外国語演習 (英語) 総論』も参照すること．

【成績評価】Course Evaluation: Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220092

【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

実用外国語演習 (英語) 2 単位 (選択) 3 年 (後期)
スタージ ドナルド・講師 / 人間文化学科

【授業概要】この授業の目的については，『実用外国語演習 (英語) 総論』も参照すること．

【成績評価】Course Evaluation: Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220093

【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

実用外国語演習 (中国語) 2 単位 (選択) 3 年 (前期)
李 国勝・客員教授

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220094

【連絡先】
⇒ 李 .
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用外国語演習 (中国語) 2 単位 (選択) 3 年 (後期)
李 国勝・客員教授

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220095

【連絡先】
⇒ 李 .
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用外国語演習 (中国語) 2 単位 (選択) 3 年 (前期)
李 国勝・客員教授

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220096

【連絡先】
⇒ 李 .
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

実用外国語演習 (中国語) 2 単位 (選択) 3 年 (後期)
李 国勝・客員教授

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220097

【連絡先】
⇒ 李 .
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

異文化間コミュニケーション 2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
坂田 浩・准教授 / 国際センター

【授業目的】現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である．海外とのやり取りが非常に複雑化，日常化してきている今，「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており，「今後日本人が他文化と共生してくことが出来るかどうか」は，私達日本人にとっても大きな課題であると言える． 本講義で実践する「異文化トレーニング」は，現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり，「文化差に直面した場合，どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである．本授業では，(1) 受講者自身が自らの文化に気づき，(2) 多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに，(3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケートして行く為の具体的方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする．

【授業概要】異文化トレーニング

【履修上の注意】具体的な講義内容については，講義開始時に改めて提示する

【授業計画】**1.** 具体的な内容・計画は以下の通り． **2.** (1)「自文化を気づくトレーニング」 **3.** (2)「Perception/Programming のエクササイズ」 **4.** (3)「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 **5.** (4)「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 **6.** (5)「価値観の多様性に関するエクササイズ」 **7.** (6)「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 **8.** (7)「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 **9.** (8)「Organizational/Individual Challenges」 **10.** (9)「多文化で共生できる人とは?:DMIS」 **11.** (10)「多文化で共生する為のヒント:DIE」 **12.** (11)「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」 **13.** (12)「Action Planning:大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」 **14.** など

【成績評価】評価は，基本的には出席・レポートを基に行う．
【再試験】行わない
【教科書】なし
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218358
【連絡先】
⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1，088-656-7199，kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp)
【備考】他学科・他学部生も履修可能 (ただし，総合科学部生を優先)

日本言語概説 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業では，日本語の敬語や配慮表現を中心に講義する．敬語一般の基礎的な知識を身につけること，敬語や配慮表現について取り上げ，実際に敬語研究に触れ，日本語の敬語について理解することを目標にする．これまで敬語，配慮表現に関連する日本語学各方面で得られた研究成果を概説的に学習する．科学的視点での，ものの見方，とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい．
【授業概要】日本語学・社会言語学・日本語教育等で基礎となる学習を行う．この授業では主に敬語をはじめ，ポライトネス，配慮表現などを中心的に取り上げ，社会言語学的視点から対人コミュニケーションとは何かについて学ぶ．配慮表現に関するデータを統計的に処理する方法を身につけ，言語分析の方法について学ぶ．
【履修上の注意】授業は，講義形式を原則とするが，一部，調査の関係でゼミ形式をとる場合もある．受講生各人が授業で扱ういろいろなテーマの中から一つ興味を持ち，レポートを完成させる．毎時，簡単な小テストを行うこともある．
【到達目標】日本語を科学的な視野からとらえ，日本語学の基礎を理解する．
【授業計画】**1.** (1) 日本語の敬語の特色 **2.** (2) 社会言語学とは **3.** (3) 属性にもとづく言語バリエーション-地域差・世代差・性差- **4.** (4) 敬語行動とは何か **5.** (5) ポライトネスと配慮表現 (1) **6.** (6) ポライトネスと配慮表現 (2) **7.** (7) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(1) **8.** (8) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(2) **9.** (9) 自由回答をどう分析するか **10.** (10) テキストマイニングによる分析手法を学ぶ **11.** (11) ソフトを利用した分析 **12.** (12) アンケート調査の実施-受講生が分担して行う- **13.** (13) アンケート調査のデータ集計-受講生が分担して行う- **14.** (14) アンケートデータの分析と解説 **15.** (15) レポートの準備のため文献資料の解説 **16.** 総括授業
【成績評価】評価は，レポート，小テスト，フィールド調査への参加を目安とする．
【再試験】無
【教科書】
◇ 教 材:授業でプリントを配布する．
◇ 参考書:各分野で必要な論文・図書を紹介する．
【参考書】国立国語研究所編 (2006)『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218913
【連絡先】
⇒ 岸江 (088-656-9309，kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~ 13時 総合科学部1号館1階南棟 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】◇IC レコーダー等の音声機器の使い方，データ分析の方法の説明を行う． ◇データ分析を行う際にノートパソコンや IC レコーダーの貸し出しを行うこともある．

日本言語概説 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】古代から近現代までの日本語にどのような変化が，なぜ起こったのかについて，基本的なことがらを理解する．
【授業概要】古代から近世までの日本語に関して，日本語史・言語変化の観点から重要と思われる話題を選び，なぜそのような変化が生じたのか，そのことがどのような方法で明らかにできるのか，ひとつの変化が他の面にどのような影響を与えるのか，といったことを見てゆく．
【キーワード】**上代特殊仮名遣，仮名，ハ行転呼音，連体形終止法，係り結び**
【履修上の注意】教科書を利用するが，教科書に書かれた順番で授業を進めるのではない．あらかじめ指定するところは必ず予習することが望ましい．また，国語科の教職免許を取得したい学生は，必ず受講すること．(受講生数および構成によっては，進め方を変更することがある．)
【到達目標】日本語史上の重要なトピックを理解し，言語変化を科学的に考える態度を養う．
【授業計画】**1.** 文献以前の日本語 (日本語の系統など) **2.** 古代日本語 1: 奈良時代 (「上代特殊仮名遣い」と呼ばれる現象) **3.** 古代日本語 2: 奈良時代 2(母音体系と文法体系他の関係) **4.** 古代日本語 3:平安前期 (平仮名・片仮名の誕生，いろは歌) **5.** 古代日本語から近代日本語へ 1(ハ行子音の変遷) **6.** 古代日本語から近代日本語へ 2(ハ行子音の変遷の影響 仮名遣いの発生) **7.** 古代日本語から近代日本語へ 3(定家仮名遣いとアクセント) **8.** 古代日本語から近代日本語へ 4(「音便」とは何だったか) **9.** 古代日本語から近代日本語へ 5(活用体系の変遷) **10.** 古代日本語から近代日本語へ 6(連体形終止法の確立) **11.** 古代日本語から近代日本語へ 7(係り結びの消滅 1) **12.** 古代日本語から近代日本語へ 8(係り結びの消滅 2) **13.** 古代日本語から近代日本語へ 9(助動詞の衰退 1 推量の助動詞) **14.** 古代日本語から近代日本語へ 10(助動詞の衰退 2 時の助動詞) **15.** 試験 **16.** 補足など
【成績評価】平常点 40%，試験 60%の割合で評価する．平常点には，出席状況だけでなく，何回かの小テスト (または中間テスト) を含む．
【再試験】再試験またはレポート
【教科書】沖森卓也編『日本語史』(おうふう)1900 円を予定．
【参考書】『日本語の歴史』(1~ 7 巻) 平凡社ほか，随時紹介する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218914
【連絡先】
⇒ 仙波 (2319，088-656-7117，senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語研究 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
岸江 信介・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業では，日本語学概論の音声・音韻・アクセントについての講義をする．音声学に関する基礎的な知識を身につけること，日本語学各分野への興味づけを行うことを目的にする．音声を科学的に追究するという姿勢を学び，音声学の研究成果を概説的に学習する．科学的視点での，ものの見方，とらえ方などを音声科学の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい．なお，全国諸方言の音声・アクセント調査をフィールドワークとして実施し，各自が資料収集にあたり，分析を行う．
【授業概要】国語学・日本語学・日本語教育等で基礎となる学習を行うが，ここでは主に日本語の音声・アクセントなどを幅広く取り上げ，概説的な授業のあと，音声・アクセントの資料を集め，分析を行う．
【到達目標】日本語を科学的な視野からとらえ，日本語学の基礎を理解する．
【授業計画】**1.** 音声研究入門 **2.** 音声とは? **3.** 聴音音声学と音響音声学 **4.** 音声器官と発声の仕組み **5.** 母音と子音 **6.** 拍と音節 **7.** 日本語のポーズとイントネーション **8.** 日本語のアクセント **9.** 音声の対照研究 **10.** 日本語の方言音声 1 **11.** 日本語の方言音声 2 **12.** 日本語音声の音響分析 -母音編- **13.** 日本語音声の音響分析-子音編- **14.** 全国諸方言音声・アクセント世代調査票の説明 **15.** 全国諸方言音声・アクセント世代調査の実施 **16.** 総括授業
【成績評価】評価は，レポート，小テスト，音声調査の参加を目安とする．
【再試験】無
【教科書】
◇ 教科書:特に指定しない
◇ 教 材:授業でプリントを配布することがある．
◇ 参考書:各分野で必要な論文・図書を紹介する．
【参考書】今石元久編『音声研究入門』和泉書院
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220375
【連絡先】
⇒ 岸江 (088-656-9309，kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語研究 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
仙波 光明・教授/社会創生学科

【授業目的】「方言」について正しい認識を持つ．また，言葉を体系の中で考えることの必要を理解する．
【授業概要】徳島県の方言 (俚言) を手がかりとして，言葉の歴史や体系を考える．
【到達目標】
1. 方言について，正確な知識を獲得する．
2. 言葉の由来，あるいは語源について正しい考え方を理解する．
3. 言葉を単独で考えず，つねに体系の中で考える習慣を身につける．
4. 言葉や言語資料の背景となるものを意識して，言葉を考える習慣を身につける．
5. 「方言」が特定の地域に孤立して存在するものでないことを理解する．
【授業計画】**1.** 授業の進め方についての説明．この授業で使う「方言」の意味は何か．徳島の方言概説 (その 1) **2.** 徳島の方言概説 (その 2) **3.** 「せこい」という言葉．(語源の考え方 その 1 なぜ徳島だけ意味が異なるのか) **4.** ウンカゴブジ (温和御無事) (語源の考え方その 2 方言の中の漢語語彙) **5.** 気象と言葉 (雨や風の名前 ベックノジャラセ・ナガセ・サダチ・サオカタギ等) **6.** 身体の部位をあらわす言葉 (ヤネとはどこを指す? 意味のずれの発生など) **7.** オビユからオブケル (驚く) の変化をどう説明するか． **8.** 子どもの世界と言葉 (カマ

キリ・メダカ・じゃんけん等，多彩な語形が失われたわけ) **9.** 木屋平の方言 (個人のメモから分かること．新居熊太氏のメモから) **10.** 相生の方言 (個人のメモから分かること．方言資料の残し方．) **11.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **12.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **13.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **14.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **15.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **16.** 補足，まとめなど．

【成績評価】出席，授業に対する積極性 (質問，意見など) とレポートを総合して評価する．レポートに大きい比重を置く．

【再試験】再レポート．

【教科書】『徳島県のことば』(明治書院) を予定．

【参考書】授業の中で随時紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220376

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
鳥羽 耕史・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】1950 年代は，商業紙誌，サークル誌，映画，テレビ，演劇，絵画，紙芝居，幻灯など，様々なメディアで「記録」が展開された時代であった．ここでは，必ずしも「マス (大量の)」受け手に向けられたものではないが，「マス (大衆)」としての受け手を志向したメディアにおける「記録」を紹介しながら，その今日的意義を考えてみたい．

【授業概要】プリントや映像を教材として用い，二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう．授業はそれを前提として行い，出席者には積極的な発言を求める．

【キーワード】文学，映画

【関連科目】『日本文学講読 III』(1.0, ⇒33 頁)，『日本文学演習』(0.5, ⇒35 頁)

【履修上の注意】授業時に発言を求めるので，指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと．

【到達目標】豊かな「記録」の遺産に触れ，客観的で中立なものという既成概念を超えた「記録」の可能性を理解できるようになる．

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 1950 年代概論 **3.** サークル詩の「記録」 **4.** 生活記録運動と幻灯 **5.** 国民的歴史学運動と紙芝居 **6.** ルポルタージュの実験 **7.** ルポルタージュ絵画の展開 **8.** 岩波映画のドキュメンタリー **9.** テレビドラマと「記録」(1) **10.** テレビドラマと「記録」(2) **11.** ダムをめぐる「記録」(1) **12.** ダムをめぐる「記録」(2) **13.** ダムをめぐる「記録」(3) **14.** 基地をめぐる「記録」 **15.** まとめ **16.** レポート

【成績評価】出席確認を兼ねた毎回の小レポート，授業内での質疑応答 (予習の確認)，授業内での議論への参加，期末レポートにより総合的に評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】特に指定しない．教材として映像やプリントを使用する．

【参考書】鳥羽耕史『1950 年代 「記録」の時代』(河出書房新社，2010 年) など．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218940

【連絡先】
⇒ 鳥羽 (研究室移転中のため，メールまたは授業時にお問い合せ下さい．, toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間の直後)

日本文学研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
堤 和博・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本の古典 (特に平安時代) 文学研究の基礎のうち，作家論及び解釈方法について修得することを目的とする．テーマとしては，『紫式部日記』を取り上げ，文学史上の位置づけも講じる．

【授業概要】日本文学のうち，平安時代の文学作品を読解する際，また，資料として扱う際の方法及び留意点を，『紫式部日記』を主たる具体例として取り上げて講義する．他の作品にもなるべく多く言及する予定である． 平安時代に限らず，古典の文学作品は，近現代の作品とはかなり違った性格を備えているので，留意する点も多種多様に渡る．それらをいくつかの主題に分けて講じていく． また，平安時代の日本文学に触れるとすれば，当然文字で書かれたものを媒体とすることになる．そしてそれは，印刷技術が発達する近世までは，もっぱら写本ということになるのである．受講者が今まで接してきた古代の文学作品は，教科書にせよ注釈書にせよ，活字に直されたものであったはずである．それらのものは，その注釈書等を執筆した学者が各自の見識に基づき，写本 (または，版本) をもとにして活字化したものなのである．本授業では，活字化されたものではなく，写本 (または，版本) を資料として古代の文学作品を読解する力を養成することも目指す．よって，変体仮名を読む練習も含まれる．以上に関することのうち，作家論と解釈方法を取り上げ，文学史上の位置づけも講じる．

【キーワード】平安時代文学，資料，紫式部日記，文学史

【到達目標】平安時代の文学を資料を駆使しながら読解しレポートにする

【授業計画】1. 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等・『尊卑分脈』等— **2.** 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等・『公卿補人』等— **3.** 作家論-平安時代の作家について研究する方法・資料等・文学作品— **4.** 作家論-紫式部の生涯— **5.** 作家論-紫式部の生涯を踏まえて『紫式部日記』を読む **6.** 解釈方法-古語辞典の使い方— **7.** 解釈方法-古語辞典の作り方— **8.** 解釈方法-用例の収集方法— **9.** 解釈方法-帰納的思考法— **10.** 解釈方法-演繹的思考法— **11.** 解釈方法-『紫式部日記』後半部の基本的解釈を読む— **12.** 文学史-平安時代前半の総合的文学史— **13.** 文学史-平安時代後半の総合的文学史— **14.** 第 14 回:文学史-『紫式部日記』の文学史上の位置づけ— **15.** 第 15 回:レポート作成上の注意 **16.** 総括

【成績評価】期末のレポートの出来栄えと欠席状況 (備考) を加味する．

【再試験】なし

【教科書】中野幸一編『紫式部日記・付紫式部集』(武蔵野書院)1200 円+税

【参考書】秋山虔編『黒川本紫日記 (上)』(笠間書院)，秋山虔編『黒川本紫日記 (下)』(笠間書院)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218941

【連絡先】
⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】授業には出席するのが当然なので，出席しても加点しないが，欠席すると減点する．

日本文学研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
原水 民樹・教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本古典文学における異本の意味を理解させるとともに，写本を読むための基礎的能力を身につけさせる．また，徒然草の解読を通して，日本中世知識人の思想・信条・価値観・美意識等を認識させることを目的とする．

【授業概要】本授業は，徒然草の最も古い写本とされる静嘉堂文庫蔵正徹自筆本を教科書に用いる．時間ごとに担当となった受講生が通読・解釈を行った上で，疑問点・問題点を提起し，参加者全員で討議する形で進める．

【キーワード】徒然草，異本，日本中世，古人の思考

【到達目標】日本中世人の価値観・思想・思考形態などを知る．

【授業計画】1. 作者・作品についての概説 **2.** 「花は盛りに」の段の注解と観賞および問題点の検討 **3.** 「祭過ぎぬれば」の段の注解と観賞および問題点の検討 **4.** 「家にありたき木は」の段の注解と観賞および問題点の検討 **5.** 「身死して財のこることは」の段の注解 と観賞および問題点の検討 **6.** 「悲田院尭蓮上人は」の段の注解と観賞および問題点の検討 **7.** 「こころなしとみゆる者も」の段の注解と観賞および問題点の検討 **8.** 「人の終焉のありさまの」の段の注解と観賞および問題点の検討 **9.** 「栂尾の上人の」の段の注解と観賞および問題点の検討 **10.** 「御随身秦しげみ」の段の注解と観賞および問題点の検討 **11.** 「明雲座主」の段の注解と観賞および問題点の検討 **12.** 「灸治あまたところになりぬれば」の段の注解と観賞および問題点の検討 **13.** 「四十以後の人」の段の注解と観賞および問題点の検討 **14.** ビデオ観賞 **15.** まとめ **16.** レポート

【成績評価】毎回の受講態度 (五割) と期末レポート (五割) を総合して判断する．

【再試験】しない

【教科書】『徒然草』下 (笠間書院影印叢刊) 笠間書院 1300 円

【参考書】新・旧日本古典文学大系『徒然草』(岩波書店)，田辺爵『徒然草諸注集成』(右文書院)，日本古典文学集成『徒然草』(新潮社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218942

【連絡先】
⇒ 原水 (1 号中棟 1 階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学講読 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
堤 和博・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】kore からの人生を送っていくなかで，種々多様な文学作品に接することは，色々な面において有意義なものとなるはずである．しかし，日本古典文学を読むとすると，言葉が現代語と違うのは勿論のこと，何かと取り付きにくいものである．そこで，日本古典文学史上の重要な作品の一つである『蜻蛉日記』をテーマとし，古典文学作品読解の基本を身につけることを目標とする．『蜻蛉日記』は日本文学史上重要な作品なので，日本文学史も視野に入れた読解となる．

【授業概要】文学作品の読解とは表面上の意味を読み取る (古典で言えば単に現代語訳する) だけではすまされないのは勿論である．作品の成立した過程やその時代の状況などを考慮に入れながら，作者が真に訴えたかったことを慎重に読み取っていかなくてはならない．藤原道綱母の作である『蜻蛉日記』は，夫兼家との不如意な結婚生活を赤裸々に綴った作品と言われる．それはそれで間違いではないのであるが，

『蜻蛉日記』という作品にはそのような言葉では説明しきれないような様々な要素・性質も含まれている．そのようなものは，いかなる考察過程を経れば導き出せるのか，文学史も視野に入れた講読を通して解説していく．

【キーワード】日本文学史，平安時代，蜻蛉日記

【到達目標】日本古典文学を文学史上に位置づけて読解し，それをレポートにする．

【授業計画】1. 『蜻蛉日記』成立頃までの日本史概観 (1)―奈良時代― **2.** 『蜻蛉日記』成立頃までの日本史概観 (2)―平安時代― **3.** 『蜻蛉日記』の日本文学史上における位置 (1)―物語文学との関連― **4.** 『蜻蛉日記』の日本文学史上における位置 (2)―和歌物語文学との関連― **5.** 『蜻蛉日記』講読 (1)―序文― **6.** 『蜻蛉日記』講読 (2)―兼家からの求婚の記事― **7.** 『蜻蛉日記』講読 (3)―兼家からの贈歌に返歌しない頃から返歌する頃― **8.** 『蜻蛉日記』講読 (4)―新枕から結婚成立の後朝の贈答歌― **9.** 『蜻蛉日記』講読 (5)―道綱母から贈歌する頃― **10.** 『蜻蛉日記』講読 (6)―父倫寧との離別― **11.** 『蜻蛉日記』講読 (7)―出産から町の小路の女の出現の頃― **12.** 『蜻蛉日記』講読 (8)―町の小路の女への憎悪― **13.** 『蜻蛉日記』講読 (9)―長歌の贈答― **14.** 『蜻蛉日記』講読 (10)―まとめと『蜻蛉日記』の文学史上の位置づけ― **15.** レポート作成上の注意事項 **16.** 総括

【成績評価】期末のレポートの出来栄えと欠席状況 (備考) を加味する．

【再試験】なし

【教科書】堤和博著『和歌を力に生きる―道綱母と蜻蛉日記―』(新典社・1050 円)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218937

【連絡先】

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】授業には出席するのが当然なので，出席しても加点しないが，欠席すると減点する．

日本文学講読 II

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
原水 民樹・教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本文学のジャンルの一つである軍記文学の中から，前期軍記の主要作品の内容や特質を知るとともに，その変遷の様を文学史の立場から理解する．

【授業概要】平安時代から室町時代に至る間の主要な軍記作品について，作品の一部を講読するとともに，作者・成立の問題・文学性などの面から講義を行い，各作品の特質を明らかにしつつ，文学史の立場からその変遷の様を解説する．

【キーワード】文学史，日本の中世，軍記文学

【到達目標】

1. 中世軍記文学史を知る
2. 軍記文学の特質を知る

【授業計画】1. 講義予定の説明と軍記文学概説 **2.** 『将門記』の解説と本文の部分講読 **3.** 『陸奥話記』『奥州後三年記』の解説と本文の部分講読 **4.** 『保元物語』の解説と本文の部分講読 **5.** 『平治物語』の解説と本文の部分講読 **6.** 『平家物語』(1) 成立について **7.** 『平家物語』(2) その文学世界について **8.** 『平家物語』(3) 本文の部分講読 **9.** 『承久記』の解説と本文の部分講読 **10.** 『太平記』(1) 成立について **11.** 『太平記』(2) その文学世界について **12.** 『太平記』(3) 本文の部分講読 **13.** 『義経記』の解説と本文の部分講読 **14.** 『曽我物語』の解説と本文の部分講読 **15.** まとめ **16.** レポート提出

【成績評価】期末のレポート (5 割) と各時間における受講態度 (5 割) を総合して判定する．

【再試験】しない

【教科書】毎回，資料を配付する．

【参考書】軍記文学研究叢書 (全 12 巻) 汲古書院 1997~ 1999

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218938

【連絡先】

⇒ 原水 (1 号中棟 1 階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学講読 III

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
鳥羽 耕史・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】「近代文学の終り」(柄谷行人) が語られる中，「現代文学」が何であるのかは，文学観が問われる問題である．ここでは，「近代文学」の延長線上にある「現代文学」として考えられるのが，とりあえず「昭和」の文学であると仮定して，「昭和文学史」を再検討してみたい．授業の中では，それぞれの時期の文学をプリントで紹介しつつ，「文学史」の展開を考えていきたい．

【授業概要】プリントを教材として用い，二日目以降のプリントは事前に読んできてもらう．授業はそれを前提として行い，出席者には積極的な発言を求める．

【キーワード】文学

【先行科目】『日本文学研究 I』(0.2, ⇒32 頁)

【関連科目】『日本文学演習』(0.5, ⇒35 頁)

【履修上の注意】授業時に発言を求めるので，指定された場合にはテキストを読んだ上で授業に臨むこと．

【到達目標】「昭和文学史」の流れをつかんだ上で文学を読むことができるようになる．

【授業計画】1. ガイダンス:「昭和文学」と「現代文学」 **2.** 関東大震災と「昭和」のはじまり **3.** モダニズム文学 **4.** プロレタリア文学 **5.** 転向文学と「文芸復興」 **6.** 戦時下の文学 (1) **7.** 戦時下の文学 (2) **8.** 戦後の文学 (1) **9.** 戦後の文学 (2) **10.** 戦後の文学 (3) **11.** 高度成長期の文学 (1) **12.** 高度成長期の文学 (2) **13.** 高度成長期の文学 (3) **14.** 1980 年代の文学 **15.** 「昭和文学史」再考 **16.** レポート

【成績評価】出席確認を兼ねた毎回の小レポートと授業時の発言，期末レポートにより総合的に評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】特に指定しない．教材としてプリントを配布する．

【参考書】年表の会編『近代文学年表』(双文社出版，2002 年増補 4 版)，『新潮日本文学アルバム別巻 昭和文学アルバム 1・2』(新潮社，1986-87 年) など．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218939

【連絡先】

⇒ 鳥羽 (研究室移転中のため，メールまたは授業時にお問い合せ下さい．, toba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間の直後)

日本言語演習

4 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
仙波 光明・教授 / 社会創生学科

【授業目的】前期は，中世前期日本語の文献資料解読を通して，日本語研究の方法を身につける．自ら調査する過程に於いて，辞書，先行研究，その他参考文献等の適切な利用方法，探索方法を学ぶ．後期は，近世の資料を予定．

【授業概要】前期は，『宇治拾遺物語』を対象とし，各説話の解読 (現代語訳) を，正確に行いながら，同時に，特定の語について深く掘り下げる．受講者は，それぞれ分担の説話と，自らが設定したテーマについての調査結果を発表する．

【キーワード】宇治拾遺物語

【到達目標】

1. 大型辞書の適切な利用と評価ができるようになる．また，日本語の研究方法を身につける．
2. 古典文法の基礎的知識を活かしながら，日本語の変化に気付く．
3. 先行研究を効率的に探索し，有効に利用できる．

【授業計画】1. 授業の進め方について説明し，各人の分担を決める． **2.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **3.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **4.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **5.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **6.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **7.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **8.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **9.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **10.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **11.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **12.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **13.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **14.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **15.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **16.** レポート作成．

【成績評価】発表，および授業中の態度 (議論にどのくらい貢献できたか) とレポート．

【再試験】レポート再提出．

【教科書】宇治拾遺物語のテキスト (任意の本を用意すればよい)．

【参考書】随時照会する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220098

【連絡先】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語演習

4 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
仙波 光明・教授 / 社会創生学科

【授業目的】近世初期の言葉の教育の書であり，近世初期の京都方言資料でもある『かたこと』の語彙，記述を検討することを通して，情報に乏しい方言集を利用して方言語彙の研究をする力を養う．

【授業概要】『かたこと』の解読を通して，近世初期京都方言と現代の方言との関係を検討 し，現代の方言語彙を史的に検討して行く．

【到達目標】国語辞典，方言集，またその他のさまざまな言語資料を利用しながら，言

【授業計画】**1.** 『片言』について概説．授業の進め方を説明し，分担を決める． **2.** 『片言 一』の部分の解読． **3.** 『片言 一』の部分の解読． **4.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **5.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **6.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **7.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **8.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **9.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **10.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **11.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **12.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **13.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **14.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **15.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討． **16.** レポート作成

【成績評価】授業での発表，発言およびレポートを総合して評価する．

【再試験】再レポート

【教科書】使用せず (コピーを配布)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221457

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語演習

4 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
岸江 信介 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】日本の一地域においてフィールドワークを行い，調査によって得られたデータの処理の方法として，「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ．

【授業概要】地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする．日本語諸方言の音韻 · アクセント · 文法 · 語彙などの特色を把握する．前期後半では，フィールド調査に関する調査票の作成，フィールド調査の方法等について学ぶ．夏期休業中期間等を利用し，フィールドワークを実施する予定である．現段階で調査地域は未定である．ちなみに，10 年度は三重県志摩地方に 3 泊 4 日の調査に出かけた．調査地域は，受講生の意見を尊重して決める予定である．後期では，エクセル，音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ，受講生全体での共同作業として，調査票の整理，データ入力を行ったあと，各調査項目の分担を決め，各自発表を行うことにする．また，年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である．

【キーワード】**フィールドワーク，方言調査**

【履修上の注意】 夏休み (昨年度は 9 月下旬に実施) を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい．

【到達目標】) 野外での方言調査を通じて，生きた方言に触れる

【授業計画】**1.** 方言調査とは? **2.** 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 1 **3.** 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 2 **4.** 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 3 **5.** 各グループによる調査票の準備と検討 1 **6.** 各グループによる調査票の準備と検討 2. **7.** 各グループによる調査票の準備と検討 3 **8.** グループ毎で調査項目の作成 1 **9.** グループ毎で調査項目の作成 2 **10.** グループ毎で調査項目の作成 3 **11.** 各自 (各グループ) による録音機器類の操作方法の習得 **12.** 各グループ毎で話者を斡旋してもらうため，調査地へ連絡をとる **13.** 調査票全体の作成 1 **14.** 調査票全体の作成 2 **15.** 調査票全体の作成 3 **16.** 調査のしおりの作成と調査の実施

【成績評価】 成績評価は，発表 (30%)· レポート (50%)· ソフト等の習得 (20%) といった比率に基づく．フィールド調査には参加すること．調査への参加は出席点に加える．

【教科書】
- ◇ 教科書:特に指定しない
- ◇ 教材:授業でプリントを配布する
- ◇ 西日本諸方言に関する必要な論文，データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220374

【連絡先】
⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい．

日本言語演習

4 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
岸江 信介 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】日本の一地域においてフィールドワークを行い，調査によって得られたデータの処理の方法として，「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ．

【授業概要】地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする．日本語諸方言の音韻 · アクセント · 文法 · 語彙などの特色を把握する．前期後半では，フィールド調査に関する調査票の作成，フィールド調査の方法等について学ぶ．夏期休業中期間等を利用し，フィールドワークを実施する予定である．現段階で調査地域は未定である．ちなみに，10 年度は三重県志摩地方に 3 泊 4 日の調査に出かけた．調査地域は，受講生の意見を尊重して決める予定である．後期では，エクセル，音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ，受講生全体での共同作業として，調査票の整理，データ入力を行ったあと，各調査項目の分担を決め，各自発表を行うことにする．また，年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である．

【到達目標】野外での方言調査を通じて，生きた方言に触れる

【授業計画】**1.** 臨地方言調査の総括と反省 **2.** データ整理 1． **3.** データ整理 2． **4.** データ整理 3． **5.** データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 1． **6.** データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 2． **7.** データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 3． **8.** 発表の分担の打ち合わせ 1． **9.** 発表の分担の打ち合わせ 2． **10.** 各自 (各グループ) による研究発表 1 **11.** 各自 (各グループ) による研究発表 2 **12.** 各自 (各グループ) による研究発表 3 **13.** 各自 (各グループ) による研究発表 4 **14.** 各自 (各グループ) による研究発表 5 **15.** 全体的にデータを見渡し，特徴的な結果について整理する． **16.** レポート等，報告書の作成．

【成績評価】 成績評価は，発表 (30%)· レポート (50%)· ソフト等の習得 (20%) といった比率に基づく．フィールド調査には参加すること．調査への参加は出席点に加える．

【再試験】無

【教科書】
- ◇ 教科書:特に指定しない
- ◇ 教材:授業でプリントを配布する
- ◇ 西日本諸方言に関する必要な論文，データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221458

【連絡先】
⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
堤 和博 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本古典文学作品の解釈力の養成

【授業概要】日本の古典文学作品を解釈するための基本的な知識 · 方法について演習する．具体的には，当時の資料及び現在の辞書 · 注釈書 · 索引類等を参考にしながら，帰納法を用いて解釈していく方法を身につけるようにする． ところで，演習は，担当者が充実した内容の調査 · 考察を行うことを目指すのは勿論のこと，それを他の受講者に分かり易く説明するところまでもが目標となる．したがって，レジュメの作り方 · 発表の仕方などについても，担当者個々の創意工夫と努力を求める．

【キーワード】**日本古代文学，解釈，発表**」

【履修上の注意】 単に注釈書を読み，辞書を引くだけの解釈をするのではない．また，第 1 回目を除く各回担当者は，前回担当者よりもレベルの高い発表を目指すこと．受講者の人数 · 希望 (卒業研究の予定テーマ) 等を勘案し，上記内容等に変更を生じる場合もある．ただその場合も，古典文学の解釈力を養うという目的に変更はない．

【到達目標】
1. 帰納的思考方法の習得
2. 自己の解釈を説明する能力の習得

【授業計画】**1.** 古典解釈法の基本 1—辞書の使い方— **2.** 古典解釈法の基本 2—用例の集め方— **3.** 古典解釈法の基本 3—帰納的解釈法— **4.** 担当者発表 1—『土左日記』— **5.** 担当者発表 2—『伊勢物語』— **6.** 担当者発表 3—『大和物語』— **7.** 担当者発表 4—『平中物語』— **8.** 担当者発表 5—『蜻蛉日記』上巻— **9.** 担当者発表 6—『蜻蛉日記』中巻— **10.** 担当者発表 7—『蜻蛉日記』下巻— **11.** 担当者発表 8—『源氏物語』第一部— **12.** 担当者発表 9—『源氏物語』第二部— **13.** 担当者発表 10—『源氏物語』第三部— **14.** 担当者発表 11—『狭衣物語』前半— **15.** 担当者発表 12—『狭衣物語』後半— **16.** レポートに関する注意

【成績評価】発表及びレポートの出来映え

【再試験】無

【教科書】無

【参考書】
- ◇ 『角川古語大辞典』(角川書店)
- ◇ 『日本国語大辞典』,『同』第二版 (小学館)
- ◇ 小学館『古語大辞典』
- ◇ 角川書店『新編国歌大観』

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220099

【連絡先】
⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
堤 和博 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 日本古典文学作品の高度な解釈力の習得

【授業概要】 前期の演習で習得した日本古典文学作品の基本的な解釈力の応用として，日本文学の表現論のうちから，古代の引歌表現を取り上げてさらに解釈力を養うことを目的とする．引歌表現とは，古歌の一部を引用し，引用しなかった部分をきかせる，というような表現技巧を普通指す．しかし，その有様は一様ではなく，今述べた定義ではとうてい収まりきれないものも多い．様々な引歌表現を取り上げ，その特徴を浮き彫りにしながら解釈していく． ところで，演習は，担当者が充実した内容の調査 · 考察を行うことを目指すのは勿論のこと，それを他の受講者に分かり易く説明するところまでもが目標となる．したがって，レジュメの作り方 · 発表の仕方などについても，担当者個々の創意工夫と努力を求める．

【キーワード】 日本古代文学，引歌表現，解釈，発表

【履修上の注意】 単に注釈書を読み，辞書を引くだけの解釈をするのではない．また，第 1 回目を除く各回担当者は，前回担当者よりもレベルの高い発表を目指すこと．受講者の人数 · 希望 (卒業研究の予定テーマ) 等を勘案し，上記内容等に変更を生じる場合もある．ただその場合も，古典文学の解釈力を養うという目的に変更はない．

【到達目標】
1. 引歌表現の解釈
2. 自己の解釈を説明する能力の習得

【授業計画】 **1.** 引歌表現解釈法の基本 1—『土左日記』— **2.** 引歌表現解釈法の基本 2—『蜻蛉日記』— **3.** 引歌表現解釈法の基本 3—『源氏物語』— **4.** 担当者発表 1—担当者 1 が自ら探し出してきた引歌表現—以下は，取り上げるべき箇所を受講者が中古文学の主要な作品中から見つけ出すところから課題とする．従って，以下何を取り上げるかは受講者の判断によるので，ここでそれを具体的に示すことは出来ない． **5.** 担当者発表 2—担当者 2 が自ら探し出してきた引歌表現— **6.** 担当者発表 3—担当者 3 が自ら探し出してきた引歌表現— **7.** 担当者発表 4—担当者 4 が自ら探し出してきた引歌表現— **8.** 担当者発表 5—担当者 5 が自ら探し出してきた引歌表現— **9.** 担当者発表 6—担当者 6 が自ら探し出してきた引歌表現— **10.** 担当者発表 7—担当者 7 が自ら探し出してきた引歌表現— **11.** 担当者発表 8—担当者 8 が自ら探し出してきた引歌表現— **12.** 担当者発表 9—担当者 9 が自ら探し出してきた引歌表現— **13.** 担当者発表 10—担当者 10 が自ら探し出してきた引歌表現— **14.** 担当者発表 11—担当者 11 が自ら探し出してきた引歌表現— **15.** 担当者発表 12—担当者 12 が自ら探し出してきた引歌表現— **16.** レポートの注意

【成績評価】 発表及びレポートの出来映え

【再試験】 無

【教科書】 無

【参考書】
- 『角川古語大辞典』(角川書店)
- 『日本国語大辞典』,『同第二版』(小学館)
- 『小学館古語大辞典』
- 『新編国歌大観』(角川書店)

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221459

【連絡先】
⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本文学演習

4 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
野口 哲也 · / 鳴門教育大学

【授業目的】 映画や小説を読み解く作業を通じ，応用可能な文化研究および近代文学研究の基礎を身につけてもらうことを目的とする．

【授業概要】 夢や異界・非日常に関わる近現代の文学作品をとりあげ，それらを原作とした映画とも比較しながら分析・考察を加える．毎回担当者を決めて研究発表を行い，それに基づいて全員で討議を行う．

【キーワード】 文学

【先行科目】 『日本文学研究 I』(1.0, ⇒32 頁)

【関連科目】 『日本文学講読 III』(0.5, ⇒33 頁)

【履修上の注意】 発表者以外もあらかじめ各作品を熟読して臨み，活発な議論の場を作るよう心がけること．取り上げる作品や発表担当の回数については，受講者の人数や関心の所在を確かめたうえで調整することがある．

【到達目標】
1. 文化研究，近代文学研究の基礎を身につける．
2. 映画や文学についての知識を深める．

【授業計画】 **1.** 映画と文学についてのガイダンスと担当者決定．以下の作品について担当者を決めて発表してもらう．テキストは変更もあり得る． **2.** テーマ設定，調査方法，発表方法概論 **3.** 図書館の使い方，文献資料探索実習 **4.** 森鴎外「舞姫」 **5.** 夏目漱石「夢十夜」 **6.** 夏目漱石「こころ」 **7.** 泉鏡花「外科室」 **8.** 泉鏡花「草迷宮」 **9.** 谷崎潤一郎「刺青」 **10.** 谷崎潤一郎「春琴抄」 **11.** 室生犀星「あにいもうと」 **12.** 室生犀星「蜜のあはれ」 **13.** 内田百閒「東京日記」 **14.** 内田百閒「サラサーテの盤」 **15.** 芥川龍之介「藪の中」 **16.** レポート

【成績評価】 発表内容，討議への参加度，レポート，出席状況等により総合的に評価する．

【再試験】 行わない．

【教科書】 教科書は使わない．文庫本などで入手しにくく図書館にもない小説については教材プリントを配布するが，手軽に買えるものは購入すること (最初に指示する)．参考書は適宜指示する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220100

【連絡先】
⇒ 野口 (noguchi@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業直後の時間帯)

日本文学演習

4 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
野口 哲也 · / 鳴門教育大学

【授業目的】 映画や小説を読み解く作業を通じ，応用可能な文化研究および近代文学研究の基礎を身につけてもらうことを目的とする．

【授業概要】 夢や異界・非日常に関わる近現代の文学作品をとりあげ，それらを原作とした映画とも比較しながら分析・考察を加える．毎回担当者を決めて研究発表を行い，それに基づいて全員で討議を行う．

【キーワード】 文学

【先行科目】 『日本文学研究 I』(1.0, ⇒32 頁)

【関連科目】 『日本文学講読 III』(0.5, ⇒33 頁)

【履修上の注意】 発表者以外もあらかじめ各作品を熟読して臨み，活発な議論の場を作るよう心がけること．取り上げる作品や発表担当の回数については，受講者の人数や関心の所在を確かめたうえで調整することがある．

【到達目標】
1. 文化研究，近代文学研究の基礎を身につける．
2. 映画や文学についての知識を深める．

【授業計画】 **1.** 映画と文学についてのガイダンスと担当者決定．以下の作品について担当者を決めて発表してもらう．テキストは変更もあり得る． **2.** テーマ設定，調査方法，発表方法概論 **3.** 図書館の使い方，文献資料探索実習 **4.** 江戸川乱歩「押絵と旅する男」 **5.** 宮沢賢治「風の又三郎」 **6.** 川端康成「狂った一頁」 **7.** 坂口安吾「白痴」 **8.** 坂口安吾「桜の森の満開の下」 **9.** 福永武彦「廃市」 **10.** 安部公房「砂の女」 **11.** 三島由紀夫「金閣寺」 **12.** 三島由紀夫「憂国」 **13.** 大江健三郎「飼育」 **14.** 村上春樹「風の歌を聴け」 **15.** 村上春樹「ノルウェイの森」 **16.** レポート

【成績評価】 発表内容，討議への参加度，レポート，出席状況等により総合的に評価する．

【再試験】 行わない．

【教科書】 教科書は使わない．文庫本などで入手しにくく図書館にもない小説については教材プリントを配布するが，手軽に買えるものは購入すること (最初に指示する)．参考書は適宜指示する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221460

【連絡先】
⇒ 野口 (noguchi@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業直後の時間帯)

日本史基礎研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
衣川 仁 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 史料の正確な読解は，歴史を学ぶ上で欠かせない作業であり，特に日本史の分野においてもっとも重視されるのは，古文書の読解である．古文書に書かれた内容について，様式等を踏まえて正確に理解することを目標とし，加えて原史料から得られる古代・中世社会の歴史的特質についても考察する．

【授業概要】 配布する古代・中世古文書のコピーを読解する．くずし字の読みと，意味や様式の把握を行う．

【キーワード】 古文書，史料，くずし字

【履修上の注意】 古文書を読むためには，少なくとも高校レベルの漢文読解力 · 知識が要求される．各自で復習しておくことが望ましい．

【到達目標】 古文書の読解;「読み」(字の解読 · 訓点) と「理解」(意味 · 様式の把握)

【授業計画】 **1.** 古文書を読むために **2.** 信濃国雑掌申状を読む **3.** 足利尊氏の花押 **4.** 寄進状・売券と土地 **5.** 御判御教書を読む **6.** 武士と貴族の下文 **7.** 雑訴決断所牒と裁判 **8.** 軍忠状と着到状 **9.** 祈りの文書 **10.** 官符を読む⑴—引用の中の引用— **11.** 官符を読む⑵—朝廷の命令系統— **12.** 請文と起請文 **13.** 関連する文書を読む **14.** 中世社会と古文書 **15.** まとめ **16.** 総括授業

【成績評価】 用意する古文書の正確な読解 (「文字の読み」と「内容の理解」) ができているかどうか，学期末に行うペーパーテストを中心に評価するが，平素の授業での取り組みも勘案する．

【再試験】 なし

【教科書】

◇ なし．こちらでプリントを用意する．
◇ 参考書としては，佐藤進一著『[新版] 古文書学入門』(法政大学出版局，1997 年)． その他は，適宜授業内で紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218931

【連絡先】
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分~ 12時)

日本史基礎研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
桑原 恵 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】本講義では，近世から近代の歴史史料の解読を行い，歴史史料を分析する力を養うことを目的とする．史料を読解することによって，過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようにしたい．また，文献資料と地方史料の両方を史料として使用し，古文書を解読する力 (すなわちくずし字の解読) も身につけるようにしたい．

【授業概要】日本近世史料の解読，分析による実証方法の修得．

【キーワード】**古文書，日本近世史，歴史史料，くずし字**

【先行科目】『日本史基礎研究 I』(1.0, ⇒35 頁)

【関連科目】『日本史研究 I』(0.5, ⇒36 頁)，『日本史研究 II』(0.5, ⇒36 頁)

【履修上の注意】受講生が十分に予習復習することによってしか，古文書読解の能力を身につけることは出来ない．また，くずし字の読解という始めての経験に対して，真摯に努力する態度で受講して欲しい．

【到達目標】日本近世の古文書史料を，解読し，分析する能力を習得すること．

【授業計画】**1.** 古文書を扱う際の注意事項，古文書に関する基礎知識について **2.** 近世 ~ 近代の各時期の史料で翻刻された文献史料を取り上げ，その解釈を行う． **3.** くずし字を読む 1:村の記録など **4.** くずし字を読む 2:農民同士の争い **5.** くずし字を読む 3:領主へのお願い **6.** くずし字を読む 4:町の記録 **7.** くずし字を読む 5:町人の生活に関する記録 **8.** くずし字を読む 6:藩のお触れを読む **9.** くずし字を読む 7:藩の記録を読む **10.** くずし字を読む 8:藩の裁判記録を読む **11.** くずし字を読む 9:商人の記録を読む **12.** くずし字を読む 10:流通の史料を読む **13.** くずし字を読む 11:明治初期の徳島の史料を読む **14.** くずし字を読む 12:明治初期の政治運動の史料を読む **15.** 総括授業

【成績評価】出席状況，平常点としての小テストを数回程度行い，期末テストの成績との総合的な評価を行う．

【再試験】行わない．

【教科書】
◇ くずし字の辞書として，『増訂近世古文書解読字典』柏書房，と『図録 · 古文書入門事典』柏 書房，を薦める．但し，すでにくずし字の辞書を持っている学生は購入の必要はない．
◇ 講義で使用するプリント類は，適宜配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218932

【連絡先】
⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールで連絡をいただければ時間調整します．megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
衣川 仁 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本中世史における重要な問題点を取り上げ，歴史的な背景や意義を考察する．平安時代を中心に，政治・経済上の特質や，世俗社会が被った影響などについて理解した上で，平安時代の歴史的特質を把握することを目標とする．

【授業概要】平安時代の権力を構成した公家・武家・寺家，その支配をうけた民衆など，平安時代を生きた人々の具体的な動きや考え方について知り得る史料を読み，そこから平安時代史を具体的に復元する．

【キーワード】**寺院，中世史，平安京，皇統，祈り**

【関連科目】『日本史基礎研究 I』(0.5, ⇒35 頁)

【履修上の注意】史料にもとづいて講義する．わかりやすく解説するつもりであるが，各自でも予習 · 復習や質問等によって，その内容理解に努めてほしい．

【到達目標】中世における人々の考え方やその背景となる社会的土壌について，歴史的に考察できるようになること．

【授業計画】**1.** 夜の平安京―盗賊と武士 **2.** 肉と米―ケガレと禁忌 **3.** 様々な呪い―効果と対処法 **4.** 誓いを破ったら―神仏の罰 **5.** 人間を越える力―見えない恐怖 **6.** ぜいたくは敵か―過差の背景 **7.** 珍しい輸入品―対外貿易 **8.** 病気とたたかう―病因と治療 **9.** 死んだらどうなるか―死体・墓・後生 **10.** 災害発生―被害と対応 **11.** うわさの話―情報の伝達 **12.** 宮中スキャンダル―人間関係と政治 **13.** 二人の秀才―信西と頼 **14.** 合戦の実像―源平争乱と社会 **15.** まとめ **16.** 総括授業

【成績評価】古代・中世日本史上の諸問題を素材として，その特質を歴史的に考察し把握すると同時に，歴史学が考える学問であることを理解しているかどうかについて，期末テストおよび平常点 (授業中に行うミニレポート等も含む) によって評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218933

【連絡先】
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分~ 12時)

日本史研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
桑原 恵 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本の古代から近代に至る歴史を概説的に講義する．日本史の通史的な流れを理解する．

【授業概要】古代から近代までの日本史について，トピック的に史料を提示して，社会の変化を理解し，史料にもとづいて歴史的事実を確認することについて考察する．四国や徳島の事例を取り入れることで，地域への理解を深めるように努める．

【キーワード】**日本史，通史**

【先行科目】『日本史研究 I』(1.0, ⇒36 頁)

【履修上の注意】史料を配布して，講義を進めるが，受講生の意見や質問も受けながら，講義を進めたい．積極的に講義に参加されることを期待する．

【到達目標】
1. 日本の通史を理解する．
2. 史料にもとづいて歴史的事実を確認するこ方法を学ぶ．

【授業計画】**1.** クニから国家へ (大王の国家) **2.** 律令国家の成立 **3.** 平安朝の政治と宗教勢力 **4.** 荘園制の成立と展開 **5.** 武家政治の展開 **6.** 鎌倉新仏教の登場 **7.** 南北朝の内乱と室町幕府 **8.** 室町幕府の政治と外交 **9.** 一揆の展開 **10.** 自力の時代 **11.** 豊臣政権の成立 **12.** 江戸時幕府の確立と支配 **13.** 近世の都市と農村 **14.** 近世社会の変動と明治維新 **15.** 総括授業

【成績評価】出席状況に加えて，平常点としての小テストを 2 回程度行い，期末テストの成績を合わせて，総合的な評価を行う．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書や参考書は，特に指定しない．講義に使用するプリントは適宜配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218934

【連絡先】
⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 事前にメールでの連絡があれば，時間調整します．megumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本史演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
桑原 恵 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本史の史料を解読し，論点を提示することができ，また，日本史の論文を読解して論点を提示し，議論することができる．

【授業概要】日本の戦国期から明治維新期にかけての主要な論文を取り上げて，それらの主張点問題点等を検討し，学生が個々の関心にそった研究を進めてゆくための方法や視角などを身につけられるようにする．論文の読解を進めることで，研究史の理解を深め，史料に基づいて議論する能力を養う．また，近世史料の読解能力を高めるために，史料講読も取り入れる．

【キーワード】**日本近世史，論文演習，史料講読**

【先行科目】『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒36 頁)，『日本史研究 II』(1.0, ⇒36 頁)

【履修上の注意】学生の発表を中心に授業を進める．発表者以外の者も，必ず質問 · 発言をして議論を展開することによって，論文読解の能力を養うようにする．この授業は，「日本史演習」(衣川教官担当，火曜日 3·4 講時) と密接に関連させて行い，随時共同授業を行う．

【到達目標】日本近世史の史料や論文の内容を理解し，論評できる能力を身につけること

【授業計画】**1.** 演習で取り上げる史料や論文は，開講時にリストを配布して，学生の希望に基づいて担当を決定する．取り上げる分野の例としては，以下の通りである． **2.** 近世初期政治史関係の論文 **3.** 村落史研究 **4.** 身分制論の諸研究 **5.** 都市史研究の成果から **6.** 思想史研究からの視点 **7.** 幕末維新期研究の成果から **8.** 女性史研究の成果から **9.** 地方史に関する諸研究 **10.** 藩政・領主制に関する諸研究 **11.** 徳島城博物館への見学 **12.** 徳島城博物館への見学 **13.** 県立文書館への見学と歴史史料の利用について学習 **14.** 県立文書館への見学と歴史史料の利用について学習 **15.** 総括授業

【成績評価】演習での発表と発言などの平常点と，発表の際のレジュメやレポートなどを総合的に判断する．

【再試験】行わない．

【教科書】講義のはじめに詳しく論文のリストを配布し，論文も配布する．参考文献は演習を進めながら 適宜指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220101

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで事前に予定を確認し，日時を合わせて質問に答える形を取る．メールアドレスは，megumi@ias.tokuhsima-u.ac.jp)

日本史演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
桑原 恵 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本史の史料を解読し，論点を提示することができ，また，日本史の論文を読解して論点を提示し，議論することができる．

【授業概要】日本の戦国期から明治維新期にかけての主要な論文を取り上げて，それらの主張点問題点等を検討し，学生が個々の関心にそった研究を進めてゆくための方法や視角などを身につけられるようにする．論文の読解を進めることで，研究史の理解を深め，史料に基づいて議論する能力を養う．また，近世史料の読解能力を高めるために，史料講読も取り入れる．

【キーワード】**日本近世史，論文演習，史料講読**

【先行科目】『日本史基礎研究 II』(1.0, ⇒36 頁)，『日本史研究 II』(1.0, ⇒36 頁)

【関連科目】『日本史研究 I』(0.5, ⇒36 頁)

【履修上の注意】学生の発表を中心に授業を進める．発表者以外の者も，必ず質問 · 発言をして議論を展開することによって，論文読解の能力を養うようにする．この授業は，「日本史演習」(衣川教官担当，火曜日 3·4 講時) と密接に関連させて行い，随時共同授業を行う．

【到達目標】日日本近世史の史料や論文の内容を理解し，論評できる能力を身につけること．

【授業計画】**1.** 演習で取り上げる史料や論文は，開講時にリストを配布して，学生の希望に基づいて担当を決定する．取り上げる分野の例としては，以下の通りである． **2.** 近世初期政治史関係の論文 **3.** 村落史研究 **4.** . 村と支配–非領国地域と領国地域との比較 **5.** 身分制論の諸研究 **6.** 都市史研究の成果から **7.** 思想史研究からの視点 **8.** 幕末維新期研究の成果から **9.** 女性史研究の成果から **10.** 地方史に関する諸研究 **11.** 藩政・領主制に関する諸研究 **12.** 徳島城博物館への見学 **13.** 徳島城博物館への見学 **14.** 県立文書館への見学と歴史史料の利用について学習 **15.** 総括授業

【再試験】行わない．

【教科書】講義のはじめに詳しく論文のリストを配布し，論文も配布する．参考文献は演習を進めながら 適宜指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220102

【連絡先】

⇒ 桑原 (088-656-7157, megumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで事前に予定を確認し，日時を合わせて質問に答える形を取る．メールアドレスは，megumi@ias.tokuhsima-u.ac.jp)

日本史演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
衣川 仁 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本古代・中世史を考える上で重要な論文あるいは史料を精読・検討し，そこにあらわれた諸問題に対する理解力と思考力を深める．

【授業概要】日本古代・中世史上の諸問題を考えるために，重要な論文・史料を取り上げて検討する．各回の担当者を決めて報告をしてもらい，それをもとに出席者全員で議論していく．

【キーワード】**日本史，古代史，中世史**

【関連科目】『日本史演習』(0.5, ⇒36 頁)

【履修上の注意】あらかじめ担当者を決めて報告を受ける演習形式で進める．報告にはレジュメの作成などの準備をする必要があるが，報告の担当者以外にも十分な予習と発言を求める．この授業は桑原教員担当の「日本史演習」と密接に関連させて行い，随時共同授業を行う．

【到達目標】論文・史料を読解し，それに対する自分の意見 (評価・批判) をもつこと．

【授業計画】**1.** 取り上げる論文のテーマとしては，以下のような例がある． **2.** 古代・中世の社会と国家 **3.** 武士の成立と展開 **4.** 中世法と裁判の世界 **5.** 古代・中世の仏教と民衆 **6.** 荘園制と村落 **7.** 東アジア世界の秩序と日本 **8.** 具体的な論文名は授業の中で示す．また以上のテーマに限らず，学生の関心に基づいて素材を決めたい．

【成績評価】発表内容，議論への参加度などの平常点，レポートなど．

【再試験】なし

【教科書】論文等は適宜配布する．指定の論文・史料以外にも，参考となるものを広く読む必要がある．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220103

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日10時30分~ 12時)

日本史演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
衣川 仁 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本古代・中世史を考える上で重要な論文あるいは史料を精読・検討し，そこにあらわれた諸問題に対する理解力と思考力を深める．

【授業概要】日本古代・中世史上の諸問題を考えるために，重要な論文あるいは史料を取り上げて検討する．各回の担当者を決めて報告をしてもらい，それをもとに出席者全員で議論していく．

【キーワード】**日本史，古代史，中世史**

【関連科目】『日本史演習』(0.5, ⇒36 頁)

【履修上の注意】あらかじめ担当者を決めて報告を受ける演習形式で進める．報告にはレジュメの作成などの準備をする必要があるが，報告の担当者以外にも十分な予習と発言を求める．この授業は桑原教員担当の「日本史演習」と密接に関連させて行い，随時共同授業を行う．

【到達目標】論文・史料を読解し，それに対する自分の意見 (評価・批判) をもつこと．

【授業計画】**1.** 取り上げる論文のテーマとしては，以下のような例がある． **2.** 古代・中世の社会と国家 **3.** 武士の成立と展開 **4.** 中世法と裁判の世界 **5.** 古代・中世の仏教と民衆 **6.** 荘園制と村落 **7.** 東アジア世界の秩序と日本 **8.** 具体的な論文名は授業の中で示す．また以上のテーマに限らず，学生の関心に基づいて素材を決めたい．

【成績評価】発表内容，議論への参加度などの平常点，レポートなど．

【再試験】なし

【教科書】論文等は適宜配布する．指定の論文・史料以外にも，参考となるものを広く読む必要がある．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220104

【連絡先】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12時50分~ 14時20分)

東アジア文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
有馬 卓也 · 教授 / 人間文化学科，田中 智行 · 准教授 / 人間文化学科
邵 迎建 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】東アジア文化論では，文学作品や思想書，或いは画像などを手がかりに，古代から近現代に至る中国の思想・文化を様々なテーマから解明し理解していくことを主眼に於て講義を行っていく．そして，中国文化の基層に流れている様々なものを考えていきたい．

【授業概要】本講義は，中国の春秋戦国から唐代までを有馬が，唐・宋・明を田中が，清から現代までを邵が担当する．そして，各時代の文化的特質を様々な事件や社会現象を通して，幅広く考えていく．

【キーワード】**中国思想，中国文学，中国文化**

【到達目標】中国文化の理解を通して，人間の普遍的な理解を試み得る目をもつ．

【授業計画】**1.** ガイダンス・春秋戦国期の思想 **2.** 秦から前漢へ **3.** 前漢武帝期 **4.** 前漢の終焉と後漢 **5.** 初期道教 **6.** 道教の隆盛 **7.** 魏晋南北朝期の志怪小説 **8.** 唐代の伝奇小説 **9.** 唐宋の詩文 **10.** 宋詞と元曲 **11.** 明清の文学と出版文化 **12.** 国民国家と小説 **13.** 戦争期の映画と演劇 **14.** 中華人民共和国の人民文学 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】出席と期末試験による

【再試験】行わない

【参考書】授業中に適宜紹介していく

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218955

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 一応水曜日の13~ 14時とするが，随時質問を受け付ける．)

⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

東アジア文化論講読 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
有馬 卓也 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】中国古代の思想・文学関係の基礎文献を講読しながら，中国文化を考えていこうとするものである．漢文を読むための基礎知識を伝えることももちろんだが，メインは文化理解の方に置いている．本年度は中国の不思議小説を集める『太平広記』の中から，巻 131 報応三十と巻 133 報応三十二を読む予定．

【授業概要】小説からさぐる思想・文化

【キーワード】**志怪小説，伝奇小説，中国文化**

【履修上の注意】演習の形式をとるので，全員が担当することを前提とする．したがって，最高 25 名を限度としたい．最初に出席者の担当を決め，発表当日までに予習チェックを行うことを義務づける (授業の時，誤読の訂正の為に時間を浪費することをさけるため).

【到達目標】漢文 (白文) に対する基礎理解 (慣れ) と，中国文化の理解を通して，人間の普遍的な理解を試み得る目を持つこと．

【授業計画】**1.** 巻 131 報応三十と巻 133 報応三十二は因果応報にまつわる怪奇現象譚を 26 話と 22 話掲載する．本年度は報応三十のすべてと，報応三十二の一部を読む予定である． **2.** 毎回 3 話程度を読んでいく．

【成績評価】演習形式で行うので，出席点と担当の出来具合を総合して評価する．出席は一回につき 3 点．担当の出席は 100 点から出席点 (授業回数 ×3) を引いた数字が満点となる．欠席する場合，あらかじめ連絡を入れること．連絡があった場合の欠席と無断欠席とでは評価が異なるので注意．詳細は第一回目の講義の時に連絡する．

【再試験】行わない

【教科書】特に教科書・参考書として指定するものはないが，以下の文献は授業理解の手助けとなろう．竹田晃『搜神記』(平凡社・東洋文庫), 今村与志雄『唐宋伝奇集 (上下)』(岩波文庫), 陳舜臣『ものがたり唐代伝奇』(朝日文庫), 今村与志雄『酉陽雑俎 (1~ 5)』(平凡社・東洋文庫)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218956

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

東アジア文化論講読 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
田中 智行・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】李漁『閑情偶寄』を読む

【授業概要】明末清初の人・李漁の『閑情偶寄』から読みやすい文章を選び，漢文訓読の形式で精読する．演劇・建築・家具・飲食・植物など多彩なテーマにわたる随筆集であり，受講者の興味に応じて読む文章を決めたい．担当者はとくに決めず，毎回の予習を求め，その場で指名する．

【キーワード】**文学，漢文，中国語**

【先行科目】『東アジア文化論講読 I』(1.0, ⇒37 頁), 『アジア史基礎研究 I』(1.0, ⇒39 頁)

【関連科目】『東アジア文化論講読 I』(0.5, ⇒37 頁)

【履修上の注意】外国語の古典文語文であるから，辞書を引かなければ読めない．なんとなく訓読してわかったつもりにならず，丁寧に漢和辞典に当たることはもちろん，論理的に文章を解釈する習慣を養ってほしい．

【到達目標】漢文法の基礎を学び，漢和辞書を引きながら文章を正確に理解する力を身につける．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 漢文訓読の基礎 1 **3.** 漢文訓読の基礎 2 **4.** 明代文学史概説 1 **5.** 明代文学史概説 2 **6.** 講読 閑情偶寄 1 **7.** 講読 閑情偶寄 2 **8.** 講読 閑情偶寄 3 **9.** 講読 閑情偶寄 4 **10.** 講読 閑情偶寄 5 **11.** 講読 閑情偶寄 6 **12.** 講読 閑情偶寄 7 **13.** 講読 閑情偶寄 8 **14.** 講読 閑情偶寄 9 **15.** 講読 閑情偶寄 10 **16.** 補足と総括

【成績評価】平常点とレポートにより総合的に評価する．

【再試験】行わない

【参考書】『全訳漢辞海』(三省堂)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218957

【連絡先】

⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~ 14時とするが，随時質問に応じる．)

考古学基礎研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
東 潮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】〈魏志東夷伝夷伝の考古学〉の講義をつうじて，考古学の方法論，考古資料 (遺跡・遺物) など，考古学の基礎を学ぶ．とくに漢代の文物について基礎知識をやしなう．

【授業概要】『三国志』東夷伝の諸国 (夫餘・高句麗・挹婁・東沃沮・濊・韓・倭) および漢，四国 (魏・呉・蜀・公孫氏)，西晋の考古学についての知識をえる．

【キーワード】**三国志，東夷伝，考古学方法論，遺跡遺物**

【履修上の注意】遺跡や博物館の見学をこころがける．

【到達目標】漢代，三韓時代，弥生・古墳時代の文物についての基礎知識をえる．

【授業計画】**1.** 考古学研究法 **2.** 魏志東夷伝の世界 **3.** 漢魏の都と楽浪郡・帯方郡・遼東郡・玄菟郡 **4.** 夫餘の考古学 **5.** 高句麗の考古学 **6.** 挹婁・東沃沮の考古学 **7.** 韓の考古学 **8.** 濊の考古学 **9.** 倭の考古学 **10.** 洛陽と鄴城 **11.** 東アジア古代の墓制 **12.** 東アジア古代の農業生産と鉄生産 **13.** 東夷伝と戦争 **14.** 東アジア古代の祭祀と習俗 **15.** 東アジア古代の交易 **16.** 魏志東夷伝の考古学から魏志東夷伝の考古学へ

【成績評価】出席点とレポートの評価による．

【再試験】しない

【教科書】東潮編 2009『『三国志』魏書東夷伝の国際環境』(『国立歴史民俗博物館研究報告』151)

【参考書】山尾幸久 1986『新版魏志倭人伝』講談社，井上秀雄ほか 1974『東アジア民族史』1・2，平凡社，佐伯有清『魏志倭人伝を読む』上下，吉川弘文館

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218602

【連絡先】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時．考古学研究室．)

考古学基礎研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
中村 豊・准教授 / 埋蔵文化財調査室

【授業目的】考古学の調査・研究をおこなうさいの基礎的な技術を取得する．

【授業概要】考古学を研究する際の発掘調査から出土品の整理・分析までの基礎的な方法を習得する．

【キーワード】**考古学，発掘調査，出土遺物取扱い**

【関連科目】『考古学基礎研究 I』(0.5, ⇒38 頁)

【到達目標】考古学の調査に取り組む際の基本的技術習得

【授業計画】**1.** オリエンテーション **2.** 遺跡を歩き観察する 1 **3.** 遺跡を歩き観察する 2 **4.** 地形を読む 1 **5.** 地形を読む 2 **6.** 地形を読む 3 **7.** 出土品の実測・土器 1 **8.** 出土品の実測・土器 2 **9.** 出土品の実測・土器 3 **10.** 出土品の実測・石器 1 **11.** 出土品の実測・石器 2 **12.** 出土品の実測・石器 3 **13.** 拓本 1 **14.** 拓本 2 **15.** 発掘調査現場訪問 **16.** 総括授業

【成績評価】授業への取り組み状況

【再試験】なし

【教科書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218603

【連絡先】

⇒ 中村 (088-633-7224, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 8 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

【備考】動きやすい服装，汚れてもよい服装で臨むこと．

考古学研究

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
東 潮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】近代のアジアにおける鳥居龍蔵の考古学的・人類学的調査研究の軌跡をたどる．

【授業概要】鳥居龍蔵の中国東北地方，シベリヤ，樺太，朝鮮，台湾，西南中国などアジア各地における考古学的・人類学的調査研究の意義をあきらかにする．

【キーワード】**鳥居龍蔵**

【到達目標】鳥居龍蔵とともに，アジアの歴史と文化への認識を高める．アジア太平洋戦争を考える．

【授業計画】**1.** 鳥居龍蔵の考古学的・民族学 **2.** 鳥居龍蔵の中国東北地方 **3.** 鳥居龍蔵の大興安嶺諸民族調査 **4.** 鳥居龍蔵の黒龍江 (アムール) **5.** 鳥居龍蔵とサハリン (樺太)・千島・アイヌ **6.** 鳥居龍蔵の西南中国 (貴州・雲南省) の諸民族 **7.** 鳥居龍蔵の台湾調査 **8.** 鳥居龍蔵の朝鮮調査 **9.** 鳥居龍蔵の東北アジア研究ー支石墓 **10.** 鳥居龍蔵の東北アジア研究ー高句麗 **11.** 鳥居龍蔵の東北アジア研究ーー渤海・遼・金 **12.** 鳥居龍蔵の東北アジア研究ー遼の皇帝陵と壁画 **13.** 鳥居龍蔵の東北アジア研究ー遼の都城と寺院 **14.** 鳥居龍蔵の朝鮮調査ー楽浪・帯方郡・三韓 **15.** 鳥居龍蔵の朝鮮調査ー済州島の民族 **16.** 鳥居龍蔵とアジアの近代

【成績評価】レポートによる

【再試験】おこなわない．

【教科書】

- ⋄ 東潮 2009「鳥居龍蔵のアジア踏査行」(『人間社会文化研究』17)
- ⋄ 資料配付

【参考書】『鳥居龍蔵全集』朝日新聞社，中薗英助『鳥居龍蔵伝』岩波書店，徳島県立博物館『鳥居龍蔵の見たアジア』

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218604

【連絡先】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時．考古学研究室において．)

考古学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
東 潮 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】論文作成のための演習．各自テーマを定め，その研究の段階をまとめる．前期は「壁画と東アジア世界」，後期は「東アジアの墓制と都城」というテーマで演習する．

【授業概要】「壁画と東アジア世界」という共通のテーマで，東アジアの壁画墓について研究する．1972 年に発見された高松塚古墳壁画に興味をもっていらい，壁画研究を続け，2011 年春に『高句麗壁画と東アジア』を刊行した．演習をつうじての壁画研究のおもしろさをつたえる．壁画の考古学的・図像学的研究をおこなう．

【到達目標】キトラ・高松塚古墳壁画を東アジア世界のなかで位置づける．

【授業計画】1. 東アジア考古学の諸問題 **2.** 高句麗壁画－国内城時代 **3.** 高句麗壁画－平壌城時代 **4.** 漢魏晋の壁画 **5.** 発表 **6.** 発表 **7.** 南北朝時代の壁画 **8.** 隋唐代の壁画 **9.** キトラ・高松塚古墳壁画の系統関係 **10.** 遼の壁画 **11.** 宋の壁画 **12.** 金の壁画 **13.** 発表 **14.** 発表 **15.** 発表 **16.** 東アジアの壁画の展開

【成績評価】レポートによる．

【教科書】東潮 2011『高句麗壁画と東アジア』学生社

【参考書】李星明 2005『唐代墓室壁画研究』陝西人民美術出版社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220105

【連絡先】
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

考古学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
東 潮 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】論文作成のための演習．各自テーマを定め，その研究の段階をまとめる．「東アジアの墓制と都城」の共通テーマにもとづき演習する．

【授業概要】 東アジア古代・中世の墓制を比較し，歴史・文化の発展段階，王権の特質などをさぐる．

【キーワード】東アジア考古学，墓制，王陵，都城

【先行科目】『考古学基礎研究 I』(1.0, ⇒38 頁)

【到達目標】日本・朝鮮・中国古代の墓制から東アジア古代の歴史を学ぶ．

【授業計画】1. 東アジア考古学の諸問題 **2.** 東アジアの墓制と都城－漢魏晋 **3.** 東アジアの墓制と都城－五胡十六国 **4.** 東アジアの墓制と都城－南北朝 **5.** 発表 **6.** 発表 **7.** 発表 **8.** 東アジアの墓制と都城－南北朝 **9.** 東アジアの墓制と都城－隋・唐・新羅・倭 **10.** 東アジアの墓制－唐・統一新羅・日本 **11.** 発表 **12.** 発表 **13.** 発表 **14.** 発表 **15.** 東アジアの墓制と都城－遼・宋・金・高麗 **16.** 東アジアの墓制と都城からみた国際環境

【成績評価】レポートによる．

【教科書】東潮 2006『倭と加耶の国際環境』吉川弘文館，東潮 2011『高句麗壁画と東アジア』学生社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220106

【連絡先】
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

アジア史基礎研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
葭森 健介 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】東アジアの歴史 · 社会に関する文献資料 (主として漢文資料) の読解を通して，アジアの歴史や社会への理解を高めると共に，東アジアの古典文化研究に必要な情報処理能力 · 語学力を養成することを目的とする．

【授業概要】『三国志』の講読を通じ，漢文による歴史資料の読解力を身につけると共に，当時の政治，軍事，社会の諸問題を考察する．今年度も受講者の希望も考慮し，『三国志』の中から題材を選ぶ．昨年は『三国志』の中でも代表的な諸葛孔明の列伝の前半を読んだが今年度はとりあえずは赤壁の戦いで活躍した将軍たちの列伝を教材として準備している．

【キーワード】『三国志』，中国中世史，漢文購読，歴史資料分析

【先行科目】『歴史と文化/アジアの近代と日本』(1.0)

【履修上の注意】受講に際しては基礎的な漢文の知識，それに加えて十分な予習復習が欠かせないのでその点注意しておくこと．現代中国語は必須ではないが，文法知識として役立つ．授業計画は授業内容をテーマ別に記したものであって，始めと終わりを除いて，順序を記したものではない．

【到達目標】 辞書や工具書を使い訓点のない簡単な『正史』の漢文が読め，『三国志』の時代背景が理解できることを目標とする．

【授業計画】1. 受講生と共に『三国志』の中から講読する部分を選定する． **2.** 辞書の使い方．特に付録の利用法． **3.** 漢文のリズムのつかみ方．漢文の語順の法則． **4.** 送りがな，返り点付け方．漢文の禁則事項． **5.** 工具書 (索引や種々の事典) の有効活用法． **6.** 官職，人名，地図の調べ方と読み込み方． **7.** 既存の研究の利用法． **8.** 『三国志』の時代背景 (1)-中国史の中で **9.** 『三国志』の時代背景 (2)-当時の社会状況 **10.** 『三国志』と日本 **11.** 『三国志』の時代の中国と現代 **12.** 『三国志』の正しい読み方-史実とフィクション **13.** 資料と研究の間 **14.** 『三国志』を読んで (1)-発表 **15.** 『三国志』を読んで (1)-討論 **16.** 総括

【成績評価】平常点とレポートを組み合わせて評価する．特に，平常点が重視されるので欠席の多い場合は単位を出せない．

【再試験】平常点に再試はない

【教科書】 テキストはプリントを配布する．参考書はないが漢文と雖ども外国語である (それも古文)．従って辞書は必携．高校の時に使ったものでもよいから必ず持参すること．なお，『三国志』について何か読んでおく方が取っつきやすい (但しコンピューターゲームは除く)．

【参考書】授業の中で紹介する．とりあえず川勝義雄『中国の歴史』3(講談社学術文庫)，『東洋の知識人』(朋友書店) を挙げておく．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218337

【連絡先】
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜16:30~ 17:30)

アジア史基礎研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
荒武 達朗 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 中国社会について，現代中国文で書かれた文章を読む．中国社会への理解を深めるとともに，現代中国文の読解能力を向上させる．全学共通中国語 I を修得したレベルから開始する． 開始当初はあまりの難しさに面食らうかもしれない．だが目標レベルを高く設定する事は能力の向上の為には必要なことである．叱責を受けながら頑張っていただきたい．3 カ月を過ぎる頃には，新聞程度なら辞書を片手にすらすら読めるレベルに達している．

【授業概要】中国社会の研究 現代中国文の訓練

【キーワード】中国語講読，中国社会

【先行科目】『中国語/中国語入門』(1.0), 『中国語/中国語初級』(1.0)

【履修上の注意】毎回担当者を決めず，随意に指名するので予習は欠かせない．予習をしていない，あるいは出来ない者には苦痛の授業となる．残念ではあるが，理解できる範囲以上の事は理解しようとも思わない者がいる．このような学生には縁のない授業である．遠慮して頂きたい．ここで求められるのは，開始レベルの高低を問わず，向上心を持った野心的な学生である． 文法の重要事項は何度でも繰り返し解説するので後期からの受講も認める．全学共通 1 年生の中国語を既修のこと．また中国語を母語とする学生にとっては，既知の内容であるので，受講を許可しない．

【到達目標】現代中国語の文章読解能力の向上

【授業計画】最初の方は一回の授業でテキスト 10 行程度を目処に読んでいくが，次第にスピードアップをはかる．音読と日本語訳を義務として課す．難解な文章も順を追いつつ，文法事項を確認していくと必ず読めるのである．

【成績評価】評価の善し悪しはほぼ 100%授業態度により決まる．授業態度が良ければいずれ読解能力はついてくるだろうし，悪ければいつまでたっても読めない．

【再試験】ない．

【教科書】おって指定し，配布する．

【参考書】 辞書は必要である．ただし電子辞書は学習効果があがらないので初学者にとって不適当である．これは禁止する．紙媒体の比較的よい辞書を購入しなければならない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218338

【連絡先】
⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝，一コマ目前がよい．早起きしなさい．)

アジア史研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
葭森 健介 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】東アジアの古代から近世に至る歴史 (の流れ，東アジアの文化の特質とその歴史的背景を理解し，東アジア史 (日本を含む) を学ぶ意味について考える力を養う．

【授業概要】東アジア文化の核となる中国文化の形成と発展，周辺への影響，及びその背景にある社会の変化について，中国史の流れをおいつつ，アジアの歴史の特性について講義する．

【キーワード】アジア史，時代区分論，地域社会

【先行科目】『歴史と文化/アジアの近代と日本』(1.0)

【履修上の注意】高校までの世界史，日本史の知識を復習しておいてほしい．

【到達目標】日本を含むアジア史の流れを理解し，自分たちが立つ位置を自覚し，将来歴史の教師となった際にも生徒に世界史的な観点から日本史を授業しうる能力を涵養する．

【授業計画】**1.** 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る　**2.** 歴史理論と中国史研究，-日本における東洋史研究の始まり　**3.** アジアにおける古代・中世・近代-戦後の時代区分論争　**4.** 中華文明の成立と発展　**5.** 中国における専制国家の成立と展開　**6.** 三国志の時代とは-アジアいての古代から中世への展開　**7.** 貴族制と官僚制-東アジアの中世とは　**8.** 律令制の成立と受容-中国の中世・日本の古代　**9.** 唐宋変革の意味-東アジアにおける近世　**10.** 中国における土地制度の変遷-均田農民から佃戸へ　**11.** 中国における都市と商業の発展-東洋のルネッサンス　**12.** 近世の科挙制度と西洋の絶対王政　**13.** 中国革命への道筋-近世儒教の革新　**14.** 歴史の伝統と現代中国の課題-和諧社会は達成できるか?　**15.** 期末試験　**16.** 総括

【成績評価】小テスト，期末試験を総合的に評価

【再試験】再試験はしない

【教科書】特にないが，高校の時に使った世界史，日本史の教科書を持参すること

【参考書】授業の際に適宜紹介

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218339

【連絡先】
⇒ 葭森 (アジア史研究室，088-656-7156，yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 月曜日16:30~ 17:30)

アジア史研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
荒武 達朗 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】台湾史についての基礎知識を学ぶ．

【授業概要】台湾は独特の歴史を有し，特徴的な社会を形成している．中国との共通点と差異点は何か．歴史的側面から考察を深める．

【キーワード】**台湾社会**

【先行科目】『近現代世界の成立と展開』(1.0, ⇒22 頁)，『歴史と文化/20 世紀前半の中国』(1.0)，『歴史と文化/20 世紀後半の中国』(1.0)

【関連科目】『地域交流史』(0.5, ⇒26 頁)

【履修上の注意】中国史について，あるいは台湾史や台湾社会について全く勉強したことがない学生も，分かろう，理解しようという熱意がある限り，受講できる．授業中の睡眠や携帯電話の使用は一切認めない．

【到達目標】台湾社会に対する理解を深める．

【授業計画】**1.** 有史以前の台湾　**2.** 歴史への登場　**3.** 大航海時代と台湾 16 世紀　**4.** 鄭成功の評価 民族英雄か果たして?　**5.** 漢民族移民の増加　**6.** 伝統的東アジアの国際秩序と近代　**7.** 日清戦争と日本による台湾領有　**8.** 日本統治時代の功罪 揺れ動く評価　**9.** 第二次世界大戦後の台湾 中国による接収 「イヌが去ってブタが来た」　**10.** 白色テロルの時代　**11.** 民主化運動　**12.** 台湾と大陸

【成績評価】授業態度は評価の前提である．授業態度が良好と認められた学生に対しては，期末試験で評価を行う．

【再試験】なし．

【教科書】おって指示．

【参考書】おって指示．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218340

【連絡先】
⇒ 荒武 (2312，088-656-7148，aratake@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 一コマ目の前が望ましい．)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
有馬 卓也 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】より高度な思想・文学関係の文献を講読しながら，中国の思想・文化を考えていこうというものである．東アジア思想研究のための次のステップである．一つの文献を歴史・思想・文学・文化という枠組みにとらわれずに理解・把握することの訓練である．

【授業概要】今年度は，中国文化の一つである仙人文化の中でも尸解仙について分析していく．先行研究を踏まえつつ，尸解仙を論じる文献を系統的にあたっていきたい．

【キーワード】**道教，尸解仙，中国文化**

【到達目標】仙人文化の理解を通して，人間の普遍的な理解を試み得る目をもつこと．

【授業計画】**1.** 1) ガイダンス　**2.** 2)~4)『抱朴子』の検討　**3.** 5)~6)『列仙伝』の検討　**4.** 7)~8)『神仙伝』の検討　**5.** 9)~10) 武帝関連資料の検討　**6.** 11)~15)『雲笈七籤』の検討　**7.** 16) 総括

【成績評価】演習形式で行う．出席点と発表内容を総合して評価する．出席は一回につき 3 点．欠席をする場合，あらかじめ連絡を入れること．連絡があった場合の欠席と無断欠席とでは評価が異なるので注意．詳細は第一回目の講義の時に連絡する．

【再試験】なし．

【教科書】教科書として以下の文献を使用する．『抱朴子』(岩波文庫)・『列仙伝・神仙伝』(平凡社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220107

【連絡先】
⇒ 有馬 (088-656-7119，arima@ias.tokushima-u.ac.jp)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
有馬 卓也 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】より高度な思想・文学関係の文献を講読しながら，中国の思想・文化を考えていこうというものである．アジア思想研究の次のステップである．一つの文献を歴史・思想・文学・文化という枠組みにとらわれずに理解・把握することの訓練である．

【授業概要】今年度は，中国文化の一つである龍，及びその居城である竜宮について，いくつかの切り口から分析していく．そして，中国文化の一側面を明らかにしていきたい．

【キーワード】**龍，伝説の研究，中国文化**

【到達目標】竜宮伝説を通して，中国文化を理解するとともに，人間の普遍的な理解を試み得る目をもつこと．

【授業計画】**1.** 1) ガイダンス　**2.** 2) 竜宮伝説解析のための方法論　**3.** 3)~4) 龍の属性　**4.** 5)~6)「柳子華」の検討　**5.** 7)~9)「柳毅伝」の検討　**6.** 10)~12)「龍女伝」の検討　**7.** 13)~15)「李衛公別伝」の検討　**8.** 16) 総括

【成績評価】演習形式で行う．出席点と発表内容を総合して評価する．出席は一回につき 3 点．欠席をする場合，あらかじめ連絡を入れること．連絡があった場合の欠席と無断欠席とでは評価が異なるので注意．詳細は第一回目の講義の時に連絡する．

【再試験】なし．

【参考書】方法論に関連して小松和彦氏の以下の文献を挙げておく．すべて読んでおくこと．『神隠し』()，『憑霊信仰論』(講談社学術文庫)，『異人論』(ちくま学芸文庫)，『悪霊論』(ちくま学芸文庫)，『日本妖怪異聞碌』(講談社学術文庫)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220108

【連絡先】
⇒ 有馬 (088-656-7119，arima@ias.tokushima-u.ac.jp)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
邵 迎建 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】現代中国の女性作家張愛玲のエッセイや小説を読解する．言葉の理解，分析が中心であるが，テクストの精読に当たってはその背後にあった歴史，文化，社会状況を調べ，明らかにさせ，理解を深めていく．

【授業概要】男女の日常しか書かないと宣言した張愛玲 (1920-1995) の文章は中国で「美文」と定評されている．日常を文学的にきれいに表現しているのは特徴である．だが，その文章はきれいだけではなく奥深い．当然，難解なところもかなり多い．エッセイを読むことから始め，だんだんと難しい恋愛小説へとチャレンジしていく．

【履修上の注意】中国語 · 中国文化に興味を持つ他コースの学生の履修も歓迎するが，履修は原則として実用外国語基礎演習 II を履修済みである者に限る．

【到達目標】
1. 中国語の文章を正確に読解する．
2. 中国近現代文学，文化について調べる基礎知識を習得する．

【授業計画】**1.** ガイダンス　**2.** 童言無忌　**3.** 同上　**4.** 同上　**5.** 同上　**6.** 私語　**7.** 同上　**8.** 同上　**9.** 同上　**10.** 同上　**11.** 傾城之恋　**12.** 同上　**13.** 同上　**14.** 同上　**15.** 同上　**16.** 総括授業

【成績評価】出席状況，態度，発表による綜合評価．

【再試験】行わない．

【教科書】プリントを配布する．参考書は適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220109

【連絡先】
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
邵 迎建 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】現代中国の女性作家張愛玲のエッセイや小説を読解する．言葉の理解，分析が中心であるが，テクストの精読に当たってはその背後にあった歴史，文化，社会状況を調べ，明らかにさせ，理解を深めていく．

【授業概要】張愛玲の恋愛小説を読む．

【履修上の注意】中国語 · 中国文化に興味を持つ他コースの学生の履修も歓迎するが，履修は原則として実用外国語基礎演習 II を履修済みである者に限る．

【到達目標】
1. 中国語の文章を正確に読解する．
2. 中国近現代文学，文化について調べる基礎知識を習得する．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 前期の続き，張愛玲の恋愛小説『傾城之恋』を読む． **3.** 『傾城之恋』 **4.** 同上 **5.** 同上 **6.** 同上 **7.** 映画『傾城之恋』を観る **8.** 『傾城之恋』を読む **9.** 同上 **10.** 同上 **11.** 同上 **12.** 同上 **13.** 同上 **14.** 総括授業

【成績評価】出席状況，態度，発表による綜合評価．

【再試験】行わない．

【教科書】プリントを配布する．参考書は適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220110

【連絡先】
⇒ 邵 (yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
葭森 健介 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】東アジアの歴史 · 社会に関する様々な情報をいかに入手し，これを利用して行くか，大学でアジア学を学ぶ上での基礎的手法とこれを応用して行く研究手法と技能を身につける事を目的とする．

【授業概要】東アジア史を中心としてアジアについて学ぶ上で必要な情報の収集の仕方，整理に役立つ技術，問題を整理する上で重要な観点，資料や論文の読み方，報告したり，レポート · 論文を書く上で留意すべき事柄などを実際の資料や論文を扱うことで身につけてもらう．扱う内容は受講生の関心と能力を踏まえ，受講生と相談の上決める．前期はアジア史・アジア研究についての基本文献の探し方，辞書・目録の使い方，研究文献目録の概要について説明し，実地訓練を行う．

【キーワード】**アジア史，資料，研究入門**

【先行科目】『アジア史研究 I』(1.0, ⇒39 頁)，『アジア史基礎研究 I』(1.0, ⇒39 頁)

【履修上の注意】授業は報告と討論が中心となるのでレジュメの準備が必要．この授業は，学生が主体的に行動することによって成り立つ授業なので，強い自覚を持って出席されたい．なお講義計画は授業内容を項目にまとめたものであって，必ずしも順序を示すものでない．

【到達目標】自分の興味に従って様々な情報や資料を探し出し，レジュメなどを作成して他者に対し情報の内容，自分の意見を説得的に発表しうる能力を身につけることを目標とする．

【授業計画】**1.** アジア研究に必要な情報とは **2.** 情報はどこにあるのか **3.** 徳島大学で使える情報の活用法 **4.** 情報検索はどのように行うのか 1-図書館と文献目録 **5.** 情報検索はどのように行うのか 2-コンピューターを使った情報検索 **6.** 資料の種類と使い方 1-文献資料の種類 **7.** 資料の種類と使い方 2-文献資料の分類法 < 目録学の基礎知識 > **8.** 資料の種類と使い方 3-出土資料の活用法 **9.** 辞書の使い方 1-漢和辞典の歴史と読み方 **10.** 辞書の使い方 2-漢和辞典のひき方 **11.** 辞書の使い方 3-大漢和辞典を活用してみる **12.** 漢字文化圏のコンピューター活用法-コード変換と外字処理 **13.** 資料リストの作成と実習 **14.** 文献リストの作成法と実習 **15.** 口頭発表-期末試験に代えて **16.** 総括

【成績評価】平常点を中心とする．特に，発表の準備，内容，準備してきた資料を重視する．

【再試験】平常点に再評価はありえない．

【教科書】テキストはなく，授業の進度に合わせ，プリントを配布する．

【参考書】参考書についても，発表のテーマに応じ，その都度指摘する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220111

【連絡先】
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜16:30~ 17:30)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
葭森 健介 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】東アジアの歴史 · 社会に関する様々な情報をいかに入手し，これを利用して行くか，大学でアジア学を学ぶ上での基礎的手法とこれを応用して行く研究手法と技能を身につける事を目的とする．

【授業概要】歴史を中心としてアジアについて学ぶ上で必要な情報の収集の仕方，整理に役立つ技術，問題を整理する上で重要な観点，資料や論文の読み方，報告したり，レポート · 論文を書く上で留意すべき事柄などを実際の資料や論文を扱うことで身につけてもらう．後期は自らの関心に基づきテーマを建て，資料を使って報告してもらう．自ら選んだテーマについて代表的な資料や論文にふれることを通じ，文献の調べ方，論文の読み方を身につけてもらう

【キーワード】**アジア史，論文，研究手法**

【先行科目】『アジア史基礎研究 I』(1.0, ⇒39 頁)，『アジア史研究 I』(1.0, ⇒39 頁)，『東アジア文化演習』(1.0, ⇒41 頁)

【履修上の注意】授業は報告と討論が中心となるのでレジュメの準備が必要．学生が主体的に行動することによって成り立つ授業なので，強い自覚を持って出席されたい．なお講義計画は授業内容を項目にまとめたものであって，必ずしも順序を示すものでない．

【到達目標】自分の興味に従って様々な情報や資料を探し出し，レジュメなどを作成して他者に対し情報の内容，自分の意見を説得的に発表しうる能力を身につけることを目標とする．

【授業計画】**1.** 研究テーマの決め方-興味から研究へ **2.** 研究論文の読み方 1-消える研究と残る研究 **3.** 研究論文の読み方 2-優れた論文の要件 **4.** 研究論文の読み方 3-論理構成 < 資料と論理 > **5.** レポート・研究論文の書き方 1-悪文と名文の違い **6.** レジュメの作り方 1-論文のどこを読むか **7.** レジュメの作り方 2-筆者の意見と自分の意見 **8.** 論文を読んで発表する① **9.** 論文を読んで発表する② **10.** 論文を読んで発表する③ **11.** 資料整理の方法-史料の整理とリストの作り方 **12.** 資料整理の方法-表や図を作るということ **13.** 資料をまとめて報告する① **14.** 資料をまとめて報告する② **15.** 資料をまとめて報告する③ **16.** 総括授業

【成績評価】平常点を中心とする．特に，発表の準備，内容，準備してきた資料を重視する．

【再試験】平常点に再評価はありえない．

【教科書】テキストはなく，授業の進度に合わせ，プリントを配布する．

【参考書】参考書についても，発表のテーマに応じ，その都度指摘する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220112

【連絡先】
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:30~ 17:30)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
荒武 達朗 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】中国は我々とは異なる社会である．彼我の差異と共通点は何か．他の文化圏と接触をする時にこのような視点は必須であると言えよう．この授業では，近現代中国に関する論文や調査資料を基にして中国社会への理解を深める．

【授業概要】文献の輪読

【キーワード】**中国社会**

【履修上の注意】本授業では受講生による疑問の提示，討論を重視する．本授業では受講生による疑問の提示，討論を重視する．受講希望者の要望も考慮するので必ず登録前に来室，相談されたい．

【到達目標】中国社会に対して何らかの知見を拡げ，卒業研究作成への足掛かりをつくる．

【授業計画】**1.** 一回目はガイダンス．テキスト配布． **2.** 二回目以降はテキストの翻訳，読解． **3.** 以降は前回の続きを繰り返していく． **4.** 難解なテキスト故，予めシラバスに各回の範囲を明記することは出来ない． **5.** 強いて範囲を明記するならば，本授業に関しては，受講生諸君に対して誠意を欠くこととなると私は考える．

【成績評価】本授業では受講生による疑問の提示，討論を重視する．評価の善し悪しは授業態度と期末レポートにより決まる．

【再試験】なし．

【教科書】第一回目の授業にて配布する．

【参考書】授業中に紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220113

【連絡先】
⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 朝がよい．)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
荒武 達朗 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】中国は我々とは異なる社会である．彼我の差異と共通点は何か．他の文化圏と接触をする時にこのような視点は必須であると言えよう．この授業では，近現代中国に関する論文や調査資料を基にして中国社会への理解を深める．

【授業概要】文献の輪読

【キーワード】**中国社会**

【履修上の注意】本授業では受講生による疑問の提示，討論を重視する．本授業では受講生による疑問の提示，討論を重視する．受講希望者の要望も考慮するので必ず登録前に来室，相談されたい．

【到達目標】中国社会に対して何らかの知見を拡げ，卒業研究作成への足掛かりをつくる．

【授業計画】**1.** 一回目はガイダンス． **2.** 二回目以降はテキストの翻訳，読解． **3.** 以降は前回の続きを繰り返していく． **4.** 難解なテキスト故，予めシラバスに各回の範囲を明記することは出来ない． **5.** 強いて範囲を明記するならば，本授業に関しては，受講生諸君に対して誠意を欠くこととなると私は考える．

【成績評価】本授業では受講生による疑問の提示，討論を重視する．評価の善し悪しは授業態度と期末レポートにより決まる．

【再試験】なし．

【教科書】第一回目の授業で配布する．

【参考書】授業中に紹介する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220114
【連絡先】
⇒ 荒武 (2312, 088-656-7148, aratake@ias.tokushima-u.ac.jp)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
田中 智行・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】明代白話小説の講読
【授業概要】中国近世の白話 (口語体) 小説を講読する．明代の白話長編小説の傑作である，いわゆる「四大奇書」(『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』) などを題材にして，読みやすい場面を選び講読する．後期は『西遊記』や白話短編小説を読む予定 (作品は受講者に応じて変更する場合あり)．古典作品ではあるが，口語文であるため，漢文訓読の知識のみで読むことはむずかしい．中国語未修者は受講に際し相談すること．
【キーワード】**小説，明代，文学，白話**
【履修上の注意】中国語既修者が望ましい．演習においては，原文は中国語で音読してもらう．ただし未修者の履修を妨げるものではない．
【到達目標】古典口語文の読解力を身に着け，また白話小説に関する基礎的知識を得る．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 白話文読解の基礎 1 **3.** 白話文読解の基礎 2 **4.** 『三国志演義』導入 **5.** 『三国志演義』講読 1 **6.** 『三国志演義』講読 2 **7.** 『三国志演義』講読 3 **8.** 『三国志演義』講読 4 **9.** 『三国志演義』講読 5 **10.** 『水滸伝』導入 **11.** 『水滸伝』講読 1 **12.** 『水滸伝』講読 2 **13.** 『水滸伝』講読 3 **14.** 『水滸伝』講読 4 **15.** 『水滸伝』講読 5 **16.** 総括授業
【成績評価】平常点とレポートにより総合的に評価する
【再試験】行わない．
【参考書】
◇ 太田辰夫『新訂 中国歴代口語文』朋友書店
◇ 金文京『中国小説選』角川書店
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220115
【連絡先】
⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~ 14時とするが，随時質問に応じる．)

東アジア文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
田中 智行・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】明代白話小説の講読
【授業概要】中国近世の白話 (口語体) 小説を講読する．明代の白話長編小説の傑作である，いわゆる「四大奇書」(『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』) などを題材にして，読みやすい場面を選び講読する．後期は『西遊記』や白話短編小説を読む予定 (作品は受講者に応じて変更する場合あり)．古典作品ではあるが，口語文であるため，漢文訓読の知識のみで読むことはむずかしい．中国語未修者は受講に際し相談すること．
【キーワード】**小説，明代，文学**
【履修上の注意】中国語既修者が望ましい．演習においては，原文は中国語で音読してもらう．ただし未修者の履修を妨げるものではない．
【到達目標】古典口語文の読解力を身に着け，また白話小説に関する基礎的知識を得る．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 『西遊記』導入 **3.** 『西遊記』講読 1 **4.** 『西遊記』講読 2 **5.** 『西遊記』講読 3 **6.** 『西遊記』講読 4 **7.** 『西遊記』講読 5 **8.** 『金瓶梅』概説 1 **9.** 『金瓶梅』概説 2 **10.** 白話短編小説導入 **11.** 白話短編小説講読 1 **12.** 白話短編小説講読 2 **13.** 白話短編小説講読 3 **14.** 白話短編小説講読 4 **15.** 白話短編小説講読 5 **16.** 総括授業
【成績評価】平常点とレポートにより総合的に評価する
【再試験】行わない
【参考書】
◇ 太田辰夫『新訂 中国歴代口語文』朋友書店
◇ 金文京『中国小説選』角川書店
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220116
【連絡先】
⇒ 田中 (総合科学部 1 号館 2320 号, 088-656-7115, tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いちおう水曜の13~ 14時とするが，随時質問に応じる)

英米言語研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期, 集中)
井上 永幸・，山田 仁子・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】この講義では，日常生活の身近な例を使って，英語の意味と形について考えてゆく．「明かりをつける」という意味の turn on the light と turn the light on はどう違うのか．the light を代名詞にして it にするとなぜ turn it on のように turn と on にはさまれるのか．John has many books. はなぜ不自然か．happen, occur, take place はどこが違うか．常に「なぜ」考える姿勢で，複数の表現形式と意味の関係を考察してゆく．その際，適宜コンピュータを使ったコーパス言語学の手法を援用する．
【授業概要】現代英語の文法・語法研究
【キーワード】**英語学，英語語法研究，コーパス言語学，辞書学**
【履修上の注意】(1) 常に自分から問題点を探求する態度で望んでもらいたい．学生諸君の新鮮でユニークな発想を期待している．(2) 後期の授業は前期の授業の内容を前提としているので，まず前期を受講し，その後で後期を受講することが望ましい．
【到達目標】現代英語の文法・語法研究に必要な基礎知識を身につけること．
【授業計画】**1.** 講義概要説明 **2.** 文体と使用域 **3.** 慣用句とコロケーション **4.** 語順と話し手・書き手の意図 (1) **5.** 語順と話し手・書き手の意図 (2) **6.** 有標性 **7.** 反意語と否定 (1) **8.** 反意語と否定 (2) **9.** 直示 **10.** 指向性 (1) **11.** 指向性 (2) **12.** 時制と相 **13.** 動詞の相 (1) **14.** 動詞の相 (2) **15.** 総括授業
【成績評価】授業参加及び試験による．
【再試験】行わない．
【教科書】
◇ 井上永幸・赤野一郎 編 (2007)『ウィズダム英和辞典』第 2 版．三省堂．
◇ ※適宜，プリントも配布．
【参考書】
◇ 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎 編 (2005)『英語コーパス言語学 —基礎と実践— 【改訂新版】』研究社．
◇ ※最初の授業で，参考文献一覧表を配布．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218380
【連絡先】
⇒ 井上 . (オフィスアワー: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
元木 美男・，山田 仁子・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】イギリス史と関連させながら古期・中期英語を中心に現代までの英語の歴史を通観する．
【授業概要】英語史研究
【キーワード】**英語学，ノルマン・コンケスト，ラテン語，語源**
【関連科目】『英米言語研究 I』(0.5, ⇒42 頁), 『英米言語研究 III』(0.5, ⇒42 頁), 『英米言語研究 IV』(0.5, ⇒43 頁)
【到達目標】
1. 英語は古いところでは現代のドイツ語と同じような語尾変化をし，時代が下ると共に次第に語尾が消失し，今日のような語順を大切にする言語となった．また語彙においては，全体として，比較的純粋なゲルマン語彙から，ノルマン・コンケストを契機にロマンス語彙を増大してゆき，今日に見るような語彙の豊富さを獲得していった．
2. 以上のような英語の歴史について理解を深める．
【授業計画】英語史の概説に重点を置く．
【成績評価】レポート及び期末試験．
【再試験】行なう．
【教科書】
◇ Sweet's Anglo-Saxon Primer 千城
◇ 松平千秋・国原吉之助共著 新ラテン文法 東洋出版
【参考書】Albert C. Baugh:A History of the English Language
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218381
【連絡先】
⇒ 元木 . (オフィスアワー: 金曜日 14:30~ 15:30)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 III

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
山田 仁子・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】言語には，人間の世界の捉え方が反映している事を理解させる．
【授業概要】認知言語学入門
【キーワード】**英語学，認知言語学**
【先行科目】『英米言語研究 I』(1.0, ⇒42 頁)
【関連科目】『英米言語研究 I』(0.5, ⇒42 頁), 『英米言語研究 II』(0.5, ⇒42 頁)

【履修上の注意】受動的に学ぶというより，自ら新しい真実を発見しようという態度を期待します．

【到達目標】日頃，無意識に使っている「ことば」を認知言語学という新たな視点から見直し，「ことば」が無意識に働いている「認知システム」を知る手がかりとなることを知る．

【授業計画】**1.** イントロダクション/認知言語学とは何か **2.** 第 1 章 基本概念 **3.** 第 1 章 練習問題 **4.** 第 2 章 空間 in, on, at 等 **5.** 第 2 章 練習問題 **6.** 第 3 章 空間的意味からの拡張 第一回 **7.** 第 3 章 空間的意味からの拡張 第二回 **8.** 第 3 章 空間的意味からの拡張 第三回 **9.** 第 3 章 練習問題 **10.** 第 4 章 放射状カテゴリー 第一回 **11.** 第 4 章 放射状カテゴリー 第二回 **12.** 第 4 章 練習問題 **13.** 第 5 章 構文 第一回 **14.** 第 5 章 構文 第二回 練習問題 **15.** テスト **16.** 総括授業

【成績評価】学期末のテストを基礎に，授業参加の態度や授業中の発表を考慮して評価する．

【再試験】学期を通しての積極的な授業参加や課題の提出等の条件を満たしている場合にのみ，再評価も可能とする．

【教科書】デイヴィッド・リー著 『実例で学ぶ認知言語学』 (大修館書店)

【参考書】
- ◇ ジル・フォコニエ『メンタル・スペース』(白水社)
- ◇ 松本曜『認知意味論』 (大修館書店，2003 年)
- ◇ 山梨正明 『認知文法論』 (ひつじ書房，1995 年)
- ◇ 大堀壽夫 『認知言語学』 (東京大学出版会，2002 年)
- ◇ 山梨正明 『認知構文論』 (大修館書店，2009 年)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218382

【連絡先】
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 IV

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
森岡 芳洋 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】生成文法の理論に基づき，人間が無数の文を作りかつそれらを理解することを可能にしている仕組みについて理解を深める．

【授業概要】英語を主材料としての統語構造理解

【到達目標】英語の統語分析の基本を理解すること．

【授業計画】**1.** 導入 **2.** 言語知識 **3.** 言語習得 **4.** 言語運用 **5.** 記述性 **6.** 妥当性 **7.** 説明力 **8.** 表示 **9.** 集合 **10.** 論理演算子 **11.** チョムスキーの階層 **12.** 句構造 **13.** 変形 **14.** 厳密下位範疇化 **15.** 素性と共起制限 **16.** 期末試験

【成績評価】授業での質疑応答と期末試験を総合して行う．

【再試験】行う．

【教科書】基本資料を配付する．

【参考書】適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218383

【連絡先】
⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)

現代英語研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
森岡 芳洋 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】英語の音体系についての理解を深めるとともに，英語の実際的音声訓練を効果的にするための裏付けを提供する．

【授業概要】英語音声の理解と演習

【到達目標】英語の分節音と超分節音に関わる特性を理解し，基本的聞き取りと調音ができること．

【授業計画】**1.** 導入 **2.** 音声学とは **3.** 音声学とは **4.** 発声のメカニズム **5.** 発声のメカニズム **6.** 音声表記 **7.** 音声表記 **8.** 母音の調音 **9.** 母音の調音 **10.** 子音の調音 **11.** 子音の調音 **12.** 音縮小 **13.** 音縮小 **14.** 同時調音 **15.** 同時調音 **16.** 期末試験

【成績評価】調音の実技 30%，期末の筆記試験 70%により行う．

【再試験】行う．

【教科書】佐藤寧・佐藤努 (共著) 『現代の英語音声学』 (2007 重版) 金星堂

【参考書】適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218581

【連絡先】
⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)

現代英語研究 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
スタージ ドナルド · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】This course introduces topics of general interest and gives students a chance to express their opinions orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfortable speaking in front of a group.

【授業概要】Class themes include: contemporary issues, media reports, personal experiences.

【キーワード】***speech presentation***

【履修上の注意】A considerable number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English and will have practiced reading authentic English texts and using English to discuss a wide variety of topics in formal and informal situations. They will also have researched and delivered oral presentations and led classmates in a seminar setting.

【授業計画】**1.** A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. **2.** Depending on class size, there may also be lectures, note-taking exercises, **3.** listening comprehension excercises and videos.

【成績評価】Participation (50%) Class Presentations (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】No

【教科書】Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218582

【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

現代英語研究 III

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
スティーヴンズ，メリディス・アン · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】To use narrative as a basis for improving communicative skills and broadening students knowledge of cross-cultural issues.

【授業概要】We will listen to and read a range of stories, and use these as a basis to relate these stories to other people and create our own stories.

【履修上の注意】A maximum of three absences will be permitted.

【到達目標】By focusing on the narrative students will acquire English skills; English will be a means to an end.

【授業計画】**1.** Sorting and sequencing **2.** Complications and Resolutions **3.** Starting at the End **4.** Point of View **5.** Travel Tales **6.** Limericks **7.** Again and Again **8.** Arguing a Case **9.** Complaints in the Context of a Recount **10.** Finish my Sentences **11.** Story-telling as a Social Act **12.** Every Name Tells a Story **13.** The Landmarks of Your Life **14.** That's incredible **15.** Final Presentation **16.** Feedback to Students

【成績評価】Weekly journal entries, Presentations

【再試験】A retest is possible, but late homework will attract a penalty.

【教科書】nil

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218583

【連絡先】
⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

現代英語研究 IV

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
スタージ ドナルド · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】This course introduces historical and contemporary features of foreign cultures so that students can compare and contrast foreign attitudes and Japanese attitudes. Students are encouraged to express their ideas in English orally and in writing. Formal and informal oral expression exercises are designed to make students comfrotable speaking in front of a group.

【授業概要】Class themes include: international attitudes to education, work, morality, human rights, gender equity, politics.

【履修上の注意】A considerble number of the marks given in this course is for participation in class. Good attendance is essential.

【到達目標】Upon successful completion of this course, students will have experienced a course given entirely in English, learned significant historical and contemporary features of various foreign cultures, and compared conditions in Japan with conditions elsewhere. They will also have read authentic English language texts, led discussion in a seminar setting and practiced responding to queries regarding their experiences and opinions.

【授業計画】**1.** A series of in-class oral presentation activities provides a basic structure. **2.** Depending on class size, ther may also be lectures, note-taking exercises, **3.** listening comprehension excercises and videos.

【成績評価】Participation (50%) Class Presentation (30%) Oral/Written Exams (20%)

【再試験】No

【教科書】Class materials come primarily from students. There are some handouts from the instructor.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218584

【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

現代英語研究 IV

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
スタージ ドナルド · 講師 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220117

【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英米言語演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
山田 仁子 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】認知言語学の概要を理解して，その視点から言語を観察する力を養う．

【授業概要】認知言語学研究 認知言語学の入門となるテキストか論文を講読しながら議論し，これをもとに受講生は各自の興味に応じて問題を設定しレポートをまとめていく．

【キーワード】**英語学，認知言語学**

【関連科目】『英米言語研究 III』(0.5, ⇒42 頁), 『英米言語研究 I』(0.5, ⇒42 頁)

【履修上の注意】積極的な問題への取り組みが望まれる．

【到達目標】認知言語学の概要を理解する．言語を観察する力を身につける．

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** テキストを講読し，議論する．**3.** テキストを講読し，議論する． **4.** テキストを講読し，議論する．**5.** テキストを講読し，議論する． **6.** テキストを講読し，議論する．**7.** テキストを講読し，議論する． **8.** 学んだ内容に関してレポートを提出する **9.** 自らの興味により問題を設定し，資料を収集する **10.** 論文を講読し，議論する． **11.** 論文を講読し，議論する． **12.** 論文を講読し，議論する． **13.** 論文を講読し，議論する． **14.** 論文を講読し，議論する． **15.** 自ら設定した問題についてレポートをまとめる **16.** 総括授業

【成績評価】2

【再試験】ゼミへの積極的かつ充分な参加をした場合にのみ，再評価を行うこともある．

【教科書】未定. 初回の授業において決定する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220118

【連絡先】
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
山田 仁子 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】認知言語学および語用論の概要を理解して，その視点から言語を観察，分析する力を養う．

【授業概要】認知言語学，語用論研究 認知言語学や語用論等のテキストを講読，議論し，各自の興味に応じた問題についてレポートをまとめていく．

【キーワード】**英語学，認知言語学，語用論**

【関連科目】『英米言語研究 III』(0.5, ⇒42 頁)

【履修上の注意】積極的な問題への取り組みが望まれる．

【到達目標】認知言語学の概要を理解する．言語を観察する力を身につける．

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 第 2 週 ~ 第 15 週 テキストを講読し，議論する．適宜，課題レポートを提出してもらう． **3.** 第 16 週 総括授業

【成績評価】2 回のレポートに加えて，授業参加における態度も勘案して評価する．

【再試験】ゼミへの積極的かつ充分な参加をした場合にのみ，再評価を行うこともある．

【教科書】未定 初回の授業において決定する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220119

【連絡先】
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
森岡 芳洋 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】言語について全般的に扱ってある基本的文献を読みながら，関連資料も参照することにより，卒業研究として調べて見たいことがらを見つける．

【授業概要】『[入門] ことばの世界』を読み進め，各章で扱われていることがらの中から，卒業研究の対象を探す．

【到達目標】卒業研究のテーマを見つけること

【授業計画】**1.** 導入 **2.** 「ことばの世界を俯瞰する」1 **3.** 「ことばの世界を俯瞰する」2 **4.** 「世界のことば」1 **5.** 「世界のことば」2 **6.** 「ことばと音声」1 **7.** 「ことばと音声」2 **8.** 「ことばと語」1 **9.** 「ことばと語」2 **10.** 「ことばと文法」1 **11.** 「ことばと文法」2 **12.** 「ことばと意味」1 **13.** 「ことばと意味」2 **14.** 「ことばの変化」1 **15.** 「ことばの変化」2 **16.** まとめとレポートにつての説明

【成績評価】毎回の演習参加状況とレポートによる．

【再試験】無し

【教科書】瀬田，保阪，外池，中島 (編著)『[入門] ことばの世界』(2010) 大修館書店 1,890 円 (税込み)

【参考書】適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220120

【連絡先】
⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米言語演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
森岡 芳洋 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】言語について全般的に扱ってある基本的文献を読みながら，関連資料も参照することにより，卒業研究として調べて見たいことがらを見つける．

【授業概要】『[入門] ことばの世界』を前期に続けて読み進め，各章で扱われていることがらの中から，卒業研究の対象を探す．

【到達目標】卒業研究のテーマを見つけること

【授業計画】**1.** 「ことばと社会」1 **2.** 「ことばと社会」2 **3.** 「ことばと文化」1 **4.** 「ことばと文化」2 **5.** 「ことばの誕生」1 **6.** 「ことばの誕生」2 **7.** 「ことばの獲得」1 **8.** 「ことばの獲得」2 **9.** 「ことばと脳」1 **10.** 「ことばと脳」2 **11.** 「ことばと情報構造」1 **12.** 「ことばと情報構造」2 **13.** 「ことばの解釈」1 **14.** 「ことばの解釈」2 **15.** 「ことばと認知」1 **16.** 「ことばと認知」2 まとめとレポートについての説明

【成績評価】毎回の演習参加とレポートによる．

【再試験】無し

【教科書】瀬田，保阪，外池，中島 (編著)『[入門] ことばの世界』(2010) 大修館書店 18,890 円 (税込み)

【参考書】適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220121

【連絡先】
⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米言語演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
スティーヴンズ，メリディス · アン · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】To use narrative as a basis for improving communicative skills and broadening students knowledge of cross-cultural issues.

【授業概要】We will listen to and read a range of stories, and use these as a basis to relate these stories to other people and create our own stories.

【キーワード】***narrative***

【履修上の注意】A maximum of three absences will be permitted.

【到達目標】Students will acquire English skills by focusing on the narrative; English will be a means to en end.

【授業計画】**1.** Sorting and sequencing **2.** Complications and resolutions **3.** Starting at the end **4.** Point of view **5.** Travel tales **6.** Limericks **7.** Again and again **8.** Arguing a case **9.** Complaints in the context of a recount **10.** Finish my sentences **11.** Story-telling as a social act **12.** Every name tells a story **13.** The landmarks

of your life **14.** That's incredible **15.** Final presentations **16.** Feedback to students

【成績評価】 Weekly journal entries, presentations

【再試験】 A retest is possible, but late homework will attract a penalty

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220122

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米言語演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)

スティーヴンズ, メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220123

【連絡先】

⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米言語演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)

福田, スティーブ・利久・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 Understanding how to become a scholar-practitioner in the field of education

【授業概要】 The seminar is for students who want to be English teachers in the future. In two years and through rigorous research and practice, students will gain the skill, confidence, and motivation needed to become a scholar/practitioner in the TEFL field. We will start by gaining experience as a researcher through practice, as students will become Teaching Assistants (TA) and English Support Room (ESR) staff, and the journey will culminate in a graduation thesis concerning an issue in TEFL. The journey will take place while students are involved in the two ongoing projects.The first project of is to build English skills and acquiring of Basic Interpersonal Communication Skills (BICS) in which we will aim for a proficiency of Grade P1 on the STEP. The BICS will be the stepping stone to gain Cognitive/Academic Language Proficiency (CALP) needed to discuss, read, and write academically in English. The second project will be teacher pre-service readiness and training. The students will gain experience helping and teaching students in the ESR. In addition, from the second semester the students will gain teaching experience as TAs in English courses for a combination of teaching experience inside and outside the classroom.In sum, this seminar will focus on raising basic and academic English skills and conducting research in the field of pedagogy which should give the students the experience essential for taking the teachers exam as well as becoming a teacher in the future.

【キーワード】 教員養成, 英語力向上

【到達目標】 ①【知識・理解】 a) Students will understand how to continue English studies throughout your professional career. b) Students will understand how to conduct action research. ②【汎用的技能】 a) Students will be able to use general English and understand how to continue their pursuit of improving their academic English skills. b) Students will be able to express themselves concerning any issue from a pedagogical perspective. ③【態度・志向性】 a) Students will gain a better understanding of how to improve specific points of English language. b) Students will gain a better understanding of the field of education while being able to tackle problems in their classrooms. ④【統合的な学習経験と創造的思考力】 Students will be confident and possess the skills scholar-practitioner of English education contributing to social change in their own classrooms.

【授業計画】 Project one: In the first semester, the student will be required to spend time and study in the ESR to gain basic conversational skills and confidence that is essential for furthering academic study through reading and writing in topics related to education. In the second semester the student will focus on studying for the TOEIC or Eiken by balancing test study with academic readings in pedagogy. In the third semester, students will continue academic reading and writing in English and Japanese focusing of the teachers examination. We will also practice essay writing and discussions related to the examination. The fourth semester will focus on continuing studies in education and advancing English skills as well as becoming a mentor for underclassman which will also serve as a much needed reflection before stepping foot in your own classroom. Project two: In the first semester will be discussing how research is conducted culminating with a problem statement and a research question. The second semester will end with a draft of a research plan in which the students will be ready to conduct research related to their thesis topic. The student will be required to finish Chapter 1 (Introduction) and 2 (Literature Review) of their thesis before the start of the third semester. These chapters will prepare the students for conducting research in the third semester and write up Chapter 3 (results) a Chapter 4 (Conclusion) before the beginning of their final semester. If students are on schedule, the final semester will be for students to continue their research in their field perhaps writing another report on the topic to published with the advisor or prepare for the teachers examination.

【成績評価】 Assessment will be based on study progress and time allotted to research and English studies.Study time is very important. Though we will hold the seminar every Friday Evening, student are expected to meet with the teacher frequently to discuss matters in education as well as discussing the progress of individual study. The student will also be studying in the ESR to get used to an environment of working among many people as does a teacher in the workforce.

【再試験】 none

【教科書】 none

【参考書】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳)2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220124

【連絡先】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう。)

英米言語演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)

福田, スティーブ・利久・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 Getting accustomed to being a scholar-practitioner in the field of education.

【授業概要】 The seminar is for students who want to be English teachers in the future. In two years and through rigorous research and practice, students will gain the skill, confidence, and motivation needed to become a scholar/practitioner in the TEFL field. We will start by gaining experience as a researcher through practice, as students will become Teaching Assistants (TA) and English Support Room (ESR) staff, and the journey will culminate in a graduation thesis concerning an issue in TEFL. The journey will take place while students are involved in the two ongoing projects.The first project of is to build English skills and acquiring of Basic Interpersonal Communication Skills (BICS) in which we will aim for a proficiency of Grade P1 on the STEP. The BICS will be the stepping stone to gain Cognitive/Academic Language Proficiency (CALP) needed to discuss, read, and write academically in English. The second project will be teacher pre-service readiness and training. The students will gain experience helping and teaching students in the ESR. In addition, from the second semester the students will gain teaching experience as TAs in English courses for a combination of teaching experience inside and outside the classroom.In sum, this seminar will focus on raising basic and academic English skills and conducting research in the field of pedagogy which should give the students the experience essential for taking the teachers exam as well as becoming a teacher in the future.

【キーワード】 教員養成, 英語力向上

【到達目標】 ①【知識・理解】 a) Students will understand how to continue English studies throughout your professional career. b) Students will understand how to conduct action research. ②【汎用的技能】 a) Students will be able to use general English and understand how to continue their pursuit of improving their academic English skills. b) Students will be able to express themselves concerning any issue from a pedagogical perspective. ③【態度・志向性】 a) Students will gain a better understanding of how to improve specific points of English language. b) Students will gain a better understanding of the field of education while being able to tackle problems in their classrooms. ④【統合的な学習経験と創造的思考力】 Students will be confident and possess the skills scholar-practitioner of English education contributing to social change in their own classrooms.

【授業計画】 Project one: In the first semester, the student will be required to spend time and study in the ESR to gain basic conversational skills and confidence that is essential for furthering academic study through reading and writing in topics related to education. In the second semester the student will focus on studying for the TOEIC or Eiken by balancing test study with academic readings in pedagogy. In the third semester, students will continue academic reading and writing in English and Japanese focusing of material related to the teachers examination. We will also practice essay writing and discussions related to the examination. The fourth semester will focus on continuing studies in education and advancing English skills as well as becoming a mentor for underclassman

which will also serve as a much needed reflection before stepping foot in your own classroom. Project two: In the first semester will be discussing how research is conducted culminating with a problem statement and a research question. The second semester will end with a draft of a research plan in which the students will be ready to conduct research related to their thesis topic. The student will be required to finish Chapter 1 (Introduction) and 2 (Literature Review) of their thesis before the start of the third semester. These chapters will prepare the students for conducting research in the third semester and write up Chapter 3 (results) a Chapter 4 (Conclusion) before the beginning of their final semester. If students are on schedule, the final semester will be for students to continue their research in their field perhaps writing another report on the topic or prepare for the teachers examination.

【成績評価】 Assessment will be based on study progress and time allotted to research and English studies.Study time is very important. Though we will hold the seminar every Friday Evening, student are expected to meet with the teacher frequently to discuss matters in education as well as discussing the progress of individual study. The student will also be studying in the ESR to get used to an environment of working among many people as does a teacher in the workforce.

【再試験】 none

【教科書】 none

【参考書】 マルカム S. ノールズ (著) 渡辺洋子 (翻訳)2005 年 学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ 明石書店 ISBN:475032163X

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220125

【連絡先】

⇒ 福田 (1 号館 2 階 2N15, steve@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでも E-mail で時間を合わせましょう.)

英米文化研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
吉田 文美・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 英語詩を講読し，韻文で書かれたテクストの正確な読解，内容把握の訓練を行う．また，作品の時代や社会状況といったコンテクストについても考慮し，英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する．

【授業概要】 主に 18 世紀以降に書かれた英語詩を読む．作品の精読を通じて，英語で書かれた詩に対する理解を深め，作品の背景にある社会・文化状況についても考察する．

【キーワード】 ***poetry in English*，文学**

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については，正確な内容把握ができる．
2. 各作品の背景についても考慮して，作品の評価・批評が論理的にできる．

【授業計画】 **1.** 以下にあげる詩人の作品の中から比較的平易なものを選び，毎回 3~ 5 編ずつ講読する予定です．学期中に 2 回のテストを行いますが，詳しい日程は最初の授業で指示します． **2.** W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79), **3.** John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962) **4.** Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963),Thomas Hardy (1840-1928) **5.** Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67), **6.** John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996), **7.** Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939) **8.** なお，取り上げる詩人については，変更されることもある．

【成績評価】 2 回のテストと，授業への出席・参加状況などから総合的に評価する．評価のうち，テストを 8 割，その他を 2 割程度とする．

【再試験】 行わない．

【教科書】 授業中に指定します．

【参考書】 『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること．電子辞書の使用も可．その他は，授業中に必要に応じて指示する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218405

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

英米文化研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
山内 暁彦・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 本授業では，イギリスの作家，ジェームズ・マシュー・バリー (James Matthew Barrie) の『ケンジントン公園のピーター・パン』(Peter Pan in Kensington Gardens) を取り上げる．作品を精読することにより，子供の夢に満ちたファンタスティックな作品の特質について考察する．また，作者バリーの人物像や彼の人間観を研究するとともに，作者と作品の歴史的，社会的，宗教的，文化的背景を学ぶ．

【授業概要】 ファンタジーの文学としての『ケンジントン公園のピーター・パン』を研究する．この作品は，フック船長やウェンディが出て来る『ピーター・パン』ではない．『小さな白い鳥』という初期の作品の一部を独立させたものであり，この作品でのピーターは幼児であるのだ．授業では原書を講読し，ファンタジーの持つ面白さを味わいながら，作品の持つ価値について考察する．必要に応じて映像化された『ピーター・パン』や，作者の伝記に基づく映像作品を視聴する．

【キーワード】 ファンタジー，小説

【関連科目】 『英米文化研究 I』(0.5, ⇒46 頁)

【履修上の注意】 受講生には随時発言を求めます．積極的に授業に参加する態度を望みます．

【到達目標】 『ケンジントン公園のピーター・パン』などのファンタジー文学を読む際に，ファンタスティックな作品の特質，歴史的，社会的，文化的な背景を理解し，作品の面白さを味わい，その意義を多面的に理解することが自分なりにできるようになることを目標とする．

【授業計画】 **1.** イントロダクション **2.** 第 1 章 The Grand Tour of the Gardens (その 1) **3.** 第 1 章 The Grand Tour of the Gardens (その 2) **4.** 第 2 章 Peter Pan (その 1) **5.** 第 2 章 Peter Pan (その 2) **6.** ジェームズ・マシュー・バリーの人生と作品 **7.** 第 3 章 The Thrush's Nest(その 1) **8.** 第 3 章 The Thrush's Nest (その 2) **9.** 第 4 章 Lock-out Time (その 1) **10.** 第 4 章 Lock-out Time (その 2) **11.** 第 5 章 The Little House (その 1) **12.** 第 5 章 The Little House (その 2) **13.** イギリスのファンタジーの諸相について **14.** 第 6 章 Peter's Goat (その 1) **15.** 第 6 章 Peter's Goat (その 2) とまとめ **16.** 総括授業

【成績評価】 与えられた課題への取り組み，授業参加の態度，期末レポートなどにより総合的に評価し単位を認定する．

【再試験】 行なう．

【教科書】 J.M.Barrie, Peter Pan: Peter and Wendy and Peer Pan in Kensington Gardens (Penguin Books, 2004 年)

【参考書】 参考書としてバリー作，本田顕彰訳『ピーター・パン』(新潮文庫，1988 年) を使用する．必要に応じプリントを用意する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218406

【連絡先】

⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~ 13時)

【備考】 旧カリ「英米文化研究 II」(その 2) と同内容

英米文学研究

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
山内 暁彦・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 英米文学史上の詩人・劇作家・小説家など及びその代表的な作品についての知識と，各時代の文学事情についての知識を習得することを目的とする．それぞれの時代の歴史的，社会的，文化的背景や時代思潮を概観しながら，代表的な詩人・劇作家・小説家などの作品に具体的に触れることを通じ，英米文学の様々な作品を自分なりに味わい理解を深めることを目標とする．

【授業概要】 英米文学の歴史的発展の過程を論述し，あわせてその時代の背景や思潮，並びに各ジャンルごとの文学事情を明らかにする．英米文学の流れを下記の授業計画に沿って追い，文学史を概観した上で，代表的と思われる詩人，劇作家，小説家などの主な作品の原文を講読し，英米文学の持つ面白さを味わう．更に作品に対して行なわれた批評を読むことを通じ，作品の持つ価値について考察しながら，英米文学の研究方法について学ぶ．

【キーワード】 英米文学，文学史

【先行科目】 『英米文化研究 I』(1.0, ⇒46 頁), 『英米文化研究 II』(1.0, ⇒46 頁)

【関連科目】 『英米文学演習』(0.5, ⇒47 頁), 『英米文学演習』(0.5, ⇒47 頁)

【履修上の注意】 作家や詩人について調べ，実際に作品に触れることを心掛けてほしい．

【到達目標】 英米文学の歴史的発展の過程を概観し，あわせてその時代背景，並びに文学事情を明らかにする．

【授業計画】 **1.** 第 1 回 イントロダクション **2.** 第 2 回 古英語・中英語 **3.** 第 3 回 ルネッサンス **4.** 第 4 回 シェイクスピア **5.** 第 5 回 ピューリタニズム **6.** 第 6 回 古典主義 **7.** 第 7 回 小説の誕生と成長 **8.** 第 8 回 ロマン主義 **9.** 第 9 回 ヴィクトリア朝 **10.** 第 10 回 第 2 次大戦までの文学 **11.** 第 11 回 戦後の文学 **12.** 第 12 回 アメリカ文学の流れ **13.** 第 13 回 植民地時代 **14.** 第 14 回 南北戦争以降 **15.** 第 15 回 世界大戦とその後 **16.** 第 16 回 まとめ

【成績評価】 日常の授業参加態度，レポート提出状況によって総合的に判断する．

【再試験】 あり．

【教科書】 教科書は使用せず，プリントを配付する．各自プリントの管理を確実にすること．

【参考書】 参考資料については授業時に紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218389
【連絡先】
⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~ 13時)
【備考】奇数年度は山内が担当する.

英米文学講読 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
宮崎 隆義 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】主として 19 世紀のイギリス小説を取り上げて精読する. 小説という, 言語による虚構の芸術構造物, 物語の世界, すなわち嘘の世界を, いかに豊かに味わうことができるものか, また知的にも分析することができて, 人間の本質的な能力に関わる想像力がいかに広い分野に影響力を及ぼし得るものかを, 具体的に作品に触れることによって理解してゆきたい. 作品自体が持つ様々な問題に対して多角的なアプローチを試みるばかりでなく, その作品の時代背景にも目を向け, 当時の風俗や生活習慣, 時代思潮など, 広い視野からの理解を目指したい.
【授業概要】19 世紀のイギリス小説を読む. より広い視野のもとに, イギリス文学を生み出したイギリスという国の理解も含めて様々な多角的アプローチを試みるが, 特に, 19 世紀の小説家トマス・ ハーディの短編を読みながら, 当時の結婚をめぐる制度や, 因襲的な考え方, 宗教, 時代思潮, 風俗, 女性の置かれていた立場などを考えてみたい. 作品の理解を通して, 虚構の世界から, 現実の世界を逆照射しつつ, 普遍的な問題である男女の恋愛と結婚の問題を時代のコンテクストの中に置いて理解してみたい.
【キーワード】**作品講読, 分析, 批評の方法**
【履修上の注意】作品を緻密に読むことから広く物語の方法について視野を拡げることを心掛けてほしい.
【到達目標】作品の理解を通して, 虚構の世界から, 現実の世界を逆照射しつつ, 普遍的な問題を時代のコンテクストの中に置いて理解してみたい.
【授業計画】**1.** 第 1 回 イントロダクション **2.** 第 2 回 作品の講読と鑑賞並びに批評の方法 (読むということ) **3.** 第 3 回 作品の講読と鑑賞並びに批評の方法 (物語の技法) **4.** 第 4 回 作品の講読と鑑賞並びに批評の方法 (批評の歴史) **5.** 第 5 回 作品の講読と鑑賞並びに批評の方法 (読みから批評へ) **6.** 第 6 回 Thomas Hardy の短篇小説について (傾向について) **7.** 第 7 回 Thomas Hardy の短篇小説について (技法の特徴) **8.** 第 8 回 "What the Shepherd Saw"1(背景と成立) **9.** 第 9 回 "What the Shepherd Saw"2(発表事情) **10.** 第 10 回 "The Son's Veto"3(構成の特徴) **11.** 第 11 回 "What the Shepherd Saw"4(技法) **12.** 第 12 回 "What the Shepherd Saw"5(時間の扱い) **13.** 第 13 回 "What the Shepherd Saw"6(テーマ) **14.** 第 14 回 "What the Shepherd Saw"7(解釈と批評) **15.** 第 15 回 物語と批評の方法 **16.** 第 16 回 総まとめ
【成績評価】日常の授業参加態度, レポート提出状況によって総合的に判断する.
【再試験】あり.
【教科書】テキストはハンドアウトとして用意する.
【参考書】参考書・参考資料・参考文献等については適宜授業時に紹介する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218390
【連絡先】
⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火 · 木曜日 12 時 ~ 13 時)

英米文学講読 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樋口 友乃 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】作品の精読と, 作者と作品の歴史的, 社会的, 文化的背景の考察を通して, 現代アメリカ文学への理解を深めることを主な目的とする.
【授業概要】Vladimir Nabokov の短篇作品を精読しながら, 作者と作品の歴史的, 社会的, 文化的背景を学ぶ.
【履修上の注意】演習形式で行うので必ず予習をしてくること.
【到達目標】
1. 作品の精読とその歴史的, 社会的, 文化的背景の考察を通して, 現代アメリカ文学への理解を深める.
2. 文学作品を原書で読む力を身に付ける.
【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** Terra Incognita (1) **3.** Terra Incognita (2) **4.** Terra Incognita (3) **5.** A Letter That Never Reached Russia (1) **6.** A Letter That Never Reached Russia (2) **7.** Christmas (1) **8.** Christmas (2) **9.** Christmas (3) **10.** Cloud, Castle, Lake (1) **11.** Cloud, Castle, Lake (2) **12.** Cloud, Castle, Lake (3) **13.** A Russian Beauty (1) **14.** A Russian Beauty (2) **15.** まとめ **16.** 総括授業
【成績評価】期末試験, レポート, 授業中の発表, 授業参加の態度, 出席状況などを総合的に判断して評価する.
【再試験】行わない.
【教科書】Vladimir Nabokov, The Stories of Vladimir Nabokov. (Vintage)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220126
【連絡先】
⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
山内 暁彦 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】英米の諷刺文学の中からいくつか代表的なものを取り上げ研究する. 卒業研究に取り組む際の基礎的な研究態度を養う.
【授業概要】〈諷刺の文学〉という視点で, 主に英米の (あるいはヨーロッパ諸国の) 散文で書かれた文学作品を扱う. 場合によっては, 韻文や戯曲, 映像作品なども取り上げる. 作品そのものを精読しつつ, 作者の人生や時代背景をも考えながら, 受講生が自分なりの解釈に至れるよう援助する. 平成 23 年度前期は, 導入用テキストとして, L. ファインバーグ『ユーモアの秘密』を用いる予定.
【キーワード】**諷刺, 英米文学**
【先行科目】『英米文化研究 II』(1.0, ⇒46 頁)
【関連科目】『英米文学研究』(0.5, ⇒46 頁)
【履修上の注意】受講生には, 演習に参加する過程で, 各自, 関心のある作品を見い出し, それを対象として更に研究を進めて行くことを望む.
【到達目標】諷刺文学の持つ意味を自分なりに考察し理解すること.
【授業計画】様々な作品を講読の形で取り扱う. また, それらを題材に, 諷刺の起源や原理, 主題や技法に関しても検討する.
【成績評価】出席状況, 発表などの, 演習に取り組む態度, レポート試験の得点などにより, 総合的に成績評価を行なう.
【再試験】行なう.
【教科書】L. ファインバーグ『ユーモアの秘密』
【参考書】参考資料については授業中に指示する. 各種ハンドアウトを随時配布する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220127
【連絡先】
⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~ 13時)
【備考】卒論指導学生の受入上限人数は 3,卒論指導をしない学生の受入上限人数は 3 とする.

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
山内 暁彦 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】英米の諷刺文学の中からいくつか代表的なものを取り上げ研究する. 卒業研究に取り組む際の基礎的な研究態度を養う.
【授業概要】〈諷刺の文学〉という視点で, 主に英米の (あるいはヨーロッパ諸国の) 散文で書かれた文学作品を扱う. 場合によっては, 韻文や戯曲, 映像作品なども取り上げる. 作品そのものを精読しつつ, 作者の人生や時代背景をも考えながら, 受講生が自分なりの解釈に至れるよう援助する. 平成 23 年度後期は, 受講生とともに取り扱う対象の作品を選択し, 講読する. 更には, 当該の作品を論じた批評を読み, 解釈の幅を広げる.
【キーワード】**諷刺, 英米文学**
【履修上の注意】受講生には, 演習に参加する過程で, 各自, 関心のある作品を見い出し, それを対象として更に研究を進めて行くことを望む.
【到達目標】諷刺文学の持つ意味を自分なりに考察し理解すること.
【授業計画】様々な作品を講読の形で取り扱う. また, それらを題材に, 諷刺の起源や原理, 主題や技法に関しても検討する.
【成績評価】出席状況, 発表などの, 演習に取り組む態度, レポート試験の得点などにより, 総合的に成績評価を行なう.
【再試験】行なう.
【教科書】教科書は使用せず, プリントを配付する. 各自プリントの管理を確実にすること.
【参考書】参考資料については授業中に指示する. 各種ハンドアウトを随時配布する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220128
【連絡先】
⇒ 山内 (3308, 088-656-7132, yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 12時~ 13時)
【備考】卒論指導学生の受入上限人数は 3,卒論指導をしない学生の受入上限人数は 3 とする.

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
樋口 友乃 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】20 世紀アメリカの作家と作品，およびその時代背景の研究を深めることを主な目的とする．
【授業概要】 20 世紀アメリカ作家による作品の分析を中心とする文学研究．
【到達目標】20 世紀アメリカ文学の作家と作品，およびその時代背景の研究を深める．
【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 作家の生涯と作品 **3.** 作品の精読と分析 (1) **4.** 時代背景の考察 (20 世紀初頭) **5.** 作品の精読と分析 (2) **6.** 時代背景の考察 (第一次世界大戦前後) **7.** 作品の精読と分析 (3) **8.** 時代背景の考察 (1920 年代) **9.** 作品の精読と分析 (4) **10.** 時代背景の考察 (第二次世界大戦前後) **11.** 作品の精読と分析 (5) **12.** 時代背景の考察 (1950 年代) **13.** 論文講読 (1) **14.** 論文講読 (2) **15.** まとめ，レポート提出 **16.** 総括授業
【成績評価】レポート，授業中の発表，授業参加の態度，出席状況などを総合的に判断して評価する．
【再試験】なし．
【教科書】授業時に指示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220129
【連絡先】
⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
樋口 友乃 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】20 世紀アメリカの作家と作品，およびその時代背景の研究を深めることを主な目的とする．
【授業概要】 20 世紀アメリカ作家による作品の分析を中心とする文学研究．
【到達目標】20 世紀アメリカ文学の作家と作品，およびその時代背景の研究を深める．
【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 作家の生涯と作品 **3.** 作品の精読と分析 (1) **4.** 時代背景の考察 (20 世紀初頭) **5.** 作品の精読と分析 (2) **6.** 時代背景の考察 (第一次世界大戦前後) **7.** 作品の精読と分析 (3) **8.** 時代背景の考察 (1920 年代) **9.** 作品の精読と分析 (4) **10.** 時代背景の考察 (第二次世界大戦前後) **11.** 作品の精読と分析 (5) **12.** 時代背景の考察 (1950 年代) **13.** 論文講読 (1) **14.** 論文講読 (2) **15.** まとめ，レポート提出 **16.** 総括授業
【成績評価】レポート，授業中の発表，授業参加の態度，出席状況などを総合的に判断して評価する．
【再試験】なし．
【教科書】授業時に指示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220130
【連絡先】
⇒ 樋口 (thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
スタージ ドナルド · 講師 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220131
【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
スタージ ドナルド · 講師 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220132
【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
宮崎 隆義 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】小説は，個人の内面生活から，個人をとりまく社会やさらには国家に至るまで，あらゆるものを取り込んで描き出している．その世界は，言葉による虚構の空間—嘘の世界でありながらも，その延長上で，社会，文化，言語，思想，歴史，政治，経済等，あらゆるレベルにおいて現実の世界と通じ合っており，現実の世界の理解を助けてくれるものでもあるといえる．当ゼミナールでは，小説という言葉による芸術を通して，主に 19 世紀の，さらには時代を超越しての，イギリスの世界を理解しつつ，普遍的な自分自身の存在の問題として，文学を味わい理解してゆきたい．
【授業概要】19 世紀イギリス小説の世界
【キーワード】**イギリス小説，作品分析，作品理解**
【履修上の注意】受講生のみなさんの関心を重視しながら，方向を定めてゆくので積極的な授業参加を望む．通年受講が望ましい．
【到達目標】 文学作品とその社会的文化的意味についての基礎的な知識及び理解を深める．
【授業計画】 **1.** 具体的には 19 世紀の代表的な小説家であるハーディ，ディケンズ，エリオットなどの作品を中心としたいが，他にも児童文学，妖精文学，娯楽文学など，広く様々なジャンルの作品を材料として，読むことの楽しさと小説という言語芸術の幅広さ，深さを理解することを目標としたい．また，映像化された文学作品という観点から，映画芸術にも目を向けてみたい． **2.** 第 1 回 イントロダクション **3.** 第 2 回 ~ 第 7 回 基本的知識の確認 **4.** 第 8 回 ~ 第 15 回 具体的な作品講読と分析の仕方習得 **5.** 第 16 回 まとめ
【成績評価】ゼミナールであるので，出席状況，授業時の取り組み姿勢，テーマ探求の評価，報告等の結果に基づいて成績評価を行いたい．
【再試験】行う
【教科書】 適宜プリントや言語材料を用意する．参考書等についても適宜紹介する．
【参考書】参考資料は授業時に適宜配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220133
【連絡先】
⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火 · 木曜日 12 時 ~ 13 時)

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
宮崎 隆義 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】小説は，個人の内面生活から，個人をとりまく社会やさらには国家に至るまで，あらゆるものを取り込んで描き出している．その世界は，言葉による虚構の空間—嘘の世界でありながらも，その延長上で，社会，文化，言語，思想，歴史，政治，経済等，あらゆるレベルにおいて現実の世界と通じ合っており，現実の世界の理解を助けてくれるものでもあるといえる．当ゼミナールでは，小説という言葉による芸術を通して，主に 19 世紀の，さらには時代を超越しての，イギリスの世界を理解しつつ，普遍的な自分自身の存在の問題として，文学を味わい理解してゆきたい．
【授業概要】19 世紀イギリス小説の世界
【キーワード】**イギリス小説，作品分析，作品理解**
【履修上の注意】受講生のみなさんの関心を重視しながら，方向を定めてゆくので積極的な授業参加を望む．通年受講が望ましい．
【到達目標】文学作品の創作上の技法についての理解，さらに言語芸術とその社会的文化的な機能についての理解を深める．
【授業計画】 **1.** 具体的には 19 世紀の代表的な小説家であるハーディ，ディケンズ，エリオットなどの作品を中心としたいが，他にも児童文学，妖精文学，娯楽文学など，広く様々なジャンルの作品を材料として，読むことの楽しさと小説という言語芸術の幅広さ，深さを理解することを目標としたい．また，映像化された文学作品という観点から，映画芸術にも目を向けてみたい． **2.** 第 1 回 イントロダクションと研究計画 **3.** 第 2 回 ~ 第 7 回 テーマ設定と具体的な講読と基本作業 **4.** 第 8 回 ~ 第 15 回 展開と方向付け **5.** 第 16 回 まとめ
【成績評価】ゼミナールであるので，出席状況，授業時の取り組み姿勢，テーマ探求の評価，報告等の結果に基づいて成績評価を行いたい．
【再試験】行う
【教科書】 適宜プリントや言語材料を用意する．参考書等についても適宜紹介する．
【参考書】参考資料は授業時に適宜配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220134
【連絡先】
⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火 · 木曜日 12 時 ~ 13 時)

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
吉田 文美 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】この授業では，「研究の素材」となりうるもの自体について学ぶというよりは，「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書，論文を英語で講読し，研究テーマの設定方法や研究手法について学ぶことを目的とする．
【授業概要】文芸，文化，文学などに関する批評理論を英語で読む．前期は， Harry M. Benshoff & Sean Griffin 著の Gender and American Film–How Men and Women Have Been Represented in the Hollywood Films を読み，アメリカ映画におけるジェンダーの表象について考える．なお，以下に示す授業計画は，おおよその進度の目安である．
【キーワード】***English Fiction, text reading***

【履修上の注意】この授業を担当する教員の卒業研究指導を希望する学生は，必ず受講すること．卒業研究のテーマや題材は，この授業のテキストで扱うものと同じでなくても構わないが，文学，言語，文化について論文を書く際に応用できる内容なので，十分に参考にすること．また，卒業研究指導の学生には，別途時間を取って指導するので，そのつもりで受講してほしい．

【到達目標】講読した研究書や論文中で呈示されている研究手法や批評方法を十分に理解することを目標とする．

【授業計画】**1.** Class Guidance **2.** Introduction (3-7) **3.** Introduction (7-9)/ Chapter 1: Images of Women in Early Cinema (10-13) **4.** Chapter 1: Images of Women in Early Cinema (13-16)/ Images of Women in 1930s Classical Hollywood(17-18) **5.** Chapter 1: Images of Women in 1930s Classical Hollywood (18-23) **6.** Chapter 1: I World War II and After (23-28) **7.** Chapter 2: Masculinity in Classical Hollywood Filmmaking (29-32)/ Masculinity and Early Cinema (32-34) **8.** Chapter 2:Masculinity and Early Cinema (34-35)/ Masculinity and the Male Movie Star (36-39) **9.** Chapter 2: Masculinity and the Male Movie Star (39-42)/ World War II and Film Noir (42-44) **10.** Chapter 2: World War II and Film Noir (44-48)/ Conclusion (48-49) **11.** Chapter 2: Conclusion (49-53)/ Chapter 3: Gender in American Film since the 1960s (54-55) **12.** Chapter 3: Second Wave Feminism and Hollywood (55-60) **13.** Chapter 3: Second Wave Feminism and Hollywood (60-62)/ Into the 1980s–A Backlash against Women? (62-65) **14.** Chapter 3: Into the 1980s–A Backlash against Women? (65-68)/ Conclusion (68-70)) **15.** Term Essay Submission

【成績評価】授業への出席，テキストの講読状況，学期末のレポートにより，評価する．(学期末レポート 60%程度，その他 40%程度)

【再試験】しない．

【教科書】H. M. ベンショフ/S. グリフィン 『映画の中の男と女–アメリカ映画のジェンダー表象–』2005 年 英宝社

【参考書】授業中に指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220135

【連絡先】
⇒ 吉田 (1N10，088-656-7124，ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】3 年前期

英米文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
吉田 文美 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】この授業では，「研究の素材」となりうるもの自体について学ぶというよりは，「素材をどのように研究するか」について示唆を与えてくれる研究書や理論書，論文を日本語または英語で講読し，研究テーマの設定方法や研究手法について学ぶことを目的とする．

【授業概要】文芸，文化，文学などに関する批評理論を英語で読む．使用テキストは，前期の受講者に合わせたテーマのものを選ぶ予定である．

【キーワード】***English Fiction, text reading***

【履修上の注意】1) この授業を担当する教員の卒業研究指導を希望する学生は，必ず受講すること．文学，言語，文化についての論文を書く際に応用できる内容のテキストが選択されるので，十分に参考にすること．また，卒業研究指導の学生には，別途時間を取って指導するので，そのつもりで受講してほしい． 2) 前期を受講した上での履修を勧める．受講していないときは，登録前に担当教員と相談をすること．

【到達目標】講読した研究書や論文中で呈示されている研究手法や批評方法を十分に理解することを目標とする．

【授業計画】テキスト等未定のため，初回の授業にて計画を知らせることとする．

【成績評価】授業への出席，テキストの講読状況，学期末のレポートにより，評価する．(学期末レポート 60%程度，その他 40%程度)

【再試験】しない．

【教科書】未定

【参考書】授業中に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220136

【連絡先】
⇒ 吉田 (1N10，088-656-7124，ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】3 年後期

ヨーロッパ文学研究

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
石川 榮作 · 教授 / 人間文化学科，井戸 慶治 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】ドイツ文学を専門とする二人の教員が，それぞれ下記のテーマで作者の生涯や作品などを論じていく．いろいろな作品に出会い，それらを実際に読むことで，教養を高め，豊かな人間性を培うことを目的とする．

【授業概要】ドイツ文学入門

【キーワード】**ニーベルンゲンの歌，ワーグナー，啓蒙主義，シュトルム・ウント・ドラング，ロマン主義**

【履修上の注意】共通教育のドイツ語入門を履修していることが望ましいが，作品紹介などにはおもに翻訳を使うので，未履修者も受講不可能ではない．

【到達目標】ドイツ文学の傾向を知るとともに，少なくとも一つの作品を実際に読み，それについて考えたことを文章化する．

【授業計画】**1.** 石川——ニーベルンゲン文学の系譜 ドイツ文学史概観 **2.** 中世英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』前篇 **3.** 中世英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』後編 **4.** ワーグナーの楽劇『指環』–『ラインの黄金』 **5.** ワーグナーの楽劇『指環』–『ワルキューレ』 **6.** ワーグナーの楽劇『指環』–『ジークフリート』 **7.** ワーグナーの楽劇『指環』–『神々の黄昏』 **8.** 井戸——18 世紀後半以降の作家たちとその作品 レッシング **9.** ゲーテ **10.** シラー **11.** ヴァッケンローダーとティーク **12.** フリードリヒ・シュレーゲルとノヴァーリス **13.** E.T.A. ホフマン **14.** グリム兄弟 **15.** 予備 **16.** 総括授業

【成績評価】授業への取り組みと二人の教員のレポートむによる．

【再試験】行わない

【教科書】テキストとしては適宜プリントを配付する．

【参考書】石川栄作著『ジークフリート伝説——ワーグナー「指環」の源流』(講談社学術文庫)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219025

【連絡先】
⇒ 石川 (088-656-7142，ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日15時から16時まで)
⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp)

ヨーロッパ文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
石川 榮作 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】ドイツの作曲家で，同時に作家であるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大な影響を及ぼした．本授業科目はこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち，最初の作品『ラインの黄金』をドイツ語の原典で講読するとに，ビデオを使ってオペラをも鑑賞するこ，教養を高め，豊かな人間性を培うことを目的とする．

【授業概要】ドイツ・オペラの講読と鑑賞

【キーワード】**ドイツ文学，ワーグナー，楽劇，ニーベルンゲン伝説，北欧神話**

【履修上の注意】ドイツ語のテクストを講読しながら授業を進めるので，共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする．

【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ，オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする．

【授業計画】**1.** ワーグナーの生涯と作品 (1) **2.** ワーグナーの生涯と作品 (2) **3.** 『ラインの黄金』第一場 (1) **4.** 『ラインの黄金』第一場 (2) **5.** 『ラインの黄金』第一場 (3) **6.** 『ラインの黄金』第二場 (1) **7.** 『ラインの黄金』第二場 (2) **8.** 『ラインの黄金』第二場 (3) **9.** 『ラインの黄金』第三場 (1) **10.** 『ラインの黄金』第三場 (2) **11.** 『ラインの黄金』第三場 (3) **12.** 『ラインの黄金』第四場 (1) **13.** 『ラインの黄金』第四場 (2) **14.** 『ラインの黄金』第四場 (3) **15.** 『ラインの黄金』第一場及び第二場通して鑑賞 **16.** 『ラインの黄金』第三場及び第四場通して鑑賞

【成績評価】授業への取り組み (50%) とレポート (50%) による．

【再試験】行わない

【教科書】対訳プリント (石川訳) を配付する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220137

【連絡先】
⇒ 石川 (088-656-7142，ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~ 16時)

ヨーロッパ文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
石川 榮作 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】ドイツの作曲家で，同時に作家でもあるリヒャルト・ワーグナー (1813-83) は後世の諸芸術に多大な影響を及ぼした．本授業科目ではこのワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』四部作のうち，二番目の作品『ワルキューレ』をドイツ語の原典で講読するとともに，ビデオを使ってオペラをも鑑賞することによって，教養を高め，豊かな人間性を培うことを目的とする．

【授業概要】ドイツ・オペラの講読と鑑賞

【キーワード】**ドイツ文学，ワーグナー，楽劇，ニーベルンゲン伝説，北欧神話**

【履修上の注意】ドイツ語のテクストを講読しながら授業を進めるので，共通教育のドイツ語入門・初級を履修していることを原則とする．

【到達目標】ドイツ語辞典を用いてワーグナーの台本を読むことができ，オペラそのものを楽しむことができることを到達目標とする．

【授業計画】1. 前作『ラインの黄金』ハイライトで紹介 **2.**『ワルキューレ』第一幕 (1) **3.**『ワルキューレ』第一幕 (2) **4.**『ワルキューレ』第一幕 (3) **5.**『ワルキューレ』第一幕 (4) **6.**『ワルキューレ』第二幕 (1) **7.**『ワルキューレ』第二幕 (2) **8.**『ワルキューレ』第二幕 (3) **9.**『ワルキューレ』第二幕 (4) **10.**『ワルキューレ』第三幕 (1) **11.**『ワルキューレ』第三幕 (2) **12.**『ワルキューレ』第三幕 (3) **13.**『ワルキューレ』第三幕 (4) **14.**『ワルキューレ』第一幕通して鑑賞 **15.**『ワルキューレ』第二幕通して鑑賞 **16.**『ワルキューレ』第三幕通して鑑賞

【成績評価】授業への取り組み (50%) とレポート (50%) による．

【再試験】行わない

【教科書】対訳プリント (石川訳) を配付する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220138

【連絡先】

⇒ 石川 (088-656-7142, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週 金曜日 15時~ 16時)

ヨーロッパ文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)

井戸 慶治 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】造形芸術 (絵画・彫刻・建築) やそれに従事する芸術家が文学作品の中でどのように扱われているかということを，主として 19 世紀はじめから 20 世紀前半頃までのドイツ文学において考察する．

【授業概要】 ここで対象となる芸術には，ドイツのみならずヨーロッパ全体のものが含まれる．造形芸術を扱う文学のあり方はさまざまである．あるときは他種の芸術との差異が強調され，またあるときはそれらとの融合が論じられる．実在にせよ架空にせよ，芸術家は小説などの格好の素材・テーマとなる．作家たちはそのような取り組みから，彼ら自身の芸術 (ポエジー) のための有益なヒントを見出す．特定の芸術作品や芸術家を対象とした美学的批評もある．また，程度の差はあれ画才に恵まれた詩人・作家もいる．関連の芸術作品を視聴覚機器などで参照しながら，種々の文学作品を見てゆきたい．

【キーワード】ドイツ文学，造形芸術

【履修上の注意】8 単位重ね読み可能な授業であるから，原則として，連続する 2 年間 4 期の授業のうち，複数の授業を受講しても内容は重複しない．

【到達目標】

1. 絵画や彫刻，芸術家に関するさまざまな考え方や感じ方が，文学においていかに表現されているかを知る．

2. 副産物として:作家たちの独自の見方を通して，特定の芸術家や芸術作品に対する新しい目が開かれることがある．

【授業計画】1. 以下のような作家・作品・テーマを扱うが，詳細については若干の変更もありうる．また，各項目の番号は扱う内容の順序を示しているが，必ずしも 1 回の授業の範囲を厳密に規定するものではない．1 回目では，今後の授業方針の説明などをおこなう． **2.** ゲーテ:「ドイツの建築法について」 **3.** フリードリヒ・シュレーゲルのゴシック建築論 **4.** ゲレスのゴシック建築論 **5.** ヴァッケンローダーの描くイタリア・ルネサンスの画家たち **6.** ヴァッケンローダーの描くデューラー **7.** ティーク:「フランツ・シュテルンバルトの遍歴」 **8.** アウグスト・ヴィルヘルム・シュレーゲルの芸術論 **9.** アウグスト・ヴィルヘルム・シュレーゲルの芸術論 **10.** ロマン派の画家たちの芸術論 (カールス，ナザレ派) **11.** メーリケ「画家ノルテン」 **12.** ケラー「緑のハインリヒ」 **13.** リルケとセザンヌ，ロダン **14.** リルケとヴォルプスヴェーデの画家たち **15.** ヘッセ「ナルチスとゴルトムント」など **16.** 総括授業

【成績評価】レポートと普段の授業への取り組みで総合的に評価する

【再試験】なし．

【教科書】適宜プリントを配布する．

【参考書】授業中にプリントを配布し，視聴覚資料などを示し，参考文献の指示もおこなう．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220139

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時，3号館1階学習支援室．)

ヨーロッパ文学演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)

井戸 慶治 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】18 世紀以降のドイツにおける文学と音楽の関係を，主として文学の側に重点を置いて考察する．

【授業概要】上記の「関係」にはさまざまなものがある．最も直接的で，また事例の多いのは，文学作品 (詩・戯曲など) に曲がつけられて，歌曲・オペラとなる場合である．より間接的には，いわゆる「標題音楽」などとして音楽の中に文学的要素が取り入れられる．しかしこれらの作品はどちらかといえば音楽のジャンルに属すると思われるので，参考として副次的に取り上げるにとどめる．ここで主に扱うのは，音楽と音楽家を素材とした小説などの文学作品であり，また音楽芸術一般や特定の音楽家・楽曲を論じた美学的・批評的作品である．必要に応じて関連する音楽作品を聴きながら，種々の文学作品を見てゆきたい．

【キーワード】ドイツ文学，音楽

【履修上の注意】8 単位重ね読み可能な授業であるから，原則として，連続する 2 年間 4 期の授業のうち，複数の授業を受講しても内容は重複しない．

【到達目標】

1. 近代のドイツにおいて，音楽や音楽家に関するさまざまな考え方や感じ方が，文学にいかに表現されているか，また文学と音楽の相互的影響はいかなるものだったかを知る．

2. 副産物として:作家たちの独自の感じ方・考え方を通して，特定の作曲家，楽曲に対するこれまでとは違った聴き方ができることもある．

【授業計画】1. 以下のような作家・作品・テーマを扱うが，詳細については若干の変更もありうる．また，各項目の番号は扱う内容の順序を示しているが，必ずしも 1 回の授業の範囲を厳密に規定するものではない． 1 回目では，今後の授業方針の説明などをおこなう． **2.** 古代ギリシアと旧約聖書における音楽 **3.** ヘルダーの音楽論 **4.** ハインゼ:「ヒルデガルト・フォン・ホーエンタール」 **5.** ゲーテと音楽 **6.** ヴァッケンローダーの音楽観 **7.** ヴァッケンローダーと架空の音楽家ベルクリンガー **8.** ティークと交響曲 **9.** ロマン派の音楽観 **10.** クライスト:「聖チェチーリア」 **11.** E. T. A. ホフマン:「牡猫ムルの人生観」 **12.** 同:「クライスレリアーナ」，ベートーヴェン論など **13.** ベートーヴェンの第九交響曲とシラーの「喜びに寄す」 **14.** 同上その 2 **15.** シューマンの音楽批評と文学の影響 **16.** 総括授業

【成績評価】レポートと授業への取り組みで総合的に評価する．

【再試験】なし．

【教科書】教材はプリントを配布する．

【参考書】授業中にプリントを配布し，視聴覚資料などを示し，参考文献の指示もおこなう．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220140

【連絡先】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17時，3号館1階学習支援室．)

ヨーロッパ文化研究

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

桂 修治 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】ヨーロッパ，ことにドイツとフランス語圏の文化事象のいくつかのテーマをとりあげ，これらを媒介として，幅広い文化現象に関する各自の問題意識を培うこと．

【授業概要】ヨーロッパ，ことにドイツとフランス語圏の文化事象のいくつかのトピックを取り上げ，日本の状況とも比較しながら，その歴史的 · 文化的背景を考えます． 担当者ごとにドイツ語を主に使用する桂とフランス語を使用する田島の授業を並行して開講します．

【キーワード】ドイツを知る，フランスの文学, 表象, テクスト

【先行科目】『ドイツ語/ドイツ語入門』(1.0), 『ドイツ語/ドイツ語初級』(1.0), 『フランス語/フランス語入門』(1.0), 『フランス語/フランス語初級』(1.0)

【履修上の注意】桂担当の授業では，ドイツ語の知識は前提としません (もちろん，片言でも出来れば申し分ありません)．異なる文化に触れるとき，自分の生活圏でこれまで当たり前だと思って気にとめていなかったことが，大きな問題になってきたりすることがあります．受講者には，このような問題に積極的に取り組む姿勢を求めたいと思います．参考書だけでなく日本語や英語のウェブサイトも有効な調査手段です (授業で詳しく紹介します)． 田島担当の授業では，フランス語による文献資料の解読を行うため，全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか，それと同等以上のフランス語能力を前提とします．

【到達目標】

1. 現代ドイツの社会についての概要とその多様性を知り，さらに関心を展開して行く足がかりを得る．同時に，自国の文化についての新たな観点を獲得する．

2. フランス語で文学を読むためのフランス語能力と，文学作品を鑑賞し，理解し，論評するための語彙，方法を獲得する

【授業計画】1. (桂) 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (1) **2.** (桂) 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (2) **3.** (桂) 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (3) **4.** (桂) 現代ドイツの社会の仕組みとその文化を知る (4) **5.** (桂) ディスカッション及び参加者による研究発表 (1) **6.** (桂) 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (1) **7.** (桂) 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (2) **8.** (桂) 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (3) **9.** (桂) 戦後から現代にいたるドイツの歴史的な歩みを見る (4) **10.** (桂) ディスカッション及び参加者による研究発表 (2) **11.** (桂) ドイツの教育制度を知る (1) **12.** (桂) ドイツの教育制度を知る (2) **13.** (桂) ドイツの教育制度を知る (3) **14.** (桂) ドイツの教育制度を知る (4) **15.** (桂) ディスカッション及び参加者による研究発表 (3)

【教科書】(桂) プリント資料を配布します．
【参考書】(桂) 初回授業で参考文献表を提示します．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219026
【連絡先】
⇒ 桂 (2308，0886-656-7136，katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間，金曜 5·6)

ヨーロッパ文化研究

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
田島 俊郎 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】フランス語圏の文化的テクスト (言語および映像その他) をとりあげ，これらを媒介として，幅広く文化事象を読み解く能力を身につける．
【授業概要】フランス語圏の文化テクスト (言語や映像その他) を読み解く能力を養成する．言語やその他の文化記号の背後にある歴史的 · 文化的背景を考える．
【キーワード】**フランスの文学, 表象, テクスト**
【先行科目】『フランス語/フランス語入門』(1.0)，『フランス語/フランス語初級』(1.0)
【関連科目】『実用外国語基礎演習 I(フランス語)』(0.5，⇒18 頁)，『実用外国語基礎演習 II(フランス語)』(0.5，⇒19 頁)
【履修上の注意】フランス語による文献資料の解読を行うため，全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか，それと同等以上のフランス語能力を前提とします．
【到達目標】フランス語で書かれたテクストを読むためのフランス語能力と，文学やその他の文化的テクストを理解し，論評するための語彙，方法を獲得する
【授業計画】**1.** 作品紹介，背景説明 **2.** 第 2 回から第 14 回まで輪読 **3.** 第 15 回 総括
【成績評価】教室での発表，質疑応答，など日常的な授業への貢献によって評価します．
【再試験】再評価は行いません．
【教科書】プリント資料を配布します．
【参考書】授業で参考文献を紹介します．
【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219983
【連絡先】
⇒ 田島 (088-656-7144，tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

ヨーロッパ文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)，4 年 (前期)
田島 俊郎 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】フランス語圏を中心とする文化についての多面的考察
【授業概要】欧米の社会と文化や歴史を，様々なレベルでとらえて研究する．宗教や哲学，法律や政治 · 経済，言語から文学，演劇，絵画，さらには映画や音楽などの現象まで，ヨーロッパやアメリカを特徴づける様々な事象を考察の対象とします．
【キーワード】**フランス文学，フランス語，フランス文化，言語，文学**
【先行科目】『文化研究の基礎』(1.0，⇒21 頁)，『ヨーロッパ文化研究』(1.0，⇒51 頁)
【関連科目】『実用外国語基礎演習 II(フランス語)』(0.5，⇒19 頁)，『比較文化論』(0.5，⇒26 頁)
【履修上の注意】卒業研究に向けた具体的な研究指導を行います．フランス語を中心とした欧文文献を読み，また資料を調査し批判します．
【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること．
【授業計画】授業の具体的なテーマは受講者諸君の興味を聞いて決定しますが，フランス語の原書を講読することになるでしょう．テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます．
【成績評価】講読や発表の担当の分担，授業への貢献度などから総合的に判断します
【再試験】行いません．
【教科書】プリント資料を用意します．
【参考書】随時紹介します．
【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220141
【連絡先】
⇒ 田島 (088-656-7144，tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜12時~ 13時)

ヨーロッパ文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)，4 年 (後期)
田島 俊郎 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】フランス語圏を中心とする文化についての多面的考察
【授業概要】欧米の社会と文化や歴史を，様々なレベルでとらえて研究する．宗教や哲学，法律や政治 · 経済，言語から文学，演劇，絵画，さらには映画や音楽などの現象まで，ヨーロッパやアメリカを特徴づける様々な事象を考察の対象とします．
【キーワード】**フランス文学，フランス語，フランス文化，言語，文学**
【先行科目】『文化研究の基礎』(1.0，⇒21 頁)，『ヨーロッパ文化研究』(1.0，⇒51 頁)
【関連科目】『実用外国語基礎演習 II(フランス語)』(0.5，⇒19 頁)，『比較文化論』(0.5，⇒26 頁)
【履修上の注意】卒業研究に向けた具体的な研究指導を行います．フランス語を中心とした欧文文献を読み，また資料を調査し批判します．
【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること．
【授業計画】授業の具体的なテーマは受講者諸君の興味を聞いて決定しますが，フランス語の原書を講読することになるでしょう．テーマは受講者の興味と担当者の助言に基づいて決めます．
【成績評価】講読や発表の担当の分担，授業への貢献度などから総合的に判断します．
【再試験】行いません．
【教科書】プリント資料を用意します．
【参考書】随時紹介します．
【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220142
【連絡先】
⇒ 田島 (088-656-7144，tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜12時~ 13時)

ヨーロッパ文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)，4 年 (前期)
桂 修治 · 教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220143
【連絡先】
⇒ 桂 (2308，0886-656-7136，katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間，金曜 5·6)

ヨーロッパ文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)，4 年 (後期)
桂 修治 · 教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220144
【連絡先】
⇒ 桂 (2308，0886-656-7136，katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間，金曜 5·6)

比較文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)，4 年 (前期)
依岡 隆児 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】この授業は主として比較文化研究で卒業研究を進めていくことを考えている学生を対象とする．従来の専門分野にとらわれず，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化の研究方法を学び，学生各人が個々の問題意識から主体的にテーマを見つけ，追究していく態度を養うことが，授業の目的である．各人のテーマに関しては徹底的に研究し，かつそれを比較という観点から相対化して検証していくということで，より普遍的な文化現象に迫っていく方法を身につける．また，卒業論文の指導もあわせて行う．
【授業概要】比較文化研究，異文化理解，卒業研究指導
【キーワード】**比較文化，異文化理解**
【先行科目】『比較文化研究』(1.0，⇒25 頁)
【履修上の注意】比較文化研究と比較文化論を受講していることが望ましい．受講生は日々，新聞や雑誌，映画などで異文化理解の問題に関心を養ってもらいたい．二年間受講することを原則とする．
【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得，多文化社会への理解を深めること．卒業研究の完成．
【授業計画】**1.** 比較文化という専門について，その意義，内容，領域，方法などについて，文献講読などを通して，明らかにしてく． **2.** 各人が文化に関する自分のテーマを見つけ，深めていくために，最近の出来事の中から文化トピックについて適宜報告してもらう． **3.** 比較文化関係の文献を講読し，発表させる．レジュメ・資料作成と口頭発表の訓練をし，発表後はそれをレポートとして提出する．テーマは近代化と文化受容の問題や文化の雑種性の問題，越境する文化の問題など． **4.** 論文作成のための基本的な訓練をする．図書館での実習，検索指導，研究計画の立て方，論文のまとめ方，構成を学ぶ．
【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として，レポートの提出による．
【再試験】有

【教科書】稲賀繁美編『異文化理解の倫理に向けて』名古屋大学出版会，2000 年
【参考書】依岡隆児『読書のススメ ~ 四国から，グローカルに ~ 』徳島新聞社
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220145
【連絡先】
⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：火曜日 12 時から 13 時)

比較文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)，4 年 (後期)
依岡 隆児 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】この授業は主として比較文化研究で卒業研究を進めていくことを考えている学生を対象とする．従来の専門分野にとらわれず，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化の研究方法を学び，学生各人が個々の問題意識から主体的にテーマを見つけ，追究していく態度を養うことが，授業の目的である．各人のテーマに関しては徹底的に研究し，かつそれを比較という観点から相対化して検証していくということで，より普遍的な文化現象に迫っていく方法を身につける．また，卒業論文の指導もあわせて行う．
【授業概要】比較文化研究，異文化理解，卒業研究指導
【キーワード】**比較文化，異文化理解**
【先行科目】『比較文化研究』(1.0，⇒25 頁)
【履修上の注意】比較文化研究と比較文化論を受講していることが望ましい．受講生は日々，新聞や雑誌，映画などで異文化理解の問題に関心を養ってもらいたい．二年間受講することを原則とする．
【到達目標】比較文化研究についての理解とその方法の習得，多文化社会への理解を深めること．卒業研究の完成．
【授業計画】**1.** 比較文化という専門について，その意義，内容，領域，方法などについて，文献講読などを通して，明らかにしてく． **2.** 各人が文化に関する自分のテーマを見つけ，深めていくために，最近の出来事の中から文化トピックについて適宜報告してもらう． **3.** 比較文化関係の文献を講読し，発表させる．レジュメ・資料作成と口頭発表の訓練をし，発表後はそれをレポートとして提出する．テーマは近代化と文化受容の問題や文化の雑種性の問題，越境する文化の問題など． **4.** 論文作成のための基本的な訓練をする．図書館での実習，検索指導，研究計画の立て方，論文のまとめ方，構成を学ぶ．
【成績評価】出席状況と授業への積極的な参加を前提として，レポートの提出による．
【再試験】有
【教科書】稲賀繁美編『異文化理解の倫理に向けて』名古屋大学出版会，2000 年
【参考書】依岡隆児『読書のススメ ~ 四国から，グローカルに ~ 』徳島新聞社
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220146
【連絡先】
⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー：火曜日 12 時から 13 時)

比較文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)，4 年 (前期)
ヘルベルト ウォルフガング · 講師 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220147
【連絡先】
⇒ ヘルベルト (088-656-7145，wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)，4 年 (後期)
ヘルベルト ウォルフガング · 講師 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220148
【連絡先】
⇒ ヘルベルト (088-656-7145，wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)，4 年 (前期)
座喜 純 · 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】西洋・日本・イスラームにおける価値観・人権概念の比較分析，現代国際社会における多様な民主化理論や文化衝突，平和の構築という課題の重要性と戦争と平和の関係について，基本的に英語を用いて研究活動を行っていきます．
【授業概要】イスラーム思想を基本として，国際交流や国際問題，メディア報道など，私たちの身近にある異文化コミュニケーション現象を実例として取り上げ，ディスカッション・プレゼンテーション能力を高めていきます．英語を一つの言語として徹底理解することによって，さらに新たな異文化・言語の理解を促し，複眼的に文化を捉え，現代社会における多言語・多文化共生について考えていきましょう．
【キーワード】**イスラーム，国際政治**
【到達目標】イスラーム思想におけるイデオロギーや文化等を修める
【授業計画】**1.** Seminar General Guidance **2.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language1 **3.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 2 **4.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 3 **5.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 4 **6.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 5 **7.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 6 **8.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 7 **9.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 8 **10.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 9 **11.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language10 **12.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language11 **13.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language12 **14.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language13 **15.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language14 **16.** Review
【成績評価】毎回の積極的な参加による
【再試験】無し
【教科書】座喜純，『イスラーム原理主義の「道しるべ」—発禁 “アルカイダの教本” 全訳+解説』
【参考書】座喜純，『常態のイスラーム—いまだ照らされていない世界』
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220149
【連絡先】
⇒ 座喜 . (オフィスアワー: Contact: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較文化演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)，4 年 (後期)
座喜 純 · 准教授 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】西洋・日本・イスラームにおける価値観・人権概念の比較分析，現 代国際社会における多様な民主化理論や文化衝突，平和の構築という課題の 重要性と戦争と平和の関係について，基本的に英語を用いて研究活動を行っ ていきます．
【授業概要】イスラーム思想を基本として，国際交流や国際問題，メディア報道など，私たちの身近にある異文化コミュニケーション現象を実例として取り上げ，ディスカッション・プレゼンテーション能力を高めていきます．英語を一つの言語として徹底理解することによって，さらに新たな異文化・言語の理解を促し，複眼的に文化を捉え，現代社会における多言語・多文化共生について考えていきましょう．
【キーワード】**イスラーム，国際政治**
【到達目標】イスラーム思想におけるイデオロギーや文化等を修める
【授業計画】**1.** Seminar General Guidance **2.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 1 **3.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 2 **4.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 3 **5.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 4 **6.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 5 **7.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 6 **8.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 7 **9.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 8 **10.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language 9 **11.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language10 **12.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language11 **13.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language12 **14.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language13 **15.** An intriduction to Islamic Thoughts & Arabic Language14 **16.** Review
【成績評価】毎回の積極的な参加による．
【再試験】無し
【教科書】座喜純，『イスラーム原理主義の「道しるべ」—発禁 “アルカイダの教本” 全訳+解説』
【参考書】座喜純，『常態のイスラーム—いまだ照らされていない世界』
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220150
【連絡先】
⇒ 座喜 . (オフィスアワー: Contact: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

ヨーロッパ思想研究

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 昌市 · 教授 / 人間文化学科，山口 裕之 · 准教授 / 人間文化学科
石田 三千雄 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】西洋の哲学・宗教思想について，テーマ，時代，人などの視点で問題を切り取って講義を行う．またそれを通して，現代社会の諸問題をその背景から思想的に理解する力を養うことを目指す．
【授業概要】まずヨーロッパ思想のバックボーンをなす古代ギリシアやヘブライの思想の基礎を学び，続いて近代哲学の基礎を築いたデカルト

からヘーゲル・ドイツ観念論に至る近代哲学の基礎を学び，フランス・ドイツを中心とした現代哲学 (科学認識論と現象学) の基礎を学ぶ．

【キーワード】倫理学，科学と哲学，哲学

【到達目標】
1. 人文科学 (西洋思想) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．

【授業計画】1. 古代ギリシアの哲学 1 :エレア学派の論理 (吉田) **2.** 古代ギリシアの哲学 2:ソクラテスの対話 (吉田) **3.** 古代ギリシアの哲学 3:プラトンの学問論 (吉田) **4.** 古代イスラエルの宗教思想 1:「創世記」 (吉田) **5.** 古代イスラエルの宗教思想 2:「創世記 (続)」(吉田) **6.** ドイツの思想 1:カントの理論哲学 (石田) **7.** ドイツの思想 2:カントの社会哲学 (石田) **8.** ドイツの思想 3:フッサール現象学の基礎 (石田) **9.** ドイツの思想 4:フッサールの生活世界論石田) **10.** ドイツの思想 5:ハイデッガーの思想 (石田) **11.** フランスの思想 1:フランス近代の重要性 (山口) **12.** フランスの思想 2:デカルトの仕事 (山口) **13.** フランスの思想 3:デカルトと経験論哲学 (山口) **14.** フランスの思想 4:経験論哲学の認識理論 (山口) **15.** フランスの思想 5:まとめ (山口)

【成績評価】毎回の授業終了時に書く「一言カード」，3 回のレポートにより評価する．レポートの課題や評価基準などについては授業中に示す．

【再試験】無

【教科書】授業の時に資料を配付する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219022

【連絡先】
⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階)，088-656-7150，shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで)，088-656-7615，yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)
⇒ 石田 (2328，088-656-7147，mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)

ヨーロッパ思想演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)，4 年 (前期)
吉田 昌市 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】この科目は，演習とゼミナールという二つの面を持っています． わたしは，古代ギリシアの哲学，特にプラトンやプロティノスを勉強してきました．また，もともとキリスト教の思想にも関心があって，学生時代から細々とではありますが，そして玄人としてではありませんが，勉強を続けています． このゼミでは，こうした方面に関心のある学生諸君の受講を期待しています． それともう一つ，ヘブライ語は教えられませんが，古代ギリシア語やラテン語なら教えることができます．一から勉強して，何かを読んでみようというマニアック (?) な学生さんがいるといいですね． 演習としては，日本あるいは西洋を代表する哲学者の主要著作，あるいはそれに関連する文献を講読します．

【授業概要】哲学・思想分野の演習とゼミナール，哲学史上の基本的著作の講読

【キーワード】存在と認識，倫理と宗教

【履修上の注意】根気よくテクストとつきあってください．

【到達目標】
1. 原典に向き合い，原典に即して考える姿勢を身につけること．これは「批判的」であることと矛盾しません．
2. またこれは，日本語の論理的文章を理解できる能力を養成することにもなり，自分で課題を解決しようとする態度や力を培うことにもつながります．

【授業計画】1. ゼミナールの具体的テーマや演習で講読する書物は，受講生諸君の実際の希望を聞いてから決定します． **2.** 授業は 15 週行い，16 週目は成績評価と評価の講評にあてる．

【成績評価】期末の試験は行わない． 講読にあたっては，毎回受講生の誰かにその日の部分について発表をしてもらう．その発表の様子や，毎回の授業への取り組みの姿勢などに基づいて，総合的に成績評価をする． 期末にレポートの提出を求める場合もある．

【再試験】行わない．

【教科書】なし

【参考書】受講生と相談の上で決定．

【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/tetsugak/phil_index.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220151

【連絡先】
⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階)，088-656-7150，shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

ヨーロッパ思想演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)，4 年 (前期)
石田 三千雄 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】卒論作成に向けて，文献検索の仕方や論文の読み方・論文作成の指導を行う．ヨーロッパの哲学思想に関わる文献を読むと共に，またそれに関わる哲学・倫理学の概念について討論し，プレゼンテーションの力も養う．

【授業概要】主に近現代ドイツの哲学思想について学ぶ．カントやヘーゲルの哲学といったオーソドックスな哲学以外に，現代の環境倫理や広く自然哲学，自然美学などに関わる事柄も学ぶことができる．受講生は自分でテーマを設定して発表を行う．

【キーワード】哲学，倫理，ヨーロッパ思想

【到達目標】ヨーロッパ思想に関わる知識を身につけ，論理的な思考や論理的な文章を書く能力の養成を目標とする．

【授業計画】1. 過去の哲学思想を学びながら，現代社会のあり方，人間の生き方について考える．哲学思想に関わる文献を読みながら，その間に受講生による発表を行う． **2.** 最近の卒論のテーマは，「スピノザ哲学の考察—決定論と自由の整合性から—」，「グレゴリオ聖歌について」，「ミケランジェロによる三体のピエタ」などである．

【成績評価】発表したレジュメと出席で評価する．

【再試験】なし

【参考書】そのつど資料を配付する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220152

【連絡先】
⇒ 石田 (2328，088-656-7147，mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14時~ 15時)

ヨーロッパ思想演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)，4 年 (前期)
山口 裕之 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】哲学思想についての深い理解にもとづき，学術論文を作成する能力を身につける．

【授業概要】主にフランス近代哲学 (18 世紀経験論哲学) について研究します．今年度は，Condillac, La Logique, ou les premiers développements de l'art de penser という本を読んでいます．18 世紀のフランスは，民主主義の思想や近代経験科学 (自然科学) など，現在の思考の枠組みが形成された時代です．そうした時代の哲学を学ぶことで，自らが依って立つ枠組み自身を反省する視点を身に付けることを目標とします．今までの卒論のテーマは，「性と生:フーコー権力論を手掛かりに」「ヒュームの自我論:『人間本性論』における自我の整合的解釈へ向けて」などです．3 年生のうちは，哲学史の全体像を理解するため，中央公論新社『哲学の歴史』12 巻を通読する予定です．

【キーワード】哲学，フランス

【先行科目】『哲学・思想の基礎』(0.9, ⇒21 頁)，『ヨーロッパ思想研究』(0.9, ⇒52 頁)，『環境倫理学』(0.8, ⇒65 頁)，『人間と生命/生命倫理学研究』(0.8)

【履修上の注意】受講登録する前に相談にきてください．

【到達目標】
1. 人文科学 (哲学) に関わる幅広い知識の理解．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力を身に付ける．
3. 日本語の論理的文章を理解する能力を身に付ける．

【授業計画】1. 哲学の歴史 1:古代 1 **2.** 同上，2 回目 **3.** 同上，3 回目 **4.** 哲学の歴史 2:古代 2 **5.** 同上，2 回目 **6.** 同上，3 回目 **7.** 哲学の歴史 3:中世 **8.** 同上，2 回目 **9.** 同上，3 回目 **10.** 哲学の歴史 4:ルネサンス **11.** 同上，2 回目 **12.** 同上，3 回目 **13.** 哲学の歴史 5:デカルト革命 **14.** 同上，2 回目 **15.** 同上，3 回目

【成績評価】授業での発表，学期末のレポート (6 巻を読んで報告する)

【再試験】なし．

【教科書】中央公論新社『哲学の歴史』1~ 6 巻

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220153

【連絡先】
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで)，088-656-7615，yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

ヨーロッパ思想演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)，4 年 (後期)
吉田 昌市 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】以下のすべての項目について，前期のシラバスを見てください．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220154

【連絡先】
⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階)，088-656-7150，shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

ヨーロッパ思想演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)，4 年 (後期)
石田 三千雄 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】卒論作成に向けて，文献検索の仕方や論文の読み方・論文作成の指導を行う．ヨーロッパの哲学思想に関わる文献を読むと共に，またそれに関わる哲学・倫理学の概念について討論し，プレゼンテーションの力も養う．

【授業概要】主に近現代ドイツの哲学思想について学ぶ．カントやヘーゲルの哲学といったオーソドックスな哲学以外に，現代の環境倫理や広く自然哲学，自然美学などに関わる事柄も学ぶことができる．受講生は自分でテーマを設定して発表を行う．

【キーワード】**哲学，倫理，ヨーロッパ思想**

【到達目標】ヨーロッパ思想に関わる知識を身につけ，論理的な思考や論理的な文章を書く能力の養成を目標とする．

【授業計画】**1.** 過去の哲学思想を学びながら，現代社会のあり方，人間の生き方について考える．哲学思想に関わる文献を読みながら，その間に受講生による発表を行う． **2.** 最近の卒論のテーマは，「スピノザ哲学の考察—決定論と自由の整合性から—」，「グレゴリオ聖歌について」，「ミケランジェロによる三体のピエタ」などである．

【成績評価】発表したレジュメと出席で評価する．

【再試験】なし

【参考書】そのつど資料を配付する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220155

【連絡先】
⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14時~ 15時)

ヨーロッパ思想演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
山口 裕之 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】哲学思想についての深い理解にもとづき，学術論文を作成する能力を身につける．

【授業概要】主にフランス近代哲学 (18 世紀経験論哲学) について研究します．今年度は，Condillac, La Logique, ou les premiers développements de l'art de penser という本を読んでいます．18 世紀のフランスは，民主主義の思想や近代経験科学 (自然科学) など，現在の思考の枠組みが形成された時代です．そうした時代の哲学を学ぶことで，自らが依って立つ枠組み自身を反省する視点を身に付けることを目標とします．今までの卒論のテーマは，「性と生:フーコー権力論を手掛かりに」「ヒュームの自我論:『人間本性論』における自我の整合的解釈へ向けて」などです．3 年生のうちは，哲学史の全体像を理解するため，中央公論新社『哲学の歴史』12 巻を通読する予定です．

【キーワード】**哲学，フランス**

【先行科目】『哲学・思想の基礎』(0.9, ⇒21 頁), 『ヨーロッパ思想研究』(0.9, ⇒52 頁), 『環境倫理学』(0.8, ⇒65 頁), 『人間と生命/生命倫理学研究』(0.8)

【履修上の注意】受講登録する前に相談にきてください．

【到達目標】
1. 人文科学 (哲学) に関わる幅広い知識の理解.
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力を身に付ける．
3. 日本語の論理的文章を理解する能力を身に付ける．

【授業計画】**1.** 哲学の歴史 7:18-19 世紀 **2.** 同上，2 回目 **3.** 同上，3 回目 **4.** 哲学の歴史 8:18-20 世紀 **5.** 同上，2 回目 **6.** 同上，3 回目 **7.** 哲学の歴史 9:19-20 世紀 **8.** 同上，2 回目 **9.** 同上，3 回目 **10.** 哲学の歴史 10:20 世紀 1 **11.** 同上，2 回目 **12.** 同上，3 回目 **13.** 哲学の歴史 11:20 世紀 2 **14.** 同上，2 回目 **15.** 同上，3 回目

【成績評価】授業での発表，学期末のレポート (12 巻を読んで報告する)

【再試験】なし．

【教科書】中央公論新社「哲学の歴史」7-12 巻

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220156

【連絡先】
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30-11:30)

ヨーロッパ史研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐久間 亮 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】イギリスの近代史を，いわゆるグローバル・ヒストリに位置づけて論じる．イギリスの歴史は，一時期を除いて第二次世界大戦以降植民地を喪失するまで，帝国の歴史である．この過程は，現代のグローバル化社会の出発点ともいえ，現在に至るまで世界の様々な地域に影響を及ぼし続けている．イギリス国内のことがらを理解する上でも，このような観点は欠かせない．たとえば，イングランド人，スコットランド人，ウェールズ人がそれぞれの文化的差異を含みながらも，イギリス人というアイデンティティ (ブリティッシュネス) へと統合されてきたのは，帝国の存在があったためである．

【授業概要】グローバル・ヒストリとイギリス近代史

【キーワード】**ナショナル・アイデンティティ，文化統合，大英帝国**

【関連科目】『地域交流史』(1.0, ⇒26 頁), 『ヨーロッパ史研究 II』(1.0, ⇒54 頁), 『ヨーロッパ史研究 III』(1.0, ⇒54 頁)

【履修上の注意】視覚的印象は，テーマを理解する上で欠かせない要素である．授業中にもしばしばビデオを利用するが，以下に参考となる映画 (ビデオ化され入手しやすいもの) をあげておく．予め観ておくことが望ましい．授業中にも言及されるだろう．『エリザベス』Elizabeth(1998), 『恋に落ちたシェイクスピア』Shakespere in Love (1998), 『マイ · フェア · レディ』My Fair Lady(1964), 『オスカー・ワイルド』Wilde (1997) ,『インドへの道』A Passage to India(1984), 『遠い夜明け』Cry Freedom(1987), 『日の名残り』The Remains of the Day(1993).

【到達目標】
1. イギリス社会の歴史的形成のプロセスを理解すること
2. 歴史的パースペクティブからさまざまな事象を理解する重要性を体感すること

【授業計画】**1.** 現在のイギリスを理解するために **2.** イギリス宗教改革のインパクト **3.** 帝国化への転換点としての 16 世紀 **4.** 「ピューリタン革命」論の再検討 **5.** 共和制という名の恐怖政治 **6.** 名誉革命とアイルランドの運命 **7.** 戦争と財政軍事国家イギリスの誕生 **8.** アメリカ独立の衝撃 **9.** ジェントルマン社会と「国民」統合 **10.** 帝国とスコットランド人 **11.** 「男らしさ」と戦争 **12.** フットボールの世界化 **13.** アイドル・ウーマンと帝国へ渡る女性たち **14.** ジェントルマン資本主義とインドへの道 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】期末試験の結果によって評価をおこなう．

【再試験】行わない

【教科書】教科書は使用せず，授業中に配布するプリントを中心に講義をすすめる．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219019

【連絡先】
⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜12時~ 13時)

ヨーロッパ史研究 II

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
長井 伸仁 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】フランス近現代史の諸問題を検討することを通じて，歴史的なものの見方を養う．

【授業概要】フランス近現代史の諸問題

【キーワード】**史学，フランス，近代化**

【到達目標】現在のさまざまな問題に答える手がかりの一端を過去に求め，史実の確認と史料の検討を通じて，歴史的なものの見方を養う．

【授業計画】**1.** 政治の民主化 **2.** 教育改革 **3.** 反議会主義 **4.** 市民社会と文化 (その 1):ライシテという原理 **5.** 市民社会と文化 (その 2): 共和主義の政治文化 **6.** 反近代主義

【成績評価】平常点 (授業への取り組みなど) と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する．

【再試験】なし

【教科書】教材は，プリントのかたちで配布する．

【参考書】谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』ミネルヴァ書房，2006 年.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219020

【連絡先】
⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

ヨーロッパ史研究 III

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
今井 晋哉 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】第二次世界大戦後のドイツを中心に，冷戦・分断の構造とその変容過程，東独社会主義体制の崩壊過程，東欧革命とドイツ「再統一」(1989/90 年) の経過，それらのうちに表れた諸問題について理解すること．

【授業概要】よく知られているように，ドイツは約 20 年前，東独における民主化市民革命＝社会主義体制の崩壊，さらにはドイツ「再統一」(1989/90 年) という大変動を経験した．そして，その変動はその後のドイツ社会にも様々の影響を及ぼしてきた．本科目では，1989/90 年の激動の背景 · 過程を跡付けるとともに，その後の「新生」ドイツが抱え込んだ問題の一端をとりあげ，考察してみたい．

【キーワード】**「ベルリンの壁」，民主化要求市民運動，社会主義体制の崩壊，ドイツ「再統一」，「心の壁」**

【関連科目】『アメリカ史研究』(0.5, ⇒55 頁), 『ヨーロッパ史研究 I』(0.5, ⇒54 頁), 『ヨーロッパ史研究 II』(0.5, ⇒54 頁), 『国際関係論 I』(0.5, ⇒27 頁)

【履修上の注意】本科目のテーマ · 内容に興味のある人なら，所属学科にかかわらず誰でも歓迎される．ドイツ語の知識は特に必要ではない．

【到達目標】現代史上のいくつかの重要な事象や問題について，歴史的なパースペクティヴをもって多面的に捉えられること．そして，自分が理解したことについて，明快で論理的な文章によって表現できること．

【授業計画】**1.** まず第二次世界大戦後のドイツ史の動向を，1989/90 年の状況を理解するのに欠かせないポイントに絞って概観する．冷戦構造の中の東西両ドイツ=分断国家の状況，とりわけ東独社会主義体制の抱えていた諸問題及び両ドイツ間関係に重点が置かれる． **2.** 続いて，大量の東独 (民主共和国) 市民の越境=西独 (連邦共和国) への出国，民主化を求める東独市民の運動の高揚，同国の社会主義体制の崩壊からドイツ「再統一」へという歴史過程を，東独市民の動向を中心に，国際情勢 (冷戦構造の変化，東欧革命など) をも視野に入れながら，できるだけ多面的かつリアルに辿り直してみたい． **3.** また，その後の「統一」ドイツにおける諸問題の中から，異なった体制の下で生きてきた旧東西ドイツ市民の間の「心の壁」=心理的・文化的距離ないし摩擦の問題をとりあげて，考察したい． **4.** 講義が中心だが，授業時には地図，年表，写真，映像など様々な資料をも配付あるいは使用したいと考えている． **5.** より詳しいことは，開講時にお知らせする．

【成績評価】主としてレポートによるが，授業への参加状況も参考にする．

【再試験】場合によっては行う (レポート再提出).

【教科書】特定の教科書は用いない．教材や資料は授業時に配付する．

【参考書】毎回の授業時に紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219021

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 16:30-18:00)

アメリカ史研究

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

吉岡 宏祐・講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
今井 晋哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】アメリカ・インディアンの歴史と現実を，先住民の権利という視点から分析する．

【授業概要】現在アメリカのインディアン問題の実情を具体的に分析し，その歴史にさかのぼって由来を考える．

【キーワード】**アメリカ，先住民，インディアン**

【履修上の注意】聞きっぱなしにならないように，毎回小レポートを書いてもらいます． その際，自分の考えをはっきりと書いて下さい．

【到達目標】

1. アメリカに先住民がいて，独自の歴史を持っていたことを知り，
2. 今日のアメリカと先住民の関係についての認識を深めること．

【授業計画】**1.** インデイアン問題について **2.** 保留地の苦悩ー絶望と貧困ー **3.** 権利の回復ー先住民族条約権の履行ー **4.** インディアン・カジノー伝統とギャンブルの相克ー **5.** インディアンの原文化ー自然と文化の融合ー **6.** 白人との遭遇ーポカホンタス伝説の解剖ー **7.** 清掃政策への転換ー先住民排斥の論理ー **8.** 独立革命とインディアンー「外国」としてのインディアンー **9.** フロンティア理論とインディアンーアメリカ自由原理の暴走ー **10.** チェロキー共和国と強制移住ー文明化したインディアンの悲劇ー **11.** 西部開拓とインディアン戦争ー侵略の西部史ー **12.** 同化政策とインディアン学校ー部族の解体と文化の破壊ー **13.** ニューディール政策とインディアンー多文化主義の実験ー **14.** 終結政策ーインディアン保護責任の放棄ー **15.** レッドパワーー闘うインディアンの復活ー

【成績評価】毎回の小レポートの成績と講義への受講姿勢を評価する．

【再試験】行わない

【教科書】ありません．

【参考書】富田虎男『アメリカ・インディアンの歴史』(雄山閣)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218356

【連絡先】

⇒ 吉岡 .
⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米歴史・社会演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)

佐久間 亮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】このゼミナールは歴史学を中心として，イギリスあるいは，かつて英帝国に組み込まれた地域 (アメリカ大陸を除く) について，研究しようとする諸君向けに開設されるものである．ここでは，旧来，歴史学の研究テーマとされてきた政治，経済，思想のみならず，さまざまな社会現象，音楽，映画演劇，スポーツなど広い意味での文化活動，あるいは民俗なども対象とする．また，現代のイギリス社会の諸問題について歴史的視点から考察することも可能である．これまでの学問の枠にとらわれない，独自に温めているテーマをゼミに持ち寄って欲しい． 前期は，研究に必要な文献収集の方法，発表の方法など技術的側面について指導した後，基本文献の報告，ディスカッションを中心にすすめる．

【授業概要】イギリスあるいは，イギリス植民地の歴史に関する研究指導

【キーワード】**史料収集，ディスカッション，批判能力，史料操作，プレゼンテーション**

【履修上の注意】毎回，読んできた文献，論文についてディスカッションをおこなう．そこで，充分な予習をしてこない者は出席を認めない．

【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること

【授業計画】**1.** 文献収集の方法について 1) **2.** 文献収集の方法について 2) **3.** 文献講読，ディスカッション 1) **4.** 文献講読，ディスカッション 2) **5.** 文献講読，ディスカッション 3) **6.** 文献講読，ディスカッション 4) **7.** 個別研究報告 1) **8.** 個別研究報告 2) **9.** 文献講読，ディスカッション 5) **10.** 文献講読，ディスカッション 6) **11.** 文献講読，ディスカッション 7) **12.** 文献講読，ディスカッション 8) **13.** 個別研究報告 3) **14.** 個別研究報告 4) **15.** ディスカッションまとめ **16.** 総括

【成績評価】ディスカッションへの参加，貢献度，レポートで評価する．期末試験はおこなわない．

【再試験】再試験，再評価はおこなわない

【教科書】開講時に指示する

【参考書】開講時に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220157

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米歴史・社会演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)

佐久間 亮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】このゼミナールは歴史学を中心として，イギリスあるいは，かつて英帝国に組み込まれた地域 (アメリカ大陸を除く) について，研究しようとする諸君向けに開設されるものである．ここでは，旧来，歴史学の研究テーマとされてきた政治，経済，思想のみならず，さまざまな社会現象，音楽，映画演劇，スポーツなど広い意味での文化活動，あるいは民俗なども対象とする．また，現代のイギリス社会の諸問題について歴史的視点から考察することも可能である．これまでの学問の枠にとらわれない，独自に温めているテーマをゼミに持ち寄って欲しい． 後期は，個別報告を中心にすすめ，卒論提出間近の 4 年生には，最後は個別面談で卒論作成の助言指導をおこなう．

【授業概要】イギリスあるいは，イギリス植民地の歴史に関する研究指導

【キーワード】**史料収集，ディスカッション，批判能力，史料操作，プレゼンテーション**

【履修上の注意】毎回，読んできた文献，論文についてディスカッションをおこなう．そこで，充分な予習をしてこない者は出席を認めない．

【到達目標】卒業研究を完成させるに足る知識と技法を獲得すること

【授業計画】**1.** 文献収集の方法について 1) **2.** 文献収集の方法について 2) **3.** 文献講読，ディスカッション 1) **4.** 文献講読，ディスカッション 2) **5.** 文献講読，ディスカッション 3) **6.** 文献講読，ディスカッション 4) **7.** 個別研究報告 1) **8.** 個別研究報告 2) **9.** 文献講読，ディスカッション 5) **10.** 文献講読，ディスカッション 6) **11.** 文献講読，ディスカッション 7) **12.** 文献講読，ディスカッション 8) **13.** 個別研究報告 3) **14.** 個別研究報告 4) **15.** ディスカッションまとめ **16.** 総括

【成績評価】ディスカッションへの参加，貢献度，レポートで評価する．期末試験はおこなわない．

【再試験】再試験，再評価はおこなわない

【教科書】開講時に指示する

【参考書】開講時に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220158

【連絡先】

⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米歴史・社会演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)

長井 伸仁・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】欧米の歴史や社会について，文献講読を軸に考察する．

【授業概要】文献のテーマは，教員の専門であるフランス近現代史に関連するとは限らない．卒業研究をおこなう学生は，講読を通じて，あるいはそれと並行して，研究テーマを決め，4 年次に完成させる．

【キーワード】**歴史学，ヨーロッパ**

【到達目標】欧米の歴史や社会について文献を講読することで，読解力を高めるとともに，歴史的なものの見方を涵養する．

【授業計画】文献講読

【成績評価】講読への取り組み，発表の内容，授業中の態度などから総合的に判断する．

【再試験】なし

【教科書】ドイツ・フランス共通歴史教科書，明石書店，2008 年．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220159

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

欧米歴史・社会演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
長井 伸仁・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 欧米の歴史や社会について，文献講読を軸に考察する．

【授業概要】 文献のテーマは，教員の専門であるフランス近現代史に関連するとは限らない．卒業研究をおこなう学生は，講読を通じて，あるいはそれと並行して，研究テーマを決め，4 年次に完成させる．

【キーワード】歴史学，ヨーロッパ

【到達目標】 欧米の歴史や社会について文献を講読することで，読解力を高めるとともに，歴史的なものの見方を涵養する．

【授業計画】 文献講読

【成績評価】 講読への取り組み，発表の内容，授業中の態度などから総合的に判断する．

【再試験】 なし

【教科書】 ドイツ・フランス共通歴史教科書，明石書店，2008 年．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220160

【連絡先】
⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜の昼休み)

欧米歴史・社会演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
今井 晋哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 主にヨーロッパ (英・仏以外) の歴史，現代ヨーロッパの社会問題について勉強していこうとする学生諸君が，自分自身の専門研究をスタートするために必要な方法と基礎を習得するための演習です．3 年次前期に開講されます．

【授業概要】 歴史のダイナミックな動向あるいは日常的社会現象に潜む問題を対象に，その歴史的・社会的背景，人びとの反応，あるいは権力の問題などを探求し，それを通じて現代世界や歴史に対する見方を深めてもらう．「欧米歴史・社会演習」はそのためにあるのだと思います．このようなことを念頭に，ヨーロッパ史あるいは現代ヨーロッパ社会について専門的に学習していこうとする学生諸君と一緒に勉強できればと考えています．詳しくは下記「計画」をご覧ください．なおこれまでに私が担当した卒業研究の領域とテーマは，例えば次のようなものです．これらは全て受講生が自分で選んだもので，私が特に勧めたわけではありません: 中世史 (ヨーロッパの都市共同体と賤民)，民族問題 (ヨーロッパに流入したロマ民族に対する差別とイメージの問題，トルコのクルド人問題，旧ユーゴスラヴィアの内戦，ルワンダのツチとフツの抗争とエスニシティの政治化)，国民統合 (ビスマルクとドイツ統一)，ナチス (青少年組織と抵抗運動，優生学と強制断種・「安楽死」，医学の犯罪・ホロコーストと戦後責任)，社会主義 (チェコスロヴァキアの民主化とソ連の武力介入，東独の民主化革命とキリスト教会)，ドイツ現代社会 (トルコ人二世・三世の統合問題，「再統一」後の極右の台頭と外国人排斥)，ヨーロッパ統合 (EU とイスラームの関係)，現代世界 (コーヒーの価格形成とフェア・トレード)．

【キーワード】ヨーロッパ史，現代ヨーロッパ社会，専門研究のための情報収集

【先行科目】 『ヨーロッパ史研究 I』(1.0, ⇒54 頁)，『ヨーロッパ史研究 II』(1.0, ⇒54 頁)，『ヨーロッパ史研究 III』(1.0, ⇒54 頁)

【関連科目】 『国際関係論 I』(0.5, ⇒27 頁)

【履修上の注意】 専門研究に直結する演習であり，課題も多く課されるので，自主的・積極的にとりくむこと．

【到達目標】 自分自身の専門研究をスタートするために必要な方法と基礎を習得すること．

【授業計画】 **1.** この「演習」では，いくつかの日本語文献を共通のテキストとして，一緒に読みながら要旨を理解し，論点を確認するという作業を中心に行います．その際，重要な事象，概念，人名，地名などについては，参考図書を使って予め調べてきてもらいます．テキストは，受講者の関心を考慮に入れつつ選びたいと思います． **2.** 文献講読に際しては，予め各回の当番を決めますので，自分の担当する回の文献の内容を要約し，論点を整理し，調べたことをまとめたペーパーを用意してもらいます． **3.** 参考図書については，具体的に紹介・案内します． **4.** 「演習」の時間には，まず当番の人に，用意してきたペーパーにもとづいて基本的な報告をしてもらいます．続いて，報告内容について質疑応答や討論を行います． **5.** また，読んだ文献の内容を要約し，論点を整理した文章を提出してもらい，それを添削する機会も設けたいと考えています． **6.** 4 年生の「卒業研究」の中間報告を聴いて質問・コメントをしてもらう回もあります． **7.** 併せてこの前期のうちに，文献・資料の調査・収集の方法についても学習します． **8.** そして，夏休み前には各自の関心にもとづいて「卒業研究」のテーマをイメージしてもらい，それに関連する文献のリストを作成してもらいます． **9.** 卒業研究についてはいろいろと相談に乗りますが，テーマ自体は自由に選んで，自主的・積極的に学習を進めてほしいと思います．どのようなテーマを選ぶにしろ，自分の問題意識を大切に，視野はできるだけ広く，同時に研究対象は具体的に絞り込んで，それをできるだけ深く掘り下げる，ということを目指したいと思います． **10.** なお「演習」の時間に，あるいは卒業研究のために英語やドイツ語の文献を読むかどうかは，受講生の意欲と研究テーマによります．

【成績評価】 毎回の課題へのとりくみ方，討論への参加の程度などの観点から総合的に評価します．

【再試験】 場合によっては行います．

【教科書】 特定の教科書は用いません．

【参考書】 参考資料・文献等は随時，配付または紹介します．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220161

【連絡先】
⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

欧米歴史・社会演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
今井 晋哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 主にヨーロッパ (英・仏以外) の歴史，現代ヨーロッパの社会問題について勉強していこうとする学生諸君が，自分自身の専門研究をスタートさせつつ，それに必要な方法と基礎を習得するための演習です．3 年次後期に開講されます．

【授業概要】 歴史のダイナミックな動向あるいは日常的社会現象に潜む問題を対象に，その歴史的・社会的背景，人びとの反応，あるいは権力の問題などを探求し，それを通じて現代世界や歴史に対する見方を深めてもらう．「欧米歴史・社会演習」はそのためにあるのだと思います．このようなことを念頭に，ヨーロッパ史あるいは現代ヨーロッパ社会について専門的に学習していこうとする学生諸君と一緒に勉強できればと考えています．詳しくは下記「計画」をご覧ください．なおこれまでに私が担当した卒業研究の領域とテーマは，例えば次のようなものです．これらは全て受講生が自分で選んだもので，私が特に勧めたわけではありません: 中世史 (ヨーロッパの都市共同体と賤民)，民族問題 (ヨーロッパに流入したロマ民族に対する差別とイメージの問題，トルコのクルド人問題，旧ユーゴスラヴィアの内戦，ルワンダのツチとフツの抗争とエスニシティの政治化)，国民統合 (ビスマルクとドイツ統一)，ナチス (青少年組織と抵抗運動，優生学と強制断種・「安楽死」，医学の犯罪・ホロコーストと戦後責任)，社会主義 (チェコスロヴァキアの民主化とソ連の武力介入，東独の民主化革命とキリスト教会)，ドイツ現代社会 (トルコ人二世・三世の統合問題，「再統一」後の極右の台頭と外国人排斥)，ヨーロッパ統合 (EU とイスラームの関係)，現代世界 (コーヒーの価格形成とフェア・トレード)．

【キーワード】ヨーロッパ史，現代ヨーロッパ社会，専門研究のための情報収集，卒業研究のテーマ設定

【先行科目】 『ヨーロッパ史研究 I』(1.0, ⇒54 頁)，『ヨーロッパ史研究 II』(1.0, ⇒54 頁)，『ヨーロッパ史研究 III』(1.0, ⇒54 頁)

【関連科目】 『国際関係論 I』(0.5, ⇒27 頁)

【履修上の注意】 専門研究に直結する演習であり，課題も多く課されるので，自主的・積極的にとりくむこと．

【到達目標】 自分自身の専門研究をスタートするために必要な方法と基礎を習得すること．

【授業計画】 **1.** 前期に引き続き，いくつかの日本語文献を共通のテキストとして，一緒に読みながら要旨を理解し，論点を確認するという作業を中心に行います．その際，重要な事象，概念，人名，地名などについては，参考図書を使って予め調べてきてもらいます．テキストは，受講者の関心を考慮に入れつつ選びたいと思います． **2.** 文献講読に際しては，予め各回の当番を決めますので，自分の担当する回の文献の内容を要約し，論点を整理し，調べたことをまとめたペーパーを用意してもらいます． **3.** 参考図書については，具体的に紹介・案内します． **4.** 「演習」の時間には，まず当番の人に，用意してきたペーパーにもとづいて基本的な報告をしてもらいます．続いて，報告内容について質疑応答や討論を行います． **5.** また，読んだ文献の内容を要約し，論点を整理した文章を提出してもらい，それを添削する機会も設けたいと考えています． **6.** 4 年生の「卒業研究」の中間報告を聴いて質問・コメントをしてもらう回もあります． **7.** また，この後期のうちには，自分の「卒業研究」のテーマを決め，具体的に情報収集・文献講読などをスタートさせること． **8.** 卒業研究についてはいろいろと相談に乗りますが，テーマ自体は自由に選んで，自主的・積極的に学習を進めてほしいと思います．どのようなテーマを選ぶにしろ，自分の問題意識を大切に，視野はできるだけ広く，同時に研究対象は具体的に絞り込んで，それをできるだけ深く掘り下げる，ということを目指したいと考えます． **9.** なお「演習」の時間に，あるいは卒業研究のために英語やドイツ語の文献を読むかどうかは，受講生の意欲と研究テーマによります．

【成績評価】 毎回の課題へのとりくみ方，討論への参加の程度などの観点から総合的に評価します．

【再試験】 場合によっては行います．

【教科書】 特定の教科書は用いません．

【参考書】 参考資料・文献等は随時，配付または紹介します．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220162

【連絡先】

⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (火)16:30-18:00)

欧米歴史・社会演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
吉岡 宏祐 · 講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=224836
【連絡先】
⇒ 吉岡 .
⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

欧米歴史・社会演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
吉岡 宏祐 · 講師 / 大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=224837
【連絡先】
⇒ 吉岡 .
⇒ 今井 (1319, 088-656-7139, shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本語教育方法論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
三隅 友子 · 教授 / 国際センター

【授業目的】日本語教育に限らず，広く教育の方法について理解し，これからの教育活動の基礎を習得する．
【授業概要】日本語教育の前提となる，教育及び学習に焦点をあて，私たちが受けてきた教育活動を振り返り，これからの教育ー学習活動を再構築し実践していく方法を体得する．
【キーワード】生涯学習，自律学習，心とからだのコミュニケーション，意識と無意識，教えると学ぶ
【関連科目】『日本語教材研究』(0.5, ⇒58 頁)
【履修上の注意】講義以外に集中講義形式で外部講師による「こころをからだの研修」を実施するこれも必ず受講すること．
【到達目標】自分を見つめ，また他者との関わりから教える・学ぶを考える．
【授業計画】**1.** 自己紹介とガイダンス **2.** 自分を知る 1 こころとからだ **3.** 自分を知る 2 こころとからだ **4.** 相手を知る 1 コミュニケーション **5.** 相手を知る 2 コミュニケーション **6.** 教える 1 ことば **7.** 教える 2 知識 **8.** 学ぶ 1 ことば **9.** 学ぶ 2 知識 **10.** 教えることと学ぶこと 体験学習とは **11.** こころとからだのレッスン 1(集中講義) **12.** こころとからだのレッスン 2(集中講義) **13.** こころとからだのレッスン 3(集中講義) **14.** こころとからだのレッスン 4(集中講義) **15.** 自己成長と教育 **16.** まとめにかえて
【成績評価】出席を重視します．毎回振り返りを記入または発言を記録し，評価とします．テストは行わない．
【再試験】無
【教科書】授業中に適宜指示する，.
【参考書】竹内敏晴「からだとことばのレッスン」 野口三千三体操 ニューカウンセリング
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218923
【連絡先】
⇒ 三隅 (国際センター, 088-656-7120, misumi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日午前中 また適宜連絡を取れば時間を設定する)
【備考】平成 24 年度開講

日本語教育方法論 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
橋本 智 · 准教授 / 国際センター

【授業目的】「外国語としての日本語」を認識・理解し，その教育方法について考察し，言語学習活動の基礎とする．
【授業概要】日本語教育とは，日本語を教えるということ，何をどう教えるか，日本語教育が係る領域・環境について考察し，自分なりの日本語教育方法を模索する
【キーワード】外国語としての日本語，何を教えるか，どう教えるか
【履修上の注意】隔年開講のため 2011 年には開講されない．
【到達目標】外国語としての日本語を認識・理解する．またその教育方法論を学ぶ．
【授業計画】**1.** 本授業の概要・計画の説明 **2.** 「外国語としての日本語」に必要なもの① **3.** 「外国語としての日本語」に必要なもの② **4.** 「外国語としての日本語」のコンテンツ①シラバス **5.** 「外国語としての日本語」のコンテンツ②シラバス以外のもの **6.** 留学生に聞く **7.** 何を教えるか① **8.** 何を教えるか② **9.** どう教えるか① **10.** どう教えるか② **11.** 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営① **12.** 「外国語としての日本語」教育におけるクラス運営② **13.** 「外国語としての日本語」教育における教材・教具とは **14.** 留学生・地域と「面白い日本語授業」考える **15.** 「面白い日本語授業」のグループ発表 **16.** 総括
【成績評価】グループ発表時の積極性，クラスに臨む姿勢，参加度を重視．またレポート を課す．
【再試験】無
【教科書】適宜コピー教材を配付
【参考書】
◇ 「日本語教育の方法」田中望 大修館書店
◇ 「新しい日本語教育のために」J.V. ネウストプニー サイマル出版
◇ 「新・はじめての日本語教育 1・2」アスク出版
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218924
【連絡先】
⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)
【備考】隔年開講，2011 年には開講されない．

日本語教授法 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
大石 寧子 · 教授 / 国際センター

【授業目的】外国語教育としての日本語教育とは何かを追究する．その中で，日本語を教えるための知識，方法及び技術を修得することを目的とする．
【授業概要】日本語を教えるための方法を関わる者全ての視点から理解する
【キーワード】言語教育，学習ストラテジー，コースデザイン
【履修上の注意】課題解決型の講義のため，出席と授業態度を重視する．
【到達目標】日本語教師を目指す者として，様々な教授法や教育的な関わりを理解する．さらに教育を実施する側の学習者への働きかけについても，実際に日本語を学ぶ人たちを交えて検討する．
【授業計画】**1.** 日本語教育の歴史 **2.** 日本語教育の担うもの **3.** 日本語を学ぶ環境 異文化コミュニケーション **4.** 様々な教授法① **5.** 様々な教授法② **6.** 様々な教授法③ **7.** 様々な教授法④ **8.** 様々な教授法⑤ **9.** 様々な教授法⑥ **10.** 様々な教授法⑦ **11.** 評価の目的 **12.** 評価の方法 **13.** 授業見学① **14.** 授業見学② **15.** 日本語教育とは **16.** 総括授業 まとめ
【成績評価】出席及び毎回の講義内でのタスクさらに最終課題を評価する．
【再試験】無
【教科書】授業初日に指示
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218926
【連絡先】
⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日9:30~ 12:00 但し事前に連絡があれば，他の曜日・時間でも対応します)

日本語教授法 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
橋本 智 · 准教授 / 国際センター

【授業目的】留学生をはじめ外国人と接する時，日本語はコミュニケーション手段の基本となり，その日本語を支えているものは文法である．この文法は国文法とは異なる視点で形成された外国人のための日本語教育の文法である．テキストだけにとどまらず時には留学生もまじえ生きた日本語の仕組みを体感する．
【授業概要】「外国人のための日本語」について文法を軸に仕組みを学ぶ．
【キーワード】外国人のための日本語，コミュニケーションの道具，運用
【到達目標】外国人のための日本語の仕組みを学び，日本語指導やコミュニケーション時の基本とする．
【授業計画】**1.** ①本授業の進め方②各自の外国語習得について③日本語教育とは **2.** ①日本語教育のこれまで②外国人のための日本語 (以下「日本語」とする) の特徴 (1)SOV 型・主語の省略・従属節 **3.** 「日本語」の特徴 (2) 複数・助数詞など **4.** 音声 · リズム **5.** 文法①国文法との違い②品詞③名詞文「~ は ~ です」 **6.** ①動詞とは②その活用③文型とは **7.** その文型の機能とそれ支える各フォーム (1) て形，ない形，た形 **8.** その文型の機能とそれ支える各フォーム (2) 辞書形，可能形，意向形，命令・禁止形 **9.** その文型の機能とそれ支える各フォーム (3) 受身形，使役形，敬語 **10.** ①アスペクト②まとめ-留学生と共に **11.** ①形容詞とは②その活用③形容詞の機能 (1) 印象・感想，描写 **12.** ①形容詞の機能 (2)②~ たい・~ ほしい **13.** ①助詞②接続詞③副詞の役割と機能 **14.** 表記①ひらがな・かたかな・漢字について **15.** 表記②導入-留学生と共に **16.** 総括授業
【成績評価】課題への取り組み方，クラスでの姿勢，レポートなどによって評価する．
【再試験】無
【教科書】授業初日に伝える
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218927
【連絡先】

⇒ 橋本 (088-656-9872, hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp)

日本語教材研究

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
大石 寧子 · 教授 / 国際センター

【授業目的】実際の教室等で学生を対象に日本語教育の実習を行う． 効果的な教授法やクラス運営を体験的に学ぶ．

【授業概要】日本語教育の教材研究を含めた演習

【キーワード】教材，リソース，プロジェクトワーク，異文化理解，評価

【先行科目】『日本語教授法 I』(1.0, ⇒57 頁), 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒57 頁), 『日本語教育方法論 I』(1.0, ⇒57 頁), 『日本語教育方法論 II』(1.0, ⇒57 頁)

【履修上の注意】学生のレベルや人数などの状況により，授業内容や計画が変更される場合があります．

【到達目標】 既にあるいは現在学んでいる理論や教授法などを復習しながら，どのように日本語の授業を組み立てまた運営していくかを検討する．実際に教室で日本語を教える経験を通して，日本語教師に必要な知識や経験を得る．授業の前に練習を行い，授業後にクラスを振り返り，効果的な授業やクラス運営について考える．

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 教案の作成 (1) **3.** 教案の作成 (2) **4.** 教材研究&実習計画 **5.** 日本語教育実習 1 **6.** 日本語教育実習 2 **7.** 日本語教育実習 3 **8.** 日本語教育実習 4 **9.** 日本語教育実習 5 **10.** 日本語教育実習 6 **11.** 日本語教育実習 7 **12.** 日本語教育実習 8 **13.** 日本語教育実習 9 **14.** 日本語教育実習 10 **15.** 日本語教育実習 11 **16.** 振り返りとまとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は，出席 · 授業への取り組み，教案の作成，実習の内容などを総合して行う．

【再試験】無

【教科書】授業中適宜提示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218925

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp)

書道

2 単位 (選択) 2 年 (後期, 集中)
蓑毛 政雄 · / 四国大学，堤 和博 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】書写・書道の基礎的な技法と知識，さらにその指導法を習得する．

【授業概要】 楷書・行書・仮名の毛筆と硬筆における表現技法を学びながら，中国・日本の書道史に関する知識も併せて習得する．また，書写・書道教育の指導法についても，実習を通して理解する．

【キーワード】書写，書道，指導法

【履修上の注意】筆・墨・半紙等は自己負担．下敷き・硯・文鎮は大学のものを使用可．

【到達目標】楷書・行書・かなの基礎的な技法を習得し，併せて関連する知識を身につける．また，それらの指導方法を理解する．

【授業計画】1. 楷書の基本点画．書体の変遷について． **2.** 楷書の結構法．漢字の結構について． **3.** 楷書の書風．唐の四大家について． **4.** 行書の学習 (1)．蘭亭序を書く．行書のリズム． **5.** 行書の学習 (2)．蘭亭序を書く．点画の連続と省略． **6.** 行書の学習 (3)．蘭亭序を書く．点画の連続と省略． **7.** 国語科書写の指導法． **8.** かなの基本．かなの発生と発達． **9.** かなの連綿．かなの名品． **10.** かなの散らし書き．かなの名品． **11.** 硬筆の練習 (楷書)．筆順について． **12.** 硬筆の練習 (行書)．許容される書き方について． **13.** 硬筆の練習 (漢字かな交じり)．縦書きと横書き． **14.** 生活に活きる書 (小筆を使って) **15.** 生活に活きる書 (詩を書く) **16.** 総括 (まとめ)

【成績評価】本授業は講義と実習の併用で行い，毎時の提出物，授業への取り組み・関心・態度などを総合して評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】「明解書写教育」萱原書房，1575 円．(その他必要なプリント類は，授業時に配布する)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218717

【連絡先】

⇒ 蓑毛 .

⇒ 堤 (4-404, tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

芸術文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
片岡 啓一 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で，しかも変化に富んだものである．多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し，世界中にはさまざまな音楽が存在している．この授業では，民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し，そのことを通じて，音楽文化・民族性・音楽の本質等について，一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている．

【授業概要】 民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義．

【キーワード】民族音楽，音楽学，音楽鑑賞，民族性，異文化理解

【履修上の注意】 同授業は講義形式なので受講者は受け身的になりがちであるが，できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい．なお，共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが，その内容は同授業と相当程度重複しているので，「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること．先行科目・関連科目については具体的な科目名は書いていないが，芸術分野・人文科目分野等の科目群はすべて該当すると考えていただいてかまわない．同授業は，国際文化コースの「コース専門選択科目」の単位として履修することもできるし，「総合科学テーマ科目」として履修することも可能である．昨年度に初回の授業をマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施したが，同室で無理なく受講できる人数は 50 名程度であるが，「総合科学テーマ科目」に指定されていることから 90 名程度の受講者となり，加えて旧体制の受講者 (「世界の諸民族の音楽」) が 10 名程度同時受講したので，合計 100 名ちょっとになり，補助用のパイプ椅子を使ってすし詰め状態で開講した．パイプ椅子のみの学生が同じ人にならないようにローテーション配置を考え，極力配慮したが，それでも学生にとっての身体的な負担は大きかった．今年度は別のもっと広い部屋で同授業を行うことを相当真剣に考えたが，授業内容の性格上，他の部屋で行うことはやはり無理なので，昨年度同様「音響スタジオ」にて実施することにした．今回の具体的な対応の方法としては，補助机・補助椅子を使うと，普通の状態で受講できる学生は 50 名程度なので，毎回の授業時間の前半と後半とで，残りのパイプ椅子のみの学生との座席の交代を行うことによって学生の身体的な負担な少なくしようと考えている．そのような事情があることから，同授業を受講希望している学生で，他の「総合科学テーマ科目」を受講することでもかまわないと思う方は，できるだけそういう方法をとっていただけると大変ありがたいと考えている．

【到達目標】世界にはさまざまな音楽文化が存在すること，それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し，音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く．

【授業計画】1. 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために，講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる． **2.** 1 週目 授業の趣旨説明を行い，現代の音楽文化の特徴について言及する． **3.** 2 週目 日本の音楽． **4.** 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽． **5.** 9-13 週目 インド・西アジアの音楽． **6.** 14 週目 アラブの音楽． **7.** 15 週目 総括授業 授業内容全体について，反省・補足・意見交換等を行う． **8.** 授業内容についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが，若干のずれが生じることもあるので，その点はあらかじめご了承願いたい．

【成績評価】 試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．レポートは提出期限を厳守すること．成績評価には，授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される．

【再試験】行わない．

【教科書】この授業では教科書等は使用しない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218553

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】同授業は，平成 23 年度は前期・金曜・5-6 講時にマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」にて実施する．オフィスアワーは前期・木曜日の昼休み．片岡研究室 (マルチメディア A 棟 2 階) のメールアドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．なお，注意のところでも書いたように，授業を行う部屋がそれほど広くないので，別の「総合科学テーマ科目」を選択してもかまわないと思う方は，できればそういう方法をとってくださると大変ありがたい．

音楽学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
片岡 啓一 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】当授業では，音楽学的視点を土台としつつ，音楽学研究の方法論，並びに (主として) 西洋音楽史の古代からバロック期までを講義する．西洋音楽の古い時代は学生にとっても比較的なじみが薄く，音楽文化の一端に新鮮なかたちで触れることによって，現代の音楽文化を考える際のよりどころのひとつが与えられれば幸いである．

【授業概要】音楽学の視点に基づいた西洋音楽史 (古代-バロック) の講義．

【キーワード】音楽学，西洋音楽史，研究方法論，音楽鑑賞，西洋古代からバロックまで

【履修上の注意】 当授業は講義形式なので，受け身的に受講しがちであるが，できるだけ主体的で積極的な姿勢でもって授業に取り組んでほしい．なお，先行科目・関連科目については特定の科目を指定してはいないが，芸術分野・人文科目分野等の科目群はすべてどれでも該当すると考えていただいてさしつかえない．

【到達目標】音楽学的発想になじむと共に，古代からバロック時代のヨーロッパ音楽文化についての造詣を深める．

【授業計画】**1.** 1-3 週目 「音楽学」という言葉に関する説明を行い，音楽史の書物・音楽辞 (事) 典類の紹介をし，音楽史研究の方法論について講義する． **2.** 4-6 週目 古代から現代に至る西洋音楽史を概観する． **3.** 7-8 週目 古代の音楽． **4.** 9-10 週目 中世の音楽． **5.** 11-12 週目 ルネッサンス音楽． **6.** 13-14 週目 バロック音楽． **7.** 15 週目 総括授業．これまで行ってきた授業を全体的に振り返り，その内容について意見交換等を行う．

【成績評価】試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．レポートは提出期限を厳守すること．成績評価には，授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書として，皆川達夫著「合唱音楽の歴史-改訂版-」(全音楽譜出版社) を用いる．同教科書は授業の際に教員サイドが貸与し，授業終了時に返還してもらう方法をとる．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218464

【連絡先】
⇒ 片岡 (201，088-656-7161，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】同授業は，後期・木曜・1-2 講時に実施する．オフィスアワーは後期・木曜日の昼休み．研究室のメール・アドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．

デスクトップミュージック

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
宮澤 一人 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】現代では音楽の製作にシンセサイザーやコンピュータは不可欠な物になっている．これらの機材を使いこなすことが一部の人にだけ許された時代はすでに終わり，今日では非常に身近な存在になっている．しかし，これらの機材の能力を充分に生かすためには，身につけなくてはならない新しい知識も多く，さらに多種多様な音楽への理解も大切である． この講義ではデスク・トップ・ミュージックに必要な知識を学び，実践に役立てることができるようにすることを目指す．

【授業概要】コンピュータとシンセサイザーを組み合わせた音楽制作の方法について学ぶ．

【キーワード】**シンセサイザー，*MIDI*，コンピュータと音楽**

【先行科目】『現代音楽芸術論』(1.0，⇒59 頁)

【履修上の注意】現代の多種多様な音楽に，先入観を持たずに接することができることが大切である．

【到達目標】各種シンセサイザーの構造と音作りの方式を理解し，それらの音色を的確に使いこなすことができる．また，音楽制作のためのテクノロジーを充分に理解する

【授業計画】**1.** シンセサイザーとコンピュータの原理，正しい使用方法 **2.** アナログ · シンセサイザー **3.** デジタルシンセサイザー **4.** GM 音源及び各メーカーの拡張規格 **5.** それぞれの音色の特徴とその生かし方 **6.** ドラムの入力 **7.** ベースの入力 **8.** 鍵盤楽器の入力 **9.** ストリングスとホーンセクションの入力 **10.** 様々なリズムパターンの分析 **11.** 映像に音楽が加わることで何が変わるか．音楽の効用 **12.** MIDI 信号 (ノートオンとノートオフ) **13.** MIDI 信号 (音色の選択とピッチベンド) **14.** MIDI 信号 (コントロールチェンジ) **15.** 総括授業 (コンピュータによる音楽の最前線) **16.** 期末レポート提出

【成績評価】期末レポート

【再試験】行わない

【教科書】使用しない．講義の時に資料を配布することがある

【参考書】授業の際に紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218875

【連絡先】
⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204，088-656-7163，miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は，特別な場合を除いて対応可能))

【備考】◇ 後期，金曜日 5-6 講時 ◇ マルチメディアコースの「デスク・トップ・ミュージック」と同時開講

現代音楽芸術論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
宮澤 一人 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】20 世紀の芸術音楽についてはいわゆる「現代音楽」という言葉でくくられて，日常的にふれる機会が非常に少ないのが現状である．この講義では 19 世紀末から 20 世紀の芸術音楽の歴史をなぞることにより，現代という時代に表現活動を行う人間にとって必要不可欠な「現代芸術の理解」を深めることを目的とする．なおポピュラー音楽 (ジャズやロック等) は取り上げない．

【授業概要】20 世紀の芸術音楽について，それぞれの重要な作曲家の特徴を学び，作品を鑑賞する．

【キーワード】**機能和声の崩壊，様々な作曲技法，芸術と娯楽の対立**

【履修上の注意】楽譜が読める必要は必ずしもないが，きちんと読める方が学習効果が上がるのは当然である．それ以上に「好奇心旺盛」であることを望む．

【到達目標】20 世紀の芸術音楽の流れを音楽史全体の流れの中で位置づけられる．また，その美しさを体得できる．

【授業計画】**1.** 20 世紀芸術音楽の流れ **2.** ドビュッシー (印象主義?) **3.** ストラヴィンスキー (3 大バレエとその周辺) **4.** ドイツの後期ロマン派 (煮詰まる音楽) **5.** 表現主義と新ウィーン楽派 (無調の始まり) **6.** ストラヴィンスキーの新古典主義 (昔帰り?) **7.** 12 音技法 (無調の組織化へ向かって) **8.** バルトーク (民族音楽の組織化) **9.** ヒンデミットと実用音楽，および社会主義リアリズム **10.** 音素材の拡大とさまざまな試み **11.** 第二次世界大戦以後の音楽 (1950 年代と総音列技法) **12.** 60 年代の前衛 **13.** 70 年代以降の前衛 **14.** 20 世紀音楽の非主流派? **15.** 総括授業 (20 世紀音楽の総括) **16.** 期末レポートの提出

【成績評価】レポートを使用する．課題は授業中に指示する．

【再試験】行わない．

【教科書】毎回プリントを配付する． その他参考書籍や CD については講義の際に紹介する．

【参考書】講義中に紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218585

【連絡先】
⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204，088-656-7163，miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は，特別な場合を除いて対応可能))

【備考】◇ 前期，木曜日 1~ 2 講時．音楽を静かに鑑賞できること． ◇ マルチメディアコースの「現代音楽芸術論」と同時開講

日本経済論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】日本経済の実像に正しく迫るには，その構造が形成された経過に即して捉える方法が有効である．また将来のあるべき姿を描く上でも，獲得された地点と埋められるべき課題を歴史的に解明する方法が通常採用されている．このように日本経済を歴史的に分析する作業は，優れて現代的関心に基づいている．歴史的転換点に位置する日本経済の針路を探る素材を提供する．

【授業概要】戦後日本経済の推移を画期ごとに考察し，その構造と特質を明らかにする．

【キーワード】**日本経済，歴史，経済成長**

【履修上の注意】専用ファイルを準備し，レジュメ · ノート · 関連資料などをまとめて私的なテキストを作成すること．

【到達目標】今日の日本経済の構造的特質を理解し，改革課題を理解する．

【授業計画】**1.** 戦後日本資本主義の諸段階 **2.** 占領体制と「戦後民主化」 **3.** 冷戦構造と日本の選択 **4.** 講和と日本経済の再編成 **5.** 「55 年体制」と経済成長 **6.** 高度経済成長のシステム **7.** 産業と階級構成の変動 **8.** 国民生活様式の変貌 **9.** 成長方式の破綻と構造不況 **10.** 構造不況と財政危機 **11.** 世界資本主義の動揺と調整 **12.** 国際協調と構造転換政策 **13.** 日本経済のグローバル化 **14.** 戦後日本経済の構造と段階 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本資本主義の戦前と戦後

【成績評価】中間リポートと期末筆記試験で単位を認定する．出席状況による成績の補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】教科書は用いず，レジュメに即して進行する．参考書等を適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220373

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域経済論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域経済に対する関心が高まっている．都市の過密問題や地方圏の過疎問題が深まっており，実践的解決が求められているためである．地域経済学 (論) はそのような要請に対応して形成された比較的新しい学問領域である．この講義は地域社会の土台をなす地域経済の構成と動態を検討するとともに，地域問題解決のための理論と手法を獲得することを課題とする．

【授業概要】地域問題・地域経済構造分析・地域政策の 3 領域で地域経済論は校正される．その基本骨格を理解した上で，四国や徳島の例を用いながら，実証的な考察を行う．

【キーワード】**地域問題，地域経済，地域政策**

【到達目標】1) 地域経済学の基礎概念を理解し活用できる．2) 実証的に地域経済を分析できる．

【授業計画】**1.** 地域問題と地域経済 地域経済論 (学) の課題と構成 講義計画 **2.** 地域経済と国民経済 「地域」経済の概念 地域経済論の系譜 **3.** 地域政策の理念と体系 欧米諸国の地域政策の展開過程の検討 **4.** 地域政策と地方自治 政策主体 (行政 · 議会 · 住民団体) の役割 **5.** 地

方自治の歴史と現状 日本の地方自治制度の展開過程と現位置 **6.** 地域政策の展開過程 (1) 日本経済の成長様式と地域政策の関係 **7.** 地域政策の展開過程 (2) 高度成長期の地域政策の理念と展開内容 **8.** 地域経済分析の方法 (1) 人口構造の動態とその分析手法の紹介 **9.** 地域経済分析の方法 (2) 産業構造の動態とその分析手法の紹介 **10.** 地域経済分析の方法 (3) 地域経済及び地域政策の担い手の状態 **11.** 県内地域経済の動向 (1) 過疎地域における産業と社会の状況と課題 **12.** 県内地域経済の動向 (2) 地方中核都市周辺部における動向と課題 **13.** 転換期の住民自治 (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の住民自治 (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域経済論の学び方 地域経済論の近年の動向と研究課題

【成績評価】講義中の exercise および最終リポートの結果により判定する．

【再試験】再試は行わない

【教科書】各回の講義はレジュメ参考資料を用いて運営．全体の参考書は下記の通り．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年，1,200+税．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218777

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域文化論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】文化人類学の中心的なテーマについて講義する．世界の諸民族の事例を通して，人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し，異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である．グローバリゼーションの中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい．

【授業概要】文化人類学の基本問題

【キーワード】文化，現代社会，グローバリゼーション

【関連科目】『地域文化論 II』(0.5, ⇒60 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．フィールドワークを「疑似体験」しながら，文化現象の意味について考えてもらいたい． なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し，異文化 (自文化) の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる．

【授業計画】1. 文化人類学のパースペクティヴ **2.** 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ **3.** 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 **4.** 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 **5.** 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ **6.** 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム **7.** ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ **8.** 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって **9.** メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 **10.** グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム **11.** 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 **12.** ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より **13.** 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ **14.** 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか **15.** 「転換期」の時代の文化人類学 **16.** まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】

- 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる．個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
- 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂，2005 年
- 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店，2003 年
- 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣，2008 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218849

【連絡先】

⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~ 13時)

【備考】本年度開講 (隔年開講)

地域文化論 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】日本民俗学の主な研究目的は，各地に見られる民俗 (一般の人々が日常生活の中で育み，伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式) の持つ意味を明らかにし，さらにそれらの比較検討を通して，日本の基層文化を究明することにある．このような過去遡及的=歴史学的側面を持つ一方で，日本民俗学は，民俗の変化とその要因の解明，あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している．本授業では，こうした日本民俗学の基本概念について概説する．

【授業概要】日本民俗学の基本問題

【キーワード】民俗，日本文化

【関連科目】『地域文化論 I』(0.5, ⇒60 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】日本民俗学の基本的な概念を理解し，過去の，あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる．

【授業計画】1. 民俗学の考え方 (民俗学の研究対象・目的・方法) **2.** 社会の民俗 (イエとムラの民俗) **3.** 環境の民俗 (景観・地形と民俗) **4.** 生業の民俗 (海・山・里の生業と民俗) **5.** 時間の民俗 (年中行事と民俗) **6.** 生と死の民俗 (出産・葬儀の民俗) **7.** 神と霊魂の民俗 (祖先祭祀，他界観と民俗) **8.** 境界と怪異の民俗 (異人=鬼・河童・天狗・狸の民俗) **9.** 性と民俗 (女性の民俗，男性の民俗) **10.** 語りの民俗 (昔話・伝説・世間話の民俗) **11.** 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗)(1) **12.** 都市の民俗 (生成・変容する都市民俗)(2) **13.** 観光と民俗 (民俗の「発見」と「活用」) **14.** 比較民俗学への道 (環東シナ海文化圏の民俗) **15.** 民俗研究の課題と展望 (現代社会と民俗，民俗学の現代的意義) **16.** まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】

- 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが，個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
- 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館，1996 年
- 松崎憲三他編『民俗学の冒険』1~ 4，ちくま新書，1999 年
- 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~ 10 巻，雄山閣，1998-2000 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218850

【連絡先】

⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~ 13時)

【備考】本年度開講せず (隔年開講．次回は平成 24 年度開講予定)

社会変動論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが，社会変動論の特徴である．本講義では，そのうち現代社会の特質を把握するためのさまざまな議論を，個別領域毎に解説していきたい．今年度は，今後わたしたちが生きていく 21 世紀の特質を，過去との比較という観点からみていきたい．受講者には，自分たちが現在生活している現代社会を自分なりに理解する機会としてほしい．理解を助けるための映画を 1 回鑑賞するほか，受講生が過度に多くなければグループ・ディスカッションもしてもらう．

【授業概要】21 世紀はどういう社会なのか

【履修上の注意】この講義では，社会学の基本的な概念の解説も盛り込んでおり，社会学入門的な性格も持たせてある．ただし，知識そのものを覚えてもらうことは重視しない．社会学的な思考法を学んでもらうこと，現代社会の課題や問題を自分のこととしてとらえ，自分なりの意見を持ってもらうことを重視する．そのため，毎回課題について簡単なコメントを書いてもらい，評価に加える．

【到達目標】自分で選択したテーマについて，文献を読んでデータを集め，レポートを書けるようにする (詳細は後述)．

【授業計画】1. 1. イントロダクション **2.** 2. 情報化とネットワーク社会の誕生 **3.** (1) 情報社会と都市の盛衰 **4.** (2) 情報技術と社会関係の変容 **5.** 3. 個人化する社会 **6.** (1) 個人化する家族——社会の個人化とは何か **7.** (2) 新宗教と社会変動 **8.** 4. 身体をめぐる政治 **9.** (1) 身体は誰のものか?——中絶をめぐる政治 **10.** (2) 生殖技術と身体への介入 **11.** (3) 生殖技術に関わる映画鑑賞 **12.** (4) 生殖技術をめぐるグループ・ディスカッション **13.** 5. リスク社会としての現代 **14.** (1) リスク社会の誕生 **15.** (2) リスクの何が問題なのか **16.** 6. 福祉国家と労働市場の再編 **17.** (1) 誰が福祉を担うのか? **18.** (2) 正社員からフリーターへ?

【成績評価】成績評価はレポートと出席点による．6 月に提出してもらうレポートの原案にコメントをつけて返却する．受講者は，それをもとにレポートを完成させて 8 月に提出する．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートの計画書が 10 点，レポートが 50 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．

【再試験】レポート計画書を提出している者に対して認める

【教科書】特定の教科書は使わない．毎回レジュメを配布する．関連する文献リストを初回に配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．

【参考書】
- ◇ 参考書 落合恵美子『21 世紀家族へ』有斐閣
- ◇ 参考書 ウルリヒ・ベック『危険社会』法政大学出版局
- ◇ 参考書 長谷川公一他『社会学』有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218703

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

【備考】平成 24 年度開講

社会心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 健二・教授 / 人間文化学科

【授業目的】近年，社会心理学に対する期待は，著しく増大している．なぜなら，社会心理学は，人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて，近年生じている，さまざまな社会的行動の諸問題の解決に資する可能性を持っているからである．そこで，本講義では，人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする．

【授業概要】人間の社会的行動の理解

【キーワード】社会的行動，自己，対人行動，集団行動，集合行動

【履修上の注意】OHP，パワーポイント，紙資料，ビデオテープなどを使用する．私語厳禁．

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果，概念，方法論，近年の展開について理解すること

【授業計画】1. イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 **2.** 社会的影響 (同調，服従，役割) **3.** 攻撃．暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? **4.** 援助．なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? **5.** 集団行動 (リーダーシップ研究．「プロジェクト X」視聴) **6.** 集合行動 (流言，うわさ，群衆行動) **7.** 言語・非言語的コミュニケーション (視線行動，パーソナル・スペースなど) **8.** 抑うつの社会心理学．認知の歪み，自己注目，相互作用モデルとの関連 **9.** 自己呈示と対人不安 **10.** 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- **11.** 対人魅力．近接性と好意，身体的魅力，類似性と好意，返報性 **12.** 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 **13.** 社会的認知 (原因帰属など) **14.** 自己意識，自己評価研究とその臨床領域への応用 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】三分の二以上の出席した者に対して，期末試験結果による評価を行う．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】安藤清志他 1995 現代心理学入門 4 社会心理学 岩波書店，坂本真士・佐藤健二 2004 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218697

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05，088-656-7202，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:10~ 13:00，総合科学部3号館3S05室，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本経済と社会

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信・教授 / 社会創生学科

【授業目的】変動過程にある日本型経済システムの骨格を理解し，転換の課題を確認する．

【授業概要】かつて「経済大国」に駆け上がった日本経済は凋落過程にある．また，格差社会・無縁社会・限界集落など，多くの社会問題が一斉に激化している．その転換をいかに図るか，歴史経過を踏まえて考察する．

【キーワード】日本経済，社会システム，維持可能な社会

【到達目標】
1. 高度成長期に形成された日本経済の構造的な特質を理解できる．
2. 経済システムの転換をめぐる理念と政策の対抗関係を理解できる．

【授業計画】1. 日本経済のたそがれ 日本経済閉塞の指標 講義計画 **2.** 高度経済成長の時代 国民経済の急膨張と日本型システムの形成 **3.** 成長至上主義の社会 経済成長を可能にする条件 大衆消費時代 **4.** 高度成長方式の破綻 「東洋の軌跡」の終焉 破綻の内外要因 **5.** 「国際分業論」の欠陥 効率性を優先する加工貿易型の歪んだ経済構造 **6.** 大量生産・大量消費 経済成長と資源・環境問題 「公害列島」日本 **7.** 土建国家日本の構図 生産基盤整備を図る大型公共事業と推進体制 **8.** 経済大国と生活小国 資本効率の追求と福祉の低迷 低位な労働環境 **9.** 財政破綻と小さな政府 「日本株式会社」を牽引した政府財政の破綻 **10.** グローバル化の投影 先進国の積極的多国籍化と世界経済システム **11.** 新自由主義への傾斜 「政府の失敗」 市場原理主義への誘導 **12.** 新たな社会問題の噴出 各種格差の発現 「この国のかたち」への批判 **13.** 市場の失敗と各種 NPO 公共領域の劣化と社会的経済への期待 **14.** 維持可能な社会の展望 成長至上主義を克服する経済構造への転換 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本型システムの分解と Sustainable Society への道

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末筆記試験による．出席状況で補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220356

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

運動文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 久子・教授 / 人間文化学科

【授業目的】文明が発達した現在では身体運動，スポーツ，ダンス等は健康のための手段として重要視されている．しかし，これらは健康のための手段として生まれてきたのではない．それぞれの運動やスポーツ，ダンスは各国，各地域の固有の文化として捉えることが出来る．本講義では，これらの内容及び歴史的な意味について概説し，現代社会における運動やスポーツ，ダンスを歴史社会学や文化人類学の観点から検討し，寄り深い認識を得ることを目的とする．

【授業概要】生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついておく過程を歴史社会学の観点から分析し，現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する．

【キーワード】スポーツ，ダンス，生産形態，リズム

【到達目標】生産形態とリズムが関わりをもつことを知り，ダンスやスポーツに与えてきた影響を知ることを到達目標とする．

【授業計画】1. 運動と文化-スポーツ，ダンスの発生 **2.** 遊びと余暇 **3.** 生産形態とリズム (5 つのリズム感) **4.** 山村畑作民のリズムとスポーツ・ダンス **5.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス 日本 **6.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス アジア **7.** 海洋漁撈民のリズムとスポーツ・ダンス **8.** 狩猟民のリズムとスポーツ・ダンス **9.** 牧畜民のリズムとスポーツ・ダンス **10.** 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 **11.** スポーツの遊技性と競争性 **12.** 近代スポーツの成立 **13.** 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ **14.** 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ **15.** まとめ

【成績評価】レポート 50%，授業時に行う小レポート 50%

【教科書】特に使用しない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218366

【連絡先】
⇒ 中村 (3120，088-656-7209，nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康行動論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
荒木 秀夫・教授 / 人間文化学科，小原 繁・教授 / 人間文化学科
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科，佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科
三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】授業で習得した知識や態度が，自己の生活や社会活動に生かされ，健康で豊かな，そして安全な生活が営まれることを目標とする．授業は健康運動，生活行動，安全管理をテーマに進める．

【授業概要】健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし，健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う．具体的には，健康障害や事故の予防，それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する．

【キーワード】健康問題，生活行動，運動・スポーツ活動

【先行科目】『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0，⇒22 頁)，『健康体力科学の基礎』(1.0，⇒23 頁)

【関連科目】『地域健康福祉論』(0.5，⇒62 頁)，『健康教育学』(0.5，⇒69 頁)，『健康心理学』(0.5，⇒81 頁)

【到達目標】
1. 地域社会の生活環境の創造への貢献
2. 人間科学に関わる幅広い知識の理解

【授業計画】**1.** 健康とは **2.** 健康と運動 **3.** 健康運動の方法 **4.** スポーツと健康 **5.** 薬物と健康 (服薬者の運動実施と注意点) **6.** 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 **7.** 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 **8.** 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 **9.** 発育発達期の身体的特徴，心理的特徴 **10.** 発育発達期に多いケガや病気 **11.** 運動中に多い病気とその予防 **12.** 運動中に多いケガとその予防 **13.** 現代の健康 **14.** 環境と健康 **15.** これからの健康 **16.** 総括

【成績評価】レポート，小テスト，授業の取り組み方などで総合的に評価する．

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220344

【連絡先】
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域健康福祉論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 俊夫 · 教授 (併任) / 大学開放実践センター

【授業概要】少子高齢化が進む日本社会にあって，医療費の増加に歯止めをかけ，高齢者の QOL を維持していくことは極めて重要・至難な社会的課題である．この健康福祉に関して，国の施策方針から地域現場における具体的な実践例まで，さまざまなレベルにおける取組を学習し，その成果と課題について考察する．さらに，今後の健康福祉政策のあるべき姿について考えていく．

【キーワード】**健康福祉，メタボリックシンドローム，介護予防，運動指針**

【授業計画】**1.** 地域健康福祉概論 **2.** アメリカと日本における健康福祉政策 **3.** 健康福祉を担う指導者 **4.** メタボリックシンドロームと健康福祉政策 **5.** 運動基準・運動指針 **6.** 介護予防・高齢者医療と健康福祉政策 **7.** 県レベルにおける健康福祉への取り組み **8.** 市町村レベルにおける健康福祉への取り組み **9.** 民間企業 · 団体における健康福祉への取り組み **10.** 具体的な実践事例 1(生活習慣病と運動疫学) **11.** 具体的な実践事例 2(健康づくり運動とカウンセリング支援) **12.** 現場の声を聞く 1(メンタルヘルスと運動の効果) **13.** 現場の声を聞く 2(ストレスアセスメントと運動指導) **14.** 地域健康福祉の未来像を探る **15.** まとめ

【成績評価】出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%)

【再試験】しない

【教科書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220354

【連絡先】
⇒ 田中 (088-656-7280, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

グローバル社会論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樋口 直人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】現代を生きる者は，どこに住もうがグローバル化の影響を免れることはできない．では，それはどのような影響であり，具体的には何が生じるのか．この授業の最大の目的はこうした問いに答えることにある．さらに，グローバル化は国民からなる国家体制を大きく変えつつある．では，国家はなぜどのように変化を迫られているのか．こうした問いに対して，大きくは身近な生活のグローバル化，環境のグローバル化，人の国際移動からみたグローバル化に焦点を当てて議論していく．

【授業概要】グローバル化する社会が抱える問題について，社会学の概念を用いてアプローチする．特に徳島のような地域では，グローバル化といってもイメージがわきにくいので，画像や映像資料の解説をできる限り取り入れて理解を助けるようにしたい．

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** グローバル化とは何か:メキシコからみた風景 **3.** 大量生産の時代としての現代 **4.** 大量生産と成長の限界 **5.** 食卓の裏側:『ダーウィンの悪夢』とグローバル化する食卓 **6.** グローバルとローカル:『モンド・ヴィーノ』と食をめぐる 2 つの道 **7.** 私たちは誰とつながっているのか:市場経済，環境，フェアトレード **8.** 新国際分業と世界都市の形成 **9.** メディアとグローバル化 **10.** 南北国境の 3000 キロ:メキシコとアメリカの移民問題 **11.** メキシコ化するアメリカ:『ブレッド&ローズ』と移住労働者 **12.** グローバル化する移民:(1) 南米の日本 **13.** グローバル化する移民:(2) 日本の南米 **14.** グローバル化する移民:(3) 日本の南米人と経済危機 **15.** グローバル化する移民:(4) 日本の少子高齢化と移民受けいれ

【成績評価】成績評価はレポートと授業中の課題による．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートが 60 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．

【再試験】無

【教科書】教科書は用いないが，関連する文献リストを初回に配布する．また，教科書の代わりに毎回レジュメを配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．

【参考書】参考書 コーエン&ケネディ『グローバル・ソシオロジー』1・2 巻平凡社，2003 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220341

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

地域創生論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】持続可能な地域づくりの基礎理論を提示する．

【授業概要】の講義は「地域科学」への入門にあたる．地域社会の構成と動態に関する基礎的な知見を獲得するとともに，総合的な地域問題を解決して持続可能な地域をつくるための理論と手法を学ぶ．

【キーワード】**地域づくり，地域問題，地域政策**

【到達目標】
1. 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる．
2. 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる．

【授業計画】**1.** 地域問題と地域づくり 地域問題の諸形態 講義計画 **2.** 地域問題の総合的性格 地域問題の相互関連 地域科学の課題と構成 **3.** 地域問題と地域経済 地域問題の主要な発生源としての地域経済 **4.** 地域経済の構成と変動 混合経済としての地域経済 公共領域の役割 **5.** 新自由主義政策と地域 成長至上主義型の破綻 新自由主義政策の発動と住民生活 **6.** グローバル化と地域 世界システムの再編にともなう地域社会の変動 **7.** システム転換の基軸 政治 · 経済システムの進路をめぐる対抗関係の位相 **8.** もう一つの世界は可能 システム転換の新たな主導力 (途上国 ·NGO· 社会的経済) **9.** 分権時代の地域政策 地方自治の仕組みと政策主体 (行政 · 議会 · 住民組織) の役割 **10.** 地域政策の理念と体系 地域政策の理念と体系に関する欧州と日本の比較 **11.** 政策過程への住民参加 公共領域を再編する政策 政策の計画 · 執行過程と住民 **12.** 徳島県の住民参加状況 公共事業の動向に働きかける徳島県の住民運動の経過 **13.** 転換期の地域づくり (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の地域づくり (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域創生論の学び方 地域科学の近年の動向と研究課題

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末に提出を求めるリポートの結果によって単位を認定する．

【再試験】再試は行わない．

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『集落再生と日本の未来』自治体研究社，2010 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220355

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域の開発，特に地域経済，地域環境や地域システムに新しい方向性を出すに必要な知識や考え方を提供するものである．地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策の重要性や意義を理解させる．

【授業概要】国際化のなかで，地域経済や地域システムを把握し考察して行くことの意味と重要性を明らかにする．それを理解した上で，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察させる．

【キーワード】**地域経済，地域環境，地域システム，地域開発，地域づくり**

【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムへの理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて理解し考察できる能力を培う．

【授業計画】**1.** ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う再編成 **3.** 地域経済の再編成 **4.** 地域システムの再編成 **5.** 環境問題の変容と新たな状況 **6.** 環境問題と循環社会をめぐる課題 **7.** 環境と地域経済をめぐる状況 **8.** 新たな社会とそれへの対応 **9.** 環境問題への新たな対応 **10.** 地方自治体と企業の環境問題への取り組み **11.** 地域開発をめぐる問題 **12.** 地域の再生とまちづくり **13.** 環境の再生と地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ 1 **16.** まとめ 2

【成績評価】 講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40 %)，もしくはレポートにより評価する．

【再試験】なし

【教科書】北村修二『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218814

【連絡先】
⇒ 北村 .

【備考】隔年開講のため，平成 23 年度 (地域政策論 II を開講) は開講されない．国際社会での地域的諸問題や環境問題に関心があり，それらの課題を勉強する意志がありそれを実行できる人は参加できる．オフィスアワー 随時．研究室

共生社会論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樫田 美雄 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】社会学の立場から社会福祉論・共生社会論を論じる．現代社会は福祉社会である．しかし，「社会リアリティ」の変化にともない，「連帯」の在り方が変わってきている．幅広い市民的連帯がリアリティを失い，「選ばれた人間」の中での「連帯」が「公正」であるように思われてきている．その感覚のもとで許される「個人のニーズ」だけが，「社会のニーズ」に転換を許容されるようになってきている．また，「生産主義社会」から「消費社会」に変化する中で，「労働倫理」の意義は低下し，クリエイティブな労働者になれない場合は，「立派な消費者」になることが次の目標となってきている．かつて，労働に不適であることが福祉の対象者の条件であったが，いまや，消費者としては障害者も平等に扱われるようになり，最終排除対象者は，意志をもたぬもの，意志を適切に表示できないものになってきている．この流れの先に，共生社会がある．共生社会の光と影を共に見つめていきたい．同時に，社会福祉の現代社会的基盤を理解しよう．

【授業概要】社会学の立場から考える社会福祉論と共生社会論．社会のニーズと個人のニーズ．資本主義を支えるものとしての福祉社会．消費社会への変化の意味．労働のフレキシビリティの増大の意味．近代的労働倫理 (勤勉さ，従順さ・・) を守意味の変化．グローバライゼーション．産業の機械化．代替不能性の高い労働と低い労働．これらのことを道具に，現代社会的側面から福祉社会を考える．

【キーワード】福祉社会学，社会政策，援助，共生，セルフヘルプグループ，インタビュー論，社会福祉と現代社会

【先行科目】『市民活動論』(1.0, ⇒75 頁)

【履修上の注意】教科書は生協に取り寄せる予定 (定価:1700 円)．古本でもよいが，必ず入手すること．また，参考書の一部は効果だが読み甲斐がある．出欠確認は毎回行う．とりわけ，初回のオリエンテーションは重要なので，けっせきしないようにせよ．欠席者には理由を等．なお，全学共通教育では，「ボランティア論 (木曜 5・6 限，前期) が，関連科目である．なお，受講学生人数にもよるが，複数会の小論文執筆が課せられることを覚悟して欲しい．大学での学習成果は，書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ．だいたいのことを書いて満足するのではなく，質のものを志して書いてほしい．また，ダイソー等での買い物などの宿題も課せられる．人数がすくなければ，裁判所見学 (以下に福祉の対象者と被告の層が重なっているかの実地確認作業) も行う．日本の現状 (消費社会化，低所得労働者のアンダークラス化＝ジグムント・バウマン＝) を身をもって看取してもらう必要があるからだ．

【到達目標】
1. 現代社会を学ぶことと，社会福祉を学ぶことがどのように繋がっているのか講義する．
2. より具体的には，(1) 現代社会の構造と自分の人生選択の困難さを結びつけて理解する．
3. (2) 現代の困難さに，一定の合理性があることを理解したうえで，アルターナティブな未来を構想できるようになる
4. アルターナティブな未来 (例:労働と切り離された収入) がはらむ問題に気づくことができる．

【授業計画】**1.** 樫田によるイントロダクション．現代社会論として福祉と共生をとらえる． **2.** 消費社会とグローバリゼーション．労働はどう変わってきているのか． **3.** ウエルビーイングタウン:社会福祉って何だろう． **4.** 社会的ニーズと個人的ニーズの問題．対立?．個人的ニーズの社会的構成?． **5.** 障害者福祉のしくみ **6.** 高齢者福祉のしくみ **7.** 児童福祉のしくみ **8.** 虐待について (児童虐待と高齢者虐待)．虐待とエスノセントリズム． **9.** 新しい貧困について．ニュープアとアンダークラス (ジグムント・バウマンの主張) **10.** 犯罪と疾病と社会福祉．裁判所見学 (人数的に可能な場合)． **11.** 在宅医療の問題を考えよう **12.** セルフヘルプ・グループ論．ヨブ記から考える． **13.** 準備レポート草稿の班別検討会．考え抜く態度の錬成 (1) **14.** 準備レポート講評．総合科学と現代社会．『フーコーの穴』を題材に． **15.** 最終レポート草稿の班別検討会)．考え抜く態度の錬成 (2) **16.** 最終レポート講評．総合科学と社会福祉．『< 生 > の社会学』を題材に．

【成績評価】平常点 (出席を含む)+レポート (20%，80%の比率) ※準備レポートはコメントを付けて返却し，点数上は最終レポート (第 2 回目のレポート) のみ加点対象とする見込み．

【再試験】行わない

【教科書】岩田正美ほか著 1999『ウエルビーイングタウン 社会福祉入門』有斐閣

【参考書】
- ジグムント・バウマン著 1998 ＝ 2008『新しい貧困-労働，消費主義，ニュープア』青土社．
- 藤村正之著 2008『< 生 > の社会学』東京大学出版会
- 井上俊・長谷 正人編 2010『文化社会学入門』ミネルヴァ書房
- 『福祉社会事典』弘文堂
- 斉藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房．
- 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- 石川准・倉本智明編，2002，『障害学の主張』，明石書店．
- メイナード著，樫田・岡田訳 2004『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房．
- 杉野昭博『障害学 理論形成と射程』東京大学出版会．
- 重田園江『フーコーの穴 統計学と統治の現在』木鐸社．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220343

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

メディア情報論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
河原崎 貴光 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する

【授業概要】主にメディアに流通する複製芸術を中心として図版，映像資料等を紹介解説していく． 授業中に小レポートを課すこともある．

【キーワード】メディア，アート，映像，写真

【到達目標】メディア芸術の理解

【授業計画】**1.** 写真-カメラオブスキュラ **2.** 写真-決定的瞬間 **3.** 写真-ニューカラー **4.** 映像と身体 **5.** 映像と記憶 **6.** 実験映像 **7.** 実験的アニメーション **8.** 映画-初期 **9.** 映画-ハリウッドシステム **10.** 映画-物語以後 **11.** プロモーションビデオ **12.** アニメ **13.** インタラクション **14.** ゲーム-インターフェイス **15.** ゲーム-物語-ライトノベル **16.** ネットワーク,AR, ミクスドリアリティ

【成績評価】出席，小レポート

【再試験】実施せず

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219016

【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報社会と情報倫理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化社会，知的所有権とプライバシー，情報危機管理

【授業概要】この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する．受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し，収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり，情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める．

【キーワード】情報リテラシー

【到達目標】現代社会における人，企業，物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める．

【授業計画】**1.** 1．情報化社会の到来 1.1 「情報」とは何か，1.2 コンピュータが動作する仕組み **2.** 1.3 ネットワークによる通信の仕組み，1.4 [情報の価値] と [情報量]，[情報伝達] **3.** 1.5 情報化社会の到来，1.6 社会の情報化の進展と，文化 · 人間性の変化，レポート 1 **4.** 2．知的所有権と プライバシー 2.1 著作権 **5.** 2.2 そのほかの知的所有権，2.3 プライバシー，レポート 2 **6.** 3．情報倫理 3.1 情報倫理はどうして「倫理」なのか，3.2 情報化社会における原則 **7.** 3.3 情報倫理に必要な知識，3.4 情報ネットワークを利用するときの判断のあり方，レポート 3 **8.** 4．情報危機管理 4.1 情報危機管理がなぜ必要か，4.2 現実のシステム運用上の事件と，その原因と対策 **9.** 4.3 運用ポリシーと利用者の価値観 **10.** 4.4 運用規約と管理組織，レポート 4 **11.** 4.5 不正アクセスとセキュリティ **12.** 5．ケーススタディ **13.** 5.1 発表と評価 1 **14.** 5.2 発表と評価 2 **15.** 5.3 発表と評価 3 **16.** まとめ

【成績評価】レポートとケーススタディの研究発表で総合的に評価する．

【教科書】教科書:辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220349

【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897，yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 24時間(yos@ias.tokushima-u.ac.jp))

情報と職業
Information and Profession

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 情報化が産業，社会へどのように影響しているかを理解する

【授業概要】 情報システム，情報化のビジネスへの影響，情報技術の企業での利用状況，電子商取引，インターネットビジネス，情報産業，情報技術の人材育成，情報化の雇用と職業への影響などについて，受講生に主体的に調査，探求をしてもらい発表，議論をすることで理解を深める． 情報システムの発展という観点から，計算機の発展の歴史について解説する．

【キーワード】 情報社会，ネット時代の職業，働く環境，*ICT* リテラシー，地域情報化

【到達目標】 情報社会におけるビジネス，職業に関する基礎知識を学び，職業観，就労・労働の意識の形成，キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー，ICT 利活用力を身につける．

【授業計画】 **1.** 情報システムの概略 **2.** 情報システムの歴史 **3.** 情報システムの未来 **4.** 情報技術と社会システム **5.** 情報化のビジネスへの影響 **6.** ネット社会と企業経営 **7.** 地域情報化の事例研究 1 徳島:彩り事業 **8.** 地域情報化の事例研究 2 島根:Ruby City MATSUE プロジェクト **9.** 電子商取引とインターネットビジネス **10.** グループ発表 1 情報社会におけるビジネスのあり方について **11.** 情報化の雇用への影響 **12.** 情報化の職業への影響 **13.** 情報社会と組織変革 **14.** 情報社会における働き方 **15.** グループ発表 2 情報社会における職業観について

【成績評価】 授業貢献及び試験

【再試験】 実施せず

【教科書】 授業中に適宜指示

【参考書】
- ◇ 神沼靖子 (編著)「情報システム基礎」オーム社 2006
- ◇ 駒谷 昇一 (他著)「情報と職業」オーム社 2002
- ◇ その他授業中に適宜指示

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218715

【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 e ラーニングを併用する

情報の数理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中山 慎一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 今日，コンピュータの高性能化，および，通信網の整備により，インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている．今後，あらゆる家電製品や携帯電話などが，ネットワークへの接続を前提に作られるようになり，ネットワークが生活の基盤になるであろう．よって，ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ることは，将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる．このような観点から，情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする．

【キーワード】 通信ネットワーク，インターネット，プロトコル，*TCP/IP*

【先行科目】 『計算機概論』(1.0, ⇒193 頁)

【履修上の注意】 2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識が必要です．

【到達目標】 ネットワークに関する知識や設計技法の習得，および，それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする．

【授業計画】 **1.** 情報通信の発達過程 **2.** ネットワークの種類と形態 **3.** ネットワークに関する基礎技術 **4.** 通信プロトコル 1 **5.** 通信プロトコル 2 **6.** 伝送制御手順 **7.** 通信サービルと技術 1 **8.** 通信サービスと技術 2 **9.** ネットワークの分析 1 **10.** ネットワークの分析 2 **11.** ネットワークの設計 1 **12.** ネットワークの設計 2 **13.** ネットワークセキュリティ 1 **14.** ネットワークセキュリティ 2 **15.** ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】 レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する

【再試験】 行う

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220348

【連絡先】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

現象の数理

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小野 公輔 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する．また，それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し，現象の数学問題への定式化および意味づけを行う．さらに，数理モデルの妥当性や説明 · 予測 · 制御等の初等的方法について理解を深める．

【授業概要】 現象解析のための基本事項について解説する．

【キーワード】 自然現象の数理，社会現象の数理，現象解析の数理，微分積分学，微分方程式

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒195 頁)，『微分方程式 I』(1.0, ⇒194 頁)

【履修上の注意】 微分積分学の基本事項を履修しておくこと．授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】 数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する．

【授業計画】 **1.** 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1．モデル化のための枠組み **2.** 人口問題と成長モデル **3.** 薬の吸収モデル **4.** 水の加熱と冷却の数理モデル **5.** ロケットの飛行モデル **6.** 抑制された成長モデル **7.** 広告に対する売り上げの反応モデル **8.** 美術品の贋作判定モデル **9.** 電気回路モデル **10.** 新古典派の経済成長モデル **11.** 五大湖の汚染判定モデル **12.** 個人の消費行動モデル **13.** 惑星の運動モデル **14.** 化学反応速度モデル **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】 授業への取り組み状況，演習，レポート，試験などをもとに総合的に評価する．

【再試験】 無

【参考書】 「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220345

【連絡先】
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

数学と社会

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
片山 真一 · 教授 / 総合理数学科，大渕 朗 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 ・代数的構造についての基礎及びその様々な場に於ける応用についての基礎に関する講義を行う．講義では代数構造の代表的な分野である代数的整数論と代数幾何学の初歩とその応用である暗号理論，符号理論の解説を行う．・目標は群，環に於ける準同型定理の理解，有限体の定義の理解，線形符号の定義とシングルトンの不等式の理解である (大渕)．また公開鍵暗号系の仕組みと剰余類群の応用として，RSA 暗号系を理解 する (片山).

【授業概要】 ・代数的構造に関する基礎理論 (群・環・体及び整数論) についての基本的な知識及び応用 (符号理論・暗号理論) への理解が深まるように講義を行う．・群論の初歩，基礎的な環論及び体論を解説する．これを受けて線形符号に関する初歩的な一般論を講義する (大渕). また公開鍵暗号系に関する基礎理論を講義する (片山).

【キーワード】 符号理論，暗号理論，現代代数学

【先行科目】 『代数基礎 I』(1.0, ⇒193 頁)，『代数基礎 II』(1.0, ⇒193 頁)

【関連科目】 『代数学 I』(0.5, ⇒195 頁)，『代数学 II』(0.5, ⇒195 頁)

【到達目標】 代数的構造に関する基礎理論の理解と符号理論と 暗号理論への応用

【授業計画】 **1.** 群の定義 **2.** 準同型定理 **3.** 環の一般論 **4.** 準同型定理 **5.** 有限体概説 **6.** 符号の定義 **7.** 線形符号 **8.** シングルトンの不等式 **9.** 暗号の歴史 **10.** 対称鍵暗号系の仕組み **11.** 計算困難性 **12.** 非対称鍵暗号系の仕組み **13.** RSA 暗号系 **14.** デジタル署名の仕組み **15.** RSA 署名およびまとめ **16.** 総括授業

【成績評価】 出席および提出レポートによる総合評価を行う．

【再試験】 無

【教科書】 特に指定しない．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220350

【連絡先】
⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 大渕 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

資源エネルギー論
Natural Resources and Energy

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
伏見 賢一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．

【授業概要】 日本・世界のエネルギー需給について現状の分析をする．エネルギー需給について開発の現状について解説し，将来取りうる政策について議論する．

【履修上の注意】 日ごろから新聞を読んでおくこと．講義ノートを用意すること．予習，復習の時間を十分に確保すること．各学科で学んできた事柄を活用して建設的な議論が進められることを期待する．

【到達目標】 資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．そのためにデータを正しく読むことができる．冷静な議論ができる．

【授業計画】 **1.** 序論: 基本用語，単位の解説．グラフ，統計データの見方． **2.** エネルギー需給の変化 (日本のエネルギー需給) **3.** 日本

のエネルギー供給 I (一次エネルギー源 化石燃料) **4.** 日本のエネルギー供給 II (一次エネルギー源 非化石燃料 (原子力)) **5.** 日本のエネルギー供給 III (一次エネルギー源 非化石燃料 (再生可能エネルギー)) **6.** 日本のエネルギー供給 IV (二次エネルギー 電力) **7.** 日本のエネルギー供給 V (二次エネルギー ガス・熱・石油) **8.** 日本のエネルギー供給 VI (二次エネルギー 熱・石油) **9.** 国際エネルギー動向 エネルギーコスト **10.** エネルギー需給に関する政策 **11.** エネルギー開発の動向 原子力政策 **12.** 輸送部門のエネルギー供給政策 **13.** 新エネルギーに対する政策 **14.** エネルギー安全保障 **15.** 総合討論 **16.** 総括

【成績評価】レポート課題 (40%)，総合討論 (10%)，期末レポート (40%)，出席 (10%)

【再試験】なし．

【教科書】適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220347

【連絡先】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01，088-656-7238，kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉に貼っている予定表の空欄時間帯．)

環境マネジメント

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
浜野 龍夫・教授 / 社会創生学科

【授業目的】さまざまなレベルの環境問題や環境管理手法である環境マネジメントシステムについて学び，について理解するについて学習し，低炭素・循環型で環境負荷の少ない社会を構築するための個人のライフスタイルや企業の取り組みが，よい地域環境を生み出し，それはさらによりよい地球環境を創造することにつながることを理解する．

【授業概要】講義の前半では環境社会検定でも扱われる内容について総合的に理解し，後半では環境マネジメントを実行するシステムを学ぶ．そして最後に一人一人が日常生活の中での環境マネジメントを考える．

【キーワード】環境，生態系，*ISO14000* シリーズ

【授業計画】1. 環境マネジメントとは **2.** 持続可能な社会に向けて **3.** 地球人としてのわたしたち **4.** 環境と経済・社会 **5.** わたしたちの暮らしと環境 **6.** 環境と共生するために **7.** 中間試験 **8.** 環境マネジメントシステム **9.** ISO14000 シリーズ **10.** 伝統的な環境マネジメント **11.** 共生環境のマネジメントシステム **12.** 個人の環境マネジメント:チェック **13.** 個人の環境マネジメント:PDCA **14.** 個人の環境マネジメント:アクションプラン **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 (原則遅刻は配点しない)，中間試験，レポートを総合して評価する．

【再試験】しない

【教科書】なし

【参考書】講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220342

【連絡先】

⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境倫理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授 / 人間文化学科，山口 裕之・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】環境倫理学を通じて，倫理学の基本的な考え方を理解する．現代社会における「倫理的問題」は，単に思想や価値観の問題であるだけでなく，「社会的問題」でもあることを理解する． 環境倫理学のトピックス，その思想的背景，現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ，現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける． その上で，自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける． レポートをもとに意見を発表し，討議する力を身に付ける．

【授業概要】「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い，そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する．

【キーワード】哲学，倫理学，環境，社会と自然

【到達目標】

1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．

【授業計画】1. イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) **2.** 環境倫理学の系譜 (1):環境倫理学成立の背景:1950~ 60 年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) **3.** 環境倫理学の系譜 (2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想 (山口) **4.** 環境倫理学の系譜 (3): 「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟 (山口) **5.** 環境倫理学の系譜 (4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) **6.** 地球温暖化問題の成立 (1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで (山口) **7.** 地球温暖化問題の成立 (2):フィラッハ会議後の展開: 地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) **8.** 地球温暖化問題の成立 (3):IPCC の成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索 (山口) **9.** 地球温暖化問題の成立 (4):京都議定書とその後の展開 **10.** アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる．シャロー・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を，その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造，エコフィロソフィーとエコソフィー，自己実現との関連で講じる．(石田) **11.** マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる．ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判，位階性の批判，自然の進化と社会の進化，リバタリアン的な地域自治主義を講じる．(石田) **12.** ドイツの環境政策を講じる．1970 年代以降のドイツの環境政策を概観した上で，地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策，ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴッパータル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター 4」を講じる．(石田) **13.** ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる．自然は果たして権利の主体になりうるか．人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か，等を論じる．(石田) **14.** ドイツの環境思想家マイアー=アービッヒの『自然との和解への道』で述べられた，実践的自然哲学を講じる．政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること，自然の理解は広い意味で法の中で論じられること，人間中心主義に対する哲学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ，自然中心主義的世界像から，自然としての人間，自然の法共同体を講じる．(石田) **15.** 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション (石田)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2 点 ×15=30 点，レポート 2 回＝ 70 点．

【再試験】無

【教科書】その都度資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218491

【連絡先】

⇒ 石田 (2328，088-656-7147，mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで)，088-656-7615，yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

環境政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
栗栖 聡・教授 / 社会創生学科

【授業目的】環境政策について体系的に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．

【授業概要】環境問題，環境政治・政策学，現代社会の基本的枠組みを検討し，ついで，環境政策に関して，その理念，手法，決定過程を検討する．さらに，環境基本法を踏まえつつ，大気，水，自然環境に関する規制の内容，循環型社会形成のための政策について論じる．最後に，市民参加の観点から環境影響評価の仕組みを検討する．

【到達目標】環境政策の体系的理解

【授業計画】1. 環境問題とは **2.** 環境政治・政策とは **3.** 環境問題と国家の役割 **4.** 環境政策の理念 **5.** 環境政策の手法 (総論) **6.** 環境政策の手法 (規制，経済的手法，市民参加等) **7.** 環境政策決定過程 (議会，行政) **8.** 環境基本法の制定過程と概要 **9.** 規制 (大気，水，土壌) **10.** 規制 (自然環境保全) **11.** 循環型社会形成政策 (廃棄物処理) **12.** 循環型社会形成政策 (排出削減) **13.** 環境影響評価 (事業アセス) と市民参加 **14.** 環境影響評価 (戦略アセス) と市民参加 **15.** 試験 **16.** まとめ

【成績評価】平常点 (20%) と期末試験 (80%)

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業中に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218487

【連絡先】

⇒ 栗栖 (2207-1，0886567185，kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

自然保護論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 征弥・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し，どのような取り組みを行えば良いか，またどのようなことに留意すれば良いかについて考える．

【授業概要】自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう．しかし，野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等，生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない．また，絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については，その正確性が絶えず議論になる．この授業では，自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ，どのように考えていくべきか解説する．

【キーワード】自然保護，野生生物，環境保全

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】1. 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい **2.** 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて **3.** 自然の価値と

は何か 3 - 自然界の物質循環 **4.** 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 **5.** 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え **6.** 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 **7.** 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い **8.** 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル **9.** 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 **10.** 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 **11.** 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園，世界遺産 **12.** 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 **13.** 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 **14.** 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軋轢 **15.** 期末試験

【成績評価】 授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート，資料持ち込み可) により評価する．

【再試験】 行わない

【教科書】 なし

【参考書】 適宜紹介する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218670

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

生態学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

浜野 龍夫 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 生態学の基本や面白さを理解する．

【授業概要】 ヒトとして生活をする上で知っておいた方がよい生態学の知見，フィールド調査や研究を行う上で重要となる生態学的な基礎知識について，実例をあげながら講述する．

【キーワード】 生物，行動，生態系

【到達目標】 生態学の基本用語を理解する．

【授業計画】 **1.** 講義内容の説明 **2.** 繁殖行動の解発因 **3.** 配偶者選択 **4.** 行動の進化的安定戦略 **5.** 生存曲線，個体群の増殖 **6.** 個体数推定，生命表 **7.** 生態的地位，生態系，すみ分け **8.** 種間関係，群集の多様性 **9.** 捕食ー被捕食関係，最適餌サイズ **10.** 擬態，r-K 戦略 **11.** 生物の多様性，メタ個体群 **12.** 自然保護を考える **13.** 生態学的研究の実例 **14.** 生態学の応用的研究の実例 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 出席 50 点 (原則遅刻は配点しない)，レポート 50 点

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【参考書】 講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218743

【連絡先】

⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

総合科学実践プロジェクト

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

宮崎 隆義 · 教授 / 人間文化学科，依岡 隆児 · 教授 / 人間文化学科
山城 考 · 准教授 / 社会創生学科，山本 裕史 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 専門を異にする教員が，共通もしくは複数のテーマで受講生とともに授業を運営し，実践的で総合的な学習姿勢を体得する．授業を通して，文系，理系相互の視点からものを考え，企画・調査し，討論・発表によって総合科学の実践力を養う．

【授業概要】 総合科学に関わる諸問題を，文系，理系の視点から考え実践的に解明をおこなってゆくワークショップ方式の授業である．欧米の文学や比較文化，植物や環境を専門とする 4 名の教員が，受講者とともに授業の内容を企画し，共通もしくは複数のテーマを設定して，文献調査やフィールドワーク (例:吉野川干潟観察プログラム・流域水環境分析プログラム・環境保全運動考察プロジェクトなど複数のテーマで開設) を通して文系・理系相互のもしくは融合した視点から，考察を深め，最終的にはその成果を発表する．

【到達目標】

1. 文系，理系双方の考え方を理解し融合させる．
2. テーマの設定，フィールドワークの実施や文献の調査等を通して実践的な企画力を養う．
3. 文献の購読や討論を通して論理的な思考や理解を高め，成果発表の能力を高める．

【授業計画】 **1.** 以下の計画はおおよその目安であり，受講者の志向や関心，文献調査やフィールドワークなどの動向を見ながら 16 回の授業を運営してゆく． **2.** オリエンテーション **3.** テーマの設定について討議 (2 回程度) **4.** 授業の運営について討議・企画 (2 回程度) **5.** 調査およびフィールドワーク (3 回程度) **6.** 中間発表 (2 回程度) **7.** 討論とさらなる調査 (3 回程度) **8.** まとめと発表 (2 回程度) **9.** 総括

【成績評価】 授業への参加状況，議論の内容，発表や報告などを総合的に評価する．

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【参考書】 授業の中で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220352

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火 · 木曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

総合科学特別講義

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科，樫田 美雄 · 准教授 / 社会創生学科
大橋 眞 · 教授 / 社会創生学科，佐藤 高則 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 総合科学＝諸科学を総合して課題を解明する営みの意義や方法について考察する．考察の領域を地域科学に据え，地域課題の実践的解明の過程を紹介する．

【授業概要】 ①総合科学部の教育課程の特徴＝総合科学の意義や課題を理解する． ②人文 · 社会 · 自然科学を総合する方法を実践的に理解する． ③地域づくりの事例を考察し，諸科学を総合する課題 · 方法を理解する． ④地域住民との対話を通じて総合科学的な思考力を身につける．

【キーワード】 総合科学，地域科学，地域づくり，グローバル化

【履修上の注意】 11 月 12 日土曜日午後に，「在宅療養を考える」というテーマでワークショップを企画している (2 コマ)．補講の扱いではあるが，正規の授業なので日程を開けておくことが望ましい．

【到達目標】 ①諸科学と総合科学との関係が具体的に説明できる．②具体的な地域問題に対し，諸科学を編成して解決する計画を作成できる．③総合科学的な観点から，自分の意見が表明できる．

【授業計画】 **1.** 諸科学と総合科学:諸科学を総合する科学が必要とされる理由を考察 (中嶋) **2.** 地域科学のあゆみ:Regional Science の形成と日本での展開過程を考察 (中嶋) **3.** 地域科学の実際①:実際の地域問題と地域科学による解決の例を考察 (中嶋) **4.** 地域科学の実際②:地域づくりに取り組む県内自治体職員による報告 (中嶋) **5.** 在宅医療の総合科学:医療と看護と福祉と生活の共同と相克を考察 (樫田) **6.** ※ 6·7 講は 11/12 に結合して開講する (樫田) **7.** 在宅医療のワークショップ:班別の討論 医療経済学や社会学を援用 (樫田) **8.** 在宅医療のワークショップのまとめ:リポート作成に向けた議論 (樫田) **9.** グローバル化と総合科学①(大橋・佐藤) **10.** グローバル化と総合科学②(大橋・佐藤) **11.** グローバル化と地域社会①(大橋・佐藤) **12.** グローバル化と地域社会②(大橋・佐藤) **13.** グローバル化と環境問題①(大橋・佐藤) **14.** グローバル化と環境問題②(大橋・佐藤) **15.** グローバル化と大学の役割 (大橋・佐藤)

【成績評価】 リポート内容及び出席状況で判定

【再試験】 再試は行わない

【教科書】 ⑤~ ⑧を除き教科書は用いない．関連資料を配付する．⑤~ ⑧:『「在宅医療」をささえるすべての人へ』健康と良い友だち社，00

【参考書】 講義時に随時紹介する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220353

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1号館3階中棟(3M15) 相談時間 月曜日13:30-17:00)
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14:00 から 15:00)
⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

人間文化学科 心理・健康コース 授業概要

● コア科目

行動統計学 …川野/2 年 (後期, 集中) 68
人間行動研究法 …川野/2 年 (前期) 68
運動生理学 …三浦・的場・荒木・小原・佐竹/2 年 (前期) 68
知覚心理学 …濱田/2 年 (後期) 68
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期) 69
コミュニティ心理学 …境/2 年 (後期) 69
健康教育学 …野村・佐竹/2 年 (後期) 69
スポーツ社会学 …佐藤/2 年 (前期) 69
スポーツマネジメント論 …行實/2 年 (前期) 70

● コース選択科目

生理心理学 …佐野・原/2 年 (前期) 70
精神医学 …大森・住谷・伊賀・中瀧・沼田・中土井・富永・亀岡・山本/2 年 (前期) 70
心理学実験実習 I …濱田・佐藤・境/2 年 (前期) 70
心理学実験実習 II …山本・原・内海・福森/2 年 (後期) 71
応用解剖生理学 …小原・佐竹・的場・荒木・三浦/2 年 (前期) 71
衛生・公衆衛生学 …前田・井崎/2 年 (後期) 71
コーチング論 …佐竹・中村/2 年 (前期) 71
コーチング論実習 I …佐竹/2 年 (前期) 72
コーチング論実習 II …中村/2 年 (後期) 72
コーチング論実習 III …小原/2 年 (後期) 72
コーチング論実習 IV …三浦/2 年 (後期) 72
コーチング論実習 V …荒木/2 年 (後期) 73
コーチング論実習 VI …行實/2 年 (前期, 集中) 73
コーチング論実習 VII …佐藤/2 年 (前期) 73
コーチング論実習 VIII …的場/2 年 (前期) 73
運動文化論 …中村/2 年 (前期) 73
スポーツ心理学 …賀川・行實/2 年 (前期, 集中) 74
スポーツ栄養学 …的場・三浦/2 年 (後期) 74
経営学 I …高橋・石田/2 年 (前期, 集中) 74
情報と職業 …吉田/2 年 (後期) 74
福祉情報論 …樫田/2 年 (後期) 75
地域社会論 …矢部/2 年 (前期) 75
市民活動論 …萩原・樫田/2 年 (前期, 集中) 75
比較社会論 …上野/2 年 (後期) 75
異文化間コミュニケーション …坂田/2 年 (前期, 集中) 75
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …濱田/3 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …山本/3 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …佐藤/3 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …境/3 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …原/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …山下/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …福森/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …内海/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …荒木/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …小原/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …佐藤/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …中村/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …的場/3 年 (前期) 78
心理・健康ゼミナール I …佐竹/3 年 (前期) 78
心理・健康ゼミナール I …三浦/3 年 (前期) 78
心理・健康ゼミナール I …行實/3 年 (前期) 78
心理・健康ゼミナール II …濱田/3 年 (後期) 78
心理・健康ゼミナール II …山本/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …佐藤/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …境/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …原/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …山下/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …福森/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …内海/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …荒木/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …小原/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …佐藤/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …中村/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …的場/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …佐竹/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …三浦/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …行實/3 年 (後期) 81
人格心理学 …原/3 年 (後期) 81
認知心理学 …濱田/3 年 (前期) 81
教育相談 …福森/3 年 (後期) 81
健康心理学 …佐藤・内海/3 年 (前期) 81
学習心理学 …境/3 年 (前期) 81
人間形成論 …木内/3 年 (後期) 82
スポーツ障害論 …小原/3 年 (前期) 82
レジャーマーケティング論 …行實/3 年 (後期) 82
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期) 82
救急処置法 …野村・佐竹/3 年 (後期) 83
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 83
経営学 II …高橋・石田/3 年 (後期, 集中) 83
地域構造論 …豊田/3 年 (後期) 83
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期) 84
心理学実験実習 III …原・山本・内海・福森/3 年 (前期) 84
心理学実験実習 IV …佐藤・濱田・境/3 年 (後期) 84
スポーツ科学実験実習 …佐竹・荒木・小原・的場・三浦・野村/3 年 (前期) 84
ウェルネス・プロジェクト実習 …佐藤・行實/3 年 (前期) 84

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 85
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期) 85
世界経済論 I …水島/3 年 (前期) 85
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期) 85
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期) 86
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期) 86
地域政策論 I …北村/2 年 (後期) 86
地域文化論 I …高橋/2 年 (前期) 87
共生社会論 …樫田/3 年 (後期) 87
メディア情報論 …河原崎/3 年 (後期) 87
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期) 88
情報の数理 …中山/3 年 (前期) 88

現象の数理 …小野/3 年 (後期) 88
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期) 88
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期) 89
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 89
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 89
環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 89
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 90
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 90
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) ... 90
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) 90

行動統計学

2 単位 (選択) 2 年 (後期, 集中)
川野 卓二 · 教授 / 大学開放実践センター

【授業目的】観察，調査，実験などによって収集したデータを，その種類と研究の目的に合わせて適切に統計処理を行い，その結果から言及できることを正しく解釈できるようになる．

【授業概要】「情報処理の基礎」で学んだ記述統計の手法をもとにして，研究目的，データの種類，研究デザインにあった推測統計の分析手法をエクセル，SPSS を利用して行えるように講義と実習を組み合わせて学習する．

【キーワード】記述統計量，推測統計，検定統計量，多変量解析，統計による確率的判断

【先行科目】『情報処理の基礎 I』(1.0, ⇒14 頁)

【履修上の注意】その日の疑問を，あとあとまで残さないように注意する．

【到達目標】
1. 収集したデータの測定のレベルや型に適し，且つ，分析の目的にあった統計手法が選択できる
2. 正確な計算により得られた結果が正しく解釈できる．

【授業計画】1. 記述統計量と標準化得点 (「情報処理の基礎」の復習) **2.** 計算機を用いてさまざまな統計量の計算 **3.** 母集団と標本 **4.** 統計分析に用いる確率分布 **5.** 統計的仮説検定と区間推定の理論と基本的考え方 **6.** 2 つの平均値の差の検定 **7.** 分散分析法入門 **8.** 要因計画と被験者内分散分析 **9.** ノンパラメトリック検定:度数や比率の検定 **10.** ノンパラメトリック検定法:順位による検定 **11.** さまざまな相関係数 **12.** 相関と回帰によるデータの理解 **13.** 重相関と重回帰分析 **14.** 差の検定と関係の検定 **15.** 期末試験 **16.** 解説とまとめ

【成績評価】課題 (30%)，期末試験 (70%) による総合評価を行う

【再試験】再試験:なし

【教科書】山内 光哉 著 「心理・教育のための統計法 < 第 3 版 >」サイエンス社

【参考書】多変量解析法に関する資料は，その都度配布する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218606

【連絡先】
⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:授業日 12:10~ 12:40 p.m. 川野研究室 (6号館 2F))

人間行動研究法

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
川野 卓二 · 教授 / 大学開放実践センター

【授業目的】 人間行動を数量的に把握するための系統的なデータ収集法 (観察，調査，実験など) について概括し，研究目的に適した手法を用いて収集されたデータの型に即した統計処理法の選択，および基本的な手法の手順の修得を目的とする．そのために，班単位で実際にデータ収集から整理，分析，報告書の作成までを行なう．また，学術誌に発表された論文の研究方法欄を理解することにも重点を置き，研究論文として備えるべき条件についても併せて触れる．

【授業概要】科学的な視点から人間行動を捉えるための方法について; 研究計画からデータ収集，分析，報告書の作成および発表までの過程について学ぶ．

【キーワード】科学的な研究手法，測定の信頼性と妥当性，研究の信頼性と妥当性，知見の共有化

【先行科目】『情報処理の基礎 I』(1.0)

【関連科目】『自然と技術/教養としての統計』(0.5)

【履修上の注意】4 年生の受講も認める．授業には 8 桁以上，√ 演算機能つき電卓を持参すること．

【到達目標】 グループとして，研究目的に適したデータ収集法を用いて研究計画の立案 · 実施を行なうことが出来，得られたデータの信頼性と妥当性に関する検証を行なうとともに，適切な分析方法を用いて統計処理を行ない，結果の整理 · 考察 · 報告を効果的に行なうことが出来る．

【授業計画】1. 1. 研究計画立案の視点 **2.** 2. データ収集法としての観察，調査，実験法 **3.** 3. 独立変数と従属変数 **4.** 4. データの型と統計処理の基本的手法 **5.** 5. 測定値のモデル **6.** 6. データの整理と記述統計 **7.** 7. 測定の信頼性，妥当性 **8.** 8. 研究の妥当性 **9.** 9. 学術誌論文の研究方法欄 **10.** 10. 研究報告書の作成 **11.** 11. 発表用スライドの作成 **12.** 12. 発表会

【成績評価】評価の配分は，課題 (個人課題，グループ課題)50%，期末試験 50%で行なう．期末試験には，自著ノート (A4 紙 1 枚) のみ持ち込みを認める．

【再試験】なし

【教科書】
◇ 教科書 アン・サール 著「心理学研究法入門」 新曜社
◇ 参考書 岩淵千明編著「あなたもできるデータの処理と解析」福村出版
◇ 参考書 高橋 · 渡辺 · 大渕編著「人間科学研究法ハンドブック」ナカニシヤ出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219103

【連絡先】
⇒ 川野 (088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月· 火曜日 午後12時10分から12時40分まで(and/or by appointment), メールによる質問も受け付ける kawano@cue.tokushima-u.ac.jp)

運動生理学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
三浦 哉 · 准教授 / 人間文化学科，的場 秀樹 · 教授 / 人間文化学科
荒木 秀夫 · 教授 / 人間文化学科，小原 繁 · 教授 / 人間文化学科
佐竹 昌之 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】本講義では，運動時の生体の諸機能の変化およびトレーニング効果について理解してもらう．そのために，成人から高齢者の身体機能の特性およびその測定評価方法について，生活習慣病の予防，介護予防との関連から論じることを目的とする．

【授業概要】運動時のエネルギー代謝，神経系・呼吸循環系機能の変化を理解し，健康づくりのための身体活動・運動の意義を運動生理学的な視点から理解を深める．

【キーワード】運動，身体機能，健康，体力

【到達目標】
1. 運動時の生体機能の変化を理解すること
2. 生活習慣病予防，介護予防のための運動指導のための基本的知識を習得すること

【授業計画】1. 運動と骨格筋 (筋収縮) **2.** 運動と骨格筋 (エネルギー供給機構) **3.** 運動と神経 (動作の運動制御) **4.** 運動と神経 (学習と記憶) **5.** 運動と呼吸 (換気応答) **6.** 運動と呼吸 (酸素摂取量) **7.** 運動と循環 (中心循環) **8.** 運動と循環 (末梢循環) **9.** 体力と運動能力 **10.** 中年者の新体力テスト (筋力・筋持久力) と測定方法 **11.** 中年者の新体力テスト (持久走能力・柔軟性) と測定方法 **12.** 高齢者の体力測定法 (高齢者の体力特性と測定法の注意点) **13.** 高齢者の体力測定法 (各測定法と評価法) **14.** 介護予防のための体力測定の在り方 **15.** 介護予防のための体力測定と評価の実際 **16.** 定期試験

【成績評価】出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験による総合評価

【教科書】教科書は使用せず関連資料の印刷物を随時配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218365

【連絡先】
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

知覚心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
濱田 治良 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】私たちを取り巻いている物理的環境と私たちが見聞きした結果である主観的な知覚的世界の間には大きな違いがある．私たちは外界 · 環境をどのように知覚しているのであろうか?この講義では認識や行動の出発点である知覚の基礎について出来るだけ平易に論じ，未知なる人間，我々自身を理解するための科学的試みを紹介する． その為に，代表的な錯視現象を通して「人間が外界をいかに知覚し，認識しているのか」を論じ，科学の歴史をたどりながら錯視の成立機序とその意義を考察する． ところで，錯覚や錯視は私たちの目の不完全さを示しているのではなく，人間の知覚の機能の素晴らしさを示している．日常生活で経験する知覚現象を網膜の神経構造との関連で考察する． また，客観的な刺激と主観的な感性の間には一定の規則的

な関係がある．心理学的実験及びその方法を説明し，理論的考察から導き出された幾つかの法則を時代を追いながら説明する．

【授業概要】人間は外界をどのように見ているか?

【履修上の注意】テストを実施する．また，知覚心理学の実験を行いレポート提出を求める．

【到達目標】様々な視覚現象を通して物理的刺激と心理的反応の間に介在する機構を理解し，人間特有の知覚の仕方を理解する．

【授業計画】**1.** マッハ・バンド **2.** 側方抑制 **3.** 主観的輪郭線 **4.** 明るさの同時対比 **5.** 明るさの対比と同化 **6.** 明るさの恒常性 **7.** 幾何学的錯視 **8.** 幾何学的錯視における対比と同化 **9.** 眼球運動と静止網膜像 **10.** 感覚遮断 **11.** 明暗順応 **12.** 網膜の構造 **13.** 三原色説 **14.** 反対色説 **15.** 色覚の段階説

【成績評価】中間試験，期末試験，レポート及び出席状況によって評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】資料を配付する．

【参考書】大山 正著「視覚心理学への招待」サイエンス社， 松田隆夫著「視知覚」培風館， 金子隆芳著「色彩の心理学」岩波新書， メッツガー著・盛永四郎訳「視覚の法則」 岩波書店を推薦する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218852

【連絡先】
⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)

社会心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 健二・教授 / 人間文化学科

【授業目的】近年，社会心理学に対する期待は，著しく増大している．なぜなら，社会心理学は，人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて，近年生じている，さまざまな社会的行動の諸問題の解決に資する可能性を持っているからである．そこで，本講義では，人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする．

【授業概要】人間の社会的行動の理解

【キーワード】**社会的行動，自己，対人行動，集団行動，集合行動**

【履修上の注意】OHP，パワーポイント，紙資料，ビデオテープなどを使用する．私語厳禁．

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果，概念，方法論，近年の展開について理解すること

【授業計画】**1.** イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 **2.** 社会的影響 (同調，服従，役割) **3.** 攻撃．暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? **4.** 援助．なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? **5.** 集団行動 (リーダーシップ研究．「プロジェクトX」視聴) **6.** 集合行動 (流言，うわさ，群衆行動) **7.** 言語・非言語的コミュニケーション (視線行動，パーソナル・スペースなど) **8.** 抑うつの社会心理学．認知の歪み，自己注目，相互作用モデルとの関連 **9.** 自己呈示と対人不安 **10.** 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- **11.** 対人魅力．近接性と好意，身体的魅力，類似性と好意，返報性 **12.** 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 **13.** 社会的認知 (原因帰属など) **14.** 自己意識，自己評価研究とその臨床領域への応用 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】三分の二以上の出席した者に対して，期末試験結果による評価を行う．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】安藤清志他 1995 現代心理学入門 4 社会心理学 岩波書店，坂本真士・佐藤健二 2004 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218697

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:10~ 13:00，総合科学部3号館3S05室，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

コミュニティ心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
境 泉洋・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】コミュニティで起こっている問題は，面接場面だけでは解決できないものである．コミュニティ心理学においては，クライエントがどのようなコミュニティで生活し，そのコミュニティに適応するためにどのような援助が必要なのかという視点が必要となる．本講義では，コミュニティ心理学の基礎とその応用について理解を深めることを目的とする．

【授業概要】本講義では，予防，コンサルテーション，危機介入といったコミュニティ心理学の基礎を学ぶ．その上で，コミュニティ心理学の実際についての理解を深めていく．受講生にグループ発表してもらうことで，受講生に積極的な授業参加の機会を提供する．

【キーワード】**コミュニティ心理学，臨床心理学**

【関連科目】『学習心理学』(0.7, ⇒81 頁)，『社会心理学』(0.4, ⇒69 頁)，『心理学実験実習 I』(0.3, ⇒70 頁)

【履修上の注意】授業で配布した資料はホームページにて公開するので，授業を欠席した場合など適宜参照すること．

【到達目標】予防教育，治療的介入，社会復帰支援という一連のプロセスについて理解し，柔軟な心理的援助を行うための知識を身につけることを目標とする．

【授業計画】**1.** ガイダンス:コミュニティ心理学的関与のプロセス **2.** コミュニティ心理学とは何か? **3.** コミュニティ心理学の背景理論 **4.** 予防 **5.** 危機介入 **6.** 臨床心理面接の初期 **7.** 臨床心理面接の中期 **8.** 臨床心理面接の後期 **9.** 社会復帰支援 **10.** 非専門家による支援 **11.** 訪問による支援 **12.** 非対面式による支援 **13.** ひきこもり:実態と心理学的理解 **14.** ひきこもり:コミュニティ心理学的介入 **15.** 定期試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席，受講態度，発表，レポート，期末試験により総合的に評価する．

【再試験】原則として再試験は実施しないが，受講者の事情によっては追加レポート等により合否の判定を行うこともある．

【教科書】教科書は使用しない．資料は授業中にプリントを配付する．参考図書などは適宜紹介する．

【参考書】植村勝彦 (編) 2007 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版 2400 円

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/index.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218665

【連絡先】
⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

【備考】毎年開講

健康教育学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
野村 昌弘・，佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】現代社会の歪みがもたらす健康問題を学際的に理解し，問題解決能力を養う．また，社会において健康の保持増進に貢献できる実践力を修得する．

【授業概要】ヘルスプロモーションは，人々が自ら健康をコントロールし，改善する能力を高めるとともに，環境整備によって社会全体の健康づくりを包括的，総合的に推進しようとする考え方である．健康教育はヘルスプロモーションの理念に基づいて，今日的な健康問題を科学的に理解し，健康づくりのための理論や方法について実践論的に学習する．

【キーワード】**健康問題**

【先行科目】『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0, ⇒22 頁)，『健康と福祉』(1.0, ⇒13 頁)

【関連科目】『衛生・公衆衛生学』(0.5, ⇒71 頁)，『健康行動論』(0.5, ⇒83 頁)，『地域健康福祉論』(0.5, ⇒82 頁)

【到達目標】
1. 健康問題を学際的に理解し，問題解決能力を養う．
2. 人間科学に関わる幅広い知識の理解を養う
3. 地域社会の生活環境の創造への貢献を養う

【授業計画】**1.** ヘルスプロモーションと QOL，健康教育，健康管理論 **2.** 健康の定義と医事法規 **3.** 生活習慣病概論 **4.** 生活習慣と健康問題-高血圧症，高脂血症- **5.** 高血圧症・高脂血症と生活改善 **6.** 生活習慣と健康問題-糖尿病- **7.** 糖尿病と生活改善 **8.** 生活習慣病と健康問題-虚血性心疾患- **9.** 虚血性心疾患と生活改善 **10.** 骨粗鬆症とその予防 **11.** 関節リウマチと変形性関節症とその予防 **12.** 介護予防概論 **13.** 生涯保健とライフスタイル **14.** リスク行動と生活改善 **15.** 定期試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%) で評価する．

【教科書】なし

【参考書】プリントを配布する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218561

【連絡先】
⇒ 野村 .
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

スポーツ社会学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 充宏・教授 / 人間文化学科

【授業目的】地域における身体活動である住民の健康体力づくりやスポーツ行動に注目し，人間の Well-being という視点から，「人間-身体活動 (スポーツ)-社会」の関係を探求する．また，地域の健康文化の振興や住民のスポーツクラブの育成といった継続的な健康体力づくりをねらいとしたコミュニティ設計の意義や問題点について理解し，住民利用

者の運営参加と合意による健康体力づくり事業の推進のあり方について学習する．

【授業概要】地域の健康体力づくりやスポーツと豊かな暮らし「Well-being」の社会基盤整備の仕方を理解する

【到達目標】地域のスポーツ振興に対する社会基盤整備について理解する

【授業計画】1. 人間存在とからだと文化　**2.** 文化としてのスポーツとワーク/ワイフ・バランス　**3.** 地域における子どもの運動遊びと体力問題・スポーツ環境問題　**4.** 運動部と地域スポーツの深い絆　**5.** 競技スポーツと企業とメディア　**6.** 見るスポーツとアニメと若者文化　**7.** 見るスポーツとメディアスポーツの盛隆　**8.** 見るスポーツと地域の活性化　**9.** 健康体力づくり政策①:スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画　**10.** 健康体力づくり政策②:健康増進法と健康日本 21，そして運動施策　**11.** 地域の健康生活の変動と総合型地域スポーツクラブ育成事業の推進　**12.** 住民の自立と責任を求められる「健康なまちづくり」の選択と行動　**13.** 地域活動を支えるスポーツボランティアと NPO 法人　**14.** 地域の健康文化としてのコミュニティデザインと行政支援　**15.** 住民参加と合意形成による健康体力づくり計画へ

【成績評価】試験 (80%) と課題レポート (20%)

【再試験】再評価は追加課題レポートの提出を求める．

【教科書】適宜，資料を配布する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218737

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7207，satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

スポーツマネジメント論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

行實 鉄平・講師 / 人間文化学科

【授業目的】本授業では，スポーツマネジメントを実践するための専門的知識について学習する．具体的には，学校，地域，民間，公共スポーツ施設組織等といった個別組織におけるスポーツ事業の構成方法や演出方法についての理解を深めるとともに，生涯スポーツの振興を図る為の効率的・効果的な経営過程論についても理解を深めていくことを目的とする．

【授業概要】スポーツマネジメントに関する基礎知識の習得と，その現象 (学校，地域，民間，公共スポーツ組織) を取り巻く現代的課題についての理解を深めていく．

【キーワード】生涯スポーツ，スポーツ事業，運動者行動，経営過程 (マネジメントサイクル)

【関連科目】『スポーツ社会学』(0.5，⇒69 頁)

【履修上の注意】受講者は，テキストとして指定している教科書を必ず購入すること．また，毎回，授業終了時に授業内容に関する意見・感想・質問などの感想文を提出してもらう

【到達目標】実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身に付ける

【授業計画】1. オリエンテーション (スポーツマネジメント概論)　**2.** 我が国のスポーツを取り巻く現状と課題-するスポーツ-　**3.** 我が国のスポーツを取り巻く現状と課題-みる・ささえるスポーツ-　**4.** スポーツマネジメントの目的・構造およびその領域特性　**5.** スポーツ事業論 (1)-エリア・サービスの概念とスポーツ施設の性格-　**6.** スポーツ事業論 (2)-プログラム・サービスの捉え方とタイプ論-　**7.** スポーツ事業論 (3)-クラブ・サービスの捉え方とクラブの構成要件-　**8.** スポーツ事業論 (4)-関連的体育スポーツ事業とプロモーションの概念-　**9.** 運動者行動と運動生活の捉え方　**10.** スポーツ経営過程論 (1) 計画:経営計画の種類と立案プロセス　**11.** スポーツ経営過程論 (2) 組織:組織の構造と特性　**12.** スポーツ経営過程論 (3) 統制:経営評価の視点とコントロール　**13.** スポーツマネジメントのトピック 1:スポーツ施設と指定管理者制度　**14.** スポーツマネジメントのトピック 2:スポーツ組織と NPO 法人格　**15.** 定期試験　**16.** スポーツマネジメントのトピック 3:スポーツイベントのマネジメント

【成績評価】評価は「出席」「学習態度」「試験」の 3 つの視点で評価する．評価配分は「出席:30%」「学習態度:10%」「試験:60%」とする．

【再試験】実施しない．

【教科書】

- ⋄ 八代勉・中村平 (編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店.
- ⋄ 教 材:資料を適宜配布する．

【参考書】

- ⋄ 山下秋二・中西純司・畑攻・冨田幸博 (編)「[改訂版] スポーツ経営学」大修館書店.
- ⋄ 原田宗彦・小笠原悦子 (編)「スポーツマネジメント」大修館書店.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218739

【連絡先】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室，088-656-7286，yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 火曜午後)

生理心理学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

佐野 勝徳・，原 幸一・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】生理心理学は，主に生理学的諸手法を用いて脳と行動の関係等を研究し，人間の行動や，心のはたらきを理解しようとする基礎心理学の一領域です．近年，その成果が広く応用，心理学の分野に援用されるようになってきています．これらを視野に入れながら，授業を進めます．授業は，10 回の講義と 5 回のグループ発表からなります．

【授業概要】脳と心の関係を学び，その臨床心理への応用可能性を探ります．

【キーワード】心の科学，認知脳科学，生物時計，神経心理学

【履修上の注意】レポートの出来具合で授業の良し悪しが決まります．皆さんの主体的・積極的な参加を希望します．

【到達目標】

1. 次の 3 点を目標とします．
2. (1) 脳と心の関係について，その基礎知識を身につけること．
3. (2) 与えられたテーマについて，グループで調べ，グループでまとめてレポートを作成する力を身に つけること．
4. (3) 調べた内容を一定時間内に分かりやすく発表する力を身につけること．

【授業計画】1. 生理心理学の概要　**2.** 生理心理学の研究法　**3.** 末梢神経系の構造と機能　**4.** 中枢神経系の構造と機能 (1)　**5.** 中枢神経系の構造と機能 (2)　**6.** 眠りと生活 (1)　**7.** 眠りと生活 (2)　**8.** 学習の生理心理　**9.** 記憶の生理心理　**10.** グループ発表 (1)　**11.** グループ発表 (2)　**12.** グループ発表 (3)　**13.** グループ発表 (4)　**14.** グループ発表 (5)　**15.** 定期試験　**16.** 総括授業

【成績評価】レポート発表と期末試験によって評価します．

【再試験】原則としてしません．

【教科書】参考書等は必要に応じ紹介します．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218765

【連絡先】

⇒ 佐野 .

⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

精神医学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

大森 哲郎・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
住谷 さつき・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
伊賀 淳一・助教 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部，中瀧 理仁・助教 / 病院
沼田 周助・助教 / 病院，中土井 芳弘・助教 / 病院，富永 武男・助教 / 病院
亀岡 尚美・，山本 真由美・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 精神医学に関する正しい理解と認識が，今ほど求められている時代はないと思われる．単に医療の世界だけにとどまらず臨床心理．福祉，教育，法律などの分野においても精神医学の知識と応用が大切になってくると思われる．臨床医学の経験をもとに，なるべく平易に，かつ能率的に，こうした精神医学に対するニーズを満たせるように講義したい．ICD-10(WHO による国際疾病分類) にのっとり各疾病について概説しながら，精神医学の基礎知識，メンタルヘルス，精神医療の歴史，精神保健福祉法などについても触れていきたい．

【履修上の注意】皆さんの積極的な質問等を歓迎します．

【到達目標】精神医学の現代における知見と医療全般の理解を深め，障害者への正しい認識と豊かな人間性を養う一助としたい．

【授業計画】1. 精神医学総論　**2.** 精神科症候学　**3.** 精神科診断学　**4.** 気分障害　**5.** 統合失調症　**6.** パニック障害・全般性不安障害・社会不安障害　**7.** 身体表現性障害・解離性障害・PTSD　**8.** 強迫性障害・適応障害　**9.** 摂食障害　**10.** 児童思春期精神医学　**11.** 人格障害　**12.** 認知症　**13.** てんかん　**14.** 睡眠障害・アルコール依存・薬物依存　**15.** 器質性・症状性精神障害　**16.** 総括授業

【成績評価】期末試験による．

【再試験】行わない．

【教科書】日本評論社，新版「精神医学ハンドブック」，山下格著をテキストにして，適宜プリントを追加して教材とする．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218742

【連絡先】

⇒ 大森 (臨床研究棟 8F 教授室，088-633-7130，tohmori@clin.med.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 8:30-17:30)

⇒ 住谷 (satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 伊賀 (088-633-7130，igajunichi@hotmail.com)

⇒ 中瀧 .

⇒ 沼田 .

⇒ 中土井 .

⇒ 富永 .

⇒ 亀岡 .

⇒ 山本 (3s06，088-656-7192，yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理学実験実習 I

1 単位 (選択) 2 年 (前期)

濱田 治良・教授 / 人間文化学科，佐藤 健二・教授 / 人間文化学科
境 泉洋・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】この授業は，心理学に関する基礎的な実験法・調査法等を体験的に学ぶことを目的とします．具体的には，実験心理学，社会心理学，及びコミュニティ心理学に関する諸手法を学ぶことになります．

【授業概要】人間行動の理解に必要な基礎的知識と技術を実験実習形式で具体的に学びます．

【キーワード】**心理学基礎実験**

【履修上の注意】毎回レポートの提出を求めます．

【到達目標】心理学に関する基礎的な実験法・調査法等を体験し，具体的にそれらの手法を身につけ，加えて統計処理やレポートの書き方等，心理学の研究に必要な基礎知識を獲得する．

【授業計画】**1.** 濱田教員: 実験心理学に関する基礎的な実験を行います．具体的には幾何学的錯視の典型例である「ミューラー・リヤー錯視」，知覚運動学習についての「鏡映描写」，無意味綴りの記憶についての「系列予言法による記銘学習」，そして「マグニチュード推定法」等の実験を行います． **2.** 佐藤 (健) 教員: 社会心理学の中でも，臨床心理学，とりわけ認知行動療法との関連性の深いテーマ (例，対人不安等) について基礎的な実験を行います． **3.** 境 教員: 人の行動や感情について認知行動論的観点からの分析するための質問紙作成を行い，データを収集した上でデータの解析方法などについて学んでいきます．

【成績評価】出席とレポートにより評価します．全ての教員のレポートが提出されていないと単位は認定されません．

【再試験】しません．

【教科書】必要な資料は全て教員が用意します．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218722

【連絡先】
- ⇒ 濱田 (3S02，088-656-7195，hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3S05，088-656-7202，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)
- ⇒ 境 (088-656-7191，motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

心理学実験実習 II

1 単位 (選択) 2 年 (後期)

山本 真由美・教授 / 人間文化学科，原 幸一・准教授 / 人間文化学科
内海 千種・講師 / 人間文化学科，福森 崇貴・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】カウンセリングを知識として知っている人は多いが，実際に受けたり，カウンセリングをしたりという経験をもつ人は，一般にはまれである．この授業では，まず，コミュニケーションと観察法の体験学習を行う．次に心理療法の技法としての遊戯療法について概説とロールプレイを行う．三番目に投映技法の一つであるバウムテストについて理論的かつ実践的に学ぶ．事例を取り上げ議論する事により，カウンセリングの実践例に触れる． カウンセリングの基礎理論を知るだけでなく，カウンセリングとはどのようなものかを，体験的に学び味わう時間としたい．

【授業概要】カウンセリングを体験的に知る

【キーワード】**カウンセリング，コミュニケーション技法，観察法，遊戯療法，バウムテスト，ロールプレイ，事例研究**

【履修上の注意】受講生の主体性や積極性が重要である．

【到達目標】
1. カウンセリングの基礎理論を理解する．
2. コミュニケーション技法について学び，体験する．
3. 観察法を体験する．
4. 遊戯療法の理論と実践を学ぶ．
5. バウムテストの理論と実践を学ぶ．
6. ロール・プレイを通してカウンセリングにおける応答の実際を学習する．
7. 事例研究の討論に参加する．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** コミュニケーション技法 **3.** コミュニケーション技法 (非言語的) **4.** コミュニケーション技法 (言語的) **5.** 観察法:観察とは **6.** 観察法:自然観察法 **7.** 観察法:実験的観察法 **8.** 中間まとめ **9.** 遊戯療法 (概説) **10.** ロールプレイ①スクイグル **11.** ロールプレイ②遊戯療法説明 **12.** バウムテスト理論 **13.** バウムテスト解釈 **14.** バウムテスト事例研究 **15.** まとめ **16.** 総括

【成績評価】各担当者が課すレポートによる．授業態度や出席なども考慮に入れる．

【再試験】行わない

【教科書】担当者がその都度紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218723

【連絡先】
- ⇒ 山本 (3s06，088-656-7192，yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

応用解剖生理学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

小原 繁・教授 / 人間文化学科，佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科，荒木 秀夫・教授 / 人間文化学科
三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】運動を行うときに身体の様々な機能を働かせて身体活動が成り立っている．本講義では身体活動という視点から身体の構造を学び，また身体のどのような機能を使っているかを理解することを目標とする．基本動作としての走運動，投動作，跳躍動作に関わる身体の構造と機能を理解する．複合動作としての球技系の運動での身体の動きを理解する．

【授業概要】解剖分野として骨格系，筋肉系，神経系の構造を理解する．生理学分野として筋系，神経系，心臓血管系，呼吸系，代謝系，内分泌系，感覚系，免疫系，体温調節の機能を講義し，身体活動による一過性の身体の変化と運動継続による身体の変化について理解を高める．

【キーワード】**生理学，解剖学，運動**

【先行科目】『運動生理学』(1.0，⇒68 頁)

【関連科目】『スポーツ科学実験実習』(0.5，⇒84 頁)

【到達目標】
1. 骨格系，筋肉系，神経系の構造を理解する．
2. 人間の生理的機能について理解する．
3. 人間科学に関わる幅広い知識を理解する．

【授業計画】**1.** 細胞と組織 **2.** 骨格の構造と機能 **3.** 筋の構造と機能 **4.** 中枢神経系，末梢神経系の構造と機能 **5.** 運動と感覚系の活動 (走・跳・投における随意動作と反射) **6.** 心臓血管系の構造と機能 **7.** 呼吸系の構造と機能 **8.** 運動時の代謝 (疲労との関係) **9.** 運動時の代謝 (糖代謝，脂肪代謝) **10.** 運動と内分泌系の働き **11.** 運動と免疫系機能 **12.** 陸上運動と水中運動の比較 **13.** 運動と体温調節 **14.** 運動による適応現象 **15.** 定期試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%) で評価する．

【再試験】有，再試験

【教科書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218463

【連絡先】
- ⇒ 小原 (088-656-7213，obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐竹 (2M15，088-656-7212，satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
- ⇒ 的場 (3114，088-656-7208，matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 荒木 (3119，0886567214，araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 三浦 (3122，088-656-7288，hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

衛生・公衆衛生学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

前田 健一・教授 / 保健管理センター，井﨑 ゆみ子・准教授 / 保健管理センター

【授業目的】1．衛生・公衆衛生の講義を通じて，健康の保持・増進を図り疾病を予防するための知識を習得する． 2．呼吸器疾患，感染症，精神疾患などの疾病を主に取り上げ，それぞれの疾病の病因と治療方法についての知識を習得する． 3．健康管理や健康診断の重要性とその方法を理解し，生活習慣病の予防と治療法を理解する．

【授業概要】生活習慣病，呼吸器疾患および精神保健・精神疾患に関する基礎知識を習得するとともに各種疾患の予防方法や治療方法について学習する．

【授業計画】**1.** 生活習慣病とメタボリックシンドローム **2.** 高血圧の予防と治療 **3.** 脂質異常症の予防と治療 **4.** 糖尿病の予防と治療 **5.** 呼吸器感染症 **6.** 肺癌 **7.** 喘息 **8.** COPD **9.** 精神保健における諸問題，精神医学の方法論 **10.** 精神作用物質による精神の障害について **11.** 統合失調症 **12.** 認知症 **13.** うつ病 **14.** 睡眠障害，不安障害 **15.** 発達障害 **16.** 保健管理センターの見学，実習

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218370

【連絡先】
- ⇒ 前田 (maedak@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 井﨑 .
- ⇒ 佐竹 (2M15，088-656-7212，satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

コーチング論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科，中村 久子・教授 / 人間文化学科

【授業目的】コーチの役割について理解するとともに，コーチングを行う上で必要な，スポーツ医学，スポーツ生理学，トレーニング学の知見を身につける．また，対象別の指導上の留意点についても学ぶ．

【授業概要】まず，コーチング前のメディカルチェックについて教授する．次にトレーニングの指導について運動生理学的観点から解説するとともに，プログラムの作成方法についても教授する．最後に，対象別のコーチングの留意点についても学んでいく．

【キーワード】コーチング，メディカルチェック，トレーニング，運動プログラム

【先行科目】『健康体力科学の基礎』(1.0, ⇒23 頁)

【関連科目】『救急処置法』(0.5, ⇒83 頁), 『スポーツ栄養学』(0.5, ⇒74 頁), 『スポーツ心理学』(0.5, ⇒74 頁)

【到達目標】

1. コーチの役割について理解する.
2. コーチングを行う上で必要な知見を理解する.
3. 対象別の指導上の留意点について理解する.
4. 地域社会で活躍する能力を養成する

【授業計画】1. コーチの役割 **2.** 事前検診の在り方と結果の理解 **3.** 効果判定の理解 **4.** メディカルチェック **5.** 心電図の評価と記録の仕方 **6.** トレーニング概論 **7.** トレーニング計画 (条件・反応・強度) **8.** コーチングにおける筋力増強のトレーニング **9.** コーチングにおける筋パワー・筋持久力のトレーニング **10.** コーチングにおけるエアロビック・トレーニング **11.** 運動プログラムの作成方法 (学習過程・目標と評価・行動変容・援助技法) **12.** 運動プログラムの作成方法 (安全管理・自立支援) **13.** ジュニア期のコーチングの留意点 **14.** 女性のコーチングの留意点 **15.** 加齢に伴う体力減退と運動指導の留意点 **16.** 総括授業

【成績評価】出席状況およびレポートで総合的に評価する.

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】適宜，資料を配付する.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218591

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

コーチング論実習 I

1 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】この授業では，体ほぐしの運動と体力を高める運動の必要性を理解するとともに，自己の体力や生活に応じた運動を計画的に実施できる資質や能力，さらにはそれに必要な指導力を養成することを目的とする.

【授業概要】体ほぐしの運動と体つくり運動に対する知識とスキルの習得.

【キーワード】体ほぐし運動，体つくり運動，コーチング

【先行科目】『健康体力科学の基礎』(1.0, ⇒23 頁)

【関連科目】『コーチング論』(0.5, ⇒71 頁), 『スポーツ心理学』(0.5, ⇒74 頁), 『救急処置法』(0.5, ⇒83 頁)

【履修上の注意】1 回目の授業は総合体育館に運動のできる服装で集まってください.

【到達目標】

1. 体ほぐしの運動と体つくり運動に対する知識とスキルの習得
2. この授業は，体験・参加型学習を導入している.

【授業計画】1. 体ほぐしとは (アイスブレーキングとコミュニケーションゲーム) **2.** ストレッチとリラクゼーション (静的運動) **3.** ウォーミングアップとクーリングダウン **4.** ボールを使ったレクリエーション・スポーツ (1) **5.** ボールを使ったレクリエーション・スポーツ (2) **6.** レクリエーション・ダンスとボディワーク **7.** アジリティトレーニング **8.** コーディネーショントレーニング **9.** 走・跳・投の動きづくりと体力つくり運動 **10.** 跳び箱と体つくり運動 **11.** マット運動と体つくり運動 **12.** 鉄棒と体つくり運動 **13.** 器械運動とサーキットトレーニング **14.** 運動と脈拍変動の実験 **15.** 持久力を高める体力つくり **16.** 総括及び振り返り

【成績評価】出席状況および授業内レポートで総合的に評価する.

【再試験】なし

【教科書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218592

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

【備考】隔年開講

コーチング論実習 II

1 単位 (選択) 2 年 (後期)
中村 久子・教授 / 人間文化学科

【授業目的】リズムやイメージの世界で踊る楽しさを理解し，イメージやテーマを全身で自由に表現する「創作ダンス」，伝統的な踊りを身につけて踊る「フォークダンス」，健康づくりのための現代的な音楽にのって踊る「エアロビクスダンス」を学習することによって，自らの能力に応じた課題を選び，グループで協力して課題を解決できるようにする.

【授業概要】ダンスのもつ文化性を理解し，自らの身体を使って創作表現したり，健康作りのためのダンスの指導法を身につける.

【キーワード】ダンス，健康，リズム，身体表現

【到達目標】身体を使って自己表現することが出来る

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 創作ダンス:即興による動きの創出 **3.** 創作ダンス:構成と空間の使い方:空間構成 **4.** 創作ダンス:構成と空間の使い方:時間構成 **5.** 創作ダンス:イメージ課題による表現 **6.** 創作ダンス:運動課題による表現 **7.** フォークダンス:日本の民踊 **8.** フォークダンス:西欧の民踊 **9.** 阿波踊り **10.** エアロビックダンス:有酸素運動とダンス **11.** エアロビックダンス:構成と指導法 **12.** 社交ダンス:基本の動き **13.** 社交ダンス:競技 **14.** ロック，ヒップ・ホップ **15.** まとめ

【成績評価】毎時間の活動において発表される課題 (50%), 出席時の課題解決に対する取り組み (50%)

【参考書】随時，参考資料を配付する.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218593

【連絡先】

⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】本年度開講せず

コーチング論実習 III

1 単位 (選択) 2 年 (後期)
小原 繁・教授 / 人間文化学科

【授業目的】走・跳・投といった陸上運動に関して，自己の能力に応じた課題解決，技術の獲得や記録の向上に必要な知識と技術を習得する. さらには陸上競技に必要な指導力を養成することを目的とする.

【授業概要】陸上競技に関する知識とスキルの習得

【キーワード】健康，体力，ランニング，跳躍，投てき

【到達目標】

1. 走動作，跳躍動作，投動作における身体の使い方を理解する.
2. これらの動作を競技レベルまで高めるための練習方法と健康や体力増進という目標で実施する場合の方法の違いについて理解できるようにする.

【授業計画】1. 短距離走:スタートとスタートダッシュ **2.** 短距離走:中間走法・フィニッシュとリレー **3.** 健康体力向上のためのウォーキングとジョギング **4.** 健康体力向上のためのジョギング **5.** 長距離走:スピードトレーニングと競走 **6.** ハードル走:ハードリングの方法 **7.** ハードル走:ハードル間のピッチとストライド **8.** ハードル走:総合疾走と競走 **9.** 走り幅跳び:反り跳びとはさみ跳びの跳躍方法 **10.** 走り幅跳び:助走と踏切 **11.** 走り高跳び:はさみ跳びとベリーロール **12.** 走り高跳び:背面跳び **13.** 投てき:砲丸投げ **14.** 投てき:円盤投げ **15.** 投てき:やり投げ **16.** 全体総括

【成績評価】出席状況 (80%), 小テスト授業内レポート (20%) で評価する.

【教科書】無し

【参考書】プリント配布

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218594

【連絡先】

⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 午後5時から6時)

コーチング論実習 IV

1 単位 (選択) 2 年 (後期)
三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】本授業では，バスケットボールの集団的技能およびや個人技能の実技指導を行い，作戦によるゲームの楽しみ方について学習をすすめる. また，バスケットボールの技術評価方法，体力的要素となるスピード，アジリティー，クイックネス，コーディネーション能力の知識とトレーニング法について理解する.

【授業概要】 バスケットボールの個人技能と集団技能のシステムを理解し，また，その指導方法を身につける.

【キーワード】バスケットボール

【到達目標】

1. バスケットボールの基礎的技術・技能を習得すること
2. バスケットボールに関連するコーディネーション能力を習得すること
3. バスケットボールの指導にかかわる知見を習得すること

【授業計画】1. 個人技能のチェック (パス・キャッチ，ドリブル，シュート) **2.** グループ分けと課題設定 **3.** ハーフコートでのパスゲーム (パスワークとフェイント) **4.** ツーゴール制パスゲーム (フリースペースの使い方) **5.** シュートの練習方法 **6.** ディフェンスの方法 (マンツーマンとゾーンディフェンス) **7.** オフェンスの方法 (速攻，セットオフェンス) **8.** チーム戦術の組み立て方 **9.** ゲーム分析法 **10.** バスケットボールに関連する SAQ トレーニング方法 **11.** バスケットボールに関連するコーディネーショントレーニング方法 **12.** リーグ制によるゲーム・試合分析 (1 回) **13.** リーグ制によるゲーム・

試合分析 (2 回)　**14.** リーグ制によるゲーム試合分析 (3 回)　**15.** 技術評価方法　**16.** 総括

【成績評価】授業参加態度，提出レポートを総合して評価する

【教科書】随時，関連する資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218595

【連絡先】

⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】H23 年度開講せず

コーチング論実習 V

1 単位 (選択) 2 年 (後期)
荒木 秀夫 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】この授業では，サッカーの技術を理解し，個人技能を高め，集団での技能や戦術を考えて実施できる能力を身につける．さらにこれらの種目に対する指導力を養成することを目的とする．

【授業概要】サッカーに関する知識とスキルの習得【 1. 基礎的運動の理論と実践 2. 球技・サッカーの運動としての基礎理論と基礎トレーニング法 3. スポーツにおける運動制御，知覚運動・コオーディネーション論に基づいたスキルトレーニングなどの応用】

【キーワード】サッカー，コオーディネーショントレーニング，スキルトレーニング

【履修上の注意】この授業では，主にサッカーを中心に実習を行うが，他のスポーツや楽器演奏にも共通する基礎運動の理論と実践をテーマとしている．これまでにスポーツを苦手と感じている学生も，積極的に受講することを望む．

【到達目標】運動の発達と学習についての実践的な理論を体験的に学習し，自らが自信の能力向上に応用する資質を得る．

【授業計画】1. サッカーの個人技能の確認 (ドリブル，リフティング)　**2.** パスとドリブルとトラップ (パス&ゴー)　**3.** ボールキープ (パスゲーム)　**4.** シュートとゴールキーパー　**5.** 守備の基本とグリッド練習　**6.** マークの仕方と 4×4　**7.** オープンスペースの使い方 4×4　**8.** 三角ポジジョンと攻守のカバーリング 7×7　**9.** オーバーラップとセンタリング 7×7　**10.** コーナーキック・セットプレー 11×11　**11.** オフサイドラインの守り方攻め方 11×11　**12.** チームのシステムと攻守の切り替え 11×11　**13.** チームのシステムとポジションチェンジ 11×11　**14.** サッカーの評価法　**15.** まとめ　**16.** 総括授業

【教科書】適宜，資料を配布する

【参考書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218596

【連絡先】

⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 授業終了後)

コーチング論実習 VI

1 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
行實 鉄平 · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】本授業では，有酸素運動に適した水中運動の体験を通して，水中での運動の留意点を理解するとともに，健康づくりに必要な運動に対する意識を高めることを目的にしている．具体的には，水中での身体の使い方と推進力の理論を踏まえ，水難救助の方法や，アクアアクササイズの実践，基本ストロークの技術練習や泳力練習などを行う予定である．

【授業概要】水中での運動の留意点を理解するとともに，水泳の 4 泳法をマスターする．

【キーワード】水中運動，水難救助法，アクアエクササイズ，*4* 泳法

【履修上の注意】本授業は夏季集中授業とする．事前オリエンテーションの日時は掲示板を確認すること．授業時に必要となる水着，タオル，給水用の水筒は各自で準備すること．また，成績評価のために 3/4 以上の出席数が必要となる．

【到達目標】水中運動に必要な基礎知識を理解するとともに，水泳指導に必要な基礎泳力 (具体的には 4 泳法を 25m 以上) を身につける．

【授業計画】1. オリエンテーション (授業内容の紹介)　**2.** 水中運動の留意点　**3.** 水中ウォーキング　**4.** アクアエクササイズ 1　**5.** アクアエクササイズ 2　**6.** 水中安全管理について　**7.** 溺者への対応　**8.** 水中運動プログラムの計画と管理　**9.** 蹴伸びの習得　**10.** フリーストロークの習得　**11.** ブレストストロークの習得　**12.** バックストロークの習得　**13.** バタフライストロークの習得　**14.** ターンの習得　**15.** 泳力テスト　**16.** 総括

【成績評価】講義も数時間実施するが基本的には実技が中心となるため，出席状況を重視する．さらに授業態度，技術点も評価する．評価配分は「出席 70%」「授業態度 20%」「技術点 10%」とする．

【再試験】実施しない

【教科書】資料を適宜配布する

【参考書】

- ◇ 日本水泳連盟 (編)「水泳指導教本【地域スポーツ指導者用】」大修館書店
- ◇ 日本赤十字社「赤十字水上安全法講習教本」
- ◇ 日本スイミング協会 (編)「アクアフィットネス・アクアダンスインストラクター教本」大修館

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218597

【連絡先】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 火曜午後)

【備考】隔年開講 平成 24 年度開講

コーチング論実習 VII

1 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 充宏 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】本授業では，バレーボールの技能を理解し，学習段階に応じた作戦を立て，防御から攻撃を生かしたゲームができるようにする．また，その指導法や技術評価法についても学ぶ．

【授業概要】バレーボールの個人技能を高め，防御から攻撃への展開をゲームに生かす指導法を身につける．

【関連科目】『コーチング論』(0.5, ⇒71 頁)

【到達目標】バレーボールの学習指導法を理解し，コーチングスキルを身につける

【授業計画】1. バレーボールの個人技能と動きづくり　**2.** バレーボールの特性論とラリーゲーム　**3.** パスとレシーブ　**4.** サーブ　**5.** レシーブからのトスワーク　**6.** スパイクとブロック　**7.** 3 段攻撃とポジショニング　**8.** 作戦の立て方・練習計画　**9.** 個人技能の評価のしかた　**10.** リーグ戦第 1 節:サーブとレシーブの評価　**11.** リーグ戦第 2 節:カバーリングの評価　**12.** リーグ戦第 3 節:防御から攻撃の組み立て　**13.** リーグ戦第 4 節:クイック攻撃とオープン攻撃　**14.** 集団戦術の評価のしかた　**15.** まとめ

【成績評価】実習内容 (60%)，バレーボールノート (20%)，課題レポート (20%)

【再試験】再試験は行わない

【教科書】適宜，資料を配布する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218598

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

コーチング論実習 VIII

1 単位 (選択) 2 年 (前期)
的場 秀樹 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】健康づくりの基本となるトレーニング手法について理解し，その指導の方法を身につける．

【授業概要】トレーニング方法の理解

【到達目標】健康づくりの基本となるトレーニング手法について理解し，その指導の方法を身につける．

【授業計画】1. トレーニングの原則　**2.** エネルギー代謝の理解と METS・エクササイズ　**3.** 身体活動量測定　**4.** 生活習慣病予防と有酸素機能を高めるトレーニング　**5.** 生活習慣病予防と筋持久力を高めるトレーニング　**6.** 生活習慣病予防と柔軟性・敏捷性を高めるトレーニング　**7.** 身体組成の測定　**8.** 静的レジスタンストレーニング実習　**9.** 動的レジスタンストレーニング実習　**10.** トレーニング計画と評価　**11.** 介護予防に関する体力測定　**12.** 介護予防トレーニング:ダンベル運動・チューブ運動・タオル運動　**13.** 介護予防トレーニング:チェアーエクササイズ・マットエクササイズ　**14.** 継続を支援するセルフモニタリング評価　**15.** 発育発達とトレーニング　**16.** まとめ

【成績評価】出席状況 (80%)，小テスト授業内レポート (20%) で評価する．

【再試験】なし

【教科書】使用しない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218599

【連絡先】

⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】本年度開講せず

運動文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 久子 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】文明が発達した現在では身体運動，スポーツ，ダンス等は健康のための手段として重要視されている．しかし，これらは健康のための手段として生まれてきたのではない．それぞれの運動やスポーツ，ダンスは各国，各地域の固有の文化として捉えることが出来る．本講義では，これらの内容及び歴史的な意味について概説し，現代社会における運動やスポーツ，ダンスを歴史社会学や文化人類学の観点から検討し，寄り深い認識を得ることを目的とする．

【授業概要】 生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついておく過程を歴史社会学の観点から分析し，現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する．

【キーワード】スポーツ，ダンス，生産形態，リズム

【到達目標】 生産形態とリズムが関わりをもつことを知り，ダンスやスポーツに与えてきた影響を知ることを到達目標とする．

【授業計画】1. 運動と文化-スポーツ，ダンスの発生 **2.** 遊びと余暇 **3.** 生産形態とリズム (5 つのリズム感) **4.** 山村畑作民のリズムとスポーツ・ダンス **5.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス 日本 **6.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス アジア **7.** 海洋漁撈民のリズムとスポーツ・ダンス **8.** 狩猟民のリズムとスポーツ・ダンス **9.** 牧畜民のリズムとスポーツ・ダンス **10.** 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 **11.** スポーツの遊技性と競争性 **12.** 近代スポーツの成立 **13.** 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ **14.** 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ **15.** まとめ

【成績評価】 レポート 50%，授業時に行う小レポート 50%

【教科書】 特に使用しない

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218366

【連絡先】
⇒ 中村 (3120，088-656-7209，nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

スポーツ心理学

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
賀川 昌明・，行實 鉄平・講師 / 人間文化学科

【授業目的】 スポーツ活動における運動技能の習得や発揮に関わる心理学的要因の種類や影響について述べるとともに，効果的なスポーツ活動を実践するための方法と留意点について学習する．

【授業概要】 各時間に提示されたテーマに関する解説を授業者が行った後，それらに関する質疑応答・討議を行う．

【キーワード】運動学習，パフォーマンス発揮，心理的要因，練習方法，人格形成

【到達目標】 運動技能の習得や発揮に関わる心理学的要因の種類や影響について理解する．

【授業計画】1. スポーツ心理学とは，何をする学問なのか． **2.** 人の運動行動の制御には，どのような器官がどのような形で関与しているのか．(運動制御) **3.** 人の運動行動の良し悪しは，どのような要因によって左右されているのか．(内的要因 1) **4.** 人の運動行動の良し悪しは，どのような要因によって左右されているのか．(内的要因 2) **5.** 人の運動行動の良し悪しは，どのような要因によって左右されているのか．(内的要因 3) **6.** 運動技能の習得段階において，どのような要因が影響を及ぼしているのか．(外的要因 1) **7.** 練習効果を高めるためには，どのようなことに留意しながら練習・指導すべきか．(外的要因 2) **8.** 練習効果を高めるための特殊な練習方法には，どのようなものがあるか．(心理的トレーニング 1) **9.** 練習効果を発揮させるためには，どのようなことに配慮すればよいか．(心理的トレーニング 2) **10.** 練習効果を発揮させるためには，どのようなことに配慮すればよいか．(心理的トレーニング 3) **11.** 練習効果を発揮させるために，ICT をどのような形で利用すればよいか． **12.** 人間の「遊び」は，子どもの発育・発達上，どのような意味を持っているか． **13.** スポーツ活動は，子どもの人格形成にどのような影響を与えるか． **14.** スポーツ活動と体育授業との関わりはどうあるべきか． **15.** これからのスポーツ活動における心理学的課題は何なのか． **16.** 最終テスト

【成績評価】 全授業時間の 2/3 以上の出席率を満たした者を評価の対象者とする．評価は出席率 [10%]，授業中に提示した課題に対する意見発表や提出物 [40%]，最終ペーパーテスト [50%] の結果を総合して行う．

【再試験】 無

【教科書】 特に指定しない．授業はパソコンによる資料提示によって行う．

【参考書】 第 1 回目の授業において紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218738

【連絡先】
⇒ 賀川 .
⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室，088-656-7286，yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)

【備考】 隔年開講．本年度開講せず

スポーツ栄養学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科，三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 スポーツを通して健康を増進し，さらにパフォーマンスを高めるための栄養の在り方について理解する．

【授業概要】 熱量素，保全素の役割および食品構成などの栄養学の基礎を講義した後，運動・スポーツと栄養の関連について述べる．

【キーワード】栄養，スポーツ，運動

【到達目標】 スポーツを通して健康を増進し，パフォーマンスを高めるための栄養の在り方を理解する．

【授業計画】1. 健康増進と食生活 **2.** 糖質の栄養学的役割 **3.** 脂質の栄養学的役割 **4.** タンパク質の栄養学的役割 **5.** ビタミン・ミネラルの栄養学的役割 **6.** 食品群と食品構成 **7.** 栄養・食事評価 **8.** 運動・スポーツとエネルギー代謝 **9.** 身体活動量の定量法 **10.** 筋力系・パワー系・持久系種目のための栄養 **11.** 運動時の水分補給 **12.** 栄養所要量 **13.** 酸化ストレスと抗酸化食品 **14.** 生活習慣病予防における栄養と運動の役割 **15.** まとめ **16.** 期末試験

【成績評価】 出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%) で評価する．

【再試験】 再試験は行なわない．

【教科書】 樋口満 (編著) コンディショニングのスポーツ栄養学，市村出版

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218736

【連絡先】
⇒ 的場 (3114，088-656-7208，matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

経営学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
高橋 意智郎・，石田 和之・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 大学生であること，アルバイト，サークル，部活動，ボランティア活動など企業でなくとも私たちは，日常生活の中で何かしらの組織に所属しています．この授業では，組織の中の人がどのように意思疎通を行い，組織として活動しながら目標を達成しているのか，また，組織にはどのような機能があるのかを学びます．組織の中の人，および集団レベルに焦点を当てた講義で，モティベーションやリーダーシップ，組織文化，心理的契約，集団浅慮など，企業でなくとも私たちの身の回りで起きている内容を扱います．また，主に組織構造や組織デザインの話を市場環境，戦略と関連させながら説明をします．

【授業概要】 組織理論の理解および活用

【キーワード】組織 (構造)，モティベーション，戦略

【履修上の注意】 この科目は，去年まで経営組織論と呼ばれていたもので，内容は経営組織論と同じです (現在，3 年生以上の人は経営組織論になります)．

【到達目標】 組織論の理論を用いて自分の身の回りに起きている現象を理解・解釈できるようになること

【授業計画】1. イントロダクション，経営組織論が扱う内容 **2.** 経営学の基礎:大まかな流れ **3.** 経営学の基礎:様々な人間観 (経済人から複雑人モデル) **4.** 組織の中の個人 (1):パーソナリティ **5.** 組織の中の個人 (2):意志決定 1 **6.** 意志決定 2 とモティベーション理論の基礎:内容理論 **7.** モティベーション理論の基礎:過程理論 **8.** リーダーシップ論の基礎 (1):特性論から開発論へ **9.** リーダーシップ論の基礎 (2) と組織と環境 **10.** 3 つの組織構造 **11.** ゲストスピーカー **12.** 組織と戦略 (1):環境分析 **13.** 組織と戦略 (2):2 つの戦略論 **14.** キャリア論と様々な働き方 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 期末試験:50%，中間試験 (もしくはレポート):30%，授業中ランダムに取る出席:20%を考えていますが，変更する可能性があります．その場合はアナウンスします．

【再試験】 行わない

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218544

【連絡先】
⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206，0886567169，k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報と職業
Information and Profession

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 敦也・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 情報化が産業，社会へどのように影響しているかを理解する

【授業概要】 情報システム，情報化のビジネスへの影響，情報技術の企業での利用状況，電子商取引，インターネットビジネス，情報産業，情報技術の人材育成，情報化の雇用と職業への影響などについて，受講生に主体的に調査，探求をしてもらい発表，議論をすることで理解を深める． 情報システムの発展という観点から，計算機の発展の歴史について解説する．

【キーワード】情報社会，ネット時代の職業，働く環境，*ICT* リテラシー，地域情報化

【到達目標】 情報社会におけるビジネス，職業に関する基礎知識を学び，職業観，就労・労働の意識の形成，キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー，ICT 利活用力を身につける．

【授業計画】1. 情報システムの概略 **2.** 情報システムの歴史 **3.** 情報システムの未来 **4.** 情報技術と社会システム **5.** 情報化のビジネスへの影響 **6.** ネット社会と企業経営 **7.** 地域情報化の事例研究 1 徳島:彩り事業 **8.** 地域情報化の事例研究 2 島根:Ruby City MATSUE プロジェクト **9.** 電子商取引とインターネットビジネス **10.** グループ発表 1 情報社会におけるビジネスのあり方について **11.** 情報化の雇用への影響 **12.** 情報化の職業への影響 **13.** 情報社会と組織変革 **14.** 情報社会における働き方 **15.** グループ発表 2 情報社会における職業観について

【成績評価】 授業貢献及び試験

【再試験】実施せず
【教科書】授業中に適宜指示
【参考書】
◇ 神沼靖子 (編著)「情報システム基礎」オーム社 2006
◇ 駒谷 昇一 (他著)「情報と職業」オーム社 2002
◇ その他授業中に適宜指示
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218715
【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】e ラーニングを併用する

福祉情報論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218969
【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域社会論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】地域社会をより深く理解するため，地域社会学および都市社会学の基本的な考え方を理解し，自分にあった地域社会へのアプローチ方法を見出し，地域分析ができるようになること．
【授業概要】 森岡清志編 (2008)『地域の社会学』有斐閣をテキストに，様々な視点に触れてもらう．その上で，テキストの引用文献などを参考にして，受講者の興味に沿った専門的な文献の内容を紹介してゆく．中間レポートでは，テキストのなかで受講者が関心をもったテーマに関するエッセイを書いてもらい，期末レポートでは自分の関心に合った文献を新たに 1 冊読んだ上で，その方法論に基づいたオリジナルレポートを書いてもらう．また，毎回，授業内容に関してのリアクションペーパーを提出してもらう．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 徳島の地域社会 **3.** < 地域 > へのアプローチ **4.** 地域社会とは何だろうか? **5.** 地域を枠づける制度と組織 **6.** 地域に生きる集団とネットワーク **7.** 地域が歴史を作り出す，歴史が地域を創り出す **8.** なぜ地域が大切か **9.** 子育てと地域 **10.** 学校と地域 **11.** 自営業者たちと地域社会 **12.** 高齢化と地域社会 **13.** エスニック集団と地域社会 **14.** 国家とグローバライゼーション **15.** 地域社会と未来
【成績評価】平常点と期末レポート
【教科書】森岡清志編 (2008)『地域の社会学』有斐閣
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218797
【連絡先】
⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))
【備考】本年度開講 (次年度開講せず・隔年開講)

市民活動論

2 単位 (選択) 2 年 (前期, 集中)
萩原 なつ子・教授, 樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】日本における市民活動の歴史，特定非営利活動促進法 (NPO 法) の施行の背景，NPO の社会的役割について理解を深める．
【授業概要】NPO 法人数が 4 万を超え，地域社会の課題の解決に果たす NPO の役割が大きくなっている．ここでは NPO についての基礎知識および新しい公共の視点から，NPO と行政，企業との協働等について，具体的事例を通して学ぶ．
【キーワード】***NPO/NGO*，特定非営利活動促進法，協働，新しい公共**
【履修上の注意】とくになし．
【到達目標】NPO の基礎知識およびこれに関連する概念と実際を理解する
【授業計画】**1.** 1 イントロダクション **2.** 日本における市民活動の歴史 **3.** NPO の基礎知識 (1) **4.** NPO の基礎知識 (2) **5.** 特定非営利活動促進法について **6.** 市民社会と NPO **7.** 新しい公共と NPO **8.** NPO の活動分野 **9.** NPO のマネジメント **10.** NPO の活動事例 **11.** 他セクターとの協働いついて **12.** NPO と行政との協働 **13.** NPO と企業との協働 **14.** NPO で働くということ **15.** まとめ
【成績評価】出席点+レポート
【再試験】行わない．
【教科書】『知っておきたい NPO のこと 増補版』日本 NPO センター編集・発行 (事前に必ず購入しておくこと)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218693
【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 集中講義期間中適宜．)
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

比較社会論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】「愛とケアの南北問題」について理解を深める．
【授業概要】少子高齢化，女性の就労，共働き世帯の増加などで生じた経済先進諸国での「ケア・クライシス」を解決するにはいくつかの方法が考えられる．本講義では，それらの方法を比較検討し，そのなかでも主に各々の家族が経済発展の遅れた国から安い賃金の女性労働者や「花嫁」を調達するアジア家族福祉レジームをシンガポールなどを例にみていく．そして，そのシステムの中で国境を越えて働く女性たちの生活の一部を紹介したい．
【キーワード】**家族の神話，貧困・格差**
【到達目標】
1. 女性の移動を，「コモンの侵食」「ケア流出」といった南北問題をして捉えることができる．
2. 本講義で議論する「ケア・クライシス」をグローバル化社会に生きる自分たちの問題として捉えることができるようになる．
【授業計画】**1.** オリエンテーション — 再生産労働のグローバル化 **2.** 国際労働移動の諸要因 **3.** アジア家族福祉レジーム **4.** 外国人家事・ケア労働者としての生活 **5.** 底辺労働者の抵抗のストラティジー **6.** 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント **7.** 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント **8.** NGO で作られるヒロインたち **9.** トランスナショナルなライフコース **10.** 日本での外国人研修生・実習生制度 **11.** 日本での外国人研修生・実習生制度 **12.** 結婚での国際移動 **13.** 結婚での国際移動 **14.** インドネシア・フィリピンの外国人介護士・看護士 **15.** 愛とケアの南北問題 **16.** まとめ
【成績評価】毎回のリアクションペーパーと学期末のレポートで評価
【再試験】無
【教科書】上野加代子『なぜ女は国境を越えるのか — アジアの出稼ぎ家事労働者』(仮題) 世界思想社, 2011 年
【参考書】毎回の授業レジメで紹介
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218949
【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

異文化間コミュニケーション

2 単位 (選択) 2 年 (前期, 集中)
坂田 浩・准教授/国際センター

【授業目的】現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である．海外とのやり取りが非常に複雑化，日常化してきている今，「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており，「今後日本人が他文化と共生してくことが出来るかどうか」は，私達日本人にとっても大きな課題であると言える． 本講義で実践する「異文化トレーニング」は，現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり，「文化差に直面した場合，どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである．本授業では，(1) 受講者自身が自らの文化に気づき，(2) 多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに，(3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケートして行く為の具体的方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする．
【授業概要】異文化トレーニング
【履修上の注意】 具体的な講義内容については，講義開始時に改めて提示する
【授業計画】**1.** 具体的な内容・計画は以下の通り． **2.** (1)「自文化を気づくトレーニング」 **3.** (2)「Perception/Programming のエクササイズ」 **4.** (3)「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 **5.** (4)「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 **6.** (5)「価値観の多様性に関するエクササイズ」 **7.** (6)「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 **8.** (7)「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 **9.** (8)「Organizational/Individual Challenges」 **10.** (9)「多文化で共生できる人とは?:DMIS」 **11.** (10)「多文化で共生する為のヒント:DIE」 **12.** (11)「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」 **13.** (12)「Action Planning:大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」 **14.** など
【成績評価】評価は，基本的には出席・レポートを基に行う．
【再試験】行わない
【教科書】なし
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218358
【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp)

【備考】他学科・他学部生も履修可能 (ただし，総合科学部生を優先)

地域交流史

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
東 潮・教授/人間文化学科，葭森 健介・教授/人間文化学科
衣川 仁・准教授/人間文化学科，佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通じ，各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を講義する．併せて学生がテーマを理解し，日本及び世界の未来について考え，国際人としての基礎知識と自覚を涵養する．

【授業概要】日本が東アジアの交流から国家を形成し，東アジア史の一翼を担うところから出発し，大航海時代を経て，東洋と西洋が出会い，世界史が形成される過程を講義する．

【キーワード】地域交流，世界史，国際関係

【履修上の注意】高校で習った世界史，日本史の授業内容を復習しておくこと．

【到達目標】学生が将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し，日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする．

【授業計画】1. 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る **2.** 册封体制と日本—日本国家の成立と東アジア史 (葭森) **3.** 邪馬台国と倭国 (東) **4.** 四-六世紀における東アジアの国際環境 (東) **5.** 飛鳥時代の国際環境 (東) **6.** 六朝隋唐国家と古代日本国家-律令制とは (葭森) **7.** 大陸・半島から日本へ (衣川) **8.** 東夷の小帝国-「日本」の自覚 (衣川) **9.** 中世日本と東アジアの交流 (衣川) **10.** モンゴル・ウルスの衝撃-世界史の序曲 (葭森) **11.** 大航海時代・黒死病・奴隷 (佐久間) **12.** プラントハンター・植物園・帝国の手先 (佐久間) **13.** イギリスのインド支配-熱帯をいかに飼い馴らすか-(佐久間) **14.** お茶・陶磁器・絹・銀そしてアヘン-貿易から戦争の時代へ (葭森) **15.** 期末試験 **16.** 地域交流と歴史-授業の総括 (葭森・東・衣川・佐久間)

【成績評価】授業への参加姿勢と期末試験で総合的に評価

【再試験】再試験はしない

【教科書】なし．授業でプリントを配布

【参考書】授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218780

【連絡先】
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 15:00)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
濱田 治良・教授/人間文化学科

【授業目的】次年度における卒業論文作成のために各学生の研究テーマを決定し，必要となる知識，技能を獲得する．

【授業概要】担当教員の指導に従い，研究テーマを方向付け，具体的な目標に向かって各学生が主体的に論文作成のための手続きを進める．

【先行科目】『知覚心理学』(1.0, ⇒68 頁), 『認知心理学』(1.0, ⇒81 頁)

【到達目標】卒業論文作成のためのテーマの決定，計画立案

【授業計画】1. 図形認知の論文講読 **2.** 図形認知の論文講読 **3.** 図形認知の論文講読 **4.** 図形認知の論文講読 **5.** 図形認知の論文講読 **6.** 図形認知の論文講読 **7.** 図形認知の論文講読 **8.** 図形認知の論文講読 **9.** 図形認知の論文講読 **10.** 図形認知の論文講読 **11.** 図形認知の論文講読 **12.** 図形認知の論文講読 **13.** 図形認知の論文講読 **14.** 図形認知の論文講読 **15.** 総括 **16.** 総括

【成績評価】論文講読の理解度などの平常点を総合して評価する．

【再試験】無

【参考書】資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220164

【連絡先】
⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
山本 真由美・教授/人間文化学科

【授業目的】卒業論文作成のためのテーマ決定のための基礎情報の獲得

【授業概要】卒業論文作成のための演習

【キーワード】生涯発達，発達障碍

【到達目標】卒業論文作成能力を身につける

【授業計画】1. オリエンテーション **2.** 生涯発達に関する購読 (1) **3.** 生涯発達に関する購読 (2) **4.** 生涯発達に関する購読 (3) **5.** 生涯発達に関する購読 (4) **6.** 発達障碍に関する購読 (1) **7.** 発達障碍に関する購読 (2) **8.** 発達障碍に関する購読 (3) **9.** 発達障碍に関する購読 (4) **10.** 発達検査に関する購読 (1) **11.** 発達検査に関する購読 (1) **12.** 発達検査に関する購読 (2) **13.** 発達検査に関する購読 (3) **14.** 発達検査に関する購読 (4) **15.** 保育施設の見学 **16.** まとめ

【成績評価】授業への参加態度，意欲，提出物などを総合的に勘案して評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】特に指定しない．その都度，提示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220165

【連絡先】
⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
佐藤 健二・教授/人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220166

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
境 泉洋・准教授/人間文化学科

【授業目的】本ゼミでは大学生を中心とした若年者の社会的自立のための認知行動療法の適用を中心的なテーマとしています．現代社会においては，不登校，高校中退，大学中退，フリーター，非正規雇用，ニート，ひきこもり，ワーキングプアー，自殺，過労死，早期離職など，若年者の社会的自立にまつわる課題が多く存在します．こうした課題の解決においては，心理的要因と社会的要因の双方を考慮するコミュニティ心理学の観点が重要となります． 若年者の社会的自立の中でも，担当教員は「ひきこもりの認知行動療法」を主な研究テーマとしています．ひきこもり支援における認知行動療法の適用は，まだ端緒についたばかりですが，本研究室では現在，ひきこもり経験者やその家族への集団認知行動療法の効果検証に力を入れています．

【授業概要】ゼミの時間では，各自がレポートを作成し，その発表を踏まえて議論を行います． 前期は，各自が興味のあるテーマについて日本語の学術論文を読解し，レポートにまとめ，発表を行い，議論を進めていきます．同時に，論文の検索方法，読み方，まとめ方を身につけることを目標とします．

【キーワード】臨床心理学，認知行動療法，学習心理学，コミュニティ心理学

【先行科目】『学習心理学』(1.0, ⇒81 頁), 『コミュニティ心理学』(1.0, ⇒69 頁)

【関連科目】『心理・健康ゼミナール II』(0.5, ⇒79 頁)

【到達目標】研究を行うための基礎知識を得るために学術論文を読む力の習得を目指します．

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 卒論作成の過程 **3.** 文献検索の方法 **4.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **5.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **6.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **7.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **8.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **9.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **10.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **11.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **12.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **13.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **14.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **15.** 各人の興味のあるテーマの日本語論文についてレジュメ作成，発表，議論．論文読解の指導． **16.** まとめ

【成績評価】発表，受講態度によって総合的に評価する

【再試験】原則として再試験は実施しないが，受講生の事情に応じて追加レポート等により合否の判定を行うこともある．

【教科書】特に指定しない

【参考書】行動療法研究

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220167

【連絡先】

⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

【備考】毎年開講

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
原 幸一・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】卒業論文の作成準備

【授業概要】各自が選択した文献を講読して発表する

【到達目標】文献を理解してまとめる

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 発表 1 **3.** 発表 2 **4.** 発表 3 **5.** 発表 4 **6.** 発表 5 **7.** 発表 6 **8.** 発表 7 **9.** 発表 8 **10.** 発表 9 **11.** 発表 10 **12.** 発表 11 **13.** 発表 12 **14.** 発表 13 **15.** 発表 14 **16.** まとめ

【成績評価】受講態度と発表内容

【再試験】なし

【教科書】適宜紹介

【参考書】学生自ら選択

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220168

【連絡先】
⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
山下 泰子・准教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220169

【連絡先】
⇒ 山下 (088-656-7193, yamashit@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
福森 崇貴・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】本ゼミナールでは特に，(1) 自他の感情の処理や制御に関する諸問題，(2) 青年期に見られやすい心理的問題，の 2 点に焦点を当て，臨床心理学，感情心理学，パーソナリティ心理学といった立場から検討を加えていく．その中で，各自が研究に必要なスキルを身につけ，同時に各自の研究テーマを見出していくことを目的とする．

【授業概要】上記に関連するテーマを扱っている雑誌論文を題材とし，それらを各自がまとめて発表する．そして討議のなかで，あるいは教員による部分的な講義によって，論文の読み方・研究デザイン・統計手法などの理解を深める．

【到達目標】心理学研究の考え方および研究遂行に当たり必要なスキルを身につけた上で，オリジナルな問題意識を見出すことを目標とする．

【授業計画】**1.** ガイダンス・自己紹介 **2.** 文献の集め方 **3.** 興味に関する発表 (1) **4.** 興味に関する発表 (2) **5.** 文献の読み方 **6.** 論文のルール **7.** 文献講読 (研究論文)(1) **8.** 文献講読 (研究論文)(2) **9.** 文献講読 (研究論文)(3) **10.** 文献講読 (研究論文)(4) **11.** 研究の進め方 **12.** テーマ発表 (1) **13.** テーマ発表 (2) **14.** 後期に向けた課題 **15.** まとめ **16.** 総括

【成績評価】授業への取り組み，課題発表などを元に総合的に評価する．

【再試験】無

【教科書】必要に応じてプリント等の資料を配付する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220170

【連絡先】
⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
内海 千種・講師 / 人間文化学科

【授業目的】このゼミナールでは，臨床心理学だけでなく各心理学領域の知見をもとに，現代社会における臨床心理学の役割について (限界も含めて) 議論を行いながら，卒業論文を執筆するために必要な基礎知識を学ぶことを目的とします．

【授業概要】各自関心のあるテーマの論文などを読解し，発表してもらいます．発表内容をもとに論文の書き方を学びながら，議論をすすめていきます．

【到達目標】卒業研究計画をたてるための基礎作りを目標とします．

【授業計画】**1.** はじめに **2.** 論文講読・発表 1 **3.** 論文講読・発表 2 **4.** 論文講読・発表 3 **5.** 論文講読・発表 4 **6.** 論文講読・発表 5 **7.** 中間まとめ **8.** 心理学論文の構成 **9.** 心理学論文の目的 **10.** 心理学論文の方法 **11.** 心理学論文の結果 **12.** 心理学論文の考察 **13.** 心理学論文の書き方まとめ **14.** 研究計画 (案) の発表 1 **15.** 研究計画 (案) の発表 2 **16.** 総括

【成績評価】評価は，課題への取り組み状況，発表内容をもとに総合的に行います．

【再試験】無

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220171

【連絡先】
⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
荒木 秀夫・教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220172

【連絡先】
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
小原 繁・教授 / 人間文化学科

【授業目的】人間の身体の機能に関する本や論文そして実習をとおして健康について知識を身に付ける．そしてその知識をどのように活用するかを議論をしながら考えを発展させる．

【キーワード】**健康，身体活動，食生活，睡眠，身体機能**

【到達目標】生活習慣病とは何かを理解する．身体の機能の変化を理解する．人間の行動変容を理解する．

【授業計画】**1.** 細胞の構造について **2.** 細胞内小器官の働きについて (その 1) **3.** 細胞内小器官の働きについて (その 2) **4.** 細胞膜の働きについて **5.** 生活習慣病 (その 1) **6.** 生活習慣病 (その 2) **7.** 生活習慣病 (その 3) **8.** 生活習慣病の予防 (その 1) **9.** 生活習慣病の予防 (その 1) **10.** 生活習慣病の予防 (その 1) **11.** 自律神経の働きについて **12.** ホルモンの働きについて **13.** 食事と睡眠について **14.** 身体活動の在り方について **15.** 試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席点 (30%)，受講態度 (質疑応答への態度)(30%)，試験 (40%)

【再試験】再試験は行わない

【教科書】資料を配付する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220173

【連絡先】
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎日午後4時15分ー5時00分の間(但し会議の場合を除く))

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
佐藤 充宏・教授 / 人間文化学科

【授業目的】スポーツ振興やスポーツ文化に関わる地域生活の問題をスポーツ社会学やコミュニティ・デザインの視点から分析する知識と技術を身につける．

【授業概要】スポーツ社会学研究の基礎演習

【到達目標】スポーツ社会学の基本的なものの見方考え方を学習しながら，自ら興味をもつ地域スポーツや地域の健康体力問題に関するテーマを決定する．先行研究の検討や統計資料の分析，現地調査等から，その問題を理解する方法を習得し，解決策について考える．課題レポートやパワーポイントによるプレゼンテーション能力を高める．

【授業計画】**1.** スポーツ社会学という視座 **2.** 社会問題をカタチに変えて考える **3.** 文献情報の集め方 **4.** 研究レポートのまとめ方 **5.** フィールドワーク計画 **6.** フィールドワーク実施 **7.** フィールドワーク報告 **8.** 研究雑誌の読み方 **9.** 研究雑誌のまとめ方 **10.** 社会調査とは研究法論議 **11.** 質的研究と量的研究の論議・ **12.** 社会システム論議 **13.** 身体論とスポーツ文化論 **14.** プレゼンテーションの仕方 **15.** ゼミナール学習成果発表会

【成績評価】レポート，発表，フィールドワークの態度を総合して評価する

【再試験】再試験は行わない

【教科書】適宜，資料を配布する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220174

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
中村 久子・教授 / 人間文化学科

【授業目的】スポーツやダンスを身体文化としてとらえ，それらが生まれた背景を知ることを目的とする．

【授業概要】文献を調査したり，フィールド・ワークを通して民俗スポーツや民俗舞踊がどのように行われているかを知り，それらが生まれてきた背景を探る．

【キーワード】スポーツ，ダンス，フィールド・ワーク

【到達目標】民俗スポーツや民俗舞踊の実態を知り，それらを生み出した背景を理解する．

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 民俗スポーツを理解する I **3.** 民俗スポーツを理解する II **4.** 民俗スポーツを理解する III **5.** 民俗舞踊を理解する I **6.** 民俗舞踊を理解する II **7.** 民俗舞踊を理解する III **8.** フィールド・ワークを通して民俗スポーツを知る I **9.** フィールド・ワークを通して民俗スポーツを知る II **10.** フィールド・ワークを通して民俗スポーツを知る III **11.** フィールド・ワークを通して民俗舞踊を知る I **12.** フィールド・ワークを通して民俗舞踊を知る II **13.** フィールド・ワークを通して民俗舞踊を知る III **14.** フィールド・ワークの結果を発表する **15.** まとめ

【成績評価】レポート 50%，授業に対する取り組み 20%，成果の発表 30%

【再試験】なし

【参考書】随時，資料を配付する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220175

【連絡先】

⇒ 中村 (3120，088-656-7209，nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220176

【連絡先】

⇒ 的場 (3114，088-656-7208，matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】スポーツ科学 (健康体力学・バイオメカニクス) の研究に関する理論とともに研究方法の技能を学ぶ．テーマに関して調査・実験を行い，その結果を発表する．これらの活動を通して上記の理論・技能を学ぶ．

【授業概要】認識形成力，すなわち問題設定がしっかりできる能力および発表能力を高める．そのために，興味を持ったテーマについて，文献を探し，それを講読し，その内容の発表を行う．

【キーワード】ゼミナール，健康体力学，バイオメカニクス，文献検索

【先行科目】『応用解剖生理学』(1.0，⇒71 頁)，『運動生理学』(1.0，⇒68 頁)

【関連科目】『コーチング論』(0.5，⇒71 頁)，『スポーツ科学実験実習』(0.5，⇒84 頁)

【到達目標】

1. 健康体力学に関する文献の検索及び講読ができる
2. 自分で問題を発見しようとする態度の養成 (探究型学習の導入)
3. プレゼンテーション能力の養成

【授業計画】1. 健康体力学の基礎知識 **2.** 研究テーマの見つけ方・文献検索の方法 (1) **3.** 文献講読，発表，討論 (1) **4.** 文献講読，発表，討論 (2) **5.** 文献講読，発表，討論 (3) **6.** 文献講読，発表，討論 (4) **7.** 文献講読，発表，討論 (5) **8.** 講読した文献をプレゼンテーション資料にまとめる **9.** テーマに関するプレゼンテーション **10.** 研究テーマの見つけ方・文献検索の方法 (2) **11.** 文献講読，発表，討論 (6) **12.** 文献講読，発表，討論 (7) **13.** 文献講読，発表，討論 (8) **14.** 実験計画の立案 (1) **15.** 実験計画の立案 (2) **16.** まとめ

【成績評価】授業への参加状況，プレゼンテーションの状況などを総合的に評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】適宜，資料を配付する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220177

【連絡先】

⇒ 佐竹 (2M15，088-656-7212，satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】主に生理的視点から見た，からだの働きを科学的にとらえ，そこで得られた知識・技術を健康の維持増進に関わる健康分野，疾病予防と運動とに関わる運動療法・リハビリテーション分野，疾病診断・検出に関わる医療分野等へ貢献できる知識を養うこと

【授業概要】生理学的分野の英文・邦文の学術論文を読み，基礎的知識を身につける．さらに研究内容を紹介し，集団で論議することでプレゼンテーション能力，ディスカッション能力を身につける．

【キーワード】健康，運動，医療，リハビリテーション

【到達目標】現代の健康，運動，医療に関わる諸問題に対して，その解決のために自分自身でどのようにアプローチできるか，その解決のための理論を修得すること．

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 健康に関する論文紹介 I **3.** 健康に関する論文紹介 II **4.** 健康に関する論文紹介 III **5.** 健康に関する論文紹介 IV **6.** 運動に関する論文紹介 I **7.** 運動に関する論文紹介 II **8.** 運動に関する論文紹介 III **9.** 運動に関する論文紹介 IV **10.** 予防医学に関する論文紹介 I **11.** 予防医学に関する論文紹介 II **12.** 予防医学に関する論文紹介 III **13.** 予防医学に関する論文紹介 IV **14.** 体力に関する論文紹介 I **15.** 体力に関する論文紹介 II **16.** 総括

【成績評価】授業への取り組み，訳読，討論，レポートなどを総合的に評価する．

【教科書】資料は随時配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220178

【連絡先】

⇒ 三浦 (3122，088-656-7288，hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
行實 鉄平・講師 / 人間文化学科

【授業目的】スポーツは今や生活のいたるところに存在し，身近なものになってきました．しかし，定期的・継続的にスポーツを行っている人は意外と少なく，また，女性や高齢者，障害を持った方々など対象によっては，その環境はもっと深刻です．スポーツを「みんなが楽しめる文化」として普及・振興していくために何が必要なのか．このゼミでは，スポーツの供給側 (スポーツ行政，学校運動部活動，公共スポーツ施設，民間スポーツ施設，スポーツ指導者など) や，需要側 (住民，生徒・児童，会員，高齢者，障害者など) に関わる様々な問題点を考え，それを解決していく方策を検討していきます．

【授業概要】スポーツに関わる諸問題に対し，スポーツ経営学的視点をよりどころに，理論と実践を通して，そのアプローチを自分自身で考え，解決する能力を身につける．その成果は，卒業論文としてまとめる．

【キーワード】スポーツマネジメント，スポーツの普及振興

【先行科目】『スポーツマネジメント論』(1.0，⇒70 頁)，『レジャーマーケティング論』(1.0，⇒82 頁)，『スポーツ社会学』(1.0，⇒69 頁)

【履修上の注意】後期開講の「心理・健康ゼミナール II」もあわせて履修すること．

【到達目標】

1. スポーツの普及・振興に関する問題の把握 (テーマ設定)
2. 各自，興味関心のあるテーマに関する文献収集 (先行研究の収集)
3. 社会調査に関する知識とデータ分析方法の習得 (分析技術の習得)
4. 卒論テーマに即した調査実施，及びプレゼンテーション (実践・分析・発表)

【授業計画】1. オリエンテーション **2.** スポーツ経営学領野の研究紹介 1 **3.** スポーツ経営学領野の研究紹介 2 **4.** スポーツ経営学領野の研究紹介 3 **5.** スポーツ経営学領野の研究紹介 4 **6.** 文献調査 1 **7.** 文献調査 2 **8.** 文献調査 3 **9.** 文献調査 4 **10.** フィールド調査 1 **11.** フィールド調査 2 **12.** フィールド調査 3 **13.** フィールド調査 4 **14.** プレゼンに向けた議論 1 **15.** プレゼンに向けた議論 2 **16.** プレゼンテーション

【成績評価】評価方法は「出席 50%」「態度 20%」「プレゼンテーション 30%」といった 3 視点での総合評価．

【再試験】なし

【教科書】なし．各自の問題意識に応じた文献を適宜紹介していく．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220179

【連絡先】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室，088-656-7286，yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
濱田 治良・教授 / 人間文化学科

【授業目的】次年度における卒業論文作成のために各学生の研究テーマを決定し，必要となる知識，技能を獲得する．

【授業概要】担当教員の指導に従い，研究テーマを方向付け，具体的な目標に向かって各学生が主体的に論文作成のための手続きを進める．

【先行科目】『知覚心理学』(1.0，⇒68 頁)，『認知心理学』(1.0，⇒81 頁)

【到達目標】卒業論文作成のためのテーマの決定，計画立案

【授業計画】1. 幾何学的錯視の論文講読 **2.** 幾何学的錯視の論文講読 **3.** 幾何学的錯視の論文講読 **4.** 幾何学的錯視の論文講読 **5.** 明るさ錯視の論文講読 **6.** 明るさ錯視の論文講読 **7.** 明るさ錯視の論文講読 **8.** 明るさ錯視の論文講読 **9.** 明るさ錯視の論文講読 **10.** 短期記憶の論文講読 **11.** 短期記憶の論文講読 **12.** 短期記憶の論文講読 **13.** 短期記憶の論文講読 **14.** 短期記憶の論文講読 **15.** 総括 **16.** 総括

【成績評価】論文講読の理解度などの平常点を総合して評価する．

【再試験】無

【参考書】資料を配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220180
【連絡先】
⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
山本 真由美・教授 / 人間文化学科

【授業目的】卒業論文作成のためのテーマを決定し，研究計画を立てる．
【授業概要】心理健康ゼミナール I を踏まえ，研究計画に結びつく論文を検索し，まとめる．
【キーワード】**生涯発達，発達障碍，学習支援ボランティア**
【到達目標】卒業論文作成能力を身につける
【授業計画】**1.** オリエンテーション **2.** 論文検索方法について **3.** 論文検索，購読，レジメ作成，発表 (3~ 14) **4.** 学習支援ボランティアについて **5.** まとめ
【成績評価】授業への参加態度，意欲，提出物などを総合的に勘案して評価する．
【再試験】行わない．
【教科書】特に指定しない．その都度，提示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220181
【連絡先】
⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
佐藤 健二・教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220182
【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
境 泉洋・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】本ゼミでは大学生を中心とした若年者の社会的自立のための認知行動療法の適用を中心的なテーマとしています．現代社会においては，不登校，高校中退，大学中退，フリーター，非正規雇用，ニート，ひきこもり，ワーキングプアー，自殺，過労死，早期離職など，若年者の社会的自立にまつわる課題が多く存在します．こうした課題の解決においては，心理的要因と社会的要因の双方を考慮するコミュニティ心理学の観点が重要となります． 若年者の社会的自立の中でも，担当教員は「ひきこもりの認知行動療法」を主な研究テーマとしています．ひきこもり支援における認知行動療法の適用は，まだ端緒についたばかりですが，本研究室では現在，ひきこもり経験者やその家族への集団認知行動療法の効果検証に力を入れています．
【授業概要】ゼミの時間では，各自がレポートを作成し，その発表を踏まえて議論を行います． 後期は，興味のあるテーマについての日本語，英語の学術論文を読み，議論を行います．そして，前期，後期の学習を踏まえ，卒業論文の計画を作成していきます．
【キーワード】**臨床心理学，認知行動療法，学習心理学，コミュニティ心理学**
【先行科目】『学習心理学』(1.0, ⇒81 頁)，『コミュニティ心理学』(1.0, ⇒69 頁)，『心理・健康ゼミナール I』(1.0, ⇒76 頁)
【到達目標】研究計画立案能力の習得を目指します．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 夏休み課題の発表 **3.** 夏休み課題の発表 **4.** 夏休み課題の発表 **5.** 各人の興味のあるテーマの日本語，英語論文についてレジュメ作成，発表，議論．卒論構想発表． **6.** 各人の興味のあるテーマの日本語，英語論文についてレジュメ作成，発表，議論．卒論構想発表． **7.** 各人の興味のあるテーマの日本語，英語論文についてレジュメ作成，発表，議論．卒論構想発表． **8.** 各人の興味のあるテーマの日本語，英語論文についてレジュメ作成，発表，議論．卒論構想発表． **9.** 各人の興味のあるテーマの日本語，英語論文についてレジュメ作成，発表，議論．卒論構想発表． **10.** 各人の興味のあるテーマの日本語，英語論文についてレジュメ作成，発表，議論．卒論構想発表． **11.** 卒論構想発表 **12.** 卒論構想発表 **13.** 卒論構想発表 **14.** データ入力実習 **15.** データ解析実習 **16.** まとめ
【成績評価】発表，受講態度によって総合的に評価する
【再試験】原則として再試験は実施しないが，受講生の事情に応じて追加レポート等により合否の判定を行うこともある．
【教科書】特に指定しない
【参考書】行動療法研究
【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220183
【連絡先】
⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)
【備考】毎年開講

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
原 幸一・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】卒業論文を作成のために文献をよみ，方向性を持つ
【授業概要】自らテーマを設定する
【到達目標】卒業論文の作成にむけて努力する
【授業計画】**1.** 問題意識を持つ **2.** 文献講読発表 1 **3.** 文献講読発表 2 **4.** 文献講読発表 3 **5.** 文献講読発表 4 **6.** 文献講読発表 5 **7.** 文献講読発表 6 **8.** 文献講読発表 7 **9.** 文献講読発表 8 **10.** 文献講読発表 9 **11.** 文献講読発表 10 **12.** 文献講読発表 11 **13.** 文献講読発表 12 **14.** 文献講読発表 13 **15.** 文献講読発表 14 **16.** テーマ設定
【成績評価】出席と発表内容
【再試験】なし
【教科書】使用しない
【参考書】適宜紹介
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220184
【連絡先】
⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
山下 泰子・准教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220185
【連絡先】
⇒ 山下 (088-656-7193, yamashit@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
福森 崇貴・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】本ゼミナールでは特に，(1) 自他の感情の処理や制御に関する諸問題，(2) 青年期に見られやすい心理的問題，の 2 点に焦点を当て，臨床心理学，感情心理学，パーソナリティ心理学といった立場から検討を加えていく．その中で，各自が研究に必要なスキルを身につけ，同時に各自の研究テーマを見出していくことを目的とする．
【授業概要】教員主導のもと，調査または実験研究を実施し，実際の研究プロセスを体験する．
【到達目標】心理学研究の考え方および研究遂行に当たり必要なスキルを身につけた上で，オリジナルな問題意識を見出すことを目標とする．
【授業計画】**1.** 課題発表 (1) **2.** 課題発表 (2) **3.** 研究計画についての議論 (1) **4.** 研究計画についての議論 (1) **5.** 研究準備 (1) **6.** 研究準備 (2) **7.** 研究実施 (1) **8.** 研究実施 (2) **9.** 研究実施 (3) **10.** データ入力に関する説明・データ入力 (1) **11.** データ入力 (2) **12.** データ解析に関する説明 **13.** データ解析 (1) **14.** データ解析 (2) **15.** 論文形式でのまとめ方 **16.** 総括
【成績評価】授業への取り組み，課題発表などを元に総合的に評価する．
【再試験】無
【教科書】必要に応じてプリント等の資料を配付する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220186
【連絡先】
⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
内海 千種・講師 / 人間文化学科

【授業目的】このゼミナールでは，臨床心理学だけでなく各心理学領域の知見をもとに，現代社会における臨床心理学の役割について (限界も含めて) 議論を行いながら，卒業研究の計画をたてることを目的とします．
【授業概要】各自関心のあるテーマの論文などをもとに研究計画をたて，発表してもらいます．
【到達目標】卒業研究計画をたてることを目標とします
【授業計画】**1.** はじめに **2.** 論文講読・発表 1 **3.** 論文講読・発表 2 **4.** 論文講読・発表 3 **5.** 論文講読・発表 4 **6.** 論文講読・発表 5 **7.** 中間まとめ **8.** 研究計画の発表 1 **9.** 研究計画の発表 2 **10.** 研究計画の発表 3 **11.** 研究計画の発表 4 **12.** 研究計画の発表 5 **13.** 研究計画についてのまとめ **14.** プレゼンテーションについて 1 **15.** プレゼンテーションについて 2 **16.** 総括
【成績評価】評価は，課題への取り組み状況，発表内容をもとに総合的に行います
【再試験】無
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220187
【連絡先】

⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
荒木 秀夫・教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220188
【連絡先】
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
小原 繁・教授 / 人間文化学科

【授業目的】人間の健康に関することを知識として学びながら，その事を実験的に確かめて知識をより具体的にする．このステップを経て，4 年次の卒業研究へとつなげる．
【授業概要】論文と講読と実習を通じて知識を高める．
【キーワード】**循環系機能，血圧，代謝，自律神経**
【到達目標】身体機能の変動について理解する．身体機能の測定評価方法を理解する．
【授業計画】**1.** 心臓機能に関する論文講読 (1) **2.** 心臓機能に関する測定実習 (1) **3.** 心臓機能に関する論文講読 (2) **4.** 心臓機能に関する測定実習 (2) **5.** 血圧に関する論文講読 (1) **6.** 血圧に関する測定実習 (1) **7.** 血圧に関する論文講読 (2) **8.** 血圧に関する測定実習 (2) **9.** 自律神経系機能に関する論文講読 **10.** 自律神経系機能に関する測定実習 **11.** 糖・脂肪代謝に関する論文講読 (1) **12.** 糖・脂肪代謝に関する測定評価 (1) **13.** 糖・脂肪代謝に関する論文講読 (2) **14.** 糖・脂肪代謝に関する測定評価 (2) **15.** 授業全体に対する口頭試問 **16.** 総括授業
【成績評価】授業への取組態度 50%，口頭試問 50%
【再試験】再試験は行わない
【教科書】資料配付
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220189
【連絡先】
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎日午後4時15分ー5時00分の間(但し会議の場合を除く))

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
佐藤 充宏・教授 / 人間文化学科

【授業目的】スポーツ振興やスポーツ文化に関わる地域生活の問題をスポーツ社会学やコミュニティ・デザインの視点から分析する知識と技術を身につける．卒業研究のテーマについて検討し方向づける．
【授業概要】スポーツ社会学研究法の習得と研究テーマの設定
【到達目標】地域のスポーツや健康づくり現場に赴き，調査を実施するとともに，研究手法の理解を深める．社会調査分析方法を習得する．卒業研究に向けてレポート発表を積み重ね，テーマを決定する．
【授業計画】**1.** 研究を設計する **2.** 面接調査法 **3.** 面接調査法を活用した研究 **4.** 質問紙調査法 **5.** 質問紙調査法を活用した研究 **6.** 量的データの取り方 **7.** 社会統計手法 **8.** 結果の表現 **9.** 問題意識からテーマを見つける **10.** 先行研究のまとめ **11.** 調査の設計法 **12.** 調査の実施 **13.** 調査のデータ分析 **14.** 調査のまとめ **15.** 研究計画の発表
【成績評価】学習態度，レポート，提出物，発表を総合して評価する．
【再試験】再試験は行わない
【教科書】適宜，資料を配布する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220190
【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
中村 久子・教授 / 人間文化学科

【授業目的】自ら課題を持ち，興味をもった民俗スポーツや民俗舞踊について調査したり，文献を収集し，それらをまとめて発表する．
【授業概要】興味をもった民俗スポーツや民俗舞踊について資料や文献を収集したり，フィールド・ワーク等調査をすることで何が見えてくるのかをまとめる．また，その成果について発表の仕方を学ぶ．
【キーワード】**民俗スポーツ，民俗舞踊，フィールド・ワーク**
【到達目標】資料収集，フィールド・ワーク，調査等を通して自らの課題を明らかにする．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** テーマを決め，どのような資料を収集するかを考える． **3.** 収集した資料をまとめる I **4.** 収集した資料をまとめる II **5.** 収集した資料をまとめる III **6.** フィールド・ワークを行う I **7.** フィールド・ワークを行う II **8.** 資料をまとめ，その成果を発表する I **9.** 資料をまとめ，その成果を発表する II **10.** 資料をまとめ，その成果を発表する III **11.** フィールド・ワークの成果を発表する I **12.** フィールド・ワークの成果を発表する II **13.** テーマに沿った導入，展開，まとめを考える． **14.** 今後の資料収集，調査，フィールド・ワークのあり方について考える． **15.** まとめ
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220191
【連絡先】
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220192
【連絡先】
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】スポーツ科学 (健康体力学) の研究に関する理論とともに研究方法の技能を学ぶ．テーマに関して調査・実験を行い，その結果を発表するという経験を通して上記の理論・技能を学ぶ．
【授業概要】興味を持ったテーマについて実験を行い，その結果を発表する．また，外国文献の講読，4 年次での卒業研究のテーマについても考える．必要とする理論的・技術的事項は，これらの活動を通して適宜，講義する．
【キーワード】**健康体力学，実験，プレゼンテーション**
【先行科目】『スポーツ科学実験実習』(1.0, ⇒84 頁)，『応用解剖生理学』(1.0, ⇒71 頁)，『運動生理学』(1.0, ⇒68 頁)
【到達目標】
1. 健康体力学に関する理論とともに研究方法の技能を習得する
2. 課題解決的態度の養成 (探究型学習の導入)
3. プレゼンテーション能力の養成
【授業計画】**1.** 外国語文献の講読 (1) **2.** 外国語文献の講読 (2) **3.** 実験計画の確認 **4.** 実験の実施 (1) **5.** 実験の実施 (2) **6.** 実験の実施 (3) **7.** 実験の実施 (4) **8.** 実験の実施 (5) **9.** 実験結果の分析と考察 (1) **10.** 実験結果の分析と考察 (2) **11.** 実験結果をポスターにまとめる **12.** プレゼンテーション実習 **13.** 卒業研究の取り組み方 **14.** 卒業研究のテーマを考える (1) **15.** 卒業研究のテーマを考える (2) **16.** まとめ
【成績評価】授業への参加態度及び発表の内容など総合的に評価する
【再試験】なし
【教科書】なし
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220193
【連絡先】
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】主に生理的視点から見た，からだの働きを科学的にとらえ，そこで得られた知識・技術を健康の維持増進に関わる健康分野，疾病予防と運動とに関わる運動療法・リハビリテーション分野，疾病診断・検出に関わる医療分野等へ貢献できる測定・評価技能を養うこと．
【授業概要】身体の機能・構造を主に生理学的な指標で測定・評価する手法を身につける．さらにデータの解析・分析方法も身につける．
【キーワード】**健康，運動，医療，リハビリテーション**
【到達目標】現代の健康，運動，医療に関わる諸問題に対して，その解決のために自分自身でどのようにアプローチできるか，その解決のための測定・評価の技能を修得すること．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 身体構造の測定法 I **3.** 身体構造の測定法 II **4.** 身体構造の測定法 III **5.** 身体構造の評価法 I **6.** 身体構造の評価法 II **7.** 呼吸機能の測定法 I **8.** 呼吸機能の測定法 II **9.** 呼吸機能の評価法 **10.** 循環機能の測定法 I **11.** 循環機能の測定法 II **12.** 循環機能の評価法 **13.** 代謝機能の測定法 I **14.** 代謝機能の測定法 II **15.** 代謝機能の評価法 **16.** 総括
【成績評価】授業への取り組み，訳読，討論，レポートなどを総合的に評価する．
【教科書】資料等は随時配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220194
【連絡先】
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理・健康ゼミナール II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
行實 鉄平 · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】スポーツは今や生活のいたるところに存在し，身近なものになってきました．しかし，定期的・継続的にスポーツを行っている人は意外と少なく，また，女性や高齢者，障害を持った方々など対象によっては，その環境はもっと深刻です．スポーツを「みんなが楽しめる文化」として普及・振興していくために何が必要なのか．このゼミでは，スポーツの供給側 (スポーツ行政，学校運動部活動，公共スポーツ施設，民間スポーツ施設，スポーツ指導者など) や，需要側 (住民，生徒・児童，会員，高齢者，障害者など) に関わる様々な問題点を考え，それを解決していく方策を検討していきます．

【授業概要】スポーツに関わる諸問題に対し，スポーツ経営学的視点をよりどころに，理論と実践を通して，そのアプローチを自分自身で考え，解決する能力を身につける．その成果は，卒業論文としてまとめる．

【キーワード】**スポーツマネジメント，スポーツの普及振興**

【先行科目】『スポーツマネジメント論』(1.0, ⇒70 頁)，『レジャーマーケティング論』(1.0, ⇒82 頁)，『スポーツ社会学』(1.0, ⇒69 頁)

【履修上の注意】前期開講の「心理・健康ゼミナール I」を履修しておくこと．

【到達目標】
1. スポーツの普及・振興に関する問題の把握 (テーマ設定)
2. 各自，興味関心のあるテーマに関する文献収集 (先行研究の収集)
3. 社会調査に関する知識とデータ分析方法の習得 (分析技術の習得)
4. 卒論テーマに即した調査実施，及びプレゼンテーション (実践・分析・発表)

【授業計画】**1.** 質的 (インタビュー) 調査の計画 1 **2.** 〃 2 **3.** 質的 (インタビュー) 調査の実施 **4.** 質的 (インタビュー) 調査の分析 1 **5.** 〃 2 **6.** 〃 3 **7.** 質的 (インタビュー) 調査のまとめ **8.** 量的 (アンケート) 調査の計画 1 **9.** 〃 2 **10.** 〃 3 **11.** 量的 (アンケート) 調査の実施 **12.** 量的 (アンケート) 調査の分析 1 **13.** 〃 2 **14.** 〃 3 **15.** 量的 (アンケート) 調査のまとめ **16.** プレゼンテーション

【成績評価】評価方法は「出席 50%」「態度 20%」「プレゼンテーション 30%」といった 3 視点での総合評価．

【再試験】なし

【教科書】なし．各自の問題意識に応じた文献を適宜紹介していく．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220195

【連絡先】
⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室，088-656-7286，yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)

人格心理学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
原 幸一 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】格はその人を表すことばである．その人の個性とも云えることから多くの人に共通する特性まであります．人格がどのように形成され，どのように理解でいるのかを諸理論，測定方法などを紹介します．

【授業概要】人格の概念，測定の方法，さまざまな理論，人格に関わる要因，逸脱や人格に関わる誤解などについて講義をする．

【キーワード】**人格，気質，測定**

【到達目標】人格と関連する心理学的な事実についての理解．

【授業計画】**1.** 人格とは **2.** 人格理解の歴史 類型論 **3.** 特性論 **4.** 人格の測定・1 **5.** 人格の測定・2 **6.** 人格の測定・3 **7.** 人格の説明理論 1 **8.** 人格の説明理論 2 **9.** 人格の説明理論 3 **10.** 人格の要因 **11.** 人格の形成 1 **12.** 人格の形成 2 **13.** 人格に関わる障害 1 **14.** 人格に関わる障害 2 **15.** まとめ 1 **16.** レポート作成

【成績評価】2/3 以上の出席を必要条件として，受講態度 30% レポート 70%

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義中に紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220196

【連絡先】
⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

認知心理学

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
濱田 治良 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】外的環境に対する人間の優れた適応力を，私たちは日常生活のなかで疑問に思うことがないが，考え直してみると極めて不思議なことである．人間は外的環境の認知を物理的な刺激からだけではなく，記憶や知識体系との統合によって実現している．本講義では，心理学的な実験を通して明らにされた研究成果を紹介しながら，できるだけ平易に人間の認知の機能について考察する．特に，外的環境に対する空間の認知，パタ-ン認知，人間の記憶などを人間の情報処理の観点から概説し，人間を理解する試みを紹介する．

【授業概要】パターン認知と人間の記憶

【先行科目】『知覚心理学』(1.0, ⇒68 頁)

【履修上の注意】講義は随時資料を配付しながら進める．

【到達目標】人間が外的環境の認知を物理的な刺激からだけでなく，記憶や過去経験との統合によって実現していることを理解する．

【授業計画】**1.** 空間の認知 **2.** 大きさの恒常性 **3.** 大きさ · 距離不変仮説 **4.** パターン認知 **5.** 形の恒常性 **6.** 対称性の認知 **7.** 心的回転 **8.** 視覚的注意 **9.** 画像貯蔵庫 **10.** 音響貯蔵庫 **11.** 短期貯蔵庫からの忘却 **12.** 短期貯蔵庫の容量 **13.** 短期貯蔵庫からの情報検索 **14.** 長期貯蔵庫への情報の記入 **15.** 維持リハーサルと精緻化リハーサル

【成績評価】中間試験，期末試験，レポート及び出席状況によって評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】資料を配布する．

【参考書】中溝 · 箱田 · 近藤訳「情報処理心理学入門 I·II·III 」サイエンス社， 大村彰道訳「人間の記憶-認知心理学入門」東大出版会， 御領 · 菊地 · 江草共著「認知心理学への招待」サイエンス社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220197

【連絡先】
⇒ 濱田 (3S02，088-656-7195，hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 濱田 (3S02，088-656-7195，hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育相談

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
福森 崇貴 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】学校現場では日々，様々な問題が起こっている．このような背景のもと，生徒たちの「その子らしさ」と一体どのように付き合っていけばよいのだろうか．そのような問いについて教育相談という立場から考えると共に，現場の実際や問題への対応について理解することを目的とする．

【授業概要】教育相談に関する基礎理論及び学校現場の実際について

【到達目標】教育相談の意義と必要性について考え，その上で，一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につけることを目標とする．

【授業計画】**1.** ガイダンス —教育相談とは何か— **2.** カウンセリングの基本的理論 **3.** 傾聴の実際 その 1 **4.** 傾聴の実際 その 2 **5.** 話の促し その 1 **6.** 話の促し その 2 **7.** 沈黙への対応 **8.** カウンセリング場面の実際 **9.** 生徒理解に向けて **10.** 問題行動とその対応 その 1:不登校 **11.** 問題行動とその対応 その 2:いじめ **12.** 問題行動とその対応 その 3:その他の問題 **13.** 保護者との関わり **14.** まとめ **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】期末試験，授業への取り組みなどを元に総合的に評価する．

【再試験】無

【教科書】特に指定せず，必要に応じて資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220198

【連絡先】
⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康心理学

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
佐藤 健二 · 教授 / 人間文化学科，内海 千種 · 講師 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220199

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05，088-656-7202，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)
⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

学習心理学

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
境 泉洋 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】記憶，思考，言語，行動の学習の基礎について学ぶことを目的とする．そして，学習心理学の基礎的知識が臨床にどのように応用されているかを理解することを目的とする．

【授業概要】記憶，思考，言語，行動の学習について講義を行う．そして，応用においては学習心理学を基盤に発展してきた認知行動療法を中心に取り上げ，学習心理学の臨床心理学への応用について講義をすすめていく．受講生に発表の機会を与え，プレゼンテーション，ディスカッションの実践も行う．

【キーワード】**学習心理学，臨床心理学，認知行動療法**

【関連科目】『コミュニティ心理学』(0.5, ⇒69 頁)

【履修上の注意】授業で配付した資料をホームページで公開するので，欠席した場合など適宜参照すること．

【到達目標】学習心理学の基礎知識を身につけるとともに，その臨床応用の概要を理解する．

【授業計画】1. 行動と認知の学習 **2.** レスポンデント条件付け **3.** オペラント条件付け **4.** 技能学習 **5.** 社会的学習 **6.** 記憶と忘却 **7.** 言語の学習 **8.** 思考の学習 **9.** 学習の条件 **10.** 臨床心理学と学習心理学 **11.** 不安と学習心理学 **12.** 抑うつと学習心理学 **13.** 怒りと学習心理学 **14.** 発達と学習心理学 **15.** 定期試験 **16.** まとめ

【成績評価】出席，受講態度，発表，レポート，期末テスト等により総合的に評価する．

【再試験】原則として再試験は実施しないが，受講生の事情に応じて追加レポート等により合否の判定を行うこともある．

【教科書】教科書は使用しない．資料は授業中にプリントを配付する．参考図書などは適宜紹介する．

【参考書】
- ◇ 山内光哉・春木 豊 (編著) 2001 グラフィック学習心理学:行動と認知 サイエンス社 2550 円
- ◇ 多鹿秀継 (編著) 2008 学習心理学の最前線:学びのしくみを科学する あいり出版 1900 円
- ◇ 福井 至 (編著) 2008 図解による学習理論と認知行動療法 培風館 2800 円

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220200

【連絡先】
⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

【備考】毎年開講

人間形成論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
木内 陽一・非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】人間形成の様態を，哲学的，思想史的立場から考究する．

【授業概要】人間形成論の立場から見た西田幾多郎の哲学

【キーワード】西田幾多郎，京都学派の哲学，教育哲学，教育思想史

【履修上の注意】近代日本哲学の代表者のひとり，西田幾多郎 (1870-1945) の著作を読んで，近代日本の哲学思想，人間形成論の一端に触れてみましょう．哲学や思想史の知識がなくても，興味があれば受講して下さい．

【到達目標】「人間形成」論の成立した，歴史的・社会的状況がわかる/近代の人間観の概要がわかる/初期の西田哲学の概要がわかる

【授業計画】1. はじめに—なぜ「人間形成」は「問題」になるのか? **2.** 近代の人間観—イマヌエル・カントの事例 **3.** 近代人間形成論の展開 (1)—中世から近代へ **4.** 近代人間形成論の展開 (2)—19 世紀から現代へ **5.** 外国人が見た近代日本の文化と教育—ラフカディオ・ハーンの事例 (1) **6.** 外国人が見た近代日本の文化と教育—ラフカディオ・ハーンの事例 (2) **7.** 人間形成論としての西田哲学—西田幾多郎の人と思想 **8.** 「実在」とは何か (1) **9.** 「実在」とは何か (2) **10.** 「純粋経験」を考える (1) **11.** 「純粋経験」考える (2) **12.** 「善」とは何か (1) **13.** 「善」とは何か (2) **14.** 西田の宗教観 (1) **15.** 西田の宗教観 (2) **16.** まとめ—人間形成論としての西田哲学

【成績評価】レポートの提出を求める．

【再試験】口述試験をおこなう．

【教科書】西田幾多郎 (全注釈:小坂国継)『善の研究』(講談社学術文庫)(本書には岩波文庫版もあるが，全注釈がついた講談社学術文庫版を購入してほしい．)

【参考書】参考文献は，授業中に紹介する．また，必要な資料はプリントを配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220201

【連絡先】
⇒ 木内 (kiuchi@naruto-u.ac.jp)

スポーツ障害論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
小原 繁・教授 / 人間文化学科

【授業目的】運動に伴う関節や筋肉の障害について医師にかかる前にどのような対応や処置をとるのかを判断するための知識を学ぶ．そのために関節や筋肉の構造や靭帯の役割を学び，様々なスポーツや運動の場面でどのような障害が起こる可能性があるかについても学ぶ．またその予防法についても理解する．

【授業概要】身体の構造と機能を理解し，スポーツによって起こる障害の理解と対応について学習する．

【キーワード】骨，筋，関節，靭帯，炎症

【到達目標】身体の動作と筋肉，関節への負担の関係を理解できるようになる．スポーツ障害への応急処置ができるようになる．

【授業計画】1. 骨の構造と機能 **2.** 筋の構造と機能 **3.** 靭帯の構造と機能 **4.** 炎症について **5.** 足関節と周囲筋群の構造と機能と障害 **6.** 膝関節と周囲筋群の構造と機能と障害 **7.** 股関節と周囲筋群の構造と機能と障害 **8.** 手首の関節と周囲筋群の構造と機能と障害 **9.** 肘関節と周囲筋群の構造と機能と障害 **10.** 頚部や肩関節と周囲筋群の構造と機能と障害 **11.** 脊柱の構造と周囲筋群の機能および障害 **12.** 頭部打撲時の対応 **13.** スポーツ障害に対する救急処置 **14.** 障害を有しているときの運動・スポーツの在り方 **15.** 障害予防のための筋力トレーニングとストレッチング法 **16.** 試験と総括

【成績評価】出席点 50%，筆記試験 50%

【再試験】再試験として筆記試験を行う．

【教科書】資料を配付する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220202

【連絡先】
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎日午後4時15分ー5時00分の間(但し会議の場合を除く))

レジャーマーケティング論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
行實 鉄平・講師 / 人間文化学科

【授業目的】我が国のレジャー産業は 80 兆円という市場規模にまで成長し，現在もなお発展し続けている．本授業では，レジャー産業のなかでも特にスポーツという視点から産業全体を概観していく．具体的には，スポーツとビジネスを結びつけるために必要なマーケティングに関する技術を，顧客志向の考え方や消費者行動論，経営戦略論等も交えながら紹介することで，レジャーマーケティングに関する基本的な考え方の理解を深めることを目的とする．

【授業概要】レジャーマーケティングの基本的な考え方や技術に対する理解を深め，それらを事業戦略に反映させるための基礎知識を身に付ける．

【キーワード】スポーツ産業，スポーツマーケティング，顧客志向，消費者行動，経営戦略

【先行科目】『スポーツマネジメント論』(1.0, ⇒70 頁)，『スポーツ社会学』(1.0, ⇒69 頁)

【履修上の注意】受講者は，テキストとして指定している教科書を必ず購入すること．また，毎回，授業終了時に授業内容に関する意見・感想・質問などの感想文を提出してもらう．

【到達目標】レジャーマーケティングに関する基礎知識を理解するとともに，事業戦略について思慮できる能力を身につける．

【授業計画】1. オリエンテーション (レジャー産業の概要) **2.** スポーツ産業の発展と動向 1(進化するスポーツ産業) **3.** スポーツ産業の発展と動向 2(スポーツ用品・施設空間産業) **4.** スポーツ産業の発展と動向 3(スポーツとメディア産業) **5.** スポーツマーケティングのマネジメント理論 1(基本的な考え方) **6.** スポーツマーケティングのマネジメント理論 2(戦略的マーケティングミックス) **7.** スポーツサービスの特徴とスポーツ消費者の行動特性 **8.** スポーツ組織を取り巻くステークホルダー **9.** スポーツ施設のマーケティング戦略 **10.** スポーツイベントのマーケティング戦略 **11.** プロスポーツチーム・リーグのマーケティング戦略 **12.** スポーツスポンサーシップ **13.** スポーツツーリズム **14.** コミュニティビジネスとしての可能性を持つコミュニティスポーツ **15.** まちづくりの担い手を育むスポーツボランティアとソーシャル消費 **16.** 総括

【成績評価】評価は「出席」「学習態度」「レポート」の 3 つの視点で評価する．評価配分は，「出席 30%」「学習態度 10%」「レポート 60%」とする．

【再試験】実施しない

【教科書】原田宗彦 (編)「スポーツ産業論」第 4 版 杏林書院 (2008) その他資料を適宜配布する

【参考書】
- ◇ 八代勉・中村平 (編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店
- ◇ 山下秋二・原田宗彦 (編)「図解スポーツマネジメント」大修館書店
- ◇ 原田宗彦 (編)「スポーツマーケティング」大修館書店
- ◇ 伊佐淳・松尾匡・西川芳昭 (編)「市民参加のまちづくり コミュニティビジネス編」創成社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220203

【連絡先】
⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

地域健康福祉論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 俊夫・教授 (併任) / 大学開放実践センター

【授業概要】少子高齢化が進む日本社会にあって，医療費の増加に歯止めをかけ，高齢者の QOL を維持していくことは極めて重要・至難な社会的課題である．この健康福祉に関して，国の施策方針から地域現場における具体的な実践例まで，さまざまなレベルにおける取組を学習し，その成果と課題について考察する．さらに，今後の健康福祉政策のあるべき姿について考えていく．

【キーワード】 **健康福祉，メタボリックシンドローム，介護予防，運動指針**

【授業計画】**1.** 地域健康福祉概論 **2.** アメリカと日本における健康福祉政策 **3.** 健康福祉を担う指導者 **4.** メタボリックシンドロームと健康福祉政策 **5.** 運動基準・運動指針 **6.** 介護予防・高齢者医療と健康福祉政策 **7.** 県レベルにおける健康福祉への取り組み **8.** 市町村レベルにおける健康福祉への取り組み **9.** 民間企業・団体における健康福祉への取り組み **10.** 具体的な実践事例 1(生活習慣病と運動疫学) **11.** 具体的な実践事例 2(健康づくり運動とカウンセリング支援) **12.** 現場の声を聞く 1(メンタルヘルスと運動の効果) **13.** 現場の声を聞く 2(ストレスアセスメントと運動指導) **14.** 地域健康福祉の未来像を探る **15.** まとめ

【成績評価】出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%)

【再試験】しない

【教科書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220354

【連絡先】
⇒ 田中 (088-656-7280, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

救急処置法

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
野村 昌弘・，佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】運動指導時における傷病の救急処置法や運動傷害予防法を学ぶ

【授業概要】運動者の健康管理で必要とされる救急処置・応急処置と運動障害予防のための手法を習得させる．

【キーワード】**障害予防，傷害予防，応急処置，救急蘇生**

【先行科目】『応用解剖生理学』(1.0, ⇒71 頁)

【関連科目】『コーチング論』(0.5, ⇒71 頁)

【到達目標】
1. ・バイタルサインのチェックの習得
2. ・救急処置法の習得

【授業計画】**1.** 傷病者の観察とバイタルサイン **2.** 運動による内科的障害 **3.** 内科的障害の予防 **4.** 運動による上肢の傷害と予防 **5.** 運動による下肢の傷害と予防 **6.** 運動による脊柱の傷害と予防 **7.** 止血の理論と実際 **8.** 皮膚外傷の処置と対応 **9.** 救急処置総論 **10.** 救急蘇生の理論と実際 **11.** 対症処置各論:熱中症 **12.** 対症処置各論:薬物・アレルギー **13.** 救急医薬品 **14.** 医療的ケア **15.** 定期試験 **16.** 総括

【成績評価】講義の出席状況と試験

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義内に資料を提示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220204

【連絡先】
⇒ 野村 .

健康行動論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
荒木 秀夫・教授 / 人間文化学科，小原 繁・教授 / 人間文化学科
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科，佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科
三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】授業で習得した知識や態度が，自己の生活や社会活動に生かされ，健康で豊かな，そして安全な生活が営まれることを目標とする．授業は健康運動，生活行動，安全管理をテーマに進める．

【授業概要】健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし，健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う．具体的には，健康障害や事故の予防，それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する．

【キーワード】**健康問題，生活行動，運動・スポーツ活動**

【先行科目】『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0, ⇒22 頁)，『健康体力科学の基礎』(1.0, ⇒23 頁)

【関連科目】『地域健康福祉論』(0.5, ⇒82 頁)，『健康教育学』(0.5, ⇒69 頁)，『健康心理学』(0.5, ⇒81 頁)

【到達目標】
1. 地域社会の生活環境の創造への貢献
2. 人間科学に関わる幅広い知識の理解

【授業計画】**1.** 健康とは **2.** 健康と運動 **3.** 健康運動の方法 **4.** スポーツと健康 **5.** 薬物と健康 (服薬者の運動実施と注意点) **6.** 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 **7.** 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 **8.** 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 **9.** 発育発達期の身体的特徴，心理的特徴 **10.** 発育発達期に多いケガや病気 **11.** 運動中に多い病気とその予防 **12.** 運動中に多いケガとその予防 **13.** 現代の健康 **14.** 環境と健康 **15.** これからの健康 **16.** 総括

【成績評価】レポート，小テスト，授業の取り組み方などで総合的に評価する．

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220344

【連絡先】
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

経営学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期, 集中)
高橋 意智郎・，石田 和之・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】経営戦略は，企業の将来像とそれを達成するための道筋です．戦略に関する理論を学び，理論を用いて企業を分析する力を養成することを目的とします．

【授業概要】経営戦略論の基本的な考え方を説明します．

【キーワード】**戦略，組織，競争優位**

【到達目標】経営戦略の理論を用いて新聞記事や雑誌記事で書かれていることを理解・分析できるようになること

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 4 つの枠組み **3.** ポジショニング・アプローチ (1) **4.** ポジショニング・アプローチ (2) **5.** 一般戦略 **6.** 資源アプローチ **7.** リジカルシンキング **8.** 中間試験 **9.** 市場細分化 **10.** 市場地位別戦略 **11.** 学習アプローチ **12.** プロダクト・ライフ・サイクル **13.** PPM とゲーム論 **14.** 多角化の理論 **15.** 期末試験 **16.** まとめ

【成績評価】期末試験 50%，中間レポート 30%，受講態度 20%．

【再試験】なし

【教科書】未定

【参考書】随時配布．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220365

【連絡先】
⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域構造論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
豊田 哲也・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】都市地理学の基本問題を扱う．「都市論」は，建築学，社会学，歴史学，芸術等の幅広い分野において，かつてない大きな関心を集めるようになった．こうした思潮に先んじて，地理学では都市研究に多くの蓄積を重ねてきた．都市地理学と呼ばれる学問分野は，空間的側面から都市の機能や形態に注目し，これを系統立てて理解しようとする．本講義では都市をシステム論的な視点から把握し，都市と都市との関係 (inter-urban system) と，都市内部における地域と地域の関係 (intra-urban system) の二つの空間スケールから，都市形成のメカニズムを広く考察する．また，日本や世界の事例を数多く取り上げ，現代の都市が直面する課題について空間的視点から検討をおこなう．

【授業概要】都市地理学の基本問題

【キーワード】**地理学，地域科学，都市システム，空間構造，地域問題**

【関連科目】『地理学の基礎 I』(0.5, ⇒93 頁)，『都市・交通計画』(0.5, ⇒108 頁)，『地域社会論』(0.5, ⇒75 頁)

【履修上の注意】都市をキーワードとして各回の話題は歴史学，社会学，経済学，建築学，心理学へと広がる．授業中はノートをきちんと取って復習に役立ててほしい．この授業は教員免許取得 (中学校・社会，高校・地歴) のための「教科に関する科目」にあたる．なお，「地域構造論」(平成 23 年度開講予定) と「地理学の基礎 I」(平成 24 年度開講) とは，隔年で交互に開講される．

【到達目標】都市地理学が扱う幅広いテーマについて学説史をふまえた基礎的知識を学び，複雑な現象の背後にはたらく諸要因を理論的に検討する能力を身につけることを到達目標とする．

【授業計画】**1.** 都市地理学の分析視角 **2.** 都市の成立と歴史的展開 **3.** 経済発展と中心-周辺モデル **4.** 都市の順位・規模モデル **5.** 都市の機能と類型区分 **6.** 都市成長と経済基盤モデル **7.** 中心地理論と都市システム **8.** 中間テスト **9.** 都市の内部構造理論 **10.** 都市の地価形成と土地利用 **11.** 都市空間の知覚とメンタルマップ **12.** 都市圏の構造変化 **13.** 都市構造と社会階層の分極化 **14.** 経済のグローバル化と世界都市 **15.** 期末テスト **16.** 授業の総括

【成績評価】期間中 2 回に分けて実施する試験の成績 (80%) に，授業への取り組み (20%) を総合的に加味する．

【再試験】なし．

【教科書】
◇ 高橋伸夫・菅野峰明・村山祐司・伊藤悟 『新しい都市地理学』 東洋書林
◇ 富田和暁・藤井正編『新版・図説大都市圏』古今書院

【参考書】参考文献は授業でそのつど紹介する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218779
【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 13:00)
【備考】隔年開講のため，平成 24 年度は開講しない．

情報社会と情報倫理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化社会，知的所有権とプライバシー，情報危機管理
【授業概要】この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する．受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し，収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり，情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める．
【キーワード】情報リテラシー
【到達目標】現代社会における人，企業，物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める．
【授業計画】**1.** 1. 情報化社会の到来 1.1 「情報」とは何か，1.2 コンピュータが動作する仕組み **2.** 1.3 ネットワークによる通信の仕組み，1.4 [情報の価値] と [情報量]，[情報伝達] **3.** 1.5 情報化社会の到来，1.6 社会の情報化の進展と，文化 · 人間性の変化，レポート 1 **4.** 2. 知的所有権と プライバシー 2.1 著作権 **5.** 2.2 そのほかの知的所有権，2.3 プライバシー，レポート 2 **6.** 3. 情報倫理 3.1 情報倫理はどうして「倫理」なのか，3.2 情報化社会における原則 **7.** 3.3 情報倫理に必要な知識，3.4 情報ネットワークを利用するときの判断のあり方，レポート 3 **8.** 4. 情報危機管理 4.1 情報危機管理がなぜ必要か，4.2 現実のシステム運用上の事件と，その原因と対策 **9.** 4.3 運用ポリシーと利用者の価値観 **10.** 4.4 運用規約と管理組織，レポート 4 **11.** 4.5 不正アクセスとセキュリティ **12.** 5. ケーススタディ **13.** 5.1 発表と評価 1 **14.** 5.2 発表と評価 2 **15.** 5.3 発表と評価 3 **16.** まとめ
【成績評価】レポートとケーススタディの研究発表で総合的に評価する．
【教科書】教科書:辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220349
【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 24時間(yos@ias.tokushima-u.ac.jp))

心理学実験実習 III

1 単位 (選択) 3 年 (前期)
原 幸一 · 准教授 / 人間文化学科，山本 真由美 · 教授 / 人間文化学科
内海 千種 · 講師 / 人間文化学科，福森 崇貴 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】心理学実験実習 I では，心理臨床場面で用いられるいくつかの心理検査を通じて，心理査定 (心理アセスメント) のあり方を体験的に学習することを目的としている．個人のパーソナリティを理解することは容易ではないが，質問紙法検査や投映法検査などのさまざまな心理検査を総合的に用いることで，「その人らしさ」が少しずつ見えてくるのである．ここでは，自分自身が心理検査を受けることで，その特徴や意義を理解すると同時に，自身のあり方について考える機会になると思う．
【授業概要】心理査定 (心理アセスメント) の実際と自己理解
【キーワード】**パーソナリティ検査，知能検査，ロールシャッハ · テスト，バウムテスト**
【先行科目】『心理学実験実習 II』(1.0, ⇒71 頁)
【関連科目】『健康心理学』(0.5, ⇒81 頁)，『人格心理学』(0.5, ⇒81 頁)
【履修上の注意】各教員が 3~ 4 回の授業を担当する．実習形式の授業なので，主体的な参加が必要となる．また，各心理検査に対する自分自身の反応から自己理解 (自分自身への気づき) を深めることも期待したい．なお，課題レポートは提出期限を厳守することとする．
【到達目標】心理検査の実施方法や解釈法などを習得し，心理学的アセスメントを行うための基本的技法を獲得することを目指す．また，自身の検査結果を基に自己分析を行い，自己理解を深めることを目標とする．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 質問紙法 (YG 性格検査) **3.** 質問紙法 (TEG) **4.** 作業検査法 (クレペリン) **5.** 知能検査 (概論) **6.** 知能検査 (実施) **7.** 知能検査 (事例検討) **8.** 中間まとめ **9.** ロールシャッハ法 (理論) **10.** ロールシャッハ法 (実施) **11.** ロールシャッハ法 (解釈) **12.** バウムテスト (理論) **13.** バウムテスト (実施) **14.** バウムテスト (解釈) **15.** まとめ **16.** レポート試験の解説
【成績評価】授業態度や出席，および各教官が課するレポートの成績を総合して判断する
【再試験】なし
【教科書】各教員が実習中に適宜紹介する
【参考書】各教員が授業中に適宜紹介する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220205
【連絡先】
⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (3s06, 088-656-7192, yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 内海 (uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)

心理学実験実習 IV

1 単位 (選択) 3 年 (後期)
佐藤 健二 · 教授 / 人間文化学科，濱田 治良 · 教授 / 人間文化学科
境 泉洋 · 准教授 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220206
【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:10-12:40)
⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

スポーツ科学実験実習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
佐竹 昌之 · 准教授 / 人間文化学科，荒木 秀夫 · 教授 / 人間文化学科
小原 繁 · 教授 / 人間文化学科，的場 秀樹 · 教授 / 人間文化学科
三浦 哉 · 准教授 / 人間文化学科，野村 昌弘 ·

【授業目的】スポーツ科学に関する基礎的な実験を行い，スポーツを科学的に認識する態度を養う．
【授業概要】運動生理学，運動生化学およびバイオメカニクス領域の基礎的な実験を取り上げ，測定を通して実験方法とデータのまとめ方を理解する．1 授業は 180 分連続で行われる．
【キーワード】**身体構造，身体機能，運動負荷テスト**
【先行科目】『運動生理学』(1.0, ⇒68 頁)，『応用解剖生理学』(1.0, ⇒71 頁)
【履修上の注意】計画は，受講者数等によって変更がありますので，1 回目の授業には必ず参加してください．
【到達目標】
1. スポーツ科学に関する基礎的な実験方法，データのまとめ方等を理解する
2. この授業は体験・参加型学習を導入しています．
【授業計画】**1.** オリエンテーション・形態計測・新体力テスト **2.** 筋力・パワー測定 **3.** 運動負荷試験とは **4.** 運動負荷試験の実際:呼吸循環機能の測定 **5.** 運動負荷試験の実際:酸素摂取量・換気応答の測定 **6.** 反射と応答 **7.** 筋と筋電図 **8.** 知覚運動と脳波 **9.** 身体活動時の酸素動態 **10.** 血中乳酸濃度の測定 **11.** 血糖値の測定 **12.** タンパク質の定量 **13.** 心機能 **14.** 体温 · 皮膚温 **15.** データ整理 · レポート作成 **16.** まとめ
【成績評価】出席状況 (60%)，実験レポート (40%) で評価する
【再試験】なし
【教科書】なし
【参考書】各実習時に資料を配布する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220207
【連絡先】
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 野村 .

ウェルネス・プロジェクト実習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
佐藤 充宏 · 教授 / 人間文化学科，行實 鉄平 · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】地域における自治体や NPO 団体，企業，学校等が実施するスポーツ振興や健康体力づくり事業や体育授業に参画して，アセスメント，計画，実施，評価，改善のマネジメント能力を身につける．一般学生の場合は，プロジェクト事業として事業運営についてのマネジメント手法を習得する．保健体育教員免許取得希望者の場合は，「実技指導実践」をテーマに，学校における部活動指導補助のインターンシップ，または，地域クラブが実施する青少年スポーツ教室に参画し，武道，水泳等の実技の体系の理解や指導法を習得する．
【授業概要】スポーツ振興や健康体力づくりに関する事業の実技指導や運営方法の習得
【履修上の注意】健康運動指導士取得希望者の場合は，派遣先が「民間スポーツクラブ」に指定される．
【到達目標】インターンシッププロジェクトを企画し運営することで現場における実践力を高める
【授業計画】**1.** プロジェクトテーマ設定と PCM **2.** PCM① 問題分析・課題分析 **3.** PCM② アプローチ分析・解決策 **4.** 実習先でのヒアリング実習 実習ガイダンス **5.** 実習における目標設定 **6.** 実施計

画の策定 **7.** 事業参画「参加対象者の分析」 **8.** 事業参画「観察と介入」 **9.** 事業参画「補助の仕方」 **10.** 事業参画「コミュニケーションスキル」 **11.** 事業参画「アプローチの選定」 **12.** 事業参画「ファシリテーション」 **13.** 事業参画「継続支援」 **14.** 事業評価法 **15.** 報告書の作成 **16.** 総括

【成績評価】実習態度，実習ノート，レポートを総合して評価する．

【再試験】再試験は実施しない

【教科書】適宜，資料を配布する．

【参考書】適時，資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220208

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週木曜日夕方)

比較文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

有馬 卓也・教授/人間文化学科，田島 俊郎・教授/人間文化学科
桂 修治・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること．

【授業概要】従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする．日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について，担当の教員がそ今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の 3 セクションに分けて，それぞれのセクションに各人 1 回程度講義を提供する．その際，それぞれにテーマを提示したうえで，担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して，具体的な事例をもとに論じていく．概要の趣旨に沿って，「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる．.「自文化と異文化」「文学 (レトリック，物語・民間伝承など)」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばられることになろうが，その際にも，具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる．

【キーワード】比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容

【到達目標】国際的感覚を涵養し，総合的な文化研究を身につけること．

【授業計画】1. 導入「比較文化」とはなにか? **2.** セクション 1「未知の世界に触れる」(1 回目から 5 回目まで):「文化」とは何かを考えながら，様々な世界の見方を提示する．好奇心の大切さ，比較という方法について述べる．個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「犯罪」「自文化/他文化」「日本の中の異文化」など **3.** セクション 2「違いを楽しむ」(6 回目から 10 回目まで) 多面的にものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する．個別のテーマとしては，「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「レトリック」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禅」など **4.** セクション 3「つながりを見つける」(11 回目から 15 回目まで) 文化の中の違いを認めながらも，そこに思いがけないつながりを見つけ，総合的に世界を見ること提示する．個別のテーマとしては，「交流」「異文化教育」「文化の影響」「シナジー」「情調における文化の交感」など

【成績評価】期末レポートと平常点．期末レポートは 5 人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの．平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う．

【再試験】有

【教科書】必要に応じてプリントなどを配布する．

【参考書】各教員から授業の中で課題図書が示される．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2010.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218954

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時可)

⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)

⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3-4 時間，金曜 5-6)

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本経済と社会

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業目的】変動過程にある日本型経済システムの骨格を理解し，転換の課題を確認する．

【授業概要】かつて「経済大国」に駆け上がった日本経済は凋落過程にある．また，格差社会・無縁社会・限界集落など，多くの社会問題が一斉に激化している．その転換をいかに図るか，歴史経過を踏まえて考察する．

【キーワード】日本経済，社会システム，維持可能な社会

【到達目標】

1. 高度成長期に形成された日本経済の構造的な特質を理解できる．

2. 経済システムの転換をめぐる理念と政策の対抗関係を理解できる．

【授業計画】1. 日本経済のたそがれ 日本経済閉塞の指標 講義計画 **2.** 高度経済成長の時代 国民経済の急膨張と日本型システムの形成 **3.** 成長至上主義の社会 経済成長を可能にする条件 大衆消費時代 **4.** 高度成長方式の破綻 「東洋の軌跡」の終焉 破綻の内外要因 **5.** 「国際分業論」の欠陥 効率性を優先する加工貿易型の歪んだ経済構造 **6.** 大量生産・大量消費 経済成長と資源・環境問題 「公害列島」日本 **7.** 土建国家日本の構図 生産基盤整備を図る大型公共事業と推進体制 **8.** 経済大国と生活小国 資本効率の追求と福祉の低迷 低位な労働環境 **9.** 財政破綻と小さな政府 「日本株式会社」を牽引した政府財政の破綻 **10.** グローバル化の投影 先進国の積極的多国籍化と世界経済システム **11.** 新自由主義への傾斜 「政府の失敗」 市場原理主義への誘導 **12.** 新たな社会問題の噴出 各種格差の発現 「この国のかたち」への批判 **13.** 市場の失敗と各種 NPO 公共領域の劣化と社会的経済への期待 **14.** 維持可能な社会の展望 成長至上主義を克服する経済構造への転換 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本型システムの分解と Sustainable Society への道

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末筆記試験による．出席状況で補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220356

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

世界経済論 I
World Economy1

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は，その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し，その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた．講義では，この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う．

【授業概要】世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【キーワード】貿易理論，学説史，開発政策，政治経済学

【到達目標】学説史，学説，現状に係わる論点の理解．

【授業計画】1. 産業資本主義以前の世界経済 (遠隔地貿易と重商主義) **2.** 自由貿易論の系譜 (1)(Adam Smith の時代と貿易論) **3.** 自由貿易論の系譜 (2)(D.Ricardo の時代と貿易論) **4.** 自由貿易論の系譜 (3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論) **5.** 世界経済構造の批判的理解 (1)(K.Marx の「プラン」後半体系) **6.** 保護貿易論の系譜 (1)(途上国の TCC 批判：ドイツ歴史学派) **7.** Ｌ ｅ ｎ ｉ ｎ『帝国主義論』: 世界大戦の原因 **8.** 「相対的安定期」·1929 年世界恐慌と「ブロック経済」 **9.** 自由貿易帝国主義論：Ｌ ｅ ｎ ｉ ｎ『帝国主義論』批判 **10.** (通常上記の項目は 1 回で終わらない．以下の時間は延長の場合に使用する．)

【成績評価】筆記試験

【再試験】なし

【教科書】講義中に配付する資料を用いる．

【参考書】参照すべき図書は，適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220351

【連絡先】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

国際関係論 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

饗場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】 米ソがにらみ合った冷戦中は，明日にも第三次世界大戦が起き，核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった．89 年，米ソ首脳が握手をかわし，幸運にも人類は冷戦を脱した．ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが，まもなく幻滅が広がった．噴出する内戦・民族紛争と，拡大する貧富の格差．新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると，9/11 テロの衝撃が世界を揺るがした．そして今，アフガン戦争，イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され，国際社会はいったい，どこに行こうとしているのか．この授業では，こうした変動する現代国際社会の現実を知り，そこで生起

する諸問題について，特に平和と戦争に関係する観点を中心に，考察する．

【授業概要】 国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ．授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも，筆者のフィールドワーク (紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など) や，新聞記者の経験などに基づく"教科書に載っていない"解説も試みたい．また，適宜，時事的な国際ニュースも取り上げ，ビデオやスライドも使う．国際関係論 I では，主に総論的，理論的，概念的な問題を扱う．

【キーワード】戦争，戦争

【履修上の注意】 国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており，一方だけ受講することもできるが，I で総論的，基礎的な解説を行い，II ではそれを元に各論的，発展的な内容になる面もあるので，連続して受講する方が望ましい．

【到達目標】 国際社会の性質，特徴を理解すること． 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について，基本的な事実関係，実態を知ること．国際政治と国際法の基本について，とらえ方，原理，原則を把握すること．「冷静な現実主義」と，「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと．

【授業計画】 **1.** 国際社会の成り立ちと特徴 (1) **2.** 国際社会の成り立ちと特徴 (2) **3.** 国際法の基本 (1) **4.** 国際法の基本 (2) **5.** 国際社会を見る理論的枠組 (1) **6.** 国際社会を見る理論的枠組 (2) **7.** 国際安全保障の諸理論 (1) **8.** 国際安全保障の諸理論 (2) **9.** 民族とアイデンティティ (1) **10.** 民族とアイデンティティ (2) **11.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(1) **12.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(2) **13.** 戦争の違法化 (1) **14.** 戦争の違法化 (2) **15.** 補足と総括 **16.** 試験

【成績評価】 授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらうが，それらで出欠の確認も行う．試験は論述式 (短答式と長文論述併用) の期末試験を行う．持ち込み不可．成績は試験の結果に，出席状況，授業中の質疑応答などを加味して判断する．

【再試験】 行わない．ただし，僅差で合格点に達しない受講者には，一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える．

【教科書】 教科書は特に指定せず，授業中に配布するレジュメ，資料に沿って解説する．参考書などは適宜，紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220346

【連絡先】

⇒ 饗場 (088-656-7186，aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30，金曜日14:30~ 16:00．この時間以外でも在室時は随時可．)

グローバル社会論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樋口 直人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 現代を生きる者は，どこに住もうがグローバル化の影響を免れることはできない．では，それはどのような影響であり，具体的には何が生じるのか．この授業の最大の目的はこうした問いに答えることにある．さらに，グローバル化は国民からなる国家体制を大きく変えつつある．では，国家はなぜどのように変化を迫られているのか．こうした問いに対して，大きくは身近な生活のグローバル化，環境のグローバル化，人の国際移動からみたグローバル化に焦点を当てて議論していく．

【授業概要】 グローバル化する社会が抱える問題について，社会学の概念を用いてアプローチする．特に徳島のような地域では，グローバル化といってもイメージがわきにくいので，画像や映像資料の解説をできる限り取り入れて理解を助けるようにしたい．

【授業計画】 **1.** イントロダクション **2.** グローバル化とは何か:メキシコからみた風景 **3.** 大量生産の時代としての現代 **4.** 大量生産と成長の限界 **5.** 食卓の裏側:『ダーウィンの悪夢』とグローバル化する食卓 **6.** グローバルとローカル:『モンド・ヴィーノ』と食をめぐる 2 つの道 **7.** 私たちは誰とつながっているのか:市場経済，環境，フェアトレード **8.** 新国際分業と世界都市の形成 **9.** メディアとグローバル化 **10.** 南北国境の 3000 キロ:メキシコとアメリカの移民問題 **11.** メキシコ化するアメリカ:『ブレッド&ローズ』と移住労働者 **12.** グローバル化する移民:(1) 南米の日本 **13.** グローバル化する移民:(2) 日本の南米 **14.** グローバル化する移民:(3) 日本の南米人と経済危機 **15.** グローバル化する移民:(4) 日本の少子高齢化と移民受けいれ

【成績評価】 成績評価はレポートと授業中の課題による．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートが 60 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．

【再試験】 無

【教科書】 教科書は用いないが，関連する文献リストを初回に配布する．また，教科書の代わりに毎回レジュメを配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．

【参考書】 参考書 コーエン&ケネディ『グローバル・ソシオロジー』1・2 巻平凡社，2003 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220341

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

地域創生論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 持続可能な地域づくりの基礎理論を提示する．

【授業概要】 の講義は「地域科学」への入門にあたる．地域社会の構成と動態に関する基礎的な知見を獲得するとともに，総合的な地域問題を解決して持続可能な地域をつくるための理論と手法を学ぶ．

【キーワード】地域づくり，地域問題，地域政策

【到達目標】

1. 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる．

2. 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる．

【授業計画】 **1.** 地域問題と地域づくり 地域問題の諸形態 講義計画 **2.** 地域問題の総合的性格 地域問題の相互関連 地域科学の課題と構成 **3.** 地域問題と地域経済 地域問題の主要な発生源としての地域経済 **4.** 地域経済の構成と変動 混合経済としての地域経済 公共領域の役割 **5.** 新自由主義政策と地域 成長至上主義型の破綻 新自由主義政策の発動と住民生活 **6.** グローバル化と地域 世界システムの再編にともなう地域社会の変動 **7.** システム転換の基軸 政治 · 経済システムの進路をめぐる対抗関係の位相 **8.** もう一つの世界は可能 システム転換の新たな主導力 (途上国 ·NGO· 社会的経済) **9.** 分権時代の地域政策 地方自治の仕組みと政策主体 (行政 · 議会 · 住民組織) の役割 **10.** 地域政策の理念と体系 地域政策の理念と体系に関する欧州と日本の比較 **11.** 政策過程への住民参加 公共領域を再編する政策 政策の計画 · 執行過程と住民 **12.** 徳島県の住民参加状況 公共事業の動向に働きかける徳島県の住民運動の経過 **13.** 転換期の地域づくり (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の地域づくり (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域創生論の学び方 地域科学の近年の動向と研究課題

【成績評価】 講義中に行う数回の小テスト，期末に提出を求めるリポートの結果によって単位を認定する．

【再試験】 再試は行わない．

【教科書】 用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】 中嶋信『集落再生と日本の未来』自治体研究社，2010 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220355

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 地域の開発，特に地域経済，地域環境や地域システムに新しい方向性を出すに必要な知識や考え方を提供するものである．地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策の重要性や意義を理解させる．

【授業概要】 国際化のなかで，地域経済や地域システムを把握し考察して行くことの意味と重要性を明らかにする．それを理解した上で，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察させる．

【キーワード】 地域経済，地域環境，地域システム，地域開発，地域づくり

【到達目標】 ①国際化時代の地域経済と地域システムへの理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて理解し考察できる能力を培う．

【授業計画】 **1.** ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う再編成 **3.** 地域経済の再編成 **4.** 地域システムの再編成 **5.** 環境問題の変容と新たな状況 **6.** 環境問題と循環社会をめぐる課題 **7.** 環境と地域経済をめぐる状況 **8.** 新たな社会とそれへの対応 **9.** 環境問題への新たな対応 **10.** 地方自治体と企業の環境問題への取り組み **11.** 地域開発をめぐる問題 **12.** 地域の再生とまちづくり **13.** 環境の再生と地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ 1 **16.** まとめ 2

【成績評価】 講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40 %)，もしくはレポートにより評価する．

【再試験】 なし

【教科書】 北村修二『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218814

【連絡先】

⇒ 北村 .

【備考】 隔年開講のため，平成 23 年度 (地域政策論 II を開講) は開講されない．国際社会での地域的諸問題や環境問題に関心があり，それらの課題を勉強する意志がありそれを実行できる人は参加できる．オフィスアワー 随時．研究室

地域文化論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】文化人類学の中心的なテーマについて講義する．世界の諸民族の事例を通して，人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し，異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である．グローバリゼーションの中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい．

【授業概要】文化人類学の基本問題

【キーワード】**文化，現代社会，グローバリゼーション**

【関連科目】『地域文化論 II』(0.5, ⇒60 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．フィールドワークを「疑似体験」しながら，文化現象の意味について考えてもらいたい． なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し，異文化 (自文化) の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる．

【授業計画】**1.** 文化人類学のパースペクティヴ **2.** 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ **3.** 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 **4.** 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 **5.** 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ **6.** 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム **7.** ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ **8.** 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって **9.** メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 **10.** グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム **11.** 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 **12.** ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より **13.** 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ **14.** 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか **15.** 「転換期」の時代の文化人類学 **16.** まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】
- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる．個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂，2005 年
- ◇ 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店，2003 年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣，2008 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218849

【連絡先】
⇒ 髙橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~ 13時)

【備考】本年度開講 (隔年開講)

共生社会論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会学の立場から社会福祉論・共生社会論を論じる．現代社会は福祉社会である．しかし，「社会リアリティ」の変化にともない，「連帯」の在り方が変わってきている．幅広い市民的連帯がリアリティを失い，「選ばれた人間」の中での「連帯」が「公正」であるように思われてきている．その感覚のもとで許される「個人のニーズ」だけが，「社会のニーズ」に転換を許容されるようになってきている．また，「生産主義社会」から「消費社会」に変化する中で，「労働倫理」の意義は低下し，クリエイティブな労働者になれない場合は，「立派な消費者」になることが次の目標となってきている．かつて，労働に不適であることが福祉の対象者の条件であったが，いまや，消費者としては障害者も平等に扱われるようになり，最終排除対象者は，意志をもたぬもの，意志を適切に表示できないものになってきている．この流れの先に，共生社会がある．共生社会の光と影を共に見つめていきたい．同時に，社会福祉の現代社会的基盤を理解しよう．

【授業概要】社会学の立場から考える社会福祉論と共生社会論．社会のニーズと個人のニーズ．資本主義を支えるものとしての福祉社会．消費社会への変化の意味．労働のフレキシビリティの増大の意味．近代的労働倫理 (勤勉さ，従順さ・・) を守意味の変化．グローバライゼーション．産業の機械化．代替不能性の高い労働と低い労働．これらのことを道具に，現代社会的側面から福祉社会を考える．

【キーワード】**福祉社会学，社会政策，援助，共生，セルフヘルプグループ，インタビュー論，社会福祉と現代社会**

【先行科目】『市民活動論』(1.0, ⇒75 頁)

【履修上の注意】教科書は生協に取り寄せる予定 (定価:1700 円)．古本でもよいが，必ず入手すること．また，参考書の一部は効果だが読み甲斐がある．出欠確認は毎回行う．とりわけ，初回のオリエンテーションは重要なので，けっせきしないようにせよ．欠席者には理由を等．なお，全学共通教育では，「ボランティア論 (木曜 5・6 限，前期) が，関連科目である．なお，受講学生人数にもよるが，複数会の小論文執筆が課せられることを覚悟して欲しい．大学での学習成果は，書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ．だいたいのことを書いて満足するのではなく，質のものを志して書いてほしい．また，ダイソー等での買い物などの宿題も課せられる．人数がすくなければ，裁判所見学 (以下に福祉の対象者と被告の層が重なっているかの実地確認作業) も行う．日本の現状 (消費社会化，低所得労働者のアンダークラス化＝ジグムント・バウマン＝) を身をもって看取してもらう必要があるからだ．

【到達目標】
1. 現代社会を学ぶことと，社会福祉を学ぶことがどのように繋がっているのか講義する．
2. より具体的には，(1) 現代社会の構造と自分の人生選択の困難さを結びつけて理解する．
3. (2) 現代の困難さに，一定の合理性があることを理解したうえで，アルターナティブな未来を構想できるようになる
4. アルターナティブな未来 (例:労働と切り離された収入) がはらむ問題に気づくことができる．

【授業計画】**1.** 樫田によるイントロダクション．現代社会論として福祉と共生をとらえる． **2.** 消費社会とグローバリゼーション．労働はどう変わってきているのか． **3.** ウエルビーイングタウン:社会福祉って何だろう． **4.** 社会的ニーズと個人的ニーズの問題．対立?．個人的ニーズの社会的構成?． **5.** 障害者福祉のしくみ **6.** 高齢者福祉のしくみ **7.** 児童福祉のしくみ **8.** 虐待について (児童虐待と高齢者虐待)．虐待とエスノセントリズム． **9.** 新しい貧困について．ニュープアとアンダークラス (ジグムント・バウマンの主張) **10.** 犯罪と疾病と社会福祉．裁判所見学 (人数的に可能な場合)． **11.** 在宅医療の問題を考えよう **12.** セルフヘルプ・グループ論．ヨブ記から考える． **13.** 準備レポート草稿の班別検討会．考え抜く態度の錬成 (1) **14.** 準備レポート講評．総合科学と現代社会．『フーコーの穴』を題材に． **15.** 最終レポート草稿の班別検討会)．考え抜く態度の錬成 (2) **16.** 最終レポート講評．総合科学と社会福祉．『< 生 > の社会学』を題材に．

【成績評価】平常点 (出席を含む)+レポート (20%，80%の比率) ※準備レポートはコメントを付けて返却し，点数上は最終レポート (第 2 回目のレポート) のみ加点対象とする見込み．

【再試験】行わない

【教科書】岩田正美ほか著 1999『ウエルビーイングタウン 社会福祉入門』有斐閣

【参考書】
- ◇ ジグムント・バウマン著 1998 ＝ 2008『新しい貧困-労働，消費主義，ニュープア』青土社．
- ◇ 藤村正之著 2008『< 生 > の社会学』東京大学出版会
- ◇ 井上俊・長谷 正人編 2010『文化社会学入門』ミネルヴァ書房
- ◇ 『福祉社会事典』弘文堂
- ◇ 斉藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房．
- ◇ 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- ◇ 石川准・倉本智明編，2002，『障害学の主張』，明石書店．
- ◇ メイナード著，樫田・岡田訳 2004『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房．
- ◇ 杉野昭博『障害学 理論形成と射程』東京大学出版会．
- ◇ 重田園江『フーコーの穴 統計学と統治の現在』木鐸社．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220343

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

メディア情報論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する

【授業概要】主にメディアに流通する複製芸術を中心として図版，映像資料等を紹介解説していく． 授業中に小レポートを課すこともある．

【キーワード】**メディア，アート，映像，写真**

【到達目標】メディア芸術の理解

【授業計画】**1.** 写真-カメラオブスキュラ **2.** 写真-決定的瞬間 **3.** 写真-ニューカラー **4.** 映像と身体 **5.** 映像と記憶 **6.** 実験映像 **7.** 実験的アニメーション **8.** 映画-初期 **9.** 映画-ハリウッドシステム **10.** 映画-物語以後 **11.** プロモーションビデオ **12.** アニメ **13.** イ

ンタラクション **14.** ゲーム-インターフェイス **15.** ゲーム-物語-ライトノベル **16.** ネットワーク,AR, ミクスドリアリティ

【成績評価】 出席，小レポート

【再試験】 実施せず

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219016

【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

芸術文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
片岡 啓一 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で，しかも変化に富んだものである．多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し，世界中にはさまざまな音楽が存在している．この授業では，民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し，そのことを通じて，音楽文化・民族性・音楽の本質等について，一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている．

【授業概要】 民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義．

【キーワード】民族音楽，音楽学，音楽鑑賞，民族性，異文化理解

【履修上の注意】 同授業は講義形式なので受講者は受け身的になりがちであるが，できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい．なお，共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが，その内容は同授業と相当程度重複しているので，「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること．先行科目・関連科目については具体的な科目名は書いていないが，芸術分野・人文科目分野等の科目群はすべて該当すると考えていただいてかまわない．同授業は，国際文化コースの「コース専門選択科目」の単位として履修することもできるし，「総合科学テーマ科目」として履修することも可能である．昨年度に初回の授業をマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施したが，同室で無理なく受講できる人数は 50 名程度であるが，「総合科学テーマ科目」に指定されていることから 90 名程度の受講者となり，加えて旧体制の受講者 (「世界の諸民族の音楽」) が 10 名程度同時受講したので，合計 100 名ちょっとになり，補助用のパイプ椅子を使ってすし詰め状態で開講した．パイプ椅子のみの学生が同じ人にならないようにローテーション配置を考え，極力配慮したが，それでも学生にとっての身体的な負担は大きかった．今年度は別のもっと広い部屋で同授業を行うことを相当真剣に考えたが，授業内容の性格上，他の部屋で行うことはやはり無理なので，昨年度同様「音響スタジオ」にて実施することにした．今回の具体的な対応の方法としては，補助机・補助椅子を使うと，普通の状態で受講できる学生は 50 名程度なので，毎回の授業時間の前半と後半とで，残りのパイプ椅子のみの学生との座席の交代を行うことによって学生の身体的な負担を少なくしようと考えている．そのような事情があることから，同授業を受講希望している学生で，他の「総合科学テーマ科目」を受講することでもかまわないと思う方は，できるだけそういう方法をとっていただけると大変ありがたいと考えている．

【到達目標】 世界にはさまざまな音楽文化が存在すること，それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し，音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く．

【授業計画】 1. 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために，講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる． **2.** 1 週目 授業の趣旨説明を行い，現代の音楽文化の特徴について言及する． **3.** 2 週目 日本の音楽． **4.** 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽． **5.** 9-13 週目 インド・西アジアの音楽． **6.** 14 週目 アラブの音楽． **7.** 15 週目 総括授業 授業内容全体について，反省・補足・意見交換等を行う． **8.** 授業内容についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが，若干のずれが生じることもあるので，その点はあらかじめご了承願いたい．

【成績評価】 試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．レポートは提出期限を厳守すること．成績評価には，授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される．

【再試験】 行わない．

【教科書】 この授業では教科書等は使用しない．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218553

【連絡先】
⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 同授業は，平成 23 年度は前期・金曜・5-6 講時にマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」にて実施する．オフィスアワーは前期・木曜日の昼休み．片岡研究室 (マルチメディア A 棟 2 階) のメールアドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．なお，注意のところでも書いたように，授業を行う部屋がそれほど広くないので，別の「総合科学テーマ科目」を選択してもかまわないと思う方は，できればそういう方法をとってくださると大変ありがたい．

情報の数理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中山 慎一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 今日，コンピュータの高性能化，および，通信網の整備により，インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている．今後，あらゆる家電製品や携帯電話などが，ネットワークへの接続を前提に作られるようになり，ネットワークが生活の基盤になるであろう．よって，ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ることは，将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる．このような観点から，情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする．

【キーワード】通信ネットワーク，インターネット，プロトコル，*TCP/IP*

【先行科目】 『計算機概論』(1.0, ⇒193 頁)

【履修上の注意】 2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識が必要です．

【到達目標】 ネットワークに関する知識や設計技法の習得，および，それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする．

【授業計画】 1. 情報通信の発達過程 **2.** ネットワークの種類と形態 **3.** ネットワークに関する基礎技術 **4.** 通信プロトコル 1 **5.** 通信プロトコル 2 **6.** 伝送制御手順 **7.** 通信サービルと技術 1 **8.** 通信サービスと技術 2 **9.** ネットワークの分析 1 **10.** ネットワークの分析 2 **11.** ネットワークの設計 1 **12.** ネットワークの設計 2 **13.** ネットワークセキュリティ 1 **14.** ネットワークセキュリティ 2 **15.** ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】 レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する

【再試験】 行う

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220348

【連絡先】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

現象の数理

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小野 公輔 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する．また，それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し，現象の数学問題への定式化および意味づけを行う．さらに，数理モデルの妥当性や説明 · 予測 · 制御等の初等的方法について理解を深める．

【授業概要】 現象解析のための基本事項について解説する．

【キーワード】自然現象の数理，社会現象の数理，現象解析の数理，微分積分学，微分方程式

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒195 頁)，『微分方程式 I』(1.0, ⇒194 頁)

【履修上の注意】 微分積分学の基本事項を履修しておくこと．授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】 数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する．

【授業計画】 1. 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1．モデル化のための枠組み **2.** 人口問題と成長モデル **3.** 薬の吸収モデル **4.** 水の加熱と冷却の数理モデル **5.** ロケットの飛行モデル **6.** 抑制された成長モデル **7.** 広告に対する売り上げの反応モデル **8.** 美術品の贋作判定モデル **9.** 電気回路モデル **10.** 新古典派の経済成長モデル **11.** 五大湖の汚染判定モデル **12.** 個人の消費行動モデル **13.** 惑星の運動モデル **14.** 化学反応速度モデル **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】 授業への取り組み状況，演習，レポート，試験などをもとに総合的に評価する．

【再試験】 無

【参考書】 「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220345

【連絡先】
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

数学と社会

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
片山 真一 · 教授 / 総合理数学科，大渕 朗 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 ・代数的構造についての基礎及びその様々な場に於ける応用についての基礎に関する講義を行う．講義では代数構造の代表的な分野である代数的整数論と代数幾何学の初歩とその応用である暗号理論，符号理論の解説を行う．・目標は群，環に於ける準同型定理の理解，有限体の定義の理解，線形符号の定義とシングルトンの不等式の理解である (大渕). また公開鍵暗号系の仕組みと剰余類群の応用として，RSA 暗号系を理解 する (片山).

【授業概要】 ・代数的構造に関する基礎理論 (群・環・体及び整数論) についての基本的な知識及び応用 (符号理論・暗号理論) への理解が深まるように講義を行う．・群論の初歩，基礎的な環論及び体論を解説す

る．これを受けて線形符号に関する初歩的な一般論を講義する (大渕)．また公開鍵暗号系に関する基礎理論を講義する (片山)．

【キーワード】符号理論，暗号理論，現代代数学

【先行科目】『代数基礎 I』(1.0, ⇒193 頁)，『代数基礎 II』(1.0, ⇒193 頁)

【関連科目】『代数学 I』(0.5, ⇒195 頁)，『代数学 II』(0.5, ⇒195 頁)

【到達目標】代数的構造に関する基礎理論の理解と符号理論と 暗号理論への応用

【授業計画】1. 群の定義 **2.** 準同型定理 **3.** 環の一般論 **4.** 準同型定理 **5.** 有限体概説 **6.** 符号の定義 **7.** 線形符号 **8.** シングルトンの不等式 **9.** 暗号の歴史 **10.** 対称鍵暗号系の仕組み **11.** 計算困難性 **12.** 非対称鍵暗号系の仕組み **13.** RSA 暗号系 **14.** デジタル署名の仕組み **15.** RSA 署名およびまとめ **16.** 総括授業

【成績評価】出席および提出レポートによる総合評価を行う．

【再試験】無

【教科書】特に指定しない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220350

【連絡先】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 大渕 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

資源エネルギー論
Natural Resources and Energy

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
伏見 賢一・准教授 / 総合理数学科

【授業目的】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．

【授業概要】日本・世界のエネルギー需給について現状の分析をする．エネルギー需給について開発の現状について解説し，将来取りうる政策について議論する．

【履修上の注意】日ごろから新聞を読んでおくこと．講義ノートを用意すること．予習，復習の時間を十分に確保すること．各学科で学んできた事柄を活用して建設的な議論が進められることを期待する．

【到達目標】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．そのためにデータを正しく読むことができる．冷静な議論ができる．

【授業計画】1. 序論: 基本用語，単位の解説．グラフ，統計データの見方． **2.** エネルギー需給の変化 (日本のエネルギー需給) **3.** 日本のエネルギー供給 I (一次エネルギー源 化石燃料) **4.** 日本のエネルギー供給 II (一次エネルギー源 非化石燃料 (原子力)) **5.** 日本のエネルギー供給 III (一次エネルギー源 非化石燃料 (再生可能エネルギー)) **6.** 日本のエネルギー供給 IV (二次エネルギー 電力) **7.** 日本のエネルギー供給 V (二次エネルギー ガス・熱・石油) **8.** 日本のエネルギー供給 VI (二次エネルギー 熱・石油) **9.** 国際エネルギー動向 エネルギーコスト **10.** エネルギー需給に関する政策 **11.** エネルギー開発の動向 原子力政策 **12.** 輸送部門のエネルギー供給政策 **13.** 新エネルギーに対する政策 **14.** エネルギー安全保障 **15.** 総合討論 **16.** 総括

【成績評価】レポート課題 (40%)，総合討論 (10%)，期末レポート (40%)，出席 (10%)

【再試験】なし．

【教科書】適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220347

【連絡先】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉に貼っている予定表の空欄時間帯．)

環境マネジメント

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
浜野 龍夫・教授 / 社会創生学科

【授業目的】さまざまなレベルの環境問題や環境管理手法である環境マネジメントシステムについて学び，について理解するについて学習し，低炭素・循環型で環境負荷の少ない社会を構築するための個人のライフスタイルや企業の取り組みが，よい地域環境を生み出し，それはさらによりよい地球環境を創造することにつながることを理解する．

【授業概要】講義の前半では環境社会検定でも扱われる内容について総合的に理解し，後半では環境マネジメントを実行するシステムを学ぶ．そして最後に一人一人が日常生活の中での環境マネジメントを考える．

【キーワード】環境，生態系，*ISO14000* シリーズ

【授業計画】1. 環境マネジメントとは **2.** 持続可能な社会に向けて **3.** 地球人としてのわたしたち **4.** 環境と経済・社会 **5.** わたしたちの暮らしと環境 **6.** 環境と共生するために **7.** 中間試験 **8.** 環境マネジメントシステム **9.** ISO14000 シリーズ **10.** 伝統的な環境マネジメント **11.** 共生環境のマネジメントシステム **12.** 個人の環境マネジメント:チェック **13.** 個人の環境マネジメント:PDCA **14.** 個人の環境マネジメント:アクションプラン **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 (原則遅刻は配点しない)，中間試験，レポートを総合して評価する．

【再試験】しない

【教科書】なし

【参考書】講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220342

【連絡先】

⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境倫理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授 / 人間文化学科，山口 裕之・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】環境倫理学を通じて，倫理学の基本的な考え方を理解する．現代社会における「倫理的問題」は，単に思想や価値観の問題であるだけでなく，「社会的問題」でもあることを理解する． 環境倫理学のトピックス，その思想的背景，現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ，現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける． その上で，自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける． レポートをもとに意見を発表し，討議する力を身に付ける．

【授業概要】「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い，そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する．

【キーワード】哲学，倫理学，環境，社会と自然

【到達目標】

1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．

【授業計画】1. イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) **2.** 環境倫理学の系譜 (1):環境倫理学成立の背景:1950~ 60 年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) **3.** 環境倫理学の系譜 (2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想 (山口) **4.** 環境倫理学の系譜 (3): 「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟 (山口) **5.** 環境倫理学の系譜 (4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) **6.** 地球温暖化問題の成立 (1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで (山口) **7.** 地球温暖化問題の成立 (2):フィラッハ会議後の展開:地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) **8.** 地球温暖化問題の成立 (3):IPCC の成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索 (山口) **9.** 地球温暖化問題の成立 (4):京都議定書とその後の展開 **10.** アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる．シャロー・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を，その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造，エコフィロソフィーとエコソフィー，自己実現との関連で講じる．(石田) **11.** マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる．ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判，位階性の批判，自然の進化と社会の進化，リバタリアン的な地域自治主義を講じる．(石田) **12.** ドイツの環境政策を講じる．1970 年代以降のドイツの環境政策を概観した上で，地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策，ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴッパータル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター 4」を講じる．(石田) **13.** ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる．自然は果たして権利の主体になりうるか．人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か，等を論じる．(石田) **14.** ドイツの環境思想家マイアー=アービッヒの『自然との和解への道』で述べられた，実践的自然哲学を講じる．政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること，自然の理解は広い意味で法の中で論じられること，人間中心主義に対する哲学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ，自然中心主義的世界像から，自然としての人間，自然の法共同体を講じる．(石田) **15.** 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション (石田)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2 点 ×15=30 点，レポート 2 回＝ 70 点．

【再試験】無

【教科書】その都度資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218491

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

環境政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
栗栖 聡・教授 / 社会創生学科

【授業目的】環境政策について体系的に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．

【授業概要】環境問題，環境政治・政策学，現代社会の基本的枠組みを検討し，ついで，環境政策に関して，その理念，手法，決定過程を検討する．さらに，環境基本法を踏まえつつ，大気，水，自然環境に関する規制の内容，循環型社会形成のための政策について論じる．最後に，市民参加の観点から環境影響評価の仕組みを検討する．

【到達目標】環境政策の体系的理解

【授業計画】**1.** 環境問題とは **2.** 環境政治・政策とは **3.** 環境問題と国家の役割 **4.** 環境政策の理念 **5.** 環境政策の手法 (総論) **6.** 環境政策の手法 (規制，経済的手法，市民参加等) **7.** 環境政策決定過程 (議会，行政) **8.** 環境基本法の制定過程と概要 **9.** 規制 (大気，水，土壌) **10.** 規制 (自然環境保全) **11.** 循環型社会形成政策 (廃棄物処理) **12.** 循環型社会形成政策 (排出削減) **13.** 環境影響評価 (事業アセス) と市民参加 **14.** 環境影響評価 (戦略アセス) と市民参加 **15.** 試験 **16.** まとめ

【成績評価】平常点 (20%) と期末試験 (80%)

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業中に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218487

【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1，0886567185，kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

自然保護論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し，どのような取り組みを行えば良いか，またどのようなことに留意すれば良いかについて考える．

【授業概要】自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう．しかし，野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等，生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない．また，絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については，その正確性が絶えず議論になる．この授業では，自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ，どのように考えていくべきか解説する．

【キーワード】**自然保護，野生生物，環境保全**

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】**1.** 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい **2.** 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて **3.** 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 **4.** 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 **5.** 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え **6.** 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 **7.** 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い **8.** 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル **9.** 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 **10.** 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 **11.** 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園，世界遺産 **12.** 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 **13.** 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 **14.** 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軋轢 **15.** 期末試験

【成績評価】授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート，資料持ち込み可) により評価する．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】適宜紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218670

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7222，satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

生態学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生態学の基本や面白さを理解する．

【授業概要】ヒトとして生活をする上で知っておいた方がよい生態学の知見，フィールド調査や研究を行う上で重要となる生態学的な基礎知識について，実例をあげながら講述する．

【キーワード】**生物，行動，生態系**

【到達目標】生態学の基本用語を理解する．

【授業計画】**1.** 講義内容の説明 **2.** 繁殖行動の解発因 **3.** 配偶者選択 **4.** 行動の進化的安定戦略 **5.** 生存曲線，個体群の増殖 **6.** 個体数推定，生命表 **7.** 生態的地位，生態系，すみ分け **8.** 種間関係，群集の多様性 **9.** 捕食ー被捕食関係，最適餌サイズ **10.** 擬態，r-K 戦略 **11.** 生物の多様性，メタ個体群 **12.** 自然保護を考える **13.** 生態学的研究の実例 **14.** 生態学の応用的研究の実例 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 50 点 (原則遅刻は配点しない)，レポート 50 点

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218743

【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

総合科学実践プロジェクト

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
山城 考・准教授/社会創生学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科

【授業目的】専門を異にする教員が，共通もしくは複数のテーマで受講生とともに授業を運営し，実践的で総合的な学習姿勢を体得する．授業を通して，文系，理系相互の視点からものを考え，企画・調査し，討論・発表によって総合科学の実践力を養う．

【授業概要】総合科学に関わる諸問題を，文系，理系の視点から考え実践的に解明をおこなってゆくワークショップ方式の授業である．欧米の文学や比較文化，植物や環境を専門とする 4 名の教員が，受講者とともに授業の内容を企画し，共通もしくは複数のテーマを設定して，文献調査やフィールドワーク (例:吉野川干潟観察プログラム・流域水環境分析プログラム・環境保全運動考察プロジェクトなど複数のテーマで開設) を通して文系・理系相互のもしくは融合した視点から，考察を深め，最終的にはその成果を発表する．

【到達目標】
1. 文系，理系双方の考え方を理解し融合させる．
2. テーマの設定，フィールドワークの実施や文献の調査等を通して実践的な企画力を養う．
3. 文献の購読や討論を通して論理的な思考や理解を高め，成果発表の能力を高める．

【授業計画】**1.** 以下の計画はおおよその目安であり，受講者の志向や関心，文献調査やフィールドワークなどの動向を見ながら 16 回の授業を運営してゆく． **2.** オリエンテーション **3.** テーマの設定について討議 (2 回程度) **4.** 授業の運営について討議・企画 (2 回程度) **5.** 調査およびフィールドワーク (3 回程度) **6.** 中間発表 (2 回程度) **7.** 討論とさらなる調査 (3 回程度) **8.** まとめと発表 (2 回程度) **9.** 総括

【成績評価】授業への参加状況，議論の内容，発表や報告などを総合的に評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業の中で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220352

【連絡先】
⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309，656-7131，miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ 山城 (088-656-7257，tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07，7618，hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

総合科学特別講義

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信・教授/社会創生学科，樫田 美雄・准教授/社会創生学科
大橋 眞・教授/社会創生学科，佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】総合科学＝諸科学を総合して課題を解明する営みの意義や方法について考察する．考察の領域を地域科学に据え，地域課題の実践的解明の過程を紹介する．

【授業概要】①総合科学部の教育課程の特徴＝総合科学の意義や課題を理解する． ②人文・社会・自然科学を総合する方法を実践的に理解する． ③地域づくりの事例を考察し，諸科学を総合する課題・方法を理解する． ④地域住民との対話を通じて総合科学的な思考力を身につける．

【キーワード】**総合科学，地域科学，地域づくり，グローバル化**

【履修上の注意】11 月 12 日土曜日午後に，「在宅療養を考える」というテーマでワークショップを企画している (2 コマ)．補講の扱いではあるが，正規の授業なので日程を開けておくことが望ましい．

【到達目標】①諸科学と総合科学との関係が具体的に説明できる．②具体的な地域問題に対し，諸科学を編成して解決する計画を作成できる．③総合科学的な観点から，自分の意見が表明できる．

【授業計画】**1.** 諸科学と総合科学:諸科学を総合する科学が必要とされる理由を考察 (中嶋) **2.** 地域科学のあゆみ:Regional Science の形成と日本での展開過程を考察 (中嶋) **3.** 地域科学の実際①:実際の地域問題と地域科学による解決の例を考察 (中嶋) **4.** 地域科学の実際②:地域づくりに取り組む県内自治体職員による報告 (中嶋) **5.** 在宅医療の総合科学:医療と看護と福祉と生活の共同と相克を考察 (樫田) **6.** ※ 6·7 講は 11/12 に結合して開講する (樫田) **7.** 在宅医療のワークショップ:班別の討論 医療経済学や社会学を援用 (樫田) **8.** 在宅医療

のワークショップのまとめ:リポート作成に向けた議論 (樫田) **9.** グローバル化と総合科学①(大橋・佐藤) **10.** グローバル化と総合科学②(大橋・佐藤) **11.** グローバル化と地域社会①(大橋・佐藤) **12.** グローバル化と地域社会②(大橋・佐藤) **13.** グローバル化と環境問題①(大橋・佐藤) **14.** グローバル化と環境問題②(大橋・佐藤) **15.** グローバル化と大学の役割 (大橋・佐藤)

【成績評価】リポート内容及び出席状況で判定

【再試験】再試は行わない

【教科書】⑤~ ⑧を除き教科書は用いない．関連資料を配付する．⑤~ ⑧:『「在宅医療」をささえるすべての人へ』健康と良い友だち社，00

【参考書】講義時に随時紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220353

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1号館3階中棟(3M15) 相談時間 月曜日13:30-17:00)

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

⇒ 大橋 (656-7261，ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐藤 (3N05，088-656-7657，tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

社会創生学科 共通科目 授業概要

● 学科共通科目

社会創生学の基礎 …中嶋・北村・上原・平木・佐藤/1 年 (後期) 92
経済学の基礎 I …内藤/1 年 (前期) 92
社会学の基礎 I …矢部/1 年 (後期) 92
社会学の基礎 II …樋口/1 年 (後期) 92
生命科学の基礎 …横井川・佐藤/1 年 (前期) 93
法律学の基礎 I …林・上原/1 年 (前期) 93
地理学の基礎 I …豊田/1 年 (後期) 93
文系数学の基礎 …日置・石田・掛井・趙・豊田・吉川/1 年 (前期) 93
アート創生プロジェクト …石井・平木・河原崎/1 年 (後期) 94
化学の基礎 …今井/1 年 (後期) 94
生命科学基礎実験 …中川・小山・大橋・佐藤・真壁・松尾・佐藤・山城・渡部・金丸・横井川・浜野/1 年 (前期) 94

社会創生学の基礎

2 単位 (必修) 1 年 (後期)

中嶋 信・教授/社会創生学科，北村 修二・教授/社会創生学科
上原 克之・准教授/社会創生学科，平木 美鶴・教授/社会創生学科
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】 1) 社会創生学科の教育課程の基本骨格を提示する． 2) 総合科学の課題意識や方法を紹介し，各々の学生が卒業までの学習計画を検討するよう促す．

【授業概要】 現代社会の重要テーマである「持続可能なまちづくり」に関し，地域・文化・経済・行政・環境等の観点から，具体的事例を紹介しながら，「社会創生学」には，さまざまな学問分野の総合と融合が必要であることを学ぶ．徳島県内には持続可能なまちづくりで優れた実践が数多く展開されている．これらの運動の中心的な担い手の協力を得て，地域づくりのダイナミズムを学生に伝え，地域社会に対する関心を喚起し，地域調査や地域実習への主体的な取り組みを働きかける．

【キーワード】持続可能な発展，地域づくり，総合科学

【到達目標】 地域づくりに関する学問的諸課題やそれらにアプローチするさまざまな方法について理解する．

【授業計画】 **1.** 「社会創生学」という挑戦:地域づくりの課題に総合科学の力を発揮する (中嶋) **2.** 「地域づくり」の理念転換:経済成長至上主義を克服する持続可能な社会 (中嶋) **3.** 「地域づくり」の主体転換:住民が主体となった計画策定・執行の仕組み (中嶋) **4.** 「アートによる街作り」による情報発信:全国的な実践例 (平木) **5.** 「大学生と住民による街作り」の現在:地域とのコミュニケーションについて (平木) **6.** 「アートによる街作り」を徳島で:徳島での実践例 (平木) **7.** 地域社会の骨格と行政法システム (上原) **8.** 地域政策の展開と法システム (上原) **9.** 住民参加の地域づくりと法システム (上原) **10.** 「環境共生」の成り立ち:自然観の変遷と環境破壊・環境保全の歴史 (佐藤) **11.** 「環境共生」の未来:環境に優しい技術と地域づくり (佐藤) **12.** 「地域生物資源」の利用:生物資源の観光・農業・産業・教育への活用の実例 (佐藤) **13.** 国際化時代における地域の再編成と課題 (北村) **14.** 地域条件や地域環境を活かした産業・地域づくり (北村) **15.** グローバル時代の新たな地域づくりに向けて (北村)

【成績評価】 5 回のリポート内容及び出席状況をもとに総合的に評価する．

【再試験】 再試は行わない．

【教科書】 全般的なテキストは用いない．講義時に関連資料を示す．

【参考書】 講義時に参考文献を紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218698

【連絡先】
⇒ 中嶋信:研究室は1号館3階中棟(3M15)．相談時間:月曜日13:30～ 17:00．makoto@ias.tokushima-u.ac.jp [継承]

経済学の基礎 I

2 単位 (必修) 1 年 (前期)

内藤 徹・教授/社会創生学科

【授業目的】 ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項の厳密な把握と理解を目的とする．

【授業概要】 本講義では，消費者理論および生産者理論の議論を行った後，完全競争市場を前提とした市場均衡理論を解説します．後半ではこれらの知識をもとに不完全競争市場，市場の失敗，不確実性と情報の経済分析，ゲーム理論といったミクロ経済学の先端の話に触れる予定です．

【キーワード】ミクロ経済学，消費者理論，生産者理論，市場均衡，市場の失敗

【関連科目】 『経済学/マクロ経済学入門』(1.0)，『経済原論 II』(1.0)

【到達目標】 ミクロ経済学の基本事項を理論的に説明できるようになる．

【授業計画】 **1.** ミクロ経済学で学ぶこと **2.** 需要の理論 **3.** 消費者行動の理論:需要の理論の背景にあるもの **4.** 供給の理論 **5.** 需要曲線と弾力性 **6.** 中間テスト **7.** 市場の理論 **8.** 需要と供給で解く経済問題 **9.** 余剰分析で解く経済問題 **10.** 市場の失敗 (1):外部性と公共財 **11.** 市場の失敗 (2):情報の非対称性 **12.** 市場の失敗 (3):独占 **13.** 不確実性のもとでの選択行動 **14.** まとめ **15.** 筆記試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 期末テストと中間テスト (もしくは課題) の総合評価

【再試験】 なし

【教科書】 『基礎からわかるミクロ経済学』小川光 (2003 年) 新世社

【参考書】 講義で使用するレジュメ等を公開します．

【WEB 頁】 http://sites.google.com/site/s947140/

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218549

【連絡先】
⇒ 内藤 (naito@kyudai.jp)

社会学の基礎 I

2 単位 (必修) 1 年 (後期)

矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】 私たちを取り巻く「社会」とは，どのように成立しているのか? ＜社会的なもの＞と＜個人的なもの＞とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では，社会学の基礎的な概念や理論を用いて，各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを目指す．

【授業概要】 日本の社会学者たちが編集した『社会学』(長谷川ら編集，有斐閣，2007) をテキストとする．毎回一つのテーマを設定して，それに関する社会学の用語や考え方を用いて問題点を論じる．また，徳島での事例を取り入れながら授業を進めてゆく．毎回の授業では，テキストで論じられている視点を元に，自分たちの経験をふまえたコメントをリアクションペーパーに記入して提出してもらう．

【授業計画】 **1.** ガイダンス **2.** 親密性と公共性 **3.** 相互行為と自己 **4.** 社会秩序と権力 **5.** 組織とネットワーク **6.** メディアとコミュニケーション **7.** 空間と場所 **8.** 環境と技術 **9.** 医療・福祉と自己決定 **10.** 国家とグローバリゼーション **11.** 家族とライフコース **12.** ジェンダーとセクシュアリティ **13.** エスニシティと境界 **14.** 格差と階層化 **15.** 文化と再生産 **16.** レポート相談

【成績評価】 期末レポートの評価および，毎回の授業で提出してもらうリアクションペーパーにより判断する．

【教科書】 長谷川公一，浜日出夫，藤村正之，町村敬志編『社会学』有斐閣，2007 年

【参考書】 アンソニー・ギデンズ『社会学 (改訂第 3 版)』 而立社 1998 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218695

【備考】 次年度開講せず (隔年開講)

社会学の基礎 II

2 単位 (必修) 1 年 (後期)

樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】 高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう．そうした人たちに対して，社会学的な思考法を教えることがこの講義の目的となる．身近なところで起こっている社会現象が，どのようなしくみでなりたっているのか，それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけてもらうことを目標とする．

【授業概要】 秩序と逸脱，環境，集団，階層と教育，権力と支配といったテーマに即して，自分の振る舞いやこれまでの歩みを振り返ってもらう．自分がいかに社会のなかで作られているか，自分と社会がいかにしてつながっているのかを，それぞれのトピックに即して解説していく．

【履修上の注意】 授業の「秩序」維持のため，15 分経過したら入室を認めない．また，携帯メールをみることも，授業を無効化するため見つけ次第退室してもらう．また，初回に詳細を説明するので，必ず出席されたい．欠席により不利益を蒙っても関知しない．

【到達目標】 社会学的な思考にもとづきレポートを書けるようにする

【授業計画】 **1.** オリエンテーション **2.** 秩序と統制 (1):規範・監視・契約 **3.** 秩序と統制 (2):互酬の連鎖としての社会 **4.** 環境と社会 (1):合理性の悲劇 **5.** 環境と社会 (2):社会的費用と社会的負担 **6.** 主観と客観 (1):逸脱と犯罪 **7.** 主観と客観 (2):主観と客観 **8.** 真実とは何か:映画『羅生門』鑑賞 **9.** 支配と正統性 (1):社会と政治 **10.** 支配

と正統性 (2):ジェンダーと社会　**11.** 教育と階層 (1):教育と選別　**12.** 教育と階層 (2):進学と階層　**13.** 集団と排除 (1):ネットワークと社会　**14.** 集団と排除 (2):社会的包摂と社会的排除　**15.** まとめ

【成績評価】詳しくはオリエンテーションの際に資料を配るが，授業中の課題が 30%，小レポート 20%，大レポート 50%を基本とする．到達度で評価されたい場合には，そうした選択肢も用意する．

【再試験】行わない

【教科書】特になし

【参考書】関連する書籍リストを初回に配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218696

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

【備考】隔年開講．平成 24 年度開講

生命科学の基礎

2 単位 (必修) 1 年 (前期)

横井川 久己男 · 教授 / 社会創生学科，佐藤 高則 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】・生物は，さまざまな生体成分が密接に相互作用して「生きている」状態を維持している．本講義では，生命の単位である細胞と主要生体成分について，それらの構造と機能を理解させると共に，それらの代謝や制御機構を通じて，生命現象の基礎を学ぶことを目的とする (横井川)．　・細胞は多種多様な化学物質によって構成されており，生命現象は詳細に制御された化学反応の連鎖に基づいている．ここでは生命科学の基礎として細胞を構成する化学成分について学ぶ (佐藤)．

【授業概要】・生命の単位である細胞と主要生体成分の構造と機能，またそれらの代謝や制御機構を通じて生命現象の基礎を学ぶ (横井川)．　・生命科学の基礎としての細胞を構成する生体高分子 (タンパク質，糖，脂質，核酸) の化学的基礎と遺伝情報の流れについて学ぶ (佐藤)．

【到達目標】生命の自然科学的な統一像を得ること (横井川)．細胞を構成する生体高分子について，その構造や特性が理解できる (佐藤)．

【授業計画】1. 生命科学全般を概説し，生命現象の包括的な概念を教授する (横井川)　**2.** 生命誕生の歴史と多様な生物を解説する (横井川)　**3.** 真核細胞と原核細胞の構造と機能を解説する (横井川)　**4.** 細胞の増殖と分化について解説する (横井川)　**5.** 遺伝について解説する (横井川)　**6.** エネルギー代謝を解説する (横井川)　**7.** 脂肪代謝とアミノ酸代謝を解説する (横井川)　**8.** 感染症と薬剤耐性について解説する (横井川)　**9.** 生命の化学的基礎 (佐藤)　**10.** 細胞を構成する元素と原子 (佐藤)　**11.** 細胞を構成する生体高分子 (タンパク質)(佐藤)　**12.** 細胞を構成する生体高分子 (糖)(佐藤)　**13.** 細胞を構成する生体高分子 (脂質)(佐藤)　**14.** 細胞を構成する生体高分子 (核酸)(佐藤)　**15.** 核酸と遺伝情報の流れ (佐藤)　**16.** 定期試験

【成績評価】・授業への取組み態度 (25%)，定期試験 (25%) により総合的に評価する (横井川)．　・毎回の課題 (30%) と定期試験 (20%) の合計で成績を算出する (佐藤)．

【教科書】「Essential 細胞生物学」(南江堂)

【参考書】・生命科学 (東京化学同人)(横井川)　・授業中に随時配布する．配布したパワーポイント資料および実施した課題は HP に掲載する (佐藤)．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218748

【連絡先】

⇒ 横井川 (3221，088-656-7267，yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐藤 (3N05，088-656-7657，tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

法律学の基礎 I

2 単位 (選択) 1 年 (前期)

林 喜代美 ·，上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】人権意識を体得し，国家と個人，国家と国民との関係，さらには国際社会における人権はいかにあるべきか，についての洞察力を身につける．

【授業概要】個人・自由・平等・主権をキーワードに，憲法の基本的な考え方 (総論)，憲法思想，歴史的背景，統治機構の仕組みおよび人権の基礎的・総論的内容について講義する．

【キーワード】個人，自由，平等，主権

【履修上の注意】エチケットを心得ていない学生の受講は取り消す．

【到達目標】憲法・国際法の公法的な思考様式を体得すること．

【授業計画】1. 近代法の価値観の成立史　**2.** 立憲主義の成立過程-英国，米国，仏国-　**3.** 国民主権あるいは民主主義　**4.** 人権の保障　**5.** 人権と国際法　**6.** 日本の憲法の歴史　**7.** 明治憲法の制定過程　**8.** 明治憲法の特質　**9.** 新憲法の制定過程　**10.** 日本国憲法の基本原理 I(国民主権・人権尊重主義)　**11.** 日本国憲法の基本原理 II(非武装平和主義・安全保障と国際法)　**12.** 憲法と国際法　**13.** 人権総論　**14.** 人権と「公共の福祉」　**15.** 法の下の平等　**16.** 試験

【成績評価】テスト，受講態度，出欠により評価する．

【再試験】なし

【教科書】根本博愛 · 青木宏治編『地球時代の憲法』第二版 (法律文化社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218997

【連絡先】

⇒ 林 .

⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

地理学の基礎 I

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】経済や情報のグローバル化が急速に進む現代において，地域のかたちやしくみはどうあるべきかが問い直されている．あらゆる経済活動は地域の資源や市場を前提に成立しており，われわれのくらしは農業，工業，商業など産業の立地によって支えられている．そうした地域と立地のメカニズムを系統的かつ論理的に考えてみるのがこの授業の目的である．前半は，チューネン，ウェーバー，クリスタラーに代表される古典理論の系譜を紹介し，後半では現代における立地論の新たな展開と応用について学ぶ．

【授業概要】経済地理学概説

【キーワード】地理学，地域科学，地域経済学，政策科学，産業，立地

【履修上の注意】隔年開講のため，平成 23 年度は開講しない．

【到達目標】人文地理学の体系の中で最も重要な根幹部分をなす経済地理学の基礎理論を学び，社会現象を理論的・空間的に考察する能力を身につけることを重視する．

【授業計画】1. 地理学の体系と立地論の系譜　**2.** チューネンの農業立地論　**3.** 地代と土地利用モデル　**4.** ウェーバーの工業立地論　**5.** 外部経済と集積の利益　**6.** クリスタラーの中心地理論　**7.** 都市の階層的システム　**8.** テスト (第 1 回)　**9.** オフィスの立地　**10.** 流通革命とコンビニの立地戦略　**11.** 公共施設の立地・配分モデル　**12.** クルーグマンの産業立地モデル　**13.** ポーターの産業クラスター論　**14.** グローバリゼーションと多国籍企業　**15.** テスト (第 2 回)　**16.** 授業のまとめ

【成績評価】授業内容の確認と復習を兼ねたテスト (持ち込み不可) を実施し，授業への取り組みと併せて成績評価をおこなう．

【再試験】なし

【教科書】松原宏編著『立地論入門』古今書院，2002 年．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218870

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154，toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

【備考】この授業は教員免許取得 (中学校 · 社会，高校 · 地歴) のための必修科目となっている．開講年次に注意して履修計画を立てること．

文系数学の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (前期)

日置 善郎 · 教授 / 総合理数学科，石田 基広 · 准教授 / 社会創生学科
掛井 秀一 · 准教授 / 社会創生学科，趙 彤 · 准教授 / 社会創生学科
豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科，吉川 隆吾 · 非常勤講師

【授業目的】大学受験の場面では文系と分類される分野であっても，専門課程では数学的なモデルによる説明や統計的な手法による分析が頻繁におこなわれる．経済学，社会学，地理学，行動科学などでは，数式が全く出てこない教科書を探すことはむしろ難しい．また一般社会においても，数学に関する計算力や思考力は職業に必要な基礎的能力とみなされ，各種試験において必須とされている．いずれの場合でも，高校で学習するレベルの数学の知識や能力が前提となっている．この授業では，高校で学んだ数学が大学の人文・社会科学でどのように展開され活用されていくのかを具体的に例示しながら，その基本となる数学を復習し必要な能力を固めることを目的とする．「数学は苦手」という学生にこそ，この授業を受講してほしい．

【授業概要】人文・社会科学に求められる数学の基礎とその考え方

【キーワード】高校数学，統計学

【関連科目】『情報処理の基礎 I』(0.5，⇒14 頁)，『情報処理の基礎 II』(0.5，⇒14 頁)

【履修上の注意】受講者は数学に関し特に予備知識を必要としない．むしろ，これまで数学に対し苦手意識や不安感を持ってきた受講生を対象としている．

【到達目標】人文・社会科学において求められる数学的な基礎知識を身につける．

【授業計画】1. データの分析 (1) 徳島は交通安全県か?　**2.** データの分析 (2) 平均的な所得額はいくら?　**3.** データの分析 (3) 視聴率はどのように調べるのか?　**4.** 確率 (1) じゃんけんに強い人・弱い人?　**5.** 確率 (2) ジャンボ宝くじで大金持ちに?　**6.** 確率 (3) 偏差値はそんなに大事なのか?　**7.** 図形と式 (1) マンホールのふたはなぜ丸い?　**8.** 図形と式 (2) 関数とグラフの関係は?　**9.** 図形と式 (3) 線形計画法とは?　**10.** 指数・対数 (1) サラ金でお金を借りると?　**11.** 指数・対数 (2) 震度とマグニチュードの違いは?　**12.** 指数・対数 (3) 対数で表すと何が便利なのか?　**13.** 微分・積分 (1) 平均速度と瞬間速度の違い

は? **14.** 微分・積分 (2) 最大値と最小値をさがすには? **15.** 微分・積分 (3) 学歴と生涯賃金の関係は? **16.** 授業のまとめ

【成績評価】 課題や小テストについて理解度を見るほか，授業への取り組みについて総合的に評価する．

【再試験】 おこなわない．

【教科書】 なし

【参考書】 授業時間にプリントを配布する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218993

【連絡先】

⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室，088-656-7234，hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206，088-656-7166，kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 5·6 時限)

⇒ 趙 (088-656-7176，zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12:50~ 14:20 水曜日 12:50~ 14:20)

⇒ 豊田 (088-656-7154，toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

⇒ 吉川 .

アート創生プロジェクト
Projects for Art Creation

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

石井 健二 · 教授/社会創生学科，平木 美鶴 · 教授/社会創生学科，河原崎 貴光 · 准教授/社会創生学科

【授業目的】 芸術をキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献する．

【授業概要】 アートを使った地域活性化事業について理解し，対象地域の調査結果を基に地域に相応しいアートを発想し，地域住民参加型などの作品制作をする．

【キーワード】 芸術，地域活性化

【到達目標】 地域の活性化に貢献できる．

【授業計画】 **1.** 地域活性化事業について **2.** アートを使った地域活性化事業について **3.** 地域の視察，調査等 **4.** 地域の視察，調査等 **5.** 美術を使った地域活性化を発想し意見交換 **6.** 美術を使った地域活性化を発想し意見交換及び役割分担 **7.** 住民との意見交換 **8.** 地域住民との共同作業による作品制作 (説明) **9.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) **10.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) **11.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) **12.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) **13.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) **14.** 完成作品の記録及び聞き取り調査 **15.** 外部に向けた成果発表会 **16.** まとめ

【成績評価】 地域活性化事業を理解した積極的な参加を評価する．

【再試験】 行わない．

【教科書】 使用しない

【参考書】

◇ 菜の花里美発見展記録集 監修 北川フラム 発行 現代企画社

◇ 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2000 監修 北川フラム 発行 現代企画社

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218331

【連絡先】

⇒ 平木 (103，088-656-7167，hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 昼休み)

化学の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

今井 昭二 · 教授/社会創生学科

【授業目的】 専門に進んで，科学の諸分野を専攻する上で必要とされる，化学の基礎的内容を修得することを目的とする．

【授業概要】 原子や分子の構造について説明し，物質の性質が化学結合の性質に基づいてどのように理解されるか述べる．化学物質相互の変換はどのような原理に基づいて起こるかについて述べる．

【キーワード】 原子の構造，化学結合，物質の三態，化学反応，熱力学

【履修上の注意】 予習を前提に講義を進めるので，事前に内容を調べて授業に臨んで下さい．遅刻しないこと．

【到達目標】

1. 原子の構造に関する基礎的な内容を理解している．
2. 化学結合の種類や特徴について理解している．
3. 化学反応式の量的関係を理解している．
4. 物質の三態の間の関係について理解している．
5. 酸と塩基，酸化と還元について理解している．
6. 熱力学の基礎的内容について理解している．

【授業計画】 **1.** 化学の基礎と原子の構造 **2.** 量子数と電子の軌道 **3.** 分子軌道と共有結合 **4.** 化学結合の種類と特徴 **5.** 化学反応と物質量 **6.** 理想気体と実在気体 **7.** 物質の三態と相律 **8.** 固体の構造 **9.** 希薄溶液の性質 **10.** 反応速度 **11.** 酸・塩基と pH **12.** 酸化・還元と電池 **13.** エンタルピーと反応熱 **14.** エントロピーと熱力学第 2 法則 **15.** 化学平衡と自由エネルギー **16.** 総括授業

【成績評価】 中間試験，定期試験，レポート等の結果に出席状況などの平常点を加味して総合評価する．

【再試験】 一定の基準を満たしている場合に再試験を行う．

【教科書】 芝原寛泰・齊藤正治 著 「< 大学への橋渡し > 一般化学」 化学同人

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218479

【連絡先】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前 · 後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)

生命科学基礎実験

2 単位 (選択) 1 年 (前期)

中川 秀幸 · 教授/社会創生学科，小山 保夫 · 教授/社会創生学科
大橋 眞 · 教授/社会創生学科，佐藤 高則 · 准教授/社会創生学科
真壁 和裕 · 教授/社会創生学科，松尾 義則 · 教授/社会創生学科
佐藤 征弥 · 准教授/社会創生学科，山城 考 · 准教授/社会創生学科
渡部 稔 · 准教授/社会創生学科，金丸 芳 · 准教授/社会創生学科
横井川 久己男 · 教授/社会創生学科，浜野 龍夫 · 教授/社会創生学科

【授業目的】 高校で生物学を履修していない学生は中学校レベルの生物学的知識を忘れています．そのまま，大学生活，そして大学院生活あるいは社会生活に入りますと，苦労することが多いでしょう．日常社会で話題になりやすいことは生命科学分野の話です．そこで，高校で生物学を履修していない学生にも，もちろん，生物学を履修した学生にも，新鮮な気持ちで「生命科学」に触れていただきたいと思います．この実習では，生命科学系の実験を行う上で必要な基本的な技術などを体験させると同時に，生命の基本的現象を観察・理解してもらいます．

【授業概要】 目的には書きましたが，社会に出てから「最も身近な学問」は生命科学です．なぜなら，健康問題，環境問題などの理解には生命科学分野の知識が求められるからです．生命科学の実験の一端に触れることで，いろいろな問題を容易に理解できる「切っ掛け」になります．細胞 (単細胞生物，心臓の細胞，卵子，精子など)，微生物，昆虫，植物，生体分子 (DNA など) など，毎回，様々なテーマで生命科学の知識を広げていきます．同時に，生命科学実験の基礎技術についての理解できるようになります．

【キーワード】 生命科学

【履修上の注意】 自分で積極的に「生命現象」を体験してください．そして，必要に応じて図書館などで生命についての疑問点を調べて，面白い内容のレポートを作成してください．

【到達目標】

1. 生命科学 (生命現象) に興味を持ってもらう．
2. 生命科学系の実験を行う上で最低限必要な器具 · 機器の操作法，基本的な技術などを習得してもらう．

【授業計画】 **1.** ガイダンス (実習の進め方，内容，レポート，受講学生の確認など一般的な指導を行います) **2.** 顕微鏡の使い方 (中学・高校の顕微鏡と違います) と淡水中のプランクトンの観察 (水一滴の中の世界に多くの生物がいます) **3.** ラットの単離心筋細胞の収縮運動と細胞の死 (心臓の一個の細胞の収縮，そして細胞が死ぬという現象を観察します) **4.** レクチンによるウサギ赤血球の凝集反応 (血液型の判定の基礎が解ります) **5.** 生命科学における情報処理の基礎 (もちろん，生命科学でもパソコンは必須です) **6.** DNA の抽出 (DNA 診断の第一歩となる技術です) **7.** 無菌操作 (私たちは微生物に囲まれていることを実感してください) **8.** リン酸の定量 (生命現象の中で大きな役割を果たすリン酸を定量してみます) **9.** 葉で樹木の検索表を作ってみよう (身近な植物を注意深く見てみましょう) **10.** 小型魚類の色素胞の伸縮に及ぼすイオンの影響 (細胞の運動の様子を観察します) **11.** アフリカツメガエルの人工受精と初期発生 (卵が受精をして発生していく様子を観察します) **12.** ゲルろ過法による生体分子の分離精製 (分子量の異なる生体分子を分子量の大きい順に分離します) **13.** 動物個体群の成長と生残 (貝やカニを採集して測定し，成長率や生残率を推定します)

【成績評価】 提出されたレポートの内容と，実習にどのように参加しているか，基本的な実習態度も含めて評価します．全ての実習の平均点で評価します．

【再試験】 実習ですので，再評価はありません．

【教科書】 実習の 1 回目に具体的なスケジュール (実習書) に示し，実習の概要を説明します．必要に応じて，個々の実習についてのプリントを配布します．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218745

【連絡先】

⇒ 中川 (3222，088-656-7259，sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室の時はいつでも．)

⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06，oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します．時間は有効に使います．)

⇒ 大橋 (656-7261，ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

【備考】 実習全体についての質問は渡部 (minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) までお願いします．個々の実習についての質問は担当している教員にお願いします．

社会創生学科 公共政策コース 授業概要

● コア科目

環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 97
憲法 …林・上原/2 年 (後期) 97
行政法 I …上原/2 年 (前期) 97
マクロ経済学 I …趙/2 年 (前期) 97
財政学 I …石田/2 年 (前期) 97
地域経済論 …中嶋/2 年 (前期) 98
公共政策論 …永井・石田/2 年 (後期) 98
経済学の基礎 II …立花/2 年 (前期) 98
法律学の基礎 II …直井・上原/2 年 (前期) 98

● コース選択科目

民法 I …直井/2 年 (後期) 98
民法 II …直井・上原/3 年 (前期) 99
刑法 I …山本・上原/3 年 (前期, 集中) 99
刑法 II …山本・上原/3 年 (後期, 集中) 99
行政法 II …上原/2 年 (後期) 99
商法 I …清水/2 年 (前期) 99
商法 II …清水/2 年 (後期) 99
企業取引法 …清水/3 年 (前期) 99
経済法 I …泉・上原/2 年 (前期, 集中) 99
経済法 II …泉・上原/2 年 (後期, 集中) 100
ミクロ経済学 I …内藤/2 年 (後期) 100
ミクロ経済学 II …眞弓/3 年 (前期, 集中) 100
マクロ経済学 II …趙/2 年 (後期) 100
財政学 II …石田/3 年 (後期) 101
環境経済学 …眞弓/3 年 (後期) 101
理論経済学 I …立花/2 年 (前期) 101
理論経済学 II …立花/2 年 (後期) 101
日本経済論 …中嶋/3 年 (前期) 101
会計学 I …三木・石田/2 年 (前期) 101
会計学 II …三木・石田/2 年 (後期) 102
経営学 I …高橋・石田/2 年 (前期, 集中) 102
経営学 II …高橋・石田/3 年 (後期, 集中) 102
経営学 III …多田/3 年 (後期) 102
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期) 102
国際関係論 II …饗場/3 年 (後期) 103
国際法 …湯山・上原/3 年 (前期, 集中) 103
世界経済論 I …水島/3 年 (前期) 103
世界経済論 II …水島/3 年 (後期) 103
ヨーロッパ思想研究 …吉田・山口・石田/2 年 (後期) 103
地域政策論 I …北村/2 年 (後期) 104
地域政策論 II …北村/2 年 (後期) 104
市民活動論 …萩原・樫田/2 年 (前期, 集中) 104
地域社会論 …矢部/2 年 (前期) 104
比較社会論 …上野/2 年 (後期) 105
社会統計学 I …豊田・石田/2 年 (前期) 105
社会統計学 II …矢部/2 年 (後期) 105
情報と職業 …吉田/2 年 (後期) 105
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期) 106
環境政策論 II …栗栖/3 年 (後期) 106
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 106
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 106
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 107
環境リスク論 …山本・浜野/2 年 (後期) 107
計画の数理 …滑川/3 年 (後期) 107
計画の論理 …近藤/3 年 (前期) 107
都市・交通計画 …山中・近藤/2 年 (前期) 108
公共政策演習 IA …上原/3 年 (前期) 108
公共政策演習 IA …上原/3 年 (後期) 108
公共政策演習 IA …栗栖/3 年 (前期) 108
公共政策演習 IA …栗栖/3 年 (後期) 108
公共政策演習 IA …饗場/3 年 (前期) 108
公共政策演習 IA …饗場/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IA …清水/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IA …清水/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …眞弓/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …眞弓/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …趙/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …趙/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …石田/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …石田/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …立花/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …立花/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …水島/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …水島/3 年 (後期) 110
公共政策演習 IB …多田/3 年 (前期) 110
公共政策演習 IB …多田/3 年 (後期) 110
公共政策演習 IB …中嶋/3 年 (前期) 110
公共政策演習 IB …中嶋/3 年 (後期) 110
公共政策演習 IB …内藤/3 年 (前期) 110
公共政策演習 IB …内藤/3 年 (後期) 110

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 110
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 111
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期) 111
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期) 111
運動文化論 …中村/2 年 (前期) 112
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 112
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期) 112
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期) 112
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期) 112
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期) 113
共生社会論 …樫田/3 年 (後期) 113
メディア情報論 …河原崎/2 年 (後期) 114
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期) 114
情報の数理 …中山/3 年 (前期) 114
現象の数理 …小野/3 年 (後期) 114
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期) 115
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期) 115
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 115
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 115
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) 116

環境政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
栗栖 聡 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】環境政策について体系的に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．

【授業概要】環境問題，環境政治・政策学，現代社会の基本的枠組みを検討し，ついで，環境政策に関して，その理念，手法，決定過程を検討する．さらに，環境基本法を踏まえつつ，大気，水，自然環境に関する規制の内容，循環型社会形成のための政策について論じる．最後に，市民参加の観点から環境影響評価の仕組みを検討する．

【到達目標】環境政策の体系的理解

【授業計画】**1.** 環境問題とは **2.** 環境政治・政策とは **3.** 環境問題と国家の役割 **4.** 環境政策の理念 **5.** 環境政策の手法 (総論) **6.** 環境政策の手法 (規制，経済的手法，市民参加等) **7.** 環境政策決定過程 (議会，行政) **8.** 環境基本法の制定過程と概要 **9.** 規制 (大気，水，土壌) **10.** 規制 (自然環境保全) **11.** 循環型社会形成政策 (廃棄物処理) **12.** 循環型社会形成政策 (排出削減) **13.** 環境影響評価 (事業アセス) と市民参加 **14.** 環境影響評価 (戦略アセス) と市民参加 **15.** 試験 **16.** まとめ

【成績評価】平常点 (20%) と期末試験 (80%)

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業中に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218487

【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1，0886567185，kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

憲法

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
林 喜代美 ·，上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】人権意識を体得し，国家と個人，国家と国民との関係はいかにあるべきか，についての洞察力を身につける．

【授業概要】自由・平等・人権・主権・ 民主主義をキーワードに，憲法の人権にかかわる規定の内容を中心に講義する．

【キーワード】**自由，平等，人権，主権，民主主義**

【先行科目】『法律学の基礎 I』(1.0，⇒93 頁)

【履修上の注意】エチケットを心得ていない学生の受講は 取り消す．

【到達目標】人権意識を体得し，国家と個人，国家と国民との関係はいかにあるべきか，についての洞察力を身につける．

【授業計画】**1.** 象徴天皇制と国民主権 **2.** 非武装平和主義と自衛隊 **3.** 思想・良心の自由 **4.** 信教の自由 I(法制度) **5.** 信教の自由 II(判例の動き) **6.** 学問の自由 **7.** 表現の自由 I(憲法上の地位) **8.** 表現の自由 II(合憲性の判断基準) **9.** 人身の自由 **10.** 生存権と教育を受ける権利 **11.** 労働基本権 **12.** 私的所有権 **13.** 権力分立制 I(国会と内閣) **14.** 権力分立制 II(裁判の独立) **15.** 違憲審査制 **16.** 試験

【成績評価】テスト，受講態度，出欠により評価する．

【再試験】なし

【教科書】根本博愛・青木宏治編『地球時代の憲法』第二版 (法律文化社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218589

【連絡先】
⇒ 林 .
⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

行政法 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】行政法は，行政活動を規律させるための法であり，その適用範囲は，現代においては，われわれのほとんどすべての生活領域に及んでいる．本授業では，行政法に共通する一般理論 (行政法総論) のうち，行政法の基本原理，現代型行政法システムである行政手続，情報公開，古典的行政法システムである行政行為について説明し，行政法の基本的理解を獲得することを目的とする．

【授業概要】行政法の基本原理と行政行為の法システム

【キーワード】**行政，法治行政，行政行為，行政裁量，行政強制**

【履修上の注意】六法を持参して受講すること．

【到達目標】 行政法の基本原理並びに行政行為についての法的しくみを理解し，行政法特有の法的思考力を養う．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 行政・行政法概念 **3.** 行政法の発展・行政法の法源 **4.** 行政法における公法と私法 (1) 公法私法二元論 **5.** 行政法における公法と私法 (2) 特別権力関係論 **6.** 行政法関係 **7.** 法律による行政の原理 **8.** 行政手続 (1) 行政手続法理 **9.** 行政手続 (2) 行政手続法 **10.** 行政行為 (1) 行政行為の概念，種別 **11.** 行政行為 (2) 行政行為の効力，瑕疵 **12.** 行政行為 (3) 行政行為の取消・撤回，附款 **13.** 行政行為 (4) 行政裁量 **14.** 行政上の実効性の確保 **15.** 試験 **16.** 総括授業

【成績評価】記述式による学期末試験の成績を基本としてレポート，出席などの平常店も考慮する．

【再試験】実施しない．

【教科書】原田尚彦「行政法要論」(全訂第 7 版増補版) 学陽書房

【参考書】別冊ジュリスト「行政法判例百選 III(第 5 版) 有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218540

【連絡先】
⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日12時~ 12時50分)

マクロ経済学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
趙 彤 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】長い人生において，貯蓄したり，住宅のためのローンを借りたりす ることがあるし，さらには，保険，株式，信託などの金融商品と向き合うこともあるだろう．この授業では，皆さんがこれから社会人として必要となる経済学の知識を教えることを目的している．マクロ経済学から出発し，経済全体のメカニズムを学習した上，我々の生活に密接に関連する国の金融政策と財政政策についても時間を割り当てて解説する予定である．

【授業概要】経済学の基礎科目

【履修上の注意】数学に関しては，微分についての高校教科書レベルの知識があれば十分であるし，授業中も必要に応じて説明する．原則として毎回の授業の最後 15 分ぐらいを演習問題の時間に当てる．

【到達目標】経済学の基本的な考え方を理解し，経済学に基づいた分析能力を身につけること

【授業計画】**1.** 1．講義のガイダンス (1 回) **2.** 2．マクロ経済学の諸概念 (2 回) **3.** 3．国民所得の決定メカニズム (2 回) **4.** 4．貨幣の需要と供給 (2 回) **5.** 5．IS-LM 分析 (3 回) **6.** 6．金融 · 財政政策の効果 (2 回) **7.** 7．新古典派とケインズ派の経済体系の比較 (1 回) **8.** 8．試験

【成績評価】出席と期末試験

【再試験】原則的に行わないが，病気等の止むを得ない事情の場合のみ実施する

【教科書】
◇ マンキュー 「マクロ経済学 I 入門篇」 東洋経済新報社
◇ マンキュー 「マクロ経済学 II 応用篇」 東洋経済新報社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219005

【連絡先】
⇒ 趙 (088-656-7176，zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00-14:30)

【備考】総合科学部 1 号館 3 階中棟，オフィスアワー以外の時間でも事前にメー ルで連絡をしてもらえれば対応できる

財政学 I
Public Finance1

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】財政の制度や現状を理解し，財政学の基礎的な理解を得る．

【授業概要】財政学 I と財政学 II を合わせて，財政学全般にわたる講義を行う．部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが，極力数式による説明を避け，グラフと言葉を多用して解説する．

【キーワード】**政府，予算，税，財政**

【関連科目】『財政学 II』(0.5)，『経済原論 I』(0.5)，『経済原論 II』(0.5)

【履修上の注意】通年での履修を推奨する．

【到達目標】1，財政の現状を理解する． 2，財政学の基礎的理解を得る．

【授業計画】**1.** 財政と財政学 **2.** 日本の財政制度 (1) 予算・決算・会計 **3.** 日本の財政制度 (2) 国家財政・地方財政 **4.** 日本の財政制度 (3) 政府間財政 **5.** 財政の 3 機能 (1) 資源配分機能 **6.** 財政の 3 機能 (2) 所得再分配機能 **7.** 財政の 3 機能 (3) 経済安定化機能 **8.** 財政と金融 **9.** 政府の捉え方 **10.** 租税の基礎 **11.** 日本の税制:国税・地方税 **12.** 税制の経済効果 **13.** 消費課税 **14.** 所得課税 **15.** 資産課税 **16.** 定期試験 (または，期末レポート)

【成績評価】授業への取組み (20%)，中間試験 (または中間レポート)(30%)，定期試験 (または期末レポート)(50%)

【再試験】無

【教科書】無

【参考書】講義中に配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218666

【連絡先】
⇒ 石田 (2206，0886567169，k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域経済論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 地域経済に対する関心が高まっている．都市の過密問題や地方圏の過疎問題が深まっており，実践的解決が求められているためである．地域経済学 (論) はそのような要請に対応して形成された比較的新しい学問領域である．この講義は地域社会の土台をなす地域経済の構成と動態を検討するとともに，地域問題解決のための理論と手法を獲得することを課題とする．

【授業概要】 地域問題・地域経済構造分析・地域政策の 3 領域で地域経済論は校正される．その基本骨格を理解した上で，四国や徳島の例を用いながら，実証的な考察を行う．

【キーワード】地域問題，地域経済，地域政策

【到達目標】 1) 地域経済学の基礎概念を理解し活用できる．2) 実証的に地域経済を分析できる．

【授業計画】 **1.** 地域問題と地域経済 地域経済論 (学) の課題と構成 講義計画 **2.** 地域経済と国民経済 「地域」経済の概念 地域経済論の系譜 **3.** 地域政策の理念と体系 欧米諸国の地域政策の展開過程の検討 **4.** 地域政策と地方自治 政策主体 (行政 · 議会 · 住民団体) の役割 **5.** 地方自治の歴史と現状 日本の地方自治制度の展開過程と現位置 **6.** 地域政策の展開過程 (1) 日本経済の成長様式と地域政策の関係 **7.** 地域政策の展開過程 (2) 高度成長期の地域政策の理念と展開内容 **8.** 地域経済分析の方法 (1) 人口構造の動態とその分析手法の紹介 **9.** 地域経済分析の方法 (2) 産業構造の動態とその分析手法の紹介 **10.** 地域経済分析の方法 (3) 地域経済及び地域政策の担い手の状態 **11.** 県内地域経済の動向 (1) 過疎地域における産業と社会の状況と課題 **12.** 県内地域経済の動向 (2) 地方中核都市周辺部における動向と課題 **13.** 転換期の住民自治 (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の住民自治 (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域経済論の学び方 地域経済論の近年の動向と研究課題

【成績評価】 講義中の exercise および最終リポートの結果により判定する．

【再試験】 再試は行わない

【教科書】 各回の講義はレジュメ参考資料を用いて運営．全体の参考書は下記の通り．

【参考書】 中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年，1,200+税．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218777

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

公共政策論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
永井 真也 · 講師 / 四国大学，石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 さまざまな社会問題への対策を一社会人として考える基礎を形成したい．具体的な政策を解説しながら，政策というものへの理解を深めてほしい．

【授業概要】 公共政策の守備範囲は非常に広い．しかし，財政的な制約もあって，なんでも行政がおこなう時代ではない．多様な主体による最適な公共サービス供給が求められる時代である． 本講義では，現在の政策課題である少子高齢化問題をとりまく諸政策を話しながら，公共政策全体への理解が深まるよう授業展開をおこなうつもりである．

【キーワード】公共部門，政策形成，少子高齢化，まちづくり

【到達目標】
1. 公共政策の概念を理解する
2. 現代社会での政策形成過程を理解する

【授業計画】 **1.** ガイダンス-公共政策の概念- **2.** 公共政策を担う機関 **3.** 公共政策の変遷-科学的管理による選択の始まり- **4.** 公共政策の最前線-パートナーシップ- **5.** 少子高齢化とその課題 (総論) **6.** まちづくり 3 法①大店立地法，都市計画法 **7.** まちづくり 3 法②中心市街地活性化法 **8.** 公共交通の衰退 **9.** 保育所問題 **10.** 若者の就業問題 **11.** わが国の財政危機 **12.** 社会保障問題①年金 **13.** 社会補償問題②健康保険 **14.** 「新しい公共」の形成に向けて **15.** 試験 **16.** まとめ

【成績評価】 平常点 (30%) と試験 (70%)

【再試験】 なし

【教科書】 なし

【参考書】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218600

【連絡先】
⇒ 永井 .
⇒ 石田 (2206，0886567169，k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 授業の最初に出席を取ります．私語禁止．

経済学の基礎 II

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
立花 敬雄 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 生産力的に最も高い水準に達した資本主義経済を分析的，総合的に考察するのに必要な視座を明らかにする．そして現代社会・経済の歴史的位相，経済学の現代的課題，現代資本主義と経済学，等について検討するとともに，その新しい展開の意味を説明する．

【履修上の注意】 特になし

【到達目標】 現代社会・経済を分析，総合する経済学の専門的知識を習得し，それを踏まえた実態経済の分析能力を養うこと．

【授業計画】 **1.** 1. 現代社会・経済の歴史的位相 **2.** 2. 経済学の現代的課題 **3.** 3. 資本主義社会と経済学 **4.** 4. 現代資本主義と経済学 **5.** 5. 現代社会・経済の新展開

【成績評価】 受講態度と論述形式のテスト，レポートを総合的に判断して評価する．

【再試験】 実施する．

【教科書】 講義時に指示する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218548

【連絡先】
⇒ 立花 (656-7187，tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

法律学の基礎 II

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
直井 義典 · 准教授 / 社会創生学科，上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 民法全体の基礎をなす総則部分をならびに物権法の内の用益物権について理解することにより，民法 I・民法 II で扱う担保物権法・債権法学習の基礎を固める．

【授業概要】 本講義では憲法と並んで法律学の基礎をなす民法，その中でも根底をなす総則部分ならびに物権法の内の用益物権について講ずる．とりわけ総則は民法の中でも抽象度が高く難解とされる部分であるが，法律行為の無効・時効など，物権法・債権法の理解の前提となる部分であるので，できるだけ事例を挙げながらわかりやすく説明していくこととする．

【キーワード】法律行為，能力，代理，物権変動，所有

【関連科目】 『商法 I』(0.5，⇒99 頁)，『経済法 I』(0.5，⇒99 頁)

【履修上の注意】 私法の根底をなす講義であるので，「民法 I」・「民法 II」・「商法 I」・「商法 II」・「企業取引法」・「経済法 I」・「経済法 II」のうちのいずれかの科目の履修を考えている者は必ず履修すること． 初回から，六法を持参すること (『セレクト六法』・『ポケット六法』などの小型のもので足りる．できる限り新しいものを用意することが望ましい)． 法律学の「基礎」だが，「基礎」とは「初歩」という意味ではない．科目の性質上相当量の予習・復習をしないと理解できないので，履修の際には留意すること．

【到達目標】
1. 民法の根底をなす総則部分を理解すること．
2. 物権変動とは何かを理解すること．
3. 民法典の全体像を描けるようになること．

【授業計画】 **1.** 民法とは? (法律全体の中での位置づけ) **2.** 法律行為の成立 1(意思の完全性) **3.** 法律行為の成立 2(内容の妥当性) **4.** 法律行為の成立 3(無効と取消し) **5.** 法律行為の主体 1(自然人の能力) **6.** 法律行為の主体 2(代理一般) **7.** 法律行為の主体 3(表見代理・無権代理) **8.** 法律行為の主体 4(法人) **9.** 法律行為の客体 (物)・時効 1(取得時効) **10.** 時効 2(消滅時効)・条件・期限・期間 **11.** 不動産物権変動 **12.** 動産物権変動 **13.** 占有権・所有権 **14.** 所有権の取得・制限 **15.** 共有・用益物権 **16.** 期末試験

【成績評価】 出席点 (5 点)・小テスト (20 点)・論述式を含む期末試験の成績 (75 点) による．

【再試験】 行わない

【教科書】
◇ 大村敦志『基本民法 I[第 3 版]』(有斐閣)
◇ 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選 I[第 6 版]』(有斐閣)

【参考書】 講義で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218998

【連絡先】
⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 10 時 25 分 ~ 11 時 55 分)
⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

民法 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
直井 義典 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 民法のうち，債権各論部分を学習することにより，日常生活において民法が果たしている役割を理解する．

【授業概要】 民法総則を学習していることを前提として債権各論部分を講ずる．ここには契約・不法行為・事務管理・不当利得という，日常生活に密接に関わり消費者問題・公害問題等の解決に必須の法的事項が含まれる．そこで，日常生活に即した具体的な事例を挙げながら説

明を加えていくこととする．法律学の基礎 II に比べて扱う対象が身近な分，理解し易いはずである．

【キーワード】契約，不法行為

【先行科目】『法律学の基礎 II』(1.0, ⇒98 頁)

【履修上の注意】初回から，六法を持参すること．法律学の基礎 II を履修していることを前提として講義を進めるので留意すること．

【到達目標】

1. 契約法が社会において果たしている役割を理解する．
2. 不法行為法の規定を把握し，公害・交通事故・医療過誤といった社会問題に対して法がいかなる対処をしてきたのかを理解する．

【授業計画】1. 契約の成立 **2.** 売買の効力 **3.** 売買の解除 **4.** 賃貸借 1(民法典の規定) **5.** 賃貸借 2(借地借家法)・使用貸借 **6.** 消費貸借 **7.** 雇用・請負・委任 **8.** その他の契約 **9.** 不法行為法総論 **10.** 過失 **11.** 因果関係 **12.** 損害賠償・過失相殺 **13.** 共同不法行為 **14.** 使用者責任・工作物責任 **15.** 事務管理・不当利得 **16.** 期末試験

【成績評価】出席点 (25 点) ならびに論述式を含む期末試験の成績 (75 点) による．

【再試験】行わない．

【教科書】

◇ 大村敦志『基本民法 II 第 2 版』(有斐閣)
◇ 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選 II 第 6 版』(有斐閣)

【参考書】講義の際に適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219011

【連絡先】

⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 10 時 25 分 ~ 11 時 55 分)

民法 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
直井 義典・准教授/社会創生学科，上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】民法 I・II の学習をもとに，金融界で必須の債権総論・担保物権に関する知識を身につけ，民法のうち財産法領域の体系的な理解をする．

【授業概要】本講義では，金融界で必須の知識となっている保証人・抵当権・連帯債務などのについて扱う債権総論・担保物権法を，これまでに学習した事例との関連に気を配りながら講じていく．余力があれば最先端の金融手段についても講じることとしたい．

【キーワード】債権，保証，担保，抵当権

【先行科目】『法律学の基礎 II』(1.0)，『民法 I』(1.0)

【到達目標】民法の根底をなす概念を習得することにより，物権法・債権法と連関させた形で財産法の全体像が把握できるようにする．

【授業計画】1. 債権内容の確定 **2.** 弁済 **3.** 債権譲渡 **4.** 強制履行 **5.** 損害賠償 **6.** 債権者代位憲 **7.** 詐害行為取消権 **8.** 連帯債務・保証債務 **9.** 抵当権 1(概要) **10.** 抵当権 2(効果) **11.** 抵当権 3(特殊な抵当権) **12.** 非典型担保 1(仮登記担保) **13.** 非典型担保 2(譲渡担保・所有権留保) **14.** 法定担保物権 (留置権・先取特権) **15.** 質権 **16.** 期末試験

【成績評価】出席状況 (25 点) ならびに期末試験の成績 (75 点) による．

【再試験】行わない．

【教科書】

◇ 大村敦志『基本民法 III 第 2 版』(有斐閣)
◇ 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選 I 第 6 版』(有斐閣)
◇ 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選 II 第 6 版』(有斐閣)

【参考書】講義の際に適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220214

【連絡先】

⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 10 時 25 分 ~ 11 時 55 分)
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

刑法 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期，集中)
山本 雅昭・，上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220215

【連絡先】

⇒ 山本 .
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

刑法 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期，集中)
山本 雅昭・，上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220216

【連絡先】

⇒ 山本 .
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

行政法 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】行政法は，行政活動を規律させるための法であり，その適用範囲は，現代においては，われわれのほとんどすべての生活領域に及んでいる．本授業では，行政法 I で獲得した行政法への基礎的な理解を発展させ，行政行為以外の行政活動について法的に考察し，さらに，行政活動によって権利利益を侵害された場合にどのような法的救済がなされるかを理解することを目標とする．

【授業概要】行政法諸活動形式と行政救済法

【キーワード】行政救済，国家補償，行政訴訟，行政計画，行政指導

【履修上の注意】本講義は，行政法 I の受講を前提として開講されるので，行政法 I を履修しているか，(自習などにより) その内容を理解している者以外の受講は望ましくない．また，六法を持参して受講すること．

【到達目標】行政行為以外の行政活動の法形式並びに行政救済法についての法的しくみを理解し，行政法特有の法的思考力をさらに深める．

【授業計画】1. 行政立法 **2.** 行政計画 **3.** 行政契約 **4.** 行政指導 **5.** 国家賠償法総説 **6.** 損失補償法 (1) 意義・根拠 **7.** 損失補償法 (2) 要件・内容・方法 **8.** 国家賠償法 (1) 総説・1 条 **9.** 国家賠償法 (2)2 条 **10.** 国家補償の谷間 **11.** 行政事件訴訟法 (1) 総説 **12.** 行政事件訴訟法 (2) 訴訟類型等 **13.** 行政事件訴訟法 (3) 処分性 **14.** 行政事件訴訟法 (4) 原告適格 **15.** 試験 **16.** 総括授業

【成績評価】記述式による学年末試験の成績を基本として出席などの平常点も考慮する．

【再試験】実施しない．

【教科書】原田尚彦「行政法要論」(全訂第 7 版増補版) 学陽書房

【参考書】別冊ジュリスト「行政法判例百選 III(第 5 版) 有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218541

【連絡先】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日12時~ 12時50分)

商法 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
清水 真人・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218706

【連絡先】

⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

商法 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
清水 真人・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218707

【連絡先】

⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

企業取引法

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
清水 真人・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220217

【連絡先】

⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

経済法 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
泉 克幸・教授/社会創生学科，上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】企業や個人，国家等の経済活動に関する基本的ルールが経済法である．中でも，国の競争政策や技術政策，産業政策などの実現を直接的に規律する法律が主たる対象となる．本講義ではこうした経済法の概観を行うことで，その基本的原理，あるいは現代における重要性を説く．細かな条文の解釈や学説，判例を追うだけでなく，具体的事例を出来るだけ紹介したい．

【授業概要】独占禁止法の基本的理解

【キーワード】経済法，独占禁止法

【関連科目】『経済法 I』(0.5, ⇒99 頁)，『民法 I』(0.5, ⇒98 頁)，『商法 I』(0.5, ⇒99 頁)

【到達目標】①独占禁止法の今日的意義の理解，②独占禁止法の基本的理解，③リーガルマインドの養成

【授業計画】**1.** 経済法 I では経済法の中心である独占禁止法 (以下,「独禁法」) にスポットを当て，16 回の授業を行う．独禁法は,「公正かつ自由な競争」を目的としており，資本主義経済社会において重要な役割を果たす市場に関する基本的ルールを定めている法律である．授業では以下のような内容を持つ独禁法を概説する．また，現在，特に議論されている分野の紹介などもリアルタイムで行う． **2.** 1) 独禁法の目的 **3.** 2) 不当な取引制限 (カルテル) **4.** 3) 不公正取引方法 (再販売価格の拘束，抱き合わせ，ボイコット等) **5.** 4) 集中規制 **6.** イ) 一般集中規制 (持株会社，企業集団等) **7.** ロ) 市場集中規制 (私的独占，合併等の企業結合等) **8.** 5) 独禁法の実現手段 **9.** 6) 公正取引委員会の役割

【成績評価】期末試験を中心に，授業メモ (ミニレポート)，小テスト，質問の有無等を考慮し評価を行う．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書として，根岸哲 · 杉浦市郎編『経済法』(法律文化社) を用いる．その他の参考書 · 資料等については随時紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218550

【連絡先】

⇒ 泉 (088-656-7184，izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:水曜13時から14時)

⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

経済法 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期，集中)

泉 克幸 · 教授 / 社会創生学科，上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】経済法とは一定の経済政策に関する法全体を指す．経済法 II では，様々な領域を対象とする経済法のうち，知的財産法を概説する (なお，経済法 I の履修または単位取得は要件ではない)．知的財産法とは，人間の知的活動の成果であって財産的価値を有する知的財産 (具体的には技術や情報，音響，画像，コンピュータ · ソフトウェア，デザイン，ブランド等) に関する法の総称である．知的財産に関する議論は，わが国における産業政策 · 経済政策の柱の 1 つとして取り上げられていること，米国が近年，強化政策を採っていること，莫大な経済的利益に直結すること，情報化 · マルチメディア化 · ネットワーク化の進展に大きな影響があることなどを背景とし，現在最も重要視されている分野であるといえる．授業では知的財産法の体系を順に説明するだけでなく，最近のトピックスも出来る限り取り上げたい．法律の専門的知識は必ずしも求めないが，政治 · 経済 · 社会上の動きを知るため，新聞やニュース等に対して敏感な姿勢を望む．

【授業概要】知的財産法の基本的理解

【キーワード】**知的財産法，著作権，特許，商標，経済法**

【関連科目】『経済法 I』(0.5, ⇒99 頁)，『民法 I』(0.5, ⇒98 頁)

【到達目標】①知的財産法の今日的意義の理解，②知的財産法の基本的理解，③リーガルマインドの養成

【授業計画】**1.** 以下のような体系をもつ知的財産法を，16 回の授業により概説する． **2.** 1．産業財産権法 **3.** 1) 知的創作物に関するもの ··· ··· 特許権，実用新案権，半導体の回路配置権，植物の新品種に関する権利，意匠権，ノウハウ (企業秘密) **4.** 2) 営業標識に関するもの ··· ··· 商標権，商号権，サービス · マーク，原産地表示 **5.** 2．著作権 **6.** 1) 著作者の権利 ··· ··· 著作財産権 (複製権など)，著作者人格権 **7.** 2) 著作隣接権 (レコード業者，放送業者，歌手 · 演奏家等の権利) **8.** 3) その他

【成績評価】期末試験を中心に，授業メモ (ミニレポート)，小テスト，質問の有無等を考慮して成績評価を行う．

【教科書】教科書については未定である．参考書として，著作権と特許について，1 点ずつ挙げておく．· 吉田大輔『著作権が明解になる 10 章』(出版ニュース社)· 竹田和彦『特許がわかる 12 章』(ダイヤモンド社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218551

【連絡先】

⇒ 泉 (088-656-7184，izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:水曜16時10分から17時10分)

⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

ミクロ経済学 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

内藤 徹 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】産業経済論 I で習得したミクロ経済学の知識を現実の事象にどのように適用することが可能であるかを理解する．

【授業概要】本講義では都市や空間を分析するツールとしてミクロ経済学をはじめとする経済理論を応用し分析する．古典的な単一中心都市モデルから新しい空間経済学モデルなどを解説する．

【キーワード】**ミクロ経済学，空間経済学，都市経済学，地方財政，交通**

【先行科目】『経済学の基礎 I』(1.0, ⇒92 頁)

【履修上の注意】本講義は経済原論 I·II(ミクロ経済学) と内容的に深い関連をもっており， 経済原論 I ·II を既に履修しているか同時に履修することが望ましい． また授業理解のために必要と思われる，トピックスについては，経済原論 I·II の内容を一部復習することもある．

【到達目標】ミクロ経済学を応用して現実経済を分析できる力を習得することを目標とする．

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 都市と都市化の概念 **3.** 日本の地域構造 **4.** 都市集積の理論 **5.** 集積の経済 **6.** 家計の立地行動 (1) **7.** 家計の立地行動 (2) **8.** 均衡地代の決定理論 **9.** 企業・産業の立地 **10.** 商業地の立地理論 **11.** 公共サービスと都市・地域政策 **12.** 住宅市場と住宅政策 **13.** 地域交易と空間経済学 **14.** 都市・農村間の移住モデル **15.** おさらい **16.** 予備日

【成績評価】期末テスト

【再試験】なし

【教科書】黒田達朗・田渕隆俊・中村良平 (著)『都市と地域の経済学』有斐閣ブックス

【参考書】講義で使用するレジュメ，スライドを提供する

【WEB 頁】http://sites.google.com/site/s947140/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219008

【連絡先】

⇒ 後日,指示します

【備考】当講義はミクロ経済学の知識を前提として進めていく予定である．したがって，経済学の基礎 I の内容を十分に理解しておくことが必要となります．

ミクロ経済学 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期，集中)

眞弓 浩三 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】経済科学におけるミクロ分析的な手法を学ぶ．

【授業概要】標準経済学の企業の理論とゲーム理論の初歩的手法を学習する．

【到達目標】標準経済学のミクロ理論について精通する．

【授業計画】**1.** 数学の準備:微分の基礎 **2.** 数学の準備:多変数関数の微分 **3.** 数学の準備:制約条件付極値問題 **4.** 企業理論:導入 **5.** 独占 1:行動形態 **6.** 独占 2:課税とその影響 **7.** 独占的競争:導入 **8.** 独占的競争:行動形態 **9.** ゲーム理論:導入 **10.** ゲーム理論:クルーノーの複占理論 **11.** ゲーム理論:シュタッケルベルクの複占理論 **12.** ゲーム理論:マケットシェアー **13.** 寡占:導入 **14.** 寡占:行動形態 **15.** 定期試験 **16.** 総括

【成績評価】通常の試験の結果のみで判断する．平常点などというものはない．プロセスよりも結果だけが大切であることを理解せよ．

【教科書】教科書は指定しない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220360

【連絡先】

⇒ 眞弓 (1316，088-656-7175，mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午後．あらかじめメールで連絡ください．)

マクロ経済学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

趙 彤 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】長い人生において，貯蓄したり，住宅のためのローンを借りたりす ることがあるし，さらには，保険，株式，信託などの金融商品と向き合うこともあるだろう．この授業では，皆さんがこれから社会人として必要となる経済学の知識を教えることを目的している．マクロ経済学から出発し，経済全体のメカニズムを学習した上，我々の生活に密接に関連する国の金融政策と財政政策についても時間を割り当てて解説する予定である．

【授業概要】経済学の基礎科目

【履修上の注意】数学に関しては，微分についての高校教科書レベルの知識があれば十分であるし，授業中も必要に応じて説明する．原則として毎回の授業の最後 15 分ぐらいを演習問題の時間に当てる．

【到達目標】経済学の基本的な考え方を理解し，経済学に基づいた分析能力を身につけること

【授業計画】**1.** 1．講義のガイダンス (1 回) **2.** 2．貨幣と金融 (2 回) **3.** 3．利子率と資産価格の決定メカニズム (3 回) **4.** 4．労働市場と失業 (2 回) **5.** 5．経済成長 (2 回) **6.** 6．国際経済学 (2 回) **7.** 7．試験

【成績評価】出席と期末試験

【再試験】原則的に行わないが，病気等の止むを得ない事情の場合のみ実施する

【教科書】

◇ マンキュー 「マクロ経済学 I 入門篇」 東洋経済新報社

◇ マンキュー 「マクロ経済学 II 応用篇」 東洋経済新報社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219006

【連絡先】

⇒ 趙 (088-656-7176，zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00-14:30)

【備考】総合科学部 1 号館 3 階中棟，オフィスアワー以外の時間でも事前にメー ルで連絡をしてもらえれば対応できる

財政学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】財政の制度や現状を理解し，財政学の基礎的な理解を得る
【授業概要】財政学 I と財政学 II を合わせて，財政学全般にわたる講義う行う．部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが，極力数式による説明を避け，グラフと言葉を多用して解説する．
【キーワード】**公債，社会保障，環境**
【先行科目】『財政学 I』(1.0, ⇒97 頁)
【到達目標】財政の現状を理解する
【授業計画】**1.** 公債 (1) 資金調達 **2.** 公債 (2) 債務残高 **3.** 公共事業:費用便益分析 **4.** 受益者負担論 **5.** 公共支出の理論 **6.** 公共選択論 **7.** 教育と財政 **8.** 環境と財政 **9.** 中間試験 **10.** 社会保障 (1) 年金財政 **11.** 社会保障 (2) 医療財政 **12.** 地方財政 (1) **13.** 地方財政 (2) **14.** 地方財政 (3) **15.** 定期試験 (または，期末レポート) **16.** 総括
【成績評価】授業への取組み (20%), 中間試験 (または中間レポート)(30%), 定期試験 (または期末レポート)(50%)
【再試験】なし
【教科書】なし
【参考書】講義中に配布する
【WEB 頁】http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/zaiseigaku1.html/
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220367
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境経済学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
眞弓 浩三 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】経済科学における分析的な手法を学ぶ．
【授業概要】標準経済学の接近法を学習した後，ジョージェスクーレーゲンの生物経済学と社会メタボリズムについて理解を深める．
【キーワード】**エネルギー，環境，鉱物資源，ジョージェスクレーゲン**
【到達目標】分析的な思考を身につける．
【授業計画】**1.** 環境経済学:導入 **2.** 標準経済学の効率性とは? **3.** 標準経済学の鉱物資源の配分原理とその批判 **4.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:導入 **5.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:消費者選好理論 **6.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:エネルギーとエントロピー **7.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:鉱物資源の重要性 **8.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:モデルとシミル **9.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:総括 **10.** 社会メタボリズム:導入 **11.** 社会メタボリズム:エネルギー分析の手法 **12.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの導入 **13.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの理論 **14.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの応用 **15.** 定期試験 **16.** 総括
【成績評価】通常の試験の結果のみで判断する．平常点などというものはない．プロセスよりも結果だけが大切であることを理解せよ．
【教科書】教科書は指定しない．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220362
【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午後．メールであらかじめ連絡してください．)

理論経済学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
立花 敬雄 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】資本主義経済の本質と構造について，分析と総合，帰納と演繹といった学問的方法を有する経済学を体系的に学習する．経済学の方法と体系を説明し，商品論，価値論，貨幣論，剰余価値論，等のそれぞれの内容と関連を概説する．そして，それに関わる現代社会・経済の諸問題を説明する．
【到達目標】資本主義経済の本質と構造を理論的に解明するために，経済学の専門的知識を習得し，現代社会・経済の諸問題の解決に資する能力を身につけること．
【授業計画】**1.** 1. 経済学の方法と体系 **2.** 2. 商品と商品形態 **3.** 3. 使用価値と価値 **4.** 4. 価値形態と貨幣 **5.** 5. 交換過程と貨幣形態 **6.** 6. 貨幣の機能と資本 **7.** 7. 労働過程と価値増殖過程 **8.** 8. 可変資本と剰余価値率 **9.** 9. 労働日と絶対的剰余価値 **10.** 10. 相対的剰余価値の生産
【成績評価】受講態度と論述形式のテスト，レポートを総合的に判断して評価する．
【再試験】実施する．
【教科書】講義時に指示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219032
【連絡先】
⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

理論経済学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
立花 敬雄 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】資本主義経済の本質と構造について，分析と総合，帰納と演繹といった学問的方法を有する経済学を体系的に学習する．剰余価値論，賃金論，蓄積論，表式論，価格論，利子論，等のそれぞれの内容と関連を概説し，それに関わる現代社会・経済の諸問題を説明する．
【到達目標】資本主義経済の本質と構造を理論的に解明するために，経済学の専門的知識を習得し，現代社会・経済の諸問題の解決に資する能力を身につけること．
【授業計画】**1.** 1. 経済学と現代社会・経済の諸問題 **2.** 2. 大工業と剰余価値の生産 **3.** 3. 時間賃金と出来高賃金 **4.** 4. 賃金の国際的比較 **5.** 5. 単純再生産と拡大再生産 **6.** 6. 資本主義的蓄積の一般的法則 **7.** 7. 流通過程と再生産表式 **8.** 8. 価格と利潤率 **9.** 9. 商業利潤と利子 **10.** 10. 差額地代と絶対地代
【成績評価】受講態度と論述形式のテスト，レポートを総合的に判断して評価する．
【再試験】実施する．
【教科書】講義時に指示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219033
【連絡先】
⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

日本経済論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】日本経済の実像に正しく迫るには，その構造が形成された経過に即して捉える方法が有効である．また将来のあるべき姿を描く上でも，獲得された地点と埋められるべき課題を歴史的に解明する方法が通常採用されている．このように日本経済を歴史的に分析する作業は，優れて現代的関心に基づいている．歴史的転換点に位置する日本経済の針路を探る素材を提供する．
【授業概要】戦後日本経済の推移を画期ごとに考察し，その構造と特質を明らかにする．
【キーワード】**日本経済，歴史，経済成長**
【履修上の注意】専用ファイルを準備し，レジュメ · ノート · 関連資料などをまとめて私的なテキストを作成すること．
【到達目標】今日の日本経済の構造的特質を理解し，改革課題を理解する．
【授業計画】**1.** 戦後日本資本主義の諸段階 **2.** 占領体制と「戦後民主化」 **3.** 冷戦構造と日本の選択 **4.** 講和と日本経済の再編成 **5.** 「55 年体制」と経済成長 **6.** 高度経済成長のシステム **7.** 産業と階級構成の変動 **8.** 国民生活様式の変貌 **9.** 成長方式の破綻と構造不況 **10.** 構造不況と財政危機 **11.** 世界資本主義の動揺と調整 **12.** 国際協調と構造転換政策 **13.** 日本経済のグローバル化 **14.** 戦後日本経済の構造と段階 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本資本主義の戦前と戦後
【成績評価】中間リポートと期末筆記試験で単位を認定する．出席状況による成績の補正があり得る．
【再試験】行わない
【教科書】教科書は用いず，レジュメに即して進行する．参考書等を適宜紹介する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220373
【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

会計学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
三木 正幸 ·, 石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】古来，「良き経営」は，「良き会計」からといわれている．これは変化の激しい環境の中で，企業が健全な経営を営み，高い収益性と流動性を維持しながら持続的に成長していくために，「会計」や「会計学」の知識が不可欠であることを示唆した含蓄のある言葉である．この講義では，今日，120 万社ある株式会社企業に適用されている会計制度とそこで行われている収益 · 費用計算，財産計算を中心に，会計理論をわかりやすく解説．そして，受講生が就職活動を行ったり，卒業後民間企業等で働く場合，心得ていなければならない必須の「概念」や「考え方」を中心に，社会的に有用性の高い講義を目指す予定である．
【授業概要】現代における企業会計制度の基礎理論について学ぶ．
【キーワード】**会計情報，財務情報公開制度**

【履修上の注意】原則として 2 年次配当とするが，3 年生も受講可能である．簿記論を並行して勉強をすれば，一層楽しく，理解しやすくなる．なお，後期のみの履修では，全貌をとらえ難いので，前後期 (I, II) を履修することが好ましい．

【到達目標】
1. 1 企業の財務情報公開制度を巡る諸問題
2. 2 資産評価の方法の基礎理論

【授業計画】**1.** 企業会計と会計学の関係，会計の意味，会計の機能 **2.** 財務会計の規範，会計公準，会計原則 **3.** 財務会計の処理プロセス **4.** 財務会計のフレームワーク (商法会計，証取法会計，税務会計) **5.** 財務会計の基礎理論 (計算構造上の特徴，原価・実現主義，取得原価主義) **6.** 会計基準と会計原則 (一般原則について) **7.** 中間試験 **8.** 資産評価 (分類，評価基準) **9.** 資産の評価基準と問題演習 **10.** 現金預金の会計と報告 **11.** 金銭会計の会計と報告 **12.** 有価証券の会計と報告 **13.** 棚卸資産の会計と報告 **14.** 有形資産の会計と報告 **15.** 減価償却の目的，効果，方法 **16.** 無形資産の会計と報告

【成績評価】中間試験期末試験の平均値による．

【再試験】行わない

【教科書】広瀬儀州「財務会計」中央経済社

【参考書】飯野利夫著「財務会計論」同文館

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218473

【連絡先】
⇒ 三木 .
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

会計学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
三木 正幸・, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】古来，「良き経営」は，「良き会計」からといわれている．これは変化の激しい環境の中で， 企業が健全な経営を営み，高い収益性と流動性を維持しながら持続的に成長していくため に，「会計」や「会計学」の知識が不可欠であることを示唆した含蓄のある言葉である．この講義では，今日，120 万社ある株式会社企業に適用されている会計制度とそこで行われ ている収益・費用計算，財産計算を中心に，会計理論をわかりやすく解説．そして，受講生 が就職活動を行ったり，卒業後民間企業等で働く場合，心得ていなければならない必須の 「概念」や「考え方」を中心に，社会的に有用性の高い講義を目指す予定である．

【授業概要】現代における企業会計制度の基礎理論について学ぶ．

【履修上の注意】原則として 2 年次配当とするが，3 年生も受講可能である．簿記論を並行して勉強をすると，一層楽しく，理解しやすくなる．なお，後期のみの履修では，全貌をとらえ難いので，前後期 (I, II) を履修することが好ましい．

【到達目標】
1. 資産会計の諸問題について，理解を深める．
2. 負債会計 (引当金，社債など) について，会計上の問題と理論を学ぶ．
3. 資本会計についての会計上の諸問題と理論をを学ぶ．
4. 収益費用計算の原理を知る．
5. 会計情報の公開制度と理論を学ぶ．

【授業計画】**1.** 資産会計 (静態論・動態論，貨幣性資産・費用性資産，流動・固定分類) **2.** 資産会計 (現金預金，売上債権，有価証券) **3.** 資産会計 (棚卸資産の取得原価と評価基準) **4.** 資産会計 (その他の流動資産，自己株式等) **5.** 資産会計 (有形固定資産の取得原価，資本的支出と収益的支出) **6.** 資産会計 (無形資産の会計と報告) **7.** 資産会計 (繰延資産の会計と報告) **8.** 負債会計 (負債の概念と分類，社債，引当金会計) **9.** 資本会計 (株主資本，純資産，剰余金) **10.** 資本会計 (設立の会計処理，株式の発行と資本金の額，単元株制度，種類株式，資本金と準備金の額) **11.** 資本会計 (合併会計，株式交換，株式移転，会社分割) **12.** 資本会計 (新株の発行，新株予約権，新株予約権付社債，ストックオプション) **13.** 資本会計 (計数の変動，自己株式，株主変動計算書) **14.** 経営成績の計算と損益計算書 (収益・費用の認識基準，個別財務諸表と連結財務諸表)

【成績評価】小テスト，中間試験，期末試験の平均による．

【再試験】行わない

【教科書】広瀬儀州著「財務会計」中央経済社

【参考書】飯野利夫著「財務会計論」同文館

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219986

【連絡先】
⇒ 三木(090-8974-6397 mickey@mail.kbn.ne.jp)
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

経営学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期, 集中)
高橋 意智郎・, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】大学生であること，アルバイト，サークル，部活動，ボランティア活動など企業でなくとも私たちは，日常生活の中で何かしらの組織に所属しています．この授業では，組織の中の人がどのように意思疎通を行い，組織として活動しながら目標を達成しているのか，また，組織にはどのような機能があるのかを学びます．組織の中の人，および集団レベルに焦点を当てた講義で，モティベーションやリーダーシップ，組織文化，心理的契約，集団浅慮など，企業でなくとも私たちの身の回りで起きている内容を扱います．また，主に組織構造や組織デザインの話を市場環境，戦略と関連させながら説明をします．

【授業概要】組織理論の理解および活用

【キーワード】**組織 (構造)，モティベーション，戦略**

【履修上の注意】この科目は，去年まで経営組織論と呼ばれていたもので，内容は経営組織論と同じです (現在，3 年生以上の人は経営組織論になります)．

【到達目標】組織論の理論を用いて自分の身の回りに起きている現象を理解・解釈できるようになること

【授業計画】**1.** イントロダクション，経営組織論が扱う内容 **2.** 経営学の基礎:大まかな流れ **3.** 経営学の基礎:様々な人間観 (経済人から複雑人モデル) **4.** 組織の中の個人 (1):パーソナリティ **5.** 組織の中の個人 (2):意志決定 1 **6.** 意志決定 2 とモティベーション理論の基礎:内容理論 **7.** モティベーション理論の基礎:過程理論 **8.** リーダーシップ論の基礎 (1):特性論から開発論へ **9.** リーダーシップ論の基礎 (2) と組織と環境 **10.** 3 つの組織構造 **11.** ゲストスピーカー **12.** 組織と戦略 (1):環境分析 **13.** 組織と戦略 (2):2 つの戦略論 **14.** キャリア論と様々な働き方 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】期末試験:50%，中間試験 (もしくはレポート):30%，授業中ランダムに取る出席:20%を考えていますが，変更する可能性があります．その場合はアナウンスします．

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218544

【連絡先】
⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

経営学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期, 集中)
高橋 意智郎・, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】経営戦略は，企業の将来像とそれを達成するための道筋です．戦略に関する理論を学び，理論を用いて企業を分析する力を養成することを目的とします．

【授業概要】経営戦略論の基本的な考え方を説明します．

【キーワード】**戦略，組織，競争優位**

【到達目標】経営戦略の理論を用いて新聞記事や雑誌記事で書かれていることを理解・分析できるようになること

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 4 つの枠組み **3.** ポジショニング・アプローチ (1) **4.** ポジショニング・アプローチ (2) **5.** 一般戦略 **6.** 資源アプローチ **7.** リジカルシンキング **8.** 中間試験 **9.** 市場細分化 **10.** 市場地位別戦略 **11.** 学習アプローチ **12.** プロダクト・ライフ・サイクル **13.** PPM とゲーム論 **14.** 多角化の理論 **15.** 期末試験 **16.** まとめ

【成績評価】期末試験 50%，中間レポート 30%，受講態度 20%．

【再試験】なし

【教科書】未定

【参考書】随時配布．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220365

【連絡先】
⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

経営学 III

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
多田 正仁・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220218

【連絡先】
⇒ 多田 (2204, 088-656-7170, RXN10515@nifty.com)

国際関係論 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
饗場 和彦・教授/社会創生学科

【授業目的】米ソがにらみ合った冷戦中は，明日にも第三次世界大戦が起き，核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった．89 年，米ソ首脳が握手をかわし，幸運にも人類は冷戦を脱した．ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが，まもなく幻滅が広がった．噴出する内戦・民族紛争と，拡大する貧富の格差．新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると，9/11 テロの衝撃が世界を揺るがした．そして今，アフガン戦争，イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され，国際社会はいったい，どこに行こうとしているのか．この授業では，こうした変動する現代国際社会の現実を知り，そこで生起

する諸問題について，特に平和と戦争に関係する観点を中心に，考察する．

【授業概要】 国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ．授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも，筆者のフィールドワーク (紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など) や，新聞記者の経験などに基づく”教科書に載っていない”解説も試みたい．また，適宜，時事的な国際ニュースも取り上げ，ビデオやスライドも使う．国際関係論 I では，主に総論的，理論的，概念的な問題を扱う．

【キーワード】戦争，戦争

【履修上の注意】 国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており，一方だけ受講することもできるが，I で総論的，基礎的な解説を行い，II ではそれを元に各論的，発展的な内容になる面もあるので，連続して受講する方が望ましい．

【到達目標】 国際社会の性質，特徴を理解すること． 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について，基本的な事実関係，実態を知ること．国際政治と国際法の基本について，とらえ方，原理，原則を把握すること．「冷静な現実主義」と，「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと．

【授業計画】 **1.** 国際社会の成り立ちと特徴 (1) **2.** 国際社会の成り立ちと特徴 (2) **3.** 国際法の基本 (1) **4.** 国際法の基本 (2) **5.** 国際社会を見る理論的枠組 (1) **6.** 国際社会を見る理論的枠組 (2) **7.** 国際安全保障の諸理論 (1) **8.** 国際安全保障の諸理論 (2) **9.** 民族とアイデンティティ (1) **10.** 民族とアイデンティティ (2) **11.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(1) **12.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(2) **13.** 戦争の違法化 (1) **14.** 戦争の違法化 (2) **15.** 補足と総括 **16.** 試験

【成績評価】 授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらうが，それらで出欠の確認も行う．試験は論述式 (短答式と長文論述併用) の期末試験を行う．持ち込み不可．成績は試験の結果に，出席状況，授業中の質疑応答などを加味して判断する．

【再試験】 行わない．ただし，僅差で合格点に達しない受講者には，一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える．

【教科書】 教科書は特に指定せず，授業中に配布するレジュメ，資料に沿って解説する．参考書などは適宜，紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220346

【連絡先】
⇒ 饗場 (088-656-7186，aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30，金曜日14:30~ 16:00．この時間以外でも在室時は随時可．)

国際関係論 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
饗場 和彦 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 国際関係論 I を参照．

【授業概要】 国際関係論 I を参照．

【キーワード】戦争

【履修上の注意】 国際関係論 I を参照．

【到達目標】 国際関係論 I を参照．

【授業計画】 **1.** 正戦論 (1) **2.** 正戦論 (2) **3.** 9/11 テロとアメリカ (1) **4.** 9/11 テロとアメリカ (2) **5.** 国連の成り立ち，機能，国連による安全保障 (1) **6.** 国連の成り立ち，機能，国連による安全保障 (2) **7.** 人道的介入 (1) **8.** 人道的介入 (2) **9.** 平和の意味，構造的暴力，非暴力主義 (1) **10.** 平和の意味，構造的暴力，非暴力主義 (2) **11.** 核兵器とゲーム理論 (1) **12.** 核兵器とゲーム理論 (2) **13.** 日本の安全と憲法，自衛隊，平和構築 (1) **14.** 日本の安全と憲法，自衛隊，平和構築 (2) **15.** 補足と総括 **16.** 試験

【成績評価】 国際関係論 I を参照．

【再試験】 国際関係論 I を参照．

【教科書】 国際関係論 I を参照．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220219

【連絡先】
⇒ 饗場 (088-656-7186，aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 国際関係論Iを参照．)

国際法

2 単位 (選択) 3 年 (前期，集中)
湯山 智之 · 非常勤講師 / 非常勤講師，上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220220

【連絡先】
⇒ 湯山 .
⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

世界経済論 I
World Economy1

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
水島 多喜男 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 国際的な経済関係は，その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し，その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた．講義では，この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う．

【授業概要】 世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【キーワード】貿易理論，学説史，開発政策，政治経済学

【到達目標】 学説史，学説，現状に係わる論点の理解．

【授業計画】 **1.** 産業資本主義以前の世界経済 (遠隔地貿易と重商主義) **2.** 自由貿易論の系譜 (1)(Adam Smith の時代と貿易論) **3.** 自由貿易論の系譜 (2)(D.Ricardo の時代と貿易論) **4.** 自由貿易論の系譜 (3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論) **5.** 世界経済構造の批判的理解 (1)(K.Marx の「プラン」後半体系) **6.** 保護貿易論の系譜 (1)(途上国の TCC 批判 : ドイツ歴史学派) **7.** Л е н и н『帝国主義論』: 世界大戦の原因 **8.** 「相対的安定期」·1929 年世界恐慌と「ブロック経済」 **9.** 自由貿易帝国主義論 : Л е н и н『帝国主義論』批判 **10.** (通常上記の項目は 1 回で終わらない．以下の時間は延長の場合に使用する．)

【成績評価】 筆記試験

【再試験】 なし

【教科書】 講義中に配付する資料を用いる．

【参考書】 参照すべき図書は，適宜指示する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220351

【連絡先】
⇒ 水島 (2203，088-656-7188，mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

世界経済論 II
World Economy 2

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
水島 多喜男 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 国際的な経済関係は，その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し，その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた．講義では，この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う．

【授業概要】 世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【キーワード】経済学，学説史，政治経済学，経済開発，貿易

【履修上の注意】 前期「世界経済論 I」で終了できなかった項目から，後期「世界経済論 II」を開始する．「世界経済論 II」(後期) として 2 単位を認定するが，「世界経済論 I」(前期) と併せて通年で受講するのが望ましい．

【到達目標】 学説史，学説，現状に係わる論点の理解．

【授業計画】 **1.** 政治経済学からみた W. W.2 後の世界の基本構造 **2.** 基本概念 (1)(交易条件) **3.** 基本概念 (2)(国際収支と国際収支表の見方) **4.** 基本概念 (3)(外国為替の決済と為替レート) **5.** 自由貿易論の系譜 (5)(新古典派による「比較生産費」説〔TCC〕理解) **6.** Pax Americana の世界経済 (1)(対外投資と多国籍企業の発展) **7.** 開発論の系譜 (1)(Marx 批判としての『経済発展の諸段階』と単線史観の破綻) **8.** 開発論の系譜 (2)(「輸入代替政策」と「輸出志向政策」，「緑の革命」) **9.** (途上国からの「比較生産費」説批判 : 「従属学派」と世界システム論) **10.** Globalization の功罪 (世界は Pax Consortis に向かうのか?) **11.** (以下，各項目が 1 講義時間では終わらない場合に使用)

【成績評価】 小レポートなど授業への取り組み，筆記試験

【再試験】 なし

【教科書】 配布資料を中心に使用

【参考書】 適宜紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220221

【連絡先】
⇒ 水島 (2203，088-656-7188，mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 講義終了後)

ヨーロッパ思想研究

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 昌市 · 教授 / 人間文化学科，山口 裕之 · 准教授 / 人間文化学科
石田 三千雄 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 西洋の哲学・宗教思想について，テーマ，時代，人などの視点で問題を切り取って講義を行う．またそれを通して，現代社会の諸問題をその背景から思想的に理解する力を養うことを目指す．

【授業概要】 まずヨーロッパ思想のバックボーンをなす古代ギリシアやヘブライの思想の基礎を学び，続いて近代哲学の基礎を築いたデカルトからヘーゲル・ドイツ観念論に至る近代哲学の基礎を学び，フランス・ドイツを中心とした現代哲学 (科学認識論と現象学) の基礎を学ぶ．

【キーワード】倫理学，科学と哲学，哲学

【到達目標】
1. 人文科学 (西洋思想) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．

【授業計画】**1.** 古代ギリシアの哲学 1 :エレア学派の論理 (吉田) **2.** 古代ギリシアの哲学 2:ソクラテスの対話 (吉田) **3.** 古代ギリシアの哲学 3:プラトンの学問論 (吉田) **4.** 古代イスラエルの宗教思想 1:「創世記」 (吉田) **5.** 古代イスラエルの宗教思想 2:「創世記 (続)」(吉田) **6.** ドイツの思想 1:カントの理論哲学 (石田) **7.** ドイツの思想 2:カントの社会哲学 (石田) **8.** ドイツの思想 3:フッサール現象学の基礎 (石田) **9.** ドイツの思想 4:フッサールの生活世界論石田) **10.** ドイツの思想 5:ハイデッガーの思想 (石田) **11.** フランスの思想 1:フランス近代の重要性 (山口) **12.** フランスの思想 2:デカルトの仕事 (山口) **13.** フランスの思想 3:デカルトと経験論哲学 (山口) **14.** フランスの思想 4:経験論哲学の認識理論 (山口) **15.** フランスの思想 5:まとめ (山口)

【成績評価】毎回の授業終了時に書く「一言カード」, 3 回のレポートにより評価する．レポートの課題や評価基準などについては授業中に示す．

【再試験】無

【教科書】授業の時に資料を配付する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219022

【連絡先】

⇒ 吉田 (総合科学部 1 号館 1N11 室 (北棟 1 階), 088-656-7150, shoichi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 12 時から 13 時)

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)

地域政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】地域の開発，特に地域経済，地域環境や地域システムに新しい方向性を出すに必要な知識や考え方を提供するものである．地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策の重要性や意義を理解させる．

【授業概要】国際化のなかで，地域経済や地域システムを把握し考察して行くことの意味と重要性を明らかにする．それを理解した上で，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察させる．

【キーワード】**地域経済，地域環境，地域システム，地域開発，地域づくり**

【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムへの理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて理解し考察できる能力を培う．

【授業計画】**1.** ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う再編成 **3.** 地域経済の再編成 **4.** 地域システムの再編成 **5.** 環境問題の変容と新たな状況 **6.** 環境問題と循環社会をめぐる課題 **7.** 環境と地域経済をめぐる状況 **8.** 新たな社会とそれへの対応 **9.** 環境問題への新たな対応 **10.** 地方自治体と企業の環境問題への取り組み **11.** 地域開発をめぐる問題 **12.** 地域の再生とまちづくり **13.** 環境の再生と地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ 1 **16.** まとめ 2

【成績評価】 講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40 %), もしくはレポートにより評価する．

【再試験】なし

【教科書】北村修二『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218814

【連絡先】

⇒ 北村 .

【備考】隔年開講のため，平成 23 年度 (地域政策論 II を開講) は開講されない．国際社会での地域的諸問題や環境問題に関心があり，それらの課題を勉強する意志がありそれを実行できる人は参加できる．オフィスアワー 随時．研究室

地域政策論 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】地域の開発に新しい方向性を出すのに必要な知識や考え方を提供するとともに，地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策を考察・解明させようとするものである．

【授業概要】 国際化のなかでの地域経済や地域システムを把握するとともに，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察・解明させる．

【キーワード】**地域経済，地域環境，地域システム，新たな地域開発や地域づくり**

【先行科目】『地域政策論 I』(1.0, ⇒104 頁)

【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムついての理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて考察・解明できる能力を培う．

【授業計画】**1.** ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う地域経済の再編成 **3.** 地域構造・地域システムの再編成 **4.** 地域環境問題の変容と新たな状況 **5.** 地域環境問題と循環社会をめぐる課題 **6.** 新たな社会と地域システム **7.** 新たな社会と環境問題 **8.** 新たな社会と地域循環型システム **9.** 地方自治体と地域環境問題 **10.** わが国における新たな地域開発・地域づくり (1) **11.** わが国における新たな地域開発・地域づくり (2) **12.** 四国における新たなまちづくり・地域づくり **13.** 徳島県における新たなまちづくり・地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ (1) **16.** まとめ (2)

【成績評価】 講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40%)), もしくはレポートにより評価する．

【再試験】なし

【教科書】教科書は最初の授業で紹介するので入手すること．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218815

【連絡先】

⇒ 北村 .

【備考】隔年開講のため，平成 24 年度 (地域政策論 I を開講) は開講されない．

市民活動論

2 単位 (選択) 2 年 (前期, 集中)
萩原 なつ子・教授, 樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】日本における市民活動の歴史，特定非営利活動促進法 (NPO 法) の施行の背景，NPO の社会的役割について理解を深める．

【授業概要】NPO 法人数が 4 万を超え，地域社会の課題の解決に果たす NPO の役割が大きくなっている．ここでは NPO についての基礎知識および新しい公共の視点から，NPO と行政，企業との協働等について，具体的事例を通して学ぶ．

【キーワード】***NPO/NGO*，特定非営利活動促進法，協働，新しい公共**

【履修上の注意】とくになし．

【到達目標】NPO の基礎知識およびこれに関連する概念と実際を理解する

【授業計画】**1.** 1 イントロダクション **2.** 日本における市民活動の歴史 **3.** NPO の基礎知識 (1) **4.** NPO の基礎知識 (2) **5.** 特定非営利活動促進法について **6.** 市民社会と NPO **7.** 新しい公共と NPO **8.** NPO の活動分野 **9.** NPO のマネジメント **10.** NPO の活動事例 **11.** 他セクターとの協働いついて **12.** NPO と行政との協働 **13.** NPO と企業との協働 **14.** NPO で働くということ **15.** まとめ

【成績評価】出席点+レポート

【再試験】行わない．

【教科書】『知っておきたい NPO のこと 増補版』日本 NPO センター編集・発行 (事前に必ず購入しておくこと)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218693

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 集中講義期間中適宜．)

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域社会論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】地域社会をより深く理解するため，地域社会学および都市社会学の基本的な考え方を理解し，自分にあった地域社会へのアプローチ方法を見出し，地域分析ができるようになること．

【授業概要】 森岡清志編 (2008)『地域の社会学』有斐閣をテキストに，様々な視点に触れてもらう．その上で，テキストの引用文献などを参考にして，受講者の興味に沿った専門的な文献の内容を紹介してゆく．中間レポートでは，テキストのなかで受講者が関心をもったテーマに関するエッセイを書いてもらい，期末レポートでは自分の関心に合った文献を新たに 1 冊読んだ上で，その方法論に基づいたオリジナルレポートを書いてもらう．また，毎回，授業内容に関してのリアクションペーパーを提出してもらう．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 徳島の地域社会 **3.** < 地域 > へのアプローチ **4.** 地域社会とは何だろうか? **5.** 地域を枠づける制度と組織 **6.** 地域に生きる集団とネットワーク **7.** 地域が歴史を作り出す，歴史が地域を創り出す **8.** なぜ地域が大切か **9.** 子育てと地域 **10.** 学校と地域 **11.** 自営業者たちと地域社会 **12.** 高齢化と地域社会 **13.** エスニック集団と地域社会 **14.** 国家とグローバライゼーション **15.** 地域社会と未来

【成績評価】平常点と期末レポート

【教科書】森岡清志編 (2008)『地域の社会学』有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218797

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】本年度開講 (次年度開講せず・隔年開講)

比較社会論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
上野 加代子 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】「愛とケアの南北問題」について理解を深める.

【授業概要】少子高齢化, 女性の就労, 共働き世帯の増加などで生じた経済先進諸国での「ケア・クライシス」を解決するにはいくつかの方法が考えられる. 本講義では, それらの方法を比較検討し, そのなかでも主に各々の家族が経済発展の遅れた国から安い賃金の女性労働者や「花嫁」を調達するアジア家族福祉レジームをシンガポールなどを例にみていく. そして, そのシステムの中で国境を越えて働く女性たちの生活の一部を紹介したい.

【キーワード】家族の神話, 貧困・格差

【到達目標】
1. 女性の移動を,「コモンの侵食」「ケア流出」といった南北問題をして捉えることができる.
2. 本講義で議論する「ケア・クライシス」をグローバル化社会に生きる自分たちの問題として捉えることができるようになる.

【授業計画】1. オリエンテーション — 再生産労働のグローバル化 **2.** 国際労働移動の諸要因 **3.** アジア家族福祉レジーム **4.** 外国人家事・ケア労働者としての生活 **5.** 底辺労働者の抵抗のストラティジー **6.** 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント **7.** 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント **8.** NGO で作られるヒロインたち **9.** トランスナショナルなライフコース **10.** 日本での外国人研修生・実習生制度 **11.** 日本での外国人研修生・実習生制度 **12.** 結婚での国際移動 **13.** 結婚での国際移動 **14.** インドネシア・フィリピンの外国人介護士・看護士 **15.** 愛とケアの南北問題 **16.** まとめ

【成績評価】毎回のリアクションペーパーと学期末のレポートで評価

【再試験】無

【教科書】上野加代子『なぜ女は国境を越えるのか — アジアの出稼ぎ家事労働者』(仮題) 世界思想社, 2011 年

【参考書】毎回の授業レジメで紹介

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218949

【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

社会統計学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科, 石田 基広 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 統計データを用いた分析は人文社会科学の重要な論証手段であるだけでなく, あらゆる調査研究に不可欠のツールである. 本授業では, 統計分析の基礎的な理論と手法を実習形式で学ぶ. 授業の目標は以下の 3 点からなる. ①基本的な統計学の理論を理解する. ②実践的な分析の技能を習得する. ③複雑な社会的現象を探求する科学的態度を学ぶ.

【授業概要】統計分析の理論と応用

【キーワード】統計学, 情報処理, 社会調査

【先行科目】『情報処理の基礎 I』(1.0, ⇒14 頁), 『文系数学の基礎』(0.5, ⇒93 頁)

【履修上の注意】受講者は前提として Windows 操作の基礎知識をすでに獲得していること, 学部共通科目「情報処理の基礎 I」を履修済みであることが求められる. 授業は講義と実習を組み合わせておこない, 各回の内容に応じた課題を課す. なお, 利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある.

【到達目標】人文社会科学の実証研究に必要な統計学の基礎理論を学び, データ分析の実践的手法を習得する.

【授業計画】1. さまざまな統計データ: 全数調査と抽出調査, 統計の種類と利用 **2.** 基本統計量 (1) : 量的データと質的データ **3.** 基本統計量 (2): 代表値, 散布度, 集中度 **4.** 相関係数: 2 変数間の関係, 疑似相関, 媒介関係, 外れ値 **5.** 回帰分析 (1) : 予測モデル, 最小二乗法 **6.** 回帰分析 (2) : 非線形性, 多重共線性, 誤差項の目自己相関 **7.** カテゴリカルデータ (1) : 分割表と連関測度 **8.** カテゴリカルデータ (2) : 独立性に関するカイ二乗検定 **9.** 確率論の基本: 順列・組み合わせ, 期待値 **10.** 確率変数と分布: 二項分布と正規分布 **11.** 母集団と標本: 抽出法の理論 **12.** 統計的推定 (1) : 最尤法の基本 **13.** 統計的推定 (2): 点推定と区間推定 **14.** 統計的検定 (1) : 考え方と手順, 両側検定と片側検定 **15.** 統計的検定 (2) : 母平均と差の検定 **16.** 授業のまとめ

【成績評価】授業への取り組みと課題の評価による.

【再試験】おこなわない

【教科書】上藤一郎他『調査と分析のための統計』 2006 年 丸善

【参考書】授業時間中に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218701

【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

社会統計学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
矢部 拓也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業では地域社会とその変容を調査・分析するための多様な理論, 視角, 手法について議論することを目的とする. 特に, 地域社会学, 都市社会学的視点からの実証的な研究に関する基礎的な文献を取り上げ, 実際の調査に必要な知識と社会学的想像力を身につけることを目指す.

【授業計画】1. クロス集計表:SPSS を動かしながら「二重クロス集計表」「標本に基づく母集団に関する推測」「確率と帰無仮説」「χ 二乗検定」について説明する. **2.** 複数の平均の差の検定:SPSS を動かしながら,「分散分析」「ANOVA モデル」「F 分布」「相関比 (イータ二乗)」について説明する. **3.** 分散分析を用いた実証論文の精読:分散分析を使った実証論文を読み, 実際の論文において分散分析がどのように使われているのかを理解する. **4.** 2 変量回帰と相関:SPSS を動かしながら,「散布図と回帰直線」「線形回帰式」「決定係数と相関係数」「標準回帰係数」「はずれ値の問題」について説明する **5.** 多重分割表分析の理論:「不可変数の統制 (疑似関係, 媒介関係, 複合関係)」「2×2 表における第 3 変数の統制」「偏相関係数」について説明する **6.** 重回帰分析:SPSS を動かしながら,「3 変量回帰モデル」「独立変数が 3 つ以上の重回帰分析」「ダミー変数を用いた回帰分析」を説明する **7.** 重回帰分析を用いた実証論文の精読:重回帰分析を用いた実証論文を読み, 実際の論文において重回帰分析がどの様に使われているのか理解する. **8.** ロジスティック回帰分析:SPSS を動かしながら,「ロジスティック回帰の機能・要素・仮定」「ロジスティック回帰係数の解釈」「予測の精度」「残差分析」について説明を行う. **9.** ロジスティック回帰分析を用いた実証論文の精読:ロジスティック回帰分析を用いた実証論文を読み, 実際の論文においてロジスティック回帰分析がどの様に使われているのかを理解する. **10.** 非線型回帰:SPSS を動かしながら,「非線型とは何か」「非線型回帰の仮定」「非線型モデルの設定」「曲線の当てはめ」などについて説明を行う. **11.** 因果モデルとパス解析:「因果の過程」「因果図式」「パス解析」を説明する. 場合によっては AMOS での分析を行う. **12.** 主成分分析・因子分析:SPSS を動かしながら,「主成分分析」「因子分析 (直交回転)」「因子分析 (斜交回転)」についての説明を行う. **13.** パス解析, 因子分析を用いた実証論文の精読:パス解析, 因子分析を用いた実証論文を読み, 実際の論文においてパス解析, 因子分析がどのように用いられているのかを理解する. **14.** クラスタ分析:SPSS を動かしながら,「クラスタ分析の機能, 目的, データタイプ」「距離と標準化」「階層クラスタ分析」「K-means クラスタ分析」についての説明を行う. **15.** クラスタ分析を用いた実証論文の精読:クラスタ分析を用いた実証論文を読み, 実際の論文においてクラスタ分析がどのように用いられているのかを理解する. **16.** オリジナル分析:2 次データを利用して, これまで習った分析手法を用いた仮説検証を行う.

【成績評価】授業毎に提出してもらう課題と期末レポート

【教科書】ボーンシュテット&ノーキ, 社会統計学, ハーベスト社, 1990
古谷野亘, 多変量解析ガイド, 川島書店, 1988

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218702

【連絡先】
⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

情報と職業
Information and Profession

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化が産業, 社会へどのように影響しているかを理解する

【授業概要】情報システム, 情報化のビジネスへの影響, 情報技術の企業での利用状況, 電子商取引, インターネットビジネス, 情報産業, 情報技術の人材育成, 情報化の雇用と職業への影響などについて, 受講生に主体的に調査, 探求をしてもらい発表, 議論をすることで理解を深める. 情報システムの発展という観点から, 計算機の発展の歴史について解説する.

【キーワード】情報社会, ネット時代の職業, 働く環境, *ICT* リテラシー, 地域情報化

【到達目標】情報社会におけるビジネス, 職業に関する基礎知識を学び, 職業観, 就労・労働の意識の形成, キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー, ICT 利活用力を身につける.

【授業計画】1. 情報システムの概略 **2.** 情報システムの歴史 **3.** 情報システムの未来 **4.** 情報技術と社会システム **5.** 情報化のビジネスへ

の影響 **6.** ネット社会と企業経営 **7.** 地域情報化の事例研究 1 徳島:彩り事業 **8.** 地域情報化の事例研究 2 島根:Ruby City MATSUE プロジェクト **9.** 電子商取引とインターネットビジネス **10.** グループ発表 1 情報社会におけるビジネスのあり方について **11.** 情報化の雇用への影響 **12.** 情報化の職業への影響 **13.** 情報社会と組織変革 **14.** 情報社会における働き方 **15.** グループ発表 2 情報社会における職業観について

【成績評価】授業貢献及び試験

【再試験】実施せず

【教科書】授業中に適宜指示

【参考書】

- ◇ 神沼靖子 (編著)「情報システム基礎」オーム社 2006
- ◇ 駒谷 昇一 (他著)「情報と職業」オーム社 2002
- ◇ その他授業中に適宜指示

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218715

【連絡先】

⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】e ラーニングを併用する

情報社会と情報倫理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化社会，知的所有権とプライバシー，情報危機管理

【授業概要】この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する．受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し，収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり，情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める．

【キーワード】情報リテラシー

【到達目標】現代社会における人，企業，物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める．

【授業計画】1. 1. 情報化社会の到来 1.1 「情報」とは何か，1.2 コンピュータが動作する仕組み **2.** 1.3 ネットワークによる通信の仕組み，1.4 [情報の価値] と [情報量]，[情報伝達] **3.** 1.5 情報化社会の到来，1.6 社会の情報化の進展と，文化 · 人間性の変化，レポート 1 **4.** 2. 知的所有権と プライバシー 2.1 著作権 **5.** 2.2 そのほかの知的所有権，2.3 プライバシー，レポート 2 **6.** 3. 情報倫理 3.1 情報倫理はどうして「倫理」なのか，3.2 情報化社会における原則 **7.** 3.3 情報倫理に必要な知識，3.4 情報ネットワークを利用するときの判断のあり方，レポート 3 **8.** 4. 情報危機管理 4.1 情報危機管理がなぜ必要か，4.2 現実のシステム運用上の事件と，その原因と対策 **9.** 4.3 運用ポリシーと利用者の価値観 **10.** 4.4 運用規約と管理組織，レポート 4 **11.** 4.5 不正アクセスとセキュリティ **12.** 5. ケーススタディ **13.** 5.1 発表と評価 1 **14.** 5.2 発表と評価 2 **15.** 5.3 発表と評価 3 **16.** まとめ

【成績評価】レポートとケーススタディの研究発表で総合的に評価する．

【教科書】教科書:辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220349

【連絡先】

⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 24時間(yos@ias.tokushima-u.ac.jp))

環境政策論 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
栗栖 聡 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】持続可能な社会に向けての環境ガバナンスのあり方を，環境政治・政策学の基本的枠組みの下に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．

【授業概要】環境問題をまず正義論の観点から，さらに，エコロジズム，エコロジー的近代化，持続可能な発展という三つの分析枠組みの観点から検討する．ついで，環境問題を幾つかの民主主義モデルとの関連で論じ，最後に国家論のレベルで環境問題の意味を探る．

【到達目標】 持続可能な社会に向けての環境ガバナンスのあり方を理解する．

【授業計画】1. 環境政治・政策学の基本枠組み **2.** 環境的正義 **3.** 生態学的正義 **4.** 経済システムと自然環境 **5.** エコロジズム **6.** エコロジー的近代化論 **7.** 持続可能な発展 **8.** 環境政策統合 **9.** 環境問題と参加民主主義 **10.** 環境問題と熟議民主主義 **11.** 環境問題と結社民主主義 **12.** 環境問題と市民社会 **13.** 環境ガバナンス **14.** 環境国家 **15.** 試験 **16.** 自由主義国家，福祉国家，環境国家

【成績評価】試験

【教科書】授業中に指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220363

【連絡先】

⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境倫理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 三千雄 · 教授 / 人間文化学科，山口 裕之 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】環境倫理学を通じて，倫理学の基本的な考え方を理解する．現代社会における「倫理的問題」は，単に思想や価値観の問題であるだけでなく，「社会的問題」でもあることを理解する． 環境倫理学のトピックス，その思想的背景，現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ，現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける． その上で，自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける． レポートをもとに意見を発表し，討議する力を身に付ける．

【授業概要】「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い，そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する．

【キーワード】哲学，倫理学，環境，社会と自然

【到達目標】

1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．

【授業計画】1. イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) **2.** 環境倫理学の系譜 (1):環境倫理学成立の背景:1950~ 60 年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) **3.** 環境倫理学の系譜 (2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想 (山口) **4.** 環境倫理学の系譜 (3): 「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟 (山口) **5.** 環境倫理学の系譜 (4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) **6.** 地球温暖化問題の成立 (1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで (山口) **7.** 地球温暖化問題の成立 (2):フィラッハ会議後の展開:地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) **8.** 地球温暖化問題の成立 (3):IPCC の成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索 (山口) **9.** 地球温暖化問題の成立 (4):京都議定書とその後の展開 **10.** アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる．シャロー・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を，その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造，エコフィロソフィーとエコソフィー，自己実現との関連で講じる．(石田) **11.** マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる．ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判，位階性の批判，自然の進化と社会の進化，リバタリアン的な地域自治主義を講じる．(石田) **12.** ドイツの環境政策を講じる．1970 年代以降のドイツの環境政策を概観した上で，地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策，ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴッパータル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター 4」を講じる．(石田) **13.** ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる．自然は果たして権利の主体になりうるか．人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か，等を論じる．(石田) **14.** ドイツの環境思想家マイアー=アービッヒの『自然との和解への道』で述べられた，実践的自然哲学を講じる．政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること，自然の理解は広い意味で法の中で論じられること，人間中心主義に対する哲学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ，自然中心主義的世界像から，自然としての人間，自然の法共同体を講じる．(石田) **15.** 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション (石田)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2 点 ×15=30 点，レポート 2 回＝ 70 点．

【再試験】無

【教科書】その都度資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218491

【連絡先】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

自然保護論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 征弥 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し，どのような取り組みを行えば良いか，またどのようなことに留意すれば良いかについて考える．

【授業概要】 自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう．しかし，野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等，生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない．また，絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については，その正確性が絶えず議論になる．この授業では，自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ，どのように考えていくべきか解説する．

【キーワード】自然保護，野生生物，環境保全

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】1. 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい **2.** 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて **3.** 自然の価値と

は何か 3 - 自然界の物質循環 **4.** 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 **5.** 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え **6.** 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 **7.** 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い **8.** 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル **9.** 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 **10.** 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 **11.** 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園，世界遺産 **12.** 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 **13.** 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 **14.** 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軋轢 **15.** 期末試験

【成績評価】授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート，資料持ち込み可) により評価する．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】適宜紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218670

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境マネジメント

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

浜野 龍夫 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】さまざまなレベルの環境問題や環境管理手法である環境マネジメントシステムについて学び，について理解するについて学習し，低炭素・循環型で環境負荷の少ない社会を構築するための個人のライフスタイルや企業の取り組みが，よい地域環境を生み出し，それはさらによりよい地球環境を創造することにつながることを理解する．

【授業概要】講義の前半では環境社会検定でも扱われる内容について総合的に理解し，後半では環境マネジメントを実行するシステムを学ぶ．そして最後に一人一人が日常生活の中での環境マネジメントを考える．

【キーワード】環境，生態系，*ISO14000* シリーズ

【授業計画】1. 環境マネジメントとは **2.** 持続可能な社会に向けて **3.** 地球人としてのわたしたち **4.** 環境と経済・社会 **5.** わたしたちの暮らしと環境 **6.** 環境と共生するために **7.** 中間試験 **8.** 環境マネジメントシステム **9.** ISO14000 シリーズ **10.** 伝統的な環境マネジメント **11.** 共生環境のマネジメントシステム **12.** 個人の環境マネジメント:チェック **13.** 個人の環境マネジメント:PDCA **14.** 個人の環境マネジメント:アクションプラン **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 (原則遅刻は配点しない)，中間試験，レポートを総合して評価する．

【再試験】しない

【教科書】なし

【参考書】講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220342

【連絡先】

⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境リスク論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

Environmental Risk Assessment and Management

山本 裕史 · 准教授 / 社会創生学科，浜野 龍夫 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】環境リスクおよびそれを低減するための様々な方策について学ぶ．

【授業概要】環境への危険性やどうしても避けたい環境影響である「環境リスク」を緩和しようとすると，別の問題が生じるという「リスクトレードオフ」が起きる．総合的に環境への影響緩和を実現するためには，個々の問題を定量的に評価した上で，それぞれの最適なバランスを考えてリスクマネージメントおよびリスクコミュニケーションをはかる必要がある．本講義ではそのような環境リスクの問題解決を行うためのキーとなる，化学物質のリスク評価やリスク低減手法について講述し，リスクコミュニケーションの在り方についても学ぶ．

【キーワード】環境リスク，リスク管理，法規制，リスクコミュニケーション，リスクアセスメント

【先行科目】『環境物質循環論』(1.0, ⇒162 頁)

【関連科目】『生態学 I』(0.5, ⇒115 頁)

【到達目標】環境リスクの回避・低減策の現状について，工学的，科学的など様々な視点から学ぶ

【授業計画】1. シラバス・授業概要の説明，リスク・環境リスクとは (山本) **2.** 化学物質のリスク評価の現状と課題 (山本) **3.** 化学物質のリスク管理の現状と課題 ~ 化審法・PRTR・REACH など (山本) **4.** 大気汚染・室内空気汚染の規制と環境リスク低減技術 (山本) **5.** 廃棄物処理処分に関する規制と環境リスク低減技術 (山本) **6.** 食品・水道水に関する規制と環境リスク低減技術 (山本) **7.** 下水・産業廃水に関する規制と環境リスク低減技術 (山本) **8.** 中間試験 (山本) **9.** 農業生態系における環境リスク低減技術 (浜野) **10.** 土壌生態系における環境リスク低減技術 (浜野) **11.** 沿岸生態系における環境リスク低減技術 (浜野) **12.** 河川生態系における環境リスク低減技術 (浜野) **13.** 環境リスクを計算する (浜野) **14.** リスクコミュニケーション (浜野) **15.** 期末試験 (浜野) **16.** 総括授業 (浜野)

【成績評価】浜野担当分 50%，山本担当分 50%(宿題レポート 20%，出席 10%，中間試験 20%)

【再試験】なし

【教科書】

- ◇ 新版環境工学 ~ 持続可能な社会とその創造のために (2007)，住友恒ら，理工図書，3675 円
- ◇ 化学環境学 御園生誠，裳華房，2625 円

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218490

【連絡先】

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

計画の数理

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

滑川 達 · 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】社会資本 · 土木施設の計画立案および評価に不可欠な，土木計画学の基礎となる理論および手法についての基礎的な能力を身につける．

【授業概要】確率 · 統計の基礎を講述するとともに，多変量解析における重要な一手法である回帰分析について詳しく講述する． また，数理計画法の重要な一分野である線形計画法について講述する．

【キーワード】確率統計，多変量解析，線形計画法

【先行科目】『計画の論理』(1.0)

【関連科目】『確率統計学』(0.5)

【履修上の注意】なし

【到達目標】確率統計，回帰分析，多変量解析，線形計画法に関する基礎的能力を習得している．

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 確率統計 1 **3.** 確率統計 2 **4.** 確率統計 3 **5.** 相関係数 **6.** 回帰分析 **7.** 中間試験 **8.** 多変量解析 1 **9.** 多変量解析 2 **10.** 線形計画法 1 **11.** 線形計画法 2 **12.** 線形計画法 3 **13.** 線形計画法 4 **14.** 線形計画法 5 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 到達目標の達成度を，中間試験，レポート課題，期末試験の評点によって評価し，評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件とする．成績は，中間試験，レポート課題，期末試験の評点の重みをそれぞれ，40%，20%および 40%として算出する．

【教科書】秋山孝正 · 上田孝行編著，すぐわかる計画数学，コロナ社

【参考書】吉川和広著土木計画学森北出版

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0043

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220222

【連絡先】

⇒ 滑川 (A412, 088-656-9877, namerikawa@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー:年度ごとに学科の掲示を参照すること)

【備考】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

計画の論理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

近藤 光男 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】 本科目は，土木・建設工学における計画分野の基礎科目である．社会基盤施設の定義と特徴，計画の策定過程，計画の目的と目標，計画における予測と評価の考え方や手法を理解し，社会資本施設整備計画の立案に必要な基礎知識を身につけることを目的とする．

【授業概要】教科書に加え，関連資料や現実の社会基盤施設整備計画の事例を用い，講義形式でわかりやすく講述する．また，理解度を高めるために，各講義の最後には，おさらいのプリントを課す．

【キーワード】社会基盤施設，計画における予測，計画における評価

【関連科目】『計画の数理』(0.5)

【履修上の注意】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

【到達目標】社会基盤施設の定義と特徴，社会基盤整備計画の枠組みや策定過程が示せ，計画に必要な予測手法や評価手法について説明することができる．各回の授業内容は計画に記載のとおりである．授業を受講し，おさらいプリントをすべて提出した上で，その内容を復習することによって目標を達成させる (授業計画 1~ 16)．

【授業計画】1. ガイダンス:計画の論理を学ぶ理由 **2.** 社会基盤施設とその特徴 (おさらいプリント 1) 講義内容の予習・復習 **3.** 社会基盤施

設整備の変遷 (おさらいプリント 2) 講義内容の予習・復習 **4.** 計画の策定過程 (おさらいプリント 3) 講義内容の予習・復習 **5.** 計画の目的と目標 (おさらいプリント 4) 講義内容の予習・復習 **6.** 計画における予測 (おさらいプリント 5) 講義内容の予習・復習 **7.** 需要予測手法 (おさらいプリント 6) 講義内容の予習・復習 **8.** 社会基盤整備の効果 (おさらいプリント 7) 講義内容の予習・復習 **9.** 計画の評価 (おさらいプリント 8) 講義内容の予習・復習 **10.** 評価手法 (おさらいプリント 9) 講義内容の予習・復習 **11.** 産業連関分析 (おさらいプリント 10) 講義内容の予習・復習 **12.** 費用便益分析 (おさらいプリント 11) 講義内容の予習・復習 **13.** 便益の計測手法 (おさらいプリント 12) 講義内容の予習・復習 **14.** 社会基盤整備の今後の課題 **15.** 期末試験 **16.** 試験の返却と解説

【成績評価】 到達目標が達成されているかどうかを定期試験の評価点 (100%) によって行う．評価点が 60%以上を到達目標クリアの条件とする．ただし，おさらいプリントはすべて提出されていること．また，出席率が 3 分の 2 以上あること．

【教科書】河上省吾:土木計画学，鹿島出版会

【参考書】
- ◇ 土木学会:土木工学ハンドブック，技報堂
- ◇ 青山吉隆:図説都市地域計画，丸善

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0013

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220223

【連絡先】
⇒ 近藤 (エコ 602，088-656-7339，kondo@eco.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 月曜日9・10校時)

【備考】. 特になし

都市 · 交通計画
Urban & Transport Planning

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

山中 英生 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
近藤 光男 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】都市計画の歴史，内容，手法，理論，交通計画の技法，理論，制度について講義し，都市および交通の計画に関する基礎的な知識を身につける．

【授業概要】都市計画における土地利用計画，市街地整備，住環境整備，施設整備，地区計画に関する我が国の法制度，事業制度を整理して講述する．また，交通計画に関しては，需要分析のための基礎的な手法の理解，道路交通に関わる現象分析の手法，公共交通，結節点，交通管理計画，地区交通計画の手法と事例を学ぶ．

【キーワード】都市計画，交通工学，道路工学

【先行科目】『計画の数理』(1.0)

【関連科目】『計画プロジェクト評価』(0.5)，『合意形成技法』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】なし

【到達目標】
1. 都市計画に関する基礎的な知識を修得する．(1~ 7 回)
2. 交通計画に関する基礎的な知識を修得する．(8~ 15 回)

【授業計画】1. 都市計画の歴史 **2.** 都市計画のためのマクロ分析 小テスト **3.** 土地利用計画 **4.** 市街地整備事業 **5.** 都市施設計画 **6.** 地区計画 **7.** 地区計画 **8.** 交通計画の概要 **9.** 交通需要分析 1 **10.** 交通需要分析 2 小テスト **11.** 道路交通システム 小テスト **12.** 公共交通計画 小テスト **13.** 交通需要管理 ITS **14.** 地区交通計画 歩行者・自転車交通 **15.** テスト (交通計画) **16.** テスト返却と総括授業

【成績評価】到達目標の 2 項目が達成されているかをレポート，小テストの評価 (30%) 期末試験 (70%) で評価し 60%以上を各項目の達成クリアとして，2 項目すべてを達成したものを合格とする．成績は目標 1(50%)，目標 2(50%) として算出する．

【対象学生】他学科，他学部学生も履修可能

【教科書】加藤晃:都市計画概論第 4 版，共立出版

【参考書】塚口博司，塚本直幸，日野泰雄:交通システム，国民科学社

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0045

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216232

【連絡先】
⇒ 山中(A410，088-656-7350，yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 近藤(エコ602，088-656-7339，kondo@eco.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IA

1 単位 (選択) 3 年 (前期)

上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220224

【連絡先】
⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IA

1 単位 (選択) 3 年 (後期)

上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220225

【連絡先】
⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IA

1 単位 (選択) 3 年 (前期)

栗栖 聡 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】本演習は，環境問題を政治学的に分析する能力をつけることを目的とする．

【授業概要】講義ではなく，演習方式で授業を実施する．

【到達目標】環境政治学的思考を身につけること．

【授業計画】1. 3 年次は，テキストを定め，それを全員で輪読し，討論する．報告者とコメンテイターを毎回決め，報告者はレジュメ作成のうえ報告を行い，コメンテイターはそれに対する質問 · 意見を述べ，さらに全員で討論するという形態をとる．4 年次では，各自の卒論のテーマに関する発表を行い，全員でそれについて検討する． **2.** 演習の具体的な内容及びテキストに関しては，ゼミ生とも相談のうえ，最初の授業で決定する予定である．

【成績評価】ゼミでの発表，議論への参加，レポート等

【教科書】ゼミにおいて決定する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220226

【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1，0886567185，kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IA

1 単位 (選択) 3 年 (後期)

栗栖 聡 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】本演習は，環境問題を政治学的に分析する能力をつけることを目的とする．

【授業概要】講義ではなく，演習方式で授業を実施する．

【到達目標】環境政治学的思考を身につけること．

【授業計画】1. 3 年次は，テキストを定め，それを全員で輪読し，討論する．報告者とコメンテイターを毎回決め，報告者はレジュメ作成のうえ報告を行い，コメンテイターはそれに対する質問 · 意見を述べ，さらに全員で討論するという形態をとる．4 年次では，各自の卒論のテーマに関する発表を行い，全員でそれについて検討する． **2.** 演習の具体的な内容及びテキストに関しては，ゼミ生とも相談のうえ，最初の授業で決定する予定である．

【成績評価】ゼミでの発表，議論への参加，レポート等

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220227

【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1，0886567185，kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IA

1 単位 (選択) 3 年 (前期)

饗場 和彦 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】現代の国際社会ではさまざまな問題が起き，それらはたとえば法的，経済的，文化的，歴史的な側面からも分析できるが，この演習ではこうした国際的な問題について，主に国際政治学の観点から考察する．国際安全保障，平和と戦争，民族問題，紛争解決，国連，国際協力などに関するテーマが中心になるが，ゼミ生の関心/希望を重視する．冷静な現実主義に根ざしながらも，毅然として理想主義を忘れないというスタンスで，国際政治の本質を洞察してもらいたい．

【授業概要】文献/資料などを輪読して，その内容について毎回学生の担当者が報告を行う．他の学生はそれについて質問，意見を出し，全員で討論する．

【到達目標】国際政治に関する知識の習得と，考察力の習得．

【授業計画】1. 輪読とプレゼンテーション，議論 (1) **2.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (2) **3.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (3) **4.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (4) **5.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (5) **6.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (6) **7.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (7) **8.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (8) **9.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (9) **10.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (10) **11.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (11) **12.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (12) **13.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (13) **14.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (14) **15.** 輪読とプレゼンテーション，議論 (15) **16.** 補足と総括

【成績評価】授業中のプレゼンテーション (発表/報告) の内容や，質疑応答，議論への参加度/貢献度，出席状況など総合的に判断して評価する．特に試験は行わない．

【再試験】行わない．

【教科書】特に指定しない．そのつど指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220228

【連絡先】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30, 金曜日14:30~ 16:00. この時間以外でも在室の際は随時.)

【備考】 他コースの学生も受講できるし, 傍聴 (単位は出ない) という形も可能. 実際の授業は曜日と時間が変更になる場合があるので, 事前に教員に確認すること.

公共政策演習 IA 1 単位 (選択) 3 年 (後期)
饗場 和彦 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 公共政策演習 IA(3 年前期) を参照. 以下の項目も同様.
【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220229
【連絡先】
⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IA 1 単位 (選択) 3 年 (前期)
清水 真人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220230
【連絡先】
⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IA 1 単位 (選択) 3 年 (後期)
清水 真人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220231
【連絡先】
⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (前期)
眞弓 浩三 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 資源環境経済学の基礎的な学習をする.
【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220232
【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (後期)
眞弓 浩三 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 資源環境経済学の基礎的な学習をする.
【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220233
【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (前期)
趙 彤 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220234
【連絡先】
⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12:50~ 14:20 水曜日 12:50~ 14:20)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (後期)
趙 彤 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220235
【連絡先】
⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12:50~ 14:20 水曜日 12:50~ 14:20)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (前期)
石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 財政学の理解を深める
【授業概要】 基本書の輪読, 現地視察や実務家との意見交換を行うことにより財政の現実を理解する.
【キーワード】 財政学
【到達目標】 財政学の基礎を理解する
【成績評価】 平常点による
【再試験】 なし
【教科書】 未定
【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220236
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (後期)
石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 財政学の理解を深める
【授業概要】 基本書の輪読, 現地視察や実務家との意見交換を行うことにより財政の現実を理解する.
【キーワード】 財政学
【到達目標】 財政学の基礎を理解する
【成績評価】 平常点による
【再試験】 なし
【教科書】 未定
【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220237
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (前期)
立花 敬雄 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 現代社会の諸問題に適切に対応していくには, 現代の生産様式の特徴, 例えば, 技術革新, 産業・労働環境の変化, グローバリゼーションといったことを経済学的に理解するとともに, 他方で生産, 経済から社会, 文化, 思想にいたる諸相を多面的に研究する必要がある. そのための文献を学習する.
【授業概要】 現代資本主義と経済学
【履修上の注意】 演習生の研究テーマ決定は主体性を重視する.
【到達目標】 諸問題を分析・検証する経済学等の知識を習得し, 問題解決能力を養う.
【授業計画】 経済学に関する文献や, 現代資本主義の諸相を明らかにした文献を共同で読み進み, 討議形式で検討することを通して理解を深める.
【成績評価】 演習での報告, 受講態度などにより, 評価を行う.
【再試験】 実施しない.
【教科書】 演習時に相談して決める.
【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220238
【連絡先】
⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (後期)
立花 敬雄 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 現代社会に適切に対応していくには, 現代の生産様式の特徴, 例えば, 技術革新, 産業・経済構造や労働環境の変化, グローバリゼーションといったことを経済学的に理解するとともに, 他方で生産, 経済から社会, 文化, 思想にいたる諸相を多面的に研究する必要がある. そのための文献を学習する.
【授業概要】 現代資本主義と経済学
【履修上の注意】 演習生の研究テーマ決定は主体性を尊重する.
【到達目標】 諸問題を分析・検証する経済学等の知識を習得し, 問題解決能力を養う.
【授業計画】 経済学に関する文献や, 現代資本主義の諸相を明らかにした文献を共同で読み進み, 討議形式で検討することを通して理解を深める.
【成績評価】 演習での報告, 受講態度などにより, 評価を行う.
【再試験】 実施しない.
【教科書】 演習時に相談して決める.
【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220239
【連絡先】
⇒ 立花 (656-7187, tachiba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

公共政策演習 IB 1 単位 (選択) 3 年 (前期)
Seminar: IB 水島 多喜男 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】担当教員の研究対象は三分野あります． ・第一は中東産油国の社会経済論．この地域はイスラームの強い影響下にあり，また，その多， くが開発途上国であるため，分析方法としては経済学の手法と地域研究の手法を用い ます． ・第二は，これと表裏をなすものとしての石油・天然ガス産業論． ・第三は，これらを統合して理解するための基礎理論としての世界経済論です (ゼミの名称， には，一般的な「国際経済論」を使用)． ゼミでは，これらに関連する問題を中心に，世界経済の問題についての理解を深めます．

【授業概要】毎回のゼミでは，担当教員の研究分野に限定せず，世界経済論の基礎理論と現実の問題の関連にかかわるテキストを輪読する．

【履修上の注意】「世界経済論 I，II」は必修．ゼミは，自発的な学習の場であるとともに，会議の運営とプレゼンテーションの訓練の場でもあります．従ってゼミの運営には自治意識の涵養，信頼関係の醸成が基本になります．3 年終了までに，経済史，経済学説史，近代経済学とマルクス経済学について基本的な教科書で良いから，通読することを進めます．経済学の古典に関心を持つこと．古典には教科書にない力があります．統計処理と語学力を高める努力を続けてください．

【到達目標】世界的な経済現象について基本的論点を理解した上で，幅広い視野を養う．

【授業計画】指定した図書を輪読する．

【成績評価】授業への取り組み

【再試験】なし

【教科書】各年のゼミ募集要項を参照のこと．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220240

【連絡先】
⇒ 水島 (2203，088-656-7188，mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

公共政策演習 IB
Seminar: IB

1 単位 (選択) 3 年 (後期)
水島 多喜男・教授/社会創生学科

【授業目的】担当教員の研究対象は三分野あります． ・第一は中東産油国の社会経済論．この地域はイスラームの強い影響下にあり，また，その多， くが開発途上国であるため，分析方法としては経済学の手法と地域研究の手法を用い ます． ・第二は，これと表裏をなすものとしての石油・天然ガス産業論． ・第三は，これらを統合して理解するための基礎理論としての世界経済論です (ゼミの名称， には，一般的な「国際経済論」を使用)． ゼミでは，これらに関連する問題を中心に，世界経済の問題についての理解を深めます．

【授業概要】毎回のゼミでは，担当教員の研究分野に限定せず，世界経済論の基礎理論と現実の問題の関連にかかわるテキストを輪読する．

【履修上の注意】「世界経済論 I，II」は必修．ゼミは，自発的な学習の場であるとともに，会議の運営とプレゼンテーションの訓練の場でもあります．従ってゼミの運営には自治意識の涵養，信頼関係の醸成が基本になります．3 年終了までに，経済史，経済学説史，近代経済学とマルクス経済学について基本的な教科書で良いから，通読することを進めます．経済学の古典に関心を持つこと．古典には教科書にない力があります．統計処理と語学力を高める努力を続けてください．

【到達目標】世界的な経済現象について基本的論点を理解した上で，幅広い視野を養う．

【授業計画】指定した図書を輪読する．

【成績評価】授業への取り組み

【再試験】なし

【教科書】各年のゼミ募集要項を参照のこと．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220241

【連絡先】
⇒ 水島 (2203，088-656-7188，mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IB

1 単位 (選択) 3 年 (前期)
多田 正仁・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220242

【連絡先】
⇒ 多田 (2204，088-656-7170，RXN10515@nifty.com)

【備考】本年度開講せず

公共政策演習 IB

1 単位 (選択) 3 年 (後期)
多田 正仁・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220243

【連絡先】
⇒ 多田 (2204，088-656-7170，RXN10515@nifty.com)

【備考】本年度開講せず

公共政策演習 IB

1 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220246

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IB

1 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220247

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

公共政策演習 IB

1 単位 (選択) 3 年 (前期)
内藤 徹・教授/社会創生学科

【授業目的】ミクロ経済学およびマクロ経済学の知識を応用して都市問題あるいは環境問題を考察する能力を身につける．

【授業概要】ゼミの前半ではミクロ経済学に関する文献を吟味し，後期で扱う空間経済分析の基礎となる理論を習得する．消費者理論，生産者理論，交換理論，さらにはゲーム理論を扱う予定である．

【キーワード】ミクロ経済学，都市経済学

【履修上の注意】数学的には厳密な議論が要求されるので受講者は数学に関する学習を演習以外で習得することが求められる．

【到達目標】現実問題への経済理論の適用可能性をさぐる

【授業計画】個人報告を中心とした論文・本の輪読．

【成績評価】平素の成績

【再試験】なし

【教科書】講義開始後，相談の上決定します．

【WEB 頁】http://sites.google.com/site/s947140/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220248

【連絡先】
⇒ 内藤 (naito@kyudai.jp)

公共政策演習 IB

1 単位 (選択) 3 年 (後期)
内藤 徹・教授/社会創生学科

【授業目的】ミクロ経済学およびマクロ経済学の知識を応用して都市問題あるいは環境問題を考察する能力を身につける．

【授業概要】ゼミの前半ではミクロ経済学に関する文献を吟味し，後期で扱う空間経済分析の基礎となる理論を習得する．消費者理論，生産者理論，交換理論，さらにはゲーム理論を扱う予定である．

【キーワード】都市経済学

【先行科目】『ミクロ経済学 I』(1.0，⇒100 頁)，『経済学の基礎 I』(1.0)

【履修上の注意】数学的には厳密な議論が要求されるので受講者は数学に関する学習を演習以外で習得することが求められる．

【到達目標】現実問題への経済理論の適用可能性をさぐる

【授業計画】個人報告を中心とした論文・本の輪読．

【成績評価】平素の成績

【再試験】なし

【教科書】ゼミ開講時に指定

【WEB 頁】https://sites.google.com/site/s947140/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220249

【連絡先】
⇒ 内藤 (naito@kyudai.jp)

比較文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
有馬 卓也・教授/人間文化学科，田島 俊郎・教授/人間文化学科
桂 修治・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること．

【授業概要】従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする．日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について，担当の教員がそ今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の 3 セクションに分けて，それぞれのセクションに各人 1 回程度講義を提供する．その際，それぞれにテーマ

を提示したうえで，担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して，具体的な事例をもとに論じていく．概要の趣旨に沿って，「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる．.「自文化と異文化」「文学 (レトリック，物語・民間伝承など)」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばれることになろうが，その際にも，具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる．

【キーワード】比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容

【到達目標】国際的感覚を涵養し，総合的な文化研究を身につけること．

【授業計画】1. 導入「比較文化」とはなにか? **2.** セクション 1「未知の世界に触れる」(1 回目から 5 回目まで):「文化」とは何かを考えながら，様々な世界の見方を提示する．好奇心の大切さ，比較という方法について述べる．個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「犯罪」「自文化/他文化」「日本の中の異文化」など **3.** セクション 2「違いを楽しむ」(6 回目から 10 回目まで) 多面的にものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する．個別のテーマとしては，「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「レトリック」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禅」など **4.** セクション 3「つながりを見つける」(11 回目から 15 回目まで) 文化の中の違いを認めながらも，そこに思いがけないつながりを見つけ，総合的に世界を見ること提示する．個別のテーマとしては，「交流」「異文化教育」「文化の影響」「シナジー」「情調における文化の交感」など

【成績評価】期末レポートと平常点．期末レポートは 5 人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの．平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う．

【再試験】有

【教科書】必要に応じてプリントなどを配布する．

【参考書】各教員から授業の中で課題図書が示される．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2010.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218954

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時可)
⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)
⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間，金曜 5·6)
⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 15:00)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域交流史

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
東 潮·教授/人間文化学科，葭森 健介·教授/人間文化学科
衣川 仁·准教授/人間文化学科，佐久間 亮·教授/人間文化学科

【授業目的】日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通じ，各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を講義する．併せて学生がテーマを理解し，日本及び世界の未来について考え，国際人としての基礎知識と自覚を涵養する．

【授業概要】日本が東アジアの交流から国家を形成し，東アジア史の一翼を担うところから出発し，大航海時代を経て，東洋と西洋が出会い，世界史が形成される過程を講義する．

【キーワード】地域交流，世界史，国際関係

【履修上の注意】 高校で習った世界史，日本史の授業内容を復習しておくこと．

【到達目標】学生が将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し，日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする．

【授業計画】1. 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る **2.** 册封体制と日本ー日本国家の成立と東アジア史 (葭森) **3.** 邪馬台国と倭国 (東) **4.** 四-六世紀における東アジアの国際環境 (東) **5.** 飛鳥時代の国際環境 (東) **6.** 六朝隋唐国家と古代日本国家-律令制とは (葭森) **7.** 大陸・半島から日本へ (衣川) **8.** 東夷の小帝国-「日本」の自覚 (衣川) **9.** 中世日本と東アジアの交流 (衣川) **10.** モンゴル・ウルスの衝撃-世界史の序曲 (葭森) **11.** 大航海時代・黒死病・奴隷 (佐久間) **12.** プラントハンター・植物園・帝国の手先 (佐久間) **13.** イギリスのインド支配-熱帯をいかに飼い馴らすか-(佐久間) **14.** お茶・陶磁器・絹・銀そしてアヘン-貿易から戦争の時代へ (葭森) **15.** 期末試験 **16.** 地域交流と歴史-授業の総括 (葭森・東・衣川・佐久間)

【成績評価】授業への参加姿勢と期末試験で総合的に評価

【再試験】再試験はしない

【教科書】なし．授業でプリントを配布

【参考書】授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218780

【連絡先】

日本経済と社会

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信·教授/社会創生学科

【授業目的】変動過程にある日本型経済システムの骨格を理解し，転換の課題を確認する．

【授業概要】かつて「経済大国」に駆け上がった日本経済は凋落過程にある．また，格差社会 · 無縁社会 · 限界集落など，多くの社会問題が一斉に激化している．その転換をいかに図るか，歴史経過を踏まえて考察する．

【キーワード】日本経済，社会システム，維持可能な社会

【到達目標】
1. 高度成長期に形成された日本経済の構造的な特質を理解できる．
2. 経済システムの転換をめぐる理念と政策の対抗関係を理解できる．

【授業計画】1. 日本経済のたそがれ 日本経済閉塞の指標 講義計画 **2.** 高度経済成長の時代 国民経済の急膨張と日本型システムの形成 **3.** 成長至上主義の社会 経済成長を可能にする条件 大衆消費時代 **4.** 高度成長方式の破綻 「東洋の軌跡」の終焉 破綻の内外要因 **5.** 「国際分業論」の欠陥 効率性を優先する加工貿易型の歪んだ経済構造 **6.** 大量生産・大量消費 経済成長と資源 · 環境問題 「公害列島」日本 **7.** 土建国家日本の構図 生産基盤整備を図る大型公共事業と推進体制 **8.** 経済大国と生活小国 資本効率の追求と福祉の低迷 低位な労働環境 **9.** 財政破綻と小さな政府 「日本株式会社」を牽引した政府財政の破綻 **10.** グローバル化の投影 先進国の積極的多国籍化と世界経済システム **11.** 新自由主義への傾斜 「政府の失敗」 市場原理主義への誘導 **12.** 新たな社会問題の噴出 各種格差の発現 「この国のかたち」への批判 **13.** 市場の失敗と各種 NPO 公共領域の劣化と社会的経済への期待 **14.** 維持可能な社会の展望 成長至上主義を克服する経済構造への転換 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本型システムの分解と Sustainable Society への道

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末筆記試験による．出席状況で補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220356

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

社会心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 健二·教授/人間文化学科

【授業目的】近年，社会心理学に対する期待は，著しく増大している．なぜなら，社会心理学は，人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて，近年生じている，さまざまな社会的行動の諸問題の解決に資する可能性を持っているからである．そこで，本講義では，人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする．

【授業概要】人間の社会的行動の理解

【キーワード】社会的行動，自己，対人行動，集団行動，集合行動

【履修上の注意】OHP，パワーポイント，紙資料，ビデオテープなどを使用する．私語厳禁．

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果，概念，方法論，近年の展開について理解すること

【授業計画】1. イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 **2.** 社会的影響 (同調，服従，役割) **3.** 攻撃．暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? **4.** 援助．なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? **5.** 集団行動 (リーダーシップ研究．「プロジェクトX」視聴) **6.** 集合行動 (流言，うわさ，群衆行動) **7.** 言語・非言語的コミュニケーション (視線行動，パーソナル・スペースなど) **8.** 抑うつの社会心理学．認知の歪み，自己注目，相互作用モデルとの関連 **9.** 自己呈示と対人不安 **10.** 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- **11.** 対人魅力．近接性と好意，身体的魅力，類似性と好意，返報性 **12.** 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 **13.** 社会的認知 (原因帰属など) **14.** 自己意識，自己評価研究とその臨床領域への応用 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】三分の二以上の出席した者に対して，期末試験結果による評価を行う．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】安藤清志他 1995 現代心理学入門 4 社会心理学 岩波書店，坂本真士・佐藤健二 2004 はじめての臨床社会心理学 有斐閣
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218697
【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:10~ 13:00，総合科学部3号館3S05室，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 久子・教授 / 人間文化学科

【授業目的】文明が発達した現在では身体運動，スポーツ，ダンス等は健康のための手段として重要視されている．しかし，これらは健康のための手段として生まれてきたのではない．それぞれの運動やスポーツ，ダンスは各国，各地域の固有の文化として捉えることが出来る．本講義では，これらの内容及び歴史的な意味について概説し，現代社会における運動やスポーツ，ダンスを歴史社会学や文化人類学の観点から検討し，寄り深い認識を得ることを目的とする．
【授業概要】生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついておく過程を歴史社会学の観点から分析し，現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する．
【キーワード】**スポーツ，ダンス，生産形態，リズム**
【到達目標】生産形態とリズムが関わりをもつことを知り，ダンスやスポーツに与えてきた影響を知ることを到達目標とする．
【授業計画】**1.** 運動と文化-スポーツ，ダンスの発生 **2.** 遊びと余暇 **3.** 生産形態とリズム (5 つのリズム感) **4.** 山村畑作民のリズムとスポーツ・ダンス **5.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス 日本 **6.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス アジア **7.** 海洋漁撈民のリズムとスポーツ・ダンス **8.** 狩猟民のリズムとスポーツ・ダンス **9.** 牧畜民のリズムとスポーツ・ダンス **10.** 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 **11.** スポーツの遊技性と競争性 **12.** 近代スポーツの成立 **13.** 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ **14.** 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ **15.** まとめ
【成績評価】レポート 50%，授業時に行う小レポート 50%
【教科書】特に使用しない
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218366
【連絡先】
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康行動論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
荒木 秀夫・教授 / 人間文化学科，小原 繁・教授 / 人間文化学科
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科，佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科
三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】授業で習得した知識や態度が，自己の生活や社会活動に生かされ，健康で豊かな，そして安全な生活が営まれることを目標とする．授業は健康運動，生活行動，安全管理をテーマに進める．
【授業概要】健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし，健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う．具体的には，健康障害や事故の予防，それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する．
【キーワード】**健康問題，生活行動，運動・スポーツ活動**
【先行科目】『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0, ⇒22 頁)，『健康体力科学の基礎』(1.0, ⇒23 頁)
【関連科目】『地域健康福祉論』(0.5, ⇒112 頁)，『健康教育学』(0.5, ⇒69 頁)，『健康心理学』(0.5, ⇒81 頁)
【到達目標】
1. 地域社会の生活環境の創造への貢献
2. 人間科学に関わる幅広い知識の理解
【授業計画】**1.** 健康とは **2.** 健康と運動 **3.** 健康運動の方法 **4.** スポーツと健康 **5.** 薬物と健康 (服薬者の運動実施と注意点) **6.** 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 **7.** 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 **8.** 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 **9.** 発育発達期の身体的特徴，心理的特徴 **10.** 発育発達期に多いケガや病気 **11.** 運動中に多い病気とその予防 **12.** 運動中に多いケガとその予防 **13.** 現代の健康 **14.** 環境と健康 **15.** これからの健康 **16.** 総括
【成績評価】レポート，小テスト，授業の取り組み方などで総合的に評価する．
【再試験】なし
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220344
【連絡先】
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域健康福祉論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 俊夫・教授 (併任) / 大学開放実践センター

【授業概要】少子高齢化が進む日本社会にあって，医療費の増加に歯止めをかけ，高齢者の QOL を維持していくことは極めて重要・至難な社会的課題である．この健康福祉に関して，国の施策方針から地域現場における具体的な実践例まで，さまざまなレベルにおける取組を学習し，その成果と課題について考察する．さらに，今後の健康福祉政策のあるべき姿について考えていく．
【キーワード】**健康福祉，メタボリックシンドローム，介護予防，運動指針**
【授業計画】**1.** 地域健康福祉概論 **2.** アメリカと日本における健康福祉政策 **3.** 健康福祉を担う指導者 **4.** メタボリックシンドロームと健康福祉政策 **5.** 運動基準・運動指針 **6.** 介護予防・高齢者医療と健康福祉政策 **7.** 県レベルにおける健康福祉への取り組み **8.** 市町村レベルにおける健康福祉への取り組み **9.** 民間企業・団体における健康福祉への取り組み **10.** 具体的な実践事例 1(生活習慣病と運動疫学) **11.** 具体的な実践事例 2(健康づくり運動とカウンセリング支援) **12.** 現場の声を聞く 1(メンタルヘルスと運動の効果) **13.** 現場の声を聞く 2(ストレスアセスメントと運動指導) **14.** 地域健康福祉の未来像を探る **15.** まとめ
【成績評価】出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%)
【再試験】しない
【教科書】なし
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220354
【連絡先】
⇒ 田中 (088-656-7280, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

グローバル社会論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樋口 直人・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】現代を生きる者は，どこに住もうがグローバル化の影響を免れることはできない．では，それはどのような影響であり，具体的には何が生じるのか．この授業の最大の目的はこうした問いに答えることにある．さらに，グローバル化は国民からなる国家体制を大きく変えつつある．では，国家はなぜどのように変化を迫られているのか．こうした問いに対して，大きくは身近な生活のグローバル化，環境のグローバル化，人の国際移動からみたグローバル化に焦点を当てて議論していく．
【授業概要】グローバル化する社会が抱える問題について，社会学の概念を用いてアプローチする．特に徳島のような地域では，グローバル化といってもイメージがわきにくいので，画像や映像資料の解説をできる限り取り入れて理解を助けるようにしたい．
【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** グローバル化とは何か:メキシコからみた風景 **3.** 大量生産の時代としての現代 **4.** 大量生産と成長の限界 **5.** 食卓の裏側:『ダーウィンの悪夢』とグローバル化する食卓 **6.** グローバルとローカル:『モンド・ヴィーノ』と食をめぐる 2 つの道 **7.** 私たちは誰とつながっているのか:市場経済，環境，フェアトレード **8.** 新国際分業と世界都市の形成 **9.** メディアとグローバル化 **10.** 南北国境の 3000 キロ:メキシコとアメリカの移民問題 **11.** メキシコ化するアメリカ:『ブレッド&ローズ』と移住労働者 **12.** グローバル化する移民:(1) 南米の日本 **13.** グローバル化する移民:(2) 日本の南米 **14.** グローバル化する移民:(3) 日本の南米人と経済危機 **15.** グローバル化する移民:(4) 日本の少子高齢化と移民受けいれ
【成績評価】成績評価はレポートと授業中の課題による．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートが 60 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．
【再試験】無
【教科書】教科書は用いないが，関連する文献リストを初回に配布する．また，教科書の代わりに毎回レジュメを配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．
【参考書】参考書 コーエン&ケネディ『グローバル・ソシオロジー』1・2 巻平凡社，2003 年
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220341
【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

地域創生論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信・教授 / 社会創生学科

【授業目的】持続可能な地域づくりの基礎理論を提示する．
【授業概要】の講義は「地域科学」への入門にあたる．地域社会の構成と動態に関する基礎的な知見を獲得するとともに，総合的な地域問題を解決して持続可能な地域をつくるための理論と手法を学ぶ．
【キーワード】**地域づくり，地域問題，地域政策**
【到達目標】

1. 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる．
2. 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる．

【授業計画】 **1.** 地域問題と地域づくり 地域問題の諸形態 講義計画 **2.** 地域問題の総合的性格 地域問題の相互関連 地域科学の課題と構成 **3.** 地域問題と地域経済 地域問題の主要な発生源としての地域経済 **4.** 地域経済の構成と変動 混合経済としての地域経済 公共領域の役割 **5.** 新自由主義政策と地域 成長至上主義型の破綻 新自由主義政策の発動と住民生活 **6.** グローバル化と地域 世界システムの再編にともなう地域社会の変動 **7.** システム転換の基軸 政治・経済システムの進路をめぐる対抗関係の位相 **8.** もう一つの世界は可能 システム転換の新たな主導力 (途上国・NGO・社会的経済) **9.** 分権時代の地域政策 地方自治の仕組みと政策主体 (行政・議会・住民組織) の役割 **10.** 地域政策の理念と体系 地域政策の理念と体系に関する欧州と日本の比較 **11.** 政策過程への住民参加 公共領域を再編する政策 政策の計画・執行過程と住民 **12.** 徳島県の住民参加状況 公共事業の動向に働きかける徳島県の住民運動の経過 **13.** 転換期の地域づくり (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の地域づくり (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域創生論の学び方 地域科学の近年の動向と研究課題

【成績評価】 講義中に行う数回の小テスト，期末に提出を求めるリポートの結果によって単位を認定する．

【再試験】 再試は行わない．

【教科書】 用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】 中嶋信『集落再生と日本の未来』自治体研究社，2010 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220355

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域文化論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】 文化人類学の中心的なテーマについて講義する．世界の諸民族の事例を通して，人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し，異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である．グローバリゼーションの中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい．

【授業概要】 文化人類学の基本問題

【キーワード】 **文化，現代社会，グローバリゼーション**

【関連科目】 『地域文化論 II』(0.5, ⇒60 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．フィールドワークを「疑似体験」しながら，文化現象の意味について考えてもらいたい． なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】 人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し，異文化 (自文化) の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる．

【授業計画】 **1.** 文化人類学のパースペクティヴ **2.** 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ **3.** 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 **4.** 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 **5.** 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ **6.** 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム **7.** ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ **8.** 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって **9.** メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 **10.** グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム **11.** 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 **12.** ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より **13.** 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ **14.** 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか **15.** 「転換期」の時代の文化人類学 **16.** まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】
- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる．個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂，2005 年
- ◇ 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店，2003 年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣，2008 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218849

【連絡先】
⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~ 13時)

【備考】 本年度開講 (隔年開講)

共生社会論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 社会学の立場から社会福祉論・共生社会論を論じる．現代社会は福祉社会である．しかし，「社会リアリティ」の変化にともない，「連帯」の在り方が変わってきている．幅広い市民的連帯がリアリティを失い，「選ばれた人間」の中での「連帯」が「公正」であるように思われてきている．その感覚のもとで許される「個人のニーズ」だけが，「社会のニーズ」に転換を許容されるようになってきている．また，「生産主義社会」から「消費社会」に変化する中で，「労働倫理」の意義は低下し，クリエイティブな労働者になれない場合は，「立派な消費者」になることが次の目標となってきている．かつて，労働に不適であることが福祉の対象者の条件であったが，いまや，消費者としては障害者も平等に扱われるようになり，最終排除対象者は，意志をもたぬもの，意志を適切に表示できないものになってきている．この流れの先に，共生社会がある．共生社会の光と影を共に見つめていきたい．同時に，社会福祉の現代社会的基盤を理解しよう．

【授業概要】 社会学の立場から考える社会福祉論と共生社会論．社会のニーズと個人のニーズ．資本主義を支えるものとしての福祉社会．消費社会への変化の意味．労働のフレキシビリティの増大の意味．近代的労働倫理 (勤勉さ，従順さ・・) を守意味の変化．グローバライゼーション．産業の機械化．代替不能性の高い労働と低い労働．これらのことを道具に，現代社会的側面から福祉社会を考える．

【キーワード】 **福祉社会学，社会政策，援助，共生，セルフヘルプグループ，インタビュー論，社会福祉と現代社会**

【先行科目】 『市民活動論』(1.0, ⇒104 頁)

【履修上の注意】 教科書は生協に取り寄せる予定 (定価:1700 円)．古本でもよいが，必ず入手すること．また，参考書の一部は効果だが読み甲斐がある．出欠確認は毎回行う．とりわけ，初回のオリエンテーションは重要なので，けっせきしないようにせよ．欠席者には理由を等．なお，全学共通教育では，「ボランティア論 (木曜 5・6 限，前期) が，関連科目である．なお，受講学生人数にもよるが，複数会の小論文執筆が課せられることを覚悟して欲しい．大学での学習成果は，書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ．だいたいのことを書いて満足するのではなく，質のものを志して書いてほしい．また，ダイソー等での買い物などの宿題も課せられる．人数がすくなければ，裁判所見学 (以下に福祉の対象者と被告の層が重なっているかの実地確認作業) も行う．日本の現状 (消費社会化，低所得労働者のアンダークラス化＝ジグムント・バウマン＝) を身をもって看取してもらう必要があるからだ．

【到達目標】
1. 現代社会を学ぶことと，社会福祉を学ぶことがどのように繋がっているのか講義する．
2. より具体的には，(1) 現代社会の構造と自分の人生選択の困難さを結びつけて理解する．
3. (2) 現代の困難さに，一定の合理性があることを理解したうえで，アルターナティブな未来を構想できるようになる
4. アルターナティブな未来 (例:労働と切り離された収入) がはらむ問題に気づくことができる．

【授業計画】 **1.** 樫田によるイントロダクション．現代社会論として福祉と共生をとらえる． **2.** 消費社会とグローバリゼーション．労働はどう変わってきているのか． **3.** ウエルビーイングタウン:社会福祉って何だろう． **4.** 社会的ニーズと個人的ニーズの問題．対立?．個人的ニーズの社会的構成?． **5.** 障害者福祉のしくみ **6.** 高齢者福祉のしくみ **7.** 児童福祉のしくみ **8.** 虐待について (児童虐待と高齢者虐待)．虐待とエスノセントリズム． **9.** 新しい貧困について．ニュープアとアンダークラス (ジグムント・バウマンの主張) **10.** 犯罪と疾病と社会福祉．裁判所見学 (人数的に可能な場合)． **11.** 在宅医療の問題を考えよう **12.** セルフヘルプ・グループ論．ヨブ記から考える． **13.** 準備レポート草稿の班別検討会．考え抜く態度の錬成 (1) **14.** 準備レポート講評．総合科学と現代社会．『フーコーの穴』を題材に． **15.** 最終レポート草稿の班別検討会)．考え抜く態度の錬成 (2) **16.** 最終レポート講評．総合科学と社会福祉．『< 生 > の社会学』を題材に．

【成績評価】 平常点 (出席を含む)+レポート (20%，80%の比率) ※準備レポートはコメントを付けて返却し，点数上は最終レポート (第 2 回目のレポート) のみ加点対象とする見込み．

【再試験】 行わない

【教科書】 岩田正美ほか著 1999『ウエルビーイングタウン 社会福祉入門』有斐閣

【参考書】
- ◇ ジグムント・バウマン著 1998 ＝ 2008『新しい貧困-労働，消費主義，ニュープア』青土社．

- 藤村正之著 2008『< 生 > の社会学』東京大学出版会
- 井上俊・長谷 正人編 2010『文化社会学入門』ミネルヴァ書房
- 『福祉社会事典』弘文堂
- 斉藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房.
- 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- 石川准・倉本智明編，2002,『障害学の主張』，明石書店.
- メイナード著，樫田・岡田訳 2004『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房.
- 杉野昭博『障害学 理論形成と射程』東京大学出版会.
- 重田園江『フーコーの穴 統計学と統治の現在』木鐸社.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220343

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

メディア情報論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
河原崎 貴光 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する

【授業概要】 主にメディアに流通する複製芸術を中心として図版，映像資料等を紹介解説していく． 授業中に小レポートを課すこともある．

【キーワード】メディア，アート，映像，写真

【到達目標】 メディア芸術の理解

【授業計画】 **1.** 写真-カメラオブスキュラ **2.** 写真-決定的瞬間 **3.** 写真-ニューカラー **4.** 映像と身体 **5.** 映像と記憶 **6.** 実験映像 **7.** 実験的アニメーション **8.** 映画-初期 **9.** 映画-ハリウッドシステム **10.** 映画-物語以後 **11.** プロモーションビデオ **12.** アニメ **13.** インタラクション **14.** ゲーム-インターフェイス **15.** ゲーム-物語-ライトノベル **16.** ネットワーク,AR, ミクスドリアリティ

【成績評価】 出席，小レポート

【再試験】 実施せず

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219016

【連絡先】

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

芸術文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
片岡 啓一 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で，しかも変化に富んだものである．多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し，世界中にはさまざまな音楽が存在している．この授業では，民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し，そのことを通じて，音楽文化・民族性・音楽の本質等について，一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている．

【授業概要】 民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義.

【キーワード】民族音楽，音楽学，音楽鑑賞，民族性，異文化理解

【履修上の注意】 同授業は講義形式なので受講者は受け身的になりがちであるが，できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい．なお，共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが，その内容は同授業と相当程度重複しているので，「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること．先行科目・関連科目については具体的な科目名は書いていないが，芸術分野・人文科目分野等の科目群はすべて該当すると考えていただいてかまわない．同授業は，国際文化コースの「コース専門選択科目」の単位として履修することもできるし，「総合科学テーマ科目」として履修することも可能である．昨年度に初回の授業をマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施したが，同室で無理なく受講できる人数は 50 名程度であるが，「総合科学テーマ科目」に指定されていることから 90 名程度の受講者となり，加えて旧体制の受講者 (「世界の諸民族の音楽」) が 10 名程度同時受講したので，合計 100 名ちょっとになり，補助用のパイプ椅子を使ってすし詰め状態で開講した．パイプ椅子のみの学生が同じ人にならないようにローテーション配置を考え，極力配慮したが，それでも学生にとっての身体的な負担は大きかった．今年度は別のもっと広い部屋で同授業を行うことを相当真剣に考えたが，授業内容の性格上，他の部屋で行うことはやはり無理なので，昨年度同様「音響スタジオ」にて実施することにした．今回の具体的な対応の方法としては，補助机・補助椅子を使うと，普通の状態で受講できる学生は 50 名程度なので，毎回の授業時間の前半と後半とで，残りのパイプ椅子のみの学生との座席の交代を行うことによって学生の身体的な負担を少なくしようと考えている．そのような事情があることから，同授業を受講希望している学生で，他の「総合科学テーマ科目」を受講することでもかまわないと思う方は，できるだけそういう方法をとっていただけると大変ありがたいと考えている．

【到達目標】 世界にはさまざまな音楽文化が存在すること，それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し，音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く．

【授業計画】 **1.** 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために，講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる． **2.** 1 週目 授業の趣旨説明を行い，現代の音楽文化の特徴について言及する． **3.** 2 週目 日本の音楽． **4.** 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽． **5.** 9-13 週目 インド・西アジアの音楽． **6.** 14 週目 アラブの音楽． **7.** 15 週目 総括授業 授業内容全体について，反省・補足・意見交換等を行う． **8.** 授業内容についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが，若干のずれが生じることもあるので，その点はあらかじめご了承願いたい．

【成績評価】 試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．レポートは提出期限を厳守すること．成績評価には，授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される．

【再試験】 行わない．

【教科書】 この授業では教科書等は使用しない．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218553

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 同授業は，平成 23 年度は前期・金曜・5-6 講時にマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」にて実施する．オフィスアワーは前期・木曜日の昼休み．片岡研究室 (マルチメディア A 棟 2 階) のメールアドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．なお，注意のところでも書いたように，授業を行う部屋がそれほど広くないので，別の「総合科学テーマ科目」を選択してもかまわないと思う方は，できればそういう方法をとってくださると大変ありがたい．

情報の数理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中山 慎一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 今日，コンピュータの高性能化，および，通信網の整備により，インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている．今後，あらゆる家電製品や携帯電話などが，ネットワークへの接続を前提に作られるようになり，ネットワークが生活の基盤になるであろう．よって，ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ることは，将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる．このような観点から，情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする．

【キーワード】通信ネットワーク，インターネット，プロトコル，*TCP/IP*

【先行科目】 『計算機概論』(1.0, ⇒193 頁)

【履修上の注意】 2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識が必要です．

【到達目標】 ネットワークに関する知識や設計技法の習得，および，それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする．

【授業計画】 **1.** 情報通信の発達過程 **2.** ネットワークの種類と形態 **3.** ネットワークに関する基礎技術 **4.** 通信プロトコル 1 **5.** 通信プロトコル 2 **6.** 伝送制御手順 **7.** 通信サービルと技術 1 **8.** 通信サービスと技術 2 **9.** ネットワークの分析 1 **10.** ネットワークの分析 2 **11.** ネットワークの設計 1 **12.** ネットワークの設計 2 **13.** ネットワークセキュリティ 1 **14.** ネットワークセキュリティ 2 **15.** ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】 レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する

【再試験】 行う

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220348

【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

現象の数理

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小野 公輔 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する．また，それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し，現象の数学問題への定式化および意味づけを行う．さらに，数理モデルの妥当性や説明 · 予測 · 制御等の初等的方法について理解を深める．

【授業概要】 現象解析のための基本事項について解説する．

【キーワード】自然現象の数理，社会現象の数理，現象解析の数理，微分積分学，微分方程式

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒195 頁)，『微分方程式 I』(1.0, ⇒194 頁)

【履修上の注意】 微分積分学の基本事項を履修しておくこと．授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】 数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する．

【授業計画】**1.** 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1. モデル化のための枠組み **2.** 人口問題と成長モデル **3.** 薬の吸収モデル **4.** 水の加熱と冷却の数理モデル **5.** ロケットの飛行モデル **6.** 抑制された成長モデル **7.** 広告に対する売り上げの反応モデル **8.** 美術品の贋作判定モデル **9.** 電気回路モデル **10.** 新古典派の経済成長モデル **11.** 五大湖の汚染判定モデル **12.** 個人の消費行動モデル **13.** 惑星の運動モデル **14.** 化学反応速度モデル **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】授業への取り組み状況，演習，レポート，試験などをもとに総合的に評価する．

【再試験】無

【参考書】「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220345

【連絡先】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室，0886567218，ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

数学と社会

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

片山 真一・教授/総合理数学科，大渕 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】・代数的構造についての基礎及びその様々な場に於ける応用についての基礎に関する講義を行う．講義では代数構造の代表的な分野である代数的整数論と代数幾何学の初歩とその応用である暗号理論，符号理論の解説を行う．・目標は群，環に於ける準同型定理の理解，有限体の定義の理解，線形符号の定義とシングルトンの不等式の理解である (大渕)．また公開鍵暗号系の仕組みと剰余類群の応用として，RSA 暗号系を理解 する (片山)．

【授業概要】・代数的構造に関する基礎理論 (群・環・体及び整数論) についての基本的な知識及び応用 (符号理論・暗号理論) への理解が深まるように講義を行う．・群論の初歩，基礎的な環論及び体論を解説する．これを受けて線形符号に関する初歩的な一般論を講義する (大渕)．また公開鍵暗号系に関する基礎理論を講義する (片山)．

【キーワード】**符号理論，暗号理論，現代代数学**

【先行科目】『代数基礎 I』(1.0, ⇒193 頁)，『代数基礎 II』(1.0, ⇒193 頁)

【関連科目】『代数学 I』(0.5, ⇒195 頁)，『代数学 II』(0.5, ⇒195 頁)

【到達目標】代数的構造に関する基礎理論の理解と符号理論と 暗号理論への応用

【授業計画】**1.** 群の定義 **2.** 準同型定理 **3.** 環の一般論 **4.** 準同型定理 **5.** 有限体概説 **6.** 符号の定義 **7.** 線形符号 **8.** シングルトンの不等式 **9.** 暗号の歴史 **10.** 対称鍵暗号系の仕組み **11.** 計算困難性 **12.** 非対称鍵暗号系の仕組み **13.** RSA 暗号系 **14.** デジタル署名の仕組み **15.** RSA 署名およびまとめ **16.** 総括授業

【成績評価】出席および提出レポートによる総合評価を行う．

【再試験】無

【教科書】特に指定しない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220350

【連絡先】

⇒ 片山 (1304，656-7228，katayama@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 大渕 (088-656-7297，ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

資源エネルギー論 Natural Resources and Energy

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

伏見 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．

【授業概要】日本・世界のエネルギー需給について現状の分析をする．エネルギー需給について開発の現状について解説し，将来取りうる政策について議論する．

【履修上の注意】日ごろから新聞を読んでおくこと．講義ノートを用意すること．予習，復習の時間を十分に確保すること．各学科で学んできた事柄を活用して建設的な議論が進められることを期待する．

【到達目標】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．そのためにデータを正しく読むことができる．冷静な議論ができる．

【授業計画】**1.** 序論: 基本用語，単位の解説．グラフ，統計データの見方． **2.** エネルギー需給の変化 (日本のエネルギー需給) **3.** 日本のエネルギー供給 I (一次エネルギー源 化石燃料) **4.** 日本のエネルギー供給 II (一次エネルギー源 非化石燃料 (原子力)) **5.** 日本のエネルギー供給 III (一次エネルギー源 非化石燃料 (再生可能エネルギー)) **6.** 日本のエネルギー供給 IV (二次エネルギー 電力) **7.** 日本のエネルギー供給 V (二次エネルギー ガス・熱・石油) **8.** 日本のエネルギー供給 VI (二次エネルギー 熱・石油) **9.** 国際エネルギー動向 エネルギーコスト **10.** エネルギー需給に関する政策 **11.** エネルギー開発の動向 原子力政策 **12.** 輸送部門のエネルギー供給政策 **13.** 新エネルギーに対する政策 **14.** エネルギー安全保障 **15.** 総合討論 **16.** 総括

【成績評価】レポート課題 (40%)，総合討論 (10%)，期末レポート (40%)，出席 (10%)

【再試験】なし．

【教科書】適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220347

【連絡先】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01，088-656-7238，kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉に貼っている予定表の空欄時間帯．)

生態学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生態学の基本や面白さを理解する．

【授業概要】ヒトとして生活をする上で知っておいた方がよい生態学の知見，フィールド調査や研究を行う上で重要となる生態学的な基礎知識について，実例をあげながら講述する．

【キーワード】**生物，行動，生態系**

【到達目標】生態学の基本用語を理解する．

【授業計画】**1.** 講義内容の説明 **2.** 繁殖行動の解発因 **3.** 配偶者選択 **4.** 行動の進化的安定戦略 **5.** 生存曲線，個体群の増殖 **6.** 個体数推定，生命表 **7.** 生態的地位，生態系，すみ分け **8.** 種間関係，群集の多様性 **9.** 捕食ー被捕食関係，最適餌サイズ **10.** 擬態，r-K 戦略 **11.** 生物の多様性，メタ個体群 **12.** 自然保護を考える **13.** 生態学的研究の実例 **14.** 生態学の応用的研究の実例 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 50 点 (原則遅刻は配点しない)，レポート 50 点

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218743

【連絡先】

⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

総合科学実践プロジェクト

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

宮崎 隆義・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
山城 考・准教授/社会創生学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科

【授業目的】専門を異にする教員が，共通もしくは複数のテーマで受講生とともに授業を運営し，実践的で総合的な学習姿勢を体得する．授業を通して，文系，理系相互の視点からものを考え，企画・調査し，討論・発表によって総合科学の実践力を養う．

【授業概要】総合科学に関わる諸問題を，文系，理系の視点から考え実践的に解明をおこなってゆくワークショップ方式の授業である．欧米の文学や比較文化，植物や環境を専門とする 4 名の教員が，受講者とともに授業の内容を企画し，共通もしくは複数のテーマを設定して，文献調査やフィールドワーク (例:吉野川干潟観察プログラム・流域水環境分析プログラム・環境保全運動考察プロジェクトなど複数のテーマで開設) を通して文系・理系相互のもしくは融合した視点から，考察を深め，最終的にはその成果を発表する．

【到達目標】

1. 文系，理系双方の考え方を理解し融合させる．
2. テーマの設定，フィールドワークの実施や文献の調査等を通して実践的な企画力を養う．
3. 文献の購読や討論を通して論理的な思考や理解を高め，成果発表の能力を高める．

【授業計画】**1.** 以下の計画はおおよその目安であり，受講者の志向や関心，文献調査やフィールドワークなどの動向を見ながら 16 回の授業を運営してゆく． **2.** オリエンテーション **3.** テーマの設定について討議 (2 回程度) **4.** 授業の運営について討議・企画 (2 回程度) **5.** 調査およびフィールドワーク (3 回程度) **6.** 中間発表 (2 回程度) **7.** 討論とさらなる調査 (3 回程度) **8.** まとめと発表 (2 回程度) **9.** 総括

【成績評価】授業への参加状況，議論の内容，発表や報告などを総合的に評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業の中で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220352

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309，656-7131，miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)

⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

⇒ 山城 (088-656-7257，tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07，7618，hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

総合科学特別講義

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

中嶋 信・教授/社会創生学科，樫田 美雄・准教授/社会創生学科
大橋 眞・教授/社会創生学科，佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 総合科学＝諸科学を総合して課題を解明する営みの意義や方法について考察する．考察の領域を地域科学に据え，地域課題の実践的解明の過程を紹介する．

【授業概要】 ①総合科学部の教育課程の特徴＝総合科学の意義や課題を理解する． ②人文・社会・自然科学を総合する方法を実践的に理解する． ③地域づくりの事例を考察し，諸科学を総合する課題・方法を理解する． ④地域住民との対話を通じて総合科学的な思考力を身につける．

【キーワード】総合科学，地域科学，地域づくり，グローバル化

【履修上の注意】 11 月 12 日土曜日午後に,「在宅療養を考える」というテーマでワークショップを企画している (2 コマ)．補講の扱いではあるが，正規の授業なので日程を開けておくことが望ましい．

【到達目標】 ①諸科学と総合科学との関係が具体的に説明できる．②具体的な地域問題に対し，諸科学を編成して解決する計画を作成できる．③総合科学的な観点から，自分の意見が表明できる．

【授業計画】 **1.** 諸科学と総合科学:諸科学を総合する科学が必要とされる理由を考察 (中嶋) **2.** 地域科学のあゆみ:Regional Science の形成と日本での展開過程を考察 (中嶋) **3.** 地域科学の実際①:実際の地域問題と地域科学による解決の例を考察 (中嶋) **4.** 地域科学の実際②:地域づくりに取り組む県内自治体職員による報告 (中嶋) **5.** 在宅医療の総合科学:医療と看護と福祉と生活の共同と相克を考察 (樫田) **6.** ※ 6·7 講は 11/12 に結合して開講する (樫田) **7.** 在宅医療のワークショップ:班別の討論 医療経済学や社会学を援用 (樫田) **8.** 在宅医療のワークショップのまとめ:リポート作成に向けた議論 (樫田) **9.** グローバル化と総合科学①(大橋・佐藤) **10.** グローバル化と総合科学②(大橋・佐藤) **11.** グローバル化と地域社会①(大橋・佐藤) **12.** グローバル化と地域社会②(大橋・佐藤) **13.** グローバル化と環境問題①(大橋・佐藤) **14.** グローバル化と環境問題②(大橋・佐藤) **15.** グローバル化と大学の役割 (大橋・佐藤)

【成績評価】 リポート内容及び出席状況で判定

【再試験】 再試は行わない

【教科書】 ⑤~ ⑧を除き教科書は用いない．関連資料を配付する．⑤~ ⑧:『「在宅医療」をささえるすべての人へ』健康と良い友だち社，00

【参考書】 講義時に随時紹介する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220353

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1号館3階中棟(3M15) 相談時間 月曜日13:30-17:00)
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)
⇒ 大橋 (656-7261，ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (3N05，088-656-7657，tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

社会創生学科 地域創生コース 授業概要

● コア科目

地理学の基礎 II …平井/2 年 (前期) 118
情報創生プロジェクト …石田・中島・掛井/2 年 (前期) 118
社会統計学 I …豊田・石田/2 年 (前期) 119
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期) 119
地域政策論 I …北村/2 年 (後期) 119
社会変動論 …樋口/2 年 (前期) 120
福祉情報論 …樫田/2 年 (後期) 120
Web デザイン I …石田・中島・掛井・河原崎/2 年 (前期) 120
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期) 120
環境アート …平木・石井/2 年 (前期) 120
日本言語研究 I …岸江/3 年 (前期) 121

● コース選択科目

地域構造論 …豊田/2 年 (後期) 121
空間情報論 I …田中/2 年 (後期) 121
空間情報論 II …田中/3 年 (前期) 122
地域変容論 …平井/2 年 (後期) 122
地域環境論 …古田・平井/2 年 (前期) 122
地域文化論 II …髙橋/2 年 (後期) 122
地域政策論 II …北村/2 年 (後期) 123
市民活動論 …萩原・樫田/2 年 (前期, 集中) 123
地域経済論 …中嶋/2 年 (前期) 123
日本経済論 …中嶋/3 年 (前期) 123
地域社会論 …矢部/2 年 (前期) 124
比較社会論 …上野/2 年 (後期) 124
社会理論 …堀田・樫田/2 年 (前期, 集中) 124
経営学 I …髙橋・石田/2 年 (前期, 集中) 124
経営学 II …髙橋・石田/3 年 (後期, 集中) 125
社会統計学 II …矢部/2 年 (後期) 125
地域調査法 IA …髙橋/2 年 (前期) 125
地域調査法 IIA …髙橋/2 年 (後期) 125
地域調査法 IB …平井/2 年 (前期) 126
地域調査法 IIB …平井/2 年 (後期) 126
地域調査法 IC …豊田/2 年 (前期) 126
地域調査法 IIC …豊田/2 年 (後期) 127
地域調査法 ID …矢部/2 年 (前期) 127
地域調査法 IID …矢部/2 年 (後期) 127
地域調査法 IE …樫田/2 年 (前期) 128
地域調査法 IIE …樫田/2 年 (後期) 128
地域調査法 IF …樋口/2 年 (前期) 128
地域調査法 IIF …樋口/2 年 (後期) 128
地域調査法 IG …田中/2 年 (前期) 128
地域調査法 IIG …田中/2 年 (後期) 129
地域調査法 IH …北村・中嶋/2 年 (前期) 129
地域調査法 IIH …北村・中嶋/2 年 (後期) 129
地域調査演習 A …髙橋/2 年 (前期) 129
地域調査演習 A …髙橋/2 年 (後期) 130
地域調査演習 B …平井/2 年 (前期) 130
地域調査演習 B …平井/2 年 (後期) 130
地域調査演習 C …豊田/2 年 (前期) 131
地域調査演習 C …豊田/2 年 (後期) 131
地域調査演習 D …矢部/2 年 (前期) 131
地域調査演習 D …矢部/2 年 (後期) 131
地域調査演習 E …樫田/2 年 (前期) 132
地域調査演習 E …樫田/2 年 (後期) 132
地域調査演習 F …樋口/2 年 (前期) 132
地域調査演習 F …樋口/2 年 (後期) 132
地域調査演習 G …田中/2 年 (前期) 133
地域調査演習 G …田中/2 年 (後期) 133
地域調査演習 H …北村・中嶋/2 年 (前期) 133
地域調査演習 H …北村・中嶋/2 年 (後期) 133
地域総合演習 …北村/3 年 (前期) 133
地域総合演習 …北村/3 年 (後期) 134
地域総合演習 …平井/3 年 (前期) 134
地域総合演習 …平井/3 年 (後期) 134
地域総合演習 …髙橋/3 年 (前期) 134
地域総合演習 …髙橋/3 年 (後期) 134
地域総合演習 …豊田/3 年 (前期) 135
地域総合演習 …豊田/3 年 (後期) 135
地域総合演習 …田中/3 年 (前期) 135
地域総合演習 …田中/3 年 (後期) 135
地域総合演習 …上野/3 年 (前期) 136
地域総合演習 …上野/3 年 (後期) 136
地域総合演習 …樫田/3 年 (前期) 136
地域総合演習 …樫田/3 年 (後期) 136
地域総合演習 …矢部/3 年 (前期) 136
地域総合演習 …矢部/3 年 (後期) 137
地域総合演習 …樋口/3 年 (前期) 137
地域総合演習 …樋口/3 年 (後期) 137
地域総合演習 …スタージ/3 年 (前期) 137
地域総合演習 …スタージ/3 年 (後期) 137
地域総合演習 …北村/4 年 (前期) 137
地域総合演習 …北村/4 年 (後期) 137
地域総合演習 …平井/4 年 (前期) 137
地域総合演習 …平井/4 年 (後期) 137
地域総合演習 …髙橋/4 年 (前期) 138
地域総合演習 …髙橋/4 年 (後期) 138
地域総合演習 …豊田/4 年 (前期) 138
地域総合演習 …豊田/4 年 (後期) 138
地域総合演習 …田中/4 年 (前期) 139
地域総合演習 …田中/4 年 (後期) 139
地域総合演習 …上野/4 年 (前期) 139
地域総合演習 …上野/4 年 (後期) 139
地域総合演習 …樫田/4 年 (前期) 140
地域総合演習 …樫田/4 年 (後期) 140
地域総合演習 …矢部/4 年 (前期) 140
地域総合演習 …矢部/4 年 (後期) 140
地域総合演習 …樋口/4 年 (前期) 141
地域総合演習 …樋口/4 年 (後期) 141
地域総合演習 …スタージ/4 年 (前期) 141
地域総合演習 …スタージ/4 年 (後期) 141
憲法 …林・上原/2 年 (後期) 141
民法 I …直井/2 年 (後期) 141

財政学 I …石田/2 年 (前期) 141
行政法 I …上原/2 年 (前期) 141
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期) 142
ミクロ経済学 I …内藤/2 年 (後期) 142
ミクロ経済学 II …眞弓/2 年 (前期, 集中) 142
マクロ経済学 I …趙/2 年 (前期) 142
マクロ経済学 II …趙/2 年 (後期) 142
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期) 143
コミュニティ心理学 …境/2 年 (後期) 143
スポーツ社会学 …佐藤/2 年 (前期) 143
スポーツマネジメント論 …行實/2 年 (前期) 143
比較文化研究 …依岡・ヘルベルト/2 年 (後期) 144
異文化間コミュニケーション …坂田/2 年 (前期, 集中) 144
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 144
環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 145
環境経済学 …眞弓/3 年 (後期) 145
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 145
計画の論理 …近藤/3 年 (前期) 145
都市・交通計画 …山中・近藤/2 年 (前期) 146
環境を考える …上月・山中・藤井・中西/2 年 (前期) 146
地域の防災 …中野・蒋・田村/2 年 (後期) 146
生態系の保全 …鎌田/2 年 (後期) 146
情報創生演習 …石田・中島・掛井/3 年 (後期) 147
芸術創生基礎演習 …平木/3 年 (後期) 147
Web デザイン II …河原崎/3 年 (前期) 147
情報総合プログラミング I …石田/2 年 (後期) 147
情報総合プログラミング II …石田/3 年 (前期) 148
言語情報処理研究 I …中島/2 年 (後期) 148
言語情報処理研究 II …中島/3 年 (前期) 148
映像情報プログラミング I …掛井/2 年 (後期) 148
映像情報プログラミング II …掛井/3 年 (前期) 148
メディア情報論 …河原崎/2 年 (後期) 149
映像デザイン …石井/2 年 (前期) 149
アート表現基礎 …平木/2 年 (後期) 149
工芸表現と技法 …平木/2 年 (後期) 149
彫刻研究 …上月・平木/2 年 (前期) 150
美術概論 …江川・平木/2 年 (後期) 150
英米言語研究 I …井上・山田/2 年 (前期, 集中) 150
英米言語研究 II …元木・山田/3 年 (前期) 150
英米言語研究 III …山田/2 年 (前期) 150
英米言語研究 IV …森岡/2 年 (後期) 151
日本言語研究 II …仙波/3 年 (後期) 151
日本言語概説 I …岸江/2 年 (前期) 151
日本言語概説 II …仙波/2 年 (後期) 151
日本言語演習 …岸江/3 年 (前期), 4 年 (前期) 152
日本言語演習 …岸江/3 年 (後期), 4 年 (後期) 152
日本言語演習 …仙波/3 年 (前期), 4 年 (前期) 152
日本言語演習 …仙波/3 年 (後期), 4 年 (後期) 152
プログラミング演習 II …宇野/3 年 (前期) 153
制御概論 …村上/3 年 (前期) 153
数値計算法 …鍋島/3 年 (前期) 153
データベース基礎論 …蓮沼/3 年 (後期) 153
最適化論 …大橋/3 年 (後期) 154
コンピュータグラフィックス基礎論 …中山/3 年 (後期) 154
情報と職業 …吉田/2 年 (後期) 154
経済法 II …泉・上原/2 年 (後期, 集中) 154
商法 II …清水/2 年 (後期) 155

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 155
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 155
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期) 155
世界経済論 I …水島/3 年 (前期) 156
運動文化論 …中村/2 年 (前期) 156
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 156
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期) 156
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期) 156
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期) 157
共生社会論 …樫田/3 年 (後期) 157
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期) 157
情報の数理 …中山/3 年 (前期) 158
現象の数理 …小野/3 年 (後期) 158
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期) 158
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期) 159
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 159
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 159
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 159
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) 160

地理学の基礎 II

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】伝統的生活空間である村落の成立は，土地開発の歴史と深く関連している．この授業では，日本および欧米等における土地開発の進展と村落の立地・特徴について代表的な事例を取り上げ，歴史地理学的・集落地理学的な視点から総観するものである．また，こうした事例を通じて，人間と自然との関わりや，東西文化の共通点や相違点についても論じていくことにしたい．

【授業概要】日本および欧米の村落

【キーワード】地理学，地誌学，村落

【関連科目】『地域変容論』(0.5, ⇒122 頁)

【履修上の注意】この授業科目は，教員免許取得 (中学校・社会/高校・地歴) のための科目でもある．本授業では随時，パワーポイントなどを使用するが，ノートの取り方は各自が工夫すること．

【到達目標】日本および欧米地域の村落・農村空間の成立過程について，時間的・空間的な展開の中で理解するとともに，地域的な差異の特徴について把握できるようになること．

【授業計画】1. 村落の定義 **2.** 村落の立地環境 **3.** 村落の形態 **4.** 古代日本の土地開発と条里制 **5.** 古代日本の集落形態 **6.** 中世起源の環濠集落と豪族屋敷村 **7.** 散村地域の形成と展開 **8.** 近世日本の新田開発 **9.** 北海道の開発と殖民地区画 **10.** 古代中国 ローマにおける方格地割 **11.** ヨーロッパにおける集落形態 **12.** 耕区制と三圃式農業 **13.** 中世大開墾時代の開拓村 **14.** 囲い込み運動と散居農場 **15.** 北米フロンティアのタウンシップと散居 **16.** 授業のまとめ

【成績評価】本授業は講義形式で行うが，授業中に数回行う小テストや課題，授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と，期末試験 (持ち込み不可) 結果による評価を併用して行う．

【再試験】再試験はない．

【教科書】とくに教科書は使用せず，必要な資料は随時配布する．中学校もしくは高校で使用した地図帳を準備しておくとよい．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218871

【連絡先】
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 23 年度開講．隔年開講のため，平成 24 年度は開講しない．

情報創生プロジェクト

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科，中島 浩二・准教授/社会創生学科
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】モバイルインターネット社会で必要不可欠な道具となりつつあるスマートフォンとはどのようなものであるのかを理解し，スマートフォンの特性を活かしたアプリを開発する．

【授業概要】講義および実習により授業を進める．

【キーワード】スマートフォン，モバイル，プログラミング，ユビキタス

【先行科目】『情報処理の基礎 II』(0.3, ⇒14 頁)

【関連科目】『映像情報プログラミング I』(0.3, ⇒148 頁)，『情報総合プログラミング I』(0.3, ⇒147 頁)，『言語情報処理研究 I』(0.3, ⇒148 頁)

【履修上の注意】この授業では iPhone(または iPod touch) および米 Apple 社のパソコンを使用するが，これらの機器は教員側で準備するので学生はこれらの機器を個人所有していなくともこの授業の受講は可能である．

【到達目標】ニーズを分析し，スマートフォンの特性を活かしたアプリが開発できるようになる．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** スマートフォンの現状 **3.** iPhone アプリ開発の流れ **4.** インターフェイスのデザイン **5.** オブジェクトとクラス **6.** 変数とメソッド **7.** クラスの実装 **8.** プロパティ **9.** フレームワーク **10.** タイマー機能を利用したアプリの開発 1 **11.** タイマー機能を利用したアプリの開発 1 **12.** 加速度センサーを利用したアプリの開発 1 **13.** 加速度センサーを利用したアプリの開発 2 **14.** 自由課題アプリの作成 1 **15.** 自由課題アプリの作成 2 **16.** 自由課題アプリのプレゼンテーションおよび講評

【成績評価】課題および授業貢献により評価

【再試験】実施せず

【教科書】なし

【参考書】授業時間中に適宜指示

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218714

【連絡先】
- ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
- ⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 5·6 時限)

【備考】て st

社会統計学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科，石田 基広 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】統計データを用いた分析は人文社会科学の重要な論証手段であるだけでなく，あらゆる調査研究に不可欠のツールである．本授業では，統計分析の基礎的な理論と手法を実習形式で学ぶ．授業の目標は以下の 3 点からなる．①基本的な統計学の理論を理解する．②実践的な分析の技能を習得する．③複雑な社会的現象を探求する科学的態度を学ぶ．

【授業概要】統計分析の理論と応用

【キーワード】統計学，情報処理，社会調査

【先行科目】『情報処理の基礎 I』(1.0, ⇒14 頁)，『文系数学の基礎』(0.5, ⇒93 頁)

【履修上の注意】受講者は前提として Windows 操作の基礎知識をすでに獲得していること，学部共通科目「情報処理の基礎 I」を履修済みであることが求められる．授業は講義と実習を組み合わせておこない，各回の内容に応じた課題を課す．なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある．

【到達目標】人文社会科学の実証研究に必要な統計学の基礎理論を学び，データ分析の実践的手法を習得する．

【授業計画】**1.** さまざまな統計データ: 全数調査と抽出調査，統計の種類と利用 **2.** 基本統計量 (1) : 量的データと質的データ **3.** 基本統計量 (2): 代表値，散布度，集中度 **4.** 相関係数: 2 変数間の関係，疑似相関，媒介関係，外れ値 **5.** 回帰分析 (1) : 予測モデル，最小二乗法 **6.** 回帰分析 (2) : 非線形性，多重共線性，誤差項の目自己相関 **7.** カテゴリカルデータ (1) : 分割表と連関測度 **8.** カテゴリカルデータ (2) : 独立性に関するカイ二乗検定 **9.** 確率論の基本: 順列・組み合わせ，期待値 **10.** 確率変数と分布: 二項分布と正規分布 **11.** 母集団と標本: 抽出法の理論 **12.** 統計的推定 (1) : 最尤法の基本 **13.** 統計的推定 (2): 点推定と区間推定 **14.** 統計的検定 (1) : 考え方と手順，両側検定と片側検定 **15.** 統計的検定 (2) : 母平均と差の検定 **16.** 授業のまとめ

【成績評価】授業への取り組みと課題の評価による．

【再試験】おこなわない

【教科書】上藤一郎他『調査と分析のための統計』 2006 年 丸善

【参考書】授業時間中に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218701

【連絡先】
- ⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)
- ⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域文化論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一 · 教授 (併任) / 社会創生学科

【授業目的】文化人類学の中心的なテーマについて講義する．世界の諸民族の事例を通して，人間の文化 · 社会の多様性と普遍性について考察し，異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である．グローバリゼーションの中での現代文化 · 社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい．

【授業概要】文化人類学の基本問題

【キーワード】文化，現代社会，グローバリゼーション

【関連科目】『地域文化論 II』(0.5, ⇒122 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．フィールドワークを「疑似体験」しながら，文化現象の意味について考えてもらいたい． なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】人間の文化 · 社会の多様性 · 普遍性について理解し，異文化 (自文化) の構造や意味を客観的 · 相対的にとらえることができる．

【授業計画】**1.** 文化人類学のパースペクティヴ **2.** 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ **3.** 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 **4.** 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 **5.** 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ **6.** 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム **7.** ジェンダーの人類学-男になる · 女になるということ **8.** 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって **9.** メディア · 映像の人類学-文化の実像と虚像 **10.** グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム **11.** 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 **12.** ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より **13.** 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック · アイデンティティ **14.** 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか **15.** 「転換期」の時代の文化人類学 **16.** まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】
- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる．個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂，2005 年
- ◇ 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店，2003 年
- ◇ 山下晋司 · 船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣，2008 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218849

【連絡先】
- ⇒ 髙橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~ 13時)

【備考】本年度開講 (隔年開講)

地域政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域の開発，特に地域経済，地域環境や地域システムに新しい方向性を出すに必要な知識や考え方を提供するものである．地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策の重要性や意義を理解させる．

【授業概要】国際化のなかで，地域経済や地域システムを把握し考察して行くことの意味と重要性を明らかにする．それを理解した上で，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察させる．

【キーワード】地域経済，地域環境，地域システム，地域開発，地域づくり

【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムへの理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて理解し考察できる能力を培う．

【授業計画】**1.** ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う再編成 **3.** 地域経済の再編成 **4.** 地域システムの再編成 **5.** 環境問題の変容と新たな状況 **6.** 環境問題と循環社会をめぐる課題 **7.** 環境と地域経済をめぐる状況 **8.** 新たな社会とそれへの対応 **9.** 環境問題への新たな対応 **10.** 地方自治体と企業の環境問題への取り組み **11.** 地域開発をめぐる問題 **12.** 地域の再生とまちづくり **13.** 環境の再生と地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ 1 **16.** まとめ 2

【成績評価】 講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40 %)，もしくはレポートにより評価する．

【再試験】 なし

【教科書】 北村修二『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218814

【連絡先】
⇒ 北村 .

【備考】 隔年開講のため，平成 23 年度 (地域政策論 II を開講) は開講されない．国際社会での地域的諸問題や環境問題に関心があり，それらの課題を勉強する意志がありそれを実行できる人は参加できる．オフィスアワー 随時．研究室

社会変動論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】 数十年単位の社会の変化を巨視的に捉えるのが，社会変動論の特徴である．本講義では，そのうち現代社会の特質を把握するためのさまざまな議論を，個別領域毎に解説していきたい．今年度は，今後わたしたちが生きていく 21 世紀の特質を，過去との比較という観点からみていきたい．受講者には，自分たちが現在生活している現代社会を自分なりに理解する機会としてほしい．理解を助けるための映画を 1 回鑑賞するほか，受講生が過度に多くなければグループ・ディスカッションもしてもらう．

【授業概要】 21 世紀はどういう社会なのか

【履修上の注意】 この講義では，社会学の基本的な概念の解説も盛り込んでおり，社会学入門的な性格も持たせてある．ただし，知識そのものを覚えてもらうことは重視しない．社会学的な思考法を学んでもらうこと，現代社会の課題や問題を自分のこととしてとらえ，自分なりの意見を持ってもらうことを重視する．そのため，毎回課題について簡単なコメントを書いてもらい，評価に加える．

【到達目標】 自分で選択したテーマについて，文献を読んでデータを集め，レポートを書けるようにする (詳細は後述).

【授業計画】 **1.** 1. イントロダクション **2.** 2. 情報化とネットワーク社会の誕生 **3.** (1) 情報社会と都市の盛衰 **4.** (2) 情報技術と社会関係の変容 **5.** 3. 個人化する社会 **6.** (1) 個人化する家族——社会の個人化とは何か **7.** (2) 新宗教と社会変動 **8.** 4. 身体をめぐる政治 **9.** (1) 身体は誰のものか?——中絶をめぐる政治 **10.** (2) 生殖技術と身体への介入 **11.** (3) 生殖技術に関わる映画鑑賞 **12.** (4) 生殖技術をめぐるグループ・ディスカッション **13.** 5. リスク社会としての現代 **14.** (1) リスク社会の誕生 **15.** (2) リスクの何が問題なのか **16.** 6. 福祉国家と労働市場の再編 **17.** (1) 誰が福祉を担うのか? **18.** (2) 正社員からフリーターへ?

【成績評価】 成績評価はレポートと出席点による．6 月に提出してもらうレポートの原案にコメントをつけて返却する．受講者は，それをもとにレポートを完成させて 8 月に提出する．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートの計画書が 10 点，レポートが 50 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．

【再試験】 レポート計画書を提出している者に対して認める

【教科書】 特定の教科書は使わない．毎回レジュメを配布する．関連する文献リストを初回に配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．

【参考書】
◇ 参考書 落合恵美子『21 世紀家族へ』有斐閣
◇ 参考書 ウルリヒ・ベック『危険社会』法政大学出版局
◇ 参考書 長谷川公一他『社会学』有斐閣

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218703

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

【備考】 平成 24 年度開講

福祉情報論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218969

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

Web デザイン I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科，中島 浩二・准教授/社会創生学科
掛井 秀一・准教授/社会創生学科，河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】 Web2.0 の概念を学び，Web2.0 に相応しいインタラクティブな Web サイトを構築するために必要な Script 言語を習得する．

【授業概要】 始めにサーバーと Web アプリケーションの仕組みを学ぶ．JavaScript や PHP などの Script 言語の基礎を学び，実際にサーバーに設置して動作確認する．さらに PHP を通してデータベースにアクセスする技法の基礎を学ぶ．最後に現在の Web デザインの主流である Flash を体験する．

【キーワード】 ***ウェブ 2.0*，情報リテラシー，デザイン，プログラミング，コンテンツ**

【先行科目】 『情報処理の基礎 II』(0.3, ⇒14 頁)

【到達目標】 Web2.0 によるインタラクティブなサイト構築に必要な知識と技術を習得する．

【授業計画】 **1.** Web サーバーについて **2.** html 言語について **3.** 実習 1 Web ページの作成 **4.** Script とは何か **5.** Script 言語の基礎 **6.** データベースの基礎とネットを介したアクセス方法 **7.** 実習 2 インタラクティブな Web サイトの構築 **8.** Flash とは何か **9.** Flash と Web アプリケーション **10.** Flash 作成方法 **11.** Web デザインを総合的に考える **12.** Web サイトのインターフェイスデザイン **13.** Web サイトのナビゲーション方法 **14.** 実習 3 個人 Web サイトの構築 **15.** 作成 Web サイトの講評 1 **16.** 作成 Web サイトの講評 2

【成績評価】 課題の評価 (25 点 ×3)，出席点 25 点の 100 点満点で評価する

【再試験】 実施せず

【教科書】 なし

【参考書】 授業時間中に適宜指示．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218364

【連絡先】
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 5·6 時限)
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報社会と情報倫理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
吉田 敦也・教授/社会創生学科

【授業目的】 情報化社会，知的所有権とプライバシー，情報危機管理

【授業概要】 この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する．受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し，収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり，情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める．

【キーワード】 **情報リテラシー**

【到達目標】 現代社会における人，企業，物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める．

【授業計画】 **1.** 1. 情報化社会の到来 1.1 「情報」とは何か，1.2 コンピュータが動作する仕組み **2.** 1.3 ネットワークによる通信の仕組み，1.4 [情報の価値] と [情報量]，[情報伝達] **3.** 1.5 情報化社会の到来，1.6 社会の情報化の進展と，文化・人間性の変化，レポート 1 **4.** 2. 知的所有権と プライバシー 2.1 著作権 **5.** 2.2 そのほかの知的所有権，2.3 プライバシー，レポート 2 **6.** 3. 情報倫理 3.1 情報倫理はどうして「倫理」なのか，3.2 情報化社会における原則 **7.** 3.3 情報倫理に必要な知識，3.4 情報ネットワークを利用するときの判断のあり方，レポート 3 **8.** 4. 情報危機管理 4.1 情報危機管理がなぜ必要か，4.2 現実のシステム運用上の事件と，その原因と対策 **9.** 4.3 運用ポリシーと利用者の価値観 **10.** 4.4 運用規約と管理組織，レポート 4 **11.** 4.5 不正アクセスとセキュリティ **12.** 5. ケーススタディ **13.** 5.1 発表と評価 1 **14.** 5.2 発表と評価 2 **15.** 5.3 発表と評価 3 **16.** まとめ

【成績評価】 レポートとケーススタディの研究発表で総合的に評価する．

【教科書】 教科書:辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220349

【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 24時間(yos@ias.tokushima-u.ac.jp))

環境アート
Environmental Art

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
平木 美鶴・教授/社会創生学科
石井 健二・教授/社会創生学科

【授業目的】 空間を使い環境や地域活性化を意識した作品を作る．

【授業概要】 現代の美術は，平面に描く事だけではなく外に向う方向性もある．様々な表現の一つとして環境アートを試みる．今回は，4 月に開催される徳島 LED アートフェスティバルの作品制作，設置，管理等の活動に参加する．

【キーワード】**美術，環境，地域貢献**

【先行科目】『アート表現基礎』(1.0, ⇒149 頁)

【履修上の注意】4 月に開催される徳島 LED アートフェスティバルの作品制作に参加するため集中講義となる．作品制作や期間中のボランティア活動及び企画や展示作品を鑑賞体験してもらう．

【到達目標】アートを地域活性化活動に組み入れる事ができる．

【授業計画】**1.** 環境アートについて **2.** 徳島 LED アートフェスティバル出品作品の紹介 **3.** 徳島 LED アートフェスティバル出品作品制作 1 **4.** 徳島 LED アートフェスティバル出品品制作 2 **5.** 徳島 LED アートフェスティバル出品作品制作 3 **6.** 徳島 LED アートフェスティバル出品作品制作 4 **7.** 徳島 LED アートフェスティバル入出品作品制作 5 **8.** 徳島 LED アートフェスティバル出品作品制作 6 **9.** 徳島 LED アートフェスティバル出品作品制作 7 **10.** 徳島 LED アートフェスティバル出品作品制作 8 **11.** 徳島 LED アートフェスティバル期間中の活動 1 **12.** 徳島 LED アートフェスティバル期間中の活動 2 **13.** 徳島 LED アートフェスティバル期間中の活動 3 **14.** 徳島 LED アートフェスティバル期間中の作品鑑賞 1 **15.** 徳島 LED アートフェスティバル期間中の作品鑑賞 2 **16.** まとめ

【成績評価】徳島 LED アートフェスティバル作品制作や期間中のボランティア及び企画や展示作品を鑑賞体験した結果のレポート提出を課す．評価は普段の活動への関わり方とレポート点で判断する．

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218485

【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜昼休み)

日本言語研究 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
岸江 信介 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業では，日本語学概論の音声 · 音韻・アクセントについての講義をする．音声学に関する基礎的な知識を身につけること，日本語学各分野への興味づけを行うことを目的にする．音声を科学的に追究するという姿勢を学び，音声学の研究成果を概説的に学習する．科学的視点での，ものの見方，とらえ方などを音声科学の諸事例を参照 · 検討することによって深めてみたい．なお，全国諸方言の音声・アクセント調査をフィールドワークとして実施し，各自が資料収集にあたり，分析を行う．

【授業概要】国語学 · 日本語学 · 日本語教育等で基礎となる学習を行うが，ここでは主に日本語の音声 · アクセントなどを幅広く取り上げ，概説的な授業のあと，音声・アクセントの資料を集め，分析を行う．

【到達目標】日本語を科学的な視野からとらえ，日本語学の基礎を理解する．

【授業計画】**1.** 音声研究入門 **2.** 音声とは? **3.** 聴音音声学と音響音声学 **4.** 音声器官と発声の仕組み **5.** 母音と子音 **6.** 拍と音節 **7.** 日本語のポーズとイントネーション **8.** 日本語のアクセント **9.** 音声の対照研究 **10.** 日本語の方言音声 1 **11.** 日本語の方言音声 2 **12.** 日本語音声の音響分析 -母音編- **13.** 日本語音声の音響分析-子音編- **14.** 全国諸方言音声・アクセント世代調査票の説明 **15.** 全国諸方言音声・アクセント世代調査の実施 **16.** 総括授業

【成績評価】評価は，レポート，小テスト，音声調査の参加を目安とする．

【再試験】無

【教科書】
◇ 教科書:特に指定しない
◇ 教 材:授業でプリントを配布することがある．
◇ 参考書:各分野で必要な論文 · 図書を紹介する．

【参考書】今石元久編『音声研究入門』和泉書院

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220375

【連絡先】
⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域構造論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】都市地理学の基本問題を扱う．「都市論」は，建築学，社会学，歴史学，芸術等の幅広い分野において，かつてない大きな関心を集めるようになった．こうした思潮に先んじて，地理学では都市研究に多くの蓄積を重ねてきた．都市地理学と呼ばれる学問分野は，空間的側面から都市の機能や形態に注目し，これを系統立てて理解しようとする．本講義では都市をシステム論的な視点から把握し，都市と都市との関係 (inter-urban system) と，都市内部における地域と地域の関係 (intra-urban system) の二つの空間スケールから，都市形成のメカニズムを広く考察する．また，日本や世界の事例を数多く取り上げ，現代の都市が直面する課題について空間的視点から検討をおこなう．

【授業概要】都市地理学の基本問題

【キーワード】**地理学，地域科学，都市システム，空間構造，地域問題**

【関連科目】『地理学の基礎 I』(0.5, ⇒93 頁), 『都市 · 交通計画』(0.5, ⇒146 頁), 『地域社会論』(0.5, ⇒124 頁)

【履修上の注意】都市をキーワードとして各回の話題は歴史学，社会学，経済学，建築学，心理学へと広がる．授業中はノートをきちんと取って復習に役立ててほしい．この授業は教員免許取得 (中学校 · 社会，高校 · 地歴) のための「教科に関する科目」にあたる．なお，「地域構造論」(平成 23 年度開講予定) と「地理学の基礎 I」(平成 24 年度開講) とは，隔年で交互に開講される．

【到達目標】都市地理学が扱う幅広いテーマについて学説史をふまえた基礎的知識を学び，複雑な現象の背後にはたらく諸要因を理論的に検討する能力を身につけることを到達目標とする．

【授業計画】**1.** 都市地理学の分析視角 **2.** 都市の成立と歴史的展開 **3.** 経済発展と中心-周辺モデル **4.** 都市の順位・規模モデル **5.** 都市の機能と類型区分 **6.** 都市成長と経済基盤モデル **7.** 中心地理論と都市システム **8.** 中間テスト **9.** 都市の内部構造理論 **10.** 都市の地価形成と土地利用 **11.** 都市空間の知覚とメンタルマップ **12.** 都市圏の構造変化 **13.** 都市構造と社会階層の分極化 **14.** 経済のグローバル化と世界都市 **15.** 期末テスト **16.** 授業の総括

【成績評価】期間中 2 回に分けて実施する試験の成績 (80%) に，授業への取り組み (20%) を総合的に加味する．

【再試験】なし．

【教科書】
◇ 高橋伸夫・菅野峰明・村山祐司・伊藤悟 『新しい都市地理学』 東洋書林
◇ 富田和暁・藤井正編『新版・図説大都市圏』古今書院

【参考書】参考文献は授業でそのつど紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218779

【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 13:00)

【備考】隔年開講のため，平成 24 年度は開講しない．

空間情報論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
田中 耕市 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】GIS(地理情報システム) とは，デジタル化された地図画像にデータベース機能を結びつけた新しいテクノロジーで，地図や空間情報を扱うあらゆる学問分野で様々な展開を示している．また，行政機関や企業など実務面でも急速に普及し，いまや GIS 産業として巨大な市場を形成しつつある．それにともなって，専門的な知識や技術を身につけた人材の育成に対する社会的な要請が高まっている．本講義では，GIS の基本的機能とどのような応用可能性があるのかを学び，実習もまじえながら基本操作を修得してもらう．

【授業概要】GIS の基礎理論

【キーワード】**空間情報，*GIS*，地域分析，地域調査**

【先行科目】『社会統計学 I』(1.0, ⇒119 頁)

【履修上の注意】Excel 等の表計算ソフトの基本操作を習得していることを前提とする．前期の「社会統計学 I」を履修しておくこと．使用できる端末の台数などにより，受講者数の制限を行うことがある．

【到達目標】空間情報科学とそれを支える GIS についての概念や構造を理解して，基本的な操作技術を習得する．

【授業計画】**1.** 空間情報科学とは?GIS とは? **2.** GIS の機能と利用事例 **3.** GIS のデータ構造 **4.** 主題図作成と HumanGIS? **5.** GIS に触ってみよう! **6.** GIS で主題図作成 **7.** 属性テーブルの操作法 **8.** 空間検索と属性検索 **9.** レイアウトの編集 **10.** 基本のジオプロセシング **11.** ジオプロセシングを用いた地域分析 **12.** ラスタデータを用いた空間解析 **13.** ネットワーク解析 **14.** 3D 地形分析 **15.** 3D バーチャル景観の作成 **16.** テスト

【成績評価】出席および授業への取組 (40%)，数回のレポートおよびテスト (60%)，単位の取得には，課題レポートの提出が必須であるので，注意すること．

【再試験】なし

【教科書】
◇ 教科書:高橋重雄他『事例で学ぶ GIS と地域分析-ArcGIS を用いて』
◇ 参考書:矢野桂司『地理情報システムの世界』ニュートンプレス，1999 年
◇ 参考書:野上道男他『地理情報学入門』東京大学出版会，2001 年

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/sis/index.htm

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218543

【連絡先】
⇒ 田中 . (オフィスアワー: 木曜日 12時から13時．ただし，出張等で不在にすることがあるため，できる限りメールでの事前連絡をすること．メール連絡があれば，上記時間以外でも随時対応可能．)

空間情報論 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 耕市 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 生活環境評価やエリアマーケティング，ハザードマップの作成など幅広い分野で GIS が活用されている．それに伴って，GIS を援用した空間解析の知識や技術の習得者の需要は，社会的にも高まっている．実務的に GIS を利用する場合，解析ツールや手法などの理論的枠組のみならず，データの収集 · 変換などの作業が必要不可欠となる．本講義では，空間データや統計資料の入手から，それらを用いた分析，そしてその分析結果のプレゼンテーションまで，一通りの作業を実習する．その過程で，空間情報科学 I で習得した基本技術をもとに，より高度な空間分析手法を学ぶ．

【授業概要】 GIS を援用した空間解析の実習

【キーワード】地理情報システム，地図，空間構造

【先行科目】『空間情報論 I』(1.0, ⇒121 頁)

【履修上の注意】 実際に GIS を操作しながら授業を進行する．空間情報科学 I の単位を取得済みであること．使用できる端末の台数などにより，受講者数の制限を行うことがある．

【到達目標】 空間分析の計画から，データの収集，GIS を援用した空間解析，結果の発表までを自ら実行できること．

【授業計画】 **1.** GIS データファイルの構造 **2.** 測地系と座標系 **3.** 空間データと統計資料の入手法 **4.** 空間データの形式と変換 **5.** メッシュデータの活用法 **6.** 国土数値情報を活用した地価分析 1:xy データの利用 **7.** 国土数値情報を活用した地価分析 2:ラスタ解析 **8.** 案内図の作成 **9.** 地形と農業土地利用の関連分析 1:DEM データの活用 **10.** 地形と農業土地利用の関連分析 2:オーバーレイ解析 **11.** プレゼンテーショ **12.** 商圏分析 1:ネットワーク構築 **13.** 商圏分析 2:ネットワーク解析 **14.** アドレスマッチングの活用法 **15.** テスト **16.** 授業総括

【成績評価】 出席および授業への取組 (40%)，実習課題およびレポート (60%)，原則として，単位取得には実習課題およびレポートの全提出が必須である．

【再試験】 なし

【教科書】 高橋重雄他『事例で学ぶ GIS と地域分析-ArcGIS を用いて』

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220251

【連絡先】
⇒ 田中 .
⇒ 木曜日 12時から13時．ただし，出張等で不在にすることがあるため，できる限りメールでの事前連絡をすること．メール連絡があれば，上記時間以外でも随時対応可能．

【備考】 この授業は，GIS 学術士資格の認定科目【C】である．

地域変容論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 「人」の移動は「文化」の移動でもあり，移植された社会組織や文化は新たな環境に適合する場合もあれば，大きく変質したり，消滅したりもする．そこで本授業では，おもに 18-19 世紀にヨーロッパから北アメリカに渡った農業移民をとりあげ，地理学的な視点から，フロンティア地域への移住 · 入植過程や開拓プロセスについて解説し，移民社会や移民文化の変容過程を考察することにしたい．

【授業概要】 北米フロンティア:農業移民の移住と定着

【キーワード】地理学，歴史地理学，フロンティア，移民，開拓村落

【関連科目】『地理学の基礎 II』(0.5, ⇒118 頁)

【到達目標】 フロンティアへの人口移動を通じて，地域形成・地域変化のメカニズムを理解する地理学的な能力を身に付ける．

【授業計画】 **1.** フロンティア地域の特性 **2.** 北米フロンティアの西漸運動 **3.** フロンティアの歴史的意味 **4.** イギリス系植民者の入植地 **5.** フランス系植民者の入植地 **6.** スペイン系植民者の入植地 **7.** 初期開拓地における入植形態 **8.** 中西部の開発とタウンシップ **9.** タウンシップの土地区画 **10.** ソッドハウスと丸木小屋 **11.** 商業的穀物農業地帯の形成 **12.** 北米移民の出身地域 **13.** ヨーロッパの「周辺化」地域と移民の送出 **14.** 移住者の社会的特徴 **15.** 大量移住の形成 **16.** 授業のまとめ

【成績評価】 本授業は講義形式で行うが，授業中に数回行う小テストや課題，出席状況，質疑応答といった授業への取り組み姿勢などにもとづく平常点での評価と，期末試験 (持ち込み不可) 結果による評価を併用して行う．

【再試験】 なし

【教科書】
- 教科書は使用しないが，受講にあたっては下記の文献などにもあたっておくこと．
- R.A. ビリントン著/渡辺真治/訳『フロンティアの遺産』研究社出版，1971 年
- 渡辺真治『フロンティア』近藤出版社，1975 年
- 岡田泰男『フロンティアと開拓者-アメリカ西漸運動の研究-』東大出版会，1994 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218851

【連絡先】
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館南棟1階 火· 金曜日 12:00-13:00)

【備考】 本年度は開講しない．平成 24 年度開講予定．

地域環境論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
古田 昇 · 非常勤講師 / 総合科学部，平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 吉野川流域の豊かで多様な自然環境と人々との関わりを，他地域と比較しながら考えるとともに，自然災害の履歴や減災に向けたプランの検討を行う．

【授業概要】 「吉野川流域の地形環境と自然災害」 河川がつくる地形・地形形成過程をもとに地形環境の多様性を述べる．

【キーワード】地理学，河川環境，災害，吉野川

【履修上の注意】 この授業科目は，教員免許取得 (中学校 · 社会/高校 · 地歴) のための科目でもある．平成 22 年度は開講するが，平成 23 年度は開講しない可能性もあるため，受講に際しては注意を要す．

【到達目標】 地形環境とその歴史的変化を理解し，将来の生活へ活かす．

【授業計画】 **1.** 授業にあたってのガイダンス **2.** 吉野川を知っていますか? **3.** 四国，吉野川の地理的概要 **4.** 河川がつくる地形，河川により変化する地形 **5.** 吉野川中・上流部の山地と河川 **6.** 中・上流域の自然環境を活かした生活 **7.** 吉野川下流部の地形環境 **8.** 吉野川下流部における自然堤防の発達 **9.** 吉野川下流域における沖積平野の形成 **10.** 河川と海洋との接点 **11.** 自然災害はなぜなくならないのか **12.** 被災のレベルに地域差が生まれるのは? **13.** 木も大切，森もなお大切 **14.** 見えるもの，みえないもの **15.** レポート・試験 **16.** 授業のまとめ

【成績評価】 講義内での小レポート，筆記試験，履修状況

【再試験】 無

【教科書】 教科書は使用しないが，必要に応じてプリントを配布する．参考図書については，随時紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218776

【連絡先】
⇒ 古田 . (オフィスアワー: 授業の前後の時間)
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 平成 23 年度は開講しない可能性あるので，注意のこと．

地域文化論 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
髙橋 晋一 · 教授 (併任) / 社会創生学科

【授業目的】 日本民俗学の主な研究目的は，各地に見られる民俗 (一般の人々が日常生活の中で育み，伝承してきた生活文化やそれを支える思考様式) の持つ意味を明らかにし，さらにそれらの比較検討を通して，日本の基層文化を究明することにある．このような過去遡及的=歴史学的側面を持つ一方で，日本民俗学は，民俗の変化とその要因の解明，あるいは現代社会の中で新たに生成する民俗の構造と意味の分析といった現代学的側面も有している．本授業では，こうした日本民俗学の基本概念について概説する．

【授業概要】 日本民俗学の基本問題

【キーワード】民俗，日本文化

【関連科目】『地域文化論 I』(0.5, ⇒119 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】 日本民俗学の基本的な概念を理解し，過去の，あるいは現代の日本社会における民俗文化の意味について深い考察を加えることができる．

【授業計画】 **1.** 民俗学の考え方 (民俗学の研究対象 · 目的 · 方法) **2.** 社会の民俗 (イエとムラの民俗) **3.** 環境の民俗 (景観 · 地形と民俗) **4.** 生業の民俗 (海 · 山 · 里の生業と民俗) **5.** 時間の民俗 (年中行事と民俗) **6.** 生と死の民俗 (出産 · 葬儀の民俗) **7.** 神と霊魂の民俗 (祖先祭祀，他界観と民俗) **8.** 境界と怪異の民俗 (異人=鬼 · 河童 · 天狗 · 狸の民俗) **9.** 性と民俗 (女性の民俗，男性の民俗) **10.** 語りの民俗 (昔話 · 伝説 · 世間話の民俗) **11.** 都市の民俗 (生成 · 変容する都市民俗)(1) **12.** 都市の民俗 (生成 · 変容する都市民俗)(2) **13.** 観光と民俗 (民俗の「発見」と「活用」) **14.** 比較民俗学への道 (環東シナ海文化圏の民俗) **15.** 民俗研究の課題と展望 (現代社会と民俗，民俗学の現代的意義) **16.** まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】 行わない．

【教科書】 教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】

◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げるが，個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
◇ 佐野賢治他『現代民俗学入門』吉川弘文館，1996 年
◇ 松崎憲三他編『民俗学の冒険』1~ 4，ちくま新書，1999 年
◇ 赤田光男他編『講座日本の民俗学』1~ 10 巻，雄山閣，1998-2000 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218850

【連絡先】
⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~ 13時)

【備考】本年度開講せず (隔年開講．次回は平成 24 年度開講予定)

地域政策論 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域の開発に新しい方向性を出すのに必要な知識や考え方を提供するとともに，地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策を考察・解明させようとするものである．

【授業概要】国際化のなかでの地域経済や地域システムを把握するとともに，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察・解明させる．

【キーワード】**地域経済，地域環境，地域システム，新たな地域開発や地域づくり**

【先行科目】『地域政策論 I』(1.0，⇒119 頁)

【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムついての理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて考察・解明できる能力を培う．

【授業計画】**1.** ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う地域経済の再編成 **3.** 地域構造・地域システムの再編成 **4.** 地域環境問題の変容と新たな状況 **5.** 地域環境問題と循環社会をめぐる課題 **6.** 新たな社会と地域システム **7.** 新たな社会と環境問題 **8.** 新たな社会と地域循環型システム **9.** 地方自治体と地域環境問題 **10.** わが国における新たな地域開発・地域づくり (1) **11.** わが国における新たな地域開発・地域づくり (2) **12.** 四国における新たなまちづくり・地域づくり **13.** 徳島県における新たなまちづくり・地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ (1) **16.** まとめ (2)

【成績評価】 講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40%))，もしくはレポートにより評価する．

【再試験】なし

【教科書】教科書は最初の授業で紹介するので入手すること．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218815

【連絡先】
⇒ 北村 .

【備考】隔年開講のため，平成 24 年度 (地域政策論 I を開講) は開講されない．

市民活動論

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
萩原 なつ子 · 教授，樫田 美雄 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】日本における市民活動の歴史，特定非営利活動促進法 (NPO 法) の施行の背景，NPO の社会的役割について理解を深める．

【授業概要】NPO 法人数が 4 万を超え，地域社会の課題の解決に果たす NPO の役割が大きくなっている．ここでは NPO についての基礎知識および新しい公共の視点から，NPO と行政，企業との協働等について，具体的事例を通して学ぶ．

【キーワード】***NPO/NGO*，特定非営利活動促進法，協働，新しい公共**

【履修上の注意】とくになし．

【到達目標】NPO の基礎知識およびこれに関連する概念と実際を理解する

【授業計画】**1.** 1 イントロダクション **2.** 日本における市民活動の歴史 **3.** NPO の基礎知識 (1) **4.** NPO の基礎知識 (2) **5.** 特定非営利活動促進法について **6.** 市民社会と NPO **7.** 新しい公共と NPO **8.** NPO の活動分野 **9.** NPO のマネジメント **10.** NPO の活動事例 **11.** 他セクターとの協働いついて **12.** NPO と行政との協働 **13.** NPO と企業との協働 **14.** NPO で働くということ **15.** まとめ

【成績評価】出席点+レポート

【再試験】行わない．

【教科書】『知っておきたい NPO のこと 増補版』日本 NPO センター編集・発行 (事前に必ず購入しておくこと)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218693

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 集中講義期間中適宜．)
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域経済論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域経済に対する関心が高まっている．都市の過密問題や地方圏の過疎問題が深まっており，実践的解決が求められているためである．地域経済学 (論) はそのような要請に対応して形成された比較的新しい学問領域である．この講義は地域社会の土台をなす地域経済の構成と動態を検討するとともに，地域問題解決のための理論と手法を獲得することを課題とする．

【授業概要】地域問題・地域経済構造分析・地域政策の 3 領域で地域経済論は校正される．その基本骨格を理解した上で，四国や徳島の例を用いながら，実証的な考察を行う．

【キーワード】**地域問題，地域経済，地域政策**

【到達目標】1) 地域経済学の基礎概念を理解し活用できる．2) 実証的に地域経済を分析できる．

【授業計画】**1.** 地域問題と地域経済 地域経済論 (学) の課題と構成 講義計画 **2.** 地域経済と国民経済 「地域」経済の概念 地域経済論の系譜 **3.** 地域政策の理念と体系 欧米諸国の地域政策の展開過程の検討 **4.** 地域政策と地方自治 政策主体 (行政 · 議会 · 住民団体) の役割 **5.** 地方自治の歴史と現状 日本の地方自治制度の展開過程と現位置 **6.** 地域政策の展開過程 (1) 日本経済の成長様式と地域政策の関係 **7.** 地域政策の展開過程 (2) 高度成長期の地域政策の理念と展開内容 **8.** 地域経済分析の方法 (1) 人口構造の動態とその分析手法の紹介 **9.** 地域経済分析の方法 (2) 産業構造の動態とその分析手法の紹介 **10.** 地域経済分析の方法 (3) 地域経済及び地域政策の担い手の状態 **11.** 県内地域経済の動向 (1) 過疎地域における産業と社会の状況と課題 **12.** 県内地域経済の動向 (2) 地方中核都市周辺部における動向と課題 **13.** 転換期の住民自治 (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の住民自治 (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域経済論の学び方 地域経済論の近年の動向と研究課題

【成績評価】講義中の exercise および最終リポートの結果により判定する．

【再試験】再試は行わない

【教科書】各回の講義はレジュメ参考資料を用いて運営．全体の参考書は下記の通り．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年，1，200+税．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218777

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

日本経済論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】日本経済の実像に正しく迫るには，その構造が形成された経過に即して捉える方法が有効である．また将来のあるべき姿を描く上でも，獲得された地点と埋められるべき課題を歴史的に解明する方法が通常採用されている．このように日本経済を歴史的に分析する作業は，優れて現代的関心に基づいている．歴史的転換点に位置する日本経済の針路を探る素材を提供する．

【授業概要】戦後日本経済の推移を画期ごとに考察し，その構造と特質を明らかにする．

【キーワード】**日本経済，歴史，経済成長**

【履修上の注意】専用ファイルを準備し，レジュメ · ノート · 関連資料などをまとめて私的なテキストを作成すること．

【到達目標】今日の日本経済の構造的特質を理解し，改革課題を理解する．

【授業計画】**1.** 戦後日本資本主義の諸段階 **2.** 占領体制と「戦後民主化」 **3.** 冷戦構造と日本の選択 **4.** 講和と日本経済の再編成 **5.** 「55 年体制」と経済成長 **6.** 高度経済成長のシステム **7.** 産業と階級構成の変動 **8.** 国民生活様式の変貌 **9.** 成長方式の破綻と構造不況 **10.** 構造不況と財政危機 **11.** 世界資本主義の動揺と調整 **12.** 国際協調と構造転換政策 **13.** 日本経済のグローバル化 **14.** 戦後日本経済の構造と段階 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本資本主義の戦前と戦後

【成績評価】中間リポートと期末筆記試験で単位を認定する．出席状況による成績の補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】教科書は用いず，レジュメに即して進行する．参考書等を適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220373

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域社会論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】地域社会をより深く理解するため，地域社会学および都市社会学の基本的な考え方を理解し，自分にあった地域社会へのアプローチ方法を見出し，地域分析ができるようになること．

【授業概要】 森岡清志編 (2008)『地域の社会学』有斐閣をテキストに，様々な視点に触れてもらう．その上で，テキストの引用文献などを参考にして，受講者の興味に沿った専門的な文献の内容を紹介してゆく．中間レポートでは，テキストのなかで受講者が関心をもったテーマに関するエッセイを書いてもらい，期末レポートでは自分の関心に合った文献を新たに 1 冊読んだ上で，その方法論に基づいたオリジナルレポートを書いてもらう．また，毎回，授業内容に関してのリアクションペーパーを提出してもらう．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 徳島の地域社会 **3.** < 地域 > へのアプローチ **4.** 地域社会とは何だろうか? **5.** 地域を枠づける制度と組織 **6.** 地域に生きる集団とネットワーク **7.** 地域が歴史を作り出す，歴史が地域を創り出す **8.** なぜ地域が大切か **9.** 子育てと地域 **10.** 学校と地域 **11.** 自営業者たちと地域社会 **12.** 高齢化と地域社会 **13.** エスニック集団と地域社会 **14.** 国家とグローバライゼーション **15.** 地域社会と未来

【成績評価】平常点と期末レポート

【教科書】森岡清志編 (2008)『地域の社会学』有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218797

【連絡先】
⇒ 矢部 (1228，088-656-9311，yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】本年度開講 (次年度開講せず・隔年開講)

比較社会論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】「愛とケアの南北問題」について理解を深める．

【授業概要】少子高齢化，女性の就労，共働き世帯の増加などで生じた経済先進諸国での「ケア・クライシス」を解決するにはいくつかの方法が考えられる．本講義では，それらの方法を比較検討し，そのなかでも主に各々の家族が経済発展の遅れた国から安い賃金の女性労働者や「花嫁」を調達するアジア家族福祉レジームをシンガポールなどを例にみていく．そして，そのシステムの中で国境を越えて働く女性たちの生活の一部を紹介したい．

【キーワード】**家族の神話，貧困・格差**

【到達目標】
1. 女性の移動を，「コモンの侵食」「ケア流出」といった南北問題をして捉えることができる．
2. 本講義で議論する「ケア・クライシス」をグローバル化社会に生きる自分たちの問題として捉えることができるようになる．

【授業計画】**1.** オリエンテーション — 再生産労働のグローバル化 **2.** 国際労働移動の諸要因 **3.** アジア家族福祉レジーム **4.** 外国人家事・ケア労働者としての生活 **5.** 底辺労働者の抵抗のストラティジー **6.** 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント **7.** 家事・ケア労働者のアイデンティティのマネージメント **8.** NGO で作られるヒロインたち **9.** トランスナショナルなライフコース **10.** 日本での外国人研修生・実習生制度 **11.** 日本での外国人研修生・実習生制度 **12.** 結婚での国際移動 **13.** 結婚での国際移動 **14.** インドネシア・フィリピンの外国人介護士・看護士 **15.** 愛とケアの南北問題 **16.** まとめ

【成績評価】毎回のリアクションペーパーと学期末のレポートで評価

【再試験】無

【教科書】上野加代子『なぜ女は国境を越えるのか — アジアの出稼ぎ家事労働者』(仮題) 世界思想社，2011 年

【参考書】毎回の授業レジメで紹介

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218949

【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682，ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

社会理論

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
堀田 裕子・非常勤講師，樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】理論とは物事についての見 (え) 方や考え方であり，社会理論を学ぶことによって，人間や社会についての見 (え) 方や考え方が豊かになると言える．本講義では現象学的社会学の視点も念頭に置きつつ，「意味の獲得と伝達」「意味をめぐる闘争」「意味の生成」というように，意味を基軸とした 3 つの側面から社会に切り込んでいく． また，そうした意味をめぐる問いが，身体なき精神のような主体ではなく，身体的存在としての人間を通じて為されるべきであるとする趨勢も強調しておきたい．この意味で，いわゆる「身体の社会学」の議論にも眼を向ける． そして，社会理論を考察や分析においてどう活かすかを実践的にも学ぶ．そのために，いくつかトピックを取り上げ，それについて受講者が自分で考える時間を設ける．本講義を通じて，社会理論のおもしろさを受講者と共有できれば幸いである

【授業概要】 基本的に講義形式で，社会や人間について理解し考察するための諸理論を学習する．本講義で言及する主な論者としては，G.H. ミード，M. フーコー，P. ブルデュなどが挙げられる．できるだけ原典を読み解くことを心掛け，理論の背景をも意識していきたい． 途中 4 回ほど，ジェンダーやファッションなどを含む身近なトピックに関して概説したうえで課題を出し，受講者が自分で考察する時間を設ける予定である．うち 1 回は，近未来を描いた映画を題材に，社会や人間の今後をともに考えたい

【キーワード】**意味・身体・自己・他者・権力・現象学**

【履修上の注意】出欠確認は毎回行う．

【到達目標】
1. 社会理論の読解力を養う
2. さまざまな問題について自分で考える力を身につける

【授業計画】**1.** 社会学における「意味」と「身体」の意義 **2.** 意味の獲得と伝達 (1) 幼児にとっての世界と社会化 **3.** 意味の獲得と伝達 (2) 自我とアイデンティティ **4.** 意味の獲得と伝達 (3) 相互行為と地位-役割 **5.** 自己-他者を考える-考察 1 **6.** 意味をめぐる闘争 (1) 権力と知 **7.** 意味をめぐる闘争 (2) 身体-権力と生-権力 **8.** ジェンダーを考える-考察 2 **9.** 意味の生成 (1) 構造と主体 **10.** 意味の生成 (2) 社会空間と身体 **11.** 意味の生成 (3) 間主観性 **12.** “近未来” を考える -考察 3 **13.** 社会学と現象学 (1) 現象学的社会学の視点 **14.** 社会学と現象学 (2) 現象学的身体論 **15.** ファッションを考える-考察 4

【成績評価】出席点 (10%)+レポート (70%)+ミニペーパー (20%) で評価する．ミニペーパーとは，考察 (全 4 回) の際に書いてもらうものを指す．

【再試験】おこなわない．

【教科書】使用しない．

【参考書】N. クロスリー著 (西原 和久監訳)『社会学キーコンセプト-「批判的社会理論」の基礎概念 57』新泉社，2008，他随時指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218704

【連絡先】
⇒ 堀田 . (オフィスアワー: 集中講義期間中適宜．)
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

経営学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
高橋 意智郎・，石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】大学生であること，アルバイト，サークル，部活動，ボランティア活動など企業でなくとも私たちは，日常生活の中で何かしらの組織に所属しています．この授業では，組織の中の人がどのように意思疎通を行い，組織として活動しながら目標を達成しているのか，また，組織にはどのような機能があるのかを学びます．組織の中の人，および集団レベルに焦点を当てた講義で，モティベーションやリーダーシップ，組織文化，心理的契約，集団浅慮など，企業でなくとも私たちの身の回りで起きている内容を扱います．また，主に組織構造や組織デザインの話を市場環境，戦略と関連させながら説明をします．

【授業概要】組織理論の理解および活用

【キーワード】**組織 (構造)，モティベーション，戦略**

【履修上の注意】この科目は，去年まで経営組織論と呼ばれていたもので，内容は経営組織論と同じです (現在，3 年生以上の人は経営組織論になります)．

【到達目標】 組織論の理論を用いて自分の身の回りに起きている現象を理解・解釈できるようになること

【授業計画】**1.** イントロダクション，経営組織論が扱う内容 **2.** 経営学の基礎:大まかな流れ **3.** 経営学の基礎:様々な人間観 (経済人から複雑人モデル) **4.** 組織の中の個人 (1):パーソナリティ **5.** 組織の中の個人 (2):意志決定 1 **6.** 意志決定 2 とモティベーション理論の基礎:内容理論 **7.** モティベーション理論の基礎:過程理論 **8.** リーダーシップ論の基礎 (1):特性論から開発論へ **9.** リーダーシップ論の基礎 (2) と組織と環境 **10.** 3 つの組織構造 **11.** ゲストスピーカー **12.** 組織と戦略 (1):環境分析 **13.** 組織と戦略 (2):2 つの戦略論 **14.** キャリア論と様々な働き方 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】期末試験:50%，中間試験 (もしくはレポート):30%，授業中ランダムに取る出席:20%を考えていますが，変更する可能性があります．その場合はアナウンスします．

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218544

【連絡先】
⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206，0886567169，k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

経営学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期, 集中)
高橋 意智郎・, 石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】経営戦略は，企業の将来像とそれを達成するための道筋です．戦略に関する理論を学び，理論を用いて企業を分析する力を養成することを目的とします．

【授業概要】経営戦略論の基本的な考え方を説明します．

【キーワード】**戦略，組織，競争優位**

【到達目標】経営戦略の理論を用いて新聞記事や雑誌記事で書かれていることを理解・分析できるようになること

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 4 つの枠組み **3.** ポジショニング・アプローチ (1) **4.** ポジショニング・アプローチ (2) **5.** 一般戦略 **6.** 資源アプローチ **7.** リジカルシンキング **8.** 中間試験 **9.** 市場細分化 **10.** 市場地位別戦略 **11.** 学習アプローチ **12.** プロダクト・ライフ・サイクル **13.** PPM とゲーム論 **14.** 多角化の理論 **15.** 期末試験 **16.** まとめ

【成績評価】期末試験 50%，中間レポート 30%，受講態度 20%．

【再試験】なし

【教科書】未定

【参考書】随時配布．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220365

【連絡先】
⇒ 高橋 .
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

社会統計学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業では地域社会とその変容を調査・分析するための多様な理論，視角，手法について議論することを目的とする．特に，地域社会学，都市社会学的視点からの実証的な研究に関する基礎的な文献を取り上げ，実際の調査に必要な知識と社会学的想像力を身につけることを目指す．

【授業計画】**1.** クロス集計表:SPSS を動かしながら「二重クロス集計表」「標本に基づく母集団に関する推測」「確率と帰無仮説」「χ 二乗検定」について説明する． **2.** 複数の平均の差の検定:SPSS を動かしながら，「分散分析」「ANOVA モデル」「F 分布」「相関比 (イータ二乗)」について説明する． **3.** 分散分析を用いた実証論文の精読:分散分析を使った実証論文を読み，実際の論文において分散分析がどのように使われているのかを理解する． **4.** 2 変量回帰と相関:SPSS を動かしながら，「散布図と回帰直線」「線形回帰式」「決定係数と相関係数」「標準回帰係数」「はずれ値の問題」について説明する **5.** 多重分割表分析の理論:「不可変数の統制 (疑似関係，媒介関係，複合関係)」「2×2 表における第 3 変数の統制」「偏相関係数」について説明する **6.** 重回帰分析:SPSS を動かしながら，「3 変量回帰モデル」「独立変数が 3 つ以上の重回帰分析」「ダミー変数を用いた回帰分析」を説明する **7.** 重回帰分析を用いた実証論文の精読:重回帰分析を用いた実証論文を読み，実際の論文において重回帰分析がどの様に使われているのか理解する． **8.** ロジスティック回帰分析:SPSS を動かしながら，「ロジスティック回帰の機能・要素・仮定」「ロジスティック回帰係数の解釈」「予測の精度」「残差分析」について説明を行う． **9.** ロジスティック回帰分析を用いた実証論文の精読:ロジスティック回帰分析を用いた実証論文を読み，実際の論文においてロジスティック回帰分析がどの様に使われているのかを理解する． **10.** 非線型回帰:SPSS を動かしながら，「非線型とは何か」「非線型回帰の仮定」「非線型モデルの設定」「曲線の当てはめ」などについて説明を行う． **11.** 因果モデルとパス解析:「因果の過程」「因果図式」「パス解析」を説明する．場合によっては AMOS での分析を行う． **12.** 主成分分析・因子分析:SPSS を動かしながら，「主成分分析」「因子分析 (直交回転)」「因子分析 (斜交回転)」についての説明を行う． **13.** パス解析，因子分析を用いた実証論文の精読:パス解析，因子分析を用いた実証論文を読み，実際の論文においてパス解析，因子分析がどのように用いられているのかを理解する． **14.** クラスタ分析:SPSS を動かしながら，「クラスタ分析の機能，目的，データタイプ」「距離と標準化」「階層クラスタ分析」「K-means クラスタ分析」についての説明を行う． **15.** クラスタ分析を用いた実証論文の精読:クラスタ分析を用いた実証論文を読み，実際の論文においてクラスタ分析がどのように用いられているのかを理解する． **16.** オリジナル分析:2 次データを利用して，これまで習った分析手法を用いた仮説検証を行う．

【成績評価】授業毎に提出してもらう課題と期末レポート

【教科書】ボーンシュテット&ノーキ，社会統計学，ハーベスト社，1990
古谷野亘，多変量解析ガイド，川島書店，1988

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218702

【連絡先】
⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

地域調査法 IA

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】地域調査は，文化人類学・地理学・社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である．地域調査法 IA・IIA では，とくに文化人類学・民俗学的な調査 (フィールドワーク) の基本的な理論と手法を修得することを目的としている．授業の中では，問題設定・仮説構成から，調査の計画・準備，実施 (資料・データ収集)，分析に至るまでの調査の流れを説明した後，演習もまじえながら，質的調査 (参与観察，インタビュー)，量的調査 (統計調査，調査票調査)，文献調査の基本的技法の習得を目指す．

【授業概要】文化人類学的調査とデータ分析の基礎

【キーワード】**地域調査，文化人類学，民俗学，フィールドワーク**

【関連科目】『地域調査法 IIA』(0.5, ⇒125 頁)，『地域調査演習 A』(0.5, ⇒129 頁)，『地域調査演習 A』(0.5, ⇒130 頁)

【履修上の注意】授業では随時，参与観察・インタビュー調査・アンケート調査など，それぞれの調査技法を応用した課題 (宿題) を出すので，それに基づいて各自が実際に簡単なフィールドワークを行い，その結果をショート・レポートとして提出することが義務づけられる． 地域調査法 IA(前期)・IIA(後期) では文化人類学的フィールドワークの理論と技法を，地域調査演習 A(前期・後期) では実践と応用を学ぶので，両者をあわせて受講することが望ましい．なお，本授業は実習的な性格を持つため，受講者数を制限する場合がある．

【到達目標】文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し，具体的な事例に適用することができる．

【授業計画】**1.** フィールドワークとは何か (1) **2.** フィールドワークとは何か (2) **3.** フィールドワークのプロセス **4.** 文献研究の技法 (1) 基礎資料の概要と利用方法 **5.** 文献研究の技法 (2) 文献の検索・ 利用方法 **6.** 文献研究の技法 (3) Web を利用した文献の検索・ 利用方法 **7.** フィールドワークの方法量的調査と質的調査 **8.** 参与観察の技法 (1) **9.** 参与観察の技法 (2) **10.** インタビュー調査の技法 (1) **11.** インタビュー調査の技法 (2) **12.** インタビュー調査の技法 (3) **13.** 調査データ (質的データ) の整理法 (1) フィールドノートの整理 **14.** 調査データ (質的データ) の整理法 (2) 調査データのデジタル化 **15.** 社会調査・ フィールドワークの倫理 (1) 調査の過程の中で **16.** 社会調査・ フィールドワークの倫理 (2) 調査結果を公表する際の問題

【成績評価】本授業の成績は，授業への取り組み状況と，ショート・レポートの成績をあわせて評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は使用しない．授業中に随時プリントを配布する．

【参考書】
- ◇ 主な参考書を以下に挙げる．
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社，2002 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社，1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房, 1999 年
- ◇ ジョン&リン・ ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣, 1997 年
- ◇ 松田素二・ 川田牧人編『エスノグラフィ-・ガイドブック』嵯峨野書院，2002 年
- ◇ 盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣，2004 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218833

【連絡先】
⇒ 髙橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)水曜日12時~ 13時)

【備考】本年度開講せず (隔年開講．次回は平成 25 年度開講予定)

地域調査法 IIA

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】地域調査は，文化人類学・地理学・社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である．地域調査法 IA・IIA では，とくに文化人類学・民俗学的な調査 (フィールドワーク) の基本的な理論と手法を修得することを目的としている．授業の中では，問題設定・仮説構成から，調査の計画・準備，実施 (資料・データ収集)，分析に至るまでの調査の流れを説明した後，演習もまじえながら，質的調査 (参与観察，インタビュー)，量的調査 (統計調査，調査票調査)，文献調査の基本的技法の習得を目指す．

【授業概要】文化人類学的調査とデータ分析の基礎

【キーワード】**地域調査，文化人類学，民俗学，フィールドワーク**

【関連科目】『地域調査法 IA』(0.5, ⇒125 頁)，『地域調査演習 A』(0.5, ⇒129 頁)，『地域調査演習 A』(0.5, ⇒130 頁)

【履修上の注意】授業では随時，参与観察・インタビュー調査・アンケート調査など，それぞれの調査技法を応用した課題 (宿題) を出すので，それに基づいて各自が実際に簡単なフィールドワークを行い，その結果をショート・レポートとして提出することが義務づけられる． 地域調査法 IA(前期)・IIA(後期) では文化人類学的フィールドワークの理論と技法を，地域調査演習 A(前期・後期) では実践と応用を学ぶの

で，両者をあわせて受講することが望ましい．なお，本授業は実習的な性格を持つため，受講者数を制限する場合がある．

【到達目標】文化人類学・民俗学的なフィールドワークの基本的な理論と技法を理解し，具体的な事例に適用することができる．

【授業計画】1. 統計的調査の技法 **2.** 調査票調査の技法 (1) 調査の設計・実施方法の技法 **3.** 調査票調査の技法 (2) サンプリングの技法 **4.** 調査票調査の技法 (3) 調査票の作成 **5.** 調査票調査の技法 (4) 集計・分析の技法 **6.** 調査票調査の技法 (5) 調査の実施とデータ整理 **7.** 調査票調査の技法 (6) 調査結果の分析 **8.** コンピューターによるデータ処理の技法 (1) 文字データ処理の技法 **9.** コンピューターによるデータ処理の技法 (2) 画像データ処理の技法 **10.** コンピューターによるデータ処理の技法 (3) 動画データ処理の技法 **11.** 調査レポート・調査報告書のまとめ方 **12.** 調査データ (とくに質的データ) の分析法 (1) **13.** 調査データ (とくに質的データ) の分析法 (2) **14.** プレゼンテーション (発表) の技法 (1) **15.** プレゼンテーション (発表) の技法 (2) **16.** まとめ

【成績評価】 本授業の成績は，授業への取り組み状況と，ショート・レポートの成績をあわせて評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は使用しない．授業中に随時プリントを配布する．

【参考書】

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる．
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社，2002 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社，1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房，1999 年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣，1997 年
- ◇ 松田素二・ 川田牧人編『エスノグラフィ-・ガイドブック』嵯峨野書院，2002 年
- ◇ 盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣，2004 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218841

【連絡先】

⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)水曜日12時~ 13時)

【備考】本年度開講せず (隔年開講．次回は平成 25 年度開講予定)

地域調査法 IB

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域調査は，文化人類学・地理学・社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である．「地域調査法 AI」では，地理学的手法を取り入れた調査 (フィールドワーク) の基本的な理論と手法を修得することを目的としている．

【授業概要】 地域調査に必要な文献収集，文献の読み方，資料収集の方法，調査の方法，発表方法について概説する．

【キーワード】地域調査

【履修上の注意】地域調査法 IB・IIB では調査の理論と技法を，地域調査演習 IB・IIB では実践と応用を学ぶので，両者を併せて受講することが望ましい．授業では，講義形式による解説に平行して発表や作業なども行う．なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある．

【到達目標】地理学的な地域研究の方法を理解し，地域調査に不可欠な基礎知識を身につける．

【授業計画】1. 地域調査の目的と意義 **2.** 地理学・文化人類学における研究テーマ **3.** 文献検索法 1 インターネットの活用 **4.** 文献検索法 2 文献目録の活用 **5.** 地域調査の事例-事例文献 1 を読む- **6.** 地域調査の事例-事例文献 2 を読む- **7.** 地域調査の事例-事例文献 3 を読む- **8.** 文献発表 1 **9.** 文献発表 2 **10.** 地域調査の方法 **11.** 地域調査に関わる資料・統計の収集方法 **12.** 地域調査に関わる統計資料の分析方法 **13.** 地域調査に関わる地図の種類と収集方法 **14.** 地域調査に関わる地図の分析方法 **15.** 調査成果のまとめ方 **16.** 調査成果のプレゼンテーション方法

【成績評価】授業態度，作業ワーク，発表内容，レポートをもとに評価を行う．

【再試験】再試験は行わない

【教科書】教科書はとくには使用せず，資料を配付する．参考図書については，随時紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219987

【連絡先】

⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 23 年度は開講せず．平成 24 年度開講予定．

地域調査法 IIB

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域調査は，文化人類学・地理学・社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である．「地域調査法 AII」では，地域調査に必要な地図の読図法ならびに地図作成法の基本的な知識の習得，ならびに GIS(地理情報システム) を用いた作図法を目的としている．

【授業概要】地域調査のための読図法および地図作成法

【キーワード】地域調査，地図，*GIS*

【履修上の注意】地域調査法 IB・IIB では調査の理論と技法を，地域調査演習 IB・IIB では実践と応用を学ぶので，両者を併せて受講することが望ましい．授業では，講義形式による解説に平行してコンピュータを利用した実習をおこなう．なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある．

【到達目標】地域調査を行うのに必要な地図に関する基礎的知識・技法の習得

【授業計画】1. 地図の歴史 **2.** 地図の種類 **3.** 地形図の読図と計測 1 **4.** 地形図の読図と計測 2 **5.** 地形断面図・等高線 (等値線) の作成 **6.** 主題図の作成 1 **7.** 主題図の作成 2 **8.** エクセルで作成する標高メッシュ図 **9.** 数値地図の種類と原理 **10.** 数値地図の検索 **11.** GIS による主題図の作成 1 **12.** GIS による主題図の作成 2 **13.** GIS による標高図の作成 1 **14.** GIS による標高図の作成 2 **15.** 学生による GIS 地図の成果発表 1 **16.** 学生による GIS 地図の成果発表 2

【成績評価】授業中に課す小テストやレポート，地図作成作業，プレゼンテーションなどにより，評価を行う．

【再試験】再試験は行わない

【教科書】教科書は使用しない．適宜資料を配付する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219988

【連絡先】

⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 23 年度は開講せず．平成 24 年度開講予定．

地域調査法 IC

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】社会調査 · 地域調査は，文化人類学 · 地理学 · 社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である．「地域調査法 IC」「地域調査法 IIC」では，地理学的手法を取り入れた調査 (フィールドワーク) の基本的な理論と手法を修得することを目的としている．

【授業概要】地理学的地域調査とデータ解析の技法

【キーワード】地理学，社会調査，地域問題

【先行科目】『情報処理の基礎 I』(1.0，⇒14 頁)

【関連科目】『地域調査法 IIC』(1.0，⇒127 頁)，『地域調査演習 C』(1.0，⇒131 頁)

【履修上の注意】「地域調査法 IC」「地域調査法 IIC」 では調査の理論と技法を，「地域調査演習 C」 では実践と応用を学ぶので，両者を併せて受講することが望ましい．授業では，講義形式による解説に平行してコンピュータを利用した実習をおこなう．前提として受講者は「社会統計学 I」をあらかじめ履修しておくか，並行して履修することが求められる．なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある．

【到達目標】人文地理学的な地域研究の方法を理解し，社会調査 · 地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける．

【授業計画】1. 社会調査 · 地域調査の目的 : 社会調査の意義，歴史，方法，倫理に関する概説 **2.** 社会調査の方法論 : 量的調査と質的調査，マクロスケールとミクロスケール **3.** 文献サーベイの方法 (1) : 文献目録データベースの使い方 **4.** 文献サーベイの方法 (2) : 外国語文献へのアプローチ **5.** 官庁統計の利用方法 (1) : 統計の種類と性格，調査項目，統計情報インデックス **6.** 官庁統計の利用方法 (2) : 統計基準 (日本産業分類 · 日本職業分類など) と地区単位 **7.** 地図情報の利用方法 (1) : 一般図と主題図，地図の種類と検索方法 **8.** 地図情報の利用方法 (2) : レポート作成のための地図表現 **9.** 社会調査 · 地域調査に関する文献講読 (1) : マクロスケールからのアプローチ **10.** 社会調査 · 地域調査に関する文献講読 (2) : ミクロスケールからのアプローチ **11.** フィールドワークの方法 (1) : 調査依頼，聞き取り，現地観察，記録の技法 **12.** フィールドワークの方法 (2) : アンケート調査の設計と実施方法 **13.** 社会調査 · 地域調査に関する文献講読 (3) : 現地調査によるアプローチ **14.** 社会調査 · 地域調査に関する文献講読 (4) : アンケート調査によるアプローチ **15.** 実務への応用 : マーケティング，世論調査，地域計画など **16.** 授業のまとめ

【成績評価】 授業内容の理解度を確認するための小テストや小レポートを課す．また，授業で与えられる課題に沿って，各自の分析結果をプレゼンテーションしてもらう．テーマ選択の着眼点，分析の的確さ，考察の論理性を基準に評価をおこなう．試験は実施しない．

【再試験】行わない

【教科書】

- ◇ 大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ・第 2 版』ミネルヴァ書房，2005 年
- ◇ 森岡清志編著『ガイドブック社会調査・第 2 版』日本評論社，2007 年
- ◇ 盛山和夫著『社会調査入門』有斐閣ブックス，2004 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218834
【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)
【備考】平成 24 年度開講

地域調査法 IIC

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】社会調査 · 地域調査は，文化人類学 · 地理学 · 社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である．「地域調査法 IC」「地域調査法 IIC」では，地理学的手法を取り入れた調査 (フィールドワーク) の基本的な理論と手法を修得することを目的としている．
【授業概要】地理学的地域調査とデータ解析の技法
【キーワード】**地理学，社会調査，地域問題**
【先行科目】『地域調査法 IC』(1.0, ⇒126 頁)，『地域調査演習 C』(1.0, ⇒131 頁)
【関連科目】『地域調査演習 C』(1.0, ⇒131 頁)
【履修上の注意】「地域調査法 IC」「地域調査法 IIC」 では調査の理論と技法を，「地域調査演習 C」 では実践と応用を学ぶので，両者を併せて受講することが望ましい．授業では，講義形式による解説に平行してコンピュータを利用した実習をおこなう．前提として受講者は「社会統計学 I」をあらかじめ履修しておくか，並行して履修することが求められる．なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある．
【到達目標】人文地理学的な地域研究の方法を理解し，社会調査 · 地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける．
【授業計画】**1.** 対象地域と調査テーマ テーマの立て方と対象事例の選択のための視点 **2.** 社会調査 · 地域調査の目的と方法 問題発見型と仮説検証型，観察調査法と質問調査法 **3.** 仮説の設定と検証 演繹法と帰納法，理論と実証のフィードバック **4.** アンケート調査の技法 (1) : 全数調査と標本調査，配布法と回収法 **5.** アンケート調査の技法 (2) : 調査票の作成，自由回答法と選択肢法，フェイスシート **6.** アンケート調査の技法 (3) : 測定尺度の構成，名義尺度と数値尺度，妥当性 · 信頼性 **7.** アンケート調査の技法 (4) : コーディング，エディティング，データクリーニング **8.** アンケート調査の技法 (5) : 統計的仮説検定，クロス集計，帰無仮説と有意水準 **9.** 多変量解析の技法 (1) : 単回帰分析と重回帰分析 **10.** 多変量解析の技法 (2) : 主成分分析と因子分析，クラスター分析 **11.** 多変量解析の技法 (3) : 数量化理論 **12.** データの可視的表現 (1) : グラフの選択と書式 **13.** データの可視的表現 (2) : GIS を用いた地図作成 **14.** 調査レポート · 報告書作成の方法 (1) : 章節の構成，文章表現と引用 **15.** 調査レポート · 報告書作成の方法 (2) : 図表の扱い方 **16.** 授業のまとめ
【成績評価】授業内容の理解度を確認するための小テストや小レポートを課す．また，授業で与えられる課題に沿って，各自の分析結果をプレゼンテーションしてもらう．テーマ選択の着眼点，分析の的確さ，考察の論理性を基準に評価をおこなう．試験は実施しない．
【再試験】行わない
【教科書】
◇ 大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ・第 2 版』ミネルヴァ書房，2005 年
◇ 森岡清志編著『ガイドブック社会調査・第 2 版』日本評論社，2007 年
◇ 盛山和夫著『社会調査入門』有斐閣ブックス，2004 年
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218842
【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)
【備考】平成 24 年度開講

地域調査法 ID

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
矢部 拓也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業では地域社会とその変容を調査・分析するための多様な理論，視角，手法について議論することを目的とする．特に，地域社会学，都市社会学的視点からの実証的な研究に関する基礎的な文献を取り上げ，実際の調査に必要な知識と社会学的想像力を身につけることを目指す．
【授業概要】地域社会学，都市社会学的地域調査とデータ解析の技法
【キーワード】**社会調査**
【先行科目】『情報処理の基礎 I』(1.0, ⇒14 頁)，『情報処理の基礎 II』(1.0, ⇒14 頁)
【到達目標】地域社会学，都市社会学的な地域研究の方法を理解し，社会調査 · 地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける．
【授業計画】**1.** どのような社会調査をしたいのか:「社会調査の歴史」「社会調査の種類」「社会調査の方法」「社会調査の目的」について説明する **2.** 社会調査をはじめる前に:「図書館の活用法」「文献検索法」「統計書の活用」「知的生産技術」について説明する **3.** 社会調査で何がわかるか:「社会学における理論」「社会学における検証」「社会調査の限界」について説明する． **4.** 人間の探求活動と科学:「真実探求への道」「社会科学の基礎」「社会調査における多様なアプローチ」「社会調査の倫理」について説明する **5.** 理論と社会調査:「社会科学のパラダイム」「演繹法と帰納法」「演繹法による理論構築」「帰納法による理論構築」「理論と調査のつながり」について概説する **6.** 社会調査における因果関係:「決定論と社会科学」「個性記述的モデルと法則定立的モデルにおける因果関係」「因果関係の基準」「間違った因果関係の推測」「変数の測定方法と相関関係のつながり」について概説する． **7.** 概念化，操作化，および測定:「概念化」「記述的および説明的研究における定義」「操作化」「測定の質を評価するための基準」について説明する． **8.** 指数，尺度，および類型:「指数と尺度」「指数の作成」「尺度の作成」「類型」について説明する． **9.** 標本抽出の理論:「標本抽出の歴史」「非確率抽出法」「確率抽出法の理論と論理」「確率論，標本分布，および標本誤差の推定」「母集団と標本抽出枠」「標本設計の種類」「多段クラスター抽出法」「確率抽出法の復習」について説明する **10.** 社会調査はどのようにすすめるか:「社会調査の手順」「事前準備」「現地調査」に関して説明する **11.** 調査票をどうつくるか:「調査票づくりの基本姿勢」「調査票作成の仕事の流れ」「調査設計と調査票」「質問の仕方」「回答形式」「質問票の流れとレイアウト」について説明する **12.** データの整理とチェック (分析の前にすること):「データの整備と入力」「データクリーニング」「変数の同定」「合成尺度の構成」について説明する **13.** データ分析 (基礎の基礎):「分析にあたっての注意」「データ分析の基本的心構え」「データの種類と整理」「データの関連」「第三変数の導入，そして理論へ」を説明する **14.** 公表の方法と報告書作成の要領:「作品としての公表」「報告書の構成の仕方」「報告書の原稿執筆」「様々な公表にむけて」について説明する **15.** 実例報告:私が関わったプロジェクトの論文を紹介しながら，社会調査の流れ，問題点，今後の課題などを説明する．
【成績評価】平常点と期末レポート
【教科書】
◇ E. バビー著，社会調査法 1，培風館，2003,E. バビー著，社会調査法 2，培風館，2005
◇ 森岡清志編著，ガイドブック社会調査，日本評論社，1998
◇ 佐藤郁哉『組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門』有斐閣，2002
◇ 鎌田慧『ルポルタージュを書く』岩波書店同時代ライブラリー (126)，1992
◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法:問を育てる，仮説をきたえる』新曜社，2002
◇ 岡一郎『社会調査のウソ』文春新書，2000
【参考書】
◇ 関満博『現場主義の知的生産法』ちくま新書，2002
◇ 大谷信介編著『これでいいのか市民調査:大阪府 44 市の実態が語る課題と展望』ミネルヴァ書房，2002
◇ 片寄俊秀『商店街は学びのキャンパス』関西学院大学出版会，2002
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218835
【連絡先】
⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))
【備考】本年度開講

地域調査法 IID

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
矢部 拓也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】社会調査・地域調査は，文化人類学・地理学・社会学といった実証主義的な学問における基本的な研究手法である．地域調査法 IID では，社会学的手法を取り入れた調査 (フィールドワーク) の基本的な理論と手法を修得することを目的としている．アンケート調査を企画・設計する際に必要となる仮説と検証の考え方，配布や回収をおこなう上での実際的な問題点，データの整理や分析の手法，結果のまとめ方などを学ぶ．
【授業概要】地域社会学，都市社会学的地域調査とデータ解析の技法
【キーワード】**社会調査，フィールドワーク**
【先行科目】『地域調査法 ID』(1.0, ⇒127 頁)
【到達目標】地域社会学，都市社会学的な地域研究の方法を理解し，社会調査 · 地域調査をおこなうのに必要な基礎知識を身につける．
【授業計画】**1.** 対象地域と調査テーマ テーマの立て方と対象事例の選択のための視点 **2.** 社会調査・地域調査の目的と方法 問題発見型と仮説検証型，観察調査法と質問調査法 **3.** 仮説の設定と証明 演繹法と帰納法，理論 **4.** アンケート調査の技法 (1) 調査対象者の選び方，全数調査と標本調査，配布法と回収法 **5.** アンケート調査の技法 (2) 調査票の作成，自由回答法と選択肢法，フェイスシートの構成 **6.** アンケート調査の技法 (3) 測定尺度の構成，尺度の種類 (名義尺度と数値尺度)，尺度の妥当性・信頼性 **7.** アンケート調査の技法 (4) 調査データの整理，コーディング，エディティング，データクリーニング **8.** アンケート調査の技法 (5) 統計的仮説検定，単純集計とクロス集計，帰無仮説と有意水準 **9.** フィールドワークの技法 (1) 密着

取材・体験取材としてのフィールドワーク **10.** フィールドワークの技法 (2) 観察研究としてのフィールドワーク **11.** フィールドワークの技法 (3) 聞き取り調査としてのフィールドワーク **12.** フィールドワークの技法 (4) 定性的調査方法の発想 **13.** フィールドワークの技法 (5) フィールドノートをつける **14.** フィールドワークの技法 (6) 聞き取りをする **15.** 調査レポート・報告書作成の方法 実際の報告書を見ながら解説

【成績評価】平常点，期末レポート

【教科書】
- ◇ 大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ・第 2 版』ミネルヴァ書房，2005 年
- ◇ 佐藤郁哉『組織と経営について知るための実践フィールドワーク入門』有斐閣，2002
- ◇ 鎌田慧『ルポルタージュを書く』岩波書店同時代ライブラリー (126)，1992
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法:問を育てる，仮説をきたえる』新曜社，2002
- ◇ 岡一郎『社会調査のウソ』文春新書，2000

【参考書】
- ◇ 関満博『現場主義の知的生産法』ちくま新書，2002
- ◇ 大谷信介編著『これでいいのか市民調査:大阪府 44 市の実態が語る課題と展望』ミネルヴァ書房，2002
- ◇ 片寄俊秀『商店街は学びのキャンパス』関西学院大学出版会，2002

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218843

【連絡先】
⇒ 矢部 (1228，088-656-9311，yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】本年度開講 (次年度開講せず)

地域調査法 IE

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業概要】社会調査士に必要な技術の一部を訓練する．在宅療養研究を題材に，同一教員が同一曜日に開講している地域調査演習と連動してプログラムは実施される．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218836

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域調査法 IIE

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業概要】社会調査士に必要な技術の一部を訓練する．在宅療養研究を題材に，同一教員が同一曜日に開講している地域調査演習と連動してプログラムは実施される．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218844

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域調査法 IF

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会学において，理論と調査の往復運動は研究上不可欠であるが，講義と調査を架橋する機会は多くない．この講義では，自分が住む地域の多文化状況に関する調査を事例として，地域調査の手順を学んでもらう．具体的には，徳島市におけるモスクとムスリム (イスラーム教徒) を事例として，移民ネットワークや移民による資源動員，エスニック関係に対して質的にアプローチする方法をテーマとする．授業にあたっては，インタビューに必要な問いの立て方，当事者に対するアプローチの仕方，KJ 法による議論の整理と仮説構築について，講義と発表形式により身につけていきたい．

【授業概要】この講義は，地域調査実習 F と連動して行われる．単なる調査方法を教えるだけでなく，それをすぐに具体的な調査で応用してもらうようになる．

【到達目標】社会調査の概要を学び，調査に同行して基礎的な方法を身につける．

【授業計画】1. オリエンテーション **2.** 調査目的を考える:何を知るのか? 生活世界の解明とは何か? **3.** 調査の方法論:量的調査，質的調査，資料収集，史料にもとづく考証 **4.** 質的調査で何がわかるか (1): インタビューデータの使い方 **5.** 質的調査で何がわかるか (2):ライフヒストリー分析の射程 **6.** 調査方法の選定:個人と集団に対する質的なアプローチ **7.** 対象者へのアプローチ方法:ホームページ，関連文献の収集，データの整理法 **8.** インタビューの準備:依頼状の書き方，アポイントのとり方，下調べの仕方 **9.** インタビューの準備:質問項目の作り方 **10.** インタビュー実施の注意事項:訪問の仕方，質問の仕方，メモの取り方 **11.** インタビュー記録の作成:メモをどの程度とれているか，それをどのように文章にするか，礼状をどのように書くか **12.** インタビュー記録の分析:事前に収集した資料とインタビューの違い，インタビューにより何がわかるのか **13.** 予備調査と本調査:予備調査の役割，本調査に向けた質問票作成 **14.** 仮説の整理:資料とインタビューからの仮説構築 **15.** 仮説から質問票へ:KJ 法による整理，ワーディングの仕方

【成績評価】通常の講義とは異なり，調査実習と連動する授業のため，平常の出席と発表により成績評価する．

【再試験】再試験は行わない．

【教科書】佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社，桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218837

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

【備考】平成 25 年度開講

地域調査法 IIF

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】この講義では，前半で調査に関する基本的な知識と考え方を講義し，後半では移民の宗教とネットワークに対する調査の代表的なものをいくつか取り上げ，その問題設定と具体的な調査方法との関連をみていくこととする．

【授業概要】樋口がこれまで行ってきた調査事例を適宜取り上げつつ，調査の目的・方法・マナーなどについて解説する．後半では，以下の 2 つを中心に講義と購読により授業を進めていく．①移民の組織に関する代表的な研究を紹介し，日本での代表的な文献を読む．ライフヒストリー論の問題関心とその方法論的特徴を解説し，購読を通じて理論と調査を架橋する．②エスノグラフィ的な移民研究を紹介し，移民現象を生身の人間の織り成す舞台として捉えるアプローチ方法を学んでもらう．古典的な研究を購読することで，その面白みと実際の方法論について学んでいく．

【履修上の注意】前期と連続した内容であるため，基本的に後期のみの受講は認められない．どうしても受講したい場合にはあらかじめ相談されたい．

【到達目標】調査に際して必要な素養を身につける．

【授業計画】1. オリエンテーション **2.** 移民研究の調査手法と代表的な研究成果:どのような方法により何を明らかにするのか? **3.** 移民調査の目的:移民—組織—近隣住民の何をどのようにして明らかにするのか **4.** 移民調査の方法:ネットワーク論，エスノグラフィ，インタビュー **5.** 調査倫理:対象者との関係，データ使用でのトラブル，移民調査におけるトラブルの事例 **6.** 質的調査における調査者の立場:対立する争点をめぐる羅生門問題，分析者の位置取りなどの解説 **7.** 調査の実例と方法:講師自身の調査と早稲田大学グループによる調査手法とインタビューデータから解説 **8.** 移民に対する世論調査データ:データの種類と入手方法，活用方法の解説 **9.** 海外における移民への態度の調査:ISSP データの紹介 **10.** 調査の失敗の事例:広田康生『エスニシティと都市』の調査手法と問題点の解説 **11.** 移民ネットワークのフィールドワーク (1):樋口直人他『国境を越える』購読と調査手法の解説 **12.** 移民ネットワークのフィールドワーク (2):樋口直人他『国境を越える』購読と分析手法の解説 **13.** モスクへのアプローチ (2):早稲田大学グループの調査の概要と方法論の解説 **14.** モスクへのアプローチ (3):早稲田大学グループによるラポール構築に関する解説 **15.** 全体のまとめ

【成績評価】少人数での参加型授業であるため，出席と授業中の報告で評価する．

【再試験】行わない

【教科書】樋口直人他『国境を越える』青弓社，好井裕明・宮内洋編『当事者をめぐる社会学』北大路書房

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218845

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

【備考】隔年開講，平成 25 年度開講

地域調査法 IG

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業では，地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を学ぶ．

【授業概要】地域調査に必要な分析方法や調査方法の基礎を学ぶ．

【キーワード】地域調査

【関連科目】『地域調査法 IIG』(1.0，⇒129 頁)，『地域調査演習 G』(1.0，⇒133 頁)，『地域調査演習 G』(1.0，⇒133 頁)

【履修上の注意】地域調査演習 G(前期) と併せて履修すること．後期に地域調査法 IIG 及び地域調査演習 G(後期) を履修すること．

【到達目標】地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を習得する．

【授業計画】**1.** 研究とは?地域調査とは? **2.** 論文とは? **3.** 文献の収集法 **4.** 文献リストの作成 **5.** 文献輪読 1 **6.** 文献輪読 2 **7.** 文献輪読 3 **8.** ミニ巡検 1 **9.** ミニ巡検 2 **10.** 調査テーマの検討 1 **11.** 調査の企画 **12.** 調査計画の立案 **13.** 調査地の情報・資料の収集 1 **14.** 調査地の情報・資料の収集 2 **15.** 予備調査 1 **16.** 予備調査 2

【成績評価】授業への取組み，レポートやプレゼン内容をもとに評価する．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218838

【連絡先】
⇒ 田中 .

地域調査法 IIG

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
田中 耕市 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業では，地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を学ぶ．

【授業概要】地域調査に必要な分析方法や調査方法の基礎を学ぶ．

【先行科目】『地域調査法 IG』(1.0, ⇒128 頁), 『地域調査演習 G』(1.0, ⇒133 頁)

【関連科目】『地域調査演習 G』(0.5, ⇒133 頁)

【履修上の注意】前期開講の地域調査法 IG および地域調査演習 G(前期) を履修しておくこと．地域調査演習 G(後期) も履修すること．

【到達目標】地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な基礎的な方法論を習得する．

【授業計画】**1.** 現地調査で得た資料・データの分析法 1 **2.** 現地調査で得た資料・データの分析法 2 **3.** 現地調査で得た資料・データの分析法 3 **4.** 補足資料の収集 1 **5.** 補足資料の収集 2 **6.** 補足調査の方法 1 **7.** 補足調査の方法 2 **8.** 調査のまとめ 1 **9.** 調査のまとめ 2 **10.** プレゼンテーション方法 1 **11.** プレゼンテーション方法 2 **12.** プレゼンテーション方法 3 **13.** 報告書の作成法 1 **14.** 報告書の作成法 2 **15.** 報告書の作成法 3 **16.** 総括

【成績評価】授業への取組み，レポートやプレゼン内容をもとに評価する．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218846

【連絡先】
⇒ 田中 .

地域調査法 IH

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科，中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域の活性化においては，地域調査による分析，特に統計資料分析とフィールドワークに基づく実証的な分析が欠かせない．このためこの授業では，統計分析や地域調査を行うための方法，また調査結果を分析する方法を修得することを目的としている．このように地域の活性化に欠かせない地域調査による研究手法や分析方法を学ぶ．

【授業概要】地域調査や分析法の習得

【キーワード】**地域政策 地域調査 地域情報分析**

【履修上の注意】地域調査演習 H では地域調査の技法を，地域調査法 IH ·IIH では地域調査の実践を学ぶので，両者を前後期とも受講すること．ただし，本授業は実習的な性格をもつため，受講者数を制限する場合がある．また，現地調査等については定められた授業時間外に，宿泊または日帰りで行う場合がある．

【到達目標】地域の活性化に必要な地域調査の方法とデータの収集 · 解析に関する基本的な手法を身につける．

【授業計画】**1.** 地域調査の目的と意義 **2.** 地域調査に関する資料 · 統計データの収集法 **3.** インターネットによる情報・文献の検索・収集法 **4.** 調査事例の紹介 (1) **5.** 調査事例の紹介 (2) **6.** 調査事例の紹介 (3) **7.** フィールドワークの方法 (1) **8.** フィールドワークの方法 (2) **9.** 統計資料の分析法 (1) **10.** 統計資料の分析法 (2) **11.** 調査結果のまとめ方 (1) **12.** 調査結果のまとめ方 (2) **13.** 調査結果のプレゼンテーション (1) **14.** 調査結果のプレゼンテーション (2) **15.** 報告書の作成 (1) **16.** 報告書の作成 (2)

【成績評価】授業中の課題やレポート，発表内容，授業への取り組み状況により評価する．

【再試験】無

【教科書】本授業では教科書は使用しない．必要な資料については適時紹介する．

【参考書】必要な参考資料については適時紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218839

【連絡先】
⇒ 北村 .
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

地域調査法 IIH

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科，中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域の活性化においては，地域調査による分析，特に地域および地域政策に関する統計資料・資料分析とフィールドワークに基づく実証的な分析が欠かせない．このためこの授業では，統計分析や地域調査を行うための方法，また調査結果を分析する方法を実践的に修得することを目的としている．このように地域の活性化に欠かせない地域調査に関する研究手法や分析方法を実践的な形で学ぶ．地域調査の実践により地域調査の重要性とその意味を理解するとともに，調査結果については，報告書等にまとめるよう努める．

【授業概要】地域調査と統計資料を用いた地域分析方法の実践的な習得

【キーワード】**地域調査 地域情報 情報・統計分析**

【履修上の注意】地域調査演習 H では地域調査の理論と技法を，地域調査法 IH ·IIH では地域調査の実践と応用を学ぶので，両者を併せて前後期とも受講すること．ただし，本授業は実習という性格のため，受講者数を制限する場合がある．また，現地調査等については定められた授業時間外に，宿泊または日帰りで行う場合がある．

【到達目標】具体的な調査事例を通じた，地域調査の方法の習得が目標

【授業計画】**1.** 現地調査の企画 **2.** 現地調査に必要な地域情報データ等の収集 **3.** 地域データの整理・分析 **4.** 現地調査 (1) **5.** 現地調査 (2) **6.** 現地調査 (3) **7.** 現地調査 (4) **8.** 調査結果の分析 (1) **9.** 調査結果の分析 (2) **10.** 補足調査と補足資料収集 (1) **11.** 補足調査と補足資料の収集 (2) **12.** 調査結果のまとめ (1) **13.** 調査結果のまとめ (2) **14.** 調査結果の発表 **15.** 報告書の作成 (1) **16.** 報告書の作成 (2)

【成績評価】レポートや報告内容，調査時における参加姿勢，発表内容等により評価する．

【再試験】無

【教科書】本授業では教科書を定めず授業を行う．必要な資料については適時紹介する．

【参考書】必要な参考資料については適時紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218847

【連絡先】
⇒ 北村 .
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

地域調査演習 A

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一 · 教授 (併任) / 社会創生学科

【授業目的】地域の本質を把握するためには，的確な視点から問題を設定し，綿密な調査を通じて実証を重ねていく作業が不可欠である．本実習では，地域に展開する文化現象に注目し，実際の調査 (文化人類学・ 民俗学的なフィールドワーク) を通じてこれらの能力を養成することを目的としている．授業では調査計画の立案に始まり，実際のフィールドワークを行い，その結果得られたデータを整理・ 分析し，報告書にまとめあげるまでの過程を「体験的に」学習する． 先行研究の内容を踏まえていなければ，フィールドワークの成果は十分に上がらない．本授業では，特定のテーマに関連した文献資料を効率よく収集し，調査研究に生かす手法についてもあわせて紹介する．

【授業概要】文化人類学実習

【キーワード】**地域調査，文化人類学，民俗学，フィールドワーク**

【関連科目】『地域調査演習 A』(0.5, ⇒130 頁), 『地域調査法 IA』(0.5, ⇒125 頁), 『地域調査法 IIA』(0.5, ⇒125 頁)

【履修上の注意】地域調査法 IA(前期)・IIA(後期) では調査の理論と技法を，地域調査演習 A(前期・後期) では実践と応用を学ぶので，同時受講を前提とする．前期・後期の授業内容は相互に密接な関連を持つため，通年で受講することが望ましい．また，実習という授業の性格上，受講者数を制限することがある．本授業では，日本国内の特定地域をフィールドとして共通の研究テーマを設定 (祭り・年中行事・人生儀礼・衣食住・伝説・観光など，さまざまな文化現象の中から一つを選定) し，担当教員と学生が共同で調査研究を行っていく．調査対象地域と調査テーマについては，受講者と相談の上決定する．授業では，受講者を数名ずつのグループに分けて具体的な作業を進めてもらう．その中で，講義形式の授業では行いにくい，ディスカッションやプレゼンテーションの訓練も積むようにしたい．

【到達目標】文化人類学・民俗学的なフィールドワークを計画・実行し，その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる．

【授業計画】**1.** フィールドワークとは **2.** 調査の企画 (1) 調査地・調査テーマの検討 **3.** 調査の企画 (2) 調査地・調査テーマの検討 **4.** 調査の企画 (3) 調査地・テーマの決定 **5.** 調査計画の立案 (1) 問題の

設定と仮説構成 **6.** 調査計画の立案 (2) 調査スケジュールの検討 **7.** 調査計画の立案 (3) 調査班の編成 **8.** 関連文献の収集 (1) 文献検索・収集 **9.** 関連文献の収集 (2) 文献リストの作成 **10.** 関連文献の輪読 (1) **11.** 関連文献の輪読 (2) **12.** 関連文献の輪読 (3) **13.** 予備調査の計画 (1) 実施体制・内容の検討 **14.** 予備調査の計画 (2) 役割分担の検討 **15.** 予備調査の実施 (1) **16.** 予備調査の実施 (2)

【成績評価】授業への取り組み状況，授業中に課せられるレポートや報告の内容，調査時における姿勢や分析力をもとに評価を行う．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は使用しない．授業中に随時プリントを配布する．

【参考書】

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる．
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社，2002
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社，1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房，1999 年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣，1997 年
- ◇ 高橋晋一編『徳島大学文化人類学研究室報告』1～9，同研究室，1996 年 ～ 2009 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218818

【連絡先】

⇒ 髙橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)水曜日12時～ 13時)

【備考】本年度開講せず (隔年開講．次回は平成 25 年度開講予定)

地域調査演習 A

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】地域の本質を把握するためには，的確な視点から問題を設定し，綿密な調査を通じて実証を重ねていく作業が不可欠である．本実習では，地域に展開する文化現象に注目し，実際の調査 (文化人類学・ 民俗学的なフィールドワーク) を通じてこれらの能力を養成することを目的としている．授業では調査計画の立案に始まり，実際のフィールドワークを行い，その結果得られたデータを整理・ 分析し，報告書にまとめあげるまでの過程を「体験的に」学習する． 先行研究の内容を踏まえていなければ，フィールドワークの成果は十分に上がらない．本授業では，特定のテーマに関連した文献資料を効率よく収集し，調査研究に生かす手法についてもあわせて紹介する．

【授業概要】文化人類学実習

【キーワード】地域調査，文化人類学，民俗学，フィールドワーク

【関連科目】『地域調査演習 A』(0.5, ⇒129 頁)，『地域調査法 IA』(0.5, ⇒125 頁)，『地域調査法 IIA』(0.5, ⇒125 頁)

【履修上の注意】地域調査法 IA(前期)・IIA(後期) では調査の理論と技法を，地域調査演習 A(前期・後期) では実践と応用を学ぶので，同時受講を前提とする．前期・後期の授業内容は相互に密接な関連を持つため，通年で受講することが望ましい．また，実習という授業の性格上，受講者数を制限することがある．本授業では，日本国内の特定地域をフィールドとして共通の研究テーマを設定 (祭り・年中行事・人生儀礼・衣食住・伝説・観光など，さまざまな文化現象の中から一つを選定) し，担当教員と学生が共同で調査研究を行っていく．調査対象地域と調査テーマについては，受講者と相談の上決定する．授業では，受講者を数名ずつのグループに分けて具体的な作業を進めてもらう．その中で，講義形式の授業では行いにくい，ディスカッションやプレゼンテーションの訓練も積むようにしたい．

【到達目標】文化人類学・民俗学的なフィールドワークを計画・実行し，その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる．

【授業計画】1. 予備調査結果の報告会 **2.** 本調査に向けての体制作り (1) 調査体制の検討 **3.** 本調査に向けての体制作り (2) 調査要項の確定 **4.** 本調査の実施 **5.** 本調査のデータ整理 (1) **6.** 本調査のデータ整理 (2) **7.** 補足調査項目の検討 **8.** 補足調査の実施 **9.** 調査報告書の構成検討，執筆分担 **10.** 調査結果の整理・分析，報告書原稿の執筆 (1) **11.** 調査結果の整理・分析，報告書原稿の執筆 (2) **12.** 調査結果の整理・分析，報告書原稿の執筆 (3) **13.** 研究成果報告会に向けての準備作業 **14.** 研究成果報告会 **15.** 報告書の発送作業 **16.** 1 年の調査経験をふまえての討論会

【成績評価】授業への取り組み状況，授業中に課せられるレポートや報告の内容，調査時における姿勢や分析力をもとに評価を行う．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は使用しない．授業中に随時プリントを配布する．

【参考書】

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる．
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社，2002 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社，1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房，1999 年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣，1997 年
- ◇ 高橋晋一編『徳島大学文化人類学研究室報告』1～9，同研究室，1996 年 ～ 2009 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218819

【連絡先】

⇒ 髙橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)水曜日12時～ 13時)

【備考】本年度開講せず (隔年開講．次回は平成 25 年度開講予定)

地域調査演習 B

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】歴史地理学の目的は，歴史的景観や歴史的空間の形成・変容過程を明らかにすることであり，そのためには，資料調査 (インドアワーク) や現地調査 (フィールドワーク) にもとづく実証的な分析が必要となる．本授業では，実際に歴史的資料の分析や現地調査を行い，地域調査の面白さや醍醐味を肌で感じてもらうことを目的としている．調査結果については分析を加え，報告書や歴史地図としてまとめる予定である．調査テーマとしては，「景観復原」を題材に調査実習を行うとともに，画像処理や GIS 分析なども予定している．

【授業概要】歴史地理学実習

【キーワード】地域調査，歴史地理学，歴史的景観，古地図

【履修上の注意】地域調査法 IB・IIB では地域調査の理論と技法を，地域調査演習 IB・IIB では地域調査の実践と応用を学ぶことになるので，両者を併せて前後期とも受講することが望ましい．ただし，本授業は実習形式の性格のため，受講者数を制限する場合がある．また，現地調査等については定められた授業時間外 (休暇中や週末など) を利用して，宿泊または日帰りで行う場合がある．

【到達目標】地域調査の立案と設計，情報の入手，仮説と検証の手続きなど，地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する．

【授業計画】1. 歴史地理学研究の目的と分析方法 (GIS 分析を含む) **2.** 歴史地理学研究で用いる資料 **3.** GIS を用いた歴史地理学分析 **4.** 調査テーマと調査対象地域の設定 **5.** 調査予定地の見学 **6.** 調査計画書の作成 **7.** 調査テーマに関する文献調査 **8.** 文献研究の報告 1 **9.** 文献研究の報告 2 **10.** 調査地域についての資料収集 **11.** 収集資料の分析報告 1(GIS 分析を含む) **12.** 収集資料の分析報告 2(GIS 分析を含む) **13.** 研究仮説の組み立て **14.** 調査対象地域の予備調査 1 **15.** 調査対象地域の予備調査 2 **16.** 予備調査のまとめ

【成績評価】授業中に課せられるレポートや報告内容，調査時における姿勢や分析力，出席状況をもとに評価を行う．

【再試験】再試験はない

【教科書】教科書はとくには使用しない．必要な資料については適宜配布する．参考書としては，有薗正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院，2,800 円がある．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219989

【連絡先】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 23 年度は開講せず．平成 24 年度開講予定．

地域調査演習 B

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】歴史地理学の目的は，歴史的景観や歴史的空間の形成・変容過程を明らかにすることであり，そのためには，資料調査 (インドアワーク) や現地調査 (フィールドワーク) にもとづく実証的な分析が必要となる．本授業では，実際に歴史的資料の分析や現地調査を行い，地域調査の面白さや醍醐味を肌で感じてもらうことを目的としている．調査結果については分析を加え，報告書や歴史地図としてまとめる予定である．調査テーマとしては，「景観復原」を題材に調査実習を行うとともに，画像処理や GIS 分析なども予定している．

【授業概要】歴史地理学実習

【キーワード】地域調査，歴史地理学，歴史的景観，古地図

【履修上の注意】地域調査法 IB・IIB では地域調査の理論と技法を，地域調査演習 IB・IIB では地域調査の実践と応用を学ぶことになるので，両者を併せて前後期とも受講することが望ましい．ただし，本授業は実習という性格のため，受講者数を制限する場合がある．また，現地調査等については定められた授業時間外 (休暇中や週末など) を利用して，宿泊または日帰りで行う場合がある．

【到達目標】】地域調査の立案と設計，情報の入手，仮説と検証の手続きなど，地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する．

【授業計画】1. 予備調査結果の報告 1 **2.** 予備調査結果の報告 2 **3.** 現地調査課題の検討 **4.** 現地調査の実施 1 **5.** 現地調査の実施 2 **6.** 現地調査の実施 3(GPS 実習を含む) **7.** 現地調査の実施 4(GPS 実習を含む) **8.** 調査結果の集約 **9.** 調査結果の地図化作業 1(画像処理) **10.** 調査結果の地図化作業 2(GIS 分析) **11.** 調査結果の報告 1 **12.** 調査結果の報告 2 **13.** 補足調査と資料の補完 1 **14.** 補足調査と資料の補完 2 **15.** 報告書・歴史地図・GIS 地図の作成 1 **16.** 報告書・歴史地図・GIS 地図の作成 2

【成績評価】授業中に課せられるレポートや報告内容，調査時における姿勢や分析力，出席状況をもとに評価を行う．

【再試験】再試験はしない．

【教科書】 教科書はとくには使用しない．必要な資料については適宜配布する．参考書としては，有薗正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院，2,800 円がある．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219990

【連絡先】
⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 平成 23 年度は開講せず．平成 24 年度開講予定．

地域調査演習 C

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 「地域調査演習 C」では，地域に展開する経済 · 社会現象に注目し，さまざまな調査技法を学びながら実践的な調査能力を養成することを目的としている．現地でのフィールドワークと，その準備および分析のためのインドアワークは調査研究の両輪であり，これら両面にわたるトレーニングを通じ，積極的な行動力と論理的な思考力とを身につけてほしい．

【授業概要】 人文地理学的な地域調査の実際

【キーワード】 地理学，社会調査，地域問題

【関連科目】 『地域調査法 IC』(1.0, ⇒126 頁)，『地域調査法 IC』(1.0, ⇒126 頁)

【履修上の注意】 「地域調査法 IC」「地域調査法 IIC」 では調査の理論と技法を，「地域調査演習 C」 では実践と応用を学ぶので，両者を併せて受講することが望ましい．授業では，講義形式による解説に平行してコンピュータを利用した実習をおこなう．前提として受講者は「社会統計学 I」をあらかじめ履修しておくか，並行して履修することが求められる．なお，利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある．

【到達目標】 地域調査の立案と設計，情報の入手，仮説と検証の手続きなど，地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する．

【授業計画】 **1.** オリエンテーション ： 授業の進め方，実習室の利用方法，端末操作の注意 **2.** 地域調査 · 社会調査の方法 ： 量的調査と質的調査 **3.** 図書 · 文献の検索法 ： 図書館の利用法，文献目録データベース使い方 **4.** 統計データの入手法 ： 県議会資料室または県立図書館での実習 **5.** インターネットを用いた情報検索 ： 統計ポータルサイト，国土数値情報 **6.** 関連文献の講読と討論 (1) **7.** 関連文献の講読と討論 (2) **8.** 調査対象地域の統計データと分析 (1) ： 国勢調査，事業所 · 企業統計など **9.** 調査対象地域の統計データと分析 (2) ： パーソントリップ調査など **10.** 調査依頼の方法 ： 依頼状 · 礼状の書き方，電話のかけ方 **11.** インタビュー調査の方法 ： 話の聞き方，メモの取り方 **12.** 調査対象地域でのインタビューと資料収集 (1) ： 自治体 · 公的機関など **13.** 記録の作成と討論 (1) **14.** 調査対象自治体でのインタビューと資料収集 (2) ： 関係団体，企業など **15.** 記録の作成と討論 (2) **16.** 授業のまとめ

【成績評価】 発表やレポートの内容など授業への取り組みのほか，行動力，表現力，チームワークにおける指導性や協調性を見ながら総合的に評価する．

【再試験】 行わない

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218820

【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154，toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

【備考】 平成 24 年度開講

地域調査演習 C

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
豊田 哲也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 「地域調査演習 C」では，地域に展開する経済 · 社会現象に注目し，さまざまな調査技法を学びながら実践的な調査能力を養成することを目的としている．現地でのフィールドワークと，その準備および分析のためのインドアワークは調査研究の両輪であり，これら両面にわたるトレーニングを通じ，積極的な行動力と論理的な思考力とを身につけてほしい．

【授業概要】 人文地理学的な地域調査の実際

【キーワード】 地理学，社会調査，地域問題

【先行科目】 『地域調査法 IC』(1.0, ⇒126 頁)，『地域調査演習 C』(1.0, ⇒131 頁)

【関連科目】 『地域調査法 IIC』(1.0, ⇒127 頁)

【履修上の注意】 「地域調査法 IC」「地域調査法 IIC」 では調査の理論と技法を，「地域調査演習 C」 では実践と応用を学ぶので，両者を併せて受講することが望ましい．機器の台数や実習室の制約から受講者数を制限する場合がある．定められた授業時間外 (休暇中や週末など) に，宿泊を含む野外実習をおこなう．授業は主として前期で調査の計画を，後期で結果の取りまとめを扱うので，なるべく通年で受講すること．

【到達目標】 地域調査の立案と設計，情報の入手，仮説と検証の手続きなど，地域調査を遂行するのに必要な技術や能力を習得する．

【授業計画】 **1.** 調査の計画 ： 問題の設定，調査方法と対象，サンプル数の検討 **2.** 調査票の設計 (1) ： 調査項目の検討，構成，ワーディング **3.** 調査票の設計 (2) ： 暫定版の作成と関係団体との協議調整 **4.** 調査票の設計 (3) ： 調査票の内容修正と印刷 **5.** 現地調査 (1) ： 配票調査法または郵送回収調査法 **6.** 現地調査 (2) ： 配票調査法または郵送回収調査法 **7.** データ分析の技法 (1) ： Excel，SPSS を用いた集計方法，統計的仮説検定 **8.** データ分析の技法 (2) ： Excel，SPSS を用いた集計方法，統計的仮説検定 **9.** データの入力と分析 (1) ： 効率的なデータ入力とチェック法 **10.** データの入力と分析 (2) ： 分析技法の選択，欠損値の扱い方 **11.** データの入力と分析 (3) ： データの解釈と仮説へのフィードバック **12.** 分析結果の検討 ： 中間発表と討論 **13.** 調査レポートの作成作業 **14.** プレゼンテーションの技法 **15.** 発表会とレポート **16.** 授業のまとめ

【成績評価】 発表やレポートの内容など授業への取り組みのほか，行動力，表現力，チームワークにおける指導性や協調性を見ながら総合的に評価する．

【再試験】 行わない

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218821

【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154，toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜 12:00~ 13:00)

【備考】 平成 24 年度開講

地域調査演習 D

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
矢部 拓也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 まちづくりに関する調査・分析

【授業概要】 この授業では社会調査の手法を，実習の形式で修得することを目的とする．そこでは，特定のテーマを設定し，調査票を用いたサーベイ調査 (アンケート調査)，個別の団体調査・インタビュー調査，既存の統計資料調査など，多様な手法を用い，対象となる社会現象を記述・分析し，報告書の執筆，調査対象地域でのプレゼンテーション，場合によってはまちづくりへの実践活動することが目指される．調査の対象地域や課題に関しては，受講者と議論を通じて決めてゆきたい．また，本調査実習全体の設計に関しては，地域調査法 ID・IID で検討して決定するので，併せて受講することを希望する． 今年度は，まちづくりを基本テーマとして，調査自体が，地域社会に役立つことと，学生が卒業後も，実習経験が実際の仕事に役立つような形にしたい．つまり，学内の学生だけで完結するのではなく，常に対象者である地域社会とのインタラクションをもった「地域調査」を目指す．今のところ，以下のような形を考えている． 1.「地域の問題の掘り起こし」 2.「地域の人とのディスカッション」 3.「調査票の設計」 4.「調査」 5.「地域でのプレゼン/実践」 自分自身が中心市街地活性化に関心があることから，特に受講者側からの希望が無ければ，地元商店街などを対象とした中心市街地活性化に関する聞き取りから始めて行きたいと考えている． 単にテクニカルな調査票の作り方を学ぶのではなく，社会と関わり地域から学ぶことで，必要な知識を身につけて行くスタイルを取りたい．また，可能であるなら，徳島市や周辺自治体とのパートナーシップで，自治体の政策形成のための基礎調査や，これまでの政策評価などを行い，行政への政策提言，TMO(まちづくり会社) やまちづくりへの支援・参加をしてゆきたいと考えている． いずれにせよ，何らかの形で，学外 (地域) と関わり，評価が受けられるような調査実習にしたい．そして，このような授業を通じて，地域社会に開かれ，社会の問題が気楽に大学に持ちこまれる，シンクタンク機能と実践力をもった，頼れる大学 (地域調査実習) を目指そうと考えている．

【先行科目】 『地域調査法 ID』(1.0, ⇒127 頁)

【到達目標】 地域調査の実践を通じて，サーベイ調査の企画，実施，集計，分析，報告書の作成，プレゼンテーションをおこなえるようになる．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218822

【連絡先】
⇒ 矢部 (1228，088-656-9311，yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】 本年度開講 (次年度開講せず)

地域調査演習 D

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
矢部 拓也 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 まちづくりに関する調査・分析

【授業概要】 この授業では社会調査の手法を，実習の形式で修得することを目的とする．そこでは，特定のテーマを設定し，調査票を用いたサーベイ調査 (アンケート調査)，個別の団体調査・インタビュー調査，既存の統計資料調査など，多様な手法を用い，対象となる社会現象を記述・分析し，報告書の執筆，調査対象地域でのプレゼンテーション，場合によってはまちづくりへの実践活動することが目指される．調査の対象地域や課題に関しては，受講者と議論を通じて決めてゆきたい．また，本調査実習全体の設計に関しては，地域調査法 ID・IID で検討

して決定するので，併せて受講することを希望する． 今年度は，まちづくりを基本テーマとして，調査自体が，地域社会に役立つことと，学生が卒業後も，実習経験が実際の仕事に役立つような形にしたい．つまり，学内の学生だけで完結するのではなく，常に対象者である地域社会とのインタラクションをもった「地域調査」を目指す．今のところ，以下のような形を考えている． 1.「地域の問題の掘り起こし」 2.「地域の人とのディスカッション」 3.「調査票の設計」 4.「調査」 5.「地域でのプレゼン/実践」 自分自身が中心市街地活性化に関心があることから，特に受講者側からの希望が無ければ，地元商店街などを対象とした中心市街地活性化に関する聞き取りから始めて行きたいと考えている． 単にテクニカルな調査票の作り方を学ぶのではなく，社会と関わり地域から学ぶことで，必要な知識を身につけて行くスタイルを取りたい．また，可能であるなら，徳島市や周辺自治体とのパートナーシップで，自治体の政策形成のための基礎調査や，これまでの政策評価などを行い，行政への政策提言，TMO(まちづくり会社) やまちづくりへの支援・参加をしてゆきたいと考えている． いずれにせよ，何らかの形で，学外 (地域) と関わり，評価が受けられるような調査実習にしたい．そして，このような授業を通じて，地域社会に開かれ，社会の問題が気楽に大学に持ちこまれる，シンクタンク機能と実践力をもった，頼れる大学 (地域調査実習) を目指そうと考えている．

【到達目標】地域調査の実践を通じて，サーベイ調査の企画，実施，集計，分析，報告書の作成，プレゼンテーションをおこなえるようになる．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218823

【連絡先】

⇒ 矢部 (1228，088-656-9311，yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

【備考】本年度開講 (次年度開講せず)

地域調査演習 E

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】在宅療養の状況の複雑さを知り，現代社会理解には総合科学的視点が重要であることを理解する．さらに，エスノメソドロジー・会話分析という社会学の技法をもって分析することが，総合科学的理解に有意義であることを理解する．

【授業概要】調査地選定，予備調査，班別討論，再調査，ビデオ分析，原稿執筆，プレゼンテーション準備，報告会開催，報告書刊行，という一連の作業に従事しながら，プロジェクトを進行させていくということに必要な全ての能力を身につけていく．同時に，学問が実践的に使われていく現場に身を置くことで，学問の有用性を体感する．

【キーワード】在宅療養，エスノメソドロジー

【履修上の注意】初回から班分けと論文発表分担に入るので，欠席しないこと．欠席者には理由を問う．

【到達目標】

1. 邦文テキストを読んで，レジュメを作ることができる．
2. 欧文テキストを読んで，レジュメを作ることができる．
3. 半構造化インタビューの準備として，質問項目一覧を作れる
4. エスノメソドロジー・会話分析という社会学の潮流について概要を理解する

【授業計画】1. イントロダクション．合宿日程，実習幹事の決定． **2.** テキスト 1 の 1 章の読解 **3.** テキスト 1 の 2 章の読解 **4.** テキスト 1 の 3 章の読解 **5.** テキスト 1 の 4 章の読解 **6.** インタビューの練習 (1) **7.** インタビューの練習 (2) **8.** ビデオ撮影の練習 (1) **9.** ビデオ撮影の練習 (2) **10.** テキスト 2 の 1 章の読解 **11.** テキスト 2 の 2 章の読解 **12.** テキスト 2 の 3 章の読解 **13.** テキスト 2 の 4 章の読解 **14.** 現地調査準備 **15.** 夏合宿準備

【成績評価】日常の授業への取り組みに基づいて評価する (100%)

【再試験】行わない．

【教科書】

◇ 串田 秀也・好井 裕明 編『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社
◇ 山崎敬一編 2004『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218824

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

【備考】同一教員が同一曜日に開講している地域調査法と同時に履修すること．また，卒論テーマ発表会，卒論中間発表会，および，卒論発表会が，授業関連の行事として開催される，5 月 25 日，11 月 11 日，2012 年 2 月 12 日はなるべく予定をあけておくこと．

地域調査演習 E

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業概要】樫田開講の地域調査演習 (2 年前期用) とほぼ同内容．テキスト (未定) が変わることと，調査の分析が増えることが変化．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218825

【連絡先】

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域調査演習 F

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】本年度は，徳島市に建設されたモスクとそこに集まる人々，および近隣住民に対して国際社会学的なアプローチから調査を行う．2000 年代に入って全国各地でモスクの建設が進んでおり，徳島モスクは四国で 3 つ目になる．そして地方都市のモスクの多くは，留学生を主な担い手としているが，建設費用は全国的な募金によりまかなっている．外国人多住地域とはいえない徳島のような地域で，ムスリムたちはどのように集い，必要な資源を動員し，近隣住民とどのような関係を結び，滞日経験をここのムスリムはどのように意味づけているかを分析することが，この実習の目的である．その際，調査に関する基礎的な事項をこの実習で学び，具体的なインタビューの分析や報告書の執筆などは後期に行う．

【授業概要】 授業は，フィールドワークに向けた準備や予備知識の蓄積と，実際のフィールドワークからなる．前期は，調査の基礎的な仕方を教えるほか，予備調査から本調査に至るまでの過程を教える．具体的には，以下の順で調査を行っていく予定．イスラームやムスリムに対する基礎的な知識の習得 → ムスリム移民の世界的な状況と日本での現状についての解説 → ホームページからアクセス可能なムスリム・ネットワークに関わる情報の入手 → インタビューの実際 (フィールドワーク)→ インタビュー後の記録作り → 資料に基づく調査対象者の選定 → 2 回目のフィールドワーク → インタビュー後の作業 → 調査計画書の作成と提出

【履修上の注意】 基本的には前後期を通して報告書執筆まで到達してもらうため，通年での受講を前提としている．また，樋口が開講する調査法と連続した内容になるため，両方セットでの受講を前提とする．

【到達目標】調査の実践を学ぶ．

【授業計画】調査法の授業とセットで行うため，基本的にはそれに併せて進める．

【成績評価】実習科目であるため，調査への参加や記録作成など，通常の作業により評価する．

【再試験】行わない

【教科書】調査法と同じ

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218826

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

【備考】平成 25 年度開講

地域調査演習 F

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】前期に引き続いて，徳島に建設されたモスクの調査を行う．2000 年代に入って全国各地でモスクの建設が進んでおり，徳島モスクは四国で 3 つ目になる．そして地方都市のモスクの多くは，留学生を主な担い手としているが，建設費用は全国的な募金によりまかなっている．外国人多住地域とはいえない徳島のような地域で，ムスリムたちはどのように集い，必要な資源を動員し，近隣住民とどのような関係を結び，滞日経験をここのムスリムはどのように意味づけているかを分析することが，この実習の目的である．後期には，本格的に調査を進めていくことになるため，受講生ひとりひとりが個々のムスリムたちとコミュニケーションをとる機会を多く設ける．それにより，異なる文化にアプローチする際の倫理と方法についても学ぶ．

【授業概要】 前期の調査を受けて，後期では関心に従って以下の 3 つの班に分かれて調査を行う．(1) モスクという組織水準を中心に展開するネットワークの調査．(2) 個々のムスリムたちのライフヒストリーと滞日経験の意味づけ．(3) 近隣住民との関係．班ごとに各 10 件程度のインタビューを行っていく．実習では，フィールドワークをあいた日程に入れていくほか，インタビュー記録の整理の仕方やそれを報告書に向けて焦点を絞る作業を行う．具体的には以下のようにして進める．班ごとに詳細な質問票を作成 → 対象者へのアポイント取りとインタビューのアレンジメント → インタビュー → 記録作りと情報共有の方法の習得 → 報告書に向けた個々人のテーマ設定 → 調査データの分析と報告書執筆．

【履修上の注意】前期から連続した内容なので，連続での受講を前提とする．また，調査法と連動した授業なので，セットでの受講を前提とする．

【到達目標】 最初は一通りやり方を学ぶ機会を 3 回ほど設け，その後はインタビューの補助として記録の作成などを行い，最終的には報告書を執筆する

【授業計画】調査法と連動して行うので，基本的には調査法と同じ．
【成績評価】最終的な報告書に加えて，そこに至る過程でのさまざまな作業状況をみて評価する．
【再試験】行わない
【教科書】調査法と同じ
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218827
【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)
【備考】平成 25 年度開講

地域調査演習 G

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
田中 耕市 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業では，地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査を学ぶ．
【授業概要】地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査を実施する．
【キーワード】**地域調査**
【関連科目】『地域調査法 IG』(0.5, ⇒128 頁), 『地域調査演習 G』(0.5, ⇒133 頁), 『地域調査法 IIG』(0.5, ⇒129 頁)
【履修上の注意】地域調査法 IG を履修すること．土日や休業期間等の授業時間外に，宿泊を伴う現地調査を実施する予定である．
【到達目標】地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査の実践法を習得する．
【授業計画】**1.** フィールドワークとは?1 **2.** フィールドワークとは?2 **3.** 文献の収集 1 **4.** 文献の収集 2 **5.** 統計データの種類と入手法 **6.** 統計データを用いた分析法 1 **7.** 統計データを用いた分析法 2 **8.** ミニ巡検 1 **9.** ミニ巡検 2 **10.** 空間データの種類と入手法 **11.** 空間データを用いた分析法 1 **12.** 空間データを用いた分析法 2 **13.** 調査地の情報・資料の分析 1 **14.** 調査地の情報・資料の分析 2 **15.** 予備調査 1 **16.** 予備調査 2
【成績評価】授業への取組み，レポートやプレゼン内容をもとに評価する．
【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218828
【連絡先】
⇒ 田中 .

地域調査演習 G

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
田中 耕市 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業では，地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査を学ぶ．
【授業概要】この授業では，地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査を学ぶ．
【キーワード】**地域調査**
【先行科目】『地域調査演習 G』(1.0, ⇒133 頁), 『地域調査法 IG』(1.0, ⇒128 頁)
【関連科目】『地域調査法 IIG』(0.5, ⇒129 頁)
【履修上の注意】前期に「地域調査法 IG」および「地域調査演習 G(前期)」を履修すること．後期は「地域調査法 IIG」を履修すること．土日や休業期間等の授業時間外に，宿泊を伴う現地調査を実施する予定である．
【到達目標】地域の問題とそのメカニズムを解明していくために必要な地域調査の実践法を習得する．
【授業計画】**1.** 現地調査 1 **2.** 現地調査 2 **3.** 現地調査 3 **4.** 現地調査 4 **5.** 現地調査で得た資料・データの分析 1 **6.** 現地調査で得た資料・データの分析 2 **7.** 現地調査で得た資料・データの分析 3 **8.** 補足調査 1 **9.** 補足調査 2 **10.** プレゼンテーションの作成 1 **11.** プレゼンテーションの作成 2 **12.** プレゼンテーションの実施 **13.** 報告書の作成 1 **14.** 報告書の作成 2 **15.** 報告書の作成 3 **16.** 総括
【成績評価】授業への取組み，レポートやプレゼン内容をもとに評価する．
【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/jpn/staff/kou/
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218829
【連絡先】
⇒ 田中 .

地域調査演習 H

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科，中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】本授業では，地域問題を考察・解明するのに不可欠な地域調査を行うための研究方法，さらにその調査結果を分析しまとめる方法の修得が課題である．このため，研究テーマを設定し，統計資料分析，現地調査から，地域の実態と，それを踏まえた新たな地域政策をも解明することにある．地域調査演習 H の前期では，こうした地域調査に不可欠な研究手法や分析手法の基礎を，後期では，調査結果を分析する際の方法を学ぶ．
【授業概要】地域課題を考察するのに必要な地域調査と資料・統計分析法の習得
【キーワード】**フィールドワーク 地域情報 情報分析**
【履修上の注意】地域調査演習 H では地域調査の基礎と技法を，地域調査法 IH ·IIH では地域調査の実践と応用を学ぶので，両者を併せて前後期とも受講すること．ただし，本授業は実習的な性格をもつため，受講者数を制限する場合がある．
【到達目標】地域調査に必要な調査方法とデータ収集 · 解析に関する基本的な手法を身につける．
【授業計画】**1.** 地域調査の目的と意義 **2.** 地域調査について (1) **3.** 地域調査について (2) **4.** 地域調査について (3) **5.** インターネットを用いた情報・文献の検索・収集法 (1) **6.** インターネットを用いた情報・文献の検索・収集法 (2) **7.** 地域および地域政策に関する資料 · 統計等データの収集法 (1) **8.** 地域および地域政策に関する資料 · 統計等データの収集法 (2) **9.** 地域調査の事例紹介 (1) **10.** 地域調査の事例紹介 (2) **11.** 地域調査の事例紹介 (3) **12.** 地域調査の事例紹介 (4) **13.** フィールドワークの方法 (1) **14.** フィールドワークの方法 (2) **15.** フィールドワークの方法 (3) **16.** まとめ
【成績評価】授業中の課題やレポート，発表内容や授業への取り組み状況をもとに評価する．
【再試験】無
【教科書】本授業では教科書は指定せず，必要な資料については適宜配布する．
【参考書】必要な参考資料については適時紹介する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218830
【連絡先】
⇒ 北村 .
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】平成 24 年度開講

地域調査演習 H

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科，中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】本授業は，地域調査を行うための研究方法，また調査結果を分析・文書化する方法を修得することを目的とする．地域調査の目的は，研究テーマを設定し，統計資料分析や現地調査から，地域の実態と，それを踏まえた新たな地域のあるべき政策をも解明することにある．地域調査演習 H の前期では，地域調査に不可欠な研究手法の基礎を，後期は主として調査結果を分析・文章化する際の方法について学ぶ．
【授業概要】地域調査を踏まえた資料・統計分析方法の習得
【キーワード】**地域調査. 地域情報. 情報資料分析**
【履修上の注意】地域調査演習 H では地域調査の基礎と技法を，地域調査法 IH ·IIH では地域調査の実践と応用を学ぶので，両者を併せて前後期とも受講すること．ただし，本授業では，受講者数を制限する場合がある．
【到達目標】地域調査に必要な調査方法とデータ収集 · 解析に関する手法を培う．
【授業計画】**1.** 地域調査の分析とまとめについて (1) **2.** 地域調査の分析とまとめについて (2) **3.** 地域情報・データの作成・整理 (1) **4.** 地域情報・データの作成・整理 (2) **5.** 統計や資料を用いた分析方法 (1) **6.** 統計や資料を用いた分析方法 (2) **7.** 統計や資料を用いた分析方法 (3) **8.** 分析結果のプレゼン法 (1) **9.** 分析結果のプレゼン法 (2) **10.** 分析結果のプレゼン法 (2) **11.** 報告書の作成法 (1) **12.** 報告書の作成法 (2) **13.** 報告書の作成法 (3) **14.** 報告書の作成法 (4) **15.** まとめ (1) **16.** まとめ (2)
【成績評価】授業中の課題やレポート，発表内容や授業への取り組み状況をもとに評価する．
【再試験】無
【教科書】本授業では，教科書は指定しない．必要な資料については適宜配布する．
【参考書】必要な参考資料については適時紹介する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218831
【連絡先】
⇒ 北村 .
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】平成 24 年度開講

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220252
【連絡先】
⇒ 北村 .

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220253
【連絡先】
⇒ 北村 .

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する歴史地理的現象や農山村における空間構造やその変容過程について，地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている．「歴史地理学」や「農村地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から，受講者が自らテーマを設定し，卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向け，GIS(地理情報システム) を援用した独自の調査 · 分析をおこない，論理的な考察を深めることを目的とする．
【授業概要】歴史地理学ゼミナール
【キーワード】**地理学，歴史地理学，歴史的景観，村落，古地図**
【履修上の注意】地域総合演習 (3 年後期) と併せて通年で履修すること．4 年次向けに開講される地域総合演習 (4 年前後期) とは，単位の重ね読みができる．本演習の受講にあたって，「地理学の基礎 I」や「地理学の基礎 II」，「地域構造論」，「地域変容論研究」，「地域調査法」「地域調査演習」(いずれでも可) を受講することが望ましい．
【到達目標】歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び，適切な方法による調査や分析をおこない，報告書にまとめることができる．
【授業計画】**1.** 歴史地理学や農村地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている．3 年次では，受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづいた個人調査をおこない，地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる．そのための最初のステップとして，自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため，いくつかの研究論文を選び，内容をまとめて発表する．次に，取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し，調査や分析の方法を検討しながら，夏季個人調査に向けた準備をおこなう． **2.** 個人研究では，受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である．また，参加者全員が真剣な討論をおこなうことで，切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている． **3.** なお，発表時期など具体的なスケジュールは，関連する他の地域総合演習とも有機的な連携をとりながら，受講者と相談の上で決定する．
【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲，報告内容の水準をもとに評価する．なお，成績評価については地域情報ゼミナール担当教官の合議のもとに判定する．
【再試験】無
【教科書】
◇ 参考書 有薗正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院，¥2，800
◇ 参考書 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社，¥2，500
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220254
【連絡先】
⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期· 後期 月曜日 16:30-17:30)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
平井 松午 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する歴史地理的現象や農山村の空間構造やその変容過程について，地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている．「歴史地理学」や「農村地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から，受講者が自らテーマを設定し，卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向け，GIS(地理情報システム) を援用した独自の調査 · 分析をおこない，論理的な考察を深めることを目的とする．
【授業概要】歴史地理学ゼミナール
【キーワード】**地理学，歴史地理学，歴史的景観，村落，古地図**
【履修上の注意】地域総合演習 (3 年前期) と併せて通年で履修すること．4 年次向けに開講される地域総合演習 (4 年前後期) とは，単位の重ね読みができる．本演習の受講にあたって，「地理学の基礎 I」や「地理学の基礎 II」，「地域構造論」，「地域変容論研究」，「地域調査法」「地域調査演習」(いずれでも可) を受講することが望ましい．
【到達目標】歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び，適切な方法による調査や分析をおこない，報告書にまとめることができる．
【授業計画】**1.** 地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている．3 年次では，受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづき個人調査をおこない，地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる．後期のゼミナールにおいては，フィールドワークの調査結果を報告し，その内容を多面的に討議 · 検討する．必要に応じ追加的な調査や分析をおこないながら，より完成度の高い報告書の作成を目指す． **2.** 個人研究では，受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である．また，参加者全員が真剣な討論をおこなうことで，切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている． **3.** なお，発表時期など具体的なスケジュールは，他の地域総合演習とも密接な連携をとりながら，受講者と相談の上で決定する．
【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．なお，成績評価については他の地域総合演習担当教官の合議のもとに判定する．
【再試験】無
【教科書】
◇ 参考書 有薗正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院，¥2，800
◇ 参考書 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社，¥2，500
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220255
【連絡先】
⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期· 後期 月曜日 16:30-17:30)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
髙橋 晋一 · 教授 (併任) / 社会創生学科

【授業目的】この授業は，文化人類学・民俗学的手法を用いて地域研究を進めていこうと考えている学生を対象としている．受講者には文化人類学・民俗学の基礎概念を修得してもらうとともに，実際に自ら研究テーマを設定し調査研究 (フィールドワーク) を進め，レポートを書くという経験を通して，文化人類学・民俗学的研究の視点と実践能力を体得してもらう．
【授業概要】文化人類学・民俗学ゼミナール
【キーワード】**文化人類学，民俗学，地域文化，フィールドワーク**
【履修上の注意】地域総合演習 (後期開講，髙橋担当) とあわせて通年で受講すること．
【到達目標】文化人類学 · 民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて，適切な方法による調査や分析をおこない，レポートにまとめることができる．
【授業計画】**1.** 3 年次では，受講者各自の関心に応じて研究テーマを設定し，実際の調査 (フィールドワーク) を行い，レポートを作成するという作業を通して，地域調査に関する実践的な能力を高めていく．前期のゼミナールにおいては，最初のステップとして，自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため，いくつかの研究論文を選び，内容をまとめて発表する．次に，取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し，調査や分析の方法を検討しながら，実際の調査に向けた準備を行う． **2.** 授業ではあわせて，文化人類学・民俗学の調査方法 (フィールドワーク)，研究の視点・方法に関する文献の輪読を進め，調査・研究を主体的に進める上での基礎能力を涵養していく．
【成績評価】授業への取り組み状況と討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．
【再試験】行わない．
【教科書】教科書は使用しない．授業中に適宜プリントを配布する．
【参考書】
◇ 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣，2001 年
◇ 伊藤亜人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣，2007 年
◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社，2007 年
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220256
【連絡先】
⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
髙橋 晋一 · 教授 (併任) / 社会創生学科

【授業目的】この授業は，文化人類学・民俗学的手法を用いて地域研究を進めていこうと考えている学生を対象としている．受講者には文化人類学・民俗学の基礎概念を修得してもらうとともに，実際に自ら研究テーマを設定し調査研究 (フィールドワーク) を進め，レポートを書くという経験を通して，文化人類学・民俗学的研究の視点・実践能力を体得してもらう．
【授業概要】文化人類学・民俗学ゼミナール
【キーワード】**文化人類学，民俗学，地域文化，フィールドワーク**

【履修上の注意】地域総合演習 (前期開講，髙橋担当) とあわせて通年で受講すること．

【到達目標】文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて，適切な方法による調査や分析をおこない，レポートにまとめることができる

【授業計画】**1.** 3 年次では，受講者各自の関心に応じて研究テーマを設定し，実際の調査 (フィールドワーク) を行い，レポートを作成するという作業を通して，地域調査に関する実践的な能力を高めていく．後期のゼミナールにおいては，フィールドワークの調査結果を報告し，その内容を多面的に討議・検討する．必要に応じ追加調査や分析をおこないながら，より完成度の高いレポートの作成を目指す． **2.** 授業ではあわせて，文化人類学・民俗学の調査方法 (フィールドワーク)，研究の視点・方法に関する文献の輪読を進め，調査・研究を主体的に進める上での基礎能力を涵養していく．

【成績評価】授業への取り組み状況と討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は使用しない．授業中に適宜プリントを配布する

【参考書】
- ◇ 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣，2001 年
- ◇ 伊藤亜人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣，2007 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220257

【連絡先】
⇒ 髙橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について，地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている．「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から，受講者が自らテーマを設定し，卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向け，地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない，論理的考察を深めることを目的とする．

【授業概要】人文地理学ゼミナール

【キーワード】**地理学，地域科学，地域問題，地理情報システム**

【関連科目】『地理学の基礎 I』(0.5, ⇒93 頁)，『地域構造論』(0.5, ⇒121 頁)

【履修上の注意】地域総合演習は 3 年前期・後期，4 年前期・後期を通して履修すること．

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない，レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる．

【授業計画】人文地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている．3 年次では，受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづいた個人調査をおこない，地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる．そのための最初のステップとして，自分が興味や関心を持つテーマの研究動向を概観するため，いくつかの研究論文を選び，内容をまとめて発表する．次に，取り上げた研究分野の中から具体的なテーマやフィールドを設定し，調査や分析の方法を検討しながら，夏季個人調査に向けた準備をおこなう．

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲，報告内容の水準をもとに評価する．

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220258

【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30~ 17:30)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
豊田 哲也・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について，地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている．「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から，受講者が自らテーマを設定し，卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向け，地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない，論理的考察を深めることを目的とする．

【授業概要】人文地理学ゼミナール

【キーワード】**地理学，地域科学，地域問題，地理情報システム**

【先行科目】『地域総合演習』(1.0, ⇒135 頁)

【関連科目】『地理学の基礎 I』(0.5, ⇒93 頁)，『地域構造論』(0.5, ⇒121 頁)

【履修上の注意】地域総合演習は 3 年前期・後期，4 年前期・後期を通して履修すること．

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない，レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる．

【授業計画】地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている．3 年次では，受講者が夏季休暇期間中に各自のテーマにもとづき個人調査をおこない，地域調査に関する実践的な能力を高めることが求められる．後期のゼミナールにおいては，フィールドワークの調査結果を報告し，その内容を多面的に討議・検討する．必要に応じ追加的な調査や分析をおこないながら，より完成度の高い報告書の作成を目指す．

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220259

【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期 月曜日 16:30~ 17:30)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する経済・社会現象やその変容過程について，空間的視点から研究しようとする学生を対象としている．教員と受講者とが十分に相談したうえで，「空間情報科学」に含まれるさまざまな研究領域の中から研究テーマを設定する．卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向かって，GIS(地理情報システム) を援用した独自の調査・分析を実施して，論理的考察を深めることを目的とする．

【授業概要】空間情報科学ゼミナール (3 年次前期対象)

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けての調査・分析・考察能力やレポート・論文執筆能力，プレゼンテーション能力の修得を目標としている．

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 論文輪読 1 **3.** 論文輪読 2 **4.** 論文輪読 3 **5.** 論文輪読 4 **6.** 論文輪読 5 **7.** 夏季個人調査の課題提案 **8.** 夏季個人調査の資料収集 1 **9.** 夏季個人調査の資料収集 2 **10.** 夏季個人調査の資料収集 3 **11.** 夏季個人調査の資料収集 4 **12.** 夏季個人調査の課題設定 **13.** 予備調査の実施 1 **14.** 予備調査の実施 2 **15.** 予備調査の実施 3 **16.** 予備調査の実施 4

【成績評価】毎回の授業の準備状況と討議への参加意欲とともに，数回の機会がある報告・発表内容の完成度をもとに評価する．当然ながら，単位取得には，規定回数の報告・発表をすることが前提である．

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220260

【連絡先】
⇒ 田中 . (オフィスアワー: 月曜日16:05-17:00)

【備考】この授業は，GIS 学術士資格の認定科目【D】である．

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
田中 耕市・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する経済・社会現象やその変容過程について，空間的視点から研究しようとする学生を対象としている．教員と受講者とが十分に相談したうえで，「空間情報科学」に含まれるさまざまな研究領域の中から研究テーマを設定する．卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向かって，GIS(地理情報システム) を援用した独自の調査・分析を実施して，論理的考察を深めることを目的とする．

【授業概要】空間情報科学ゼミナール (3 年次後期対象)

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けての調査・分析・考察能力やレポート・論文執筆能力，プレゼンテーション能力の修得を目標としている．

【授業計画】**1.** 夏季個人調査の概要報告 **2.** 夏季個人調査の詳細報告 **3.** 調査内容に関する議論 1 **4.** 調査内容に関する議論 2 **5.** 調査内容に関する議論 3 **6.** 追加資料の収集・分析 1 **7.** 追加資料の収集・分析 2 **8.** 追加資料の収集・分析 3 **9.** 追加調査の実施 1 **10.** 追加調査の実施 2 **11.** 追加調査の実施 3 **12.** 調査結果の発表・議論 1 **13.** 調査結果の発表・議論 2 **14.** 卒業論文の構想発表 1 **15.** 卒業論文の構想発表 2

【成績評価】毎回の授業の準備状況と討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．当然ながら，単位取得には，規定回数の報告・発表をすることが前提である．

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220261

【連絡先】
⇒ 田中 . (オフィスアワー: 月曜日16:05-17:00)

【備考】この授業は，GIS 学術士資格の認定科目【D】である．

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】日本社会および他の社会の諸現象，特に家族に関する事象，貧困や差別問題について分析・考察を行う．

【授業概要】受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び，その関連の文献を発表し，それをもとに討議する形式をとる．同時に，文献や資料の探し方，調査方法，分析方法，論文の構成など，論文作成の「基本」を勉強する． 上記に加えて，アメリカのホームレスや児童虐待問題などに関心をもち，現場を是非，自分の目でみたいという受講者がいる場合は，希望に応じて 4 年次にアメリカの大学のゼミとの交流プログラムや現地での現場見学を準備したい (渡航滞在費用は自己負担)．通訳に全面的に頼らず，できれば片言でも自分で話しかけることができれば見えてくるものが大きいと思います．

【履修上の注意】受講者には，3 年次の終わりに，卒業論文のテーマと方法を絞ってもらい，4 年次のはじめに卒業論文の章構成案を決定し，各章を順番に発表してもらう形で卒業論文指導を進めたい．

【到達目標】外国語の応用が苦手という言葉のハンディだけが原因で，自国文化以外の文化を体験する機会が制限を受けるという状況は，非常に残念なことです．このゼミナールの受講者には，できれば英語の実践能力を高め，文献と現場の両方から，社会や文化をみる目を養い，自分の職業や将来の人生設計に役立ててもらいたいと願っています．

【授業計画】卒業論文作成に向けたゼミであることから，受講者各自が，基本文献や資料を探し，読み，自分の関心や問題意識を絞っていくことが必要になります．そのために担当者も，個々の受講者の関心にそったトピック毎の必読文献を積極的にアドバイしていきたいと考えています．

【成績評価】授業への参加度，発表内容などにもとづく総合的評価

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220262

【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
上野 加代子・教授/社会創生学科

【授業目的】日本社会および他の社会の諸現象，特に家族に関する事象，貧困や差別問題について分析・考察を行う．

【授業概要】受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び，その関連の文献を発表し，それをもとに討議する形式をとる．同時に，文献や資料の探し方，調査方法，分析方法，論文の構成など，論文作成の「基本」を勉強する． 上記に加えて，アメリカのホームレスや児童虐待問題などに関心をもち，現場を是非，自分の目でみたいという受講者がいる場合は，希望に応じて 4 年次にアメリカの大学のゼミとの交流プログラムや現地での現場見学を準備したい (渡航滞在費用は自己負担)．通訳に全面的に頼らず，できれば片言でも自分で話しかけることができれば見えてくるものが大きいと思います．

【履修上の注意】受講者には，3 年次の終わりに，卒業論文のテーマと方法を絞ってもらい，4 年次のはじめに卒業論文の章構成案を決定し，各章を順番に発表してもらう形で卒業論文指導を進めたい．

【到達目標】外国語の応用が苦手という言葉のハンディだけが原因で，自国文化以外の文化を体験する機会が制限を受けるという状況は，非常に残念なことです．このゼミナールの受講者には，できれば英語の実践能力を高め，文献と現場の両方から，社会や文化をみる目を養い，自分の職業や将来の人生設計に役立ててもらいたいと願っています．

【授業計画】卒業論文作成に向けたゼミであることから，受講者各自が，基本文献や資料を探し，読み，自分の関心や問題意識を絞っていくことが必要になります．そのために担当者も，個々の受講者の関心にそったトピック毎の必読文献を積極的にアドバイしていきたいと考えています．

【成績評価】授業への参加度，発表内容などにもとづく総合的評価

【再試験】無

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220263

【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会理論を通して，社会を理解し考察する力を身につける．英語の社会学論文を読むことを通して，言語としての社会学を身につける．

【授業概要】Heritage & Maynard eds.2006 Communication in Medical Care 所収の諸論文を読みながら，社会を社会学的に見る見方を獲得する．前期は，6 章，7 章と 9 章を読解する．4 週間かけて一つの章を読む．文献表掲載の文献本体，本文関連の参考文献なども広く渉猟しながら，テキストを読む喜びを体感する．

【キーワード】エスノメソドロジー，社会学

【履修上の注意】予習が毎回必須である．サブゼミを組織することも検討している．電子辞書の所持が望ましい．

【到達目標】日本の主要大学の大学院入試の英文が辞書なく読めるようになること．自分で必要と感じた英文論文を教員の助けなく読んで，卒論等に引用できるようになること．

【授業計画】1. イントロダクション．構文読解能力の基礎的テスト． **2.** テキスト 6 章の 1 **3.** テキスト 6 章の 2 **4.** テキスト 6 章の 3 **5.** テキスト 6 章の 4 **6.** テキスト 7 章の 1 **7.** テキスト 7 章の 2 **8.** テキスト 7 章の 3 **9.** テキスト 7 章の 4 **10.** テキスト 9 章の 1 **11.** テキスト 9 章の 2 **12.** テキスト 9 章の 3 **13.** テキスト 9 章の 4 **14.** 実力テストレポートの答え合わせ (入試問題から) **15.** まとめ．ふりかえり． **16.** レポート講評

【成績評価】日常の取り組みとレポート．(80%+20%)

【再試験】おこなわない．

【教科書】Heritage and Maynard eds 2006 Communication in Medical Care(コピーを提供する)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220264

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業概要】地域総合演習 (3 年前期) とほぼ，同内容．テキストの 6，7，9 章のかわりに，1 章，2 章，3 章が扱われる．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220265

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】前後期を通じて，現代社会に対しての社会学的視座と社会問題を解決する力を身につけることを目指す．前期は，文献講読を通じて，現代社会の諸問題に対する基本的な社会学的視座を習得し，後期は，まちづくりを題材に，実践的な知を身につけることを目指す．

【授業概要】まずは，親密圏 (友だち関係) を題材に，土井 (2004) の文献を元に，身近な人間関係を分析する際の見方を習得する．次に，近年大きな問題になっている，失業，野宿者，貧困の問題を扱っている，湯浅 (2008) を取り上げる．湯浅は，単なる評論家とは異なり，現在の野宿者問題を理論的に分析した上で，派遣村や NPO などを通じた実践を行っている．後期につながる視点であるが，単なる社会分析に終わらず，実践に生きる社会分析を身につけて欲しい．その上で，我々現代人が進むべき社会とはどういった社会であるのかといった，マクロな視点から現代社会を再考するために，広井 (2001) を取り上げる．高度成長期以降の拡大社会から，今後の社会は人口停滞・縮小に向かう．新たに到来する社会とはこれまで我々が当然と思っていた社会とどのように異なるのか，「定常社会」というキーワードのもと，今後の社会のあり方について議論を行う．最後に後期へのつながりとして，金子 (1992) を取り上げる．金子は研究者でありながら，実際の NPO などの支援と実践を行っており，そこで経験する様々な問題点を踏まえながら，ボランティアという活動についての議論を展開している．学術的に分析することと，実践することの交差を議論する．

【キーワード】社会学，ボランティア，親密性，貧困，現代社会，定常社会

【到達目標】文献講読を通じて，現代社会を見る上での基本的な視点を身につけること

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 『「個性」を煽られる子どもたち:親密圏の変容を考える』 **3.** フリーター漂流ビデオ視聴 **4.** 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』1 **5.** 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』2 **6.** 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』3 **7.** 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』4 **8.** 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』1 **9.** 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』2 **10.** 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』3 **11.** 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』4 **12.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』1 **13.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』2 **14.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』3 **15.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』4 **16.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』5

【成績評価】成績評価は平常点 (ゼミにおけるプレゼンテーションと授業貢献)

【再試験】行わない

【教科書】

◇ 土井隆義，2004『「個性」を煽られる子どもたち:親密圏の変容を考える』岩波ブックレット 433
◇ 湯浅誠，2008『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』岩波書店
◇ 広井良典，2001『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』岩波書店
◇ 金子郁容，1992『ボランティア:もうひとつの情報社会』

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220266

【連絡先】
⇒ 矢部 (1228，088-656-9311，yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220267

【連絡先】
⇒ 矢部 (1228，088-656-9311，yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】本年度は，社会学的な考え方，発想の仕方を 1 年かけて習得する．身近なものや社会現象を社会学的にみるとは，いったいどのようなことなのか．社会学の古典が提示する命題の解説，さらにそれをさまざまな例にひきつけて解釈することにより，普段とは異なるものの見方ができるようにしていきたい．

【授業概要】さまざまな命題の理解・応用を通じた社会学的思考の醸成．教科書のほか，必要に応じて新聞記事などの補助資料を用いる．文献を読んで，それをまず理解してもらうことから始め，レジュメの切り方，議論の仕方を学ぶ．

【履修上の注意】毎回 1 回は必ず発言してもらう．どんな現象に対しても自分なりの意見を持てるようになってほしい．

【到達目標】輪番でレジュメをきちんと作成し，そのうえで参加者全員が命題や概念を事例にひきつけて解釈することが，最低限の到達目標となる．

【授業計画】**1.** オリエンテーション **2.** 自我の社会:ミード **3.** 文化としての性差:ミード **4.** 動機の語彙:ミルズ **5.** 自己呈示のドラマツルギー:ゴフマン **6.** 多元的現実の構成:シュッツ/バーガー **7.** ダブル・バインド:ベイトソン **8.** 認知的不協和の理論:フェスティンガー **9.** ラベリングと逸脱:ベッカー **10.** 予言の自己成就:マートン **11.** 外集団への敵対と内集団の親和 **12.** 準拠集団と相対的不満:マートン **13.** 寡頭制の鉄則:ミヘルス **14.** AGIL 図式:パーソンズ **15.** 互酬の不均衡と権力の派生:ブラウ

【成績評価】出席点，発表の回数と内容により成績評価を行う．

【再試験】無

【教科書】作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房，2100 円

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221571

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】前期に引き続いて，社会学的なものの考え方を学んでいく．基本的には前期の続きであり，詳しくは前期の内容を参考にされたい．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221572

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222076

【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303，088-656-7134，dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

地域総合演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
スタージ ドナルド・講師/人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222077

【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303，088-656-7134，dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221573

【連絡先】
⇒ 北村 .

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221574

【連絡先】
⇒ 北村 .

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する歴史地理的現象や農山村の空間構造やその変容過程について，地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている．「歴史地理学」や「農村地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から，受講者が自らテーマを設定し，卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向け，GIS(地理情報システム) を援用した独自な調査・分析をおこない，論理的な考察を深めることを目的とする．

【授業概要】歴史地理学ゼミナール

【キーワード】**地理学，歴史地理学，歴史的景観，村落，古地図**

【履修上の注意】地域 (4 年後期) と併せて通年で履修すること．3 年次向けに開講される地域総合演習 (3 年前後期) とは，単位の重ね読みができる．本演習の受講にあたって，「地理学の基礎 I」や「地理学の基礎 II」，「地域構造論」，「地域変容論研究」，「地域調査法」「地域調査演習」(いずれでも可) を受講することが望ましい．

【到達目標】歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び，適切な方法による調査や分析をおこない，卒業論文にまとめることができる．

【授業計画】**1.** 歴史地理学や農村地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている．4 年次前期には，卒業研究のテーマを確定し，調査・分析を着実に進めていくことが求められる．第一に，これまでの先行研究を広範かつ綿密に読みこなし，その方法論を学びとりながら応用や展開の可能性を探ることが重要である．第二に，独自の調査によって実証的なデータを収集し，研究目的にふさわしい分析を加えていかなくてはならない．授業では，それぞれの作業の進展に応じて 3 回程度の中間発表をおこない，その内容を教員および受講生全員で討議する． **2.** 卒業研究には，受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である．また，参加者全員が真剣な討論をおこなうことで，切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている． **3.** なお，発表時期など具体的なスケジュールは，他の地域総合演習と密接な連携をとりながら，受講者と相談の上で決定する．

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．なお，成績評価については他の地域総合演習担当教員の合議のもとに判定する．

【再試験】無

【教科書】
◇ 参考書 有薗正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院，¥2，800
◇ 参考書 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社，¥2，500

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221575

【連絡先】
⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期・後期 月曜日 16:30-17:30)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する歴史地理的現象や農山村の空間構造やその変容過程について，地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている．「歴史地理学」や「農村地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から，受講者が自らテーマを設定し，卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向け，GIS(地理情報システム)

を援用して独自の調査・分析をおこない，論理的な考察を深めることを目的とする．

【授業概要】歴史地理学ゼミナール

【キーワード】**地理学，歴史地理学，歴史的景観，村落，古地図**

【履修上の注意】地域総合演習 (3 年前期) と併せて通年で履修すること．3 年次向けに開講される地域総合演習 (3 年前後期) とは，単位の重ね読みができる．本演習の受講にあたって，「地理学の基礎 I」や「地理学の基礎 II」，「地域構造論」，「地域変容論研究」，「地域調査法」「地域調査演習」(いずれでも可) を受講することが望ましい．

【到達目標】歴史地理学や農村地理学の研究分野の中から研究テーマを主体的に選び，適切な方法による調査や分析をおこない，卒業論文にまとめることができる．

【授業計画】**1.** 地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている．4 年次後期には，卒業論文作成に向け，考察を深めながら調査結果をとりまとめていく．論文全体をどのように構成するか，分析結果をいかに論理的に解釈するか，成果をどう説得力のある形で表現するかが問われる．それぞれの作業の進展に応じて 2~ 3 回程度の中間発表をおこない，その内容を教員および受講生全員で討議する．論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては，適切な時期にその都度指示する． **2.** 卒業研究には，受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である．また，参加者全員が真剣な討論をおこなうことで，切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている． **3.** なお，発表時期など具体的なスケジュールは，他の地域総合演習と密接な連携をとりながら，受講者と相談の上で決定する．

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．なお，成績評価については他の地域総合演習担当教員の合議のもとに判定する．

【再試験】無

【教科書】

- ◇ 参考書 有薗正一郎ほか編『歴史地理学調査ハンドブック』古今書院，¥2，800
- ◇ 参考書 浮田典良編『ジオパル 21-地理学便利帳』海青社，¥2，500

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221576

【連絡先】

⇒ 平井 (2116，088-656-7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期· 後期 月曜日 16:30-17:30)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
髙橋 晋一·教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】この授業は，文化人類学・民俗学的手法を用いて卒業研究 (卒業論文作成) を進めていこうと考えている学生を対象としている．受講者は卒業研究の作成を目指して，文化人類学・民俗学の領域の中から自由に各自の研究テーマを設定し，授業中の発表・討議をふまえ，その研究内容の深化をはかる．

【授業概要】文化人類学・民俗学ゼミナール

【キーワード】**文化人類学，民俗学，地域文化，フィールドワーク**

【履修上の注意】地域総合演習 (後期開講，髙橋担当) とあわせて通年で受講すること．

【到達目標】文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて，適切な方法による調査や分析をおこない，卒業論文にまとめることができる．

【授業計画】**1.** 4 年次前期には，卒業研究のテーマを確定し，調査・分析を着実に進めていくことが求められる．第一に，これまでの先行研究を広範かつ綿密に読みこなし，その方法論を学びとりながら応用や展開の可能性を探ることが重要である．第二に，独自の調査によって実証的なデータを収集し，研究目的にふさわしい分析を加えていかなくてはならない．授業では，それぞれの作業の進展に応じて数回の中間発表をおこない，その内容を教員および受講生全員で討議する． **2.** 卒業研究には，受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である．また，参加者全員が真剣な討論をおこなうことで，切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている

【成績評価】授業への取り組み状況と討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は使用しない．授業中に適宜プリントを配布する．

【参考書】

- ◇ 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣，2001 年
- ◇ 伊藤亜人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣，2007 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221577

【連絡先】

⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
髙橋 晋一·教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】この授業は，文化人類学・民俗学的手法を用いて卒業研究 (卒業論文作成) を進めていこうと考えている学生を対象としている．受講者は卒業研究の作成を目指して，文化人類学・民俗学の領域の中から自由に各自の研究テーマを設定し，授業中の発表・討議をふまえ，その研究内容の深化をはかる．

【授業概要】文化人類学・民俗学ゼミナール

【キーワード】**文化人類学，民俗学，地域文化，フィールドワーク**

【履修上の注意】地域総合演習 (前期開講，髙橋担当) とあわせて通年で受講すること．

【到達目標】文化人類学・民俗学の研究領域の中から主体的に選んだ研究テーマについて，適切な方法による調査や分析をおこない，卒業論文にまとめることができる．

【授業計画】**1.** 4 年次後期には，卒業論文作成に向け，考察を深めながら調査結果をとりまとめていく．論文全体をどのように構成するか，分析結果をいかに論理的に解釈するか，成果をどう説得力のある形で表現するかが問われる．それぞれの作業の進展に応じて数回の中間発表をおこない，その内容を教員および受講生全員で討議する．論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては，適切な時期にその都度指示する． **2.** 卒業研究には，受講者の主体的な取り組みと粘り強い努力が必要である．また，参加者全員が真剣な討論をおこなうことで，切磋琢磨しながら内容を高めていくことが期待されている．

【成績評価】授業への取り組み状況と討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は使用しない．授業中に適宜プリントを配布する．

【参考書】

- ◇ 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣，2001 年
- ◇ 伊藤亜人『文化人類学で読む日本の民俗社会』有斐閣，2007 年
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221578

【連絡先】

⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜 12:00-13:00)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
豊田 哲也·准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について，地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている．「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から，受講者が自らテーマを設定し，卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向け，地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない，論理的考察を深めることを目的とする．

【授業概要】人文地理学ゼミナール

【キーワード】**地理学，地域科学，地域問題，地理情報システム**

【先行科目】『地域総合演習』(1.0，⇒135 頁)，『地域総合演習』(1.0，⇒135 頁)

【関連科目】『地理学の基礎 II』(0.5，⇒118 頁)，『地域構造論』(0.5，⇒121 頁)

【履修上の注意】地域総合演習は 3 年前期・後期，4 年前期・後期を通して履修すること．

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない，レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる．

【授業計画】人文地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている．4 年次前期には，卒業研究のテーマを確定し，調査・分析を着実に進めていくことが求められる．第一に，これまでの先行研究を広範かつ綿密に読みこなし，その方法論を学びとりながら応用や展開の可能性を探ることが重要である．第二に，独自の調査によって実証的なデータを収集し，研究目的にふさわしい分析を加えていかなくてはならない．授業では，それぞれの作業の進展に応じて 3 回程度の中間発表をおこない，その内容を教員および受講生全員で討議する．

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221579

【連絡先】

⇒ 豊田 (088-656-7154，toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 期· 後期 月曜日 16:30~ 17:30)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
豊田 哲也·准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する経済・社会現象の空間構造やその変容過程について，地理学的手法を用いて研究しようとする学生を対象としている．「人文地理学」に含まれるさまざまな研究領域の中から，受講者が自らテーマを設定し，卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向け，地理情報システムや地域統計分析を用いた独自の調査・分析をおこない，論理的考察を深めることを目的とする．

【授業概要】文地理学ゼミナール

【キーワード】**地理学，地域科学，地域問題，地理情報システム**

【先行科目】『地域総合演習』(1.0, ⇒135 頁)，『地域総合演習』(1.0, ⇒135 頁)，『地域総合演習』(1.0, ⇒138 頁)

【関連科目】『地理学の基礎 I』(0.5, ⇒93 頁)，『地域構造論』(0.5, ⇒121 頁)

【履修上の注意】地域総合演習は 3 年前期・後期，4 年前期・後期を通して履修すること．

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けて調査・分析をおこない，レポートや論文を執筆し説得力あるプレゼンテーションができる．

【授業計画】地理学では地域の実態を解明する手段としてフィールドワークが重視されている．4 年次後期には，卒業論文作成に向け，考察を深めながら調査結果をとりまとめていく．論文全体をどのように構成するか，分析結果をいかに論理的に解釈するか，成果をどう説得力のある形で表現するかが問われる．それぞれの作業の進展に応じて 2~ 3 回程度の中間発表をおこない，その内容を教員および受講生全員で討議する．論文作成に必要な手法や具体的な執筆要領などについては，適切な時期にその都度指示する．

【成績評価】授業への取り組みと討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．

【再試験】行わない

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221580

【連絡先】
⇒ 豊田 (088-656-7154, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期· 後期 月曜日 16:30~ 17:30)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
田中 耕市 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する経済・社会現象やその変容過程について，空間的視点から研究しようとする学生を対象としている．教員と受講者とが十分に相談したうえで，「空間情報科学」に含まれるさまざまな研究領域の中から研究テーマを設定する．卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向かって，GIS(地理情報システム) を援用した独自の調査・分析を実施して，論理的考察を深めることを目的とする．

【授業概要】空間情報科学ゼミナール (4 年次前期対象)

【到達目標】自ら設定した課題の解明に向けての調査・分析・考察能力やレポート・論文執筆能力，プレゼンテーション能力の修得を目標としている．

【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** 卒業研究中間報告 1 **3.** 卒業研究に関する議論 1 **4.** 卒業研究に関する議論 2 **5.** 資料収集・分析 1 **6.** 資料収集・分析 2 **7.** 卒業研究中間報告 2 **8.** 研究・調査の方針に関する議論 1 **9.** 研究・調査の方針に関する議論 2 **10.** 調査の実施・分析 1 **11.** 調査の実施・分析 2 **12.** 調査の実施・分析 3 **13.** 調査の実施・分析 4 **14.** 卒業研究中間報告 3 **15.** 夏季休暇時の調査計画立案

【成績評価】毎回の授業の準備状況と討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．当然ながら，単位取得には，規定回数の報告・発表をすることが前提である．

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221581

【連絡先】
⇒ 田中 .
⇒ 月曜日16:05-17:00

【備考】この授業は，GIS 学術士資格の認定科目【D】である．

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
田中 耕市 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業は，地域に展開する経済・社会現象やその変容過程について，空間的視点から研究しようとする学生を対象としている．教員と受講者とが十分に相談したうえで，「空間情報科学」に含まれるさまざまな研究領域の中から研究テーマを設定する．卒業研究 (卒業論文作成) という最終目標に向かって，GIS(地理情報システム) を援用した独自の調査・分析を実施して，論理的考察を深めることを目的とする．

【授業概要】空間情報科学ゼミナール (4 年次後期)

【到達目標】空間情報科学に関する研究分野の中から研究テーマを主体的に選び，適切な方法による調査や分析をおこない，報告書にまとめることができる．

【授業計画】**1.** 夏季休暇間の調査概要報告 **2.** 卒業研究中間報告 **3.** 調査内容に関する議論 1 **4.** 調査内容に関する議論 2 **5.** 調査・分析の実施 1 **6.** 調査・分析の実施 2 **7.** 調査・分析の実施 3 **8.** 卒業論文中間発表会 **9.** 卒業論文の執筆 1 **10.** 卒業論文の執筆 2 **11.** 卒業論文の執筆 3 **12.** 卒業論文の執筆 4 **13.** 卒業論文の修正 1 **14.** 卒業論文の修正 2 **15.** 卒業論文のまとめ

【成績評価】毎回の授業の準備状況と討議への参加意欲，報告内容の完成度をもとに評価する．当然ながら，単位取得には，規定回数の報告・発表をすることが前提である．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221582

【連絡先】
⇒ 田中 .
⇒ 月曜日16:05-17:00

【備考】この授業は，GIS 学術士資格の認定科目【D】である．

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
上野 加代子 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】日本社会および他の社会の諸現象，特に家族に関する事象，貧困や差別問題について分析・考察を行う．

【授業概要】受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び，その関連の文献を発表し，それをもとに討議する形式をとる．同時に，文献や資料の探し方，調査方法，分析方法，論文の構成など，論文作成の「基本」を勉強する． 上記に加えて，アメリカのホームレスや児童虐待問題などに関心をもち，現場を是非，自分の目でみたいという受講者がいる場合は，希望に応じて 4 年次にアメリカの大学のゼミとの交流プログラムや現地での現場見学を準備したい (渡航滞在費用は自己負担)．通訳に全面的に頼らず，できれば片言でも自分で話しかけることができれば見えてくるものが大きいと思います．

【履修上の注意】受講者には，3 年次の終わりに，卒業論文のテーマと方法を絞ってもらい，4 年次のはじめに卒業論文の章構成案を決定し，各章を順番に発表してもらう形で卒業論文指導を進めたい．

【到達目標】外国語の応用が苦手という言葉のハンディだけが原因で，自国文化以外の文化を体験する機会が制限を受けるという状況は，非常に残念なことです．このゼミナールの受講者には，できれば英語の実践能力を高め，文献と現場の両方から，社会や文化をみる目を養い，自分の職業や将来の人生設計に役立ててもらいたいと願っています．

【授業計画】卒業論文作成に向けたゼミであることから，受講者各自が，基本文献や資料を探し，読み，自分の関心や問題意識を絞っていくことが必要になります．そのために担当者も，個々の受講者の関心にそったトピック毎の必読文献を積極的にアドバイしていきたいと考えています．

【成績評価】授業への参加度，発表内容などにもとづく総合的評価

【再試験】無

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221583

【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
上野 加代子 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】日本社会および他の社会の諸現象，特に家族に関する事象，貧困や差別問題について分析・考察を行う．

【授業概要】受講者が関心のもてるテーマやトピックを選び，その関連の文献を発表し，それをもとに討議する形式をとる．同時に，文献や資料の探し方，調査方法，分析方法，論文の構成など，論文作成の「基本」を勉強する． 上記に加えて，アメリカのホームレスや児童虐待問題などに関心をもち，現場を是非，自分の目でみたいという受講者がいる場合は，希望に応じて 4 年次にアメリカの大学のゼミとの交流プログラムや現地での現場見学を準備したい (渡航滞在費用は自己負担)．通訳に全面的に頼らず，できれば片言でも自分で話しかけることができれば見えてくるものが大きいと思います．

【履修上の注意】受講者には，3 年次の終わりに，卒業論文のテーマと方法を絞ってもらい，4 年次のはじめに卒業論文の章構成案を決定し，各章を順番に発表してもらう形で卒業論文指導を進めたい．

【到達目標】外国語の応用が苦手という言葉のハンディだけが原因で，自国文化以外の文化を体験する機会が制限を受けるという状況は，非常に残念なことです．このゼミナールの受講者には，できれば英語の実践能力を高め，文献と現場の両方から，社会や文化をみる目を養い，自分の職業や将来の人生設計に役立ててもらいたいと願っています．

【授業計画】卒業論文作成に向けたゼミであることから，受講者各自が，基本文献や資料を探し，読み，自分の関心や問題意識を絞っていくことが必要になります．そのために担当者も，個々の受講者の関心にそったトピック毎の必読文献を積極的にアドバイしていきたいと考えています．

【成績評価】授業への参加度，発表内容などにもとづく総合的評価

【再試験】無
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221584
【連絡先】
⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業概要】地域総合演習 (3 年前期) とほぼ，同内容．テキストは，ガーフィンケルの Seeing Organization の予定．1 章，2 章，3 章が扱われる．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221585
【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業概要】地域総合演習 (3 年前期) とほぼ，同内容．テキストは，ガーフィンケルの Seeing Organization の予定．4 章，5 章，6 章が扱われる．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221586
【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】前後期を通じて，現代社会に対しての社会学的視座と社会問題を解決する力を身につけることを目指す．前期は，文献講読を通じて，現代社会の諸問題に対する基本的な社会学的視座を習得し，後期は，まちづくりを題材に，実践的な知を身につけることを目指す．
【授業概要】まずは，親密圏 (友だち関係) を題材に，土井 (2004) の文献を元に，身近な人間関係を分析する際の見方を習得する．次に，近年大きな問題になっている，失業，野宿者，貧困の問題を扱っている，湯浅 (2008) を取り上げる．湯浅は，単なる評論家とは異なり，現在の野宿者問題を理論的に分析した上で，派遣村や NPO などを通じた実践を行っている．後期につながる視点であるが，単なる社会分析に終わらず，実践に生きる社会分析を身につけて欲しい．その上で，我々現代人が進むべき社会とはどういった社会であるのかといった，マクロな視点から現代社会を再考するために，広井 (2001) を取り上げる．高度成長期以降の拡大社会から，今後の社会は人口停滞・縮小に向かう．新たに到来する社会とはこれまで我々が当然と思っていた社会とどのように異なるのか,「定常社会」というキーワードのもと，今後の社会のあり方について議論を行う．最後に後期へのつながりとして，金子 (1992) を取り上げる．金子は研究者でありながら，実際の NPO などの支援と実践を行っており，そこで経験する様々な問題点を踏まえながら，ボランティアという活動についての議論を展開している．学術的に分析することと，実践することの交差を議論する．
【キーワード】**社会学，ボランティア，貧困，定常型社会，現代社会**
【到達目標】文献講読を通じて，現代社会を見る上での基本的な視点を身につけること
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 『「個性」を煽られる子どもたち:親密圏の変容を考える』 **3.** フリーター漂流ビデオ視聴 **4.** 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』1 **5.** 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』2 **6.** 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』3 **7.** 『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』4 **8.** 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』1 **9.** 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』2 **10.** 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』3 **11.** 『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』4 **12.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』1 **13.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』2 **14.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』3 **15.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』4 **16.** 『ボランティア:もうひとつの情報社会』5
【成績評価】成績評価は平常点 (ゼミにおけるプレゼンテーションと授業貢献)
【再試験】行わない
【教科書】
◇ 土井隆義，2004『「個性」を煽られる子どもたち:親密圏の変容を考える』岩波ブックレット 433
◇ 湯浅誠，2008『反貧困:「すべり台社会」からの脱出』岩波書店
◇ 広井良典，2001『定常型社会:新しい「豊かさ」の構想』岩波書店
◇ 金子郁容，1992『ボランティア:もうひとつの情報社会』
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221587
【連絡先】
⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
矢部 拓也・准教授/社会創生学科

【授業目的】都市の衰退と再生過程に関する文献講読を通じての都市再生に関する基本的な知識の習得
【授業概要】現在，地域社会は様々な問題を抱えており，そこからの再生は大きな政策的課題でもある．このような問題に対応する，新たな地域の担い手として，行政や企業でない，市民セクター，NPO といった新しい動きが注目されており，それらは「地域自立」といった視点からまとめられるように思える．そこで，本ゼミナールでは，まちづくりをテーマに現在の地域社会の抱える様々な問題点の把握と分析，その上ので地域自立の可能性の検討，また，可能であれば，自ら問題解決の主体になることも視野に入れた問題解決方法を議論，実践してゆきたいと考えている．加えて，このような市民セクターや NPO に関わっている人々は，特別な人ではなく，普通の社会人であるが，今後の社会の新しい方向性がある程度見えている中で生活している．そこで，このゼミナールでは，このような新しい地域社会の潮流に触れている人をゲストスピーカーに呼び，まちづくりを実践している彼らと議論する中で，自分なりの今後の都市再生への感触をつかんで欲しいと考えている．
【キーワード】**都市再生，まちづくり，都市社会学，*NPO*，中心市街地の活性化**
【履修上の注意】親が自営業主で，卒業後，地元に帰り家業を継ごうか迷っている人，また，親元に戻り就職をしようと考えている人には是非，本ゼミを受講して欲しい．また，地元徳島のまちづくりなどに関心をもっていたり，すでにそういった活動を行っている受講生を大歓迎する．大学にいるより現場に出たり，遊ぶのが大好き，もしくは，インタビューは苦手だが，Web 検索したり図書館にこもって文献検索するのは大好きという受講生も大歓迎する．本授業では，自分の得意なものをバックグラウンドに，議論に参加することが要求される．
【到達目標】都市社会構造と都市の衰退と再生過程に対する理解を深め，それらを分析する視点と都市問題を自分たちの力で解決する術を身につける．
【授業計画】**1.** 授業では，まず矢作 (1997)，小林・山本 (1999) をテキストに，現在の商業を中心としたまちづくりの現状と問題点，先進事例の目指している方向性を理解をしてもらう．また，私は 1999 年より毎月 1 回 1 週間弱滋賀県長浜市に滞在し，地元のまちづくり運動に関わりながら調査 (参与観察) を行っているので，その報告を行い，現場サイドからの理解を深めてもらう．加えて，長浜でのまちづくり活動を通じて知り合った人々をゲストスピーカとして呼び，現在進行形の問題に関しての生きた議論をしてもらおうと考えている．本ゼミを通じて，地元徳島のまちづくりにも触れたいと考えているので，月に 1 回はゼミでまちあるきを行い，座学と現場のバランスのとれた議論を行えるようにする予定である． **2.** 前期のうちに各自の研究テーマを発表し，各自のテーマに関連した先行研究について検討すると共に，後期にかけて各々データの収集・分析やフィールドワークをおこなう．後期末には，レポートとして分析・調査結果をまとめる．
【成績評価】成績評価は平常点 (ゼミにおけるプレゼンテーションと貢献) と期末レポートによる．詳しくは授業の中で説明する
【再試験】行わない
【教科書】
◇ 矢作弘『都市はよみがえるか:地域商業とまちづくり』岩波書店，1997
◇ 小林重敬・山本正堯『既成市街地の再構築と都市計画 (新時代の都市計画 3)』ぎょうせい，1999
◇ 矢部拓也「地方小都市再生の前提条件:滋賀県長浜市第三セクター『黒壁』の登場と地域社会の変容」『日本都市社会学会年報』18，2000
【参考書】
◇ 日本政策投資銀行地域企画チーム編著『自立する地域:その課題と戦略』ぎょうせい，2001
◇ 日本政策投資銀行地域企画チーム編著『錦おりなす自立する地域: 9 つの視点から見た 100 の振興プロジェクト』ぎょうせい，2002
◇ 金子郁容『コミュニティ・ソリューション:ボランタリーな問題解決にむけて』岩波書店，1999
◇ ビックバンス編『都市社会学:新しい理論的展望』山田他共訳，恒星社厚生閣，1982
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221588
【連絡先】
⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~ 12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
樋口 直人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221589
【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
樋口 直人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221590
【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (前期)
スタージ ドナルド · 講師 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222078
【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

地域総合演習

2 単位 (選択) 4 年 (後期)
スタージ ドナルド · 講師 / 人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=222079
【連絡先】
⇒ スタージ (総合科学部 1 号館 2303, 088-656-7134, dws@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 16:30-17:30 または 応相談)

憲法

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
林 喜代美 ·, 上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】人権意識を体得し，国家と個人，国家と国民との関係はいかにあるべきか，についての洞察力を身につける．
【授業概要】自由・平等・人権・主権・ 民主主義をキーワードに，憲法の人権にかかわる規定の内容を中心に講義する．
【キーワード】**自由，平等，人権，主権，民主主義**
【先行科目】『法律学の基礎 I』(1.0, ⇒93 頁)
【履修上の注意】エチケットを心得ていない学生の受講は 取り消す．
【到達目標】人権意識を体得し，国家と個人，国家と国民との関係はいかにあるべきか，についての洞察力を身につける．
【授業計画】**1.** 象徴天皇制と国民主権 **2.** 非武装平和主義と自衛隊 **3.** 思想・良心の自由 **4.** 信教の自由 I(法制度) **5.** 信教の自由 II(判例の動き) **6.** 学問の自由 **7.** 表現の自由 I(憲法上の地位) **8.** 表現の自由 II(合憲性の判断基準) **9.** 人身の自由 **10.** 生存権と教育を受ける権利 **11.** 労働基本権 **12.** 私的所有権 **13.** 権力分立制 I(国会と内閣) **14.** 権力分立制 II(裁判の独立) **15.** 違憲審査制 **16.** 試験
【成績評価】テスト，受講態度，出欠により評価する．
【再試験】なし
【教科書】根本博愛・青木宏治編『地球時代の憲法』第二版 (法律文化社)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218589
【連絡先】
⇒ 林 .
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

民法 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
直井 義典 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】民法のうち，債権各論部分を学習することにより，日常生活において民法が果たしている役割を理解する．
【授業概要】民法総則を学習していることを前提として債権各論部分を講ずる．ここには契約・不法行為・事務管理・不当利得という，日常生活に密接に関わり消費者問題・公害問題等の解決に必須の法的事項が含まれる．そこで，日常生活に即した具体的な事例を挙げながら説明を加えていくこととする．法律学の基礎 II に比べて扱う対象が身近な分，理解し易いはずである．
【キーワード】**契約，不法行為**
【先行科目】『法律学の基礎 II』(1.0, ⇒98 頁)
【履修上の注意】初回から，六法を持参すること．法律学の基礎 II を履修していることを前提として講義を進めるので留意すること．
【到達目標】
1. 契約法が社会において果たしている役割を理解する．
2. 不法行為法の規定を把握し，公害・交通事故・医療過誤といった社会問題に対して法がいかなる対処をしてきたのかを理解する．
【授業計画】**1.** 契約の成立 **2.** 売買の効力 **3.** 売買の解除 **4.** 賃貸借 1(民法典の規定) **5.** 賃貸借 2(借地借家法)・使用貸借 **6.** 消費貸借 **7.** 雇用・請負・委任 **8.** その他の契約 **9.** 不法行為法総論 **10.** 過失 **11.** 因果関係 **12.** 損害賠償・過失相殺 **13.** 共同不法行為 **14.** 使用者責任・工作物責任 **15.** 事務管理・不当利得 **16.** 期末試験
【成績評価】出席点 (25 点) ならびに論述式を含む期末試験の成績 (75 点) による．
【再試験】行わない．
【教科書】
◇ 大村敦志『基本民法 II 第 2 版』(有斐閣)
◇ 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選 II 第 6 版』(有斐閣)
【参考書】講義の際に適宜紹介する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219011
【連絡先】
⇒ 直井 (naoi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 10 時 25 分 ~ 11 時 55 分)

財政学 I
Public Finance1

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
石田 和之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】財政の制度や現状を理解し，財政学の基礎的な理解を得る．
【授業概要】財政学 I と財政学 II を合わせて，財政学全般にわたる講義を行う．部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが，極力数式による説明を避け，グラフと言葉を多用して解説する．
【キーワード】**政府，予算，税，財政**
【関連科目】『財政学 II』(0.5), 『経済原論 I』(0.5), 『経済原論 II』(0.5)
【履修上の注意】通年での履修を推奨する．
【到達目標】1，財政の現状を理解する． 2，財政学の基礎的理解を得る．
【授業計画】**1.** 財政と財政学 **2.** 日本の財政制度 (1) 予算・決算・会計 **3.** 日本の財政制度 (2) 国家財政・地方財政 **4.** 日本の財政制度 (3) 政府間財政 **5.** 財政の 3 機能 (1) 資源配分機能 **6.** 財政の 3 機能 (2) 所得再分配機能 **7.** 財政の 3 機能 (3) 経済安定化機能 **8.** 財政と金融 **9.** 政府の捉え方 **10.** 租税の基礎 **11.** 日本の税制:国税・地方税 **12.** 税制の経済効果 **13.** 消費課税 **14.** 所得課税 **15.** 資産課税 **16.** 定期試験 (または，期末レポート)
【成績評価】授業への取組み (20%), 中間試験 (または中間レポート)(30%), 定期試験 (または期末レポート)(50%)
【再試験】無
【教科書】無
【参考書】講義中に配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218666
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

行政法 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】行政法は，行政活動を規律させるための法であり，その適用範囲は，現代においては，われわれのほとんどすべての生活領域に及んでいる．本授業では，行政法に共通する一般理論 (行政法総論) のうち，行政法の基本原理，現代型行政法システムである行政手続，情報公開，古典的行政法システムである行政行為について説明し，行政法の基本的理解を獲得することを目的とする．
【授業概要】行政法の基本原理と行政行為の法システム
【キーワード】**行政，法治行政，行政行為，行政裁量，行政強制**
【履修上の注意】六法を持参して受講すること．
【到達目標】行政法の基本原理並びに行政行為についての法的しくみを理解し，行政法特有の法的思考力を養う．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 行政・行政法概念 **3.** 行政法の発展・行政法の法源 **4.** 行政法における公法と私法 (1) 公法私法二元論 **5.** 行政法における公法と私法 (2) 特別権力関係論 **6.** 行政法関係 **7.** 法律による行政の原理 **8.** 行政手続 (1) 行政手続法理 **9.** 行政手続 (2) 行政手続法 **10.** 行政行為 (1) 行政行為の概念，種別 **11.** 行政行為 (2) 行政行為の効力，瑕疵 **12.** 行政行為 (3) 行政行為の取消・撤回，附款 **13.** 行政行為 (4) 行政裁量 **14.** 行政上の実効性の確保 **15.** 試験 **16.** 総括授業
【成績評価】記述式による学期末試験の成績を基本としてレポート，出席などの平常店も考慮する．
【再試験】実施しない．
【教科書】原田尚彦「行政法要論」(全訂第 7 版増補版) 学陽書房
【参考書】別冊ジュリスト「行政法判例百選 III(第 5 版) 有斐閣
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218540
【連絡先】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日12時~ 12時50分)

国際関係論 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
饗場 和彦 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 米ソがにらみ合った冷戦中は，明日にも第三次世界大戦が起き，核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった．89 年，米ソ首脳が握手をかわし，幸運にも人類は冷戦を脱した．ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが，まもなく幻滅が広がった．噴出する内戦 · 民族紛争と，拡大する貧富の格差．新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると，9/11 テロの衝撃が世界を揺るがした．そして今，アフガン戦争，イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され，国際社会はいったい，どこに行こうとしているのか．この授業では，こうした変動する現代国際社会の現実を知り，そこで生起する諸問題について，特に平和と戦争に関係する観点を中心に，考察する．

【授業概要】 国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ．授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも，筆者のフィールドワーク (紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など) や，新聞記者の経験などに基づく"教科書に載っていない"解説も試みたい．また，適宜，時事的な国際ニュースも取り上げ，ビデオやスライドも使う．国際関係論 I では，主に総論的，理論的，概念的な問題を扱う．

【キーワード】戦争，戦争

【履修上の注意】 国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており，一方だけ受講することもできるが，I で総論的，基礎的な解説を行い，II ではそれを元に各論的，発展的な内容になる面もあるので，連続して受講する方が望ましい．

【到達目標】 国際社会の性質，特徴を理解すること． 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について，基本的な事実関係，実態を知ること．国際政治と国際法の基本について，とらえ方，原理，原則を把握すること．「冷静な現実主義」と，「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと．

【授業計画】 **1.** 国際社会の成り立ちと特徴 (1) **2.** 国際社会の成り立ちと特徴 (2) **3.** 国際法の基本 (1) **4.** 国際法の基本 (2) **5.** 国際社会を見る理論的枠組 (1) **6.** 国際社会を見る理論的枠組 (2) **7.** 国際安全保障の諸理論 (1) **8.** 国際安全保障の諸理論 (2) **9.** 民族とアイデンティティ (1) **10.** 民族とアイデンティティ (2) **11.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(1) **12.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(2) **13.** 戦争の違法化 (1) **14.** 戦争の違法化 (2) **15.** 補足と総括 **16.** 試験

【成績評価】 授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらうが，それらで出欠の確認も行う．試験は論述式 (短答式と長文論述併用) の期末試験を行う．持ち込み不可．成績は試験の結果に，出席状況，授業中の質疑応答などを加味して判断する．

【再試験】 行わない．ただし，僅差で合格点に達しない受講者には，一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える．

【教科書】 教科書は特に指定せず，授業中に配布するレジュメ，資料に沿って解説する．参考書などは適宜，紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220346

【連絡先】
⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30, 金曜日14:30~ 16:00. この時間以外でも在室時は随時可．)

ミクロ経済学 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
内藤 徹 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 産業経済論 I で習得したミクロ経済学の知識を現実の事象にどのように適用することが可能であるかを理解する．

【授業概要】 本講義では都市や空間を分析するツールとしてミクロ経済学をはじめとする経済理論を応用し分析する．古典的な単一中心都市モデルから新しい空間経済学モデルなどを解説する．

【キーワード】ミクロ経済学，空間経済学，都市経済学，地方財政，交通

【先行科目】 『経済学の基礎 I』(1.0, ⇒92 頁)

【履修上の注意】 本講義は経済原論 I·II(ミクロ経済学) と内容的に深い関連をもっており， 経済原論 I ·II を既に履修しているか同時に履修することが望ましい． また授業理解のために必要と思われる，トピックスについては，経済原論 I·II の内容を一部復習することもある．

【到達目標】 ミクロ経済学を応用して現実経済を分析できる力を習得することを目標とする．

【授業計画】 **1.** イントロダクション **2.** 都市と都市化の概念 **3.** 日本の地域構造 **4.** 都市集積の理論 **5.** 集積の経済 **6.** 家計の立地行動 (1) **7.** 家計の立地行動 (2) **8.** 均衡地代の決定理論 **9.** 企業・産業の立地 **10.** 商業地の立地理論 **11.** 公共サービスと都市・地域政策 **12.** 住宅市場と住宅政策 **13.** 地域交易と空間経済学 **14.** 都市・農村間の移住モデル **15.** おさらい **16.** 予備日

【成績評価】 期末テスト

【再試験】 なし

【教科書】 黒田達朗・田渕隆俊・中村良平 (著)『都市と地域の経済学』有斐閣ブックス

【参考書】 講義で使用するレジュメ，スライドを提供する

【WEB 頁】 http://sites.google.com/site/s947140/

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219008

【連絡先】
⇒ 後日,指示します

【備考】 当講義はミクロ経済学の知識を前提として進めていく予定である．したがって，経済学の基礎 I の内容を十分に理解しておくことが必要となります．

ミクロ経済学 II

2 単位 (選択) 2 年 (前期, 集中)
眞弓 浩三 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 経済科学におけるミクロ分析的な手法を学ぶ．

【授業概要】 標準経済学の企業の理論とゲーム理論の初歩的手法を学習する．

【到達目標】 標準経済学のミクロ理論について精通する．

【授業計画】 **1.** 数学の準備:微分の基礎 **2.** 数学の準備:多変数関数の微分 **3.** 数学の準備:制約条件付極値問題 **4.** 企業理論:導入 **5.** 独占 1:行動形態 **6.** 独占 2:課税とその影響 **7.** 独占的競争:導入 **8.** 独占的競争:行動形態 **9.** ゲーム理論:導入 **10.** ゲーム理論:クルーノーの複占理論 **11.** ゲーム理論:シュタッケルベルクの複占理論 **12.** ゲーム理論:マケットシェアー **13.** 寡占:導入 **14.** 寡占:行動形態 **15.** 定期試験 **16.** 総括

【成績評価】 通常の試験の結果のみで判断する．平常点などというものはない．プロセスよりも結果だけが大切であることを理解せよ．

【教科書】 教科書は指定しない．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220360

【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午後．あらかじめメールで連絡ください．)

マクロ経済学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
趙 彤 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 長い人生において，貯蓄したり，住宅のためのローンを借りたりす ることがあるし，さらには，保険，株式，信託などの金融商品と向き合うこともあるだろう．この授業では，皆さんがこれから社会人として必要となる経済学の知識を教えることを目的している．マクロ経済学から出発し，経済全体のメカニズムを学習した上，我々の生活に密接に関連する国の金融政策と財政政策についても時間を割り当てて解説する予定である．

【授業概要】 経済学の基礎科目

【履修上の注意】 数学に関しては，微分についての高校教科書レベルの知識があれば十分であるし，授業中も必要に応じて説明する．原則として毎回の授業の最後 15 分ぐらいを演習問題の時間に当てる．

【到達目標】 経済学の基本的な考え方を理解し，経済学に基づいた分析能力を身につけること

【授業計画】 **1.** 1．講義のガイダンス (1 回) **2.** 2．マクロ経済学の諸概念 (2 回) **3.** 3．国民所得の決定メカニズム (2 回) **4.** 4．貨幣の需要と供給 (2 回) **5.** 5．IS-LM 分析 (3 回) **6.** 6．金融 · 財政政策の効果 (2 回) **7.** 7．新古典派とケインズ派の経済体系の比較 (1 回) **8.** 8．試験

【成績評価】 出席と期末試験

【再試験】 原則的に行わないが，病気等の止むを得ない事情の場合のみ実施する

【教科書】
◇ マンキュー 「マクロ経済学 I 入門篇」 東洋経済新報社
◇ マンキュー 「マクロ経済学 II 応用篇」 東洋経済新報社

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219005

【連絡先】
⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00-14:30)

【備考】 総合科学部 1 号館 3 階中棟，オフィスアワー以外の時間でも事前にメー ルで連絡をしてもらえれば対応できる

マクロ経済学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
趙 彤 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】長い人生において，貯蓄したり，住宅のためのローンを借りたりす ることがあるし，さらには，保険，株式，信託などの金融商品と向き合うこともあるだろう．この授業では，皆さんがこれから社会人として必要となる経済学の知識を教えることを目的している．マクロ経済学から出発し，経済全体のメカニズムを学習した上，我々の生活に密接に関連する国の金融政策と財政政策についても時間を割り当てて解説する予定である．

【授業概要】経済学の基礎科目

【履修上の注意】数学に関しては，微分についての高校教科書レベルの知識があれば十分であるし，授業中も必要に応じて説明する．原則として毎回の授業の最後 15 分ぐらいを演習問題の時間に当てる．

【到達目標】経済学の基本的な考え方を理解し，経済学に基づいた分析能力を身につけること

【授業計画】**1.** 1．講義のガイダンス (1 回) **2.** 2．貨幣と金融 (2 回) **3.** 3．利子率と資産価格の決定メカニズム (3 回) **4.** 4．労働市場と失業 (2 回) **5.** 5．経済成長 (2 回) **6.** 6．国際経済学 (2 回) **7.** 7．試験

【成績評価】出席と期末試験

【再試験】原則的に行わないが，病気等の止むを得ない事情の場合のみ実施する

【教科書】
- ◇ マンキュー 「マクロ経済学 I 入門篇」 東洋経済新報社
- ◇ マンキュー 「マクロ経済学 II 応用篇」 東洋経済新報社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219006

【連絡先】
⇒ 趙 (088-656-7176, zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 13:00-14:30)

【備考】総合科学部 1 号館 3 階中棟，オフィスアワー以外の時間でも事前にメー ルで連絡をしてもらえれば対応できる

社会心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 健二・教授 / 人間文化学科

【授業目的】近年，社会心理学に対する期待は，著しく増大している．なぜなら，社会心理学は，人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて，近年生じている，さまざまな社会的行動の諸問題の解決に資する可能性を持っているからである．そこで，本講義では，人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする．

【授業概要】人間の社会的行動の理解

【キーワード】**社会的行動，自己，対人行動，集団行動，集合行動**

【履修上の注意】OHP，パワーポイント，紙資料，ビデオテープなどを使用する．私語厳禁．

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果，概念，方法論，近年の展開について理解すること

【授業計画】**1.** イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 **2.** 社会的影響 (同調，服従，役割) **3.** 攻撃．暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? **4.** 援助．なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? **5.** 集団行動 (リーダーシップ研究．「プロジェクト X」視聴) **6.** 集合行動 (流言，うわさ，群衆行動) **7.** 言語・非言語的コミュニケーション (視線行動，パーソナル・スペースなど) **8.** 抑うつの社会心理学．認知の歪み，自己注目，相互作用モデルとの関連 **9.** 自己呈示と対人不安 **10.** 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- **11.** 対人魅力．近接性と好意，身体的魅力，類似性と好意，返報性 **12.** 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 **13.** 社会的認知 (原因帰属など) **14.** 自己意識，自己評価研究とその臨床領域への応用 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】三分の二以上の出席した者に対して，期末試験結果による評価を行う．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】安藤清志他 1995 現代心理学入門 4 社会心理学 岩波書店，坂本真士・佐藤健二 2004 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218697

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:10~ 13:00，総合科学部3号館3S05室，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

コミュニティ心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
境 泉洋・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】コミュニティで起こっている問題は，面接場面だけでは解決できないものである．コミュニティ心理学においては，クライエントがどのようなコミュニティで生活し，そのコミュニティに適応するためにどのような援助が必要なのかという視点が必要となる．本講義では，コミュニティ心理学の基礎とその応用について理解を深めることを目的とする．

【授業概要】本講義では，予防，コンサルテーション，危機介入といったコミュニティ心理学の基礎を学ぶ．その上で，コミュニティ心理学の実際についての理解を深めていく．受講生にグループ発表してもらうことで，受講生に積極的な授業参加の機会を提供する．

【キーワード】**コミュニティ心理学，臨床心理学**

【関連科目】『学習心理学』(0.7, ⇒81 頁)，『社会心理学』(0.4, ⇒143 頁)，『心理学実験実習 I』(0.3, ⇒70 頁)

【履修上の注意】授業で配布した資料はホームページにて公開するので，授業を欠席した場合など適宜参照すること．

【到達目標】予防教育，治療的介入，社会復帰支援という一連のプロセスについて理解し，柔軟な心理的援助を行うための知識を身につけることを目標とする．

【授業計画】**1.** ガイダンス:コミュニティ心理学的関与のプロセス **2.** コミュニティ心理学とは何か? **3.** コミュニティ心理学の背景理論 **4.** 予防 **5.** 危機介入 **6.** 臨床心理面接の初期 **7.** 臨床心理面接の中期 **8.** 臨床心理面接の後期 **9.** 社会復帰支援 **10.** 非専門家による支援 **11.** 訪問による支援 **12.** 非対面式による支援 **13.** ひきこもり:実態と心理学的理解 **14.** ひきこもり:コミュニティ心理学的介入 **15.** 定期試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席，受講態度，発表，レポート，期末試験により総合的に評価する．

【再試験】原則として再試験は実施しないが，受講者の事情によっては追加レポート等により合否の判定を行うこともある．

【教科書】教科書は使用しない．資料は授業中にプリントを配付する．参考図書などは適宜紹介する．

【参考書】植村勝彦 (編) 2007 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版 2400 円

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/index.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218665

【連絡先】
⇒ 境 (088-656-7191, motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 2 限目)

【備考】毎年開講

スポーツ社会学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 充宏・教授 / 人間文化学科

【授業目的】地域における身体活動である住民の健康体力づくりやスポーツ行動に注目し，人間の Well-being という視点から，「人間-身体活動 (スポーツ)-社会」の関係を探求する．また，地域の健康文化の振興や住民のスポーツクラブの育成といった継続的な健康体力づくりをねらいとしたコミュニティ設計の意義や問題点について理解し，住民利用者の運営参加と合意による健康体力づくり事業の推進のあり方について学習する．

【授業概要】地域の健康体力づくりやスポーツと豊かな暮らし「Well-being」の社会基盤整備の仕方を理解する

【到達目標】地域のスポーツ振興に対する社会基盤整備について理解する

【授業計画】**1.** 人間存在とからだと文化 **2.** 文化としてのスポーツとワーク/ワイフ・バランス **3.** 地域における子どもの運動遊びと体力問題・スポーツ環境問題 **4.** 運動部と地域スポーツの深い絆 **5.** 競技スポーツと企業とメディア **6.** 見るスポーツとアニメと若者文化 **7.** 見るスポーツとメディアスポーツの盛隆 **8.** 見るスポーツと地域の活性化 **9.** 健康体力づくり政策①:スポーツ振興法とスポーツ振興基本計画 **10.** 健康体力づくり政策②:健康増進法と健康日本 21，そして運動施策 **11.** 地域の健康生活の変動と総合型地域スポーツクラブ育成事業の推進 **12.** 住民の自立と責任を求められる「健康なまちづくり」の選択と行動 **13.** 地域活動を支えるスポーツボランティアと NPO 法人 **14.** 地域の健康文化としてのコミュニティデザインと行政支援 **15.** 住民参加と合意形成による健康体力づくり計画へ

【成績評価】試験 (80%) と課題レポート (20%)

【再試験】再評価は追加課題レポートの提出を求める．

【教科書】適宜，資料を配布する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218737

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

スポーツマネジメント論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
行實 鉄平・講師 / 人間文化学科

【授業目的】本授業では，スポーツマネジメントを実践するための専門的知識について学習する．具体的には，学校，地域，民間，公共スポーツ施設組織等といった個別組織におけるスポーツ事業の構成方法や演出方法についての理解を深めるとともに，生涯スポーツの振興を図る

為の効率的・効果的な経営過程論についても理解を深めていくことを目的とする．

【授業概要】 スポーツマネジメントに関する基礎知識の習得と，その現象 (学校，地域，民間，公共スポーツ組織) を取り巻く現代的課題についての理解を深めていく．

【キーワード】生涯スポーツ，スポーツ事業，運動者行動，経営過程 (マネジメントサイクル)

【関連科目】 『スポーツ社会学』(0.5, ⇒143 頁)

【履修上の注意】 受講者は，テキストとして指定している教科書を必ず購入すること．また，毎回，授業終了時に授業内容に関する意見・感想・質問などの感想文を提出してもらう

【到達目標】 実践科学としてのスポーツマネジメントに関する基礎知識の習得とその応用力を身に付ける

【授業計画】 **1.** オリエンテーション (スポーツマネジメント概論) **2.** 我が国のスポーツを取り巻く現状と課題-するスポーツ- **3.** 我が国のスポーツを取り巻く現状と課題-みる・ささえるスポーツ- **4.** スポーツマネジメントの目的・構造およびその領域特性 **5.** スポーツ事業論 (1)-エリア・サービスの概念とスポーツ施設の性格- **6.** スポーツ事業論 (2)-プログラム・サービスの捉え方とタイプ論- **7.** スポーツ事業論 (3)-クラブ・サービスの捉え方とクラブの構成要件- **8.** スポーツ事業論 (4)-関連的体育スポーツ事業とプロモーションの概念- **9.** 運動者行動と運動生活の捉え方 **10.** スポーツ経営過程論 (1) 計画:経営計画の種類と立案プロセス **11.** スポーツ経営過程論 (2) 組織:組織の構造と特性 **12.** スポーツ経営過程論 (3) 統制:経営評価の視点とコントロール **13.** スポーツマネジメントのトピック 1:スポーツ施設と指定管理者制度 **14.** スポーツマネジメントのトピック 2:スポーツ組織と NPO 法人格 **15.** 定期試験 **16.** スポーツマネジメントのトピック 3:スポーツイベントのマネジメント

【成績評価】 評価は「出席」「学習態度」「試験」の 3 つの視点で評価する．評価配分は「出席:30%」「学習態度:10%」「試験:60%」とする．

【再試験】 実施しない．

【教科書】
- ◇ 八代勉・中村平 (編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店.
- ◇ 教 材:資料を適宜配布する．

【参考書】
- ◇ 山下秋二・中西純司・畑攻・冨田幸博 (編)「[改訂版] スポーツ経営学」大修館書店.
- ◇ 原田宗彦・小笠原悦子 (編)「スポーツマネジメント」大修館書店.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218739

【連絡先】
⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室，088-656-7286，yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

比較文化研究

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
依岡 隆児・教授 / 人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング・講師 / 人間文化学科

【授業目的】 異文化やマイノリティーの立場の理解を深めることが授業の目的である．現代の国際的な問題について文献講読やディスカッションを通して考えを深め，異文化研究の方法と実情を概観していく．特に，グローバル化とその問題点を紹介する．社会的マイノリティの存在や移民の問題，モダニズムの問題，そして越境する文化のダイナミズムについて学んでいく．個々の文化現象の間に思いがけない結びつきや差異を発見してゆく比較文化研究の面白さを味わってもらいたい．

【授業概要】 比較文化研究，異文化理解，マイノリティの立場の理解，近代化の問題

【キーワード】比較文化，異文化理解，マルチカルチャー，近代化，日本文化

【履修上の注意】 受講者は日々，新聞や雑誌，映画などで異文化の問題について関心を養っていってもらいたい． [

【到達目標】 比較文化研究についての理解とその方法の習得．多文化社会と文化変容への理解を深めること

【授業計画】 **1.** 導入:課題発想的な比較文化研究の概念を検討する． **2.** 「文化」「民族」「外国人」「近代化」「メディア」といったキーワードから文化の問題を概観する． **3.** 映画やドキュメンタリー・ビデオ，新聞記事なども適宜利用して，従来の学問区分に必ずしもとらわれない学際的・総合的な研究方法を示していく． **4.** 具体的には，日本国内外の代表的な日本文化論を概観し，それぞれの「日本」の捉え方の特徴と問題点を考察する．文化間の影響関係として，具体的には，日本の西洋モダニズム受容や，海外におけるジャポニズムから最近のマンガ・アニメに代表される日本ブームに到るまでを取り上げる．また，日本文化論に内在するナショナリズムやイデオロギー性を批判的に考察する．日本文化の雑種性への感受性を大切にし，既存の日本文化のイメージにとらわれない，新しい時代の多文化的な社会のあり方を考えていく．地域文化 (徳島) と国際性といったテーマも取り上げる予定．

【成績評価】 出席状況と授業への積極的な参加を前提として，レポートの提出による．

【再試験】 有

【教科書】 教科書は使わない．教材は適宜，授業中にプリント等を配布するなどして準備する．

【参考書】
- ◇ 参考書として，西川長夫偏『増補 国境の越え方』平凡社．稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会．新睦夫編『比較文化の地平』世界思想社．カミュ『異邦人』新潮文庫．谷崎潤一郎『陰翳礼讃』中公文庫．モラエス『徳島の盆踊り』講談社学術文庫．ブルーノ・タウト『ニッポン』講談社学術文庫．戴エイカ『多文化主義とディアスポラ』明石書店．E．W．サイード『オリエンタリズム』平凡社．
- ◇ 依岡隆児『読書のススメ ～ 四国から，グローカルに ～』(徳島新聞社)

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218952

【連絡先】
⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12jから13時まで)
⇒ ヘルベルト (088-656-7145，wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 今年度は依岡が担当する．

異文化間コミュニケーション

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
坂田 浩・准教授 / 国際センター

【授業目的】 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である．海外とのやり取りが非常に複雑化，日常化してきている今，「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており，「今後日本人が他文化と共生してくことが出来るかどうか」は，私達日本人にとっても大きな課題であると言える． 本講義で実践する「異文化トレーニング」は，現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり，「文化差に直面した場合，どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである．本授業では，(1) 受講者自身が自らの文化に気づき，(2) 多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに，(3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケートして行く為の具体的方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする．

【授業概要】 異文化トレーニング

【履修上の注意】 具体的な講義内容については，講義開始時に改めて提示する

【授業計画】 **1.** 具体的な内容・計画は以下の通り． **2.** (1)「自文化を気づくトレーニング」 **3.** (2)「Perception/Programming のエクササイズ」 **4.** (3)「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」 **5.** (4)「見える文化・見えない文化のエクササイズ」 **6.** (5)「価値観の多様性に関するエクササイズ」 **7.** (6)「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」 **8.** (7)「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」 **9.** (8)「Organizational/Individual Challenges」 **10.** (9)「多文化で共生できる人とは?:DMIS」 **11.** (10)「多文化で共生する為のヒント:DIE」 **12.** (11)「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」 **13.** (12)「Action Planning:大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」 **14.** など

【成績評価】 評価は，基本的には出席・レポートを基に行う．

【再試験】 行わない

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218358

【連絡先】
⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1，088-656-7199，kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 他学科・他学部生も履修可能 (ただし，総合科学部生を優先)

環境マネジメント

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
浜野 龍夫・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 さまざまなレベルの環境問題や環境管理手法である環境マネジメントシステムについて学び，について理解するについて学習し，低炭素・循環型で環境負荷の少ない社会を構築するための個人のライフスタイルや企業の取り組みが，よい地域環境を生み出し，それはさらによりよい地球環境を創造することにつながることを理解する．

【授業概要】 講義の前半では環境社会検定でも扱われる内容について総合的に理解し，後半では環境マネジメントを実行するシステムを学ぶ．そして最後に一人一人が日常生活の中での環境マネジメントを考える．

【キーワード】環境，生態系，*ISO14000* シリーズ

【授業計画】 **1.** 環境マネジメントとは **2.** 持続可能な社会に向けて **3.** 地球人としてのわたしたち **4.** 環境と経済・社会 **5.** わたしたちの暮らしと環境 **6.** 環境と共生するために **7.** 中間試験 **8.** 環境マネジメントシステム **9.** ISO14000 シリーズ **10.** 伝統的な環境マネジメント **11.** 共生環境のマネジメントシステム **12.** 個人の環境マネジメント:チェック **13.** 個人の環境マネジメント:PDCA **14.** 個人の環境マネジメント:アクションプラン **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 (原則遅刻は配点しない)，中間試験，レポートを総合して評価する．
【再試験】しない
【教科書】なし
【参考書】講義の中で紹介する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220342
【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
栗栖 聡 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】環境政策について体系的に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．
【授業概要】環境問題，環境政治・政策学，現代社会の基本的枠組みを検討し，ついで，環境政策に関して，その理念，手法，決定過程を検討する．さらに，環境基本法を踏まえつつ，大気，水，自然環境に関する規制の内容，循環型社会形成のための政策について論じる．最後に，市民参加の観点から環境影響評価の仕組みを検討する．
【到達目標】環境政策の体系的理解
【授業計画】**1.** 環境問題とは **2.** 環境政治・政策とは **3.** 環境問題と国家の役割 **4.** 環境政策の理念 **5.** 環境政策の手法 (総論) **6.** 環境政策の手法 (規制，経済的手法，市民参加等) **7.** 環境政策決定過程 (議会，行政) **8.** 環境基本法の制定過程と概要 **9.** 規制 (大気，水，土壌) **10.** 規制 (自然環境保全) **11.** 循環型社会形成政策 (廃棄物処理) **12.** 循環型社会形成政策 (排出削減) **13.** 環境影響評価 (事業アセス) と市民参加 **14.** 環境影響評価 (戦略アセス) と市民参加 **15.** 試験 **16.** まとめ
【成績評価】平常点 (20%) と期末試験 (80%)
【再試験】なし
【教科書】なし
【参考書】授業中に指示する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218487
【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境経済学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
眞弓 浩三 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】経済科学における分析的な手法を学ぶ．
【授業概要】標準経済学の接近法を学習した後，ジョージェスクーレーゲンの生物経済学と社会メタボリズムについて理解を深める．
【キーワード】エネルギー，環境，鉱物資源，ジョージェスクレーゲン
【到達目標】分析的な思考を身につける．
【授業計画】**1.** 環境経済学:導入 **2.** 標準経済学の効率性とは? **3.** 標準経済学の鉱物資源の配分原理とその批判 **4.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:導入 **5.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:消費者選好理論 **6.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:エネルギーとエントロピー **7.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:鉱物資源の重要性 **8.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:モデルとシミル **9.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:総括 **10.** 社会メタボリズム:導入 **11.** 社会メタボリズム:エネルギー分析の手法 **12.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの導入 **13.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの理論 **14.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの応用 **15.** 定期試験 **16.** 総括
【成績評価】通常の試験の結果のみで判断する．平常点などというものはない．プロセスよりも結果だけが大切であることを理解せよ．
【教科書】教科書は指定しない．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220362
【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316, 088-656-7175, mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午後．メールであらかじめ連絡してください．)

自然保護論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 征弥 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し，どのような取り組みを行えば良いか，またどのようなことに留意すれば良いかについて考える．
【授業概要】自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう．しかし，野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等，生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない．また，絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については，その正確性が絶えず議論になる．この授業では，自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ，どのように考えていくべきか解説する．
【キーワード】自然保護，野生生物，環境保全
【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する
【授業計画】**1.** 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい **2.** 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて **3.** 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 **4.** 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 **5.** 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え **6.** 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 **7.** 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い **8.** 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル **9.** 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 **10.** 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 **11.** 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園，世界遺産 **12.** 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 **13.** 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 **14.** 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軋轢 **15.** 期末試験
【成績評価】授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート，資料持ち込み可) により評価する．
【再試験】行わない
【教科書】なし
【参考書】適宜紹介する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218670
【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

計画の論理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
近藤 光男 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】本科目は，土木・建設工学における計画分野の基礎科目である．社会基盤施設の定義と特徴，計画の策定過程，計画の目的と目標，計画における予測と評価の考え方や手法を理解し，社会資本施設整備計画の立案に必要な基礎知識を身につけることを目的とする．
【授業概要】教科書に加え，関連資料や現実の社会基盤施設整備計画の事例を用い，講義形式でわかりやすく講述する．また，理解度を高めるために，各講義の最後には，おさらいのプリントを課す．
【キーワード】社会基盤施設，計画における予測，計画における評価
【関連科目】『計画の数理』(0.5)
【履修上の注意】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．
【到達目標】社会基盤施設の定義と特徴，社会基盤整備計画の枠組みや策定過程が示せ，計画に必要な予測手法や評価手法について説明することができる．各回の授業内容は計画に記載のとおりである．授業を受講し，おさらいプリントをすべて提出した上で，その内容を復習することによって目標を達成させる (授業計画 1~ 16).
【授業計画】**1.** ガイダンス:計画の論理を学ぶ理由 **2.** 社会基盤施設とその特徴 (おさらいプリント 1) 講義内容の予習・復習 **3.** 社会基盤施設整備の変遷 (おさらいプリント 2) 講義内容の予習・復習 **4.** 計画の策定過程 (おさらいプリント 3) 講義内容の予習・復習 **5.** 計画の目的と目標 (おさらいプリント 4) 講義内容の予習・復習 **6.** 計画における予測 (おさらいプリント 5) 講義内容の予習・復習 **7.** 需要予測手法 (おさらいプリント 6) 講義内容の予習・復習 **8.** 社会基盤整備の効果 (おさらいプリント 7) 講義内容の予習・復習 **9.** 計画の評価 (おさらいプリント 8) 講義内容の予習・復習 **10.** 評価手法 (おさらいプリント 9) 講義内容の予習・復習 **11.** 産業連関分析 (おさらいプリント 10) 講義内容の予習・復習 **12.** 費用便益分析 (おさらいプリント 11) 講義内容の予習・復習 **13.** 便益の計測手法 (おさらいプリント 12) 講義内容の予習・復習 **14.** 社会基盤整備の今後の課題 **15.** 期末試験 **16.** 試験の返却と解説
【成績評価】 到達目標が達成されているかどうかを定期試験の評価点 (100%) によって行う．評価点が 60%以上を到達目標クリアの条件とする．ただし，おさらいプリントはすべて提出されていること．また，出席率が 3 分の 2 以上あること．
【教科書】河上省吾:土木計画学，鹿島出版会
【参考書】
◇ 土木学会:土木工学ハンドブック，技報堂
◇ 青山吉隆:図説都市地域計画，丸善
【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0013
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220223
【連絡先】
⇒ 近藤 (エコ 602, 088-656-7339, kondo@eco.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日9・10校時)
【備考】. 特になし

都市 · 交通計画
2 単位 (選択) 2 年 (前期)

Urban & Transport Planning

山中 英生 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
近藤 光男 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】都市計画の歴史，内容，手法，理論，交通計画の技法，理論，制度について講義し，都市および交通の計画に関する基礎的な知識を身につける．

【授業概要】都市計画における土地利用計画，市街地整備，住環境整備，施設整備，地区計画に関する我が国の法制度，事業制度を整理して講述する．また，交通計画に関しては，需要分析のための基礎的な手法の理解，道路交通に関わる現象分析の手法，公共交通，結節点，交通管理計画，地区交通計画の手法と事例を学ぶ．

【キーワード】都市計画，交通工学，道路工学

【先行科目】『計画の数理』(1.0)

【関連科目】『計画プロジェクト評価』(0.5)，『合意形成技法』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】なし

【到達目標】
1. 都市計画に関する基礎的な知識を修得する．(1~ 7 回)
2. 交通計画に関する基礎的な知識を修得する．(8~ 15 回)

【授業計画】1. 都市計画の歴史 **2.** 都市計画のためのマクロ分析 小テスト **3.** 土地利用計画 **4.** 市街地整備事業 **5.** 都市施設計画 **6.** 地区計画 **7.** 地区計画 **8.** 交通計画の概要 **9.** 交通需要分析 1 **10.** 交通需要分析 2 小テスト **11.** 道路交通システム 小テスト **12.** 公共交通計画 小テスト **13.** 交通需要管理 ITS **14.** 地区交通計画 歩行者・自転車交通 **15.** テスト (交通計画) **16.** テスト返却と総括授業

【成績評価】到達目標の 2 項目が達成されているかをレポート，小テストの評価 (30%) 期末試験 (70%) で評価し 60%以上を各項目の達成クリアとして，2 項目すべてを達成したものを合格とする．成績は目標 1(50%)，目標 2(50%) として算出する．

【対象学生】他学科，他学部学生も履修可能

【教科書】加藤晃:都市計画概論第 4 版，共立出版

【参考書】塚口博司，塚本直幸，日野泰雄:交通システム，国民科学社

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0045

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216232

【連絡先】
⇒ 山中(A410，088-656-7350，yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 近藤(エコ602，088-656-7339，kondo@eco.tokushima-u.ac.jp)

環境を考える
2 単位 (選択) 2 年 (前期)

Fundamental Environmental Study

上月 康則 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
山中 亮一 · 講師 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
藤井 園苗 · 非常勤講師 / 特定非営利活動法人 ゼロ・ウェイストアカデミー
中西 敬 · 非常勤講師 / 総合科学㈱

【授業目的】政策，国土開発の変遷と関連を通じ，公害から地球環境問題に至る経緯，取組みや環境倫理について理解させ，環境破壊を起こさせない社会人，技術者となる基礎的な知識，考え方および取りまとめ方を習得させる

【授業概要】これまでの環境の政策，国土開発の変遷と関連を整理し，公害から地球環境問題に至る経緯，取組み，さらに今後の環境問題に対する姿勢の基礎となる環境倫理を解説する．また自身が行動し，考えを文章に取りまとめる方法を指導する．

【キーワード】人と自然のかかわり，環境史，地球温暖化，環境倫理，地球サミット

【先行科目】『地域の防災』(1.0，⇒146 頁)

【関連科目】『資源循環工学』(0.5，⇒178 頁)，『環境計画学』(0.5)，『生態系の保全』(0.5，⇒146 頁)，『生態系修復論』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】なし

【到達目標】人と環境のかかわりの変遷や環境問題に関する基礎的な知識を習得している．(授業計画 1~ 15 および定期試験による)

【授業計画】1. ガイダンス (シラバス，環境家計簿) **2.** 人と自然について (環境家計簿をつける) **3.** なぜ自然を守る必要があるのか 1?(環境家計簿をつける) **4.** 環境史 (地球誕生 ~ 古代中世)(環境家計簿をつける) **5.** 環境史 (近代，国土開発)(環境家計簿をつける) **6.** 公害 (環境家計簿をつける) **7.** 中間テスト，復習 **8.** 地球サミットの歴史 (環境家計簿をつける) **9.** 地球温暖化 (メカニズム)(環境家計簿をつける) **10.** 地球温暖化 (京都議定書)(環境家計簿をつける) **11.** 生物多様性 (環境家計簿をつける) **12.** 環境倫理 (環境家計簿をつける) **13.** 環境家計簿発表 **14.** これからの環境問題 **15.** 期末テスト **16.** 上勝町でのゼロウエストの先進的取組み (藤井園苗)，質問，総括

【成績評価】 到達目標 1:中間試験と期末試験を 1:1 として評価．評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件．到達目標 2:環境家計簿の取組を評価．評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件．成績:1，2 の評点の重みをそれぞれ 50%，50%として算出

【対象学生】他学科，他学部学生も履修可能．

【教科書】住友恒，村上仁士，伊藤禎彦，上月康則「新版環境工学」理工図書

【参考書】環境白書

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0014

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=215747

【連絡先】
⇒ 上月 (エコ 505，088-656-7335，kozuki@eco.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日，14:35 から 16:05，18:00 から 19:30)

【備考】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

地域の防災
2 単位 (選択) 2 年 (後期)

Regional Disaster Prevention Planning

中野 晋 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
蒋 景彩 · 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
田村 隆雄 · 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】各種の自然災害の防御 · 軽減と災害時の危機管理に向けた地域防災計画の合理化に必要な基礎知識を習得させる．

【授業概要】学期前半は，①地震，②地盤，③土石流 · 泥流，④洪水 · 内水氾濫，⑤津波 · 高潮の災害について，過去の災害事例を踏まえながらそれぞれの特性や発生機構を解説するとともに，防災対策の基本事項を解説する．学期後半は，地域防災計画の沿革と現状を述べたあと，実効性のある計画策定を行う際に持つべき視点と留意点を解説する．

【キーワード】自然災害，地域防災計画，被災者救済，自主防災支援

【先行科目】『自然と技術/災害を知る』(1.0)，『自然と技術/災害に備える』(1.0)

【関連科目】『建設の歴史とくらし』(0.5)，『耐震工学』(0.5)，『河川工学』(0.5)，『地盤工学』(0.5)，『地震工学』(0.5)，『建設の法規』(0.5)，『水の力学 2』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

【到達目標】
1. 種々の自然災害の特性と防災対策の基本を理解する．
2. 地域防災計画の現状と計画策定上の要点を理解する．

【授業計画】1. ガイダンス，最近の災害から **2.** 地震・津波災害の実態 **3.** 南海地震と防災対策 **4.** グループワーク・南海地震について考える **5.** 土砂災害の実態 **6.** 土砂災害と防災対策 **7.** グループワーク・土砂災害について考える **8.** 洪水災害の実態 **9.** 洪水災害と防災対策 **10.** グループワーク・洪水災害について考える **11.** 防災の法規 **12.** 防災基本計画 **13.** 応急対応・復旧・復興対策 **14.** 減災 (自主防災) **15.** 減災 (企業防災) **16.** 期末試験

【成績評価】到達目標 1 の達成度を，前半のグループ発表会の評点と後半試験の関連部分の評点により評価し，評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件とする．到達目標 2 の達成度を後半試験の関連部分の評点により評価し，評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件とする．2 項目の到達目標をクリアした場合を合格とし，成績は，各到達目標の評点の重みをそれぞれ 65%および 35%として算出する．

【対象学生】他学部，他大学学生も履修可能

【教科書】なし

【参考書】京都大学防災研究所編「防災計画論」，平成 23 年度版・防災士教本など

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0053

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216122

【連絡先】
⇒ 中野 (A310，088-656-7330，nakano@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー:年度ごとに学科の掲示板を参照のこと．)
⇒ 蒋 (A311，088-656-7346，jiang@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)
⇒ 田村 (A414，088-656-9407，tamura@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

【備考】分担方法は第 1 回講義で提示する．

生態系の保全
2 単位 (選択) 2 年 (後期)

Ecosystem Conservation

鎌田 磨人 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】健全な社会基盤を整備する上で，生態系を保全することがなぜ重要なのか，およびそれをどのような考えのもとで行っていくのかについて，基礎的な概念を身につける．

【授業概要】生態系と人間の社会との関係をとらえながら，社会の発展によってもたらされた生物の多様性や生態系の危機的状況について解説する．そして，それらの問題の解決し，持続可能な社会を構築するにあたって技術者が果たしていくべき責任について考える．

【キーワード】**生態系の価値，生態系保全，自然再生，ビオトープ**

【先行科目】『環境を考える』(0.5, ⇒146 頁)

【関連科目】『環境生態学』(0.5)，『緑のデザイン』(0.5, ⇒179 頁)，『生態系修復論』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】関連授業科目として，「環境生態学」，「緑のデザイン」，「生態系修復論」の受講を推奨する．

【到達目標】持続可能な社会の創造を担う技術者を目指す者として，従来型の社会発展の論理によってもたらされた生態系や生物の多様性の危機的現状を認識し，健全な生態系を保全・修復していくことの必要性を自覚している．

【授業計画】**1.** ガイダンス:持続可能な社会 / (1) 土木技術者の役割—持続可能な社会，(2) 法的背景—生物多様性国家戦略等 **2.** 「環境」と「主体」 / (1) 環境とは，(2) 生物多様性とは，(3) 生態系とは **3.** 生物の多様性と連続性 / (1) 地球上の生物種，(2) 生物の分類と歴史，(3) 何を守るべきか **4.** 生態系の構造と機能 1 / (1) 生態系の定義，(2) 生態系の構造，(3) 物質循環 **5.** 生態系の構造と機能 2 / (1) 生態系サービス (公益的機能)，(2) 生態系の安定性と生物多様性 **6.** 生態系の破壊と生物多様性の減少 1 / (1) レッドデータブック，(2) 植物の現状，(3) 絶滅要因 **7.** 絶滅のプロセス 1 / (1) 種の存続単位としての「個体群」，(2) 個体群の維持と生活史 **8.** 絶滅のプロセス 2 / (1) 個体群の成長 **9.** 絶滅のプロセス 3 / (1) 個体群の衰退，(2) 個体群の衰退要因 **10.** 生態系の分布と変化 / (1) 徳島県の森林分布，(2) 遷移 **11.** 撹乱と生物多様性の維持 / (1) 撹乱，(2) 撹乱と森林生態系，(3) 撹乱と河川生態系 **12.** 生態系の再生 / (1) 復元，修復，創出，保全，(2) 再生目標 **13.** 生態系の管理 1 / (1) 生態系管理とは，(2) 生態系管理に要求される要素 **14.** 生態系の管理 2 / (1) 順応的管理，(2) 合意形成 **15.** 期末試験 **16.** 試験の解説とふりかえり

【成績評価】到達目標の達成度は期末試験の評点により評価し，評点が60%以上を当目標のクリア条件とする．

【対象学生】他学科，他学部学生も履修可能

【教科書】鷲谷いづみ「生物保全の生態学」共立出版

【参考書】
- ◇ 鷲谷いづみ・矢原徹一「保全生態学入門」文一総合出版
- ◇ プリマック，R.B.・小堀洋美「保全生物学のすすめ」文一総合出版
- ◇ Pullin S (井田秀行ら訳) 「保全生物学，生物多様性のための科学と実践」丸善

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0042

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216052

【連絡先】
⇒ 鎌田 (A306, 088-656-9134, kamada@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること．)

【備考】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

情報創生演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科，中島 浩二・准教授/社会創生学科
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】コンピュータプログラムを実践的課題に適用することにより，課題解決に必要なプロセスについて学ぶ．

【授業概要】コンピュータプログラムにより制御可能なロボットを教材として，設定された課題をロボットにより実行させるためのアプローチを受講生自らが検討し，課題実行のためのプログラムを実装することによりプログラミングスキル並びに課題解決の仕方について実践的に学ぶ．

【キーワード】**プログラミング，情報処理，インタフェイス**

【先行科目】『情報総合プログラミング II』(1.0, ⇒148 頁)，『言語情報処理研究 II』(1.0, ⇒148 頁)，『映像情報プログラミング II』(1.0, ⇒148 頁)

【履修上の注意】本授業は「情報総合プログラミング II」，「言語情報処理研究 II」，「映像情報プログラミング II」の内，いずれか 1 科目以上を履修していることを受講の条件とする．

【到達目標】コンピュータプログラムによりデバイスを制御できるようになる．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** ロボット制御の仕組み **3.** ロボット制御のためのプログラミング **4.** モーターの制御 **5.** センサーの利用:光センサー **6.** 実習 1 ライントレースカーの作成 **7.** センサーの利用:タッチセンサー **8.** ユーザーインターフェイスの設計 **9.** コントローラの作成 **10.** 無線によるロボットの制御 **11.** インタラクティブなパワーの制御 **12.** ユーザーインターフェイスの改良 **13.** 実習 2 インタラクティビティを有するロボットの作成 **14.** オリジナルロボット用課題説明 **15.** 実習 3 オリジナルロボットの作成 **16.** オリジナルロボット プレゼンテーション

【成績評価】課題:40%，プレゼンテーション:35%，授業への積極的な参加:25%

【再試験】実施せず

【参考書】授業中に適宜指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220268

【連絡先】
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 5·6 時限)

芸術創生基礎演習

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

Fundamental Research for Art Creation

平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】芸術をキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献する．

【授業概要】アートを使った地域活性化事業について理解し，地域住民との共同作業による参加型美術作品の制作をする．具体的には，徳島においては，LED(発光ダイオード) による地域活性化事業が展開されているので地域に相応しい LED 作品を発想し制作する．

【先行科目】『環境アート』(1.0, ⇒120 頁)

【到達目標】地域の活性化に貢献する．

【授業計画】**1.** 地域活性化事業について **2.** アートを使った地域活性化事業について **3.** 地域の視察 **4.** 住民との意見交換 **5.** 美術を使った地域活性化を発想し意見交換 **6.** 美術を使った地域活性化を発想し意見交換及び役割分担 **7.** 住民との意見交換 **8.** 地域住民との共同作業による作品制作 (説明) **9.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) **10.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) **11.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作) **12.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作調整) **13.** 地域住民との共同作業による作品制作 (制作完成) **14.** 完成作品の記録及び聞き取り調査 **15.** 外部に向けた成果発表会

【成績評価】地域活性化事業を理解した積極的な参加を評価する．

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220269

【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

Web デザイン II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】Web を活用した表現と Web サイト運営の実践

【授業概要】web を用いた表現又はサービスを企画し構築する．web のみならず，ギャラリーでの展示やストリーミング等と連携したものも含む． 本授業では基本的な web 構築技術を習得している受講者を前提とし，プログラミング等の技術的指導は行わない．

【先行科目】『Web デザイン I』(1.0, ⇒120 頁)

【到達目標】各自 Web サイトの構築と運営，web を活用した表現の発表．

【授業計画】**1.** web の現状 1 **2.** web の現状 2 **3.** Web を活用した表現のプランニング 1 **4.** Web を活用した表現のプランニング 2 **5.** Web を活用した表現のプランニング 3 **6.** Web を活用した表現のプランニング 4 **7.** プランのプレゼンテーション 1 **8.** プランのプレゼンテーション 2 **9.** Web を活用した表現の構築 1 **10.** Web を活用した表現の構築 2 **11.** Web を活用した表現の構築 3 **12.** Web を活用した表現の構築 4 **13.** Web を活用した表現の構築 5 **14.** 完成作品のプレゼンテーション 1 **15.** 完成作品のプレゼンテーション 2 **16.** 総括

【成績評価】課題と出席

【再試験】実施せず

【教科書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220270

【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報総合プログラミング I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】情報処理の基礎知識と技術を習得する．あわせてテキストマイニングの基本を身につける

【授業概要】オブジェクト指向言語と呼ばれるプログラミング言語，および最近注目を集めているテキストマイニングに関する基礎的な知識と技術を学ぶ

【キーワード】**プログラミング，*Web* プログラミング**

【先行科目】『情報創生プロジェクト』(1.0, ⇒118 頁)，『Web デザイン I』(1.0, ⇒120 頁)

【関連科目】『映像情報プログラミング I』(0.5, ⇒148 頁)

【履修上の注意】予備知識は必要としない

【到達目標】プログラミング技術の基本を身につけている

【授業計画】**1.** オリエンテーション **2.** コンピュータ操作の確認 **3.** プログラミングとは何か **4.** プログラミング言語について **5.** 入出力の制御 **6.** 構文制御その 1 **7.** 構文制御その 2 **8.** やや高度なプログラミング構成その 1 **9.** グラフィックスのためのプログラミング **10.** テキストマイニングの知識 **11.** テキストマイニングの技術 **12.** テキストマイニングのプログラミング 1 **13.** テキストマイニングのプログラミング 2 **14.** テキストマイニングのプログラミング 3 **15.** ここまでの知識の確認 **16.** まとめ

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218713

【連絡先】
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

情報総合プログラミング II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】プログラミング言語に関する応用的な知識，技能を身につける．

【授業概要】日本語テキストを解析する事例からプログラミング技法を学ぶ

【キーワード】**テキスト処理，*Web* プログラミング，プログラミング**

【先行科目】『映像情報プログラミング I』(1.0, ⇒148 頁)，『情報総合プログラミング I』(1.0, ⇒147 頁)

【関連科目】『情報総合プログラミング I』(0.5, ⇒147 頁)，『情報創生演習』(0.5, ⇒147 頁)

【履修上の注意】R あるいは C 言語の知識があること

【到達目標】課題をアルゴリズム化したアプリケーションを作成できる

【授業計画】**1.** アルゴリズムとはなにか **2.** 形態素解析を実現するために必要な知識 1 **3.** 形態素解析を実現するために必要な知識 2 **4.** 形態素解析器を使う 1 **5.** 形態素解析器を使う 2 **6.** 日本語処理のための文字コード入門 **7.** 文字コード変換処理 **8.** テキストの入出力 **9.** 品詞分類 **10.** 頻度情報の処理 **11.** コーディング演習 1 **12.** コーディング演習 2 **13.** コーディング演習 3 **14.** コーディング演習 4 **15.** データベース入門 **16.** 総括

【成績評価】授業中の課題と，自由課題で採点する

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220271

【連絡先】
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

言語情報処理研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語学理論一般 (音声学・音韻論・形態論・比較言語学など) を多面的な角度から学び，言語分析を実際に行ってみる．

【授業概要】言語理論と言語分析

【キーワード】**一般言語学，音声学，音韻論**

【到達目標】言語を客観的に観察し，自分で基礎的な分析ができるようになる．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 言語とその周辺 **3.** 言語の一般的特徴 **4.** 言語研究の分野 **5.** 言語の変種 **6.** 言語の分類 **7.** 様々な言語学 **8.** 音声学 **9.** 音韻論

【成績評価】授業への参加度および定期試験による．

【再試験】なし

【教科書】「言語学演習」田中春美 (大修館書店)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218568

【連絡先】
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

言語情報処理研究 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】言語コーパスとは何か理解する．また，コンピュータのツール (KWIC コンコーダンサー等)，Unix コマンド，プログラミング言語 (Perl) を利用して言語コーパスを分析する技能を身につける．

【授業概要】コンピュータを用いた言語コーパス分析

【キーワード】***Perl*，コーパス言語学**

【関連科目】『情報創生演習』(1.0, ⇒147 頁)

【履修上の注意】「情報創生演習」(後期開講，3 年生以上対象) を受講する予定のものは，この科目を必ず受講すること．「情報創生演習」では，この授業で学んだ知識や技術の応用発展を扱う．

【到達目標】コンピュータ言語 Perl を使って，言語情報処理のために必要な基本的アルゴリズムを習得し，自分で実際に言語処理プログラムが作成できるようにする．また，文字列処理のための便利なコマンドが標準的に用意されている Unix という OS の仕組み・使い方を理解することにより，言語情報・文字列をコンピュータで処理するための実践的技能を身につける．

【授業計画】**1.** Unix 概論 **2.** Perl 概論 **3.** スカラー変数 **4.** 演算子 **5.** 制御構造 (1) **6.** 制御構造 (2) **7.** 配列操作 **8.** ハッシュ操作 **9.** 正規表現の基礎 **10.** 正規表現を使った言語コーパス検索 **11.** 関数 **12.** ファイル操作 **13.** 応用プログラム作成 (文字列の加工・頻度表の作成) **14.** 応用プログラム作成 (KWIC 出力) **15.** 定期試験 **16.** 総括

【成績評価】授業への参加度および定期試験による．

【再試験】なし

【教科書】「独習 Perl 第 2 版」(武藤健志・トップスタジオ編著:SHOEISHA)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220272

【連絡先】
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)

映像情報プログラミング I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】C 言語によるプログラミングを通じて論理的な思考方法を身に着け，簡易なプログラムを自ら作成できるようになる．

【授業概要】C 言語の文法を学び，与えられたアプリケーションを利用するだけではなく，自らプログラムを作成することにより，論理的な思考方法やコンピュータによる情報処理方法を理解する．

【キーワード】**プログラミング，情報リテラシー，情報処理**

【先行科目】『情報処理の基礎 II』(0.3, ⇒14 頁)

【関連科目】『情報総合プログラミング I』(0.5, ⇒147 頁)

【履修上の注意】「映像情報プログラミング II」および「メディア情報演習 IA」の受講希望者には受講することを強く勧めます．

【到達目標】C 言語を用いて簡易なプログラムを作成できるようになる

【授業計画】**1.** プログラム作成の流れ **2.** C 言語の約束事 **3.** 変数と算術演算子 **4.** 型変換と記憶クラス **5.** 条件による分岐 1 if 文 **6.** 条件による分岐 2 switch 文 **7.** 繰り返し処理 1 for 文 **8.** 繰り返し処理 2 while 文 **9.** 実習 1 「条件分岐」,「繰り返し処理」,「乱数」を利用したプログラム作成 **10.** 配列 **11.** 関数 **12.** ポインタとアドレス **13.** ポインタと配列 **14.** 構造体 **15.** 再帰 **16.** 実習 2 「関数呼び出し」,「配列」,「ポインタ」を利用したプログラム作成

【成績評価】課題の提出及び授業貢献により評価．試験は実施せず．

【再試験】実施しせず

【参考書】授業中に適宜指定する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218371

【連絡先】
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日5・6(他の時間帯でも連絡の上，随時訪問可))

映像情報プログラミング II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
掛井 秀一・准教授/社会創生学科

【授業目的】コンピュータは開発された当初から，その高速な演算処理能力を活かしシミュレータとしても利用されていたが，かつてはシミュレーションが実行されるのは科学，工学，経済など分析対象が数学モデルで表現される分野に限られていた．しかし，CG を含むインターフェイス技術が発達し，コンピュータは唯単に計算をこなすだけの装置ではなく，対話性を付与されたメディアとしても利用できるという認識が広まるとともに，それは個人の表現のための道具としても活用されてきた．この授業では CG プログラミングについて学ぶとともにコンピュータによるパターン生成の意味についても考えていきたい．

【授業概要】プログラミングによる視覚情報の生成

【キーワード】**プログラミング，*3* 次元コンピュータグラフィックス，アニメーション，シミュレーション**

【先行科目】『映像情報プログラミング I』(1.0, ⇒148 頁)

【関連科目】『情報処理の基礎 II』(0.7, ⇒14 頁), 『情報創生演習』(0.7, ⇒147 頁)

【履修上の注意】「映像情報プログラミング I」を履修している，または C 言語によるプログラミングを習得していることが受講の条件となります．また，本科目の履修は後期に開講される「情報創生演習」受講のための要件の 1 つとなっているので注意して下さい．

【到達目標】OpenGL によるインタラクション手法，アニメーション手法を習得する

【授業計画】**1.** Warm Up:環境の設定 **2.** OpenGL 入門 1:Display Callback 関数 **3.** OpenGL 入門 2:Idle Callback 関数 **4.** OpenGL 入門 3:Animation **5.** OpenGL 入門 4:その他の Callback 関数 **6.** OpenGL 入門 5:Interaction **7.** 課題作成 1(Animation, Interaction) **8.** OpenGL 入門 7:3 次元の考え方 **9.** OpenGL 入門 8:投影方法 **10.** OpenGL 入門 9:視点の設定 **11.** OpenGL 入門 10:affine 変換 **12.** OpenGL 入門 11:ライティングの設定 **13.** OpenGL 入門 12:アルファ・バッファ **14.** OpenGL 入門 13:Texture Mapping **15.** 課題作成 2(3 次元 Animation) **16.** 講評会

【成績評価】課題及び授業貢献 (授業中に於ける質問など積極的な授業への関与)

【再試験】実施せず

【参考書】「OpenGL 入門 やさしいコンピュータグラフィックス」エドワード・エンジェル，ピアソン・エデュケーション

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220273

【連絡先】
⇒ 掛井 (マルチメディア B 棟 206, 088-656-7166, kakei@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日5·6(他の時間帯でもメイル等で連絡の上随時訪問可))

メディア情報論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
河原崎 貴光 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する

【授業概要】主にメディアに流通する複製芸術を中心として図版，映像資料等を紹介解説していく． 授業中に小レポートを課すこともある．

【キーワード】**メディア，アート，映像，写真**

【到達目標】メディア芸術の理解

【授業計画】**1.** 写真-カメラオブスキュラ **2.** 写真-決定的瞬間 **3.** 写真-ニューカラー **4.** 映像と身体 **5.** 映像と記憶 **6.** 実験映像 **7.** 実験的アニメーション **8.** 映画-初期 **9.** 映画-ハリウッドシステム **10.** 映画-物語以後 **11.** プロモーションビデオ **12.** アニメ **13.** インタラクション **14.** ゲーム-インターフェイス **15.** ゲーム-物語-ライトノベル **16.** ネットワーク,AR, ミクスドリアリティ

【成績評価】出席，小レポート

【再試験】実施せず

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219016

【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

映像デザイン
Image Design Programing

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
石井 健二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】多様化した現代の画像表現技術を学ぶと共に，美術館・図書館・官庁等で所有している写真や芸術作品の保存・修復・管理について，その在り方，必要性等についても考察し，表現と保存の両極面から今後考えられる画像文化の在り様を探る．

【授業概要】19 世紀中期から現代に至る写真画像表現について考察し，デジタル画像処理の今後についても検討する．

【キーワード】**映像情報，写真画像**

【先行科目】『Web デザイン I』(1.0, ⇒120 頁)

【関連科目】『映像情報プログラミング I』(0.5, ⇒148 頁)

【履修上の注意】前期開講，講義はマルチメディア B 棟 1 階講義・実習室にて行う．

【到達目標】映像に関する基礎知識を身に付ける．

【授業計画】**1.** 時代背景を追いながら考察を行う． **2.** 受講者による発表を中心に授業を進める． **3.** 写真表現の現状と保存・修復・管理について． **4.** 白黒フィルムによるスタジオ撮影について． **5.** カラーフィルムによるスタジオ撮影について． **6.** 白黒フィルムの撮影後の処理について． **7.** カラーフィルムの撮影後の処理について． **8.** 白黒・カラーフィルムのプリント処理及び管理方法について． **9.** サイアノタイプ技法によるワークショップ． **10.** ピンホールカメラの制作． **11.** ピンホールカメラによる撮影． **12.** 映像作品鑑賞． **13.** ビデオ作品として自己紹介ビデオを作成する． **14.** 映像を利用した総合芸術の今後について． **15.** レポート提出． **16.** 総括授業

【成績評価】課題と期末レポート及び，授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】講義の中でテーマ毎に紹介する．

【参考書】授業の中で配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218372

【連絡先】
⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜昼休み)
⇒ 木曜日 昼休み

【備考】◇ 平成 23 年度前期開講 ◇ 平成 23 年度は金曜日 5・6 講時 ・マルチメディア B 棟 講義・実習室にて開講

アート表現基礎

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
平木 美鶴 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】絵画表現をする上で基礎となる力を養う．

【授業概要】絵画表現をするためには，表現を考える事とそれを表わすための技術が必要となるが，ここでは表現を考えるために毎週イメージデッサンの提出を求める．そして，アクリル絵の具を中心とした表現技法実習を行う．

【キーワード】**絵画，表現，美術**

【関連科目】『環境アート』(0.5, ⇒120 頁)

【履修上の注意】アクリル絵具を各自購入してもらう． また，材料費を徴収する場合もある．

【到達目標】絵画表現ができるようになる．

【授業計画】**1.** 授業概要に説明 **2.** 封入樹脂によるボックスアートの制作 1 **3.** 封入樹脂によるボックスアートの制作 2 **4.** 封入樹脂によるボックスアートの制作 3 **5.** 封入樹脂によるボックスアートの制作 4 **6.** 封入樹脂によるボックスアートの制作 5 **7.** 凹凸絵画制作 1 **8.** 凹凸絵画制作 2 **9.** 凹凸絵画制作 3 **10.** 凹凸絵画制作 4 **11.** 凹凸絵画制作 5 **12.** パネルによる絵画作品制作 1 **13.** パネルによる絵画作品制作 2 **14.** パネルによる絵画作品制作 3 **15.** パネルによる絵画作品制作 4 **16.** 総評

【成績評価】提出作品とイメージデッサンで評価する．

【再試験】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218332

【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

工芸表現と技法

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
平木 美鶴 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】工芸と純粋美術の違いは，絵画や彫刻のような純粋美術が生活の中での使用目的を 全く持たないことに対して，工芸品は陶芸，手芸，木工などのように日常生活における使用目的を持った要素が多くなる．しかしながら，最近のすぐれた現代工芸は使用目的から離れ，純粋美術に近付いてきている．そのような現代工芸のあり方を探ると共に，工芸の実技を通して 素材への理解や道具を使用する基本的な能力を養う．

【授業概要】具体的には木を素材として木の特徴を理解した上で木を切る，削る，磨く，着色することにより木工作品を制作する．

【キーワード】**美術，工芸**

【先行科目】『アート表現基礎』(1.0, ⇒149 頁), 『環境アート』(1.0, ⇒120 頁)

【履修上の注意】隔年講義である． 2012 年度に開講する． 材料費を徴収する．

【到達目標】素材への理解や道具を使用する基本的な能力と感性を養う

【授業計画】**1.** 現代工芸について **2.** レリーフについて **3.** レリーフの構想を練る **4.** レリーフの下絵を木にトレースする **5.** レリーフの構想に従い大まかに切り取る 1 **6.** レリーフの構想に従い大まかに切り取る 2 **7.** レリーフを彫刻刀で彫る 1 **8.** レリーフを彫刻刀で彫る 2 **9.** レリーフを彫刻刀で彫る 3 **10.** レリーフに磨きを入れ完成．批評会 **11.** 木彫の立体作品説明構想を練る **12.** 木彫の立体作品彫刻刀で彫る 1 **13.** 木彫の立体作品彫刻刀で彫る 2 **14.** 木彫の立体作品彫刻刀で彫る 3 **15.** 木彫の立体作品彫刻刀で彫る 4 **16.** 磨きを入れ完成．批評会

【成績評価】評価は，作品評価を基本として，出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】なし

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218601

【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】美術の教員志望者は必ず履修する事

彫刻研究
Studies for Sculpturing

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
上月 佳代・非常勤講師
平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】造形芸術に関する表現活動における彫刻分野の基礎的な知識や表現能力の習得を目指し，制作実習の授業を行い，立体分野への理解を深めたい．

【授業概要】彫刻の基礎

【キーワード】**彫刻，美術**

【履修上の注意】特に美術の教職専門科目でもあるので教職希望者は必ず履修する事．

【到達目標】彫刻分野の基礎的な知識や表現能力の習得．彫刻分野の基礎的な知識や表現能力の習得．

【授業計画】**1.** 現代彫刻の諸相について **2.** 線材による抽象表現 **3.** 作品批評と鑑賞 **4.** 面材による立体造形 **5.** 作品批評と鑑賞 **6.** 粘土による頭像制作 1 **7.** 粘土による頭像制作 2 **8.** 粘土による頭像制作 3 **9.** 粘土による頭像制作 4 **10.** 作品批評と鑑賞 **11.** 粘土による抽象表現 1 **12.** 粘土による抽象表現 2 **13.** 粘土による抽象表現 3 **14.** 粘土による抽象表現 4 **15.** 石膏素材の実習 **16.** まとめと代表的な現代彫刻の鑑賞

【成績評価】評価は，出席と課題作品による

【再試験】行わない

【教科書】科書は，使用しない．授業中に資料を配布する．参考書 中原祐介著「現代彫刻」美術出版社

【参考書】美術出版社「カラー版 20 世紀の美術」

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218868

【連絡先】
⇒ 上月 .
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】本授業は，隔年開講である．2011 年度は開講しない

美術概論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
江川 佳秀・/徳島県立近代美術館，平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】日本美術を中心とした絵画，彫刻，工芸等の具体的な作例を通じて，美術作品が伝えるメッセージを読み解く方法を学ぶ．さらには，日本美術と日本美術に影響を与えた東洋や西洋の美術を概観することで，日本美術の背景にある文化思想の特性を考察する．

【授業概要】美術文化思想

【キーワード】**美術，芸術**

【履修上の注意】毎回の授業ごとに，相当数の作品画像をパワーポインターで紹介する．また，授業の一環として，県内の美術館や博物館で見学会を実施する．その場合は，通常の授業を土曜日，または日曜日に振り替えて実施する (現地集合，現地解散，要展覧会観覧料).

【到達目標】美術に関する基礎的な知識を身につけ，美術作品を読み解く能力を養う．

【授業計画】**1.** 美術とは何か 1(美術という用語が誕生する以前と以降) **2.** 美術とは何か 2(日本画と洋画，絵画と平面，彫刻と立体) **3.** 美術とは何か 3(美術とアート) **4.** 日本絵画の形態 (屏風，絵巻物，掛幅，障屏画など) **5.** 日本美術を概観する 1(仏像，仏画) **6.** 日本美術を概観する 2(やまと絵と漢画，南蛮美術) **7.** 日本美術を概観する 3(淋派，文人画，円山四条派) **8.** 日本美術を概観する 4(近代の始まり) **9.** 東西の画題 **10.** 作家，作品研究 1(霎光) **11.** 作家，作品研究 2(山下菊二) **12.** 作家，作品研究 4(エコール・ド・パリと日本) **13.** 作家，作品研究 3(近代東アジアの美術交流) **14.** 実際の作品を前に (見学会) **15.** 試験

【成績評価】規定の出席数を満たした者を対象に，平常点と試験の成績 (またはレポート) をもとに評価する．平常点は，見学会での議論への参加の度合いなども参考に評価する

【再試験】行わない

【教科書】教科書は使用しない．参考図書の情報は，授業時間中に適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218958

【連絡先】
⇒ 江川 .
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英米言語研究 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
井上 永幸・，山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】この講義では，日常生活の身近な例を使って，英語の意味と形について考えてゆく．「明かりをつける」という意味の turn on the light と turn the light on はどう違うのか．the light を代名詞にして it にするとなぜ turn it on のように turn と on にはさまれるのか．John has many books．はなぜ不自然か．happen，occur，take place はどこが違うか．常に「なぜ」考える姿勢で，複数の表現形式と意味の関係を考察してゆく．その際，適宜コンピュータを使ったコーパス言語学の手法を援用する．

【授業概要】現代英語の文法・語法研究

【キーワード】**英語学，英語語法研究，コーパス言語学，辞書学**

【履修上の注意】(1) 常に自分から問題点を探求する態度で望んでもらいたい．学生諸君の新鮮でユニークな発想を期待している．(2) 後期の授業は前期の授業の内容を前提としているので，まず前期を受講し，その後で後期を受講することが望ましい．

【到達目標】現代英語の文法・語法研究に必要な基礎知識を身につけること．

【授業計画】**1.** 講義概要説明 **2.** 文体と使用域 **3.** 慣用句とコロケーション **4.** 語順と話し手・書き手の意図 (1) **5.** 語順と話し手・書き手の意図 (2) **6.** 有標性 **7.** 反意語と否定 (1) **8.** 反意語と否定 (2) **9.** 直示 **10.** 指向性 (1) **11.** 指向性 (2) **12.** 時制と相 **13.** 動詞の相 (1) **14.** 動詞の相 (2) **15.** 総括授業

【成績評価】授業参加及び試験による．

【再試験】行わない．

【教科書】
◇ 井上永幸・赤野一郎 編 (2007)『ウィズダム英和辞典』第 2 版．三省堂．
◇ ※適宜，プリントも配布．

【参考書】
◇ 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎 編 (2005)『英語コーパス言語学 ―基礎と実践― 【改訂新版】』研究社．
◇ ※最初の授業で，参考文献一覧表を配布．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218380

【連絡先】
⇒ 井上 . (オフィスアワー: e-mail:inouen@hiroshima-u.ac.jp)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
元木 美男・，山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】イギリス史と関連させながら古期・中期英語を中心に現代までの英語の歴史を通観する．

【授業概要】英語史研究

【キーワード】**英語学，ノルマン・コンケスト，ラテン語，語源**

【関連科目】『英米言語研究 I』(0.5, ⇒150 頁)，『英米言語研究 III』(0.5, ⇒150 頁)，『英米言語研究 IV』(0.5, ⇒151 頁)

【到達目標】
1. 英語は古いところでは現代のドイツ語と同じような語尾変化をし，時代が下ると共に次第に語尾が消失し，今日のような語順を大切にする言語となった．また語彙においては，全体として，比較的純粋なゲルマン語彙から，ノルマン・コンケストを契機にロマンス語彙を増大してゆき，今日に見るような語彙の豊富さを獲得していった．
2. 以上のような英語の歴史について理解を深める．

【授業計画】英語史の概説に重点を置く．

【成績評価】レポート及び期末試験．

【再試験】行なう．

【教科書】
◇ Sweet's Anglo-Saxon Primer 千城
◇ 松平千秋・国原吉之助共著 新ラテン文法 東洋出版

【参考書】Albert C. Baugh:A History of the English Language

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218381

【連絡先】
⇒ 元木 . (オフィスアワー: 金曜日 14:30~ 15:30)
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 III

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
山田 仁子・准教授/人間文化学科

【授業目的】言語には，人間の世界の捉え方が反映している事を理解させる．

【授業概要】認知言語学入門

【キーワード】**英語学，認知言語学**

【先行科目】『英米言語研究 I』(1.0, ⇒150 頁)

【関連科目】『英米言語研究 I』(0.5, ⇒150 頁)，『英米言語研究 II』(0.5, ⇒150 頁)

【履修上の注意】受動的に学ぶというより，自ら新しい真実を発見しようという態度を期待します．

【到達目標】日頃，無意識に使っている「ことば」を認知言語学という新たな視点から見直し，「ことば」が無意識に働いている「認知システム」を知る手がかりとなることを知る．

【授業計画】**1.** イントロダクション/認知言語学とは何か **2.** 第 1 章 基本概念 **3.** 第 1 章 練習問題 **4.** 第 2 章 空間 in, on, at 等 **5.** 第 2 章 練習問題 **6.** 第 3 章 空間的意味からの拡張 第一回 **7.** 第 3 章 空間的意味からの拡張 第二回 **8.** 第 3 章 空間的意味からの拡張 第三回 **9.** 第 3 章 練習問題 **10.** 第 4 章 放射状カテゴリー 第一回 **11.** 第 4 章 放射状カテゴリー 第二回 **12.** 第 4 章 練習問題 **13.** 第 5 章 構文 第一回 **14.** 第 5 章 構文 第二回 練習問題 **15.** テスト **16.** 総括授業

【成績評価】学期末のテストを基礎に，授業参加の態度や授業中の発表を考慮して評価する．

【再試験】学期を通しての積極的な授業参加や課題の提出等の条件を満たしている場合にのみ，再評価も可能とする．

【教科書】デイヴィッド・リー著『実例で学ぶ認知言語学』(大修館書店)

【参考書】
- ◇ ジル・フォコニエ『メンタル・スペース』(白水社)
- ◇ 松本曜『認知意味論』(大修館書店，2003 年)
- ◇ 山梨正明 『認知文法論』(ひつじ書房，1995 年)
- ◇ 大堀壽夫 『認知言語学』(東京大学出版会，2002 年)
- ◇ 山梨正明 『認知構文論』(大修館書店，2009 年)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218382

【連絡先】
⇒ 山田 (hitokoy@yahoo.co.jp) (オフィスアワー: 木曜日 10:20~11:20)

英米言語研究 IV

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
森岡 芳洋 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】生成文法の理論に基づき，人間が無数の文を作りかつそれらを理解することを可能にしている仕組みについて理解を深める．

【授業概要】英語を主材料としての統語構造理解

【到達目標】英語の統語分析の基本を理解すること．

【授業計画】**1.** 導入 **2.** 言語知識 **3.** 言語習得 **4.** 言語運用 **5.** 記述性 **6.** 妥当性 **7.** 説明力 **8.** 表示 **9.** 集合 **10.** 論理演算子 **11.** チョムスキーの階層 **12.** 句構造 **13.** 変形 **14.** 厳密下位範疇化 **15.** 素性と共起制限 **16.** 期末試験

【成績評価】授業での質疑応答と期末試験を総合して行う．

【再試験】行う．

【教科書】基本資料を配付する．

【参考書】適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218383

【連絡先】
⇒ 森岡 (088-656-7122, morioka@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語研究 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
仙波 光明 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】「方言」について正しい認識を持つ．また，言葉を体系の中で考えることの必要を理解する．

【授業概要】徳島県の方言 (俚言) を手がかりとして，言葉の歴史や体系を考える．

【到達目標】
1. 方言について，正確な知識を獲得する．
2. 言葉の由来，あるいは語源について正しい考え方を理解する．
3. 言葉を単独で考えず，つねに体系の中で考える習慣を身につける．
4. 言葉や言語資料の背景となるものを意識して，言葉を考える習慣を身につける．
5. 「方言」が特定の地域に孤立して存在するものでないことを理解する．

【授業計画】**1.** 授業の進め方についての説明．この授業で使う「方言」の意味は何か．徳島の方言概説 (その 1) **2.** 徳島の方言概説 (その 2) **3.** 「せこい」という言葉．(語源の考え方 その 1 なぜ徳島だけ意味が異なるのか) **4.** ウンカゴブジ (温和御無事) (語源の考え方その 2 方言の中の漢語語彙) **5.** 気象と言葉 (雨や風の名前 ベックノジャラセ・ナガセ・サダチ・サオカタギ等) **6.** 身体の部位をあらわす言葉 (ヤネとはどこを指す? 意味のずれの発生など) **7.** オビユからオブケル (驚く) の変化をどう説明するか． **8.** 子どもの世界と言葉 (カマキリ · メダカ · じゃんけん等，多彩な語形が失われたわけ) **9.** 木屋平の方言 (個人のメモから分かること．新居熊太氏のメモから) **10.** 相生の方言 (個人のメモから分かること．方言資料の残し方．) **11.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **12.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **13.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **14.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **15.** 徳島県の俚言の語誌 (内容未定) **16.** 補足，まとめなど．

【成績評価】出席，授業に対する積極性 (質問，意見など) とレポートを総合して評価する．レポートに大きい比重を置く．

【再試験】再レポート．

【教科書】『徳島県のことば』(明治書院) を予定．

【参考書】授業の中で随時紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220376

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語概説 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
岸江 信介 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】この授業では，日本語の敬語や配慮表現を中心に講義する．敬語一般の基礎的な知識を身につけること，敬語や配慮表現について取り上げ，実際に敬語研究に触れ，日本語の敬語について理解することを目標にする．これまで敬語，配慮表現に関連する日本語学各方面で得られた研究成果を概説的に学習する．科学的視点での，ものの見方，とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照 · 検討することによって深めてみたい．

【授業概要】日本語学・社会言語学・日本語教育等で基礎となる学習を行う．この授業では主に敬語をはじめ，ポライトネス，配慮表現などを中心的に取り上げ，社会言語学的視点から対人コミュニケーションとは何かについて学ぶ．配慮表現に関するデータを統計的に処理する方法を身につけ，言語分析の方法について学ぶ．

【履修上の注意】授業は，講義形式を原則とするが，一部，調査の関係でゼミ形式をとる場合もある．受講生各人が授業で扱ういろいろなテーマの中から一つ興味を持ち，レポートを完成させる．毎時，簡単な小テストを行うこともある．

【到達目標】日本語を科学的な視野からとらえ，日本語学の基礎を理解する．

【授業計画】**1.** (1) 日本語の敬語の特色 **2.** (2) 社会言語学とは **3.** (3) 属性にもとづく言語バリエーション-地域差・世代差・性差- **4.** (4) 敬語行動とは何か **5.** (5) ポライトネスと配慮表現 (1) **6.** (6) ポライトネスと配慮表現 (2) **7.** (7) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(1) **8.** (8) 言語データ分析の方法-統計的分析法を学ぶ-(2) **9.** (9) 自由回答をどう分析するか **10.** (10) テキストマイニングによる分析手法を学ぶ **11.** (11) ソフトを利用した分析 **12.** (12) アンケート調査の実施-受講生が分担して行う- **13.** (13) アンケート調査のデータ集計-受講生が分担して行う- **14.** (14) アンケートデータの分析と解説 **15.** (15) レポートの準備のため文献資料の解説 **16.** 総括授業

【成績評価】評価は，レポート，小テスト，フィールド調査への参加を目安とする．

【再試験】無

【教科書】
- ◇ 教 材:授業でプリントを配布する．
- ◇ 参考書:各分野で必要な論文 · 図書を紹介する．

【参考書】国立国語研究所編 (2006)『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218913

【連絡先】
⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日12~ 13時 総合科学部1号館1階南棟 656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】◇IC レコーダー等の音声機器の使い方，データ分析の方法の説明を行う． ◇データ分析を行う際にノートパソコンや IC レコーダーの貸し出しを行うこともある．

日本言語概説 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
仙波 光明 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】古代から近現代までの日本語にどのような変化が，なぜ起こったのかについて，基本的なことがらを理解する．

【授業概要】古代から近世までの日本語に関して，日本語史・言語変化の観点から重要と思われる話題を選び，なぜそのような変化が生じたのか，そのことがどのような方法で明らかにできるのか，ひとつの変化が他の面にどのような影響を与えるのか，といったことを見てゆく．

【キーワード】**上代特殊仮名遣，仮名，ハ行転呼音，連体形終止法，係り結び**

【履修上の注意】教科書を利用するが，教科書に書かれた順番で授業を進めるのではない．あらかじめ指定するところは必ず予習することが望ましい．また，国語科の教職免許を取得したい学生は，必ず受講すること．(受講生数および構成によっては，進め方を変更することがある．)

【到達目標】日本語史上の重要なトピックを理解し，言語変化を科学的に考える態度を養う．

【授業計画】**1.** 文献以前の日本語 (日本語の系統など) **2.** 古代日本語 1: 奈良時代 (「上代特殊仮名遣い」と呼ばれる現象) **3.** 古代日本語 2: 奈良時代 2(母音体系と文法体系他の関係) **4.** 古代日本語 3:平安前期 (平仮名・片仮名の誕生，いろは歌) **5.** 古代日本語から近代日本語へ 1(ハ行子音の変遷) **6.** 古代日本語から近代日本語へ 2(ハ行子音の変遷の影響 仮名遣いの発生) **7.** 古代日本語から近代日本語へ 3(定家仮名遣いとアクセント) **8.** 古代日本語から近代日本語へ 4(「音便」とは何だったか) **9.** 古代日本語から近代日本語へ 5(活用体系の変遷) **10.** 古代日本語から近代日本語へ 6(連体形終止法の確立) **11.** 古代日本語から近代日本語へ 7(係り結びの消滅 1) **12.** 古代日本語から

近代日本語へ 8(係り結びの消滅 2) **13.** 古代日本語から近代日本語へ 9(助動詞の衰退 1 推量の助動詞) **14.** 古代日本語から近代日本語へ 10(助動詞の衰退 2 時の助動詞) **15.** 試験 **16.** 補足など

【成績評価】 平常点 40%，試験 60%の割合で評価する．平常点には，出席状況だけでなく，何回かの小テスト (または中間テスト) を含む．

【再試験】 再試験またはレポート

【教科書】 沖森卓也編『日本語史』(おうふう)1900 円を予定．

【参考書】 『日本語の歴史』(1~ 7 巻) 平凡社ほか，随時紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218914

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語演習

4 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
岸江 信介 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 日本の一地域においてフィールドワークを行い，調査によって得られたデータの処理の方法として，「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ．

【授業概要】 地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする．日本語諸方言の音韻 · アクセント · 文法 · 語彙などの特色を把握する．前期後半では，フィールド調査に関する調査票の作成，フィールド調査の方法等について学ぶ．夏期休業中期間等を利用し，フィールドワークを実施する予定である．現段階で調査地域は未定である．ちなみに，10 年度は三重県志摩地方に 3 泊 4 日の調査に出かけた．調査地域は，受講生の意見を尊重して決める予定である．後期では，エクセル，音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ，受講生全体での共同作業として，調査票の整理，データ入力を行ったあと，各調査項目の分担を決め，各自発表を行うことにする．また，年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である．

【キーワード】 フィールドワーク，方言調査

【履修上の注意】 夏休み (昨年度は 9 月下旬に実施) を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい．

【到達目標】) 野外での方言調査を通じて，生きた方言に触れる

【授業計画】 **1.** 方言調査とは? **2.** 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 1 **3.** 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 2 **4.** 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 3 **5.** 各グループによる調査票の準備と検討 1 **6.** 各グループによる調査票の準備と検討 2. **7.** 各グループによる調査票の準備と検討 3 **8.** グループ毎で調査項目の作成 1 **9.** グループ毎で調査項目の作成 2 **10.** グループ毎で調査項目の作成 3 **11.** 各自 (各グループ) による録音機器類の操作方法の習得 **12.** 各グループ毎で話者を斡旋してもらうため，調査地へ連絡をとる **13.** 調査票全体の作成 1 **14.** 調査票全体の作成 2 **15.** 調査票全体の作成 3 **16.** 調査のしおりの作成と調査の実施

【成績評価】 成績評価は，発表 (30%)· レポート (50%)· ソフト等の習得 (20%) といった比率に基づく．フィールド調査には参加すること．調査への参加は出席点に加える．

【教科書】
- ◇ 教科書:特に指定しない
- ◇ 教材:授業でプリントを配布する
- ◇ 西日本諸方言に関する必要な論文，データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220374

【連絡先】
⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい．

日本言語演習

4 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
岸江 信介 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 日本の一地域においてフィールドワークを行い，調査によって得られたデータの処理の方法として，「方言データベース」「音声データベース」の構築方法について学ぶ．

【授業概要】 地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする．日本語諸方言の音韻 · アクセント · 文法 · 語彙などの特色を把握する．前期後半では，フィールド調査に関する調査票の作成，フィールド調査の方法等について学ぶ．夏期休業中期間等を利用し，フィールドワークを実施する予定である．現段階で調査地域は未定である．ちなみに，10 年度は三重県志摩地方に 3 泊 4 日の調査に出かけた．調査地域は，受講生の意見を尊重して決める予定である．後期では，エクセル，音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ，受講生全体での共同作業として，調査票の整理，データ入力を行ったあと，各調査項目の分担を決め，各自発表を行うことにする．また，年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である．

【到達目標】 野外での方言調査を通じて，生きた方言に触れる

【授業計画】 **1.** 臨地方言調査の総括と反省 **2.** データ整理 1. **3.** データ整理 2. **4.** データ整理 3. **5.** データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 1. **6.** データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 2. **7.** データ入力とデータ分析の方法を学ぶ 3. **8.** 発表の分担の打ち合わせ 1. **9.** 発表の分担の打ち合わせ 2. **10.** 各自 (各グループ) による研究発表 1 **11.** 各自 (各グループ) による研究発表 2 **12.** 各自 (各グループ) による研究発表 3 **13.** 各自 (各グループ) による研究発表 4 **14.** 各自 (各グループ) による研究発表 5 **15.** 全体的にデータを見渡し，特徴的な結果について整理する． **16.** レポート等，報告書の作成．

【成績評価】 成績評価は，発表 (30%)· レポート (50%)· ソフト等の習得 (20%) といった比率に基づく．フィールド調査には参加すること．調査への参加は出席点に加える．

【再試験】 無

【教科書】
- ◇ 教科書:特に指定しない
- ◇ 教材:授業でプリントを配布する
- ◇ 西日本諸方言に関する必要な論文，データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221458

【連絡先】
⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語演習

4 単位 (選択) 3 年 (前期), 4 年 (前期)
仙波 光明 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 前期は，中世前期日本語の文献資料解読を通して，日本語研究の方法を身につける．自ら調査する過程に於いて，辞書，先行研究，その他参考文献等の適切な利用方法，探索方法を学ぶ．後期は，近世の資料を予定．

【授業概要】 前期は，『宇治拾遺物語』を対象とし，各説話の解読 (現代語訳) を，正確に行いながら，同時に，特定の語について深く掘り下げる．受講者は，それぞれ分担の説話と，自らが設定したテーマについての調査結果を発表する．

【キーワード】 宇治拾遺物語

【到達目標】
1. 大型辞書の適切な利用と評価ができるようになる．また，日本語の研究方法を身につける．
2. 古典文法の基礎的知識を活かしながら，日本語の変化に気付く．
3. 先行研究を効率的に探索し，有効に利用できる．

【授業計画】 **1.** 授業の進め方について説明し，各人の分担を決める． **2.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **3.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **4.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **5.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **6.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **7.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **8.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **9.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **10.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **11.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **12.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **13.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **14.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **15.** 『宇治拾遺物語集』第 6 の，割り当てられた項目についての調査報告と議論． **16.** レポート作成．

【成績評価】 発表，および授業中の態度 (議論にどのくらい貢献できたか) とレポート．

【再試験】 レポート再提出．

【教科書】 宇治拾遺物語のテキスト (任意の本を用意すればよい)．

【参考書】 随時照会する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220098

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本言語演習

4 単位 (選択) 3 年 (後期), 4 年 (後期)
仙波 光明 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 近世初期の言葉の教育の書であり，近世初期の京都方言資料でもある『かたこと』の語彙，記述を検討することを通して，情報に乏しい方言集を利用して方言語彙の研究をする力を養う．

【授業概要】 『かたこと』の解読を通して，近世初期京都方言と現代の方言との関係を検討 し，現代の方言語彙を史的に検討して行く．

【到達目標】 国語辞典，方言集，またその他のさまざまな言語資料を利用しながら，言

【授業計画】 **1.** 『片言』について概説．授業の進め方を説明し，分担を決める． **2.** 『片言 一』の部分の解読． **3.** 『片言 一』の部分の解読． **4.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査

報告と検討. **5.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **6.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **7.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **8.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **9.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **10.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **11.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **12.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **13.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **14.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **15.** 『片言 二』の部分について，割り当てられた項目の調査報告と検討. **16.** レポート作成

【成績評価】授業での発表，発言およびレポートを総合して評価する.

【再試験】再レポート

【教科書】使用せず (コピーを配布)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221457

【連絡先】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

プログラミング演習 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
宇野 剛史 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】本演習では，他の講義・演習で学んできた数学的知識・アルゴリズム・プログラミング技術を応用して，さまざまな問題を解くためのアルゴリズムを考案してコード化できるような知識・技術を修得し，使いこなせるようになることを目的とする.

【授業概要】C 言語によるプログラミングの応用的知識・技術の修得

【キーワード】*C* 言語，プログラミング，アルゴリズム

【先行科目】『プログラミング演習 I』(1.0, ⇒188 頁)

【履修上の注意】受講者は各授業において，C 言語の本 (プログラム作成用) および USB メモリ (データ保存用) を持参すること.

【到達目標】さまざまな問題を解決するためのアルゴリズムを考案し，C 言語でプログラミングできるようになる.

【授業計画】1. ガイダンス，問題解決とプログラミングの概要 **2.** C 言語の復習 (i) データの入出力 **3.** C 言語の復習 (ii) 条件分岐による命令の実装 **4.** C 言語の復習 (iii) 関数の利用 **5.** 問題演習:基礎編 (i) 全探索 **6.** 問題演習:基礎編 (ii) 貪欲法 **7.** 問題演習:基礎編 (iii) 動的計画法 **8.** 問題演習:応用編 (i) グラフ構造の利用 **9.** 問題演習:応用編 (ii) 二分法 **10.** 問題演習:応用編 (iii) 反復法 **11.** 期末レポートのための問題の考案 **12.** 問題解決のための手段の考案 **13.** 問題解決のための手段のコード化 **14.** 期末レポートの作成 **15.** 完成した期末レポートに対するグループディスカッション **16.** 総括授業

【成績評価】出席回数，授業態度，レポートによって成績を総合的に評価する.

【再試験】行わない.

【教科書】特に指定しませんが，授業では C 言語の本を必ず持ってきてください.

【参考書】

- ◇ 柴田望洋「新版 明解 C 言語入門編」ソフトバンク・クリエイティブ
- ◇ 秋葉拓哉ら「プログラミングコンテスト チャレンジブック」毎日コミュニケーションズ

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220359

【連絡先】

⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室, 088-656-7294, uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

制御概論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
村上 公一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】微分方程式で表された制御対象に対して，解を目標値に追従させるための数理工学的な理論が制御理論である．この授業では，線形微分方程式の解の表現から始めて，解軌道を平衡状態に近づけるための数学的な手法の習得までを目的とする.

【授業概要】線形微分方程式の安定性理論と，フィードバックによる固有値の設定方法を中心に，現代制御の基礎について概説する．計算問題が解けるように，授業中に演習も取り入れる．尚，学生の理解度に応じて，内容や進度を調整することもある.

【先行科目】『微分方程式 I』(1.0, ⇒194 頁)

【関連科目】『微分方程式 I』(0.5, ⇒194 頁)

【履修上の注意】 微分方程式の解法についての授業を履修していると仮定します.

【到達目標】線形微分方程式の解軌道と安定性を調べ，固有値の設定ができるようになること.

【授業計画】1. 授業の概要 **2.** 状態方程式の解 (1) 行列の指数関数 **3.** 状態方程式の解 (2) 射影行列 **4.** 状態方程式の解 (3) ラプラス変換 **5.** 相平面軌道 (1) 相違実固有値 **6.** 相平面軌道 (2) 重複実固有値・複素固有値 **7.** 安定性 (1) 固有値による平衡点の分類 **8.** 安定性 (2) ラウス・フルビッツの安定判別法 **9.** 安定性 (3) リヤプノフの方法 **10.** 状態フィードバック (1) 直接計算による極配置 **11.** 状態フィードバック (2) 可制御性とその判定法 **12.** 状態フィードバック (3) 可制御標準形による極配置 **13.** 状態フィードバック (4) アッカーマン法による極配置 **14.** 状態フィードバック (5) 最適制御 **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する.

【再試験】有

【教科書】授業開始時に指定する.

【参考書】小郷・三多「システム制御理論入門」実教出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220369

【連絡先】

⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)

数値計算法

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
鍋島 克輔 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 数値計算法とは数学的問題を数値的に合理的かつ実可能な方法で適切な精度のもとに, 解く事に関する方法論である．本講義では，各種数値計算技法の中で基本的かつよく使われるものを選んで，技法の説明や使用時の注意事項等について解説をする.

【授業概要】基本的な数値計算技法を学ぶ.

【キーワード】ニュートン法，積分公式 *LU* 分解

【関連科目】『情報総合プログラミング I』(0.5, ⇒147 頁), 『プログラミング演習 II』(0.5, ⇒153 頁)

【履修上の注意】講義を理解するのに必要な知識は, 線形代数, 微分積分学, 関数解析,線形微分方程式などであるが, これらについてはその都度講義で解説する.

【到達目標】いくつかの数値計算法の手法を実際に使え, 必要に応じて更に新たな方法に習熟できるようになる.

【授業計画】1. コンピューターにおける数の世界 **2.** 誤差について **3.** 関数近似と補間法最小二乗近似 **4.** 関数近似と補間法 ラグランジェの補間 **5.** 数値積分 ニュートン・コーツの公式 **6.** 数値積分 ガウスの積分公式 **7.** 微分方程式 オイラー法 **8.** 微分方程式 ホイン法 **9.** 非線型方程式 二分法 **10.** 非線型方程式 ニュートン法 **11.** 連立方程式 ニュートン法・縮小写像の定理 **12.** 連立一次方程式 ガウス・ジョルダンの消去法 **13.** 連立一次方程式 LU 分解法 **14.** 連立一次方程式 ヤコビ法, ガウスサイデル法 **15.** 試験 **16.** 総括授業

【成績評価】レポートおよび期末試験による得点で評価します.

【再試験】なし

【教科書】なし．適時必要なときレジュメを配布します.

【参考書】篠原能材『数値解析の基礎』日新出版，名取亮『線形計算』朝倉書店，名取亮『数値解析とその応用』コロナ社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220368

【連絡先】

⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 14:00-~ 15:30 金曜 14:00~ 16:00)

データベース基礎論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
蓮沼 徹 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 大量にある情報を整理して効率よく管理する能力は，情報化社会においてますます重要になってきている．本講義では，リレーショナルデータベースの理論的事項を理解した上で，実際にリレーショナルデータベースの構築やリレーショナルデータベース言語である SQL を学ぶことにより，管理しやすいデータベースの設計と構築，及び情報検索能力を養うことを目的にする.

【授業概要】前半に，リレーショナルデータベースの理論的事項 (関数従属性，情報無損失分解，多値従属性，正規化理論，リレーショナル代数) を学ぶ．理論を学んだ後で，実際にデータベースを構築し，さらに，リレーショナルデータベース言語である SQL を使い，データベースへの問い合わせの方法を学ぶ.

【キーワード】リレーショナルデータベース，*SQL*

【履修上の注意】特になし

【到達目標】

1. リレーショナルデータベースの理論的事項を理解すること
2. データベースを構築できること
3. SQL の基本的事項を習得し，データベースへの質問文を SQL で書くことができる

【授業計画】1. リレーショナルデータベース **2.** 一貫性制約 **3.** 関数従属性とその公理系 **4.** 多値従属性 **5.** 情報無損失分解 **6.** 正規化理論 (1)(第 2 正規形，第 3 正規形) **7.** 正規化理論 (2)(ボイス-コッド正規形，関数従属性保存分解) **8.** 正規化理論 (3)(第 4 正規形，第 5 正規

形) **9.** 中間試験 **10.** SQL の演習 (1)(データベース構築) **11.** SQL の演習 (2)(単純質問) **12.** SQL の演習 (3)(結合質問) **13.** SQL の演習 (4)(部分質問) **14.** Access を使った SQL の演習 **15.** 総括授業

【成績評価】中間試験，レポート課題，授業への取り組み等により総合的に評価する．

【再試験】行う

【教科書】参考書: 増永良文著 「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220358

【連絡先】
⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

最適化論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
大橋 守 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】ネットワークシステムの最適化

【授業概要】この講義ではネットワークシステムや情報システムを効率的に稼動させ，より良い状態を維持するための手法と安全対策に重点を置いて講義する．システムを効率的に運用し，管理するための計画作りと組織化，および，最適化手法について詳しく取り扱う．

【キーワード】数理モデル，最適化

【先行科目】『線形代数・演習 I』(1.0, ⇒192 頁), 『線形代数・演習 II』(1.0, ⇒192 頁)

【関連科目】『モデリング理論』(0.5, ⇒197 頁), 『計算機概論』(0.5, ⇒193 頁)

【到達目標】
1. (1) ネットワーク等の管理方法について理解を深める．
2. (2) 基礎的な最適化手法が使える．

【授業計画】
1. 1. ネットワーク計画法 1.1 最短経路問題 **2.** 1.2 最大フロー問題 **3.** 1.3 最小費用フロー問題 **4.** 2. PERT·CPM 2.1 PDC サイクル，2.2 アローダイアグラム **5.** 2.3 クリティカルパス，2.4 ガンチャート **6.** 2.5 3 点見積もり **7.** 3. 最適化法 3.1 数理計画問題 (1) **8.** 3.1 数理計画問題 (2) **9.** 3.1 数理計画問題 (3) **10.** 3.2 ネットワーク問題 **11.** 4. 運用管理と保守 4.1 運転管理，安全管理 **12.** 4.2 セキュリティ対策 **13.** 5. 運用管理実習 5.1 システムの起動と停止，ユーザ管理，データ管理 **14.** 5.2 トラフィック管理，障害管理，セキュリティ管理 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】レポートと期末試験で評価する．

【再試験】あり．

【教科書】教科書:教科書は使用せず，適宜資料を配布する．

【参考書】
◇ 一森哲男著「数理計画法」共立出版
◇ 牧野都治著「OR 入門」森北出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220366

【連絡先】
⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

コンピュータグラフィックス基礎論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中山 慎一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】コンピュータの普及と共に，さまざまな分野でコンピュータグラフィックス (CG) が活用されるようになってきている．CG を作成するには，デザイン関連の知識も必要であるが，コンピュータで幾何学的な計算をさせるため，数学的な知識も必要である．本講義では，コンピュータグラフィックスに関する概念や理論，特に，CG の基本として使われる数学的手法について論じる．また理論を学んだ後に随時プログラムも行う．

【授業概要】コンピュータグラフィックにおける数学的手法について学び，その後プログラム作成を行う．

【キーワード】コンピュータグラフィックス，プログラミング

【先行科目】『プログラミング演習 II』(1.0, ⇒153 頁), 『プログラミング演習 I』(1.0, ⇒188 頁)

【履修上の注意】グラフィックスに関するプログラム演習を行うので，C 言語を使いこなせること

【到達目標】コンピュータグラフィックスに関する概念や理論を習得し，コンピュータグラフィックスに関するプログラミングが可能となることを目標とする．

【授業計画】
1. 概論，CG の現状 **2.** 座標系 **3.** 物体の表現 **4.** 形状モデル **5.** 幾何学的要素の代数的表現 **6.** 変換行列 **7.** 図形の投影:投影変換，並行投影，透視投影 **8.** 図形の変換 I :アフィン変換 **9.** 図形の変換 II :射影変換 **10.** 投影図形 **11.** 透視変換と射影変換 **12.** 曲線 I :クロソイド曲線，スプライン曲線 **13.** 曲線 II :2 次曲線，3 次曲線 **14.** レンダリング **15.** コンピュータアニメーション

【成績評価】レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する

【再試験】行う

【教科書】授業時に指定する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220357

【連絡先】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

情報と職業
Information and Profession

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化が産業，社会へどのように影響しているかを理解する

【授業概要】情報システム，情報化のビジネスへの影響，情報技術の企業での利用状況，電子商取引，インターネットビジネス，情報産業，情報技術の人材育成，情報化の雇用と職業への影響などについて，受講生に主体的に調査，探求をしてもらい発表，議論をすることで理解を深める． 情報システムの発展という観点から，計算機の発展の歴史について解説する．

【キーワード】情報社会，ネット時代の職業，働く環境，*ICT* リテラシー，地域情報化

【到達目標】情報社会におけるビジネス，職業に関する基礎知識を学び，職業観，就労・労働の意識の形成，キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー，ICT 利活用力を身につける．

【授業計画】
1. 情報システムの概略 **2.** 情報システムの歴史 **3.** 情報システムの未来 **4.** 情報技術と社会システム **5.** 情報化のビジネスへの影響 **6.** ネット社会と企業経営 **7.** 地域情報化の事例研究 1 徳島:彩り事業 **8.** 地域情報化の事例研究 2 島根:Ruby City MATSUE プロジェクト **9.** 電子商取引とインターネットビジネス **10.** グループ発表 1 情報社会におけるビジネスのあり方について **11.** 情報化の雇用への影響 **12.** 情報化の職業への影響 **13.** 情報社会と組織変革 **14.** 情報社会における働き方 **15.** グループ発表 2 情報社会における職業観について

【成績評価】授業貢献及び試験

【再試験】実施せず

【教科書】授業中に適宜指示

【参考書】
◇ 神沼靖子 (編著)「情報システム基礎」オーム社 2006
◇ 駒谷 昇一 (他著)「情報と職業」オーム社 2002
◇ その他授業中に適宜指示

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218715

【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】e ラーニングを併用する

経済法 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期, 集中)
泉 克幸 · 教授 / 社会創生学科, 上原 克之 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】経済法とは一定の経済政策に関する法全体を指す．経済法 II では，様々な領域を対象とする経済法のうち，知的財産法を概説する (なお，経済法 I の履修または単位取得は要件ではない)．知的財産法とは，人間の知的活動の成果であって財産的価値を有する知的財産 (具体的には技術や情報，音響，画像，コンピュータ · ソフトウェア，デザイン，ブランド等) に関する法の総称である．知的財産に関する議論は，わが国における産業政策 · 経済政策の柱の 1 つとして取り上げられていること，米国が近年，強化政策を採っていること，莫大な経済的利益に直結すること，情報化 · マルチメディア化 · ネットワーク化の進展に大きな影響があることなどを背景とし，現在最も重要視されている分野であるといえる．授業では知的財産法の体系を順に説明するだけでなく，最近のトピックスも出来る限り取り上げたい．法律の専門的知識は必ずしも求めないが，政治 · 経済 · 社会上の動きを知るため，新聞やニュース等に対して敏感な姿勢を望む．

【授業概要】知的財産法の基本的理解

【キーワード】知的財産法，著作権，特許，商標，経済法

【関連科目】『経済法 I』(0.5, ⇒99 頁), 『民法 I』(0.5, ⇒141 頁)

【到達目標】①知的財産法の今日的意義の理解，②知的財産法の基本的理解，③リーガルマインドの養成

【授業計画】
1. 以下のような体系をもつ知的財産法を，16 回の授業により概説する． **2.** 1. 産業財産権法 **3.** 1) 知的創作物に関するもの … … 特許権，実用新案権，半導体の回路配置権，植物の新品種に関する権利，意匠権，ノウハウ (企業秘密) **4.** 2) 営業標識に関するもの … … 商標権，商号権，サービス · マーク，原産地表示 **5.** 2. 著作権 **6.** 1) 著作者の権利 … … 著作財産権 (複製権など)，著作者人格権 **7.** 2) 著作隣接権 (レコード業者，放送業者，歌手 · 演奏家等の権利) **8.** 3) その他

【成績評価】期末試験を中心に，授業メモ (ミニレポート)，小テスト，質問の有無等を考慮して成績評価を行う．

【教科書】教科書については未定である．参考書として，著作権と特許について，1 点ずつ挙げておく．· 吉田大輔『著作権が明解になる 10 章』(出版ニュース社)· 竹田和彦『特許がわかる 12 章』(ダイヤモンド社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218551

【連絡先】
⇒ 泉 (088-656-7184, izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:水曜16時10分から17時10分)
⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

商法 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
清水 真人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218707

【連絡先】
⇒ 清水 (088-656-7174, shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
有馬 卓也 · 教授 / 人間文化学科，田島 俊郎 · 教授 / 人間文化学科
桂 修治 · 教授 / 人間文化学科，依岡 隆児 · 教授 / 人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング · 講師 / 人間文化学科

【授業目的】世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること．

【授業概要】従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする. 日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について, 担当の教員がそ今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の 3 セクションに分けて，それぞれのセクションに各人 1 回程度講義を提供する．その際，それぞれにテーマを提示したうえで，担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して，具体的な事例をもとに論じていく．概要の趣旨に沿って，「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる．.「自文化と異文化」「文学 (レトリック，物語・民間伝承など)」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばられることになろうが, その際にも, 具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる．

【キーワード】**比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容**

【到達目標】国際的感覚を涵養し，総合的な文化研究を身につけること．

【授業計画】**1.** 導入「比較文化」とはなにか? **2.** セクション 1「未知の世界に触れる」(1 回目から 5 回目まで):「文化」とは何かを考えながら，様々な世界の見方を提示する．好奇心の大切さ，比較という方法について述べる．個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「犯罪」「自文化/他文化」「日本の中の異文化」など **3.** セクション 2「違いを楽しむ」(6 回目から 10 回目まで) 多面的にものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する．個別のテーマとしては，「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「レトリック」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禅」など **4.** セクション 3「つながりを見つける」(11 回目から 15 回目まで) 文化の中の違いを認めながらも，そこに思いがけないつながりを見つけ，総合的に世界を見ること提示する．個別のテーマとしては，「交流」「異文化教育」「文化の影響」「シナジー」「情調における文化の交感」など

【成績評価】期末レポートと平常点．期末レポートは 5 人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの．平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う．

【再試験】有

【教科書】必要に応じてプリントなどを配布する．

【参考書】各教員から授業の中で課題図書が示される．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2010.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218954

【連絡先】
⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時可)
⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)
⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間, 金曜 5·6)
⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域交流史

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
東 潮 · 教授 / 人間文化学科，葭森 健介 · 教授 / 人間文化学科
衣川 仁 · 准教授 / 人間文化学科，佐久間 亮 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通じ，各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を講義する．併せて学生がテーマを理解し，日本及び世界の未来について考え，国際人としての基礎知識と自覚を涵養する．

【授業概要】日本が東アジアの交流から国家を形成し，東アジア史の一翼を担うところから出発し，大航海時代を経て，東洋と西洋が出会い，世界史が形成される過程を講義する．

【キーワード】**地域交流，世界史，国際関係**

【履修上の注意】高校で習った世界史，日本史の授業内容を復習しておくこと．

【到達目標】学生が将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し，日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする．

【授業計画】**1.** 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る **2.** 册封体制と日本—日本国家の成立と東アジア史 (葭森) **3.** 邪馬台国と倭国 (東) **4.** 四-六世紀における東アジアの国際環境 (東) **5.** 飛鳥時代の国際環境 (東) **6.** 六朝隋唐国家と古代日本国家-律令制とは (葭森) **7.** 大陸・半島から日本へ (衣川) **8.** 東夷の小帝国-「日本」の自覚 (衣川) **9.** 中世日本と東アジアの交流 (衣川) **10.** モンゴル・ウルスの衝撃-世界史の序曲 (葭森) **11.** 大航海時代・黒死病・奴隷 (佐久間) **12.** プラントハンター・植物園・帝国の手先 (佐久間) **13.** イギリスのインド支配-熱帯をいかに飼い馴らすか-(佐久間) **14.** お茶・陶磁器・絹・銀そしてアヘン-貿易から戦争の時代へ (葭森) **15.** 期末試験 **16.** 地域交流と歴史-授業の総括 (葭森・東・衣川・佐久間)

【成績評価】授業への参加姿勢と期末試験で総合的に評価

【再試験】再試験はしない

【教科書】なし．授業でプリントを配布

【参考書】授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218780

【連絡先】
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 15:00)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本経済と社会

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】変動過程にある日本型経済システムの骨格を理解し，転換の課題を確認する．

【授業概要】かつて「経済大国」に駆け上がった日本経済は凋落過程にある．また，格差社会 · 無縁社会 · 限界集落など，多くの社会問題が一斉に激化している．その転換をいかに図るか，歴史経過を踏まえて考察する．

【キーワード】**日本経済，社会システム，維持可能な社会**

【到達目標】
1. 高度成長期に形成された日本経済の構造的な特質を理解できる．
2. 経済システムの転換をめぐる理念と政策の対抗関係を理解できる．

【授業計画】**1.** 日本経済のたそがれ 日本経済閉塞の指標 講義計画 **2.** 高度経済成長の時代 国民経済の急膨張と日本型システムの形成 **3.** 成長至上主義の社会 経済成長を可能にする条件 大衆消費時代 **4.** 高度成長方式の破綻 「東洋の軌跡」の終焉 破綻の内外要因 **5.** 「国際分業論」の欠陥 効率性を優先する加工貿易型の歪んだ経済構造 **6.** 大量生産・大量消費 経済成長と資源 · 環境問題 「公害列島」日本 **7.** 土建国家日本の構図 生産基盤整備を図る大型公共事業と推進体制 **8.** 経済大国と生活小国 資本効率の追求と福祉の低迷 低位な労働環境 **9.** 財政破綻と小さな政府 「日本株式会社」を牽引した政府財政の破綻 **10.** グローバル化の投影 先進国の積極的多国籍化と世界経済システム **11.** 新自由主義への傾斜 「政府の失敗」 市場原理主義への誘導 **12.** 新たな社会問題の噴出 各種格差の発現 「この国のかたち」への批判 **13.** 市場の失敗と各種 NPO 公共領域の劣化と社会的経済への期待 **14.** 維持可能な社会の展望 成長至上主義を克服する経済構造への転換 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本型システムの分解と Sustainable Society への道

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末筆記試験による．出席状況で補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220356

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

世界経済論 I
World Economy1

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
水島 多喜男 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 国際的な経済関係は，その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し，その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた．講義では，この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う．

【授業概要】 世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【キーワード】貿易理論，学説史，開発政策，政治経済学

【到達目標】 学説史，学説，現状に係わる論点の理解．

【授業計画】 **1.** 産業資本主義以前の世界経済 (遠隔地貿易と重商主義) **2.** 自由貿易論の系譜 (1)(Adam Smith の時代と貿易論) **3.** 自由貿易論の系譜 (2)(D.Ricardo の時代と貿易論) **4.** 自由貿易論の系譜 (3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論) **5.** 世界経済構造の批判的理解 (1)(K.Marx の「プラン」後半体系) **6.** 保護貿易論の系譜 (1)(途上国の TCC 批判：ドイツ歴史学派) **7.** Ленин『帝国主義論』: 世界大戦の原因 **8.** 「相対的安定期」·1929 年世界恐慌と「ブロック経済」 **9.** 自由貿易帝国主義論：Ленин『帝国主義論』批判 **10.** (通常上記の項目は 1 回で終わらない．以下の時間は延長の場合に使用する．)

【成績評価】 筆記試験

【再試験】 なし

【教科書】 講義中に配付する資料を用いる．

【参考書】 参照すべき図書は，適宜指示する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220351

【連絡先】
⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

運動文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 久子 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 文明が発達した現在では身体運動，スポーツ，ダンス等は健康のための手段として重要視されている．しかし，これらは健康のための手段として生まれてきたのではない．それぞれの運動やスポーツ，ダンスは各国，各地域の固有の文化として捉えることが出来る．本講義では，これらの内容及び歴史的な意味について概説し，現代社会における運動やスポーツ，ダンスを歴史社会学や文化人類学の観点から検討し，寄り深い認識を得ることを目的とする．

【授業概要】 生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついておく過程を歴史社会学の観点から分析し，現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する．

【キーワード】スポーツ，ダンス，生産形態，リズム

【到達目標】 生産形態とリズムが関わりをもつことを知り，ダンスやスポーツに与えてきた影響を知ることを到達目標とする．

【授業計画】 **1.** 運動と文化-スポーツ，ダンスの発生 **2.** 遊びと余暇 **3.** 生産形態とリズム (5 つのリズム感) **4.** 山村畑作民のリズムとスポーツ・ダンス **5.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス 日本 **6.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス アジア **7.** 海洋漁撈民のリズムとスポーツ・ダンス **8.** 狩猟民のリズムとスポーツ・ダンス **9.** 牧畜民のリズムとスポーツ・ダンス **10.** 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 **11.** スポーツの遊技性と競争性 **12.** 近代スポーツの成立 **13.** 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ **14.** 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ **15.** まとめ

【成績評価】 レポート 50%，授業時に行う小レポート 50%

【教科書】 特に使用しない

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218366

【連絡先】
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康行動論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
荒木 秀夫 · 教授 / 人間文化学科，小原 繁 · 教授 / 人間文化学科
的場 秀樹 · 教授 / 人間文化学科，佐竹 昌之 · 准教授 / 人間文化学科
三浦 哉 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 授業で習得した知識や態度が，自己の生活や社会活動に生かされ，健康で豊かな，そして安全な生活が営まれることを目標とする．授業は健康運動，生活行動，安全管理をテーマに進める．

【授業概要】 健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし，健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う．具体的には，健康障害や事故の予防，それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する．

【キーワード】健康問題，生活行動，運動 · スポーツ活動

【先行科目】 『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0, ⇒22 頁)，『健康体力科学の基礎』(1.0, ⇒23 頁)

【関連科目】 『地域健康福祉論』(0.5, ⇒156 頁)，『健康教育学』(0.5, ⇒69 頁)，『健康心理学』(0.5, ⇒81 頁)

【到達目標】
1. 地域社会の生活環境の創造への貢献
2. 人間科学に関わる幅広い知識の理解

【授業計画】 **1.** 健康とは **2.** 健康と運動 **3.** 健康運動の方法 **4.** スポーツと健康 **5.** 薬物と健康 (服薬者の運動実施と注意点) **6.** 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 **7.** 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 **8.** 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 **9.** 発育発達期の身体的特徴，心理的特徴 **10.** 発育発達期に多いケガや病気 **11.** 運動中に多い病気とその予防 **12.** 運動中に多いケガとその予防 **13.** 現代の健康 **14.** 環境と健康 **15.** これからの健康 **16.** 総括

【成績評価】 レポート，小テスト，授業の取り組み方などで総合的に評価する．

【再試験】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220344

【連絡先】
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域健康福祉論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 俊夫 · 教授 (併任) / 大学開放実践センター

【授業概要】 少子高齢化が進む日本社会にあって，医療費の増加に歯止めをかけ，高齢者の QOL を維持していくことは極めて重要・至難な社会的課題である．この健康福祉に関して，国の施策方針から地域現場における具体的な実践例まで，さまざまなレベルにおける取組を学習し，その成果と課題について考察する．さらに，今後の健康福祉政策のあるべき姿について考えていく．

【キーワード】 健康福祉，メタボリックシンドローム，介護予防，運動指針

【授業計画】 **1.** 地域健康福祉概論 **2.** アメリカと日本における健康福祉政策 **3.** 健康福祉を担う指導者 **4.** メタボリックシンドロームと健康福祉政策 **5.** 運動基準・運動指針 **6.** 介護予防・高齢者医療と健康福祉政策 **7.** 県レベルにおける健康福祉への取り組み **8.** 市町村レベルにおける健康福祉への取り組み **9.** 民間企業 · 団体における健康福祉への取り組み **10.** 具体的な実践事例 1(生活習慣病と運動疫学) **11.** 具体的な実践事例 2(健康づくり運動とカウンセリング支援) **12.** 現場の声を聞く 1(メンタルヘルスと運動の効果) **13.** 現場の声を聞く 2(ストレスアセスメントと運動指導) **14.** 地域健康福祉の未来像を探る **15.** まとめ

【成績評価】 出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%)

【再試験】 しない

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220354

【連絡先】
⇒ 田中 (088-656-7280, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

グローバル社会論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樋口 直人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 現代を生きる者は，どこに住もうがグローバル化の影響を免れることはできない．では，それはどのような影響であり，具体的には何が生じるのか．この授業の最大の目的はこうした問いに答えることにある．さらに，グローバル化は国民からなる国家体制を大きく変えつつある．では，国家はなぜどのように変化を迫られているのか．こうした問いに対して，大きくは身近な生活のグローバル化，環境のグローバル化，人の国際移動からみたグローバル化に焦点を当てて議論していく．

【授業概要】 グローバル化する社会が抱える問題について，社会学の概念を用いてアプローチする．特に徳島のような地域では，グローバル化といってもイメージがわきにくいので，画像や映像資料の解説をできる限り取り入れて理解を助けるようにしたい．

【授業計画】 **1.** イントロダクション **2.** グローバル化とは何か:メキシコからみた風景 **3.** 大量生産の時代としての現代 **4.** 大量生産と成長の限界 **5.** 食卓の裏側:『ダーウィンの悪夢』とグローバル化する食卓 **6.** グローバルとローカル:『モンド・ヴィーノ』と食をめぐる 2 つの道 **7.** 私たちは誰とつながっているのか:市場経済，環境，フェアトレード **8.** 新国際分業と世界都市の形成 **9.** メディアとグロー

バル化 **10.** 南北国境の 3000 キロ:メキシコとアメリカの移民問題 **11.** メキシコ化するアメリカ:『ブレッド&ローズ』と移住労働者 **12.** グローバル化する移民:(1) 南米の日本 **13.** グローバル化する移民:(2) 日本の南米 **14.** グローバル化する移民:(3) 日本の南米人と経済危機 **15.** グローバル化する移民:(4) 日本の少子高齢化と移民受けいれ

【成績評価】 成績評価はレポートと授業中の課題による．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートが 60 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．

【再試験】 無

【教科書】 教科書は用いないが，関連する文献リストを初回に配布する．また，教科書の代わりに毎回レジュメを配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．

【参考書】 参考書 コーエン&ケネディ『グローバル・ソシオロジー』1・2 巻平凡社，2003 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220341

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

地域創生論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 持続可能な地域づくりの基礎理論を提示する．

【授業概要】 の講義は「地域科学」への入門にあたる．地域社会の構成と動態に関する基礎的な知見を獲得するとともに，総合的な地域問題を解決して持続可能な地域をつくるための理論と手法を学ぶ．

【キーワード】 地域づくり，地域問題，地域政策

【到達目標】
1. 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる．
2. 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる．

【授業計画】 **1.** 地域問題と地域づくり 地域問題の諸形態 講義計画 **2.** 地域問題の総合的性格 地域問題の相互関連 地域科学の課題と構成 **3.** 地域問題と地域経済 地域問題の主要な発生源としての地域経済 **4.** 地域経済の構成と変動 混合経済としての地域経済 公共領域の役割 **5.** 新自由主義政策と地域 成長至上主義型の破綻 新自由主義政策の発動と住民生活 **6.** グローバル化と地域 世界システムの再編にともなう地域社会の変動 **7.** システム転換の基軸 政治 · 経済システムの進路をめぐる対抗関係の位相 **8.** もう一つの世界は可能 システム転換の新たな主導力 (途上国 ·NGO· 社会的経済) **9.** 分権時代の地域政策 地方自治の仕組みと政策主体 (行政 · 議会 · 住民組織) の役割 **10.** 地域政策の理念と体系 地域政策の理念と体系に関する欧州と日本の比較 **11.** 政策過程への住民参加 公共領域を再編する政策 政策の計画 · 執行過程と住民 **12.** 徳島県の住民参加状況 公共事業の動向に働きかける徳島県の住民運動の経過 **13.** 転換期の地域づくり (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の地域づくり (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域創生論の学び方 地域科学の近年の動向と研究課題

【成績評価】 講義中に行う数回の小テスト，期末に提出を求めるリポートの結果によって単位を認定する．

【再試験】 再試は行わない．

【教科書】 用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】 中嶋信『集落再生と日本の未来』自治体研究社，2010 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220355

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

共生社会論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樫田 美雄 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 社会学の立場から社会福祉論・共生社会論を論じる．現代社会は福祉社会である．しかし，「社会リアリティ」の変化にともない，「連帯」の在り方が変わってきている．幅広い市民的連帯がリアリティを失い，「選ばれた人間」の中での「連帯」が「公正」であるように思われてきている．その感覚のもとで許される「個人のニーズ」だけが，「社会のニーズ」に転換を許容されるようになってきている．また，「生産主義社会」から「消費社会」に変化する中で，「労働倫理」の意義は低下し，クリエイティブな労働者になれない場合は，「立派な消費者」になることが次の目標となってきている．かつて，労働に不適であることが福祉の対象者の条件であったが，いまや，消費者としては障害者も平等に扱われるようになり，最終排除対象者は，意志をもたぬもの，意志を適切に表示できないものになってきている．この流れの先に，共生社会がある．共生社会の光と影を共に見つめていきたい．同時に，社会福祉の現代社会的基盤を理解しよう．

【授業概要】 社会学の立場から考える社会福祉論と共生社会論．社会のニーズと個人のニーズ．資本主義を支えるものとしての福祉社会．消費社会への変化の意味．労働のフレキシビリティの増大の意味．近代的労働倫理 (勤勉さ，従順さ・・) を守意味の変化．グローバライゼーション．産業の機械化．代替不能性の高い労働と低い労働．これらのことを道具に，現代社会的側面から福祉社会を考える．

【キーワード】 福祉社会学，社会政策，援助，共生，セルフヘルプグループ，インタビュー論，社会福祉と現代社会

【先行科目】 『市民活動論』(1.0，⇒123 頁)

【履修上の注意】 教科書は生協に取り寄せる予定 (定価:1700 円)．古本でもよいが，必ず入手すること．また，参考書の一部は効果だが読み甲斐がある．出欠確認は毎回行う．とりわけ，初回のオリエンテーションは重要なので，けっせきしないようにせよ．欠席者には理由を等．なお，全学共通教育では，「ボランティア論 (木曜 5・6 限，前期) が，関連科目である．なお，受講学生人数にもよるが，複数会の小論文執筆が課せられることを覚悟して欲しい．大学での学習成果は，書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ．だいたいのことを書いて満足するのではなく，質のものを志して書いてほしい．また，ダイソー等での買い物などの宿題も課せられる．人数がすくなければ，裁判所見学 (以下に福祉の対象者と被告の層が重なっているかの実地確認作業) も行う．日本の現状 (消費社会化，低所得労働者のアンダークラス化＝ジグムント・バウマン＝) を身をもって看取してもらう必要があるからだ．

【到達目標】
1. 現代社会を学ぶことと，社会福祉を学ぶことがどのように繋がっているのか講義する．
2. より具体的には，(1) 現代社会の構造と自分の人生選択の困難さを結びつけて理解する．
3. (2) 現代の困難さに，一定の合理性があることを理解したうえで，アルターナティブな未来を構想できるようになる
4. アルターナティブな未来 (例:労働と切り離された収入) がはらむ問題に気づくことができる．

【授業計画】 **1.** 樫田によるイントロダクション．現代社会論として福祉と共生をとらえる． **2.** 消費社会とグローバリゼーション．労働はどう変わってきているのか． **3.** ウエルビーイングタウン:社会福祉って何だろう． **4.** 社会的ニーズと個人的ニーズの問題．対立?．個人的ニーズの社会的構成?． **5.** 障害者福祉のしくみ **6.** 高齢者福祉のしくみ **7.** 児童福祉のしくみ **8.** 虐待について (児童虐待と高齢者虐待)．虐待とエスノセントリズム． **9.** 新しい貧困について．ニュープアとアンダークラス (ジグムント・バウマンの主張) **10.** 犯罪と疾病と社会福祉．裁判所見学 (人数的に可能な場合)． **11.** 在宅医療の問題を考えよう **12.** セルフヘルプ・グループ論．ヨブ記から考える． **13.** 準備レポート草稿の班別検討会．考え抜く態度の錬成 (1) **14.** 準備レポート講評．総合科学と現代社会．『フーコーの穴』を題材に． **15.** 最終レポート草稿の班別検討会)．考え抜く態度の錬成 (2) **16.** 最終レポート講評．総合科学と社会福祉．『< 生 > の社会学』を題材に．

【成績評価】 平常点 (出席を含む)+レポート (20%，80%の比率) ※準備レポートはコメントを付けて返却し，点数上は最終レポート (第 2 回目のレポート) のみ加点対象とする見込み．

【再試験】 行わない

【教科書】 岩田正美ほか著 1999『ウエルビーイングタウン 社会福祉入門』有斐閣

【参考書】
- ジグムント・バウマン著 1998 ＝ 2008『新しい貧困-労働，消費主義，ニュープア』青土社．
- 藤村正之著 2008『< 生 > の社会学』東京大学出版会
- 井上俊・長谷 正人編 2010『文化社会学入門』ミネルヴァ書房
- 『福祉社会事典』弘文堂
- 斉藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房．
- 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- 石川准・倉本智明編，2002，『障害学の主張』，明石書店．
- メイナード著，樫田・岡田訳 2004『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房．
- 杉野昭博『障害学 理論形成と射程』東京大学出版会．
- 重田園江『フーコーの穴 統計学と統治の現在』木鐸社．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220343

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

芸術文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
片岡 啓一 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で，しかも変化に富んだものである．多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し，世界中にはさまざまな音楽が存在している．この授業では，民

族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し，そのことを通じて，音楽文化・民族性・音楽の本質等について，一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている．

【授業概要】 民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義．

【キーワード】民族音楽，音楽学，音楽鑑賞，民族性，異文化理解

【履修上の注意】 同授業は講義形式なので受講者は受け身的になりがちであるが，できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい．なお，共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが，その内容は同授業と相当程度重複しているので，「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること．先行科目・関連科目については具体的な科目名は書いていないが，芸術分野・人文科目分野等の科目群はすべて該当すると考えていただいてかまわない．同授業は，国際文化コースの「コース専門選択科目」の単位として履修することもできるし，「総合科学テーマ科目」として履修することも可能である．昨年度に初回の授業をマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施したが，同室で無理なく受講できる人数は 50 名程度であるが，「総合科学テーマ科目」に指定されていることから 90 名程度の受講者となり，加えて旧体制の受講者 (「世界の諸民族の音楽」) が 10 名程度同時受講したので，合計 100 名ちょっとになり，補助用のパイプ椅子を使ってすし詰め状態で開講した．パイプ椅子のみの学生が同じ人にならないようにローテーション配置を考え，極力配慮したが，それでも学生にとっての身体的な負担は大きかった．今年度は別のもっと広い部屋で同授業を行うことを相当真剣に考えたが，授業内容の性格上，他の部屋で行うことはやはり無理なので，昨年度同様「音響スタジオ」にて実施することにした．今回の具体的な対応の方法としては，補助机・補助椅子を使うと，普通の状態で受講できる学生は 50 名程度なので，毎回の授業時間の前半と後半とで，残りのパイプ椅子のみの学生との座席の交代を行うことによって学生の身体的な負担を少なくしようと考えている．そのような事情があることから，同授業を受講希望している学生で，他の「総合科学テーマ科目」を受講することでもかまわないと思う方は，できるだけそういう方法をとっていただけると大変ありがたいと考えている．

【到達目標】 世界にはさまざまな音楽文化が存在すること，それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し，音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く．

【授業計画】 **1.** 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために，講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる． **2.** 1 週目 授業の趣旨説明を行い，現代の音楽文化の特徴について言及する． **3.** 2 週目 日本の音楽． **4.** 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽． **5.** 9-13 週目 インド・西アジアの音楽． **6.** 14 週目 アラブの音楽． **7.** 15 週目 総括授業 授業内容全体について，反省・補足・意見交換等を行う． **8.** 授業内容についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが，若干のずれが生じることもあるので，その点はあらかじめご了承願いたい．

【成績評価】 試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．レポートは提出期限を厳守すること．成績評価には，授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される．

【再試験】 行わない．

【教科書】 この授業では教科書等は使用しない．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218553

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 同授業は，平成 23 年度は前期・金曜・5-6 講時にマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」にて実施する．オフィスアワーは前期・木曜日の昼休み．片岡研究室 (マルチメディア A 棟 2 階) のメールアドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．なお，注意のところでも書いたように，授業を行う部屋がそれほど広くないので，別の「総合科学テーマ科目」を選択してもかまわないと思う方は，できればそういう方法をとってくださると大変ありがたい．

情報の数理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 今日，コンピュータの高性能化，および，通信網の整備により，インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている．今後，あらゆる家電製品や携帯電話などが，ネットワークへの接続を前提に作られるようになり，ネットワークが生活の基盤になるであろう．よって，ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ることは，将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる．このような観点から，情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする．

【キーワード】通信ネットワーク，インターネット，プロトコル，*TCP/IP*

【先行科目】 『計算機概論』(1.0, ⇒193 頁)

【履修上の注意】 2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識が必要です．

【到達目標】 ネットワークに関する知識や設計技法の習得，および，それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする．

【授業計画】 **1.** 情報通信の発達過程 **2.** ネットワークの種類と形態 **3.** ネットワークに関する基礎技術 **4.** 通信プロトコル 1 **5.** 通信プロトコル 2 **6.** 伝送制御手順 **7.** 通信サービルと技術 1 **8.** 通信サービスと技術 2 **9.** ネットワークの分析 1 **10.** ネットワークの分析 2 **11.** ネットワークの設計 1 **12.** ネットワークの設計 2 **13.** ネットワークセキュリティ 1 **14.** ネットワークセキュリティ 2 **15.** ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】 レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する

【再試験】 行う

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220348

【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

現象の数理

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する．また，それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し，現象の数学問題への定式化および意味づけを行う．さらに，数理モデルの妥当性や説明・予測・制御等の初等的方法について理解を深める．

【授業概要】 現象解析のための基本事項について解説する．

【キーワード】自然現象の数理，社会現象の数理，現象解析の数理，微分積分学，微分方程式

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒195 頁)，『微分方程式 I』(1.0, ⇒194 頁)

【履修上の注意】 微分積分学の基本事項を履修しておくこと．授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】 数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する．

【授業計画】 **1.** 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1. モデル化のための枠組み **2.** 人口問題と成長モデル **3.** 薬の吸収モデル **4.** 水の加熱と冷却の数理モデル **5.** ロケットの飛行モデル **6.** 抑制された成長モデル **7.** 広告に対する売り上げの反応モデル **8.** 美術品の贋作判定モデル **9.** 電気回路モデル **10.** 新古典派の経済成長モデル **11.** 五大湖の汚染判定モデル **12.** 個人の消費行動モデル **13.** 惑星の運動モデル **14.** 化学反応速度モデル **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】 授業への取り組み状況，演習，レポート，試験などをもとに総合的に評価する．

【再試験】 無

【参考書】 「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220345

【連絡先】

⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

数学と社会

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
片山 真一・教授/総合理数学科，大渕 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】 ・代数的構造についての基礎及びその様々な場に於ける応用についての基礎に関する講義を行う．講義では代数構造の代表的な分野である代数的整数論と代数幾何学の初歩とその応用である暗号理論，符号理論の解説を行う．・目標は群，環に於ける準同型定理の理解，有限体の定義の理解，線形符号の定義とシングルトンの不等式の理解である (大渕)．また公開鍵暗号系の仕組みと剰余類群の応用として，RSA 暗号系を理解 する (片山)．

【授業概要】 ・代数的構造に関する基礎理論 (群・環・体及び整数論) についての基本的な知識及び応用 (符号理論・暗号理論) への理解が深まるように講義を行う．・群論の初歩，基礎的な環論及び体論を解説する．これを受けて線形符号に関する初歩的な一般論を講義する (大渕)．また公開鍵暗号系に関する基礎理論を講義する (片山)．

【キーワード】符号理論，暗号理論，現代代数学

【先行科目】 『代数基礎 I』(1.0, ⇒193 頁)，『代数基礎 II』(1.0, ⇒193 頁)

【関連科目】 『代数学 I』(0.5, ⇒195 頁)，『代数学 II』(0.5, ⇒195 頁)

【到達目標】 代数的構造に関する基礎理論の理解と符号理論と 暗号理論への応用

【授業計画】 **1.** 群の定義 **2.** 準同型定理 **3.** 環の一般論 **4.** 準同型定理 **5.** 有限体概説 **6.** 符号の定義 **7.** 線形符号 **8.** シングルトンの不等式 **9.** 暗号の歴史 **10.** 対称鍵暗号系の仕組み **11.** 計算困難性 **12.** 非対称鍵暗号系の仕組み **13.** RSA 暗号系 **14.** デジタル署名の仕組み **15.** RSA 署名およびまとめ **16.** 総括授業

【成績評価】 出席および提出レポートによる総合評価を行う．

【再試験】 無

【教科書】特に指定しない.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220350
【連絡先】
⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 大渕 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

資源エネルギー論
Natural Resources and Energy

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
伏見賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること.
【授業概要】日本・世界のエネルギー需給について現状の分析をする．エネルギー需給について開発の現状について解説し，将来取りうる政策について議論する.
【履修上の注意】日ごろから新聞を読んでおくこと．講義ノートを用意すること．予習，復習の時間を十分に確保すること．各学科で学んできた事柄を活用して建設的な議論が進められることを期待する.
【到達目標】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．そのためにデータを正しく読むことができる．冷静な議論ができる.
【授業計画】**1.** 序論: 基本用語，単位の解説．グラフ，統計データの見方． **2.** エネルギー需給の変化 (日本のエネルギー需給) **3.** 日本のエネルギー供給 I (一次エネルギー源 化石燃料) **4.** 日本のエネルギー供給 II (一次エネルギー源 非化石燃料 (原子力)) **5.** 日本のエネルギー供給 III (一次エネルギー源 非化石燃料 (再生可能エネルギー)) **6.** 日本のエネルギー供給 IV (二次エネルギー 電力) **7.** 日本のエネルギー供給 V (二次エネルギー ガス・熱・石油) **8.** 日本のエネルギー供給 VI (二次エネルギー 熱・石油) **9.** 国際エネルギー動向 エネルギーコスト **10.** エネルギー需給に関する政策 **11.** エネルギー開発の動向 原子力政策 **12.** 輸送部門のエネルギー供給政策 **13.** 新エネルギーに対する政策 **14.** エネルギー安全保障 **15.** 総合討論 **16.** 総括
【成績評価】レポート課題 (40%)，総合討論 (10%)，期末レポート (40%)，出席 (10%)
【再試験】なし.
【教科書】適宜指示する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220347
【連絡先】
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉に貼っている予定表の空欄時間帯．)

環境倫理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科，山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】環境倫理学を通じて，倫理学の基本的な考え方を理解する．現代社会における「倫理的問題」は，単に思想や価値観の問題であるだけでなく，「社会的問題」でもあることを理解する． 環境倫理学のトピックス，その思想的背景，現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ，現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける． その上で，自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける． レポートをもとに意見を発表し，討議する力を身に付ける.
【授業概要】「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い，そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する.
【キーワード】**哲学，倫理学，環境，社会と自然**
【到達目標】
1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする.
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする.
3. 高い倫理観の涵養を目標とする.
【授業計画】**1.** イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) **2.** 環境倫理学の系譜 (1):環境倫理学成立の背景:1950~ 60 年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) **3.** 環境倫理学の系譜 (2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想 (山口) **4.** 環境倫理学の系譜 (3): 「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟 (山口) **5.** 環境倫理学の系譜 (4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) **6.** 地球温暖化問題の成立 (1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで (山口) **7.** 地球温暖化問題の成立 (2):フィラッハ会議後の展開: 地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) **8.** 地球温暖化問題の成立 (3):IPCC の成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索 (山口) **9.** 地球温暖化問題の成立 (4):京都議定書とその後の展開 **10.** アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる．シャロー・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を，その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造，エコフィロソフィーとエコソフィー，自己実現との関連で講じる．(石田) **11.** マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる．ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判，位階性の批判，自然の進化と社会の進化，リバタリアン的な地域自治主義を講じる．(石田) **12.** ドイツの環境政策を講じる．1970 年代以降のドイツの環境政策を概観した上で，地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策，ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴッパータル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター 4」を講じる．(石田) **13.** ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる．自然は果たして権利の主体になりうるか．人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か，等を論じる．(石田) **14.** ドイツの環境思想家マイアー=アービッヒの『自然との和解への道』で述べられた，実践的自然哲学を講じる．政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること，自然の理解は広い意味で法の中で論じられること，人間中心主義に対する哲学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ，自然中心主義的世界像から，自然としての人間，自然の法共同体を講じる．(石田) **15.** 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション (石田)
【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2 点 ×15=30 点，レポート 2 回＝ 70 点.
【再試験】無
【教科書】その都度資料を配布する.
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218491
【連絡先】
⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで), 088-656-7615, yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

生態学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生態学の基本や面白さを理解する.
【授業概要】ヒトとして生活をする上で知っておいた方がよい生態学の知見，フィールド調査や研究を行う上で重要となる生態学的な基礎知識について，実例をあげながら講述する.
【キーワード】**生物，行動，生態系**
【到達目標】生態学の基本用語を理解する.
【授業計画】**1.** 講義内容の説明 **2.** 繁殖行動の解発因 **3.** 配偶者選択 **4.** 行動の進化的安定戦略 **5.** 生存曲線，個体群の増殖 **6.** 個体数推定，生命表 **7.** 生態的地位，生態系，すみ分け **8.** 種間関係，群集の多様性 **9.** 捕食ー被捕食関係，最適餌サイズ **10.** 擬態，r-K 戦略 **11.** 生物の多様性，メタ個体群 **12.** 自然保護を考える **13.** 生態学的研究の実例 **14.** 生態学の応用的研究の実例 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業
【成績評価】出席 50 点 (原則遅刻は配点しない)，レポート 50 点
【再試験】なし
【教科書】なし
【参考書】講義の中で紹介する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218743
【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

総合科学実践プロジェクト

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
山城 考・准教授/社会創生学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科

【授業目的】専門を異にする教員が，共通もしくは複数のテーマで受講生とともに授業を運営し，実践的で総合的な学習姿勢を体得する．授業を通して，文系，理系相互の視点からものを考え，企画・調査し，討論・発表によって総合科学の実践力を養う.
【授業概要】総合科学に関わる諸問題を，文系，理系の視点から考え実践的に解明をおこなってゆくワークショップ方式の授業である．欧米の文学や比較文化，植物や環境を専門とする 4 名の教員が，受講者とともに授業の内容を企画し，共通もしくは複数のテーマを設定して，文献調査やフィールドワーク (例:吉野川干潟観察プログラム・流域水環境分析プログラム・環境保全運動考察プロジェクトなど複数のテーマで開設) を通して文系・理系相互のもしくは融合した視点から，考察を深め，最終的にはその成果を発表する.
【到達目標】
1. 文系，理系双方の考え方を理解し融合させる.
2. テーマの設定，フィールドワークの実施や文献の調査等を通して実践的な企画力を養う.
3. 文献の購読や討論を通して論理的な思考や理解を高め，成果発表の能力を高める.
【授業計画】**1.** 以下の計画はおおよその目安であり，受講者の志向や関心，文献調査やフィールドワークなどの動向を見ながら 16 回の授業を運営してゆく． **2.** オリエンテーション **3.** テーマの設定につい

て討議 (2 回程度) **4.** 授業の運営について討議・企画 (2 回程度) **5.** 調査およびフィールドワーク (3 回程度) **6.** 中間発表 (2 回程度) **7.** 討論とさらなる調査 (3 回程度) **8.** まとめと発表 (2 回程度) **9.** 総括

【成績評価】授業への参加状況，議論の内容，発表や報告などを総合的に評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業の中で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220352

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火 · 木曜日 12 時 ~ 13 時)

⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

総合科学特別講義

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科，樫田 美雄 · 准教授 / 社会創生学科
大橋 眞 · 教授 / 社会創生学科，佐藤 高則 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 総合科学＝諸科学を総合して課題を解明する営みの意義や方法について考察する．考察の領域を地域科学に据え，地域課題の実践的解明の過程を紹介する．

【授業概要】 ①総合科学部の教育課程の特徴＝総合科学の意義や課題を理解する． ②人文 · 社会 · 自然科学を総合する方法を実践的に理解する． ③地域づくりの事例を考察し，諸科学を総合する課題 · 方法を理解する． ④地域住民との対話を通じて総合科学的な思考力を身につける．

【キーワード】総合科学，地域科学，地域づくり，グローバル化

【履修上の注意】11 月 12 日土曜日午後に，「在宅療養を考える」というテーマでワークショップを企画している (2 コマ)．補講の扱いではあるが，正規の授業なので日程を開けておくことが望ましい．

【到達目標】①諸科学と総合科学との関係が具体的に説明できる．②具体的な地域問題に対し，諸科学を編成して解決する計画を作成できる．③総合科学的な観点から，自分の意見が表明できる．

【授業計画】1. 諸科学と総合科学:諸科学を総合する科学が必要とされる理由を考察 (中嶋) **2.** 地域科学のあゆみ:Regional Science の形成と日本での展開過程を考察 (中嶋) **3.** 地域科学の実際①:実際の地域問題と地域科学による解決の例を考察 (中嶋) **4.** 地域科学の実際②:地域づくりに取り組む県内自治体職員による報告 (中嶋) **5.** 在宅医療の総合科学:医療と看護と福祉と生活の共同と相克を考察 (樫田) **6.** ※ 6·7 講は 11/12 に結合して開講する (樫田) **7.** 在宅医療のワークショップ:班別の討論 医療経済学や社会学を援用 (樫田) **8.** 在宅医療のワークショップのまとめ:リポート作成に向けた議論 (樫田) **9.** グローバル化と総合科学①(大橋・佐藤) **10.** グローバル化と総合科学②(大橋・佐藤) **11.** グローバル化と地域社会①(大橋・佐藤) **12.** グローバル化と地域社会②(大橋・佐藤) **13.** グローバル化と環境問題①(大橋・佐藤) **14.** グローバル化と環境問題②(大橋・佐藤) **15.** グローバル化と大学の役割 (大橋・佐藤)

【成績評価】リポート内容及び出席状況で判定

【再試験】再試は行わない

【教科書】⑤~ ⑧を除き教科書は用いない．関連資料を配付する．⑤~ ⑧:『「在宅医療」をささえるすべての人へ』健康と良い友だち社，00

【参考書】講義時に随時紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220353

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1号館3階中棟(3M15) 相談時間 月曜日13:30-17:00)

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

社会創生学科 環境共生コース 授業概要

● コア科目

環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期)……162
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期)……162
環境経済学 …眞弓/3 年 (後期)……162
環境物質循環論 …山本/2 年 (前期)……162
生態学 I …浜野/2 年 (前期)……163
生物資源論 …金丸・横井川・増田/3 年 (前期)……163
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期)……163
環境リスク論 …山本・浜野/2 年 (後期)……163
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期)……164

● コース選択科目

生化学 …佐藤/2 年 (後期)……164
分子生物学 …渡部/2 年 (後期)……164
発生学 …真壁/2 年 (後期)……164
適応進化学 …松尾/2 年 (後期)……165
細胞情報学 …小山/2 年 (後期)……165
環境共生学実験 I …今井・増田・三好・山本・山本・中村・小山・横井川・中川・金丸・大橋・佐藤・浜野・山城・佐藤・真壁・松尾・渡部/2 年 (後期) 165
環境政策論 II …栗栖/3 年 (後期)……166
分析化学 I …今井/3 年 (前期)……166
環境機器分析化学 …今井/3 年 (後期)……166
グリーンケミストリー …三好/3 年 (後期)……166
環境生理学 …佐藤/3 年 (後期)……166
物質作用・影響評価 …小山/3 年 (前期)……167
活性物質生理学 …中川/3 年 (後期)……167
生態学 II …山城/3 年 (後期)……167
天然物化学 …中村/3 年 (後期)……167
生物有機化学 …増田/3 年 (前期)……167
生命環境情報学 …大橋/2 年 (後期)……168
系統分類学 …山城/3 年 (前期)……168
細胞生理学 …中川/2 年 (後期)……168
機能物質作用学 …横井川/2 年 (後期)……168
生体物質影響学 …金丸/3 年 (後期)……168
環境共生学実験 II …今井・増田・三好・山本・山本・中村/3 年 (前期)169
環境共生学実験 II …小山・横井川・中川・金丸/3 年 (前期)……169
環境共生学実験 III …大橋・佐藤・浜野・山本/3 年 (後期)……169
環境共生学実験 III …佐藤・真壁・松尾・渡部/3 年 (後期)……169
環境共生学セミナー I …大橋/3 年 (前期)……170
環境共生学セミナー I …小山/3 年 (前期)……170
環境共生学セミナー I …金丸/3 年 (前期)……170
環境共生学セミナー I …佐藤/3 年 (前期)……170
環境共生学セミナー I …佐藤/3 年 (前期)……170
環境共生学セミナー I …中川/3 年 (前期)……170
環境共生学セミナー I …浜野/3 年 (前期)……171
環境共生学セミナー I …真壁/3 年 (前期)……171
環境共生学セミナー I …松尾/3 年 (前期)……171
環境共生学セミナー I …山城/3 年 (前期)……171
環境共生学セミナー I …横井川/3 年 (前期)……171
環境共生学セミナー I …渡部/3 年 (前期)……171
環境共生学セミナー I …今井/3 年 (前期)……171
環境共生学セミナー I …増田/3 年 (前期)……172
環境共生学セミナー I …山本/3 年 (前期)……172
環境共生学セミナー I …山本/3 年 (前期)……172
環境共生学セミナー I …中村/3 年 (前期)……172
環境共生学セミナー II …今井/3 年 (後期)……172
環境共生学セミナー II …大橋/3 年 (後期)……172
環境共生学セミナー II …小山/3 年 (後期)……172
環境共生学セミナー II …金丸/3 年 (後期)……172
環境共生学セミナー II …佐藤/3 年 (後期)……173
環境共生学セミナー II …佐藤/3 年 (後期)……173
環境共生学セミナー II …中川/3 年 (後期)……173
環境共生学セミナー II …浜野/3 年 (後期)……173
環境共生学セミナー II …真壁/3 年 (後期)……173
環境共生学セミナー II …増田/3 年 (後期)……173
環境共生学セミナー II …松尾/3 年 (後期)……173
環境共生学セミナー II …山本/3 年 (後期)……173
環境共生学セミナー II …山本/3 年 (後期)……174
環境共生学セミナー II …山城/3 年 (後期)……174
環境共生学セミナー II …横井川/3 年 (後期)……174
環境共生学セミナー II …渡部/3 年 (後期)……174
環境共生学セミナー II …中村/3 年 (後期)……174
財政学 I …石田/2 年 (前期)……174
財政学 II …石田/3 年 (後期)……174
福祉情報論 …樫田/2 年 (後期)……174
地域変容論 …平井/2 年 (後期)……174
地域環境論 …古田・平井/2 年 (前期)……175
市民活動論 …萩原・樫田/2 年 (前期, 集中)……175
熱統計力学 I …真岸/2 年 (後期)……175
無機化学 I …今井/2 年 (前期)……175
物理化学 I …山本/2 年 (前期)……176
有機化学 I …中村/2 年 (前期)……176
物質構造解析学 …森/3 年 (前期, 集中)……176
地球表層構造形成論 …村田/3 年 (後期)……176
地球表層環境論 …石田/3 年 (後期)……177
地球環境科学 …西山/2 年 (後期)……177
生態系の保全 …鎌田/2 年 (後期)……177
都市・交通計画 …山中・近藤/2 年 (前期)……178
資源循環工学 …山中・上月/2 年 (前期)……178
地域・環境デザイン …真田/2 年 (前期)……178
地域の防災 …中野・蒋・田村/2 年 (後期)……178
緑のデザイン …鎌田・非常勤講師/2 年 (後期)……179
エコシステム工学 …木戸口・上月・近藤・橋本・藤澤・奥嶋・松尾・山中・富田・佐藤・伊藤・名田/2 年 (前期)……179
環境を考える …上月・山中・藤井・中西/2 年 (前期)……180

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期)……180
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期)……180
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期)……180
世界経済論 I …水島/3 年 (前期)……181
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期)……181
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期)……181
運動文化論 …中村/2 年 (前期)……182
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期)……182
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期)……182
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期)……182
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期)……182
地域政策論 I …北村/2 年 (後期)……183
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期)……183
共生社会論 …樫田/3 年 (後期)……183
メディア情報論 …河原崎/2 年 (後期)……184
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期)……184
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期)……184
情報と職業 …吉田/2 年 (後期)……185
情報の数理 …中山/3 年 (前期)……185
現象の数理 …小野/3 年 (後期)……185
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期)……185
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期)……186
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期)……186
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期)……186

環境政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
栗栖 聡・教授/社会創生学科

【授業目的】環境政策について体系的に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．
【授業概要】環境問題，環境政治・政策学，現代社会の基本的枠組みを検討し，ついで，環境政策に関して，その理念，手法，決定過程を検討する．さらに，環境基本法を踏まえつつ，大気，水，自然環境に関する規制の内容，循環型社会形成のための政策について論じる．最後に，市民参加の観点から環境影響評価の仕組みを検討する．
【到達目標】環境政策の体系的理解
【授業計画】1. 環境問題とは **2.** 環境政治・政策とは **3.** 環境問題と国家の役割 **4.** 環境政策の理念 **5.** 環境政策の手法 (総論) **6.** 環境政策の手法 (規制，経済的手法，市民参加等) **7.** 環境政策決定過程 (議会，行政) **8.** 環境基本法の制定過程と概要 **9.** 規制 (大気，水，土壌) **10.** 規制 (自然環境保全) **11.** 循環型社会形成政策 (廃棄物処理) **12.** 循環型社会形成政策 (排出削減) **13.** 環境影響評価 (事業アセス) と市民参加 **14.** 環境影響評価 (戦略アセス) と市民参加 **15.** 試験 **16.** まとめ
【成績評価】平常点 (20%) と期末試験 (80%)
【再試験】なし
【教科書】なし
【参考書】授業中に指示する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218487
【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1，0886567185，kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境倫理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科，山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】環境倫理学を通じて，倫理学の基本的な考え方を理解する．現代社会における「倫理的問題」は，単に思想や価値観の問題であるだけでなく，「社会的問題」でもあることを理解する． 環境倫理学のトピックス，その思想的背景，現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ，現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける． その上で，自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける． レポートをもとに意見を発表し，討議する力を身に付ける．
【授業概要】「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い，そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する．
【キーワード】哲学，倫理学，環境，社会と自然
【到達目標】
1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．
【授業計画】1. イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) **2.** 環境倫理学の系譜 (1):環境倫理学成立の背景:1950~ 60 年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) **3.** 環境倫理学の系譜 (2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想 (山口) **4.** 環境倫理学の系譜 (3): 「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟 (山口) **5.** 環境倫理学の系譜 (4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) **6.** 地球温暖化問題の成立 (1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで (山口) **7.** 地球温暖化問題の成立 (2):フィラッハ会議後の展開:地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) **8.** 地球温暖化問題の成立 (3):IPCC の成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索 (山口) **9.** 地球温暖化問題の成立 (4):京都議定書とその後の展開 **10.** アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる．シャロー・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を，その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造，エコフィロソフィーとエコソフィー，自己実現との関連で講じる．(石田) **11.** マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる．ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判，位階性の批判，自然の進化と社会の進化，リバタリアン的な地域自治主義を講じる．(石田) **12.** ドイツの環境政策を講じる．1970 年代以降のドイツの環境政策を概観した上で，地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策，ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴッパータル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター 4」を講じる．(石田) **13.** ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる．自然は果たして権利の主体になりうるか．人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か，等を論じる．(石田) **14.** ドイツの環境思想家マイアー=アービッヒの『自然との和解への道』で述べられた，実践的自然哲学を講じる．政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること，自然の理解は広い意味で法の中で論じられること，人間中心主義に対する哲学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ，自然中心主義的世界像から，自然としての人間，自然の法共同体を講じる．(石田) **15.** 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション (石田)
【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2 点 ×15=30 点，レポート 2 回＝ 70 点．
【再試験】無
【教科書】その都度資料を配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218491
【連絡先】
⇒ 石田 (2328，088-656-7147，mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで)，088-656-7615，yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

環境経済学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
眞弓 浩三・教授/社会創生学科

【授業目的】経済科学における分析的な手法を学ぶ．
【授業概要】標準経済学の接近法を学習した後，ジョージェスクーレーゲンの生物経済学と社会メタボリズムについて理解を深める．
【キーワード】エネルギー，環境，鉱物資源，ジョージェスクレーゲン
【到達目標】分析的な思考を身につける．
【授業計画】1. 環境経済学:導入 **2.** 標準経済学の効率性とは? **3.** 標準経済学の鉱物資源の配分原理とその批判 **4.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:導入 **5.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:消費者選好理論 **6.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:エネルギーとエントロピー **7.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:鉱物資源の重要性 **8.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:モデルとシミル **9.** ジョージェスクレーゲンの生物経済学:総括 **10.** 社会メタボリズム:導入 **11.** 社会メタボリズム:エネルギー分析の手法 **12.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの導入 **13.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの理論 **14.** 社会メタボリズム:多階層エネルギー分析モデルの応用 **15.** 定期試験 **16.** 総括
【成績評価】通常の試験の結果のみで判断する．平常点などというものはない．プロセスよりも結果だけが大切であることを理解せよ．
【教科書】教科書は指定しない．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220362
【連絡先】
⇒ 眞弓 (1316，088-656-7175，mayumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日午後．メールであらかじめ連絡してください．)

環境物質循環論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
Sustainable circulation of materials in the environment
山本 裕史・准教授/社会創生学科

【授業目的】地域ないし地球環境と人間が共生するためにはどのような考え方，知識，技術が必要なのか．物質の環境中における循環に着目して共生を実現する方法を探る．

【授業概要】公害問題ならびに地域・地球環境問題における最新のデータや対策技術を紹介するとともに，物質の循環に着目して，その現状や具体的対策について概説する．

【キーワード】**地球環境問題，循環型社会，環境汚染対策技術，環境化学，環境汚染物質**

【先行科目】『化学の基礎』(1.0)，『生命科学の基礎』(1.0)

【関連科目】『環境リスク論』(0.5, ⇒163 頁)，『地域・環境デザイン』(0.5, ⇒178 頁)，『エコシステム工学』(0.5, ⇒179 頁)，『化学基礎実験』(0.5, ⇒189 頁)

【到達目標】授業で得た情報により，受講者が自分自身の環境観に基づいて責任のある行動ができるようになる．

【授業計画】**1.** シラバス・授業内容の概説 **2.** 公害問題と現代の環境問題 **3.** 自然環境の現状・環境史 **4.** 環境問題と化学 1 (地球温暖化とオゾン層破壊，大気汚染) **5.** 環境問題と化学 2 (水質汚濁と土地利用の問題) **6.** 環境科学の基礎 1(環境化学の基礎，環境物理の基礎) **7.** 環境科学の基礎 2(環境微生物の基礎，生態学の基礎) **8.** 中間試験 **9.** ライフサイクルアセスメント (LCA) **10.** リサイクルと循環型社会 **11.** 廃棄物処理・処分と排ガス処理 **12.** 上水道と下水道 **13.** 資源とエネルギー 1(従来型エネルギー) **14.** 資源とエネルギー 2(新エネルギー) **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】宿題・レポート等:30%，授業出席:20%，中間試験:25%，期末試験:25%

【再試験】再試験を実施して再評価

【教科書】
- ◇ 新版環境工学 ~ 持続可能な社会とその創造のために 住友恒ほか 理工図書 3675 円
- ◇ 化学環境学 御園生誠 裳華房 2625 円

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/envchem/yamamoto/envcycle.htm

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218489

【連絡先】
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

生態学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生態学の基本や面白さを理解する．

【授業概要】ヒトとして生活をする上で知っておいた方がよい生態学の知見，フィールド調査や研究を行う上で重要となる生態学的な基礎知識について，実例をあげながら講述する．

【キーワード】**生物，行動，生態系**

【到達目標】生態学の基本用語を理解する．

【授業計画】**1.** 講義内容の説明 **2.** 繁殖行動の解発因 **3.** 配偶者選択 **4.** 行動の進化的安定戦略 **5.** 生存曲線，個体群の増殖 **6.** 個体数推定，生命表 **7.** 生態的地位，生態系，すみ分け **8.** 種間関係，群集の多様性 **9.** 捕食ー被捕食関係，最適餌サイズ **10.** 擬態，r-K 戦略 **11.** 生物の多様性，メタ個体群 **12.** 自然保護を考える **13.** 生態学的研究の実例 **14.** 生態学の応用的研究の実例 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 50 点 (原則遅刻は配点しない)，レポート 50 点

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218743

【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

生物資源論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
金丸 芳・准教授/社会創生学科，横井川 久己男・教授/社会創生学科
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】生物資源について，生命科学的かつ化学的立場から多角的に取り上げ，解説する．そして，生物資源を知ることで，環境共生としての生物多様性や環境保全を考える．

【授業概要】微生物系生物資源の特徴・機能・その利用，さらに遺伝子資源としての微生物を解説する．生物資源としての農産物や食料と，生命環境との関わり，さらに適切な生物資源の利用や確保について解説する．生物資源とは何かを物質科学的に考察し，その利用と現状と将来，さらに地球環境との関係を考察し，解説する．

【キーワード】**生物資源**

【履修上の注意】3 名の教員で分担する講義である．各教員が担当する 5 回の講義の中で評価 (テスト等) も各々行う．総合評価は，各教員の評価を合わせて行うので，各教員の評価を受けること．

【到達目標】生物資源の特徴や現状，そして利用について習得し，生物資源と，環境との共生の関わりを理解し，今後の展望を考察できるようにする．

【授業計画】**1.** 生物資源としての微生物の特徴 **2.** 生物資源としての微生物の機能 **3.** 生物資源としての微生物の利用 **4.** 生物資源としての微生物の保存 **5.** 生物資源としての微生物遺伝子 **6.** 生物資源としての農産物・食料 **7.** 生物資源と生命環境 **8.** 生物資源の機能有用性 **9.** 生物資源の有効利用 **10.** 生物資源の循環利用 **11.** 生物資源と化学 (化石) 資源ー相違と将来展望 **12.** 利用可能な生物資源—バイオマスなど **13.** 生物資源物質の利用 **14.** 徳島に関係した生物資源とその研究 I(歴史) **15.** 徳島に関係した生物資源とその研究 II(現在) **16.** 総括

【成績評価】授業への出席，テスト，レポート等で総合評価する

【再試験】行わない

【教科書】プリントを適宜配布する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220274

【連絡先】
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)

自然保護論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し，どのような取り組みを行えば良いか，またどのようなことに留意すれば良いかについて考える．

【授業概要】自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう．しかし，野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等，生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない．また，絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については，その正確性が絶えず議論になる．この授業では，自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ，どのように考えていくべきか解説する．

【キーワード】**自然保護，野生生物，環境保全**

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】**1.** 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい **2.** 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて **3.** 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 **4.** 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 **5.** 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え **6.** 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 **7.** 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い **8.** 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル **9.** 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 **10.** 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 **11.** 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園，世界遺産 **12.** 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 **13.** 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 **14.** 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軋轢 **15.** 期末試験

【成績評価】授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート，資料持ち込み可) により評価する．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】適宜紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218670

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境リスク論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
Environmental Risk Assessment and Management
山本 裕史・准教授/社会創生学科，浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】環境リスクおよびそれを低減するための様々な方策について学ぶ．

【授業概要】環境への危険性やどうしても避けたい環境影響である「環境リスク」を緩和しようとすると，別の問題が生じるという「リスクトレードオフ」が起きる．総合的に環境への影響緩和を実現するためには，個々の問題を定量的に評価した上で，それぞれの最適なバランスを考えてリスクマネージメントおよびリスクコミュニケーションをはかる必要がある．本講義ではそのような環境リスクの問題解決を行うためのキーとなる，化学物質のリスク評価やリスク低減手法について講述し，リスクコミュニケーションの在り方についても学ぶ．

【キーワード】**環境リスク，リスク管理，法規制，リスクコミュニケーション，リスクアセスメント**

【先行科目】『環境物質循環論』(1.0, ⇒162 頁)

【関連科目】『生態学 I』(0.5, ⇒163 頁)
【到達目標】環境リスクの回避・低減策の現状について，工学的，科学的など様々な視点から学ぶ
【授業計画】**1.** シラバス・授業概要の説明，リスク・環境リスクとは (山本) **2.** 化学物質のリスク評価の現状と課題 (山本) **3.** 化学物質のリスク管理の現状と課題 ~ 化審法・PRTR・REACH など (山本) **4.** 大気汚染・室内空気汚染の規制と環境リスク低減技術 (山本) **5.** 廃棄物処理処分に関する規制と環境リスク低減技術 (山本) **6.** 食品・水道水に関する規制と環境リスク低減技術 (山本) **7.** 下水・産業廃水に関する規制と環境リスク低減技術 (山本) **8.** 中間試験 (山本) **9.** 農業生態系における環境リスク低減技術 (浜野) **10.** 土壌生態系における環境リスク低減技術 (浜野) **11.** 沿岸生態系における環境リスク低減技術 (浜野) **12.** 河川生態系における環境リスク低減技術 (浜野) **13.** 環境リスクを計算する (浜野) **14.** リスクコミュニケーション (浜野) **15.** 期末試験 (浜野) **16.** 総括授業 (浜野)
【成績評価】浜野担当分 50%，山本担当分 50%(宿題レポート 20%，出席 10%，中間試験 20%)
【再試験】なし
【教科書】
◇ 新版環境工学 ~ 持続可能な社会とその創造のために (2007)，住友恒ら，理工図書，3675 円
◇ 化学環境学 御園生誠，裳華房，2625 円
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218490
【連絡先】
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07，7618，hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境マネジメント

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】さまざまなレベルの環境問題や環境管理手法である環境マネジメントシステムについて学び，について理解するについて学習し，低炭素・循環型で環境負荷の少ない社会を構築するための個人のライフスタイルや企業の取り組みが，よい地域環境を生み出し，それはさらによりよい地球環境を創造することにつながることを理解する．
【授業概要】講義の前半では環境社会検定でも扱われる内容について総合的に理解し，後半では環境マネジメントを実行するシステムを学ぶ．そして最後に一人一人が日常生活の中での環境マネジメントを考える．
【キーワード】**環境，生態系，*ISO14000* シリーズ**
【授業計画】**1.** 環境マネジメントとは **2.** 持続可能な社会に向けて **3.** 地球人としてのわたしたち **4.** 環境と経済・社会 **5.** わたしたちの暮らしと環境 **6.** 環境と共生するために **7.** 中間試験 **8.** 環境マネジメントシステム **9.** ISO14000 シリーズ **10.** 伝統的な環境マネジメント **11.** 共生環境のマネジメントシステム **12.** 個人の環境マネジメント:チェック **13.** 個人の環境マネジメント:PDCA **14.** 個人の環境マネジメント:アクションプラン **15.** 期末試験 **16.** 総括授業
【成績評価】出席 (原則遅刻は配点しない)，中間試験，レポートを総合して評価する．
【再試験】しない
【教科書】なし
【参考書】講義の中で紹介する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220342
【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

生化学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】生体を構成する生体高分子 (タンパク質・脂質・糖質など) に焦点を当て，その化学構造など基礎的な事項から，それらの生体内における機能や分析法までの総合的な理解を目的とする．
【授業概要】生命現象の理解には，生命を構成する分子レベルでの理解が不可欠である．ここでは，生体を構成する脂質，糖質，タンパク質に焦点を当て，これらの基本的な構造と機能を理解すると共に，生化学的手法による検出・分析法についても講義を行う．
【キーワード】**タンパク質，糖質，脂質，分析法**
【先行科目】『生命科学の基礎』(1.0, ⇒93 頁)，『生命科学の基礎』(1.0, ⇒188 頁)
【履修上の注意】講義の最後に課題を出しますので，出席してください．また，授業態度の著しく悪い学生は欠席扱いとする場合があります．
【到達目標】
1. 糖質・脂質・タンパク質の基本的な構造と機能が理解できる．
2. 糖質・脂質・タンパク質の分析法が理解できる．
【授業計画】**1.** シラバス・評価方法の説明 **2.** アミノ酸の構造と機能，分析法 **3.** タンパク質の構造 (一次ー四次構造) **4.** タンパク質の機能と分離法 **5.** タンパク質の構造解析法 (1) **6.** タンパク質の構造解析法 (2) **7.** 酵素の分類と性質 (1) **8.** 酵素の分類と性質 (2) **9.** タンパク質工学・酵素工学 **10.** 単糖の化学的性質と反応・分析法 **11.** 単糖と多糖類の構造と機能 **12.** 脂肪酸と脂質の基本構造 **13.** 脂肪酸と脂質の反応・分析法 **14.** 生体膜の構造と機能 **15.** 定期試験 **16.** 統括授業
【成績評価】毎週の講義のまとめとして，課題を出席者に渡します．次の講義の時に提出していただき，平均を平常点とします (6 割)．定期試験 (4 割) とあわせ評価します．
【再試験】試験細則に準拠し，受験資格のあるもののみ再試験を行います
【教科書】ヴォート「基礎生化学」(第 3 版)(東京化学同人)
【参考書】
◇ Alberts ほか，中村桂子訳「Essential 細胞生物学」(南江堂)
◇ 石黒伊三雄監修「わかりやすい生化学 (第 3 版)」(廣川書店) などから，適宜プリントを配布する
◇ 配布したパワーポイント資料，および実施済み課題は，下記 web からダウンロードできます．
【WEB 頁】http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218740
【連絡先】
⇒ 佐藤 (3N05，088-656-7657，tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日9:00-17:00)

分子生物学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】この授業では，遺伝子の物質的な側面を，DNA の構造・複製・修復という観点から学ぶ．また DNA に保持されている遺伝情報がどのようにして発現されるのかということを，RNA の転写，タンパク質の翻訳として学ぶ．この授業を通じて，生物の遺伝情報の流れの基本を理解することを目的とする．
【授業概要】地球上の生物の「遺伝情報」は，細胞分裂を通じて娘細胞へ，また生殖細胞を通じて子孫へと受け継がれる．この遺伝情報の担い手が「遺伝子」である．遺伝子は，情報を運ぶ媒体であるとともに化学物質であるという側面を持つ．これらに関して，基本的には「エッセンシャル細胞生物学」(Alberts 他著．中村桂子他訳．南江堂) の第 6·7 章の内容に対応する授業を行なう．また適宜ビデオ教材を用い，授業の理解を深める．
【キーワード】**遺伝子，*DNA*，*RNA*，タンパク質，分子生物学**
【先行科目】『生命科学基礎実験』(1.0)，『生命科学の基礎』(1.0)
【関連科目】『発生学』(0.5, ⇒164 頁)，『適応進化学』(0.5, ⇒165 頁)，『環境共生学実験 I』(0.5, ⇒165 頁)
【履修上の注意】毎回授業中にミニレポートを配布する．このミニレポートの提出をもって授業への出席確認と，レポートの採点とするので，必ず授業には出席しミニレポートを提出すること．予習，復習，試験勉強のため IBS 出版「新・分子生物学」(石川統著) を精読することを勧める．
【到達目標】遺伝子，DNA，RNA，タンパク質という用語を，構造と機能の両面から自分の言葉で説明できるようになる．
【授業計画】**1.** 分子生物学の概説 **2.** 核酸の構造 **3.** タンパク質の構造 **4.** 遺伝現象の概説 **5.** メンデル遺伝 **6.** 遺伝子の本体 **7.** DNA の複製・修復 **8.** DNA の組換え **9.** RNA の転写 **10.** RNA の転写制御 **11.** 転写産物のプロセシング **12.** タンパク質の翻訳 **13.** 突然変異と進化 **14.** 分子生物学で使われる技術 **15.** 学期末テスト **16.** 総括授業
【成績評価】授業への出席 (20%)，レポート内容 (40%)，および期末テスト (40%)
【再試験】再テスト有
【教科書】IBS 出版「新・分子生物学」(石川統著)
【参考書】
◇ エッセンシャル細胞生物学」(Alberts 他著．中村桂子他訳．南江堂)
◇ 「見てわかる DNA のしくみ」(工藤光子，中村桂子，講談社)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218994
【連絡先】
⇒ 渡部 (088-656-7253，minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日12:00-13:00)

発生学
developmental biology

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
真壁 和裕・教授/社会創生学科

【授業目的】動物の発生過程で，どのように体軸が形成され，胚をつくる個々の細胞が互いに異なったものに分化し，秩序正しう個体を形作っていくのかについて，代表的な現象を取り上げながら，基本的な概念とその進化的な側面を理解し，さらにクローン・幹細胞技術の現代社会への貢献や環境因子との相互作用について考えることを目的とする．

【授業概要】多細胞生物の系統関係を念頭に置きながら，後生動物全般でどのような発生メカニズムが用いられて，たったひとつの受精卵が個体になっていくのかについて，さまざまな動物の胚に見られるさまざまな現象を例に取りながら，基本的なしくみを学ぶ．

【キーワード】初期発生，細胞分化，遺伝子，進化，医学的応用

【先行科目】『環境共生学実験 I』(1.0, ⇒165 頁)

【関連科目】『分子生物学』(0.5, ⇒164 頁)，『適応進化学』(0.5, ⇒165 頁)

【履修上の注意】講義プリントは当日の出席者にしか配りません (遅刻欠席しないこと)．講義は集中して聴いていないと到底理解できませんし (喋ったり寝たりしないこと)，内容は一度聴いたくらいで完全に理解して覚えることは困難です (自らも学び，復習をすること)．

【到達目標】基礎的な発生生物学の概念を理解し，細胞や分子の言葉で発生を説明できるようになること．

【授業計画】**1.** 系統発生とモデル生物 **2.** 細胞が違っていくしくみ 1(局在) **3.** 細胞が違っていくしくみ 2(誘導) **4.** 細胞が違っていくしくみ 3(勾配) **5.** 細胞が違っていくしくみ 4(側方抑制と等価群) **6.** オーガナイザー **7.** 体節形成 **8.** Hox クラスター **9.** 肢芽 **10.** EvoDevo **11.** 性決定 **12.** 中枢神経系と神経堤 **13.** 幹細胞とクローン技術 **14.** 環境との相互作用 **15.** 定期試験 **16.** 総括

【成績評価】出席，小テスト，定期試験の成績を総合的に評価する．

【再試験】無

【教科書】教科書は指定せずに，毎回プリントを配布する．

【参考書】「ウィルト 発生生物学」東京化学同人

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218948

【連絡先】
⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)

適応進化学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
松尾 義則・教授/社会創生学科

【授業目的】生物の適応進化を理解するために必要な知識を習得することを目的とする．遺伝学と生物の進化の関係を示し，生物進化の素材である遺伝的変異，原動力である自然選択，移住，浮動について解説する．

【授業概要】生物の適応進化と遺伝学

【キーワード】進化遺伝，集団遺伝

【先行科目】『分子生物学』(1.0, ⇒164 頁)

【関連科目】『分子生物学』(0.5, ⇒164 頁)，『発生学』(0.5, ⇒164 頁)

【到達目標】生物の進化の仕組みを理解する．

【授業計画】**1.** 突然変異と組み換えによる多様性の創出 **2.** 1．突然変異とその生成機構 **3.** 2．突然変異の修正 **4.** 3．突然変異率と突然変異のパターン **5.** 4．多様性の創出 **6.** DNA とタンパク質の変異 **7.** 1．遺伝的な変異 **8.** 2．変異の種類 **9.** 機会的遺伝的浮動 **10.** 1．機会的な過程 **11.** 2．対立遺伝子頻度の機会的な浮動 **12.** 3．コアレッセンス **13.** 4．中立説 **14.** 5．組み換えと遺伝的浮動 **15.** 期末テスト **16.** 総括授業

【成績評価】時々小テストを行い，本試験と合わせて評価する．

【再試験】なし

【教科書】
- ◇ 教科書:「進化」分子・個体・生態系 メディカルサイエンスインターナショナル
- ◇ 参考書 タマリン 遺伝学 上巻 培風館
- ◇ 参考書 クロー著「遺伝学概説」(第 8 版) 培風館 2，266 円

【WEB 頁】http://www.evolution-textbook.org

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218874

【連絡先】
⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもOK)

細胞情報学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
小山 保夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生体は生理機能を統合するために，細胞間で化学的シグナル伝達を行っている．そのシグナルを受容するのは，多くの場合は細胞膜の受容体である．この膜に届いた化学的シグナルがどのように細胞内で処理され，細胞の機能発現につながるか，解説する．また，細胞膜で起こるイオンチャネルを介する電気的シグナル伝達についても詳細に解説する．これらの情報システムの理解は単に生理機能発現の理解に止まらず，疾病メカニズム，化学物質 (環境汚染物質，医薬品，日用化学物質) の影響評価の細胞レベルでの理解の基礎となるものである．

【授業概要】細胞間および細胞内の化学的・電気的シグナル伝達と生理機能発現を講義し，疾病メカニズム，化学物質 (環境汚染物質，医薬品，日用化学物質) の影響評価の細胞レベルでの理解の基礎力を育成する．

【キーワード】情報伝達

【履修上の注意】理系・文系に関係なく内容が理解できるように，基礎の基礎から講義する．よって，遅刻しないこと．試験対策として，エッセンシャル細胞生物学を購入することが望ましい．

【到達目標】どのように化学的・電気的シグナル伝達を修飾すると細胞の生理機能を変化させることができるか，自由に考えられるようにする．

【授業計画】**1.** ベースとしての知識は，エッセンシャル細胞生物学である．全般的にポイントを説明する．将来，何がどのように役立つのか，解説する． **2.** 細胞間のシグナル伝達について **3.** 細胞膜表面のシグナル受容について **4.** 細胞内のシグナル伝達について **5.** シグナル伝達と細胞生理機能発現について **6.** シグナル伝達異常と疾患について **7.** 化学物質 (医薬品，環境汚染物質など) によるシグナル伝達変化 **8.** 細胞膜の電気現象とイオン透過性について (実験方法も含めて) **9.** 電位依存性イオンチャネルについて **10.** 受容体作動性イオンチャネルについて **11.** 化学物質 (医薬品，環境汚染物質など) によるイオンチャネルの変化 **12.** イオンチャネル異常と疾病について **13.** 化学的シグナル伝達研究の現状と将来について **14.** 電気的シグナル伝達研究の現状と将来について **15.** シグナル伝達に関する知識の応用方法について **16.** 総括

【成績評価】基本的には本試験の成績で評価するが，得点が低い場合には小テスト成績と出席回数を加味して評価を行う．

【再試験】なし．

【教科書】エッセンシャル細胞生物学

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218667

【連絡先】
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します．時間は有効に使います．)

環境共生学実験 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
今井 昭二・教授/社会創生学科，増田 俊哉・教授/社会創生学科
三好 徳和・教授/総合理数学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科
山本 孝・准教授/社会創生学科，中村 光裕・講師/総合理数学科
小山 保夫・教授/社会創生学科，横井川 久己男・教授/社会創生学科
中川 秀幸・教授/社会創生学科，金丸 芳・准教授/社会創生学科
大橋 眞・教授/社会創生学科，佐藤 征弥・准教授/社会創生学科
浜野 龍夫・教授/社会創生学科，山城 考・准教授/社会創生学科
佐藤 高則・准教授/社会創生学科，真壁 和裕・教授/社会創生学科
松尾 義則・教授/社会創生学科，渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】「生命・環境・共生」をキーワードとして，生命現象や生物と環境の関係・環境問題について広い視野を持ち，かつ特定の分野における深い知識を持つために必要な知識・技術を身につけるために必要な実習を行う．

【授業概要】環境共生コース所属教員全員が実験を行う．上記の目的を達成するために，基本的な生物の観察・顕微鏡操作から，化学分析，DNA・タンパク質の分析などを行う．

【キーワード】環境化学，環境資源科学，バイオテクノロジー，フィールドワーク

【履修上の注意】授業には必ず出席し，自ら実験を行うこと．また十分な内容のレポートを作成するために，文献等の調査を行うことも大切である．

【到達目標】生命科学・環境科学に対する理解を深める．また，環境共生学実験 II・III へとつながる基礎的な知識および実験技術を身につける．

【授業計画】**1.** ガイダンス (レポートの書き方) **2.** 動物個体数の推定方法 **3.** 地衣類の観察 **4.** 生物統計の基礎 **5.** タンパク質の分析:生物に由来するタンパク質の分析・精製 **6.** 微生物の顕微鏡観察:身の回りの微生物の形態と構造を観察する **7.** 真核細胞の顕微鏡観察:細胞の形態と構造を観察する **8.** 作用評価:細胞レベルでの環境汚染物質の影響評価 **9.** ゲノム DNA の抽出と PCR **10.** PCR 産物のアガロースゲル電気泳動による解析 **11.** タンパク質の抽出 **12.** タンパク質の SDS-PAGE による解析 **13.** 化学的酸素要求量 (COD 測定) **14.** 硝酸・亜硝酸窒素の定量 (吸光光度法) **15.** お茶からカフェインの抽出

【成績評価】授業 (実習) への出席と，提出されたレポートによる．

【再試験】行わない．欠席者への再実験も行わない．

【教科書】テキストを配布する．実験テーマによっては，プリントを配布し使用する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218486

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します．時間は有効に使います．)
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室の時はいつでも．)
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)
⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境政策論 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
栗栖 聡 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 持続可能な社会に向けての環境ガバナンスのあり方を，環境政治・政策学の基本的枠組みの下に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．

【授業概要】 環境問題をまず正義論の観点から，さらに，エコロジズム，エコロジー的近代化，持続可能な発展という三つの分析枠組みの観点から検討する．ついで，環境問題を幾つかの民主主義モデルとの関連で論じ，最後に国家論のレベルで環境問題の意味を探る．

【到達目標】 持続可能な社会に向けての環境ガバナンスのあり方を理解する．

【授業計画】 **1.** 環境政治・政策学の基本枠組み **2.** 環境的正義 **3.** 生態学的正義 **4.** 経済システムと自然環境 **5.** エコロジズム **6.** エコロジー的近代化論 **7.** 持続可能な発展 **8.** 環境政策統合 **9.** 環境問題と参加民主主義 **10.** 環境問題と熟議民主主義 **11.** 環境問題と結社民主主義 **12.** 環境問題と市民社会 **13.** 環境ガバナンス **14.** 環境国家 **15.** 試験 **16.** 自由主義国家，福祉国家，環境国家

【成績評価】 試験

【教科書】 授業中に指示する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220363

【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1, 0886567185, kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

分析化学 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 実験的な内容は，化学実験においてすでに学習済みであることを前提にして，分析化学で用いられる化学平衡の基礎的内容について学習する事を目的とする．

【授業概要】 化学平衡の観点から定量および定性分析の基礎についての講義を行う．

【キーワード】 **化学平衡**

【到達目標】 分析化学の基礎となる化学分析法の知識と理論の理解と応用を目標とします．

【授業計画】 **1.** 総論，サンプリング，標準試料 **2.** 溶液化学的基礎 **3.** 酸塩基平衡 **4.** 錯体の生成 **5.** 錯生成平衡 **6.** 不均質平衡 **7.** 沈殿平衡 **8.** 酸化還元平衡 **9.** 酸塩基滴定 **10.** 酸化還元滴定 **11.** 錯化滴定，キレート滴定 (金属指示薬) **12.** ガラス電極 pH メーター **13.** 電位差滴定 **14.** pH 曲線 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】 定期試験と出席状況．但し，試験が 20 点未満の場合には，再試験は認めない．

【再試験】 試験が 20 点以上の学生に対して実施する場合がある．

【教科書】 長島弘三，富田 功 「基礎化学選書 分析化学」 裳華房

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220378

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前 · 後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

環境機器分析化学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 化学，環境および工業分野での機器分析法について装置，計測，測定などの基礎を学ぶことを目的とする．

【授業概要】 分光分析を中心として現代的な機器分析法を講義する．

【キーワード】 **機器分析**

【到達目標】 分析化学において主力となっている機器分析法の原理と応用を理解する．

【授業計画】 **1.** 分光分析法:光学的知識 **2.** 分光分析法:分光学的知識 **3.** 分光分析法:装置情報処理的知識 **4.** 分光分析法:分光化学的知識 **5.** 分光分析法:基本法則 **6.** 分光分析法:イオン認識分析法 **7.** 分光分析法:定量法 **8.** フレーム・黒鉛炉原子吸光法 (FAAS・GFAAS) **9.** プラズマイオン化質量分析法 (ICP-MS)・プラズマ発光分析法 (ICP-AES) **10.** X 線吸収分光法 (XAFS)・蛍光 X 線分析法 (EDX) **11.** 走査型電子顕微-蛍光 X 線分析法 (SEM-EDX)・光電子分光法 (XPS) **12.** 赤外分光分析法 (FT-IR)・レーザーラマン散乱分光法 **13.** ガスクロマトグラフ質量分析法 (GC-MS)・ガスクロマトグラフ (GC) **14.** イオン交換分離法・固相抽出法・イオンクロマトグラフ法 (IC) **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】 定期試験で評価する．

【再試験】 試験で 20 点以上の学生に対して，再試験を実施する．

【教科書】 化学基礎実験，分析化学 I と継続した教科書を前半に用いる．後半は，資料を配布する．

【参考書】 適宜，教科書を紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220361

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前 · 後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

グリーンケミストリー

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
三好 徳和 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 化学が歩んできた功罪を直視し，21 世紀の化学のあるべき姿としてのグリーンケミストリーの概念を学ぶ

【授業概要】 20 世紀の物質文明を発展させてきた化学について学ぶ．さらに，グリーンケミストリーの 12 箇条を学び，21 世紀の化学について考える．

【キーワード】 **グリーン化学，環境化学**

【先行科目】 『環境物質循環論』(1.0, ⇒162 頁)，『環境マネジメント』(1.0, ⇒164 頁)，『環境リスク論』(1.0, ⇒163 頁)

【履修上の注意】 最初の授業にて説明するので，遅刻せず必ず出席するように．

【到達目標】 グリーンケミストリーの概念を学ぶ

【授業計画】 **1.** グリーンケミストリーとは **2.** グリーンケミストリーの 12 箇条について (3 回) **3.** 20 世紀の化学について (2 回) **4.** 20 世紀の工業化学について (2 回) **5.** 原子効率について (2 回) **6.** 反応の触媒化について (2 回) **7.** 反応系の無公害化について (2 回) **8.** 試験 **9.** 総括授業

【成績評価】 授業への取組と，期末試験により行う．

【再試験】 場合により行う．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220275

【連絡先】
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境生理学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
佐藤 征弥 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 我々は，ともすると他の生物を人間的視点 (あるいは高等動物的視点) から見てしまいがちである．しかし当然ではあるが，地球上のほとんどの生物同士の相互作用や生物と環境の相互作用は，人間とは無関係に進化してきたものであり，我々の想像を超えるような独自の精巧なシステムが構築されている．それらのメカニズムを理解した上で，人間が他の生物をどのように利用しているのか，それがどのような影響を与えるのか等，人間が他の生物といかに関わるべきかについて解説する．

【授業概要】 生物，環境，社会

【キーワード】 **光合成，物理環境，公害，解毒，環境適応，生物浄化法**

【到達目標】 前半の講義では，植物や動物の生理がどのように環境と関わっているかを理解し，後半の講義では種特有の機能を環境浄化に活かす方法を理解する．

【授業計画】 **1.** 地球全体における光合成の意味 **2.** 光合成のメカニズム **3.** 外部環境に対する認識メカニズム 1 : 感覚，知覚とは? **4.** 部環境に対する認識メカニズム 2 : 眼の構造と機能 **5.** 外部環境に対する認識メカニズム 3 : 視覚の進化 **6.** 外部環境に対する認識メカニズム 4 : 視覚以外の感覚について **7.** 熱と温度 1 : 熱とは何か．熱

の伝わりかた **8.** 熱と温度 2 : 低温に対する適応について **9.** 熱と温度 3 : 生物の体温調節メカニズムについて **10.** 重金属と生物 1 : 重金属の性質と解毒メカニズム **11.** 重金属と生物 2 : 水俣病について **12.** 重金属と生物 3 : イタイイタイ病について **13.** 重金属と生物 4 : その他の重金属の毒性について **14.** バイオレメディエーション (生物による環境浄化) とは **15.** バイオレメディエーションによる水質浄化 **16.** 総括授業

【成績評価】 数回の小テストにより評価する (ノート，資料の持ち込み禁止).

【再試験】 行わない.

【教科書】 講義の際に随時紹介する.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220364

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK.)

物質作用・影響評価

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
小山 保夫 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 化学物質によるヒトおよび環境・生態系への作用・影響評価について，環境毒性学観点から理解を深める.

【授業概要】 環境毒性学は，農薬など目的を持って使用された化学物質，あるいは産業プロセスで創り出された化学物質などがヒトや生態系 (環境) に与える有害作用 (影響) を調べる学問で，それをベースに環境影響評価の基礎を身に付ける.

【キーワード】環境

【先行科目】 『細胞情報学』(1.0, ⇒165 頁)

【履修上の注意】 基本の基本から講義するので，遅刻しないこと.

【授業計画】 **1.** 環境毒性学を構成する学問領域について **2.** 化学物質の種類 (法律的に) **3.** 化学物質の毒性作用の分類 **4.** 化学物質の毒性作用と量 (濃度) **5.** 化学物質の毒性作用の本質 (受容体作用) **6.** 化学物質の毒性作用の本質 (化学的・生化学的作用) **7.** 化学物質の毒性作用の本質 (物理的・物理化学的作用) **8.** 化学物質の吸収 **9.** 化学物質の分布 **10.** 化学物質の代謝・排泄・蓄積 **11.** 化学物質の急性曝露 **12.** 化学物質の慢性曝露 **13.** 化学物質の毒性作用に及ぼす生体側要因 **14.** 化学物質の個体 (臓器) 毒性 **15.** 化学物質の環境中 (野生生物中) 濃度 **16.** 総括

【成績評価】 学則に沿って評価.

【再試験】 なし.

【教科書】 資料プリント配布.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220276

【連絡先】
⇒ 何かあれば，メール(oyama@ias.tokushima-u.ac.jp)に問い合わせ.

活性物質生理学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中川 秀幸 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 生物が代謝・産生する物質の中には特徴的な生理活性を有するものがあり，生命現象の謎に迫るツールとして，また天然資源として有用である. 生物の体の基本的的な構成単位は細胞であり，細胞間の認識や情報伝達など，細胞間の相互作用の解析は生体の恒常性の維持において重要な課題である. 生命物質として多様な活性物質の産生経路やそれらの生体における作用様式を学び，理解することは生命活動の巧妙さを考える機会になる.

【授業概要】 生体の生命活動を支えている細胞，あるいは細胞が集合した組織や器官系の機能に影響を及ぼす生体物質や外部環境に由来する生理活性物質の特徴的な作用と，それらの産生プロセスを学ぶ. また，生体の恒常性維持について解説する.

【キーワード】細胞，神経伝達物質，ホルモン，炎症性サイトカイン，内分泌，傍分泌，生理活性物質，薬と毒，ホメオスタシス

【履修上の注意】 ファイルノートを用意し，配布の資料はファイルし，整理すること.

【到達目標】 生体で代謝・産生される物質あるいは天然物由来の物質の生体に対する特徴的な作用様式を学び，理解する. また，生体は環境の変化に対応し，生体物質を産生する一大製薬工場であることを理解させる.

【授業計画】 **1.** 細胞は生命の泉 **2.** 生物を形づくる化学物質 **3.** からだの中での情報のやりとり **4.** 生理活性物質 **5.** 内分泌と傍分泌 **6.** 神経伝達物質 **7.** 炎症 **8.** 生物がつくる毒 (1) **9.** 生物がつくる毒 (2) **10.** 海洋生物と毒 (1) **11.** 海洋生物と毒 (2) **12.** 薬の分子生物学 **13.** バイオ医薬品 **14.** からだの恒常性 **15.** プレゼンテーションと課題 **16.** 総括授業

【成績評価】 授業が進んだ段階で，プログレスレポートの提出とプレゼンテーションにおける質疑応答による総合評価.

【再試験】 再評価を行う.

【教科書】 特に指定はしない.

【参考書】 1) くすり (吉川弘之他著，東京大学出版会 2472 円), 2) 毒と薬の科学 (船山信次著，朝倉書店 3800 円), 3) 医薬 分子生物学 (野島 博著，南江堂 3880 円)

【WEB 頁】 http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2/index.htm

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220277

【連絡先】
⇒ 1号館中棟(環境共生コース:活性物質生理学研究室)
⇒ 随時

生態学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
山城 考 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 近年の分子生物学の発展に伴い，野生生物集団の生態学的，進化学的解析に遺伝的マーカーを用いた研究が行われるようになった. 本講義では，遺伝的情報を用いて，野生生物の生態学および進化学的研究がどのように行われているかについて解説を行い，野生生物の保全について関心を高めることを目的としている.

【授業概要】 遺伝的マーカーの種類，また，遺伝的マーカーを用いて，野生生物集団の生態，進化，地理的構造についてどのような情報が得られるのかについて解説を行う. また，保全遺伝学についても解説をおこなう.

【キーワード】分子生物学，遺伝子マーカー，生物地理学，分子系統学

【履修上の注意】 最初の講義の時に示します.

【到達目標】 遺伝子マーカーを用いた野生生物の生態学的解析にどのような手法があるのかを理解させ，生物の保全に対する関心を高める.

【授業計画】 **1.** 生態学における遺伝学 **2.** 遺伝様式と遺伝子マーカー **3.** 集団の遺伝的多様性 **4.** 遺伝子流動と遺伝的浮動 **5.** 集団間の遺伝的分化 **6.** 生物系統地理 1(大陸における種分化) **7.** 生物系統地理 2(海洋島における適応放散) **8.** 系統解析の手法 **9.** 倍数性のある種の進化 **10.** 種間交雑 **11.** 行動・繁殖への遺伝子マーカーの利用 **12.** 保全遺伝学 1 **13.** 保全遺伝学 2 **14.** 遺伝子組替え生物の生態系への影響 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 期末試験，出席および受講態度

【再試験】 なし.

【教科書】 プリントを配布します.

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220278

【連絡先】
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

天然物化学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中村 光裕 · 講師 / 総合理数学科

【授業目的】 天然物資源から合成される化合物について，その生合成経路と合成された化合物の機能について理解する.

【授業概要】 天然有機化合物の生合成，および機能

【キーワード】天然物化学，生合成，生物活性

【履修上の注意】 有機化学の基礎知識を修得していることが望ましい

【到達目標】 生物活性，生合成などについての基礎知識を修得する.

【授業計画】 **1.** はじめに **2.** 生合成経路の研究法 **3.** 酢酸—マロン酸経路 (1) **4.** 酢酸—マロン酸経路 (2) **5.** 酢酸—マロン酸経路 (3) **6.** シキミ酸経路 (1) **7.** シキミ酸経路 (2) **8.** メバロン酸経路 (1) **9.** メバロン酸経路 (2) **10.** メバロン酸経路 (3) **11.** その他の経路 (1) **12.** その他の経路 (2) **13.** その他の経路 (3) **14.** その他の経路 (4) **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 学期末テスト，レポート，受講態度

【再試験】 無

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220372

【連絡先】
⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 上記の授業計画は，予定であり変更することもある.

生物有機化学

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
増田 俊哉 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 重要な生体物質の有機化学を習得する.

【授業概要】 生物有機化学の基礎

【履修上の注意】 受講にあたって，有機化学 I および II を必ず履修済みであること (物質総合コースおよび環境共生コースの学生は履修可能です.). 履修していないために，理解できないことに関しての考慮はしません.

【到達目標】 有用な生体有機物質の構造，基本的な物理的，化学的性質が理解できること.

【授業計画】**1.** 生体物質における立体化学 **2.** 糖質の化学 (総論) **3.** 単糖の化学 I **4.** 単糖の化学 II **5.** オリゴ糖，多糖の化学 **6.** タンパク質の化学 (総論) **7.** アミノ酸の化学 I **8.** アミノ酸の化学 II **9.** ペプチドの化学 **10.** タンパク質の化学 **11.** 脂質の化学 I **12.** 脂質の化学 II **13.** 核酸の化学 I **14.** 核酸の化学 II **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】原則として期末テストの成績による．なお，各項目終了後中間試験を行い，その成績の総和で評価することもある．

【再試験】相談の上，再テストを行うこともある．

【教科書】ブルース有機化学概説第 2 版またはブルース有機化学 (下) 第 5 版を参考に用いる．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220371

【連絡先】
⇒ 増田 (2N01，088-656-7244，masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命環境情報学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
大橋 眞 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】環境問題を取り巻く諸問題がどのように関係しているのかについて，包括的な理解が出来るようにする共に，自ら問題意識を持って環境問題に対する背景を考察できる能力を身につける．また，議論を通じて国際的感覚とコミュニケーション力を身につける．

【授業概要】環境問題は，グローバル化の進展と共に世界共通の問題として捉えられるようになってきた．この背景には，CO2 問題のように，先進国と途上国の歴史的な背景を含むような国際政治の観点から捉える必要のある問題や，エネルギー効率の観点からのリサイクル問題など，物理的な見方を必要とする問題が複雑に関係している．この授業では，今日話題になっている環境問題に対する背景についての理解が出来るように，一つの環境問題を様々な要素に分けて考えると共に，それぞれの要素の相互の関係についての理解を深めていく．さらに，学祭的分野としての環境問題を考えていくための視点についての考察をする．

【キーワード】**環境，情報，グローバリゼーション，文明，エネルギー，地球温暖化**

【先行科目】『自然保護論』(1.0, ⇒163 頁)，『地域環境論』(1.0, ⇒175 頁)

【履修上の注意】地域の社会人が加わって議論をする授業が含まれます．

【到達目標】
1. 環境問題に関する課題を自ら発見して，考える能力を身につける
2. 課題を解決するための行動力について考える
3. 議論を通じて国際的感覚とコミュニケーション力を身につける

【授業計画】**1.** はじめに **2.** 環境問題とは何か **3.** 環境問題の背景 **4.** グローバル化社会 1 **5.** グローバル化社会 2 **6.** 視点を持つということ 1 **7.** 視点を持つということ 2 **8.** 進化型社会と価値観 1 **9.** 進化型社会と価値観 2 **10.** 進化型社会と価値観 3 **11.** 大量消費型社会とは何か 1 **12.** 大量消費型社会とは何か 2 **13.** 食料問題と環境 1 **14.** 食料問題と環境 2 **15.** まとめ **16.** レポート作成

【成績評価】 毎回の授業で，小レポートを課す．小テスト:小レポート (60%)，授業に関する課外活動への参加とこれに関する期末レポート (40%) で評価する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218752

【連絡先】
⇒ 大橋 (656-7261，ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

系統分類学

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
山城 考 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】維管束植物はシダ植物，裸子植物，種子植物からなり，様々な環境下に適応し生育しており，地球上の生態系において生産者としての主要な役割を担っている．本講義では，維管束植物の起源と多様性について，各植物群ごとの外部形態 · 内部形態の特徴とその機能および進化，栄養器官や繁殖器官の進化，系統関係について解説する．

【授業概要】維管束植物の分類および系統進化

【キーワード】**陸上植物，維管束，系統進化，分類，多様性**

【履修上の注意】最初の講義の時に示します．

【到達目標】 生物学を学ぶ基礎となる分類学の基本的な概念を習得させるとともに，各植物群の形態的特徴の多様性とその機能的役割を解説し，それらを知識として習得させる．

【授業計画】**1.** 陸上植物の起源 **2.** コケ植物の進化 **3.** シダ植物の進化 **4.** コケ植物とシダ植物の観察 **5.** 種子植物の進化 1(裸子植物) **6.** 種子植物の進化 2(被子植物) **7.** 被子植物の多様性 1(送粉様式) **8.** 被子植物の多様性 2(種子分散) **9.** 被子植物の多様性 3(植食性動物との相互関係) **10.** 単子葉植物の起源と多様性 **11.** 被子植物の観察 **12.** 野生植物の保全 **13.** 植物の分類必要性 **14.** 分岐分析 **15.** レポートの課題提示と作成上の注意 **16.** 総括授業

【成績評価】試験またはレポートにより成績評価を行います．

【再試験】なし

【教科書】プリントを配布します．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220279

【連絡先】
⇒ 山城 (088-656-7257，tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

細胞生理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
中川 秀幸 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】生体は約 60 兆個の細胞から構成されている．多細胞生物の細胞は，その容器に入っている膨大な情報をもとに生命活動を営んでいる．細胞の容器にあたる細胞膜は，細胞の内部環境と外部環境とのゆるやかなバリアーであり，特徴的な働きを担っている．この授業では，細胞の構造や機能を学び，その生命活動を守っている神経系，細胞間シグナル伝達の役割や内分泌系の働きなどから，細胞の集合体である生体の仕組みについて理解する．

【授業概要】細胞の生命活動を支える働きを神経系，細胞間の情報伝達，内分泌系および生体防御機構などから学び，生体の内部環境の仕組みと機能を理解する．

【キーワード】**細胞，細胞膜，分子，タンパク質，脂質，アミノ酸，情報伝達，外部環境，内部環境，生体**

【履修上の注意】ノートは必要，配布の資料はファイルすること．

【到達目標】 個々の細胞の多様な生命活動は生体の内部環境を一定に保つように働き，支えていることを理解する．

【授業計画】**1.** 細胞の多様性 **2.** 細胞の構造と機能 **3.** 生体の構造と機能 **4.** 細胞の中の分子 (1) **5.** 細胞の中の分子 (2) **6.** 細胞膜の構成と構造 **7.** 細胞膜の脂質 **8.** 細胞膜のタンパク質 **9.** 細胞膜での輸送 **10.** 内部環境を形成する体液 **11.** 神経系と情報伝達物質 **12.** 自律神経系による内部環境の調節 **13.** 内分泌系による内部環境の調節 **14.** 外部環境と生体防御機構 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】授業が進んだ前半の小テストと，出席状況および後半の期末試験との総合評価を行う．

【再試験】小テストと出席状況をチェックし，期末試験を行うので再評価はしない．

【教科書】わかる生物学:知っておきたいヒトのからだの基礎知識 (小野廣紀・内藤通孝著，化学同人，1800+税)

【参考書】参考書として，エッセンシャル細胞生物学 (南光堂:8000 円+税) を推薦する．

【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2/index.htm

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219994

【連絡先】
⇒ 中川 (3222，088-656-7259，sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

機能物質作用学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
横井川 久己男 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 多種多様な化学反応の組合せにより発現する生命現象において，酵素は生体触媒としてきわめて重要な役割を果たしている．本講義では，機能性タンパク質としての酵素と，酵素活性の発現に影響をおよぼす種々の生理活性物質の機能を解説する．

【授業概要】酵素の機能を分子レベルで理解する．

【キーワード】**酵素反応速度論，反応機構**

【先行科目】『生命科学の基礎』(1.0, ⇒93 頁)

【履修上の注意】授業で学んだことを，必ず復習すること．

【到達目標】種々の酵素の構造と機能を学び，それらの活性制御機構を分子レベルで理解する．

【授業計画】**1.** 酵素の歴史 **2.** 酵素の種類と分類 **3.** 酵素反応の速度論 **4.** 酵素反応の熱力学 **5.** 酵素阻害剤 1-拮抗阻害，非拮抗阻害，不拮抗阻害 **6.** 酵素阻害剤 2-特殊な阻害形式 **7.** 機能性物質の酵素的合成 **8.** 酵素活性の調節 1-転写レベルと翻訳レベルの調節 **9.** 酵素活性の調節 2-翻訳後の調節 **10.** 補酵素の構造と機能 1-酸化還元反応等 **11.** 補酵素の構造と機能 2-アミノ基転移反応等 **12.** 酵素反応の機構 1-反応機構からの解明 **13.** 酵素反応の機構 2-高次構造からの解明 **14.** 酵素の産業利用 **15.** 総括授業 **16.** 試験

【成績評価】 筆記試験 (50%)，授業に対する取り組み (50%) により評価する

【再試験】なし．

【教科書】新 · 入門酵素化学 改訂第 2 版 (南江堂)．

【参考書】毎回の講義でプリントを配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218538

【連絡先】
⇒ 横井川 (3221，088-656-7267，yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:20-17:50)

生体物質影響学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
金丸 芳 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】生命維持のために，我々は経口で栄養素を摂取することが不可欠です．すなわち，食物摂取が必須です．食物は生体物質であり，栄養素やその他の成分が多く含まれています．そして，生体の恒常性維持や生体防御や生体調節機能に関与する生体調節機能があります．そのため，健康寿命の延長 (疾病予防や健康維持や老化防止) を期待することも可能です．そこで，生体物質 (食物) の栄養や生体調節機能や正しい利用など，また，食べることと健康についても概説します．

【授業概要】生体の恒常性維持や健康維持 (生体防御・生体調節機能) を有する生体物質についての生命科学的知識

【キーワード】**生体物質，生体の恒常性，生体調節機能，健康維持**

【到達目標】生体物質の摂取と生体の恒常性について理解する．

【授業計画】**1.** 生命と栄養素　**2.** 生体の恒常性　**3.** 健康とは　**4.** 食習慣と健康　**5.** 糖質の機能　**6.** 脂質の機能　**7.** タンパク質の機能　**8.** ビタミンの機能　**9.** ミネラルの機能　**10.** 食物繊維の機能　**11.** 非栄養成分の機能　**12.** 生体調節機能　**13.** 酸素と生体　**14.** 疾病予防と生体物質　**15.** テスト　**16.** 総括

【成績評価】期末のテストを中心に，小テストと出席状況を加味して評価します．

【再試験】行いません

【教科書】プリントを適宜配布します

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220370

【連絡先】
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学実験 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

今井 昭二・教授/社会創生学科，増田 俊哉・教授/社会創生学科
三好 徳和・教授/総合理数学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科
山本 孝・准教授/社会創生学科，中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】環境共生実験 I で修得した知識，技能をもとに，環境共生化学分野で卒業研究を行うのに必要な実験技術や実験結果の解析能力を養う．

【授業概要】実験室での環境化学および生物資源化学に関する環境共生化学実験を行うとともに，野外実習も行い，実践的な学生実験である．

【到達目標】各実験項目についてその原理が理解でき，適切な実験操作により結果を得ることができること．さらに，得られたデータを解析，考察することができること．

【授業計画】**1.** 説明，安全教育　**2.** 生物有機化学実験 I (ペプチドの加水分解)　**3.** 生物有機化学実験 II (ペプチドの構造決定)　**4.** 天然物化学実験 I　**5.** 天然物化学実験 II　**6.** 環境分析化学実験 I　**7.** 環境分析化学実験 II　**8.** 無機・分析化学実験　**9.** 環境物理化学実験 I　**10.** 環境物理化学実験 II　**11.** 環境化学実験 I (水質汚濁評価:GC-MS, HPLC, 指標生物など)　**12.** 環境化学実験 II(水質汚濁評価:GC-MS, HPLC, 指標生物など)　**13.** 都市河川調査実習 (環境共生化学実験 I):徳島　**14.** 都市河川調査実習 (環境共生化学実験 II):徳島　**15.** 地域環境・資源化学実験 (野外実験実習:宿泊)　**16.** 地域環境・資源化学実験 (野外実験実習:宿泊)

【成績評価】各実験における実験への取り組み (出席を含む) およびレポートの内容を総合して評価する．

【再試験】レポートの再提出をもって，再試の代わりとする．

【教科書】各実験ごとにテキストが配布される．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220280

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03, 088-656-7250, miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学実験 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)

小山 保夫・教授/社会創生学科，横井川 久己男・教授/社会創生学科
中川 秀幸・教授/社会創生学科，金丸 芳・准教授/社会創生学科

【授業目的】環境共生コースの中で，環境資源科学関連の研究を行う為には，専門的知識とそれに伴う実験技術が必要である．そこで，タンパク質および細胞レベルにおける実験を行い，実験技術を習得し，洞察力を身につける．

【授業概要】タンパク質の分析，微生物の観察や酵素の作用，動物細胞の観察や細胞への影響を検討する実験を行い，まとめ，考察する．

【キーワード】**細胞，タンパク質，微生物**

【履修上の注意】実験には必ず出席し，自ら実験し，レポートを提出することが必須である．そのため，文献を調べるなどの勉強が必要である．

【到達目標】タンパク質・細胞 (微生物から動物細胞まで) を理解し，その実験技術を習得する．

【授業計画】**1.** オリエンテーション及び細胞標本の調製方法　**2.** 化学物資による細胞毒性の簡便な評価 1(形態観察)　**3.** 化学物質による細胞毒性の簡便な評価 2(増殖抑制)　**4.** 化学物質による細胞毒性の簡便な評価 3(統計処理)　**5.** タンパク質の分離精製 1　**6.** タンパク質の分離精製 2　**7.** タンパク質の電気泳動　**8.** パン酵母の発酵力測定　**9.** 保存料の静菌作用　**10.** 微生物酵素の誘導と抑制その 1　**11.** 微生物酵素の誘導と抑制その 2　**12.** 食品機能性を持つ成分の分離　**13.** 成分の生体への機能活性測定 (細胞増殖抑制)　**14.** 成分の機能活性評価　**15.** テスト　**16.** 総括

【成績評価】出席状況・実験への取り組み状況・レポート提出により総合評価する

【再試験】行わない 欠席者への再実験も実施しない

【教科書】テキストを配布する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220281

【連絡先】
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します．時間は有効に使います．)
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室の時はいつでも．)
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学実験 III

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

大橋 眞・教授/社会創生学科，佐藤 征弥・准教授/社会創生学科
浜野 龍夫・教授/社会創生学科，山本 孝・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220282

【連絡先】
⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)
⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学実験 III

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

佐藤 高則・准教授/社会創生学科，真壁 和裕・教授/社会創生学科
松尾 義則・教授/社会創生学科，渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】生命体の持つ生理的機能を解明するための基礎実験を通して，生体高分子を取り扱う実験手法の体得と，その実験技術の意味を理解することを目的とする．また，結果をまとめ，発表する方法についても十分に習熟する．

【授業概要】この実験では生物の遺伝情報を担う DNA，遺伝情報を写し取る RNA，機能分子であるタンパク質について，遺伝子工学・タンパク質化学のさまざまな実験を行い，これらの分子を解析するために必要な実験手技やその機構を理解する．また遺伝子情報処理をおこなうことにより，バイオインフォマティクスの基本を理解する．

【キーワード】**分子生物学，遺伝子工学，バイオインフォマティクス**

【先行科目】『生命科学基礎実験』(1.0)，『生命科学の基礎』(1.0)，『分子生物学』(1.0)，『生物化学』(1.0)

【関連科目】『発生学』(0.5)，『適応進化学』(0.5)

【履修上の注意】必ず出席して自分で行うことが大切であり，十分な内容のレポートを作成するために，文献等の調査をすることが重要である．

【到達目標】生命科学の基礎的知識を整理し，生命科学を扱うための実験技術を修得する．また DNA や RNA，タンパク質を扱った基本的な実験手技を学び，これら生体高分子の性状，構造，機能の基礎的理解をめざす．また，遺伝子情報や，実験データの取り扱いの基礎的知識を身につける．

【授業計画】**1.** イントロダクション 組換え DNA 講習会 (真壁)　**2.** 試薬の調製 (真壁)　**3.** TA クローニング，コンピテントセルの作製と形質転換 (真壁)　**4.** マスタープレートの作製とコロニー PCR (真壁)　**5.** プラスミド DNA の調製 (松尾)　**6.** プラスミド DNA のシークエンシング (松尾)　**7.** コンピューターを使った塩基配列データの解析 (松尾)　**8.** RNA の抽出と電気泳動 (渡部)　**9.** RT-PCR 法 (渡部)　**10.** 大腸菌でのタンパク質の発現と精製 (渡部)　**11.** タンパク質の SDS 電気泳動と染色 (渡部)　**12.** タンパク質解析法 1(佐藤)　**13.** タンパク質解析法 2(佐藤)　**14.** 酵素活性測定法 1(佐藤)　**15.** 酵素活性測定法 2(佐藤)　**16.** 総括授業

【成績評価】実験態度と，提出されたレポートによる．

【再試験】行わない．欠席者の再実験も行わない．

【教科書】テキストを配布する．

【参考書】
◇「超実践バイオ実験イラストレイテッド レッスン 1・2」秀潤社
◇「最適な実験を行うためのバイオ実験の原理」羊土社
◇参考書「バイオ実験イラストレイテッド 5」秀潤社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220283
【連絡先】
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい.)
⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,) (オフィスアワー: オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい.)
⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい.)
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー: 各教官の項を参照されたい.)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
大橋 眞 · 教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220284
【連絡先】
⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
小山 保夫 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】どのような卒業研究を進めるか．それを知るためには，どのような研究が行われているか，知ることが必須である．もし，すでに研究が行われていることを研究しても，それが論文として認められることは少ない．よって，卒業研究に取りかかる最初のステップとして，最近の論文を読んでみましょう．また，英語の力を付けて，レベルの高い大学院の入学試験に確実に合格できるようにします．
【授業概要】化学物質の作用影響評価論文の読解力を養成します．
【履修上の注意】英語は苦労しないと上手くならないから，気持ちが悪くなるくらい読むことです．とにかく，「修行」と思って頑張ることです．三時間くらいは連続して，英語を読み続ける忍耐力が必要です．
【到達目標】少なくとも何をしたら研究らしいものになるのか，論文が纏められるか，自分で考えることができる．
【授業計画】**1.** 論文を探そう．どうしたら，必要な論文を見つけることができるか． **2.** 論文の構成はどのようになっているのか． **3.** どのように英語の論文を読んでいくのか．科学英語 (自然科学) には特徴があります． **4.** 題目 (Title)，著者名 (Authors)，研究が実施された場所 (Address) の持っている意味を教えます．次に，抄録 (Abstract) の内容の最低条件について解説します． **5.** 緒言 (Introduction) から，この論文にどのような流れがあるのか，読み方を話します．緒言が立派でも研究内容はお粗末な論文もあります． **6.** 実験方法 (Methods and Materials) です．ここは結果 (Results) を読んでいく中で繰り返し見る可能性があります．どのような条件で実験が行われたのか，重要です． **7.** 結果 (Results) を読む時のポイントを解説します．なぜ，そのような実験を行って，何を明らかにしているのか．ここが重要です．結果から導き出されていることが，緒言で書かれていること沿っているか．全く関係がないことをしている可能性もあります．実験の構成をチェックしてみましょう． **8.** 結果に沿った考察 (Discussion) が行われているか，考えてみましょう．そして，示唆，推論あるいは結論はまともなのか，引用文献 (References) の内容まで含めて，話し合いましょう． **9.** 論文に何が不足しているか，批評しましょう．自分ならどうするか? ここを考えてみましょう． **10.** 論文を審査することを査読 (Review) と言います．論文の査読の仕方，ポイントを覚えましょう．ここまでの講義を振り返り，論文をどのように評価するのか，確認しましょう． **11.** 論文を査読者的に読んでみましょう (Toxicology). **12.** 論文を査読者的に読んでみましょう (Toxicology In Vitro). **13.** 論文を査読者的に読んでみましょう (Toxicology Letters). **14.** 雑誌の評価，論文の評価について，教えます． **15.** 総括
【成績評価】少なくとも何をしたら研究らしいものになるのか，論文が纏められるか，自分で考えることができる．それを口頭で説明できること．
【再試験】なし．
【教科書】なし．
【参考書】 エルセビア系毒性科学誌 (Toxicology，Toxicology Letters，Toxicology In Vitro)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220285
【連絡先】
⇒ 何かあれば，メール(oyama@ias.tokushima-u.ac.jp)に問い合わせる．

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
金丸 芳 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】卒論研究では，それに関連する論文・文献を数多く読み，研究の内容を構成していくので，外国語の論文を読む必要があります．そのため，英語の論文を読み，理解していく能力を身につける必要があります．そこで，英語の原著論文を検索入手し，読解する方法をトレーニングします．
【授業概要】外書購読
【キーワード】外書購読，文献，英語
【履修上の注意】出席し，与えられた課題を行う
【到達目標】自分の卒業研究に即した論文を的確に入手し，内容把握できる読解 力を身につける．
【授業計画】**1.** 生命科学に関連する短文を読み，英語の基礎力を養う． **2.** 生命科学関連の英語論文を基に，専門語句の説明，論文の構成の解説，内容の理解方法の解説などを行う． **3.** 論文を実際に購読し，論文の読解力をつける． **4.** 自分の卒業研究に即した論文を検索して入手する方法を体験する． **5.** 入手した論文を全訳した上で，要約し，論文の内容を把握する． **6.** 卒業論文への応用を考える．
【成績評価】与えられた課題を中心に，出席，態度などを加味して評価します
【再試験】行ないません
【教科書】英語の辞書を各自用意して下さい
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220286
【連絡先】
⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
佐藤 高則 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】生物化学の研究に必要な文献読解力，実験技術や解析，プレゼン能力を会得する．
【授業概要】上記の目的を達成するために，下記の内容を行う． ゼミナール，外書購読，雑誌会，研究会，基礎的な実験技術 (initial traning)
【先行科目】『生命科学の基礎』(1.0, ⇒93 頁)
【関連科目】『生化学』(0.5, ⇒164 頁)
【履修上の注意】環境共生コース必修科目です．
【到達目標】生物化学の研究に必要な知識や技術，能力を会得する．
【授業計画】**1.** 1. ゼミナール (生物化学の基礎講義) **2.** 2. 外書購読 (英文のテキストの読解，要約) **3.** 3. 雑誌会 (英文原著論文の読解，発表，討論) **4.** 4. 研究会 (研究発表と討論) **5.** 5. 基礎的な実験技術
【成績評価】出席と発表内容により評価する．
【再試験】無し
【教科書】
◇ Strayer [Biochemistry]
◇ ヴォート「基礎生化学」田宮ほか訳 (東京化学同人)
【参考書】随時配布
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220287
【連絡先】
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
佐藤 征弥 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】自然保護や環境の保全に関する文献を輪読する．知識を深めるとともに，プレゼンテーション能力を高めることを目的とする．
【授業概要】徳島県の自然保護に関わる行政文書や科学雑誌における自然保護に関わる解説などを輪読する．
【到達目標】文献の読解力と，それを他人に分かりやすく説明する能力を高める
【授業計画】**1.** オリエンテーション **2.** 科学雑誌『遺伝』から自然保護や卒業研究に関わる文献を輪読する．(8 回) **3.** 徳島県の環境行政に関する書類を輪読し，政策を理解し，提言する．(7 回)
【成績評価】出席状況，内容の理解度，発表態度などを総合して評価する．
【再試験】行わない．
【教科書】上記のテキストを使用．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220288
【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
中川 秀幸 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】基礎的な科学英語の読解力を高めるために物語り的なテキストを用いて授業を行う．授業の中では内容について意見を求め，討論を行う．後半では，海洋の環境に関するテーマの原著論文をもとに，レポートを作成する．
【授業概要】生命科学分野および環境分野に関すトッピックスの英文を読み，内容を理解させ意見を求める．
【キーワード】**生命科学，海洋，環境**
【履修上の注意】プログレスレポートの作成
【到達目標】生命科学及び環境分野の論文を読み，内容を理解してプレゼンテーション能力を身につける．
【授業計画】基礎的な科学英語からやや専門的な生命科学および海洋分野の論文をもとに討論し，レポートの作成とそのプレゼンテーションを行うを
【成績評価】プログレスレポートの提出とプレゼンテーションにより評価する．
【再試験】再評価は行う．
【教科書】特になし．
【参考書】適宜，配布する．
【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2/index.htm
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220289
【連絡先】
⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時.)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
浜野 龍夫 · 教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220290
【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
真壁 和裕 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】英語で書かれた原著論文を読める程度の英語読解力と基本的な知識を養うことを目的とする．
【授業概要】4 年次に卒業研究を行う際に必要な先行研究等に関する知識を得るためには，原著論文を正しく読み取る力をつけておくことが重要である．そのためのトレーングとして，英語で書かれた標準的な教科書などに沿って生命科学の基本的な知識を確かめながら，科学英語を講読する．
【キーワード】**科学英語，論文講読，プレゼンテーション**
【先行科目】『基礎英語講読 II』(1.0, ⇒16 頁)，『発生学』(1.0, ⇒164 頁)，『分子生物学』(1.0, ⇒164 頁)
【履修上の注意】予習してくることが最低限必要です．英語の文献を読みこなす力は，一生どこの世界でも必須です．3 年生のメインテーマのひとつとして正面から真摯に取り組みましょう．
【到達目標】原著論文を読めるようになる．
【授業計画】**1.** 原書講読 **2.** 原書講読 **3.** 原書講読 **4.** 原書講読 **5.** 原書講読 **6.** 原書講読 **7.** 原書講読 **8.** 原書講読 **9.** 原書講読 **10.** 原書講読 **11.** 原書講読 **12.** 原書講読 **13.** 原書講読 **14.** 原書講読 **15.** 原書講読 **16.** 原書講読
【成績評価】内容の理解度と発表の出来映えによる．
【再試験】無
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220291
【連絡先】
⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
松尾 義則 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】英文で書かれたテキストを理解しながら読むことで英語の専門用語に慣れることと専門書の読解力をつける．また，内容を理解することで進化に関する幅広い知識を得る．
【授業概要】英文テキストの輪読
【履修上の注意】研究室配属の学生向けセミナー
【到達目標】平易に書かれた進化に関する英文テキストを理解できるようになる
【授業計画】**1.** 1. (英) (日) 「Evolution」の PartII を理解しながら読む． **2.** 1 The origin of life. **3.** 2 The last universal common ancestor and the tree of life **4.** 3 Diversification of bacteria and archaea. I:Phylogeny and biology. **5.** Diversification of bacteria and archaea.II:Genetics and genomics. **6.** 5 The origin and diversification of eukaryotes. **7.** 6 Multicellularity and development. **8.** 7 Diversification of plants and animals. **9.** 8 Evolution of developmental programs.
【成績評価】日本語訳の発表で評価する．
【再試験】なし
【教科書】
◇ [Evolution]
◇ N.H. Barton et. al
◇ Cold Spring Harbor Laboratory Press
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220292
【連絡先】
⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもOK)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
山城 考 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】植物の分類学，進化系統学，繁殖生態学に関する最近の研究について理解する
【授業概要】植物の生態や進化に関する英文教科書の輪読
【授業計画】植物の生態や進化に関する英文教科書の輪読
【成績評価】毎回の予習結果による
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220293
【連絡先】
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
横井川 久己男 · 教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220294
【連絡先】
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
渡部 稔 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】英語で書かれた標準的なテキストを輪読し，科学英語に慣れることを第一の目的とする．
【授業概要】英語で書かれた標準的なテキストの輪読．
【キーワード】***DNA*，*RNA*，*protein*，*gene*，*biotechnology***
【先行科目】『分子生物学』(1.0)
【関連科目】『発生学』(0.5)
【履修上の注意】毎回，必ず予習をしてくること．
【到達目標】科学英語と学術用語に慣れ，書かれている内容を正しく理解する．またある程度の量の英文を読みこなせるようになる．
【授業計画】丸善「Molecular Biology of the Cell 」Alberts 他著の Chapter 8 他を輪読する．
【成績評価】毎回の授業への予習などを含む取組みの姿勢．
【再試験】無
【教科書】学期の初めにプリントを配付．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220295
【連絡先】
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】環境と共生するために必要な持続可能な社会を創生するために必要な化学的に理解する．
【授業概要】ゼミナール形式で専門書の購読や調査結果の発表を行う．
【到達目標】環境共生化学に関連した専門書を理解できるようになる．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 専門書の選定 **3.** 専門書の購読 **4.** 研究調査を行う **5.** 成果をまとめる．
【成績評価】出席と平常点
【再試験】場合により実施する
【教科書】適宜，選択してもらう．
【参考書】適宜，選択してもらう．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220296
【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前 · 後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
増田 俊哉 · 教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220297
【連絡先】
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】環境共生担当の化学系教員と内容を相談して行います．セミナー内容は直接問い合わせください．

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
山本 裕史 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】人間活動に伴い環境中に排出された様々な化学物質の水環境中での動態や水生生物への影響の評価・管理方法の基礎を文献詳読や討議を通じて学ぶ
【授業概要】参考文献の詳読や教員，大学院生等との討議や発表といった双方向のセミナー形式を通じて，人間活動に伴い環境中に排出された様々な環境汚染化学物質の分析方法，ならびにその水生生物に対する影響を評価する方法の現状と最新の動向について学ぶ．
【キーワード】**環境汚染物質，環境化学，水生生物，水質分析，水質評価**
【先行科目】『環境物質循環論』(1.0, ⇒162 頁)，『環境リスク論』(1.0, ⇒163 頁)，『環境共生学実験 I』(1.0, ⇒165 頁)，『化学基礎実験』(1.0, ⇒189 頁)
【関連科目】『環境マネジメント』(0.5, ⇒164 頁)，『環境機器分析化学』(0.5, ⇒166 頁)，『環境共生学セミナー II』(0.5, ⇒174 頁)
【到達目標】参考文献を要約し，環境汚染化学物質の水環境中動態や生態影響に関する現状を把握する
【授業計画】**1.** 文献の選定 **2.** 文献の読み方 **3.** 文献の要約方法 **4.** 発表・プレゼンテーションについて (大まかな流れ) **5.** 発表・プレゼンテーションについて (よい発表と悪い発表) **6.** 文献の詳読 (和文) **7.** 文献 (和文) の要約の発表 · 討議 **8.** 文献の詳読 (英文)1 回目 **9.** 文献 (英文) の要約の発表 · 討議 1 回目 **10.** 参考文献の検索方法について **11.** 文献の詳読 (英文)2 回目 **12.** 文献 (英文) の要約の発表 · 討議 2 回目 **13.** 文献の詳読 (英文)3 回目 **14.** 文献 (英文) の要約の発表 · 討議 3 回目 **15.** 全体のまとめ **16.** 総括
【成績評価】文献の要約資料およびその発表，セミナーへの参加状況を含めて総合的に判定する．
【再試験】なし
【教科書】適宜指示する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220298
【連絡先】
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
山本 孝 · 准教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220299
【連絡先】
⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー I

2 単位 (必修) 3 年 (前期)
中村 光裕 · 講師 / 総合理数学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220300
【連絡先】
⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】環境共生を目的とした持続発展可能な社会を創生するために必要な化学的内容を学ぶ．
【授業概要】環境共生セミナー I よりも専門的な内容をゼミナール形式で専門書の購読や発表を学ぶ．
【到達目標】専門書が理解でき，討論ができるようになる．
【授業計画】**1.** ガイアダンス **2.** 課題と目標の設定 **3.** 専門書の購読 **4.** 調査やまとめ **5.** 研究成果の発表
【成績評価】出席と平常点
【再試験】場合により実施する．
【教科書】適宜，選択する．
【参考書】適宜，選択する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220301
【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前 · 後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
大橋 眞 · 教授 / 社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220302
【連絡先】
⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
小山 保夫 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】どのような卒業研究を進めるか．それを知るためには，どのような研究が行われているか，知ることが必須である．もし，すでに研究が行われていることを研究しても，それが論文として認められることは少ない．よって，卒業研究に取りかかる最初のステップとして，最近の論文を書いてみましょう．また，英語の力を付けて，レベルの高い大学院の入学試験に確実に合格できるようにします．
【授業概要】化学物質の作用評価論文の作成力を養成します．
【先行科目】『環境共生学セミナー I』(1.0, ⇒170 頁)
【履修上の注意】英語は苦労しないと上手くならないから，気持ちが悪くなるくらい書くことです．とにかく，「修行」と思って頑張ることです．三時間くらいは連続して，英語を書き続ける忍耐力が必要です．
【到達目標】英語の論文を書いてみる．
【授業計画】**1.** 研究室から出した論文を読み，どのような実験データが必要かを考えます． **2.** これまでに得られた実験データに沿って，方法 (Methods and Materials) を書いてみよう． **3.** これまでに得られた実験データに沿って，結果 (Results) を書いてみよう．(1 回目) **4.** これまでに得られた実験データに沿って，結果 (Results) を書いてみよう．(2 回目) **5.** 結果から何が考察 (Discussion) できるかを考えよう．(1 回目) **6.** 結果から何が考察 (Discussion) できるかを考えよう．(2 回目) **7.** 結果に沿って，考察 (Discussion) を書いてみよう．(1 回目) **8.** 結果に沿って，考察 (Discussion) を書いてみよう．(2 回目) **9.** 引用文献 (References) を読みながら，研究の意義 (Implications) を考えてみよう．(1 回目) **10.** 引用文献 (References) を読みながら，研究の意義 (Implications) を考えてみよう．(2 回目) **11.** 引用文献 (References) を読みながら，研究の意義 (Implications) を考えてみよう．(3 回目) **12.** 研究の意義 (Implications) を考察 (Discussion) に書き加えよう．(1 回目) **13.** 研究の意義 (Implications) を考察 (Discussion) に書き加えよう．(2 回目) **14.** 本来，緒言 (Introduction) は最初に書く．しかし，ここでは論文全体を見通して，最後に緒言 (Introduction) を考えてみよう． **15.** 論文内容に沿って，緒言 (Introduction) を書いてみよう．(1 回目) **16.** 論文内容に沿って，緒言 (Introduction) を書いてみよう．(2 回目)
【成績評価】最低でも方法と結果は英語で書けることが必要．
【再試験】なし．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220303
【連絡先】
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06, oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します．時間は有効に使います．)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
金丸 芳 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】卒論研究では，研究の内容に関連する論文・文献と，研究結果を比較検討し，考察します．そのために，研究内容に関連する論文を検索し，熟読し，理解する必要があります．そこで，英語の原著論文を検索入手し，読解し，研究に結びつける方法をトレーニングします．
【キーワード】**論文講読**
【履修上の注意】出席し，与えられた課題を行う
【到達目標】卒業研究に関連した論文を的確に入手し，内容把握し，研究の検討に使う
【授業計画】**1.** 論文検索の方法 **2.** 卒業研究に関連する論文を検索して入手 **3.** 入手した論文を全訳・要約・内容把握 **4.** プレゼンテーション **5.** 研究結果との比較検討 **6.** 卒業研究論文に応用
【成績評価】与えられた課題を中心に，出席，態度などを加味して評価します
【再試験】行ないません
【教科書】英語の辞書を各自用意して下さい
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220304
【連絡先】

⇒ 金丸 (088-656-7268, kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】生物化学の研究に必要な文献読解力，実験技術や解析，プレゼン能力を会得する．
【授業概要】上記の目的を達成するために，下記の内容を行う． ゼミナール，外書購読，雑誌会，研究会，基礎的な実験技術 (initial traning)
【先行科目】『生命科学の基礎』(1.0, ⇒93 頁)
【関連科目】『生化学』(0.5, ⇒164 頁)
【履修上の注意】環境共生コース必修科目です．
【到達目標】生物化学の研究に必要な知識や技術，能力を会得する．
【授業計画】1. 1. ゼミナール (生物化学の基礎講義) **2.** 2. 外書購読 (英文のテキストの読解，要約) **3.** 3. 雑誌会 (英文原著論文の読解，発表，討論) **4.** 4. 研究会 (研究発表と討論) **5.** 5. 基礎的な実験技術 **6.** 6. 学会参加・討論 **7.** 7. 学内外プロジェクト参加
【成績評価】出席と発表内容により評価する．
【再試験】無し
【教科書】
◇ Strayer [Biochemistry]
◇ ヴォート「基礎生化学」田宮ほか訳 (東京化学同人)
【参考書】随時配布
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220305
【連絡先】
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】卒業研究に関わる分野の資料や論文や解説書を輪読する．知識を深めるとともに，プレゼンテーション能力を高めることを目的とする．
【授業概要】卒業研究に関わる分野の文献を輪読する．
【到達目標】専門知識を深め，文献の読解力とそれを他人に分かりやすく説明する能力を高める
【授業計画】1. オリエンテーション **2.** 農業，DNA 分析，天然記念物保護の歴史などに関する文献を輪読する.(11 回) **3.** 実験技術やその解析手法の習得.(4 回)
【成績評価】出席状況，内容の理解度，発表態度などを総合して評価する．
【再試験】行わない．
【教科書】適宜紹介する
【参考書】適宜紹介する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220306
【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7222, satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
中川 秀幸・教授/社会創生学科

【授業目的】海洋生物に由来する生理活性物質について学び，その多様性を理解する．
【授業概要】 海洋生物に由来する生理活性物質の特徴的な作用様式とその多様性について解説する．
【キーワード】海洋生物，生理活性物質，外部環境
【履修上の注意】ファイルノートを用意し，資料の整理を行うこと．
【到達目標】海洋生物に由来する物質の生体に及ぼす影響から，その応用の可能性を検討する．
【授業計画】海洋生物に関する論文をもとに，卒業研究にむけての方向性を討論する．
【成績評価】テーマに沿ったレポートの提出と討論での総合評価を行う．
【再試験】再評価を行う．
【教科書】レクチン第 2 版 歴史，構造，機能から応用まで (シュプリンガーフェアーラーク東京株式会社，6300 円+税)
【参考書】Toxicon
【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2/index.htm
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220307
【連絡先】
⇒ 中川 (3222, 088-656-7259, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時.)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220308
【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
真壁 和裕・教授/社会創生学科

【授業目的】 英語で書かれた原著論文を読める程度の英語読解力と基本的な知識を養うことを目的とする．
【授業概要】4 年次に卒業研究を行う際に必要な先行研究等に関する知識を得るためには，原著論文を正しく読み取る力をつけておくことが重要である．そのためのトレーングとして，英語で書かれた標準的な教科書などに沿って生命科学の基本的な知識を確かめながら，科学英語を講読する．
【キーワード】科学英語，論文講読，プレゼンテーション
【先行科目】『基礎英語講読 II』(1.0, ⇒16 頁)，『発生学』(1.0, ⇒164 頁)，『分子生物学』(1.0, ⇒164 頁)
【履修上の注意】 予習してくることが最低限必要です．英語の文献を読みこなす力は，一生どこの世界でも必須です．3 年生のメインテーマのひとつとして正面から真摯に取り組みましょう．
【到達目標】原著論文を読めるようになる．
【授業計画】1. 原書講読 **2.** 原書講読 **3.** 原書講読 **4.** 原書講読 **5.** 原書講読 **6.** 原書講読 **7.** 原書講読 **8.** 原書講読 **9.** 原書講読 **10.** 原書講読 **11.** 原書講読 **12.** 原書講読 **13.** 原書講読 **14.** 原書講読 **15.** 原書講読 **16.** 原書講読
【成績評価】内容の理解度と発表の出来映えによる．
【再試験】無
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220309
【連絡先】
⇒ 真壁 (N3220, 088-656-7269,)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220310
【連絡先】
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】内容は，環境共生担当の化学系教員と相談しますので，受講前に直接問い合わせください．

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
松尾 義則・教授/社会創生学科

【授業目的】 英文で書かれたテキストを理解しながら読むことで英語の専門用語に慣れることと専門書の読解力をつける．また，内容を理解することで進化に関する幅広い知識を得る．
【授業概要】) 英文テキストの輪読
【履修上の注意】研究室配属の学生向けセミナー
【到達目標】 平易に書かれた進化に関する英文テキストを理解できるようになる．
【授業計画】1. 「Evolution」の PartII を理解しながら読む． **2.** 1 The origin of life. **3.** 2 The last universal common ancestor and the tree of life **4.** 3 Diversification of bacteria and archaea. I:Phylogeny and biology. **5.** 4 Diversification of bacteria and archaea.II:Genetics and genomics. **6.** 5 The origin and diversification of eukaryotes. **7.** 6 Multicellularity and development. **8.** 7 Diversification of plants and animals. **9.** 8 Evolution of developmental programs.
【成績評価】日本語訳の発表で評価する．
【再試験】なし
【教科書】
◇ [Evolution]
◇ N.H. Barton et. al
◇ Cold Spring Harbor Laboratory Press
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220311
【連絡先】
⇒ 松尾 (適応進化学研究室, 656-7270, matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: いつでもOK)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
山本 孝・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220312
【連絡先】
⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
山本 裕史・准教授/社会創生学科

【授業目的】人間活動に伴い環境中に排出された様々な化学物質の水環境中での動態や水生生物への影響の評価・管理方法の基礎を文献詳読や討議を通じて学ぶ
【授業概要】参考文献の詳読や教員，大学院生等との討議や発表といった双方向のセミナー形式を通じて，人間活動に伴い環境中に排出された様々な環境汚染化学物質の分析方法，ならびにその水生生物に対する影響を評価する方法の現状と最新の動向について学ぶ
【キーワード】**環境汚染物質，環境化学，水生生物，水質分析，水質浄化，水環境評価**
【先行科目】『環境共生学セミナー I』(1.0, ⇒172 頁)
【到達目標】参考文献を要約し，環境汚染化学物質の水環境中動態や生態影響，リスク低減に関する現状を把握する
【授業計画】**1.** 参考文献の選定 **2.** 参考文献の詳読 (1) **3.** 参考文献のまとめ (1) **4.** 参考文献のまとめの発表 (1) **5.** 参考文献の詳読 (2) **6.** 参考文献のまとめ (2) **7.** 参考文献のまとめの発表 (2) **8.** 英語論文の選定 **9.** 英語論文の詳読 (1) **10.** 英語論文のまとめ (1) **11.** 英語論文ののまとめの発表 (1) **12.** 英語論文の詳読 (2) **13.** 英語論文のまとめ (2) **14.** 英語論文ののまとめの発表 (2) **15.** 全体のまとめ **16.** 総括
【成績評価】文献の要約資料およびその発表，セミナーへの参加状況を含めて総合的に判定する
【再試験】なし
【教科書】適宜指示する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220313
【連絡先】
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
山城 考・准教授/社会創生学科

【授業目的】植物の分類学，進化系統学，繁殖生態学に関する最近の研究について理解する
【授業概要】植物の生態や進化に関する英文教科書や学術論文の輪読
【授業計画】植物の生態や進化に関する英文教科書や学術論文の輪読
【成績評価】毎回の予習結果による．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220314
【連絡先】
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
横井川 久己男・教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220315
【連絡先】
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
渡部 稔・准教授/社会創生学科

【授業目的】英語で書かれたテキストを輪読することで科学英語に慣れ，科学論文を読みこなせるようになることを目的とする．
【授業概要】英語で書かれたテキストの輪読．
【キーワード】***DNA*，*RNA*，*protein*，*gene*，*biotechnology***
【先行科目】『分子生物学』(1.0)
【関連科目】『発生学』(0.5)
【履修上の注意】毎回，必ず予習をしてくること．
【到達目標】科学英語と学術用語に慣れ，書かれている内容を正しく理解する．科学論文を読みこなせるようになる．
【授業計画】丸善「Molecular Biology of the Cell 」等を輪読する．
【成績評価】毎回の授業への予習などを含む取組みの姿勢．
【再試験】無
【教科書】学期の初めにプリントを配付．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220316
【連絡先】
⇒ 渡部 (088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境共生学セミナー II

2 単位 (必修) 3 年 (後期)
中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220317
【連絡先】
⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

財政学 I
Public Finance1

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】財政の制度や現状を理解し，財政学の基礎的な理解を得る．
【授業概要】財政学 I と財政学 II を合わせて，財政学全般にわたる講義を行う．部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが，極力数式による説明を避け，グラフと言葉を多用して解説する．
【キーワード】**政府，予算，税，財政**
【関連科目】『財政学 II』(0.5)，『経済原論 I』(0.5)，『経済原論 II』(0.5)
【履修上の注意】通年での履修を推奨する．
【到達目標】1，財政の現状を理解する． 2，財政学の基礎的理解を得る．
【授業計画】**1.** 財政と財政学 **2.** 日本の財政制度 (1) 予算・決算・会計 **3.** 日本の財政制度 (2) 国家財政・地方財政 **4.** 日本の財政制度 (3) 政府間財政 **5.** 財政の 3 機能 (1) 資源配分機能 **6.** 財政の 3 機能 (2) 所得再分配機能 **7.** 財政の 3 機能 (3) 経済安定化機能 **8.** 財政と金融 **9.** 政府の捉え方 **10.** 租税の基礎 **11.** 日本の税制:国税・地方税 **12.** 税制の経済効果 **13.** 消費課税 **14.** 所得課税 **15.** 資産課税 **16.** 定期試験 (または，期末レポート)
【成績評価】授業への取組み (20%), 中間試験 (または中間レポート)(30%), 定期試験 (または期末レポート)(50%)
【再試験】無
【教科書】無
【参考書】講義中に配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218666
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

財政学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
石田 和之・准教授/社会創生学科

【授業目的】財政の制度や現状を理解し，財政学の基礎的な理解を得る
【授業概要】財政学 I と財政学 II を合わせて，財政学全般にわたる講義う行う．部分的にミクロ経済学やマクロ経済学の方法を用いるが，極力数式による説明を避け，グラフと言葉を多用して解説する．
【キーワード】**公債，社会保障，環境**
【先行科目】『財政学 I』(1.0, ⇒174 頁)
【到達目標】財政の現状を理解する
【授業計画】**1.** 公債 (1) 資金調達 **2.** 公債 (2) 債務残高 **3.** 公共事業:費用便益分析 **4.** 受益者負担論 **5.** 公共支出の理論 **6.** 公共選択論 **7.** 教育と財政 **8.** 環境と財政 **9.** 中間試験 **10.** 社会保障 (1) 年金財政 **11.** 社会保障 (2) 医療財政 **12.** 地方財政 (1) **13.** 地方財政 (2) **14.** 地方財政 (3) **15.** 定期試験 (または，期末レポート) **16.** 総括
【成績評価】授業への取組み (20%), 中間試験 (または中間レポート)(30%), 定期試験 (または期末レポート)(50%)
【再試験】なし
【教科書】なし
【参考書】講義中に配布する
【WEB 頁】http://www.geocities.jp/zaiseigakulab/zaiseigaku1.html/
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220367
【連絡先】
⇒ 石田 (2206, 0886567169, k-ishida@ias.tokushima-u.ac.jp)

福祉情報論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218969
【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

地域変容論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】「人」の移動は「文化」の移動でもあり，移植された社会組織や文化は新たな環境に適合する場合もあれば，大きく変質したり，消滅したりもする．そこで本授業では，おもに 18-19 世紀にヨーロッパから北アメリカに渡った農業移民をとりあげ，地理学的な視点から，フロンティア地域への移住・入植過程や開拓プロセスについて解説し，移民社会や移民文化の変容過程を考察することにしたい．

【授業概要】北米フロンティア:農業移民の移住と定着

【キーワード】**地理学，歴史地理学，フロンティア，移民，開拓村落**

【関連科目】『地理学の基礎 II』(0.5, ⇒118 頁)

【到達目標】フロンティアへの人口移動を通じて，地域形成・地域変化のメカニズムを理解する地理学的な能力を身に付ける．

【授業計画】**1.** フロンティア地域の特性 **2.** 北米フロンティアの西漸運動 **3.** フロンティアの歴史的意味 **4.** イギリス系植民者の入植地 **5.** フランス系植民者の入植地 **6.** スペイン系植民者の入植地 **7.** 初期開拓地における入植形態 **8.** 中西部の開発とタウンシップ **9.** タウンシップの土地区画 **10.** ソッドハウスと丸木小屋 **11.** 商業的穀物農業地帯の形成 **12.** 北米移民の出身地域 **13.** ヨーロッパの「周辺化」地域と移民の送出 **14.** 移住者の社会的特徴 **15.** 大量移住の形成 **16.** 授業のまとめ

【成績評価】本授業は講義形式で行うが，授業中に数回行う小テストや課題，出席状況，質疑応答といった授業への取り組み姿勢などにもとづく平常点での評価と，期末試験 (持ち込み不可) 結果による評価を併用して行う．

【再試験】なし

【教科書】
- ◇ 教科書は使用しないが，受講にあたっては下記の文献などにもあたっておくこと．
- ◇ R.A. ビリントン著/渡辺真治/訳『フロンティアの遺産』研究社出版，1971 年
- ◇ 渡辺真治『フロンティア』近藤出版社，1975 年
- ◇ 岡田泰男『フロンティアと開拓者-アメリカ西漸運動の研究-』東大出版会，1994 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218851

【連絡先】
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室 1号館南棟1階 火· 金曜日 12:00-13:00)

【備考】本年度は開講しない．平成 24 年度開講予定．

地域環境論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
古田 昇・非常勤講師/総合科学部，平井 松午・教授/社会創生学科

【授業目的】吉野川流域の豊かで多様な自然環境と人々との関わりを，他地域と比較しながら考えるとともに，自然災害の履歴や減災に向けたプランの検討を行う．

【授業概要】「吉野川流域の地形環境と自然災害」 河川がつくる地形・地形形成過程をもとに地形環境の多様性を述べる．

【キーワード】**地理学，河川環境，災害，吉野川**

【履修上の注意】この授業科目は，教員免許取得 (中学校・社会/高校・地歴) のための科目でもある．平成 22 年度は開講するが，平成 23 年度は開講しない可能性もあるため，受講に際しては注意を要す．

【到達目標】地形環境とその歴史的変化を理解し，将来の生活へ活かす．

【授業計画】**1.** 授業にあたってのガイダンス **2.** 吉野川を知っていますか? **3.** 四国，吉野川の地理的概要 **4.** 河川がつくる地形，河川により変化する地形 **5.** 吉野川中・上流部の山地と河川 **6.** 中・上流域の自然環境を活かした生活 **7.** 吉野川下流部の地形環境 **8.** 吉野川下流部における自然堤防の発達 **9.** 吉野川下流域における沖積平野の形成 **10.** 河川と海洋との接点 **11.** 自然災害はなぜなくならないのか **12.** 被災のレベルに地域差が生まれるのは? **13.** 木も大切，森もなお大切 **14.** 見えるもの，みえないもの **15.** レポート・試験 **16.** 授業のまとめ

【成績評価】講義内での小レポート，筆記試験，履修状況

【再試験】無

【教科書】教科書は使用しないが，必要に応じてプリントを配布する．参考図書については，随時紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218776

【連絡先】
⇒ 古田 . (オフィスアワー: 授業の前後の時間)
⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 23 年度は開講しない可能性あるので，注意のこと．

市民活動論

2 単位 (選択) 2 年 (前期，集中)
萩原 なつ子・教授，樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】日本における市民活動の歴史，特定非営利活動促進法 (NPO 法) の施行の背景，NPO の社会的役割について理解を深める．

【授業概要】NPO 法人数が 4 万を超え，地域社会の課題の解決に果たす NPO の役割が大きくなっている．ここでは NPO についての基礎知識および新しい公共の視点から，NPO と行政，企業との協働等について，具体的事例を通して学ぶ．

【キーワード】***NPO/NGO*，特定非営利活動促進法，協働，新しい公共**

【履修上の注意】とくになし．

【到達目標】NPO の基礎知識およびこれに関連する概念と実際を理解する

【授業計画】**1.** 1 イントロダクション **2.** 日本における市民活動の歴史 **3.** NPO の基礎知識 (1) **4.** NPO の基礎知識 (2) **5.** 特定非営利活動促進法について **6.** 市民社会と NPO **7.** 新しい公共と NPO **8.** NPO の活動分野 **9.** NPO のマネジメント **10.** NPO の活動事例 **11.** 他セクターとの協働いついて **12.** NPO と行政との協働 **13.** NPO と企業との協働 **14.** NPO で働くということ **15.** まとめ

【成績評価】出席点+レポート

【再試験】行わない．

【教科書】『知っておきたい NPO のこと 増補版』日本 NPO センター編集・発行 (事前に必ず購入しておくこと)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218693

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 集中講義期間中適宜．)
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

熱統計力学 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】熱力学は，熱現象と力学現象とが相互に関係する分野をエネルギーという共通の立場から見直し，エネルギーの流れが関係する全ての現象を理解する際の基礎となっている．また，物質の熱的性質が圧力，体積，温度などの少数のマクロな物理量によって表されることを学び，系がどのように外界と熱的エネルギーを交換し，仕事をするかを理解する．熱力学では少数の法則を公理として，これからエネルギー授受に伴う状態変化の際のマクロな物理量の間の多くの関係式が導かれ，マクロな世界の熱が関与する現象が理解できる．しかし，物質のミクロな構造にまで立ち入った場合，原子および分子の運動を古典力学によって記述していたのでは熱現象を完全には説明できず，古典的な現象論の限界を知る．講義では，まずマクロな現象論的熱力学を学び，次にミクロな観点から熱現象をとらえる気体分子運動論，統計力学序論と進み，統計力学への橋渡しをする．

【授業概要】熱力学と統計力学序論

【キーワード】**カルノーサイクル，熱力学第 *1* 法則，熱力学第 *2* 法則，熱力学的絶対温度，エントロピー増大則**

【先行科目】『物理科学の基礎』(1.0, ⇒187 頁)，『力学 I』(1.0, ⇒207 頁)

【関連科目】『力学 II』(0.5, ⇒211 頁)

【履修上の注意】「力学 I」などの 1，2 年時の物理系科目の既修を前提とする． ノートとレポート用紙を用意すること．

【到達目標】熱力学の法則により，マクロな世界の熱現象を理解する．

【授業計画】**1.** 導入:熱現象と熱力学 **2.** 温度，熱，仕事，エネルギー **3.** 理想気体，状態量と状態方程式 **4.** 熱の移動，熱伝導，冷却の法則 **5.** 熱力学第 1 法則，内部エネルギー **6.** 理想気体の等温過程と断熱過程 **7.** カルノーサイクル，熱機関の効率 **8.** 中間試験 **9.** 熱力学第 2 法則，不可逆過程 **10.** 熱力学温度，クラウジウスの不等式 **11.** エントロピー増大の法則 **12.** 熱力学関数と自由エネルギー **13.** 気体分子運動論，エネルギー等分配則 **14.** 速度の分布則 **15.** 学期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席状況，レポート，中間および期末試験の結果について，総合的に評価する．

【再試験】希望があれば行う．

【教科書】国友正和著「基礎熱力学」(共立出版)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218947

【連絡先】
⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~ 13時(これ以外に随時，教員室に居ればできるだけ対応します．))

無機化学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
今井 昭二・教授/社会創生学科

【授業目的】無機化学では周期表のすべての元素と，それらから成る膨大な数の化合物を対象とする．多様な無機化合物の構造や性質を理解する上で必要な，化学の基礎的事項や方法論を修得することを目的とする．

【授業概要】原子構造と周期表から初めて結合と構造，元素の一般的性質，s-ブロック元素，p-ブロック元素，d-ブロック元素や配位化合物などの無機化学の基本事項を学習する．

【キーワード】電子配置，化学結合，典型元素，遷移元素，配位化合物

【先行科目】『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)，『化学基礎実験』(1.0, ⇒189 頁)

【関連科目】『無機化学 II』(1.0, ⇒214 頁)，『物理化学 I』(1.0, ⇒176 頁)，『量子力学 I』(1.0)

【履修上の注意】予習を前提に講義を進めるので．事前に内容を調べて授業に臨んで下さい．遅刻をしないこと．

【到達目標】
1. 無機化学の基礎的な理論について理解している．
2. 基本的な無機化合物の性質について理解している

【授業計画】**1.** 原子構造と周期表　**2.** 結合と構造　**3.** 結合と構造　**4.** 元素の一般的性質・s-ブロック元素　**5.** s-ブロック元素　**6.** p-ブロック元素　**7.** p-ブロック元素　**8.** p-ブロック元素・中間試験　**9.** d-ブロック元素　**10.** d-ブロック元素　**11.** f-ブロック元素　**12.** 配位化合物　**13.** 配位化合物　**14.** 原子核・スペクトル　**15.** 試験　**16.** 総括

【成績評価】中間試験，定期試験，レポート等の結果に，出席状況などの平常点を加味して総合評価する．

【再試験】一定の基準を満たしている場合に行う．

【教科書】J. D. Lee 浜口 博，管野 等 訳「リー無機化学」東京化学同人

【参考書】
- シュライバー著「無機化学上・下」東京化学同人
- コットン・ウィルキンソン著「無機化学上・下」培風館
- 柴田村治編著 基礎化学選書「無機化学演習」裳華房

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219012

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

物理化学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
山本 孝・准教授/社会創生学科

【授業目的】化学反応熱，化学平衡，物理平衡，起電力等を熱力学をもとにして系統だてて理解すること，また反応速度を左右する因子について理解し，実際の物質変化が自由エネルギー変化と反応速度とに関係していることを理解してもらう．

【授業概要】熱力学と化学反応速度

【キーワード】化学反応熱，化学平衡，相平衡，溶液の物理化学的法則，化学反応速度

【先行科目】『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)

【到達目標】
1. 1) 標準生成エンタルピーから定圧と定積の化学反応熱を算出できるようにすること．
2. 2) 標準生成自由エネルギーから平衡定数を算出できるようにすること．
3. 3) 溶液についての諸法則，電極電位，膜電位を熱力学的に理解すること．
4. 4) 化学反応速度を左右する諸因子について理解すること．

【授業計画】**1.** 1.SI 単位系，理想気体の諸法則について講義する．　**2.** 2. 分子の運動，熱エネルギーおよび温度の関係について講義する．　**3.** 3. 化学物質がもつエネルギーについて講義する．　**4.** 4. 物理化学的変化による内部エネルギーとエンタルピー変化について説明する．　**5.** 5. 標準生成エンタルピーと化学反応熱および結合エネルギーについて講義する．　**6.** 6. 物理化学的変化とエントロピーおよびギブスの自由エネルギー変化との関係を説明する．　**7.** 7. 気体の圧力と自由エネルギーの関係，気体反応の平衡定数との関係について講義する．　**8.** 8. 標準生成自由エネルギーとそれを使っての平衡定数の求め方について述べる．　**9.** 9. 中間試験をする．　**10.** 10. 物理平衡について述べ，溶液の自由エネルギーと濃度の関係について講義する．　**11.** 11.1 成分，2 成分，3 成分系の相律について講義する．　**12.** 12. 気体，溶液，固体の活動度と自由エネルギーとの関係を導く．　**13.** 13. 一般の化学平衡，膜平衡について講義する．　**14.** 14. 化学反応反応速度と温度，濃度，触媒との関係をのべる．　**15.** 15. 複合反応，連鎖反応，酵素反応，遷移状態理論についてふれる．　**16.** 期末試験をする．

【成績評価】試験の結果，出席状況などでにより総合的に評価する．

【再試験】実施する．

【教科書】アトキンス 物理化学 (上) 生協で販売します．

【参考書】物理学とは何だろうか

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218980

【連絡先】
⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

有機化学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】有機化合物の構造，性質，反応などを学ぶ上で必要な基礎知識を習得する．

【授業概要】有機化学の基礎

【キーワード】化学，有機化学

【先行科目】『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)，『化学基礎実験』(1.0, ⇒189 頁)

【関連科目】『有機化学 II』(0.5, ⇒214 頁)

【履修上の注意】基礎化学の知識を修得していることが望ましい

【到達目標】化学構造式に慣れ，有機化学の基礎概念を理解する．

【授業計画】**1.** はじめに　**2.** 電子構造と共有結合 (1)　**3.** 電子構造と共有結合 (2)　**4.** 酸と塩基 (1)　**5.** 酸と塩基 (2)　**6.** 有機化合物の基礎 (1)　**7.** 有機化合物の基礎 (2)　**8.** アルケン (1)　**9.** アルケン (2)　**10.** アルケンおよびアルキンの反応 (1)　**11.** アルケンおよびアルキンの反応 (2)　**12.** 異性体と立体化学 (1)　**13.** 異性体と立体化学 (2)　**14.** 異性体と立体化学 (3)　**15.** 期末試験　**16.** 総括授業

【成績評価】学期末テスト，授業内での小テスト，受講態度

【再試験】基本的には実施しない

【教科書】ブルース 有機化学概説 第 2 版 (大船康史・香月昜・西郷和彦・富岡清 監訳，化学同人)

【参考書】ブルース 有機化学 第 5 版 (上)(大船康史・香月昜・西郷和彦・富岡清 監訳，化学同人)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219017

【連絡先】
⇒ 中村 (2N02, 088-656-7246, mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】上記の授業計画は，予定であり変更することもある．

物質構造解析学

2 単位 (選択) 3 年 (前期, 集中)
森 寛志・非常勤講師/愛媛大学大学院理工学研究科

【授業目的】地球を構成する物質 (造岩鉱物) の分類，化学組成，結晶構造，物性などを理解するための基礎的な事項を学ぶ．

【授業概要】造岩鉱物の化学組成と結晶構造，鉱物結晶の外形と構造の対称性，EPMA を用いた鉱物の化学分析法，X 線回折法を用いた結晶鉱物の解析法などについて学ぶ．

【キーワード】造岩鉱物，結晶，対称性，結晶構造，*X* 線回折，化学組成

【履修上の注意】集中講義として実施されます． 受講のために特別な知識やスキルは必要ありません．授業内容のパワーポイントファイルを印刷した資料を事前に配布するのでよく目を通しておくこと．

【到達目標】
1. 造岩鉱物の分類について説明することができる．
2. 鉱物の外形や結晶構造の対称性について考えることができる．
3. 鉱物の化学組成とその決定法について説明することができる．
4. X 線回折法による結晶構造の決定について説明することができる．

【授業計画】**1.** 授業のガイダンス　**2.** 鉱物の組成と構造　**3.** 造岩鉱物の分類　**4.** ケイ酸塩鉱物　**5.** 結晶の外形と面指数，点群　**6.** 結晶構造の対称性　**7.** 結晶格子と空間群　**8.** X 線の発生と検出　**9.** 結晶による X 線の回折　**10.** 粉末 X 線回折法　**11.** EPMA による鉱物の化学分析　**12.** 結晶結合 (イオン結合と共有結合)　**13.** 結晶の弾性的性質　**14.** 結晶の塑性変形　**15.** 授業のまとめ

【成績評価】授業中に数回の小テストを行い，成績を評価する．

【再試験】原則として行わない．

【教科書】教科書は用いない．参考資料として授業で使用するパワーポイントファイルを印刷した資料を配布する．

【参考書】
- 都城秋穂・久城育夫著，「岩石学 I 偏光顕微鏡と造岩鉱物」，共立出版 (1972)
- Charles Kittel 著，宇野良清他訳，「固体物理学入門 (上)」，丸善 (2005)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220377

【連絡先】
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

地球表層構造形成論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
村田 明広・教授/総合理数学科

【授業目的】地球科学分野のうち，構造地質学に関する授業を行う．衝上断層，正断層，横ずれ断層は形成場が異なり，それぞれ特徴的な地質構造を作る．このような地質構造を把握しそれが形成された地質環境について知る方法を学ぶ．

【授業概要】地質構造の形成

【キーワード】地質構造，断層，活断層，地震，デュープレックス，メランジュ，衝上断層，横ずれ断層

【先行科目】『地球物質科学』(1.0, ⇒209 頁)

【到達目標】衝上断層，正断層，横ずれ断層それぞれを特徴とする地質構造を，理解し説明することができるようになる．

【授業計画】**1.** バランス断面図とデュープレックス **2.** 内ノ八重，鳴門のデュープレックス **3.** メランジュ **4.** 四万十帯のメランジュとナップ **5.** 伸張テクトニクスとインバージョンテクトニクス **6.** 横ずれテクトニクスと横ずれ堆積盆 **7.** 左横ずれ上韮生川断層の変位量変化 **8.** 石油と地質構造 **9.** リモートセンシングの基礎 (LANDSAT, SPOT などの衛星画像) **10.** シルクロードの現地調査 **11.** 南海地震の再来 **12.** 徳島県下の中央構造線活断層系 **13.** 中越沖地震と活断層 **14.** 歪解析の手法 (左右対称軸を用いた歪解析法，フライ法) **15.** 地質図の読み方 **16.** 期末試験

【成績評価】数回実施する小テストと，期末試験で評価を行う．

【再試験】行う

【教科書】狩野謙一 · 村田明広，「構造地質学」，朝倉書店，1998 年

【参考書】
- ◇ 狩野謙一 · 村田明広，「構造地質学 CD-ROM カラー写真集」，朝倉書店，2000 年
- ◇ R. G. Park, ”Foundations of Structural Geology”, 3rd Ed., Chapman & Hall, 1997

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218861

【連絡先】
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

地球表層環境論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
石田 啓祐 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】堆積物や古生物の研究が地史的な地球表層環境の解析に果たす役割は大きい．プレート収束域に位置するわが国には，浅海から深海域で形成された中 · 古生代の各種堆積岩類が広く分布しており，堆積岩類の年代決定や堆積環境の解析には，大型化石とともに，微化石が有効である．本論では，古生物を用いた研究例を中心に，西南日本の中 · 古生界層序，ならびに堆積相 · 古海域環境の解析を中心に講義する．

【授業概要】生層序地史，付加体 · 関連堆積相と古海域環境，西南日本の中 · 古生界層序と古生物概論．

【キーワード】**堆積岩，付加体，海洋プレート層序，微化石**

【先行科目】『地球物質科学』(1.0, ⇒209 頁)

【到達目標】海洋プレート層序やメランジュの構成と形成過程，微化石による年代や堆積環境の解析手法，付加体関連堆積相の概要が説明できる．

【授業計画】**1.** 第 1 回:砕屑性堆積物:砂岩の組成による分類と熟成 **2.** 第 2 回:礫岩の構成とファブリック **3.** 第 3 回:非砕屑性堆積物:石灰岩の構成と分類 **4.** 第 4 回:非砕屑性堆積物:遠洋性堆積物とチャート **5.** 第 5 回:年代 · 環境指標としての微化石:紡錘虫 **6.** 第 6 回:年代 · 環境指標としての微化石:コノドント **7.** 第 7 回:年代 · 環境指標としての微化石:放散虫 **8.** 第 8 回:プレート運動と付加体の海洋プレート層序 **9.** 第 9 回:メランジュとオリストストローム **10.** 第 10 回:西南日本の堆積相:概説，和泉層群 **11.** 第 11 回:ジュラ紀付加体:美濃-丹波帯，秩父北帯，秩父南帯と前弧海盆堆積相 **12.** 第 12 回:内帯・外帯のペルム紀付加体と中生代被覆堆積相 **13.** 第 13 回:ペルム紀付加体と中生代被覆堆積相 **14.** 第 14 回:四万十累帯の白亜紀・第三紀付加体 **15.** 第 15 回:三波川・御荷鉾帯と原岩 **16.** 第 16 回:アジアの関連地質

【成績評価】講義への取り組み姿勢と，課題のレポート，期末試験を総合的に判断して評価します．

【再試験】積極的な取り組み姿勢が見られた学生に対しては行う場合があります．

【教科書】
- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版，2004 年．
- ◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「層序と年代」共立出版，2006 年
- ◇ 平 朝彦著，日本列島の誕生，岩波新書 148，1990 年

【参考書】日本の地質編集委員会編，日本の地質「増補版」，共立出版，2005 年．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218858

【連絡先】
⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地球環境科学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
西山 賢一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】地球上で第四紀に生じた種々の環境変動の特徴を理解し，過去の環境変化に基づいた将来予測について考える．

【授業概要】地球史の中で最新の第四紀を対象とし，第四紀に生じた種々の環境変動 (気候変動，海水准変動) と地形形成過程 (山地・平野の形成プロセス) についての講義を行う． また，将来の気候変動・地震・火山噴火予知など，第四紀学に基づいた将来予測について考える．

【キーワード】**第四紀，環境変動，地形形成過程**

【先行科目】『地球科学の基礎』(1.0)

【到達目標】第四紀の環境変動，ならびに平野と山地の地形形成過程を理解するとともに，第四紀学に基づいた将来予測について学ぶ (西山)

【授業計画】**1.** 第四紀学の概要と将来予測 **2.** 年代測定法 **3.** テフロクロノロジー (火山灰編年) **4.** 火山噴火予知 **5.** 火山噴火が地形・気候に及ぼす影響 **6.** 気象学入門 **7.** 異常気象と地球温暖化予測 **8.** 気候変動の特徴 **9.** 海水準変動 **10.** 地震予知 **11.** 土壌の特徴と砂漠化 **12.** 日本の平野の形成プロセス **13.** 日本の山地の形成プロセス **14.** 土地利用を考える **15.** 試験 **16.** 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況と期末試験またはレポートを総合的に判断して行う

【再試験】原則として行わない

【教科書】指定しない．参考書は，「地球史が語る近未来の環境」(東大出版会)，「百年・千年・万年後の日本の自然と人類」(古今書院)，「地表環境の地学」(東海大出版会)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218857

【連絡先】
⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

生態系の保全
Ecosystem Conservation

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
鎌田 磨人 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】健全な社会基盤を整備する上で，生態系を保全することがなぜ重要なのか，およびそれをどのような考えのもとで行っていくのかについて，基礎的な概念を身につける．

【授業概要】生態系と人間の社会との関係をとらえながら，社会の発展によってもたらされた生物の多様性や生態系の危機的状況について解説する．そして，それらの問題の解決し，持続可能な社会を構築するにあたって技術者が果たしていくべき責任について考える．

【キーワード】**生態系の価値，生態系保全，自然再生，ビオトープ**

【先行科目】『環境を考える』(0.5, ⇒180 頁)

【関連科目】『環境生態学』(0.5)，『緑のデザイン』(0.5, ⇒179 頁)，『生態系修復論』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】関連授業科目として，「環境生態学」，「緑のデザイン」，「生態系修復論」の受講を推奨する．

【到達目標】持続可能な社会の創造を担う技術者を目指す者として，従来型の社会発展の論理によってもたらされた生態系や生物の多様性の危機的現状を認識し，健全な生態系を保全 · 修復していくことの必要性を自覚している．

【授業計画】**1.** ガイダンス:持続可能な社会 / (1) 土木技術者の役割—持続可能な社会，(2) 法的背景—生物多様性国家戦略等 **2.** 「環境」と「主体」 / (1) 環境とは，(2) 生物多様性とは，(3) 生態系とは **3.** 生物の多様性と連続性 / (1) 地球上の生物種，(2) 生物の分類と歴史，(3) 何を守るべきか **4.** 生態系の構造と機能 1 / (1) 生態系の定義，(2) 生態系の構造，(3) 物質循環 **5.** 生態系の構造と機能 2 / (1) 生態系サービス (公益的機能)，(2) 生態系の安定性と生物多様性 **6.** 生態系の破壊と生物多様性の減少 1 / (1) レッドデータブック，(2) 植物の現状，(3) 絶滅要因 **7.** 絶滅のプロセス 1 / (1) 種の存続単位としての「個体群」，(2) 個体群の維持と生活史 **8.** 絶滅のプロセス 2 / (1) 個体群の成長 **9.** 絶滅のプロセス 3 / (1) 個体群の衰退，(2) 個体群の衰退要因 **10.** 生態系の分布と変化 / (1) 徳島県の森林分布，(2) 遷移 **11.** 撹乱と生物多様性の維持 / (1) 撹乱，(2) 撹乱と森林生態系，(3) 撹乱と河川生態系 **12.** 生態系の再生 / (1) 復元，修復，創出，保全，(2) 再生目標 **13.** 生態系の管理 1 / (1) 生態系管理とは，(2) 生態系管理に要求される要素 **14.** 生態系の管理 2 / (1) 順応的管理，(2) 合意形成 **15.** 期末試験 **16.** 試験の解説とふりかえり

【成績評価】到達目標の達成度は期末試験の評点により評価し，評点が 60%以上を当目標のクリア条件とする．

【対象学生】他学科，他学部学生も履修可能

【教科書】鷲谷いづみ「生物保全の生態学」共立出版

【参考書】
- ◇ 鷲谷いづみ · 矢原徹一「保全生態学入門」文一総合出版
- ◇ プリマック，R.B.· 小堀洋美「保全生物学のすすめ」文一総合出版
- ◇ Pullin S (井田秀行ら訳) 「保全生物学，生物多様性のための科学と実践」丸善

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0042

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216052

【連絡先】
⇒ 鎌田 (A306, 088-656-9134, kamada@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること．)

【備考】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

都市 · 交通計画
Urban & Transport Planning

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

山中 英生 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
近藤 光男 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】都市計画の歴史，内容，手法，理論，交通計画の技法，理論，制度について講義し，都市および交通の計画に関する基礎的な知識を身につける．

【授業概要】都市計画における土地利用計画，市街地整備，住環境整備，施設整備，地区計画に関する我が国の法制度，事業制度を整理して講述する．また，交通計画に関しては，需要分析のための基礎的な手法の理解，道路交通に関わる現象分析の手法，公共交通，結節点，交通管理計画，地区交通計画の手法と事例を学ぶ．

【キーワード】**都市計画，交通工学，道路工学**

【先行科目】『計画の数理』(1.0)

【関連科目】『計画プロジェクト評価』(0.5)，『合意形成技法』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】なし

【到達目標】
1. 都市計画に関する基礎的な知識を修得する．(1~ 7 回)
2. 交通計画に関する基礎的な知識を修得する．(8~ 15 回)

【授業計画】**1.** 都市計画の歴史 **2.** 都市計画のためのマクロ分析 小テスト **3.** 土地利用計画 **4.** 市街地整備事業 **5.** 都市施設計画 **6.** 地区計画 **7.** 地区計画 **8.** 交通計画の概要 **9.** 交通需要分析 1 **10.** 交通需要分析 2 小テスト **11.** 道路交通システム 小テスト **12.** 公共交通計画 小テスト **13.** 交通需要管理 ITS **14.** 地区交通計画 歩行者・自転車交通 **15.** テスト (交通計画) **16.** テスト返却と総括授業

【成績評価】到達目標の 2 項目が達成されているかをレポート，小テストの評価 (30%) 期末試験 (70%) で評価し 60%以上を各項目の達成クリアとして，2 項目すべてを達成したものを合格とする．成績は目標 1(50%)，目標 2(50%) として算出する．

【対象学生】他学科，他学部学生も履修可能

【教科書】加藤晃:都市計画概論第 4 版，共立出版

【参考書】塚口博司，塚本直幸，日野泰雄:交通システム，国民科学社

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0045

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216232

【連絡先】
⇒ 山中(A410，088-656-7350，yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 近藤(エコ602，088-656-7339，kondo@eco.tokushima-u.ac.jp)

資源循環工学
Resources Circulatory Engineering

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

山中 亮一 · 講師 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
上月 康則 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】都市と自然環境を循環する水の質と量を制御する自然および人工的な施設の役割と仕組みに関する知識を得る．また，自ら環境に配慮した生活を考え，行動する．

【授業概要】都市と自然環境を循環する水の量的・質的な変化を把握するための方法，および人工的な浄化施設の役割としくみを学ぶ．また，水資源を利用する際の利便性と環境への影響について考え，自ら環境に配慮した生活を実践し，その効果を検証する．

【キーワード】**水環境，水質，上水道，下水道，生態系，環境家計簿**

【先行科目】『環境を考える』(1.0，⇒180 頁)，『生態系の保全』(1.0，⇒177 頁)

【関連科目】『環境計画学』(0.5)，『環境を考える』(0.5，⇒180 頁)

【受講要件】なし

【履修上の注意】なし

【到達目標】
1. 都市と自然環境を循環する水の質と量を制御する自然および人工的な施設の役割と仕組みを説明することができる (授業計画 2-13 回，15-16 回)
2. 自ら環境に配慮した生活を考え，行動し，環境家計簿を用いて評価する．(授業計画 1,14 回，レポート)

【授業計画】**1.** ガイダンス，グループ学習の課題について **2.** 水質の評価項目 (1):溶存酸素，pH(復習レポート 1) **3.** 水質の評価項目:有機物 (2)(復習レポート 2) **4.** 水質の評価項目 (3):にごり (復習レポート 3) **5.** 水質の評価項目 (4):窒素，リン (復習レポート 4) **6.** 水質の評価項目 (5):富栄養化 (復習レポート 5) **7.** グループ学習中間報告会 (復習レポート 6) **8.** テスト 1(復習レポート 7) **9.** 下水道 (1):役割，構成 (復習レポート 8) **10.** 下水道 (2):浄化方法 (復習レポート 9) **11.** 上水道 (1):法律，構成 (復習レポート 10) **12.** 上水道 (2):浄水方法 (復習レポート 11) **13.** 最新のトピックの紹介 (復習レポート 12) **14.** グループ学習課題発表会 (復習レポート 13) **15.** テスト 2(復習レポート 14) **16.** テストの解説，総括

【成績評価】目標①:テスト 1 と 2(50 点)，目標②:環境家計簿 (50 点) 評価:目標①と②が 6 割以上で合格，かつ目標①と②の合計点を本科目の評点とする

【対象学生】他学科，他学部学生も履修可能．

【教科書】新版 環境工学 (住友恒ら，理工図書)

【参考書】環境白書

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0046

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=215949

【連絡先】
⇒ 山中 (総合研究実験棟 (エコ棟)504 号室，088-656-7334，yamanaka@eco.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日，14:35-17:50)

【備考】◇ 使用した資料などは適宜 u-Learning に掲載する ◇ 止む無く欠席する場合は，事前に山中教員まで必ず連絡すること． ◇ 授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と 単位取得のために必要である．

地域・環境デザイン

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

真田 純子 · 助教 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】本講義の目的は，都市環境や地域空間のデザインを行うための基礎的な考え方について概説し，具体的なコースワークを通じて景観デザインにおける基礎的な考え方，手法を学ぶことである．

【授業概要】景観デザインの基礎知識，設計手法について説明し，風景体験や地域環境デザインの作業と発表を行う．

【キーワード】**景観工学，土木構造物**

【先行科目】『環境を考える』(1.0，⇒180 頁)，『景観工学概論』(1.0)

【関連科目】『参加型環境デザイン』(0.5)，『都市 · 交通計画』(0.5，⇒178 頁)

【履修上の注意】授業における体験が重要なので，出席は欠かせないこと．

【到達目標】景観デザインの基礎知識とデザイン技法を理解する．

【授業計画】**1.** ガイダンス，景観デザインとは **2.** 都市景観論 **3.** ながめの成り立ち **4.** 都市景観に関するレポート発表会 **5.** 地域環境と景観① 自然環境と景観 **6.** 地域環境と景観② 社会環境と景観 **7.** 自然物と人工物 **8.** 公園のデザイン **9.** 風景の表現方法 **10.** コースワーク **11.** 公園に関するレポート発表会① **12.** 公園に関するレポート発表会② **13.** 景観デザインの現場① 道路・橋 **14.** 景観デザインの現場② 港・公園 **15.** 景観デザインの現場③ 街並み

【成績評価】出欠状況とレポートの成績で評価し，60 点以上を合格とする．ただし，レポートが一つでもかけている場合は不合格とする．

【教科書】景観用語辞典 彰国社 1998 年 景観デザイン研究会著,篠原修編

【参考書】
◇ 風景学入門 中公新書 1982 年 中村良夫著
◇ 景観の構造 技報堂出版 1975 年 樋口忠彦著

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0047

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218775

【連絡先】
⇒ 真田 (建設棟 A411，088-656-7578，sanajun@ce.tokushima-u.ac.jp)

【備考】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

地域の防災
Regional Disaster Prevention Planning

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

中野 晋 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
蒋 景彩 · 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
田村 隆雄 · 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部

【授業目的】各種の自然災害の防御 · 軽減と災害時の危機管理に向けた地域防災計画の合理化に必要な基礎知識を習得させる．

【授業概要】学期前半は，①地震，②地盤，③土石流 · 泥流，④洪水 · 内水氾濫，⑤津波 · 高潮の災害について，過去の災害事例を踏まえながらそれぞれの特性や発生機構を解説するとともに，防災対策の基本事項を解説する．学期後半は，地域防災計画の沿革と現状を述べたあと，実効性のある計画策定を行う際に持つべき視点と留意点を解説する．

【キーワード】**自然災害，地域防災計画，被災者救済，自主防災支援**

【先行科目】『自然と技術/災害を知る』(1.0)，『自然と技術/災害に備える』(1.0)

【関連科目】『建設の歴史とくらし』(0.5), 『耐震工学』(0.5), 『河川工学』(0.5), 『地盤工学』(0.5), 『地震工学』(0.5), 『建設の法規』(0.5), 『水の力学 2』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

【到達目標】
1. 種々の自然災害の特性と防災対策の基本を理解する．
2. 地域防災計画の現状と計画策定上の要点を理解する．

【授業計画】**1.** ガイダンス，最近の災害から **2.** 地震・津波災害の実態 **3.** 南海地震と防災対策 **4.** グループワーク・南海地震について考える **5.** 土砂災害の実態 **6.** 土砂災害と防災対策 **7.** グループワーク・土砂災害について考える **8.** 洪水災害の実態 **9.** 洪水災害と防災対策 **10.** グループワーク・洪水災害について考える **11.** 防災の法規 **12.** 防災基本計画 **13.** 応急対応・復旧・復興対策 **14.** 減災 (自主防災) **15.** 減災 (企業防災) **16.** 期末試験

【成績評価】到達目標 1 の達成度を，前半のグループ発表会の評点と後半試験の関連部分の評点により評価し，評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件とする．到達目標 2 の達成度を後半試験の関連部分の評点により評価し，評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件とする．2 項目の到達目標をクリアした場合を合格とし，成績は，各到達目標の評点の重みをそれぞれ 65%および 35%として算出する．

【対象学生】他学部，他大学学生も履修可能

【教科書】なし

【参考書】京都大学防災研究所編「防災計画論」，平成 23 年度版・防災士教本など

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0053

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216122

【連絡先】
⇒ 中野 (A310, 088-656-7330, nakano@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: オフィスアワー:年度ごとに学科の掲示板を参照のこと．)
⇒ 蒋 (A311, 088-656-7346, jiang@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)
⇒ 田村 (A414, 088-656-9407, tamura@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること)

【備考】分担方法は第 1 回講義で提示する．

緑のデザイン
Deign of Green Space

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

鎌田 磨人 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部，非常勤講師

【授業目的】生態系としての緑地を，適切に配置 · 管理していくための基礎的な論理を身につける．

【授業概要】適切な緑地配置，管理に必要な概念として，1) ビオトープの概念を紹介した上で，2) 緑地管理の具体的なあり方について様々な場を対象に解説する．

【キーワード】**緑地の保全 · 創造，生態系修復技術，ビオトープ**

【先行科目】『環境を考える』(1.0, ⇒180 頁), 『生態系の保全』(1.0, ⇒177 頁)

【関連科目】『環境生態学』(0.5), 『生態系修復論』(0.5)

【受講要件】なし

【履修上の注意】「生態系の保全」を受講済みであることを前提に講義する．関連授業科目として，「環境生態学」，「生態系修復論」の受講を推奨する．

【到達目標】緑地を保全 · 管理していく上で必要な生態学の理論について，基礎的な概念を身につけている．

【授業計画】**1.** ガイダンス，とくしまビオトープ・プラン / (1) ビオトープとは，(2) 目標とするビオトープ，(3) 基本方針 **2.** とくしまビオトープ・プラン 2 / (1) ビオトープネットワークの発展方針 **3.** とくしまビオトープ・プラン 3 / (1) 目標設定，(2) 目標種の選定 **4.** とくしまビオトープ・プラン 4/ (1) ミチゲーション，(2) 公共事業とビオトープの保全，復元，創出 **5.** とくしまビオトープ・プラン 5 / (1) モニタリングの重要性，(2) 小テスト **6.** 海岸環境 (海の景) / 海岸における緑の機能と現場事例 (人工海岸の保全林整備/海浜公園プロポーザル) キーワード:海浜/海岸/波浪/潮風/強風/飛砂/採取/海浜レクリーション/白砂青松/野生生物 **7.** 河川環境 (川の景) / 河川における緑の機能と現場事例 (中小河川の河川管理計画/中小河川改修工事への提言) キーワード:洪水/渇水/氾濫/撹乱/生産/流域/エコトーン/廃川敷/治水/利水/環境/野生生物 **8.** 森林環境 (山の景) / 森林における緑の機能と現場事例 (ブナ林再生事業/里山林再生事業) キーワード:現存植生/代償植生/潜在自然植生/自然遷移/天然更新/人為的作用/野生生物 **9.** 港湾環境 (港の景) / 港湾における緑の機能と現場事例 (港湾用地の緑地配置計画/漁港と人工干潟の共存) キーワード:流通/産業/創出環境/人と物の集積/陸海の結節部/臨海工場 · 新都市/野生生物 **10.** 道路環境 (道の景) / 道路における緑の機能と現場事例 (道路拡幅工事と緑化/街路の緑化) キーワード:視距/建築限界/横断構成/ネットワーク/バイパス/ロードキル/誘導植栽/野生生物 **11.** 施設環境 (公の景) / 公共施設における緑の機能と現場事例 (キャンパスの計画 · 設計/公園の設計) キーワード:多様な活動/人の交流/空間領域/整備と保全/特殊緑化/緑被率/建ぺい率/野生生物 **12.** 生活環境 (個の景) / 住宅や事業所における緑の機能と現場事例 (住宅庭園の設計/企業の活動) キーワード:趣味嗜好/多様な価値観/プライバシー/個人財産/住区 · 街区 · 協定/社会貢献/野生生物 **13.** 都市環境 (街の景) / 河口 · 下流域を中心とした消費活動と環境整備の緑 (緑の基本計画) キーワード:微気象緩和/風の道/緑地の保全と再生と創出/健全な水循環/緑地の配置/野生生物 **14.** 農村環境 (里の景) / 中流域を中心とした生産活動と環境保全の緑 (農村振興計画) キーワード:多面的機能/多自然居住地域/田園マスタープラン/二次的自然/鳥獣被害/野生生物 **15.** 緑のネットワーク / 上流域を核としたエコロジカルネットワークの緑 (ビオトープネットワーク) キーワード:コア/バッファー/トランジション/ミティゲーション/保護 · 保全 · 修復/野生生物 **16.** レポート提出と質疑応答 (自由討議) / 緑地を保全 · 管理していく上で必要な留意点を生態的な観点から 10 項を列挙し，その内，5 項について詳述する．(2000 字以上 3200 字以内)

【成績評価】到達目標の達成度は，小テストと期末試験を 4:6 として算出される評点により評価し，評点が 60%以上を当目標のクリア条件とする．

【対象学生】他学科，他学部学生も履修可能

【教科書】必要に応じて，資料を配布する．

【参考書】日本造園学会編「ランドスケープ エコロジー」技報堂出版

【WEB 頁】http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0054

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216425

【連絡先】
⇒ 鎌田 (A306, 088-656-9134, kamada@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 年度ごとに学科の掲示を参照すること．)

【備考】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

エコシステム工学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

木戸口 善行 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
上月 康則 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
近藤 光男 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
橋本 修一 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
藤澤 正一郎 · 教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
奥嶋 政嗣 · 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
松尾 繁樹 · 准教授 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
山中 亮一 · 講師 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
富田 卓朗 · 助教 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
佐藤 克也 · 講師 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
伊藤 伸一 · 助教 / 大学院ソシオテクノサイエンス研究部，名田 譲 · 講師 / 工学研究科

【授業目的】自然環境と社会環境の調和を目指す工学者に必要，かつ有効な多様な考え方，技術，つまりエコシステム工学の理念と実際について理解する．

【授業概要】本講は，エコシステム工学コースの教員が各専門分野における持続的可能な発展を実現する最新の情報，技術について講述する．

【キーワード】**環境工学，エコシステム工学**

【履修上の注意】特に無し

【到達目標】1. 技術者が人間社会の発展と自然環境の保全に果すべき役割と責任を理解している．

【授業計画】**1.** ガイダンス，概要説明，レポート 1 **2.** うるおいある地域づくりと交通システム，レポート 2 **3.** 社会的ジレンマと社会的決定，レポート 3 **4.** エネルギーの高効率利用と大気環境の保全，レポート 4 **5.** 大気環境問題とクルマ，レポート 5 **6.** 環境保全のための省エネルギー，レポート 6 **7.** 障害を持つ人のための福祉工学，レポート 7 **8.** 沿岸域の環境問題と数値シミュレーション，レポート 8 **9.** 心のエコを支援するユビキタスシステム，レポート 9 **10.** 生態系工学による自然環境修復の取組み，レポート 10 **11.** 生態系工学による自然環境修復の取組み，レポート 11 **12.** エコシステムと光化学，レポート 12 **13.** 再生医療と工学との関わりについて，レポート 13 **14.** 20 世紀の科学者と技術倫理，レポート 14 **15.** エコシステムと光物理，レポート 15

【成績評価】到達目標 1 の達成度はレポートの評点により評価し，評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件とする．到達目標 1 をクリアした場合を合格とし，成績は，到達目標 1 の評点の重みを 100%として算出する．

【教科書】講義時にプリントを配布する．

【参考書】環境白書

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218407

【連絡先】
⇒ 佐藤 (エコ棟 705, 088-656-2168, katsuyas@eco.tokushima-u.ac.jp)

【備考】授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

環境を考える
2 単位 (選択) 2 年 (前期)

Fundamental Environmental Study

上月 康則・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
山中 亮一・講師/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
藤井 園苗・非常勤講師/特定非営利活動法人 ゼロ・ウェイストアカデミー
中西 敬・非常勤講師/総合科学㈱

【授業目的】 政策，国土開発の変遷と関連を通じ，公害から地球環境問題に至る経緯，取組みや環境倫理について理解させ，環境破壊を起こさせない社会人，技術者となる基礎的な知識，考え方および取りまとめ方を習得させる

【授業概要】 これまでの環境の政策，国土開発の変遷と関連を整理し，公害から地球環境問題に至る経緯，取組み，さらに今後の環境問題に対する姿勢の基礎となる環境倫理を解説する．また自身が行動し，考えを文章に取りまとめる方法を指導する．

【キーワード】 人と自然のかかわり，環境史，地球温暖化，環境倫理，地球サミット

【先行科目】 『地域の防災』(1.0, ⇒178 頁)

【関連科目】 『資源循環工学』(0.5, ⇒178 頁)，『環境計画学』(0.5)，『生態系の保全』(0.5, ⇒177 頁)，『生態系修復論』(0.5)

【受講要件】 なし

【履修上の注意】 なし

【到達目標】 人と環境のかかわりの変遷や環境問題に関する基礎的な知識を習得している．(授業計画 1~ 15 および定期試験による)

【授業計画】 **1.** ガイダンス (シラバス，環境家計簿) **2.** 人と自然について (環境家計簿をつける) **3.** なぜ自然を守る必要があるのか 1?(環境家計簿をつける) **4.** 環境史 (地球誕生 ~ 古代中世)(環境家計簿をつける) **5.** 環境史 (近代，国土開発)(環境家計簿をつける) **6.** 公害 (環境家計簿をつける) **7.** 中間テスト，復習 **8.** 地球サミットの歴史 (環境家計簿をつける) **9.** 地球温暖化 (メカニズム)(環境家計簿をつける) **10.** 地球温暖化 (京都議定書)(環境家計簿をつける) **11.** 生物多様性 (環境家計簿をつける) **12.** 環境倫理 (環境家計簿をつける) **13.** 環境家計簿発表 **14.** これからの環境問題 **15.** 期末テスト **16.** 上勝町でのゼロウエストの先進的取組み (藤井園苗)，質問，総括

【成績評価】 到達目標 1:中間試験と期末試験を 1:1 として評価．評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件．到達目標 2:環境家計簿の取組を評価．評点 ≥ 60%を当目標のクリア条件．成績:1，2 の評点の重みをそれぞれ 50%，50%として算出

【対象学生】 他学科，他学部学生も履修可能．

【教科書】 住友恒，村上仁士，伊藤禎彦，上月康則「新版環境工学」理工図書

【参考書】 環境白書

【WEB 頁】 http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0014

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=215747

【連絡先】
⇒ 上月 (エコ 505，088-656-7335，kozuki@eco.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日，14:35 から 16:05，18:00 から 19:30)

【備考】 授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である．

比較文化論
2 単位 (選択) 2 年 (前期)

有馬 卓也・教授/人間文化学科，田島 俊郎・教授/人間文化学科
桂 修治・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】 世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること．

【授業概要】 従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする. 日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について, 担当の教員がそ今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の 3 セクションに分けて，それぞれのセクションに各人 1 回程度講義を提供する．その際，それぞれにテーマを提示したうえで，担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して，具体的な事例をもとに論じていく．概要の趣旨に沿って，「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる．.「自文化と異文化」「文学 (レトリック，物語・民間伝承など)」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばられることになろうが，その際にも, 具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる．

【キーワード】 比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容

【到達目標】 国際的感覚を涵養し，総合的な文化研究を身につけること．

【授業計画】 **1.** 導入「比較文化」とはなにか? **2.** セクション 1「未知の世界に触れる」(1 回目から 5 回目まで):「文化」とは何かを考えながら，様々な世界の見方を提示する．好奇心の大切さ，比較という方法について述べる．個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「犯罪」「自文化/他文化」「日本の中の異文化」など **3.** セクション 2「違いを楽しむ」(6 回目から 10 回目まで) 多面的にものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する．個別のテーマとしては，「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「レトリック」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禅」など **4.** セクション 3「つながりを見つける」(11 回目から 15 回目まで) 文化の中の違いを認めながらも，そこに思いがけないつながりを見つけ，総合的に世界を見ること提示する．個別のテーマとしては，「交流」「異文化教育」「文化の影響」「シナジー」「情調における文化の交感」など

【成績評価】 期末レポートと平常点．期末レポートは 5 人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの．平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う．

【再試験】 有

【教科書】 必要に応じてプリントなどを配布する．

【参考書】 各教員から授業の中で課題図書が示される．

【WEB 頁】 http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2010.html

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218954

【連絡先】
⇒ 有馬 (088-656-7119，arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時可)
⇒ 田島 (088-656-7144，tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)
⇒ 桂 (2308，0886-656-7136，katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間，金曜 5·6)
⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ ヘルベルト (088-656-7145，wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域交流史
2 単位 (選択) 2 年 (前期)

東 潮・教授/人間文化学科，葭森 健介・教授/人間文化学科
衣川 仁・准教授/人間文化学科，佐久間 亮・教授/人間文化学科

【授業目的】 日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通じ，各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を講義する．併せて学生がテーマを理解し，日本及び世界の未来について考え，国際人としての基礎知識と自覚を涵養する．

【授業概要】 日本が東アジアの交流から国家を形成し，東アジア史の一翼を担うところから出発し，大航海時代を経て，東洋と西洋が出会い，世界史が形成される過程を講義する．

【キーワード】 地域交流，世界史，国際関係

【履修上の注意】 高校で習った世界史，日本史の授業内容を復習しておくこと．

【到達目標】 学生が将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し，日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする．

【授業計画】 **1.** 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る **2.** 册封体制と日本—日本国家の成立と東アジア史 (葭森) **3.** 邪馬台国と倭国 (東) **4.** 四-六世紀における東アジアの国際環境 (東) **5.** 飛鳥時代の国際環境 (東) **6.** 六朝隋唐国家と古代日本国家-律令制とは (葭森) **7.** 大陸・半島から日本へ (衣川) **8.** 東夷の小帝国-「日本」の自覚 (衣川) **9.** 中世日本と東アジアの交流 (衣川) **10.** モンゴル・ウルスの衝撃-世界史の序曲 (葭森) **11.** 大航海時代・黒死病・奴隷 (佐久間) **12.** プラントハンター・植物園・帝国の手先 (佐久間) **13.** イギリスのインド支配-熱帯をいかに飼い馴らすか-(佐久間) **14.** お茶・陶磁器・絹・銀そしてアヘン-貿易から戦争の時代へ (葭森) **15.** 期末試験 **16.** 地域交流と歴史-授業の総括 (葭森・東・衣川・佐久間)

【成績評価】 授業への参加姿勢と期末試験で総合的に評価

【再試験】 再試験はしない

【教科書】 なし．授業でプリントを配布

【参考書】 授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218780

【連絡先】
⇒ 東 (088-656-7155，azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 葭森 (アジア史研究室，088-656-7156，yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 15:00)
⇒ 衣川 (088-656-7153，kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐久間 (088-656-7152，sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本経済と社会
2 単位 (選択) 3 年 (前期)

中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業目的】 変動過程にある日本型経済システムの骨格を理解し，転換の課題を確認する．

【授業概要】かつて「経済大国」に駆け上がった日本経済は凋落過程にある．また，格差社会・無縁社会・限界集落など，多くの社会問題が一斉に激化している．その転換をいかに図るか，歴史経過を踏まえて考察する．

【キーワード】**日本経済，社会システム，維持可能な社会**

【到達目標】
1. 高度成長期に形成された日本経済の構造的な特質を理解できる．
2. 経済システムの転換をめぐる理念と政策の対抗関係を理解できる．

【授業計画】**1.** 日本経済のたそがれ 日本経済閉塞の指標 講義計画 **2.** 高度経済成長の時代 国民経済の急膨張と日本型システムの形成 **3.** 成長至上主義の社会 経済成長を可能にする条件 大衆消費時代 **4.** 高度成長方式の破綻 「東洋の軌跡」の終焉 破綻の内外要因 **5.** 「国際分業論」の欠陥 効率性を優先する加工貿易型の歪んだ経済構造 **6.** 大量生産・大量消費 経済成長と資源・環境問題 「公害列島」日本 **7.** 土建国家日本の構図 生産基盤整備を図る大型公共事業と推進体制 **8.** 経済大国と生活小国 資本効率の追求と福祉の低迷 低位な労働環境 **9.** 財政破綻と小さな政府 「日本株式会社」を牽引した政府財政の破綻 **10.** グローバル化の投影 先進国の積極的多国籍化と世界経済システム **11.** 新自由主義への傾斜 「政府の失敗」 市場原理主義への誘導 **12.** 新たな社会問題の噴出 各種格差の発現 「この国のかたち」への批判 **13.** 市場の失敗と各種 NPO 公共領域の劣化と社会的経済への期待 **14.** 維持可能な社会の展望 成長至上主義を克服する経済構造への転換 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本型システムの分解と Sustainable Society への道

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末筆記試験による．出席状況で補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220356

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

世界経済論 I
World Economy1

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
水島 多喜男・教授 / 社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は，その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し，その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた．講義では，この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う．

【授業概要】世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【キーワード】**貿易理論，学説史，開発政策，政治経済学**

【到達目標】学説史，学説，現状に係わる論点の理解.

【授業計画】**1.** 産業資本主義以前の世界経済 (遠隔地貿易と重商主義) **2.** 自由貿易論の系譜 (1)(Adam Smith の時代と貿易論) **3.** 自由貿易論の系譜 (2)(D.Ricardo の時代と貿易論) **4.** 自由貿易論の系譜 (3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論) **5.** 世界経済構造の批判的理解 (1)(K.Marx の「プラン」後半体系) **6.** 保護貿易論の系譜 (1)(途上国の TCC 批判：ドイツ歴史学派) **7.** Ｌｅｎｉｎ『帝国主義論』：世界大戦の原因 **8.** 「相対的安定期」·1929 年世界恐慌と「ブロック経済」 **9.** 自由貿易帝国主義論：Ｌｅｎｉｎ『帝国主義論』批判 **10.** (通常上記の項目は 1 回で終わらない．以下の時間は延長の場合に使用する．)

【成績評価】筆記試験

【再試験】なし

【教科書】講義中に配付する資料を用いる．

【参考書】参照すべき図書は，適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220351

【連絡先】
⇒ 水島 (2203，088-656-7188，mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

国際関係論 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
饗場 和彦・教授 / 社会創生学科

【授業目的】米ソがにらみ合った冷戦中は，明日にも第三次世界大戦が起き，核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった．89 年，米ソ首脳が握手をかわし，幸運にも人類は冷戦を脱した．ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが，まもなく幻滅が広がった．噴出する内戦・民族紛争と，拡大する貧富の格差．新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると，9/11 テロの衝撃が世界を揺るがした．そして今，アフガン戦争，イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され，国際社会はいったい，どこに行こうとしているのか．この授業では，こうした変動する現代国際社会の現実を知り，そこで生起する諸問題について，特に平和と戦争に関係する観点を中心に，考察する．

【授業概要】国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ．授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも，筆者のフィールドワーク (紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など) や，新聞記者の経験などに基づく"教科書に載っていない"解説も試みたい．また，適宜，時事的な国際ニュースも取り上げ，ビデオやスライドも使う．国際関係論 I では，主に総論的，理論的，概念的な問題を扱う．

【キーワード】**戦争，戦争**

【履修上の注意】国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており，一方だけ受講することもできるが，I で総論的，基礎的な解説を行い，II ではそれを元に各論的，発展的な内容になる面もあるので，連続して受講する方が望ましい．

【到達目標】国際社会の性質，特徴を理解すること． 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について，基本的な事実関係，実態を知ること．国際政治と国際法の基本について，とらえ方，原理，原則を把握すること．「冷静な現実主義」と，「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと．

【授業計画】**1.** 国際社会の成り立ちと特徴 (1) **2.** 国際社会の成り立ちと特徴 (2) **3.** 国際法の基本 (1) **4.** 国際法の基本 (2) **5.** 国際社会を見る理論的枠組 (1) **6.** 国際社会を見る理論的枠組 (2) **7.** 国際安全保障の諸理論 (1) **8.** 国際安全保障の諸理論 (2) **9.** 民族とアイデンティティ (1) **10.** 民族とアイデンティティ (2) **11.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(1) **12.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(2) **13.** 戦争の違法化 (1) **14.** 戦争の違法化 (2) **15.** 補足と総括 **16.** 試験

【成績評価】授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらうが，それらで出欠の確認も行う．試験は論述式 (短答式と長文論述併用) の期末試験を行う．持ち込み不可．成績は試験の結果に，出席状況，授業中の質疑応答などを加味して判断する．

【再試験】行わない．ただし，僅差で合格点に達しない受講者には，一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える．

【教科書】教科書は特に指定せず，授業中に配布するレジュメ，資料に沿って解説する．参考書などは適宜，紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220346

【連絡先】
⇒ 饗場 (088-656-7186，aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30，金曜日14:30~ 16:00．この時間以外でも在室時は随時可．)

社会心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 健二・教授 / 人間文化学科

【授業目的】近年，社会心理学に対する期待は，著しく増大している．なぜなら，社会心理学は，人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて，近年生じている，さまざまな社会的行動の諸問題の解決に資する可能性を持っているからである．そこで，本講義では，人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする．

【授業概要】人間の社会的行動の理解

【キーワード】**社会的行動，自己，対人行動，集団行動，集合行動**

【履修上の注意】OHP，パワーポイント，紙資料，ビデオテープなどを使用する．私語厳禁．

【到達目標】社会心理学における重要な研究結果，概念，方法論，近年の展開について理解すること

【授業計画】**1.** イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 **2.** 社会的影響 (同調，服従，役割) **3.** 攻撃．暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? **4.** 援助．なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? **5.** 集団行動 (リーダーシップ研究．「プロジェクト X」視聴) **6.** 集合行動 (流言，うわさ，群衆行動) **7.** 言語・非言語的コミュニケーション (視線行動，パーソナル・スペースなど) **8.** 抑うつの社会心理学．認知の歪み，自己注目，相互作用モデルとの関連 **9.** 自己呈示と対人不安 **10.** 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- **11.** 対人魅力．近接性と好意，身体的魅力，類似性と好意，返報性 **12.** 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 **13.** 社会的認知 (原因帰属など) **14.** 自己意識，自己評価研究とその臨床領域への応用 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】三分の二以上の出席した者に対して，期末試験結果による評価を行う．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】安藤清志他 1995 現代心理学入門 4 社会心理学 岩波書店，坂本真士・佐藤健二 2004 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218697

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05，088-656-7202，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:10~ 13:00，総合科学部3号館3S05室，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 久子・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 文明が発達した現在では身体運動，スポーツ，ダンス等は健康のための手段として重要視されている．しかし，これらは健康のための手段として生まれてきたのではない．それぞれの運動やスポーツ，ダンスは各国，各地域の固有の文化として捉えることが出来る．本講義では，これらの内容及び歴史的な意味について概説し，現代社会における運動やスポーツ，ダンスを歴史社会学や文化人類学の観点から検討し，寄り深い認識を得ることを目的とする．

【授業概要】 生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついておく過程を歴史社会学の観点から分析し，現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する．

【キーワード】スポーツ，ダンス，生産形態，リズム

【到達目標】 生産形態とリズムが関わりをもつことを知り，ダンスやスポーツに与えてきた影響を知ることを到達目標とする．

【授業計画】1. 運動と文化-スポーツ，ダンスの発生 **2.** 遊びと余暇 **3.** 生産形態とリズム (5 つのリズム感) **4.** 山村畑作民のリズムとスポーツ・ダンス **5.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス 日本 **6.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス アジア **7.** 海洋漁撈民のリズムとスポーツ・ダンス **8.** 狩猟民のリズムとスポーツ・ダンス **9.** 牧畜民のリズムとスポーツ・ダンス **10.** 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 **11.** スポーツの遊技性と競争性 **12.** 近代スポーツの成立 **13.** 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ **14.** 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ **15.** まとめ

【成績評価】 レポート 50%，授業時に行う小レポート 50%

【教科書】 特に使用しない

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218366

【連絡先】
⇒ 中村 (3120，088-656-7209，nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康行動論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
荒木 秀夫・教授 / 人間文化学科，小原 繁・教授 / 人間文化学科
的場 秀樹・教授 / 人間文化学科，佐竹 昌之・准教授 / 人間文化学科
三浦 哉・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 授業で習得した知識や態度が，自己の生活や社会活動に生かされ，健康で豊かな，そして安全な生活が営まれることを目標とする．授業は健康運動，生活行動，安全管理をテーマに進める．

【授業概要】 健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし，健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う．具体的には，健康障害や事故の予防，それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する．

【キーワード】健康問題，生活行動，運動・スポーツ活動

【先行科目】『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0，⇒22 頁)，『健康体力科学の基礎』(1.0，⇒23 頁)

【関連科目】『地域健康福祉論』(0.5，⇒182 頁)，『健康教育学』(0.5，⇒69 頁)，『健康心理学』(0.5，⇒81 頁)

【到達目標】
1. 地域社会の生活環境の創造への貢献
2. 人間科学に関わる幅広い知識の理解

【授業計画】1. 健康とは **2.** 健康と運動 **3.** 健康運動の方法 **4.** スポーツと健康 **5.** 薬物と健康 (服薬者の運動実施と注意点) **6.** 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 **7.** 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 **8.** 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 **9.** 発育発達期の身体的特徴，心理的特徴 **10.** 発育発達期に多いケガや病気 **11.** 運動中に多い病気とその予防 **12.** 運動中に多いケガとその予防 **13.** 現代の健康 **14.** 環境と健康 **15.** これからの健康 **16.** 総括

【成績評価】 レポート，小テスト，授業の取り組み方などで総合的に評価する．

【再試験】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220344

【連絡先】
⇒ 荒木 (3119，0886567214，araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213，obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114，088-656-7208，matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15，088-656-7212，satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 三浦 (3122，088-656-7288，hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域健康福祉論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 俊夫・教授 (併任) / 大学開放実践センター

【授業概要】 少子高齢化が進む日本社会にあって，医療費の増加に歯止めをかけ，高齢者の QOL を維持していくことは極めて重要・至難な社会的課題である．この健康福祉に関して，国の施策方針から地域現場における具体的な実践例まで，さまざまなレベルにおける取組を学習し，その成果と課題について考察する．さらに，今後の健康福祉政策のあるべき姿について考えていく．

【キーワード】健康福祉，メタボリックシンドローム，介護予防，運動指針

【授業計画】1. 地域健康福祉概論 **2.** アメリカと日本における健康福祉政策 **3.** 健康福祉を担う指導者 **4.** メタボリックシンドロームと健康福祉政策 **5.** 運動基準・運動指針 **6.** 介護予防・高齢者医療と健康福祉政策 **7.** 県レベルにおける健康福祉への取り組み **8.** 市町村レベルにおける健康福祉への取り組み **9.** 民間企業・団体における健康福祉への取り組み **10.** 具体的な実践事例 1(生活習慣病と運動疫学) **11.** 具体的な実践事例 2(健康づくり運動とカウンセリング支援) **12.** 現場の声を聞く 1(メンタルヘルスと運動の効果) **13.** 現場の声を聞く 2(ストレスアセスメントと運動指導) **14.** 地域健康福祉の未来像を探る **15.** まとめ

【成績評価】 出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%)

【再試験】 しない

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220354

【連絡先】
⇒ 田中 (088-656-7280，tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

グローバル社会論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樋口 直人・准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 現代を生きる者は，どこに住もうがグローバル化の影響を免れることはできない．では，それはどのような影響であり，具体的には何が生じるのか．この授業の最大の目的はこうした問いに答えることにある．さらに，グローバル化は国民からなる国家体制を大きく変えつつある．では，国家はなぜどのように変化を迫られているのか．こうした問いに対して，大きくは身近な生活のグローバル化，環境のグローバル化，人の国際移動からみたグローバル化に焦点を当てて議論していく．

【授業概要】 グローバル化する社会が抱える問題について，社会学の概念を用いてアプローチする．特に徳島のような地域では，グローバル化といってもイメージがわきにくいので，画像や映像資料の解説をできる限り取り入れて理解を助けるようにしたい．

【授業計画】1. イントロダクション **2.** グローバル化とは何か:メキシコからみた風景 **3.** 大量生産の時代としての現代 **4.** 大量生産と成長の限界 **5.** 食卓の裏側:『ダーウィンの悪夢』とグローバル化する食卓 **6.** グローバルとローカル:『モンド・ヴィーノ』と食をめぐる 2 つの道 **7.** 私たちは誰とつながっているのか:市場経済，環境，フェアトレード **8.** 新国際分業と世界都市の形成 **9.** メディアとグローバル化 **10.** 南北国境の 3000 キロ:メキシコとアメリカの移民問題 **11.** メキシコ化するアメリカ:『ブレッド&ローズ』と移住労働者 **12.** グローバル化する移民:(1) 南米の日本 **13.** グローバル化する移民:(2) 日本の南米 **14.** グローバル化する移民:(3) 日本の南米人と経済危機 **15.** グローバル化する移民:(4) 日本の少子高齢化と移民受けいれ

【成績評価】 成績評価はレポートと授業中の課題による．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートが 60 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．

【再試験】 無

【教科書】 教科書は用いないが，関連する文献リストを初回に配布する．また，教科書の代わりに毎回レジュメを配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．

【参考書】 参考書 コーエン&ケネディ『グローバル・ソシオロジー』1・2 巻平凡社，2003 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220341

【連絡先】
⇒ 樋口 (1210，088-656-7200，vyw03403@nifty.ne.jp)

地域創生論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 持続可能な地域づくりの基礎理論を提示する．

【授業概要】 の講義は「地域科学」への入門にあたる．地域社会の構成と動態に関する基礎的な知見を獲得するとともに，総合的な地域問題を解決して持続可能な地域をつくるための理論と手法を学ぶ．

【キーワード】地域づくり，地域問題，地域政策

【到達目標】
1. 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる．
2. 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる．

【授業計画】**1.** 地域問題と地域づくり 地域問題の諸形態 講義計画 **2.** 地域問題の総合的性格 地域問題の相互関連 地域科学の課題と構成 **3.** 地域問題と地域経済 地域問題の主要な発生源としての地域経済 **4.** 地域経済の構成と変動 混合経済としての地域経済 公共領域の役割 **5.** 新自由主義政策と地域 成長至上主義型の破綻 新自由主義政策の発動と住民生活 **6.** グローバル化と地域 世界システムの再編にともなう地域社会の変動 **7.** システム転換の基軸 政治・経済システムの進路をめぐる対抗関係の位相 **8.** もう一つの世界は可能 システム転換の新たな主導力 (途上国 ·NGO· 社会的経済) **9.** 分権時代の地域政策 地方自治の仕組みと政策主体 (行政・議会・住民組織) の役割 **10.** 地域政策の理念と体系 地域政策の理念と体系に関する欧州と日本の比較 **11.** 政策過程への住民参加 公共領域を再編する政策 政策の計画・執行過程と住民 **12.** 徳島県の住民参加状況 公共事業の動向に働きかける徳島県の住民運動の経過 **13.** 転換期の地域づくり (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の地域づくり (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域創生論の学び方 地域科学の近年の動向と研究課題

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末に提出を求めるリポートの結果によって単位を認定する．

【再試験】再試は行わない．

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『集落再生と日本の未来』自治体研究社，2010 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220355

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】地域の開発，特に地域経済，地域環境や地域システムに新しい方向性を出すに必要な知識や考え方を提供するものである．地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策の重要性や意義を理解させる．

【授業概要】国際化のなかで，地域経済や地域システムを把握し考察して行くことの意味と重要性を明らかにする．それを理解した上で，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察させる．

【キーワード】**地域経済，地域環境，地域システム，地域開発，地域づくり**

【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムへの理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて理解し考察できる能力を培う．

【授業計画】**1.** ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う再編成 **3.** 地域経済の再編成 **4.** 地域システムの再編成 **5.** 環境問題の変容と新たな状況 **6.** 環境問題と循環社会をめぐる課題 **7.** 環境と地域経済をめぐる状況 **8.** 新たな社会とそれへの対応 **9.** 環境問題への新たな対応 **10.** 地方自治体と企業の環境問題への取り組み **11.** 地域開発をめぐる問題 **12.** 地域の再生とまちづくり **13.** 環境の再生と地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ 1 **16.** まとめ 2

【成績評価】講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40 %)，もしくはレポートにより評価する．

【再試験】なし

【教科書】北村修二『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218814

【連絡先】

⇒ 北村 .

【備考】隔年開講のため，平成 23 年度 (地域政策論 II を開講) は開講されない．国際社会での地域的諸問題や環境問題に関心があり，それらの課題を勉強する意志がありそれを実行できる人は参加できる．オフィスアワー 随時．研究室

地域文化論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】文化人類学の中心的なテーマについて講義する．世界の諸民族の事例を通して，人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し，異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である．グローバリゼーションの中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい．

【授業概要】文化人類学の基本問題

【キーワード】**文化，現代社会，グローバリゼーション**

【関連科目】『地域文化論 II』(0.5，⇒60 頁)

【履修上の注意】受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．フィールドワークを「疑似体験」しながら，文化現象の意味について考えてもらいたい． なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し，異文化 (自文化) の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる．

【授業計画】**1.** 文化人類学のパースペクティヴ **2.** 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ **3.** 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 **4.** 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 **5.** 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ **6.** 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム **7.** ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ **8.** 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって **9.** メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 **10.** グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム **11.** 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 **12.** ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より **13.** 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ **14.** 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか **15.** 「転換期」の時代の文化人類学 **16.** まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】

- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる．個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂，2005 年
- ◇ 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店，2003 年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣，2008 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218849

【連絡先】

⇒ 髙橋 (088-656-9486，takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~ 13時)

【備考】本年度開講 (隔年開講)

共生社会論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会学の立場から社会福祉論・共生社会論を論じる．現代社会は福祉社会である．しかし，「社会リアリティ」の変化にともない，「連帯」の在り方が変わってきている．幅広い市民的連帯がリアリティを失い，「選ばれた人間」の中での「連帯」が「公正」であるように思われてきている．その感覚のもとで許される「個人のニーズ」だけが，「社会のニーズ」に転換を許容されるようになってきている．また，「生産主義社会」から「消費社会」に変化する中で，「労働倫理」の意義は低下し，クリエイティブな労働者になれない場合は，「立派な消費者」になることが次の目標となってきている．かつて，労働に不適であることが福祉の対象者の条件であったが，いまや，消費者としては障害者も平等に扱われるようになり，最終排除対象者は，意志をもたぬもの，意志を適切に表示できないものになってきている．この流れの先に，共生社会がある．共生社会の光と影を共に見つめていきたい．同時に，社会福祉の現代社会的基盤を理解しよう．

【授業概要】社会学の立場から考える社会福祉論と共生社会論．社会のニーズと個人のニーズ．資本主義を支えるものとしての福祉社会．消費社会への変化の意味．労働のフレキシビリティの増大の意味．近代的労働倫理 (勤勉さ，従順さ・・) を守意味の変化．グローバライゼーション．産業の機械化．代替不能性の高い労働と低い労働．これらのことを道具に，現代社会的側面から福祉社会を考える．

【キーワード】**福祉社会学，社会政策，援助，共生，セルフヘルプグループ，インタビュー論，社会福祉と現代社会**

【先行科目】『市民活動論』(1.0，⇒175 頁)

【履修上の注意】教科書は生協に取り寄せる予定 (定価:1700 円)．古本でもよいが，必ず入手すること．また，参考書の一部は効果だが読み甲斐がある．出欠確認は毎回行う．とりわけ，初回のオリエンテーションは重要なので，けっせきしないようにせよ．欠席者には理由を等．なお，全学共通教育では，「ボランティア論 (木曜 5・6 限，前期) が，関連科目である．なお，受講学生人数にもよるが，複数会の小論文執筆が課せられることを覚悟して欲しい．大学での学習成果は，書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ．だいたいのことを書いて満足するのではなく，質のものを志して書いてほしい．また，ダイソー等での買い物などの宿題も課せられる．人数がすくなければ，裁判所見学 (以下に福祉の対象者と被告の層が重なっているかの実地確認作業) も行う．日本の現状 (消費社会化，低所得労働者のアンダーク

ラス化＝ジグムント・バウマン＝) を身をもって看取してもらう必要があるからだ.

【到達目標】
1. 現代社会を学ぶことと，社会福祉を学ぶことがどのように繋がっているのか講義する.
2. より具体的には，(1) 現代社会の構造と自分の人生選択の困難さを結びつけて理解する.
3. (2) 現代の困難さに，一定の合理性があることを理解したうえで，アルターナティブな未来を構想できるようになる
4. アルターナティブな未来 (例:労働と切り離された収入) がはらむ問題に気づくことができる.

【授業計画】**1.** 樫田によるイントロダクション．現代社会論として福祉と共生をとらえる． **2.** 消費社会とグローバリゼーション．労働はどう変わってきているのか． **3.** ウエルビーイングタウン:社会福祉って何だろう． **4.** 社会的ニーズと個人的ニーズの問題．対立?．個人的ニーズの社会的構成?． **5.** 障害者福祉のしくみ **6.** 高齢者福祉のしくみ **7.** 児童福祉のしくみ **8.** 虐待について (児童虐待と高齢者虐待)．虐待とエスノセントリズム． **9.** 新しい貧困について．ニュープアとアンダークラス (ジグムント・バウマンの主張) **10.** 犯罪と疾病と社会福祉．裁判所見学 (人数的に可能な場合)． **11.** 在宅医療の問題を考えよう **12.** セルフヘルプ・グループ論．ヨブ記から考える． **13.** 準備レポート草稿の班別検討会．考え抜く態度の錬成 (1) **14.** 準備レポート講評．総合科学と現代社会．『フーコーの穴』を題材に． **15.** 最終レポート草稿の班別検討会)．考え抜く態度の錬成 (2) **16.** 最終レポート講評．総合科学と社会福祉．『< 生 > の社会学』を題材に.

【成績評価】平常点 (出席を含む)+レポート (20%，80%の比率) ※準備レポートはコメントを付けて返却し，点数上は最終レポート (第 2 回目のレポート) のみ加点対象とする見込み.

【再試験】行わない

【教科書】岩田正美ほか著 1999『ウエルビーイングタウン 社会福祉入門』有斐閣

【参考書】
- ジグムント・バウマン著 1998 ＝ 2008『新しい貧困-労働，消費主義，ニュープア』青土社.
- 藤村正之著 2008『< 生 > の社会学』東京大学出版会
- 井上俊・長谷 正人編 2010『文化社会学入門』ミネルヴァ書房
- 『福祉社会事典』弘文堂
- 斉藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房.
- 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- 石川准・倉本智明編，2002，『障害学の主張』，明石書店.
- メイナード著，樫田・岡田訳 2004『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房.
- 杉野昭博『障害学 理論形成と射程』東京大学出版会.
- 重田園江『フーコーの穴 統計学と統治の現在』木鐸社.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220343

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

メディア情報論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する

【授業概要】主にメディアに流通する複製芸術を中心として図版，映像資料等を紹介解説していく． 授業中に小レポートを課すこともある.

【キーワード】**メディア，アート，映像，写真**

【到達目標】メディア芸術の理解

【授業計画】**1.** 写真-カメラオブスキュラ **2.** 写真-決定的瞬間 **3.** 写真-ニューカラー **4.** 映像と身体 **5.** 映像と記憶 **6.** 実験映像 **7.** 実験的アニメーション **8.** 映画-初期 **9.** 映画-ハリウッドシステム **10.** 映画-物語以後 **11.** プロモーションビデオ **12.** アニメ **13.** インタラクション **14.** ゲーム-インターフェイス **15.** ゲーム-物語-ライトノベル **16.** ネットワーク,AR, ミクスドリアリティ

【成績評価】出席，小レポート

【再試験】実施せず

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219016

【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

芸術文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で，しかも変化に富んだものである．多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し，世界中にはさまざまな音楽が存在している．この授業では，民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し，そのことを通じて，音楽文化・民族性・音楽の本質等について，一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている.

【授業概要】民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義.

【キーワード】**民族音楽，音楽学，音楽鑑賞，民族性，異文化理解**

【履修上の注意】同授業は講義形式なので受講者は受け身的になりがちであるが，できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい．なお，共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが，その内容は同授業と相当程度重複しているので，「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること．先行科目・関連科目については具体的な科目名は書いていないが，芸術分野・人文科目分野等の科目群はすべて該当すると考えていただいてかまわない．同授業は，国際文化コースの「コース専門選択科目」の単位として履修することもできるし，「総合科学テーマ科目」として履修することも可能である．昨年度に初回の授業をマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施したが，同室で無理なく受講できる人数は 50 名程度であるが，「総合科学テーマ科目」に指定されていることから 90 名程度の受講者となり，加えて旧体制の受講者 (「世界の諸民族の音楽」) が 10 名程度同時受講したので，合計 100 名ちょっとになり，補助用のパイプ椅子を使ってすし詰め状態で開講した．パイプ椅子のみの学生が同じ人にならないようにローテーション配置を考え，極力配慮したが，それでも学生にとっての身体的な負担は大きかった．今年度は別のもっと広い部屋で同授業を行うことを相当真剣に考えたが，授業内容の性格上，他の部屋で行うことはやはり無理なので，昨年度同様「音響スタジオ」にて実施することにした．今回の具体的な対応の方法としては，補助机・補助椅子を使うと，普通の状態で受講できる学生は 50 名程度なので，毎回の授業時間の前半と後半とで，残りのパイプ椅子のみの学生との座席の交代を行うことによって学生の身体的な負担な少なくしようと考えている．そのような事情があることから，同授業を受講希望している学生で，他の「総合科学テーマ科目」を受講することでもかまわないと思う方は，できるだけそういう方法をとっていただけると大変ありがたいと考えている.

【到達目標】世界にはさまざまな音楽文化が存在すること，それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し，音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く.

【授業計画】**1.** 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために，講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる． **2.** 1 週目 授業の趣旨説明を行い，現代の音楽文化の特徴について言及する． **3.** 2 週目 日本の音楽． **4.** 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽． **5.** 9-13 週目 インド・西アジアの音楽． **6.** 14 週目 アラブの音楽． **7.** 15 週目 総括授業 授業内容全体について，反省・補足・意見交換等を行う． **8.** 授業内容についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが，若干のずれが生じることもあるので，その点はあらかじめご了承願いたい.

【成績評価】試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．レポートは提出期限を厳守すること．成績評価には，授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される.

【再試験】行わない.

【教科書】この授業では教科書等は使用しない.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218553

【連絡先】
⇒ 片岡 (201，088-656-7161，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】同授業は，平成 23 年度は前期・金曜・5-6 講時にマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」にて実施する．オフィスアワーは前期・木曜日の昼休み．片岡研究室 (マルチメディア A 棟 2 階) のメールアドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．なお，注意のところでも書いたように，授業を行う部屋がそれほど広くないので，別の「総合科学テーマ科目」を選択してもかまわないと思う方は，できればそういう方法をとってくださると大変ありがたい.

情報社会と情報倫理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
吉田 敦也・教授/社会創生学科

【授業目的】情報化社会，知的所有権とプライバシー，情報危機管理

【授業概要】この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する．受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し，収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり，情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める.

【キーワード】**情報リテラシー**

【到達目標】現代社会における人，企業，物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める.

【授業計画】**1.** 1. 情報化社会の到来 1.1 「情報」とは何か，1.2 コンピュータが動作する仕組み **2.** 1.3 ネットワークによる通信の仕組

み，1.4 [情報の価値] と [情報量]，[情報伝達] **3.** 1.5 情報化社会の到来，1.6 社会の情報化の進展と，文化・人間性の変化，レポート 1 **4.** 2. 知的所有権と プライバシー 2.1 著作権 **5.** 2.2 そのほかの知的所有権，2.3 プライバシー，レポート 2 **6.** 3. 情報倫理 3.1 情報倫理はどうして「倫理」なのか，3.2 情報化社会における原則 **7.** 3.3 情報倫理に必要な知識，3.4 情報ネットワークを利用するときの判断のあり方，レポート 3 **8.** 4. 情報危機管理 4.1 情報危機管理がなぜ必要か，4.2 現実のシステム運用上の事件と，その原因と対策 **9.** 4.3 運用ポリシーと利用者の価値観 **10.** 4.4 運用規約と管理組織，レポート 4 **11.** 4.5 不正アクセスとセキュリティ **12.** 5. ケーススタディ **13.** 5.1 発表と評価 1 **14.** 5.2 発表と評価 2 **15.** 5.3 発表と評価 3 **16.** まとめ

【成績評価】 レポートとケーススタディの研究発表で総合的に評価する．

【教科書】 教科書:辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220349

【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 24時間(yos@ias.tokushima-u.ac.jp))

情報と職業
Information and Profession

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 敦也・教授/社会創生学科

【授業目的】 情報化が産業，社会へどのように影響しているかを理解する

【授業概要】 情報システム，情報化のビジネスへの影響，情報技術の企業での利用状況，電子商取引，インターネットビジネス，情報産業，情報技術の人材育成，情報化の雇用と職業への影響などについて，受講生に主体的に調査，探求をしてもらい発表，議論をすることで理解を深める． 情報システムの発展という観点から，計算機の発展の歴史について解説する．

【キーワード】 情報社会，ネット時代の職業，働く環境，*ICT* リテラシー，地域情報化

【到達目標】 情報社会におけるビジネス，職業に関する基礎知識を学び，職業観，就労・労働の意識の形成，キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー，ICT 利活用力を身につける．

【授業計画】 **1.** 情報システムの概略 **2.** 情報システムの歴史 **3.** 情報システムの未来 **4.** 情報技術と社会システム **5.** 情報化のビジネスへの影響 **6.** ネット社会と企業経営 **7.** 地域情報化の事例研究 1 徳島:彩り事業 **8.** 地域情報化の事例研究 2 島根:Ruby City MATSUE プロジェクト **9.** 電子商取引とインターネットビジネス **10.** グループ発表 1 情報社会におけるビジネスのあり方について **11.** 情報化の雇用への影響 **12.** 情報化の職業への影響 **13.** 情報社会と組織変革 **14.** 情報社会における働き方 **15.** グループ発表 2 情報社会における職業観について

【成績評価】 授業貢献及び試験

【再試験】 実施せず

【教科書】 授業中に適宜指示

【参考書】
- ◇ 神沼靖子 (編著)「情報システム基礎」オーム社 2006
- ◇ 駒谷 昇一 (他著)「情報と職業」オーム社 2002
- ◇ その他授業中に適宜指示

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218715

【連絡先】
⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 e ラーニングを併用する

情報の数理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 今日，コンピュータの高性能化，および，通信網の整備により，インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている．今後，あらゆる家電製品や携帯電話などが，ネットワークへの接続を前提に作られるようになり，ネットワークが生活の基盤になるであろう．よって，ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ることは，将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる．このような観点から，情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする．

【キーワード】 通信ネットワーク，インターネット，プロトコル，*TCP/IP*

【先行科目】 『計算機概論』(1.0, ⇒193 頁)

【履修上の注意】 2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識が必要です．

【到達目標】 ネットワークに関する知識や設計技法の習得，および，それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする．

【授業計画】 **1.** 情報通信の発達過程 **2.** ネットワークの種類と形態 **3.** ネットワークに関する基礎技術 **4.** 通信プロトコル 1 **5.** 通信プロトコル 2 **6.** 伝送制御手順 **7.** 通信サービルと技術 1 **8.** 通信サービスと技術 2 **9.** ネットワークの分析 1 **10.** ネットワークの分析 2 **11.** ネットワークの設計 1 **12.** ネットワークの設計 2 **13.** ネットワークセキュリティ 1 **14.** ネットワークセキュリティ 2 **15.** ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】 レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する

【再試験】 行う

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220348

【連絡先】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

現象の数理

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する．また，それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し，現象の数学問題への定式化および意味づけを行う．さらに，数理モデルの妥当性や説明・予測・制御等の初等的方法について理解を深める．

【授業概要】 現象解析のための基本事項について解説する．

【キーワード】 自然現象の数理，社会現象の数理，現象解析の数理，微分積分学，微分方程式

【先行科目】 『微分方程式 II』(1.0, ⇒195 頁), 『微分方程式 I』(1.0, ⇒194 頁)

【履修上の注意】 微分積分学の基本事項を履修しておくこと．授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】 数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する．

【授業計画】 **1.** 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1. モデル化のための枠組み **2.** 人口問題と成長モデル **3.** 薬の吸収モデル **4.** 水の加熱と冷却の数理モデル **5.** ロケットの飛行モデル **6.** 抑制された成長モデル **7.** 広告に対する売り上げの反応モデル **8.** 美術品の贋作判定モデル **9.** 電気回路モデル **10.** 新古典派の経済成長モデル **11.** 五大湖の汚染判定モデル **12.** 個人の消費行動モデル **13.** 惑星の運動モデル **14.** 化学反応速度モデル **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】 授業への取り組み状況，演習，レポート，試験などをもとに総合的に評価する．

【再試験】 無

【参考書】 「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220345

【連絡先】
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

数学と社会

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
片山 真一・教授/総合理数学科，大渕 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】 ・代数的構造についての基礎及びその様々な場に於ける応用についての基礎に関する講義を行う．講義では代数構造の代表的な分野である代数的整数論と代数幾何学の初歩とその応用である暗号理論，符号理論の解説を行う．・目標は群，環に於ける準同型定理の理解，有限体の定義の理解，線形符号の定義とシングルトンの不等式の理解である (大渕). また公開鍵暗号系の仕組みと剰余類群の応用として，RSA 暗号系を理解 する (片山).

【授業概要】 ・代数的構造に関する基礎理論 (群・環・体及び整数論) についての基本的な知識及び応用 (符号理論・暗号理論) への理解が深まるように講義を行う．・群論の初歩，基礎的な環論及び体論を解説する．これを受けて線形符号に関する初歩的な一般論を講義する (大渕). また公開鍵暗号系に関する基礎理論を講義する (片山).

【キーワード】 符号理論，暗号理論，現代代数学

【先行科目】 『代数基礎 I』(1.0, ⇒193 頁), 『代数基礎 II』(1.0, ⇒193 頁)

【関連科目】 『代数学 I』(0.5, ⇒195 頁), 『代数学 II』(0.5, ⇒195 頁)

【到達目標】 代数的構造に関する基礎理論の理解と符号理論と 暗号理論への応用

【授業計画】 **1.** 群の定義 **2.** 準同型定理 **3.** 環の一般論 **4.** 準同型定理 **5.** 有限体概説 **6.** 符号の定義 **7.** 線形符号 **8.** シングルトンの不等式 **9.** 暗号の歴史 **10.** 対称鍵暗号系の仕組み **11.** 計算困難性 **12.** 非対称鍵暗号系の仕組み **13.** RSA 暗号系 **14.** デジタル署名の仕組み **15.** RSA 署名およびまとめ **16.** 総括授業

【成績評価】 出席および提出レポートによる総合評価を行う．

【再試験】 無

【教科書】 特に指定しない．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220350

【連絡先】

⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 大渕 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

資源エネルギー論
Natural Resources and Energy

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
伏見 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．

【授業概要】日本・世界のエネルギー需給について現状の分析をする．エネルギー需給について開発の現状について解説し，将来取りうる政策について議論する．

【履修上の注意】日ごろから新聞を読んでおくこと．講義ノートを用意すること．予習，復習の時間を十分に確保すること．各学科で学んできた事柄を活用して建設的な議論が進められることを期待する．

【到達目標】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．そのためにデータを正しく読むことができる．冷静な議論ができる．

【授業計画】1. 序論: 基本用語，単位の解説．グラフ，統計データの見方． **2.** エネルギー需給の変化 (日本のエネルギー需給) **3.** 日本のエネルギー供給 I (一次エネルギー源 化石燃料) **4.** 日本のエネルギー供給 II (一次エネルギー源 非化石燃料 (原子力)) **5.** 日本のエネルギー供給 III (一次エネルギー源 非化石燃料 (再生可能エネルギー)) **6.** 日本のエネルギー供給 IV (二次エネルギー 電力) **7.** 日本のエネルギー供給 V (二次エネルギー ガス・熱・石油) **8.** 日本のエネルギー供給 VI (二次エネルギー 熱・石油) **9.** 国際エネルギー動向 エネルギーコスト **10.** エネルギー需給に関する政策 **11.** エネルギー開発の動向 原子力政策 **12.** 輸送部門のエネルギー供給政策 **13.** 新エネルギーに対する政策 **14.** エネルギー安全保障 **15.** 総合討論 **16.** 総括

【成績評価】レポート課題 (40%)，総合討論 (10%)，期末レポート (40%)，出席 (10%)

【再試験】なし．

【教科書】適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220347

【連絡先】
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉に貼っている予定表の空欄時間帯．)

総合科学実践プロジェクト

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
山城 考・准教授/社会創生学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科

【授業目的】専門を異にする教員が，共通もしくは複数のテーマで受講生とともに授業を運営し，実践的で総合的な学習姿勢を体得する．授業を通して，文系，理系相互の視点からものを考え，企画・調査し，討論・発表によって総合科学の実践力を養う．

【授業概要】総合科学に関わる諸問題を，文系，理系の視点から考え実践的に解明をおこなってゆくワークショップ方式の授業である．欧米の文学や比較文化，植物や環境を専門とする 4 名の教員が，受講者とともに授業の内容を企画し，共通もしくは複数のテーマを設定して，文献調査やフィールドワーク (例:吉野川干潟観察プログラム・流域水環境分析プログラム・環境保全運動考察プロジェクトなど複数のテーマで開設) を通して文系・理系相互のもしくは融合した視点から，考察を深め，最終的にはその成果を発表する．

【到達目標】
1. 文系，理系双方の考え方を理解し融合させる．
2. テーマの設定，フィールドワークの実施や文献の調査等を通して実践的な企画力を養う．
3. 文献の購読や討論を通して論理的な思考や理解を高め，成果発表の能力を高める．

【授業計画】1. 以下の計画はおおよその目安であり，受講者の志向や関心，文献調査やフィールドワークなどの動向を見ながら 16 回の授業を運営してゆく． **2.** オリエンテーション **3.** テーマの設定について討議 (2 回程度) **4.** 授業の運営について討議・企画 (2 回程度) **5.** 調査およびフィールドワーク (3 回程度) **6.** 中間発表 (2 回程度) **7.** 討論とさらなる調査 (3 回程度) **8.** まとめと発表 (2 回程度) **9.** 総括

【成績評価】授業への参加状況，議論の内容，発表や報告などを総合的に評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業の中で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220352

【連絡先】
⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

総合科学特別講義

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信・教授/社会創生学科，樫田 美雄・准教授/社会創生学科
大橋 眞・教授/社会創生学科，佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】総合科学＝諸科学を総合して課題を解明する営みの意義や方法について考察する．考察の領域を地域科学に据え，地域課題の実践的解明の過程を紹介する．

【授業概要】①総合科学部の教育課程の特徴＝総合科学の意義や課題を理解する． ②人文・社会・自然科学を総合する方法を実践的に理解する． ③地域づくりの事例を考察し，諸科学を総合する課題・方法を理解する． ④地域住民との対話を通じて総合科学的な思考力を身につける．

【キーワード】総合科学，地域科学，地域づくり，グローバル化

【履修上の注意】11 月 12 日土曜日午後に,「在宅療養を考える」というテーマでワークショップを企画している (2 コマ)．補講の扱いではあるが，正規の授業なので日程を開けておくことが望ましい．

【到達目標】①諸科学と総合科学との関係が具体的に説明できる．②具体的な地域問題に対し，諸科学を編成して解決する計画を作成できる．③総合科学的な観点から，自分の意見が表明できる．

【授業計画】1. 諸科学と総合科学:諸科学を総合する科学が必要とされる理由を考察 (中嶋) **2.** 地域科学のあゆみ:Regional Science の形成と日本での展開過程を考察 (中嶋) **3.** 地域科学の実際①:実際の地域問題と地域科学による解決の例を考察 (中嶋) **4.** 地域科学の実際②:地域づくりに取り組む県内自治体職員による報告 (中嶋) **5.** 在宅医療の総合科学:医療と看護と福祉と生活の共同と相克を考察 (樫田) **6.** ※ 6·7 講は 11/12 に結合して開講する (樫田) **7.** 在宅医療のワークショップ:班別の討論 医療経済学や社会学を援用 (樫田) **8.** 在宅医療のワークショップのまとめ:リポート作成に向けた議論 (樫田) **9.** グローバル化と総合科学①(大橋・佐藤) **10.** グローバル化と総合科学②(大橋・佐藤) **11.** グローバル化と地域社会①(大橋・佐藤) **12.** グローバル化と地域社会②(大橋・佐藤) **13.** グローバル化と環境問題①(大橋・佐藤) **14.** グローバル化と環境問題②(大橋・佐藤) **15.** グローバル化と大学の役割 (大橋・佐藤)

【成績評価】リポート内容及び出席状況で判定

【再試験】再試は行わない

【教科書】⑤~ ⑧を除き教科書は用いない．関連資料を配付する．⑤~ ⑧:『「在宅医療」をささえるすべての人へ』健康と良い友だち社，00

【参考書】講義時に随時紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220353

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1号館3階中棟(3M15) 相談時間 月曜日13:30-17:00)
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)
⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

総合理数学科 共通科目ース 授業概要

● 学科共通科目

数理科学の基礎 I ...大渕/1 年 (前期) 187
数理科学の基礎 II ...大沼/1 年 (後期) 187
物理科学の基礎 ...日置/1 年 (前期) 187
化学の基礎 ...今井/1 年 (後期) 187
生命科学の基礎 ...横井川・佐藤/1 年 (前期) 188
地球科学の基礎 ...石田・村田・西山/1 年 (後期) 188
プログラミング演習 I ...鍋島/2 年 (後期) 188
物理学基礎実験 ...小山・中山・齊藤・伏見・真岸/2 年 (前期) 188
化学基礎実験 ...今井・増田・三好・山本・山本・中村/2 年 (前期) ... 189
生命科学基礎実験 ...中川・小山・大橋・佐藤・真壁・松尾・佐藤・山城・渡部・金丸・横井川・浜野/1 年 (前期) 189
地球科学基礎実験 ...石田・村田・西山/2 年 (前期) 190

数理科学の基礎 I

2 単位 (選択) 1 年 (前期)
大渕 朗 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 微分積分学は数学のみならず他の広い分野で用いられている．今では自然科学の事象を表す一つの言語であり基礎的なものです．本講義では高校の時に学習するであろう関数の連続や微分及び積分という概念を改めてその定義に立ち返り学習し，高校の時には扱わないような関数も含めてそれら計算が出来るようになることを目的とします．また，様々な解析学に関する言葉の定義を具体的な例を通して理解しその知識を取得することも目的の一つです．

【授業概要】 微分積分学

【キーワード】 **一変数関数の微分積分学**

【履修上の注意】 計算力を付けるためには問題演習は欠かせませんがそのための時間を講義内で多く取ることは困難です．各自で問や演習問題を解くことをお願いします．疑問があったら気軽に聞いて欲しい．高校数学の内容でも構いません．高校で数学 III を履修していない学生は全学共通教育での「高大接続科目 · 数学」を受講する事をお勧めします．この講義の内容理解の助けになると思います．

【到達目標】
1. 微分積分学に関する定義が理解出来る
2. 微分積分の計算が出来る
3. 微分積分法を応用した問題を解くことが出来る
4. 論理的に理解出来る答案を作成出来る

【授業計画】 **1.** 数列の極限 (その 1)(定義と性質) **2.** 数列の極限 (その 2)(計算) **3.** 1 変数関数の極限 **4.** 連続関数 **5.** 中間値の定理と逆関数 **6.** 1 変数関数の微分 **7.** 逆関数の微分 **8.** 平均値の定理 **9.** 不定形の極限 **10.** テイラーの定理 **11.** 1 変数関数の積分 (原始関数と不定積分) **12.** 部分積分と置換積分 **13.** 有理関数などの不定積分 **14.** 定積分 (その 1)(定義と性質) **15.** 定積分 (その 2)(計算)

【成績評価】 受講姿勢及びレポートによる平常点と期末試験による得点で評価します

【教科書】 戸田 暢茂 著 「基礎微分積分学」 学術図書出版社

【WEB 頁】 http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218733

【連絡先】
⇒ 大渕(088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-13:00 (随時受け付けます))

数理科学の基礎 II

2 単位 (選択) 1 年 (後期)
大沼 正樹 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 微分積分学は数学のみならず他の広い分野で用いられている．今では自然科学の事象を表す一つの言語であり基礎的なものです．本講義では高校の時に学習するであろう関数の連続や微分及び積分という概念を改めてその定義に立ち返り学習し，高校の時には扱わないような関数も含めてそれら計算が出来るようになることを目的とします．また，様々な解析学に関する言葉の定義を具体的な例を通して理解しその知識を取得することも目的の一つです．

【授業概要】 微分積分学

【キーワード】 **多変数関数の微分積分学**

【先行科目】 『数理科学の基礎 I』(1.0, ⇒187 頁)

【履修上の注意】 計算力を付けるためには問題演習は欠かせませんがそのための時間を講義内で多く取ることは困難です．各自で問や演習問題を解くことをお願いします．疑問があったら気軽に聞いて欲しい．前期に開講される「数理科学の基礎 I」を受講している事が望ましい．

【到達目標】
1. 微分積分学に関する定義が理解出来る．
2. 微分積分の計算が出来る．
3. 微分積分法を応用した問題を解くことが出来る．
4. 論理的に理解出来る答案を作成出来る．

【授業計画】 **1.** 1 変数関数の広義積分 (その 1)(定義とその性質) **2.** 1 変数関数の広義積分 (その 2)(計算) **3.** 2 変数関数の極限 **4.** 2 変数関数の微分 (偏微分) **5.** 全微分 **6.** 合成関数の微分と偏微分 **7.** テイラーの定理 **8.** 陰関数定理 **9.** 極値問題 **10.** 2 変数関数の積分 (重積分) **11.** 累次積分と重積分の計算 **12.** 重積分における変数変換 **13.** 広義積分 **14.** 多重積分 **15.** 重積分の応用

【成績評価】 受講姿勢及びレポートによる平常点と期末試験による得点で評価します．

【再試験】 有

【教科書】 戸田 暢茂 著 「基礎微分積分学」 学校図書出版社

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218734

【連絡先】
⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)水曜日 12時から12時50分)

物理科学の基礎
Foundation of physical science

2 単位 (選択) 1 年 (前期)
日置 善郎 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 自然科学の基礎としての物理学の理解

【授業概要】 物理学は現代の科学技術を支える大きな柱であり，将来どのような分野に進もうと理系学生の基礎として極めて重要な科目である．本講義では，この物理学の中で巨視的な現象を扱う古典物理学 (力学・電磁気学・熱統計力学) から現代物理学の中核をなす量子論・相対論の基本的な構成までを概観する．そこには通常の常識では全く理解できないような現象も登場するが，それが正に現代の科学技術の基礎となった諸法則に結び付いている．それらを丁寧に，数式の取り扱いだけでなく基礎概念の理解にも力点を置いて解説していく．

【キーワード】 **古典力学，古典電磁気学，量子力学，相対性理論**

【関連科目】 『数理科学の基礎 I』(0.5, ⇒187 頁)，『化学の基礎』(0.5, ⇒187 頁)

【履修上の注意】 受講態度も重要な評価項目となります．教室にいても眠っていたり関係のないことをやっている場合には「欠席」扱いとなります．

【到達目標】
1. 古典物理の成功と限界，それを超える現代物理 (量子力学・相対性理論) の基本的構成の理解
2. 物質科学に関わる幅広い知識の理解，現代科学に対する総合的視点，論理的思考力の養成，および日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成

【授業計画】 **1.** 物理学の目的・現代物理学概観 **2.** 古典物理学の世界 (1) 素朴な自然観 **3.** 古典物理学の世界 (2) 古典力学概説 **4.** 古典物理学の世界 (3) 電磁気学概説 **5.** 古典物理学の世界 (4) 熱統計力学概説 **6.** 古典物理学は万能か?(1) 原子世界と古典物理 **7.** 古典物理学は万能か?(2) 古典物理の破錠 **8.** 古典物理学は万能か?(3) 量子力学と現代物理学 **9.** 量子物理学の世界 (1) 量子の概念 **10.** 量子物理学の世界 (2) ボーアの原子模型 **11.** 量子物理学の世界 (3) 粒子の波動性 **12.** 量子物理学の世界 (4) 量子力学の完成 **13.** 量子物理学の世界 (5) 原子核・素粒子 **14.** 相対性理論の世界 (1) 研究の歴史 **15.** 相対性理論の世界 (2) 特殊相対性理論 **16.** 期末試験

【成績評価】 数回行う小テスト・学期末試験・受講態度を総合して判定する．

【再試験】 有 (筆記試験またはレポート)

【教科書】 教科書は市販のものではなく，自製テキストを使用する．加えて，必要に応じてプリントを配布する．

【参考書】 関連する参考書については，講義中に適宜紹介する予定．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218982

【連絡先】
⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

化学の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (後期)
今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】専門に進んで, 科学の諸分野を専攻する上で必要とされる, 化学の基礎的内容を修得することを目的とする.

【授業概要】原子や分子の構造について説明し, 物質の性質が化学結合の性質に基づいてどのように理解されるか述べる. 化学物質相互の変換はどのような原理に基づいて起こるかについて述べる.

【キーワード】**原子の構造, 化学結合, 物質の三態, 化学反応, 熱力学**

【履修上の注意】予習を前提に講義を進めるので, 事前に内容を調べて授業に臨んで下さい. 遅刻しないこと.

【到達目標】
1. 原子の構造に関する基礎的な内容を理解している.
2. 化学結合の種類や特徴について理解している.
3. 化学反応式の量的関係を理解している.
4. 物質の三態の間の関係について理解している.
5. 酸と塩基, 酸化と還元について理解している.
6. 熱力学の基礎的内容について理解している.

【授業計画】**1.** 化学の基礎と原子の構造 **2.** 量子数と電子の軌道 **3.** 分子軌道と共有結合 **4.** 化学結合の種類と特徴 **5.** 化学反応と物質量 **6.** 理想気体と実在気体 **7.** 物質の三態と相律 **8.** 固体の構造 **9.** 希薄溶液の性質 **10.** 反応速度 **11.** 酸・塩基と pH **12.** 酸化・還元と電池 **13.** エンタルピーと反応熱 **14.** エントロピーと熱力学第 2 法則 **15.** 化学平衡と自由エネルギー **16.** 総括授業

【成績評価】中間試験, 定期試験, レポート等の結果に出席状況などの平常点を加味して総合評価する.

【再試験】一定の基準を満たしている場合に再試験を行う.

【教科書】芝原寛泰・齊藤正治 著 「< 大学への橋渡し > 一般化学」 化学同人

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218479

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

生命科学の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (前期)
横井川 久己男・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】・生物は, さまざまな生体成分が密接に相互作用して「生きている」状態を維持している. 本講義では, 生命の単位である細胞と主要生体成分について, それらの構造と機能を理解させると共に, それらの代謝や制御機構を通じて, 生命現象の基礎を学ぶことを目的とする (横井川). ・細胞は多種多様な化学物質によって構成されており, 生命現象は詳細に制御された化学反応の連鎖に基づいている. ここでは生命科学の基礎として細胞を構成する化学成分について学ぶ (佐藤).

【授業概要】・生命の単位である細胞と主要生体成分の構造と機能, またそれらの代謝や制御機構を通じて生命現象の基礎を学ぶ (横井川). ・生命科学の基礎としての細胞を構成する生体高分子 (タンパク質, 糖, 脂質, 核酸) の化学的基礎と遺伝情報の流れについて学ぶ (佐藤).

【到達目標】生命の自然科学的な統一像を得ること (横井川). 細胞を構成する生体高分子について, その構造や特性が理解できる (佐藤).

【授業計画】**1.** 生命科学全般を概説し, 生命現象の包括的な概念を教授する (横井川) **2.** 生命誕生の歴史と多様な生物を解説する (横井川) **3.** 真核細胞と原核細胞の構造と機能を解説する (横井川) **4.** 細胞の増殖と分化について解説する (横井川) **5.** 遺伝について解説する (横井川) **6.** エネルギー代謝を解説する (横井川) **7.** 脂肪代謝とアミノ酸代謝を解説する (横井川) **8.** 感染症と薬剤耐性について解説する (横井川) **9.** 生命の化学的基礎 (佐藤) **10.** 細胞を構成する元素と原子 (佐藤) **11.** 細胞を構成する生体高分子 (タンパク質)(佐藤) **12.** 細胞を構成する生体高分子 (糖)(佐藤) **13.** 細胞を構成する生体高分子 (脂質)(佐藤) **14.** 細胞を構成する生体高分子 (核酸)(佐藤) **15.** 核酸と遺伝情報の流れ (佐藤) **16.** 定期試験

【成績評価】・授業への取組み態度 (25%) と定期試験 (25%) により評価する (横井川). ・毎回の課題 (30%) と定期試験 (20%) の合計で成績を算出する (佐藤).

【教科書】「Essential 細胞生物学」(南江堂)

【参考書】・生命科学 (東京化学同人)(横井川) ・授業中に随時配布する. 配布したパワーポイント資料および実施した課題は HP に掲載する (佐藤).

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218749

【連絡先】
⇒ 横井川 (3221, 088-656-7267, yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

地球科学の基礎

2 単位 (選択) 1 年 (後期)
石田 啓祐・教授/総合理数学科, 村田 明広・教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】地球表層部で起こっている地球科学的な現象と事象を学ぶ.

【授業概要】地史学・進化古生物学 (石田), 構造地質学 (村田), 岩石学・火山学・気象学 (西山) などの地球科学における基礎的な内容を扱う. また, それぞれの分野で最近話題になっている研究内容を紹介し, 地球科学の勉学のための導入的な講義とする.

【キーワード】**地層と化石, 地球の歴史, 断層, 褶曲, プレートテクトニクス, 活断層, 地震, 地形, 火山, 岩石, 地球表層物質循環**

【履修上の注意】パワーポイントやビデオなどを使うことがあります. 遅刻・欠席をしないこと. 積極的にノートを取ること.

【到達目標】地層と地球の歴史 (石田), 地球表層部での変形現象とプレートテクトニクス (村田), 火山・岩石・地形の形成と天気の変化 (西山) の基本や概要が説明できること.

【授業計画】**1.** 地質時代区分:絶対年代 (放射年代) と相対年代 (石田) **2.** 年代指標, 環境指標としての古生物・化石 (示準化石と示相化石, 大型化石と微化石)(石田) **3.** 地層の種類と形成環境 (堆積岩類と堆積環境)(石田) **4.** 地球の運動と環境変化 (石田) **5.** 地球の環境変化と生物界の変遷 (石田) **6.** 断層 (村田) **7.** 褶曲 (村田) **8.** プレートテクトニクス (村田) **9.** プレートの運動 (村田) **10.** 活断層と地震 (村田) **11.** 地球上の水循環 (西山) **12.** 岩石と地下資源 (西山) **13.** 地形のなりたち (西山) **14.** 火山のなりたち (西山) **15.** 天気の変化 (西山)

【成績評価】3 人の教員が, それぞれの担当部分の理解力を問う小試験を講義時間の最後に行うので, 欠席しないようにすること.

【再試験】積極的な取り組みの見られる学生に対しては行うことがある.

【教科書】指定しない.

【参考書】各教員が配布する.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218856

プログラミング演習 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
鍋島 克輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】本演習では, 最も多用されているプログラミング言語の 1 つである C 言語について, 文法やプログラミング技法を初歩から演習を行うことで, 修得し, 使いこなせるようになることを目的とする.

【授業概要】C 言語による基本的プログラミング技法の修得

【キーワード】**プログラミング, *C* 言語**

【履修上の注意】受講者はデータ保存のため, 各自で USB メモリーもしくは, 3. 5 インチフロッピーデイスクを用意すること.

【到達目標】C 言語の基本仕様を修得し, 種々のアルゴリズムが C 言語でプログラミングできるようになる.

【授業計画】**1.** C 言語とは&プログラム開発環境の操作方法 **2.** データの型 **3.** 入出力関数 **4.** 制御文 if else **5.** 制御文 for **6.** 制御文 while **7.** 制御文 switch **8.** 配列 **9.** 関数 **10.** 関数 **11.** 文字列 **12.** プログラムの作成 **13.** プログラムの作成 **14.** プログラムの作成 **15.** プログラムの作成

【成績評価】レポート問題を課し, それによって成績を評価する.

【再試験】行わない

【教科書】新版 明解 C 言語入門編 柴田望洋 ソフトバンク・クリエイティブ

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218987

【連絡先】
⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 14:00~15:30 金曜 14:00~15:30)

物理学基礎実験

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
小山 晋之・教授/総合理数学科, 中山 信太郎・教授/総合理数学科
齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科, 伏見 賢一・准教授/総合理数学科
真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】物理学は実験と理論を両輪として発展してきた. 単なる自然現象の記述に終わってはならないし, 空理空論でもいけない. 実験によって自然に問いかけて法則性を見出すということと, 理論を組み立てるということをキャッチボールのように繰り返しながら自然を理解していかなければならない. 「高校の物理」では実験が軽視されがちで, 無味乾燥な暗記物と誤解している学生が多い. 本実験では基礎的な物理実験を行い, 現象の中から法則性を見出したり, 理論的推論を確かめたりすることによって, 物理の面白さを体験することを目的とする. また卒業研究等の自分で研究を行う際に, 実験 (研究) 経過・過程をきちんとノートに記録するということは大切である. これをどの様にしたら良いかという点を実験を通して学んでいく.

【授業概要】最初の数回は, 物理測定法の基礎を講義しデータを扱う方法を学ぶ. またノギスとマイクロメータを使って物の長さを測るという測定を, テスターとオシロスコープを使って電圧や抵抗を測定するということを学ぶ. 以後, 原則として 2 人一組で力学, 熱, 波, 電磁気, 原子物理, 物性の中の基礎的な物理実験を数回行う.

【キーワード】**物理学, 実験**

【先行科目】『物理科学の基礎』(1.0, ⇒187 頁)

【履修上の注意】全回出席し，全てのレポートを提出しなければならない．止むを得ず欠席したときは，空いている時間に実験を行うこと．

【到達目標】実験を正しく行い，その実験の経過をノートに記録することができる．実験の解析を正しく行うことができる．

【授業計画】**1.** 導入 **2.** 誤差論 1 とノギス・マイクロメーターの実験 **3.** 誤差論 2 とテスターオシロスコープの実験 **4.** 誤差論 3 と関数電卓の使い方 **5.** Excel を使ったデータ処理 **6.** 実験の解説とレポートの書き方 **7.** 実験 1 **8.** 面接試験 1 **9.** 実験 2 **10.** 面接試験 2 **11.** 実験 3 **12.** 実験 4 **13.** 実験 5 **14.** 実験予備日 **15.** 面接試験 3 **16.** 総括授業

【成績評価】提出されたレポートの評価および，個別面接時の実験ノートのチェック，実験テーマの理解度，実験の正確さの評価を併せて評価する．

【再試験】原則として行わない．

【教科書】「基礎物理学実験テキスト」総合科学部物理学教室編 (徳島大学生協)

【WEB 頁】http://physics.ias.tokushima-u.ac.jp/butsuri/

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218983

【連絡先】
- ⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07，088-656-7233，koyama@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 中山 (1N02，0886567236，nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月 ~ 金 17:30~ 18:00)
- ⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08，088-656-7232，saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)
- ⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01，088-656-7238，kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)
- ⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09，088-656-7230，magishi@ias.tokushima-u.ac.jp)

化学基礎実験

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

今井 昭二・教授/社会創生学科，増田 俊哉・教授/社会創生学科
三好 徳和・教授/総合理数学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科
山本 孝・准教授/社会創生学科，中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】基礎的な化学実験を行い，物質の分離分析，同定，合成等に必要な基本操作を習得することを目的とする．実験を通して化学物質の取り扱いを習熟し，その理解を深め危険な化学物質に対する安全な取り扱い方も学ぶ．

【授業概要】物質総合コースと環境共生コース向けの試薬の取り扱いと化学実験の基礎的かつ基本的操作の習得

【キーワード】**分析化学実験，基礎化学実験**

【先行科目】『化学の基礎』(1.0, ⇒187 頁)

【履修上の注意】白衣購入，安全メガネ着用，適切な服装の指導など化学実験に対しての準備について安全上の理由で指導する

【到達目標】化学物質の取扱の習熟，実験の安全教育の徹底，化学実験の基礎の習熟

【授業計画】**1.** 実験の基礎知識 (器具の説明，試薬全般と安全指導・安全対策・避難訓練を含む) **2.** 無機定性 I (NaOH) 硫酸イオンの定量 (1) **3.** 無機定性 II (NH3) 硫酸イオンの定量 (2) **4.** 容量器具の取り扱い・シュウ酸の再結晶・0.1N シュウ酸標準溶液の調製 **5.** 0.1NNaOH 標準溶液の調製 (中和滴定)0.1NHCl 標準溶液の調製 (中和滴定 **6.** 逆滴定による中和滴定 **7.** 沈殿滴定 (モール法) **8.** キレート滴定 (硬度測定) **9.** 酸化還元滴定 (オキシフル中の過酸化水素の定量) **10.** DO:溶存酸素の測定 (ウィンクラー法) **11.** 物理化学実験 (酢酸エチルのケン化速度と速度論)(1) **12.** 物理化学実験 (酢酸エチルのケン化速度と速度論)(2) **13.** 電位差滴定 pH 曲線 (水酸化ナトリウム-塩酸，炭酸ナトリウム) **14.** アセトアニリドの合成 **15.** 予備日 **16.** 総括

【成績評価】出席点 (実験の取り組み姿勢点も含む) とレポート点を併用して評価する．

【再試験】実施しない

【教科書】
- ◇ 長島弘三・富田功「基礎化学選書・分析化学」裳華房 (必ず購入)
- ◇ 実験課題のプリントを配布
- ◇ 安全教育用:日本化学会編「化学実験セーフティガイド」化学同人 (必ず購入)

【参考書】丸山銓二朗「改稿 化学基礎実験」三共出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218476

【連絡先】
- ⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)
- ⇒ 増田 (2N01，088-656-7244，masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03，088-656-7250，miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07，7618，hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 山本 (088-656-7263，t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 中村 (2N02，088-656-7246，mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

生命科学基礎実験

2 単位 (選択) 1 年 (前期)

中川 秀幸・教授/社会創生学科，小山 保夫・教授/社会創生学科
大橋 眞・教授/社会創生学科，佐藤 高則・准教授/社会創生学科
真壁 和裕・教授/社会創生学科，松尾 義則・教授/社会創生学科
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科，山城 考・准教授/社会創生学科
渡部 稔・准教授/社会創生学科，金丸 芳・准教授/社会創生学科
横井川 久己男・教授/社会創生学科，浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】高校で生物学を履修していない学生は中学校レベルの生物学的知識を忘れています．そのまま，大学生活，そして大学院生活あるいは社会生活に入りますと，苦労することが多いでしょう．日常社会で話題になりやすいことは生命科学分野の話です．そこで，高校で生物学を履修していない学生にも，もちろん，生物学を履修した学生にも，新鮮な気持ちで「生命科学」に触れていただきたいと思います．この実習では，生命科学系の実験を行う上で必要な基本的な技術などを体験させると同時に，生命の基本的現象を観察・理解してもらいます．

【授業概要】目的には書きましたが，社会に出てから「最も身近な学問」は生命科学です．なぜなら，健康問題，環境問題などの理解には生命科学分野の知識が求められるからです．生命科学の実験の一端に触れることで，いろいろな問題を容易に理解できる「切っ掛け」になります．細胞 (単細胞生物，心臓の細胞，卵子，精子など)，微生物，昆虫，植物，生体分子 (DNA など) など，毎回，様々なテーマで生命科学の知識を広げていきます．同時に，生命科学実験の基礎技術についての理解できるようになります．

【キーワード】**生命科学**

【履修上の注意】自分で積極的に「生命現象」を体験してください．そして，必要に応じて図書館などで生命についての疑問点を調べて，面白い内容のレポートを作成してください．

【到達目標】
- **1.** 生命科学 (生命現象) に興味を持ってもらう．
- **2.** 生命科学系の実験を行う上で最低限必要な器具・機器の操作法，基本的な技術などを習得してもらう．

【授業計画】**1.** ガイダンス (実習の進め方，内容，レポート，受講学生の確認など一般的な指導を行います) **2.** 顕微鏡の使い方 (中学・高校の顕微鏡と違います) と淡水中のプランクトンの観察 (水一滴の中の世界に多くの生物がいます) **3.** ラットの単離心筋細胞の収縮運動と細胞の死 (心臓の一個の細胞の収縮，そして細胞が死ぬという現象を観察します) **4.** レクチンによるウサギ赤血球の凝集反応 (血液型の判定の基礎が解ります) **5.** 生命科学における情報処理の基礎 (もちろん，生命科学でもパソコンは必須です) **6.** DNA の抽出 (DNA 診断の第一歩となる技術です) **7.** 無菌操作 (私たちは微生物に囲まれていることを実感してください) **8.** リン酸の定量 (生命現象の中で大きな役割を果たすリン酸を定量してみます) **9.** 葉で樹木の検索表を作ってみよう (身近な植物を注意深く見てみましょう) **10.** 小型魚類の色素胞の伸縮に及ぼすイオンの影響 (細胞の運動の様子を観察します) **11.** アフリカツメガエルの人工受精と初期発生 (卵が受精をして発生していく様子を観察します) **12.** ゲルろ過法による生体分子の分離精製 (分子量の異なる生体分子を分子量の大きい順に分離します) **13.** 動物個体群の成長と生残 (貝やカニを採集して測定し，成長率や生残率を推定します)

【成績評価】提出されたレポートの内容と，実習にどのように参加しているか，基本的な実習態度も含めて評価します．全ての実習の平均点で評価します．

【再試験】実習ですので，再評価はありません．

【教科書】実習の 1 回目に具体的なスケジュール (実習書) に示し，実習の概要を説明します．必要に応じて，個々の実習についてのプリントを配布します．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218746

【連絡先】
- ⇒ 中川 (3222，088-656-7259，sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室の時はいつでも．)
- ⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 3N06，oyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します．時間は有効に使います．)
- ⇒ 大橋 (656-7261，ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (3N05，088-656-7657，tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)
- ⇒ 真壁 (N3220，088-656-7269，)
- ⇒ 松尾 (適応進化学研究室，656-7270，matsuo@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 佐藤 (088-656-7222，satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 山城 (088-656-7257，tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 渡部 (088-656-7253，minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 金丸 (088-656-7268，kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 横井川 (3221，088-656-7267，yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp)
- ⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

【備考】実習全体についての質問は渡部 (minoru@ias.tokushima-u.ac.jp) までお願いします．個々の実習についての質問は担当している教員にお願いします．

地球科学基礎実験

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

石田 啓祐 · 教授 / 総合理数学科，村田 明広 · 教授 / 総合理数学科
西山 賢一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 地層解析と地質調査のための基本的事項 (堆積岩の区別，化石による地質時代判別，路線測量)(石田)，偏光顕微鏡観察と空中写真判読 (村田)，地質図・天気図 (西山) が活用できる．

【授業概要】 層序学・古生物学 (石田)，構造地質学 (村田)，地質図学・気象学 (西山) などの地球科学における基礎的な実習を扱う．この中には，岩石・鉱物・化石の肉眼鑑定，偏光顕微鏡での観察，ルートマップのための路線測量法，天気図の作成など，地球科学の解析に必要な手法を学ぶ．

【先行科目】 『地球科学の基礎』(1.0, ⇒188 頁)

【履修上の注意】 実習内容が積み重ね式になっているので，欠席を絶対にしないようにして下さい．

【到達目標】 地球科学に関する解析に必要となる基本的な実験・調査法を身につける．

【授業計画】 **1.** 粒度表と粒度区分 (ふるいを使った粒度分析と粒度表の作成)(石田) **2.** 海岸の堆積物の観察と漂着貝殻の採集 (石田) **3.** 海岸の堆積物と漂着貝殻群集の解析 (石田) **4.** 堆積岩類と化石の産状 (観察とレプリカ作成)(石田) **5.** 古生物の分類と特徴 (大型化石の観察とスケッチ)(石田) **6.** 岩石 (火成岩・堆積岩・変成岩) の肉眼観察 (村田) **7.** 偏光顕微鏡による薄片観察 (火成岩)(村田) **8.** 偏光顕微鏡による薄片観察 (堆積岩・変成岩)(村田) **9.** 空中写真判読による地質構造解析 (村田) **10.** リモートセンシングによる地質解析 (村田) **11.** 地形断面図と地形分類図の作成 (西山) **12.** 走向傾斜・露頭線の作成 (西山) **13.** 地質図の作成 (西山) **14.** 地質断面図の作成 (西山) **15.** 天気図の作成 (西山)

【成績評価】 実習への取り組み姿勢と，成果物の提出・各教員による課題のレポートを総合的に判断して評価する．

【再試験】 実習であり，再試験は原則行わない．

【教科書】 指定しない．

【参考書】 各担当教員が紹介，配布する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218853

【連絡先】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)
⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

【備考】 全ての教員の実習に出席することを原則とする．

総合理数学科 数理科学コース 授業概要

● コア科目

数理科学の基礎 III …小野/2 年 (前期)……191
数学基礎 …守安/2 年 (前期)……191
微分積分・演習 I …大沼/2 年 (前期)……192
微分積分・演習 II …鍋島/2 年 (後期)……192
線形代数・演習 I …桑原/2 年 (後期)……192
線形代数・演習 II …伊藤/2 年 (後期)……192
計算機概論 …中山/2 年 (前期)……193
情報数学 …蓮沼/2 年 (前期)……193
データベース基礎論 …蓮沼/3 年 (後期)……193

● コース選択科目

代数基礎 I …片山/2 年 (前期)……193
代数基礎 II …大渕/2 年 (後期)……193
複素解析 I …村上/2 年 (前期)……194
複素解析 II …小野/2 年 (後期)……194
確率・統計 I …大橋/2 年 (前期)……194
確率・統計 II …守安/2 年 (後期)……194
微分方程式 I …村上/2 年 (後期)……194
微分方程式 II …小野/3 年 (前期)……195
代数学 I …大渕/3 年 (前期)……195
代数学 II …片山/3 年 (後期)……195
幾何学 I …守安/3 年 (前期)……195
幾何学 II …桑原/3 年 (後期)……195
解析学 I …伊藤/3 年 (前期)……195
解析学 II …大沼/3 年 (後期)……196
応用数理 I …伊藤/3 年 (後期)……196
応用数理 II …蓮沼/3 年 (後期)……196
情報システム特論 I …庄野・新見・伊藤/2 年 (後期, 集中)……196
情報システム特論 II …森本・永易・守安/2 年 (後期, 集中)……196
モデリング理論 …宇野/3 年 (後期)……197
プログラミング演習 II …宇野/3 年 (前期)……197
制御概論 …村上/3 年 (前期)……197
数値計算法 …鍋島/3 年 (前期)……197
最適化論 …大橋/3 年 (後期)……197
コンピュータグラフィックス基礎論 …中山/3 年 (後期)……198
情報総合プログラミング I …石田/3 年 (後期)……198
経済法 II …泉・上原/3 年 (後期, 集中)……198
商法 II …清水/3 年 (後期)……198

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期)……198
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期)……199
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期)……199
世界経済論 I …水島/3 年 (前期)……199
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期)……200
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期)……200
運動文化論 …中村/2 年 (前期)……200
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期)……200
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期)……201
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期)……201
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期)……201
地域政策論 I …北村/2 年 (後期)……201
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期)……202
共生社会論 …樫田/3 年 (後期)……202
メディア情報論 …河原崎/3 年 (後期)……202
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期)……203
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期)……203
情報と職業 …吉田/2 年 (後期)……203
情報の数理 …中山/3 年 (前期)……203
現象の数理 …小野/3 年 (後期)……204
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期)……204
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期)……204
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期)……204
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期)……205
環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期)……205
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期)……205
生態学 I …浜野/2 年 (前期)……205
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期)……205
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期)……206

数理科学の基礎 III

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】 行列や幾何ベクトルなど高校数学で学習した内容を一般化し，大学数学における線形代数学の入門的な内容を解説する．特に，行列や行列式などにかかわる基本事項の習得を目指す．

【授業概要】 行列や行列式などの入門的な線形代数学の基本事項を解説する． 授業は講義形式で行う．

【キーワード】行列，ベクトル，行列式

【関連科目】 『線形代数・演習 I』(0.5, ⇒192 頁), 『線形代数・演習 II』(0.5, ⇒192 頁)

【履修上の注意】 授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】 授業で取り扱った行列・ベクトル・行列式の基礎・基本を理解し，対応する演習問題の解答が導けるようになること．

【授業計画】 **1.** 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1. 数について **2.** 行列の定義 **3.** 行列とベクトル **4.** 行列の演算 **5.** 正則性 **6.** 行列のべき **7.** 基本変形 **8.** 逆行列の求め方 **9.** 連立 1 次方程式 **10.** 同次連立 1 次方程式 **11.** 行列式 **12.** 行列式の性質 **13.** 行列式の展開公式 **14.** 行列式の応用 **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】 授業への取り組み状況，宿題，演習，試験などをもとに総合的に評価する．

【再試験】 無

【教科書】 「理工系の線形代数学入門」守安一峰・小野公輔共著 (サイエンス社)

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218735

【連絡先】
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室，0886567218，ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分～ 17時)

数学基礎

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
守安 一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】 現代数学に於いては集合をまず考え，その上で様々な数学的構造を 考えると言った記述の仕方が多い．その中で最も基本的な物の 1 つである位 相構造について講義するのがこの授業の目的である．位相構造について解説 する為には集合論の知識が必要であるが，ここでは集合論の解説は必要最小 限にとどめるつもりである．

【授業概要】 位相空間論の基礎

【到達目標】
1. 集合と論理の概念が正しく理解出来る
2. ε-δ 論法が正しく理解できる
3. 位相空間の基礎的な概念が正しく理解出来る

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 論理 1 **3.** 論理 2 **4.** 集合 **5.** 写像 **6.** 2 項関係 1 **7.** 2 項関係 2 **8.** 実数 1 **9.** 実数 2 **10.** 基数と濃度 1 **11.** 基数と濃度 2 **12.** 実数値連続関数 1 **13.** 実数値連続関数 2 **14.** 開集合と閉集合 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業
【成績評価】出席，レポートと期末試験により総合的に評価する
【再試験】有り．ただし，総合評価の結果によっては実施しないこともある
【教科書】鈴木晋一「集合と位相への入門-ユークリッド空間の位相-」サイエンス社
【参考書】松阪和夫 『集合 · 位相入門』 岩波書店
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218728
【連絡先】
⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp)

微分積分・演習 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
大沼 正樹 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】微分積分学は数学のみならず他の広い分野で用いられています．今では自然科学の事象を表す一つの言語のようなものであり，基礎的なものです．本講義では 1 年生時に学習する微分積分学の知識を踏まえて，発展的な計算について学習します．また，数列および 1 変数関数に関しては，その時に学習しなかった論理的な証明の部分にも踏み込んでいきます．同時に様々な解析学に関する言葉の定義を具体的な例を通して理解し，その知識を習得することも目的の一つです．
【授業概要】解析学の基礎に関して定義およびそれから導かれる性質について解説し，その後に演習をする形式で講義を進めます．
【キーワード】**微分積分学，解析学**
【先行科目】『数理科学の基礎 I』(1.0, ⇒187 頁)，『数理科学の基礎 II』(1.0, ⇒187 頁)
【関連科目】『微分積分・演習 II』(1.0, ⇒192 頁)
【履修上の注意】計算力を付けるためには問題演習が欠かせません．これは講義内だけの取り組みでは不十分ですので，各自で問や演習問題を解くことをお願いします．1 年次に開講される「数理科学の基礎 I・II」を受講している事が望ましいです．
【到達目標】
1. 解析学に関する様々な概念の定義が理解出来る．
2. 論理的な証明を与えることが出来る．
3. 微分積分法を応用した問題を解くことが出来る．
4. 論理的に理解出きる答案を作成出来る．
【授業計画】**1.** 【演習 1】数列と関数の極限 **2.** 【演習 2】1 変数関数の微分 **3.** 【演習 3】1 変数関数の積分 **4.** 【演習 4】2 変数関数の微分積分 **5.** 実数 (定義と性質) **6.** 【演習 5】実数 **7.** 数列の極限 (定義と性質) **8.** 【演習 6】数列の極限 **9.** 関数の極限 (定義と性質) **10.** 【演習 7】関数の極限 **11.** 連続関数 (定義と性質) **12.** 【演習 8】連続関数 **13.** 級数 (定義と性質) **14.** 級数の収束判定法 (解説) **15.** 【演習 9】級数の収束判定法
【成績評価】演習の理解度及び期末試験で評価します．
【再試験】有
【教科書】戸田暢茂 著 「基礎微分積分」 学術図書出版社
【参考書】杉浦光夫 著 「解析入門 I」 東京大学出版会
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218963
【連絡先】
⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)火曜日 12時から12時50分)

微分積分・演習 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
鍋島 克輔 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】微分積分の応用的研究へ活用できる基礎を演習により理解する
【授業概要】微分積分に関する基礎事項を学び，演習を行うことでその理解力を深めていく．
【キーワード】**微分，積分**
【先行科目】『微分積分・演習 I』(1.0, ⇒192 頁)
【履修上の注意】各自問題を解く．
【到達目標】微分積分の応用的研究へ活用できる基礎能力を身に付ける
【授業計画】**1.** ガイダンス (&微分積分の基礎事項) **2.** 【演習 1】微分積分の基礎事項 **3.** 集合と写像 **4.** 2 **5.** ε-N 論法と ε-δ 論法 **6.** 【演習 3】ε-N 論法と ε-δ 論法 **7.** リーマン積分 **8.** 【演習 4】リーマン積分 **9.** 無限級数とべき級数展開 **10.** 【演習 5】無限級数とべき級数展開 **11.** 逐次近似 **12.** 【演習 6】逐次近似 **13.** 多重積分 **14.** 【演習 7】多重積分 **15.** 【演習 8】授業のまとめ
【成績評価】演習での理解度及び期末試験で評価する．
【再試験】行わない
【教科書】適時プリントの配布．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218964
【連絡先】
⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 14:00~15:30 金曜 14:00~ 16:00)

線形代数・演習 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
桑原 類史 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】線形代数学は，微分積分と並んで大学で学ぶ数学の基礎として位置づけられるとともに，自然科学や情報科学，社会科学などの分野においても広く応用されている．この授業では，主として，行列に関する基本的概念，性質や演算手法，および連立 1 次方程式の解法について，演習を通じて理解・修得する．
【授業概要】数理科学の基礎 III での学習を踏まえ，行列の演算，行列の基本変形および連立 1 次方程式の理論，行列式の概念および計算，固有値とその応用について，演習を通じてより深く理解し，修得する．
【キーワード】**行列，行列式，連立 *1* 次方程式，固有値**
【先行科目】『数理科学の基礎 III』(1.0, ⇒191 頁)
【関連科目】『線形代数・演習 II』(0.8, ⇒192 頁)
【到達目標】
1. 行列に関する基本概念を理解し，種々の演算ができる
2. 行列式の性質を理解し，計算ができる．
3. 行列の基本変形とその応用である連立 1 次方程式の解法を修得する．
4. 固有値の概念とその応用である行列の対角化について理解する．
【授業計画】**1.** 行列の演算 **2.** 正方行列，正則行列 **3.** 行列式の定義，性質 **4.** 行列式の計算 **5.** 余因子展開 ，正則行列と行列式 **6.** 行列の基本変形，行列の階数 **7.** 逆行列の計算 **8.** 連立 1 次方程式と行列の変形 **9.** 連立 1 次方程式の解法 **10.** 同次連立 1 次方程式 **11.** 中間まとめ **12.** 固有値と固有ベクトル **13.** 固有空間 **14.** 行列の対角化 **15.** 対称行列の対角化 **16.** 総括授業
【成績評価】授業時の演習問題，レポートおよび中間・期末試験によって評価する．
【再試験】有り．ただし，期末試験の評点が 30 点未満のものは，再試験の受験資格無し．
【教科書】適宜，プリント配布
【参考書】守安・小野共著「理工系の線形代数学入門」他
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218767
【連絡先】
⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp)

線形代数・演習 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
伊藤 正幸 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】線形代数学は，理系大学生にとって基礎知識であり，一般大学生にとっても一般教養といってよい学問である．それは，この学問が具体的に扱うものが，一見，中学校で習う連立一次方程式にすぎないが，知識と論理の整理をすることによって，理系のみならず，ほとんど全ての知的領域・分野における数学的な構造の理解に通じるからである．数理科学の基礎 III や線形代数・演習 I で，基礎的な計算や取り扱いを学んで来たので，この講義では，線形構造がいかに普遍的にとらえられるかを学ぶ．
【授業概要】個々のベクトルや，行列の性質を学んできた学生を対象に，線形空間や線形写像など，より俯瞰的に数学対象をとらえることを目的とする．比喩的にいえば，「お母さん」や友達の「太郎君」として人間を認識してきた子供が成長する過程で「日本国民」や「社会人」といった概念を獲得するようなものである．獲得すべき対象概念は，「線形空間」と「線形写像」であり，幾何学的視点を持つ「内積空間」も対象となる．授業は，講義形式で演習も随時織り込み上記のテーマ順に進める．
【キーワード】**ベクトル空間，線形写像，内積**
【先行科目】『数理科学の基礎 III』(1.0, ⇒191 頁)
【関連科目】『線形代数・演習 I』(0.5, ⇒192 頁)
【履修上の注意】同期に開講される「線形代数学・演習 I」は必ず受講してください．
【到達目標】数学独特の「対象の抽象化」という方法になれること．そのためには，一見無味乾燥であるが厳密な推論技術を取得すること．
【授業計画】**1.** 行列，行列式の復習 **2.** 行列式の幾何学的意味 **3.** 線形空間 **4.** 部分空間 **5.** 部分空間の例 **6.** 一次独立性 **7.** 基底 **8.** 次元定理 **9.** 線形写像 **10.** 核と像 **11.** 同型写像・線形変換 **12.** 表現行列 **13.** 基底の変換 **14.** 内積 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業
【成績評価】授業中の演習に対する積極的な取り組み，レポート，期末試験を総合的に評価
【再試験】再試験はありません．
【教科書】理工系の線形代数学入門 (守安，小野共著) サイエンス社
【参考書】基礎講義 線形代数学 仁木著 培風館
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218768
【連絡先】

⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45 , 2. 月曜日 16:30-17:30)

計算機概論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】計算機とその周辺機器を用いた，現在の情報処理システムについての理解を深める．パソコンの理解から始め，現在及び今後どのように計算機システムが利用されるのか理解できるような内容を取り上げる．

【授業概要】幅広く計算機の仕組み・動作原理について学ぶ．

【キーワード】ハードウェア，ソフトウェア

【到達目標】情報処理機器として身近な，パソコンの動作原理の基礎知識をハード・ソフトの両面から身につける．またネットワークに関する基礎知識を身につける．情報処理技術者試験 (午前) 程度の内容を理解している．

【授業計画】1. 計算機の基礎 ハードウエア **2.** 計算機の基礎 ソフトウエア **3.** ネットワーク **4.** 計算機アーキテクチャ **5.** 計算機動作原理 **6.** 論理回路 **7.** CPU **8.** ソフトウエアの実装 **9.** プログラミングの基礎 **10.** データベース **11.** マルチメディア技術 **12.** ネットワークの仕組み **13.** ネットワークと周辺機器 **14.** システムインテグレーション **15.** 情報処理システムの管理運用等

【成績評価】小テストと期末試験とで評価する

【再試験】行う

【教科書】授業時に指定します

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218552

【連絡先】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00~ 15:00)

情報数学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】計算機科学の基礎理論である，オートマトン，言語理論，計算論についての理解を深めることを目的とする．

【授業概要】オートマトン，正則表現，文脈自由文法，プッシュダウン・オートマトン，Turing 機械，判定不能問題，NP 完全性

【キーワード】オートマトン，言語，計算

【到達目標】有限オートマトンの基本的事項 (決定性，非決定性，正則表現)，文脈自由文法とプッシュダウンオートマトンの関係，Turing 機械，決定不能性，NP 完全性を理解する．

【授業計画】1. 有限オートマトン **2.** 決定性，非決定性 **3.** 正則表現 **4.** 非正則言語 **5.** 状態数最小化 **6.** 文脈自由文法 **7.** プッシュダウン・オートマトン **8.** 言語とオートマトン **9.** Turing 機械 **10.** Turing 可算言語 **11.** 決定不能問題 **12.** 計算量クラス **13.** 還元可能性 **14.** NP 完全性 **15.** 総括授業

【成績評価】期末テスト，レポート課題，授業への取り組み等により総合的に評価する．

【再試験】行う．

【参考書】参考書: 計算論の基礎，Michael Sipser 著，渡辺・太田 監訳 共立出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218712

【連絡先】
⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

データベース基礎論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】大量にある情報を整理して効率よく管理する能力は，情報化社会においてますます重要になってきている．本講義では，リレーショナルデータベースの理論的事項を理解した上で，実際にリレーショナルデータベースの構築やリレーショナルデータベース言語である SQL を学ぶことにより，管理しやすいデータベースの設計と構築，及び情報検索能力を養うことを目的にする．

【授業概要】前半に，リレーショナルデータベースの理論的事項 (関数従属性，情報無損失分解，多値従属性，正規化理論，リレーショナル代数) を学ぶ．理論を学んだ後で，実際にデータベースを構築し，さらに，リレーショナルデータベース言語である SQL を使い，データベースへの問い合わせの方法を学ぶ．

【キーワード】リレーショナルデータベース，*SQL*

【履修上の注意】特になし

【到達目標】
1. リレーショナルデータベースの理論的事項を理解すること
2. データベースを構築できること
3. SQL の基本的事項を習得し，データベースへの質問文を SQL で書くことができる

【授業計画】1. リレーショナルデータベース **2.** 一貫性制約 **3.** 関数従属性とその公理系 **4.** 多値従属性 **5.** 情報無損失分解 **6.** 正規化理論 (1)(第 2 正規形，第 3 正規形) **7.** 正規化理論 (2)(ボイス-コッド正規形，関数従属性保存分解) **8.** 正規化理論 (3)(第 4 正規形，第 5 正規形) **9.** 中間試験 **10.** SQL の演習 (1)(データベース構築) **11.** SQL の演習 (2)(単純質問) **12.** SQL の演習 (3)(結合質問) **13.** SQL の演習 (4)(部分質問) **14.** Access を使った SQL の演習 **15.** 総括授業

【成績評価】中間試験，レポート課題，授業への取り組み等により総合的に評価する．

【再試験】行う

【教科書】参考書: 増永良文著 「リレーショナルデータベースの基礎」 オーム社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220358

【連絡先】
⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

代数基礎 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
片山 真一・教授/総合理数学科

【授業目的】本講義では，社会における数理現象を探求するための， 数理科学に関わる知識のうち抽象代数学の基礎を学ぶのを目標とする．特に本講義では，抽象代数学の基礎の初等整数論および群論の初歩を学ぶ．

【授業概要】 現代社会を支える数理科学の理論のうち代数的な考え方について次のような内容を学ぶ．初等整数論の整除から始めて，ユークリッド互助法，合同式に触れる．さらに群の定義と基本的な例を学び，合同式を群論での剰余類群として理解できるようになる．

【キーワード】ユークリッド互助法，合同式，群論，準同型

【関連科目】『数理科学の基礎 III』(0.5, ⇒191 頁)，『線形代数・演習 I』(0.5, ⇒192 頁)，『線形代数・演習 II』(0.5, ⇒192 頁)

【到達目標】数理科学に関わる知識の理解と探求的態度の涵養

【授業計画】1. 整数の整除 **2.** 最大公約数と最小公倍数 **3.** ユークリッド互助法 **4.** 1 次合同式 **5.** 連分数 **6.** 合同の概念 **7.** 剰余類 **8.** 1 次合同式 **9.** 連立 1 次合同式 **10.** 中国剰余定理 **11.** 群の定義 **12.** 部分群と正規部分群 **13.** 剰余類分解 **14.** 対称群と線形群 **15.** 定期試験 **16.** 総括授業

【成績評価】随時行うレポートを平常点とし，期末試験の結果と併せて総合的に評価する．

【再試験】再試験を行う

【教科書】特に指定せず下記の参考書をもとに随時プリント配布を行う

【参考書】「工学系のための初等整数論入門」および「応用代数学」

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218773

【連絡先】
⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 14:30-17:00)

代数基礎 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
大渕 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】前期に引き続き群論の，基本的な概念を講義する．また環については，具体的な整数環，多項式環を中心に講義する．

【授業概要】群および環と多項式

【キーワード】群論，環論

【先行科目】『代数基礎 I』(0.9, ⇒193 頁)，『線形代数・演習 I』(0.6, ⇒192 頁)

【関連科目】『線形代数・演習 II』(0.5, ⇒192 頁)

【履修上の注意】代数学基礎 I の知識は仮定するので受講していることが望ましい．

【到達目標】環などの抽象代数構造を理解して，論理を展開できる．

【授業計画】1. 群の準同型の定義 **2.** 群の準同型定理の例 **3.** 群の準同型定理 **4.** 環の定義 **5.** 環の例 (整数環，行列環) **6.** イデアルの定義 **7.** イデアルの基本性質 **8.** イデアルと剰余環 **9.** 環準同型 **10.** 環の準同型定理 **11.** 環の直積 **12.** 中国剰余定理と整数環の剰余環 **13.** 素イデアルと極大イデアル **14.** 多項式環 **15.** 総括授業

【成績評価】平常点と期末試験の結果により評価する．

【再試験】行わない

【教科書】参考書 松坂和夫 「代数系入門」 岩波書店

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218774

【連絡先】
⇒ 大渕 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

複素解析 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
村上 公一・准教授/総合理数学科

【授業目的】微分積分学は実変数の関数を対象としたが，それを複素変数の関数にまで広げたものが複素解析学である．その応用分野は，数学だけにとどまらず，物理学や工学など多岐にわたる．この授業では，複素数の基礎から始めて，正則関数の微分積分に関する基本事項の習得までを目的とする．

【授業概要】コーシーの積分定理を中心に，複素数，正則関数，複素積分について講義する．計算問題が解けるように，授業中に演習も取り入れる．尚，学生の理解度に応じて，内容や進度を調整することもある．

【関連科目】『複素解析 II』(0.5, ⇒194 頁)，『微分方程式 I』(0.5, ⇒194 頁)，『制御概論』(0.5, ⇒197 頁)

【到達目標】複素数と正則関数の基本事項を理解し，複素数と正則関数に関する種々の計算問題が解けるようになること．

【授業計画】1. 授業の概要 **2.** 複素数 (1) 複素数の四則 **3.** 複素数 (2) 複素平面と極形式 **4.** 複素数 (3) ド・モアブルの定理 **5.** 複素数 (4) オイラーの公式と点集合 **6.** 正則関数 (1) 複素関数 **7.** 正則関数 (2) コーシー・リーマンの関係式 **8.** 正則関数 (3) 指数関数・三角関数 **9.** 正則関数 (4) 対数関数・べき関数 **10.** 複素積分 (1) 複素積分 **11.** 複素積分 (2) コーシーの積分定理 **12.** 複素積分 (3) コーシーの積分表示 (1) **13.** 複素積分 (4) コーシーの積分表示 (2) **14.** 複素積分 (5) 実積分への応用 **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する．

【再試験】有

【教科書】香田・小野著「初歩から複素解析」学術図書

【参考書】高木貞治著「解析概論」岩波書店

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218970

【連絡先】
⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)

複素解析 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】複素解析学は，極限を中心に組み立てられた微分積分学の上に展開される学問分野の 1 つであり，その応用範囲は理工学の諸分野におよんでいる．この授業では，この分野の基礎・基本を学習し，今後の自然科学の進歩に十分堪えうるような数理的思考能力の修得を目的とする．また，演習問題を解くことにより専門分野への応用能力を養う．

【授業概要】複素級数，べき級数，ローラン展開，留数定理等について解説する．

【キーワード】複素解析学，関数論，留数定理

【先行科目】『複素解析 I』(1.0, ⇒194 頁)

【関連科目】『数理科学演習』(0.5)，『情報科学演習』(0.5)

【履修上の注意】微分積分学の基本定理を履修していること．授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】授業で取り扱った複素解析学の基礎・基本を理解し，対応する演習問題の解答が導けるようになること．

【授業計画】1. 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1. 数列について **2.** 級数 **3.** 絶対収束級数 **4.** 収束判定法 **5.** 収束半径 **6.** べき級数 **7.** 級数展開 **8.** テイラー展開 **9.** ローラン展開 **10.** 特異点 **11.** 留数 **12.** 留数の計算 **13.** 留数定理 **14.** 実積分への応用 **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】授業への取り組み状況，宿題，演習，試験などをもとに総合的に評価する．

【再試験】無

【教科書】「初歩からの複素解析」 香田温人・小野公輔共著 (学術図書出版社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218971

【連絡先】
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16時30分~ 17時)

確率・統計 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
大橋 守・教授/総合理数学科

【授業目的】不確定な現象や混沌としたデータを取り扱うための基礎として，確率論の基本的な内容を講義する．確率論は，ランダムな現象を数学として計算可能なかたちに記述し，何らかの客観的な結論を導く手段の一つである．

【授業概要】確率と統計の基礎

【履修上の注意】特になし

【到達目標】確率空間や確率変数を理解し，統計学への応用などと結びつけることができるようになる

【授業計画】1. 確率とは **2.** 確率空間 **3.** 条件付確率 **4.** 事象の独立性 **5.** 離散型確率変数 **6.** 連続型確率変数 **7.** 確率変数の平均値と分散 **8.** 確率変数の独立性 **9.** 主要な分布 1 **10.** 主要な分布 2 **11.** 主要な分布 3 **12.** 母関数 **13.** 大数の法則 **14.** 中心極限定理 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席，レポートと期末試験により総合的に評価する

【再試験】再試験

【教科書】中村忠・山本英二共著 「理工系 確率統計」サイエンス社

【参考書】
- 鈴木義也，洲之内長一郎共著「すぐに役立つ統計」学術図書出版
- 児玉正憲著「基本数理統計学」牧野書店

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218481

【連絡先】
⇒ 大橋 (1221, 088-656-7295, hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

確率・統計 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
守安 一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】統計学の目的や考え方を理解し，推定や検定方法の基礎を身につけ簡単な応用に結びつけることができる．

【授業概要】不確定な現象を取り扱うための基礎として，数理統計学の基本的な事項を講義する．数理統計学は，混沌としたデータの中から整理された情報を引き出す手段の 一つである．本授業では，正規母集団の推定と検定を中心に講義する．

【キーワード】確率分布，推定，仮説検定

【先行科目】『確率・統計 I』(1.0, ⇒194 頁)

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 標本調査 **3.** 統計量 **4.** 重要な標本分布 **5.** 点推定 (基本的な性質) **6.** 点推定 (評価) **7.** 点推定 (構成) **8.** 区間推定 1(母平均) **9.** 区間推定 2(母分散と母比率) **10.** 仮説検定 1(検定の考え方) **11.** 仮説検定 2(母平均) **12.** 仮説検定 3(母分散と母比率) **13.** 仮説検定 4(母平均の差) **14.** 仮説検定 5(母分散の差と母比率の差) **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】期末試験，レポートおよび平常点を総合して評価する

【再試験】有り．ただし，レポートや平常点が悪い場合には，行わないことがある

【教科書】中村忠・山本英二共著 「理工系 確率統計」サイエンス社

【参考書】
- 篠原昌彦著「確率・ 統計」 朝倉書店
- 服部哲也著 「理工系の確率・統計入門」 学術図書出版社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218482

【連絡先】
⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12時から13時)

微分方程式 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
村上 公一・准教授/総合理数学科

【授業目的】物理，化学，生物，工学，経済学などの様々な分野において，時間とともに変化する現象が微分方程式を使って表され，その解を調べることで現象の解明や予測などが行われている．この授業では，微分方程式に関する基本事項の理解と，種々の微分方程式の解法の習得を目的とする．

【授業概要】線形微分方程式を中心に，微分方程式の解法について講義する．計算問題が解けるように，授業中に演習も取り入れる．尚，学生の理解度に応じて，内容や進度を調整することもある．

【関連科目】『制御概論』(0.5, ⇒197 頁)，『複素解析 I』(0.5, ⇒194 頁)，『微分方程式 II』(0.5, ⇒195 頁)

【到達目標】線形微分方程式を中心に，種々の常微分方程式の解が求められるようになること．

【授業計画】1. 授業の概要 **2.** 変数分離形 **3.** 1 階線形 **4.** 完全微分形 **5.** 2 階線形 (1) 同次形 **6.** 2 階線形 (2) 非同次形 **7.** 記号解法 (1) 同次形 **8.** 記号解法 (2) 非同次形 **9.** ラプラス変換 (1) 基本公式 **10.** ラプラス変換 (2) 初期値問題 **11.** ラプラス変換 (3) 部分分数展開定理 **12.** 線形微分方程式の解法のまとめ **13.** 連立 1 階線形 (1) 同次形 **14.** 連立 1 階線形 (2) 非同次形 **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する．

【再試験】有

【教科書】小寺平治著「テキスト微分方程式」共立出版

【参考書】小寺平治著「なっとくする微分方程式」講談社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218967

【連絡先】

⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟, 088-656-7221, murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)

微分方程式 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】数学を使って自然現象や社会現象を解析しようとするとき，微分方程式によるモデル化が有効な方法となり，その解を調べることによって現象の解明や予測などが行われる．たとえば，惑星の運動，化学反応，生物の個体数変化といった様々な現象が微分方程式でモデル化される．この授業では，微分方程式の具体的な解法に加えて，解の存在と一意性，微分方程式の基本補題等について考察するための数学的な方法を紹介し，種々の現象解析のための基礎知識の習得を目指す．

【授業概要】単独 j 微分方程式，連立微分方程式，解の存在と一意性，解の延長問題等について解説する．

【キーワード】**微分方程式，微分積分**

【履修上の注意】微分積分学の基本定理を履修していること．授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】授業で取り扱った微分方程式の基礎・基本を理解し，対応する演習問題の解答が導けるようになること．

【授業計画】**1.** 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1. 1 階微分方程式 **2.** 連立方程式 **3.** 解曲線 **4.** 定係数 2 階線形微分方程式 **5.** 非斉次定数係数 2 階線形微分方程式 **6.** 微分方程式のひろがり **7.** 簡単な偏微分方程式 **8.** べき級数 **9.** 基礎理論 **10.** 初期値問題 **11.** 解の存在と一意性 **12.** 解の延長 **13.** 解の構造 **14.** 微分演算子法 **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】授業への取り組み状況，宿題，演習，試験などをもとに総合的に評価する．

【再試験】無

【教科書】「概説 微分方程式」中尾慎宏著 (サイエンス社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220324

【連絡先】
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

代数学 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
大渕 朗・教授/総合理数学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220318

【連絡先】
⇒ 大渕 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

代数学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
片山 真一・教授/総合理数学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220319

【連絡先】
⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp)

幾何学 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
守安 一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】ベクトル解析の基礎的範囲を学ぶことで，空間やそのなかの曲面上で定義されたベクトル場の性質を理解し，それを通じて幾何学的な 視点を養う．

【授業概要】幾何学とは，図形およびその入れ物である空間の性質を明らかにすることを目的とした理論である．どの様な対象を，どの様な視点および方法で研究するかに よって，種々の幾何学体系がある． 本講義では，微積分および線形代数の基礎のもとに，ベクトル解析の基礎的内容を講義と演習によって身につける．また，ベクトル解析は，解析学の各分野 (微分方程式論など) や物理学 (力学，電磁気学など) において必須の道具でもあり，物理現象への応用についても言及する．

【履修上の注意】普段から演習などの自主的勉強を期待する．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** ベクトルの内積 **3.** ベクトルの外積 **4.** ベクトル値関数 **5.** 曲線のベクトル値関数表示 **6.** 点の運動 **7.** ベクトル値関数の積分 **8.** 曲面・接平面 **9.** スカラー場とベクトル場 **10.** 発散 **11.** 回転 **12.** 線積分 **13.** 面積分 **14.** ガウスの発散定理 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席，レポートと期末試験により総合的に評価する

【再試験】有り．ただし，総合評価の結果によっては実施しないこともある

【教科書】寺田文行・木村宣昭共著「ベクトル解析の基礎」 サイエンス社

【参考書】千葉逸人著 「ベクトル解析からの幾何学入門」 現代数学社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220320

【連絡先】
⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日16時から17時)

幾何学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
桑原 類史・教授/総合理数学科

【授業目的】幾何学とは，図形およびその入れ物である空間の性質を明らかにすることを目的とした理論である．どの様な対象を，どの様な視点および方法で研究するかによって，種々の幾何学体系がある． 本講義では，グラフ理論について講述する．グラフは，点と線からなる 1 次元の図形であるが，その概念は広い分野の問題と密接に関連しており，その有効性は，計算機科学の発展とともに，益々拡大している．

【授業概要】グラフについての基礎的概念，性質を学び，更に，種々の話題 (テーマ) について，応用を意識しつつ講義する．

【キーワード】**グラフ，最短経路問題，ネットワークフロー，平面グラフ**

【履修上の注意】普段から演習などの自主的勉強を期待する．

【到達目標】
1. グラフに関する基本概念とその性質を理解する．
2. 数理科学や社会科学に関する種々の問題がグラフによって定式化，研究できることを理解する．
3. 具体的な問題について，グラフによる解法例を学び，修得する．

【授業計画】**1.** グラフとは -グラフの基礎概念 **2.** グラフの基礎的諸性質 **3.** オイラーグラフ，ハミルトングラフ **4.** 歩道に関する最適化問題 **5.** 木の基本性質，最小全域木 **6.** 有向グラフ，最長経路問題 **7.** ネットワークフロー **8.** 最大フロー最小カット定理 **9.** 平面グラフ，オイラーの定理 **10.** グラフの平面性条件 **11.** 曲面上のグラフ **12.** グラフの点彩色 **13.** 平面グラフの点彩色，四色問題 **14.** その他の話題 (1) **15.** その他の話題 (2) **16.** 総括授業

【成績評価】授業中に課す演習問題，レポート課題などの評価と期末の試験によって評点を付ける．

【再試験】有り

【教科書】プリントを配布する

【参考書】ウイルソン著 (西関訳)「グラフ理論入門」近代科学社，他

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220321

【連絡先】
⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 15時から17時)

解析学 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業目的】高校および大学の初年時に学んだ微分積分学では，リーマン式積分を学んできた．多くの実用的な積分計算において，リーマン式積分はなんら支障なく有効に働く．しかし，この考え方では，集合の長さ，面積，体積などの基本的な概念があいまいであり，解析学や確率論を進める上では積分理論の見直しが必要である． そこで，測度 (長さ，面積，体積などの一般化概念) 論と，それに基づいたルベーグ式積分理論の基礎を概説する．

【授業概要】一般には，測度 (長さ，面積，体積などの一般化概念) 論と，それに基づいたルベーグ式積分理論を展開する道筋をたどるが，この方法は難解なので，測度論はせずに直接ルベーグ式積分を定義する Riesz の方法で講義する．

【キーワード】**ルベーグ積分，収束定理**

【先行科目】『数理科学の基礎 I』(1.0, ⇒187 頁)，『数理科学の基礎 II』(1.0, ⇒187 頁)

【関連科目】『応用数理 I』(0.5, ⇒196 頁)，『解析学 II』(0.5, ⇒196 頁)

【履修上の注意】計算技術や問題解法テクニックの向上の上では，この講義は一見何の役にも立たないように思われる．そればかりか，積分論の再構築がテーマであるこの講義では，複雑でなじみのない議論が展開され，はじめて学ぶ学生諸君には何回で取っ付き難いものであろう．多くの先生方も学生時代はそう感じたに違いないと思われる．それにもかかわらず，カリキュラムに組み入れられているのは，この学問なくしては，解析学が構築できないからである． 講義の難解さやに圧倒されることなく，新しい推論方法に接するという気楽な気持ちで休まず受講して欲しい．完全に理解できなくとも，その後の勉学にきっと役に立ちます．

【到達目標】
1. 測度とルベーグ式積分の概念を理解する．
2. 収束定理が使える．

【授業計画】**1.** 関数の収束と積分 **2.** 実数，集合，収束 **3.** リーマン積分の定義と問題点 **4.** 階段関数，測度 0 の集合 **5.** ルベーグ積分 **6.** リーマン積分とルベーグ積分 **7.** ルベーグ積分の性質 **8.** 収束定理，レビの定理 **9.** ルベーグの収束定理 **10.** ファツウの定理 **11.** 積分記号のもとでの連続性・微分可能性 **12.** 関数の積分可能性 **13.** 多変数関数の積分 **14.** フビニの定理 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】期末試験のほか演習とレポートも重視.

【再試験】行う用意はある．
【教科書】「改訂関数解析入門」 洲之内治夫著 サイエンス社
【参考書】ルベーグ積分 溝畑茂著 岩波全書
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220322
【連絡先】
⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. (前期)火曜日12:00-12:45 ，(後期)火曜日16:30-17:30 2. 月曜日 16:30-17:30)

解析学 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
大沼 正樹・准教授/総合理数学科

【授業目的】自然界の幾多の現象は微分方程式により記述され，その方程式を研究することにより諸現象の解析が行われてきた．その研究の一つとして微分方程式の境界値問題があるがその解法としてフーリエ級数やフーリエ変換の理論が誕生した．本講義ではフーリエ級数の基本的な性質とフーリエ級数の偏微分方程式の境界値問題への応用を学習する．
【授業概要】フーリエ級数と偏微分方程式の境界値問題
【キーワード】フーリエ級数，偏微分方程式の境界値問題
【先行科目】『微分積分・演習 I』(1.0, ⇒192 頁), 『微分積分・演習 II』(1.0, ⇒192 頁)
【履修上の注意】講義の進展や内容は受講生の理解度に応じて変更する場合があります．
【到達目標】
1. 直交関数系とフーリエ級数の概念が理解できる．
2. 簡単な関数のフーリエ級数展開ができる．
3. 簡単な偏微分方程式の境界値問題の解法が理解できる．
【授業計画】**1.** 正規直交基底 **2.** 直交系とフーリエ級数 **3.** 三角関数系とフーリエ級数 **4.** 正弦級数と余弦級数 **5.** 任意区間のフーリエ級数 **6.** 複素フーリエ級数 **7.** 近似定理 **8.** ベッセルの不等式，リーマン・ルベーグの補題 **9.** 各点収束，一様収束，微分とフーリエ級数 **10.** ディリクレ積分，ディリクレ核の変形 **11.** フーリエ級数の収束条件 **12.** フーリエ級数の収束 **13.** パーセバルの等式とその応用 **14.** 三角関数系の完全性，偏微分方程式 **15.** フーリエ級数の偏微分方程式への応用
【成績評価】講義への取組状況を確認する提出物と期末試験により総合的に評価する．
【再試験】期末試験の得点状況により受験できる．
【教科書】『フーリエ解析とその応用』 洲之内源一郎 著 サイエンス社
【参考書】『解析入門 I』 杉浦光夫 著 東京大学出版会
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220323
【連絡先】
⇒ 大沼 (088-656-7225, ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)月曜日 16時10分～ 17時)

応用数理 I

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業目的】解析学的な手法を用いて問題を解決する道筋では，単に微分積分学のような計算を駆使するだけでは，限界がある．問題の持つ構造的な背景を数学的にとらえることが重要である．関数空間の構造を知るための講義である．
【授業概要】無限次元の線形代数学ともいうべき，関数解析学という学問がある．線形代数学が有限次元ベクトルとその変換を扱ったが，関数やその変換を扱うのが関数解析学である．本授業ではその基礎部分を学ぶ．
【キーワード】関数解析学，バナッハ空間，関数空間，線形作用素
【先行科目】『解析学 I』(1.0, ⇒195 頁)
【関連科目】『解析学 II』(0.5, ⇒196 頁)
【到達目標】関数空間の基礎を理解する．縮小写像の応用ができる．
【授業計画】**1.** 集合と論理の記号 **2.** 実数 **3.** 縮小写像の原理 **4.** ベクトル空間 **5.** バナッハ空間 **6.** バナッハ空間における縮小写像 **7.** 線形作用素 **8.** 有界線形作用素 **9.** 逆作用素 **10.** 微分方程式と積分方程式 **11.** スモールエルツウ空間 **12.** ヒルベルト空間 **13.** エルツウ空間 **14.** 正規直交系 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業
【成績評価】期末試験と演習態度，レポートなど総合評価する．
【再試験】行う用意はある．
【教科書】「改訂関数解析入門」 洲之内治夫著 サイエンス社
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220325
【連絡先】
⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. (前期)火曜日12:00-12:45 ，(後期)火曜日16:30-17:30 2. 月曜日 16:30-17:30)

応用数理 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
蓮沼 徹・准教授/総合理数学科

【授業目的】自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する．また，それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し，現象の数学問題への定式化および意味づけを行う．さらに，数理モデルの妥当性や説明・予測・制御等の初等的方法について理解を深める．
【授業概要】現象解析のための基本事項について解説する．
【キーワード】自然現象の数理，社会現象の数理，現象解析の数理
【先行科目】『微分方程式 II』(1.0)
【関連科目】『数理科学演習』(0.5), 『情報科学演習』(0.5)
【履修上の注意】微分積分学の基本事項を履修しておくこと．授業には積極的に取り組むこと．
【到達目標】数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する．
【授業計画】**1.** 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1. モデル化のための枠組み **2.** 人口問題と成長モデル **3.** 薬の吸収モデル **4.** 水の加熱と冷却の数理モデル **5.** ロケットの飛行モデル **6.** 抑制された成長モデル **7.** 広告に対する売り上げの反応モデル **8.** 美術品の贋作判定モデル **9.** 電気回路モデル **10.** 新古典派の経済成長モデル **11.** 五大湖の汚染判定モデル **12.** 個人の消費行動モデル **13.** 電気回路網モデル **14.** 惑星の運動モデル **15.** 化学反応速度モデル
【成績評価】授業への取り組み状況，演習，レポート，試験などをもとに総合的に評価する．
【再試験】無
【教科書】「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220326
【連絡先】
⇒ 蓮沼 (088-656-7216, hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】「隔年開講」 「本年度開講せず」 平成 24 年度開講

情報システム特論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期, 集中)
庄野 和彦・/テック情報 株式会社
新見 昌弘・/富士通徳島システムエンジニアリング，伊藤 正幸・教授/総合理数学科

【授業目的】情報分野はコンピュータ技術の発展に伴い発展し，その分野自体も多様化し技術および環境も複雑化してきている．このように目覚しく発展している分野では教科書や書物だけで学習するだけでは不十分となってきている．本講義では大学内で学習した，或いは学習する内容が，企業でどの様に役に立っているか，ということを実際の現場の人の講義を通して学ぶことを目的とする．
【授業計画】**1.** 前半は富士通株式会社から新見昌弘氏を講師として予定している． **2.** 後半はテック情報株式会社から庄野和彦氏を講師として予定している．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218708
【連絡先】
⇒ 庄野 .
⇒ 新見 .
⇒ 伊藤 (総合科学部 1 号館 1220, 088-656-7219, mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1. 火曜日 12:00-12:45 ，2. 月曜日 16:30-17:30)
【備考】平成 24 年度開講

情報システム特論 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期, 集中)
森本 哲史・非常勤講師，永易 歳浩・/(株)NTT コミュニケーションズ
守安 一峰・教授/総合理数学科

【授業目的】近年，さまざまな問題を解決するためにコンピュータが利用されるようになってきた．そのためには，問題解決の手順や問題解決と情報との関わり，コンピュータの特性や情報処理の特徴，実際に稼動している情報システムの種類や特性などについて理解することが重要である．さらに，情報システムの開発，運用保守に関する基本的な知識や技術についても習得する必要がある． 本講義では，こうした視点に立ち，情報システムの基礎的な内容を実際に企業で活躍されている人の講義を通して学ぶことを目的とする．
【授業計画】**1.** 前半は STNet ソリューションから森本哲史氏を講師として予定している． **2.** 後半は西日本電信電話株式会社から永易歳浩氏を講師として予定している．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218709
【連絡先】
⇒ 森本 .
⇒ 永易 .
⇒ 守安 (1222, 088-656-7220, moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp)

モデリング理論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
宇野 剛史 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】数理モデル化とシミュレーション
【授業概要】この講義では自然現象や社会現象などの様々な現象を分析するために用いる数理モデルやシミュレーションモデルの作り方とその活用法に重点を置いて講義する．現象を数理的に定式化する代表的な数理モデルの例を示し，コンピュータを活用したデータ解析，シミュレーション，および，図表やグラフ等の視覚化について取り扱う．
【キーワード】**数理モデル，シミュレーション**
【先行科目】『情報社会と情報倫理』(1.0, ⇒203 頁)，『数学基礎 I』(1.0)，『数学基礎 II』(1.0)
【関連科目】『最適化論』(0.5, ⇒197 頁)，『プログラミング演習 II』(0.5, ⇒197 頁)
【履修上の注意】特にない．ただし，線形代数学と微積分の初等的知識を使う．
【到達目標】
1. 簡単な数理モデルおよびシミュレーションモデルが作成できる．
2. 基本的なモデルの解析とグラフ等の視覚化ができる．
【授業計画】**1.** 0. イントロダクション，「わかる」とは **2.** 1. モデル化の基礎 **3.** 2. モデルの特性 2.1 モデルの種類 **4.** 乱数を用いた簡単な例 (演習 · レポート 1) **5.** 2.2 モデル化の目的，2.3 モデルの評価 **6.** 2.4 モデルの特性 **7.** 物理現象の解析 (演習 · レポート 2) **8.** 3. シミュレーションの基礎 3.1 シミュレーションの目的 **9.** 3.2 シミュレーションの分類 **10.** 3.3 シミュレーションの手順，3.4 プログラム **11.** 微分方程式，差分方程式 (演習 · レポート 3) **12.** 4. システムのモデル化 4.1 システム分析 **13.** 4.2 要素のモデル化 **14.** 4.3 非数値的な要素 · 関連分析，4.4 数値的分析法 **15.** 期末試験
【成績評価】レポートと期末試験で評価する．
【再試験】あり．
【教科書】教科書は使用せず，適宜資料を配布する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220327
【連絡先】
⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室，088-656-7294，uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

プログラミング演習 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
宇野 剛史 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】本演習では，他の講義・演習で学んできた数学的知識・アルゴリズム・プログラミング技術を応用して，さまざまな問題を解くためのアルゴリズムを考案してコード化できるような知識・技術を修得し，使いこなせるようになることを目的とする．
【授業概要】C 言語によるプログラミングの応用的知識・技術の修得
【キーワード】***C* 言語，プログラミング，アルゴリズム**
【先行科目】『プログラミング演習 I』(1.0, ⇒188 頁)
【履修上の注意】受講者は各授業において，C 言語の本 (プログラム作成用) および USB メモリ (データ保存用) を持参すること．
【到達目標】さまざまな問題を解決するためのアルゴリズムを考案し，C 言語でプログラミングできるようになる．
【授業計画】**1.** ガイダンス，問題解決とプログラミングの概要 **2.** C 言語の復習 (i) データの入出力 **3.** C 言語の復習 (ii) 条件分岐による命令の実装 **4.** C 言語の復習 (iii) 関数の利用 **5.** 問題演習:基礎編 (i) 全探索 **6.** 問題演習:基礎編 (ii) 貪欲法 **7.** 問題演習:基礎編 (iii) 動的計画法 **8.** 問題演習:応用編 (i) グラフ構造の利用 **9.** 問題演習:応用編 (ii) 二分法 **10.** 問題演習:応用編 (iii) 反復法 **11.** 期末レポートのための問題の考案 **12.** 問題解決のための手段の考案 **13.** 問題解決のための手段のコード化 **14.** 期末レポートの作成 **15.** 完成した期末レポートに対するグループディスカッション **16.** 総括授業
【成績評価】出席回数，授業態度，レポートによって成績を総合的に評価する．
【再試験】行わない．
【教科書】特に指定しませんが，授業では C 言語の本を必ず持ってきてください．
【参考書】
◇ 柴田望洋「新版 明解 C 言語入門編」ソフトバンク・クリエイティブ
◇ 秋葉拓哉ら「プログラミングコンテスト チャレンジブック」毎日コミュニケーションズ
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220359
【連絡先】
⇒ 宇野 (総合科学部 1 号棟 2S08 室，088-656-7294，uno@ias.tokushima-u.ac.jp)

制御概論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
村上 公一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】微分方程式で表された制御対象に対して，解を目標値に追従させるための数理工学的な理論が制御理論である．この授業では，線形微分方程式の解の表現から始めて，解軌道を平衡状態に近づけるための数学的な手法の習得までを目的とする．
【授業概要】線形微分方程式の安定性理論と，フィードバックによる固有値の設定方法を中心に，現代制御の基礎について概説する．計算問題が解けるように，授業中に演習も取り入れる．尚，学生の理解度に応じて，内容や進度を調整することもある．
【先行科目】『微分方程式 I』(1.0, ⇒194 頁)
【関連科目】『微分方程式 I』(0.5, ⇒194 頁)
【履修上の注意】微分方程式の解法についての授業を履修していると仮定します．
【到達目標】線形微分方程式の解軌道と安定性を調べ，固有値の設定ができるようになること．
【授業計画】**1.** 授業の概要 **2.** 状態方程式の解 (1) 行列の指数関数 **3.** 状態方程式の解 (2) 射影行列 **4.** 状態方程式の解 (3) ラプラス変換 **5.** 相平面軌道 (1) 相違実固有値 **6.** 相平面軌道 (2) 重複実固有値・複素固有値 **7.** 安定性 (1) 固有値による平衡点の分類 **8.** 安定性 (2) ラウス・フルビッツの安定判別法 **9.** 安定性 (3) リヤプノフの方法 **10.** 状態フィードバック (1) 直接計算による極配置 **11.** 状態フィードバック (2) 可制御性とその判定法 **12.** 状態フィードバック (3) 可制御標準形による極配置 **13.** 状態フィードバック (4) アッカーマン法による極配置 **14.** 状態フィードバック (5) 最適制御 **15.** 期末試験 **16.** 総括
【成績評価】期末試験と授業への取り組み状況により総合的に評価する．
【再試験】有
【教科書】授業開始時に指定する．
【参考書】小郷・三多「システム制御理論入門」実教出版
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220369
【連絡先】
⇒ 村上 (総科 1 号館 2F 南棟，088-656-7221，murakami@ias.tokushima-u.ac.jp)

数値計算法

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
鍋島 克輔 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】数値計算法とは数学的問題を数値的に合理的かつ実可能な方法で適切な精度のもとに，解く事に関する方法論である．本講義では，各種数値計算技法の中で基本的かつよく使われるものを選んで，技法の説明や使用時の注意事項等について解説をする．
【授業概要】基本的な数値計算技法を学ぶ．
【キーワード】**ニュートン法，積分公式 *LU* 分解**
【関連科目】『情報総合プログラミング I』(0.5, ⇒198 頁)，『プログラミング演習 II』(0.5, ⇒197 頁)
【履修上の注意】講義を理解するのに必要な知識は，線形代数，微分積分学，関数解析,線形微分方程式などであるが，これらについてはその都度講義で解説する．
【到達目標】いくつかの数値計算法の手法を実際に使え，必要に応じて更に新たな方法に習熟できるようになる．
【授業計画】**1.** コンピューターにおける数の世界 **2.** 誤差について **3.** 関数近似と補間法最小二乗近似 **4.** 関数近似と補間法 ラグランジェの補間 **5.** 数値積分 ニュートン・コーツの公式 **6.** 数値積分 ガウスの積分公式 **7.** 微分方程式 オイラー法 **8.** 微分方程式 ホイン法 **9.** 非線型方程式 二分法 **10.** 非線型方程式 ニュートン法 **11.** 連立方程式 ニュートン法・縮小写像の定理 **12.** 連立一次方程式 ガウス・ジョルダンの消去法 **13.** 連立一次方程式 LU 分解法 **14.** 連立一次方程式 ヤコビ法，ガウスサイデル法 **15.** 試験 **16.** 総括授業
【成績評価】レポートおよび期末試験による得点で評価します．
【再試験】なし
【教科書】なし．適時必要なときレジュメを配布します．
【参考書】篠原能材『数値解析の基礎』日新出版，名取亮『線形計算』朝倉書店，名取亮『数値解析とその応用』コロナ社
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220368
【連絡先】
⇒ 鍋島 (nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 14:00-~ 15:30 金曜 14:00~ 16:00)

最適化論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
大橋 守 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】ネットワークシステムの最適化
【授業概要】この講義ではネットワークシステムや情報システムを効率的に稼動させ，より良い状態を維持するための手法と安全対策に重点を置いて講義する．システムを効率的に運用し，管理するための計画作りと組織化，および，最適化手法について詳しく取り扱う．

【キーワード】数理モデル，最適化

【先行科目】『線形代数・演習 I』(1.0, ⇒192 頁), 『線形代数・演習 II』(1.0, ⇒192 頁)

【関連科目】『モデリング理論』(0.5, ⇒197 頁), 『計算機概論』(0.5, ⇒193 頁)

【到達目標】
1. (1) ネットワーク等の管理方法について理解を深める．
2. (2) 基礎的な最適化手法が使える．

【授業計画】 **1.** 1．ネットワーク計画法 1.1 最短経路問題 **2.** 1.2 最大フロー問題 **3.** 1.3 最小費用フロー問題 **4.** 2．PERT·CPM 2.1 PDC サイクル，2.2 アローダイアグラム **5.** 2.3 クリティカルパス，2.4 ガンチャート **6.** 2.5 3 点見積もり **7.** 3．最適化法 3.1 数理計画問題 (1) **8.** 3.1 数理計画問題 (2) **9.** 3.1 数理計画問題 (3) **10.** 3.2 ネットワーク問題 **11.** 4．運用管理と保守 4.1 運転管理，安全管理 **12.** 4.2 セキュリティ対策 **13.** 5．運用管理実習 5.1 システムの起動と停止，ユーザ管理，データ管理 **14.** 5.2 トラフィック管理，障害管理，セキュリティ管理 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】レポートと期末試験で評価する．

【再試験】あり．

【教科書】教科書:教科書は使用せず，適宜資料を配布する．

【参考書】
◇ 一森哲男著「数理計画法」共立出版
◇ 牧野都治著「OR 入門」森北出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220366

【連絡先】
⇒ 大橋 (1221，088-656-7295，hashi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 11 時 55 分 ~ 12 時 50 分)

コンピュータグラフィックス基礎論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】 コンピュータの普及と共に，さまざまな分野でコンピュータグラフィックス (CG) が活用されるようになってきている．CG を作成するには，デザイン関連の知識も必要であるが，コンピュータで幾何学的な計算をさせるため，数学的な知識も必要である．本講義では，コンピュータグラフィックスに関する概念や理論，特に，CG の基本として使われる数学的手法について論じる．また理論を学んだ後に随時プログラムも行う．

【授業概要】コンピュータグラフィックにおける数学的手法について学び，その後プログラム作成を行う．

【キーワード】コンピュータグラフィックス，プログラミング

【先行科目】『プログラミング演習 II』(1.0, ⇒197 頁), 『プログラミング演習 I』(1.0, ⇒188 頁)

【履修上の注意】グラフィックスに関するプログラム演習を行うので，C 言語を使いこなせること

【到達目標】コンピュータグラフィックスに関する概念や理論を習得し，コンピュータグラフィックスに関するプログラミングが可能となることを目標とする．

【授業計画】 **1.** 概論，CG の現状 **2.** 座標系 **3.** 物体の表現 **4.** 形状モデル **5.** 幾何学的要素の代数的表現 **6.** 変換行列 **7.** 図形の投影:投影変換，並行投影，透視投影 **8.** 図形の変換 I :アフィン変換 **9.** 図形の変換 II :射影変換 **10.** 投影図形 **11.** 透視変換と射影変換 **12.** 曲線 I :クロソイド曲線，スプライン曲線 **13.** 曲線 II :2 次曲線，3 次曲線 **14.** レンダリング **15.** コンピュータアニメーション

【成績評価】レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する

【再試験】行う

【教科書】授業時に指定する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220357

【連絡先】
⇒ 中山 (1204，088-656-7223，shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

情報総合プログラミング I

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

石田 基広・准教授/社会創生学科

【授業目的】 情報処理の基礎知識と技術を習得する．あわせてテキストマイニングの基本を身につける

【授業概要】オブジェクト指向言語と呼ばれるプログラミング言語，および最近注目を集めているテキストマイニングに関する基礎的な知識と技術を学ぶ

【キーワード】プログラミング，*Web* プログラミング

【先行科目】『情報創生プロジェクト』(1.0, ⇒118 頁), 『Web デザイン I』(1.0, ⇒120 頁)

【関連科目】『映像情報プログラミング I』(0.5, ⇒148 頁)

【履修上の注意】予備知識は必要としない

【到達目標】プログラミング技術の基本を身につけている

【授業計画】 **1.** オリエンテーション **2.** コンピュータ操作の確認 **3.** プログラミングとは何か **4.** プログラミング言語について **5.** 入出力の制御 **6.** 構文制御その 1 **7.** 構文制御その 2 **8.** やや高度なプログラミング構成その 1 **9.** グラフィックスのためのプログラミング **10.** テキストマイニングの知識 **11.** テキストマイニングの技術 **12.** テキストマイニングのプログラミング 1 **13.** テキストマイニングのプログラミング 2 **14.** テキストマイニングのプログラミング 3 **15.** ここまでの知識の確認 **16.** まとめ

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218713

【連絡先】
⇒ 石田 (ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

経済法 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期, 集中)

泉 克幸・教授/社会創生学科，上原 克之・准教授/社会創生学科

【授業目的】 経済法とは一定の経済政策に関する法全体を指す．経済法 II では，様々な領域を対象とする経済法のうち，知的財産法を概説する (なお，経済法 I の履修または単位取得は要件ではない)．知的財産法とは，人間の知的活動の成果であって財産的価値を有する知的財産 (具体的には技術や情報，音響，画像，コンピュータ・ソフトウェア，デザイン，ブランド等) に関する法の総称である．知的財産に関する議論は，わが国における産業政策・経済政策の柱の 1 つとして取り上げられていること，米国が近年，強化政策を採っていること，莫大な経済的利益に直結すること，情報化・マルチメディア化・ネットワーク化の進展に大きな影響があることなどを背景とし，現在最も重要視されている分野であるといえる．授業では知的財産法の体系を順に説明するだけでなく，最近のトピックスも出来る限り取り上げたい．法律の専門的知識は必ずしも求めないが，政治・経済・社会上の動きを知るため，新聞やニュース等に対して敏感な姿勢を望む．

【授業概要】知的財産法の基本的理解

【キーワード】知的財産法，著作権，特許，商標，経済法

【関連科目】『経済法 I』(0.5, ⇒99 頁), 『民法 I』(0.5, ⇒98 頁)

【到達目標】①知的財産法の今日的意義の理解，②知的財産法の基本的理解，③リーガルマインドの養成

【授業計画】 **1.** 以下のような体系をもつ知的財産法を，16 回の授業により概説する． **2.** 1．産業財産権法 **3.** 1) 知的創作物に関するもの … … 特許権，実用新案権，半導体の回路配置権，植物の新品種に関する権利，意匠権，ノウハウ (企業秘密) **4.** 2) 営業標識に関するもの … … 商標権，商号権，サービス・マーク，原産地表示 **5.** 2．著作権 **6.** 1) 著作者の権利 … … 著作財産権 (複製権など)，著作者人格権 **7.** 2) 著作隣接権 (レコード業者，放送業者，歌手・演奏家等の権利) **8.** 3) その他

【成績評価】期末試験を中心に，授業メモ (ミニレポート)，小テスト，質問の有無等を考慮して成績評価を行う．

【教科書】教科書については未定である．参考書として，著作権と特許について，1 点ずつ挙げておく．・吉田大輔『著作権が明解になる 10 章』(出版ニュース社)・竹田和彦『特許がわかる 12 章』(ダイヤモンド社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218551

【連絡先】
⇒ 泉 (088-656-7184，izumi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 後期:水曜16時10分から17時10分)
⇒ 上原 (088-656-7173，uehara@ias.tokushima-u.ac.jp)

商法 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

清水 真人・准教授/社会創生学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218707

【連絡先】
⇒ 清水 (088-656-7174，shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

比較文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

有馬 卓也・教授/人間文化学科，田島 俊郎・教授/人間文化学科
桂 修治・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング・講師/人間文化学科

【授業目的】世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること．

【授業概要】従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする．日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について，担当の教員がそ今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の 3 セクションに分けて，それぞれのセクションに各人 1 回程度講義を提供する．その際，それぞれにテーマを提示したうえで，担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して，具

体的な事例をもとに論じていく．概要の趣旨に沿って，「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる．.「自文化と異文化」「文学 (レトリック，物語・民間伝承など)」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばられることになろうが，その際にも，具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる．

【キーワード】比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容

【到達目標】国際的感覚を涵養し，総合的な文化研究を身につけること．

【授業計画】1. 導入「比較文化」とはなにか? **2.** セクション 1「未知の世界に触れる」(1 回目から 5 回目まで):「文化」とは何かを考えながら，様々な世界の見方を提示する．好奇心の大切さ，比較という方法について述べる．個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「犯罪」「自文化/他文化」「日本の中の異文化」など **3.** セクション 2「違いを楽しむ」(6 回目から 10 回目まで) 多面的にものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する．個別のテーマとしては，「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「レトリック」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禅」など **4.** セクション 3「つながりを見つける」(11 回目から 15 回目まで) 文化の中の違いを認めながらも，そこに思いがけないつながりを見つけ，総合的に世界を見ること提示する．個別のテーマとしては，「交流」「異文化教育」「文化の影響」「シナジー」「情調における文化の交感」など

【成績評価】期末レポートと平常点．期末レポートは 5 人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの．平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う．

【再試験】有

【教科書】必要に応じてプリントなどを配布する．

【参考書】各教員から授業の中で課題図書が示される．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2010.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218954

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時可)
⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)
⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間，金曜 5·6)
⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域交流史

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
東 潮·教授/人間文化学科，葭森 健介·教授/人間文化学科
衣川 仁·准教授/人間文化学科，佐久間 亮·教授/人間文化学科

【授業目的】日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通じ，各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を講義する．併せて学生がテーマを理解し，日本及び世界の未来について考え，国際人としての基礎知識と自覚を涵養する．

【授業概要】日本が東アジアの交流から国家を形成し，東アジア史の一翼を担うところから出発し，大航海時代を経て，東洋と西洋が出会い，世界史が形成される過程を講義する．

【キーワード】地域交流，世界史，国際関係

【履修上の注意】 高校で習った世界史，日本史の授業内容を復習しておくこと．

【到達目標】学生が将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し，日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする．

【授業計画】1. 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る **2.** 冊封体制と日本—日本国家の成立と東アジア史 (葭森) **3.** 邪馬台国と倭国 (東) **4.** 四-六世紀における東アジアの国際環境 (東) **5.** 飛鳥時代の国際環境 (東) **6.** 六朝隋唐国家と古代日本国家-律令制とは (葭森) **7.** 大陸・半島から日本へ (衣川) **8.** 東夷の小帝国-「日本」の自覚 (衣川) **9.** 中世日本と東アジアの交流 (衣川) **10.** モンゴル・ウルスの衝撃-世界史の序曲 (葭森) **11.** 大航海時代・黒死病・奴隷 (佐久間) **12.** プラントハンター・植物園・帝国の手先 (佐久間) **13.** イギリスのインド支配-熱帯をいかに飼い馴らすか-(佐久間) **14.** お茶・陶磁器・絹・銀そしてアヘン-貿易から戦争の時代へ (葭森) **15.** 期末試験 **16.** 地域交流と歴史-授業の総括 (葭森・東・衣川・佐久間)

【成績評価】授業への参加姿勢と期末試験で総合的に評価

【再試験】再試験はしない

【教科書】なし．授業でプリントを配布

【参考書】授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218780

【連絡先】

⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 15:00)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本経済と社会

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信·教授/社会創生学科

【授業目的】変動過程にある日本型経済システムの骨格を理解し，転換の課題を確認する．

【授業概要】かつて「経済大国」に駆け上がった日本経済は凋落過程にある．また，格差社会・無縁社会・限界集落など，多くの社会問題が一斉に激化している．その転換をいかに図るか，歴史経過を踏まえて考察する．

【キーワード】日本経済，社会システム，維持可能な社会

【到達目標】
1. 高度成長期に形成された日本経済の構造的な特質を理解できる．
2. 経済システムの転換をめぐる理念と政策の対抗関係を理解できる．

【授業計画】1. 日本経済のたそがれ 日本経済閉塞の指標 講義計画 **2.** 高度経済成長の時代 国民経済の急膨張と日本型システムの形成 **3.** 成長至上主義の社会 経済成長を可能にする条件 大衆消費時代 **4.** 高度成長方式の破綻 「東洋の軌跡」の終焉 破綻の内外要因 **5.** 「国際分業論」の欠陥 効率性を優先する加工貿易型の歪んだ経済構造 **6.** 大量生産・大量消費 経済成長と資源・環境問題 「公害列島」日本 **7.** 土建国家日本の構図 生産基盤整備を図る大型公共事業と推進体制 **8.** 経済大国と生活小国 資本効率の追求と福祉の低迷 低位な労働環境 **9.** 財政破綻と小さな政府 「日本株式会社」を牽引した政府財政の破綻 **10.** グローバル化の投影 先進国の積極的多国籍化と世界経済システム **11.** 新自由主義への傾斜 「政府の失敗」 市場原理主義への誘導 **12.** 新たな社会問題の噴出 各種格差の発現 「この国のかたち」への批判 **13.** 市場の失敗と各種 NPO 公共領域の劣化と社会的経済への期待 **14.** 維持可能な社会の展望 成長至上主義を克服する経済構造への転換 **15.** 期末試験 **16.** 総括:日本型システムの分解と Sustainable Society への道

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末筆記試験による．出席状況で補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220356

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

世界経済論 I
World Economy1

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
水島 多喜男·教授/社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は，その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し，その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた．講義では，この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う．

【授業概要】世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【キーワード】貿易理論，学説史，開発政策，政治経済学

【到達目標】学説史，学説，現状に係わる論点の理解．

【授業計画】1. 産業資本主義以前の世界経済 (遠隔地貿易と重商主義) **2.** 自由貿易論の系譜 (1)(Adam Smith の時代と貿易論) **3.** 自由貿易論の系譜 (2)(D.Ricardo の時代と貿易論) **4.** 自由貿易論の系譜 (3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論) **5.** 世界経済構造の批判的理解 (1)(K.Marx の「プラン」後半体系) **6.** 保護貿易論の系譜 (1)(途上国の TCC 批判：ドイツ歴史学派) **7.** Л е н и н『帝国主義論』: 世界大戦の原因 **8.** 「相対的安定期」·1929 年世界恐慌と「ブロック経済」 **9.** 自由貿易帝国主義論：Л е н и н『帝国主義論』批判 **10.** (通常上記の項目は 1 回で終わらない．以下の時間は延長の場合に使用する．)

【成績評価】筆記試験

【再試験】なし

【教科書】講義中に配付する資料を用いる．

【参考書】参照すべき図書は，適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220351

【連絡先】

⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

国際関係論 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
饗場 和彦 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 米ソがにらみ合った冷戦中は，明日にも第三次世界大戦が起き，核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった．89 年，米ソ首脳が握手をかわし，幸運にも人類は冷戦を脱した．ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが，まもなく幻滅が広がった．噴出する内戦 · 民族紛争と，拡大する貧富の格差．新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると，9/11 テロの衝撃が世界を揺るがした．そして今，アフガン戦争，イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され，国際社会はいったい，どこに行こうとしているのか．この授業では，こうした変動する現代国際社会の現実を知り，そこで生起する諸問題について，特に平和と戦争に関係する観点を中心に，考察する．

【授業概要】 国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ．授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも，筆者のフィールドワーク (紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など) や，新聞記者の経験などに基づく"教科書に載っていない"解説も試みたい．また，適宜，時事的な国際ニュースも取り上げ，ビデオやスライドも使う．国際関係論 I では，主に総論的，理論的，概念的な問題を扱う．

【キーワード】戦争，戦争

【履修上の注意】 国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており，一方だけ受講することもできるが，I で総論的，基礎的な解説を行い，II ではそれを元に各論的，発展的な内容になる面もあるので，連続して受講する方が望ましい．

【到達目標】 国際社会の性質，特徴を理解すること． 平和と戦争をめぐる現代の諸問題について，基本的な事実関係，実態を知ること．国際政治と国際法の基本について，とらえ方，原理，原則を把握すること．「冷静な現実主義」と，「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと．

【授業計画】 **1.** 国際社会の成り立ちと特徴 (1) **2.** 国際社会の成り立ちと特徴 (2) **3.** 国際法の基本 (1) **4.** 国際法の基本 (2) **5.** 国際社会を見る理論的枠組 (1) **6.** 国際社会を見る理論的枠組 (2) **7.** 国際安全保障の諸理論 (1) **8.** 国際安全保障の諸理論 (2) **9.** 民族とアイデンティティ (1) **10.** 民族とアイデンティティ (2) **11.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(1) **12.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(2) **13.** 戦争の違法化 (1) **14.** 戦争の違法化 (2) **15.** 補足と総括 **16.** 試験

【成績評価】 授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらうが，それらで出欠の確認も行う．試験は論述式 (短答式と長文論述併用) の期末試験を行う．持ち込み不可．成績は試験の結果に，出席状況，授業中の質疑応答などを加味して判断する．

【再試験】 行わない．ただし，僅差で合格点に達しない受講者には，一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える．

【教科書】 教科書は特に指定せず，授業中に配布するレジュメ，資料に沿って解説する．参考書などは適宜，紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220346

【連絡先】
⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30，金曜日14:30~ 16:00．この時間以外でも在室時は随時可．)

社会心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 健二 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 近年，社会心理学に対する期待は，著しく増大している．なぜなら，社会心理学は，人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて，近年生じている，さまざまな社会的行動の諸問題の解決に資する可能性を持っているからである．そこで，本講義では，人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする．

【授業概要】 人間の社会的行動の理解

【キーワード】社会的行動，自己，対人行動，集団行動，集合行動

【履修上の注意】 OHP，パワーポイント，紙資料，ビデオテープなどを使用する．私語厳禁．

【到達目標】 社会心理学における重要な研究結果，概念，方法論，近年の展開について理解すること

【授業計画】 **1.** イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 **2.** 社会的影響 (同調，服従，役割) **3.** 攻撃．暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? **4.** 援助．なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? **5.** 集団行動 (リーダーシップ研究．「プロジェクトX」視聴) **6.** 集合行動 (流言，うわさ，群衆行動) **7.** 言語・非言語的コミュニケーション (視線行動，パーソナル・スペースなど) **8.** 抑うつの社会心理学．認知の歪み，自己注目，相互作用モデルとの関連 **9.** 自己呈示と対人不安 **10.** 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- **11.** 対人魅力．近接性と好意，身体的魅力，類似性と好意，返報性 **12.** 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 **13.** 社会的認知 (原因帰属など) **14.** 自己意識，自己評価研究とその臨床領域への応用 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】 三分の二以上の出席した者に対して，期末試験結果による評価を行う．

【再試験】 行わない

【教科書】 なし

【参考書】 安藤清志他 1995 現代心理学入門 4 社会心理学 岩波書店，坂本真士・佐藤健二 2004 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218697

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:10~ 13:00，総合科学部3号館3S05室，satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 久子 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 文明が発達した現在では身体運動，スポーツ，ダンス等は健康のための手段として重要視されている．しかし，これらは健康のための手段として生まれてきたのではない．それぞれの運動やスポーツ，ダンスは各国，各地域の固有の文化として捉えることが出来る．本講義では，これらの内容及び歴史的な意味について概説し，現代社会における運動やスポーツ，ダンスを歴史社会学や文化人類学の観点から検討し，寄り深い認識を得ることを目的とする．

【授業概要】 生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついておく過程を歴史社会学の観点から分析し，現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する．

【キーワード】スポーツ，ダンス，生産形態，リズム

【到達目標】 生産形態とリズムが関わりをもつことを知り，ダンスやスポーツに与えてきた影響を知ることを到達目標とする．

【授業計画】 **1.** 運動と文化-スポーツ，ダンスの発生 **2.** 遊びと余暇 **3.** 生産形態とリズム (5 つのリズム感) **4.** 山村畑作民のリズムとスポーツ・ダンス **5.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス 日本 **6.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス アジア **7.** 海洋漁撈民のリズムとスポーツ・ダンス **8.** 狩猟民のリズムとスポーツ・ダンス **9.** 牧畜民のリズムとスポーツ・ダンス **10.** 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 **11.** スポーツの遊技性と競争性 **12.** 近代スポーツの成立 **13.** 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ **14.** 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ **15.** まとめ

【成績評価】 レポート 50%，授業時に行う小レポート 50%

【教科書】 特に使用しない

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218366

【連絡先】
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康行動論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
荒木 秀夫 · 教授 / 人間文化学科，小原 繁 · 教授 / 人間文化学科
的場 秀樹 · 教授 / 人間文化学科，佐竹 昌之 · 准教授 / 人間文化学科
三浦 哉 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 授業で習得した知識や態度が，自己の生活や社会活動に生かされ，健康で豊かな，そして安全な生活が営まれることを目標とする．授業は健康運動，生活行動，安全管理をテーマに進める．

【授業概要】 健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし，健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う．具体的には，健康障害や事故の予防，それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する．

【キーワード】健康問題，生活行動，運動 · スポーツ活動

【先行科目】 『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0, ⇒22 頁)，『健康体力科学の基礎』(1.0, ⇒23 頁)

【関連科目】 『地域健康福祉論』(0.5, ⇒201 頁)，『健康教育学』(0.5, ⇒69 頁)，『健康心理学』(0.5, ⇒81 頁)

【到達目標】
1. 地域社会の生活環境の創造への貢献
2. 人間科学に関わる幅広い知識の理解

【授業計画】 **1.** 健康とは **2.** 健康と運動 **3.** 健康運動の方法 **4.** スポーツと健康 **5.** 薬物と健康 (服薬者の運動実施と注意点) **6.** 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 **7.** 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 **8.** 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 **9.** 発育発達期の身体的特徴，心理的特徴 **10.** 発育発達期に多いケガや病気 **11.** 運動中に多い病気とその予防 **12.** 運動中に多いケガとその予防 **13.** 現代の健康 **14.** 環境と健康 **15.** これからの健康 **16.** 総括

【成績評価】 レポート，小テスト，授業の取り組み方などで総合的に評価する．

【再試験】なし
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220344
【連絡先】
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域健康福祉論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 俊夫・教授 (併任)/大学開放実践センター

【授業概要】少子高齢化が進む日本社会にあって，医療費の増加に歯止めをかけ，高齢者の QOL を維持していくことは極めて重要・至難な社会的課題である．この健康福祉に関して，国の施策方針から地域現場における具体的な実践例まで，さまざまなレベルにおける取組を学習し，その成果と課題について考察する．さらに，今後の健康福祉政策のあるべき姿について考えていく．
【キーワード】**健康福祉，メタボリックシンドローム，介護予防，運動指針**
【授業計画】**1.** 地域健康福祉概論 **2.** アメリカと日本における健康福祉政策 **3.** 健康福祉を担う指導者 **4.** メタボリックシンドロームと健康福祉政策 **5.** 運動基準・運動指針 **6.** 介護予防・高齢者医療と健康福祉政策 **7.** 県レベルにおける健康福祉への取り組み **8.** 市町村レベルにおける健康福祉への取り組み **9.** 民間企業・団体における健康福祉への取り組み **10.** 具体的な実践事例 1(生活習慣病と運動疫学) **11.** 具体的な実践事例 2(健康づくり運動とカウンセリング支援) **12.** 現場の声を聞く 1(メンタルヘルスと運動の効果) **13.** 現場の声を聞く 2(ストレスアセスメントと運動指導) **14.** 地域健康福祉の未来像を探る **15.** まとめ
【成績評価】出席状況 (40%)，小テスト授業内レポート (10%)，期末試験 (50%)
【再試験】しない
【教科書】なし
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220354
【連絡先】
⇒ 田中 (088-656-7280, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

グローバル社会論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樋口 直人・准教授/社会創生学科

【授業目的】現代を生きる者は，どこに住もうがグローバル化の影響を免れることはできない．では，それはどのような影響であり，具体的には何が生じるのか．この授業の最大の目的はこうした問いに答えることにある．さらに，グローバル化は国民からなる国家体制を大きく変えつつある．では，国家はなぜどのように変化を迫られているのか．こうした問いに対して，大きくは身近な生活のグローバル化，環境のグローバル化，人の国際移動からみたグローバル化に焦点を当てて議論していく．
【授業概要】グローバル化する社会が抱える問題について，社会学の概念を用いてアプローチする．特に徳島のような地域では，グローバル化といってもイメージがわきにくいので，画像や映像資料の解説をできる限り取り入れて理解を助けるようにしたい．
【授業計画】**1.** イントロダクション **2.** グローバル化とは何か:メキシコからみた風景 **3.** 大量生産の時代としての現代 **4.** 大量生産と成長の限界 **5.** 食卓の裏側:『ダーウィンの悪夢』とグローバル化する食卓 **6.** グローバルとローカル:『モンド・ヴィーノ』と食をめぐる 2 つの道 **7.** 私たちは誰とつながっているのか:市場経済，環境，フェアトレード **8.** 新国際分業と世界都市の形成 **9.** メディアとグローバル化 **10.** 南北国境の 3000 キロ:メキシコとアメリカの移民問題 **11.** メキシコ化するアメリカ:『ブレッド&ローズ』と移住労働者 **12.** グローバル化する移民:(1) 南米の日本 **13.** グローバル化する移民:(2) 日本の南米 **14.** グローバル化する移民:(3) 日本の南米人と経済危機 **15.** グローバル化する移民:(4) 日本の少子高齢化と移民受けいれ
【成績評価】成績評価はレポートと授業中の課題による．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートが 60 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．
【再試験】無
【教科書】教科書は用いないが，関連する文献リストを初回に配布する．また，教科書の代わりに毎回レジュメを配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．
【参考書】参考書 コーエン&ケネディ『グローバル・ソシオロジー』1・2 巻平凡社，2003 年
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220341
【連絡先】
⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

地域創生論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信・教授/社会創生学科

【授業目的】持続可能な地域づくりの基礎理論を提示する．
【授業概要】の講義は「地域科学」への入門にあたる．地域社会の構成と動態に関する基礎的な知見を獲得するとともに，総合的な地域問題を解決して持続可能な地域をつくるための理論と手法を学ぶ．
【キーワード】**地域づくり，地域問題，地域政策**
【到達目標】
1. 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる．
2. 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる．
【授業計画】**1.** 地域問題と地域づくり 地域問題の諸形態 講義計画 **2.** 地域問題の総合的性格 地域問題の相互関連 地域科学の課題と構成 **3.** 地域問題と地域経済 地域問題の主要な発生源としての地域経済 **4.** 地域経済の構成と変動 混合経済としての地域経済 公共領域の役割 **5.** 新自由主義政策と地域 成長至上主義型の破綻 新自由主義政策の発動と住民生活 **6.** グローバル化と地域 世界システムの再編にともなう地域社会の変動 **7.** システム転換の基軸 政治・経済システムの進路をめぐる対抗関係の位相 **8.** もう一つの世界は可能 システム転換の新たな主導力 (途上国・NGO・社会的経済) **9.** 分権時代の地域政策 地方自治の仕組みと政策主体 (行政・議会・住民組織) の役割 **10.** 地域政策の理念と体系 地域政策の理念と体系に関する欧州と日本の比較 **11.** 政策過程への住民参加 公共領域を再編する政策 政策の計画・執行過程と住民 **12.** 徳島県の住民参加状況 公共事業の動向に働きかける徳島県の住民運動の経過 **13.** 転換期の地域づくり (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の地域づくり (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域創生論の学び方 地域科学の近年の動向と研究課題
【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末に提出を求めるリポートの結果によって単位を認定する．
【再試験】再試は行わない．
【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．
【参考書】中嶋信『集落再生と日本の未来』自治体研究社，2010 年
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220355
【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二・教授/社会創生学科

【授業目的】地域の開発，特に地域経済，地域環境や地域システムに新しい方向性を出すに必要な知識や考え方を提供するものである．地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策の重要性や意義を理解させる．
【授業概要】国際化のなかで，地域経済や地域システムを把握し考察して行くことの意味と重要性を明らかにする．それを理解した上で，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察させる．
【キーワード】**地域経済，地域環境，地域システム，地域開発，地域づくり**
【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムへの理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて理解し考察できる能力を培う．
【授業計画】**1.** ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う再編成 **3.** 地域経済の再編成 **4.** 地域システムの再編成 **5.** 環境問題の変容と新たな状況 **6.** 環境問題と循環社会をめぐる課題 **7.** 環境と地域経済をめぐる状況 **8.** 新たな社会とそれへの対応 **9.** 環境問題への新たな対応 **10.** 地方自治体と企業の環境問題への取り組み **11.** 地域開発をめぐる問題 **12.** 地域の再生とまちづくり **13.** 環境の再生と地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ 1 **16.** まとめ 2
【成績評価】講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40 %)，もしくはレポートにより評価する．
【再試験】なし
【教科書】北村修二『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218814
【連絡先】
⇒ 北村 .
【備考】隔年開講のため，平成 23 年度 (地域政策論 II を開講) は開講されない．国際社会での地域的諸問題や環境問題に関心があり，それらの課題を勉強する意志がありそれを実行できる人は参加できる．オフィスアワー 随時．研究室

地域文化論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一・教授 (併任)/社会創生学科

【授業目的】 文化人類学の中心的なテーマについて講義する．世界の諸民族の事例を通して，人間の文化・社会の多様性と普遍性について考察し，異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である．グローバリゼーションの中での現代文化・社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい．

【授業概要】 文化人類学の基本問題

【キーワード】文化，現代社会，グローバリゼーション

【関連科目】 『地域文化論 II』(0.5, ⇒60 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．フィールドワークを「疑似体験」しながら，文化現象の意味について考えてもらいたい． なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】 人間の文化・社会の多様性・普遍性について理解し，異文化 (自文化) の構造や意味を客観的・相対的にとらえることができる．

【授業計画】 **1.** 文化人類学のパースペクティヴ **2.** 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ **3.** 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 **4.** 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 **5.** 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ **6.** 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム **7.** ジェンダーの人類学-男になる・女になるということ **8.** 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって **9.** メディア・映像の人類学-文化の実像と虚像 **10.** グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム **11.** 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 **12.** ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より **13.** 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック・アイデンティティ **14.** 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか **15.** 「転換期」の時代の文化人類学 **16.** まとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】 なし

【教科書】 教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】
- ◇ 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる．個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
- ◇ 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂，2005 年
- ◇ 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店，2003 年
- ◇ 山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣，2008 年

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218849

【連絡先】
⇒ 髙橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~ 13時)

【備考】 本年度開講 (隔年開講)

共生社会論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】 社会学の立場から社会福祉論・共生社会論を論じる．現代社会は福祉社会である．しかし，「社会リアリティ」の変化にともない，「連帯」の在り方が変わってきている．幅広い市民的連帯がリアリティを失い，「選ばれた人間」の中での「連帯」が「公正」であるように思われてきている．その感覚のもとで許される「個人のニーズ」だけが，「社会のニーズ」に転換を許容されるようになってきている．また，「生産主義社会」から「消費社会」に変化する中で，「労働倫理」の意義は低下し，クリエイティブな労働者になれない場合は，「立派な消費者」になることが次の目標となってきている．かつて，労働に不適であることが福祉の対象者の条件であったが，いまや，消費者としては障害者も平等に扱われるようになり，最終排除対象者は，意志をもたぬもの，意志を適切に表示できないものになってきている．この流れの先に，共生社会がある．共生社会の光と影を共に見つめていきたい．同時に，社会福祉の現代社会的基盤を理解しよう．

【授業概要】 社会学の立場から考える社会福祉論と共生社会論．社会のニーズと個人のニーズ．資本主義を支えるものとしての福祉社会．消費社会への変化の意味．労働のフレキシビリティの増大の意味．近代的労働倫理 (勤勉さ，従順さ・・) を守意味の変化．グローバライゼーション．産業の機械化．代替不能性の高い労働と低い労働．これらのことを道具に，現代社会的側面から福祉社会を考える．

【キーワード】福祉社会学，社会政策，援助，共生，セルフヘルプグループ，インタビュー論，社会福祉と現代社会

【先行科目】 『市民活動論』(1.0, ⇒75 頁)

【履修上の注意】 教科書は生協に取り寄せる予定 (定価:1700 円)．古本でもよいが，必ず入手すること．また，参考書の一部は効果だが読み甲斐がある．出欠確認は毎回行う．とりわけ，初回のオリエンテーションは重要なので，けっせきしないようにせよ．欠席者には理由を等．なお，全学共通教育では，「ボランティア論 (木曜 5・6 限，前期) が，関連科目である．なお，受講学生人数にもよるが，複数会の小論文執筆が課せられることを覚悟して欲しい．大学での学習成果は，書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ．だいたいのことを書いて満足するのではなく，質のものを志して書いてほしい．また，ダイソー等での買い物などの宿題も課せられる．人数がすくなければ，裁判所見学 (以下に福祉の対象者と被告の層が重なっているかの実地確認作業) も行う．日本の現状 (消費社会化，低所得労働者のアンダークラス化＝ジグムント・バウマン＝) を身をもって看取してもらう必要があるからだ．

【到達目標】
1. 現代社会を学ぶことと，社会福祉を学ぶことがどのように繋がっているのか講義する．
2. より具体的には，(1) 現代社会の構造と自分の人生選択の困難さを結びつけて理解する．
3. (2) 現代の困難さに，一定の合理性があることを理解したうえで，アルターナティブな未来を構想できるようになる
4. アルターナティブな未来 (例:労働と切り離された収入) がはらむ問題に気づくことができる．

【授業計画】 **1.** 樫田によるイントロダクション．現代社会論として福祉と共生をとらえる． **2.** 消費社会とグローバリゼーション．労働はどう変わってきているのか． **3.** ウエルビーイングタウン:社会福祉って何だろう． **4.** 社会的ニーズと個人的ニーズの問題．対立?．個人的ニーズの社会的構成?． **5.** 障害者福祉のしくみ **6.** 高齢者福祉のしくみ **7.** 児童福祉のしくみ **8.** 虐待について (児童虐待と高齢者虐待)．虐待とエスノセントリズム． **9.** 新しい貧困について．ニュープアとアンダークラス (ジグムント・バウマンの主張) **10.** 犯罪と疾病と社会福祉．裁判所見学 (人数的に可能な場合)． **11.** 在宅医療の問題を考えよう **12.** セルフヘルプ・グループ論．ヨブ記から考える． **13.** 準備レポート草稿の班別検討会．考え抜く態度の錬成 (1) **14.** 準備レポート講評．総合科学と現代社会．『フーコーの穴』を題材に． **15.** 最終レポート草稿の班別検討会)．考え抜く態度の錬成 (2) **16.** 最終レポート講評．総合科学と社会福祉．『< 生 > の社会学』を題材に．

【成績評価】 平常点 (出席を含む)+レポート (20%，80%の比率) ※準備レポートはコメントを付けて返却し，点数上は最終レポート (第 2 回目のレポート) のみ加点対象とする見込み．

【再試験】 行わない

【教科書】 岩田正美ほか著 1999『ウエルビーイングタウン 社会福祉入門』有斐閣

【参考書】
- ◇ ジグムント・バウマン著 1998 ＝ 2008『新しい貧困-労働，消費主義，ニュープア』青土社．
- ◇ 藤村正之著 2008『< 生 > の社会学』東京大学出版会
- ◇ 井上俊・長谷 正人編 2010『文化社会学入門』ミネルヴァ書房
- ◇ 『福祉社会事典』弘文堂
- ◇ 斉藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房．
- ◇ 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
- ◇ 石川准・倉本智明編，2002，『障害学の主張』，明石書店．
- ◇ メイナード著，樫田・岡田訳 2004『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房．
- ◇ 杉野昭博『障害学 理論形成と射程』東京大学出版会．
- ◇ 重田園江『フーコーの穴 統計学と統治の現在』木鐸社．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220343

【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

メディア情報論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】 情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する

【授業概要】 主にメディアに流通する複製芸術を中心として図版，映像資料等を紹介解説していく． 授業中に小レポートを課すこともある．

【キーワード】メディア，アート，映像，写真

【到達目標】 メディア芸術の理解

【授業計画】 **1.** 写真-カメラオブスキュラ **2.** 写真-決定的瞬間 **3.** 写真-ニューカラー **4.** 映像と身体 **5.** 映像と記憶 **6.** 実験映像 **7.** 実験的アニメーション **8.** 映画-初期 **9.** 映画-ハリウッドシステム **10.** 映画-物語以後 **11.** プロモーションビデオ **12.** アニメ **13.** イ

ンタラクション **14.** ゲーム-インターフェイス **15.** ゲーム-物語-ライトノベル **16.** ネットワーク,AR, ミクスドリアリティ

【成績評価】出席，小レポート

【再試験】実施せず

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219016

【連絡先】

⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

芸術文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
片岡 啓一 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で，しかも変化に富んだものである．多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し，世界中にはさまざまな音楽が存在している．この授業では，民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し，そのことを通じて，音楽文化・民族性・音楽の本質等について，一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている．

【授業概要】民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義．

【キーワード】民族音楽，音楽学，音楽鑑賞，民族性，異文化理解

【履修上の注意】同授業は講義形式なので受講者は受け身的になりがちであるが，できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい．なお，共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが，その内容は同授業と相当程度重複しているので，「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること．先行科目・関連科目については具体的な科目名は書いていないが，芸術分野・人文科目分野等の科目群はすべて該当すると考えていただいてかまわない．同授業は，国際文化コースの「コース専門選択科目」の単位として履修することもできるし，「総合科学テーマ科目」として履修することも可能である．昨年度に初回の授業をマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施したが，同室で無理なく受講できる人数は 50 名程度であるが，「総合科学テーマ科目」に指定されていることから 90 名程度の受講者となり，加えて旧体制の受講者 (「世界の諸民族の音楽」) が 10 名程度同時受講したので，合計 100 名ちょっとになり，補助用のパイプ椅子を使ってすし詰め状態で開講した．パイプ椅子のみの学生が同じ人にならないようにローテーション配置を考え，極力配慮したが，それでも学生にとっての身体的な負担は大きかった．今年度は別のもっと広い部屋で同授業を行うことを相当真剣に考えたが，授業内容の性格上，他の部屋で行うことはやはり無理なので，昨年度同様「音響スタジオ」にて実施することにした．今回の具体的な対応の方法としては，補助机・補助椅子を使うと，普通の状態で受講できる学生は 50 名程度なので，毎回の授業時間の前半と後半とで，残りのパイプ椅子のみの学生との座席の交代を行うことによって学生の身体的な負担を少なくしようと考えている．そのような事情があることから，同授業を受講希望している学生で，他の「総合科学テーマ科目」を受講することでもかまわないと思う方は，できるだけそういう方法をとっていただけると大変ありがたいと考えている．

【到達目標】世界にはさまざまな音楽文化が存在すること，それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し，音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く．

【授業計画】1. 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために，講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる． **2.** 1 週目 授業の趣旨説明を行い，現代の音楽文化の特徴について言及する． **3.** 2 週目 日本の音楽． **4.** 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽． **5.** 9-13 週目 インド・西アジアの音楽． **6.** 14 週目 アラブの音楽． **7.** 15 週目 総括授業 授業内容全体について，反省・補足・意見交換等を行う． **8.** 授業内容についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが，若干のずれが生じることもあるので，その点はあらかじめご了承願いたい．

【成績評価】試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．レポートは提出期限を厳守すること．成績評価には，授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される．

【再試験】行わない．

【教科書】この授業では教科書等は使用しない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218553

【連絡先】

⇒ 片岡 (201, 088-656-7161, kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】同授業は，平成 23 年度は前期・金曜・5-6 講時にマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」にて実施する．オフィスアワーは前期・木曜日の昼休み．片岡研究室 (マルチメディア A 棟 2 階) のメールアドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．なお，注意のところでも書いたように，授業を行う部屋がそれほど広くないので，別の「総合科学テーマ科目」を選択してもかまわないと思う方は，できればそういう方法をとってくださると大変ありがたい．

情報社会と情報倫理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化社会，知的所有権とプライバシー，情報危機管理

【授業概要】この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する．受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し，収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり，情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める．

【キーワード】情報リテラシー

【到達目標】現代社会における人，企業，物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める．

【授業計画】1. 1. 情報化社会の到来 1.1 「情報」とは何か，1.2 コンピュータが動作する仕組み **2.** 1.3 ネットワークによる通信の仕組み，1.4 [情報の価値] と [情報量]，[情報伝達] **3.** 1.5 情報化社会の到来，1.6 社会の情報化の進展と，文化 · 人間性の変化，レポート 1 **4.** 2. 知的所有権と プライバシー 2.1 著作権 **5.** 2.2 そのほかの知的所有権，2.3 プライバシー，レポート 2 **6.** 3. 情報倫理 3.1 情報倫理はどうして「倫理」なのか，3.2 情報化社会における原則 **7.** 3.3 情報倫理に必要な知識，3.4 情報ネットワークを利用するときの判断のあり方，レポート 3 **8.** 4. 情報危機管理 4.1 情報危機管理がなぜ必要か，4.2 現実のシステム運用上の事件と，その原因と対策 **9.** 4.3 運用ポリシーと利用者の価値観 **10.** 4.4 運用規約と管理組織，レポート 4 **11.** 4.5 不正アクセスとセキュリティ **12.** 5. ケーススタディ **13.** 5.1 発表と評価 1 **14.** 5.2 発表と評価 2 **15.** 5.3 発表と評価 3 **16.** まとめ

【成績評価】レポートとケーススタディの研究発表で総合的に評価する．

【教科書】教科書:辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220349

【連絡先】

⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 24時間(yos@ias.tokushima-u.ac.jp))

情報と職業
Information and Profession

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化が産業，社会へどのように影響しているかを理解する

【授業概要】情報システム，情報化のビジネスへの影響，情報技術の企業での利用状況，電子商取引，インターネットビジネス，情報産業，情報技術の人材育成，情報化の雇用と職業への影響などについて，受講生に主体的に調査，探求をしてもらい発表，議論をすることで理解を深める． 情報システムの発展という観点から，計算機の発展の歴史について解説する．

【キーワード】情報社会，ネット時代の職業，働く環境，*ICT* リテラシー，地域情報化

【到達目標】情報社会におけるビジネス，職業に関する基礎知識を学び，職業観，就労・労働の意識の形成，キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー，ICT 利活用力を身につける．

【授業計画】1. 情報システムの概略 **2.** 情報システムの歴史 **3.** 情報システムの未来 **4.** 情報技術と社会システム **5.** 情報化のビジネスへの影響 **6.** ネット社会と企業経営 **7.** 地域情報化の事例研究 1 徳島:彩り事業 **8.** 地域情報化の事例研究 2 島根:Ruby City MATSUE プロジェクト **9.** 電子商取引とインターネットビジネス **10.** グループ発表 1 情報社会におけるビジネスのあり方について **11.** 情報化の雇用への影響 **12.** 情報化の職業への影響 **13.** 情報社会と組織変革 **14.** 情報社会における働き方 **15.** グループ発表 2 情報社会における職業観について

【成績評価】授業貢献及び試験

【再試験】実施せず

【教科書】授業中に適宜指示

【参考書】

- ◇ 神沼靖子 (編著)「情報システム基礎」オーム社 2006
- ◇ 駒谷 昇一 (他著)「情報と職業」オーム社 2002
- ◇ その他授業中に適宜指示

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218715

【連絡先】

⇒ 吉田 (088-656-7897, yos@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】e ラーニングを併用する

情報の数理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中山 慎一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】今日，コンピュータの高性能化，および，通信網の整備により，インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている．今後，あらゆる家電製品や携帯電話などが，ネットワークへの接続を前提に作られるようになり，ネットワークが生活の基盤になるであろう．よって，ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ることは，将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる．このような観点から，情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする．

【キーワード】**通信ネットワーク，インターネット，プロトコル，*TCP/IP***
【先行科目】『計算機概論』(1.0, ⇒193 頁)
【履修上の注意】2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識が必要です．
【到達目標】ネットワークに関する知識や設計技法の習得，および，それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする．
【授業計画】**1.** 情報通信の発達過程 **2.** ネットワークの種類と形態 **3.** ネットワークに関する基礎技術 **4.** 通信プロトコル 1 **5.** 通信プロトコル 2 **6.** 伝送制御手順 **7.** 通信サービルと技術 1 **8.** 通信サービスと技術 2 **9.** ネットワークの分析 1 **10.** ネットワークの分析 2 **11.** ネットワークの設計 1 **12.** ネットワークの設計 2 **13.** ネットワークセキュリティ 1 **14.** ネットワークセキュリティ 2 **15.** ネットワークセキュリティ 3
【成績評価】レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する
【再試験】行う
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220348
【連絡先】
⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

現象の数理

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する．また，それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し，現象の数学問題への定式化および意味づけを行う．さらに，数理モデルの妥当性や説明・予測・制御等の初等的方法について理解を深める．
【授業概要】現象解析のための基本事項について解説する．
【キーワード】**自然現象の数理，社会現象の数理，現象解析の数理，微分積分学，微分方程式**
【先行科目】『微分方程式 II』(1.0, ⇒195 頁)，『微分方程式 I』(1.0, ⇒194 頁)
【履修上の注意】微分積分学の基本事項を履修しておくこと．授業には積極的に取り組むこと．
【到達目標】数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する．
【授業計画】**1.** 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1．モデル化のための枠組み **2.** 人口問題と成長モデル **3.** 薬の吸収モデル **4.** 水の加熱と冷却の数理モデル **5.** ロケットの飛行モデル **6.** 抑制された成長モデル **7.** 広告に対する売り上げの反応モデル **8.** 美術品の贋作判定モデル **9.** 電気回路モデル **10.** 新古典派の経済成長モデル **11.** 五大湖の汚染判定モデル **12.** 個人の消費行動モデル **13.** 惑星の運動モデル **14.** 化学反応速度モデル **15.** 期末試験 **16.** 総括
【成績評価】授業への取り組み状況，演習，レポート，試験などをもとに総合的に評価する．
【再試験】無
【参考書】「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220345
【連絡先】
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

数学と社会

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
片山 真一・教授/総合理数学科，大渕 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】・代数的構造についての基礎及びその様々な場に於ける応用についての基礎に関する講義を行う．講義では代数構造の代表的な分野である代数的整数論と代数幾何学の初歩とその応用である暗号理論，符号理論の解説を行う．・目標は群，環に於ける準同型定理の理解，有限体の定義の理解，線形符号の定義とシングルトンの不等式の理解である (大渕)．また公開鍵暗号系の仕組みと剰余類群の応用として，RSA 暗号系を理解 する (片山)．
【授業概要】・代数的構造に関する基礎理論 (群・環・体及び整数論) についての基本的な知識及び応用 (符号理論・暗号理論) への理解が深まるように講義を行う．・群論の初歩，基礎的な環論及び体論を解説する．これを受けて線形符号に関する初歩的な一般論を講義する (大渕)．また公開鍵暗号系に関する基礎理論を講義する (片山)．
【キーワード】**符号理論，暗号理論，現代代数学**
【先行科目】『代数基礎 I』(1.0, ⇒193 頁)，『代数基礎 II』(1.0, ⇒193 頁)
【関連科目】『代数学 I』(0.5, ⇒195 頁)，『代数学 II』(0.5, ⇒195 頁)
【到達目標】代数的構造に関する基礎理論の理解と符号理論と 暗号理論への応用
【授業計画】**1.** 群の定義 **2.** 準同型定理 **3.** 環の一般論 **4.** 準同型定理 **5.** 有限体概説 **6.** 符号の定義 **7.** 線形符号 **8.** シングルトンの不等式 **9.** 暗号の歴史 **10.** 対称鍵暗号系の仕組み **11.** 計算困難性 **12.** 非対称鍵暗号系の仕組み **13.** RSA 暗号系 **14.** デジタル署名の仕組み **15.** RSA 署名およびまとめ **16.** 総括授業
【成績評価】出席および提出レポートによる総合評価を行う．
【再試験】無
【教科書】特に指定しない．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220350
【連絡先】
⇒ 片山 (1304, 656-7228, katayama@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 大渕 (088-656-7297, ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

資源エネルギー論
Natural Resources and Energy

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
伏見 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．
【授業概要】日本・世界のエネルギー需給について現状の分析をする．エネルギー需給について開発の現状について解説し，将来取りうる政策について議論する．
【履修上の注意】日ごろから新聞を読んでおくこと．講義ノートを用意すること．予習，復習の時間を十分に確保すること．各学科で学んできた事柄を活用して建設的な議論が進められることを期待する．
【到達目標】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．そのためにデータを正しく読むことができる．冷静な議論ができる．
【授業計画】**1.** 序論: 基本用語，単位の解説．グラフ，統計データの見方． **2.** エネルギー需給の変化 (日本のエネルギー需給) **3.** 日本のエネルギー供給 I (一次エネルギー源 化石燃料) **4.** 日本のエネルギー供給 II (一次エネルギー源 非化石燃料 (原子力)) **5.** 日本のエネルギー供給 III (一次エネルギー源 非化石燃料 (再生可能エネルギー)) **6.** 日本のエネルギー供給 IV (二次エネルギー 電力) **7.** 日本のエネルギー供給 V (二次エネルギー ガス・熱・石油) **8.** 日本のエネルギー供給 VI (二次エネルギー 熱・石油) **9.** 国際エネルギー動向 エネルギーコスト **10.** エネルギー需給に関する政策 **11.** エネルギー開発の動向 原子力政策 **12.** 輸送部門のエネルギー供給政策 **13.** 新エネルギーに対する政策 **14.** エネルギー安全保障 **15.** 総合討論 **16.** 総括
【成績評価】レポート課題 (40%)，総合討論 (10%)，期末レポート (40%)，出席 (10%)
【再試験】なし．
【教科書】適宜指示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220347
【連絡先】
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉に貼っている予定表の空欄時間帯．)

環境マネジメント

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】さまざまなレベルの環境問題や環境管理手法である環境マネジメントシステムについて学び，について理解するについて学習し，低炭素・循環型で環境負荷の少ない社会を構築するための個人のライフスタイルや企業の取り組みが，よい地域環境を生み出し，それはさらによりよい地球環境を創造することにつながることを理解する．
【授業概要】講義の前半では環境社会検定でも扱われる内容について総合的に理解し，後半では環境マネジメントを実行するシステムを学ぶ．そして最後に一人一人が日常生活の中での環境マネジメントを考える．
【キーワード】**環境，生態系，*ISO14000* シリーズ**
【授業計画】**1.** 環境マネジメントとは **2.** 持続可能な社会に向けて **3.** 地球人としてのわたしたち **4.** 環境と経済・社会 **5.** わたしたちの暮らしと環境 **6.** 環境と共生するために **7.** 中間試験 **8.** 環境マネジメントシステム **9.** ISO14000 シリーズ **10.** 伝統的な環境マネジメント **11.** 共生環境のマネジメントシステム **12.** 個人の環境マネジメント:チェック **13.** 個人の環境マネジメント:PDCA **14.** 個人の環境マネジメント:アクションプラン **15.** 期末試験 **16.** 総括授業
【成績評価】出席 (原則遅刻は配点しない)，中間試験，レポートを総合して評価する．
【再試験】しない
【教科書】なし
【参考書】講義の中で紹介する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220342
【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04, 088-656-7271, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境倫理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科，山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】環境倫理学を通じて，倫理学の基本的な考え方を理解する．現代社会における「倫理的問題」は，単に思想や価値観の問題であるだけでなく，「社会的問題」でもあることを理解する． 環境倫理学のトピックス，その思想的背景，現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ，現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける． その上で，自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける． レポートをもとに意見を発表し，討議する力を身に付ける．

【授業概要】「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い，そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する．

【キーワード】**哲学，倫理学，環境，社会と自然**

【到達目標】
1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．

【授業計画】**1.** イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) **2.** 環境倫理学の系譜 (1):環境倫理学成立の背景:1950~ 60 年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) **3.** 環境倫理学の系譜 (2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想 (山口) **4.** 環境倫理学の系譜 (3): 「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟 (山口) **5.** 環境倫理学の系譜 (4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) **6.** 地球温暖化問題の成立 (1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで (山口) **7.** 地球温暖化問題の成立 (2):フィラッハ会議後の展開:地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) **8.** 地球温暖化問題の成立 (3):IPCC の成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索 (山口) **9.** 地球温暖化問題の成立 (4):京都議定書とその後の展開 **10.** アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる．シャロー・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を，その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造，エコフィロソフィーとエコソフィー，自己実現との関連で講じる．(石田) **11.** マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる．ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判，位階性の批判，自然の進化と社会の進化，リバタリアン的な地域自治主義を講じる．(石田) **12.** ドイツの環境政策を講じる．1970 年代以降のドイツの環境政策を概観した上で，地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策，ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴッパータル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター 4」を講じる．(石田) **13.** ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる．自然は果たして権利の主体になりうるか．人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か，等を論じる．(石田) **14.** ドイツの環境思想家マイアー=アービッヒの『自然との和解への道』で述べられた，実践的自然哲学を講じる．政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること，自然の理解は広い意味で法の中で論じられること，人間中心主義に対する哲学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ，自然中心主義的世界像から，自然としての人間，自然の法共同体を講じる．(石田) **15.** 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション (石田)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2 点 ×15=30 点，レポート 2 回＝ 70 点．

【再試験】無

【教科書】その都度資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218491

【連絡先】
⇒ 石田 (2328，088-656-7147，mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)
⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで)，088-656-7615，yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

環境政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
栗栖 聡・教授/社会創生学科

【授業目的】環境政策について体系的に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．

【授業概要】環境問題，環境政治・政策学，現代社会の基本的枠組みを検討し，ついで，環境政策に関して，その理念，手法，決定過程を検討する．さらに，環境基本法を踏まえつつ，大気，水，自然環境に関する規制の内容，循環型社会形成のための政策について論じる．最後に，市民参加の観点から環境影響評価の仕組みを検討する．

【到達目標】環境政策の体系的理解

【授業計画】**1.** 環境問題とは **2.** 環境政治・政策とは **3.** 環境問題と国家の役割 **4.** 環境政策の理念 **5.** 環境政策の手法 (総論) **6.** 環境政策の手法 (規制，経済的手法，市民参加等) **7.** 環境政策決定過程 (議会，行政) **8.** 環境基本法の制定過程と概要 **9.** 規制 (大気，水，土壌) **10.** 規制 (自然環境保全) **11.** 循環型社会形成政策 (廃棄物処理) **12.** 循環型社会形成政策 (排出削減) **13.** 環境影響評価 (事業アセス) と市民参加 **14.** 環境影響評価 (戦略アセス) と市民参加 **15.** 試験 **16.** まとめ

【成績評価】平常点 (20%) と期末試験 (80%)

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業中に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218487

【連絡先】
⇒ 栗栖 (2207-1，0886567185，kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

自然保護論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し，どのような取り組みを行えば良いか，またどのようなことに留意すれば良いかについて考える．

【授業概要】自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう．しかし，野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等，生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない．また，絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については，その正確性が絶えず議論になる．この授業では，自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ，どのように考えていくべきか解説する．

【キーワード】**自然保護，野生生物，環境保全**

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】**1.** 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい **2.** 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて **3.** 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 **4.** 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 **5.** 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え **6.** 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 **7.** 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い **8.** 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル **9.** 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 **10.** 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 **11.** 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園，世界遺産 **12.** 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 **13.** 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 **14.** 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軋轢 **15.** 期末試験

【成績評価】授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート，資料持ち込み可) により評価する．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】適宜紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218670

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7222，satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

生態学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生態学の基本や面白さを理解する．

【授業概要】ヒトとして生活をする上で知っておいた方がよい生態学の知見，フィールド調査や研究を行う上で重要となる生態学的な基礎知識について，実例をあげながら講述する．

【キーワード】**生物，行動，生態系**

【到達目標】生態学の基本用語を理解する．

【授業計画】**1.** 講義内容の説明 **2.** 繁殖行動の解発因 **3.** 配偶者選択 **4.** 行動の進化的安定戦略 **5.** 生存曲線，個体群の増殖 **6.** 個体数推定，生命表 **7.** 生態的地位，生態系，すみ分け **8.** 種間関係，群集の多様性 **9.** 捕食－被捕食関係，最適餌サイズ **10.** 擬態，r-K 戦略 **11.** 生物の多様性，メタ個体群 **12.** 自然保護を考える **13.** 生態学的研究の実例 **14.** 生態学の応用的研究の実例 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 50 点 (原則遅刻は配点しない)，レポート 50 点

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218743

【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

総合科学実践プロジェクト

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
山城 考・准教授/社会創生学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科

【授業目的】専門を異にする教員が，共通もしくは複数のテーマで受講生とともに授業を運営し，実践的で総合的な学習姿勢を体得する．授業を通して，文系，理系相互の視点からものを考え，企画・調査し，討論・発表によって総合科学の実践力を養う．

【授業概要】総合科学に関わる諸問題を，文系，理系の視点から考え実践的に解明をおこなってゆくワークショップ方式の授業である．欧米の文学や比較文化，植物や環境を専門とする 4 名の教員が，受講者とともに授業の内容を企画し，共通もしくは複数のテーマを設定して，文献調査やフィールドワーク (例:吉野川干潟観察プログラム・流域水環境分析プログラム・環境保全運動考察プロジェクトなど複数のテーマで開設) を通して文系・理系相互のもしくは融合した視点から，考察を深め，最終的にはその成果を発表する．

【到達目標】

1. 文系，理系双方の考え方を理解し融合させる．
2. テーマの設定，フィールドワークの実施や文献の調査等を通して実践的な企画力を養う．
3. 文献の購読や討論を通して論理的な思考や理解を高め，成果発表の能力を高める．

【授業計画】1. 以下の計画はおおよその目安であり，受講者の志向や関心，文献調査やフィールドワークなどの動向を見ながら 16 回の授業を運営してゆく． **2.** オリエンテーション **3.** テーマの設定について討議 (2 回程度) **4.** 授業の運営について討議・企画 (2 回程度) **5.** 調査およびフィールドワーク (3 回程度) **6.** 中間発表 (2 回程度) **7.** 討論とさらなる調査 (3 回程度) **8.** まとめと発表 (2 回程度) **9.** 総括

【成績評価】授業への参加状況，議論の内容，発表や報告などを総合的に評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業の中で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220352

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07, 7618, hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

総合科学特別講義

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信・教授/社会創生学科, 樫田 美雄・准教授/社会創生学科
大橋 眞・教授/社会創生学科, 佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 総合科学＝諸科学を総合して課題を解明する営みの意義や方法について考察する．考察の領域を地域科学に据え，地域課題の実践的解明の過程を紹介する．

【授業概要】 ①総合科学部の教育課程の特徴＝総合科学の意義や課題を理解する． ②人文・社会・自然科学を総合する方法を実践的に理解する． ③地域づくりの事例を考察し，諸科学を総合する課題・方法を理解する． ④地域住民との対話を通じて総合科学的な思考力を身につける．

【キーワード】総合科学，地域科学，地域づくり，グローバル化

【履修上の注意】11 月 12 日土曜日午後に,「在宅療養を考える」というテーマでワークショップを企画している (2 コマ)．補講の扱いではあるが，正規の授業なので日程を開けておくことが望ましい．

【到達目標】①諸科学と総合科学との関係が具体的に説明できる．②具体的な地域問題に対し，諸科学を編成して解決する計画を作成できる．③総合科学的な観点から，自分の意見が表明できる．

【授業計画】1. 諸科学と総合科学:諸科学を総合する科学が必要とされる理由を考察 (中嶋) **2.** 地域科学のあゆみ:Regional Science の形成と日本での展開過程を考察 (中嶋) **3.** 地域科学の実際①:実際の地域問題と地域科学による解決の例を考察 (中嶋) **4.** 地域科学の実際②:地域づくりに取り組む県内自治体職員による報告 (中嶋) **5.** 在宅医療の総合科学:医療と看護と福祉と生活の共同と相克を考察 (樫田) **6.** ※ 6·7 講は 11/12 に結合して開講する (樫田) **7.** 在宅医療のワークショップ:班別の討論 医療経済学や社会学を援用 (樫田) **8.** 在宅医療のワークショップのまとめ:リポート作成に向けた議論 (樫田) **9.** グローバル化と総合科学①(大橋・佐藤) **10.** グローバル化と総合科学②(大橋・佐藤) **11.** グローバル化と地域社会①(大橋・佐藤) **12.** グローバル化と地域社会②(大橋・佐藤) **13.** グローバル化と環境問題①(大橋・佐藤) **14.** グローバル化と環境問題②(大橋・佐藤) **15.** グローバル化と大学の役割 (大橋・佐藤)

【成績評価】リポート内容及び出席状況で判定

【再試験】再試は行わない

【教科書】⑤~ ⑧を除き教科書は用いない．関連資料を配付する．⑤~ ⑧:『「在宅医療」をささえるすべての人へ』健康と良い友だち社，00

【参考書】講義時に随時紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220353

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1号館3階中棟(3M15) 相談時間 月曜日13:30-17:00)
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき., 088-656-9512, HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)
⇒ 大橋 (656-7261, ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐藤 (3N05, 088-656-7657, tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

総合理数学科 物質総合コース 授業概要

● コア科目

力学 I …中山/2 年 (前期) 207
電磁気学 I …折戸/2 年 (前期) 208
熱統計力学 I …真岸/2 年 (後期) 208
量子力学 I …日置/3 年 (前期) 208
無機化学 I …今井/2 年 (前期) 208
物理化学 I …山本/2 年 (前期) 209
有機化学 I …中村/2 年 (前期) 209
分析化学 I …今井/3 年 (前期) 209
地球物質科学 …石田・村田/2 年 (前期) 209
地球環境科学 …西山/2 年 (後期) 210
地球表層構造形成論 …村田/2 年 (後期) 210
地球表層環境論 …石田/2 年 (後期) 210

● コース選択科目

物理学実験 I …小山・中山・日置・齊藤・伏見・真岸・折戸/3 年 (前期)210
化学実験 I …今井・増田・三好・山本・山本・中村/2 年 (後期) 211
地球科学実験 I …石田・村田・西山/2 年 (後期) 211
力学 II …中山/2 年 (後期) 211
電磁気学 II …折戸/2 年 (後期) 212
熱統計力学 II …真岸/3 年 (前期) 212
量子力学 II …日置/3 年 (後期) 212
物理学実験 II …小山・中山・日置・齊藤・伏見・真岸・折戸/3 年 (後期)212
物性科学 …小山/3 年 (後期) 213
放射線科学 …伏見/3 年 (前期) 213
量子物質科学 …中山・小山/3 年 (後期) 213
宇宙科学 …伏見/3 年 (後期) 214
無機化学 II …未定・今井/2 年 (後期) 214
物理化学 II …山本/2 年 (後期) 214
有機化学 II …増田/2 年 (後期) 214
生化学 …佐藤/2 年 (後期) 214
環境機器分析化学 …今井/3 年 (後期) 215
天然物化学 …中村/3 年 (後期) 215
分子化学反応論 …三好/3 年 (前期) 215
生物有機化学 …増田/3 年 (前期) 215
化学実験 II …今井・増田・三好・山本・山本・中村/3 年 (前期) 215
細胞生理学 …中川/2 年 (後期) 216
環境生理学 …佐藤/3 年 (後期) 216
生体物質影響学 …金丸/3 年 (後期) 216
環境地質学 …西山/3 年 (前期) 216
物質構造解析学 …森/3 年 (前期, 集中) 217
地球科学実験 II …石田・村田・西山/3 年 (後期) 217

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 217
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 217
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期) 218
世界経済論 I …水島/3 年 (前期) 218
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期) 218
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期) 219
運動文化論 …中村/2 年 (前期) 219
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 219
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期) 219
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期) 219
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期) 220
地域政策論 I …北村/2 年 (後期) 220
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期) 220
共生社会論 …樫田/3 年 (後期) 221
メディア情報論 …河原崎/3 年 (後期) 221
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期) 221
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期) 222
情報と職業 …吉田/2 年 (後期) 222
情報の数理 …中山/3 年 (前期) 222
現象の数理 …小野/3 年 (後期) 222
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期) 223
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期) 223
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 223
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 223
環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 224
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 224
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 224
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) .. 224
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) 224

力学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中山 信太郎 · 教授/総合理数学科

【授業目的】 専門教育を理解するうえで必要な物理学とくにニュートン力学を中心とする分野の知識と考え方を習得することを目的とする．高校の物理と大学の物理との連携に重きを置き，力学の基本原理と考え方を学ぶ．

【授業概要】 古典力学の初歩を学ぶ．ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る．個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し，その考え方を身につける．

【キーワード】速度・加速度，運動方程式，初期条件，エネルギー，運動量と角運動量

【履修上の注意】 大学初年度に学習した「物質科学の基礎 I」の初歩の数学 (微分，積分，ベクトル) を理解しておく．この科目で学んだ力学の基本事項を充分に復習し，不明な点があれば質問する．講義中に疑問があれば質問したり，予習 · 復習をすることが前提である．

【到達目標】
1. 物体の運動を表す速度および加速度について理解し，運動方程式を用いて簡単な物体の運動を理解する．
2. 運動方程式を立て，微分・積分の技法を用いて解けるようになる．その際，初期条件の意味を理解する．

【授業計画】 **1.** 数式と関数 **2.** 三角関数とベクトル **3.** 微分と積分 **4.** 力学の基本 **5.** 運動の表し方 **6.** 運動の法則 **7.** 等加速度運動 **8.** 力と運動 **9.** 単振動 **10.** 等速円運動 **11.** 慣性力 **12.** 惑星の運動 **13.** 仕事とエネルギー **14.** 保存力と位置エネルギー **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 授業への取り組み状況，小テスト，期末試験などによる．

【再試験】 小テストが一定レベルに達しているものは再試験を認める．

【教科書】
◇ 自作テキスト，生協で販売予定
◇ 物理学演習問題集 力学編 原康夫著 学術図書

【参考書】
◇ 「物質科学の基礎 I」の教科書
◇ 岩波物理入門コース 「力学」 戸田盛和著 岩波書店

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219030

【連絡先】
⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月 ~ 金 17:30~ 18:00)

電磁気学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
折戸 玲子 · 助教 / 総合理数学科

【授業目的】 我々の身の回りは電気的な現象，磁気的な現象であふれている．現代の科学技術を理解するには，電磁気学の知識が不可欠である．本講義では，電磁気学について基礎から学び，理工学専門研究における基礎とする事を目的とする．

【授業概要】 電磁気学の入門的な講義を行う．電磁気学の最も一般的な基本法則であるマクスウェル方程式までを一通り概観していく．

【キーワード】物理学，電場，磁場，電流，マクスウェル方程式

【先行科目】 『物理科学の基礎』(1.0, ⇒187 頁)

【関連科目】 『電磁気学 II』(0.5, ⇒212 頁)

【授業計画】 **1.** 数学準備 **2.** 電荷 **3.** 電場 **4.** 電位 **5.** 静電容量 **6.** 誘電体 **7.** 電流，直流回路 **8.** 磁場 **9.** 電流にはたらく力 **10.** アンペールの法則 **11.** 電磁誘導 **12.** インダクタンス **13.** 交流回路 **14.** マクスウェル方方程式，電磁波 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 期末テストのほか演習および授業出席状況などを総合して評価する

【再試験】 原則として行わない

【教科書】 「電磁気学入門」，岡崎誠著，裳華房

【参考書】 随時指示する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218894

【連絡先】
⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

熱統計力学 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
真岸 孝一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 熱力学は，熱現象と力学現象とが相互に関係する分野をエネルギーという共通の立場から見直し，エネルギーの流れが関係する全ての現象を理解する際の基礎となっている．また，物質の熱的性質が圧力，体積，温度などの少数のマクロな物理量によって表されることを学び，系がどのように外界と熱的エネルギーを交換し，仕事をするかを理解する．熱力学では少数の法則を公理として，これからエネルギー授受に伴う状態変化の際のマクロな物理量の間の多くの関係式が導かれ，マクロな世界の熱が関与する現象が理解できる．しかし，物質のミクロな構造にまで立ち入った場合，原子および分子の運動を古典力学によって記述していたのでは熱現象を完全には説明できず，古典的な現象論の限界を知る．講義では，まずマクロな現象論的熱力学を学び，次にミクロな観点から熱現象をとらえる気体分子運動論，統計力学序論と進み，統計力学への橋渡しをする．

【授業概要】 熱力学と統計力学序論

【キーワード】カルノーサイクル，熱力学第 *1* 法則，熱力学第 *2* 法則，熱力学的絶対温度，エントロピー増大則

【先行科目】 『物理科学の基礎』(1.0, ⇒187 頁)，『力学 I』(1.0, ⇒207 頁)

【関連科目】 『力学 II』(0.5, ⇒211 頁)

【履修上の注意】 「力学 I」などの 1，2 年時の物理系科目の既修を前提とする． ノートとレポート用紙を用意すること．

【到達目標】 熱力学の法則により，マクロな世界の熱現象を理解する．

【授業計画】 **1.** 導入:熱現象と熱力学 **2.** 温度，熱，仕事，エネルギー **3.** 理想気体，状態量と状態方程式 **4.** 熱の移動，熱伝導，冷却の法則 **5.** 熱力学第 1 法則，内部エネルギー **6.** 理想気体の等温過程と断熱過程 **7.** カルノーサイクル，熱機関の効率 **8.** 中間試験 **9.** 熱力学第 2 法則，不可逆過程 **10.** 熱力学温度，クラウジウスの不等式 **11.** エントロピー増大の法則 **12.** 熱力学関数と自由エネルギー **13.** 気体分子運動論，エネルギー等分配則 **14.** 速度の分布則 **15.** 学期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】 出席状況，レポート，中間および期末試験の結果について，総合的に評価する．

【再試験】 希望があれば行う．

【教科書】 国友正和著「基礎熱力学」(共立出版)

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218947

【連絡先】
⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09，088-656-7230，magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (後期)木曜日 12時~ 13時(これ以外に随時，教員室に居ればできるだけ対応します．))

量子力学 I
Quantum Mechanics I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
日置 善郎 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】 量子力学の基本的構成の理解

【授業概要】 量子力学は，素粒子物理 · 原子核物理や物性物理といった現代物理学の中核であるばかりでなく，電子工学のような最先端科学技術の重要な基礎ともなっている．従って，物理系分野を専門とする学生だけでなく，自然科学一般を専攻する学生も，その基本的な考え方を理解することが望まれる．ところが，そこにおいては，物体の運動の情報は，古典力学における位置ベクトルや速度ベクトルのような理解しやすい量ではなく，初学者にとっては何とも掴み所のない波動関数という量にすべて含まれており，その波動関数の振る舞いを規定するのは，これまたニュートンの運動方程式ではなく，シュレディンガー方程式という名の波動方程式である．この結果，一旦学習を始めても多くの学生は，その入り口で頭を混乱させ立ち往生することになってしまう．この講義は，この量子力学への軟着陸を目指した入門的解説であり，量子力学の中でも特に基本的と考えられる話題 (下記) に焦点を絞り，必要に応じて演習も取り入れながら話を進めていく．

【キーワード】シュレディンガー方程式，波動関数，ハミルトニアン，不確定性原理

【先行科目】 『力学 I』(1.0, ⇒207 頁)，『力学 II』(1.0, ⇒211 頁)，『電磁気学 I』(1.0, ⇒208 頁)，『電磁気学 II』(1.0, ⇒212 頁)

【関連科目】 『量子力学 II』(0.5, ⇒212 頁)

【履修上の注意】 やさしく解説するとは言っても，講義だけですべてを理解するのは不可能．当然予習 · 復習等は不可欠．

【到達目標】
1. 量子力学の基本方程式はシュレディンガー方程式であることを理解し，簡単な系にそれを適用して，実際に解の波動関数を求めることが出来るようになること．
2. 物質科学に関わる幅広い知識の理解，現代科学に対する総合的視点，論理的思考力の養成，および日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成

【授業計画】 **1.** 古典力学から量子力学へ (1) 自然法則とその適用限界 (2) 古典物理学が直面した困難 **2.** 古典力学から量子力学へ (3) 極微世界の新法則への手掛かり **3.** 量子力学のための数学 (1) 複素数 (2) 微積分 (3) 微分方程式 **4.** 量子力学のための数学 (4) 偏微分とベクトル解析 (5) 演算子の固有値と固有関数 **5.** シュレディンガー方程式 (1) 波動の数学的表現 (2) 時間に依存するシュレディンガー方程式 **6.** シュレディンガー方程式 (3) 時間を含まないシュレディンガー方程式 (4) 量子力学という体系 **7.** 1 次元での束縛状態 (1) 井戸型ポテンシャル (2) 無限に深い井戸の場合 (3) 有限の深さの井戸の場合 **8.** 1 次元での束縛状態 (4) 固有関数の規格直交性: 束縛状態の場合 **9.** 1 次元での反射と透過 (1) 確率の保存と確率流密度 **10.** 1 次元での反射と透過 (2) 階段型ポテンシャル 1 **11.** 1 次元での反射と透過 (2) 階段型ポテンシャル 2 **12.** 1 次元での反射と透過 (3) 箱型ポテンシャル障壁: トンネル効果 1 **13.** 1 次元での反射と透過 (3) 箱型ポテンシャル障壁: トンネル効果 2 **14.** 1 次元での反射と透過 (4) 固有関数の規格直交性: 自由状態の場合 1 **15.** 1 次元での反射と透過 (4) 固有関数の規格直交性: 自由状態の場合 2 **16.** 期末試験

【成績評価】 学期末試験 (持ち込み不可) だけでなく，数回行う小テスト (持ち込み不可) の結果も総合して判定する．また，受講態度も重要な評価要素となり，教室にいても眠っていたり関係のないことをやっている場合には「欠席」扱いとなる．

【再試験】 有 (但し，不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【教科書】 日置善郎『量子力学』吉岡書店

【参考書】 原康夫『量子力学』岩波書店など．この他に必要に応じてプリント等を配布する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220328

【連絡先】
⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室，088-656-7234，hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

無機化学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】 無機化学では周期表のすべての元素と，それらから成る膨大な数の化合物を対象とする．多様な無機化合物の構造や性質を理解する上で必要な，化学の基礎的事項や方法論を修得することを目的とする．

【授業概要】 原子構造と周期表から初めて結合と構造，元素の一般的性質，s-ブロック元素，p-ブロック元素，d-ブロック元素や配位化合物などの無機化学の基本事項を学習する．

【キーワード】電子配置，化学結合，典型元素，遷移元素，配位化合物

【先行科目】 『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)，『化学基礎実験』(1.0, ⇒189 頁)

【関連科目】 『無機化学 II』(1.0, ⇒214 頁)，『物理化学 I』(1.0, ⇒209 頁)，『量子力学 I』(1.0)

【履修上の注意】 予習を前提に講義を進めるので．事前に内容を調べて授業に臨んで下さい．遅刻をしないこと．

【到達目標】
1. 無機化学の基礎的な理論について理解している．
2. 基本的な無機化合物の性質について理解している

【授業計画】 **1.** 原子構造と周期表 **2.** 結合と構造 **3.** 結合と構造 **4.** 元素の一般的性質・s-ブロック元素 **5.** s-ブロック元素 **6.** p-ブロック元素 **7.** p-ブロック元素 **8.** p-ブロック元素・中間試験 **9.** d-ブ

ロック元素 **10.** d-ブロック元素 **11.** f-ブロック元素 **12.** 配位化合物 **13.** 配位化合物 **14.** 原子核・スペクトル **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】中間試験，定期試験，レポート等の結果に，出席状況などの平常点を加味して総合評価する．

【再試験】一定の基準を満たしている場合に行う．

【教科書】J. D. Lee 浜口 博，管野 等 訳「リー無機化学」東京化学同人

【参考書】
- ◇ シュライバー著「無機化学上・下」東京化学同人
- ◇ コットン・ウィルキンソン著「無機化学上・下」培風館
- ◇ 柴田村治編著 基礎化学選書「無機化学演習」裳華房

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219012

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)

物理化学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
山本 孝・准教授/社会創生学科

【授業目的】化学反応熱，化学平衡，物理平衡，起電力等を熱力学をもとにして系統だてて理解すること，また反応速度を左右する因子について理解し，実際の物質変化が自由エネルギー変化と反応速度とに関係していることを理解してもらう．

【授業概要】熱力学と化学反応速度

【キーワード】化学反応熱，化学平衡，相平衡，溶液の物理化学的法則，化学反応速度

【先行科目】『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)

【到達目標】
1. 1) 標準生成エンタルピーから定圧と定積の化学反応熱を算出できるようにすること．
2. 2) 標準生成自由エネルギーから平衡定数を算出できるようにすること．
3. 3) 溶液についての諸法則，電極電位，膜電位を熱力学的に理解すること．
4. 4) 化学反応速度を左右する諸因子について理解すること．

【授業計画】1. 1.SI 単位系，理想気体の諸法則について講義する． **2.** 2. 分子の運動，熱エネルギーおよび温度の関係について講義する． **3.** 3. 化学物質がもつエネルギーについて講義する． **4.** 4. 物理化学的変化による内部エネルギーとエンタルピー変化について説明する． **5.** 5. 標準生成エンタルピーと化学反応熱および結合エネルギーについて講義する． **6.** 6. 物理化学的変化とエントロピーおよびギブスの自由エネルギー変化との関係を説明する． **7.** 7. 気体の圧力と自由エネルギーの関係，気体反応の平衡定数との関係について講義する． **8.** 8. 標準生成自由エネルギーとそれを使っての平衡定数の求め方について述べる． **9.** 9. 中間試験をする． **10.** 10. 物理平衡について述べ，溶液の自由エネルギーと濃度の関係について講義する． **11.** 11.1 成分，2 成分，3 成分系の相律について講義する． **12.** 12. 気体，溶液，固体の活動度と自由エネルギーとの関係を導く． **13.** 13. 一般の化学平衡，膜平衡について講義する． **14.** 14. 化学反応反応速度と温度，濃度，触媒との関係をのべる． **15.** 15. 複合反応，連鎖反応，酵素反応，遷移状態理論についてふれる． **16.** 期末試験をする．

【成績評価】試験の結果，出席状況などでにより総合的に評価する．

【再試験】実施する．

【教科書】アトキンス 物理化学 (上) 生協で販売します．

【参考書】物理学とは何だろうか

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218980

【連絡先】
⇒ 山本 (088-656-7263，t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

有機化学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】有機化合物の構造，性質，反応などを学ぶ上で必要な基礎知識を習得する．

【授業概要】有機化学の基礎

【キーワード】化学，有機化学

【先行科目】『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)，『化学基礎実験』(1.0, ⇒189 頁)

【関連科目】『有機化学 II』(0.5, ⇒214 頁)

【履修上の注意】基礎化学の知識を修得していることが望ましい

【到達目標】化学構造式に慣れ，有機化学の基礎概念を理解する．

【授業計画】1. はじめに **2.** 電子構造と共有結合 (1) **3.** 電子構造と共有結合 (2) **4.** 酸と塩基 (1) **5.** 酸と塩基 (2) **6.** 有機化合物の基礎 (1) **7.** 有機化合物の基礎 (2) **8.** アルケン (1) **9.** アルケン (2) **10.** アルケンおよびアルキンの反応 (1) **11.** アルケンおよびアルキンの反応 (2) **12.** 異性体と立体化学 (1) **13.** 異性体と立体化学 (2) **14.** 異性体と立体化学 (3) **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】学期末テスト，授業内での小テスト，受講態度

【再試験】基本的には実施しない

【教科書】ブルース 有機化学概説 第 2 版 (大船康史・香月昜・西郷和彦・富岡清 監訳，化学同人)

【参考書】ブルース 有機化学 第 5 版 (上)(大船康史・香月昜・西郷和彦・富岡清 監訳，化学同人)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219017

【連絡先】
⇒ 中村 (2N02，088-656-7246，mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】上記の授業計画は，予定であり変更することもある．

分析化学 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
今井 昭二・教授/社会創生学科

【授業目的】実験的な内容は，化学実験においてすでに学習済みであることを前提にして，分析化学で用いられる化学平衡の基礎的内容について学習する事を目的とする．

【授業概要】化学平衡の観点から定量および定性分析の基礎についての講義を行う．

【キーワード】化学平衡

【到達目標】分析化学の基礎となる化学分析法の知識と理論の理解と応用を目標とします．

【授業計画】1. 総論，サンプリング，標準試料 **2.** 溶液化学的基礎 **3.** 酸塩基平衡 **4.** 錯体の生成 **5.** 錯生成平衡 **6.** 不均質平衡 **7.** 沈殿平衡 **8.** 酸化還元平衡 **9.** 酸塩基滴定 **10.** 酸化還元滴定 **11.** 錯化滴定，キレート滴定 (金属指示薬) **12.** ガラス電極 pH メーター **13.** 電位差滴定 **14.** pH 曲線 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】定期試験と出席状況．但し，試験が 20 点未満の場合には，再試験は認めない．

【再試験】試験が 20 点以上の学生に対して実施する場合がある．

【教科書】長島弘三，富田 功 「基礎化学選書 分析化学」 裳華房

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220378

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)

地球物質科学

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
石田 啓祐・教授/総合理数学科，村田 明広・教授/総合理数学科

【授業目的】地層と層序の解析 (石田)，構造地質学およびテクトニクス (造構学)(村田) の基本を理解することを目的とする．

【授業概要】地層とその重なりや広がりを理解するために必要な基本的事項を中心に学ぶ．地層に記録された，地質時代の固体地球表層から水圏での自然環境に関わるできごとや，生物界の変遷を解析する方法について，層序学的，堆積学的な視点から講義する (石田)．また，構造地質学の基本的な事項を扱う．地層や火成岩は，堆積あるいは貫入した後，様々な変形を受け，断層・褶曲などの地質構造を作る．このような構造を記載・分類し，造山帯で起こっている現象を学ぶ (村田)．

【キーワード】地層，層序，堆積，地質構造，断層，褶曲

【関連科目】『地球表層構造形成論』(0.5, ⇒210 頁)

【到達目標】層序区分の原理である岩相層序と生層序，砕屑粒子の運搬と堆積メカニズム (石田)，地球表層部で起こる変形現象 (村田) の基本が説明できる．

【授業計画】1. 年代層序単元 (地質系統) と模式地，岩相層序単元と地層命名規約 (石田) **2.** 古地磁気層序と磁気編年 (石田) **3.** 層序関係:整合と不整合，その種類 (石田) **4.** 岩相変化，鍵層と対比 (岩相境界と時間面)(石田) **5.** 古生物 (化石):分類カテゴリーと二名法 (石田) **6.** タクサの生存期間 (レンジ) と生層序・分帯 (石田) **7.** 砕屑物の静水中での沈降と流水中での移動 ， 波浪限界と堆積物 (石田) **8.** 堆積物重力流による地層の形成と特徴 (石田) **9.** 断層と応力，モール円 (村田) **10.** 断層ガウジ・断層角礫，断層と地形 (村田) **11.** 節理と裂か (村田) **12.** 褶曲のメカニズム (村田) **13.** Google Earth で見る断層，褶曲，火山，隕石孔 (村田) **14.** 面構造と線構造 (村田) **15.** ブーダン，火成岩脈・砕屑岩脈 (村田) **16.** 兵庫県南部地震と野島断層 (村田)

【成績評価】講義への取り組み姿勢と，課題のレポート，期末試験を総合的に判断して評価する．

【再試験】積極的な取組の見られた学生には再試験やくり返し評価の再評価を行うことがある．

【教科書】日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「層序と年代」共立出版，2006 年．(石田); 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版，2004 年．(石田); 狩野謙一・村田明広著「構造地質学」朝倉書店，1998 年．(村田)

【参考書】Sam BOGGS Jr., Principles of Sedimentology and Stratigraphy (3rd ed.), Prentice Hall, 2001.(石田); 狩野謙一・村田明広著「構造地質学 CD-ROM」朝倉書店，1999 年．(村田)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218863

【連絡先】
⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

地球環境科学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】地球上で第四紀に生じた種々の環境変動の特徴を理解し，過去の環境変化に基づいた将来予測について考える．

【授業概要】地球史の中で最新の第四紀を対象とし，第四紀に生じた種々の環境変動 (気候変動，海水准変動) と地形形成過程 (山地・平野の形成プロセス) についての講義を行う． また，将来の気候変動・地震・火山噴火予知など，第四紀学に基づいた将来予測について考える．

【キーワード】第四紀，環境変動，地形形成過程

【先行科目】『地球科学の基礎』(1.0)

【到達目標】第四紀の環境変動，ならびに平野と山地の地形形成過程を理解するとともに，第四紀学に基づいた将来予測について学ぶ (西山)

【授業計画】**1.** 第四紀学の概要と将来予測 **2.** 年代測定法 **3.** テフロクロノロジー (火山灰編年) **4.** 火山噴火予知 **5.** 火山噴火が地形・気候に及ぼす影響 **6.** 気象学入門 **7.** 異常気象と地球温暖化予測 **8.** 気候変動の特徴 **9.** 海水準変動 **10.** 地震予知 **11.** 土壌の特徴と砂漠化 **12.** 日本の平野の形成プロセス **13.** 日本の山地の形成プロセス **14.** 土地利用を考える **15.** 試験 **16.** 総括授業

【成績評価】毎回の出席状況と期末試験またはレポートを総合的に判断して行う

【再試験】原則として行わない

【教科書】指定しない．参考書は，「地球史が語る近未来の環境」(東大出版会),「百年・千年・万年後の日本の自然と人類」(古今書院),「地表環境の地学」(東海大出版会)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218857

【連絡先】
⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

地球表層構造形成論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
村田 明広・教授/総合理数学科

【授業目的】地球科学分野のうち，構造地質学に関する授業を行う．衝上断層，正断層，横ずれ断層は形成場が異なり，それぞれ特徴的な地質構造を作る．このような地質構造を把握しそれが形成された地質環境について知る方法を学ぶ．

【授業概要】地質構造の形成

【キーワード】地質構造，断層，活断層，地震，デュープレックス，メランジュ，衝上断層，横ずれ断層

【先行科目】『地球物質科学』(1.0, ⇒209 頁)

【到達目標】衝上断層，正断層，横ずれ断層それぞれを特徴とする地質構造を，理解し説明することができるようになる．

【授業計画】**1.** バランス断面図とデュープレックス **2.** 内ノ八重，鳴門のデュープレックス **3.** メランジュ **4.** 四万十帯のメランジュとナップ **5.** 伸張テクトニクスとインバージョンテクトニクス **6.** 横ずれテクトニクスと横ずれ堆積盆 **7.** 左横ずれ上韮生川断層の変位量変化 **8.** 石油と地質構造 **9.** リモートセンシングの基礎 (LANDSAT, SPOT などの衛星画像) **10.** シルクロードの現地調査 **11.** 南海地震の再来 **12.** 徳島県下の中央構造線活断層系 **13.** 中越沖地震と活断層 **14.** 歪解析の手法 (左右対称軸を用いた歪解析法，フライ法) **15.** 地質図の読み方 **16.** 期末試験

【成績評価】数回実施する小テストと，期末試験で評価を行う．

【再試験】行う

【教科書】狩野謙一・村田明広，「構造地質学」，朝倉書店，1998 年

【参考書】
◇ 狩野謙一・村田明広，「構造地質学 CD-ROM カラー写真集」，朝倉書店，2000 年
◇ R. G. Park, "Foundations of Structural Geology", 3rd Ed., Chapman & Hall, 1997

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218861

【連絡先】
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

地球表層環境論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 啓祐・教授/総合理数学科

【授業目的】堆積物や古生物の研究が地史的な地球表層環境の解析に果たす役割は大きい．プレート収束域に位置するわが国には，浅海から深海域で形成された中・古生代の各種堆積岩類が広く分布しており，堆積岩類の年代決定や堆積環境の解析には，大型化石とともに，微化石が有効である．本論では，古生物を用いた研究例を中心に，西南日本の中・古生界層序，ならびに堆積相・古海域環境の解析を中心に講義する．

【授業概要】生層序地史，付加体・関連堆積相と古海域環境，西南日本の中・古生界層序と古生物概論．

【キーワード】堆積岩，付加体，海洋プレート層序，微化石

【先行科目】『地球物質科学』(1.0, ⇒209 頁)

【到達目標】海洋プレート層序やメランジュの構成と形成過程，微化石による年代や堆積環境の解析手法，付加体関連堆積相の概要が説明できる．

【授業計画】**1.** 第 1 回:砕屑性堆積物:砂岩の組成による分類と熟成 **2.** 第 2 回:礫岩の構成とファブリック **3.** 第 3 回:非砕屑性堆積物:石灰岩の構成と分類 **4.** 第 4 回:非砕屑性堆積物:遠洋性堆積物とチャート **5.** 第 5 回:年代・環境指標としての微化石:紡錘虫 **6.** 第 6 回:年代・環境指標としての微化石:コノドント **7.** 第 7 回:年代・環境指標としての微化石:放散虫 **8.** 第 8 回:プレート運動と付加体の海洋プレート層序 **9.** 第 9 回:メランジュとオリストストローム **10.** 第 10 回:西南日本の堆積相:概説，和泉層群 **11.** 第 11 回:ジュラ紀付加体:美濃-丹波帯，秩父北帯，秩父南帯と前弧海盆堆積相 **12.** 第 12 回:内帯・外帯のペルム紀付加体と中生代被覆堆積相 **13.** 第 13 回:ペルム紀付加体と中生代被覆堆積相 **14.** 第 14 回:四万十累帯の白亜紀・第三紀付加体 **15.** 第 15 回:三波川・御荷鉾帯と原岩 **16.** 第 16 回:アジアの関連地質

【成績評価】講義への取り組み姿勢と，課題のレポート，期末試験を総合的に判断して評価します．

【再試験】積極的な取り組み姿勢が見られた学生に対しては行う場合があります．

【教科書】
◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「堆積物と堆積岩」共立出版，2004 年．
◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「層序と年代」共立出版，2006 年
◇ 平 朝彦著，日本列島の誕生，岩波新書 148，1990 年

【参考書】日本の地質編集委員会編，日本の地質「増補版」，共立出版，2005 年．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218858

【連絡先】
⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

物理学実験 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
小山 晋之・教授/総合理数学科，中山 信太郎・教授/総合理数学科
日置 善郎・教授/総合理数学科，齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科
伏見 賢一・准教授/総合理数学科，真岸 孝一・准教授/総合理数学科
折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】物理学基礎実験の既修を前提として，より専門的な物理科学的実験を行う．実験系に進みたい者はもちろんのこと，物質を対象とした実験であるので，将来，理論系に進む場合でもこの程度の実験は経験しておく必要がある．また，行った実験をまとめて他人の前で発表することは大切である．ここで行った実験はレポートにまとめるとともに，最後にそれを発表する．

【授業概要】少人数のグループに分かれて，専門的な物理科学的実験として次の 6 つのテーマ (括弧内は分担者) について実験を行う．1 テーマに 2 週かける．[1] 計算機実験 (日置) [2] 粒子計測 I(中山，伏見，折戸) [3] 粒子計測 II(中山，伏見，折戸 p) [4] 物性 I(小山，斉藤，真岸) [5] 物性 II(小山，斉藤，真岸) [6]X 線結晶構造解析実験 (沼子)6 つのテーマの実験が終わった後に，作成した 6 通のレポートの一つを使って行った実験についての発表会を行う．人前で話すには何を用意したら良いか，どのように話したら内容が正確に伝わるかということを学んだ上で，卒業研究に取り組んでいってください．

【キーワード】物理学

【関連科目】『物理学実験 II』(0.5, ⇒212 頁)

【履修上の注意】「物理学基礎実験」の既習を前提としている．全回出席し，各実験テーマについてのレポートを全て提出することを原則とする．やむを得ず欠席したときは，空いている時間に実験を行うこと．

【到達目標】より専門的な物理科学的実験を正確に行い，レポートを書き，プレゼンテーションができる．

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 実験 1 **3.** 実験 1 **4.** 実験 2 **5.** 実験 2 **6.** 実験 3 **7.** 実験 3 **8.** 実験 4 **9.** 実験 4 **10.** 実験 5 **11.** 実験 5 **12.** 実験 6 **13.** 実験 6 **14.** 発表会準備 **15.** 発表会 **16.** 総括授業

【成績評価】提出されたレポートおよび，発表会を併せて評価する．
【再試験】原則として行わない．
【教科書】教科書なし．適宜プリント等を配布する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220329
【連絡先】
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07，088-656-7233，koyama@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中山 (1N02，0886567236，nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月 ~ 金 17:30~ 18:00)
⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室，088-656-7234，hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))
⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08，088-656-7232，saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01，088-656-7238，kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)
⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09，088-656-7230，magishi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 沼子 (3202-2，088-656-7265，numako@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

化学実験 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
今井 昭二・教授/社会創生学科，増田 俊哉・教授/社会創生学科
三好 徳和・教授/総合理数学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科
山本 孝・准教授/社会創生学科，中村 光裕・講師/総合理数学科

【授業目的】物理化学，環境化学，有機化学，生物有機化学などの基礎的な化学実験を行う．化学実験の操作を確実なものとし，実験の技能の応用能力を高め，自分で実験計画を立案，工夫することによって能動的に実験を行う技量を身につける．
【授業概要】計測，測定，分析，環境，抽出・分離，合成と分解を実験内容に含んだ化学実験から構成されている．
【キーワード】 基礎物理化学実験，基礎環境化学実験，基礎有機化学実験，基礎天然物化学実験
【先行科目】『化学実験 I』(1.0，⇒211 頁)，『物理化学 I』(1.0，⇒209 頁)，『無機化学 I』(1.0，⇒208 頁)，『有機化学 I』(1.0，⇒209 頁)，『有機化学 II』(1.0，⇒214 頁)
【到達目標】
1. 高度な実験技能の習得
2. 実験計画の立案と実行
3. 実験の工夫ができる応用力
【授業計画】**1.** 液体の相互溶解度の測定 **2.** 分配率の測定 **3.** 中和熱の測定 **4.** 凝固点降下の測定 **5.** 化学的酸素要求量 **6.** 吸光光度法 **7.** 安全教育 (とくに有機系実験について)・ガラス細工 **8.** 酢酸エチル合成 **9.** アルドール縮合 **10.** L-アスコルビン酸を用いるニトロベンゼンの還元 **11.** PET 樹脂のクラッキング **12.** 牛乳からカゼインの単離 **13.** お茶からカフェインの抽出と確認 **14.** 有機高分子の合成 **15.** 予備日 **16.** 総括
【成績評価】出席点 (実験の取り組み姿勢点も含む) とレポート点を併用して評価する．
【再試験】行わない
【教科書】
◇ 実験課題:テキストを使用する
◇ 安全教育テキスト:日本化学会編「化学実験セーフティーガイド」化学同人．
【参考書】千原秀昭「物理化学実験法」東京化学同人
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218477
【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)
⇒ 増田 (2N01，088-656-7244，masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03，088-656-7250，miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07，7618，hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 山本 (088-656-7263，t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中村 (2N02，088-656-7246，mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

地球科学実験 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 啓祐・教授/総合理数学科，村田 明広・教授/総合理数学科
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】地球科学の解析のための標準的な手法全般を身につけることを目的とする．付加体の地質や海洋プレート層序の解析に必要な微化石による解析 (石田)，岩石薄片作製と偏光顕微鏡による観察，ステレオ投影法 (村田)，地形解析と岩石物性の測定 (西山)．
【授業概要】以下の室内実習・野外実習からなる． 付加体関連の地質の野外実習と，海洋プレート層序の微化石解析に関する室内実習を行う (石田)．岩石薄片を作成し偏光顕微鏡で変成鉱物等を観察する方法を学ぶ．また，ステレオ投影法を使用して，三次元の地質構造を二次元で扱う方法を学ぶ (村田)．空中写真の実体視による地形判読，ボーリングコアの観察と岩盤分類，岩石試料の物性測定について学ぶ (西山)．
【到達目標】地質や層序の微化石による解析 (石田)，ステレオ投影法を用いた地質構造解析 (村田)，空中写真での地形判読，ボーリングコアの観察による岩盤分類，岩石試料の物性測定 (西山) ができる．
【授業計画】**1.** 分類カテゴリーの形態的特徴変化と生存期間，生層序分帯の解析実習 (石田) **2.** 微化石抽出の化学処理法 (石田) **3.** 微化石の抽出と電子顕微試料作成 (石田) **4.** 微化石を用いた電子顕微鏡操作・観察実習 (石田) **5.** 付加体の海洋プレート層序と微化石分析試料採集法の野外実習 (石田) **6.** 緑色岩類の薄片作製 (1)(村田) **7.** 緑色岩類の薄片作製 (2)(村田) **8.** 変成岩の偏光顕微鏡観察 (村田) **9.** ステレオ投影法の基本原理 (村田) **10.** ステレオ投影法による地質構造解析 (村田) **11.** 空中写真判読 (段丘)(西山) **12.** 空中写真判読 (地すべり)(西山) **13.** ボーリングコアの風化帯の観察 (西山) **14.** 地すべりボーリングコアの観察 (西山) **15.** 岩石の比重・間隙率の測定 (西山)
【成績評価】実習への取り組み姿勢と，成果物の提出・各教員による課題のレポートを総合的に判断して評価する．
【再試験】原則として再評価は行わない．
【教科書】
◇ 日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会編「層序と年代」共立出版，2006 年．(石田)
◇ 狩野謙一・村田明広，「構造地質学」，朝倉書店，1998 年．(村田)
【参考書】各担当教員から紹介があり，資料が配付される．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218854
【連絡先】
⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04，088-656-7243，ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03，088-656-7242，murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)
⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05，088-656-7239，nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
【備考】実習であり，毎回全ての授業に出席することを原則とする．

力学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
中山 信太郎・教授/総合理数学科

【授業目的】質点から質点系・剛体へ運動方程式を変形できるようになる．質点運動を中心に記述した「力学 I」で履修した内容から出発点として質点系・剛体の運動を理解できるようになる．力学の考え方は自然科学の各分野で広く用いられている．基本的な問題を自ら解くことによって自然の運動現象を理解を深めると同時に，それを解いていく力を身につけることによって，物事を理解する力をつける．
【授業概要】古典力学をとおして自然科学の法則を学ぶ．ニュートン力学の基本的な 3 法則から物体のさまざまな運動がどのように理解されるのかを知る．「力学 I」の質点運動から質点系・剛体の運動へと展開していく．個々の事象についての問題演習を通して力学理論を理解し，その考え方を身につける．
【キーワード】運動方程式，質点系，剛体，角運動量，慣性モーメント
【履修上の注意】大学初年度に学習した「物質科学の基礎 I」の初歩の数学 (微分，積分，ベクトル) を理解しておく．先行科目「力学 I」で学んだ質点の力学に関する基本事項を充分に復習し，不明な点があれば質問する．講義中に疑問があれば質問したり，予習・復習をすることが前提である．
【到達目標】
1. 質点運動から質点系・剛体の運動への運動方程式を展開できる．
2. 回転運動における角運動量，慣性モーメントが理解できるようになる．
3. 剛体の重心，慣性モーメントの多重積分ができるようになる．
4. 並進運動と回転運動を組み合わせた運動を理解する．
【授業計画】**1.** 質点と運動方程式 **2.** 運動量による表記 **3.** 角運動量による表記 **4.** 運動エネルギーによる表記 **5.** 保存力と位置エネルギー **6.** 質点系と剛体 **7.** 剛体の重心 **8.** 剛体のつり合い **9.** 剛体の回転運動 **10.** 慣性モーメント **11.** 重心位置と慣性モーメントの計算 **12.** 並進運動と回転運動 **13.** 剛体の運動 **14.** 角運動量と回転エネルギー **15.** 期末試験 **16.** 総括授業
【成績評価】授業への取り組み状況，小テスト，期末試験などによる．
【再試験】小テストが一定レベルに達しているものは再試験を認める．
【教科書】
◇ 自作テキスト「力学 I」(生協で販売)
◇ 物理学演習問題集 力学編 原康夫・石近修治共著 学術図書
【参考書】岩波物理入門コース 「力学」 戸田盛和著 岩波書店
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219031
【連絡先】

⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月 ~ 金 17:30~ 18:00)

電磁気学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】我々の身の回りは電気的な現象，磁気的な現象であふれている．電磁気学 I では，どのような実験事実があって，それをどうやって法則化していくかということを一通り学んだ．本講義では，電磁気学における基本法則であるマクスウェルの方程式を正確に記述し，電気と磁気の複雑な電磁気現象が，これらの実にシンプルな方程式から理解できる事を学ぶ．電磁気現象をよりよく理解し，理工学専門研究における基礎とする事を目的とする．

【授業概要】電磁気学における基本法則であるマクスウェルの方程式を正確に記述する．電磁場の性質が，これらの方程式から理解できることを学ぶ．

【キーワード】電磁場，マクスウェル方程式

【先行科目】『電磁気学 I』(1.0, ⇒208 頁)

【授業計画】1. 導入と数学準備 1 **2.** 数学準備 2 **3.** 電荷と電場 **4.** 磁場，磁束密度，電流密度 **5.** マクスウェル方程式 **6.** 静電場 **7.** コンデンサーと誘電体 **8.** 電流と抵抗 **9.** 静磁場 **10.** 電流と静磁場 **11.** 電磁誘導 **12.** 過渡現象 **13.** 交流回路 **14.** 電磁波 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】期末テストのほか演習および授業出席状況などを総合して評価する．

【再試験】原則として行わない

【教科書】基礎の電磁気学，渡邊靖志著，培風館

【参考書】随時指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218895

【連絡先】
⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

熱統計力学 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
真岸 孝一・准教授/総合理数学科

【授業目的】量子力学の完成によって確立された原子・分子の世界を支配するミクロな基礎法則と熱力学を支配するようなマクロな法則とはまったく異質な世界の法則のように見える．この異質な両者がどのように結びつくのかということに焦点を当てて，ミクロとマクロの両者を橋渡しする唯一の理論である「統計力学」の考え方を理解することを目的とする．熱力学では物質の内部構造までは立ち入らず，そのマクロな性質や振舞いだけを対象としてそれらの間に成り立つ法則や関係式を求めるという立場をとった．それに対して，統計力学では物質を原子核・電子・原子・分子等のミクロな粒子の集合体として考え，確率・統計的な概念を用いてそのマクロな性質が基礎づけられることを理解する．

【授業概要】統計力学

【キーワード】等確率の原理，エントロピー，分配関数，自由エネルギー，化学ポテンシャル

【先行科目】『熱統計力学 I』(1.0, ⇒208 頁)，『力学 I』(1.0, ⇒207 頁)，『力学 II』(1.0, ⇒211 頁)

【関連科目】『量子力学 I』(0.5, ⇒208 頁)，『物性科学』(0.5, ⇒213 頁)，『量子物質科学』(0.5, ⇒213 頁)

【履修上の注意】「熱統計力学 I」および 1,2 年時の物理系科目の既修を前提とする．「量子力学 I」の受講が望ましい．ノートとレポート用紙を用意すること．

【到達目標】物質の巨視的な性質を構成粒子の集合体という微視的立場から理解する．

【授業計画】1. 導入:統計力学の考え方 **2.** エネルギーの移動と熱平衡 **3.** 等確率の原理とエントロピー **4.** ミクロカノニカル分布 (1) **5.** ミクロカノニカル分布 (2) **6.** カノニカル分布 (1) **7.** カノニカル分布 (2) **8.** 中間試験 **9.** 古典統計力学の近似 **10.** 低温と量子効果 **11.** 開いた系と化学ポテンシャル **12.** グランドカノニカル分布 **13.** 量子統計 (1) フェルミ統計 **14.** 量子統計 (2) ボーズ統計 **15.** 学期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席状況，レポート，中間および期末試験の結果について総合的に評価する．

【再試験】希望があれば行う．

【教科書】
- ◇ 長岡洋介著「統計力学」(岩波書店)
- ◇ 久保亮五編「大学演習 熱学・統計力学」(裳華房)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220330

【連絡先】
⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09, 088-656-7230, magishi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時-13時(これ以外に随時，教員室に居ればできるだけ対応します．))

量子力学 II
Quantum Mechanics II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
日置 善郎・教授/総合理数学科

【授業目的】量子力学の構成の理解と簡単な応用

【授業概要】量子力学は，素粒子物理・原子核物理や物性物理といった現代物理学の中核であるばかりでなく，電子工学のような最先端科学技術の重要な基礎ともなっている．従って，物理系分野を専門とする学生だけでなく，自然科学一般を専攻する学生も，その基本的な考え方を理解することが望まれる．ところが，そこにおいては，物体の運動の情報は，古典力学における位置ベクトルや速度ベクトルのような理解しやすい量ではなく，初学者にとっては何とも掴み所のない波動関数という量にすべて含まれており，その波動関数の振る舞いを規定するのは，これまたニュートンの運動方程式ではなく，シュレディンガー方程式という名の波動方程式である．この結果，一旦学習を始めても多くの学生は，その入り口で頭を混乱させ立ち往生することになってしまう． この講義は，この量子力学への軟着陸を目指した入門的解説であり，量子力学 I に続いて，基本的重要事項 (下記) に焦点を絞り，必要に応じて演習も取り入れながら話を進めていく．

【キーワード】シュレディンガー方程式，重ね合せの原理，角運動量，摂動論

【先行科目】『量子力学 I』(1.0, ⇒208 頁)

【履修上の注意】「量子力学 I」の受講を前提とする．その他の注意は量子力学 I と同じ．

【到達目標】
1. 量子力学の基本的な構成の理解，および原子・分子の構造を定量的に理解する上で必要不可欠な概念である角運動量・スピンと摂動計算の基本的なテクニックを修得すること．
2. 物質科学に関わる幅広い知識の理解，現代科学に対する総合的視点，論理的思考力の養成，および日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成

【授業計画】1. 量子力学の基本構成 (1) 重ね合せの原理 **2.** 量子力学の基本構成 (2) 古典力学と量子力学 **3.** 中心ポテンシャルと角運動量 (1) 中心ポテンシャル **4.** 中心ポテンシャルと角運動量 (2) 角運動量 **5.** 中心ポテンシャルと角運動量 (3) 動径波動関数 **6.** 中心ポテンシャルと角運動量 (4) 角運動量の昇降演算子 1 **7.** 中心ポテンシャルと角運動量 (4) 角運動量の昇降演算子 2 **8.** 中心ポテンシャルと角運動量 (5) 角運動量の合成 1 **9.** 中心ポテンシャルと角運動量 (5) 角運動量の合成 2 **10.** 摂 動 論 (1) 逐次近似法 **11.** 摂 動 論 (2) 時間を含まない摂動論 **12.** 摂 動 論 (3) 時間を含む摂動論 **13.** スピン角運動量と多粒子系 (1) スピン角運動量 1 **14.** スピン角運動量と多粒子系 (1) スピン角運動量 2 **15.** スピン角運動量と多粒子系 (2) 粒子の同等性と多粒子系 **16.** 期末試験

【成績評価】「量子力学 I」と同様，学期末試験 (持ち込み不可) だけでなく，数回行う小テスト (持ち込み不可) の結果も総合して判定する．また，受講態度も重要な評価要素となり，教室にいても眠っていたり関係のないことをやっている場合には「欠席」扱いとなる．

【再試験】有 (但し，不合格者全員が自動的に対象となる訳ではない)

【教科書】日置善郎『量子力学』吉岡書店

【参考書】原康夫『量子力学』岩波書店など．この他に必要に応じてプリント等を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220331

【連絡先】
⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室, 088-656-7234, hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))

物理学実験 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小山 晋之・教授/総合理数学科，中山 信太郎・教授/総合理数学科
日置 善郎・教授/総合理数学科，齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科
伏見 賢一・准教授/総合理数学科，真岸 孝一・准教授/総合理数学科
折戸 玲子・助教/総合理数学科

【授業目的】物理学実験 I では様々な現代物理学におけるいくつかの実験を駆け足で行った．この実験ではその中から 1 つを選び，更に深く実験を行うことにより，物理学を探求する方法を習得するとともに，実験手段に習熟することを目的とする．

【授業概要】専門的な物理科学的実験

【キーワード】物理学

【先行科目】『物理学実験 I』(1.0, ⇒210 頁)

【履修上の注意】「物理学基礎実験 I·II」の既習および「物理学実験 I」の既習を前提としている．全回出席し，各テーマについてのレポートを全て提出することを原則とする．止むを得ず欠席したときは，空いている時間に実験を行うこと． この実験で行う内容は，卒業研究を行う上での基礎的な実験である．従って，4 年で行う卒業研究を念頭にテーマを選択すること．

【到達目標】より専門的な物理科学的実験を正確に行い，レポートを書き，プレゼンテーションができる．

【授業計画】量子科学，粒子計測，物性科学のテーマの中から 1 つを選び，そのテーマに関する文献講読及び実験を行う．

【成績評価】提出されたレポートの評価および，発表会における実験テーマの理解度，実験の正確さ，プレゼンテーション能力の評価を併せて評価する．

【再試験】原則として行わない．

【教科書】教科書は実験テーマにより指示する．適宜プリント等を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220332

【連絡先】
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07，088-656-7233，koyama@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 中山 (1N02，0886567236，nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月 ~ 金 17:30~ 18:00)
⇒ 日置 (総合科学部 3 号館 1N04 号室，088-656-7234，hioki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 11:50~ 13:00 (質問などは在室中ならいつでも可))
⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08，088-656-7232，saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01，088-656-7238，kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)
⇒ 真岸 (総合科学部 3 号館 1N09，088-656-7230，magishi@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 折戸 (orito@ias.tokushima-u.ac.jp)

物性科学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小山 晋之 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】固体のいろいろな性質 (物性) が微視的立場からどのように理解できるかを，できる限り初歩的に解説する．初等的な水準の基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせれば，固体物理学に現れる広範囲のまた多くの現象を，少なくとも定性的にかつ統一的に説明できることを講義する．

【授業概要】固体物理学の入門

【キーワード】**結晶構造，逆格子，フォノン，格子比熱**

【先行科目】『熱統計力学 I』(1.0, ⇒208 頁)，『熱統計力学 II』(1.0, ⇒212 頁)，『量子力学 I』(1.0, ⇒208 頁)

【関連科目】『量子物質科学』(0.5, ⇒213 頁)，『量子力学 II』(0.5, ⇒212 頁)，『物理学実験 I』(0.5, ⇒210 頁)，『物理学実験 II』(0.5, ⇒212 頁)

【履修上の注意】基礎となる「量子力学 I」および「熱 · 統計力学 I·II」の履修が望ましい．

【到達目標】固体の結晶構造と逆格子，結晶結合の種類とその原因，格子振動-結晶の振動とその熱的性質を理解する．

【授業計画】**1.** イントロダクション ~ 身のまわりの先端科学の中の物性科学，物性科学とは? **2.** 結晶構造:原子の周期的配列/空間格子の基本型 **3.** 結晶構造:結晶面の指数/簡単な結晶構造 **4.** 逆格子:結晶による波 (X 線など) の回折/散乱波の振幅 **5.** 逆格子:ブリルアン · ゾーン **6.** 逆格子:単位構造のフーリエ解析 **7.** 結晶結合:希ガス結晶/イオン結晶 **8.** 結晶結合:共有結合結晶/金属結晶/水素結合をもつ結晶 **9.** 結晶結合:原子半径, イオン半径 **10.** フォノン I :結晶の振動:単原子結晶の振動 **11.** フォノン I :結晶の振動:基本格子が 2 個の原子を含む格子 **12.** フォノン I :結晶の振動:弾性波の量子化/フォノンの運動量/フォノンによる非弾性散乱 **13.** フォノン II :熱的性質:フォノン比熱 ~ アインシュタイン · モデル **14.** フォノン II :熱的性質:フォノン比熱 ~ デバイ · モデル **15.** フォノン II :熱的性質:結晶による非調和相互作用 ~ 熱膨張/熱伝導率 **16.** 期末試験

【成績評価】学期末試験，レポート，授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する．

【再試験】行う場合もある．但し，全てのレポートの提出を必要とする．

【教科書】教科書 キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)

【参考書】
◇ 参考書 大貫惇睦編「物性物理学」(朝倉書店)
◇ 参考書 岡崎誠著「固体物理学-工学のために-」(裳華房)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220333

【連絡先】
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07，088-656-7233，koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日・木曜日の昼休み)

放射線科学
Radiation Science

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
伏見 賢一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】物質科学に関する幅広い知識を養う．放射線の測定は，原子核 · 素粒子物理学のみならず，環境科学，地球科学の研究にとっても非常に重要である．本講義では，放射線の種類，エネルギー及び放射線と物質の相互作用について解説する．物質科学及び環境科学における放射線計測に必要な放射線に関する基礎知識を解説する．

【授業概要】放射線を利用した各種研究に必要な基礎知識の修得．

【キーワード】**放射線**

【先行科目】『量子力学 I』(1.0, ⇒208 頁)，『物理化学 I』(1.0, ⇒209 頁)

【関連科目】『物理学実験 I』(0.5, ⇒210 頁)，『量子物質科学』(0.5, ⇒213 頁)

【履修上の注意】卒業研究で放射線および放射性物質を取り扱う可能性のある学生は受講することが望ましい．講義ノートを用意すること．講義中に随時演習を行うので関数電卓を準備しておくことが望ましい．

【到達目標】いくつかの放射性物質について崩壊図式を描いて崩壊の説明をすることができる．放射性同位体の半減期と量から放射能の強さを計算する事ができる．放射線と物質の相互作用について理解し，放射線の防護に及び測定を正しく実施できる．生物に対する放射線の影響を正しく理解する．放射線障害防止法の精神について正しく理解する．

【授業計画】**1.** 放射線の種類，放射能の意味 **2.** アルファ線，アルファ線と代表的なアルファ線放出核種 **3.** ベータ線，ベータ崩壊と代表的なベータ線放出核種 **4.** γ 線放射と原子核の励起状態，X 線の放射，内部転換 **5.** 中性子線，核分裂と中性子，原子炉の原理 **6.** 放射能の崩壊．半減期，平均寿命，崩壊系列と放射平衡 **7.** 放射線と物質の相互作用 (断面積，平均自由行程，減衰長) **8.** 荷電粒子の物質内におけるエネルギー損失 I(重粒子) **9.** 荷電粒子の物質内におけるエネルギー損失 II(電子) **10.** 光子 (γ 線，X 線) と物質の相互作用 **11.** 中性子と物質の相互作用 **12.** 生物への影響 I(被ばく線量の計算) **13.** 生物への影響 (確定的影響と確率的影響) **14.** 放射線の遮蔽及び管理 **15.** 法律 (放射線障害防止法の考え方，各種規制) **16.** 総合演習

【成績評価】単元ごとのテスト 100 点満点 (40%)，期末テスト 200 点満点 (40%)，レポート (レポートの素点 100 点満点および内容の発表による得点．自発的な発表は最終成績に対して 6 点加算，指名による発表は 3 点加算．)(10%)，出席点 (無断欠席-3 点，遅刻 3 回で欠席 1 回)(10%) の和を最終成績とする．時々出題する 100 点問題を解けば最終成績を 100 点とする．

【再試験】なし

【教科書】教科書 飯田博美編 「初級放射線 (平成 17 年度改正法令対応改訂版)」 通商産業研究社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220334

【連絡先】
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01，088-656-7238，kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉に掲示の予定表の空欄の時間帯)

量子物質科学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中山 信太郎 · 教授 / 総合理数学科，小山 晋之 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】これまでの授業で学習してきた「物理学」「化学」の基礎的項目の上に物質構造の説明がなされるわけで，基礎的項目を応用できるようにする．特に，これまでに学習した科学の基礎的知識は必須である．前半では物質の二重性を基礎におく量子論をとおして原子構造を解説する．後半では金属・絶縁体・半導体の基礎的な物性とそのメカニズムについて解説する．

【授業概要】前半では電子と原子構造について，その空間的大きさ，形，スピン，パリティについて理解する．後半では原子の集合体である金属・絶縁体・半導体の基礎的な物性とそのメカニズムを初等的な基礎理論と適当な物理的モデルとを組み合わせて理解する．

【キーワード】**自然の広がり，気体分子運動論，原子スペクトル，自由電子モデル，フェルミ面，金属，半導体**

【先行科目】『電磁気学 II』(1.0, ⇒212 頁)，『量子力学 I』(1.0, ⇒208 頁)，『熱統計力学 II』(1.0, ⇒212 頁)，『物性科学』(1.0, ⇒213 頁)

【関連科目】『量子力学 II』(0.5, ⇒212 頁)

【履修上の注意】これまで履修した基礎科学の知識をベースにする．

【到達目標】
1. 原子構造と原子スペクトルを理解する
2. スピン，パリティと軌道角運動量を理解する
3. 金属と自由電子モデルについて理解する
4. 半導体とバンド構造について理解する

【授業計画】**1.** 自然の広がり **2.** 気体分子運動論 **3.** 相対性理論と光量子 **4.** 光の放射と原子構造 **5.** 水素原子模型 **6.** 原子スペクトル **7.** 自由電子のフェルミガス模型 **8.** 中間テスト **9.** 金属と半導体について **10.** 自由電子フェルミ気体のエネルギー準位/フェルミ-ディラックの分布関数 **11.** 自由電子フェルミ気体の比熱/電気伝導率とオームの法則 **12.** エネルギーバンド:自由電子に近い電子モデル **13.** エネルギーバンド:周期的ポテンシャル内の電子 **14.** バンドギャップ/金属と半導体 ~ 絶縁体 **15.** バンドギャップ/金属と半導体 ~ 絶縁体 **16.** 期末テスト

【成績評価】レポートと中間テストと期末テスト

【再試験】レポートが一定水準に達している場合あり

【教科書】
◇ 自製テキスト
◇ キッテル著「固体物理学入門 上」(丸善)

【参考書】
◇ 参考書「量子力学」原康夫著，岩波書店
◇ 参考書:「原子物理概論」久武和夫著，朝倉書店
◇ 参考書:「現代物理学の基礎」バイザー著，好学社
◇ 参考書:「固体電子物性」若原昭浩著，オーム社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220335

【連絡先】
⇒ 中山 (1N02, 0886567236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 在室時はいつでも質問を受け付ける)
⇒ 小山 (総合科学部 3 号館 1N07, 088-656-7233, koyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日・木曜日の昼休み)

宇宙科学 Space Science

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
伏見 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】宇宙の構造，進化について学ぶ．

【授業概要】宇宙の構造，構成要素，進化について解説する．宇宙の構造に関する知識は，20 世紀後半に特に進んだ観測技術により精度が向上した．遠い天体の距離を正確に測る方法，銀河の形状および分光学による銀河系の進化，宇宙の大部分を占めるとされている宇宙暗黒物質やダークエネルギーについて，観測及び理論の現状を解説する．

【キーワード】**宇宙構造，宇宙の進化，宇宙の観測，宇宙論，宇宙暗黒物質**

【先行科目】『力学 I』(1.0, ⇒207 頁)，『力学 II』(1.0, ⇒211 頁)，『電磁気学 I』(1.0, ⇒208 頁)，『電磁気学 II』(1.0, ⇒212 頁)，『熱統計力学 I』(1.0, ⇒208 頁)，『熱統計力学 II』(1.0, ⇒212 頁)

【関連科目】『物理学実験 I』(0.5, ⇒210 頁)，『物理学実験 II』(0.5, ⇒212 頁)，『量子力学 I』(0.5, ⇒208 頁)，『量子力学 II』(0.5, ⇒212 頁)，『量子物質科学』(0.5, ⇒213 頁)

【履修上の注意】講義ノートを用意すること．演習をすることがあるので関数電卓を用意しておくこと．

【到達目標】現代の宇宙科学について正しく理解し，わかりやすく解説することができるようになること．

【授業計画】**1.** 天文学基礎 I (星座，天体の等級) **2.** 天文学基礎 II (宇宙の各階層) **3.** 恒星 I (スペクトル型) **4.** 恒星 II (恒星の進化) **5.** 恒星 III (超新星，中性子星，ブラックホール) **6.** 宇宙構造 (距離のはしご) **7.** 宇宙論 I (膨張宇宙論・ハッブルの法則) **8.** 宇宙論 II (膨張宇宙論の理論) **9.** 宇宙論 III (膨張宇宙論の観測) **10.** 宇宙論 IV (宇宙を構成するもの) **11.** 宇宙論 V (宇宙暗黒物質概論) **12.** 初期宇宙論 I (インフレーション・ビッグバン) **13.** 初期宇宙論 II (物質の生成，相互作用の進化) **14.** 初期宇宙論 III (初期宇宙元素合成) **15.** 初期宇宙論 IV (宇宙の晴れあがり以降) **16.** 総合演習

【成績評価】レポート (毎週の課題 50%，期末レポート 40%) 出席 (10%)

【再試験】なし．

【教科書】「宇宙物理学入門 現代宇宙物理学の A から Ω」 伏見賢一著 大学教育出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220336

【連絡先】
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉の予定表に示されている空欄の時間帯)

無機化学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
未定，今井 昭二・教授/社会創生学科

【授業目的】環境化学において重要な無機化学分野の内容を理解する．

【授業概要】環境化学において重要な無機化学分野を講義する．

【先行科目】『無機化学 I』(1.0, ⇒208 頁)，『物理化学 I』(1.0, ⇒209 頁)

【履修上の注意】新任教員の採用予定であり，講義内容は未定です．

【授業計画】試験・総括授業

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219013

【連絡先】
⇒ 未定
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08, 088-656-7273, imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40, 木曜日 13:30-14:20)

物理化学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
山本 孝・准教授/社会創生学科

【授業目的】物理化学 I では熱力学をもとにして，分子を構成単位とする物質の化学反応および物質の状態の変化などについて説明するのに対して，物理化学 II では 量子力学をもとにした原子の電子配置，化学結合，分子の構造，電磁波と物質の相互作用について説明する．

【授業概要】先ず，物質を構成するミクロな粒子である原子や分子の性質を学習する．ついで，それらが凝集した液体と固体の状態について学習する．

【キーワード】**原子の構造，分子軌道法，分子分光学，溶液の構造，固体の構造**

【先行科目】『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)

【履修上の注意】予習をしていることを前提に授業を行う．

【到達目標】
1. 原子軌道について理解している．
2. 分子軌道法について理解している．
3. 分光学の原理について理解している．
4. 液体，溶液に関する基礎的な内容について理解している．
5. 結晶，固体に関する基礎的な内容について理解している．

【授業計画】**1.** 量子力学の起源について講義する． **2.** シュレディンガー方程式と波動関数 について講義する． **3.** 量子論 (1):並進運動と振動運動 について講義する． **4.** 量子論 (2): 回転運動と近似の手法 について講義する． **5.** 水素型原子の構造とスペクトルについて講義する． **6.** 多電子原子の構造と近似法について講義する． **7.** 一重項状態と三重項状態，スピン-軌道相互作用について説明する． **8.** 中間試験 **9.** ボルン-オッペンハイマー近似と原子価結合法について講義する． **10.** 分子軌道法について講義する **11.** ヒュッケル分子軌道法 について講義する． **12.** 対称操作と対称要素，分子の対称による分類について講義する **13.** 指標表と対象の記号付けについて講義する **14.** 回転スペクトルと振動スペクトルについて講義する **15.** 電子遷移について講義する **16.** 定期試験

【成績評価】試験を実施する．

【再試験】一定の基準を満たしている場合に再試験を行う．

【教科書】アトキンス 物理化学 (上)

【参考書】量子化学—基本の考え方 16 章

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218981

【連絡先】
⇒ 山本 (088-656-7263, t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

有機化学 II

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
増田 俊哉・教授/社会創生学科

【授業目的】有機化学の基本的反応について学ぶ．加えて有機化合物の構造決定に用いられる機器分析に関する基礎について講義する．有機化合物とは何かを理解することを目的とする．

【授業概要】有機化合物の性質と反応の基礎． 有機機器分析の基礎

【キーワード】**基礎化学，有機化学**

【先行科目】『化学の基礎』(1.0, ⇒94 頁)，『有機化学 I』(1.0, ⇒209 頁)

【履修上の注意】授業は教科書に従うが，重要なところは，相当内容を補足する．したがって，授業への出席は必須である．

【到達目標】有機化学が理屈に則った科学であることを認識し，基本理論に基づき有機化学を理解できるようになること．

【授業計画】**1.** ベンゼン，共鳴理論，紫外可視分光法 (3 回) **2.** 芳香族性 (3 回) **3.** ハロゲン化アルキルの置換・脱離反応 (4 回) **4.** アルコール，アミン，エーテル，エポキシド (2 回) **5.** 構造決定 (3 回) **6.** 期末試験 **7.** 総括

【成績評価】本授業は講義形式で行うので，評価は，期末試験 (ノート等の持込み禁止) 結果によるが，出席や授業への取り組むを評価に入れることもある．.

【再試験】基本的には実施しない

【教科書】教科書:ブルース有機化学概説第 2 版 (大船康史・香月昜・西郷和彦・富岡清 監訳，化学同人)， 参考書:ブルース 有機化学 第 5 版 (上)(大船康史・香月昜・西郷和彦・富岡清 監訳，化学同人)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219018

【連絡先】
⇒ 増田 (2N01, 088-656-7244, masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)

生化学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】生体を構成する生体高分子 (タンパク質・脂質・糖質など) に焦点を当て，その化学構造など基礎的な事項から，それらの生体内における機能や分析法までの総合的な理解を目的とする．

【授業概要】生命現象の理解には，生命を構成する分子レベルでの理解が不可欠である．ここでは，生体を構成する脂質，糖質，タンパク質に焦点を当て，これらの基本的な構造と機能を理解すると共に，生化学的手法による検出・分析法についても講義を行う．

【キーワード】**タンパク質，糖質，脂質，分析法**

【先行科目】『生命科学の基礎』(1.0, ⇒93 頁)，『生命科学の基礎』(1.0, ⇒188 頁)

【履修上の注意】講義の最後に課題を出しますので，出席してください．また，授業態度の著しく悪い学生は欠席扱いとする場合があります．

【到達目標】

1. 糖質・脂質・タンパク質の基本的な構造と機能が理解できる．
2. 糖質・脂質・タンパク質の分析法が理解できる．

【授業計画】1. シラバス・評価方法の説明 **2.** アミノ酸の構造と機能，分析法 **3.** タンパク質の構造 (一次ー四次構造) **4.** タンパク質の機能と分離法 **5.** タンパク質の構造解析法 (1) **6.** タンパク質の構造解析法 (2) **7.** 酵素の分類と性質 (1) **8.** 酵素の分類と性質 (2) **9.** タンパク質工学・酵素工学 **10.** 単糖の化学的性質と反応・分析法 **11.** 単糖と多糖類の構造と機能 **12.** 脂肪酸と脂質の基本構造 **13.** 脂肪酸と脂質の反応・分析法 **14.** 生体膜の構造と機能 **15.** 定期試験 **16.** 統括授業

【成績評価】毎週の講義のまとめとして，課題を出席者に渡します．次の講義の時に提出していただき，平均を平常点とします (6 割)．定期試験 (4 割) とあわせ評価します．

【再試験】試験細則に準拠し，受験資格のあるもののみ再試験を行います

【教科書】ヴォート「基礎生化学」(第 3 版)(東京化学同人)

【参考書】
- ◇ Alberts ほか，中村桂子訳「Essential 細胞生物学」(南江堂)
- ◇ 石黒伊三雄監修「わかりやすい生化学 (第 3 版)」(廣川書店) などから，適宜プリントを配布する
- ◇ 配布したパワーポイント資料，および実施済み課題は，下記 web からダウンロードできます．

【WEB 頁】http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218740

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3N05，088-656-7657，tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日9:00-17:00)

環境機器分析化学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】化学，環境および工業分野での機器分析法について装置，計測，測定などの基礎を学ぶことを目的とする．

【授業概要】分光分析を中心として現代的な機器分析法を講義する．

【キーワード】機器分析

【到達目標】 分析化学において主力となっている機器分析法の原理と応用を理解する．

【授業計画】1. 分光分析法:光学的知識 **2.** 分光分析法:分光学的知識 **3.** 分光分析法:装置情報処理的知識 **4.** 分光分析法:分光化学的知識 **5.** 分光分析法:基本法則 **6.** 分光分析法:イオン認識分析法 **7.** 分光分析法:定量法 **8.** フレーム・黒鉛炉原子吸光法 (FAAS・GFAAS) **9.** プラズマイオン化質量分析法 (ICP-MS)・プラズマ発光分析法 (ICP-AES) **10.** X 線吸収分光法 (XAFS)・蛍光 X 線分析法 (EDX) **11.** 走査型電子顕微-蛍光 X 線分析法 (SEM-EDX)・光電子分光法 (XPS) **12.** 赤外分光分析法 (FT-IR)・レーザーラマン散乱分光法 **13.** ガスクロマトグラフ質量分析法 (GC-MS)・ガスクロマトグラフ (GC) **14.** イオン交換分離法・固相抽出法・イオンクロマトグラフ法 (IC) **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】定期試験で評価する．

【再試験】試験で 20 点以上の学生に対して，再試験を実施する．

【教科書】化学基礎実験，分析化学 I と継続した教科書を前半に用いる．後半は，資料を配布する．

【参考書】適宜，教科書を紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220361

【連絡先】
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前 · 後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)

天然物化学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中村 光裕 · 講師 / 総合理数学科

【授業目的】天然物資源から合成される化合物について，その生合成経路と合成された化合物の機能について理解する．

【授業概要】天然有機化合物の生合成，および機能

【キーワード】天然物化学，生合成，生物活性

【履修上の注意】有機化学の基礎知識を修得していることが望ましい

【到達目標】生物活性，生合成などについての基礎知識を修得する．

【授業計画】1. はじめに **2.** 生合成経路の研究法 **3.** 酢酸ーマロン酸経路 (1) **4.** 酢酸ーマロン酸経路 (2) **5.** 酢酸ーマロン酸経路 (3) **6.** シキミ酸経路 (1) **7.** シキミ酸経路 (2) **8.** メバロン酸経路 (1) **9.** メバロン酸経路 (2) **10.** メバロン酸経路 (3) **11.** その他の経路 (1) **12.** その他の経路 (2) **13.** その他の経路 (3) **14.** その他の経路 (4) **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】学期末テスト，レポート，受講態度

【再試験】無

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220372

【連絡先】
⇒ 中村 (2N02，088-656-7246，mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】上記の授業計画は，予定であり変更することもある．

分子化学反応論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
三好 德和 · 教授 / 総合理数学科

【授業目的】有機化学 I·II に引き続き，有機化学の反応を官能基別に分類して，それらの化合物の命名法，性質，構造と製法及び反応を立体化学を含めて講義する．

【授業概要】芳香族化合物，カルボニル化合物，酸化還元反応ならびにアミンについて講義する

【キーワード】芳香族化合物，カルボニル化合物，酸化還元，アミン

【先行科目】『有機化学 I』(1.0，⇒209 頁)，『有機化学 II』(1.0，⇒214 頁)

【関連科目】『生物有機化学』(0.5，⇒215 頁)

【履修上の注意】有機化学 I·II の内容を理解していることが原則です．注意事項は初回の授業にて話すので，遅刻および欠席はしないように．

【到達目標】芳香族化合物，およびカルボニル化合物を中心とする有機化学反応の基礎を理解する．

【授業計画】1. 1．芳香族性・ベンゼンの反応 (2 回) **2.** 2．置換ベンゼンの反応 (2 回) **3.** 3．カルボニル化合物 I-求核アシル化反応-(2 回) **4.** 4．カルボニル化合物 II-アルデヒドとケトン-(3 回) **5.** 5．カルボニル化合物 III-α 炭素上での反応-(2 回) **6.** 6．酸化反応について **7.** 7．還元反応について **8.** 8．アミン **9.** 9．試験 **10.** 10．総括授業

【成績評価】授業に取り組む姿勢と，期末に行う試験により評価する．

【再試験】場合によっては行う．

【教科書】ブルース「有機化学第 5 版 下」 大船・香月・西郷・富岡監訳 化学同人

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220337

【連絡先】
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03，088-656-7250，miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

生物有機化学

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
増田 俊哉 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】重要な生体物質の有機化学を習得する．

【授業概要】生物有機化学の基礎

【履修上の注意】受講にあたって，有機化学 I および II を必ず履修済みであること (物質総合コースおよび環境共生コースの学生は履修可能です．)．履修していないために，理解できないことに関しての考慮はしません．

【到達目標】有用な生体有機物質の構造，基本的な物理的，化学的性質が理解できること．

【授業計画】1. 生体物質における立体化学 **2.** 糖質の化学 (総論) **3.** 単糖の化学 I **4.** 単糖の化学 II **5.** オリゴ糖，多糖の化学 **6.** タンパク質の化学 (総論) **7.** アミノ酸の化学 I **8.** アミノ酸の化学 II **9.** ペプチドの化学 **10.** タンパク質の化学 **11.** 脂質の化学 I **12.** 脂質の化学 II **13.** 核酸の化学 I **14.** 核酸の化学 II **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】原則として期末テストの成績による．なお，各項目終了後中間試験を行い，その成績の総和で評価することもある．

【再試験】相談の上，再テストを行うこともある．

【教科書】ブルース有機化学概説第 2 版またはブルース有機化学 (下) 第 5 版を参考に用いる．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220371

【連絡先】
⇒ 増田 (2N01，088-656-7244，masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)

化学実験 II

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
今井 昭二 · 教授 / 社会創生学科，増田 俊哉 · 教授 / 社会創生学科
三好 德和 · 教授 / 総合理数学科，山本 裕史 · 准教授 / 社会創生学科
山本 孝 · 准教授 / 社会創生学科，中村 光裕 · 講師 / 総合理数学科

【授業目的】化学基礎実験，化学実験 I で修得した知識，技能をもとに，化学分野で卒業研究を行うのに必要な実験技術や実験結果の解析能力を養う．

【授業概要】物質科学における化学分野の実験 (3 期目)

【履修上の注意】 化学基礎実験，化学実験 I を履修済みであることを原則とします．なお，実験という性格上時間内に終わらないこともあります．また,フィールドワークを含む宿泊野外実習が行われます．一課題の実験で 2 週間以上をかけて行うこともあります．極力休まないようにしてください．(どうしても休まなければならないときは担当者に連絡すること)

【到達目標】 各実験項目についてその原理が理解でき，適切な実験操作により結果を得ることができること. さらに，得られたデータを解析，考察することができること．

【授業計画】**1.** 説明，安全教育 **2.** 生物有機化学実験 I (ペプチドの加水分解) **3.** 生物有機化学実験 II (ペプチドの構造決定) **4.** 天然物化学実験 I **5.** 天然物化学実験 II **6.** 有機合成化学実験 I (ベンゾイン縮合) **7.** 有機合成化学実験 II (ベンジルへの酸化) **8.** 無機・分析化学実験 I **9.** 無機・分析化学実験 II **10.** 無機・分析化学実験 III **11.** 物理化学実験 I(X 線分光分析) **12.** 物理化学実験 II(X 線分光分析) **13.** 環境化学実験 I (水質汚濁評価:GC-MS，HPLC，指標生物など) **14.** 環境化学実験 II(水質汚濁評価:GC-MS，HPLC，指標生物など) **15.** 地域環境・資源化学実験 (野外実験実習:宿泊) **16.** 地域環境・資源化学実験 (野外実験実習:宿泊)

【成績評価】各実験における実験への取り組み (出席を含む) およびレポートの内容を総合して評価する．

【再試験】レポートの再提出をもって，再試の代わりとする．

【教科書】各実験ごとにテキストが配布される．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220338

【連絡先】

⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)

⇒ 増田 (2N01，088-656-7244，masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03，088-656-7250，miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07，7618，hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 山本 (088-656-7263，t-yamamo@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 中村 (2N02，088-656-7246，mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp)

細胞生理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
中川 秀幸・教授/社会創生学科

【授業目的】生体は約 60 兆個の細胞から構成されている．多細胞生物の細胞は，その容器に入っている膨大な情報をもとに生命活動を営んでいる．細胞の容器にあたる細胞膜は，細胞の内部環境と外部環境とのゆるやかなバリアーであり，特徴的な働きを担っている．この授業では細胞の構造や機能を学び，その生命活動を守っている神経系，細胞間シグナル伝達の役割や内分泌系の働きなどから，細胞の集合体である生体の仕組みと機能を理解する．

【授業概要】細胞の生命活動を支える働きを神経系，細胞間情報伝達，内分泌系および生体防御機構などから学び，生体の内部環境の仕組みと機能を理解する．

【キーワード】**細胞，細胞膜，分子，タンパク質，脂質，アミノ酸，情報伝達，外部環境，内部環境，生体**

【履修上の注意】ノートは必要，配布の資料はファイルすること．

【到達目標】個々の細胞の多様な生命活動は，生体の内部環境を一定に保つように働き，支えていることを理解する．

【授業計画】**1.** 細胞の多様性 **2.** 細胞の構造と機能 **3.** 生体の構造と機能 **4.** 細胞の中の分子 (1) **5.** 細胞の中の分子 (2) **6.** 細胞膜の構成と構造 **7.** 細胞膜の脂質 **8.** 細胞膜のタンパク質 **9.** 細胞膜での輸送 **10.** 内部環境を形成する体液 **11.** 神経系と伝達物質 **12.** 自律神経系による内部環境の調節 **13.** 内分泌系による内部環境の調節 **14.** 外部環境と生体防御機構 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】授業が進んだ前半の小テストと，出席状況および後半の期末試験との総合評価を行う．

【再試験】小テストと出席状況をチェックし，期末試験を行うので，再評価はしない．

【教科書】わかる生物学:知っておきたいヒトのからだの基礎知識 (小野廣紀・内藤通孝著，化学同人，1800+税)

【参考書】参考書として，エッセンシャル細胞生物学 (南光堂:8000 円+税)

【WEB 頁】http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/life2index.htm

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219985

【連絡先】

⇒ 中川 (3222，088-656-7259，sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時)

環境生理学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】我々は，ともすると他の生物を人間的視点 (あるいは高等動物的視点) から見てしまいがちである．しかし当然ではあるが，地球上のほとんどの生物同士の相互作用や生物と環境の相互作用は，人間とは無関係に進化してきたものであり，我々の想像を超えるような独自の精巧なシステムが構築されている．それらのメカニズムを理解した上で，人間が他の生物をどのように利用しているのか，それがどのような影響を与えるのか等，人間が他の生物といかに関わるべきかについて解説する．

【授業概要】生物，環境，社会

【キーワード】**光合成，物理環境，公害，解毒，環境適応，生物浄化法**

【到達目標】前半の講義では，植物や動物の生理がどのように環境と関わっているかを理解し，後半の講義では種特有の機能を環境浄化に活かす方法を理解する．

【授業計画】**1.** 地球全体における光合成の意味 **2.** 光合成のメカニズム **3.** 外部環境に対する認識メカニズム 1 : 感覚，知覚とは? **4.** 部環境に対する認識メカニズム 2 : 眼の構造と機能 **5.** 外部環境に対する認識メカニズム 3 : 視覚の進化 **6.** 外部環境に対する認識メカニズム 4 : 視覚以外の感覚について **7.** 熱と温度 1 : 熱とは何か．熱の伝わりかた **8.** 熱と温度 2 : 低温に対する適応について **9.** 熱と温度 3 : 生物の体温調節メカニズムについて **10.** 重金属と生物 1 : 重金属の性質と解毒メカニズム **11.** 重金属と生物 2 : 水俣病について **12.** 重金属と生物 3 : イタイイタイ病について **13.** 重金属と生物 4 : その他の重金属の毒性について **14.** バイオレメディエーション (生物による環境浄化) とは **15.** バイオレメディエーションによる水質浄化 **16.** 総括授業

【成績評価】数回の小テストにより評価する (ノート，資料の持ち込み禁止)．

【再試験】行わない．

【教科書】講義の際に随時紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220364

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222，satoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室に在室している時はいつでもOK．)

生体物質影響学

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
金丸 芳・准教授/社会創生学科

【授業目的】生命維持のために，我々は経口で栄養素を摂取することが不可欠です．すなわち，食物摂取が必須です．食物は生体物質であり，栄養素やその他の成分が多く含まれています．そして，生体の恒常性維持や生体防御や生体調節機能に関与する生体調節機能があります．そのため，健康寿命の延長 (疾病予防や健康維持や老化防止) を期待することも可能です．そこで，生体物質 (食物) の栄養や生体調節機能や正しい利用など，また，食べることと健康についても概説します．

【授業概要】生体の恒常性維持や健康維持 (生体防御・生体調節機能) を有する生体物質についての生命科学的知識

【キーワード】**生体物質，生体の恒常性，生体調節機能，健康維持**

【到達目標】生体物質の摂取と生体の恒常性について理解する．

【授業計画】**1.** 生命と栄養素 **2.** 生体の恒常性 **3.** 健康とは **4.** 食習慣と健康 **5.** 糖質の機能 **6.** 脂質の機能 **7.** タンパク質の機能 **8.** ビタミンの機能 **9.** ミネラルの機能 **10.** 食物繊維の機能 **11.** 非栄養成分の機能 **12.** 生体調節機能 **13.** 酸素と生体 **14.** 疾病予防と生体物質 **15.** テスト **16.** 総括

【成績評価】期末のテストを中心に，小テストと出席状況を加味して評価します．

【再試験】行いません

【教科書】プリントを適宜配布します

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220370

【連絡先】

⇒ 金丸 (088-656-7268，kanemaru@ias.tokushima-u.ac.jp)

環境地質学
Environmental Geology

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】地球表層を構成する地形と，地形を構成する物質である岩石・土の物性ならびにその中を流れる水の特徴について，地表環境の開発・保全・防災の観点から学ぶ．

【授業概要】環境・防災・建設といった社会のニーズに地球科学の立場から応えるためには，岩石・岩盤・土の物性 (物理的・力学的性質) を把握することが必要である．また，地球表層における水の循環は，岩石と水との相互作用に影響する．その結果生じる岩石の風化帯は，斜面における物質移動 (すなわち土砂災害) の予備物質となる．以上をふまえて，この講義では，地球表層環境の開発・保全・防災に関する事項の理解を目指した講義を行う．

【キーワード】**地形変化，土・岩石・水の物性，岩石の風化**

【先行科目】『地球環境科学』(1.0，⇒210 頁)

【履修上の注意】毎回パワーポイントを使用します．毎回の講義の途中もしくは最後に，理解度を確認するための小問題を出します．講義に関する質問を歓迎します．

【到達目標】地球表層環境を構成する岩石・土・水の基本的な物性とその変化について理解する．

【授業計画】**1.** 地球表層の開発・保全・防災 **2.** 地形の形成と地表の変化 **3.** 平野・海岸の地形変化 **4.** 山地の地形変化 **5.** 地質調査の方法と評価 **6.** 土の物理的・力学的性質 **7.** 地下水の特徴 **8.** 地質汚染の分析法 **9.** 岩石・鉱物の風化 **10.** 風化による岩石物性の変化

11. 岩石の風化速度 **12.** 斜面における物質移動の種類と特徴 **13.** 斜面災害の解析 **14.** 大規模崩壊の特徴と予測 **15.** 試験 **16.** 総括授業

【成績評価】毎回実施する小テストと，期末試験またはレポートを総合的に判断して評価する

【再試験】再試験あり

【教科書】指定しない．毎回プリントを配布する．

【参考書】参考書:「地形変化の科学」(朝倉書店),「山崩れ・地すべりの力学」(筑波大学出版会),「災害地質学入門」(近未来社),「建設技術者のための地形図読図入門」(古今書院)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220339

【連絡先】

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

物質構造解析学

2 単位 (選択) 3 年 (前期, 集中)

森 寛志・非常勤講師 / 愛媛大学大学院理工学研究科

【授業目的】地球を構成する物質 (造岩鉱物) の分類，化学組成，結晶構造，物性などを理解するための基礎的な事項を学ぶ．

【授業概要】造岩鉱物の化学組成と結晶構造，鉱物結晶の外形と構造の対称性，EPMA を用いた鉱物の化学分析法，X 線回折法を用いた結晶鉱物の解析法などについて学ぶ．

【キーワード】造岩鉱物，結晶，対称性，結晶構造，*X* 線回折，化学組成

【履修上の注意】集中講義として実施されます． 受講のために特別な知識やスキルは必要ありません．授業内容のパワーポイントファイルを印刷した資料を事前に配布するのでよく目を通しておくこと．

【到達目標】

1. 造岩鉱物の分類について説明することができる．
2. 鉱物の外形や結晶構造の対称性について考えることができる．
3. 鉱物の化学組成とその決定法について説明することができる．
4. X 線回折法による結晶構造の決定について説明することができる．

【授業計画】1. 授業のガイダンス **2.** 鉱物の組成と構造 **3.** 造岩鉱物の分類 **4.** ケイ酸塩鉱物 **5.** 結晶の外形と面指数，点群 **6.** 結晶構造の対称性 **7.** 結晶格子と空間群 **8.** X 線の発生と検出 **9.** 結晶による X 線の回折 **10.** 粉末 X 線回折法 **11.** EPMA による鉱物の化学分析 **12.** 結晶結合 (イオン結合と共有結合) **13.** 結晶の弾性的性質 **14.** 結晶の塑性変形 **15.** 授業のまとめ

【成績評価】授業中に数回の小テストを行い，成績を評価する．

【再試験】原則として行わない．

【教科書】 教科書は用いない．参考資料として授業で使用するパワーポイントファイルを印刷した資料を配布する．

【参考書】

- 都城秋穂・久城育夫著，「岩石学 I 偏光顕微鏡と造岩鉱物」，共立出版 (1972)
- Charles Kittel 著，宇野良清他訳，「固体物理学入門 (上)」，丸善 (2005)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220377

【連絡先】

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

地球科学実験 II

2 単位 (選択) 3 年 (後期)

石田 啓祐・教授 / 総合理数学科，村田 明広・教授 / 総合理数学科
西山 賢一・准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 地球科学および地球科学的な視点から環境科学を学ぶ学生のための，室内および野外での実験・実習である．

【授業概要】微化石と SEM を用いた地質解析 (石田啓)，地質構造の解析 (村田)，岩石の風化と斜面崩壊 (西山)

【キーワード】生層序，岩石の風化，環境地学，地質構造，断層

【履修上の注意】 地球科学系の研究室に配属を希望する学生を対象とします．卒業研究着手のための準備的な実習を兼ねますので，配属予定の教員により指導内容が異なります．普段の室内で行う実習と野外実習の両方を受講すること．室内実習のみ，あるいは野外実習のみの受講は認めません．野外実習は土・日，冬休みなどの休日に，予定しています．交通費は自分持ちとなります．

【到達目標】卒業研究着手に必要な基礎的知識や技能を身に付ける．

【授業計画】1. 卒業研究に着手するための，基本的な，あるいは予備的な実験・実習を含む．各々の指導教官により，以下のように，個別に授業が計画されている． **2.** 石田 (啓) 担当分 **3.** a. 付加体と関連堆積相より産する年代・環境指標としての古生物，b. 中・古生界層序と堆積相の野外実習， c. 微化石抽出のための堆積岩類の試料採集・化学処理，d. 微化石観察の SEM を用いた操作実習 **4.** 村田担当分 **5.** a. 構造地質学分野でのステレオ投影法， b. 衛星画像から断層・褶曲を判読する， c. 秩父帯・四万十帯の地質構造に関する野外実習 **6.** 西山担当分 **7.** a. 地形図・空中写真判読による斜面崩壊・地すべり地形の判読 b. 岩石の物理的・力学的性質の測定 c. 野外における斜面地質学実習 (岩石の風化帯構造の観察，斜面崩壊・地すべり地での実習)

【成績評価】実習への取り組み姿勢と，レポートを総合的に判断して評価する．

【再試験】行わない．

【教科書】教材あるいは参考書については，各々の教員がガイダンス時に紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220340

【連絡先】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03, 088-656-7242, murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)
⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

比較文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

有馬 卓也・教授 / 人間文化学科，田島 俊郎・教授 / 人間文化学科
桂 修治・教授 / 人間文化学科，依岡 隆児・教授 / 人間文化学科
ヘルベルト ウォルフガング・講師 / 人間文化学科

【授業目的】世界の様々な文化に対して好奇心を抱き，学際的・総合的な比較文化研究の考え方を理解すること．

【授業概要】従来の専門分野にとらわれず，比較という手法を用いながら，学際的・総合的な文化研究を目指していく比較文化的考え方を理解することを目的とする．日本を含む世界の様々な文化の在り方や影響関係について，担当の教員がそ今回は「未知の世界に触れる」「違いを楽しむ」「つながりを見つける」の 3 セクションに分けて，それぞれのセクションに各人 1 回程度講義を提供する．その際，それぞれにテーマを提示したうえで，担当教員のそれぞれの専門の持ち味を出して，具体的な事例をもとに論じていく．概要の趣旨に沿って，「比較という方法」「学際性」「総合性」をキーにしてセクションを設け，その枠の中で個別のテーマで論じていくことになる．.「自文化と異文化」「文学 (レトリック，物語・民間伝承など)」「宗教」「思想」「異文化教育」「映像表現」「文化交流」などからテーマは選ばれることになろうが，その際にも，具体的な話題から普遍的な文化の問題を掘り下げる．

【キーワード】比較文化，異文化理解，学際性，文化交流，文化変容

【到達目標】国際的感覚を涵養し，総合的な文化研究を身につけること．

【授業計画】1. 導入「比較文化」とはなにか? **2.** セクション 1「未知の世界に触れる」(1 回目から 5 回目まで):「文化」とは何かを考えながら，様々な世界の見方を提示する．好奇心の大切さ，比較という方法について述べる．個別のテーマとしては「外国人・マイノリティ・異人」「犯罪」「自文化/他文化」「日本の中の異文化」など **3.** セクション 2「違いを楽しむ」(6 回目から 10 回目まで) 多面的にものを見ることの大切さと学際的な研究について提示する．個別のテーマとしては，「風景・景観の比較」「物語・説話の変容・異同」「レトリック」「ホロコーストの映像表現比較」「世界の中の禅」など **4.** セクション 3「つながりを見つける」(11 回目から 15 回目まで) 文化の中の違いを認めながらも，そこに思いがけないつながりを見つけ，総合的に世界を見ること提示する．個別のテーマとしては，「交流」「異文化教育」「文化の影響」「シナジー」「情調における文化の交感」など

【成績評価】期末レポートと平常点．期末レポートは 5 人の教員が提示した課題図書の中からどれか一冊を選び，それを元に授業の内容を踏まえながら論じるもの．平常点は出席，あるいは授業メモの提出によって行う．

【再試験】有

【教科書】必要に応じてプリントなどを配布する．

【参考書】各教員から授業の中で課題図書が示される．

【WEB 頁】http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/culturescomparees/2010.html

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218954

【連絡先】

⇒ 有馬 (088-656-7119, arima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 随時可)
⇒ 田島 (088-656-7144, tajima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12 時から 13 時)
⇒ 桂 (2308, 0886-656-7136, katsura@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜 3·4 時間，金曜 5·6)
⇒ 依岡 (1308, 088-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)
⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域交流史

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

東 潮・教授 / 人間文化学科，葭森 健介・教授 / 人間文化学科
衣川 仁・准教授 / 人間文化学科，佐久間 亮・教授 / 人間文化学科

【授業目的】日本・アジア・ヨーロッパの各地域の交流を通じ，各地域の歴史が世界史を形成してゆく過程を講義する．併せて学生がテーマを理解し，日本及び世界の未来について考え，国際人としての基礎知識と自覚を涵養する．

【授業概要】日本が東アジアの交流から国家を形成し，東アジア史の一翼を担うところから出発し，大航海時代を経て，東洋と西洋が出会い，世界史が形成される過程を講義する．

【キーワード】**地域交流，世界史，国際関係**

【履修上の注意】高校で習った世界史，日本史の授業内容を復習しておくこと．

【到達目標】学生が将来歴史の教師となったときこのテーマを理解し，日本及び世界の未来について生徒に考えさせる実力の獲得を授業の到達目標とする．

【授業計画】**1.** 西洋史と東洋史-高校の教科書の構成を振り返る　**2.** 冊封体制と日本―日本国家の成立と東アジア史 (葭森)　**3.** 邪馬台国と倭国 (東)　**4.** 四-六世紀における東アジアの国際環境 (東)　**5.** 飛鳥時代の国際環境 (東)　**6.** 六朝隋唐国家と古代日本国家-律令制とは (葭森)　**7.** 大陸・半島から日本へ (衣川)　**8.** 東夷の小帝国-「日本」の自覚 (衣川)　**9.** 中世日本と東アジアの交流 (衣川)　**10.** モンゴル・ウルスの衝撃-世界史の序曲 (葭森)　**11.** 大航海時代・黒死病・奴隷 (佐久間)　**12.** プラントハンター・植物園・帝国の手先 (佐久間)　**13.** イギリスのインド支配-熱帯をいかに飼い馴らすか-(佐久間)　**14.** お茶・陶磁器・絹・銀そしてアヘン-貿易から戦争の時代へ (葭森)　**15.** 期末試験　**16.** 地域交流と歴史-授業の総括 (葭森・東・衣川・佐久間)

【成績評価】授業への参加姿勢と期末試験で総合的に評価

【再試験】再試験はしない

【教科書】なし．授業でプリントを配布

【参考書】授業中に適宜紹介

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218780

【連絡先】
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 葭森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 15:00)
⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐久間 (088-656-7152, sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

日本経済と社会

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】変動過程にある日本型経済システムの骨格を理解し，転換の課題を確認する．

【授業概要】かつて「経済大国」に駆け上がった日本経済は凋落過程にある．また，格差社会 · 無縁社会 · 限界集落など，多くの社会問題が一斉に激化している．その転換をいかに図るか，歴史経過を踏まえて考察する．

【キーワード】**日本経済，社会システム，維持可能な社会**

【到達目標】
1. 高度成長期に形成された日本経済の構造的な特質を理解できる．
2. 経済システムの転換をめぐる理念と政策の対抗関係を理解できる．

【授業計画】**1.** 日本経済のたそがれ 日本経済閉塞の指標 講義計画　**2.** 高度経済成長の時代 国民経済の急膨張と日本型システムの形成　**3.** 成長至上主義の社会 経済成長を可能にする条件 大衆消費時代　**4.** 高度成長方式の破綻 「東洋の軌跡」の終焉 破綻の内外要因　**5.** 「国際分業論」の欠陥 効率性を優先する加工貿易型の歪んだ経済構造　**6.** 大量生産・大量消費 経済成長と資源 · 環境問題 「公害列島」日本　**7.** 土建国家日本の構図 生産基盤整備を図る大型公共事業と推進体制　**8.** 経済大国と生活小国 資本効率の追求と福祉の低迷 低位な労働環境　**9.** 財政破綻と小さな政府 「日本株式会社」を牽引した政府財政の破綻　**10.** グローバル化の投影 先進国の積極的多国籍化と世界経済システム　**11.** 新自由主義への傾斜 「政府の失敗」 市場原理主義への誘導　**12.** 新たな社会問題の噴出 各種格差の発現 「この国のかたち」への批判　**13.** 市場の失敗と各種 NPO 公共領域の劣化と社会的経済への期待　**14.** 維持可能な社会の展望 成長至上主義を克服する経済構造への転換　**15.** 期末試験　**16.** 総括:日本型システムの分解と Sustainable Society への道

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末筆記試験による．出席状況で補正があり得る．

【再試験】行わない

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『新しい「公共」をつくる』自治体研究社，2007 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220356

【連絡先】
⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 月曜日13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

世界経済論 I
World Economy1

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
水島 多喜男 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】国際的な経済関係は，その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し，その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた．講義では，この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う．

【授業概要】世界経済 (国際経済) の歴史と理論

【キーワード】**貿易理論，学説史，開発政策，政治経済学**

【到達目標】学説史，学説，現状に係わる論点の理解．

【授業計画】**1.** 産業資本主義以前の世界経済 (遠隔地貿易と重商主義)　**2.** 自由貿易論の系譜 (1)(Adam Smith の時代と貿易論)　**3.** 自由貿易論の系譜 (2)(D.Ricardo の時代と貿易論)　**4.** 自由貿易論の系譜 (3)(J.S.Mill/A.Marshall の時代と貿易論)　**5.** 世界経済構造の批判的理解 (1)(K.Marx の「プラン」後半体系)　**6.** 保護貿易論の系譜 (1)(途上国の TCC 批判 : ドイツ歴史学派)　**7.** Л е н и н『帝国主義論』: 世界大戦の原因　**8.** 「相対的安定期」·1929 年世界恐慌と「ブロック経済」　**9.** 自由貿易帝国主義論 : Л е н и н『帝国主義論』批判　**10.** (通常上記の項目は 1 回で終わらない．以下の時間は延長の場合に使用する．)

【成績評価】筆記試験

【再試験】なし

【教科書】講義中に配付する資料を用いる．

【参考書】参照すべき図書は，適宜指示する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220351

【連絡先】
⇒ 水島 (2203, 088-656-7188, mizushim@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業終了後)

国際関係論 I

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
饗場 和彦 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】米ソがにらみ合った冷戦中は，明日にも第三次世界大戦が起き，核兵器により地球が壊滅しかねない恐怖があった．89 年，米ソ首脳が握手をかわし，幸運にも人類は冷戦を脱した．ポスト冷戦時代は安定した幸せな世界が到来すると期待したが，まもなく幻滅が広がった．噴出する内戦 · 民族紛争と，拡大する貧富の格差．新たな試練に苦闘するうちに世紀が変わると，9/11 テロの衝撃が世界を揺るがした．そして今，アフガン戦争，イラク戦争と暴走するアメリカに振り回され，国際社会はいったい，どこに行こうとしているのか．この授業では，こうした変動する現代国際社会の現実を知り，そこで生起する諸問題について，特に平和と戦争に関係する観点を中心に，考察する．

【授業概要】国際社会における平和と戦争をめぐる諸相を学ぶ．授業では国際関係のリアリティをつかんでもらうためにも，筆者のフィールドワーク (紛争地での調査や国際的な選挙支援活動など) や，新聞記者の経験などに基づく”教科書に載っていない”解説も試みたい．また，適宜，時事的な国際ニュースも取り上げ，ビデオやスライドも使う．国際関係論 I では，主に総論的，理論的，概念的な問題を扱う．

【キーワード】**戦争，戦争**

【履修上の注意】国際関係論 I と II はそれぞれ独立しており，一方だけ受講することもできるが，I で総論的，基礎的な解説を行い，II ではそれを元に各論的，発展的な内容になる面もあるので，連続して受講する方が望ましい．

【到達目標】国際社会の性質，特徴を理解すること．平和と戦争をめぐる現代の諸問題について，基本的な事実関係，実態を知ること．国際政治と国際法の基本について，とらえ方，原理，原則を把握すること．「冷静な現実主義」と，「高邁な理想主義」の両方を備えた視点を持つこと．

【授業計画】**1.** 国際社会の成り立ちと特徴 (1)　**2.** 国際社会の成り立ちと特徴 (2)　**3.** 国際法の基本 (1)　**4.** 国際法の基本 (2)　**5.** 国際社会を見る理論的枠組 (1)　**6.** 国際社会を見る理論的枠組 (2)　**7.** 国際安全保障の諸理論 (1)　**8.** 国際安全保障の諸理論 (2)　**9.** 民族とアイデンティティ (1)　**10.** 民族とアイデンティティ (2)　**11.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(1)　**12.** 民族紛争 (ルワンダ，旧ユーゴ，コソボなど)(2)　**13.** 戦争の違法化 (1)　**14.** 戦争の違法化 (2)　**15.** 補足と総括　**16.** 試験

【成績評価】授業の区切りごとに質問や意見を書いて出してもらうが，それらで出欠の確認も行う．試験は論述式 (短答式と長文論述併用) の期末試験を行う．持ち込み不可．成績は試験の結果に，出席状況，授業中の質疑応答などを加味して判断する．

【再試験】行わない．ただし，僅差で合格点に達しない受講者には，一定基準以上のレポートを追加提出すれば単位を認定する機会を与える．

【教科書】教科書は特に指定せず，授業中に配布するレジュメ，資料に沿って解説する．参考書などは適宜，紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220346

【連絡先】

⇒ 饗場 (088-656-7186, aibak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日13:30~ 14:30, 金曜日14:30~ 16:00. この時間以外でも在室時は随時可.)

社会心理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
佐藤 健二 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 近年, 社会心理学に対する期待は, 著しく増大している. なぜなら, 社会心理学は, 人間一般に共通する基礎的な社会的行動の研究を通じて, 近年生じている, さまざまな社会的行動の諸問題の解決に資する可能性を持っているからである. そこで, 本講義では, 人間の社会的行動に関する一般的知見とその近年の展開について概説することを目的とする.

【授業概要】 人間の社会的行動の理解

【キーワード】社会的行動, 自己, 対人行動, 集団行動, 集合行動

【履修上の注意】 OHP, パワーポイント, 紙資料, ビデオテープなどを使用する. 私語厳禁.

【到達目標】 社会心理学における重要な研究結果, 概念, 方法論, 近年の展開について理解すること

【授業計画】 **1.** イントロダクション:社会心理学の定義・目的・研究分野 **2.** 社会的影響 (同調, 服従, 役割) **3.** 攻撃. 暴力映像視聴は攻撃行動を増やすか? **4.** 援助. なぜ多数の人が目撃していながら殺人を傍観していたのか? **5.** 集団行動 (リーダーシップ研究.「プロジェクトX」視聴) **6.** 集合行動 (流言, うわさ, 群衆行動) **7.** 言語・非言語的コミュニケーション (視線行動, パーソナル・スペースなど) **8.** 抑うつの社会心理学. 認知の歪み, 自己注目, 相互作用モデルとの関連 **9.** 自己呈示と対人不安 **10.** 自己開示-対人関係の発展や健康への影響- **11.** 対人魅力. 近接性と好意, 身体的魅力, 類似性と好意, 返報性 **12.** 友人関係・恋愛関係の形成・維持・崩壊 **13.** 社会的認知 (原因帰属など) **14.** 自己意識, 自己評価研究とその臨床領域への応用 **15.** 試験 **16.** 総括

【成績評価】 三分の二以上の出席した者に対して, 期末試験結果による評価を行う.

【再試験】 行わない

【教科書】 なし

【参考書】 安藤清志他 1995 現代心理学入門 4 社会心理学 岩波書店, 坂本真士・佐藤健二 2004 はじめての臨床社会心理学 有斐閣

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218697

【連絡先】
⇒ 佐藤 (3S05, 088-656-7202, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日12:10~ 13:00, 総合科学部3号館3S05室, satoken@ias.tokushima-u.ac.jp)

運動文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中村 久子 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】 文明が発達した現在では身体運動, スポーツ, ダンス等は健康のための手段として重要視されている. しかし, これらは健康のための手段として生まれてきたのではない. それぞれの運動やスポーツ, ダンスは各国, 各地域の固有の文化として捉えることが出来る. 本講義では, これらの内容及び歴史的な意味について概説し, 現代社会における運動やスポーツ, ダンスを歴史社会学や文化人類学の観点から検討し, 寄り深い認識を得ることを目的とする.

【授業概要】 生活における身体運動がスポーツやダンスの文化形成に結びついておく過程を歴史社会学の観点から分析し, 現代のレジャーやスポーツに期待される健康のための運動の意味について学習する.

【キーワード】スポーツ, ダンス, 生産形態, リズム

【到達目標】 生産形態とリズムが関わりをもつことを知り, ダンスやスポーツに与えてきた影響を知ることを到達目標とする.

【授業計画】 **1.** 運動と文化-スポーツ, ダンスの発生 **2.** 遊びと余暇 **3.** 生産形態とリズム (5 つのリズム感) **4.** 山村畑作民のリズムとスポーツ・ダンス **5.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス 日本 **6.** 水田稲作農耕民のリズムとスポーツ・ダンス アジア **7.** 海洋漁撈民のリズムとスポーツ・ダンス **8.** 狩猟民のリズムとスポーツ・ダンス **9.** 牧畜民のリズムとスポーツ・ダンス **10.** 生産形態と運動の関係 衣装・運動文化と身体行動 **11.** スポーツの遊技性と競争性 **12.** 近代スポーツの成立 **13.** 現代におけるスポーツ レジャーとしてのスポーツ **14.** 現代におけるスポーツ スペクテーター・スポーツ **15.** まとめ

【成績評価】 レポート 50%, 授業時に行う小レポート 50%

【教科書】 特に使用しない

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218366

【連絡先】
⇒ 中村 (3120, 088-656-7209, nakamura@ias.tokushima-u.ac.jp)

健康行動論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
荒木 秀夫 · 教授 / 人間文化学科, 小原 繁 · 教授 / 人間文化学科
的場 秀樹 · 教授 / 人間文化学科, 佐竹 昌之 · 准教授 / 人間文化学科
三浦 哉 · 准教授 / 人間文化学科

【授業目的】 授業で習得した知識や態度が, 自己の生活や社会活動に生かされ, 健康で豊かな, そして安全な生活が営まれることを目標とする. 授業は健康運動, 生活行動, 安全管理をテーマに進める.

【授業概要】 健康の概念および現代社会で多発する健康問題を明らかにし, 健康で安全な生活を送るために必要な知識と態度を養う. 具体的には, 健康障害や事故の予防, それらを解決するための方法を理論的かつ実践的に講義する.

【キーワード】健康問題, 生活行動, 運動 · スポーツ活動

【先行科目】 『ヘルスプロモーションの基礎』(1.0, ⇒22 頁), 『健康体力科学の基礎』(1.0, ⇒23 頁)

【関連科目】 『地域健康福祉論』(0.5, ⇒219 頁), 『健康教育学』(0.5, ⇒69 頁), 『健康心理学』(0.5, ⇒81 頁)

【到達目標】
1. 地域社会の生活環境の創造への貢献
2. 人間科学に関わる幅広い知識の理解

【授業計画】 **1.** 健康とは **2.** 健康と運動 **3.** 健康運動の方法 **4.** スポーツと健康 **5.** 薬物と健康 (服薬者の運動実施と注意点) **6.** 運動・スポーツ活動における安全確保の知識 **7.** 運動・スポーツ活動における施設用器具の点検 **8.** 運動・スポーツ活動における安全確保のための具体的行動 **9.** 発育発達期の身体的特徴, 心理的特徴 **10.** 発育発達期に多いケガや病気 **11.** 運動中に多い病気とその予防 **12.** 運動中に多いケガとその予防 **13.** 現代の健康 **14.** 環境と健康 **15.** これからの健康 **16.** 総括

【成績評価】 レポート, 小テスト, 授業の取り組み方などで総合的に評価する.

【再試験】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220344

【連絡先】
⇒ 荒木 (3119, 0886567214, araki@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 小原 (088-656-7213, obara@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 的場 (3114, 088-656-7208, matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 佐竹 (2M15, 088-656-7212, satake@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日:16 時 30 分 ~ 17 時 30 分)
⇒ 三浦 (3122, 088-656-7288, hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp)

地域健康福祉論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
田中 俊夫 · 教授 (併任) / 大学開放実践センター

【授業概要】 少子高齢化が進む日本社会にあって, 医療費の増加に歯止めをかけ, 高齢者の QOL を維持していくことは極めて重要・至難な社会的課題である. この健康福祉に関して, 国の施策方針から地域現場における具体的な実践例まで, さまざまなレベルにおける取組を学習し, その成果と課題について考察する. さらに, 今後の健康福祉政策のあるべき姿について考えていく.

【キーワード】 健康福祉, メタボリックシンドローム, 介護予防, 運動指針

【授業計画】 **1.** 地域健康福祉概論 **2.** アメリカと日本における健康福祉政策 **3.** 健康福祉を担う指導者 **4.** メタボリックシンドロームと健康福祉政策 **5.** 運動基準・運動指針 **6.** 介護予防・高齢者医療と健康福祉政策 **7.** 県レベルにおける健康福祉への取り組み **8.** 市町村レベルにおける健康福祉への取り組み **9.** 民間企業 · 団体における健康福祉への取り組み **10.** 具体的な実践事例 1(生活習慣病と運動疫学) **11.** 具体的な実践事例 2(健康づくり運動とカウンセリング支援) **12.** 現場の声を聞く 1(メンタルヘルスと運動の効果) **13.** 現場の声を聞く 2(ストレスアセスメントと運動指導) **14.** 地域健康福祉の未来像を探る **15.** まとめ

【成績評価】 出席状況 (40%), 小テスト授業内レポート (10%), 期末試験 (50%)

【再試験】 しない

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220354

【連絡先】
⇒ 田中 (088-656-7280, tanaka@cue.tokushima-u.ac.jp)

グローバル社会論

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
樋口 直人 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】 現代を生きる者は, どこに住もうがグローバル化の影響を免れることはできない. では, それはどのような影響であり, 具体的には何が生じるのか. この授業の最大の目的はこうした問いに答えることにある. さらに, グローバル化は国民からなる国家体制を大きく変

えつつある．では，国家はなぜどのように変化を迫られているのか．こうした問いに対して，大きくは身近な生活のグローバル化，環境のグローバル化，人の国際移動からみたグローバル化に焦点を当てて議論していく．

【授業概要】グローバル化する社会が抱える問題について，社会学の概念を用いてアプローチする．特に徳島のような地域では，グローバル化といってもイメージがわきにくいので，画像や映像資料の解説をできる限り取り入れて理解を助けるようにしたい．

【授業計画】1. イントロダクション **2.** グローバル化とは何か:メキシコからみた風景 **3.** 大量生産の時代としての現代 **4.** 大量生産と成長の限界 **5.** 食卓の裏側:『ダーウィンの悪夢』とグローバル化する食卓 **6.** グローバルとローカル:『モンド・ヴィーノ』と食をめぐる 2 つの道 **7.** 私たちは誰とつながっているのか:市場経済，環境，フェアトレード **8.** 新国際分業と世界都市の形成 **9.** メディアとグローバル化 **10.** 南北国境の 3000 キロ:メキシコとアメリカの移民問題 **11.** メキシコ化するアメリカ:『ブレッド&ローズ』と移住労働者 **12.** グローバル化する移民:(1) 南米の日本 **13.** グローバル化する移民:(2) 日本の南米 **14.** グローバル化する移民:(3) 日本の南米人と経済危機 **15.** グローバル化する移民:(4) 日本の少子高齢化と移民受けいれ

【成績評価】成績評価はレポートと授業中の課題による．毎回提出してもらう小テストが 40 点，レポートが 60 点という配分になる．評価基準やレポートのテーマ設定，書式など詳しくは初回に説明するので，必ず出席すること．

【再試験】無

【教科書】教科書は用いないが，関連する文献リストを初回に配布する．また，教科書の代わりに毎回レジュメを配布する．レポート作成にあたっては，参考文献を 5 点以上読んで引用することが求められる．

【参考書】参考書 コーエン&ケネディ『グローバル・ソシオロジー』1・2 巻平凡社，2003 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220341

【連絡先】

⇒ 樋口 (1210, 088-656-7200, vyw03403@nifty.ne.jp)

地域創生論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】持続可能な地域づくりの基礎理論を提示する．

【授業概要】の講義は「地域科学」への入門にあたる．地域社会の構成と動態に関する基礎的な知見を獲得するとともに，総合的な地域問題を解決して持続可能な地域をつくるための理論と手法を学ぶ．

【キーワード】地域づくり，地域問題，地域政策

【到達目標】

1. 具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる．

2. 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる．

【授業計画】1. 地域問題と地域づくり 地域問題の諸形態 講義計画 **2.** 地域問題の総合的性格 地域問題の相互関連 地域科学の課題と構成 **3.** 地域問題と地域経済 地域問題の主要な発生源としての地域経済 **4.** 地域経済の構成と変動 混合経済としての地域経済 公共領域の役割 **5.** 新自由主義政策と地域 成長至上主義型の破綻 新自由主義政策の発動と住民生活 **6.** グローバル化と地域 世界システムの再編にともなう地域社会の変動 **7.** システム転換の基軸 政治 · 経済システムの進路をめぐる対抗関係の位相 **8.** もう一つの世界は可能 システム転換の新たな主導力 (途上国 ·NGO· 社会的経済) **9.** 分権時代の地域政策 地方自治の仕組みと政策主体 (行政 · 議会 · 住民組織) の役割 **10.** 地域政策の理念と体系 地域政策の理念と体系に関する欧州と日本の比較 **11.** 政策過程への住民参加 公共領域を再編する政策 政策の計画 · 執行過程と住民 **12.** 徳島県の住民参加状況 公共事業の動向に働きかける徳島県の住民運動の経過 **13.** 転換期の地域づくり (1) 地域づくりの新たな理念及び政策体系 **14.** 転換期の地域づくり (2) 新たな地域づくりの推進体制と住民の役割 **15.** 地域創生論の学び方 地域科学の近年の動向と研究課題

【成績評価】講義中に行う数回の小テスト，期末に提出を求めるリポートの結果によって単位を認定する．

【再試験】再試は行わない．

【教科書】用いない．配布レジュメに即して進行する．

【参考書】中嶋信『集落再生と日本の未来』自治体研究社，2010 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220355

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室, 088-656-7181, makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 13:30~ 17:00 研究室(総合科学部1号館3F中棟3M15))

地域政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
北村 修二 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】地域の開発，特に地域経済，地域環境や地域システムに新しい方向性を出すに必要な知識や考え方を提供するものである．地域条件や地域環境に適った経済や地域の開発，さらに地域の環境管理や環境保全等対策の重要性や意義を理解させる．

【授業概要】国際化のなかで，地域経済や地域システムを把握し考察して行くことの意味と重要性を明らかにする．それを理解した上で，地域環境や地域システムに見合った地域経済や地域開発，環境問題への対処等を考慮した対応や政策のあり方を考察させる．

【キーワード】地域経済，地域環境，地域システム，地域開発，地域づくり

【到達目標】①国際化時代の地域経済と地域システムへの理解，②新たな時代における地域や環境の再生，産業づくりや地域づくりについて理解し考察できる能力を培う．

【授業計画】1. ガイダンス・授業の趣旨と進め方 **2.** 国際化の進展に伴う再編成 **3.** 地域経済の再編成 **4.** 地域システムの再編成 **5.** 環境問題の変容と新たな状況 **6.** 環境問題と循環社会をめぐる課題 **7.** 環境と地域経済をめぐる状況 **8.** 新たな社会とそれへの対応 **9.** 環境問題への新たな対応 **10.** 地方自治体と企業の環境問題への取り組み **11.** 地域開発をめぐる問題 **12.** 地域の再生とまちづくり **13.** 環境の再生と地域づくり **14.** 新たな産業や地域づくりに向けて **15.** まとめ 1 **16.** まとめ 2

【成績評価】 講義時間内のまとめ (小まとめ (配点は 60%) と総まとめ ①②(配点は 40 %), もしくはレポートにより評価する．

【再試験】なし

【教科書】北村修二『産業・地域づくりと地域政策』大学教育出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218814

【連絡先】

⇒ 北村 .

【備考】隔年開講のため，平成 23 年度 (地域政策論 II を開講) は開講されない．国際社会での地域的諸問題や環境問題に関心があり，それらの課題を勉強する意志がありそれを実行できる人は参加できる．オフィスアワー 随時．研究室

地域文化論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
髙橋 晋一 · 教授 (併任) / 社会創生学科

【授業目的】 文化人類学の中心的なテーマについて講義する．世界の諸民族の事例を通して，人間の文化 · 社会の多様性と普遍性について考察し，異文化 (および自文化) の構造や意味を客観的に理解するための視点を修得することが本講義の目的である．グローバリゼーションの中での現代文化 · 社会のダイナミズムにも十分な留意を払いながら講義を進めていきたい．

【授業概要】文化人類学の基本問題

【キーワード】文化，現代社会，グローバリゼーション

【関連科目】『地域文化論 II』(0.5, ⇒60 頁)

【履修上の注意】 受講者の理解を助けるため，授業の中ではパワーポイントによるプレゼンテーションを中心として動画・画像などの視聴覚教材を多用する．フィールドワークを「疑似体験」しながら，文化現象の意味について考えてもらいたい． なお，地域文化論 I(本年度開講，内容は文化人類学概論) と地域文化論 II(来年度開講予定，内容は日本民俗学概論) は，隔年で交互に開講される．

【到達目標】人間の文化 · 社会の多様性 · 普遍性について理解し，異文化 (自文化) の構造や意味を客観的 · 相対的にとらえることができる．

【授業計画】1. 文化人類学のパースペクティヴ **2.** 「ことば」と認識-言語文化へのアプローチ **3.** 人生のステップを超える-通過儀礼の構造と意味 **4.** 交換とコミュニケーション-贈り物の文化論 **5.** 信仰と価値のシステム-宗教文化へのアプローチ **6.** 環境の人類誌-環境への適応戦略と経済システム **7.** ジェンダーの人類学-男になる · 女になるということ **8.** 現代医療と文化-新生殖技術をめぐって **9.** メディア · 映像の人類学-文化の実像と虚像 **10.** グローバル化と文化変容-地球時代の文化のダイナミズム **11.** 観光が創り出す文化-文化の客体化と再構成 **12.** ポピュラー音楽と国民国家の創成-インドネシアの事例より **13.** 民族の「はざま」を生きる-ディアスポラとエスニック · アイデンティティ **14.** 「民族」の生成と論理-「民族」はいかに作られるか **15.** 「転換期」の時代の文化人類学 **16.** まとめ

【成績評価】本授業の成績評価は，授業への取り組み状況，授業時間中に随時行う小テスト (各回の授業内容の理解度を確認する簡単なテスト) の点数，期末レポートの点数を総合して行う．

【再試験】なし

【教科書】教科書は使用しない．毎回，授業中にプリントを配布する．

【参考書】

- 講義全体に関わる概論的な参考書を以下に挙げる．個々のトピックに関する参考書については，講義の中で随時紹介する．
- 山下晋司編『文化人類入門-古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂，2005 年
- 中島成久編『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店，2003 年
- 山下晋司 · 船曳建夫編『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣，2008 年

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218849
【連絡先】
⇒ 髙橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: (前期)木曜日 12時~ 13時)
【備考】本年度開講 (隔年開講)

共生社会論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
樫田 美雄・准教授/社会創生学科

【授業目的】社会学の立場から社会福祉論・共生社会論を論じる．現代社会は福祉社会である．しかし，「社会リアリティ」の変化にともない，「連帯」の在り方が変わってきている．幅広い市民的連帯がリアリティを失い，「選ばれた人間」の中での「連帯」が「公正」であるように思われてきている．その感覚のもとで許される「個人のニーズ」だけが，「社会のニーズ」に転換を許容されるようになってきている．また，「生産主義社会」から「消費社会」に変化する中で，「労働倫理」の意義は低下し，クリエイティブな労働者になれない場合は，「立派な消費者」になることが次の目標となってきている．かつて，労働に不適であることが福祉の対象者の条件であったが，いまや，消費者としては障害者も平等に扱われるようになり，最終排除対象者は，意志をもたぬもの，意志を適切に表示できないものになってきている．この流れの先に，共生社会がある．共生社会の光と影を共に見つめていきたい．同時に，社会福祉の現代社会的基盤を理解しよう．

【授業概要】社会学の立場から考える社会福祉論と共生社会論．社会のニーズと個人のニーズ．資本主義を支えるものとしての福祉社会．消費社会への変化の意味．労働のフレキシビリティの増大の意味．近代的労働倫理 (勤勉さ，従順さ・・) を守意味の変化．グローバライゼーション．産業の機械化．代替不能性の高い労働と低い労働．これらのことを道具に，現代社会的側面から福祉社会を考える．

【キーワード】**福祉社会学，社会政策，援助，共生，セルフヘルプグループ，インタビュー論，社会福祉と現代社会**

【先行科目】『市民活動論』(1.0, ⇒75 頁)

【履修上の注意】教科書は生協に取り寄せる予定 (定価:1700 円)．古本でもよいが，必ず入手すること．また，参考書の一部は効果だが読み甲斐がある．出欠確認は毎回行う．とりわけ，初回のオリエンテーションは重要なので，けっせきしないようにせよ．欠席者には理由を等．なお，全学共通教育では，「ボランティア論 (木曜 5・6 限，前期) が，関連科目である．なお，受講学生人数にもよるが，複数会の小論文執筆が課せられることを覚悟して欲しい．大学での学習成果は，書いたレポートの数にほぼ比例すると思われるからだ．だいたいのことを書いて満足するのではなく，質のものを志して書いてほしい．また，ダイソー等での買い物などの宿題も課せられる．人数がすくなければ，裁判所見学 (以下に福祉の対象者と被告の層が重なっているかの実地確認作業) も行う．日本の現状 (消費社会化，低所得労働者のアンダークラス化＝ジグムント・バウマン＝) を身をもって看取してもらう必要があるからだ．

【到達目標】
1. 現代社会を学ぶことと，社会福祉を学ぶことがどのように繋がっているのか講義する．
2. より具体的には，(1) 現代社会の構造と自分の人生選択の困難さを結びつけて理解する．
3. (2) 現代の困難さに，一定の合理性があることを理解したうえで，アルターナティブな未来を構想できるようになる
4. アルターナティブな未来 (例:労働と切り離された収入) がはらむ問題に気づくことができる．

【授業計画】**1.** 樫田によるイントロダクション．現代社会論として福祉と共生をとらえる． **2.** 消費社会とグローバリゼーション．労働はどう変わってきているのか． **3.** ウエルビーイングタウン:社会福祉って何だろう． **4.** 社会的ニーズと個人的ニーズの問題．対立?．個人的ニーズの社会的構成?． **5.** 障害者福祉のしくみ **6.** 高齢者福祉のしくみ **7.** 児童福祉のしくみ **8.** 虐待について (児童虐待と高齢者虐待)．虐待とエスノセントリズム． **9.** 新しい貧困について．ニュープアとアンダークラス (ジグムント・バウマンの主張) **10.** 犯罪と疾病と社会福祉．裁判所見学 (人数的に可能な場合)． **11.** 在宅医療の問題を考えよう **12.** セルフヘルプ・グループ論．ヨブ記から考える． **13.** 準備レポート草稿の班別検討会．考え抜く態度の錬成 (1) **14.** 準備レポート講評．総合科学と現代社会．『フーコーの穴』を題材に． **15.** 最終レポート草稿の班別検討会)．考え抜く態度の錬成 (2) **16.** 最終レポート講評．総合科学と社会福祉．『< 生 > の社会学』を題材に．

【成績評価】平常点 (出席を含む)+レポート (20%，80%の比率) ※準備レポートはコメントを付けて返却し，点数上は最終レポート (第 2 回目のレポート) のみ加点対象とする見込み．

【再試験】行わない

【教科書】岩田正美ほか著 1999『ウエルビーイングタウン 社会福祉入門』有斐閣

【参考書】
◇ ジグムント・バウマン著 1998 ＝ 2008『新しい貧困-労働，消費主義，ニュープア』青土社．
◇ 藤村正之著 2008『< 生 > の社会学』東京大学出版会
◇ 井上俊・長谷 正人編 2010『文化社会学入門』ミネルヴァ書房
◇ 『福祉社会事典』弘文堂
◇ 斉藤純一編『講座・福祉国家のゆくえ 5 福祉国家:社会的連帯の理由』ミネルヴァ書房．
◇ 三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際:福祉社会学研究入門 改訂版』東信堂
◇ 石川准・倉本智明編，2002，『障害学の主張』，明石書店．
◇ メイナード著，樫田・岡田訳 2004『悪いニュースをどう伝えるか』勁草書房．
◇ 杉野昭博『障害学 理論形成と射程』東京大学出版会．
◇ 重田園江『フーコーの穴 統計学と統治の現在』木鐸社．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220343
【連絡先】
⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537 @nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

メディア情報論

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
河原崎 貴光・准教授/社会創生学科

【授業目的】情報メディアにおける表現の歴史と現状を理解する

【授業概要】主にメディアに流通する複製芸術を中心として図版，映像資料等を紹介解説していく． 授業中に小レポートを課すこともある．

【キーワード】**メディア，アート，映像，写真**

【到達目標】メディア芸術の理解

【授業計画】**1.** 写真-カメラオブスキュラ **2.** 写真-決定的瞬間 **3.** 写真-ニューカラー **4.** 映像と身体 **5.** 映像と記憶 **6.** 芸験映像 **7.** 実験的アニメーション **8.** 映画-初期 **9.** 映画-ハリウッドシステム **10.** 映画-物語以後 **11.** プロモーションビデオ **12.** アニメ **13.** インタラクション **14.** ゲーム-インターフェイス **15.** ゲーム-物語-ライトノベル **16.** ネットワーク,AR, ミクスドリアリティ

【成績評価】出席，小レポート

【再試験】実施せず

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219016
【連絡先】
⇒ 河原崎 (tk@ias.tokushima-u.ac.jp)

芸術文化論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
片岡 啓一・教授/人間文化学科

【授業目的】今日我々を取り巻く世界は極めて複雑かつ流動的で，しかも変化に富んだものである．多くの国々・民族等は多様な文化的様相を呈し，世界中にはさまざまな音楽が存在している．この授業では，民族音楽学的視点から世界の諸民族の音楽について時間の許す限り具体的に言及し，そのことを通じて，音楽文化・民族性・音楽の本質等について，一人一人が真剣に考える機会を共有したいと思っている．

【授業概要】民族音楽学的な観点に立った世界の諸民族の音楽に関する講義．

【キーワード】**民族音楽，音楽学，音楽鑑賞，民族性，異文化理解**

【履修上の注意】同授業は講義形式なので受講者は受け身的になりがちであるが，できるだけ主体的で積極的な姿勢で授業に取り組んでいただきたい．なお，共通教育において「民族音楽入門」が開講されているが，その内容は同授業と相当程度重複しているので，「民族音楽入門」を受講した学生はこの授業を受講しないようにすること．先行科目・関連科目については具体的な科目名は書いていないが，芸術分野・人文科目分野等の科目群はすべて該当すると考えていただいてかまわない．同授業は，国際文化コースの「コース専門選択科目」の単位として履修することもできるし，「総合科学テーマ科目」として履修することも可能である．昨年度に初回の授業をマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」で実施したが，同室で無理なく受講できる人数は 50 名程度であるが，「総合科学テーマ科目」に指定されていることから 90 名程度の受講者となり，加えて旧体制の受講者 (「世界の諸民族の音楽」) が 10 名程度同時受講したので，合計 100 名ちょっとになり，補助用のパイプ椅子を使ってすし詰め状態で開講した．パイプ椅子のみの学生が同じ人にならないようにローテーション配置を考え，極力配慮したが，それでも学生にとっての身体的な負担は大きかった．今年度は別のもっと広い部屋で同授業を行うことを相当真剣に考えたが，授業内容の性格上，他の部屋で行うことはやはり無理なので，昨年度同様「音響スタジオ」にて実施することにした．今回の具体的な対応の方法としては，補助机・補助椅子を使うと，普通の状態で受講できる学生は 50 名程度なので，毎回の授業時間の前半と後半とで，残りのパイプ椅子のみの学生との座席の交代を行うことによって学生の身体的な負担を少なくしようと考えている．そのような事情があることから，同授業を受講希望している学生で，他の「総合科学テーマ科目」を受講することでもかまわないと思う方は，できるだけそういう方法をとっていただけると大変ありがたいと考えている．

【到達目標】世界にはさまざまな音楽文化が存在すること，それらはそれぞれの国の民族性と深く結びついていること等を自覚し，音楽文化全般に対して強い興味と関心を抱く．

【授業計画】1. 授業の目的と趣旨のところで述べたことを具現するために，講義的説明に加えて A.V. 機器を使用した鑑賞を授業の中に取り入れる． **2.** 1 週目 授業の趣旨説明を行い，現代の音楽文化の特徴について言及する． **3.** 2 週目 日本の音楽． **4.** 3-8 週目 東アジア・エスキモー・東南アジアの音楽． **5.** 9-13 週目 インド・西アジアの音楽． **6.** 14 週目 アラブの音楽． **7.** 15 週目 総括授業 授業内容全体について，反省・補足・意見交換等を行う． **8.** 授業内容についてはできるだけ予定通りに進めてゆきたいと思っているが，若干のずれが生じることもあるので，その点はあらかじめご了承願いたい．

【成績評価】 試験は行わず，レポートを提出することによって単位を出す．レポートは提出期限を厳守すること．成績評価には，授業への取り組み姿勢などに基づく平常点も当然加味される．

【再試験】行わない．

【教科書】この授業では教科書等は使用しない．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218553

【連絡先】

⇒ 片岡 (201，088-656-7161，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】同授業は，平成 23 年度は前期・金曜・5-6 講時にマルチメディア A 棟 1 階の「音響スタジオ」にて実施する．オフィスアワーは前期・木曜日の昼休み．片岡研究室 (マルチメディア A 棟 2 階) のメールアドレスは，kataoka@ias.tokushima-u.ac.jp．研究室の電話番号は，088-656-7161．なお，注意のところでも書いたように，授業を行う部屋がそれほど広くないので，別の「総合科学テーマ科目」を選択してもかまわないと思う方は，できればそういう方法をとってくださると大変ありがたい．

情報社会と情報倫理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化社会，知的所有権とプライバシー，情報危機管理

【授業概要】この講義では情報および情報技術が社会の中で果たしている役割と情報社会の諸問題に重点を置いて講義する．受講生はインターネットを利用して現在の情報を収集し，収集したデータをもとに将来予測をシミュレーションしたり，情報活用に関する知的所有権と情報モラルについて理解を深める．

【キーワード】情報リテラシー

【到達目標】現代社会における人，企業，物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める．

【授業計画】1. 1．情報化社会の到来 1.1 「情報」とは何か，1.2 コンピュータが動作する仕組み **2.** 1.3 ネットワークによる通信の仕組み，1.4 [情報の価値] と [情報量]，[情報伝達] **3.** 1.5 情報化社会の到来，1.6 社会の情報化の進展と，文化 · 人間性の変化，レポート 1 **4.** 2．知的所有権と プライバシー 2.1 著作権 **5.** 2.2 そのほかの知的所有権，2.3 プライバシー，レポート 2 **6.** 3．情報倫理 3.1 情報倫理はどうして「倫理」なのか，3.2 情報化社会における原則 **7.** 3.3 情報倫理に必要な知識，3.4 情報ネットワークを利用するときの判断のあり方，レポート 3 **8.** 4．情報危機管理 4.1 情報危機管理がなぜ必要か，4.2 現実のシステム運用上の事件と，その原因と対策 **9.** 4.3 運用ポリシーと利用者の価値観 **10.** 4.4 運用規約と管理組織，レポート 4 **11.** 4.5 不正アクセスとセキュリティ **12.** 5．ケーススタディ **13.** 5.1 発表と評価 1 **14.** 5.2 発表と評価 2 **15.** 5.3 発表と評価 3 **16.** まとめ

【成績評価】レポートとケーススタディの研究発表で総合的に評価する．

【教科書】教科書:辰巳文夫著「情報化社会と情報倫理」共立出版

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220349

【連絡先】

⇒ 吉田 (088-656-7897，yos@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 24時間(yos@ias.tokushima-u.ac.jp))

情報と職業
Information and Profession

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
吉田 敦也 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】情報化が産業，社会へどのように影響しているかを理解する

【授業概要】情報システム，情報化のビジネスへの影響，情報技術の企業での利用状況，電子商取引，インターネットビジネス，情報産業，情報技術の人材育成，情報化の雇用と職業への影響などについて，受講生に主体的に調査，探求をしてもらい発表，議論をすることで理解を深める． 情報システムの発展という観点から，計算機の発展の歴史について解説する．

【キーワード】情報社会，ネット時代の職業，働く環境，*ICT* リテラシー，地域情報化

【到達目標】情報社会におけるビジネス，職業に関する基礎知識を学び，職業観，就労・労働の意識の形成，キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー，ICT 利活用力を身につける．

【授業計画】1. 情報システムの概略 **2.** 情報システムの歴史 **3.** 情報システムの未来 **4.** 情報技術と社会システム **5.** 情報化のビジネスへの影響 **6.** ネット社会と企業経営 **7.** 地域情報化の事例研究 1 徳島:彩り事業 **8.** 地域情報化の事例研究 2 島根:Ruby City MATSUE プロジェクト **9.** 電子商取引とインターネットビジネス **10.** グループ発表 1 情報社会におけるビジネスのあり方について **11.** 情報化の雇用への影響 **12.** 情報化の職業への影響 **13.** 情報社会と組織変革 **14.** 情報社会における働き方 **15.** グループ発表 2 情報社会における職業観について

【成績評価】授業貢献及び試験

【再試験】実施せず

【教科書】授業中に適宜指示

【参考書】

- 神沼靖子 (編著)「情報システム基礎」オーム社 2006
- 駒谷 昇一 (他著)「情報と職業」オーム社 2002
- その他授業中に適宜指示

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218715

【連絡先】

⇒ 吉田 (088-656-7897，yos@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】e ラーニングを併用する

情報の数理

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
中山 慎一 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】今日，コンピュータの高性能化，および，通信網の整備により，インターネットを核とした情報通信ネットワークが幅広く利用されている．今後，あらゆる家電製品や携帯電話などが，ネットワークへの接続を前提に作られるようになり，ネットワークが生活の基盤になるであろう．よって，ネットワークの基本的な仕組みと技術を知ることは，将来の高度情報化社会のあるべき姿を考える上からも極めて大切なことと思われる．このような観点から，情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする．

【キーワード】通信ネットワーク，インターネット，プロトコル，*TCP/IP*

【先行科目】『計算機概論』(1.0，⇒193 頁)

【履修上の注意】2 進数や基本的な計算機の仕組みなどの知識が必要です．

【到達目標】ネットワークに関する知識や設計技法の習得，および，それらの知識を基に実際のネットワーク設定技術の習得を目標とする．

【授業計画】1. 情報通信の発達過程 **2.** ネットワークの種類と形態 **3.** ネットワークに関する基礎技術 **4.** 通信プロトコル 1 **5.** 通信プロトコル 2 **6.** 伝送制御手順 **7.** 通信サービルと技術 1 **8.** 通信サービスと技術 2 **9.** ネットワークの分析 1 **10.** ネットワークの分析 2 **11.** ネットワークの設計 1 **12.** ネットワークの設計 2 **13.** ネットワークセキュリティ 1 **14.** ネットワークセキュリティ 2 **15.** ネットワークセキュリティ 3

【成績評価】レポート，中間試験，期末試験で総合的に判断する

【再試験】行う

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220348

【連絡先】

⇒ 中山 (1204，088-656-7223，shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜日 14:00-15:00)

現象の数理

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
小野 公輔 · 准教授 / 総合理数学科

【授業目的】 自然現象や社会現象等について数理的な目を通して理解するための基本事項を解説する．また，それぞれの現象の背景にある基本的メカニズムを微分方程式を用いて記述し，現象の数学問題への定式化および意味づけを行う．さらに，数理モデルの妥当性や説明 · 予測 · 制御等の初等的方法について理解を深める．

【授業概要】現象解析のための基本事項について解説する．

【キーワード】自然現象の数理，社会現象の数理，現象解析の数理，微分積分学，微分方程式

【先行科目】『微分方程式 II』(1.0，⇒195 頁)，『微分方程式 I』(1.0，⇒194 頁)

【履修上の注意】 微分積分学の基本事項を履修しておくこと．授業には積極的に取り組むこと．

【到達目標】 数理モデルと対応する現象との関係を数理的な立場から理解する．

【授業計画】1. 授業の内容は以下の通りであるが，学生の理解度に応じ適宜その内容および進度に変更を加える．1．モデル化のための枠組み **2.** 人口問題と成長モデル **3.** 薬の吸収モデル **4.** 水の加熱と冷却の数理モデル **5.** ロケットの飛行モデル **6.** 抑制された成長モデル **7.** 広告に対する売り上げの反応モデル **8.** 美術品の贋作判定モデル **9.** 電気回路モデル **10.** 新古典派の経済成長モデル **11.** 五大湖の汚染判定モデル **12.** 個人の消費行動モデル **13.** 惑星の運動モデル **14.** 化学反応速度モデル **15.** 期末試験 **16.** 総括

【成績評価】授業への取り組み状況，演習，レポート，試験などをもとに総合的に評価する．
【再試験】無
【参考書】「微分方程式で数学モデルを作ろう」 デヴィッド・バージェス/著 モラグ・ボリー/著 垣田高夫/訳 大町比佐栄/訳 日本評論社
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220345
【連絡先】
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室，0886567218，ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

数学と社会

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
片山 真一・教授/総合理数学科，大渕 朗・教授/総合理数学科

【授業目的】・代数的構造についての基礎及びその様々な場に於ける応用についての基礎に関する講義を行う．講義では代数構造の代表的な分野である代数的整数論と代数幾何学の初歩とその応用である暗号理論，符号理論の解説を行う．・目標は群，環に於ける準同型定理の理解，有限体の定義の理解，線形符号の定義とシングルトンの不等式の理解である (大渕)．また公開鍵暗号系の仕組みと剰余類群の応用として，RSA 暗号系を理解 する (片山)．
【授業概要】・代数的構造に関する基礎理論 (群・環・体及び整数論) についての基本的な知識及び応用 (符号理論・暗号理論) への理解が深まるように講義を行う．・群論の初歩，基礎的な環論及び体論を解説する．これを受けて線形符号に関する初歩的な一般論を講義する (大渕)．また公開鍵暗号系に関する基礎理論を講義する (片山)．
【キーワード】**符号理論，暗号理論，現代代数学**
【先行科目】『代数基礎 I』(1.0, ⇒193 頁)，『代数基礎 II』(1.0, ⇒193 頁)
【関連科目】『代数学 I』(0.5, ⇒195 頁)，『代数学 II』(0.5, ⇒195 頁)
【到達目標】代数的構造に関する基礎理論の理解と符号理論と 暗号理論への応用
【授業計画】**1.** 群の定義 **2.** 準同型定理 **3.** 環の一般論 **4.** 準同型定理 **5.** 有限体概説 **6.** 符号の定義 **7.** 線形符号 **8.** シングルトンの不等式 **9.** 暗号の歴史 **10.** 対称鍵暗号系の仕組み **11.** 計算困難性 **12.** 非対称鍵暗号系の仕組み **13.** RSA 暗号系 **14.** デジタル署名の仕組み **15.** RSA 署名およびまとめ **16.** 総括授業
【成績評価】出席および提出レポートによる総合評価を行う．
【再試験】無
【教科書】特に指定しない．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220350
【連絡先】
⇒ 片山 (1304，656-7228，katayama@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 大渕 (088-656-7297，ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp)

資源エネルギー論
Natural Resources and Energy

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
伏見 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．
【授業概要】日本・世界のエネルギー需給について現状の分析をする．エネルギー需給について開発の現状について解説し，将来取りうる政策について議論する．
【履修上の注意】日ごろから新聞を読んでおくこと．講義ノートを用意すること．予習，復習の時間を十分に確保すること．各学科で学んできた事柄を活用して建設的な議論が進められることを期待する．
【到達目標】資源とエネルギーの流れを理解し，現在世界で起こっている問題を解決するための提案ができるようになること．そのためにデータを正しく読むことができる．冷静な議論ができる．
【授業計画】**1.** 序論: 基本用語，単位の解説．グラフ，統計データの見方． **2.** エネルギー需給の変化 (日本のエネルギー需給) **3.** 日本のエネルギー供給 I (一次エネルギー源 化石燃料) **4.** 日本のエネルギー供給 II (一次エネルギー源 非化石燃料 (原子力)) **5.** 日本のエネルギー供給 III (一次エネルギー源 非化石燃料 (再生可能エネルギー)) **6.** 日本のエネルギー供給 IV (二次エネルギー 電力) **7.** 日本のエネルギー供給 V (二次エネルギー ガス・熱・石油) **8.** 日本のエネルギー供給 VI (二次エネルギー 熱・石油) **9.** 国際エネルギー動向 エネルギーコスト **10.** エネルギー需給に関する政策 **11.** エネルギー開発の動向 原子力政策 **12.** 輸送部門のエネルギー供給政策 **13.** 新エネルギーに対する政策 **14.** エネルギー安全保障 **15.** 総合討論 **16.** 総括
【成績評価】レポート課題 (40%)，総合討論 (10%)，期末レポート (40%)，出席 (10%)
【再試験】なし．
【教科書】適宜指示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220347
【連絡先】
⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01，088-656-7238，kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 研究室扉に貼っている予定表の空欄時間帯．)

環境マネジメント

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】さまざまなレベルの環境問題や環境管理手法である環境マネジメントシステムについて学び，について理解するについて学習し，低炭素・循環型で環境負荷の少ない社会を構築するための個人のライフスタイルや企業の取り組みが，よい地域環境を生み出し，それはさらによりよい地球環境を創造することにつながることを理解する．
【授業概要】講義の前半では環境社会検定でも扱われる内容について総合的に理解し，後半では環境マネジメントを実行するシステムを学ぶ．そして最後に一人一人が日常生活の中での環境マネジメントを考える．
【キーワード】**環境，生態系，*ISO14000* シリーズ**
【授業計画】**1.** 環境マネジメントとは **2.** 持続可能な社会に向けて **3.** 地球人としてのわたしたち **4.** 環境と経済・社会 **5.** わたしたちの暮らしと環境 **6.** 環境と共生するために **7.** 中間試験 **8.** 環境マネジメントシステム **9.** ISO14000 シリーズ **10.** 伝統的な環境マネジメント **11.** 共生環境のマネジメントシステム **12.** 個人の環境マネジメント:チェック **13.** 個人の環境マネジメント:PDCA **14.** 個人の環境マネジメント:アクションプラン **15.** 期末試験 **16.** 総括授業
【成績評価】出席 (原則遅刻は配点しない)，中間試験，レポートを総合して評価する．
【再試験】しない
【教科書】なし
【参考書】講義の中で紹介する
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220342
【連絡先】
⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

環境倫理学

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
石田 三千雄・教授/人間文化学科，山口 裕之・准教授/人間文化学科

【授業目的】環境倫理学を通じて，倫理学の基本的な考え方を理解する．現代社会における「倫理的問題」は，単に思想や価値観の問題であるだけでなく，「社会的問題」でもあることを理解する． 環境倫理学のトピックス，その思想的背景，現代の環境倫理学の幾つかの潮流を取り上げ，現代の環境問題を考えるための基本的な知識を身につける． その上で，自分なりの調査に基づくレポートで意見をまとめる力を身に付ける． レポートをもとに意見を発表し，討議する力を身に付ける．
【授業概要】「環境倫理学」という新興の学問分野の成立と展開を追い，そこで論じられてきた多様なトピックや事例を紹介し検討する．
【キーワード】**哲学，倫理学，環境，社会と自然**
【到達目標】
1. 人文科学 (環境倫理学) に関わる幅広い知識の理解を目標とする．
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする．
3. 高い倫理観の涵養を目標とする．
【授業計画】**1.** イントロダクション:「環境倫理学」を学ぶことの意義 (石田・山口) **2.** 環境倫理学の系譜 (1):環境倫理学成立の背景:1950~ 60 年代の環境破壊と自然保護思想の台頭 (山口) **3.** 環境倫理学の系譜 (2):環境倫理学の源流:一九世紀ロマン主義の思想 (山口) **4.** 環境倫理学の系譜 (3): 「自然の権利」論を中心に:クリストファー・ストーンの「樹木の当事者適格」論文とアマミノクロウサギ訴訟 (山口) **5.** 環境倫理学の系譜 (4):「動物の解放」論を中心に:動物虐待防止法からピーター・シンガーの「動物の解放」まで (山口) **6.** 地球温暖化問題の成立 (1):地球寒冷化論と温暖化論:酸性雨問題からフィラッハ会議まで (山口) **7.** 地球温暖化問題の成立 (2):フィラッハ会議後の展開:地球温暖化問題の国際問題化と冷戦の終結 (山口) **8.** 地球温暖化問題の成立 (3):IPCC の成立と気候変動枠組み条約の締結:新たな国際枠組みの模索 (山口) **9.** 地球温暖化問題の成立 (4):京都議定書とその後の展開 **10.** アルネ・ネスのディープ・エコロジーの思想を講じる．シャロー・エコロジーと区別されるディープ・エコロジーの思想を，その綱領やディープ・エコロジー運動の重層構造，エコフィロソフィーとエコソフィー，自己実現との関連で講じる．(石田) **11.** マレイ・ブクチンのソーシャル・エコロジーの思想を講じる．ソーシャル・エコロジーによるディープ・エコロジー批判，位階性の批判，自然の進化と社会の進化，リバタリアン的な地域自治主義を講じる．(石田) **12.** ドイツの環境政策を講じる．1970 年代以降のドイツの環境政策を概観した上で，地方自治体の環境政策としてのフライブルク市の環境政策，ノルトライン・ヴェストファーレン州のヴッパータル気候・環境・エネルギー研究所のプロジェクト「ファクター 4」を講じる．(石田) **13.** ミッシェル・セールの自然契約に思想を講じる．自然は果たして権利の主体になりうるか．人間と自然との関係を寄生関係から共生関係へ変えることは可能か，等を論じる．(石田) **14.** ドイツの環境思想家マイアー=アービッヒの『自然との和解への道』で

述べられた，実践的自然哲学を講じる．政治の主題としての「自然との和解」が環境政策の哲学的・倫理学的基礎づけとなること，自然の理解は広い意味で法の中で論じられること，人間中心主義に対する哲学的・倫理学的批判をカントの思想との対決の中で論じ，自然中心主義的世界像から，自然としての人間，自然の法共同体を講じる．(石田) **15.** 「環境倫理学の現代的課題」まとめ:ディスカッション (石田)

【成績評価】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」2 点 ×15=30 点，レポート 2 回＝ 70 点．

【再試験】無

【教科書】その都度資料を配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218491

【連絡先】

⇒ 石田 (2328，088-656-7147，mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 14時~ 15時)

⇒ 山口 (共通教育 4 号館 404(11 年 3 月まで)，088-656-7615，yamaguti@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜10:30~ 11:30)

環境政策論 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
栗栖 聡・教授/社会創生学科

【授業目的】環境政策について体系的に理解することによって，持続可能な社会への転換の方向性を把握すること．

【授業概要】 環境問題，環境政治・政策学，現代社会の基本的枠組みを検討し，ついで，環境政策に関して，その理念，手法，決定過程を検討する．さらに，環境基本法を踏まえつつ，大気，水，自然環境に関する規制の内容，循環型社会形成のための政策について論じる．最後に，市民参加の観点から環境影響評価の仕組みを検討する．

【到達目標】環境政策の体系的理解

【授業計画】1. 環境問題とは **2.** 環境政治・政策とは **3.** 環境問題と国家の役割 **4.** 環境政策の理念 **5.** 環境政策の手法 (総論) **6.** 環境政策の手法 (規制，経済的手法，市民参加等) **7.** 環境政策決定過程 (議会，行政) **8.** 環境基本法の制定過程と概要 **9.** 規制 (大気，水，土壌) **10.** 規制 (自然環境保全) **11.** 循環型社会形成政策 (廃棄物処理) **12.** 循環型社会形成政策 (排出削減) **13.** 環境影響評価 (事業アセス) と市民参加 **14.** 環境影響評価 (戦略アセス) と市民参加 **15.** 試験 **16.** まとめ

【成績評価】平常点 (20%) と期末試験 (80%)

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業中に指示する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218487

【連絡先】

⇒ 栗栖 (2207-1，0886567185，kurisu@ias.tokushima-u.ac.jp)

自然保護論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
佐藤 征弥・准教授/社会創生学科

【授業目的】自然保護の意味や実情を理解し，どのような取り組みを行えば良いか，またどのようなことに留意すれば良いかについて考える．

【授業概要】 自然を保護することに異論のある人はほとんどいないだろう．しかし，野生生物と人間が生活圏を共有する場合や人間の開発行為が野生生物の生息地を脅かす場合等，生活と自然のどちらを優先すべきか答えを出すのは容易ではない．また，絶滅が心配される野生生物の個体数調査や個体数の変動の予測については，その正確性が絶えず議論になる．この授業では，自然保護の意味と実際について具体的事例を多くとりあげ，どのように考えていくべきか解説する．

【キーワード】自然保護，野生生物，環境保全

【到達目標】自然を保護することの意味と方法を理解する

【授業計画】1. 自然の価値とは何か 1 - 現代人の自然とのつきあい **2.** 自然の価値とは何か 2 - 生態系サービスについて **3.** 自然の価値とは何か 3 - 自然界の物質循環 **4.** 生物の個体数把握 - マグロやトキの事例 **5.** 自然保護思想 1 - ヨーロッパにおける自然保護思想の芽生え **6.** 自然保護思想 2 - 世界各地の自然観 **7.** 自然保護思想 3 - 動物の死に対する文化的違い **8.** 日本の自然と自然観 1 - 江戸時代の開発とリサイクル **9.** 日本の自然と自然観 2 - 日本の自然保護運動 **10.** 自然を守る方策 1 - 保護地区や自然公園の設定 **11.** 自然を守る方策 2 - 日本の国立公園，世界遺産 **12.** 自然を守る方策 3 - 野生生物を守るための国内法 **13.** 自然を守る方策 4 - 野生生物を守るための国際条約 **14.** 自然を守る方策 5 - 野生生物による人間への被害と管理の軋轢 **15.** 期末試験

【成績評価】授業への取り組み状況 (毎回課すミニッツペーパー) と期末試験 (ノート，資料持ち込み可) により評価する．

【再試験】行わない

【教科書】なし

【参考書】適宜紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218670

【連絡先】

⇒ 佐藤 (088-656-7222，satoh@ias.tokushima-u.ac.jp)

生態学 I

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
浜野 龍夫・教授/社会創生学科

【授業目的】生態学の基本や面白さを理解する．

【授業概要】 ヒトとして生活をする上で知っておいた方がよい生態学の知見，フィールド調査や研究を行う上で重要となる生態学的な基礎知識について，実例をあげながら講述する．

【キーワード】生物，行動，生態系

【到達目標】生態学の基本用語を理解する．

【授業計画】1. 講義内容の説明 **2.** 繁殖行動の解発因 **3.** 配偶者選択 **4.** 行動の進化的安定戦略 **5.** 生存曲線，個体群の増殖 **6.** 個体数推定，生命表 **7.** 生態的地位，生態系，すみ分け **8.** 種間関係，群集の多様性 **9.** 捕食ー被捕食関係，最適餌サイズ **10.** 擬態，r-K 戦略 **11.** 生物の多様性，メタ個体群 **12.** 自然保護を考える **13.** 生態学的研究の実例 **14.** 生態学の応用的研究の実例 **15.** 期末試験 **16.** 総括授業

【成績評価】出席 50 点 (原則遅刻は配点しない)，レポート 50 点

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義の中で紹介する

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218743

【連絡先】

⇒ 浜野 (3N04，088-656-7271，hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12:00-12:30)

総合科学実践プロジェクト

2 単位 (選択) 3 年 (前期)
宮崎 隆義・教授/人間文化学科，依岡 隆児・教授/人間文化学科
山城 考・准教授/社会創生学科，山本 裕史・准教授/社会創生学科

【授業目的】専門を異にする教員が，共通もしくは複数のテーマで受講生とともに授業を運営し，実践的で総合的な学習姿勢を体得する．授業を通して，文系，理系相互の視点からものを考え，企画・調査し，討論・発表によって総合科学の実践力を養う．

【授業概要】総合科学に関わる諸問題を，文系，理系の視点から考え実践的に解明をおこなってゆくワークショップ方式の授業である．欧米の文学や比較文化，植物や環境を専門とする 4 名の教員が，受講者とともに授業の内容を企画し，共通もしくは複数のテーマを設定して，文献調査やフィールドワーク (例:吉野川干潟観察プログラム・流域水環境分析プログラム・環境保全運動考察プロジェクトなど複数のテーマで開設) を通して文系・理系相互のもしくは融合した視点から，考察を深め，最終的にはその成果を発表する．

【到達目標】

1. 文系，理系双方の考え方を理解し融合させる．

2. テーマの設定，フィールドワークの実施や文献の調査等を通して実践的な企画力を養う．

3. 文献の購読や討論を通して論理的な思考や理解を高め，成果発表の能力を高める．

【授業計画】1. 以下の計画はおおよその目安であり，受講者の志向や関心，文献調査やフィールドワークなどの動向を見ながら 16 回の授業を運営してゆく． **2.** オリエンテーション **3.** テーマの設定について討議 (2 回程度) **4.** 授業の運営について討議・企画 (2 回程度) **5.** 調査およびフィールドワーク (3 回程度) **6.** 中間発表 (2 回程度) **7.** 討論とさらなる調査 (3 回程度) **8.** まとめと発表 (2 回程度) **9.** 総括

【成績評価】授業への参加状況，議論の内容，発表や報告などを総合的に評価する．

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】授業の中で適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220352

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部 1 号館 3 階北棟 3309，656-7131，miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火・木曜日 12 時 ~ 13 時)

⇒ 依岡 (1308，088-656-7143，yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日 12 時から 13 時)

⇒ 山城 (088-656-7257，tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 山本 (総合科学部 3 号館 2N07，7618，hiroshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

総合科学特別講義

2 単位 (選択) 3 年 (後期)
中嶋 信・教授/社会創生学科，樫田 美雄・准教授/社会創生学科
大橋 眞・教授/社会創生学科，佐藤 高則・准教授/社会創生学科

【授業目的】 総合科学＝諸科学を総合して課題を解明する営みの意義や方法について考察する．考察の領域を地域科学に据え，地域課題の実践的解明の過程を紹介する．

【授業概要】 ①総合科学部の教育課程の特徴＝総合科学の意義や課題を理解する． ②人文 · 社会 · 自然科学を総合する方法を実践的に理解する． ③地域づくりの事例を考察し，諸科学を総合する課題 · 方法を理解する． ④地域住民との対話を通じて総合科学的な思考力を身につける．

【キーワード】総合科学，地域科学，地域づくり，グローバル化

【履修上の注意】 11 月 12 日土曜日午後に,「在宅療養を考える」というテーマでワークショップを企画している (2 コマ)．補講の扱いではあるが，正規の授業なので日程を開けておくことが望ましい．

【到達目標】 ①諸科学と総合科学との関係が具体的に説明できる．②具体的な地域問題に対し，諸科学を編成して解決する計画を作成できる．③総合科学的な観点から，自分の意見が表明できる．

【授業計画】 **1.** 諸科学と総合科学:諸科学を総合する科学が必要とされる理由を考察 (中嶋) **2.** 地域科学のあゆみ:Regional Science の形成と日本での展開過程を考察 (中嶋) **3.** 地域科学の実際①:実際の地域問題と地域科学による解決の例を考察 (中嶋) **4.** 地域科学の実際②:地域づくりに取り組む県内自治体職員による報告 (中嶋) **5.** 在宅医療の総合科学:医療と看護と福祉と生活の共同と相克を考察 (樫田) **6.** ※ 6·7 講は 11/12 に結合して開講する (樫田) **7.** 在宅医療のワークショップ:班別の討論 医療経済学や社会学を援用 (樫田) **8.** 在宅医療のワークショップのまとめ:リポート作成に向けた議論 (樫田) **9.** グローバル化と総合科学①(大橋・佐藤) **10.** グローバル化と総合科学②(大橋・佐藤) **11.** グローバル化と地域社会①(大橋・佐藤) **12.** グローバル化と地域社会②(大橋・佐藤) **13.** グローバル化と環境問題①(大橋・佐藤) **14.** グローバル化と環境問題②(大橋・佐藤) **15.** グローバル化と大学の役割 (大橋・佐藤)

【成績評価】 リポート内容及び出席状況で判定

【再試験】 再試は行わない

【教科書】 ⑤~ ⑧を除き教科書は用いない．関連資料を配付する．⑤~ ⑧:『「在宅医療」をささえるすべての人へ』健康と良い友だち社，00

【参考書】 講義時に随時紹介する

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220353

【連絡先】

⇒ 中嶋 (総合科学部 1 号館 2218 室，088-656-7181，makoto@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 1号館3階中棟(3M15) 相談時間 月曜日13:30-17:00)

⇒ 樫田 (工学部キャンパス SVBL 棟 3 階プロジェクト研究室 1 に常駐.1 号館南棟 1 階 1S19 はときどき.，088-656-9512，HCB00537@nifty.ne.jp) (オフィスアワー: 火曜日_14:00 から 15:00)

⇒ 大橋 (656-7261，ohashi@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 佐藤 (3N05，088-656-7657，tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業時間以外の平日 9:00-17:00)

教職に関する科目 授業概要

● 教職に関する科目

教師論 …大宮/3 年 (前期)……226
教育学 …弘田/2 年 (後期, 集中)……226
教育心理学 …原/2 年 (後期)……226
学校制度論 …岩永/2 年 (後期)……227
教育課程論 …村川・前田/2 年 (後期, 集中)……227
国語科教育法 I …仙波/2 年 (前期)……227
国語科教育法 II …仙波/2 年 (前期)……227
国語科教育法 III …仙波/2 年 (後期)……228
国語科教育法 IV …仙波/2 年 (後期)……228
社会科教育法 …梅津/2 年 (後期)……228
地理歴史科教育法 …立石/3 年 (後期)……228
地理歴史科教育方法論 …立石/2 年 (後期)……229
公民科教育法 …井上/2 年 (前期)……229
公民科教育方法論 …井上/2 年 (前期)……229
英語科教育法 I …中島/2 年 (後期)……229
英語科教育法 II …中島/2 年 (後期)……230
英語科教育法 III …中島・スティーヴンズ/2 年 (前期)……230
英語科教育法 IV …中島・スティーヴンズ/2 年 (前期)……230
美術科教育法 I …平木/2 年 (前期)……230
美術科教育法 II …平木/2 年 (前期)……231
美術科教育法 III …平木/2 年 (後期)……231
美術科教育法 IV …平木/2 年 (後期)……231
保健体育科教育法 I …佐藤・中村/2 年 (前期, 集中)……231
保健体育科教育法 II …佐藤/2 年 (前期)……231
保健体育科教育法 III …佐藤・中村/2 年 (後期, 集中)……232
保健体育科教育法 IV …佐藤/2 年 (後期, 集中)……232
数学科教育法 I …服部・小野/2 年 (前期)……232
数学科教育法 II …服部・小野/2 年 (前期)……232
数学科教育法 III …服部・小野/2 年 (後期)……233
数学科教育法 IV …服部・小野/2 年 (後期)……233
情報科教育法 I …中山/3 年 (前期)……233
情報科教育法 II …中山/3 年 (後期)……233
理科教育法 I …續木・齊藤・渡部・今井・増田・三好/2 年 (前期)……234
理科教育法 II …續木・齊藤・渡部・今井・増田・三好/2 年 (前期)……234
理科教育法 III …續木・渡部・石田・村田・西山/2 年 (後期)……234
理科教育法 IV …續木・渡部・石田・村田・西山/2 年 (後期)……234
道徳教育 …大宮/3 年 (前期)……235
特別活動研究 …木下/3 年 (前期, 集中)……235
教育方法学 …村川/3 年 (前期, 集中)……235
生徒指導論 …大宮/3 年 (後期)……236
教育相談 …福森/3 年 (後期)……236
総合演習 …大宮/3 年 (前期)……236
教育実習事前事後指導 …大宮/4 年 (通年)……236

教師論

2 単位 3 年 (前期)
大宮 俊恵・准教授/人間文化学科

【授業目的】 「子どもに慕われ，親に尊敬され，同僚に愛され，校長に信じられる」教師を育成し，新たな時代にふさわしい教師として学校教育が担えるよう，確固たる教師観と実践に繋がる資質・能力を養成する．

【授業概要】 現代の子どもたちは社会的・家庭的要因からくる様々な問題を抱えていること，また，そこから派生する学校現場での問題点や課題も多々あること，それでも尚かつ，教職に勝る職業はなしと考える多数の教師の声等から学校現場の実情を把握した上で，教職の意義及び教員の役割・職務内容を学生自ら主体的に学べるようにする． また，先人の崇高なる教師論を学ぶ中で，教師としての使命感と真の教育愛等について反芻しながら，社会の養成である豊かな人間性と確かな指導力のある教師とは，と学生自身が「理想とする教師像」を描けるようにする． さらに，本講座「教師論」を学んだことにより，自らの適性等を考えるなど，学生自身が将来に対する方向性・展望がもてるよう進路選択の機会を提供する教職科目のひとつとする．

【キーワード】 教育現場の実情，教職の意義，教員の職務内容，教員の服務

【履修上の注意】 各人の意見を述べ合う場を授業中に設けます．課題意識をもって授業に参加してください．

【到達目標】 1．学校現場の実情を理解する．2．教職の意義，教員の職務内容等主体的に学ぶ．3．理想とする教師像を描くことができる．

【授業計画】 **1.** 教育現場の実情把握 **2.** ・学校現場の問題点/課題 **3.** ・教職の意義・教員の使命 **4.** ・教員の役割 **5.** ・教員の職務内容 **6.** ・教員の服務 **7.** 学校現場参観 **8.** 教員の身分保障 **9.** 教育内容 (学習指導要領) **10.** 理想の教師像 (中学校長に学ぶ) **11.** 理想の教師像 (高等学校長に学ぶ) **12.** 理想の教師像 (教育長に学ぶ) **13.** フィンランドの教育事情 **14.** 教職への展望 (自分の理想とする教師像) **15.** まとめ

【成績評価】 各授業の課題・参加態度，最終レポート，出席状況等により総合的に評価します．

【再試験】 なし

【教科書】 必要に応じて授業時にレジュメ・資料を配付する．

【参考書】 適宜，参考図書資料を紹介する．

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219253

【連絡先】
⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育学

2 単位 2 年 (後期, 集中)
弘田 陽介・助教/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

【授業目的】 教育の理念の成り立ちを近代思想史の文脈において把握することをテーマとする．そのような歴史的知見を単なる知識にとどめずに，現在の教育言説や制度改革にまで連なる一つの思想の流れの中で解釈できるところまで，思想的な訓練を深めたい．また小発表を通して，文献や資料に沿って，自らの解釈を提示するというスキルを磨いていくことも到達目標としたい．

【授業概要】 教育の理念および思想史を，現在の私たちの教育問題と接続して考えていく．そのために，近代的な学問・科学の成立といった事象を，今日的な教育制度の成立と連関させて把握する．授業は，主に講義・テクスト読解・映像分析をメインとするが，受講者の小発表を織り交ぜることで，活発に自由な議論が展開できるように工夫する．

【授業計画】 **1.** 導入 授業の概略と進め方について **2.** 現在の教育言説 **3.** 子供の成長 誕生から幼児期まで **4.** 子供の成長 少年期から思春期まで **5.** 子供の成長 青年期から **6.** 生涯教育の思想 **7.** 母と子の教育学 **8.** 教育を形作った思想 ルソーとペスタロッチ **9.** 教育を形作った思想 カント **10.** 学問としての近代教育 ヘルバルト **11.** 教育を形作った思想 フーコー **12.** 教育の理念における経験の思想 森有正 **13.** 教育の理念における身体の思想 古典・芸道の理念 **14.** レポートの構成・書き方 **15.** まとめ **16.** 総括授業

【成績評価】 授業への積極的な参加 (20%)，小発表 (30%)，学期末のレポート (50%)

【再試験】 なし

【教科書】 プリントを適宜用意する

【参考書】 弘田陽介『近代の擬態/擬態の近代』(東京大学出版会・2007)

【授業コンテンツ】 http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219254

【連絡先】
⇒ byu00616@nifty.com

教育心理学

2 単位 2 年 (後期)
原 幸一・准教授/人間文化学科

【授業目的】 学校教育で有用な学習や発達に関する事柄を伝える．また，特別支援教育が始まり障害をもつ子どもたちへの対応の重要性についても理解する．

【授業概要】学習，社会性，動機付けなどについてそれらの理解と発達を考えた子どもの理解をする．

【キーワード】**学習心理，発達心理，指導**

【関連科目】『学習心理学』(0.5)

【到達目標】心理学の理論や事実を通じて教室場面において日常の中で日々何が起きているのかを想像しながら地道な働きかけを知る．

【授業計画】**1.** 1.　発達と学習　**2.** 2.　学校教育と個人差　**3.** 3.　研究法　**4.** 4.　発達の諸理論　**5.** 5.　身体と運動機能の発達　**6.** 6.　知覚と記憶の発達　**7.** 7.　読み書きの発達　**8.** 8.　思考と知能の発達　**9.** 9.　パーソナリティと情動の発達　**10.** 10.　社会性の発達　**11.** 11.　道徳性の発達　**12.** 12.　学習の諸理論　**13.** 13.　動機づけと学習　**14.** 14.　授業過程と学習　**15.** 15.　まとめ

【成績評価】2/3 以上の出席を必要条件として，受講態度および試験による評価

【教科書】「発達・学習の心理学」 (学文社)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219257

【連絡先】
⇒ 原 (hara@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】自分自身が経験することになることを想像して聴いてください．

学校制度論

2 単位 2 年 (後期)
岩永 定 · 非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】教育現象を，教授-学習関係というミクロな視点からだけではなく，社会的 (政策，行政，法・制度等) な文脈に位置づけて把握するというマクロな視点の獲得を目指します．

【授業概要】国民の「教育を受ける権利」の保障を使命とする教職員には，教育関係法令の理解と遵守が求められています．この講義では，①公教育が基盤としている法と行政に関する基本的知識，②法理念の実現のためにとられている教育制度の概要と学校経営の構造，③現代の教育改革の動向と具体的内容について触れる．

【履修上の注意】教育 (小) 六法を持参することが望ましい．

【到達目標】
1. 教育法と行政の基本について理解し，説明できる．主要な法令については，その条文内容を理解している．
2. 教育制度の基本的構造について，その法的根拠とともに説明できる．
3. 今日の教育改革の動向について，その背景と意義，問題点について説明できる．また，改革の方針 · 内容についてもその概要を理解している．

【授業計画】**1.** 法の存在形式 (法源)　**2.** 憲法・教育基本法の理念　**3.** 条約等に見る現代公教育の理念　**4.** 学校制度と就学義務　**5.** 学校運営の具体的仕組み　**6.** 学校・学級経営の役割　**7.** 学校における生徒指導 (懲戒，体罰，校則)　**8.** 学校における保健・衛生・安全　**9.** 教育課程と教科書　**10.** 教職員に関する制度　**11.** 学校を支える教育行政①:中央教育行政　**12.** 学校を支える教育行政②:地方教育行政　**13.** 地方分権と学校の自律性　**14.** 学校と家庭・地域の連携　**15.** 学校評価とアカウンタビリティ

【成績評価】期末試験の総合点で評価します．

【再試験】3 分の 2 以上の出席を条件に実施します．

【教科書】
◇ 教育六法 (平成 20 年版，三省堂)
◇ ※平成 19 年度に学校教育法の大幅改定があったため，それ以前の六法は使用不可．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218483

【連絡先】
⇒ Tel:687-6255,ただし留守の場合が多いので,メールによる質問を勧めます．
⇒ iwanaga@naruto-u.ac.jp,自宅でも可能なので時間帯は問いません．

教育課程論

2 単位 2 年 (後期，集中)
村川 雅弘 · 非常勤講師 / 鳴門教育大学，前田 洋一 · 非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】学習指導要領においては創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めることが求められており，教師には個々の授業を越えて教育課程を構想，実践する力がますます必要とされている．本授業科目では，教育課程に関する基本的な概念理解を深めるとともに，学習指導要領の変遷と時代背景，今次学習指導要領改訂の特徴，学力問題をはじめとした教育課程をめぐる昨今の動向，将来の実践づくりに向けての展望と具体的な手だてを習得することを目指す．授業の中では，映像や資料を活用して，わが国における具体的な事例をできるかぎり取り上げる．

【授業概要】教育課程や学習指導要領に関する資料や映像資料の分析及びそれに基づく協議を通して，授業実践の基盤となる教育課程の理解を具体的・実践的に学ぶ．

【キーワード】**教育課程，学習指導要領，個別化・個性化，カリキュラムマネジメント，学習環境**

【履修上の注意】具体的な資料や事例についての各自の意見・感想の記述や発表及びそれに基づく協議を重視する．新学習指導要領が求めている「思考・判断・表現」及び「言語活動」の活用，協同的な学習を自ら体験してほしい．

【到達目標】
1. 教育課程の基本概念を理解する．
2. 学習指導要領の変遷と新学習指導要領の特徴を理解する．
3. 総合的な学習の時間の意義と今次改訂のポイントを理解する．

【授業計画】**1.** 教育課程・カリキュラムの基礎概念　**2.** 教育課程・カリキュラムの基礎概念　**3.** PISA 型学力と教育課程　**4.** PISA 型学力と教育課程　**5.** 見えないカリキュラムと見えるカリキュラム　**6.** 見えないカリキュラムと見えるカリキュラム　**7.** 学校カリキュラムの構築と評価　**8.** 学校カリキュラムの構築と評価　**9.** 学習指導要領の変遷と時代背景　**10.** 学習指導要領の変遷と時代背景　**11.** 中央教育審議会答申及び新学習指導要領の特徴　**12.** 中央教育審議会答申及び新学習指導要領の特徴　**13.** 総合的な学習の時間の充実と知の総合化　**14.** 総合的な学習の時間の充実と知の総合化　**15.** 総合的な学習の時間の充実と知の総合化　**16.** 本授業のまとめとテスト

【成績評価】授業への出席とワークシートの記述 (60%) 及び中間レポートと最終テスト (40%) により総合的に評価する．

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』

【参考書】
◇ 村川雅弘・酒井達哉編『総合的な学習 充実化戦略のすべて』日本文教出版
◇ 村川雅弘編『「確かな学力」としての学びのスキル』日本文教出版
◇ 村川雅弘編『「生きる力」を育むポートフォリオ評価』ぎょうせい
◇ その他，適宜資料を配布します．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219259

【連絡先】
⇒ 授業等の問い合わせは，授業の前後に直接またはメールで(murakawa@naruto-u.ac.jp).

国語科教育法 I

2 単位 2 年 (前期)
仙波 光明 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】学校教育の中での国語科の目標及び位置づけを理解した上で，中学校及び高等学校国語科の教材を通してどのような授業が展開できるかを学ぶ．主として説明文，論説文などの教材を扱う．

【授業概要】主として，評論 · 論説 · 随想などの教材を対象として，国語科の教材分析の方法と，授業として展開するために必要な知識と技能を身につける．

【キーワード】**説明的文章教材，論説文，文章の構造，段落，事実と意見**

【履修上の注意】今年度は開講せず．23 年度に開講する．

【到達目標】
1. 国語科教育の目的 · 目標が理解できる．
2. 教材分析が適切にできる．
3. 授業計画がきちんと立案できる．

【授業計画】**1.** 1) 国語科の領域，指導目標，国語科指導要領について (併せ，国語科教育の歴史概観)　**2.** 国語科指導要領について その 2　**3.** 国語科指導要領について その 3　**4.** 説明文の基本的な構造，併せて事実と意見との区別．　**5.** 段落の構造と段落の意義　**6.** クジラたちの声 (その 1)　**7.** クジラたちの声 (その 2)　**8.** 胸の底の人と言葉たち (その 1)　**9.** 胸の底の人と言葉たち (その 2)　**10.** モアイは語る (その 1)　**11.** モアイは語る (その 2)　**12.** 言葉の力　**13.** メディア社会を生きる (その 1)　**14.** メディア社会を生きる (その 2)　**15.** レポート作成　**16.** 補足など

【成績評価】出席 50%，レポート (指導案作成)50%の割合で評価する．

【再試験】あり．

【教科書】
◇ 教科書　未定．プリントを配布，または適切な教科書を選定する予定．
◇ 参考書　『中学校学習指導要領解説——国語編——』と『高等学校学習指導要領解説 国語編』(ともに最新版) を用意すること．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218610

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319，088-656-7117，senba@ias.tokushima-u.ac.jp)　(オフィスアワー: 木曜日 12時10分~ 13時20分)

【備考】隔年開講 (来年度は開講しない．23 年度度開講．)

国語科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)
仙波 光明 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】学校教育の中での国語科の目標及び位置づけを理解した上で，中学校及び高等学校国語科の教材を通してどのような授業が展開できるかを学ぶ．文学的文章教材，古典教材，その他を中心とする．

【授業概要】文学的文章教材，古典教材などの国語科教材としての分析法と扱い方，授業の組み立て方などを扱う．

【履修上の注意】中学校国語科免許を取ろうとする人は，2 科目 4 単位分を受講して下さい．

【到達目標】
1. 国語科教育の目的 · 目標が理解できる．
2. 教材分析が適切にできる．
3. 授業計画がきちんと立案できる．

【授業計画】**1.** 国語科の領域，指導目標，国語科指導要領について (併せ，国語科教育の歴史概観) **2.** 文学的文章の分析法 (説明的文章と何が異なるのか) **3.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「少年の日の思い出」その 1) **4.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「少年の日の思い出」その 2) **5.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「少年の日の思い出」その 3) **6.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「ゼブラ」その 1) **7.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「ゼブラ」その 2) **8.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「ゼブラ」その 3) **9.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「握手」その 1) **10.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「握手」その 2) **11.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (まとめ) **12.** 古典教材の分析方法と指導上の留意点 (入門段階の古典の指導 竹取物語など) **13.** 古典教材の分析方法と指導上の留意点 (古典に親しませるには) **14.** 古典教材 (漢文を含む) を扱う場合の指導上の留意点． **15.** まとめ，指導案の作成 **16.** 補足 (内容未定)

【成績評価】演習の内容等 50%，レポート (指導案作成)50%の割合で評価する．

【再試験】あり

【教科書】プリントを配布．

【参考書】『中学校学習指導要領解説——国語編——』と『高等学校学習指導要領解説 国語編』(ともに最新版)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219142

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319，088-656-7117，senba@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12時10分~ 13時20分)

【備考】隔年開講 (23 年度は開講せず．平成 24 年度開講)

国語科教育法 III

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
仙波 光明 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】学校教育の中での国語科の目標及び位置づけを理解した上で，中学校及び高等学校国語科の教材を通してどのような授業が展開できるかを学ぶ．文学的文章教材，古典教材，その他を中心とする．

【授業概要】文学的文章教材，古典教材などの国語科教材としての分析法と扱い方，授業の組み立て方などを扱う．

【履修上の注意】隔年開講，23 年 (本年) 度に開講．

【到達目標】
1. 国語科教育の目的 · 目標が理解できる．
2. 教材分析が適切にできる．
3. 授業計画がきちんと立案できる．

【授業計画】**1.** 国語科の領域，指導目標，国語科指導要領について (併せ，国語科教育の歴史概観) **2.** 国語科の領域，指導目標，国語科指導要領について (併せ，国語科教育の歴史概観) その 2 **3.** 文学的文章の分析法 (説明的文章と何が異なるのか) (「羅生門」その 1) **4.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「羅生門」その 2) **5.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「羅生門」その 3) **6.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「羅生門」その 4) **7.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「羅生門」その 5) **8.** 文学教材の分析方法と指導上の留意点 (「羅生門」その 6) **9.** 「羅生門」のまとめ (指導案の作成，板書計画など．) **10.** 古典教材の分析方法と指導上の留意点 (1. 徒然草など) **11.** 古典教材の分析方法と指導上の留意点 (2. 伊勢物語など) **12.** 古典教材の分析方法と指導上の留意点 (3. 枕草子など) **13.** 古典教材の分析方法と指導上の留意点 (4. 平家物語) **14.** 漢文教材についての分析方法と指導上の留意点． **15.** 指導案作成についてのまとめとレポート作成． **16.** 補足など (内容未定)

【成績評価】レポートで行うが平常点も加味する．

【再試験】あり．レポートの再提出．

【教科書】プリントを配布．

【参考書】『中学校学習指導要領解説——国語編——』と『高等学校学習指導要領解説 国語編』(ともに最新版)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218608

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319，088-656-7117，senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

国語科教育法 IV

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
仙波 光明 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】主として，評論 · 論説 · 随想などの教材を対象として，国語科の教材分析の方法と，授業として展開するために必要な知識と技能を身につける．

【授業概要】説明的文章教材，および関連分野の教材の取り扱い方

【キーワード】**説明的文章教材，論説文，段落，事実と意見**

【到達目標】
1. 国語科の領域，指導過程を理解できる．
2. 教材の分析が適切にできる．
3. 授業計画がきちんと立案できる．

【授業計画】**1.** 「国語科」の目標=指導要領に示された目標の確認 **2.** 聞く · 話すための内容を作るために必要な読むことの重要性 **3.** 文章の構造をどのように分析するか ··· ··· 説明文の構造 (1) **4.** 文章の構造をどのように分析するか ··· ··· 説明的文章教材を中心に． **5.** コンコルドの誤り (長谷川眞理子) の分析を中心に (その 1) **6.** コンコルドの誤り (長谷川眞理子) の分析を中心に (その 2) **7.** 安全は証明できない (池内了) の分析を中心に **8.** 水の東西 (山崎正和) の分析を中心に (その 1) **9.** 水の東西 (山崎正和) の分析を中心に (その 2) **10.** 水の東西 (山崎正和) の分析を中心に (その 3) **11.** ものとことば (鈴木孝夫) の分析など (その 1) **12.** ものとことば (鈴木孝夫) の分析など (その 2) **13.** ものとことば (鈴木孝夫) の分析など (その 3) **14.** 指導過程についての整理と指導案の作成 **15.** 指導案作成についてのまとめとレポート作成 **16.** 補足 (内容未定)

【成績評価】レポートで行う．

【再試験】あり．レポートの再提出．

【教科書】プリントを配布．

【参考書】
◇ 『中学校学習指導要領解説——国語編——』と『高等学校学習指導要領解説 国語編』(ともに最新版)
◇ その他，随時紹介の予定．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218609

【連絡先】
⇒ 仙波 (2319，088-656-7117，senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

社会科教育法

2 単位 2 年 (後期)
梅津 正美 · 非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】中学校社会科を主たるフィールドに，社会科教育の目標・内容・方法・評価に関する理論と方法について講義・演習を行い，社会科教育実践力の基礎を培う．

【授業概要】社会科授業構成の理論と方法について学ぶ．

【履修上の注意】講義形式を主とするが，演習課題に対する口頭発表 · 討議やビデオ視聴などの学習形態を適宜取り入れる．

【到達目標】
1. 社会科授業構成論を類型的に把握できる．
2. 目標-授業-評価の一体化を観点に社会科授業を構成できる．
3. 学習指導案を書くことができる．

【授業計画】**1.** 中学校社会科教育をめぐる諸課題とその解決にむけての視座 **2.** 社会科の理念と目的 **3.** 社会科教育の歴史と主要な論争 **4.** 社会科教育の目標 **5.** 社会科教育の内容編成 **6.** 社会科授業構成論 (1)-社会科における「基礎的・基本的な内容」概念の解釈- **7.** 社会科授業構成論 (2)-社会科授業における「知識」「問い」「思考」の連関- **8.** 社会科授業構成論 (3)-社会科授業論の諸類型- **9.** 社会科授業構成論 (4)-教材解釈- **10.** 社会科教育実践の分析 (1)-教科書分析- **11.** 社会科教育実践の分析 (2)-授業分析- **12.** 社会科教育実践の分析 (3)-テスト問題分析- **13.** 社会科評価論の新しい動向 **14.** 中学校社会科教育実践の課題 **15.** まとめと評価

【成績評価】成績評価は，出席状況，演習課題への取り組み状況，学期末試験の到達状況を総合的に勘案して行う．

【再試験】行わない．

【教科書】教科書は特に指定しない．授業の進行過程で適宜教材プリントを配布する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219400

【連絡先】
⇒ 梅津 . (オフィスアワー: umezu@naruto-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

地理歴史科教育法

2 単位 3 年 (後期)
立石 恵嗣 · 非常勤講師 / 徳島県立文書館

【授業目的】我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生きる民主的，平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う． 1 地理的歴史的なものの見方や考え方を養う． 2 グローバルな視点で現代社会を考え，行動できる能力や資質を養う． 3 生きている地域を知り，地域の発展に貢献できる知識・能力・資質を養う． 4 地理歴史学習を，生徒自ら学ぶことができる技術や指導力を養う．

【授業概要】総論においては，地理歴史科の目標を理解し，学校現場の現状を踏まえながら，地理歴史教育の理論と要点を考える．授業研究や

特論においては，地域学習や人権学習を取り上げ具体的な事例研究を行う．授業実践研究においては学習指導案の作成と模擬授業を行う．その他，社会教育施設の見学や，教員採用試験対策も行う．

【キーワード】「時間」，「空間」，「地理的歴史的思考」，「世界の中の日本」，「生きる力」

【到達目標】我が国や世界の社会を地理的歴史的に考え，理解し，行動できる力を養う

【授業計画】1. オリエンテーション 地理歴史科教育の目指すもの **2.** 総論① 学習指導要領とカリキュラム **3.** 総論② 地理歴史教育の理論と実際 **4.** 総論③ 地理歴史教育の理論と実際-「学習指導案」 **5.** 授業研究 「地域学習」と「人権学習」-地域社会の歴史と文化- **6.** 授業特論① 「吉野川の歴史と文化」 **7.** 授業特論② 「阿波藍の歴史と文化」 **8.** 授業特論③ 「北海道の開拓と徳島」 **9.** 社会教育施設見学-徳島城博物館- **10.** 授業実践研究① 受講者 (指導案作成と模擬授業) **11.** 授業実践研究② 受講者 (指導案作成と模擬授業) **12.** 授業実践研究③ 受講者 (指導案作成と模擬授業) **13.** 授業実践研究④ 受講者 (指導案作成と模擬授業) **14.** 授業実践研究⑤ 受講者 (指導案作成と模擬授業) **15.** 総括 教員への道-教員採用試験の現状と対策

【成績評価】①学習活動 (ワークシート・レポート)②学習指導案③模擬授業実践④出席状況などを総合して評価する

【教科書】
- ①社会認識教育学会編 『改訂新版 地理歴史科教育』 学術図書出版社
- ②原田智仁編 『社会科教育へのアプローチ』 現代教育社

【参考書】授業時に適宜指示し，関係資料を配付する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219199

【連絡先】
⇒ 徳島大学総合科学部学務係

【備考】隔年開講

地理歴史科教育方法論

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
立石 恵嗣 · 非常勤講師 / 徳島県立文書館

【授業目的】学習指導要領の目的や，教育課程の意義及び編成方法，地理歴史科教育の指導方法及び技術を身につける．

【授業概要】地理歴史科教育の目的を理解・認識し，学習指導要領や学校教育現場の現状を学びながら，教育内容や教材研究の方法を学ぶ．授業研究においては，学習指導案を作成し，模擬授業の実践を通して，具体的に教育方法を学ぶ．その他，社会教育施設の見学や，教員採用試験の対策も考えながら授業を行う．

【到達目標】
1. 日本および世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め，国際社会で主体的に生きる民主的，平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う．
2. 地理的・歴史的なものの見方・考え方を養うとともに，地理歴史学習を通して生徒が，主体的に，学び，考えることのできるための方法や指導力を学ぶ．

【授業計画】1. 地理歴史科教育の目標と方法 **2.** 学習指導要領の構成と概要 地理 **3.** 学習指導要領の構成と概要 歴史 (世界史・日本史) **4.** 地理歴史教育科の現状と課題 (中学校・高等学校) **5.** 地理の教材研究と指導法 **6.** 歴史の教材研究と指導法 **7.** 教材開発の方法 (視聴覚教材・インターネットの活用など) **8.** 地理歴史科学習指導案の作成と方法 **9.** 地理歴史科の評価と方法 **10.** 授業研究と実践 (模擬授業 1)- 地理に関するテーマ **11.** 授業研究と実践 (模擬授業 2)- 日本史に関するテーマ **12.** 授業研究と実践 (模擬授業 3)- 西洋史に関するテーマ **13.** 授業研究と実践 (模擬授業 4)- 東洋史に関するテーマ **14.** 社会教育施設見学 (博物館・資料館・文書館など) **15.** 教職への道 —教員採用試験の現状と対策- **16.** 期末試験

【成績評価】講義に関する試験，模擬授業の実践，平常のレポートなどを総合的に判断して評価する

【教科書】講義に必要な資料は毎時配布する

【参考書】
- 「学習指導要領」
- 社会認識教育学会編「改訂新版地理歴史教育」学術図書出版社
- 「社会科教育へのアプローチ-社会科教育法——」現代教育社

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218872

【連絡先】
⇒ 立石 .

【備考】本年度開講せず．平成 24 年度開講

公民科教育法

2 単位 2 年 (前期)
井上 菜穂 · 非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】高等学校公民科の成立過程，目標と学習内容の構成，授業の特質についての理解を通して，当核教科を担当し，指導できる基礎的な知識と能力を養うことを目的とする．

【授業概要】高等学校における公民科教育の特質を理解するために，①成立過程，②目標と学習内容，③特徴的な授業の分析を行う．さらに，①②③の理解を授業実践へとつなげる課題として，当核教科で扱う学習内容の 1 つを選択し，学習指導計画の構想及び模擬授業 (プレゼンテーション) を行う．

【キーワード】市民的資質，社会認識形成，授業分析

【履修上の注意】本授業では，講義形式と演習形式を適宜行う．講義内容の確実な理解と演習課題への積極的な取り組みを期待する．

【到達目標】
1. 高等学校公民科の成立過程を理解する．
2. 高等学校公民科の目標及び学習内容の特質を理解する．
3. 高等学校公民科における特徴的な授業の特質を理解する．
4. 高等学校公民科で扱う学習内容の中から 1 つ選択し，学習指導計画を構想できる．

【授業計画】1. オリエンテーション，アンケート，社会科の成立 **2.** 公民科教育の成立過程 **3.** 公民科の目標 **4.** 公民科における内容構成 **5.** 公民科の授業-公民科「現代社会」の場合- **6.** 公民科の授業-公民科「政治経済」の場合- **7.** 公民科の授業-公民科「倫理」の場合- **8.** 公民科の授業の特質 **9.** 公民科の授業の課題 **10.** 学習指導計画の作成 **11.** 模擬授業の実施とその評価 (1) **12.** 模擬授業の実施とその評価 (2) **13.** 模擬授業の検討 **14.** 公民科における学習評価の特質と課題 **15.** 公民科の課題 **16.** 授業のまとめ

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221765

【備考】平成 24 年度開講

公民科教育方法論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
井上 菜穂 · 非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】高等学校公民科の特質と課題及び，その教育目標に適した効果的な指導法についての理解を通して，当核教科を担当し，指導できる基礎的な知識と能力を養う．

【授業概要】高等学校の公民科教育の方法論を探究するために，①当核教科の特質と課題及び②効果的な指導法及び教材について理解する．さらに，①②の理解を授業実践へとつなげる課題として，当核教科の各科目から単元を選択し，学習指導計画の構想及び模擬授業を課す．

【キーワード】市民的資質，社会認識形成，指導法，教材

【履修上の注意】本授業では，講義形式と演習形式を適宜行う．講義内容の確実な理解と演習課題への積極的な取り組みを期待する．

【到達目標】
1. 高等学校公民科の成立過程の検討を通して，その特質と課題を理解する．
2. 高等学校公民科の教育目標に適した効果的な指導法及び教材について理解する．
3. 高等学校公民科の各科目から単元を選択し，学習指導計画を構想できる．

【授業計画】1. オリエンテーション，アンケート，社会科の成立 **2.** 公民科教育の歴史 **3.** 公民科の目標と科目構成 **4.** 公民科の指導法及び教材を捉える枠組み **5.** 公民科の指導法及び教材の分析-公民科「現代社会」の場合- **6.** 公民科の指導法及び教材の分析-公民科「政治経済」の場合- **7.** 公民科の指導法及び教材の分析-公民科「倫理」の場合- **8.** 公民科の指導法及び教材の特質 **9.** 公民科の指導法及び教材の課題 **10.** 学習指導計画と板書計画の特質 **11.** 学習指導計画と板書計画の作成 **12.** 模擬授業の実施とその評価 (1) **13.** 模擬授業の実施とその評価 (2) **14.** 模擬授業の検討 **15.** 公民科の課題と学習評価 **16.** 授業のまとめ

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218607

英語科教育法 I

2 単位 2 年 (後期)
中島 浩二 · 准教授 / 社会創生学科

【授業目的】優れた教師であると同時に優れた英語学習者の養成． 学習指導要領 (中学英語) を理解するとともに，英語教科の評価法について学ぶ．

【授業概要】英語指導の基本を学び，中学を中心に英語評価法について理論と実践の両面から考える．

【キーワード】学習指導要領，評価法

【履修上の注意】Excel の基礎的な操作ができることを前提とする．

【到達目標】
1. 学習指導要領 (中学英語) を理解する．
2. 英語の授業を通じて，生徒・学生が何をどの程度理解したか，また，何がどの程度理解できていないかを出来るだけ客観的に測定・評価する方法について学ぶ．

【授業計画】1. ガイダンス **2.** 学習指導要領 (中学英語) について (1) **3.** 学習指導要領 (中学英語) について (2) **4.** 英語テスト問題の妥当性 **5.** 英語テスト問題の信頼性 **6.** 基礎統計量 **7.** 評価法について **8.** 発展的指導 **9.** 評価について **10.** 英語力の評価と指導について

【成績評価】授業への参加度および定期試験による．

【再試験】なし
【教科書】「英語教師のための教育データ分析入門」(三浦省五監修，大修館書店)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219448
【連絡先】
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
【備考】隔年度開講 (平成 23 年度は開講せず)

英語科教育法 II

2 単位 2 年 (後期)
中島 浩二・准教授/社会創生学科

【授業目的】・学習指導要領 (中学英語) を理解する ・英語教育データの統計分析・処理と英語教科の評価法を学ぶ
【授業概要】学習指導要領 (中学英語) を理解する． 妥当性と信頼性の高い測定をするためのテストとはどういうものか考えていく．また，テスト結果を客観的に評価するためのデータ分析方法や統計手法についても演習形式で学ぶ．
【キーワード】**学習指導要領，基礎統計学，*Excel* 統計**
【履修上の注意】Excel の基礎的な操作ができることを前提とする
【到達目標】
1. 学習指導要領 (中学英語) を理解する．
2. 英語の授業を通じて，生徒・学生が何をどの程度理解したか，また，何がどの程度理解できていないかを出来るだけ客観的に測定・評価する方法について考える．そのために必要なテスト問題を作成するには何に留意する必要があるのか，客観的に評価するためにはどのような手法が必要なのか，分析結果を効果的な指導に結びつけるのにはどうしたらいいか考察する．
【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 学習指導要領 (中学英語) について (1) **3.** 学習指導要領 (中学英語) について (2) **4.** 英語テスト問題の妥当性について **5.** 英語テスト問題の信頼性について **6.** 英語テストの尺度としての性質について **7.** 英語テスト結果の基本的性質を読み取る **8.** 英語のテスト結果を比べる **9.** 男女・クラス間の差を分析する **10.** 3 つ以上のクラスのテスト結果を比較分析する **11.** 少人数クラスのテスト結果を分析する **12.** テスト得点間の関係の検討 **13.** テストの信頼性の検討 **14.** 統計手法の選択について **15.** 英語力の評価と指導について **16.** 総括
【成績評価】授業への参加度および定期試験による．
【再試験】なし
【教科書】「英語教師のための教育データ分析入門」(三浦省五監修，大修館書店)
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219449
【連絡先】
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
【備考】隔年度開講 (平成 23 年度は開講)

英語科教育法 III

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中島 浩二・准教授/社会創生学科
スティーヴンズ，メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】This course presents how language teaching methodology in the west has changed in recent years, and presents ways in which pronunciation, grammar and vocabulary can be taught communicatively.
【キーワード】***Communicative Language Teaching***
【履修上の注意】Punctuality and attendance will be strictly monitored.
【到達目標】To present a range of ways in which the four skills can be taught communicatively.
【授業計画】**1.** Course Guidance, A History of Language Teaching Methodology **2.** Japanese Government Guidelines for Teaching English **3.** Input and Output **4.** Teaching Speaking Communicatively **5.** Teaching Listening Communicatively **6.** Teaching Vocabulary Communicatively **7.** Teaching Grammar Communicatively **8.** Teaching Reading Communicatively **9.** Teaching Writing Communicatively **10.** Teaching Pronunciation Communicatively **11.** Total Physical Response **12.** Dictation **13.** Picture Dictation **14.** Extensive Reading **15.** Final Exam **16.** Feedback
【成績評価】1. Students conduct mock lessons 2. Design a course 3. Final exam.
【再試験】A retest is possible. However late assignments may attract a penalty.
【教科書】The teacher will provide materials.
【参考書】Language Teaching Methodology, David Nunan, Phoenix ELT
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218367
【連絡先】
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】隔年度開講 (平成 23 年度は開講せず)

英語科教育法 IV

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
中島 浩二・准教授/社会創生学科
スティーヴンズ，メリディス・アン・講師/人間文化学科

【授業目的】To familiarize students with communicative language teaching methodology
【授業概要】We will learn about how to teach the four skills of speaking, listening, reading and writing in a communicative manner.
【キーワード】***Communicative Language Teaching***
【履修上の注意】Punctuality and regular attendance are essential.
【到達目標】Students will identify teaching strategies for promoting the acquisition of English by Japanese students.
【授業計画】**1.** Course Guidance **2.** Japanese Government Guidelines for Teaching English **3.** Comprehensible Input **4.** Activities for Teaching Speaking **5.** Activities for Teaching Listening **6.** Activities for Teaching Vocabulary **7.** Activities for Teaching Grammar **8.** Activities for Teaching Reading **9.** Activities for Teaching Writing **10.** Activities for Teaching Pronunciation **11.** Learning English through Actions **12.** Dictogloss **13.** 'Fill in the blanks' Dictation **14.** Top-down and Bottom-up Processing **15.** Final Exam **16.** Feedback
【成績評価】Students conduct mock lessons. Design a Teaching Course. Final Exam.
【再試験】A retest is possible but homework submitted late will attract a penalty.
【教科書】The teacher will provide the material.
【参考書】Language Teaching Methodology, David Nunan, Phoenix ELT
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218368
【連絡先】
⇒ 中島 (総合科学部 1 号館 (1S11), nakasima@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜 16:10-17:10)
⇒ スティーヴンズ (3319, 098-656-7133, meredith@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】隔年度開講 (平成 23 年度開講)

美術科教育法 I

2 単位 2 年 (前期)
平木 美鶴・教授/社会創生学科

【授業目的】高等学校の学習指導要領美術・工芸を理解して学習指導案を作れる
【授業概要】この授業は，美術教員の免許取得のための科目である．学習指導要領の高等学校美術科教育について知識を深めるために，高等学校学習指導要領美術・工芸に沿った学習目標を立て，学習指導案を作り，それに従い模擬授業を行い，知識と実践を伴った学習を進めて行く．
【キーワード】**美術，教育**
【関連科目】『美術科教育法 II』(0.5, ⇒231 頁)
【履修上の注意】予習や宿題を確実にすること．
【到達目標】高等学校学習指導要領美術・工芸を理解し授業案を作る事ができる．
【授業計画】**1.** 指導案の書き方について **2.** 授業実習 1，指導案の添削「目的について」 **3.** 指導案の添削「題材設定について」 **4.** 指導案に沿って授業を行う．1 **5.** 指導案に沿って授業を行う． 2 **6.** 指導案に沿って授業を行う． 3 **7.** 授業実習 2，指導案の添削「目的について」 **8.** 指導案の添削「題材設定について」 **9.** 指導案の添削「授業の展開について」 **10.** 指導案の添削「授業の展開について」 **11.** 指導案に沿って授業を行う．1 **12.** 指導案に沿って授業を行う．2 **13.** 指導案に沿って授業を行う．3 **14.** 指導案に沿って授業を行う．4 **15.** 指導案に沿って授業を行う．5 **16.** まとめ
【成績評価】学習指導案作りの理解を評価として，出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う．
【再試験】行わない
【教科書】教科書は，新学習指導要領中学校美術，新学習指導要領高等学校芸術を使用する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218960
【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~ 13時)

美術科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)
平木 美鶴 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】中学 · 高等学校の学習指導要領美術 · 工芸を理解して学習指導案を作れる.

【授業概要】この授業は，美術教員の免許取得のための科目である．学習指導要領の中 · 高美術科教育について知識を深めるために，中学校学習指導要領美術に沿った学習目標を立て，学習指導案を作り，それに従い模擬授業を行い，知識と実践を伴った学習を進めて行く.

【キーワード】美術，芸術，教育

【先行科目】『美術科教育法 I』(1.0, ⇒230 頁)

【関連科目】『美術科教育法 I』(0.5, ⇒230 頁)

【履修上の注意】予習や宿題を確実にすること． .

【到達目標】
1. 中学校学習指導要領美術を理解する.
2. 学習指導案を作り授業をする事ができる.

【授業計画】**1.** 指導案の書き方について **2.** 授業実習 1，指導案の添削「目的について」 **3.** 指導案の添削「題材設定について」 **4.** 指導案に沿って授業を行う． **5.** 指導案に沿って授業を行う． **6.** 指導案に沿って授業を行う． **7.** 授業実習 2，指導案の添削「目的について」 **8.** 指導案の添削「題材設定について」 **9.** 指導案の添削「授業の展開について」 **10.** 指導案の添削「授業の展開について」 **11.** 指導案に沿って授業を行う． **12.** 指導案に沿って授業を行う． **13.** 指導案に沿って授業を行う． **14.** 指導案に沿って授業を行う． **15.** 指導案に沿って授業を行う． **16.** まとめ「授業の反省」

【成績評価】評価は，模擬授業の評価を基本として，出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う.

【再試験】行わない

【教科書】教科書は，新学習指導要領中学校美術，新学習指導要領高等学校芸術を使用する.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219441

【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12時~ 13時)

【備考】平成 24 年度開講

美術科教育法 III

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
平木 美鶴 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】中学校の学習指導要領美術を理解する.

【授業概要】この授業は，美術教員の免許取得のための科目である．学習指導要領の中学校美術科教育について知識を深めるために，高等学校の学習指導要領美術を受講者が宿題としてレポートにまとめ発表して質疑応答する事で学習指導要領を理解する.

【キーワード】美術，教育

【先行科目】『美術科教育法 I』(1.0, ⇒230 頁)，『美術科教育法 II』(1.0, ⇒231 頁)

【履修上の注意】予習や宿題を確実にすること.

【到達目標】中学校の学習指導要領美術を理解する.

【授業計画】**1.** 学習指導要領の中学校美術科教育について **2.** 目標及び内容 1 **3.** 目標及び内容 2 **4.** 美術科の内容 1 **5.** 美術科の内容 2 **6.** 各学年の表現の内容 1 **7.** 各学年の表現の内容 2 **8.** 各学年の表現の内容 3 **9.** 美術科の内容 鑑賞 1 **10.** 美術科の内容 鑑賞 2 **11.** 美術科の内容 鑑賞 3 **12.** 指導計画の作成と内容の扱い方 1 **13.** 指導計画の作成と内容の扱い方 2 **14.** 指導要領について 1 **15.** 指導要領について 2 **16.** まとめ

【成績評価】評価は，学習指導案と模擬授業の評価を基本として，出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う

【再試験】なし

【教科書】教科書は，新学習指導要領中学校美術，新学習指導要領高等学校芸術を使用する.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218961

【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

美術科教育法 IV

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
平木 美鶴 · 教授 / 社会創生学科

【授業目的】高等学校の学習指導要領美術 · 工芸を理解する..

【授業概要】この授業は，美術教員の免許取得のための科目である．学習指導要領の高等学校美術科教育について知識を深めるために，高等学校学習指導要領美術・工芸を受講者が宿題としてレポートにまとめ発表し質疑応答する事で学習指導要領を理解する.

【キーワード】美術，芸術，教育

【先行科目】『美術科教育法 I』(1.0, ⇒230 頁)，『美術科教育法 III』(1.0, ⇒231 頁)，『美術科教育法 II』(1.0, ⇒231 頁)

【履修上の注意】予習や宿題を確実にすること.

【到達目標】高等学校学習指導要領美術・工芸を理解し授業案を理解する.

【授業計画】**1.** 高等学校の学習指導要領美術・工芸について． **2.** 目標及び内容 1 **3.** 目標及び内容 2 **4.** 美術科の内容 1 **5.** 美術科の内容 2 **6.** 各学年の表現の内容 1 **7.** 各学年の表現の内容 2 **8.** 各学年の表現の内容 3 **9.** 美術科の内容 鑑賞 1 **10.** 美術科の内容 鑑賞 2 **11.** 美術科の内容 鑑賞 3 **12.** 指導計画の作成と内容の扱い方 1 **13.** 指導計画の作成と内容の扱い方 2 **14.** 指導要領について 1 **15.** 指導要領について 2 **16.** まとめ

【成績評価】評価は，学習指導要領のまとめ方や出席や授業への取組み姿勢等を併用して行う.

【再試験】なし

【教科書】新学習指導要領中学校美術，新学習指導要領高等学校芸術を使用する.

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218962

【連絡先】
⇒ 平木 (103, 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

保健体育科教育法 I

2 単位 2 年 (前期, 集中)
佐藤 充宏 · 教授 / 人間文化学科，中村 久子 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】中学校の保健体育科における教育方法を理解し実践できる能力を養う.

【授業概要】中学校の生徒の健康の保持増進と実践力を育成するために必要な体育の効果と重要性，ウェルネスなライフスタイルの創出，ストレスをはじめ現代的健康問題の解決等を視野に入れつつ，保健体育科教育の目標論，教材論，教材の精選 · 構造化，評価法についての理論を学習する.

【履修上の注意】隔年開講 (奇数年度開講)

【到達目標】中学校の保健体育科教育法の内容を理解し授業運営のしかたを学ぶ.

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 身体教育の変遷 I 明治時代 **3.** 身体教育の変遷 II 大正時代 **4.** 身体教育の変遷 III 昭和 (戦前) **5.** 身体教育の変遷 IV 昭和 (戦後) **6.** 保健体育科教育の目標 **7.** 保健体育科教育の内容 **8.** 各領域の特性 **9.** 教材について I **10.** 教材について II **11.** 指導法について **12.** 評価について **13.** 授業実践 I **14.** 授業実践 II **15.** まとめ **16.** 試験

【成績評価】出席状況，レポート，授業指導実践の内容などを総合的に評価

【再試験】なし

【教科書】中学校学習指導要領解説 (保健体育編)，体育科教育法講義・大修館書店

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219113

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】隔年開講

保健体育科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)
佐藤 充宏 · 教授 / 人間文化学科

【授業目的】高等学校の健康の保持増進と実践力を養成するために必要な体育の効果と重要性，ウェルネスなライフスタイルの創出，ストレスをはじめ現代健康問題の解決などを視野に入れつつ，保健体育科教育の目標論，教材の精選 · 構造化，指導法，評価法について理論を学習する.

【授業概要】高等学校の保健体育科における教育法の知識とスキルを身につける

【履修上の注意】隔年開講 (偶数年度開講)

【到達目標】高等学校の保健体育科教育法の内容を理解し授業運営のしかたを学ぶ.

【授業計画】**1.** 保健体育科とはからだの教育 **2.** 運動特性論 **3.** 単元計画と年間計画 **4.** 学習と指導，評価の考え方 **5.** 体育におけるスポーツの考え方 **6.** スポーツ教材研究 1 (運動・体操・ダンス・武道) **7.** スポーツ教材研究 2(陸上運動・水泳・器械運動) **8.** スポーツ教材研究 3(ボール系集団種目・ラケット種目) **9.** スポーツ教材研究 4(スポーツ行事) **10.** スポーツ学習論 1(技術・知識) **11.** スポーツ学習論 2(態度・自己効力感) **12.** 授業設計法 1(発育発達と健康安全管理) **13.** 授業設計法 2(シーズとニーズとプランニング) **14.** 授業設計法 3(評価と改善) **15.** 授業設計法 4(授業案提出) **16.** 総括

【成績評価】出席状況，レポート，授業への姿勢などを総合的に評価する.

【再試験】ない

【教科書】

◇ 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省
◇ 体育科教育法講義・大修館書店

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219114

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 授業後に行う)

【備考】平成 24 年度開講

保健体育科教育法 III

2 単位 (選択) 2 年 (後期, 集中)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科, 中村 久子・教授/人間文化学科

【授業目的】高等学校の保健体育科における教育方法を理解し実践できる能力を養う.

【授業概要】高等学校の生徒の健康の保持増進と実践力を育成するために必要な体育の効果と重要性, ウェルネスなライフスタイルの創出, ストレスをはじめ現代的健康問題の解決等を視野に入れつつ, 保健体育科教育の目標論, 教材論, 教材の精選・構造化, 評価法についての理論を学習する.

【履修上の注意】隔年開講 (奇数年度開講)

【到達目標】高等学校の保健体育科教育の内容を理解し授業運営のしかたを学ぶ.

【授業計画】**1.** ガイダンス **2.** 身体教育の変遷 I 明治時代 **3.** 身体教育の変遷 II 大正時代 **4.** 身体教育の変遷 III 昭和 (戦前) **5.** 身体教育の変遷 IV 昭和 (戦後) **6.** 保健体育科教育の目標 **7.** 保健体育科教育の内容 **8.** 各領域の特性 **9.** 教材について I **10.** 教材について II **11.** 指導法について **12.** 評価について **13.** 授業実践 I **14.** 授業実践 II **15.** まとめ **16.** 試験

【成績評価】出席状況, レポート, 授業指導実践の内容などを総合的に評価

【再試験】なし

【教科書】高等学校学習指導要領解説 (保健体育編), 体育科教育法講義・大修館書店

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219001

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

保健体育科教育法 IV

2 単位 (選択) 2 年 (後期, 集中)
佐藤 充宏・教授/人間文化学科

【授業目的】中学校の健康の保持増進と実践力を養成するために必要な体育の効果と重要性, ウェルネスなライフスタイルの創出, ストレスをはじめ現代健康問題の解決などを視野に入れつつ, 保健体育科教育の目標論, 教材の精選・構造化, 指導法, 評価法について理論を学習する.

【授業概要】中学校の保健体育科における教育法の知識とスキルを身につける

【履修上の注意】隔年開講 (偶数年度開講)

【到達目標】中学校の保健体育科教育法の内容を理解し授業運営のしかたを学ぶ

【授業計画】**1.** 保健体育科とはからだの教育 **2.** 運動特性論 **3.** 単元計画と年間計画 **4.** 学習と指導, 評価の考え方 **5.** 体育におけるスポーツの考え方 **6.** スポーツ教材研究 1(運動・体操・ダンス・武道) **7.** スポーツ教材研究法 2(陸上運動・水泳・器械運動) **8.** スポーツ教材研究法 3(ボール系集団種目・ラケット種目) **9.** スポーツ教材研究法 4(スポーツ行事) **10.** スポーツ学習論 1(技術・知識) **11.** スポーツ学習論 2(態度・自己効力感) **12.** 授業設計法 1(発育発達と健康安全管理) **13.** 授業設計法 2(シーズとニーズとプランニング) **14.** 授業設計法 3(評価と改善) **15.** 授業設計法 4(授業案提出) **16.** 総括

【成績評価】出席状況, レポート, 授業への姿勢などを総合的に評価する

【再試験】ない

【教科書】
◇ 中学校学習指導要領 保健体育編 文部科学省
◇ 体育科教育法講義・大修館書店

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219002

【連絡先】
⇒ 佐藤 (088-656-7207, satom@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

数学科教育法 I

2 単位 2 年 (前期)
服部 勝憲・非常勤講師/鳴門教育大学, 小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】中等数学教育の望ましい展開に必要な実践的指導力の育成を目指す. そのために算数・数学教育の歴史と目的, 内容と教材及び指導と評価等についての理解を深め, 基礎的資質能力の向上を図る.

【授業概要】中等数学教育の理論と実践についての研究, 報告, 提案, 討議を通して, その基礎的事項の理解を深めるとともに, 確かな数学教育の実践を求めることができる基礎的資質能力の向上を目指す.

【キーワード】**中等数学教育の理論と実践, 基礎的資質能力, 実践的指導力**

【履修上の注意】中等数学科の教員免許取得と授業実践につながる科目であり, 積極的な構えで授業に臨みたい.

【到達目標】上記目的のために, 算数・数学教育, 特に中等数学教育に重点を置いて, 我が国における算数・数学教育の歴史, 目的と目標, 内容と教材, 指導と評価, 諸外国の数学教育, 数学科のカリキュラム及び授業研究等についての学習と研究を進める.

【授業計画】**1.** 本授業のねらいと展開 **2.** 数学教育の歴史 (1) **3.** 数学教育の歴史 (2) **4.** 数学教育の目的と目標 **5.** 数と式に関する内容と教材 (1) **6.** 数と式に関する内容と教材 (2) **7.** 図形・幾何に関する内容と教材 (1) **8.** 図形・幾何に関する内容と教材 (2) **9.** 数量関係に関する内容と教材 (1) **10.** 数量関係に関する内容と教材 (2) **11.** 数学教育における指導方法 **12.** 数学教育におけるテクノロジー **13.** 数学教育における評価 **14.** 数学教育におけるカリキュラム **15.** 数学教育における実践と授業研究 **16.** テスト

【成績評価】出席状況, レポート, 授業における報告・提案及びテスト等によって評価し, それらを総合して成績評価とする.

【再試験】状況に応じて, その実施を検討する.

【教科書】
◇ 次の図書を使用する. 購入等については最初の授業時に説明する.
◇ 戦後 55 年の算数・数学教育
◇ 日本数学教育学会誌第 82 巻・第 7・8 号
◇ 日本数学教育学会発行

【参考書】
◇ 次の図書は各自, 購入すること.
◇ 小学校学習指導要領解説算数編, 文部科学省著作, 東洋館出版発行, 平成 20 年 8 月
◇ 中学校学習指導要領解説数学編, 文部科学省著作, 教育出版発行, 平成 20 年 9 月
◇ 高等学校学習指導要領解説数学編, 文部科学省著作, 実教出版発行, 平成 21 年 12 月

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219263

【連絡先】
⇒ 服部 (hattorik@naruto-u.ac.jp)
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室, 0886567218, ono@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】隔年開講

数学科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)
服部 勝憲・非常勤講師/鳴門教育大学, 小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】中等数学教育の歴史, 目的・目標, 教材・カリキュラム, 指導と評価等に関する基礎的な理論と内容について高等学校数学に重点を置いて概観する.

【授業概要】上記中等数学教育の理論と内容について報告, 提案, 討議を通して, その基礎的事項の理解を深めるとともに, 中等数学の確かな実践を求めることができる基礎的力量形成を図る.

【履修上の注意】中学校数学科及び高等学校数学科の教員免許取得のための必修科目である. 積極的な構えで授業に臨みたい. 教材は事前に周知するので, 各自予め研究しておくこと.

【到達目標】中等数学教育を実践するために必要な基礎的資質・能力の向上を図る. そのために, 高等学校数学に重点を置いて, 我が国における数学教育の歴史, 目的と課題, 内容と教材, 指導と評価, 諸外国の数学教育, 数学科のカリキュラムと授業研究, 実践的指導力等を取り上げ考察する.

【授業計画】**1.** 本授業のねらいと展開 **2.** 数学教育の目的と課題 **3.** 中等数学と高等学校数学の教材 **4.** 数学 I に関する目標と教材 **5.** 数学 II に関する目標と教材 **6.** 数学 III に関する目標と教材 **7.** 数学 A に関する目標と教材 **8.** 数学 B に関する目標と教材 **9.** 数学活用に関する目標と教材 **10.** 高等学校数学における指導と評価 (1) **11.** 高等学校数学における指導と評価 (2) **12.** 高等学校数学における指導と評価 (3) **13.** 諸外国の数学教育 **14.** 中等数学教育としての教材研究と実践 **15.** 数学教育研究と授業改善 **16.** テスト

【成績評価】出席状況, レポート, 授業における報告・提案及びテスト等によって評価し, それらを総合して成績評価とする.

【再試験】状況に応じて, その実施を検討する.

【教科書】
◇ 中学校学習指導要領解説数学編, 文部科学省著作, 教育出版発行, 平成 20 年 9 月
◇ 高等学校学習指導要領解説数学編, 文部科学省 HP, 平成 21 年 7 月
◇ 上記解説は事前に入手しておくこと.
◇ 現行中学校数学科教科書, 高等学校数学科書は適宜閲覧できるようにする.

【参考書】教科書以外の参考書，資料は適宜提示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219264
【連絡先】
⇒ 服部 (hattorik@naruto-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日12:00 ~ 12:30)
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室，0886567218，ono@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】平成 24 年度開講

数学科教育法 III

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
服部 勝憲・非常勤講師/鳴門教育大学，小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】中等数学教育における中学校数学の内容に重点を置いた教材とその指導方法について，典型的な教材を重点的に取りあげ検討することを通して実践的指導力の向上を目指す．
【授業概要】中学校数学の内容に重点をおいた教材研究と指導法の研究を，模擬授業の形態を用いて展開する．このとき受講生個人またはグループでの研究，報告，提案とともに討議を重視する．
【キーワード】**教材と指導，模擬授業，実践的指導力**
【履修上の注意】具体的な教材を取りあげ，模擬授業の形態による授業を展開する．積極的な構えで授業に臨みたい．
【到達目標】上記目的のために，小学校，中学校，高等学校の算数・数学の関連性，系統性に着目し，数と式，図形・幾何，数量関係，数学的な活動等について，具体的な場面を設定して，研究，報告，提案，討議を進める．
【授業計画】**1.** 授業の目的・目標と授業展開についての理解及び役割分担 **2.** 小学校算数と中学校数学の教材の関連性・系統性 **3.** 数と式に関する教材とその指導 (1) **4.** 数と式に関する教材とその指導 (2) **5.** 数と式に関する教材とその指導 (3) **6.** 図形・幾何に関する教材とその指導 (1) **7.** 図形・幾何に関する教材とその指導 (2) **8.** 図形・幾何に関する教材とその指導 (3) **9.** 数量関係に関する教材とその指導 (1) **10.** 数量関係に関する教材とその指導 (2) **11.** 数量関係に関する教材とその指導 (3) **12.** 数学科の指導と数学的活動 **13.** 中学校数学と高等学校数学の教材の関連性・系統性 (1) **14.** 中学校数学と高等学校数学の教材の関連性・系統性 (2) **15.** 数学教育と授業研究 **16.** テスト
【成績評価】出席状況，レポート，授業における報告・提案の状況及びテスト等によって評価し，それらを総合して成績評価とする．
【再試験】状況に応じて，その実施を検討する．
【教科書】
◇ 教科書は，常時閲覧できるようにする．
◇ 現行小学校算数
◇ 中学校数学
◇ 高等学校数学
【参考書】
◇ 次の図書は各自，購入すること．
◇ 小学校学習指導要領解説算数編，文部科学省著作，東洋館出版発行，平成 20 年 8 月
◇ 中学校学習指導要領解説数学編，文部科学省著作，教育出版発行，平成 20 年 9 月
◇ 高等学校学習指導要領解説数学編，文部科学省著作，実教出版発行，平成 21 年 12 月
◇ 上記以外の参考書，資料は適宜提示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218726
【連絡先】
⇒ 服部 (hattorik@naruto-u.ac.jp)
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室，0886567218，ono@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】隔年開講

数学科教育法 IV

2 単位 (選択) 2 年 (後期)
服部 勝憲・非常勤講師/鳴門教育大学，小野 公輔・准教授/総合理数学科

【授業目的】中等学校教育における教材と指導法 (数学 I，数学 II，数学 III，数学 A，数学 B，数学活用等の教材についての研究とその指導法と評価)
【授業概要】高等学校数学の内容に重点をおいた教材研究と指導法の研究を，模擬授業の形態を用いて展開する．このとき受講生個人またはグループでの研究，報告，提案とともに討議を重視する．
【到達目標】中等数学教育における高等学校数学の内容に重点を置いた教材とその指導法について，研究，報告，提案，討議を進め，具体的な教材に関する実践的指導力の向上を図る．
【授業計画】**1.** 授業目的と授業展開についての理解及び役割分担 **2.** 中学校数学と高等学校数学の教材の関連性・系統性 **3.** 数学 I に関する教材とその指導 (1) **4.** 数学 I に関する教材とその指導 (2) **5.** 数学 II に関する教材とその指導 (1) **6.** 数学 II に関する教材とその指導 (2) **7.** 数学 III に関する教材とその指導 (1) **8.** 数学 III に関する教材とその指導 (2) **9.** 数学 A に関する教材とその指導 (1) **10.** 数学 A に関する教材とその指導 (2) **11.** 数学 B に関する教材とその指導 (1) **12.** 数学 B に関する教材とその指導 (2) **13.** 数学活用に関する教材とその指導 (1) **14.** 数学活用に関する教材とその指導 (2) **15.** 指導計画の作成と数学教育研究 **16.** テスト
【成績評価】出席状況，レポート，授業における報告・提案及びテスト等によって評価し，それらを総合して成績評価とする．
【教科書】
◇ ・中学校学習指導要領解説数学編，文部科学省著作，教育出版発行，平成 20 年 9 月
◇ ・高等学校学習指導要領解説数学編，文部科学省 HP，平成 21 年 7 月
◇ 上記解説は事前に入手しておくこと．
◇ ・現行中学校数学科教科書，高等学校数学教科書は適宜閲覧できるようにする．
【参考書】教科書以外の参考書，資料は適宜提示する．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218727
【連絡先】
⇒ 服部 (hattorik@naruto-u.ac.jp)
⇒ 小野 (総合科学部 1 号館 2S05 室，0886567218，ono@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】平成 24 年度開講

情報科教育法 I

2 単位 3 年 (前期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】本講義は，教員免許「情報」を取得しようとする者への授業である．情報に関する専門知識や技能等だけなら，多くの情報技術者，研究者が学んでいる．しかし，「情報」を担当する教師は，情報に関する専門知識と同等に指導法を身につけなければならない．よって，本講義では情報教育における，目標，授業法などに関する理解を深め，授業での実践力を養う．
【授業概要】情報教育法について学ぶ
【キーワード】**情報，教育法**
【先行科目】『プログラミング演習』(1.0)
【履修上の注意】なし
【到達目標】情報教育における目標や授業法などに関する理解を深め，また，模擬授業を通し指導法を習得することを目標とする．
【授業計画】**1.** 1．情報教育の目標 **2.** 2．普通教科「情報」 **3.** (1) 趣旨 **4.** (2) 目的 **5.** (3) 科目 **6.** 3．普通教科「情報」の科目編成，および，各科目位置付け **7.** 4．情報 A の目標と内容 **8.** 5．情報 B の目標と内容 **9.** 6．情報 C の目標と内容 **10.** 7．専門教育「情報」 **11.** (1) 趣旨 **12.** (2) 目的 **13.** (3) 科目 **14.** 8．専門教育「情報」の科目編成，および，科目内容 **15.** 9．ハードウェアに関する教育法 **16.** 10．ソフトウェアに関する教育法 **17.** 11．データ通信に関する教育法 **18.** 12．コミュニケーション，プレゼンテーションに関する教育法 **19.** 13．教育課程の編成 **20.** 14．学習指導案作成 **21.** 15．まとめ
【成績評価】演習，レポート，成果発表で総合的に判断する
【再試験】行わない
【教科書】プリント
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219244
【連絡先】
⇒ 中山 (1204，088-656-7223，shin@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 14:00-15:00)

情報科教育法 II

2 単位 3 年 (後期)
中山 慎一・准教授/総合理数学科

【授業目的】情報教育とはコンピュータの操作などを教える事と思われる節があるが，それだけでは十分でなく情報に関する多面的な知識を持ち，かつ，それらについて効率的に教育する方法を身に付ける必要もある．本講義では，情報科教育法 I での講義を踏まえ，学習指導要領に基づいた教育法について考察する．また，学習指導案の作成と模擬授業を行い，教育実習にもつなげる．
【授業概要】情報教育法について学ぶ
【履修上の注意】なし
【到達目標】情報教育における目標や授業法などに関する理解を深め，また，模擬授業を通し指導法を習得することを目標とする．
【授業計画】**1.** 1．普通教科「情報」と専門教科「情報」との目標の違い **2.** 2．普通教科「情報」の指導計画の作成と実習の位置付け **3.** 3．専門教科「情報」の指導計画の作成と実習の位置付け **4.** 4．普通教科「情報」における課題選択の観点 **5.** 5．専門教科「情報」における課題選択の観点 **6.** 6．学習評価と授業改善 **7.** 7．問題解決技法 **8.** 8．情報化と社会 -情報社会- **9.** 9．情報化と社会 -著作権- **10.** 10．情報化と社会 -情報モラル指導の観点- **11.** 11．教材研究 -各種

ツールの活用方法- **12.** 12. 模擬授業 講義編 I **13.** 13. 模擬授業 講義編 II **14.** 14. 模擬授業 実習編 I **15.** 15. 模擬授業 実習編 II

【成績評価】演習，レポート，成果発表で総合的に判断する

【再試験】行わない

【教科書】プリント

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219245

【連絡先】

⇒ 中山 (1204, 088-656-7223, shin@ias.tokushima-u.ac.jp)

理科教育法 I

2 単位 2 年 (前期)

續木 章三・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科，渡部 稔・准教授/社会創生学科
今井 昭二・教授/社会創生学科，増田 俊哉・教授/社会創生学科
三好 德和・教授/総合理数学科

【授業目的】中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である．この理科教育法 I では，理科教育の現状と課題・理科教育の歴史等について学び，物理分野と化学分野の内容についての実践的な教育を行う．

【授業概要】中・高等学校「理科」の現状・課題・歴史および物理・化学分野の実践教育．

【関連科目】『理科教育法 II』(0.5, ⇒234 頁)，『理科教育法 III』(0.5, ⇒234 頁)，『理科教育法 IV』(0.5, ⇒234 頁)

【履修上の注意】出席も評価の対象となるので，授業には必ず出席すること．

【到達目標】学校教育における理科教育の課題を認識し，特に物理・化学分野についての学習指導について理解を深める．

【授業計画】1. 理科教育の現状と課題 **2.** 理科教育の目標 **3.** 理科教育の歴史 (1) **4.** 理科教育の歴史 (2) **5.** 科学技術と社会 **6.** 理科の学習指導 **7.** 理科の科目と内容 **8.** 物理教育の目的 **9.** 物理の授業における教材研究 **10.** 物理授業の指導計画と授業実践 **11.** 物理の授業と課題研究 **12.** 化学教育の目的と本質 **13.** 理科授業と安全・環境教育 **14.** 化学実験の立案と計画 **15.** 演示実験と学生実験の実践 **16.** 総括授業

【成績評価】授業への出席と，提出されたレポートによる．

【再試験】行わない．

【教科書】随時プリントを配布する．

【参考書】文科省「中学校学習指導要領解説 理科編 (平成 20 年 9 月)」，大日本図書 (110 円)，文部省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」(平成 11 年 12 月)，大日本図書 (290 円)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219350

【連絡先】

⇒ 續木 (創成学習開発センター，088-656-8236，tsuzuki@ip.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08，088-656-7232，saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)
⇒ 渡部 (088-656-7253，minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)
⇒ 増田 (2N01，088-656-7244，masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03，088-656-7250，miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】22 年度開講せず

理科教育法 II

2 単位 2 年 (前期)

續木 章三・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
齊藤 隆仁・准教授/総合理数学科，渡部 稔・准教授/社会創生学科
今井 昭二・教授/社会創生学科，増田 俊哉・教授/社会創生学科
三好 德和・教授/総合理数学科

【授業目的】中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である．この理科教育法 II では，理科教育の諸問題・理科教育課程の変遷等について学び，物理分野と化学分野の内容について実習を中心とした教育を行う．

【授業概要】中・高等学校「理科」の諸問題，理科教育課程の変遷および物理・化学分野の実習教育．

【関連科目】『理科教育法 I』(0.5, ⇒234 頁)，『理科教育法 III』(0.5, ⇒234 頁)，『理科教育法 IV』(0.5, ⇒234 頁)

【履修上の注意】出席も評価の対象となるので，授業には必ず出席すること．

【到達目標】学校教育における理科教育の課題を認識し，特に物理・化学分野についての学習指導 (実習) を身につける．

【授業計画】1. 理科教育における諸問題 **2.** 理科の目標と基本概念 **3.** 理科教育課程の変遷 (1) **4.** 理科教育課程の変遷 (2) **5.** 科学と技術 **6.** 理科の指導方法 **7.** 学習指導要領と理科 **8.** 物理教育と環境教育 **9.** 物理の生徒実験・演示実験における教材研究 **10.** 物理実験の指導計画と授業実践 **11.** 物理の授業と視聴覚教材 **12.** 化学教育の目的と本質 **13.** 理科授業と教材研究 **14.** 化学実験・観察ー計画と安全教育ー **15.** 化学実験の実践 (生徒実験と演示実験) **16.** 総括授業

【成績評価】授業への出席と，提出されたレポートによる．

【再試験】行わない．

【教科書】随時プリントを配布する．

【参考書】文科省「中学校学習指導要領解説 理科編 (平成 20 年 9 月)」，大日本図書 (110 円)，文部省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」(平成 11 年 12 月)，大日本図書 (290 円)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219351

【連絡先】

⇒ 續木 (創成学習開発センター，088-656-8236，tsuzuki@ip.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 齊藤 (総合科学部 3 号館 1N08，088-656-7232，saito@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 12:00~ 12:50)
⇒ 渡部 (088-656-7253，minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 今井 (総合科学部 3 号館 2N08，088-656-7273，imai@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前・後期 火 10:30-11:40，木曜日 13:30-14:20)
⇒ 増田 (2N01，088-656-7244，masuda@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 三好 (総合科学部 3 号館北棟 2 階 2N03，088-656-7250，miyoshi@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】平成 24 年度開講

理科教育法 III

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

續木 章三・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
渡部 稔・准教授/社会創生学科，石田 啓祐・教授/総合理数学科
村田 明広・教授/総合理数学科，西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である．この理科教育法 III では，理科の学習指導計画，教具・教材開発等について学び，生物・地学分野の内容についての実践的な教育を行う．

【授業概要】中・高等学校「理科」の学習指導計画，教具・教材開発，および生物・地学分野の実践教育．

【先行科目】『理科教育法 I』(0.5, ⇒234 頁)

【関連科目】『理科教育法 II』(0.5, ⇒234 頁)，『理科教育法 IV』(0.5, ⇒234 頁)

【履修上の注意】出席も評価の対象となるので，授業には必ず出席すること．

【到達目標】学校教育における理科教育の課題を認識し，特に生物・地学分野についての学習指導について理解を深める．

【授業計画】1. 「科学的な考え方」とは **2.** 理科の学習指導計画 (1) **3.** 理科の学習指導計画 (2) **4.** 理科の学習と評価 **5.** 教具・教材の開発 **6.** 理科における安全指導 **7.** STS 教育と理科 **8.** 生物教育の目的と本質 **9.** 生物授業と安全・環境教育 **10.** 生物実験の立案と計画 **11.** 演示実験と学生実験の実践 **12.** 地学教育における観察と実験法 (地層と化石) **13.** 地学教育における防災教育 (兵庫県南部地震と野島断層) **14.** 地学教育における防災教育 (徳島県の中央構造線活断層系と地震) **15.** 地学教育における防災教育 (気象現象と災害) **16.** 総括授業

【成績評価】授業への出席と，提出されたレポートによる．

【再試験】行わない．

【教科書】随時プリントを配布する．

【参考書】文科省「中学校学習指導要領解説 理科編 (平成 20 年 9 月)」，大日本図書 (110 円)，文部省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」(平成 11 年 12 月)，大日本図書 (290 円)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219028

【連絡先】

⇒ 續木 (創成学習開発センター，088-656-8236，tsuzuki@ip.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 渡部 (088-656-7253，minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)
⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04，088-656-7243，ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)
⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03，088-656-7242，murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)
⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05，088-656-7239，nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

【備考】22 年度は開講せず

理科教育法 IV

2 単位 (選択) 2 年 (後期)

續木 章三・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
渡部 稔・准教授/社会創生学科，石田 啓祐・教授/総合理数学科
村田 明広・教授/総合理数学科，西山 賢一・准教授/総合理数学科

【授業目的】中・高等学校「理科」の実践的指導法を学ぶのが理科教育法である．この理科教育法 III では，理科の学習指導案の作成，安全教育等について学び，生物・地学分野の内容について実習を中心とした教育を行う．

【授業概要】中・高等学校「理科」の学習指導案の作成，安全教育，および生物・地学分野の実習教育．

【先行科目】『理科教育法 II』(0.5, ⇒234 頁)

【関連科目】『理科教育法 I』(0.5, ⇒234 頁), 『理科教育法 III』(0.5, ⇒234 頁)

【履修上の注意】出席も評価の対象となるので，授業には必ず出席すること．

【到達目標】学校教育における理科教育の課題を認識し，特に生物・地学分野についての学習指導 (実習) を身につける．

【授業計画】**1.** 科学的方法と態度 **2.** 学習指導案の作成 (1) **3.** 学習指導案の作成 (2) **4.** 理科の評価と学習計画 **5.** ものづくりと理科 **6.** 事故の防止と安全教育 **7.** 環境教育と理科 **8.** 生物教育の目的と本質 **9.** 生物の授業における教材研究 **10.** 生物実験・観察 (安全性について) **11.** 生物実験の実践 (生徒実験と演示実験) **12.** 地学教育における物質科学教育 (粘土と土壌) **13.** 地学教育における教材研究 (地質鉱物関連文化財を対象として) **14.** 地学教育における防災教育 (南海地震の再来) **15.** 地学教育における防災教育 (火山噴火と災害) **16.** 総括授業

【成績評価】授業への出席と，提出されたレポートによる．

【再試験】行わない．

【教科書】随時プリントを配布する．

【参考書】文科省「中学校学習指導要領解説 理科編 (平成 20 年 9 月)」，大日本図書 (110 円)，文部省「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」(平成 11 年 12 月)，大日本図書 (290 円)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219029

【連絡先】

⇒ 續木 (創成学習開発センター，088-656-8236，tsuzuki@ip.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 渡部 (088-656-7253，minoru@ias.tokushima-u.ac.jp)

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04，088-656-7243，ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

⇒ 村田 (総合科学部 3 号館 2S03，088-656-7242，murata@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分)

⇒ 西山 (総科 3 号館 2S05，088-656-7239，nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時 ~ 13 時)

【備考】平成 24 年度開講

道徳教育

2 単位 3 年 (前期)

大宮 俊恵・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】道徳教育の目標と内容，道徳の授業理論などを理解した上で，学校における道徳の時間の指導法を身に付ける．

【授業概要】1．学習指導要領における道徳教育の目標・内容を理解する．2．道徳教育の全体計画・年間指導計画・学級における指導計画の意義を理解し，各学校の取り組みの特色を把握する． 3．授業実践例を検討しながら，道徳の指導法を理解し，指導方法を習得する．

【キーワード】**道徳教育の目標，道徳教育の指導計画，道徳の時間の目標，道徳の時間の指導法**

【履修上の注意】演習形式を取り入れた授業を行います．主体的に授業に参加してください．

【到達目標】1．道徳教育の目標を理解する．2．道徳教育の諸計画の意義を理解する．3．道徳の時間の指導法を身に付ける．

【授業計画】**1.** 道徳教育の目標 **2.** 道徳教育の内容 **3.** 道徳教育の歴史/戦後道徳教育の変遷 **4.** 道徳性の発達と子どもの実態 **5.** 学校における道徳教育 **6.** 道徳教育と道徳の時間 **7.** 道徳教育の諸計画 **8.** 道徳授業の実践例 (DVD 視聴) **9.** 道徳の時間の指導法/共感的手法/批判的手法など **10.** 道徳の時間の指導方法/役割演技/説話/道徳ノート・情報機器の活用など **11.** 資料分析 **12.** 学習指導案作成 **13.** 教材作成 **14.** 模擬授業 **15.** まとめ

【成績評価】各授業中の課題・授業参加態度，最終レポート，出席状況で評価する．

【再試験】なし

【教科書】「小学校・中学校学習指導要領解説道徳編」(文部科学省)

【参考書】「道徳教育，画餅からの脱却」(横山利弘著，暁教育図書)

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219472

【連絡先】

⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

特別活動研究

2 単位 3 年 (前期，集中)

木下 光二・非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】特別活動における生徒の活動と心を分析し，今日の教育改革の動向とあわせて，その意義を明らかにする．また，各内容ごとに理論と展開事例を考察し，小中学校及び高等学校における特別活動の基本的性格についての理解を図るとともに，現場における実践上の課題を検討する．

【授業概要】特別活動の研究

【キーワード】**集団作り，学級経営，生徒理解**

【履修上の注意】自分の中学校・高等学校時代を想起し，そのときの自分の思いを分析的にとらえ直し てみること．また，適宜，討議や指導案作成模擬授業などを取り入れる．

【到達目標】

1. 特別活動が児童生徒の成長に果たす役割を理解する．

2. 特別活動のいずれかの領域についての活動計画の概要を立案できる．

3. 模擬授業を通して，特別活動の基本的指導技術を獲得するための視点を体感し，理解する．

【授業計画】**1.** 心に残る学校生活と特別活動 **2.** 学校づくりと特別活動-総論 **3.** 学級づくりと特別活動-各論 **4.** 集団づくりのなかでの個の生かし方 **5.** 児童会・生徒会活動の理論と実践 **6.** クラブ活動の理論と実践 **7.** 学校行事の理論と実践 **8.** 教育改革の動向と特別活動の意義 **9.** 特別活動の目的及び内容 **10.** 特別活動の理論と実践 **11.** 実践事例にみられる特別活動の展開 (1)-小学校- **12.** 実践事例にみられる特別活動の展開 (2)-中学校- **13.** 実践事例にみられる特別活動の展開 (3)-高等学校- **14.** 年間指導計画と指導案作成の方法 **15.** まとめ

【成績評価】講義への出席状況，討議への参加，レポートの提出，試験などを総合的に判断して評価を行う．

【再試験】特別の理由のない限り実施しません．

【教科書】小学校・中学校高等学校学習指導要領解説書 (特別活動編)

【参考書】適宜，参考文献の紹介，関係資料の配付を行う．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219344

【連絡先】

⇒ 鳴門教育大学HPに掲載

教育方法学

2 単位 3 年 (前期，集中)

村川 雅弘・非常勤講師 / 鳴門教育大学

【授業目的】学習指導要領の今次改訂により，基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え，習得した知識・技能の活用 (思考・判断・表現等)，学習意欲の喚起が重要視され，各教科及び総合的な学習における授業改善が求められている．本授業では，授業構成要素である目標，内容，指導方法・学習方法，指導組織・形態，学習組織・形態，学習環境・メディア，学習評価等々について具体的な事例に基づいて理解を深めると共に，その工夫・改善のあり方について検討する．また，具体的な授業の分析や協議を通して，授業の計画・実施・評価のあり方についても体験的に理解する．「授業実践力」の育成を目指す．

【授業概要】具体的な授業記録や関連資料の分析及びそれに基づく協議を通して，授業構成要素及び授業の計画・実施・評価の方法について体験的に学ぶ．

【キーワード】**授業の設計・実施・評価，教育目標と学習評価，学習環境とメディア，授業の設計と分析，ワークショップ**

【履修上の注意】具体的な授業事例や関連資料についての各自の意見・感想及びそれに基づく協議を重視する．また，授業分析等ではワークショップ型の活動を多く取り入れる．受講生の活発な発言や協議を期待する．

【到達目標】

1. ①授業を構成している要素について具体的に理解する．

2. ②授業の設計・実施・評価の過程について理解する．

3. ③授業についての分析方法や協議の仕方について理解する．

【授業計画】**1.** 過去に経験した授業についての想起，授業を構成している要素の分類整理 **2.** 過去に経験した授業についての想起，授業を構成している要素の分類整理 **3.** 中央教育審議会答申及び新学習指導要領の分析と今次改訂により求められている授業改善の方向性 **4.** 中央教育審議会答申及び新学習指導要領の分析と今次改訂により求められている授業改善の方向性 **5.** 現代の子どもたちの実態や今後の世界の動向と教育目標の設定及び評価の工夫 **6.** 現代の子どもたちの実態や今後の世界の動向と教育目標の設定及び評価の工夫 **7.** 多様な指導組織・形態及び学習組織・形態と学習方法の工夫 **8.** 多様な指導組織・形態及び学習組織・形態と学習方法の工夫 **9.** 学習環境の整備とメディアの活用，家庭や地域との連携 **10.** 学習環境の整備とメディアの活用，家庭や地域との連携 **11.** 地域素材研究と教材開発のワークショップ **12.** 地域素材研究と教材開発のワークショップ **13.** 授業設計及び授業分析のワークショップ **14.** 授業設計及び授業分析のワークショップ **15.** 授業設計及び授業分析のワークショップ **16.** 本授業のまとめとテスト

【成績評価】授業への出席 (20%)，学習態度 (20%)，授業中の簡易レポートとテスト (60%) により総合的に評価する．

【教科書】

◇ テキスト:村川雅弘ほか編『学びを起こす授業改革』ぎょうせい

◇ 文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』

【参考書】

◇ 村川雅弘・酒井達哉編『総合的な学習 充実化戦略のすべて』日本文教出版，村川雅弘編『「確かな学力」としての学びのスキル』日本文教出版，村川雅弘編『「生きる力」を育むポートフォリオ評価』ぎょうせい

◇ その他，適宜資料を配布します．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219258
【連絡先】
⇒ 授業等の問い合わせは，授業の前後に直接またはメールで(murakawa@naruto-u.ac.jp).

生徒指導論

2 単位 3 年 (後期)
大宮 俊恵・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】現代社会において青少年を取り巻く環境は極めて深刻である．学校現場においても様々な様態の生徒が現実に存在する．それらの生徒や親への指導は困難を極め，教員の勤務時間の多くを費やすことにより，教員の心は疲弊し，教育に対する熱意も失われている一面がある．そのような現状や課題を踏まえ，具体的解決方策として学校の指導体制や先進的指導方法について学び，生徒指導の実践的指導力の基礎を培うことは，教員を目指す学生にとって意義深いことである．
【授業概要】(1) 生徒指導の基本的な理論や内容は講義を中心に行う． (2) 鳴門教育大学附属中学校の参観を取り入れ，学校現場について理解が進む ようにする． (3) 具体的な課題を取り入れ，生徒指導の知識に加え指導法が習得できるよう 個人やグループでの演習的な活動を組み込み，実践的に授業を進める．
【キーワード】**生徒の実態，生徒理解の方法，事例研究，ロールプレイ**
【履修上の注意】学校現場を観察する機会を設けています．教育実習と同じ態度で参加してください．
【到達目標】1．学校現場の実情を理解する．2．生徒指導の意義と役割を理解し，実践的な指導方法を知る．3．生徒指導の指導方法を身につける．
【授業計画】**1.** オリエンテーション **2.** 学校現場での生徒の実態 **3.** 学校現場での意義と役割 **4.** 生徒指導の計画と組織 **5.** 学校現場での観察 **6.** 生徒指導体制と生徒指導主事 **7.** 生徒指導と教科指導等 **8.** 生徒指導と法規 **9.** 生徒指導の方法 (集団指導の方法) **10.** 生徒指導の方法 (個別指導の方法) **11.** 生徒指導と特別支援教育 **12.** 事例研究・ロールプレイング (不登校) **13.** 事例研究・ロールプレイング (いじめ) **14.** 事例研究・ロールプレイング (親への対応) **15.** 全体のまとめ
【成績評価】授業中の課題・態度，最終レポート，出席率を加味して評価を行う．
【再試験】なし
【教科書】必要に応じて資料などを配付する．
【参考書】文部科学省「生徒指導堤要」， 松田文子・高橋超編著 「生きる力が育つ生徒指導と進路指導」
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219380
【連絡先】
⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育相談

2 単位 3 年 (後期)
福森 崇貴・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】学校現場では日々，様々な問題が起こっている．このような背景のもと，生徒たちの「その子らしさ」と一体どのように付き合っていけばよいのだろうか．そのような問いについて教育相談という立場から考えると共に，現場の実際や問題への対応について理解することを目的とする．
【授業概要】教育相談に関する基礎理論及び学校現場の実際について
【到達目標】教育相談の意義と必要性について考え，その上で，一人一人の生徒に効果的に関与できる力を身につけることを目標とする．
【授業計画】**1.** ガイダンス ―教育相談とは何か― **2.** カウンセリングの基本的理論 **3.** 傾聴の実際 その 1 **4.** 傾聴の実際 その 2 **5.** 話の促し その 1 **6.** 話の促し その 2 **7.** 沈黙への対応 **8.** カウンセリング場面の実際 **9.** 生徒理解に向けて **10.** 問題行動とその対応 その 1:不登校 **11.** 問題行動とその対応 その 2:いじめ **12.** 問題行動とその対応 その 3:その他の問題 **13.** 保護者との関わり **14.** まとめ **15.** 期末試験 **16.** 総括
【成績評価】期末試験，授業への取り組みなどを元に総合的に評価する．
【再試験】無
【教科書】特に指定せず，必要に応じて資料を配布する．
【参考書】なし．
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218539
【連絡先】
⇒ 福森 (fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp)
【備考】授業中は，受講者に対し頻繁に意見を求めていく予定である．是非主体的に授業に参加して欲しい．

総合演習

2 単位 3 年 (前期)
大宮 俊恵・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】この演習では教科を超えた課題について，自ら課題を見出し，主体的に問題解決や調査研究に取り組み，発表することによって「総合的な学習の時間」において教師に求められている創意あふれる教育活動を展開できる力を育成する．
【授業概要】(1) 興味・関心をもとに探究・調査活動を行い，その成果を発表し，問題点についてディスカッションをすることを通じて，常に広い視野に立って生徒の変化や社会の進展に柔軟に対応できるような力を修得できるように進める． (2) 演習を通じ，「総合的学習の時間」の指導者として必要の資質・能力を身につけるための機会とする．
【履修上の注意】小グループで演習形式の授業を行います．協力して創造的に課題解決に当たってください．
【到達目標】1．主体的に調査活動に取り組む．2．創意ある活動を展開する．3．ディスカッション力を身につける．
【授業計画】**1.** 総合演習ガイダンス (目的，概要，グループ分け) **2.** 学校における総合的学習の時間 **3.** 研究学習課題の検討 **4.** 研究方法に対する話し合い **5.** 課題解決のための資料収集 **6.** 発表資料の作成 **7.** 各班による発表とディスカッション **8.** 各班による発表とディスカッション **9.** 各班による発表とディスカッション **10.** 各班による発表とディスカッション **11.** 各班による発表とディスカッション **12.** 各班による発表とディスカッション **13.** 各班による発表とディスカッション **14.** 各班による発表とディスカッション **15.** 演習のまとめ
【成績評価】提出物，討議への参加態度，レポート，出席状況等で総合的に評価する．
【再試験】なし
【教科書】適宜参考図書資料を紹介する．
【参考書】中学校・高等学校学習指導要領
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219437
【連絡先】
⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

教育実習事前事後指導

1 単位 4 年 (通年)
大宮 俊恵・准教授 / 人間文化学科

【授業目的】(事前指導) 教育実習に当たって，実習生として必要な資質について理解し，教育実習や授業実践について自分なりの目標をもつことができる． (事後指導) 自分の教育実践について省察し，自らの優れた点と課題を把握し，今後の展望をもつことができる．
【授業概要】教育実習は，大学での教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する知見を，実際の教育現場で実証する意義ある機会である．授業実践のみならず生徒への影響の重大さを認識し，教育実習に対する基本的な心構えや技能を身に付け，実習後の反省と総括から，今後に向けての展望がもてるようにする．
【履修上の注意】教師になる心構えを明確にもって授業に参加してください．
【到達目標】
1. 1．実習生に必要な資質を理解する．
2. 2．自分なりの教育実習についての目標をもつ．
3. 3． 今後の展望をもつ．
【授業計画】**1.** (事前指導) 教育実習の心構え **2.** 教育実習の内容・方法 **3.** 望ましい授業の姿 (発問・板書・指導案) **4.** 学習指導案作成 **5.** (事後指導) 教育実習の成果と課題の省察 **6.** 授業実践について意見交換 **7.** 生徒指導・学級経営についての意見交換 **8.** まとめ
【成績評価】学習指導案，模擬授業，授業中のレポートなどで評価する．
【再試験】なし
【教科書】特になし
【参考書】学習指導要領，配布資料
【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219256
【連絡先】
⇒ 大宮 (omiya@ias.tokushima-u.ac.jp)

学芸員に関する科目 授業概要

● 学芸員に関する科目 (旧)

生涯学習概論 …鈴木/3 年 (前期, 集中)……237
博物館概論 …一山・東/2 年 (前期)……237
博物館資料論 …千田・東/2 年 (前期, 集中)……237
博物館特論 …未定・東/2 年 (後期, 集中)……237

生涯学習概論
Introduction to Lifelong Learning

1 単位 3 年 (前期, 集中)
鈴木 尚子・准教授/大学開放実践センター

【授業目的】生涯学習をめぐる国内外の概況について，歴史的展開や法整備の流れを踏まえた上で理解するとともに，実際の学習活動についても考察していく中で，幅広い視野から専門的かつ総合的に考えられる力を養う．

【授業概要】 本授業では，学芸員としての職務に必要と思われる事項を中心として，国内外における生涯学習の基本的な考え方やこれまでの発展のあり方について概説していきます．また，実際の博物館訪問を通して，生涯学習の一端をめぐる現状と課題についても考えていきます．専門的見地から正しい知識を身につけ，それを実際の場面で効果的に活かしていくために必要となる力を養うことを目指しています．

【キーワード】生涯学習 社会教育 学習支援 博物館

【関連科目】『博物館概論』(1.0, ⇒237 頁)，『博物館特論』(1.0, ⇒237 頁)

【履修上の注意】本授業は，学外での博物館見学を含みます．見学のための入場料は個人負担になります．見学する博物館は徳島市内のものになる予定ですが，日程によっては変更になる場合があります．2 日目は現地集合になる場合もありますので，授業中の連絡事項には注意してください．

【到達目標】
1. 生涯学習について，生成から今日に至るまでの概況を多角的にとらえる．
2. 博物館訪問を通して，生涯学習の一端を把握し，課題をまとめる．

【授業計画】1. 生涯学習とは何か **2.** 生涯学習の起源と発展 **3.** 我が国における生涯学習の特徴と課題—社会教育との関わりから— **4.** 学習活動の現状とその支援 **5.** 社会教育施設としての博物館見学 **6.** 社会教育施設としての博物館見学 **7.** 博物館訪問によりみえてきた現状と課題 (レポート作成含む) **8.** まとめと討論 (レポート発表含む)

【成績評価】毎回の授業への出席を含む受講姿勢，レポート課題への取り組み及びその発表等により，総合的に判断する．

【再試験】なし．

【教科書】特に指定しないが，必要に応じてプリントを配布する．

【参考書】授業の内容に応じて，適宜紹介する．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218705

【連絡先】
⇒ 鈴木尚子(大学開放実践センター)

【備考】◇ 集中講義として土・日に開講を予定しています． ◇ 授業全体を通して，積極的に発言してもらう機会が多くあります．

博物館概論

2 単位 2 年 (前期)
一山 典・非常勤講師，東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】 博物館の役割と学芸員の活動について概観する．博物館の学芸業務の収集保存，調査研究，展示公開，普及教育などについて学ぶ．博物館資料の取り扱いやそ方法について理解する．また博物館をめぐる諸問題について個々に取り上げ，その解決の方向性を探る．

【授業概要】博物館の活動とその課題

【履修上の注意】授業は主に講義形式でおこなうが，博物館を見学してのレポートを課す．

【到達目標】博物館とは何か，学芸員の役割について理解する．

【授業計画】1. 1. 博物館の成り立ちとその種類 **2.** 2. 博物館法と関連法案令 **3.** 3. 博物館における学芸業務 **4.** 4. 展示公開 **5.** 5. 収集保存 **6.** 6. 調査研究 **7.** 7. 教育普及 **8.** 8. 展示公開 **9.** 9. 資料の取り扱いとその方法 (展示更新) **10.** 10. 資料の取り扱いとその方法 (展示評価) **11.** 11. 地域博物館とその役割 **12.** 12. 博物館と学校教育 **13.** 13. 開かれた博物館 **14.** 14. 博物館学芸員の課題 **15.** 15. テスト

【成績評価】 出席および博物館を見学してのレポートと期末のテストで評価をおこなう．

【再試験】おこなわない．

【教科書】とくに使わない．

【参考書】徳島博物館研究会編『地域に生きる博物館』，歴史学と博物館のあり方を考える会編『現場から』等を参考としてほしい．

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219137

【連絡先】
⇒ 一山 . (オフィスアワー: 授業終了後におこなう．)
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

博物館資料論

2 単位 2 年 (前期, 集中)
千田 稔・非常勤講師，東 潮・教授/人間文化学科

【授業目的】博物館は，無思想的に展示するのではなく，展示する側のコンセプトを 示すには，どのような方法があるのか．

【授業概要】事例として，日本古代の自然観と展示について考える．

【キーワード】『古事記』，『日本書紀』，『万葉集』，『風土記』，『自然観』『宗教』

【履修上の注意】単に学芸員の資格を取るだけを目的とするのではなく，自らが博物館を通して，何を発信できるかということを問い続ける態度で講義に臨むこと．

【到達目標】 オリジナルでユニークな博物館づくりについて自らの考えをもつこと．

【授業計画】1. 日本古代の「自然」とは? **2.** 神話の中から自然観を探るー海ー **3.** 神話の中から自然観を探るー山ー **4.** 神話の中から自然観を探るー植物ー **5.** 神話の中の自然観を展示するには? **6.** 記紀の歴史叙述において語られる自然観 (1) **7.** 記紀の歴史叙述において語られる自然観 (2) **8.** 『万葉集』によまれた自然観 (1) **9.** 『万葉集』によまれた自然観 (2) **10.** 『播磨国風土記』にみる自然の叙述 **11.** 『出雲国風土記』にみる自然の叙述 **12.** 『常陸国風土記』にみる自然の叙述 **13.** 『豊後国風土記』にみる自然の叙述 **14.** 『肥前国風土記』にみる自然の叙述 **15.** 日本古代における自然観の成立 **16.** 自然観を展示する方法

【成績評価】レポート

【再試験】なし

【教科書】なし

【参考書】講義中に資料を配布

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219139

【連絡先】
⇒ 千田 .
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

博物館特論

2 単位 2 年 (後期, 集中)
未定，東 潮・教授/人間文化学科

【授業コンテンツ】http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219138

【連絡先】
⇒ 未定
⇒ 東 (088-656-7155, azuma@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】23 年度に博物館特論は開講しない．博物館資料論は開講．

学部 共通科目

● 学部共通科目

基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) 総論 …伊藤/1 年 (前期) 1
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …荒武/1 年 (前期) 2
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …佐久間/1 年 (前期). . . . 2
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …田中/1 年 (前期) 2
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …堤/1 年 (前期) 2
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …宮澤/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …山内/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …濱田/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …的場/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …趙/1 年 (前期) 3
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …石井/1 年 (前期) 4
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …田中/1 年 (前期) 4
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …仙波/1 年 (前期) 4
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …吉田/1 年 (前期) 4
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …小山/1 年 (前期) 5
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …蓮沼/1 年 (前期) 5
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …今井・山本/1 年 (前期)5
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …石田/1 年 (前期) 6
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …村田/1 年 (前期) 6
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …折戸/1 年 (前期) 6
基礎ゼミナール (基礎ゼミナール I) …三好/1 年 (前期) 6
キャリアプラン入門 I …葭森・中嶋・石川・大渕・中川・田中・平井/1 年 (前期). 7
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) 総論 …伊藤・平井/1 年 (後期) 7
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …有馬・平井/1 年 (後期). 7
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …片岡・平井/1 年 (後期). 8
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …桂・平井/1 年 (後期) 8
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …吉田・平井/1 年 (後期). 8
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …佐竹・平井/1 年 (後期). 9
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …佐藤・平井/1 年 (後期). 9
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …眞弓・平井/1 年 (後期). 9
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …上原・平井/1 年 (後期). 10
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …河原崎・平井/1 年 (後期) 10
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …樋口・平井/1 年 (後期). 10
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …佐藤・平井/1 年 (後期). 10
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …松尾・平井/1 年 (後期). 11
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …守安・平井/1 年 (後期). 11
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …伊藤・平井/1 年 (後期). 11
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …中山・平井/1 年 (後期). 12
キャリアプラン入門 II(基礎ゼミナール II) …増田・中村・平井/1 年 (後期) 12
大学と社会 …葭森・中嶋・石川・大渕・中川・田中・平井/1 年 (前期) 12
科学と人間 …小山・三好・桑原・山口・今井・内海・渡部/1 年 (前期) 13
健康と福祉 …中村・小原・荒木・境・福森・原/1 年 (後期) . . . 13
情報処理の基礎 I …豊田・矢部・真岸・小野・佐藤・村上・西山・佐藤・行實・掛井・石田/1 年 (後期) 14
情報処理の基礎 II …石田・掛井・齊藤・中島/1 年 (後期). . . . 14
国際交流・協力体験 …饗場/2 年 (前期) 14
インターンシップ I …石田/3 年 (前期). 15
インターンシップ II …石田/3 年 (前期, 集中) 15
基礎英語講読 I …三浦/2 年 (前期) 15
基礎英語講読 I …水島/2 年 (前期) 15
基礎英語講読 I …栗栖/2 年 (前期) 15
基礎英語講読 I …石田/2 年 (前期) 16
基礎英語講読 I …衣川/2 年 (前期) 16
基礎英語講読 I …樋口/2 年 (前期) 16
基礎英語講読 II …大沼・日置・真壁/2 年 (後期). 16
実用外国語基礎演習 (英語) 総論 …森岡・吉田・山田/2 年 (前期) 17
実用外国語基礎演習 I(英語) …森岡/2 年 (前期). 17
実用外国語基礎演習 I(英語) …吉田/2 年 (前期). 17
実用外国語基礎演習 I(英語) …山田/2 年 (前期). 18
実用外国語基礎演習 I(ドイツ語) …井戸/2 年 (前期) 18
実用外国語基礎演習 I(フランス語) …長井/2 年 (前期) 18
実用外国語基礎演習 I(中国語) …葭森/2 年 (前期) 18
実用外国語基礎演習 II(英語) …スティーヴンズ・ポンド・早内-プリングル/2 年 (後期). 19
実用外国語基礎演習 II(ドイツ語) …依岡/2 年 (後期) 19
実用外国語基礎演習 II(フランス語) …田島/2 年 (後期) 19
実用外国語基礎演習 II(中国語) …邵/2 年 (後期) 19

人間文化学科 共通科目

● 学科共通科目

日本語表現の基礎 …仙波/1 年 (前期) 21
文化研究の基礎 …田島・石川/1 年 (後期). 21
哲学・思想の基礎 …石田・吉田・山口/1 年 (前期). 21
近現代世界の成立と展開 …長井・今井・桑原・荒武/1 年 (後期)22
心理学の基礎 I …山本/1 年 (前期) 22
心理学の基礎 II …内海/1 年 (後期) 22
ヘルスプロモーションの基礎 …小原・佐藤・野村/1 年 (前期)22
健康体力科学の基礎 …三浦・荒木・的場・佐竹/1 年 (後期). . 23

人間文化学科 国際文化コース

● コア科目

比較文化研究 …依岡・ヘルベルト/2 年 (後期) 25
比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) . 26
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 26
比較社会論 …上野/2 年 (後期) 26
世界経済論 I …水島/3 年 (前期) 26
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期) 27
実用外国語演習 (英語) 総論 …山内/3 年 (前期, 後期) 27
実用外国語演習 (英語) …福田/3 年 (前期) 27
実用外国語演習 (英語) …座喜/3 年 (前期) 28
実用外国語演習 (英語) …福田/3 年 (後期) 28
実用外国語演習 (英語) …座喜/3 年 (後期) 28
実用外国語演習 (英語) …宮崎/3 年 (前期) 28
実用外国語演習 (英語) …吉田/3 年 (前期) 28
実用外国語演習 (英語) …桂/3 年 (後期) 29
実用外国語演習 (英語) …山内/3 年 (後期) 29
実用外国語演習 (英語) …ポンド・佐久間/3 年 (前期) 29
実用外国語演習 (英語) …ポンド・佐久間/3 年 (後期) 29
実用外国語演習 (英語) …スティーヴンズ/3 年 (前期) 30
実用外国語演習 (英語) …スティーヴンズ/3 年 (後期) 30
実用外国語演習 (英語) …スタージ/3 年 (前期) 30
実用外国語演習 (英語) …スタージ/3 年 (後期) 30
実用外国語演習 (中国語) …李/3 年 (前期) 30
実用外国語演習 (中国語) …李/3 年 (後期) 30
実用外国語演習 (中国語) …李/3 年 (前期) 30
実用外国語演習 (中国語) …李/3 年 (後期) 30
異文化間コミュニケーション …坂田/2 年 (前期, 集中) 30

- コース選択科目

日本言語概説 I …岸江/2 年 (前期) 31
日本言語概説 II …仙波/2 年 (後期) 31
日本言語研究 I …岸江/3 年 (前期) 31
日本言語研究 II …仙波/3 年 (後期) 31
日本文学研究 I …鳥羽/2 年 (前期) 32
日本文学研究 II …堤/2 年 (後期) 32
日本文学研究 II …原水/2 年 (後期) 32
日本文学講読 I …堤/2 年 (前期) 32
日本文学講読 II …原水/2 年 (前期) 33
日本文学講読 III …鳥羽/2 年 (後期) 33
日本言語演習 …仙波/3 年 (前期), 4 年 (前期) 33
日本言語演習 …仙波/3 年 (後期), 4 年 (後期) 33
日本言語演習 …岸江/3 年 (前期), 4 年 (前期) 34
日本言語演習 …岸江/3 年 (後期), 4 年 (後期) 34
日本文学演習 …堤/3 年 (前期), 4 年 (前期) 34
日本文学演習 …堤/3 年 (後期), 4 年 (後期) 35
日本文学演習 …野口/3 年 (前期), 4 年 (前期) 35
日本文学演習 …野口/3 年 (後期), 4 年 (後期) 35
日本史基礎研究 I …衣川/2 年 (前期) 35
日本史基礎研究 II …桑原/2 年 (後期) 36
日本史研究 I …衣川/2 年 (前期) 36
日本史研究 II …桑原/2 年 (後期) 36
日本史演習 …桑原/3 年 (前期), 4 年 (前期) 36
日本史演習 …桑原/3 年 (後期), 4 年 (後期) 37
日本史演習 …衣川/3 年 (前期), 4 年 (前期) 37
日本史演習 …衣川/3 年 (後期), 4 年 (後期) 37
東アジア文化論 …有馬・田中・邵/2 年 (前期) 37
東アジア文化論講読 I …有馬/2 年 (前期) 37
東アジア文化論講読 II …田中/2 年 (後期) 38
考古学基礎研究 I …東/2 年 (前期) 38
考古学基礎研究 II …中村/2 年 (後期) 38
考古学研究 …東/2 年 (前期) 38
考古学演習 …東/3 年 (前期), 4 年 (前期) 39
考古学演習 …東/3 年 (後期), 4 年 (後期) 39
アジア史基礎研究 I …葭森/2 年 (後期) 39
アジア史基礎研究 II …荒武/2 年 (後期) 39
アジア史研究 I …葭森/2 年 (後期) 39
アジア史研究 II …荒武/2 年 (後期) 40
東アジア文化演習 …有馬/3 年 (前期), 4 年 (前期) 40
東アジア文化演習 …有馬/3 年 (後期), 4 年 (後期) 40
東アジア文化演習 …邵/3 年 (前期), 4 年 (前期) 40
東アジア文化演習 …邵/3 年 (後期), 4 年 (後期) 40
東アジア文化演習 …葭森/3 年 (前期), 4 年 (前期) 41
東アジア文化演習 …葭森/3 年 (後期), 4 年 (後期) 41
東アジア文化演習 …荒武/3 年 (前期), 4 年 (前期) 41
東アジア文化演習 …荒武/3 年 (後期), 4 年 (後期) 41
東アジア文化演習 …田中/3 年 (前期), 4 年 (前期) 42
東アジア文化演習 …田中/3 年 (後期), 4 年 (後期) 42
英米言語研究 I …井上・山田/2 年 (前期, 集中) 42
英米言語研究 II …元木・山田/3 年 (前期) 42
英米言語研究 III …山田/2 年 (前期) 42
英米言語研究 IV …森岡/2 年 (後期) 43
現代英語研究 I …森岡/2 年 (前期) 43
現代英語研究 II …スタージ/3 年 (後期) 43
現代英語研究 III …スティーヴンズ/2 年 (前期) 43
現代英語研究 IV …スタージ/2 年 (後期) 43
現代英語研究 IV …スタージ/3 年 (後期) 44
英米言語演習 …山田/3 年 (前期), 4 年 (前期) 44
英米言語演習 …山田/3 年 (後期), 4 年 (後期) 44
英米言語演習 …森岡/3 年 (前期), 4 年 (前期) 44
英米言語演習 …森岡/3 年 (後期), 4 年 (後期) 44
英米言語演習 …スティーヴンズ/3 年 (前期), 4 年 (前期) 44
英米言語演習 …スティーヴンズ/3 年 (後期), 4 年 (後期) 45
英米言語演習 …福田/3 年 (前期), 4 年 (前期) 45
英米言語演習 …福田/3 年 (後期), 4 年 (後期) 45
英米文化研究 I …吉田/2 年 (前期) 46
英米文化研究 II …山内/2 年 (後期) 46
英米文学研究 …山内/2 年 (前期) 46
英米文学講読 I …宮崎/2 年 (後期) 47
英米文学講読 II …樋口/3 年 (後期) 47
英米文学演習 …山内/3 年 (前期), 4 年 (前期) 47
英米文学演習 …山内/3 年 (後期), 4 年 (後期) 47
英米文学演習 …樋口/3 年 (前期), 4 年 (前期) 47
英米文学演習 …樋口/3 年 (後期), 4 年 (後期) 48
英米文学演習 …スタージ/3 年 (前期), 4 年 (前期) 48
英米文学演習 …スタージ/3 年 (後期), 4 年 (後期) 48
英米文学演習 …宮崎/3 年 (前期), 4 年 (前期) 48
英米文学演習 …宮崎/3 年 (後期), 4 年 (後期) 48
英米文学演習 …吉田/3 年 (前期), 4 年 (前期) 48
英米文学演習 …吉田/3 年 (後期), 4 年 (後期) 49

ヨーロッパ文学研究 ...石川・井戸/2 年 (前期) 49
ヨーロッパ文学演習 ...石川/3 年 (前期), 4 年 (前期) 49
ヨーロッパ文学演習 ...石川/3 年 (後期), 4 年 (後期) 49
ヨーロッパ文学演習 ...井戸/3 年 (前期), 4 年 (前期) 50
ヨーロッパ文学演習 ...井戸/3 年 (後期), 4 年 (後期) 50
ヨーロッパ文化研究 ...桂/2 年 (前期) 50
ヨーロッパ文化研究 ...田島/2 年 (前期) 51
ヨーロッパ文化演習 ...田島/3 年 (前期), 4 年 (前期) 51
ヨーロッパ文化演習 ...田島/3 年 (後期), 4 年 (後期) 51
ヨーロッパ文化演習 ...桂/3 年 (前期), 4 年 (前期) 51
ヨーロッパ文化演習 ...桂/3 年 (後期), 4 年 (後期) 51
比較文化演習 ...依岡/3 年 (前期), 4 年 (前期) 51
比較文化演習 ...依岡/3 年 (後期), 4 年 (後期) 52
比較文化演習 ...ヘルベルト/3 年 (前期), 4 年 (前期) 52
比較文化演習 ...ヘルベルト/3 年 (後期), 4 年 (後期) 52
比較文化演習 ...座喜/3 年 (前期), 4 年 (前期) 52
比較文化演習 ...座喜/3 年 (後期), 4 年 (後期) 52
ヨーロッパ思想研究 ...吉田・山口・石田/2 年 (後期) 52
ヨーロッパ思想演習 ...吉田/3 年 (前期), 4 年 (前期) 53
ヨーロッパ思想演習 ...石田/3 年 (前期), 4 年 (前期) 53
ヨーロッパ思想演習 ...山口/3 年 (前期), 4 年 (前期) 53
ヨーロッパ思想演習 ...吉田/3 年 (後期), 4 年 (後期) 53
ヨーロッパ思想演習 ...石田/3 年 (後期), 4 年 (後期) 53
ヨーロッパ思想演習 ...山口/3 年 (後期), 4 年 (後期) 54
ヨーロッパ史研究 I ...佐久間/2 年 (前期) 54
ヨーロッパ史研究 II ...長井/2 年 (前期) 54
ヨーロッパ史研究 III ...今井/2 年 (後期) 54
アメリカ史研究 ...吉岡・今井/2 年 (前期) 55
欧米歴史・社会演習 ...佐久間/3 年 (前期), 4 年 (前期) 55
欧米歴史・社会演習 ...佐久間/3 年 (後期), 4 年 (後期) 55
欧米歴史・社会演習 ...長井/3 年 (前期), 4 年 (前期) 55
欧米歴史・社会演習 ...長井/3 年 (後期), 4 年 (後期) 56
欧米歴史・社会演習 ...今井/3 年 (前期), 4 年 (前期) 56
欧米歴史・社会演習 ...今井/3 年 (後期), 4 年 (後期) 56
欧米歴史・社会演習 ...吉岡/3 年 (前期), 4 年 (前期) 57
欧米歴史・社会演習 ...吉岡/3 年 (後期), 4 年 (後期) 57
日本語教育方法論 I ...三隅/2 年 (前期) 57
日本語教育方法論 II ...橋本/2 年 (後期) 57
日本語教授法 I ...大石/2 年 (前期) 57
日本語教授法 II ...橋本/2 年 (後期) 57
日本語教材研究 ...大石/2 年 (後期) 58
書道 ...蓑毛・堤/2 年 (後期, 集中) 58
芸術文化論 ...片岡/2 年 (前期) 58
音楽学 ...片岡/2 年 (後期) 58
デスクトップミュージック ...宮澤/2 年 (後期) 59
現代音楽芸術論 ...宮澤/2 年 (前期) 59
日本経済論 ...中嶋/3 年 (前期) 59
地域経済論 ...中嶋/3 年 (前期) 59
地域文化論 I ...髙橋/2 年 (前期) 60
地域文化論 II ...髙橋/3 年 (後期) 60
社会変動論 ...樋口/2 年 (前期) 60
社会心理学 ...佐藤/2 年 (後期) 61

● 総合科学テーマ科目

日本経済と社会 ...中嶋/3 年 (前期) 61
運動文化論 ...中村/2 年 (前期) 61
健康行動論 ...荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 61
地域健康福祉論 ...田中/3 年 (前期) 62
グローバル社会論 ...樋口/3 年 (前期) 62
地域創生論 ...中嶋/3 年 (後期) 62
地域政策論 I ...北村/2 年 (後期) 62
共生社会論 ...樫田/3 年 (後期) 63
メディア情報論 ...河原崎/3 年 (後期) 63
情報社会と情報倫理 ...吉田/3 年 (前期) 63
情報と職業 ...吉田/2 年 (後期) 64
情報の数理 ...中山/3 年 (前期) 64
現象の数理 ...小野/3 年 (後期) 64
数学と社会 ...片山・大渕/3 年 (後期) 64
資源エネルギー論 ...伏見/3 年 (後期) 64
環境マネジメント ...浜野/3 年 (後期) 65
環境倫理学 ...石田・山口/2 年 (後期) 65
環境政策論 I ...栗栖/2 年 (前期) 65
自然保護論 ...佐藤/2 年 (前期) 65
生態学 I ...浜野/2 年 (前期) 66
総合科学実践プロジェクト ...宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 66
総合科学特別講義 ...中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) 66

人間文化学科 心理・健康コース

● コア科目

行動統計学 ...川野/2 年 (後期, 集中) 68
人間行動研究法 ...川野/2 年 (前期) 68
運動生理学 ...三浦・的場・荒木・小原・佐竹/2 年 (前期) 68
知覚心理学 ...濱田/2 年 (後期) 68
社会心理学 ...佐藤/2 年 (後期) 69
コミュニティ心理学 ...境/2 年 (後期) 69
健康教育学 ...野村・佐竹/2 年 (後期) 69
スポーツ社会学 ...佐藤/2 年 (前期) 69
スポーツマネジメント論 ...行實/2 年 (前期) 70

● コース選択科目

生理心理学 ...佐野・原/2 年 (前期) 70
精神医学 ...大森・住谷・伊賀・中瀧・沼田・中土井・富永・亀岡・山本/2 年 (前期) 70
心理学実験実習 I ...濱田・佐藤・境/2 年 (前期) 70
心理学実験実習 II ...山本・原・内海・福森/2 年 (後期) 71
応用解剖生理学 ...小原・佐竹・的場・荒木・三浦/2 年 (前期) 71
衛生・公衆衛生学 ...前田・井崎/2 年 (後期) 71
コーチング論 ...佐竹・中村/2 年 (前期) 71
コーチング論実習 I ...佐竹/2 年 (前期) 72
コーチング論実習 II ...中村/2 年 (後期) 72
コーチング論実習 III ...小原/2 年 (後期) 72
コーチング論実習 IV ...三浦/2 年 (後期) 72
コーチング論実習 V ...荒木/2 年 (後期) 73
コーチング論実習 VI ...行實/2 年 (前期, 集中) 73
コーチング論実習 VII ...佐藤/2 年 (前期) 73

コーチング論実習 VIII …的場/2 年 (前期) 73
運動文化論 …中村/2 年 (前期) 73
スポーツ心理学 …賀川・行實/2 年 (前期, 集中) 74
スポーツ栄養学 …的場・三浦/2 年 (後期) 74
経営学 I …高橋・石田/2 年 (前期, 集中) 74
情報と職業 …吉田/2 年 (後期) 74
福祉情報論 …樫田/2 年 (後期) 75
地域社会論 …矢部/2 年 (前期) 75
市民活動論 …萩原・樫田/2 年 (前期, 集中) 75
比較社会論 …上野/2 年 (後期) 75
異文化間コミュニケーション …坂田/2 年 (前期, 集中) 75
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …濱田/3 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …山本/3 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …佐藤/3 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …境/3 年 (前期) 76
心理・健康ゼミナール I …原/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …山下/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …福森/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …内海/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …荒木/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …小原/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …佐藤/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …中村/3 年 (前期) 77
心理・健康ゼミナール I …的場/3 年 (前期) 78
心理・健康ゼミナール I …佐竹/3 年 (前期) 78
心理・健康ゼミナール I …三浦/3 年 (前期) 78
心理・健康ゼミナール I …行實/3 年 (前期) 78
心理・健康ゼミナール II …濱田/3 年 (後期) 78
心理・健康ゼミナール II …山本/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …佐藤/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …境/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …原/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …山下/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …福森/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …内海/3 年 (後期) 79
心理・健康ゼミナール II …荒木/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …小原/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …佐藤/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …中村/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …的場/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …佐竹/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …三浦/3 年 (後期) 80
心理・健康ゼミナール II …行實/3 年 (後期) 81
人格心理学 …原/3 年 (後期) 81
認知心理学 …濱田/3 年 (前期) 81
教育相談 …福森/3 年 (後期) 81
健康心理学 …佐藤・内海/3 年 (前期) 81
学習心理学 …境/3 年 (前期) 81
人間形成論 …木内/3 年 (後期) 82
スポーツ障害論 …小原/3 年 (前期) 82
レジャーマーケティング論 …行實/3 年 (後期) 82
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期) 82
救急処置法 …野村・佐竹/3 年 (後期) 83
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 83
経営学 II …高橋・石田/3 年 (後期, 集中) 83
地域構造論 …豊田/3 年 (後期) 83
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期) 84
心理学実験実習 III …原・山本・内海・福森/3 年 (前期) 84
心理学実験実習 IV …佐藤・濱田・境/3 年 (後期) 84
スポーツ科学実験実習 …佐竹・荒木・小原・的場・三浦・野村/3 年 (前期) 84
ウェルネス・プロジェクト実習 …佐藤・行實/3 年 (前期) . . 84

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) . 85
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期) 85
世界経済論 I …水島/3 年 (前期) 85
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期) 85
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期) 86
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期) 86
地域政策論 I …北村/2 年 (後期) 86
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期) 87
共生社会論 …樫田/3 年 (後期) 87
メディア情報論 …河原崎/3 年 (後期) 87
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期) 88
情報の数理 …中山/3 年 (前期) 88
現象の数理 …小野/3 年 (後期) 88
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期) 88
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期) 89
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 89
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 89
環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 89
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 90
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 90
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 90
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) 90

社会創生学科 共通科目

● 学科共通科目

社会創生学の基礎 …中嶋・北村・上原・平木・佐藤/1 年 (後期)92
経済学の基礎 I …内藤/1 年 (前期) 92
社会学の基礎 I …矢部/1 年 (後期) 92
社会学の基礎 II …樋口/1 年 (後期) 92
生命科学の基礎 …横井川・佐藤/1 年 (前期) 93
法律学の基礎 I …林・上原/1 年 (前期) 93
地理学の基礎 I …豊田/1 年 (後期) 93
文系数学の基礎 …日置・石田・掛井・趙・豊田・吉川/1 年 (前期) 93
アート創生プロジェクト …石井・平木・河原崎/1 年 (後期) . 94
化学の基礎 …今井/1 年 (後期) 94
生命科学基礎実験 …中川・小山・大橋・佐藤・真壁・松尾・佐藤・山城・渡部・金丸・横井川・浜野/1 年 (前期) 94

社会創生学科 公共政策コース

- コア科目

環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 97
憲法 …林・上原/2 年 (後期) 97
行政法 I …上原/2 年 (前期) 97
マクロ経済学 I …趙/2 年 (前期) 97
財政学 I …石田/2 年 (前期) 97
地域経済論 …中嶋/2 年 (前期) 98
公共政策論 …永井・石田/2 年 (後期) 98
経済学の基礎 II …立花/2 年 (前期) 98
法律学の基礎 II …直井・上原/2 年 (前期) 98

- コース選択科目

民法 I …直井/2 年 (後期) 98
民法 II …直井・上原/3 年 (前期) 99
刑法 I …山本・上原/3 年 (前期, 集中) 99
刑法 II …山本・上原/3 年 (後期, 集中) 99
行政法 II …上原/2 年 (後期) 99
商法 I …清水/2 年 (前期) 99
商法 II …清水/2 年 (後期) 99
企業取引法 …清水/3 年 (前期) 99
経済法 I …泉・上原/2 年 (前期, 集中) 99
経済法 II …泉・上原/2 年 (後期, 集中) 100
ミクロ経済学 I …内藤/2 年 (後期) 100
ミクロ経済学 II …眞弓/3 年 (前期, 集中) 100
マクロ経済学 II …趙/2 年 (後期) 100
財政学 II …石田/3 年 (後期) 101
環境経済学 …眞弓/3 年 (後期) 101
理論経済学 I …立花/2 年 (前期) 101
理論経済学 II …立花/2 年 (後期) 101
日本経済論 …中嶋/3 年 (前期) 101
会計学 I …三木・石田/2 年 (前期) 101
会計学 II …三木・石田/2 年 (後期) 102
経営学 I …高橋・石田/2 年 (前期, 集中) 102
経営学 II …高橋・石田/3 年 (後期, 集中) 102
経営学 III …多田/3 年 (後期) 102
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期) 102
国際関係論 II …饗場/3 年 (後期) 103
国際法 …湯山・上原/3 年 (前期, 集中) 103
世界経済論 I …水島/3 年 (前期) 103
世界経済論 II …水島/3 年 (後期) 103
ヨーロッパ思想研究 …吉田・山口・石田/2 年 (後期) 103
地域政策論 I …北村/2 年 (後期) 104
地域政策論 II …北村/2 年 (後期) 104
市民活動論 …萩原・樫田/2 年 (前期, 集中) 104
地域社会論 …矢部/2 年 (前期) 104
比較社会論 …上野/2 年 (後期) 105
社会統計学 I …豊田・石田/2 年 (前期) 105
社会統計学 II …矢部/2 年 (後期) 105
情報と職業 …吉田/2 年 (後期) 105
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期) 106
環境政策論 II …栗栖/3 年 (後期) 106
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 106
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 106
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 107
環境リスク論 …山本・浜野/2 年 (後期) 107
計画の数理 …滑川/3 年 (後期) 107
計画の論理 …近藤/3 年 (前期) 107
都市・交通計画 …山中・近藤/2 年 (前期) 108
公共政策演習 IA …上原/3 年 (前期) 108
公共政策演習 IA …上原/3 年 (後期) 108
公共政策演習 IA …栗栖/3 年 (前期) 108
公共政策演習 IA …栗栖/3 年 (後期) 108
公共政策演習 IA …饗場/3 年 (前期) 108
公共政策演習 IA …饗場/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IA …清水/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IA …清水/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …眞弓/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …眞弓/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …趙/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …趙/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …石田/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …石田/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …立花/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …立花/3 年 (後期) 109
公共政策演習 IB …水島/3 年 (前期) 109
公共政策演習 IB …水島/3 年 (後期) 110
公共政策演習 IB …多田/3 年 (前期) 110
公共政策演習 IB …多田/3 年 (後期) 110
公共政策演習 IB …中嶋/3 年 (前期) 110
公共政策演習 IB …中嶋/3 年 (後期) 110
公共政策演習 IB …内藤/3 年 (前期) 110
公共政策演習 IB …内藤/3 年 (後期) 110

- 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 110
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 111
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期) 111
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期) 111
運動文化論 …中村/2 年 (前期) 112
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 112
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期) 112
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期) 112
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期) 112
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期) 113
共生社会論 …樫田/3 年 (後期) 113
メディア情報論 …河原崎/2 年 (後期) 114
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期) 114
情報の数理 …中山/3 年 (前期) 114
現象の数理 …小野/3 年 (後期) 114
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期) 115
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期) 115
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 115
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 115
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) ... 116

社会創生学科 地域創生コース

- コア科目

地理学の基礎 II …平井/2 年 (前期) 118
情報創生プロジェクト …石田・中島・掛井/2 年 (前期) 118
社会統計学 I …豊田・石田/2 年 (前期) 119
地域文化論 I …髙橋/2 年 (前期) 119
地域政策論 I …北村/2 年 (後期) 119
社会変動論 …樋口/2 年 (前期) 120
福祉情報論 …樫田/2 年 (後期) 120
Web デザイン I …石田・中島・掛井・河原崎/2 年 (前期) ... 120
情報社会と情報倫理 …吉田/3 年 (前期) 120
環境アート …平木・石井/2 年 (前期) 120
日本言語研究 I …岸江/3 年 (前期) 121

- コース選択科目

地域構造論 …豊田/2 年 (後期) 121
空間情報論 I …田中/2 年 (後期) 121
空間情報論 II …田中/3 年 (前期) 122
地域変容論 …平井/2 年 (後期) 122
地域環境論 …古田・平井/2 年 (前期) 122
地域文化論 II …髙橋/2 年 (後期) 122
地域政策論 II …北村/2 年 (後期) 123
市民活動論 …萩原・樫田/2 年 (前期, 集中) 123
地域経済論 …中嶋/2 年 (前期) 123
日本経済論 …中嶋/3 年 (前期) 123
地域社会論 …矢部/2 年 (前期) 124
比較社会論 …上野/2 年 (後期) 124
社会理論 …堀田・樫田/2 年 (前期, 集中) 124
経営学 I …髙橋・石田/2 年 (前期, 集中) 124
経営学 II …髙橋・石田/3 年 (後期, 集中) 125
社会統計学 II …矢部/2 年 (後期) 125
地域調査法 IA …髙橋/2 年 (前期) 125
地域調査法 IIA …髙橋/2 年 (後期) 125
地域調査法 IB …平井/2 年 (前期) 126
地域調査法 IIB …平井/2 年 (後期) 126
地域調査法 IC …豊田/2 年 (前期) 126
地域調査法 IIC …豊田/2 年 (後期) 127
地域調査法 ID …矢部/2 年 (前期) 127
地域調査法 IID …矢部/2 年 (後期) 127
地域調査法 IE …樫田/2 年 (前期) 128
地域調査法 IIE …樫田/2 年 (後期) 128
地域調査法 IF …樋口/2 年 (前期) 128
地域調査法 IIF …樋口/2 年 (後期) 128
地域調査法 IG …田中/2 年 (前期) 128
地域調査法 IIG …田中/2 年 (後期) 129
地域調査法 IH …北村・中嶋/2 年 (前期) 129
地域調査法 IIH …北村・中嶋/2 年 (後期) 129
地域調査演習 A …髙橋/2 年 (前期) 129
地域調査演習 A …髙橋/2 年 (後期) 130
地域調査演習 B …平井/2 年 (前期) 130
地域調査演習 B …平井/2 年 (後期) 130
地域調査演習 C …豊田/2 年 (前期) 131
地域調査演習 C …豊田/2 年 (後期) 131
地域調査演習 D …矢部/2 年 (前期) 131
地域調査演習 D …矢部/2 年 (後期) 131
地域調査演習 E …樫田/2 年 (前期) 132
地域調査演習 E …樫田/2 年 (後期) 132
地域調査演習 F …樋口/2 年 (前期) 132
地域調査演習 F …樋口/2 年 (後期) 132
地域調査演習 G …田中/2 年 (前期) 133
地域調査演習 G …田中/2 年 (後期) 133
地域調査演習 H …北村・中嶋/2 年 (前期) 133
地域調査演習 H …北村・中嶋/2 年 (後期) 133
地域総合演習 …北村/3 年 (前期) 133
地域総合演習 …北村/3 年 (後期) 134
地域総合演習 …平井/3 年 (前期) 134
地域総合演習 …平井/3 年 (後期) 134
地域総合演習 …髙橋/3 年 (前期) 134
地域総合演習 …髙橋/3 年 (後期) 134
地域総合演習 …豊田/3 年 (前期) 135
地域総合演習 …豊田/3 年 (後期) 135
地域総合演習 …田中/3 年 (前期) 135
地域総合演習 …田中/3 年 (後期) 135
地域総合演習 …上野/3 年 (前期) 136
地域総合演習 …上野/3 年 (後期) 136
地域総合演習 …樫田/3 年 (前期) 136
地域総合演習 …樫田/3 年 (後期) 136
地域総合演習 …矢部/3 年 (前期) 136
地域総合演習 …矢部/3 年 (後期) 137
地域総合演習 …樋口/3 年 (前期) 137
地域総合演習 …樋口/3 年 (後期) 137
地域総合演習 …スタージ/3 年 (前期) 137
地域総合演習 …スタージ/3 年 (後期) 137
地域総合演習 …北村/4 年 (前期) 137
地域総合演習 …北村/4 年 (後期) 137
地域総合演習 …平井/4 年 (前期) 137
地域総合演習 …平井/4 年 (後期) 137
地域総合演習 …髙橋/4 年 (前期) 138
地域総合演習 …髙橋/4 年 (後期) 138
地域総合演習 …豊田/4 年 (前期) 138
地域総合演習 …豊田/4 年 (後期) 138
地域総合演習 …田中/4 年 (前期) 139
地域総合演習 …田中/4 年 (後期) 139
地域総合演習 …上野/4 年 (前期) 139
地域総合演習 …上野/4 年 (後期) 139
地域総合演習 …樫田/4 年 (前期) 140
地域総合演習 …樫田/4 年 (後期) 140
地域総合演習 …矢部/4 年 (前期) 140
地域総合演習 …矢部/4 年 (後期) 140
地域総合演習 …樋口/4 年 (前期) 141
地域総合演習 …樋口/4 年 (後期) 141
地域総合演習 …スタージ/4 年 (前期) 141
地域総合演習 …スタージ/4 年 (後期) 141
憲法 …林・上原/2 年 (後期) 141
民法 I …直井/2 年 (後期) 141
財政学 I …石田/2 年 (前期) 141
行政法 I …上原/2 年 (前期) 141
国際関係論 I …饗場/3 年 (前期) 142

ミクロ経済学 I …内藤/2 年 (後期) 142
ミクロ経済学 II …眞弓/2 年 (前期, 集中) 142
マクロ経済学 I …趙/2 年 (前期) 142
マクロ経済学 II …趙/2 年 (後期) 142
社会心理学 …佐藤/2 年 (後期) 143
コミュニティ心理学 …境/2 年 (後期) 143
スポーツ社会学 …佐藤/2 年 (前期) 143
スポーツマネジメント論 …行實/2 年 (前期) 143
比較文化研究 …依岡・ヘルベルト/2 年 (後期) 144
異文化間コミュニケーション …坂田/2 年 (前期, 集中) 144
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 144
環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 145
環境経済学 …眞弓/3 年 (後期) 145
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 145
計画の論理 …近藤/3 年 (前期) 145
都市・交通計画 …山中・近藤/2 年 (前期) 146
環境を考える …上月・山中・藤井・中西/2 年 (前期) 146
地域の防災 …中野・蒋・田村/2 年 (後期) 146
生態系の保全 …鎌田/2 年 (後期) 146
情報創生演習 …石田・中島・掛井/3 年 (後期) 147
芸術創生基礎演習 …平木/3 年 (後期) 147
Web デザイン II …河原崎/3 年 (前期) 147
情報総合プログラミング I …石田/2 年 (後期) 147
情報総合プログラミング II …石田/3 年 (前期) 148
言語情報処理研究 I …中島/2 年 (後期) 148
言語情報処理研究 II …中島/3 年 (前期) 148
映像情報プログラミング I …掛井/2 年 (後期) 148
映像情報プログラミング II …掛井/3 年 (前期) 148
メディア情報論 …河原崎/2 年 (後期) 149
映像デザイン …石井/2 年 (前期) 149
アート表現基礎 …平木/2 年 (後期) 149
工芸表現と技法 …平木/2 年 (後期) 149
彫刻研究 …上月・平木/2 年 (前期) 150
美術概論 …江川・平木/2 年 (後期) 150
英米言語研究 I …井上・山田/2 年 (前期, 集中) 150
英米言語研究 II …元木・山田/3 年 (前期) 150
英米言語研究 III …山田/2 年 (前期) 150
英米言語研究 IV …森岡/2 年 (後期) 151
日本言語研究 II …仙波/3 年 (後期) 151
日本言語概説 I …岸江/2 年 (前期) 151
日本言語概説 II …仙波/2 年 (後期) 151
日本言語演習 …岸江/3 年 (前期), 4 年 (前期) 152
日本言語演習 …岸江/3 年 (後期), 4 年 (後期) 152
日本言語演習 …仙波/3 年 (前期), 4 年 (前期) 152
日本言語演習 …仙波/3 年 (後期), 4 年 (後期) 152
プログラミング演習 II …宇野/3 年 (前期) 153
制御概論 …村上/3 年 (前期) 153
数値計算法 …鍋島/3 年 (前期) 153
データベース基礎論 …蓮沼/3 年 (後期) 153
最適化論 …大橋/3 年 (後期) 154
コンピュータグラフィックス基礎論 …中山/3 年 (後期) 154
情報と職業 …吉田/2 年 (後期) 154
経済法 II …泉・上原/2 年 (後期, 集中) 154
商法 II …清水/2 年 (後期) 155

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 …有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 155
地域交流史 …東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 155
日本経済と社会 …中嶋/3 年 (前期) 155
世界経済論 I …水島/3 年 (前期) 156
運動文化論 …中村/2 年 (前期) 156
健康行動論 …荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 156
地域健康福祉論 …田中/3 年 (前期) 156
グローバル社会論 …樋口/3 年 (前期) 156
地域創生論 …中嶋/3 年 (後期) 157
共生社会論 …樫田/3 年 (後期) 157
芸術文化論 …片岡/2 年 (前期) 157
情報の数理 …中山/3 年 (前期) 158
現象の数理 …小野/3 年 (後期) 158
数学と社会 …片山・大渕/3 年 (後期) 158
資源エネルギー論 …伏見/3 年 (後期) 159
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 159
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 159
総合科学実践プロジェクト …宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 159
総合科学特別講義 …中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) 160

社会創生学科 環境共生コース

● コア科目

環境政策論 I …栗栖/2 年 (前期) 162
環境倫理学 …石田・山口/2 年 (後期) 162
環境経済学 …眞弓/3 年 (後期) 162
環境物質循環論 …山本/2 年 (前期) 162
生態学 I …浜野/2 年 (前期) 163
生物資源論 …金丸・横井川・増田/3 年 (前期) 163
自然保護論 …佐藤/2 年 (前期) 163
環境リスク論 …山本・浜野/2 年 (後期) 163
環境マネジメント …浜野/3 年 (後期) 164

● コース選択科目

生化学 …佐藤/2 年 (後期) 164
分子生物学 …渡部/2 年 (後期) 164
発生学 …真壁/2 年 (後期) 164
適応進化学 …松尾/2 年 (後期) 165
細胞情報学 …小山/2 年 (後期) 165
環境共生学実験 I …今井・増田・三好・山本・山本・中村・小山・横井川・中川・金丸・大橋・佐藤・浜野・山城・佐藤・真壁・松尾・渡部/2 年 (後期) 165
環境政策論 II …栗栖/3 年 (後期) 166
分析化学 I …今井/3 年 (前期) 166
環境機器分析化学 …今井/3 年 (後期) 166
グリーンケミストリー …三好/3 年 (後期) 166
環境生理学 …佐藤/3 年 (後期) 166
物質作用・影響評価 …小山/3 年 (前期) 167
活性物質生理学 …中川/3 年 (後期) 167
生態学 II …山城/3 年 (後期) 167
天然物化学 …中村/3 年 (後期) 167

生物有機化学 ...増田/3 年 (前期) 167
生命環境情報学 ...大橋/2 年 (後期) 168
系統分類学 ...山城/3 年 (前期) 168
細胞生理学 ...中川/2 年 (後期) 168
機能物質作用学 ...横井川/2 年 (後期) 168
生体物質影響学 ...金丸/3 年 (後期) 168
環境共生学実験 II ...今井・増田・三好・山本・山本・中村/3 年 (前期) 169
環境共生学実験 II ...小山・横井川・中川・金丸/3 年 (前期) . 169
環境共生学実験 III ...大橋・佐藤・浜野・山本/3 年 (後期) .. 169
環境共生学実験 III ...佐藤・真壁・松尾・渡部/3 年 (後期) .. 169
環境共生学セミナー I ...大橋/3 年 (前期) 170
環境共生学セミナー I ...小山/3 年 (前期) 170
環境共生学セミナー I ...金丸/3 年 (前期) 170
環境共生学セミナー I ...佐藤/3 年 (前期) 170
環境共生学セミナー I ...佐藤/3 年 (前期) 170
環境共生学セミナー I ...中川/3 年 (前期) 170
環境共生学セミナー I ...浜野/3 年 (前期) 171
環境共生学セミナー I ...真壁/3 年 (前期) 171
環境共生学セミナー I ...松尾/3 年 (前期) 171
環境共生学セミナー I ...山城/3 年 (前期) 171
環境共生学セミナー I ...横井川/3 年 (前期) 171
環境共生学セミナー I ...渡部/3 年 (前期) 171
環境共生学セミナー I ...今井/3 年 (前期) 171
環境共生学セミナー I ...増田/3 年 (前期) 172
環境共生学セミナー I ...山本/3 年 (前期) 172
環境共生学セミナー I ...山本/3 年 (前期) 172
環境共生学セミナー I ...中村/3 年 (前期) 172
環境共生学セミナー II ...今井/3 年 (後期) 172
環境共生学セミナー II ...大橋/3 年 (後期) 172
環境共生学セミナー II ...小山/3 年 (後期) 172
環境共生学セミナー II ...金丸/3 年 (後期) 172
環境共生学セミナー II ...佐藤/3 年 (後期) 173
環境共生学セミナー II ...佐藤/3 年 (後期) 173
環境共生学セミナー II ...中川/3 年 (後期) 173
環境共生学セミナー II ...浜野/3 年 (後期) 173
環境共生学セミナー II ...真壁/3 年 (後期) 173
環境共生学セミナー II ...増田/3 年 (後期) 173
環境共生学セミナー II ...松尾/3 年 (後期) 173
環境共生学セミナー II ...山本/3 年 (後期) 173
環境共生学セミナー II ...山本/3 年 (後期) 174
環境共生学セミナー II ...山城/3 年 (後期) 174
環境共生学セミナー II ...横井川/3 年 (後期) 174
環境共生学セミナー II ...渡部/3 年 (後期) 174
環境共生学セミナー II ...中村/3 年 (後期) 174
財政学 I ...石田/2 年 (前期) 174
財政学 II ...石田/3 年 (後期) 174
福祉情報論 ...樫田/2 年 (後期) 174
地域変容論 ...平井/2 年 (後期) 174
地域環境論 ...古田・平井/2 年 (前期) 175
市民活動論 ...萩原・樫田/2 年 (前期, 集中) 175
熱統計力学 I ...真岸/2 年 (後期) 175
無機化学 I ...今井/2 年 (前期) 175
物理化学 I ...山本/2 年 (前期) 176
有機化学 I ...中村/2 年 (前期) 176
物質構造解析学 ...森/3 年 (前期, 集中) 176
地球表層構造形成論 ...村田/3 年 (後期) 176
地球表層環境論 ...石田/3 年 (後期) 177
地球環境科学 ...西山/2 年 (後期) 177
生態系の保全 ...鎌田/2 年 (後期) 177
都市・交通計画 ...山中・近藤/2 年 (前期) 178
資源循環工学 ...山中・上月/2 年 (前期) 178
地域・環境デザイン ...真田/2 年 (前期) 178
地域の防災 ...中野・蒋・田村/2 年 (後期) 178
緑のデザイン ...鎌田・非常勤講師/2 年 (後期) 179
エコシステム工学 ...木戸口・上月・近藤・橋本・藤澤・奥嶋・松尾・山中・富田・佐藤・伊藤・名田/2 年 (前期) 179
環境を考える ...上月・山中・藤井・中西/2 年 (前期) 180

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 ...有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 180
地域交流史 ...東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 180
日本経済と社会 ...中嶋/3 年 (前期) 180
世界経済論 I ...水島/3 年 (前期) 181
国際関係論 I ...饗場/3 年 (前期) 181
社会心理学 ...佐藤/2 年 (後期) 181
運動文化論 ...中村/2 年 (前期) 182
健康行動論 ...荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期) 182
地域健康福祉論 ...田中/3 年 (前期) 182
グローバル社会論 ...樋口/3 年 (前期) 182
地域創生論 ...中嶋/3 年 (後期) 182
地域政策論 I ...北村/2 年 (後期) 183
地域文化論 I ...髙橋/2 年 (前期) 183
共生社会論 ...樫田/3 年 (後期) 183
メディア情報論 ...河原崎/2 年 (後期) 184
芸術文化論 ...片岡/2 年 (前期) 184
情報社会と情報倫理 ...吉田/3 年 (前期) 184
情報と職業 ...吉田/2 年 (後期) 185
情報の数理 ...中山/3 年 (前期) 185
現象の数理 ...小野/3 年 (後期) 185
数学と社会 ...片山・大渕/3 年 (後期) 185
資源エネルギー論 ...伏見/3 年 (後期) 186
総合科学実践プロジェクト ...宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 186
総合科学特別講義 ...中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期) ... 186

総合理数学科 共通科目

● 学科共通科目

数理科学の基礎 I ...大渕/1 年 (前期) 187
数理科学の基礎 II ...大沼/1 年 (後期) 187
物理科学の基礎 ...日置/1 年 (前期) 187
化学の基礎 ...今井/1 年 (後期) 187
生命科学の基礎 ...横井川・佐藤/1 年 (前期) 188
地球科学の基礎 ...石田・村田・西山/1 年 (後期) 188
プログラミング演習 I ...鍋島/2 年 (後期) 188
物理学基礎実験 ...小山・中山・齊藤・伏見・真岸/2 年 (前期) 188

化学基礎実験 ...今井・増田・三好・山本・山本・中村/2 年 (前期) 189
生命科学基礎実験 ...中川・小山・大橋・佐藤・真壁・松尾・佐藤・山城・渡部・金丸・横井川・浜野/1 年 (前期) 189
地球科学基礎実験 ...石田・村田・西山/2 年 (前期)..... 190

総合理数学科 数理科学コース

● コア科目

数理科学の基礎 III ...小野/2 年 (前期)..... 191
数学基礎 ...守安/2 年 (前期)..... 191
微分積分・演習 I ...大沼/2 年 (前期)..... 192
微分積分・演習 II ...鍋島/2 年 (後期)..... 192
線形代数・演習 I ...桑原/2 年 (後期)..... 192
線形代数・演習 II ...伊藤/2 年 (後期)..... 192
計算機概論 ...中山/2 年 (前期)..... 193
情報数学 ...蓮沼/2 年 (前期)..... 193
データベース基礎論 ...蓮沼/3 年 (後期)..... 193

● コース選択科目

代数基礎 I ...片山/2 年 (前期)..... 193
代数基礎 II ...大渕/2 年 (後期) 193
複素解析 I ...村上/2 年 (前期) 194
複素解析 II ...小野/2 年 (後期) 194
確率・統計 I ...大橋/2 年 (前期) 194
確率・統計 II ...守安/2 年 (後期) 194
微分方程式 I ...村上/2 年 (後期) 194
微分方程式 II ...小野/3 年 (前期) 195
代数学 I ...大渕/3 年 (前期) 195
代数学 II ...片山/3 年 (後期)..... 195
幾何学 I ...守安/3 年 (前期) 195
幾何学 II ...桑原/3 年 (後期)..... 195
解析学 I ...伊藤/3 年 (前期) 195
解析学 II ...大沼/3 年 (後期)..... 196
応用数理 I ...伊藤/3 年 (後期) 196
応用数理 II ...蓮沼/3 年 (後期) 196
情報システム特論 I ...庄野・新見・伊藤/2 年 (後期, 集中)..196
情報システム特論 II ...森本・永易・守安/2 年 (後期, 集中).196
モデリング理論 ...宇野/3 年 (後期) 197
プログラミング演習 II ...宇野/3 年 (前期) 197
制御概論 ...村上/3 年 (前期)..... 197
数値計算法 ...鍋島/3 年 (前期)..... 197
最適化論 ...大橋/3 年 (後期)..... 197
コンピュータグラフィックス基礎論 ...中山/3 年 (後期)...198
情報総合プログラミング I ...石田/3 年 (後期)..... 198
経済法 II ...泉・上原/3 年 (後期, 集中) 198
商法 II ...清水/3 年 (後期)..... 198

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 ...有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 198
地域交流史 ...東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 199
日本経済と社会 ...中嶋/3 年 (前期) 199
世界経済論 I ...水島/3 年 (前期) 199
国際関係論 I ...饗場/3 年 (前期) 200
社会心理学 ...佐藤/2 年 (後期)..... 200
運動文化論 ...中村/2 年 (前期)..... 200
健康行動論 ...荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期)....200
地域健康福祉論 ...田中/3 年 (前期) 201
グローバル社会論 ...樋口/3 年 (前期) 201
地域創生論 ...中嶋/3 年 (後期)..... 201
地域政策論 I ...北村/2 年 (後期) 201
地域文化論 I ...髙橋/2 年 (前期) 202
共生社会論 ...樫田/3 年 (後期)..... 202
メディア情報論 ...河原崎/3 年 (後期) 202
芸術文化論 ...片岡/2 年 (前期)..... 203
情報社会と情報倫理 ...吉田/3 年 (前期)..... 203
情報と職業 ...吉田/2 年 (後期)..... 203
情報の数理 ...中山/3 年 (前期)..... 203
現象の数理 ...小野/3 年 (後期)..... 204
数学と社会 ...片山・大渕/3 年 (後期)..... 204
資源エネルギー論 ...伏見/3 年 (後期)..... 204
環境マネジメント ...浜野/3 年 (後期)..... 204
環境倫理学 ...石田・山口/2 年 (後期)..... 205
環境政策論 I ...栗栖/2 年 (前期) 205
自然保護論 ...佐藤/2 年 (前期)..... 205
生態学 I ...浜野/2 年 (前期) 205
総合科学実践プロジェクト ...宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 205
総合科学特別講義 ...中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期)...206

総合理数学科 物質総合コース

● コア科目

力学 I ...中山/2 年 (前期)..... 207
電磁気学 I ...折戸/2 年 (前期) 208
熱統計力学 I ...真岸/2 年 (後期) 208
量子力学 I ...日置/3 年 (前期) 208
無機化学 I ...今井/2 年 (前期) 208
物理化学 I ...山本/2 年 (前期) 209
有機化学 I ...中村/2 年 (前期) 209
分析化学 I ...今井/3 年 (前期) 209
地球物質科学 ...石田・村田/2 年 (前期)..... 209
地球環境科学 ...西山/2 年 (後期) 210
地球表層構造形成論 ...村田/2 年 (後期)..... 210
地球表層環境論 ...石田/2 年 (後期) 210

● コース選択科目

物理学実験 I ...小山・中山・日置・齊藤・伏見・真岸・折戸/3 年 (前期)....210
化学実験 I ...今井・増田・三好・山本・山本・中村/2 年 (後期)211
地球科学実験 I ...石田・村田・西山/2 年 (後期) 211
力学 II ...中山/2 年 (後期)....211
電磁気学 II ...折戸/2 年 (後期) 212
熱統計力学 II ...真岸/3 年 (前期) 212
量子力学 II ...日置/3 年 (後期) 212
物理学実験 II ...小山・中山・日置・齊藤・伏見・真岸・折戸/3 年 (後期)....212
物性科学 ...小山/3 年 (後期)....213
放射線科学 ...伏見/3 年 (前期)....213
量子物質科学 ...中山・小山/3 年 (後期)....213
宇宙科学 ...伏見/3 年 (後期)....214
無機化学 II ...未定・今井/2 年 (後期)....214
物理化学 II ...山本/2 年 (後期) 214
有機化学 II ...増田/2 年 (後期) 214
生化学 ...佐藤/2 年 (後期)....214
環境機器分析化学 ...今井/3 年 (後期) 215
天然物化学 ...中村/3 年 (後期)....215
分子化学反応論 ...三好/3 年 (前期) 215
生物有機化学 ...増田/3 年 (前期) 215
化学実験 II ...今井・増田・三好・山本・山本・中村/3 年 (前期)215
細胞生理学 ...中川/2 年 (後期)....216
環境生理学 ...佐藤/3 年 (後期)....216
生体物質影響学 ...金丸/3 年 (後期) 216
環境地質学 ...西山/3 年 (前期)....216
物質構造解析学 ...森/3 年 (前期, 集中)....217
地球科学実験 II ...石田・村田・西山/3 年 (後期)....217

● 総合科学テーマ科目

比較文化論 ...有馬・田島・桂・依岡・ヘルベルト/2 年 (前期) 217
地域交流史 ...東・葭森・衣川・佐久間/2 年 (前期) 217
日本経済と社会 ...中嶋/3 年 (前期) 218
世界経済論 I ...水島/3 年 (前期) 218
国際関係論 I ...饗場/3 年 (前期) 218
社会心理学 ...佐藤/2 年 (後期)....219
運動文化論 ...中村/2 年 (前期)....219
健康行動論 ...荒木・小原・的場・佐竹・三浦/3 年 (前期)....219
地域健康福祉論 ...田中/3 年 (前期) 219
グローバル社会論 ...樋口/3 年 (前期) 219
地域創生論 ...中嶋/3 年 (後期)....220
地域政策論 I ...北村/2 年 (後期) 220
地域文化論 I ...髙橋/2 年 (前期) 220
共生社会論 ...樫田/3 年 (後期)....221
メディア情報論 ...河原崎/3 年 (後期) 221
芸術文化論 ...片岡/2 年 (前期)....221
情報社会と情報倫理 ...吉田/3 年 (前期) 222
情報と職業 ...吉田/2 年 (後期)....222
情報の数理 ...中山/3 年 (前期)....222
現象の数理 ...小野/3 年 (後期)....222
数学と社会 ...片山・大渕/3 年 (後期) 223
資源エネルギー論 ...伏見/3 年 (後期) 223
環境マネジメント ...浜野/3 年 (後期) 223
環境倫理学 ...石田・山口/2 年 (後期)....223
環境政策論 I ...栗栖/2 年 (前期) 224
自然保護論 ...佐藤/2 年 (前期)....224
生態学 I ...浜野/2 年 (前期) 224
総合科学実践プロジェクト ...宮崎・依岡・山城・山本/3 年 (前期) 224
総合科学特別講義 ...中嶋・樫田・大橋・佐藤/3 年 (後期)...224

教職に関する科目

● 教職に関する科目

教師論 ...大宮/3 年 (前期)....226
教育学 ...弘田/2 年 (後期, 集中)....226
教育心理学 ...原/2 年 (後期)....226
学校制度論 ...岩永/2 年 (後期)....227
教育課程論 ...村川・前田/2 年 (後期, 集中) 227
国語科教育法 I ...仙波/2 年 (前期) 227
国語科教育法 II ...仙波/2 年 (前期) 227
国語科教育法 III ...仙波/2 年 (後期) 228
国語科教育法 IV ...仙波/2 年 (後期) 228
社会科教育法 ...梅津/2 年 (後期) 228
地理歴史科教育法 ...立石/3 年 (後期) 228
地理歴史科教育方法論 ...立石/2 年 (後期)....229
公民科教育法 ...井上/2 年 (前期) 229
公民科教育方法論 ...井上/2 年 (前期) 229
英語科教育法 I ...中島/2 年 (後期)....229
英語科教育法 II ...中島/2 年 (後期)....230
英語科教育法 III ...中島・スティーヴンズ/2 年 (前期)....230
英語科教育法 IV ...中島・スティーヴンズ/2 年 (前期)....230
美術科教育法 I ...平木/2 年 (前期)....230
美術科教育法 II ...平木/2 年 (前期)....231
美術科教育法 III ...平木/2 年 (後期)....231
美術科教育法 IV ...平木/2 年 (後期)....231
保健体育科教育法 I ...佐藤・中村/2 年 (前期, 集中) 231
保健体育科教育法 II ...佐藤/2 年 (前期)....231
保健体育科教育法 III ...佐藤・中村/2 年 (後期, 集中)....232
保健体育科教育法 IV ...佐藤/2 年 (後期, 集中) 232
数学科教育法 I ...服部・小野/2 年 (前期) 232
数学科教育法 II ...服部・小野/2 年 (前期) 232
数学科教育法 III ...服部・小野/2 年 (後期) 233
数学科教育法 IV ...服部・小野/2 年 (後期)....233
情報科教育法 I ...中山/3 年 (前期)....233
情報科教育法 II ...中山/3 年 (後期)....233
理科教育法 I ...續木・齊藤・渡部・今井・増田・三好/2 年 (前期) 234
理科教育法 II ...續木・齊藤・渡部・今井・増田・三好/2 年 (前期) 234
理科教育法 III ...續木・渡部・石田・村田・西山/2 年 (後期) 234
理科教育法 IV ...續木・渡部・石田・村田・西山/2 年 (後期) 234
道徳教育 ...大宮/3 年 (前期)....235
特別活動研究 ...木下/3 年 (前期, 集中)....235
教育方法学 ...村川/3 年 (前期, 集中) 235
生徒指導論 ...大宮/3 年 (後期)....236
教育相談 ...福森/3 年 (後期)....236
総合演習 ...大宮/3 年 (前期)....236
教育実習事前事後指導 ...大宮/4 年 (通年)....236

学芸員に関する科目 (旧)

- 学芸員に関する科目 *(*旧*)*

生涯学習概論 …鈴木/3 年 (前期, 集中) 237
博物館概論 …一山・東/2 年 (前期) 237
博物館資料論 …千田・東/2 年 (前期, 集中) 237
博物館特論 …未定・東/2 年 (後期, 集中) 237